

科目一覽

【発行日：2021/4/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1453】 補講英語 1・2 - I [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1454】 補講英語 1・2 - II [岩下 弘史] 秋学期授業/Fall	2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1455】 補講英語 1・2 - I [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1456】 補講英語 1・2 - II [岩下 弘史] 秋学期授業/Fall	4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1457】 補講英語 1・2 - I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1458】 補講英語 1・2 - II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1802】 Academic Literacy A [THOMAS G POWER] 秋学期授業/Fall	7
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1803】 Academic Literacy B [Power THOMAS] 春学期授業/Spring	8
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1804】 College Writing A [THOMAS G POWER] 秋学期授業/Fall	9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1805】 College Writing B [Power THOMAS] 春学期授業/Spring	11
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2227】 ドイツ語補講 1 I [伊東直美] 春学期授業/Spring	12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2228】 ドイツ語補講 1 II [伊東直美] 秋学期授業/Fall	13
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2229】 ドイツ語補講 2 I [畠山勝彦] 春学期授業/Spring	14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2230】 ドイツ語補講 2 II [畠山勝彦] 秋学期授業/Fall	15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3249】 フランス語補講 1 I [西川純子] 春学期授業/Spring	16
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3250】 フランス語補講 1 II [西川純子] 秋学期授業/Fall	17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3251】 フランス語補講 2 I [中村美緒] 春学期授業/Spring	18
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3252】 フランス語補講 2 II [中村美緒] 秋学期授業/Fall	19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4221】 ロシア語補講 1 I [佐藤裕子] 春学期授業/Spring	20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4222】 ロシア語補講 1 II [佐藤裕子] 秋学期授業/Fall	21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4223】 ロシア語補講 2 I [佐藤裕子] 春学期授業/Spring	22
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4224】 ロシア語補講 2 II [佐藤裕子] 秋学期授業/Fall	23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【F9104】 Elementary Health and Physical Education [秋本 成晴] 秋学期授業/Fall	24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0162】 Elementary Information Technology [松田 裕幸] 秋学期授業/Fall	25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0163】 Information Technology [Yukou MATSUDA] 春学期授業/Spring	27
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0632】 Elementary Career Development [中川 有紀子] 秋学期授業/Fall	28

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【P1302】 Elementary Humanities A [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【P1304】 Elementary Humanities B [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	31
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【P2301】 Elementary Social Science A [SCHIFANO ADRIEN] 春学期授業/Spring	33
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【P2302】 Elementary Social Science B [SCHIFANO ADRIEN] 秋学期授業/Fall	34
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【P3602】 Elementary Mathematics A [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	35
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【P3603】 Elementary Mathematics B [Takeyoshi KOGISO] 春学期授業/Spring	36
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0001】 基礎ゼミⅠ [安孫子 信] 春学期授業/Spring	37
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0002】 基礎ゼミⅡ [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	38
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0003】 基礎ゼミⅠ [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	39
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0004】 基礎ゼミⅡ [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	40
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0005】 基礎ゼミⅠ [福元 広二] 春学期授業/Spring	41
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0007】 基礎ゼミⅠ [田中 裕希] 春学期授業/Spring	42
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0009】 基礎ゼミⅠ [小島 尚人] 春学期授業/Spring	43
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0011】 基礎ゼミⅠ [丹治 愛] 春学期授業/Spring	44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0013】 基礎ゼミⅠ [大塚 紀弘] 春学期授業/Spring	45
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0015】 基礎ゼミⅠ [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring	46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0017】 基礎ゼミⅠ [後藤 篤子] 春学期授業/Spring	47
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0019】 基礎ゼミⅠ [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring	48
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0021】 基礎ゼミⅠ [羽佐田 紘大] 春学期授業/Spring	49
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0023】 基礎ゼミⅠ [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0025】 基礎ゼミⅠ [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	51
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0027】 基礎ゼミⅠ [山口 隆子] 春学期授業/Spring	52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0029】 基礎ゼミⅠ [加藤 みずき] 春学期授業/Spring	53
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0030】 基礎ゼミⅡ [加藤 みずき] 秋学期授業/Fall	55
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0031】 基礎ゼミⅠ [加藤 みずき] 春学期授業/Spring	56
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0032】 基礎ゼミⅡ [加藤 みずき] 秋学期授業/Fall	58
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0033】 基礎ゼミⅠ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	60
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0034】 基礎ゼミⅡ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	61

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0041】基礎ゼミ [上西 充子] 春学期授業/Spring	62
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0043】基礎ゼミ [李 舜志] 春学期授業/Spring	63
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0045】基礎ゼミ [坂本 旬] 春学期授業/Spring	65
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0047】基礎ゼミ [菅谷 麻衣] 春学期授業/Spring	66
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0049】基礎ゼミ [鄭 康烈] 春学期授業/Spring	68
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0051】基礎ゼミ [橋本 広大] 春学期授業/Spring	69
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0053】基礎ゼミ [田口 賢太郎] 春学期授業/Spring	71
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0055】基礎ゼミ [大倉 韻] 春学期授業/Spring	72
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0057】基礎ゼミ [高橋 誠一] 春学期授業/Spring	74
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0059】基礎ゼミ [安田 節之] 春学期授業/Spring	75
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0061】基礎ゼミ [李 舜志] 春学期授業/Spring	77
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0063】基礎ゼミ [福井 令恵] 春学期授業/Spring	78
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0065】基礎ゼミ [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	80
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0067】基礎ゼミ [酒井 理] 春学期授業/Spring	81
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0069】基礎ゼミ [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	83
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0071】基礎ゼミ [大西 未希] 春学期授業/Spring	84
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0101】情報処理演習 I [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	86
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0103】情報処理演習 I [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	87
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0105】情報処理演習 I [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	88
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0107】情報処理演習 I [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	89
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0109】情報処理演習 I [中村 文隆] 春学期授業/Spring	90
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0111】情報処理演習 I [中村 文隆] 春学期授業/Spring	91
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0113】情報処理演習 I [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring	92
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0115】情報処理演習 I [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	93
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0117】情報処理演習 I [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	94
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0119】情報処理演習 I [重定 如彦] 春学期授業/Spring	95
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0121】情報処理演習 I [重定 如彦] 春学期授業/Spring	96
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0123】情報処理演習 I [松田 裕幸] 春学期授業/Spring	98

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0307】 情報処理演習 [御園生 純] 春学期授業/Spring	132
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0431】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	133
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0432】 キャリアデザイン入門 [高橋 実] 春学期授業/Spring	135
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0433】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	137
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0434】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	139
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0435】 キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	141
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0436】 キャリアデザイン入門 [藤澤 広美] 春学期授業/Spring	143
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0437】 キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	145
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0451】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	147
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0452】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	149
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0453】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	151
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0454】 キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	153
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0501】 大学を知ろう <法政学>への招待 [小林 ふみ子、小倉 淳一] 春学期授業/Spring	155
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0621】 リバラルアーツ特別講座 [コーディネータ：小原 文明、講師 (ゲストスピーカー)：イオン銀行 岩波 俊哉氏 他] 春学期授業/Spring	156
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1001】 日本古典文学A [表 きよし] 春学期授業/Spring	157
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1002】 日本古典文学B [表 きよし] 秋学期授業/Fall	159
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1003】 日本古典文学A [園 明美] 春学期授業/Spring	160
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1004】 日本古典文学B [園 明美] 秋学期授業/Fall	161
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1005】 日本古典文学A [成島 知子] 春学期授業/Spring	162
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1006】 日本古典文学B [成島 知子] 秋学期授業/Fall	163
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1007】 日本古典文学A [成島 知子] 春学期授業/Spring	164
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1008】 日本古典文学B [成島 知子] 秋学期授業/Fall	165
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1009】 日本近・現代文学A [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	166
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1010】 日本近・現代文学B [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	167
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1011】 日本近・現代文学A [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	168
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1012】 日本近・現代文学B [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	169
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1013】 日本文学A [島田 雅彦] 春学期授業/Spring	170
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1014】 日本文学B [島田 雅彦] 秋学期授業/Fall	171

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1015】日本文学A [佐藤 未央子] 春学期授業/Spring	172
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1016】日本文学B [佐藤 未央子] 秋学期授業/Fall	173
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1017】外国文学A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	174
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1018】外国文学B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	175
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1019】外国文学A [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	176
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1020】外国文学B [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	177
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1021】外国文学A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	178
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1022】外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	179
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1023】外国文学A [吉井 涼子] 春学期授業/Spring	180
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1024】外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授業/Fall	182
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1025】外国文学A [梁 禮先] 春学期授業/Spring	183
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1026】外国文学B [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	184
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1027】日本近・現代文学A [鈴木 彩] 春学期授業/Spring	185
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1028】日本近・現代文学B [鈴木 彩] 秋学期授業/Fall	186
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1061】文章論 [萩野 了子] 春学期授業/Spring	187
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1062】文章論 [西元 康雅] 春学期授業/Spring	188
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1063】文章論 [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	189
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1064】文章論 [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	190
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1065】文章論 [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	191
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1069】文章論 [西元 康雅] 秋学期授業/Fall	193
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1081】言語学A [板井 美佐] 春学期授業/Spring	194
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1082】言語学B [板井 美佐] 秋学期授業/Fall	195
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1083】言語学A [齊藤 雄介] 春学期授業/Spring	196
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1084】言語学B [齊藤 雄介] 秋学期授業/Fall	197
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1085】言語学A [江村 裕文] 春学期授業/Spring	198
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1086】言語学B [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	199
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1091】哲学I [滝口 清栄] 春学期授業/Spring	200
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1092】哲学II [滝口 清栄] 秋学期授業/Fall	201
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1093】哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	202
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1094】哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	203
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1095】哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	204
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1096】哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	205
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1097】哲学I [山口 誠一] 春学期授業/Spring	206

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1098】 哲学Ⅱ [山口 誠一] 秋学期授業/Fal	207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1099】 哲学Ⅰ [伊藤 功] 春学期授業/Spring	208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1100】 哲学Ⅱ [伊藤 功] 秋学期授業/Fal	209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1101】 哲学Ⅰ [谷口 力] 春学期授業/Spring	210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1102】 哲学Ⅱ [谷口 力] 秋学期授業/Fal	211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1103】 哲学Ⅰ [大西 正人] 春学期授 業/Spring	212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1104】 哲学Ⅱ [大西 正人] 秋学期授業/Fal	213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1105】 哲学Ⅰ [近堂 秀] 春学期授業/Spring	214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1106】 哲学Ⅱ [近堂 秀] 秋学期授業/Fal	215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1107】 哲学Ⅰ [越部 良一] 春学期授 業/Spring	216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1108】 哲学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授業/Fal	217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1109】 哲学Ⅰ [白根 裕里枝] 春学期授 業/Spring	218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1110】 哲学Ⅱ [白根 裕里枝] 秋学期授 業/Fall	219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1121】 倫理学Ⅰ [越部 良一] 春学期授 業/Spring	220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1122】 倫理学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授 業/Fall	221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1123】 倫理学Ⅰ [杉本 隆久] 春学期授 業/Spring	222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1124】 倫理学Ⅱ [杉本 隆久] 秋学期授 業/Fall	223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1125】 倫理学Ⅰ [伊藤 直樹] 春学期授 業/Spring	224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1126】 倫理学Ⅱ [伊藤 直樹] 秋学期授 業/Fall	225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1127】 倫理学Ⅰ [田島 樹里奈] 春学期 授業/Spring	226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1128】 倫理学Ⅱ [田島 樹里奈] 秋学期 授業/Fall	227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1129】 倫理学Ⅰ [森村 修] 春学期授 業/Spring	228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1130】 倫理学Ⅱ [森村 修] 秋学期授業/Fal	229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1131】 倫理学Ⅰ [佐藤 英明] 春学期授 業/Spring	230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1132】 倫理学Ⅱ [佐藤 英明] 秋学期授 業/Fall	231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1133】 倫理学Ⅰ [越部 良一] 春学期授 業/Spring	232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1134】 倫理学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授 業/Fall	233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1141】 論理学Ⅰ [大西 正人] 春学期授 業/Spring	234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1142】 論理学Ⅱ [大西 正人] 秋学期授 業/Fall	235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1143】 論理学Ⅰ [白根 裕里枝] 春学期 授業/Spring	236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1144】 論理学Ⅱ [白根 裕里枝] 秋学期 授業/Fall	237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1145】 論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授 業/Spring	238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1146】 論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授 業/Fall	239

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1147】 論理学 I [鶴澤 和彦] 春学期授 業/Spring	241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1148】 論理学 II [鶴澤 和彦] 秋学期授 業/Fall	242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1149】 論理学 I [大貫 義久] 春学期授 業/Spring	243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1150】 論理学 II [大貫 義久] 秋学期授 業/Fall	244
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1151】 論理学 I [滝口 清栄] 春学期授 業/Spring	245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1152】 論理学 II [滝口 清栄] 秋学期授 業/Fall	246
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1153】 論理学 I [菅沢 龍文] 春学期授 業/Spring	247
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1154】 論理学 II [菅沢 龍文] 秋学期授 業/Fall	248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1155】 論理学 I [計良 隆世] 春学期授 業/Spring	249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1156】 論理学 II [計良 隆世] 秋学期授 業/Fall	250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1161】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring	252
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1162】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1163】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring	254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1164】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	255
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1165】 東洋史 I [板橋 暁子] 春学期授 業/Spring	256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1166】 東洋史 II [板橋 暁子] 秋学期授 業/Fall	257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1167】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring	258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1168】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	259
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1169】 東洋史 I [板橋 暁子] 春学期授 業/Spring	260
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1170】 東洋史 II [板橋 暁子] 秋学期授 業/Fall	261
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1181】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring	262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1182】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall	263
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1183】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring	264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1184】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall	265
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1185】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring	266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1186】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall	267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1187】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring	268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1188】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall	269
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1201】 日本史 I [根崎 光男] 春学期授 業/Spring	270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1202】 日本史 II [根崎 光男] 秋学期授 業/Fall	271

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1203】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	272
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1204】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	273
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1205】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	275
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1206】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	276
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1207】日本史Ⅰ [真辺 美佐] 春学期授業/Spring	278
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1208】日本史Ⅱ [真辺 美佐] 秋学期授業/Fall	279
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1209】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	280
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1210】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	281
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1211】日本史Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	283
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1212】日本史Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	284
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1221】宗教論Ⅰ [若林 明彦] 春学期授業/Spring	285
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1222】宗教論Ⅱ [若林 明彦] 秋学期授業/Fall	286
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1223】宗教論Ⅰ [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	287
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1224】宗教論Ⅱ [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	288
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1231】芸術A [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	289
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1232】芸術B [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	290
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1233】芸術A [小澤 慶介] 春学期授業/Spring	291
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1234】芸術B [小澤 慶介] 秋学期授業/Fall	292
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1235】芸術A [中川 三千代] 春学期授業/Spring	293
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1236】芸術B [中川 三千代] 秋学期授業/Fall	294
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2001】法学Ⅰ [山本 圭子] 春学期授業/Spring	295
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2002】法学Ⅱ [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	296
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2003】法学Ⅰ [内藤 淳] 春学期授業/Spring	297
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2004】法学Ⅱ [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	298
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2005】法学Ⅰ [前川 佳夫] 春学期授業/Spring	299
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2006】法学Ⅱ [前川 佳夫] 秋学期授業/Fall	300
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2007】法学Ⅰ [内藤 淳] 春学期授業/Spring	301
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2008】法学Ⅱ [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	302
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2009】法学Ⅰ [内藤 淳] 春学期授業/Spring	303
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2010】法学Ⅱ [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	304
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2011】法学Ⅰ [水野 圭子] 春学期授業/Spring	305
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2012】法学Ⅱ [水野 圭子] 秋学期授業/Fall	306
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2013】法学Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	307
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2014】法学Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	308
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2015】法学Ⅰ [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	309
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2016】法学Ⅱ [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	310

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2017】 法学 I [前川 佳夫] 春学期授 業/Spring	311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2018】 法学 II [前川 佳夫] 秋学期授業/Fall	312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2031】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 春 学期授業/Spring	313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2032】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 秋 学期授業/Fall	314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2033】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 春 学期授業/Spring	315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2034】 法学 (日本国憲法) [陳 志明] 秋 学期授業/Fall	316
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2041】 経済学 I [玉之内 直] 春学期授 業/Spring	317
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2042】 経済学 II [玉之内 直] 秋学期授 業/Fall	318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2043】 経済学 I [西崎 文平] 春学期授 業/Spring	319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2044】 経済学 II [西崎 文平] 秋学期授 業/Fall	320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2045】 経済学 I [梅溪 健児] 春学期授 業/Spring	321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2046】 経済学 II [梅溪 健児] 秋学期授 業/Fall	322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2049】 経済学 I [玉之内 直] 春学期授 業/Spring	323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2050】 経済学 II [玉之内 直] 秋学期授 業/Fall	324
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2061】 マクロ経済学 I [平田 英明] 春 学期授業/Spring	325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2062】 マクロ経済学 II [平田 英明] 秋 学期授業/Fall	326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2063】 マクロ経済学 I [平田 英明] 春 学期授業/Spring	327
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2064】 マクロ経済学 II [平田 英明] 秋 学期授業/Fall	328
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2071】 心理学 I [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2072】 心理学 II [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2073】 心理学 I [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring	331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2074】 心理学 II [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall	332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2075】 心理学 I [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2076】 心理学 II [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	334
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2077】 心理学 I [海部 紀行] 春学期授 業/Spring	335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2078】 心理学 II [海部 紀行] 秋学期授 業/Fall	338
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2079】 心理学 I [海部 紀行] 春学期授 業/Spring	341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2080】 心理学 II [海部 紀行] 秋学期授 業/Fall	344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2081】 心理学 I [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	347

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2082】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2083】 心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2084】 心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2085】 心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring	351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2086】 心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall	352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2111】 地理学Ⅰ [高木 正] 春学期授 業/Spring	353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2112】 地理学Ⅱ [高木 正] 秋学期授業/Fal	354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2113】 地理学Ⅰ [前川 明彦] 春学期授 業/Spring	355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2114】 地理学Ⅱ [前川 明彦] 秋学期授 業/Fall	356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2115】 地理学Ⅰ [米家 志乃布] 春学期 授業/Spring	357
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2116】 地理学Ⅱ [米家 志乃布] 秋学期 授業/Fall	358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2117】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授 業/Spring	359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2118】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授 業/Fall	360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2119】 地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授 業/Spring	361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2120】 地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授 業/Fall	362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2131】 社会学Ⅰ [菅野 摂子] 春学期授 業/Spring	363
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2132】 社会学Ⅱ [菅野 摂子] 秋学期授 業/Fall	364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2133】 社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授 業/Spring	365
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2134】 社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fal	366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2135】 社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	367
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2136】 社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fal	368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2137】 社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授 業/Spring	369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2138】 社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fal	370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2139】 社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2140】 社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fal	372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2141】 社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期 授業/Spring	373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2142】 社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期 授業/Fall	374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2143】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2144】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fal	376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2145】 社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2146】 社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fal	378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2161】 政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授 業/Spring	379

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2162】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授 業/Fall	380
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2163】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	381
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2164】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fal	382
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2165】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	383
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2166】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fal	384
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2167】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	385
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2168】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	386
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2169】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授 業/Spring	387
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2170】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授 業/Fall	388
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2171】政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授 業/Spring	389
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2172】政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業/Fal	390
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2173】政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期 授業/Spring	391
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2174】政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期 授業/Fall	392
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2175】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	393
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2176】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	394
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2191】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	395
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2193】文化人類学 [四條 真也] 春学期授 業/Spring	396
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2195】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授 業/Spring	397
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2197】文化人類学 [長沢 利明] 春学期授 業/Spring	398
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2199】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	399
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2201】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授 業/Spring	400
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2203】文化人類学 [阿部 朋恒] 春学期授 業/Spring	401
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2205】文化人類学 [阿部 朋恒] 春学期授 業/Spring	402
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2207】文化人類学 [四條 真也] 春学期授 業/Spring	403
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2209】文化人類学 [石森 大知] 春学期授 業/Spring	404
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2211】社会思想Ⅰ [犬塚 元] 春学期授 業/Spring	405
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2212】社会思想Ⅱ [犬塚 元] 秋学期授 業/Fall	406
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2213】社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授 業/Spring	407
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2214】社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授 業/Fall	408
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2215】社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期 授業/Spring	409

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2216】 社会思想Ⅱ [阿部 崇史] 秋学期授業/Fall	410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2217】 社会思想Ⅰ [洪 貴義] 春学期授業/Spring	411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2218】 社会思想Ⅱ [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2219】 社会思想Ⅰ [熊沢 敏之] 春学期授業/Spring	413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2220】 社会思想Ⅱ [熊沢 敏之] 秋学期授業/Fall	414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2221】 社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授業/Spring	415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2222】 社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授業/Fall	416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3001】 教養数学A [平田 康史] 春学期授業/Spring	417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3002】 教養数学B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3003】 教養数学A [平田 康史] 春学期授業/Spring	419
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3004】 教養数学B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3005】 教養数学A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3006】 教養数学B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3007】 教養数学A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3008】 教養数学B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3011】 教養数学A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3012】 教養数学B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3013】 教養数学A [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	427
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3014】 教養数学B [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3015】 教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3016】 教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3017】 教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3018】 教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3019】 教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3020】 教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3031】 基礎数学Ⅰ [若井 健太郎] 春学期授業/Spring	435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3032】 基礎数学Ⅱ [若井 健太郎] 秋学期授業/Fall	436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3033】 基礎数学Ⅰ [板井 昌典] 春学期授業/Spring	437

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3034】基礎数学Ⅱ [板井 昌典] 秋学期 授業/Fall	438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3035】基礎数学Ⅰ [池田 宏一郎] 春学 期授業/Spring	439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3036】基礎数学Ⅱ [池田 宏一郎] 秋学 期授業/Fall	440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3037】基礎数学Ⅰ [若井 健太郎] 春学 期授業/Spring	441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3038】基礎数学Ⅱ [若井 健太郎] 秋学 期授業/Fall	442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3039】基礎数学Ⅰ [板井 昌典] 春学期 授業/Spring	443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3040】基礎数学Ⅱ [板井 昌典] 秋学期 授業/Fall	444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3041】基礎数学Ⅰ [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3042】基礎数学Ⅱ [倉田 俊彦] 秋学期 授業/Fall	446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3043】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期 授業/Spring	447
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3044】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3047】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期 授業/Spring	449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3048】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3051】入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3052】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3053】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3054】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3055】入門物理学A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	455
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3056】入門物理学B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3057】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3058】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3059】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3060】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	461
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3061】入門物理学A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3062】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3065】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3066】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3067】入門物理学A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	467

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3068】入門物理学B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	468
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3081】入門生物学A [町田 郁子] 春学期 授業/Spring	469
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3082】入門生物学B [町田 郁子] 秋学期 授業/Fall	470
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3083】入門生物学A [町田 郁子] 春学期 授業/Spring	471
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3084】入門生物学B [町田 郁子] 秋学期 授業/Fall	472
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3085】入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	473
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3086】入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	474
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3087】入門生物学A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	475
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3088】入門生物学B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	477
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3089】入門生物学A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	478
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3090】入門生物学B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	480
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3091】入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	481
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3092】入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	482
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3093】入門生物学A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	483
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3094】入門生物学B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	484
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3111】入門化学A [向井 知大] 春学期授 業/Spring	485
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3112】入門化学B [向井 知大] 秋学期授 業/Fall	486
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3113】入門化学A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	487
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3114】入門化学B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	488
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3117】入門化学A [中田 和秀] 春学期授 業/Spring	489
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3118】入門化学B [中田 和秀] 秋学期授 業/Fall	490
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3119】入門化学A [赤羽 良一] 春学期授 業/Spring	491
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3120】入門化学B [赤羽 良一] 秋学期授 業/Fall	493
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3121】入門化学A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	494
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3122】入門化学B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	495
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3125】入門化学A [赤羽 良一] 春学期授 業/Spring	496
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3126】入門化学B [赤羽 良一] 秋学期授 業/Fall	498
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3171】天文学A [福島 登志夫] 春学期授 業/Spring	499

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3172】天文学B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	500
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3173】天文学A [松本 倫明] 春学期授業/Spring	501
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3174】天文学B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	502
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3175】天文学A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	503
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3176】天文学B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	504
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3181】科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	505
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3182】科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	506
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3183】科学史A [詫間 直樹] 春学期授業/Spring	507
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3184】科学史B [詫間 直樹] 秋学期授業/Fall	508
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3185】科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	509
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3186】科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	510
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3187】科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	512
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3188】科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	513
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3301】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	514
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3302】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	515
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3303】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	516
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3304】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	517
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3305】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	518
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3306】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	519
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3307】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	520
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3308】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	521
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3309】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	522
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3310】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	523
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3311】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	524
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3312】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	525
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3313】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	526
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3314】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	527
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3315】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	528

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3316】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	529
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3317】サイエンス・ラボA [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	530
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3318】サイエンス・ラボB [西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	531
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3319】サイエンス・ラボA [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	532
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3320】サイエンス・ラボB [西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	533
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3321】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	534
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3322】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	535
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3323】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	536
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3324】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	537
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3325】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	538
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3326】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	539
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3327】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	540
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3328】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	541
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3329】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	542
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3330】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	543
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3331】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	544
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3332】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	545
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3333】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	546
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3334】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	547
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3335】サイエンス・ラボA [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	548
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3336】サイエンス・ラボB [向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	549
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3337】サイエンス・ラボA [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	550
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3338】サイエンス・ラボB [西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	551
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3339】サイエンス・ラボA [西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	552
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3340】サイエンス・ラボB [西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	553
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3341】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	554
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3342】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	555
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3343】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	556

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3344】サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	557
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3345】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	558
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3346】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	559
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3347】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	560
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3348】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	561
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3349】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	562
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3350】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	563
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3351】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	564
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3352】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	565
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3353】サイエンス・ラボA [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	566
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3354】サイエンス・ラボB [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	567
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3355】サイエンス・ラボA [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	568
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3356】サイエンス・ラボB [向井 知大、 島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	569
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3357】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	570
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3358】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	571
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3359】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	572
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3360】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	573
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5001】スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 春学期授業/Spring	574
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5002】スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 秋学期授業/Fall	575
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5003】スポーツ総合演習 [栗林 千 聡] 春学期授業/Spring	576
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5004】スポーツ総合演習 [栗林 千 聡] 秋学期授業/Fall	577
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5005】スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 春学期授業/Spring	578
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5006】スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 秋学期授業/Fall	580
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5007】スポーツ総合演習 [辻 大士] 春学期授業/Spring	581
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5008】スポーツ総合演習 [辻 大士] 秋学期授業/Fall	582
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5009】スポーツ総合演習 [栗林 千 聡] 春学期授業/Spring	583
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5010】スポーツ総合演習 [栗林 千 聡] 秋学期授業/Fall	584
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5011】スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 春学期授業/Spring	585

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5012】スポーツ総合演習[大須賀洋祐] 秋学期授業/Fall	586
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5013】スポーツ総合演習[雨宮 怜] 春学期授業/Spring	587
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5014】スポーツ総合演習[雨宮 怜] 秋学期授業/Fall	589
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5015】スポーツ総合演習[辻 大士] 春学期授業/Spring	590
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5016】スポーツ総合演習[辻 大士] 秋学期授業/Fall	591
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5017】スポーツ総合演習[林 容市] 春学期授業/Spring	592
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5018】スポーツ総合演習[林 容市] 秋学期授業/Fall	593
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5019】スポーツ総合演習[雨宮 怜] 春学期授業/Spring	594
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5020】スポーツ総合演習[雨宮 怜] 秋学期授業/Fall	596
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5021】スポーツ総合演習[荒井 弘和] 春学期授業/Spring	597
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5022】スポーツ総合演習[荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	598
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5101】スポーツ総合演習[落合 久夫] 春学期授業/Spring	599
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5102】スポーツ総合演習[落合 久夫] 秋学期授業/Fall	600
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5103】スポーツ総合演習[久保 賢師] 春学期授業/Spring	601
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5104】スポーツ総合演習[久保 賢師] 秋学期授業/Fall	602
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5105】スポーツ総合演習[笠井 淳] 春学期授業/Spring	603
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5106】スポーツ総合演習[笠井 淳] 秋学期授業/Fall	604
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5107】スポーツ総合演習[吉田 康伸] 春学期授業/Spring	605
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5108】スポーツ総合演習[吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	606
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5109】スポーツ総合演習[落合 久夫] 春学期授業/Spring	607
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5110】スポーツ総合演習[落合 久夫] 秋学期授業/Fall	608
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5111】スポーツ総合演習[久保 賢師] 春学期授業/Spring	609
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5112】スポーツ総合演習[久保 賢師] 秋学期授業/Fall	610
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5113】スポーツ総合演習[位高 駿夫] 春学期授業/Spring	611
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5114】スポーツ総合演習[位高 駿夫] 秋学期授業/Fall	612
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5115】スポーツ総合演習[吉田 康伸] 春学期授業/Spring	613
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5116】スポーツ総合演習[吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	614
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5117】スポーツ総合演習[落合 久夫] 春学期授業/Spring	615

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5118】スポーツ総合演習[落合 久夫] 秋学期授業/Fall	616
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5119】スポーツ総合演習[飯村 周平] 春学期授業/Spring	617
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5120】スポーツ総合演習[笠井 淳] 秋学期授業/Fall	618
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5121】スポーツ総合演習[位高 駿夫] 春学期授業/Spring	619
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5122】スポーツ総合演習[位高 駿夫] 秋学期授業/Fall	620
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5201】スポーツ総合演習[大西 朋] 春学期授業/Spring	621
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5202】スポーツ総合演習[大西 朋] 秋学期授業/Fall	623
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5203】スポーツ総合演習[山田 優香] 春学期授業/Spring	625
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5204】スポーツ総合演習[山田 優香] 秋学期授業/Fall	627
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5205】スポーツ総合演習[伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	629
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5206】スポーツ総合演習[伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	631
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5207】スポーツ総合演習[三好 英次] 春学期授業/Spring	633
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5208】スポーツ総合演習[三好 英次] 秋学期授業/Fall	636
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5209】スポーツ総合演習[大西 朋] 春学期授業/Spring	638
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5210】スポーツ総合演習[大西 朋] 秋学期授業/Fall	640
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5211】スポーツ総合演習[山田 優香] 春学期授業/Spring	642
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5212】スポーツ総合演習[山田 優香] 秋学期授業/Fall	644
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5213】スポーツ総合演習[伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	646
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5214】スポーツ総合演習[伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	648
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5215】スポーツ総合演習[三好 英次] 春学期授業/Spring	650
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5216】スポーツ総合演習[三好 英次] 秋学期授業/Fall	653
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5217】スポーツ総合演習[大西 朋] 春学期授業/Spring	655
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5218】スポーツ総合演習[大西 朋] 秋学期授業/Fall	657
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5219】スポーツ総合演習[伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	659
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5220】スポーツ総合演習[伊藤 マモル] 秋学期授業/Fall	661
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5221】スポーツ総合演習[山田 優香] 春学期授業/Spring	663
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5222】スポーツ総合演習[山田 優香] 秋学期授業/Fall	665
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5223】スポーツ総合演習[三好 英次] 春学期授業/Spring	667

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5224】スポーツ総合演習〔三好英次〕秋学期授業/Fall	670
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5301】スポーツ総合演習〔佐藤優希〕春学期授業/Spring	672
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5302】スポーツ総合演習〔佐藤優希〕秋学期授業/Fall	674
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5303】スポーツ総合演習〔蔭山雅洋〕春学期授業/Spring	675
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5304】スポーツ総合演習〔蔭山雅洋〕秋学期授業/Fall	677
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5305】スポーツ総合演習〔稲垣和希〕春学期授業/Spring	678
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5306】スポーツ総合演習〔稲垣和希〕秋学期授業/Fall	680
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5307】スポーツ総合演習〔飯村周平〕春学期授業/Spring	681
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5308】スポーツ総合演習〔飯村周平〕秋学期授業/Fall	682
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5309】スポーツ総合演習〔飯村周平〕春学期授業/Spring	683
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5310】スポーツ総合演習〔飯村周平〕秋学期授業/Fall	684
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5311】スポーツ総合演習〔蔭山雅洋〕春学期授業/Spring	685
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5312】スポーツ総合演習〔蔭山雅洋〕秋学期授業/Fall	687
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5313】スポーツ総合演習〔稲垣和希〕春学期授業/Spring	688
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5314】スポーツ総合演習〔稲垣和希〕秋学期授業/Fall	690
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5315】スポーツ総合演習〔中澤史〕春学期授業/Spring	691
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5316】スポーツ総合演習〔中澤史〕秋学期授業/Fall	693
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5317】スポーツ総合演習〔佐藤優希〕春学期授業/Spring	694
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5318】スポーツ総合演習〔佐藤優希〕秋学期授業/Fall	696
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5319】スポーツ総合演習〔飯村周平〕春学期授業/Spring	697
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5320】スポーツ総合演習〔飯村周平〕秋学期授業/Fall	698
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5321】スポーツ総合演習〔笠井淳〕春学期授業/Spring	699
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5322】スポーツ総合演習〔笠井淳〕秋学期授業/Fall	700
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5327】スポーツ総合演習〔朝比奈茂〕春学期授業/Spring	701
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5328】スポーツ総合演習〔竹内洋輔〕秋学期授業/Fall	703
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5329】スポーツ総合演習〔秋本成晴〕春学期授業/Spring	704
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5330】スポーツ総合演習〔秋本成晴〕秋学期授業/Fall	706
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_5群(保健体育分野)【Q5331】スポーツ総合演習〔竹内洋輔〕春学期授業/Spring	707

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_5群 (保健体育分野) 【Q5332】 スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 秋学期授業/Fall	709
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_5群 (保健体育分野) 【Q5418】 スポーツ総合演習 [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	710
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_5群 (保健体育分野) 【Q5419】 スポーツ総合演習 [荒井 弘和] 春学期集中	712
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_5群 (保健体育分野) 【Q5501】 スポーツ総合演習S [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	713
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_5群 (保健体育分野) 【Q5502】 スポーツ総合演習S [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	715
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_5群 (保健体育分野) 【Q5603】 スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 春学期授業/Spring	716
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_5群 (保健体育分野) 【Q5604】 スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 秋学期授業/Fall	718
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0001】 English 1 I [中和 彩子] 春学期授業/Spring	719
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0002】 English 1 II [中和 彩子] 秋学期授業/Fall	721
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0003】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	722
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0004】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	723
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0005】 English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	724
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0006】 English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	725
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0007】 English 1 I [當麻 幸子] 春学期授業/Spring	726
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0008】 English 1 II [當麻 幸子] 秋学期授業/Fall	727
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0009】 English 1 I [神 康介] 春学期授業/Spring	728
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0010】 English 1 II [神 康介] 秋学期授業/Fall	729
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0011】 English 1 I [小川 真也] 春学期授業/Spring	730
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0012】 English 1 II [小川 真也] 秋学期授業/Fall	731
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0013】 English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring	733
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0014】 English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall	734
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0015】 English 1 I [鈴木 俊二] 春学期授業/Spring	736
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0016】 English 1 II [鈴木 俊二] 秋学期授業/Fall	737
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0017】 English 1 I [高 友希子] 春学期授業/Spring	738
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0018】 English 1 II [高 友希子] 秋学期授業/Fall	739
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0019】 English 1 I [藤井 道行] 春学期授業/Spring	740
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0020】 English 1 II [藤井 道行] 秋学期授業/Fall	741
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0021】 English 1 I [北 文美子] 春学期授業/Spring	742

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0022】English 1 II [北 文美子] 秋学期授業/Fall	743
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0023】English 1 I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	744
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0024】English 1 II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	745
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0025】English 1 I [余田 亜希] 春学期授業/Spring	746
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0026】English 1 II [余田 亜希] 秋学期授業/Fall	747
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0027】English 1 I [深澤 清] 春学期授業/Spring	748
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0028】English 1 II [深澤 清] 秋学期授業/Fall	750
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0029】English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring	751
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0030】English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall	752
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0035】English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	754
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0036】English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	755
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0037】English 1 I [藤井 道行] 春学期授業/Spring	756
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0038】English 1 II [藤井 道行] 秋学期授業/Fall	757
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0039】English 1 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	758
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0040】English 1 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	759
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0041】English 1 I [神 康介] 春学期授業/Spring	760
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0042】English 1 II [神 康介] 秋学期授業/Fall	761
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0043】English 1 I [久慈 美貴] 春学期授業/Spring	762
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0044】English 1 II [久慈 美貴] 秋学期授業/Fall	763
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0045】English 1 I [小川 真也] 春学期授業/Spring	765
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0046】English 1 II [小川 真也] 秋学期授業/Fall	766
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0047】English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring	768
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0048】English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall	769
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0049】English 1 I [鈴木 俊二] 春学期授業/Spring	771
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0050】English 1 II [鈴木 俊二] 秋学期授業/Fall	772
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0051】English 1 I [高 友希子] 春学期授業/Spring	773
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0052】English 1 II [高 友希子] 秋学期授業/Fall	774
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0053】English 1 I [余田 亜希] 春学期授業/Spring	775

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0054】 English 1 II [余田 亜希] 秋学期授業/Fall	776
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0055】 English 1 I [北 文美子] 春学期授業/Spring	777
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0056】 English 1 II [北 文美子] 秋学期授業/Fall	778
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0057】 English 1 I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	779
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0058】 English 1 II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	780
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0059】 English 1 I [深澤 清] 春学期授業/Spring	781
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0060】 English 1 II [深澤 清] 秋学期授業/Fall	783
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0061】 English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring	784
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0062】 English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall	785
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0063】 English 1 I [當麻 幸子] 春学期授業/Spring	787
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0064】 English 1 II [當麻 幸子] 秋学期授業/Fall	788
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0071】 English 1 I [清水 純子] 春学期授業/Spring	789
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0072】 English 1 II [清水 純子] 秋学期授業/Fall	790
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0073】 English 1 I [大澤 岳彦] 春学期授業/Spring	791
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0074】 English 1 II [大澤 岳彦] 秋学期授業/Fall	792
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0075】 English 1 I [竹内 晶子] 春学期授業/Spring	793
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0076】 English 1 II [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	794
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0077】 English 1 I [中和 彩子] 春学期授業/Spring	795
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0078】 English 1 II [中和 彩子] 秋学期授業/Fall	796
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0079】 English 1 I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	797
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0080】 English 1 II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	798
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0081】 English 1 I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	799
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0082】 English 1 II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	800
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0083】 English 1 I [余田 剛] 春学期授業/Spring	801
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0084】 English 1 II [余田 剛] 秋学期授業/Fall	803
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0085】 English 1 I [川野 芽生] 春学期授業/Spring	804
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0086】 English 1 II [川野 芽生] 秋学期授業/Fall	805
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0087】 English 1 I [本間 章郎] 春学期授業/Spring	806

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0088】English 1 II [本間 章郎] 秋学期授業/Fall	807
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0089】English 1 I [村松 美映子] 春学期授業/Spring	808
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0090】English 1 II [村松 美映子] 秋学期授業/Fall	809
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0091】English 1 I [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring	810
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0092】English 1 II [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall	812
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0093】English 1 I [小田井 勝彦] 春学期授業/Spring	813
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0094】English 1 II [小田井 勝彦] 秋学期授業/Fall	814
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0095】English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	815
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0096】English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	816
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0097】English 1 I [萩原 眞一] 春学期授業/Spring	817
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0098】English 1 II [萩原 眞一] 秋学期授業/Fall	818
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0099】English 1 I [岩坪 友子] 春学期授業/Spring	820
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0100】English 1 II [岩坪 友子] 秋学期授業/Fall	821
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0105】English 1 I [鈴木 理枝] 春学期授業/Spring	823
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0106】English 1 II [鈴木 理枝] 秋学期授業/Fall	824
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0107】English 1 I [大澤 岳彦] 春学期授業/Spring	825
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0108】English 1 II [大澤 岳彦] 秋学期授業/Fall	826
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0109】English 1 I [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring	827
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0110】English 1 II [遠藤 郁子] 秋学期授業/Fall	828
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0111】English 1 I [宇野 毅] 春学期授業/Spring	829
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0112】English 1 II [宇野 毅] 秋学期授業/Fall	830
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0113】English 1 I [余田 剛] 春学期授業/Spring	831
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0114】English 1 II [余田 剛] 秋学期授業/Fall	833
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0115】English 1 I [萩原 眞一] 春学期授業/Spring	834
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0116】English 1 II [萩原 眞一] 秋学期授業/Fall	836
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0117】English 1 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	837
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0118】English 1 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	839
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0119】English 1 I [川野 芽生] 春学期授業/Spring	840

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0120】English 1 II [川野 芽生] 秋 学期授業/Fall	841
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0121】English 1 I [鈴木 眞奈美] 春学期授業/Spring	842
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0122】English 1 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall	843
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0123】English 1 I [中和 彩子] 春 学期授業/Spring	844
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0124】English 1 II [中和 彩子] 秋 学期授業/Fall	846
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0125】English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	847
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0126】English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	848
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0127】English 1 I [小田井 勝彦] 春学期授業/Spring	849
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0128】English 1 II [小田井 勝彦] 秋学期授業/Fall	850
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0129】English 1 I [岩坪 友子] 春 学期授業/Spring	851
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0130】English 1 II [岩坪 友子] 秋 学期授業/Fall	853
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0131】English 1 I [清水 純子] 春 学期授業/Spring	854
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0132】English 1 II [清水 純子] 秋 学期授業/Fall	855
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0133】English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	856
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0134】English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	857
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0135】English 1 I [村松 美映子] 春学期授業/Spring	858
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0136】English 1 II [村松 美映子] 秋学期授業/Fall	859
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0141】English 1 I [岩坪 友子] 春 学期授業/Spring	860
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0142】English 1 II [岩坪 友子] 秋 学期授業/Fall	862
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0143】English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	863
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0144】English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	865
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0145】English 1 I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring	866
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0146】English 1 II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall	867
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0147】English 1 I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	868
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0148】English 1 II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	869
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0149】English 1 I [杉 亜希子] 春 学期授業/Spring	870
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0150】English 1 II [杉 亜希子] 秋 学期授業/Fall	872
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0151】English 1 I [田中 邦佳] 春 学期授業/Spring	873

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0152】 English 1 II [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	874
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0153】 English 1 I [坂梨 健史郎] 春学期授業/Spring	875
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0154】 English 1 II [坂梨 健史郎] 秋学期授業/Fall	877
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0155】 English 1 I [田口 清一] 春学期授業/Spring	878
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0156】 English 1 II [田口 清一] 秋学期授業/Fall	879
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0157】 English 1 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	880
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0158】 English 1 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	882
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0159】 English 1 I [吉田 和久] 春学期授業/Spring	883
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0160】 English 1 II [吉田 和久] 秋学期授業/Fall	884
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0161】 English 1 I [渡辺 英依美] 春学期授業/Spring	885
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0162】 English 1 II [渡辺 英依美] 秋学期授業/Fall	886
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0163】 English 1 I [新宅 美樹] 春学期授業/Spring	887
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0164】 English 1 II [新宅 美樹] 秋学期授業/Fall	889
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0165】 English 1 I [藤井 道行] 春学期授業/Spring	890
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0166】 English 1 II [藤井 道行] 秋学期授業/Fall	891
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0167】 English 1 I [池田 しおり] 春学期授業/Spring	892
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0168】 English 1 II [池田 しおり] 秋学期授業/Fall	893
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0169】 English 1 I [吉江 秀和] 春学期授業/Spring	894
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0170】 English 1 II [吉江 秀和] 秋学期授業/Fall	895
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0171】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	896
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0172】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	897
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0173】 English 1 I [滝沢 玄] 春学期授業/Spring	898
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0174】 English 1 II [滝沢 玄] 秋学期授業/Fall	899
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0181】 English 1 I [飛田 英伸] 春学期授業/Spring	900
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0182】 English 1 II [飛田 英伸] 秋学期授業/Fall	901
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0183】 English 1 I [滝沢 玄] 春学期授業/Spring	903
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0184】 English 1 II [滝沢 玄] 秋学期授業/Fall	904
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0185】 English 1 I [新宅 美樹] 春学期授業/Spring	905

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0186】 English 1 II [新宅 美樹] 秋学期授業/Fall	906
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0187】 English 1 I [田口 清一] 春学期授業/Spring	908
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0188】 English 1 II [田口 清一] 秋学期授業/Fall	909
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0189】 English 1 I [小泉 和弘] 春学期授業/Spring	910
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0190】 English 1 II [小泉 和弘] 秋学期授業/Fall	911
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0191】 English 1 I [水野 太朗] 春学期授業/Spring	912
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0192】 English 1 II [水野 太朗] 秋学期授業/Fall	913
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0193】 English 1 I [坂梨 健史郎] 春学期授業/Spring	914
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0194】 English 1 II [坂梨 健史郎] 秋学期授業/Fall	915
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0195】 English 1 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	917
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0196】 English 1 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	918
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0197】 English 1 I [須藤 祐二] 春学期授業/Spring	920
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0198】 English 1 II [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	921
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0199】 English 1 I [吉田 和久] 春学期授業/Spring	922
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0200】 English 1 II [吉田 和久] 秋学期授業/Fall	923
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0201】 English 1 I [新宅 美樹] 春学期授業/Spring	924
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0202】 English 1 II [新宅 美樹] 秋学期授業/Fall	925
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0203】 English 1 I [渡辺 英依美] 春学期授業/Spring	927
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0204】 English 1 II [渡辺 英依美] 秋学期授業/Fall	928
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0205】 English 1 I [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	929
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0206】 English 1 II [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	930
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0207】 English 1 I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	931
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0208】 English 1 II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	932
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0209】 English 1 I [吉江 秀和] 春学期授業/Spring	933
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0210】 English 1 II [吉江 秀和] 秋学期授業/Fall	934
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0211】 English 1 I [杉 亜希子] 春学期授業/Spring	935
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0212】 English 1 II [杉 亜希子] 秋学期授業/Fall	936
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0213】 English 1 I [池田 しおり] 春学期授業/Spring	938

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0214】English 1 II [池田 しおり] 秋学期授業/Fall	939
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0215】English 1 I [中和 彩 子] 春学期授業/Spring	941
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0216】English 1 II [中和 彩 子] 秋学期授業/Fall	942
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0217】English 1 I [塩谷 幸 子] 春学期授業/Spring	943
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0218】English 1 II [塩谷 幸 子] 秋学期授業/Fall	944
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0219】English 1 I [塩谷 幸 子] 春学期授業/Spring	945
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0220】English 1 II [塩谷 幸 子] 秋学期授業/Fall	946
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0221】English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	947
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0222】English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	948
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0223】English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	950
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0224】English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	951
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0225】English 2 I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	952
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0226】English 2 II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	953
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0227】English 2 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	954
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0228】English 2 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	955
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0229】English 2 I [ジェイソン ポール スミス] 春学期授業/Spring	956
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0230】English 2 II [ジェイソン ポール スミス] 秋学期授業/Fall	957
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0231】English 2 I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	958
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0232】English 2 II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	959
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0233】English 2 I [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	960
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0234】English 2 II [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	961
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0235】English 2 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	962
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0236】English 2 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	963
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0237】English 2 I [MICHAEL F.MURPHY] 春学期授業/Spring	964
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0238】English 2 II [MICHAEL F.MURPHY] 秋学期授業/Fall	965
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0239】English 2 I [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	966
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0240】English 2 II [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	968
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0241】English 2 I [Andrew E. Chen] 春学期授業/Spring	969

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0242】English 2 II [Andrew E. Chen] 秋学期授業/Fall	971
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0243】English 2 I [Richard.J.Burrows] 春学期授業/Spring	972
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0244】English 2 II [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	973
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0245】English 2 I [PATRICK M MCEVILLY] 春学期授業/Spring	974
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0246】English 2 II [PATRICK M MCEVILLY] 秋学期授業/Fall	975
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0247】English 2 I [関野 佳苗] 春学期授業/Spring	976
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0248】English 2 II [関野 佳苗] 秋学期授業/Fall	978
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0249】English 2 I [GENC BURCU] 春学期授業/Spring	979
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0250】English 2 II [GENC BURCU] 秋学期授業/Fall	980
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0255】English 2 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	981
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0256】English 2 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	982
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0257】English 2 I [GENC BURCU] 春学期授業/Spring	983
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0258】English 2 II [GENC BURCU] 秋学期授業/Fall	984
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0259】English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	985
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0260】English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	987
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0261】English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	988
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0262】English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	989
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0263】English 2 I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	990
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0264】English 2 II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	991
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0265】English 2 I [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	992
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0266】English 2 II [高橋 佳江] 秋学期授業/Fall	993
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0267】English 2 I [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	994
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0268】English 2 II [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	995
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0269】English 2 I [新宅 美樹] 春学期授業/Spring	996
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0270】English 2 II [新宅 美樹] 秋学期授業/Fall	998
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0271】English 2 I [MICHAEL F.MURPHY] 春学期授業/Spring	999
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0272】English 2 II [MICHAEL F.MURPHY] 秋学期授業/Fall	1000
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0273】English 2 I [永井 大輔] 春学期授業/Spring	1001

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0274】 English 2 II [永井 大輔] 秋 学期授業/Fall	1002
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0275】 English 2 I [Andrew E. Chen] 春学期授業/Spring	1004
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0276】 English 2 II [Andrew E. Chen] 秋学期授業/Fall	1005
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0277】 English 2 I [関野 佳苗] 春 学期授業/Spring	1007
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0278】 English 2 II [関野 佳苗] 秋 学期授業/Fall	1008
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0279】 English 2 I [Richard.J.Burrows] 春学期授業/Spring	1010
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0280】 English 2 II [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	1011
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0281】 English 2 I [ジェイソン ポール スミス] 春学期授業/Spring	1012
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0282】 English 2 II [ジェイソン ポール スミス] 秋学期授業/Fall	1013
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0283】 English 2 I [PATRICK M MCEVILLY] 春学期授業/Spring	1014
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0284】 English 2 II [PATRICK M MCEVILLY] 秋学期授業/Fall	1015
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0291】 English 2 I [石原 紀子] 春 学期授業/Spring	1016
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0292】 English 2 II [石原 紀子] 秋 学期授業/Fall	1017
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0293】 English 2 I [岩崎 博] 春学 期授業/Spring	1019
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0294】 English 2 II [岩崎 博] 秋学 期授業/Fall	1020
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0295】 English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1022
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0296】 English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1023
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0297】 English 2 I [THOMAS G POWER] 春学期授業/Spring	1024
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0298】 English 2 II [THOMAS G POWER] 秋学期授業/Fall	1025
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0299】 English 2 I [榊原 益子] 春 学期授業/Spring	1026
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0300】 English 2 II [榊原 益子] 秋 学期授業/Fall	1028
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0301】 English 2 I [宮本 裕子] 春 学期授業/Spring	1030
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0302】 English 2 II [宮本 裕子] 秋 学期授業/Fall	1031
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0303】 English 2 I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	1032
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0304】 English 2 II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	1033
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0305】 English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1034
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0306】 English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1035
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0307】 English 2 I [小野瀬 宗一郎] 春学期授業/Spring	1037

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0308】English 2Ⅱ [小野瀬 宗一郎] 秋学期授業/Fall	1038
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0309】English 2Ⅰ [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1039
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0310】English 2Ⅱ [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1040
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0311】English 2Ⅰ [Robert D. Hinton] 春学期授業/Spring	1042
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0312】English 2Ⅱ [Robert D. Hinton] 秋学期授業/Fall	1043
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0313】English 2Ⅰ [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring	1044
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0314】English 2Ⅱ [遠藤 郁子] 秋学期授業/Fall	1045
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0315】English 2Ⅰ [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	1046
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0316】English 2Ⅱ [山崎 暁子] 秋学期授業/Fall	1047
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0317】English 2Ⅰ [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	1048
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0318】English 2Ⅱ [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	1049
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0319】English 2Ⅰ [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	1050
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0320】English 2Ⅱ [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	1051
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0325】English 2Ⅰ [衣笠 正晃] 春学期授業/Spring	1052
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0326】English 2Ⅱ [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	1053
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0327】English 2Ⅰ [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	1054
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0328】English 2Ⅱ [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	1055
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0329】English 2Ⅰ [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	1056
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0330】English 2Ⅱ [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	1057
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0331】English 2Ⅰ [榊原 益子] 春学期授業/Spring	1058
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0332】English 2Ⅱ [榊原 益子] 秋学期授業/Fall	1059
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0333】English 2Ⅰ [岩崎 博] 春学期授業/Spring	1061
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0334】English 2Ⅱ [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	1063
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0335】English 2Ⅰ [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	1064
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0336】English 2Ⅱ [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	1065
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0337】English 2Ⅰ [宮本 裕子] 春学期授業/Spring	1066
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0338】English 2Ⅱ [宮本 裕子] 秋学期授業/Fall	1067
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0339】English 2Ⅰ [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1068

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0340】English 2Ⅱ [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1070
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0341】English 2Ⅰ [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1071
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0342】English 2Ⅱ [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1073
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0343】English 2Ⅰ [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1074
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0344】English 2Ⅱ [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1076
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0345】English 2Ⅰ [Robert D. Hinton] 春学期授業/Spring	1077
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0346】English 2Ⅱ [Robert D. Hinton] 秋学期授業/Fall	1078
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0347】English 2Ⅰ [小野瀬 宗一郎] 春学期授業/Spring	1079
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0348】English 2Ⅱ [小野瀬 宗一郎] 秋学期授業/Fall	1080
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0349】English 2Ⅰ [山崎 暁子] 春 学期授業/Spring	1081
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0350】English 2Ⅱ [山崎 暁子] 秋 学期授業/Fall	1082
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0351】English 2Ⅰ [THOMAS G POWER] 春学期授業/Spring	1083
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0352】English 2Ⅱ [DONALD W WHYTE] 秋学期授業/Fall	1084
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0353】English 2Ⅰ [石原 紀子] 春 学期授業/Spring	1085
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0354】English 2Ⅱ [石原 紀子] 秋 学期授業/Fall	1087
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0355】English 2Ⅰ [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1088
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0356】English 2Ⅱ [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1090
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0361】English 2Ⅰ [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	1091
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0362】English 2Ⅱ [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	1092
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0363】English 2Ⅰ [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	1093
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0364】English 2Ⅱ [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	1094
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0365】English 2Ⅰ [門馬 義幸] 春 学期授業/Spring	1095
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0366】English 2Ⅱ [門馬 義幸] 秋 学期授業/Fall	1096
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0367】English 2Ⅰ [大野 ロベルト] 春学期授業/Spring	1097
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0368】English 2Ⅱ [大野 ロベルト] 秋学期授業/Fall	1098
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0369】English 2Ⅰ [鹿子嶋 由佳] 春学期授業/Spring	1099
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0370】English 2Ⅱ [鹿子嶋 由佳] 秋学期授業/Fall	1101
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0371】English 2Ⅰ [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1102

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0372】English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1103
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0373】English 2 I [森永 豊] 春学 期授業/Spring	1104
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0374】English 2 II [森永 豊] 秋学 期授業/Fall	1106
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0375】English 2 I [ウォルター・カ ズマー] 春学期授業/Spring	1107
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0376】English 2 II [ウォルター・カ ズマー] 秋学期授業/Fall	1108
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0377】English 2 I [榊原 益子] 春 学期授業/Spring	1109
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0378】English 2 II [榊原 益子] 秋 学期授業/Fall	1111
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0379】English 2 I [鈴木 眞奈美] 春学期授業/Spring	1113
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0380】English 2 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall	1114
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0381】English 2 I [MICHAEL DONOVAN] 春学期授業/Spring	1116
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0382】English 2 II [MICHAEL DONOVAN] 秋学期授業/Fall	1117
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0383】English 2 I [Richard.J.Burrows] 春学期授業/Spring	1118
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0384】English 2 II [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	1119
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0385】English 2 I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	1120
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0386】English 2 II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	1121
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0387】English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1122
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0388】English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1123
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0389】English 2 I [川澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	1125
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0390】English 2 II [川澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	1126
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0391】English 2 I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1127
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0392】English 2 II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1128
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0393】English 2 I [飛田 英伸] 春 学期授業/Spring	1129
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0394】English 2 II [飛田 英伸] 秋 学期授業/Fall	1130
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0401】English 2 I [鹿子嶋 由佳] 春学期授業/Spring	1131
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0402】English 2 II [鹿子嶋 由佳] 秋学期授業/Fall	1132
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0403】English 2 I [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	1134
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0404】English 2 II [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	1135
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0405】English 2 I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	1136

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0406】English 2 II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	1137
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0407】English 2 I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	1138
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0408】English 2 II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	1139
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0409】English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1140
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0410】English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1141
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0411】English 2 I [門馬 義幸] 春 学期授業/Spring	1142
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0412】English 2 II [門馬 義幸] 秋 学期授業/Fall	1143
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0413】English 2 I [森永 豊] 春学 期授業/Spring	1144
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0414】English 2 II [森永 豊] 秋学 期授業/Fall	1145
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0415】English 2 I [ウォルター・カ ズマー] 春学期授業/Spring	1147
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0416】English 2 II [ウォルター・カ ズマー] 秋学期授業/Fall	1148
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0417】English 2 I [榊原 益子] 春 学期授業/Spring	1149
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0418】English 2 II [榊原 益子] 秋 学期授業/Fall	1150
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0419】English 2 I [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	1152
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0420】English 2 II [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	1153
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0421】English 2 I [Richard.J.Burrows] 春学期授業/Spring	1154
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0422】English 2 II [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	1155
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0423】English 2 I [MICHAEL DONOVAN] 春学期授業/Spring	1156
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0424】English 2 II [MICHAEL DONOVAN] 秋学期授業/Fall	1157
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0425】English 2 I [齊藤 昇] 春学 期授業/Spring	1158
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0426】English 2 II [齊藤 昇] 秋学 期授業/Fall	1159
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0427】English 2 I [DYLAN O SCUDDER] 春学期授業/Spring	1160
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0428】English 2 II [DYLAN O SCUDDER] 秋学期授業/Fall	1164
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0429】English 2 I [川澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	1168
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0430】English 2 II [川澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	1169
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0431】English 2 I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1170
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0432】English 2 II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1171
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群[必修]英語【R0433】English 2 I [鈴木 眞奈美] 春学期授業/Spring	1172

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0434】 English 2Ⅱ [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall	1174
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0435】 English 2Ⅰ [鈴木 俊二] 春学期授業/Spring	1175
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0436】 English 2Ⅱ [鈴木 俊二] 秋学期授業/Fall	1176
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0437】 English 2Ⅰ [鈴木 俊二] 春学期授業/Spring	1177
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0438】 English 2Ⅱ [鈴木 俊二] 秋学期授業/Fall	1178
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0439】 English 2Ⅰ [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	1179
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0440】 English 2Ⅱ [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	1180
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0501】 英語1 [小川 真也] 春学期授業/Spring	1181
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0502】 英語3 [小川 真也] 秋学期授業/Fall	1183
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0503】 英語1 [北 文美子] 春学期授業/Spring	1184
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0504】 英語3 [北 文美子] 秋学期授業/Fall	1185
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0505】 英語1 [宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	1186
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0506】 英語3 [宇治谷 義英] 秋学期授業/Fall	1187
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0507】 英語1 [永井 大輔] 春学期授業/Spring	1188
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0508】 英語3 [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	1190
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0509】 英語1 [栗飯原 文子] 春学期授業/Spring	1192
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0510】 英語3 [栗飯原 文子] 秋学期授業/Fall	1193
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0511】 英語1 [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	1194
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0512】 英語3 [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	1195
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0513】 英語1 [小川 真也] 春学期授業/Spring	1196
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0514】 英語3 [小川 真也] 秋学期授業/Fall	1197
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0515】 英語1 [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring	1199
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0516】 英語3 [遠藤 郁子] 秋学期授業/Fall	1200
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0517】 英語1 [宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	1201
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0518】 英語3 [宇治谷 義英] 秋学期授業/Fall	1202
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0519】 英語1 [永井 大輔] 春学期授業/Spring	1203
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0520】 英語3 [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	1205
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0521】 英語1 [北 文美子] 春学期授業/Spring	1206

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0522】英語3 [北 文美子] 秋学期授業/Fall	1207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0523】英語1 [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	1208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0524】英語3 [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	1209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0531】英語2 [RICHARD SHEEHAN] 春学期授業/Spring	1210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0532】英語4 [RICHARD SHEEHAN] 秋学期授業/Fall	1211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0533】英語2 [ジェイソン ポール スミス] 春学期授業/Spring	1212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0534】英語4 [ジェイソン ポール スミス] 秋学期授業/Fall	1213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0535】英語2 [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	1214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0536】英語4 [ジョナサン・エイブル] 秋学期授業/Fall	1215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0537】英語2 [栩木 玲子] 春学期授業/Spring	1216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0538】英語4 [栩木 玲子] 秋学期授業/Fall	1217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0539】英語2 [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	1218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0540】英語4 [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	1220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0541】英語2 [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	1221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0542】英語4 [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	1222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0543】英語2 [RICHARD SHEEHAN] 春学期授業/Spring	1223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0544】英語4 [RICHARD SHEEHAN] 秋学期授業/Fall	1224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0545】英語2 [ジェイソン ポール スミス] 春学期授業/Spring	1225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0546】英語4 [ジェイソン ポール スミス] 秋学期授業/Fall	1226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0547】英語2 [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	1227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0548】英語4 [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	1229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0549】英語2 [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	1230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0550】英語4 [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	1231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0551】英語2 [佐藤 陽子] 春学期授業/Spring	1232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0552】英語4 [佐藤 陽子] 秋学期授業/Fall	1234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0553】英語2 [栩木 玲子] 春学期授業/Spring	1235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0554】英語4 [栩木 玲子] 秋学期授業/Fall	1236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0561】英語5 [TOBY TRAUB] 春学期授業/Spring	1237

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0562】英語6 [TOBY TRAUB] 秋学期授業/Fall	1239
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0563】英語5 [ラスカイル L. ハウザー] 春学期授業/Spring.....	1241
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0564】英語6 [ラスカイル L. ハウザー] 秋学期授業/Fall	1242
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0565】英語5 [KANG CHIA-WEI] 春学期授業/Spring	1243
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0566】英語6 [KANG CHIA-WEI] 秋学期授業/Fall	1245
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0567】英語5 [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	1246
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0568】英語6 [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	1247
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0569】英語5 [MARK E FIELD] 春学期授業/Spring	1248
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0570】英語6 [MARK E FIELD] 秋学期授業/Fall	1249
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0571】英語5 [ラスカイル L. ハウザー] 春学期授業/Spring.....	1250
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0572】英語6 [ラスカイル L. ハウザー] 秋学期授業/Fall	1251
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0573】英語5 [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	1252
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0574】英語6 [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	1253
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0601】English 1-I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring.....	1254
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0602】English 1-II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1256
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0603】English 1-I [小泉 和弘] 春学期授業/Spring	1257
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0604】English 1-II [小泉 和弘] 秋学期授業/Fall	1258
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0605】English 1-I [吉江 秀和] 春学期授業/Spring	1259
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0606】English 1-II [吉江 秀和] 秋学期授業/Fall	1260
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0607】English 1-I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	1261
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0608】English 1-II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	1262
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0609】English 1-I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	1263
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0610】English 1-II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	1264
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0611】English 1-I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	1265
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0612】English 1-II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	1266
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0613】English 1-I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring.....	1267
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0614】English 1-II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1268
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0615】English 1-I [小泉 和弘] 春学期授業/Spring	1269

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0616】 English 1-II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall	1270
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0617】 English 1-I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring	1271
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0618】 English 1-II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall	1272
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0619】 English 1-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring	1273
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0620】 English 1-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall	1275
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0621】 English 1-I [根本 怜奈] 春 学期授業/Spring	1276
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0622】 English 1-II [根本 怜奈] 秋 学期授業/Fall	1277
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0623】 English 1-I [舟橋 美香] 春 学期授業/Spring	1278
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0624】 English 1-II [舟橋 美香] 秋 学期授業/Fall	1279
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0625】 English 1-I [青山 恵子] 春 学期授業/Spring	1280
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0626】 English 1-II [青山 恵子] 秋 学期授業/Fall	1281
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0627】 English 1-I [青山 恵子] 春 学期授業/Spring	1282
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0628】 English 1-II [青山 恵子] 秋 学期授業/Fall	1283
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0631】 English 2-I [小堀 洋] 春 学期授業/Spring	1284
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0632】 English 2-II [小堀 洋] 秋 学期授業/Fall	1285
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0633】 English 2-I [森永 豊] 春 学期授業/Spring	1287
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0634】 English 2-II [森永 豊] 秋 学期授業/Fall	1288
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0635】 English 2-I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring	1290
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0636】 English 2-II [大曲 陽子] 秋 学期授業/Fall	1291
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0637】 English 2-I [吉川 直澄] 春 学期授業/Spring	1293
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0638】 English 2-II [吉川 直澄] 秋 学期授業/Fall	1294
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0639】 English 2-I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	1295
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0640】 English 2-II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	1296
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0641】 English 2-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring	1297
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0642】 English 2-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall	1298
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0643】 English 2-I [小堀 洋] 春 学期授業/Spring	1300
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0644】 English 2-II [小堀 洋] 秋 学期授業/Fall	1301
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語 【R0645】 English 2-I [森永 豊] 春 学期授業/Spring	1303

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0646】 English 2-II [森永 豊] 秋 学期授業/Fall	1304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0647】 English 2-I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring	1306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0648】 English 2-II [大曲 陽子] 秋 学期授業/Fall	1307
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0649】 English 2-I [吉川 直澄] 春 学期授業/Spring	1309
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0650】 English 2-II [吉川 直澄] 秋 学期授業/Fall	1310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0651】 English 2-I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	1311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0652】 English 2-II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	1312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0653】 English 2-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring	1313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0654】 English 2-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall	1314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0655】 English 2-I [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	1316
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0656】 English 2-II [ESTHER STOCKWELL] 秋学期授業/Fall	1317
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0657】 English 2-I [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	1318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0658】 English 2-II [ESTHER STOCKWELL] 秋学期授業/Fall	1319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0701】 英語 1 - I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring	1320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0702】 英語 1 - II [大曲 陽子] 秋学 期授業/Fall	1321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0703】 英語 1 - I [西野 方子] 春 学期授業/Spring	1323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0704】 英語 1 - II [西野 方子] 秋学 期授業/Fall	1324
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0705】 英語 1 - I [川野 芽生] 春 学期授業/Spring	1325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0706】 英語 1 - II [川野 芽生] 秋学 期授業/Fall	1326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0707】 英語 1 - I [溝部 敦子] 春 学期授業/Spring	1327
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0708】 英語 1 - II [溝部 敦子] 秋学 期授業/Fall	1329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0709】 英語 1 - I [光野 昭雄] 春 学期授業/Spring	1330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0710】 英語 1 - II [光野 昭雄] 秋学 期授業/Fall	1331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0711】 英語 1 - I [鈴木 博雄] 春 学期授業/Spring	1331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0712】 英語 1 - II [鈴木 博雄] 秋学 期授業/Fall	1332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0713】 英語 1 - I [馬上 紗矢香] 春学期授業/Spring	1333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0714】 英語 1 - II [馬上 紗矢香] 秋 学期授業/Fall	1334
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0715】 英語 1 - I [亀岡 浩一] 春 学期授業/Spring	1336

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0716】英語1 - II [亀岡 浩一] 秋学期授業/Fall	1337
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0717】英語1 - I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1338
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0718】英語1 - II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1338
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0719】英語1 - I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	1339
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0720】英語1 - II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	1340
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0721】英語1 - I [宮本 和恵] 春学期授業/Spring	1341
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0722】英語1 - II [宮本 和恵] 秋学期授業/Fall	1341
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0723】英語1 - I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1342
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0724】英語1 - II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1343
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0725】英語1 - I [小堀 洋] 春学期授業/Spring	1344
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0726】英語1 - II [小堀 洋] 秋学期授業/Fall	1345
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0731】英語2 - I [馬上 紗矢香] 春学期授業/Spring	1346
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0732】英語2 - II [馬上 紗矢香] 秋学期授業/Fall	1347
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0733】英語2 - I [亀岡 浩一] 春学期授業/Spring	1349
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0734】英語2 - II [亀岡 浩一] 秋学期授業/Fall	1350
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0735】英語2 - I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1351
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0736】英語2 - II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1352
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0737】英語2 - I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	1353
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0738】英語2 - II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	1354
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0739】英語2 - I [宮本 和恵] 春学期授業/Spring	1355
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0740】英語2 - II [宮本 和恵] 秋学期授業/Fall	1356
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0741】英語2 - I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1357
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0742】英語2 - II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1358
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0743】英語2 - I [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	1359
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0744】英語2 - II [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	1360
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0745】英語2 - I [西野 方子] 春学期授業/Spring	1362
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0746】英語2 - II [西野 方子] 秋学期授業/Fall	1363
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0747】英語2 - I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	1364

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0748】英語2-II [大和久 梯一郎] 秋学期授業/Fall	1365
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0749】英語2-I [溝部 敦子] 春学期授業/Spring	1366
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0750】英語2-II [溝部 敦子] 秋学期授業/Fall	1367
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0751】英語2-I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1368
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0752】英語2-II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1369
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0753】英語2-I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	1370
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0754】英語2-II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	1371
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0755】英語2-I [川野 芽生] 春学期授業/Spring	1372
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0756】英語2-II [川野 芽生] 秋学期授業/Fall	1373
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0951】Academic English R&W I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1374
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0952】Academic English L&S I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1376
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0953】Academic English R&W II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1377
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0954】Academic English L&S II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1379
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0955】Academic English R&W I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1380
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0956】Academic English L&S I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1381
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0957】Academic English R&W II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1382
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0958】Academic English L&S II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1383
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0959】Academic English R&W I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	1384
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0960】Academic English L&S I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	1385
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0961】Academic English R&W II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	1386
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0962】Academic English L&S II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	1387
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0963】Academic English R&W I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1388
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0964】Academic English L&S I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1390
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0965】Academic English R&W II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1391
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0966】Academic English L&S II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1393
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0967】Academic English R&W I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1394
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0968】Academic English L&S I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1395
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 英語【R0969】Academic English R&W II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1396

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0970】 Academic English L&S II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1397
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0971】 Academic English R&W I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	1398
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0972】 Academic English L&S I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	1399
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0973】 Academic English R&W II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	1400
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 英語【R0974】 Academic English L&S II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	1401
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3501】 日本語1 I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	1402
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3502】 日本語1 II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	1403
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3505】 日本語1 I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	1404
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3506】 日本語1 II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	1405
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3511】 日本語2 I [中沢 佐企子] 春学期授業/Spring	1406
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3512】 日本語2 II [中沢 佐企子] 秋学期授業/Fall	1407
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3513】 日本語2 I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	1408
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3514】 日本語2 II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	1409
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3515】 日本語2 I [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	1410
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R3516】 日本語2 II [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	1411
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4001】 ドイツ語1 I [上田 知夫] 春学期授業/Spring	1412
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4002】 ドイツ語1 II [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	1413
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4003】 ドイツ語1 I [児島 由理] 春学期授業/Spring	1414
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4004】 ドイツ語1 II [児島 由理] 秋学期授業/Fall	1415
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4005】 ドイツ語1 I [高木 葉子] 春学期授業/Spring	1416
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4006】 ドイツ語1 II [高木 葉子] 秋学期授業/Fall	1417
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4007】 ドイツ語1 I [岡本 雅克] 春学期授業/Spring	1418
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4008】 ドイツ語1 II [岡本 雅克] 秋学期授業/Fall	1419
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4011】 ドイツ語1 I [渡辺 国彦] 春学期授業/Spring	1420
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4012】 ドイツ語1 II [渡辺 国彦] 秋学期授業/Fall	1421
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4017】 ドイツ語1 I [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	1422
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4018】 ドイツ語1 II [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	1423
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R4019】 ドイツ語1 I [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	1424

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4020】 ドイツ語1Ⅱ [柳橋 大輔]	
秋学期授業/Fall	1425
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4023】 ドイツ語1Ⅰ [外山 知子]	
春学期授業/Spring	1426
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4024】 ドイツ語1Ⅱ [外山 知子]	
秋学期授業/Fall	1427
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4025】 ドイツ語1Ⅰ [児島 由理]	
春学期授業/Spring	1428
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4026】 ドイツ語1Ⅱ [児島 由理]	
秋学期授業/Fall	1429
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4027】 ドイツ語1Ⅰ [外山 知子]	
春学期授業/Spring	1430
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4028】 ドイツ語1Ⅱ [外山 知子]	
秋学期授業/Fall	1431
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4029】 ドイツ語1Ⅰ [JAMBOR A DAVID] 春学期授業/Spring	1432
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4030】 ドイツ語1Ⅱ [JAMBOR A DAVID] 秋学期授業/Fall	1433
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4051】 ドイツ語2Ⅰ [遠藤 浩介]	
春学期授業/Spring	1434
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4052】 ドイツ語2Ⅱ [遠藤 浩介]	
秋学期授業/Fall	1435
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4053】 ドイツ語2Ⅰ [渡辺 国彦]	
春学期授業/Spring	1436
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4054】 ドイツ語2Ⅱ [渡辺 国彦]	
秋学期授業/Fall	1437
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4055】 ドイツ語2Ⅰ [長澤 優子]	
春学期授業/Spring	1438
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4056】 ドイツ語2Ⅱ [長澤 優子]	
秋学期授業/Fall	1439
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4057】 ドイツ語2Ⅰ [高木 葉子]	
春学期授業/Spring	1440
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4058】 ドイツ語2Ⅱ [高木 葉子]	
秋学期授業/Fall	1441
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4061】 ドイツ語2Ⅰ [JAMBOR A DAVID] 春学期授業/Spring	1442
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4062】 ドイツ語2Ⅱ [JAMBOR A DAVID] 秋学期授業/Fall	1443
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4065】 ドイツ語2Ⅰ [D. ハイデ ンライヒ] 春学期授業/Spring	1444
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4066】 ドイツ語2Ⅱ [D. ハイデ ンライヒ] 秋学期授業/Fall	1445
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4067】 ドイツ語2Ⅰ [浦田 智]	
春学期授業/Spring	1446
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4068】 ドイツ語2Ⅱ [浦田 智]	
秋学期授業/Fall	1447
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4071】 ドイツ語2Ⅰ [柳橋 大輔]	
春学期授業/Spring	1448
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4072】 ドイツ語2Ⅱ [柳橋 大輔]	
秋学期授業/Fall	1449
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4073】 ドイツ語2Ⅰ [長倉 誠一]	
春学期授業/Spring	1450
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4074】 ドイツ語2Ⅱ [長倉 誠一]	
秋学期授業/Fall	1451
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4075】 ドイツ語2Ⅰ [天沼 春樹]	
春学期授業/Spring	1452

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4076】 ドイツ語 2 II [天沼 春樹] 秋学期授業/Fall	1453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4077】 ドイツ語 2 I [小野間 亮 子] 春学期授業/Spring	1454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4078】 ドイツ語 2 II [小野間 亮 子] 秋学期授業/Fall	1455
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4101】 ドイツ語(1) I [天沼 春 樹] 春学期授業/Spring	1456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4102】 ドイツ語(1) II [天沼 春 樹] 秋学期授業/Fall	1457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4111】 ドイツ語(2) I [平松 英 人] 春学期授業/Spring	1458
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4112】 ドイツ語(2) II [平松 英 人] 秋学期授業/Fall	1459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4121】 ドイツ語 1 [林 志津江] 春学期授業/Spring	1460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4122】 ドイツ語 3 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	1462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4123】 ドイツ語 2 [遠藤 浩介] 春学期授業/Spring	1463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4124】 ドイツ語 4 [遠藤 浩介] 秋学期授業/Fall	1464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4125】 ドイツ語 5 [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	1465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4126】 ドイツ語 6 [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	1466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4127】 ドイツ語 1 [丸山 達也] 春学期授業/Spring	1467
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4128】 ドイツ語 3 [丸山 達也] 秋学期授業/Fall	1468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4129】 ドイツ語 2 [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	1469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4130】 ドイツ語 4 [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	1470
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4141】 ドイツ語 1-I [畠山 勝 彦] 春学期授業/Spring	1471
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4142】 ドイツ語 1-II [畠山 勝 彦] 秋学期授業/Fall	1472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4143】 ドイツ語 1-I [辻 英史] 春学期授業/Spring	1473
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4144】 ドイツ語 1-II [辻 英史] 秋学期授業/Fall	1474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4145】 ドイツ語 1-I [畠山 勝 彦] 春学期授業/Spring	1475
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4146】 ドイツ語 1-II [畠山 勝 彦] 秋学期授業/Fall	1476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4147】 ドイツ語 1-I [丸山 達 也] 春学期授業/Spring	1477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4148】 ドイツ語 1-II [丸山 達 也] 秋学期授業/Fall	1478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4151】 ドイツ語 2-I [長澤 優 子] 春学期授業/Spring	1479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4152】 ドイツ語 2-II [長澤 優 子] 秋学期授業/Fall	1480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4153】 ドイツ語 2-I [伊東 直 美] 春学期授業/Spring	1481

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4154】 ドイツ語2-II [伊東 直美] 秋学期授業/Fall	1482
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4155】 ドイツ語2-I [三ツ石 祐子] 春学期授業/Spring	1483
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4156】 ドイツ語2-II [三ツ石 祐子] 秋学期授業/Fall	1484
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4157】 ドイツ語2-I [岡本 雅克] 春学期授業/Spring	1485
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R4158】 ドイツ語2-II [岡本 雅克] 秋学期授業/Fall	1486
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5001】 フランス語1 I [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1487
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5002】 フランス語1 II [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1488
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5003】 フランス語1 I [小幡 一雄] 春学期授業/Spring	1489
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5004】 フランス語1 II [小幡 一雄] 秋学期授業/Fall	1490
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5005】 フランス語1 I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1491
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5006】 フランス語1 II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1492
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5007】 フランス語1 I [佐藤 正和] 春学期授業/Spring	1493
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5008】 フランス語1 II [佐藤 正和] 秋学期授業/Fall	1494
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5009】 フランス語1 I [寺家村 博] 春学期授業/Spring	1495
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5010】 フランス語1 II [寺家村 博] 秋学期授業/Fall	1496
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5011】 フランス語1 I [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	1497
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5012】 フランス語1 II [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	1498
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5013】 フランス語1 I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1499
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5014】 フランス語1 II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1500
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5015】 フランス語1 I [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1501
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5016】 フランス語1 II [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1502
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5019】 フランス語1 I [小幡 一雄] 春学期授業/Spring	1503
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5020】 フランス語1 II [小幡 一雄] 秋学期授業/Fall	1504
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5021】 フランス語1 I [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	1505
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5022】 フランス語1 II [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	1506
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5043】 フランス語2 I [コリンヌ ヴァリエンス] 春学期授業/Spring	1507
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5044】 フランス語2 II [コリンヌ ヴァリエンス] 秋学期授業/Fall	1508
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5045】 フランス語2 I [杉村 裕史] 春学期授業/Spring	1509

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5046】 フランス語2Ⅱ [杉村 裕史] 秋学期授業/Fall	1510
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5047】 フランス語2Ⅰ [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1511
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5048】 フランス語2Ⅱ [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1512
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5049】 フランス語2Ⅰ [コリンヌ ヴァリエンス] 春学期授業/Spring	1513
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5050】 フランス語2Ⅱ [コリンヌ ヴァリエンス] 秋学期授業/Fall	1514
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5051】 フランス語2Ⅰ [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	1515
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5052】 フランス語2Ⅱ [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	1516
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5053】 フランス語2Ⅰ [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	1517
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5054】 フランス語2Ⅱ [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	1518
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5055】 フランス語2Ⅰ [JULIEN AGAESSE] 春学期授業/Spring	1519
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5056】 フランス語2Ⅱ [JULIEN AGAESSE] 秋学期授業/Fall	1520
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5059】 フランス語2Ⅰ [寺家村 博] 春学期授業/Spring	1521
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5060】 フランス語2Ⅱ [寺家村 博] 秋学期授業/Fall	1522
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5061】 フランス語2Ⅰ [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	1523
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5062】 フランス語2Ⅱ [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	1524
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5081】 フランス語(1)Ⅰ [佐藤 正和] 春学期授業/Spring	1525
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5082】 フランス語(1)Ⅱ [佐藤 正和] 秋学期授業/Fall	1526
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5083】 フランス語(2)Ⅰ [村松 マリ=エマニュエル] 春学期授業/Spring	1527
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5084】 フランス語(2)Ⅱ [村松 マリ=エマニュエル] 秋学期授業/Fall	1528
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5091】 フランス語1 [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	1529
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5092】 フランス語3 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	1530
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5093】 フランス語2 [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	1531
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5094】 フランス語4 [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	1532
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5095】 フランス語5 [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	1533
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5096】 フランス語6 [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	1534
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5097】 フランス語1 [西川 純子] 春学期授業/Spring	1535
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5098】 フランス語3 [西川 純子] 秋学期授業/Fall	1536
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5099】 フランス語2 [コリンヌ ヴァリエンス] 春学期授業/Spring	1537

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5100】 フランス語4 [コリンヌ ヴァリエンス] 秋学期授業/Fall	1538
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5101】 フランス語1 [中村 美緒] 春学期授業/Spring	1539
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5102】 フランス語3 [中村 美緒] 秋学期授業/Fall	1540
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5103】 フランス語2 [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	1541
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5104】 フランス語4 [カレンス フィリップ] 秋学期授業/Fall	1542
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5111】 フランス語1-I [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	1543
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5112】 フランス語1-II [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	1544
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5113】 フランス語1-I [竹本 研史] 春学期授業/Spring	1544
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5114】 フランス語1-II [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	1545
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5115】 フランス語1-I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1546
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5116】 フランス語1-II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1547
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5117】 フランス語1-I [瀬戸 和子] 春学期授業/Spring	1548
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5118】 フランス語1-II [瀬戸 和子] 秋学期授業/Fall	1549
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5121】 フランス語2-I [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	1550
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5122】 フランス語2-II [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	1551
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5123】 フランス語2-I [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	1552
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5124】 フランス語2-II [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	1553
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5125】 フランス語2-I [杉村 裕史] 春学期授業/Spring	1554
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5126】 フランス語2-II [杉村 裕史] 秋学期授業/Fall	1555
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5127】 フランス語2-I [杉村 裕史] 春学期授業/Spring	1556
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R5128】 フランス語2-II [杉村 裕史] 秋学期授業/Fall	1557
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6001】 ロシア語1 I [油本 真理] 春学期授業/Spring	1558
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6002】 ロシア語1 II [油本 真理] 秋学期授業/Fall	1559
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6003】 ロシア語1 I [木部 敬] 春学期授業/Spring	1560
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6004】 ロシア語1 II [木部 敬] 秋学期授業/Fall	1561
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6005】 ロシア語1 I [小西 昌隆] 春学期授業/Spring	1562
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6006】 ロシア語1 II [小西 昌隆] 秋学期授業/Fall	1563
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6011】 ロシア語2 I [上野 理恵] 春学期授業/Spring	1564

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6012】 ロシア語2Ⅱ [上野 理恵]	
秋学期授業/Fall	1565
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6013】 ロシア語2Ⅰ [小西 昌隆]	
春学期授業/Spring	1566
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6014】 ロシア語2Ⅱ [小西 昌隆]	
秋学期授業/Fall	1567
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6015】 ロシア語2Ⅰ [上野 理恵]	
春学期授業/Spring	1568
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6016】 ロシア語2Ⅱ [上野 理恵]	
秋学期授業/Fall	1569
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6031】 ロシア語1 [エレナ 三神]	
春学期授業/Spring	1570
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6032】 ロシア語3 [佐藤 千登勢]	
秋学期授業/Fall	1571
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6033】 ロシア語2 [佐藤 千登勢]	
春学期授業/Spring	1572
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6034】 ロシア語4 [佐藤 千登勢]	
秋学期授業/Fall	1573
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6035】 ロシア語5 [上野 理恵]	
春学期授業/Spring	1574
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6036】 ロシア語6 [上野 理恵]	
秋学期授業/Fall	1575
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6041】 ロシア語1-I [佐藤 裕子]	
春学期授業/Spring	1576
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6042】 ロシア語1-II [佐藤 裕子]	
秋学期授業/Fall	1577
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6043】 ロシア語1-I [木部 敬]	
春学期授業/Spring	1578
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6044】 ロシア語1-II [木部 敬]	
秋学期授業/Fall	1579
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6051】 ロシア語2-I [佐藤 裕子]	
春学期授業/Spring	1580
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6052】 ロシア語2-II [佐藤 裕子]	
秋学期授業/Fall	1581
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6053】 ロシア語2-I [小西 昌隆]	
春学期授業/Spring	1582
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R6054】 ロシア語2-II [小西 昌隆]	
秋学期授業/Fall	1583
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7001】 中国語1Ⅰ [渡部 れい子]	
春学期授業/Spring	1584
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7002】 中国語1Ⅱ [渡部 れい子]	
秋学期授業/Fall	1585
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7003】 中国語1Ⅰ [福木 滋久]	
春学期授業/Spring	1586
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7004】 中国語1Ⅱ [福木 滋久]	
秋学期授業/Fall	1587
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7005】 中国語1Ⅰ [池田 麻希子]	
春学期授業/Spring	1588
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7006】 中国語1Ⅱ [池田 麻希子]	
秋学期授業/Fall	1589
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7007】 中国語1Ⅰ [野村 英登]	
春学期授業/Spring	1590
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7008】 中国語1Ⅱ [野村 英登]	
秋学期授業/Fall	1591
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7009】 中国語1Ⅰ [鷺巣 益美]	
春学期授業/Spring	1592

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7010】 中国語 1 II [鷺巢 益美] 秋学期授業/Fall	1593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7011】 中国語 1 I [赤平 恵里] 春学期授業/Spring	1594
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7012】 中国語 1 II [赤平 恵里] 秋学期授業/Fall	1595
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7013】 中国語 1 I [池田 麻希子] 春学期授業/Spring	1596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7014】 中国語 1 II [池田 麻希子] 秋学期授業/Fall	1597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7015】 中国語 1 I [柴崎 公美子] 春学期授業/Spring	1598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7016】 中国語 1 II [柴崎 公美子] 秋学期授業/Fall	1599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7017】 中国語 1 I [大江 千晶] 春学期授業/Spring	1600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7018】 中国語 1 II [大江 千晶] 秋学期授業/Fall	1601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7019】 中国語 1 I [青木 正子] 春学期授業/Spring	1602
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7020】 中国語 1 II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	1603
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7021】 中国語 1 I [岩田 和子] 春学期授業/Spring	1604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7022】 中国語 1 II [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	1605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7023】 中国語 1 I [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring	1606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7024】 中国語 1 II [篠田 幸夫] 秋学期授業/Fall	1607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7025】 中国語 1 I [大野 広之] 春学期授業/Spring	1608
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7026】 中国語 1 II [大野 広之] 秋学期授業/Fall	1609
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7027】 中国語 1 I [渡部 れい子] 春学期授業/Spring	1610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7028】 中国語 1 II [渡部 れい子] 秋学期授業/Fall	1611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7029】 中国語 1 I [大野 広之] 春学期授業/Spring	1612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7030】 中国語 1 II [大野 広之] 秋学期授業/Fall	1613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7031】 中国語 1 I [赤平 恵里] 春学期授業/Spring	1614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7032】 中国語 1 II [赤平 恵里] 秋学期授業/Fall	1615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7033】 中国語 1 I [柴崎 公美子] 春学期授業/Spring	1616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7034】 中国語 1 II [柴崎 公美子] 秋学期授業/Fall	1617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7035】 中国語 1 I [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring	1618
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7036】 中国語 1 II [篠田 幸夫] 秋学期授業/Fall	1619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7037】 中国語 1 I [青木 正子] 春学期授業/Spring	1620

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7038】 中国語 1 II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	1621
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7039】 中国語 1 I [野村 英登] 春学期授業/Spring	1622
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7040】 中国語 1 II [野村 英登] 秋学期授業/Fall	1623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7041】 中国語 1 I [柴崎 公美子] 春学期授業/Spring	1624
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7042】 中国語 1 II [柴崎 公美子] 秋学期授業/Fall	1625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7043】 中国語 1 I [福木 滋久] 春学期授業/Spring	1626
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7044】 中国語 1 II [福木 滋久] 秋学期授業/Fall	1627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7045】 中国語 1 I [大江 千晶] 春学期授業/Spring	1628
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7046】 中国語 1 II [大江 千晶] 秋学期授業/Fall	1629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7047】 中国語 1 I [青木 正子] 春学期授業/Spring	1630
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7048】 中国語 1 II [青木 正子] 秋学期授業/Fall	1631
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7049】 中国語 1 I [鷺巣 益美] 春学期授業/Spring	1632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7050】 中国語 1 II [鷺巣 益美] 秋学期授業/Fall	1633
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7051】 中国語 1 I [渋井 君也] 春学期授業/Spring	1634
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7052】 中国語 1 II [渋井 君也] 秋学期授業/Fall	1635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7053】 中国語 1 I [木村 佳代子] 春学期授業/Spring	1636
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7054】 中国語 1 II [木村 佳代子] 秋学期授業/Fall	1637
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7055】 中国語 1 I [渋井 君也] 春学期授業/Spring	1638
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7056】 中国語 1 II [渋井 君也] 秋学期授業/Fall	1639
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7071】 中国語 2 I [孫 琦] 春学 期授業/Spring	1640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7072】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学 期授業/Fall	1641
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7073】 中国語 2 I [齊 霞] 春学 期授業/Spring	1642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7074】 中国語 2 II [齊 霞] 秋学 期授業/Fall	1643
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7075】 中国語 2 I [祝 振媛] 春 学期授業/Spring	1644
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7076】 中国語 2 II [祝 振媛] 秋 学期授業/Fall	1645
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7077】 中国語 2 I [薬 会] 春学 期授業/Spring	1646
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7078】 中国語 2 II [薬 会] 秋学 期授業/Fall	1647
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7079】 中国語 2 I [齊 霞] 春学 期授業/Spring	1648

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7080】 中国語 2 II [齊 霞] 秋学期授業/Fall	1649
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7081】 中国語 2 I [齊 霞] 春学期授業/Spring	1650
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7082】 中国語 2 II [齊 霞] 秋学期授業/Fall	1651
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7083】 中国語 2 I [黄 海萍] 春学期授業/Spring	1652
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7084】 中国語 2 II [黄 海萍] 秋学期授業/Fall	1653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7085】 中国語 2 I [王 安] 春学期授業/Spring	1654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7086】 中国語 2 II [王 安] 秋学期授業/Fall	1655
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7087】 中国語 2 I [任 麗潔] 春学期授業/Spring	1656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7088】 中国語 2 II [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	1657
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7089】 中国語 2 I [薄 宏] 春学期授業/Spring	1658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7090】 中国語 2 II [薄 宏] 秋学期授業/Fall	1659
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7091】 中国語 2 I [ショウ イク テイ] 春学期授業/Spring	1660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7092】 中国語 2 II [ショウ イク テイ] 秋学期授業/Fall	1661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7093】 中国語 2 I [余 瀾] 春学期授業/Spring	1662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7094】 中国語 2 II [余 瀾] 秋学期授業/Fall	1663
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7095】 中国語 2 I [劉 光赤] 春学期授業/Spring	1664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7096】 中国語 2 II [劉 光赤] 秋学期授業/Fall	1665
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7097】 中国語 2 I [孫 琦] 春学期授業/Spring	1666
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7098】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学期授業/Fall	1667
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7099】 中国語 2 I [祝 振媛] 春学期授業/Spring	1668
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7100】 中国語 2 II [祝 振媛] 秋学期授業/Fall	1669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7101】 中国語 2 I [葉 会] 春学期授業/Spring	1670
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7102】 中国語 2 II [葉 会] 秋学期授業/Fall	1671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7103】 中国語 2 I [孫 琦] 春学期授業/Spring	1672
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7104】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学期授業/Fall	1673
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7105】 中国語 2 I [劉 光赤] 春学期授業/Spring	1674
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7106】 中国語 2 II [劉 光赤] 秋学期授業/Fall	1675
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7107】 中国語 2 I [葉 進] 春学期授業/Spring	1676

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7108】 中国語 2 II [葉 進] 秋学期授業/Fall	1677
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7109】 中国語 2 I [柯 明] 春学期授業/Spring	1678
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7110】 中国語 2 II [柯 明] 秋学期授業/Fall	1679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7111】 中国語 2 I [耿 函] 春学期授業/Spring	1680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7112】 中国語 2 II [耿 函] 秋学期授業/Fall	1681
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7113】 中国語 2 I [周 重雷] 春学期授業/Spring	1682
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7114】 中国語 2 II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	1683
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7115】 中国語 2 I [ショウ イク テイ] 春学期授業/Spring	1684
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7116】 中国語 2 II [ショウ イク テイ] 秋学期授業/Fall	1685
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7117】 中国語 2 I [葉 会] 春学期授業/Spring	1686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7118】 中国語 2 II [葉 会] 秋学期授業/Fall	1687
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7119】 中国語 2 I [薄 宏] 春学期授業/Spring	1688
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7120】 中国語 2 II [薄 宏] 秋学期授業/Fall	1689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7121】 中国語 2 I [柯 明] 春学期授業/Spring	1690
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7122】 中国語 2 II [柯 明] 秋学期授業/Fall	1691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7123】 中国語 2 I [任 麗潔] 春学期授業/Spring	1692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7124】 中国語 2 II [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	1693
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7125】 中国語 2 I [任 麗潔] 春学期授業/Spring	1694
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7126】 中国語 2 II [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	1695
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7141】 中国語 (1) I [鷺巢 益美] 春学期授業/Spring	1696
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7142】 中国語 (1) II [鷺巢 益美] 秋学期授業/Fall	1697
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7143】 中国語 (1) I [岩田 和子] 春学期授業/Spring	1698
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7144】 中国語 (1) II [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	1699
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7151】 中国語 (2) I [康 鴻音] 春学期授業/Spring	1700
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7152】 中国語 (2) II [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	1701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7153】 中国語 (2) I [周 重雷] 春学期授業/Spring	1702
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7154】 中国語 (2) II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	1703
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7161】 中国語 1 [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	1704

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7162】 中国語3 [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	1706
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7163】 中国語2 [ショウ イクテイ] 春学期授業/Spring	1707
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7164】 中国語4 [ショウ イクテイ] 秋学期授業/Fall	1708
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7165】 中国語5 [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	1709
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7166】 中国語6 [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	1710
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7167】 中国語1 [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	1711
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7168】 中国語3 [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	1712
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7169】 中国語2 [薬 会] 春学期授業/Spring	1713
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7170】 中国語4 [薬 会] 秋学期授業/Fall	1714
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7171】 中国語1 [曾 士才] 春学期授業/Spring	1715
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7172】 中国語2 [祝 振媛] 春学期授業/Spring	1716
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7173】 中国語3 [曾 士才] 秋学期授業/Fall	1717
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7174】 中国語4 [祝 振媛] 秋学期授業/Fall	1718
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7181】 中国語1-I [永江 貴子] 春学期授業/Spring	1719
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7182】 中国語1-II [永江 貴子] 秋学期授業/Fall	1720
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7183】 中国語1-I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1721
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7184】 中国語1-II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1722
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7185】 中国語1-I [永江 貴子] 春学期授業/Spring	1723
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7186】 中国語1-II [永江 貴子] 秋学期授業/Fall	1724
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7187】 中国語1-I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1725
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7188】 中国語1-II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1726
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7189】 中国語1-I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1727
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7190】 中国語1-II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1728
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7191】 中国語1-I [劉 湯水] 春学期授業/Spring	1729
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7192】 中国語1-II [劉 湯水] 秋学期授業/Fall	1730
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7193】 中国語1-I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1731
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7194】 中国語1-II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1732
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R7195】 中国語1-I [劉 湯水] 春学期授業/Spring	1733

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7196】 中国語 1-II [劉 湯水] 秋 学期授業/Fall	1734
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7211】 中国語 2-I [賀 蘭] 春学 期授業/Spring	1735
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7212】 中国語 2-II [賀 蘭] 秋学 期授業/Fall	1736
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7213】 中国語 2-I [日原 傳] 春 学期授業/Spring	1737
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7214】 中国語 2-II [日原 傳] 秋 学期授業/Fall	1738
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7215】 中国語 2-I [賀 蘭] 春学 期授業/Spring	1739
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7216】 中国語 2-II [賀 蘭] 秋学 期授業/Fall	1740
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7217】 中国語 2-I [日原 傳] 春 学期授業/Spring	1741
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7218】 中国語 2-II [日原 傳] 秋 学期授業/Fall	1742
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7219】 中国語 2-I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring	1743
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7220】 中国語 2-II [後藤 淳一] 秋学期授業/Fall	1744
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7221】 中国語 2-I [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring	1745
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7222】 中国語 2-II [篠田 幸夫] 秋学期授業/Fall	1746
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7223】 中国語 2-I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring	1747
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7224】 中国語 2-II [後藤 淳一] 秋学期授業/Fall	1748
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7225】 中国語 2-I [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring	1749
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7226】 中国語 2-II [篠田 幸夫] 秋学期授業/Fall	1750
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7251】 中国語補講 1 I [池田 麻 希子] 春学期授業/Spring	1751
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7252】 中国語補講 1 II [池田 麻 希子] 秋学期授業/Fall	1752
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7255】 中国語補講 1 I [沈 小南] 春学期授業/Spring	1753
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7256】 中国語補講 1 II [沈 小南] 秋学期授業/Fall	1754
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7257】 中国語補講 1 I [後藤 淳 一] 春学期授業/Spring	1754
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7258】 中国語補講 1 II [後藤 淳 一] 秋学期授業/Fall	1755
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7259】 中国語補講 2 I [沈 小南] 春学期授業/Spring	1756
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7260】 中国語補講 2 II [沈 小南] 秋学期授業/Fall	1757
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7261】 中国語補講 2 I [余 瀾] 春学期授業/Spring	1757
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7262】 中国語補講 2 II [余 瀾] 秋学期授業/Fall	1758
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7263】 中国語補講 2 I [劉 光赤] 春学期授業/Spring	1759

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7264】 中国語補講 2 II [劉 光赤] 秋学期授業/Fall	1760
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8001】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1761
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8002】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1762
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8003】 スペイン語 1 I [敦賀 公 子] 春学期授業/Spring	1763
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8004】 スペイン語 1 II [敦賀 公 子] 秋学期授業/Fall	1764
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8007】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1765
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8008】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1766
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8009】 スペイン語 1 I [宮田 絵 津子] 春学期授業/Spring	1767
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8010】 スペイン語 1 II [宮田 絵 津子] 秋学期授業/Fall	1768
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8011】 スペイン語 1 I [宮田 絵 津子] 春学期授業/Spring	1769
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8012】 スペイン語 1 II [宮田 絵 津子] 秋学期授業/Fall	1770
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8013】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1771
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8014】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1772
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8015】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1773
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8016】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1774
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8017】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1775
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8018】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1776
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8019】 スペイン語 1 I [岡本 年 正] 春学期授業/Spring	1777
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8020】 スペイン語 1 II [岡本 年 正] 秋学期授業/Fall	1778
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8021】 スペイン語 1 I [宮田 絵 津子] 春学期授業/Spring	1779
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8022】 スペイン語 1 II [宮田 絵 津子] 秋学期授業/Fall	1780
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8023】 スペイン語 1 I [若林 大 我] 春学期授業/Spring	1781
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8024】 スペイン語 1 II [若林 大 我] 秋学期授業/Fall	1783
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8025】 スペイン語 1 I [宮田 絵 津子] 春学期授業/Spring	1784
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8026】 スペイン語 1 II [宮田 絵 津子] 秋学期授業/Fall	1785
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8027】 スペイン語 1 I [宮田 絵 津子] 春学期授業/Spring	1786
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8028】 スペイン語 1 II [宮田 絵 津子] 秋学期授業/Fall	1787
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8031】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1788

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8032】スペイン語1Ⅱ [長谷川悦夫] 秋学期授業/Fall	1789
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8061】スペイン語2Ⅰ [大貫良史] 春学期授業/Spring	1790
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8062】スペイン語2Ⅱ [大貫良史] 秋学期授業/Fall	1791
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8063】スペイン語2Ⅰ [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	1792
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8064】スペイン語2Ⅱ [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	1793
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8067】スペイン語2Ⅰ [大貫良史] 春学期授業/Spring	1794
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8068】スペイン語2Ⅱ [大貫良史] 秋学期授業/Fall	1795
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8069】スペイン語2Ⅰ [大貫良史] 春学期授業/Spring	1796
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8070】スペイン語2Ⅱ [大貫良史] 秋学期授業/Fall	1797
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8071】スペイン語2Ⅰ [保崎典子] 春学期授業/Spring	1798
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8072】スペイン語2Ⅱ [保崎典子] 秋学期授業/Fall	1799
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8073】スペイン語2Ⅰ [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1800
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8074】スペイン語2Ⅱ [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1801
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8075】スペイン語2Ⅰ [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	1802
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8076】スペイン語2Ⅱ [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	1803
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8077】スペイン語2Ⅰ [保崎典子] 春学期授業/Spring	1804
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8078】スペイン語2Ⅱ [保崎典子] 秋学期授業/Fall	1805
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8079】スペイン語2Ⅰ [VILA V RAQUEL] 春学期授業/Spring	1806
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8080】スペイン語2Ⅱ [VILA V RAQUEL] 秋学期授業/Fall	1807
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8081】スペイン語2Ⅰ [大貫良史] 春学期授業/Spring	1808
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8082】スペイン語2Ⅱ [大貫良史] 秋学期授業/Fall	1809
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8083】スペイン語2Ⅰ [保崎典子] 春学期授業/Spring	1810
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8084】スペイン語2Ⅱ [保崎典子] 秋学期授業/Fall	1811
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8085】スペイン語2Ⅰ [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1812
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8086】スペイン語2Ⅱ [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1813
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8087】スペイン語2Ⅰ [保崎典子] 春学期授業/Spring	1814
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8088】スペイン語2Ⅱ [保崎典子] 秋学期授業/Fall	1815
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8091】スペイン語2Ⅰ [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1816

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8092】スペイン語2Ⅱ [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1817
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8121】スペイン語(1)Ⅰ [大貫良史] 春学期授業/Spring	1818
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8122】スペイン語(1)Ⅱ [大貫良史] 秋学期授業/Fall	1819
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8123】スペイン語(1)Ⅰ [大貫良史] 春学期授業/Spring	1820
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8124】スペイン語(1)Ⅱ [大貫良史] 秋学期授業/Fall	1821
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8131】スペイン語(2)Ⅰ [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1822
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8132】スペイン語(2)Ⅱ [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1823
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8133】スペイン語(2)Ⅰ [仮屋浩子] 春学期授業/Spring	1824
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8134】スペイン語(2)Ⅱ [仮屋浩子] 秋学期授業/Fall	1825
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8141】スペイン語1 [大西 亮] 春学期授業/Spring	1826
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8142】スペイン語3 [大西 亮] 秋学期授業/Fall	1827
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8143】スペイン語2 [若林 大我] 春学期授業/Spring	1828
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8144】スペイン語4 [若林 大我] 秋学期授業/Fall	1829
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8145】スペイン語5 [久木 正雄] 春学期授業/Spring	1830
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8146】スペイン語6 [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	1831
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8147】スペイン語1 [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	1832
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8148】スペイン語3 [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	1833
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8149】スペイン語2 [GARCIA RUIZ] 春学期授業/Spring	1834
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8150】スペイン語4 [GARCIA RUIZ] 秋学期授業/Fall	1835
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8151】スペイン語1 [大西 亮] 春学期授業/Spring	1836
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8152】スペイン語3 [大西 亮] 秋学期授業/Fall	1837
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8153】スペイン語2 [GARCIA RUIZ] 春学期授業/Spring	1838
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8154】スペイン語4 [GARCIA RUIZ] 秋学期授業/Fall	1839
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8161】スペイン語1-I [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1840
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8162】スペイン語1-II [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1841
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8163】スペイン語1-I [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1842
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8164】スペイン語1-II [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1843
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 外国語科目_4群 [必修] 諸外国語【R8165】スペイン語1-I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1844

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8166】 スペイン語 1-II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8167】 スペイン語 1-I [GARCIA RUIZ] 春学期授業/Spring	1846
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8168】 スペイン語 1-II [GARCIA RUIZ] 秋学期授業/Fall	1847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8181】 スペイン語 2-I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1848
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8182】 スペイン語 2-II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8183】 スペイン語 2-I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8184】 スペイン語 2-II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1851
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8185】 スペイン語 2-I [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	1852
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8186】 スペイン語 2-II [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	1853
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8187】 スペイン語 2-I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1854
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8188】 スペイン語 2-II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1855
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8307】 スペイン語補講 1 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1856
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8308】 スペイン語補講 1 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1857
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8309】 スペイン語補講 1 I [岡本 年正] 春学期授業/Spring	1858
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8310】 スペイン語補講 1 II [岡本 年正] 秋学期授業/Fall	1859
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8311】 スペイン語補講 2 I [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	1860
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8312】 スペイン語補講 2 II [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	1861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8313】 スペイン語補講 2 I [長谷 川 悦夫] 春学期授業/Spring	1862
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8314】 スペイン語補講 2 II [長谷 川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1863
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9001】 朝鮮語 1 I [吉良 佳奈江、 内山 政春] 春学期授業/Spring	1864
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9002】 朝鮮語 1 II [吉良 佳奈江、 内山 政春] 秋学期授業/Fall	1865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9003】 朝鮮語 1 I [吉良 佳奈江、 内山 政春] 春学期授業/Spring	1866
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9004】 朝鮮語 1 II [吉良 佳奈江、 内山 政春] 秋学期授業/Fall	1867
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9005】 朝鮮語 1 I [富所 明秀、 内山 政春] 春学期授業/Spring	1868
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9006】 朝鮮語 1 II [富所 明秀、 内山 政春] 秋学期授業/Fall	1869
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9007】 朝鮮語 1 I [富所 明秀、 内山 政春] 春学期授業/Spring	1870
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9008】 朝鮮語 1 II [富所 明秀、 内山 政春] 秋学期授業/Fall	1871
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9009】 朝鮮語 1 I [吉良 佳奈江、 内山 政春] 春学期授業/Spring	1872

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9010】 朝鮮語1Ⅱ [吉良 佳奈江、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1873
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9011】 朝鮮語1Ⅰ [永原 歩、内山 政春] 春学期授業/Spring	1874
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9012】 朝鮮語1Ⅱ [永原 歩、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1875
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9021】 朝鮮語2Ⅰ [新谷 あゆり、内山 政春] 春学期授業/Spring	1876
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9022】 朝鮮語2Ⅱ [新谷 あゆり、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1877
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9023】 朝鮮語2Ⅰ [内山 政春] 春学期授業/Spring	1878
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9024】 朝鮮語2Ⅱ [内山 政春] 秋学期授業/Fall	1879
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9025】 朝鮮語2Ⅰ [神谷 丹路、内山 政春] 春学期授業/Spring	1880
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9026】 朝鮮語2Ⅱ [神谷 丹路、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1881
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9027】 朝鮮語2Ⅰ [新谷 あゆり、内山 政春] 春学期授業/Spring	1882
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9028】 朝鮮語2Ⅱ [新谷 あゆり、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1883
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9029】 朝鮮語2Ⅰ [富所 明秀、内山 政春] 春学期授業/Spring	1884
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9030】 朝鮮語2Ⅱ [富所 明秀、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1885
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9031】 朝鮮語2Ⅰ [富所 明秀、内山 政春] 春学期授業/Spring	1886
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9032】 朝鮮語2Ⅱ [富所 明秀、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1887
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9041】 朝鮮語(1)Ⅰ [富所 明秀、内山 政春] 春学期授業/Spring	1888
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9042】 朝鮮語(1)Ⅱ [富所 明秀、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1889
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9043】 朝鮮語(2)Ⅰ [新谷 あゆり、内山 政春] 春学期授業/Spring	1890
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9044】 朝鮮語(2)Ⅱ [新谷 あゆり、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1891
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9051】 朝鮮語1 [内山 政春] 春学期授業/Spring	1892
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9052】 朝鮮語3 [内山 政春] 秋学期授業/Fall	1893
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9053】 朝鮮語2 [梁 禮先、内山 政春] 春学期授業/Spring	1894
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9054】 朝鮮語4 [梁 禮先、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1895
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9055】 朝鮮語5 [高柳 俊男、内山 政春] 春学期授業/Spring	1896
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9056】 朝鮮語6 [高柳 俊男、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1897
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9061】 朝鮮語1-I [富所 明秀、内山 政春] 春学期授業/Spring	1898
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9062】 朝鮮語1-II [富所 明秀、内山 政春] 秋学期授業/Fall	1899
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9063】 朝鮮語1-I [吉良 佳奈江、内山 政春] 春学期授業/Spring	1900

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9064】 朝鮮語1-II [吉良 佳奈 江、内山 政春] 秋学期授業/Fall1901
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9071】 朝鮮語2-I [新谷 あゆ り、内山 政春] 春学期授業/Spring1902
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9072】 朝鮮語2-II [新谷 あゆ り、内山 政春] 秋学期授業/Fall1903
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9073】 朝鮮語2-I [神谷 丹路、 内山 政春] 春学期授業/Spring1904
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台外国語科目_4群 [必修] 諸外国語 【R9074】 朝鮮語2-II [神谷 丹路、 内山 政春] 秋学期授業/Fall1905

LANe100LA

補講英語 1・2 - I

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語長文の読みを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかりと聞き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

【到達目標】

- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンラインかどうかも含め、詳しくは Hoppii にて連絡をします。様々な状況に応じて変わりますが、当面は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業で出された課題の解説
- ・リスニング課題に取り組む
- ・次回授業の課題に関するイントロダクション

課題に関しては、オンライン授業の場合は Hoppii を通じて、対面授業の場合は（人数にもよりますが）直接、コメントをしていきます。先にも書いたように状況に応じて臨機応変に対応いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方について
2	Unit 1	Unit1 の解説とリスニング練習
3	Unit 2	Unit2 の解説とリスニング練習
4	Unit 3	Unit3 の解説とリスニング練習
5	Unit 4	Unit4 の解説とリスニング練習
6	Unit 5	Unit5 の解説とリスニング練習
7	Unit 6	Unit6 の解説とリスニング練習
8	Unit 7	Unit7 の解説とリスニング練習
9	Unit 8	Unit8 の解説とリスニング練習
10	Unit 9	Unit9 の解説とリスニング練習
11	Unit 10	Unit10 の解説とリスニング練習
12	Unit 11	Unit11 の解説とリスニング練習
13	Unit 12	Unit12 の解説とリスニング練習
14	まとめ（期末試験）	内容と範囲については授業内で説明します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが復習することは必須です。テキストのリスニングを行うことも求められます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので何かを購入する必要はありません。

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回課題を出します） 50%

期末試験 50%

4 回以上課題を出さなかった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な文法用語からしっかりと説明していきます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy.

LANe100LA

補講英語 1・2 - II

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語長文の読みを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかりと聞き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

【到達目標】

- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンラインかどうかも含め、詳しくは Hoppii にて連絡をします。様々な状況に応じて変わりますが、当面は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業で出された課題の解説
- ・リスニング課題に取り組む
- ・次回授業の課題に関するイントロダクション

課題に関しては、オンライン授業の場合は Hoppii を通じて、対面授業の場合は（人数にもよりますが）直接、コメントをしていきます。先にも書いたように状況に応じて臨機応変に対応いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方について
2	Unit 1	Unit1 の解説とリスニング練習
3	Unit 2	Unit2 の解説とリスニング練習
4	Unit 3	Unit3 の解説とリスニング練習
5	Unit 4	Unit4 の解説とリスニング練習
6	Unit 5	Unit5 の解説とリスニング練習
7	Unit 6	Unit6 の解説とリスニング練習
8	Unit 7	Unit7 の解説とリスニング練習
9	Unit 8	Unit8 の解説とリスニング練習
10	Unit 9	Unit9 の解説とリスニング練習
11	Unit 10	Unit10 の解説とリスニング練習
12	Unit 11	Unit11 の解説とリスニング練習
13	Unit 12	Unit12 の解説とリスニング練習
14	まとめ（期末試験）	内容や範囲については授業内で説明します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが復習することは必須です。テキストのリスニングを行うことも求められます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので何かを購入する必要はありません。

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）
他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や課題提出状況、予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）50%

期末試験 50%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な文法用語から丁寧に解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in ever

LANe100LA

補講英語 1・2 - I

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語長文の読みを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

【到達目標】

- ・テキスト内に出てきた単語をしっかり暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかり理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンラインかどうかも含め、詳しくは Hoppii にて連絡をします。様々な状況に応じて変わりますが、当面は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業で出された課題の解説
- ・リスニング課題に取り組む
- ・次回授業の課題に関するイントロダクション

課題に関しては、オンライン授業の場合は Hoppii を通じて、対面授業の場合は（人数にもよりますが）直接、コメントをしていきます。先にも書いたように状況に応じて臨機応変に対応いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方について
2	Unit 1	Unit1 の解説とリスニング練習
3	Unit 2	Unit2 の解説とリスニング練習
4	Unit 3	Unit3 の解説とリスニング練習
5	Unit 4	Unit4 の解説とリスニング練習
6	Unit 5	Unit5 の解説とリスニング練習
7	Unit 6	Unit6 の解説とリスニング練習
8	Unit 7	Unit7 の解説とリスニング練習
9	Unit 8	Unit8 の解説とリスニング練習
10	Unit 9	Unit9 の解説とリスニング練習
11	Unit 10	Unit10 の解説とリスニング練習
12	Unit 11	Unit11 の解説とリスニング練習
13	Unit 12	Unit12 の解説とリスニング練習
14	まとめ（期末試験）	内容と範囲については授業内で説明します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが復習することは必須です。テキストのリスニングを行うことも求められます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので何かを購入する必要はありません。

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回課題を出します）50%

期末試験 50%

4 回以上課題を出さなかった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な文法用語からしっかり説明していきます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy.

LANe100LA

補講英語 1・2 - II

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語長文の読みを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかりと聞き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。

【到達目標】

- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンラインかどうかも含め、詳しくは Hoppii にて連絡をします。様々な状況に応じて変わりますが、当面は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業で出された課題の解説
- ・リスニング課題に取り組む
- ・次回授業の課題に関するイントロダクション

課題に関しては、オンライン授業の場合は Hoppii を通じて、対面授業の場合は（人数にもよりますが）直接、コメントをしていきます。先にも書いたように状況に応じて臨機応変に対応いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方について
2	Unit 1	Unit1 の解説とリスニング練習
3	Unit 2	Unit2 の解説とリスニング練習
4	Unit 3	Unit3 の解説とリスニング練習
5	Unit 4	Unit4 の解説とリスニング練習
6	Unit 5	Unit5 の解説とリスニング練習
7	Unit 6	Unit6 の解説とリスニング練習
8	Unit 7	Unit7 の解説とリスニング練習
9	Unit 8	Unit8 の解説とリスニング練習
10	Unit 9	Unit9 の解説とリスニング練習
11	Unit 10	Unit10 の解説とリスニング練習
12	Unit 11	Unit11 の解説とリスニング練習
13	Unit 12	Unit12 の解説とリスニング練習
14	まとめ（期末試験）	内容や範囲については授業内で説明します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが復習することは必須です。テキストのリスニングを行うことも求められます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので何かを購入する必要はありません。

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）
他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や課題提出状況、予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）50%

期末試験 50%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な文法用語から丁寧に解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in ever

LANe100LA

補講英語 1・2 - I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカに旅行で出かける日本人のストーリーで、臨場感のあるリスニングと旅行を疑似体験できるリーディングの練習をして、英語力の充実を目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、各シチュエーションでのリスニングを聞き取り、テキストの英文の内容をきちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Zoom で遠隔授業します。予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業を、口頭、もしくは板書でもしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。課題を課す場合は、Hoppii に提出してもらい、返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション	Zoom でオンラインで授業を行う。詳細は、Hoppii（学修支援システム）を参照してください。テキストの説明、辞書の使い方について説明する。学生さんたちには自己紹介を日本語でもしてもらう。カメラとマイクとパソコンの用意をしておいてください。なお、スマートフォンでも Zoom は可能です。教科書はこの日までなるべく買って置いてください。
2 回目	Unit1 機内	Zoom で遠隔授業します。飛行機の機内での会話、税関申請書などのリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
3 回目	Unit 2 到着	Zoom で遠隔授業します。飛行場での会話、入国審査などの会話、空港ターミナルの標識、タキシとケイトのメールのリーディングを行う。
4 回目	Unit 3 ケイトと再会	Zoom で遠隔授業します。ケイトの家での会話のリスニング、天気予報のリーディングなどを行う。テキストの予習復習をする。
5 回目	Unit 4 自由の女神	Zoom で遠隔授業します。一人で自由の女神を観光するリスニング、自由の女神観光のチケット、説明のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。

6 回目	Unit 5 メトロポリタン美術館	Zoom で遠隔授業します。メトロポリタン美術館を観光するリスニング、フロア地図や美術館の説明のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
7 回目	Unit 6 レストラン	Zoom で遠隔授業します。レストランでの注文のリスニング、レストランのレシート、メニューのリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
8 回目	Unit 7 ミュージカル	Zoom で遠隔授業します。ミュージカルを話題にした会話のリスニング、ミュージカルのチケット、パンフレットのリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
9 回目	Unit 8 体調不良	Zoom で遠隔授業します。具合が悪くなった時の会話、薬屋での会話、薬の箱や保健センターの説明のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
10 回目	Unit 9 スーパーでの買い物	Zoom で遠隔授業します。スーパーで買い物する会話のリスニング、クーポン、スーパーでの広告のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
11 回目	Unit 10 スポーツ観戦	Zoom で遠隔授業します。スポーツ観戦に向かう会話、スポーツについての会話のリスニング、試合のチケット、ヤンキースの歴史についてのリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
12 回目	Unit 11 ワシントン DC へ〜ケイトとお別れ〜	Zoom で遠隔授業します。別れの言葉、タクシーでの会話のリスニング、タクシーの掲示、ワシントン D.C. の説明のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
13 回目	Unit 12 ホテル	Zoom で遠隔授業します。ホテルでの会話のリスニング、ホテルの Welcome Card とホテルの電話案内のリーディングを行う。テキストの予習復習をする。
14 回目	まとめ レポート	Zoom で遠隔授業します。前期の授業の復習、まとめのためのレポートを出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題を解いてくる。

【テキスト（教科書）】

Hiroko Nishikage, Itsuko Haginoya ほか『Let's Go Abroad! Takeshi's Journey to the U.S.』センゲージラーニング

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最後のレポートが、50%、残りの50%は、授業での発言、発表などの平常点による。Zoom での遠隔授業の欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの情報がありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、パソコン（マイクカメラを含む）あるいは、スマートフォン。

【Outline and objectives】

Develop reading and listening skills through a text book named *Let's Go Abroad!: Takeshi's Journey to the U.S.*

LANe100LA

補講英語 1・2 - II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

キ 2～3 年（再履修のみ）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人が日本滞在中に感じた、イギリスと日本の違いについての Reading を読み、TOEIC 方式の問題を含む問題を解いて、英語力の充実を目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Zoom で遠隔授業します。予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問の答えを言うという作業を、口頭、もしくは板書でもしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。課題を課す場合は、Hoppii に提出してもらい、返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション、ガイダンス	Zoom で遠隔授業します。辞書の使い方や、授業の進め方について説明します。テキストを買っておく。
2 回目	Lesson 1 Heights	Zoom で遠隔授業します。背も高いと良くないこともあるというエッセイを読む。テキストの予習復習をする。
3 回目	Lesson 2 Seasons	Zoom で遠隔授業します。季節の移ろいに感じることを綴ったエッセイを読む。テキストの予習復習をする。
4 回目	Lesson 3 Be careful with your licence	Zoom で遠隔授業します。運転免許証の扱い方の日英での違いを学ぶ。テキストの予習復習をする。
5 回目	Lesson 4 Doctors	Zoom で遠隔授業します。英国の長く待たされて受ける治療について学ぶ。テキストの予習復習をする。
6 回目	Lesson 5 Business Hours	Zoom で遠隔授業します。時間の考え方に日英で違いがあることを学ぶ。テキストの予習復習をする。
7 回目	Lesson 6 Public Holidays	Zoom で遠隔授業します。本当の休暇については何かについて読んで考える。テキストの予習復習をする。
8 回目	Lesson 7 Your Transport, My Transport	Zoom で遠隔授業します。公共交通機関で見られる日英の違いについて読んで学ぶ。テキストの予習復習をする。

9 回目	Lesson 8 Convenience Store	Zoom で遠隔授業します。コンビニが生活に与える影響について読み考える。テキストの予習復習をする。
10 回目	Lesson 9 Is it a good noise?	Zoom で遠隔授業します。雑音、それとも心地よい音について、日英の違いについて読んで学ぶ。テキストの予習復習をする。
11 回目	Lesson 10 Fireworks	Zoom で遠隔授業します。日英で花火の季節が異なる背景を学ぶ。テキストの予習復習をする。
12 回目	Lesson 11 Public or Private?	Zoom で遠隔授業します。英国人の目から見るとプライベートなものが公然と行われていることへの驚きのエッセイを読む。テキストの予習復習をする。
13 回目	Lesson 13 Weddings	Zoom で遠隔授業します。日英の結婚式、披露宴の違いについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
14 回目	まとめ テスト	Zoom で遠隔授業します。後期の復習、まとめのレポートを書いてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題、TOEIC 方式の問題、ボキャブラリーについての問題に答えられるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

Terry O'Brien, Kei Mihara ほか、『Viewpoints: Japan and England』、南雲堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末に実施するレポートを 50%、平常点を 50% で採点する。Zoom 授業の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの情報がないので、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Develop English skills using a textbook on the differences between England and Japan through reading each chapter's reading section and questions based on TOEIC

LANe100LA

Academic Literacy A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

THOMAS G POWER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～3 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Academic Literacy A provides opportunities for students to improve their reading and oral communication skills, develop critical thinking skills, and express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve their academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with instruction and practice of academic reading skills, develop a “scholarly voice” in discussions and presentations, to acquire more academic vocabulary, and to become more academically literate. The course textbook, University Success Reading, Transition Level, “helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.”

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Active participation is essential. There will be a brief lecture about academic reading and oral communication skills introduced in the textbook and an analysis and discussion of reading skills and passages each class. Homework will be given each week to prepare students for the next class. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Syllabus, expectations and grading criteria / Writing emails
Week 2	Reading Skills I	Read actively / Skim & scan / How to avoid plagiarism
Week 3	Reading Skills II	Note-taking skills / Main ideas and details / Citing sources
Week 4	Presentation Skills	Review skills / Brainstorm and outline / Paraphrasing
Week 5	Critical Thinking Skills	Facts & opinions / Reliable sources / Summarizing
Week 6	Presentation Preparation and Research	Working draft / Slides & script / Develop an argument

Week 7	Mid-term Presentations	Presentations / Q & A / Peer Review
Week 8	Reading Skills III	Extended reading text / Synthesizing sources
Week 9	Reading Skills IV	Patterns of cohesion / Word parts & collocations
Week 10	Discussion Skills	Review skills / useful expressions for discussions
Week 11	Critical Thinking Skills	Implication and inference. Deliberate implications and direct statements
Week 12	Presentation Preparation & Research	Working draft / Slides and script / APA style
Week 13	Final Presentations & Peer Review	Presentations / Q & A / Student feedback
Week 14	Review and final assessment	Review of academic literacy skills / Comments.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

If we cannot meet in the classroom on campus, there will be online real time meetings (Zoom) and on-demand lectures through Google Classroom. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc.

ISBN : 9780134400785

<https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008>

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】

Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 30%

Homework and written assignments 30%

Two presentation projects 40%

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline and objectives】

Academic Literacy A provides opportunities for students to improve their reading and oral communication skills, develop critical thinking skills, and express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve their academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

LANe100LA

Academic Literacy B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

Power THOMAS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～3 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of Academic Literacy B is to provide students with opportunities to review and to improve their academic reading and oral communication skills, think critically, and present their opinions effectively in discussions, written responses, and two research projects. This course is designed to help students further develop transferable academic skills necessary for success in a university setting.

【到達目標】

The course textbook, University Success Reading, Transition Level, “helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.” There are five major subject areas (Sociology, Economics, Biology, Humanities, and Environmental Engineering). Each unit has three parts: Part 1 and Part 2 focus on the fundamental and critical thinking skills most relevant for students preparing for university degrees; Part 3 introduces students to extended practice with the skills. Academic Literacy B focuses on fluency and accuracy, reading and research skills, and visual presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

This is an online class with no face-to-face classes in the Spring semester. Classes will be held in real time in Zoom or through on-demand lectures in Google Classroom. Active participation is essential. There will be a brief lecture about academic reading and oral communication skills introduced in the textbook and an analysis and discussion of reading passages each class. Students will improve their academic reading skills and oral communication skills through participation in pair and group activities, lectures, reading and writing assignments, class discussions, and two research projects. Homework will be given each week to prepare students for the following class. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction Review Skills Unit 3 Biology	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria. Understand and recognize patterns of cohesion: cause/effect, compare/contrast, problem/solution Use outlines and graphic organizers
Week 2	Review Skills Unit 3 Biology	Evaluate evidence and argumentation Recognize and deal with faulty rhetoric Understand extended metaphor Identify and use expressions of function and purpose
Week 3	Unit 4 Humanities Part 1	Fundamental Skills: Develop and increase reading fluency Tolerating ambiguity Recognize and use rhetorical techniques Understand nominalization

Week 4	Unit 4 Humanities Part 2	Critical Thinking Skills: Synthesis information from several sources Understand multiple perspectives Evaluate the credibility and motives of sources Understand and use direct and indirect quotations Appreciate hedging
Week 5	Unit 4 Humanities Part 3	Extended Reading and Lecture: Cultivation of the Educated Person Passage: The Cultivation of Higher Learning Thinking Critically and Visually Thinking about Language Research Project
Week 6	Preparation of Research Projects	Students conduct research and prepare a research project related to a variety of philosophies and theories in education today. Students are encouraged to present a biographical portrayal, model debate, or persuasive speech.
Week 7	Group A: Presentations about Research Projects	Students from Group A present research projects about notable educational philosophers and theorists of the last 150 years.
Week 8	Group B: Presentations about Research Projects	Students from Group B present research projects about notable educational philosophers and theorists of the last 150 years.
Week 9	Unit 5 Environmental Engineering Part 1	Fundamental skills: Interpret visuals Understand text references to visuals Interpret the information in visuals Refer to visual data within and beyond a reading Recognize and learn multiword vocabulary items
Week 10	Unit 5 Environmental Engineering Part 2	Critical Thinking Skills: Definitions and Classifications Understand definitions and classifications Recognize and understand definitions within a text Work with classifications Understand and produce references to other sources Understand and use clarifiers
Week 11	Unit 5 Environmental Engineering Part 3	Extended Reading: In Pursuit of Clean Air Passage: Sources of Indoor Air Pollutants Thinking Critically and Visually Thinking about Language: nominalization and hedging
Week 12	Preparation of Research Project	Students prepare a research project related to the ways in which gaseous pollutants and particulate matter can detrimentally affect individuals' health. Students are encouraged to present a short audio documentary, a slideshow, or a short lecture.
Week 13	Presentations of Research Project	Students present research projects which compare and contrast a gaseous pollutant with a type of particulate matter; explain the process by which one pollutant is emitted and affects human health, and consider its implications for the future.
Week 14	Presentations of Research Projects Final Assessment	Students present research projects. Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will use Zoom and Google Classroom in this course. Students are expected to come prepared to the online class by doing the readings and homework in advance. Research projects are to be completed outside of class, but the contents will be shared and discussed in class. The research projects will have both a written and visual component. Late work will not be accepted unless there is a good reason (illness, emergency). University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc. ISBN : 9780134400785

<https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008>
Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】

Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework and written assignments 30%

Two research projects 50%

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities.

【Outline and objectives】

The aim of Academic Literacy B is to provide students with opportunities to review and to improve their academic reading and oral communication skills, think critically, and present their opinions effectively in discussions, written responses, and two research projects. This course is designed to help students further develop transferable academic skills necessary for success in a university setting.

LANe100LA

College Writing A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

THOMAS G POWER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～3 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College Writing A introduces the formal structures of academic writing and ways to use original sources. Students will examine essay structures, the writing process, critical thinking skills, and ways to avoid plagiarism. This class will build confidence and competence in writing more generally while preparing students for College Writing B, in which they will write a formal research paper.

【到達目標】

The goals of this course are to:

1. Study format and structure of an academic essay
2. Analyze different kinds of essays
3. Proofread, edit, and revise essay drafts
4. Evaluate and use academic sources
5. Express opinions and support them in argumentation
6. Develop critical thinking skills and a logical progression of thought.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Each class consists of a short lecture or demonstration of academic writing principles and a number of writing or editing exercises, as well as discussion activities. Often students will work together on exercises, both in small groups and as a class. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom. Assignments must be completed in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Overview of the course
Week 2	Review Academic Writing Skills	Paragraph organization / topic sentence / supporting sentences / concluding sentence / transitions / citing sources
Week 3	Essay Structure I	Introduction: the hook and thesis statement / analysis of different essays
Week 4	Essay Structure II	Body Paragraphs: topic sentences / transitions / analysis of different essays
Week 5	Essay Structure III	Conclusion: restate or summarize / in-text citations, quotations, references
Week 6	Writing Process	First steps: brainstorming and outlining / how to construct an argument

Week 7	Using Original Sources I	Direct quotation and paraphrasing
Week 8	Using Original Sources II	Summarizing and synthesizing
Week 9	What is IMRaD?	Different kinds of organization / literature review
Week 10	Essay Practice I	Brainstorming and outlining / Reaction essay about Units 1-3
Week 11	Essay Practice II	Introduction: peer review and self-editing / analysis of different essays
Week 12	Essay Practice III	Body paragraphs: peer review and self-editing / analysis of different essays
Week 13	Essay Practice IV	Conclusion paragraph: peer review and self-editing / revision of reaction essay
Week 14	Final Essay Assessment	Student reports on final reaction essays / comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

If we cannot meet in the classroom on campus, there will be online real time meetings (Zoom) and on-demand lectures through Google Classroom. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Folse, Keith S. and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】

Hacker, Diana and Sommers, Nancy. (2011) A Writer's Reference for Multilingual Writers and ESL, 7th Edition. Boston: Harvard University ISBN: 0-312-60143-3

Oshima, Alice and Hogue, Ann. (2014) Academic Writing Series: Essays to Research Papers. 5th Edition. Pearson Longman. ISBN: 0132912740

【成績評価の方法と基準】

30% Attendance and participation: discussions, group work, pair work, in class exercises and peer review.

40% Written assignments.

30% Final reaction essay

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

【Outline and objectives】

College Writing A introduces the formal structures of academic writing and ways to use original sources. Students will examine essay structures, the writing process, critical thinking skills, and ways to avoid plagiarism. This class will build confidence and competence in writing more generally while preparing students for College Writing B, in which they will write a formal research paper.

LANe100LA

College Writing B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

Power THOMAS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～3 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College Writing B focuses on the formal structures and styles of academic writing and the research writing process. We will review the argumentative essay and study the organization of a cause-effect essay and a comparison and contrast essay. We will study specific vocabulary, original sources, and styles of writing particular to university research. Students will gain confidence and competence in expressing their opinions and thoughts in essay writing, class presentations, and the writing of a research paper.

【到達目標】

This writing course covers the following areas:

1. Review a variety of essay organizations and formats
2. Study the research writing process
3. Plan, outline, and organize a research paper
4. Choose, evaluate, and use sources in APA citation style
5. Proofread, edit, and revise essays
6. Discuss topics in small groups related to reading materials
7. Analyze and synthesize information and ideas from sources
8. Develop a thesis statement, research summary, and a strong conclusion
9. Make a presentation in an academic style to the class
10. Write a research paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

This is an online class with no face-to-face classes in the Spring semester. Classes will be held in real time in Zoom or through on-demand lectures in Google Classroom. There will be a brief lecture or demonstration about academic writing principles and example essays for analysis and discussion each class. Students will share and edit each other's writings and will be asked to give and receive constructive feedback on assignments. There will be pair work and collaborative group activities as well as short reports and presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Introduction	Self-introductions, information about syllabus
Week 2	What is a Research Paper?	Steps in Writing a Research Paper Using Information from Sources Using Direct Quotation and Paraphrasing Methods of Citing Sources Evaluating Sources Reference Lists
Week 3	Review Argumentative Essay	What is an Argumentative Essay? Arguing Pro and Con Outlining an Argumentative Essay: Writing a thesis statement Counterarguments and refutations
Week 4	Review Argumentative Essay	Building Better Vocabulary & Sentences Analyzing and evaluating sample outlines and argumentative essays Brainstorm and decide on a research topic
Week 5	Reading / Research Skills	Analyzing various texts Synthesizing and summarizing Citing Sources
Week 6	Reading / Research Skills	Developing research summaries Writing a strong thesis statement for a research paper

Week 7	Comparison and Contrast Essays	What is a Comparison or a Contrast Essay? Patterns of Organization Analyzing a comparison or a contrast essay Supporting Information
Week 8	Comparison and Contrast Essays	Grammar: Connectors for Comparison and Contrast Essays Grammar: Subject Adjective Clauses Building Better Vocabulary Building Better Sentences Brainstorming and Outlining
Week 9	Writing a Research Paper	Evaluating an outline of an essay or research paper Locating specific information for the outline Analyzing an example research paper
Week 10	Cause-Effect Essay	What is a Cause-Effect Essay? Analyzing a cause-effect essay
Week 11	Cause-Effect Essay	Developing and outlining a cause-effect essay Grammar: Connectors for Cause-Effect Essays Building Better Vocabulary & Sentences
Week 12	First Draft of a Research Paper	Writing a first draft Peer feedback In-text citations and references APA style
Week 13	Revision of the Research Paper	Revision of outline and final draft Consultations with students about research paper
Week 14	Course Review	Submission of Research Paper In class presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will use Zoom and Google Classroom in this course. Students are expected to come prepared to the online class by doing the readings and homework in advance. Late work will not be accepted unless there is a good reason (illness, emergency).

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Folse, Keith S. and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】

Hacker, Diana and Sommers, Nancy. (2011) A Writer's Reference for Multilingual Writers and ESL, 7th Edition. Boston: Harvard University ISBN: 0-312-60143-3

Oshima, Alice and Hogue, Ann. (2014) Academic Writing Series: Essays to Research Papers. 5th Edition. Pearson Longman. ISBN: 0132912740

【成績評価の方法と基準】

30% In-class participation: discussions, group work, pair work and peer review.

30% Written assignments.

30% Final research paper.

10% Short presentation about final paper.

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities.

【Outline and objectives】

College Writing B focuses on the formal structures and styles of academic writing and the research writing process. We will review the argumentative essay and study the organization of a cause-effect essay and a comparison and contrast essay. We will study specific vocabulary, original sources, and styles of writing particular to university research. Students will gain confidence and competence in expressing their opinions and thoughts in essay writing, class presentations, and the writing of a research paper.

LANd100LA

ドイツ語補講 1 I

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音、基本的な文法を学習しつつ、実際の会話で使えるドイツ語の習得に重点を置く。語学とともに、ドイツの文化、歴史についても学び、ドイツ語圏への興味を喚起し、理解を深めることがこの授業の目的である。

【到達目標】

話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、将来ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

文法事項を学習する一方で、ネイティブの発音を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

課題について、対面授業の場合はチェックして返却する。オンラインの場合は間違いがあった時のみ、指摘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	あいさつ	ドイツ語の発音とあいさつ
第 2 回	自己紹介 1	人称代名詞
第 3 回	自己紹介 2	動詞の規則変化
第 4 回	趣味・余暇 1	動詞の不規則変化
第 5 回	趣味・余暇 2	名詞の格変化
第 6 回	持ち物・食べ物 1	3 格、4 格と結びつく動詞
第 7 回	持ち物・食べ物 2	否定冠詞
第 8 回	家族・住居 1	2 格の用法 複数形
第 9 回	家族・住居 2	人称代名詞
第 10 回	自然・心身 1	所有冠詞 定冠詞
第 11 回	自然・心身 2	命令形
第 12 回	街歩き 1	前置詞 1
第 13 回	街歩き 2	前置詞 2
第 14 回	テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Dreiklang ドライクラング 異文化理解のドイツ語』郁文堂

【参考書】

関口一郎『マイスター ドイツ語コース 文法』大修館書店

矢羽々崇『読んで味わうドイツ語文法』研究社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、宿題、平常点 40 %の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoom で接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】

授業は皆さんの習熟度を見ながら進めるため、授業計画通りに進まないこともあり得ます。

【Outline and objectives】

This class is intended for the students who failed the course for beginners.

In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding.

LANd100LA

ドイツ語補講 1 II

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音、基本的な文法を学習しつつ、実際の会話で使えるドイツ語の習得に重点を置く。語学とともに、ドイツの文化、歴史についても学び、ドイツ語圏への興味を喚起し、理解を深めることがこの授業の目的である。

【到達目標】

文法事項を学習する一方で、ネイティブの発音を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 課を 2 回に分けて進める。基本的な例文は暗記すること。辞書を持参すること。

各課毎に小テストを実施する。

課題について、対面授業の場合はチェックして返却する。オンラインの場合は間違いがあった時のみ、指摘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	交通 1	分離・非分離動詞
第 2 回	交通 2	時間の表現
第 3 回	予定・計画 1	話法の助動詞
第 4 回	予定・計画 2	非人称表現 未来形
第 5 回	学校 1	再帰代名詞
第 6 回	学校 2	従属接続詞 zu 不定詞
第 7 回	過去のできごと 1	現在完了形
第 8 回	過去のできごと 2	過去形
第 9 回	祝祭 1	形容詞
第 10 回	祝祭 2	比較級・最上級
第 11 回	政治・社会 1	関係代名詞
第 12 回	政治・社会 2	不定関係代名詞
第 13 回	文法補足	受動態 分詞 接続法
第 14 回	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Dreiklang ドライクラング 異文化理解のドイツ語』郁文堂

【参考書】

関口一郎『マイスター ドイツ語コース 文法』大修館書店

矢羽々崇『読んで味わうドイツ語文法』研究社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、宿題、平常点 40 %の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【その他の重要事項】

授業は皆さんの習熟度を見ながら進めるため、授業計画通りに進まないこともあり得ます。

【Outline and objectives】

This class is intended for the students who failed the course for beginners.

In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding.

LANd100LA

ドイツ語補講 2 I

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。既習事項について小テストを行い、採点の後、翌週の授業で各受講者に返却し、重要な点について再度説明することにより受講者の習熟度の確認を行います。小テストの結果は、成績評価に算入します。授業が進行するにつれて、既習項目に関する復習の時間も増えてゆきます。辞書は毎回必ず持参して下さい。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要	綴りの読み方と発音 アルファベット等について 1
②	Lektion0	綴りの読み方と発音 アルファベット等について 2
③	Lektion1	人称代名詞と不定詞、定動詞の現在人称変化
④	Lektion1	定動詞の位置・語順 sein の現在人称変化
⑤	Lektion2	名詞の性、名詞の格
⑥	Lektion2	冠詞の変化、haben の現在人称変化
⑦	Lektion3	名詞の複数形
⑧	Lektion3	男性弱変化名詞と例外的な名詞、人称代名詞の3・4格
⑨	Lektion4	不規則動詞の現在人称変化
⑩	Lektion4	不規則動詞の現在人称変化、命令形
⑪	Lektion5	不定冠詞類
⑫	Lektion5	定冠詞類
	LektionS	前期確認問題
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と春学期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『つながるドイツ語みっとりーベ』

中村修・中川拓哉・大澤タカコ著

朝日出版社 2019年発行 定価 2600円＋税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するためにPCあるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語補講 2 II

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。既習事項について小テストを行い、採点の後、翌週の授業で各受講者に返却し、重要な点について再度説明することにより受講者の習熟度の確認を行います。小テストの結果は、成績評価に算入します。授業が進行するにつれて、既習項目に関する復習の時間も増えてゆきます。辞書は毎回必ず持参して下さい。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の内容との調整	各項目の確認
②	Lektion6	前置詞の格支配 2格・3格・4格支配
③	Lektion6	3・4格支配 前置詞と定冠詞の融合形
④	Lektion7	分離動詞、非分離動詞
⑤	Lektion8	話法の助動詞 従属の接続詞
⑥	Lektion9	zu 不定詞 再帰代名詞と再帰動詞
⑦	Lektion10	動詞の3基本形 1 過去形
⑧	Lektion10	動詞の3基本形 2 現在完了形
⑨	Lektion W	後期確認問題
⑩	Lektion StepUp	受動態 前置詞+人称代名詞の融合形
⑪	Lektion StepUp	形容詞の語尾変化 比較表現
⑫	Lektion Grammatik	人称代名詞と動詞の人称変化、冠詞類等の総復習
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『つながるドイツ語みっとりーベ』

中村修・中川拓哉・大澤タカコ著

朝日出版社 2019年第2刷発行 定価2600円+税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価1,600円+税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。参加者が復習に力を注ぐよう課題を与えます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するためにPCあるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANf100LA

フランス語補講 1 I

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 6/Thu.6

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行うクラスです。文法の苦手な部分をなくし、フランス語の学習の基礎の定着を目指します。

【到達目標】

1. フランス語の初級文法の基礎の定着
2. 辞書で不明な単語を自在に調べられるようになる。
3. 基本的なフランス語の表現を言える。
4. フランス語への苦手意識の克服

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に教科書にそって進めますが、適宜プリントなどを配ります。また、学習内容の定着をはかるため、単語テストと小テストを頻繁に行います。学習支援システム Hoppi を利用して課題の提出と返却を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	フランス語とはどういう言語なのか？ フランス語の読み方の基本
第 2 回	第一課	主語人称代名詞 être 動詞 職業と国籍の表現
第 3 回	第一課	対話文
第 4 回	第二課	数詞 名詞と不定冠詞・定冠詞 動詞 avoir
第 5 回	第二課	形容詞 1 中性指示代名詞 ce
第 6 回	復習	第一課と第二課の復習
第 7 回	第三課	第一群規則動詞 所有形容詞
第 8 回	第三課	疑問文
第 9 回	第四課	形容詞 2
第 10 回	第四課	否定文
第 11 回	復習	第三課と第四課の復習
第 12 回	第五課	指示形容詞 定冠詞の縮約
第 13 回	第五課	人称代名詞の強勢形 近接未来と近接過去 ここまで習った動詞の復習
第 14 回	試験	まとめの試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。予習では各課の冒頭の対話文を事前に辞書を使って読んでおくこと、復習では授業で指示された課題は必ず行い、単語テストと小テストに備えて勉強すること

【テキスト（教科書）】

『新・彼女は食いしん坊 1』藤田裕二著、朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

小テストと単語テストで 40 点、授業貢献度で評価する平常点で 10 点、期末テストで 50 点。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に課題を提出してもらうことで、学生の皆さんの不明点を明確にしたうえで授業をすすめていく。課題の提出と返却には学習支援システム Hoppi を利用します。

【学生が準備すべき機器他】

仏和と和仏の辞書を持っていることが望ましいです。また、動詞の活用に関する参考書を一冊持っているとう便利です。参考書については授業中に随時説明していきます。また、学習支援システムや教科書の web ページなどを利用するために、パソコン、タブレット、スマートフォンなどの電子機器を所有していると便利です。

【その他の重要事項】

授業に関する不明点は西川 (junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp) まで

【Outline and objectives】

Introduction to basic skills of communication in French language and French grammar.

LANf100LA

フランス語補講 1 II

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 6/Thu.6

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法の復習を行いながら、初級文法の知識と基礎的なフランス語のコミュニケーション能力を身につけます。

【到達目標】

1. フランス語の初級文法の基礎の定着
2. 辞書で不明な単語を自在に調べられるようになる。
3. 基本的なフランス語の表現を言える。
4. フランス語への苦手意識の克服

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と表現を軸に、進めていきます。各課を 2 回の授業で学習します。知識の定着をはかるため、頻繁に小テストと単語テストを行います。小テストとテストの結果は授業内で返却して解説も行います。課題の提出と返却には学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	簡単な小テストを行い、解説をして、今後の学習の重点事項を確認する。
第 2 回	第 6 課	疑問代名詞・疑問副詞
第 3 回	第 6 課	道の尋ね方 中性代名詞
第 4 回	第 7 課	部分冠詞 数量の表現
第 5 回	第 7 課	買い物の表現 1 動詞 faire, mettre
第 6 回	第 8 課	疑問形容詞 疑問文のまとめ
第 7 回	第 8 課	命令形 非人称構文 第二群規則動詞
第 8 回	第 9 課	指示代名詞 比較級と最上級
第 9 回	第 9 課	買い物の表現 2
第 10 回	第 10 課	補語人称代名詞
第 11 回	第 10 課	代名動詞
第 12 回	第 11 課	複合過去形
第 13 回	第 12 課	未来形
第 14 回	試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。予習では各課の冒頭の対話文を事前に辞書を使って読んでおくこと、復習では授業で指示された課題は必ず行い、単語テストと小テストに備えて勉強すること

【テキスト（教科書）】

『新・彼女は食いしん坊 1』藤田裕二著、朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内で頻繁に行う小テストと単語テストで 40 %、提出物も含めた平常点で 10 %、期末テストで 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業への参加を促すように、対話文のロールプレイング練習を積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

仏和と和仏の辞書と動詞の変化表。また、教科書の web ページなどを参照したりするためにスマートフォン、タブレット、パソコンなどといった電子機器があると好ましい。

【その他の重要事項】

質問などは西川 (junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp) までメールをください。

【Outline and objectives】

Introduction to basic skills of communication in French language and French grammar.

LANf100LA

フランス語補講 2 I

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 6/Wed.6

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行う授業です。ダイアログを参考にしながら練習問題で文法の復習をし、聞き取り・書き取り・語彙の強化を行います。

【到達目標】

初級文法をマスターして、履歴書にも書けるフランス語検定 3 級レベルになりましょう。映像の内容を簡単に説明することができる作文力も身につきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。Zoom を使った同時配信で授業を行う場合には、1) ダイアログで使われている文法事項を確認してから 2) 練習問題を解きます。さらに 3) 音声を書き取る練習をします。教室で行う対面授業となった場合にも、1)～3) の流れは同じです。質問があるときは、授業時間内に直接たずねるか、または初回の授業でお伝えするメールアドレスまでご連絡ください。同時配信型の授業で使用した資料は Hoppii に掲示しますので、欠席したときの自習や復習に使うことができます。

第 1 回目の授業は、Zoom を使ったオンライン上で授業と同じ時間帯に行われます。「お知らせ」に ID とパスワードを提示しますので、そちらを使って参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 1・2「自己紹介（国籍、職業）」	動詞 être、形容詞の一致
2 回目	Leçon 1・2「自己紹介（国籍、職業）」	動詞 être、形容詞の一致
3 回目	Leçon 3「年齢・家族」	不定冠詞、否定文
4 回目	Leçon 4「好き」	定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
5 回目	応用「好きな物、好きなこと」	作文・発表
6 回目	Leçon 5「持ち物」	指示形容詞・所有形容詞、強勢形
7 回目	Leçon 6「友だち」	形容詞
8 回目	Leçon 7「たずねる」	疑問代名詞・疑問副詞
9 回目	応用「誰かの物、自分の友だち」	作文・発表
10 回目	Leçon 8「近い未来・近い過去」	近接未来・近接過去、縮約、中性代名詞 y
11 回目	Leçon 9「時間・天候」	疑問形容詞、非人称構文
12 回目	Leçon 10「数量」	部分冠詞、中性代名詞 en
13 回目	応用「このあと、何食べよう？」	作文・発表
14 回目	Leçon 11「紹介する」	補語人称代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。習った文法事項を確認してから、練習問題を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

『新・東京―パリ、初飛行（新装改訂二版）』藤田裕二・藤田知子著（駿河台出版社）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業中の積極的な発言 50%、期末試験または期末課題 50% で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解答は早めに Hoppii に配信します。

【学生が準備すべき機器他】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019 年 4 月 1 日～ フランス語科の高 2 文法・高 3 作文と受験文法を担当）

【Outline and objectives】

This is a lesson to review basic grammar. Review grammar with practice exercises while referring to the dialogue, and we do also listening, writing and vocabulary enhancement.

LANf100LA

フランス語補講 Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 6/Wed.6

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行う授業です。ダイアログを参考にしながら練習問題で文法の復習をし、聞き取り・書き取り・語彙の強化を行います。

【到達目標】

初級文法をマスターして、履歴書にも書けるフランス語検定 3 級レベルになりましょう。映像の内容を簡単に説明することができる作文力も身につきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。Zoom を使った同時配信で授業を行う場合には、1) ダイアログで使われている文法事項を確認してから 2) 練習問題を解きます。さらに 3) 音声を書き取る練習をします。教室で行う対面授業となった場合にも、1)～3) の流れは同じです。質問があるときは、授業時間内に直接たずねるか、または初回の授業でお伝えするメールアドレスまでご連絡ください。同時配信型の授業で使用した資料は Hoppii に掲示しますので、欠席したときの自習や復習に使うことができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	春学期の復習	小テスト
2 回目	Leçon 12「一日の動作」	代名動詞
3 回目	Leçon 13「依頼する」	命令法、動詞 devoir
4 回目	Leçon 14「将来のこと」	単純未来、動詞 espérer
5 回目	応用「今と 3 年後」	作文・発表
6 回目	Leçon 15「過去のこと 1」	複合過去
7 回目	Leçon 16「過去のこと 2」	半過去・大過去
8 回目	Leçon 17「人や物について」	関係代名詞、指示代名詞
9 回目	Leçon 18「比較する」	比較級・最上級
10 回目	応用「昔の思い出」	作文・発表
11 回目	Leçon 19「受け身と同時性」	受動態、現在分詞・ジェロンディフ
12 回目	Leçon 20「仮定する」	条件法現在・条件法過去
13 回目	Leçon 21「感情表現」	接続法現在・接続法過去
14 回目	応用「自分の意見」	作文・発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。習った文法事項を Hoppii にあげられた授業時に使用したパワポで確認して、よく復習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

『新・東京―パリ、初飛行（新装改訂二版）』藤田裕二・藤田知子著（駿河台出版社）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業中の積極的な発言 50%、期末試験または期末課題 50% で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解答は早めに Hoppii に配信します。

【学生が準備すべき機器他】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019 年 4 月 1 日～ フランス語科の高 2 文法・高 3 作文と受験文法を担当）

【Outline and objectives】

This is a lesson to review basic grammar. Review grammar with practice exercises while referring to the dialogue, and we do also listening, writing and vocabulary enhancement.

LANr100LA

ロシア語補講 1 I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語再履修の学生を対象とした授業です。アルファベットの文字と発音の習得から始め、基礎文法と基本単語を身につけ、初級テキストの正確な音読・和訳、また、挨拶など初歩的なコミュニケーション能力を養成します。履歴書に資格として記載できるロシア語能力検定試験4級合格の準備を始めます。ロシア文化に関する知識も広げていきます。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）をきちんと習得する。基本単語を覚え、初級テキストの和訳・露訳が出来る。挨拶や自己紹介などの初歩的なコミュニケーション能力を身につける。ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし準備する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。発音のミニテストの後は、教科書に沿って初級文法を学び、基礎単語をマスターしていきます。各課ごとに、①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う予定です。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	補講に関するガイダンス	ロシア語補講に関して（再履修の心構え）
	第1課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）、簡単な挨拶
2	第1課 ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第2課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
4	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第4課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト	中間テスト
10	第5課 動詞（不定形と過去形）	動詞（不定形と過去形）
11	第5課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明

12	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第6課 前置格 春学期のまとめ	前置格の用法と練習問題、春学期のまとめ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

再履修の語学では、前回より成績が上がるよう、時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムをしっかりと身につけることが重要。小テスト前には集中的に復習を行う。また、ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などで積極的にロシア語に触れる。本授業の予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020 年
授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 %となります。また、春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 %となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 %とし、最終評価を算出します。

【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法表の繰り返しなど、毎回授業でリズムよく復唱したいと思います。補講を受けた翌年5月にロシア語能力検定試験4級に合格した学生がいます。皆さんも頑張ってください。

【その他の重要事項】

初級ロシア語の再履修クラスですが、伸び伸びと納得いくまで学べるクラスです。きちんと復習することで力がつき、ロシア語能力検定試験に合格している学生もおります。（合格の場合、資格として履歴書に書くことができ、珍しい資格のため面接などで有利となります。）

春学期・秋学期合わせての履修をお勧めします。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ、対面とオンライン授業を併用した展開となります。なお、春学期第一週目は、学習支援システムでのオンライン授業（今後の授業アンケート含む）となります。

【Outline and objectives】

This course is for students who did not pass the basic Russian course 1- I and take it for a second time. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to master basic grammar and vocabulary; 3) to be able to read simple sentences naturally aloud and understand their meaning; 4) be able to develop elementary communication skills in Russian; 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level; 6) to know Russian culture.

LANr100LA

ロシア語補講 1 II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語初級文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題にも挑戦する。

【到達目標】

ロシア語テキストを正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。日本語の短い文章を的確なロシア語に出来る。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の復習から入ります。秋学期は、ロシア語文法の要である名詞や形容詞の格変化を中心に教科書に沿って、1) 新出単語の音読、2) 文法解説、3) 本文の解説と発音練習、4) 練習問題（検定試験過去問を含む）と進めていきます。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う予定です。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習

14 試験・まとめと解説 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。中間および期末テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題を解く。ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
適宜初級文法の解説や練習問題のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

【その他の重要事項】

初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より上がります。質問はメールで随時受け付けています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ、対面とオンライン授業を併用した展開となります。なお、学期第一週目は、学習支援システムでのオンライン授業（今後の授業アンケート含む）となります。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語補講 2 I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語再履修の学生を対象とした授業です。これまで習得できなかったロシア語の基礎をアルファベット・発音からしっかりと学び直す。教科書および副教材で基礎文法を復習し、聴く、読む、話す、書く力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題や対策問題にも挑戦する。実際のコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題に挑戦し、必須単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得し直します。テキストの正確で美しい音読の練習を行います。初級文法を学び直しながら、ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題も解いていきます。適時ミニテストを行い、文法の習熟度を確認します。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行います。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業計画や進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットと発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音、簡単な挨拶
2	ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
4	基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
5	名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
6	名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
9	形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	動詞	動詞（不定形と過去形）
11	副詞、格の説明	副詞の作り方、格の説明
12	動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	動詞と前置格	不規則動詞と前置格
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。小テスト前には集中的に復習をする。

ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。本授業の予習・復習の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

適宜初級文法解説と練習問題のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 % となります。欠席をせずにしっかりと復習の成果を出して下さい。また、秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 % となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 % とし、最終評価を算出します。

【学生の意見等からの気づき】

初級文法の規則性をきちんと習得できるよう、授業での復唱時間を増やす。

【その他の重要事項】

初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より上がります。質問はメールで随時受け付けています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ、対面とオンライン授業を併用した展開となります。なお、春学期第一週目は、学習支援システムでのオンライン授業（今後の授業アンケート含む）となります。

【Outline and objectives】

This course is for students who did not pass the basic Russian course 2-I and take it for a second time. You will relearn the alphabet and pronunciation of basic Russian that you could not master until now. In parallel with grammar lessons using textbooks and teaching materials, you will acquire the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will aim to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4 as one of your goals; in preparation, you will tackle past tests and formulate strategies. You will master daily conversation, self-introductions, etc., that you can actually use for communication.

LANr100LA

ロシア語補講 2 II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期授業の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞をはじめ、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を覚える。その上でロシア語能力検定試験 4 級受験の準備を行う。さらに辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

【到達目標】

格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。それに対応するロシア語能力検定試験の過去問題や対策問題を解きます。さらに習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけます。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う予定です。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）

9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。中間および期末テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題を解く。ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
適宜文法の解説や練習問題のテキストを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

検定試験合格を視野に、授業での格変化表の暗唱、単語のミニテスト、リーディングの練習を増やす。

【その他の重要事項】

初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より上がります。質問はメールで随時受け付けています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ、対面とオンライン授業を併用した展開となります。なお、学期第一週目は、学習支援システムでのオンライン授業（今後の授業アンケート含む）となります。

【Outline and objectives】

After reviewing the grammar you learned in the spring semester, you will learn to understand the structure of Russian grammar focusing on case inflection. First, you will memorize the declensions of nouns, adjectives, personal pronouns, and so on. Then, you will learn the imperative forms of verbs and the verbs for movement, which are very different from Japanese. You will continue preparing for the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4. Furthermore, you will develop your ability to translate Russian texts to Japanese and Japanese texts to Russian using a dictionary. Through listening, reading, and conversation practice, you will acquire the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing."

HSS100LA

Elementary Health and Physical Education 2017年度以降入学者

サブタイトル：

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Understanding the various physical activities and their effect on daily health and/or fitness level. Learning teamwork and personal role within a group through various exercises that require technique and/or tactical knowledge.

【到達目標】

1. Learning about various ways of exercising.
2. Understanding the basics of a healthy lifestyle.
3. Learning about basic self control and its importance.
4. Exercising simple decision making, leadership, communication in a dependent and co-dependent environment.
5. Creating a demand for future self-education and self-development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This class is comprised of 8 lectures and 6 practical lessons; however, this may be changed due to the situation of COVID-19 and the university guidelines. Currently this class is planned to be held offline (face to face), therefore, please follow the university guidelines carefully when you participate in classes (e.g. sanitizing your hands prior to participation). If you have any difficulty to participate due to the situation of COVID-19, please inform the teacher as soon as possible in order to participate online.

Also, Due to the coronavirus pandemic, if there are too many students registered for this class, we may have to choose students via random selection in order to avoid a large group gathering. Further details of this will be announced through Hoppii before the first lesson starts.

When reaction papers are submitted by students, the teacher will comment or give feedback on those reaction papers at the beginning of the next session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance (Lecture)	Introduction of the course.
2	Walking & Stretching (Lecture & Practical Lesson)	Learning how to stretch and the importance of walking in everyday life.
3	Diet and Nutrition (Lecture)	Learning about basic nutrition and healthy lifestyle.
4	Principles of Training (Lecture)	Learning the basic principles of training.

5	Sport and Injury (Lecture)	Learning about various risk of injuries in sport and their prevention and recovery.
6	Table Tennis (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of table tennis.
7	Sound Table Tennis (Lecture & Practical Lesson)	Learning about game based table tennis as well as its adaptation for people with visual impairments.
8	The Olympics and Paralympics (Lecture)	Learning about the Olympic and Paralympic Games.
9	Sport and Society (Lecture)	Learning about the role of sport in society.
10	Disability Sport (Lecture)	Learning the outline of disability sports.
11	Football & Boccia (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Football and Boccia.
12	Volleyball & Sitting Volleyball (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of Volleyball and Sitting Volleyball.
13	Adaptation in Sport (Lecture)	Learning about adaptation in Sports.
14	Summarizing the Course (Lecture)	Overview of the course and summarizing what students have learned through group discussions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each student is required to prepare themselves to have a good physical and mental condition in order to participate safely in the lesson. Also, each student is required to study for 2 hours before and after each lesson accordingly.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used.

【参考書】

Reference books may be introduced as and if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Attitude and Active Participation in Discussions and Practical Lesson: 60%

Understanding of the contents, Reports & Reaction Paper: 40%
*The grading criteria above is the basic grading principle, however, other criteria can be applied for those with difficulties of participation especially for practical lessons due to various reasons.

【学生の意見等からの気づき】

- 1) The target of each lesson will be introduced at the begging of each lecture in order for students to understand the importance of each lesson.
- 2) The contents of each lesson may be modified and adapted to more familiar ones for students to encourage their better understanding.
- 3) The contents of next lesson will be introduced in order for students to prepare and be ready.

【その他の重要事項】

- ・Each student is required to bring their own proper sports wear and indoor shoes for practical lessons.
- ・The order and content of each class can be changed/modified due to the number of participants and available facilities as well as the situation of COVID-19 and university guidelines.
- ・If students do not feel well or have (possible) injuries before or after the class, students must inform their condition to the teacher for safety.

【Outline and objectives】

Understanding the various physical activities and their effect on daily health and/or fitness level. Learning teamwork and personal role within a group through various exercises that require technique and/or tactical knowledge.

PRI100LA

Elementary Information Technol- 2017年度以降入学者
ogy

サブタイトル：

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You will learn basic knowledge about information technology and you will have a chance of learning Python programming.

【到達目標】

You will learn basic knowledges of information technology, especially computer architecture, algorithmic programing, data science, and the mechanism of the Internet and related subjects (social network, e-commerce, ethics, security).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

You need register your student account for this class until the specified date in Learning Support System Hoppi <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>. The detail of how to get the on line lecture is explained on the course page. Please read the detail in advance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What's Information Technology	The history and the current trend of information technology.
2	Data Processing	Several kinds of data and how to process data.
3	Information Processing	Define the information and how to process and communicate information.
4	Computing Technology	Architecture of computing system. From old fashioned type to super computer.
5	Algorithmic Programming	Design algorithms for solving problem.
6	Data Science - Predicting	Predicting the future being given the past data.
7	Data Science - Classification	Classifying the data according to certain criteria.
8	Communication Technology	Understanding the information communication technology.
9	Internet Protocol	TCP/IP
10	Mechanism of email and World Wide Web (WWW)	Based on server/client system, encoding/decoding information and TCP/IP makes it possible, email and www.
11	e-Commerce	the core technology of e-commerce is public key encryption and block chain.

- | | | |
|----|------------------------------|--|
| 12 | Social Network | Graph theory: understanding the relation among entities. |
| 13 | Internet Ethics and Security | Several aspects of ethics and security inherent in the Internet. |
| 14 | Final Examination | examination performed with paper and pencil. |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

We specify a short article related to the next class in advance, you should read, understand, bring the issue discussed in the article. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

All texts are uploaded in Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

Total evaluation of 14 short assignments : 50%

The score fo the final examination: 50%

You need more than and equal to 60% of the max 100 points to pass the class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

I have a long carrier in writing and designing for automatic programming, teaching human knowledge to computer, especially natural language.

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology and you will have a chance of learning Python programming.

PRI100LA

Information Technology

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

Yukou MATSUDA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You will learn the information and communication technology with Python programming.

【到達目標】

You will learn the information and communication technology with Python programming. The main topics are the forms of information, knowledge representation of human knowledge, and autonomous systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course style depends on the social situation. You need register your student account for this class in Learning Support System Hoppi <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>. The detail of how to get the on line lecture is explained on the course page. Please read the detail in advance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	How Information Transmitted	discussing about transmitting media and the way of transmitted.
2	How to Control Transmitting	Internet addressing and the role of transmitting protocol.
3	Communication Language	Human vs. Human, Human vs. Computer and Computer vs. Computer communications, especially discussing about the Internet protocol.
4	Encoding and Decoding	number system and character encoding/decoding.
5	Information Theory	bit, Byte and computing scale.
6	IP Address	the role of IP address in the Internet.
7	Computer Architecture	especially the role of CPU and the arithmetic adder based on logic gates.
8	Data Processing	descriptive statistics, sorting algorithm and search algorithm.
9	Data Processing	database
10	Search Engine	database oriented search engine.
11	Grammar	understanding the language structure (grammar).
12	Grammar(2)	understanding small programming.
13	Artificial Intelligence	how to transfer human knowledge into machine.
14	Artificial Intelligence(2)	how to understand natural language processing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

No special work will be assigned to you. However you need to finish all the homework assigned in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

All texts are uploaded in HOPPII.

【成績評価の方法と基準】

To pass the study quality and to get the grade, you need attend the whole classes and submit all the homeworks. The quality of the last homework will dominate 80% of the score and the 20% of the score depends on homeworks issued on every classes. You need get more than 60 points for the total 100 points to pass this class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

none.

【その他の重要事項】

My career introduction. I have been designing, implementing automatic programming and teaching human knowledge into computer, especially in natural language.

【Outline and objectives】

You will learn the information and communication technology with Python programming.

CAR100LA

Elementary Career Development 2017年度以降入学者

サブタイトル：

中川 有紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

GBP/SCOPE/IGESS 1～4年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は将来日本で就職を希望する外国人留学生を対象に、仕事とキャリアの意味や意義について考えさせ、日本社会の現状と企業組織の持つ特徴を理解した上で、就職活動やキャリア形成に必要な意識、態度、具体的な知識を身につけさせるのが狙いです。授業は英語で行われます。また授業内の議論も多く、その結果を発表したりレポートを書くための英語力が必要です。

【到達目標】

Students should be able to explain:

- (1)their personal profiles including such as strengths and weaknesses, values, aspirations, skills and life styles,
- (2)differences between job and career and the work they would like to do,
- (3)characteristics of Japanese companies,
- (4)necessary skills and competencies that are required from the Japanese society,
- (5)necessity to explore internships and job opportunities spontaneously.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course consists of lectures by the instructor, discussions and presentations by the students on each theme. Sometimes students are required to create a worksheet during the class and write a report as an assignment after the class. All of the class activities will be conducted in English.

The feedback of Report Writing will be delivered in the following class.

“If the university’s action policy level is set to 2, this class will be taught online as a rule. Details will be announced via the Learning Management System.”

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Outline of what you learn throughout the course is briefly explained. Also self-introduction by the instructor and each participant is planned. You should introduce yourself by saying such as (1) the town where I was born, (2) why I decided to study in Japan and at Hosei Univ.(3) what I am interested in doing and achieving during study abroad.
2	Higher Education and Career Development	By understanding the current situation of increasing youth unemployment and non-regular employment in Japan, you should learn how important it is to make a proper job selection and its influence on your career formation.
3	Telling a Life Story to Know Yourself	Understanding about yourself better is the first step that you should take to a job that suits you and develop your career later on. So let’s learn what a life story telling is, how it works to know you better and experience it with the other class members.
4	Presentation of Your Life Story	This is the time for you to talk about a story highlighting a memorable moment to review how your personality, interests,
5	Fundamental Skills for a Working Person	There are a couple of fundamental skills that you need to know and acquire before you enter the world of work in Japan. These are minimum requirements from society for any new worker and highly valued in Japan.
6	Intercultural Competence	The world we live in today is getting more and more globalized and interdependent. The world we live in today is getting more and more globalized and interdependent. So you will very likely to work with people speaking different languages, having different sense of values, behaviors and customs based on their cultural backgrounds. How can you get along with them?

7	Life Roles and Career Development	People today may live longer than their parents did. So you may have more works to do and roles to play in your entire life course. Think about what those life roles are and how you can balance them with your job and career in order to maintain quality of your life.	14	Review and Report Writing	You will review what you learned and considered in this course and write a final report about it. Your report must also include what you would like to be and work for based on your understanding of yourself, job and career, Japanese society and the world of work today.
					【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week.
8	Personality and Work Environment for Job Selection	You will learn about several personality types, relationship between people of each personality type and their preferred job environment to know what job will likely to match your personality type through an occupational interest test.			【テキスト（教科書）】 I will distribute the handouts for each lecture.
					【参考書】 1. Robinson, Ken, & Aronica, Lou.(2013)" Finding Your Element: How to Discover Your Talents and Passions and Transform Your Life", Viking Adult. 2. Tim Clark ,「Business Model You」,John Wiley & Sons, Inc. 3. Tina Seeing (2009) "What I Wish I Knew When I Was 20."
9	Corporate Culture and Business Practice	If you want to get and maintain a job and pursue a career in Japan you should know about the cultural characteristics of the company and its business practices to get along with the other members of the team.			【成績評価の方法と基準】 There will be no mid-term nor final class examination. (1)Participation and Learning Attitude (20%) (2)Report Writing (60%) (3)Discussion and Presentation (20%)
					【学生の意見等からの気づき】 NA
10	Human Resource Management in Japan	Human resource management plays a very important role for the operation and functions of the company. So you need to know what and how they proceed with the daily work.			【Outline and objectives】 This class is for foreign students who wish to find career/job hunting in Japan in the future, and after having them think about the meaning and significance of work and career, and understanding the current environment and situation of Japanese society and the characteristics of Japanese corporate organizations. The aim is to equip you with the awareness, attitude, and specific knowledge necessary for career development. Classes are conducted in English. In addition, there are many discussions in class, and English skills are required to write reports.
11	Japanese MSC (Medium to Small Sized Companies) as Your Job Targets	The Japanese economy has been supported by and dependent on a large number of MSC (medium to small sized companies). In this respect you should know more about them and consider them as potential candidates of your job hunting in the future.			
12	How Japanese Company Recruits and Fosters Young Employees	Even if you could successfully get a job offer, you would probably be not so confident in your ability to cope with the job requirements. But you do not need to worry too much about it if you knew how Japanese company helps foster young employees.			
13	Lecture by the Guest Speaker	Hearing stories from the people working and ask questions about pros and cons of working in Japan will give you good insights and hints when you select your job and career.			

ART100LA

Elementary Humanities A 2017年度以降入学者

サブタイトル：

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

GBP/SCOPE/IGESS 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a survey of ancient to medieval Japanese literature. Major literary works are introduced with an emphasis on their literary artistry as well as their historical and cultural importance. Focus is also placed on the unique philosophy that shaped the aesthetic values in Japan throughout the centuries. This topic will be further highlighted by discussing differences in Eastern and Western world views and by introducing Okinawan poetry which displays unique features when compared with classical Japanese poetry.

【到達目標】

1. to learn about major literary works in their historical and cultural context
2. to gain deeper understanding of the different philosophical backgrounds that have influenced the way of thinking in Japan and the West
3. to improve your English vocabulary regarding the topic

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is based on lectures by the instructor featuring the use of written and audio-visual materials. In addition, every student will be required to deliver a class presentation on a given topic, to submit a short written summary of the presentation and an essay, and to pass the final exam. The topics together with the study materials for the presentation will be distributed at the beginning of the course.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom. Please see HOPP II for further instructions about how to join our Zoom sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction to course; scheduling of presentations
2.	Historical overview of Japanese literature	Brief overview of major literary works in their historical context with a focus on the <i>Nara</i> and <i>Heian</i> periods
3.	Japanese perception of nature, Part 1	Definition of nature and corresponding terms in Japanese; Japanese love for nature and its various aspects; Japanese vs. Western concepts of nature

4.	Japanese perception of nature, Part 2	The four seasons as one of the central concepts in Japanese culture and literature; the concept of transformation and change, harmony of <i>yin</i> and <i>yang</i> ; perception of time
5.	Natural images in classical Japanese poetry	Literal and figural meaning of images in Japanese and Western poetic tradition
6.	Key concepts of Japanese aesthetics	Four aesthetic concepts in Japanese culture and literature; demonstration of these concepts in <i>Essays in Idleness</i> by the Buddhist priest <i>Kenkō</i>
7.	Japanese mythology	<i>Records of Ancient Matters (Kojiki)</i> ; Japanese mythology vs. Western ideological concepts (Greek mythology and Christianity)
8.	Japanese poetry, Part 1	The role of poetry from ancient times through the era of <i>Man'yōshū (Collection of Ten Thousand Leaves)</i> to the flourishing era of imperial poetry anthologies
9.	Japanese poetry, Part 2	Long and short poetic forms (<i>chōka</i> and <i>tanka</i>); believed to be the first Japanese poem in the fixed form; major themes in classical poetry
10.	Japanese prose, Part 1	Japanese tales and its various genres; the oldest preserved tale (<i>The Tale of the Bamboo Cutter; Taketori Monogatari</i>) and the collection of poem tales (<i>Tales of Ise; Ise Monogatari</i>)
11.	Japanese prose, Part 2	Flourishing of women writers in the <i>Heian</i> period with a focus on two prominent figures <i>Murasaki Shikibu</i> and <i>Sei Shōnagon</i> and their works <i>The Tale of Genji (Genji Monogatari)</i> and <i>The Pillow Book (Makura no Sōshi)</i>
12.	Okinawan language and poetry – Introduction	Languages of the Ryūkyū Islands as part of the Japanese language group; language rules in Okinawan poetry <i>ryūka</i>
13.	The world of Okinawan poetry	The oldest preserved collection of old epic songs <i>Omorosōshi</i> ; Okinawan lyrical poetry <i>ryūka</i>
14.	Course wrap up	Submit short summary of presentation topic and essay; final written exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Prepare a short self-introduction
2. Reading: handout on anthology of Japanese literature
3. Reading: Asquith 1-35
4. Readings: Asquith 36 – 53; handout related to the topic
5. Readings: Asquith 54 – 67; handout on Western poetry
6. Reading: Keene 3 – 22
7. Reading: handout on the *Kojiki*
8. Reading: Keene 47 – 69
9. Reading: Keene 25 – 44
10. Readings: Keene 73 – 95; handout on Japanese tales
11. Reading: handout on women's classical prose
12. & 13. Reading: text by lecturer on Okinawan language and poetry

14. Submit short summary of presentation topic and essay; final written exam

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Keene, Donald. *The Pleasures of Japanese Literature*. New York: Columbia University Press, 1988.

All other study materials and handouts will be provided by the lecturer.

【参考書】

Asquith, Pamela J. and Arne Kalland, ed. *Japanese Images of Nature*. Richmond: Curzon Press, 1997.

Keene, Donald. *Anthology of Japanese Literature*. Rutland, Vermont & Tokyo: Charles E. Tuttle Company, 1956. Twenty-second edition, 1991.

McCullough, Helen Craig. *Classical Japanese Prose: an Anthology*. Stanford: Stanford University Press, 1990.

Miner, Earl. *An Introduction to Japanese Court Poetry*. Stanford: Stanford University Press, 1968.

Further references related to the topic of each class will be provided by the lecturer.

【成績評価の方法と基準】

Class attendance and oral participation are expected; failure to participate in class will result in the subtraction of marks from the total. Grading criteria: oral presentation and written summary (40%); final examination and essay (60%).

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

【学生が準備すべき機器他】

● This class will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus need to prepare a headset.

● We will use online applications, such as Google Classroom, Zoom and HOPPII. Please check HOPPII regularly for further instructions about how to join our Zoom sessions, Google Classroom, etc.

【Outline and objectives】

This course is a survey of ancient to medieval Japanese literature. Major literary works are introduced with an emphasis on their literary artistry as well as their historical and cultural importance. Focus is also placed on the unique philosophy that shaped the aesthetic values in Japan throughout the centuries. This topic will be further highlighted by discussing differences in Eastern and Western world views and by introducing Okinawan poetry which displays unique features when compared with classical Japanese poetry.

ARSA100LA

Elementary Humanities B

2017年度以降入学者

サブタイトル：UK Society & Culture

Richard.J.Burrows

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

GBP/SCOPE/IGESS 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulating audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

【到達目標】

During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual material, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up pair-work comprehension questions, discussion & structured conversation practice will also give them the opportunity to improve their oral skills. Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The previous lesson's reading assignment will be reviewed before a pair-work preview will introduce the theme for that lesson. Any required vocabulary will be previewed before students view/listen to the material.

Pair-work comprehension questions will allow students to check their own understanding, while a post-viewing discussion will offer more chances to analyze the material. Time permitting, there will be structured conversation practice before outlining the following week's homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Overview	Course Introduction
2	Listening & Speaking	Presentation Guidance
3	Listening & Speaking	The Seven Wonders of Britain
4	Listening & Speaking	Wales
5	Listening & Speaking	BBC
6	Listening & Speaking	The Mini
7	Listening & Speaking	The Village
8	Listening & Speaking	British Tea
9	Listening & Speaking	The Purple Violin
10	Listening & Speaking	Sherlock Holmes

11	Listening & Speaking	Agatha Christie
12	Listening & Speaking	The Sea
13	Listening & Speaking	London Taxis
14	Listening & Speaking	UK Public Schools

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Regular reading assignments with comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation.No more than 3 absences will be permitted. Preparatory study and review time for this class are about 1 hour for each. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone dictionary will be required at every lesson

【成績評価の方法と基準】

Homework & Classwork 40%

Presentation 30%

Report 30%

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will be made available online for further study & listening practice.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to prepare a PowerPoint presentation & print the final report

【その他の重要事項】

Since there is no textbook in this course, students will need to bring an A4 or B4 folder or binder to each class in order to keep the photocopies that will be handed out at every lesson.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

In addition to offering a greater understanding of contemporary UK culture, the course encourages students through the presentation & report to critically compare & contrast UK culture & society with their own.

POL100LA

Elementary Social Science A 2016年度以前入学者

サブタイトル：Introduction to International Law

SCHIFANO ADRIEN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

GBP/SCOPE/IGESS 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims at introducing basic notions of international law. First part of the course introduces main subjects of international law and focus in particular on elements of statehood. A second part will discuss how norms of international law are created. Finally, a third part will provide these elements with some dynamism by examining the course of normal relations between States.

【到達目標】

By the end of this course, it is expected that students will have become familiar with:

1. basic notions of international law
2. current international issues
3. functioning of the international system

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Classes will consist in alternating lectures and more practical assignments. Feedbacks on tests will be given during class and on Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Characters of international law / relation with municipal law
2.	Subjects (1)	The State (1): statehood / sovereign government / territory / population / recognition / self-determination / succession
3.	Subjects (2)	The State (2): more on territory / acquisition / the sea / the sky / outer space / servitudes
4.	Subjects (3)	The State (3): more on population / individuals / groups of individuals / Other subjects / Peoples / Belligerents / Insurgents / subjects ad hoc / International Organizations
5.	Subjects (4)	Short test (quiz). Review of the first part of the class. Study of material and documents: the maritime territory of Japan
6.	Norms (1)	General Observations / Formal sources / Art. 38 ICJ statute / Customary law / two elements doctrine / practice / opinio juris / persistent objector / Taxonomy / Principles of International Law
7.	Norms (2)	Treaties / Definition / Taxonomy / Sources of the law of treaties / Conclusion / Entry into force / Good faith / Reservations / Vices of consent / Termination / Contents / Interpretation / Relation to custom
8.	Norms (3)	Other sources / case law / scholarship / municipal law / acts of international organizations / equity / Implementation of international norms / Relations between international and municipal law / dualism / monism / Reciprocity / Counter-measures /

9.	Norms (4)	Short test (quiz). Review of the second part of the class. Study of material and documents: notable case-law
10.	Relations between States (1)	Basic Principles of Contemporary International Law / States jurisdiction / territorial / personal / States immunity from jurisdiction / Sovereign immunities / Diplomatic immunities
11.	Relations between States (2)	Responsibility / Basic mechanism / International responsibility of states / Components / international wrongful act / causal link / damage / Reparation / Exemptions / Other consequences
12.	Relations between States (3)	Law of War / Prohibition of war / Self-defense / Conditions / Pre-emptive self-defense / Collective self-defense / Humanitarian law / the Hague Conventions / the Geneva Conventions and their protocols / War crimes / Crimes against humanity / International criminal court and tribunals
13.	Relations between States (4)	Peaceful settlement of disputes / Taxonomy / Negotiation / Good offices, mediation, conciliation / Arbitration / Permanent Court of Arbitration / Judicial Settlement / International Courts / UN Charter / UN dispute settlement system / Security Council / General Assembly / International Court of Justice / ICJ jurisdiction and States
14.	Final test	Written examination & Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

As a preparation for each class, students will be assigned some readings from the textbook. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Acquisition of the following textbook is necessary:
LOWE, Vaughan, "International Law: A Very Short Introduction" (2015; Oxford University Press) 144 pages, ISBN 13: 978-0199239337

【参考書】

www.un.org
Jan KLABBERS, International Law, 2nd ed. (2017; Cambridge, Cambridge University Press), ISBN: 9781316506608
Malcolm SHAW, International Law, 8th ed. (2017; Cambridge, Cambridge University Press), ISBN: 9781316638538

【成績評価の方法と基準】

Participation in class and short tests: 50%
Final examination (to be held during the test period): 50%

【学生の意見等からの気づき】

Outline revised. Course contents and slides updated.

【学生が準備すべき機器他】

Some paper and a pen.

【Outline and objectives】

This course aims at introducing basic notions of international law. First part of the course introduces main subjects of international law and focus in particular on elements of statehood. A second part will discuss how norms of international law are created. Finally, a third part will provide these elements with some dynamism by examining the course of normal relations between States.

POL100LA

Elementary Social Science B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：Basic Legal Concepts

SCHIFANO ADRIEN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

GBP/SCOPE/IGESS 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will provide students with a rough picture of law. It does so by introducing basic legal concepts.

The first part of the course introduces two main faces of law: justice and order. The second part focuses on the components of a legal order, which are mainly subjects and norms. The third and last part deals with the notion of legal relations, which are either horizontal or vertical in nature.

【到達目標】

By attending this course, students will be able to:

- understand basic legal concepts,
- build a foundation for studying more specialized fields of law,
- acquire basic legal knowledge that will complement their studies in other fields,
- handle better daily life situations by acquiring a feeling of what is legally correct and what is not, which will hopefully help them to remain free from abuses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course will introduce one new concept each week. In so doing, the class will consist in lecture and discussion. In addition, the course will rely on studying excerpts from classical works. Practice for this course will consist in text commentaries. Feedback by peers and the instructor on these assignments will be given in class.

The course follows a progression so that each class is dependent on previous classes; hence, students may find it easier to follow classes if they have consistent attendance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Rationale for the course and overview / Law, what? / Legal science, what? / Panorama of modern law / Methodology
2.	Justice	Suum cuique / Justice, what? / Equality, what? / Contemporary approaches
3.	Legal order (1): Forms of government	Legal order, what? / Typology / Social functions / Constitution, what? / Horizontal distribution of powers / Legislative, what? / Executive, what? / Judiciary, what?

4.	Legal order (2): Forms of state	Vertical distribution of power / Federalism and its rules / Classification / Changes in power and constitutional change
5.	The Subject of Law (1): Personality	Subject of law, what? / Equality, how? / Typology / Issues
6.	The Subject of Law (2): Capacity	Capacity, what? / Capacity v. rights / Variations of legal capacity / Guardianship / Agency / Delegation
7.	The Norm (1): Validity	Norm, what? / Typology / Formal sources / Sphere of validity
8.	The Norm (2): Legal System	Set of norms, what? / Hierarchy / Classification / Relations among norms
9.	The Legal Relation	Legal relation, what? / Rights / Obligations / Powers / Typology
10.	Horizontal Relations (1): Agreement	Agreement, what? / Contract, what? / Basic principles / Forms / Contents
11.	Horizontal Relations (2): Responsibility	Responsibility, what? / Evolution / Typology / Civil responsibility / Components / Basic principles / Procedures
12.	Vertical Relations (1): Public order	Public order, what? / Authority / Police / Criminal responsibility / Offense, what? / Basic principles / Procedures
13.	Vertical Relations (2): Public interest	Public interest, what? / Public service, what? / Basic principles / Procedures, issues
14.	Human Rights Conclusion	Human rights, what? / History / Typology / Protection at several levels / Enforcement

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are strongly encouraged to read the material for each class beforehand. Homework will be (moderately) requested. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used. Students will be provided with the material necessary for each class.

【参考書】

Jaap HAGE and Bram AKKERMANS (editors) *Introduction to Law* (2014, Springer)

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including homework and discussion): 40%

Presentation (number of presentations per student will depend on the number of students attending the course): 60%

【学生の意見等からの気づき】

Material for the class has been reviewed.

【学生が準備すべき機器他】

A pen and some paper might prove useful.

【Outline and objectives】

This course will provide students with a rough picture of law. It does so by introducing basic legal concepts.

The first part of the course introduces two main faces of law: justice and order. The second part focuses on the components of a legal order, which are mainly subjects and norms. The third and last part deals with the notion of legal relations, which are either horizontal or vertical in nature.

MAT100LA

Elementary Mathematics A 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed for students who need calculus to study business, economics, or other related business majors. In particular, the course will review the basic ideas you need to start calculus. The topics include exponential and logarithmic functions, arithmetic and geometric sequences, graphing basic functions, graphing exponential and logarithmic functions, limit of a sequence, limit of a function.

【到達目標】

At the end of this course, students will demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries 1
02.	Basics and Key Terms	Preliminaries 2
03.	Exponential Functions	Functions and Graphs 1
04.	Logarithmic Functions	Functions and Graphs 2
05.	Graphing Basic Functions	Functions and Graphs 3
06.	Shifting and Stretching Graphs	Functions and Graphs 4
07.	Inverse Functions	Functions and Graphs 5
08.	Graphing Exponential Functions	Functions and Graphs 6
09.	Graphing Logarithmic Functions	Functions and Graphs 7
10.	Composite Functions	Functions and Graphs 8)
11.	Arithmetic and Geometric Sequences	Limits 1

12. Sigma Notation and Limits 2
Sequences of Differences
13. Limit of a Sequence Limits 3
14. Limit of a Function Limits 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Solve the problems of the exercises well. Think by writing on a paper. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

You don't need to buy a text book. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

【参考書】

You don't need to prepare references.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

【学生の意見等からの気づき】

Not offered until the last fiscal year for the new subjects

【Outline and objectives】

In this class, we study basic mathematics for preliminary to understand calculus.

MAT100LA

Elementary Mathematics B 2016年度以前入学者

サブタイトル：

Takeyoshi KOGISO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

GBP/SCOPE 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a calculus course intended for those studying business, economics, or other related business majors, and a continuation of topics from “Elementary Mathematics II”. The following topics are presented with applications: derivatives, differentiation rules, derivative of an exponential function and logarithmic function, higher-order derivative, Taylor and Maclaurin series, integrals.

【到達目標】

Students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries
02.	The Derivative and the Slope of a Graph	Differentiation: Basic Concepts 1
03.	Some Rules for Differentiation	Differentiation: Basic Concepts 2
04.	The Product and Quotient Rules	Differentiation: Basic Concepts 3
05.	The Chain Rule	Differentiation: Basic Concepts 4
06.	Derivatives of Exponential Functions	Differentiation: Basic Concepts 5
07.	Derivatives of Logarithmic Functions	Differentiation: Basic Concepts 6
08.	Higher-order Derivatives	Differentiation: Basic Concepts 7
09.	Extrema and the First-Derivative Test	Additional Applications of the Derivative 1
10.	Concavity and the Second-Derivative Test	Additional Applications of the Derivative 2
11.	The Mean Value Theorem, Taylor's Theorem	Additional Applications of the Derivative 3
12.	Taylor and Maclaurin Series	Additional Applications of the Derivative 4
13.	Approximate Values	Additional Applications of the Derivative 5)
14.	Antiderivatives, Differential Equation	Additional Topics 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Solve the problems of the exercises well. Think by writing on a paper. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

You don't need to buy a textbook. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

【参考書】

You don't need to prepare references.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

【学生の意見等からの気づき】

Not offered until the last fiscal year for the new subjects

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the basics of calculus by doing exercises.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

安孫子 信

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文（哲）1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈アランの『幸福論』と出会う〉

「読む、調べる、理解する、その上で考える」という、哲学の一連の作業の練習をすることが、この授業の目的です。その練習台となるのは、「この世でもっとも美しい本の一つ」（フランスの作家アンドレ・モロワ）とも言われるアランの『幸福論』です。

【到達目標】

- 読めない漢字もなく、文を声に出して読むことができる。
- 不可解な語もなく、文一つ一つの意味を理解できる。
- 文と文のつながりを論理的にたどることができる。
- 文章全体の主旨を把握し、それに対して自分の考えを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

※基本的に対面授業で行います。

授業では、フランスの哲学者アラン（1868-1951）が「プロポ」（語録）と名づけて書き残した短文を取り上げ、「読む、調べる、理解する、その上で考える」という一連の作業を行っていきます。そのうち、授業で主に行うのは「理解する、その上で考える」の部分です。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方を確認し、テキストの先行部分の説明を行います。
2	王様は退屈する (1)	読みと理解
3	王様は退屈する (2)	批判と考察
4	欲すること (1)	読みと理解
5	欲すること (2)	批判と考察
6	雨の中で (1)	読みと理解
7	雨の中で (2)	批判と考察
8	克服 (1)	読みと理解
9	克服 (2)	批判と考察
10	始めている仕事 (1)	読みと理解
11	始めている仕事 (2)	批判と考察
12	幸福は徳である (1)	読みと理解
13	幸福は徳である (2)	批判と考察
14	総括	参加者からの問題提起を受けて、全体で総括の討論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「読む、調べる、理解する、その上で考える」のうち、「読む、調べる」は家で予習で行ってください。「理解する、その上で考える」は授業での作業ですが、これについても家で復習をし、リアクションペーパーを提出してもらいます。学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

アラン『幸福論』（神谷幹夫訳、岩波文庫）

【参考書】

桑原武夫編『アラン・ヴァレリー』（中公バックス・世界の名著 66）
アンドレ・モロワ『アラン』（佐貫健訳、みすず書房）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への積極的参加（30％）とリアクションペーパーの提出（30％）、および学期末レポート（40％）で評価します。なおそれぞれの方法において、4つの到達目標への到達度は、語の読みと意味調べ 30％、論理的理解 30％、哲学的理解 40％の割合で勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論を始め、できるだけ皆さんの間で話し合ってもらい機会を作って行きたいと思っています。

【Outline and objectives】

The goal of this lesson is to meet Alan's "On Happiness". Alan's "On Happiness" is said to be "one of the most beautiful books in the world" (André Maurois). While repeating the basic work of the philosophy of read and think, encounter with this book will be realized.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文（哲）1年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルトの『省察』をテキストとして、哲学の文章を理解したり、その内容についてプレゼンテーションしたりする練習をする。授業は基本的に教員との質疑応答形式で進めるので、受講生にはテキストを予習し、教員からの質問に積極的に答えようとする姿勢を求める。

【到達目標】

- ①哲学の文章を曖昧さを残さずに理解するとはどのようなことかがわかり、それを実践することができる。
- ②哲学的内容についてわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

全員でテキストを読み進めていく。そのなかで、随時、テキストの内容にかんする質問が教員からなされるので、指名された受講生はそれに答える。場合によってはグループに分かれて議論をする。最終回に、それまでに読んだ文章の内容についてグループに分かれてプレゼンテーションする。

別途課題を課した場合、それへのフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定。

なお授業計画は以下の通りだが、計画をすべてこなすことよりもテキストの理解を優先するので、実際の授業はもっとゆっくり進むはずである。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要の説明
第2回	『省察』省察一①	疑いをさしはさみうるものについて
第3回	『省察』省察一②	読解と議論
第4回	『省察』省察二①	人間の精神の本性について
第5回	『省察』省察二②	読解と議論
第6回	『省察』省察三①	神について
第7回	『省察』省察三②	読解と議論
第8回	『省察』省察四①	真と偽について
第9回	『省察』省察四②	読解と議論
第10回	『省察』省察五①	物質的事物の本質とふたたび神について
第11回	『省察』省察五②	読解と議論
第12回	『省察』省察六①	精神と身体の違いについて
第13回	『省察』省察六②	読解と議論
第14回	まとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。全員がテキストの該当箇所を予習し、授業での質問に備える。プレゼンテーションの担当グループのメンバーは教員の指示に従い、協力してプレゼンテーションの準備をする。

【テキスト（教科書）】

R. デカルト著・井上庄七・森啓・野田又夫訳『省察 情念論』、中央公論新社（中公クラシックス）、2002年。

【参考書】

必要に応じて授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業での取り組みが60%、プレゼンテーションの内容が40%。上記の「到達目標」①②がどれだけ達成されているかに応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

議論の深まりと授業の進行速度のバランスを取るよう心がける。

【Outline and objectives】

In this course, using Descartes' *Meditations* as a course text, students will practice understanding a philosophical text and giving a presentation about its content. Since the class proceeds based on the questions and answers between teacher and students, students are required to prepare for the class and be willing to answer the questions from teacher.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017年度以降入学者

西塚 俊太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文（哲）1年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

三木清の著作『人生論ノート』の各断章を下敷きしながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の基礎の習得を目指す。

【到達目標】

- ・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
- ・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 受講者全員に三木清の『人生論ノート』内の各断章を発表担当箇所として割り当てる。
- (2) 担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
- (3) その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
- (4) 演習の始めに、前回の演習で議論された内容を振り返り、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	三木清についての概説と、演習の方法の説明	三木清『人生論ノート』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明
第 2 回	大学での学習とゼミについて	ゼミ形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 ゼミでの議論の形式
第 3 回	「死について」 「幸福について」	三木清『人生論ノート』の「死について」「幸福について」の二断章に関する発表と議論
第 4 回	「懐疑について」 「習慣について」	「懐疑について」「習慣について」の二断章に関する発表と議論
第 5 回	「虚栄について」 「名誉心について」	「虚栄について」「名誉心について」の二断章に関する発表と議論
第 6 回	「怒について」 「人間の条件について」	「怒について」「人間の条件について」の二断章に関する発表と議論
第 7 回	「孤独について」 「嫉妬について」	「孤独について」「嫉妬について」の二断章に関する発表と議論
第 8 回	「成功について」 「瞑想について」	「成功について」「瞑想について」の二断章に関する発表と議論
第 9 回	「尊について」 「利己主義について」	「尊について」「利己主義について」の二断章に関する発表と議論
第 10 回	「健康について」 「秩序について」	「健康について」「秩序について」の二断章に関する発表と議論
第 11 回	「感傷について」 「仮説について」	「感傷について」「仮説について」の二断章に関する発表と議論

第 12 回	「偽善について」 「娯楽について」	「偽善について」「娯楽について」の二断章に関する発表と議論
第 13 回	「希望について」 「旅について」	「希望について」「旅について」の二断章に関する発表と議論
第 14 回	「個性について」 総まとめの発表	「個性について」に関する発表と全体の総まとめの発表、それにまつわる議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。

本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

三木清『人生論ノート』（新潮文庫）（現在市販されている版を購入すること。古い版を古本で購入するとページ指定が変更されているため演習の中で混乱が生じてしまうので注意）
教科書として指定してあるので、参加者は大学での教科書販売を利用して各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『人生論ノート』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎ゼミの主目的の一つである。
参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄記載の 3 点を総合的に考慮しながら、発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40 %）と講義内での発言や講義への参加姿勢（38 %）と学期末レポート（22 %）の合算によって評価する。

講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないで、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答・討論の時間をより長く確保するために、時間配分をいっそう心掛けて演習を運営していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史
<研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
<主要研究業績>
① 「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐる—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Life theory notes" by Miki Kiyoshi.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文（哲）1年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で哲学を学び、論理的に考え、論文・レポートを書くための基礎的な事柄を学ぶ。大きくは(1)論理、(2)知識、(3)自我、(4)行為、に関して、繰り返し考えて理解を深めておくべき基本的な事柄を取り上げる。そして最後に論文・レポートの書き方について学び、レポート作成を実践する。これにより、大学で論理的・哲学的に考えるための基礎力をつける。

【到達目標】

《知識》哲学的に考えるための基礎的な知識を得る。

《態度》物事を哲学的・論理的に考える態度を身につける。

《技能》論文・レポートを書くための基礎的なマナーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(1) 教員は授業の初めに、前回で提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

(2) 次に教員は授業プリントの内容について説明をします。

(3) その後に学生は授業の課題プリントの問題について考察をして、発表をして、質疑応答をする。

(4) 最後に学生は課題プリントに自分の考えを書き、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 哲学の基本問題 (3) 自我 テキスト：16, 27 頁
第2回	矛盾	(1) 「矛盾」の由来 (2) 矛盾と同一性 (3) 「矛盾」の定義 テキスト：29, 33, 37 頁
第3回	総合的な判断	(1) 矛盾律 (2) 分析判断・総合判断 (3) 必要条件 テキスト：42-44, 83 頁
第4回	論理と事実	(1) 事実と概念 (2) 概念と言語 (3) 反対対当 テキスト：46-50, 53-56 頁
第5回	「aはbである」はナンセンス？	(1) 必要十分条件 (2) 唯名論（ノミナリズム） (3) 総体および皆無の原理 テキスト：76-81, 83-86, 93, 236 頁
第6回	感覚と物	(1) 感覚 (2) 判断・推理 (3) 物の同一性 テキスト：98, 102-115 頁

第7回 懐疑 (1) 物体の一次性質と二次性質

(2) 感覚知覚への疑い

(3) 算術・幾何学への疑い

テキスト：118-120, 126-130 頁

第8回 明証性

(1) 私は存在する

(2) 私は考える

(3) 明証的な知覚

テキスト：132-136, 141-142 頁

第9回 自我

(1) 私はあるが、誰でもない？

(2) 人格（ペルソナ）

(3) 主観的と客観的

テキスト：157-172 頁

第10回 行為の価値

(1) 善意志

(2) 意図の選択

(3) 道徳的価値

テキスト：177-181 頁

第11回 善い意志

(1) 隣人愛

(2) 無制限に善い意志

(3) 定言命法と黄金律

テキスト：182-183, 186-187, 190-191 頁

第12回 自由と道徳

(1) 「である」と「べきである」

(2) 決定論

(3) 心情と結果

テキスト：215-219, 223-228 頁

第13回 レポートの作成

(1) 主題

(2) 資料収集

(3) 導入部を書く

第14回 レポートの実践

(1) アウトライン

(2) 文章マナー

(3) レポートを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備：各回のテーマで何を考えるのか事前に配布された授業プリントを使って把握しておく。

※よく理解して考えを深めるのはゼミでの課題となる。

復習：(1) 前回の課題について再度考えて、さらに理解を深める。

(2) 今回の授業プリントとテキストで内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

ラインハルト・プラント著『哲学 ひとつの入門』（理想社）

※ゼミではテキストにかんする授業プリントを主に用います。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価の観点は次のとおり。

(1) 毎回のゼミへの参加態度と課題プリントの評価

(2) セメスター末のレポートの評価

「到達目標」欄に記載した3点を(1)を7割、(2)を3割で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、聞き取りやすい発声を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

We learn the elementary things to study philosophy, to think logically and to write papers or reports. Following the themes (1) logic, (2) knowledge, (3) ego, (4) action we study the philosophically basic things which should be repeatedly thought about and deeply understood. At last we learn the way to write papers or reports and practice actually writing them. Thereby we acquire the basic powers to think logically and philosophically at universities.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017年度以降入学者

福元 広二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文(英)1年※定員制

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート(essay)の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1 Semesterで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第2回	Note Taking	講義ノートの取り方
第3回	Library Tour	図書館の使い方
第4回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第5回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第6回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第7回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第8回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第9回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第10回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第11回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方

第12回	Presentations 2: Group Presentations, 第1回目	グループによる調査・発表1
第13回	Presentations 3: Group Presentations, 第2回目	グループによる調査・発表2
第14回	Presentations 4: Group Presentations, 第3回目	グループによる調査・発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】

*英文学科1年生は必ず履修してください。

【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

田中 裕希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文（英）1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術などを習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」やオフィスアワーで行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Library Tour	図書館の使い方
第 3 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2	グループによる調査・発表 1 回目

第 13 回 Presentations 3 グループによる調査・発表 2 回目

第 14 回 Presentations 4 グループによる調査・発表 3 回目

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に到達目標欄に記載した 3 点を評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

引き続きアクティブにディスカッションしていく。

【その他の重要事項】

* 英文学科 1 年生は必ず履修してください。

【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017年度以降入学者

小島 尚人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

文(英)1年※定員制

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート(essay)の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1 Semesterで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、各クラスを金曜の1限、2限、3限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第2回	Note Taking	講義ノートの取り方
第3回	Library Tour	図書館の使い方
第4回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第5回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第6回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループワークの試み
第7回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第8回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第9回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第10回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第11回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方

第12回 Presentations 2: グループによる調査・発表1 Group Presentations, 第1

回目

第13回 Presentations 3: グループによる調査・発表2 Group Presentations, 第2

回目

第14回 Presentations 4: グループによる調査・発表3 Group Presentations, 第3

回目

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

*英文学科1年生は必ず履修してください。

【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

丹治 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文（英）1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・ 1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。
- ・ 4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。
- ・ 良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・ 提出されたレポートについてはルーブリックで講評する（希望者にたいして）
- ・ 原則対面授業で行うが、コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、遠隔授業に切り替えることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開

第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第 1 回目	グループによる調査・発表 1
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第 2 回目	グループによる調査・発表 2
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第 3 回目	グループによる調査・発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から、到達目標欄に記載した 3 点を総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

* 英文学科 1 年生は必ず履修してください。

【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017年度以降入学者

大塚 紀弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

文（史）1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の授業には、講義形式と演習形式があります。前者では、専門的な話を整理して理解する能力が必要となります。後者では、自ら調べ、考察し、その内容を伝える能力が求められます。この授業では、このような能力をいかに身につけ、向上させたいのか、一緒に考えていきたいと思います。

【到達目標】

(1) 専門的な話を整理して理解する能力、(2) 自ら調べ考察する能力、(3) 調べた内容を伝える能力など、大学で学ぶための基礎的な能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

9章構成とし、講義形式を基本として進めます。配布プリントとパワーポイントを併用し、基本的に参考書の内容に沿って説明します。パワーポイントの文面については、事前に各章ごとに授業支援システムにアップロードする予定です。また、講義の内容をふまえて、履修者に課題を実践してもらい、意見交換をします。研究発表、図書館実習、キャリアガイダンスの機会も設ける予定です。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎ゼミで学ぶこと	履修のガイダンス
第 2 回	ノートの取り方（1）	大学の授業スタイル
第 3 回	ノートの取り方（2）	ノート取りの実践
第 4 回	研究論文の読み方	研究論文の作法
第 5 回	論文要約の仕方（1）	論文要約の作法
第 6 回	論文要約の仕方（2）	論文要約の実践
第 7 回	レポートの書き方	レポートの作法
第 8 回	図書館の利用と情報検索	図書館実習
第 9 回	レジュメの作り方	レジュメの作法
第 10 回	研究発表の仕方	研究発表の作法
第 11 回	研究発表（1）	研究発表の実践（第 1 グループ）
第 12 回	研究発表（2）	研究発表の実践（第 2 グループ）
第 13 回	卒業後の進路を考える	キャリアガイダンス
第 14 回	レポート提出	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップロードされたパワーポイントの文面を基に予習する。プリント、ノートを見直して復習する。また、事前に参考書を読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

藤田哲也編『大学基礎講座 改増版』（北大路書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」欄記載の 3 点を評価基準として、その到達度を総合的に評価する。平常点 60%、研究発表点 20%、レポート点 20% の合計で評価する予定である。正当な理由なく 5 回以上欠席した場合は、D 評価とする。担当の研究発表、レポートを正当な理由なく怠った場合は、D 評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

【Outline and objectives】

There are lecture forms and exercise forms in the university classes. In the former, the ability to organize and understand professional stories is necessary. In the latter, the ability to examine, consider, and communicate its contents is required. In this lesson, I would like to think about how to acquire and improve such abilities.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

宇都宮 美生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

文(史)1年※定員制

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶために必要な講義の受講法、参考書の検索、本の読み方、レジュメの作り方、演習での発表、討論の技法などを習得する。

【到達目標】

講義を聴いてその内容を理解するために必要なメモの作成、不明な点の調査、自分なりの理解をさらに発展させるための文献等資料検索の技法などを身につけることができる。自分の考えを口頭で、あるいは文書等で発信する方法を体験しながら学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の講義、あるいは演習がどのようなものかという説明と講義を聴き、演習に参加するために身につけておくことが望ましい技法の紹介、さらにその技法を各自がやってみることで身につけるための実習を組み合わせる。参加者はレジュメを作成して、授業で発表し、参加者全員で議論する。授業中の発表で指摘されたことを修正し、完成したものを最後に提出する。各授業の始めに前回の授業の内容を振り返り、授業の最後にその日学習したことについてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容と進め方 講義の受け方 発表分担の割り振り 発表の仕方（紙媒体とパワーポイント、教員による見本）
第 2 回	工具書の紹介	辞書、用語集、地図集、ネットでのデータベースなどの利用の仕方 レポート・レジュメの書き方 1
第 3 回	図書館の利用の仕方	参考文献の調べ方 他の図書館の利用の仕方 レポート・レジュメの書き方 2
第 4 回	発表 1	第 1 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 5 回	発表 2	第 2 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 6 回	発表 3	第 3 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 7 回	発表 4	第 4 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 8 回	発表 5	第 5 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 9 回	発表 6	第 6 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 10 回	発表 7	第 7 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 11 回	発表 8	第 8 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 12 回	発表 9	第 9 グループの担当者の発表とそれに対する議論

第 13 回 発表 10

第 10 グループの担当者の発表とそれに対する議論

第 14 回 学習のまとめ

学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は詳しいレジュメとパワーポイントファイルを作成する。授業で指摘された部分を修正し、完成したものを提出する。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用する資料は授業で配布する。

第 2 回・第 3 回で川崎昌平『大学 1 年生の君が、はじめてレポートを書くまで』ミネルヴァ書房、2020 年を使用するので、大学の生協あるいは書店で購入して持参すること。

【参考書】

授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」欄に記載した内容を評価基準として、下記 2 つの面で総合的に評価する。

発表内容と完成レジュメ（50 %）

・テーマについて適切に発表する。

・最後に完成レジュメを提出する。

授業中の発言や参加姿勢（50 %）

・発表者は必ず出席し、やむをえない理由で欠席する場合は、他の発表者とスケジュールを調整し、必ず発表する。

・他人の発表において指摘された改善点を、自分の発表で繰り返さないようにする。

・参加者は質問・意見について必ず発言する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを人数分印刷し、配布すること。なお、当日の印刷のために授業に遅刻することは認めない。自宅または学内でパワーポイントの使用を求める。

【担当教員の専門分野等】

中国史（都城史、水利史、交通史）、日中交流史

【事務への連絡事項】

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。

パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading various academic articles in respect with history.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

後藤 篤子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

文(史) 1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの大学での学びに必要な「聞く・読む・書く・口頭発表する」という基本的スキルを習得します。これらのスキルは、社会に出てどのような道に進もうとも最低限求められる、社会人基礎力でもあります。

【到達目標】

- ①人の話（講義）を聞きながら必要なメモ（ノート）を取ることができる。
- ②論説文を批判的に読むことができる。
- ③未知の事柄、十分に知らない事柄について、自分で調べることができる。
- ④自分が調べた成果や自分の考えを、口頭で発表したり、明快な文章で表すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はほぼ毎回、講義と受講生による作業を組み合わせる形で進めます。次週までの宿題を課すことも多く、また、最後の数回は受講生による口頭発表と質疑応答・討議に当てます。その口頭発表を個人で行うか、グループ分けしてグループ別発表にするかは、初回時に受講生と相談して決めます。なお、宿題に対しては次回授業時に解説やコメントをし、提出物についてはコメントを付けて各自に返却します。口頭発表に対するフィードバックは当該授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	大学および史学科で学ぶこと。テーマ1～4の提示と、発表形式の決定。
2	自分に役立つノートを作る	講義の聞き方とノートの取り方
3	授業理解のための読む技術	テキストの種類と段落の意義
4	論説文を要約する	要約作業が必要な理由と、要約の実践練習
5	論説文を批判的に読む(1)	「批判的に」の意味。レポート・卒論作成に役立つ読書ノートを作る。
6	図書館の活用方法	図書館を利用した調査や文献検索の実践ガイダンス
7	論説文を批判的に読む(2)	クリティカル・リーディングの実践練習
8	自分のキャリア形成を考える	キャリアセンターのスタッフによる1年生向けガイダンス
9	レポートの書き方と、プレゼンテーションの技術(1)	論理的文章を書くための留意事項および技術的注意。口頭発表の一般的流れとレジユメの役割。
10	プレゼンテーションの技術(2)	テーマ1を選択した受講生による口頭発表と質疑応答
11	プレゼンテーションの技術(3)	テーマ2を選択した受講生による口頭発表と質疑応答

- | | | |
|----|-----------------|------------------------------------|
| 12 | プレゼンテーションの技術(4) | テーマ3を選択した受講生による口頭発表と質疑応答 |
| 13 | プレゼンテーションの技術(5) | テーマ4を選択した受講生による口頭発表と質疑応答。期末レポート提出。 |
| 14 | まとめ | 期末レポート返却と講評 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実践練習のための課題に対する事前準備。授業内容や、提出物へのフィードバックを踏まえての復習。これらと並行して、口頭発表に向けた調査とレジユメ作成、およびレポート作成も、授業外で進める必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回、授業概要や作業素材を記載したプリントを配布します。

【参考書】

藤田哲也編著『大学基礎講座 改増版—充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2006年。
田中共子編『よくわかる学びの技法 [第2版]』、ミネルヴァ書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内作業への取り組み態度や出席状況）30%、提出物や口頭発表の準備度30%、期末レポート40%で、評価します。提出物については到達目標①や②の観点から、口頭発表については到達目標③・④の観点から評価します。期末レポートについては、文章や形式等、授業で注意したことが習得できているかどうかにも留意しつつ、到達目標②・③・④の観点から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を直近で担当した2018年度のアンケートでは授業の工夫や理解度など、総じて高く評価してもらえましたが、授業外学習時間の平均が想定していたより少なかったため、2021年度は課題の出し方を工夫したいと考えています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help first-year students to acquire basic academic skills indispensable for studies at university.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

松本 剣志郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

文（史）1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生徒と学生は何が違うのか。高等教育とは何か。論文の読み方からレジュメの切り方、レポートの書き方まで、史学科の学生になってゆくための基本的技術を学ぶ。

【到達目標】

①史料に基づいて思考し、それを適切な文章で表現できる。②レジュメやレポートの作成方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習とを折衷した授業をおこなう。学生諸君には授業内で発表してもらう。キャリアガイダンスと図書館ガイダンスは他クラスと合同のためスケジュールの変更がありえる。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小レポートや発表にたいする講評もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	大学の授業	生徒と学生、講義と演習について
第 3 回	要約の仕方	引用と剽窃
第 4 回	キャリアガイダンス	自己分析とキャリア形成
第 5 回	『論文の書き方』精読 1	論文とは
第 6 回	『論文の書き方』精読 2	伝わる文章
第 7 回	レジュメの切り方	レジュメとは
第 8 回	図書館ガイダンス	法政大学図書館を使いこなす
第 9 回	レポートの書き方	レポートの構成
第 10 回	研究発表 1	各自任意のテーマで発表（第 1 グループ）
第 11 回	研究発表 2	各自任意のテーマで発表（第 2 グループ）
第 12 回	研究発表 3	各自任意のテーマで発表（第 3 グループ）
第 13 回	研究発表 4	各自任意のテーマで発表（第 4 グループ）
第 14 回	まとめ	ゼミ・卒業論文に向けて、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を引く癖をつけること。テキストを通読しておくこと。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

清水幾太郎『論文の書き方』（岩波新書）

【参考書】

井上ひさし『私家版日本語文法』（新潮文庫）

竹内洋『大学の下流化』（NTT 出版）など

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した 2 点を評価基準としてレポート（50 %）、平常点（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な技術から説明していきます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

羽佐田 紘大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文（地）1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、大学での能動的な学習に必要な基礎的なスキルの修得を目指す。

【到達目標】

文献や資料を自ら調べ、内容を理解した上で、レポート作成やプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。授業を通して、文献の検索や収集、文献の要約、設定したテーマに基づくレポート作成やプレゼンテーションについて学んでいく。提出された課題に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
第 2 回	自己紹介	PowerPoint を使って自己紹介を行う。
第 3 回	大学におけるハラスメント	ハラスメントに関する講習を受ける。
第 4 回	文献の紹介（1）	自身が選んだ本を紹介する（いわゆる「ビブリオバトル」を行う）。
第 5 回	文献の紹介（2）	前回は引き続き「ビブリオバトル」を行う。
第 6 回	文献の検索	文献の検索方法を学ぶ。
第 7 回	レポートの作成（1）	レポートを作成するための基本的なスキルを学ぶ。
第 8 回	レポートの作成（2）	各自テーマを設定し、資料探しを行う。
第 9 回	レポートの作成（3）	設定したテーマに基づいてレポートを作成する。
第 10 回	プレゼンテーションの準備	作成したレポートを基にプレゼンテーションの準備を行う。
第 11 回	プレゼンテーションの実施（1）	全体を 3 グループに分けた上で、1 グループ目のメンバーが各自プレゼンテーションを行う。
第 12 回	プレゼンテーションの実施（2）	全 3 グループのうち、2 グループ目のメンバーが各自プレゼンテーションを行う。
第 13 回	プレゼンテーションの実施（3）	全 3 グループのうち、3 グループ目のメンバーが各自プレゼンテーションを行う。
第 14 回	ディベート	これまでのプレゼンテーションの内容を参考にディベートを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備など授業時間外での取り組みが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントの配布や文献の紹介を行う。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に記載した内容を評価基準として、その達成度を平常点（40 %）、レポート（30 %）、プレゼンテーション（30 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word や PowerPoint 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

講習の予約状況によって授業回の順序が入れ替わることがある。

【Outline and objectives】

This course deals with basic skills required to learn in university.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

伊藤 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文(地) 1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目のテーマは、いわゆる「読み、書き、ソロバン」といった、これから大学で学ぶための基礎的な事柄を学びます。現代に即して言えば「読んで、書いて、話す」の基礎の修得です。従いまして本授業では、大学教育において必要な「読んで、書いて、話す」知識、テクニックについてを学び、その修得を目指します。

【到達目標】

「文献や資料が適切に読めるようになること」「プレゼンテーションが適切にできるようになること」「文章が適切に書けるようになること」が具体的な到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則としてゼミ形式で行います。従いましてゼミ生の積極的な参加が不可欠となります。授業中に受けた質問や意見についてはできる限り授業中に対応したい。残された課題については、次の授業で対応する。また、提出を求めたレポート等については、コメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ	本科目の目的について説明します
2	論文の書き方	論文作成に必要な基礎知識の解説を行います
3	文献検索の仕方 (1)	文献の調べ方について解説します
4	文献検索の仕方 (2)	ネット検索について学びます
5	科学的なプレゼンテーション	プレゼンテーションの仕方について学びます
6	プレゼンテーション A (1) - テーマ設定 -	自己紹介をしながら、テーマ設定について学びます
7	プレゼンテーション A (2) - ストーリー -	自己紹介をしながら、ストーリーについて学びます
8	プレゼンテーション A (3) - 論点のまとめ方 -	自己紹介をしながら、論点のまとめ方について学びます
9	プレゼンテーション A (4) - 振り返りの討論 -	自己紹介の内容について討論をします
10	プレゼンテーション B (1) - 資料の提示 -	テーマ発表をした上で、資料やデータの整理と解析の方法を学びます
11	プレゼンテーション B (2) - 引用の仕方 -	テーマ発表をした上で、プレゼン時の引用の仕方について学びます
12	プレゼンテーション B (3) - 論理の展開 -	テーマ発表をした上で、論理的な文章の書き方について学びます
13	プレゼンテーション B (4) - わかりやすさ -	テーマ発表をした上で、レポートのわかりやすさについて学びます
14	プレゼンテーション B (5) - 振り返りの討論 -	テーマ発表の内容について討論をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で課される事柄を次週までの間に調べておいてください。各自の発表を丹念に行うとともに、他人の発表へのコメントを欠かさず行うための準備も必要です。本演習の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を授業中に配布します。

【参考書】

講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各発表による評価 50 %、講義への参加度 50 %で行います。ゼミ形式の科目なので通常の試験は実施しません。毎回、ゼミに参加し、内容の理解に努め、討論に参加してください。評価は到達目標欄に記載した 3 点を評価基準として、その達成度によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすいしゃべり方を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用します。

【その他の重要事項】

とくにありません。

【Outline and objectives】

The theme of this subject is the so-called "reading, writing, abacus", which is the basics for studying at university. In modern times, it is the acquisition of the basics of "reading, writing, and speaking." Therefore, in this class, we aim to learn and acquire the "reading, writing, and speaking" knowledge and techniques necessary for university education.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文(地) 1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、高校までの受け身の学習とは異なり、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。つまり、学習に必要な情報収集や情報発信に関わる能力や積極的に自ら学習する意欲が必要です。本授業のテーマは、大学生として必要な学習スキルの修得です。

【到達目標】

このゼミでは、専門ゼミに入る前段階として、大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。具体的には、文献収集の仕方や文献の読み方、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方などを修得することが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な内容として、図書館での文献検索の実習、文献の収集方法、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習します。大学生として、主体的に各課題に取り込んでください。課題については、Google クラスルームにすべてアップし、受講生で共有します（紙での配布はしません）。プレゼンテーションや発表内容について授業内で教員からコメントをします。なお、大学の方針や社会状況の変化などで授業方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに～ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方針、受講者による自己紹介など
2	文献検索の方法	図書館での実習
3	文献の読み方	具体的にテキストの一部を受講者が音読しながら、教員が解説する。
4	文献の要約①	テキストの内容をまとめて、レジュメで発表してもらいます。（第 1 グループ）
5	文献の要約②	テキストの内容をまとめて、レジュメで発表してもらいます。（第 2 グループ）
6	文献の要約③	テキストの内容をまとめて、レジュメで発表してもらいます。（第 3 グループ）
7	文献の要約④	テキストの内容をまとめて、レジュメで発表してもらいます。（第 4 グループ）
8	問題意識とテーマ設定	社会のなかで問題意識を持ち、テーマ設定を行きましょう。
9	テーマの発表①	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。（第 1 グループ）
10	テーマの発表②	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。（第 2 グループ）

11	テーマの発表③	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。（第 3 グループ）
12	テーマの発表④	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。（第 4 グループ）
13	テーマの発表⑤	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。（第 5 グループ）
14	レポートの作成方法	レポートの書き方・まとめ方について教員が説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。レジュメ（要約）やパワーポイントを授業開始前に準備してください。

【テキスト（教科書）】

(1) 金田章裕『地形と日本人- 私たちはどこに暮らしてきたか』日経プレミアムシリーズ 2020 年。市ヶ谷図書館の指定図書です。発表者はできれば購入して読んでください。

(2) 同『和食の地理学- あの美味を生むのはどんな土地なのか』平凡社新書、2020 年。市ヶ谷図書館の指定図書です。発表者はできれば購入して読んでください。

【参考書】

Google クラスルームで適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % プレゼンテーション 25 % レポート提出 25 % 到達目標欄に記載した具体的目的の達成度を評価基準として、特に授業への参加意欲や発表内容を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

各自のテーマ設定を「江戸東京」を地理学的に分析するかたちで統一したところ、テーマが設定しやすく好評でしたので引き続きそのかたちで行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。パワーポイントの作成もします。これらをできるように PC など機器を準備してください。

【Outline and objectives】

This course examines academic skills for studying in university, The main purpose is collecting information presentation skills and writing papers.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

山口 隆子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文（地）1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、高校までの受け身の学習とは異なり、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。つまり、学習に必要な情報収集や情報発信に関わる能力や積極的に自ら学習する意欲が必要です。本授業のテーマは、大学生として必要な学習スキルの修得です。

【到達目標】

大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。具体的には、文献収集や読み方、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方などを修得することが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

文献検索の実習、文献の収集、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習します。

提出されたリアクションペーパーやレポートには、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに～ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方針、受講者による自己紹介など
第 2 回	大学での学びとは	大学で学ぶことの意味を考える。
第 3 回	キャンパス探検	キャンパス内及び周辺を、地図を片手に歩く。
第 4 回	図書館ガイダンス	情報検索や図書検索の方法などを学習します。
第 5 回	雑誌論文と専門書	地理学科図書室で専門書や雑誌論文を手にとってみます。
第 6 回	レポートの書き方①書式について	レポートを書くための基本的スキル（書式）を学習します。
第 7 回	レポートの書き方②内容について	レポートを書くための基本的スキル（内容構成）を学習します。
第 8 回	レポートの作成①資料収集方法	実際にレポートを作成してみます。そのための資料探しから始まります。
第 9 回	レポートの作成② Word の使用方法	レポートを書いてみます。
第 10 回	プレゼンテーション① PowerPoint の使用方法	プレゼンテーションの基礎的技法について解説する。
第 11 回	プレゼンテーション② 第 1 回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号 1～8
第 12 回	プレゼンテーション③ 第 2 回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号 9～18
第 13 回	プレゼンテーション④ 第 3 回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号 19～25

第 14 回 卒業後の進路

本授業のまとめと、卒業後の進路について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

入学時に配布される『学習支援ハンドブック 2021』を使用する。

【参考書】

小笠原喜康（2018）：『最新版 大学生のためのレポート・論文術』。講談社現代新書、234p。
 田中研之輔（2017）：『先生は教えてくれない大学のトリセツ』。ちくまプリマー新書、204p。
 トミヤマユキコ・清田隆之（2017）：『大学 1 年生の歩き方』。左右社、175p。
 木下是雄（1981）：『理科系の作文技術』。中公新書、244p。
 野間春雄ほか編著（2017）：『ジオ・パル NEO[第 2 版]:地理学・地域調査便利帖』。海青社、286p。
 沼崎一郎（2018）：『はじめての研究レポート作成術』。岩波書店、242p。
 高橋佑磨・片山なつ（2016）：『伝わるデザインの基本 増補改訂版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』。技術評論社、240p。
 宮野公樹（2013）：『研究発表のためのスライドデザイン』。講談社、176p。

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。

レポート・課題：40%、発表：40%、授業への取組：20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

指示された授業時に個人用のパソコン（個人所持のもの、あるいは大学からの貸し出しパソコン）を用意すること。

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として 20 年間勤務していた経験を活かし、大学での学びから就職に関するライフサイクルについて講義していきます。

【Outline and objectives】

The theme of this class is the acquisition of learning skills necessary for university students.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

加藤 みずき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

文(心)1年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の基礎ゼミ I では、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル（技能）の習得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからも役立つノートを取れるようになること」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解すること」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できること」。
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書けること」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べること」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なのかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
第 2 回	ノートの取り方 1	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第 3 回	ノートの取り方 2	前回のノートに対する自己評価とノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を導く
第 4 回	初年次教育とは	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第 5 回	テキストの読み方	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第 6 回	要約の仕方	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第 7 回	きちんと考える方法 1	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第 8 回	きちんと考える方法 2	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践

- 第9回 図書館の利用 PCを利用した情報検索法と、図
高校の図書室と大学図 書館ツアー
書館の違いを理解し、
適切に蔵書検索できる
ようになる
- 第10回 レポートの書き方1 大学レポートが要求すること、基
レポートと作文の違い 本的な原稿作成上のルールの確認
を説明でき、事実と意 見を書き分けられるよ
うになる
- 第11回 レポートの書き方2 レポートや試験の出題意図をふま
効率的なレポート作成 えた課題作成、宿題に対する添削
手順を理解し、出題意 図の読み取りができる
ようになる
- 第12回 レポート提出と自己 レポートの自己評価と本授業の授
評価 業目標の再確認
レポート評価基準を理 解し作成過程を振り返
り自分の問題点に気づ
く
- 第13回 ここまでの総括 これまでの授業内での「気づき」
基礎ゼミで半期間に身 の総点検と新たな「気づき」
につけたことを振り返
り、今後の学びの方向
性を考える
- 第14回 レポート返却 自己評価と教員評価の比較と自己
レポート自己評価の基 評価基準の修正の必要性の説明
準を適切に修正し、内 化する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

- 第1回 教科書第0講の予習
第2回 教科書第1講の予習とノートの見直し
第3回 教科書第2講の予習と、ノートの整理
第4回 教科書補講の予習とこれまでの総復習
第5回 教科書第3講の予習・第4講のための要約の宿題
第6回 教科書第4講の予習・再度の要約課題
第7回 教科書第5講の予習・教科書の練習課題
第8回 教科書第5講の予習・練習課題の実施
第9回 教科書第6講の予習・情報検索の宿題
第10回 教科書第7講の予習・第9回宿題見直し
第11回 教科書第8講の予習・練習課題直し
第12回 レポート作成・春学期総復習
第13回 「気づき振り返りシート」作成
第14回 これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006).「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために-」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価(未受験)とします。平常点として、授業1回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2点です。この平常点は到達目標の1, 4, 5と対応します。

課題の提出(20%)…授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各5点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質(深さ、自分なりの視点の獲得等)に応じた0~10点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の2, 3と対応します。

期末レポート(40%)…この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計40点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の2, 3, 4と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017年度以降入学者

加藤 みずき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

文(心)1年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の基礎ゼミⅡでは、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業（グループワーク）が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4～6人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むこととなります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので、よく理解し、準備をして臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期授業の概要と目標、班活動の意義と協同学習、授業での具体的なプロジェクト
第2回	班の構成と活動方針	今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い
第3回	発表テーマ決定	協同学習の五つの基本原理、班活動のトレーニング、発表テーマについての話し合い
第4回	心理学科のカリキュラム	二年度以降のカリキュラムの概要、二年度の演習Ⅰ履修について、卒論までの道のりと実際
第5回	レジュメの作り方	レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動
第6回	発表のしかた	発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動
第7回	発表準備1	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成）、発表に向けての班活動
第8回	構想発表1	構想発表、観点別評価とコメント作成
第9回	構想発表2	構想発表、観点別評価とコメント作成
第10回	ここまでの総括	発表の仕方と内容の両面から見直し、第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第11回	発表準備2	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第12回	本発表1	本発表、観点別評価とコメント作成

- 第13回 本発表2 本発表、観点別評価とコメント作成
発表について、他班に評価を積極的にフィードバックし、適切に自己評価できる
- 第14回 総括 秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎を振り返り、自分にゼミで身につけたことの意識化としての意味を説明できる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 第1回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
第2回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する
第3回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
第4回 演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第9講の予習
第5回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第10講の予習
第6回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
第7回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
第8回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
第9回 本発表に向けて構想の練り直し
第10回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす
第11回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
第12回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
第13回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する
第14回 一年間この授業で学んできたことを、二年度以降の学習目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006)。「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために-」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…授業へ出席し積極的に班活動に参加したり、他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続3回欠席した者、半期中に通算で5回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E評価(未受験)とします。平常点として、授業一回につき+4点を加算し、上限を40点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の1、5と対応します。

班発表(40%)…構想発表(10%)と本発表(30%)のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の2、3、4、5と対応します。

班活動(20%)…各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果(班の発表の評価)の1/2に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の1と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017年度以降入学者

加藤 みずき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

文(心)1年※定員制

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の基礎ゼミⅠでは、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル(技能)の習得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身に必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取れるようになること」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解すること」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できること」。
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書けること」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べること」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにすため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことではなくて、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
第 2 回	ノートの取り方 1	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第 3 回	ノートの取り方 2	前回のノートに対する自己評価とノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を獲得
第 4 回	初年次教育とは	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第 5 回	テキストの読み方	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第 6 回	要約の仕方	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第 7 回	きちんと考える方法 1	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第 8 回	きちんと考える方法 2	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践

第 9 回	図書館の利用	PC を利用した情報検索法と、図書館ツアー
第 10 回	レポートの書き方 1	大学レポートが要求すること、基本的な原稿作成上のルールの確認
第 11 回	レポートの書き方 2	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる
第 12 回	レポート提出と自己評価	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第 13 回	ここまでの総括	レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく
第 14 回	レポート返却	レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

- 第 1 回 教科書第 0 講の予習
- 第 2 回 教科書第 1 講の予習とノートの見直し
- 第 3 回 教科書第 2 講の予習と、ノートの整理
- 第 4 回 教科書補講の予習とこれまでの総復習
- 第 5 回 教科書第 3 講の予習・第 4 講のための要約の宿題
- 第 6 回 教科書第 4 講の予習・再度の要約課題
- 第 7 回 教科書第 5 講の予習・教科書の練習課題
- 第 8 回 教科書第 5 講の予習・練習課題の実施
- 第 9 回 教科書第 6 講の予習・情報検索の宿題
- 第 10 回 教科書第 7 講の予習・第 9 回宿題見直し
- 第 11 回 教科書第 8 講の予習・練習課題直し
- 第 12 回 レポート作成・春学期総復習
- 第 13 回 「気づき振り返りシート」作成
- 第 14 回 これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）(2006). 「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために -」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業 1 回につき +4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は -2 点です。この平常点は到達目標の 1, 4, 5 と対応します。

課題の提出 (20%) …授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた 0~10 点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の 2, 3 と対応します。

期末レポート(40%)…この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計40点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の2、3、4と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017年度以降入学者

加藤 みずき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

文(心)1年※定員制

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の基礎ゼミⅡでは、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業（グループワーク）が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4～6人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけののではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので、よく理解し、準備をして臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりの目標を明確にする	秋学期授業の概要と目標、班活動の意義と協同学習、授業での具体的なプロジェクト
第 2 回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュールを把握する、班活動を充実させるために積極的に行動する	今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い
第 3 回	発表テーマ決定 協同学習による話し合いの技法を実践する、各班での発表テーマを決定する	協同学習の五つの基本原理、班活動のトレーニング、発表テーマについての話し合い
第 4 回	心理学科のカリキュラム 自分の所属する心理学科のカリキュラムを説明できる、卒論に対する具体的イメージを持つ	二年次以降のカリキュラムの概要、二年次の演習 I 履修について、卒論までの道のりと実際
第 5 回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメの役割を説明できる、構想発表に向けて班の意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動
第 6 回	発表のしかた 発表においてもっとも気をつけるべきことを説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動
第 7 回	発表準備 1 他班の発表に対する「聴き方」の注意点を説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成）、発表に向けての班活動
第 8 回	構想発表 1 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表に適切な質問やコメントをする	構想発表、観点別評価とコメント作成
第 9 回	構想発表 2 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表と比較して自分の班の特徴を把握できる	構想発表、観点別評価とコメント作成
第 10 回	ここまでの総括 構想発表を通じて明らかになった問題点・改善点を整理して実行に移せる	発表の仕方と内容の両面から見直し、第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第 11 回	発表準備 2 本発表に向けて、内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に挙げることができる	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第 12 回	本発表 1 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる、他班に適切にコメントできる	本発表、観点別評価とコメント作成

第 13 回	本発表 2 発表について、他班に評価を積極的にフィードバックし、適切に自己評価できる	本発表、観点別評価とコメント作成
第 14 回	総括 この授業で学んだことを振り返り、自分に与えたことの意識化としての意味を説明できる	秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 第 1 回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
- 第 2 回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する
- 第 3 回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
- 第 4 回 演習 I 履修手続きの確認と、教科書第 9 講の予習
- 第 5 回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第 10 講の予習
- 第 6 回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
- 第 7 回 レジュメの印刷原案を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
- 第 8 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
- 第 9 回 本発表に向けて構想の練り直し
- 第 10 回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす
- 第 11 回 レジュメの印刷原案を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
- 第 12 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
- 第 13 回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する
- 第 14 回 一年間この授業で学んできたことを、二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）(2006). 「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために -」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) …授業へ出席し積極的に班活動に参加したり、他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき +4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の 1, 5 と対応します。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の 2, 3, 4, 5 と対応します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果（班の発表の評価）の 1/2 に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の 1 と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営 1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートや論文の書き方を学びます。

【到達目標】

- ・レポートや論文を書く上で知っておくべき基礎的な事柄を身につけること。
- ・論述文とは何かを理解し、論理的な文章が書けるようになること。
- ・正しく読みやすい文章が書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義とワークが中心です。春学期を通して段階的に一つのレポートを完成させていきます。その過程で、学習支援システムを通じて適宜フィードバックを行います。提出してもらったレポートは返却し、一人一人に改善すべき点を伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・課題説明
2 回目	レポートの文章技術	テーマに基づく講義
3 回目	要約のしかた	説明とワーク
4 回目	根拠となる事柄	説明とワーク
5 回目	アイデアの出し方	説明とワーク
6 回目	図書館ガイダンス	図書館でガイダンス受講
7 回目	アウトラインのつくり方	説明とワーク
8 回目	資料を探しながらアウトラインをつくる	説明とワーク
9 回目	資料に基づいてアウトラインを書く	説明とワーク
10 回目	引用のルール	説明とワーク
11 回目	他人の言葉を根拠にして自分の意見を述べる	説明とワーク
12 回目	論証のしかた	説明とワーク
13 回目	提出前の確認	説明とワーク、およびレポートの提出
14 回目	レポート返却	レポート課題へのコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に一つのレポートを完成させるために、授業内に終わらなかった作業は授業時間外に済ませてください。本授業の準備学習・復習時間は、平均で各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・藤田哲也編著『大学基礎講座 充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2010 年改増版
- ・木下是雄『レポートの組み立てかた』、ちくまライブラリー 36、筑摩書房、1990 年
- ・『学生による学生のためのダメレポート脱出法』、慶応義塾大学出版会、2015 年

・『法政大学 学習支援ハンドブック』（学習支援システムからダウンロード可能）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業が可能であれば、LL 教室を使用します。Word を使ってワークを行います。数回の授業にわたって同じ課題に取り組みますので、前回の続きから作業ができるよう USB を用意してください。

【Outline and objectives】

A guide to how to write an essay in Japanese.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営 1 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションのしかたを学びます。

【到達目標】

- ・論理的に話すとは何かを理解すること。
- ・授業でプレゼンテーションをする際の準備のしかた、注意すべき点を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義および口頭による練習が中心です。秋学期の終わりには、課題のプレゼンテーションを一人ずつ、もしくはグループで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容説明
2 回目	口頭表現力とは	講義
3 回目	スピーチの伝統的構成	説明と練習
4 回目	定番の構成以外のプラン	説明と練習
5 回目	主張の根拠	説明と練習
6 回目	資料に基づいて口頭で意見を述べる	説明と練習
7 回目	授業におけるプレゼンテーション	説明と練習
8 回目	人に聞いてもらえる話し方	説明と練習
9 回目	声、姿勢、ジェスチャー、空間の使い方、視線の向け方	説明と練習
10 回目	一人で長く話す	説明と練習
11 回目	ディスカッションの基礎（易しいテーマによるディスカッション）	説明と練習
12 回目	プレゼンテーション（第 1 グループ）	プレゼンテーションと講評
13 回目	プレゼンテーション（第 2 グループ）	プレゼンテーションと講評
14 回目	プレゼンテーション（第 3 グループ）	プレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションの準備は授業時間外に行います。その他、自主的にスピーチの練習をしたい人のためには、練習問題を授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、平均で各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・藤田哲也編著『大学基礎講座 充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2010 年改増版
- ・『学生による学生のためのダメレポート脱出法』、慶応義塾大学出版会、2015 年
- ・『法政大学 学習支援ハンドブック』（学習支援システムからダウンロード可能）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】

理論と実践をバランス良く組み合わせるようにします。

【Outline and objectives】

A guide to how to give a presentation in Japanese.

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学「学習支援ハンドブック」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学「学習支援ハンドブック」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学「学習支援ハンドブック」（大学より配布）

・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学「学習支援ハンドブック」（大学より配布）

・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学「学習支援ハンドブック」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学「学習支援ハンドブック」（大学より配布）

・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学「学習支援ハンドブック」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。またリアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第12回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第13回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）

・法政大学「学習支援ハンドブック」（大学より配布）

・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録一・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は 1 時限目に開講されます。通勤ラッシュを避けるため、開始時間を繰り下げる可能性があります（最初の 30 分は事前に資料配布で予習してきてもらい、残り 70 分は対面で実施等。）また、対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。なお、1 回目の授業は遠隔での実施となりますので Hoppii にログインし本授業のページを確認するようにしてください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者も前提として、タイプライター練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回 表の作成・挿入

Microsoft Word を用いて表を作成する

第 06 回 図・図形の挿入

Microsoft Word を用いて図の挿入を行う

第 07 回 段組み・数式入力

Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第 08 回 テンプレートの利用

Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。

第 09 回 長文作成

Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する

第 10 回 差し込み印刷

Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。

第 11 回 グラフの挿入

Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。

第 12 回 Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）

コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する

第 13 回 Processing を用いた簡単なプログラム（応用）

プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する

第 14 回 FreeMat を用いて音の作成（プログラム）

簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録一・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。なお、1 回目の授業は遠隔での実施となりますので Hoppii にログインし本授業のページを確認するようにしてください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う

第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録一・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。なお、1 回目の授業は遠隔での実施となりますので Hoppii にログインし本授業のページを確認するようにしてください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う

第 07 回 段組み・数式入力

Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う

第 08 回 テンプレートの利用

Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。

第 09 回 長文作成

Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する

第 10 回 差し込み印刷

Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。

第 11 回 グラフの挿入

Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。

第 12 回 Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）

コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する

第 13 回 Processing を用いた簡単なプログラム（応用）

プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する

第 14 回 FreeMat を用いて音の作成（プログラム）

簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインを併用する事も検討します。初回授業にて説明するため、必ず 1 回目の授業には出席してください。なお、1 回目の授業は遠隔での実施となりますので Hoppii にログインし本授業のページを確認するようにしてください。

対面授業に関しては、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は対面とオンラインの併用を予定しています。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う

第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%), レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3~4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使い方、メールやウェブ（ホームページ）などの活用について学びます。

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。

課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ

第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメ ディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメ ディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使い方、メールやウェブ（ホームページ）などの活用について学びます。

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。

課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ

第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しゅみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしゅみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心とした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心とした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第 2 回	コンピュータの基本 概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピュータの基本 構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回 ファイル操作その 1 ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ

第 7 回 ファイル操作その 2 エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ

第 8 回 コンピューターとデータ デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ

第 9 回 インターネットと電子メールその 1 インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ

第 10 回 インターネットと電子メールその 2 電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ

第 11 回 WWW その 1 WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2 WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディアリテラシその 1 インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2 フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は 4/22 から行う予定です。くわしくは「お知らせ」をご覧ください。

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。

課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンスー予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンスー分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を 1 つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは Hoppii のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価： 50%

最終試験の成績： 50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。

課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を1つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価： 50%

最終試験の成績： 50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しそくを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしそくを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しそくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回 Zoom オンライン授業の日があります。学習支援システムに登録し、毎週授業の前日には必ず学習支援システムの「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に初回授業の前日には学習支援システムの「お知らせ」が重要です。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしそくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。

5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムでの提出物で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

久東 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会はコンピュータ機能をもった機器がいたるところに存在している。このような機器をきちんと扱えることが生活する上でとても大事である。コンピュータ機能をもった機器の情報処理技術について、その考え方、基礎的な知識、利用事例、最新動向を解説する。主に Office 系のソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用するが、ホームページ作成にも触れ、Web 関連の最新知識についても説明する。

この授業は、基本的な情報処理の知識と技術をマスターすることを目的にする。

【到達目標】

現代社会にかかわる情報技術に関する知識を、基本から実践まで体系的に身につけることができる。

Windows10 と Office365 の基本操作を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本の知識については教科書を使って講義と演習を進め、必要に応じてコンピュータを用いた実習を行う。課題のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業中に紹介したデジタルコンテンツ（この時点では、ホームページのことだと思ってください）を使って課題をこなしながら理解を深めます。 （1）授業を進めるにあたって、ルールとマナー （2）ツールとメールの利用上の諸注意 （3）アプリケーション Excel・Word・PowerPoint）の利用の諸注意
2	コンピュータの基本概念	情報機器やデジタル家電製品の基本となる「コンピュータの仕組みや原理の基礎」を把握します。コンピュータと計算、コンピュータと人間の違い、コンピュータと計算の違い、コンピュータの種類、コンピュータの基本構成、ハードウェアとソフトウェアについて理解します。 Word によるレポート提出の課題があります。

3	コンピュータの基本操作	ガイダンスですすでに説明した内容をさらに深めます。「使い易さとはどういうことか」をテーマに、ユーザー名とパスワード、電源投入と遮断、Windows の基本画面、マウスの基本操作、メニュー、アプリケーションの実行、ウィンドウ、サイズと移動、アクティブウィンドウ、タスクバー、クリップボードとカットアンドペースト、ショートカットキーの操作、トラブルの対処について学習します。 Excel によるレポート提出の課題があります。
4	キーボードと文字入力 ならびに ICT スキル 診断テスト実施	キーボードを使って、日本語のデータを入力することはとても大切です。ここでは、「どのような仕組みで、日本語のデータを扱うのか」を学習します。 キーボードと英字入力、日本語入力、かな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP と高度な日本語入力、キーボードの種類、タッチタイピングについて理解します。 Excel によるデータ入力の課題提出があります。 授業外の時間に ICT スキル診断テストを受験してしまった学生は、前述の課題に取り組むこととなります。
5	ファイル操作	コンピュータ内でデータを扱う時、ファイルやフォルダという概念を利用して操作します。ここでは、この概念を利用した便利なツール（ソフトウェア）エクスプローラの操作を中心に学習します。 ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのパス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作（ファイル操作と表示に関する操作）、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。 Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。
6	コンピュータとデータ （その1）	同じ演奏を「アナログ機器（例えばカセットテープ）で録音した演奏」と、「デジタル機器（例えば CD）で録音した演奏」を聞くには、差があるのでしょうか？ どちらが良いのでしょうか？この議論をきちんと理解し意見を述べられるようにすることが、ここでの学習です。デジタルとアナログ、デジタルデータと著作権を理解します。 PowerPoint を使って文字や図、表を貼り付けたスライドを作成する課題提出があります。

- 7 コンピュータとデータ (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、「コンピュータの内部表現は2進数で表す」と分かりやすいことを学習します。2進数と10進数、2進数とバイトビットを理解します。
Excel を使って2進数等を理解する課題提出があります。
- 8 コンピュータとデータ (その3) 前回の内容をうけて、ここでは、文字、音声、画像等のデータは、コンピュータの内部で、どんな表現をするのかを学習します。また、その表現をさらに高度に利用するための考え方を圧縮技術で理解します。
文字の符号化、画像の符号化、音の符号化、圧縮技術を理解します。
Word・Excel・PowerPoint を使って音声や画像を貼り付ける課題提出があります。
- 9 インターネットと電子メール たくさんのコンピュータをつないで、お互いに(双方向に)データをやりとりすることで、いろいろな活動ができるようになりました。これがインターネットです。ここではインターネットの歴史、仕組み、利用方法、電子メールの利用と諸注意について理解します。
ネチケット(インターネット利用上のエチケット・マナー)について、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 10 World Wide Web (その1) インターネット上のデータをもっと大局的にとらえて、デジタルコンテンツのレベルで考えることを学習します。**WWW** とハイパーテキストを理解します。
Word や **Excel**、テキストファイルを編集するソフトウェアを使って、**Html** ファイルを作成する課題提出があります。
- 11 World Wide Web (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、**WWW** の仕組みや原理を学習します。ウェブブラウザの基本的な使い方、**WWW** の用語、リンク切れなどを理解します。
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 12 World Wide Web (その3) 前回の内容をうけて、ここでは、**WWW** と情報社会への影響を学習します。**WWW** の歴史、**WWW** で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 13 インターネットとメディアリテラシ (その1) 高度な技術は、その利用に悪意があると常に脅威をはらみます。ここでは、インターネット利用の脅威について学習します。
インターネットと匿名性、インターネットの盗聴と暗号について理解します。
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 14 インターネットとメディアリテラシ (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、インターネット上の犯罪や守るべき常識を学習します。
インターネットの詐欺、インターネットの情報の真偽、フリーソフトの権利を理解します。
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回で授業中に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。

< 授業で紹介するホームページの URL >

情報技術の基礎(知識定着ための教材)

lect-ip.cocolog-nifty.com

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

情報処理の実践(**Excel・Word・PowerPoint**を使った課題提出用の教材)

pract-ip.cocolog-nifty.com

【テキスト(教科書)】

実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子(共著)
サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1469-5

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト(教科書)を使用。

【参考書】

講義中に紹介するホームページなどを使って指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(受講態度ならびに授業内提出課題の成果)50%

レポート課題30%

小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

Windows10 が利用できる PC を準備してください。

Zoom を利用します。

【その他の重要事項】

授業に関する質問は、授業終了時に必ず声をかけてください。

内容(例えばインストール等)によっては、少人数でグループ授業を別枠で実施することもあります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic Information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to use all of the mandatory applications in a complete office productivity suite: a word processor, a spreadsheet, a presentation manager, and a drawing program. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the basic concepts of information science.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

久東 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会はコンピュータ機能をもった機器がいたるところに存在している。このような機器をきちんと扱えることが生活する上でとても大事である。コンピュータ機能をもった機器の情報処理技術について、その考え方、基礎的な知識、利用事例、最新動向を解説する。主に Office 系のソフト（Word、Excel、PowerPoint）を利用するが、ホームページ作成にも触れ、Web 関連の最新知識についても説明する。

この授業は、基本的な情報処理の知識と技術をマスターすることを目的にする。

【到達目標】

現代社会にかかわる情報技術に関する知識を、基本から実践まで体系的に身につけることができる。

Windows10 と Office365 の基本操作を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本の知識については講義と演習で進め、必要に応じてコンピュータを用いた実習を行う。課題のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業中に紹介したデジタルコンテンツ（この時点では、ホームページのことだと思ってください）を使って課題をこなしながら理解を深めます。 （1）授業を進めるにあたって、ルールとマナー （2）ツールとメールの利用上の諸注意 （3）アプリケーション Excel・Word・PowerPoint）の利用の諸注意
2	コンピュータの基本概念	情報機器やデジタル家電製品の基本となる「コンピュータの仕組みや原理の基礎」を把握します。

3	コンピュータの基本操作	ガイダンスですすでに説明した内容をさらに深めます。「使い易さとはどういうことか」をテーマに、ユーザー名とパスワード、電源投入と遮断、Windows の基本画面、マウスの基本操作、メニュー、アプリケーションの実行、ウィンドウ、サイズと移動、アクティブウィンドウ、タスクバー、クリップボードとカットアンドペースト、ショートカットキーの操作、トラブルの対処について学習します。 Excel によるレポート提出の課題があります。
4	キーボードと文字入力 ならびに ICT スキル 診断テスト実施	キーボードを使って、日本語のデータを入力することはとても大切です。ここでは、「どのような仕組みで、日本語のデータを扱うのか」を学習します。 キーボードと英字入力、日本語入力、かな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP と高度な日本語入力、キーボードの種類、タッチタイピングについて理解します。 Excel によるデータ入力の課題提出があります。 授業外の時間に ICT スキル診断テストを受験してしまった学生は、前述の課題に取り組むこととなります。
5	ファイル操作	コンピュータ内でデータを扱う時、ファイルやフォルダという概念を利用して操作します。ここでは、この概念を利用した便利なツール（ソフトウェア）エクスプローラの操作を中心に学習します。 ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのパス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作（ファイル操作と表示に関する操作）、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。 Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。
6	コンピュータとデータ （その1）	同じ演奏を「アナログ機器（例えばカセットテープ）で録音した演奏」と、「デジタル機器（例えば CD）で録音した演奏」を聞くには、差があるのでしょうか？ どちらが良いのでしょうか？この議論をきちんと理解し意見を述べられるようにすることが、ここでの学習です。デジタルとアナログ、デジタルデータと著作権を理解します。 PowerPoint を使って文字や図、表を貼り付けたスライドを作成する課題提出があります。

- 7 コンピュータとデータ (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、「コンピュータの内部表現は2進数で表す」と分かりやすいことを学習します。2進数と10進数、2進数とバイトビットを理解します。
Excel を使って2進数等を理解する課題提出があります。
- 8 コンピュータとデータ (その3) 前回の内容をうけて、ここでは、文字、音声、画像等のデータは、コンピュータの内部で、どんな表現をするのかを学習します。また、その表現をさらに高度に利用するための考え方を圧縮技術で理解します。
文字の符号化、画像の符号化、音の符号化、圧縮技術を理解します。
Word・Excel・PowerPoint を使って音声や画像を貼り付けする課題提出があります。
- 9 インターネットと電子メール たくさんのコンピュータをつないで、お互いに（双方向に）データをやりとりすることで、いろいろな活動ができるようになりました。これがインターネットです。ここではインターネットの歴史、仕組み、利用方法、電子メールの利用と諸注意について理解します。
ネチケット（インターネット利用上のエチケット・マナー）について、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 10 World Wide Web (その1) インターネット上のデータをもっと大局的にとらえて、デジタルコンテンツのレベルで考えることを学習します。**WWW** とハイパーテキストを理解します。
Word や **Excel**、テキストファイルを編集するソフトウェアを使って、**Html** ファイルを作成する課題提出があります。
- 11 World Wide Web (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、**WWW** の仕組みや原理を学習します。ウェブブラウザの基本的な使い方、**WWW** の用語、リンク切れなどを理解します。
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 12 World Wide Web (その3) 前回の内容をうけて、ここでは、**WWW** と情報社会への影響を学習します。**WWW** の歴史、**WWW** で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 13 インターネットとメディアリテラシ (その1) 高度な技術は、その利用に悪意があると常に脅威をはらみます。ここでは、インターネット利用の脅威について学習します。
インターネットと匿名性、インターネットの盗聴と暗号について理解します。
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
- 14 インターネットとメディアリテラシ (その2) 前回の内容をうけて、ここでは、インターネット上の犯罪や守るべき常識を学習します。
インターネットの詐欺、インターネットの情報の真偽、フリーソフトの権利を理解します。
関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
各回で授業中に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。

< 授業で紹介するホームページの URL >

情報技術の基礎（知識定着ための教材）

lect-ip.cocolog-nifty.com

情報処理の実践（Excel・Word・PowerPoint を使った課題提出用の教材）

pract-ip.cocolog-nifty.com

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第3版】重定 如彦・河内谷 幸子（共著）
サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1469-5

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。

【参考書】

講義中に紹介するホームページなどを使って指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）50%

レポート課題30%

小テスト20%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

Windows10 が利用できる PC を準備してください。

Zoom を利用します。

【その他の重要事項】

授業に関する質問は、授業終了時に必ず声をかけてください。

内容（例えばインストール等）によっては、少人数でグループ授業を別枠で実施することもあります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic Information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to use all of the mandatory applications in a complete office productivity suite: a word processor, a spreadsheet, a presentation manager, and a drawing program. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the basic concepts of information science.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。実技・演習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得していきます。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中及び今後の生活で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の演習も提出物に含め、授業への参加自体も提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内演習と共に課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類の授業での教科書が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内演習と平常点（60%）。提出物が授業内での演習と課題を兼ねる形となり、内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、環境の違いや進捗が合わないと感じる人に気づけるように機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業です。情報機器（PC）を使用し、配布・提出に学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent years, ICT and related technologies have become essential to our life. The objective is to acquire basic skills and knowledge of ICT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。

第 12 回 画面切り替えとアニメーション Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。

第 13 回 スライドデザイン・発表課題の説明 Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。

第 14 回 課題② 発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題 (80%)、平常点 (20%) として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。

第 12 回 画面切り替えとアニメーション Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。

第 13 回 スライドデザイン・発表課題の説明 Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。

第 14 回 課題② 発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題 (80%)、平常点 (20%) として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する 国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 2 回	e ポートフォリオ	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅠ

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ

第7回	ファイル操作その2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第8回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第9回	インターネットと電子メールその1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第10回	インターネットと電子メールその2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第11回	WWW その1	WWWの仕組みと利用方法について学ぶ
第12回	WWW その2	WWWで得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第13回	インターネットとメディアリテラシその1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第14回	インターネットとメディアリテラシその2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する 国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 2 回	e ポートフォリオ	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入野野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅠ

2017年度以降入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシーⅠでは、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	eポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、
期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ

第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

【配分】

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出题します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅠ

2017年度以降入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシーⅠでは、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、
期末試験 50 %

「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシー科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する 国際文化学部が全学部に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 2 回	e ポートフォリオ	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

【配分】

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

- 第9回 表計算ソフトその4 条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
- 第10回 表計算ソフトその5 グラフについて学ぶ
- 第11回 表計算ソフトその6 データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
- 第12回 プレゼンテーション1 プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
- 第13回 プレゼンテーション2 図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
- 第14回 プレゼンテーション3 アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10%、レポート 40%、期末試験 50%
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業の実施可否が見通せないため、当面は Google Classroom を用いたオンデマンドの動画配信を主体とし、課題を提出してもらうことを予定しています。なお、初回については Zoom を用いたリアルタイムの授業を予定しています。Google Classroom や Zoom へのアクセス方法については、学習支援システムを通じてお知らせしますので、大学からの資料を参照し、初回の授業までに自己登録を済ませておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、兎玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。以下は本来の基準です。参考までに残してありますが、無視して下さい。

【配分】

平常点 10%、レポート 40%、期末試験 50%

【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーIと情報リテラシーIIは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーIと情報リテラシーIIの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーIと情報リテラシーIIの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーIで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限をBとします。6回以上欠席した場合は成績をEとします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報処理演習

2017年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

キ1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の一番の目的は、「コンピュータが使えるようになること」ではありません。皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使ってやりたい事ができるようになることです。情報処理の技術は日進月歩ですから、今のコンピュータが使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、各コンピュータ・ソフトウェアの操作の「やり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることより、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるように、応用的な操作方法は随時検索して見つけられるようになることを目的とします。そのための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ・ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的操作方法を習得します。

<オンライン又はオンデマンドでの開講にそなえて>

新型コロナウイルス感染拡大（COVID-19）に伴うオンライン又はオンデマンドの開講とするかの判断については、大学の方針を参考にしながら決定します。場合によっては、一部または全ての時間がオンラインかオンデマンドにせざるを得なくなるかもしれません。もし全く対面授業ができなくなってしまった場合は、教員として残念ですが、一方で皆さんが自分で将来使うであろう自身のPCで全ての演習を行えるというメリットもあります。その意味からは、大学での勉強や研究に使うための自身のPCを持つことも検討してください。

なお、いずれの開講方式になったとしても、そのことによって上記の目的が変わることはありません。

【到達目標】

Windows 環境で基礎的な PC リテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使える Office2019（Word・Excel・PowerPoint）や Google の Web サービス、クラウド等の基本操作および活用方法を学びます。また必要時には操作方法を検索する技術を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
- (2) 毎回の授業は、講義と演習を組み合わせて行います。
- (3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報を検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

<オンライン又はオンデマンド開講になった場合について>

一部または全部の授業時間をオンライン又はオンデマンド開講とする場合は、その時々状況にあわせて、授業計画を柔軟に変更します。それに伴う各階の授業内容に関しては、学習支援システムで都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 学生の情報環境調査 ネットリテラシー	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 教員と授業について知る。 情報教室 PC へのログイン方法の確認。 WindowsPC の基本的な使い方を知る。 学生の自分の環境を教員に知らせる。 学習支援ハンドブックによる、メールの書き方 (マナー) の学習。 ネットリテラシーの基本とセキュリティの重要性を学ぶ。
第 2 回	ネットリテラシー (2) 学習環境を整える レポートや論文の書き方・引用の基本 Web の情報検索について	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールや SNS との比較について学ぶ。 USB メモリの使い方と利用上の注意点を知る。 レポートや論文の引用の仕方について学ぶ。 クラウドについて理解する。 情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探するための方法を理解する。 学生同士、教員と相互に知り合う。 (オンライン授業の場合) 学習環境の確認のため、全員が教員・TA と面談する。
第 3 回	ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用 オンラインツールについて	ウェブの仕組みについて理解する。情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探するための方法を学ぶ。 Dropbox の利用と、注意点について知る。 Zoom の基本操作を学ぶ。
第 4 回	Google のサービス	Gmail、Google フォームを使ったアンケートの作り方を理解する。
第 5 回	Word(1)	ワープロソフト (Word) の基本操作を習得する。 フォント・段落書式 (インデント)・表について学ぶ。
第 6 回	Word(2)	応用的な文章作成方法を習得する。 Word で絵・写真や図を挿入する方法について学ぶ。 見出し・アウトライン・スタイルの使い方を学ぶ。
第 7 回	Word(3)	論文等、長文の作成方法を習得する。 見出しの利用と目次の作成について学ぶ。 脚注・校閲機能を学ぶ。
第 8 回	Excel(1)	表計算ソフト (Excel) の基本操作を習得する。 「表計算ソフト」とは、Excel ができることを知る。 (Google スプレッドシートとの関連の確認)
第 9 回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方を学ぶ。 見やすい表の作り方。書式設定、見出しなどについて知る。

第 10 回	Excel(3)	Excel でグラフを作成する方法を学ぶ。 Excel の表やグラフを Word に貼り付ける方法を学ぶ。 計算式や関数の応用的な使い方について学ぶ。
第 11 回	Excel(4) 総合演習の準備 (1)	Excel でのリスト管理 (データベース) について学ぶ。 Excel と Word の合わせ技 (差し込み印刷) について学ぶ。 総合演習に向けての準備を行う。 発表資料としての PowerPoint の作成について学ぶ。 簡易 DTP としての PowerPoint の利用について知る。 総合演習に向けて、グループで準備をする。
第 12 回	PowerPoint 総合演習の準備 (2)	総合演習に向けて、グループで準備をする。
第 13 回	総合演習 (1)	Google Forms (アンケート調査)、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用する 授業で扱った内容を振り返る。
第 14 回	総合演習 (2)	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・授業で扱った内容を、次回までに必ず復習しておいてください。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。

【テキスト (教科書)】

『情報リテラシー 教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』 矢野文彦 著 オーム社 (定価：本体 1900 円)

【参考書】

『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・IT エンジニア・SE のためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム (定価：本体 1800 円)

『法政大学 学習支援ハンドブック』法政大学 教育開発・学習支援センター (入学時に配布されるもの。購入の必要はないが、授業初期に参照する)

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、それまで (高校も含む) の経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。初心者であっても、真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要最低限のゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加 (配点比重 40%)
- ・毎回の小課題の提出 (未提出はその課題について 0 点。提出遅れは減点) (配点比重 40%)
- ・総合課題 (配点比重 20%)

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルに応じて、基礎的な内容だけでなく、発展的な内容を含む演習問題も選択できるようにします。
課題があるので、なるべく質問しやすいよう複数の質問方法を選べるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・必ず、学習支援システムを確認しておくこと。
- ・初回参加時に、このシラバスを良く読んでおくこと。
- ・初回参加時に、入学時にもらった「学習支援ハンドブック」を持参すること。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・指定された時までに USB メモリー (容量 1 GB 以上が望ましい) を入手し、持参すること。
- ・今後の大学での学び・研究の際にも必要になるので、パソコンは自身 (自宅) のものを用意できれば望ましい。(必須ではない)

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。

- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline and objectives】

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now on and beyond future. Since information technology is developing everyday, it is more important to understand what the computers or network services actually is and what can be done with them than memorizing the way of using computers. In this class, you will learn the way of using internet search engines as well as basic skills needed in using computer software and network services.

PRI100LA

情報処理演習

2017年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がひつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらおうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7回	ワードプロセッサソフト (WS Word) : 続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、レポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己PRのホームページを作成するなど活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価 (配点：50%) と各セッション後の課題の評価 (配点：50%) で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る時は抽選になります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

PRI100LA

情報処理演習

2017年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がみつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなど活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る場合抽選となります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

情報処理演習

2017年度以降入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日常で活かす IT】

コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。

以下の 3 点を授業の柱とします。

■動画作成をマスターしよう！

動画を通じて他者に自分の考えを伝えることは？

ひとは何に注目するのか？

みるひと・聞く人の関心を引く動画をフリーソフトを利用してつくる

■オリジナルスタンプをつくってみよう！

コンピュータでデザインって難しくないの？

自分の考え（アイデア）をカタチにする

自分だけのスタンプをつくってみよう

■エクセルのマスターになる

計算だけじゃない、エクセルの使い方～予測・分析

エクセルでプログラミング

パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受発信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に各種プレゼンツール（パワーポイント・Prezi）とドローソフト（Inkscape）の仕様の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
		（授業方針と計画・評価方法について）
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS	OS の利用方法
		の基本的な取扱い方法について

- ④ 電子メールの基礎と日本語入力方法～FEP 活用方法の基礎理解操作方法
メールアカウントの設定とメールソフトについて
- ⑤ アプリケーションソフト習得～MS Word
(1) 基礎的な日本語入力
- ⑥ アプリケーションソフト習得～MS Word
(2) 表組みと描画など
- ⑦ アプリケーションソフト習得～MS Word
(3) アウトラインプロセッサについて
- ⑧ アプリケーションソフト習得～MS Excel
(1) エクセルの基礎的な画面構成の理解
- ⑨ アプリケーションソフト習得～MS Excel
(2) 計算式と関数①
再計算機能と相対・絶対番地について
- ⑩ アプリケーションソフト習得～MS Excel
(3) 計算式と関数②
条件判断関数の基本とその応用
- ⑪ アプリケーションソフト習得～MS Excel
(4) マクロ・VBA 基礎
- ⑫ ドローイングソフト習得～inkscape ①
ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味
- ⑬ ドローイングソフト習得～inkscape ②
オリジナルスタンプを作ってみよう
- ⑭ プレゼンテーション～prezi ①
prezi を使ったプレゼンテーションの作成～アカウント取得など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

prezi アカウント取得のため、かならず大学のメールを利用できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ・情報における権利意識と保護意識の醸成 15%
- ・著作権・複製権などの権利関係に対する具体的な理解 15%
- ・授業毎に課す提出課題の提出度と完成度 70%

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

履修に当たってはできれば PC を所有していることが望ましいです。定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is not only to use basic application software but also to acquire information literacy as expression method.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はハイブリット型（教室での対面授業+一部オンライン）で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、一部の授業回や課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。

授業内では参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては参加型授業の実施について一部変更となる可能性があります。

また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】

2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】	8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】
3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】	9	思考のメカニズム	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】	10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることがらのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】	11	仕事と幸福	キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンのPERMAモデルを取り上げて、幸福（ウエルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウエルビーイング、PERMAモデル、自己効力、幸福経営】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】	12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】	13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】

14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to develop a posture in which you can think and act by yourself through this class. In this class, we provide the basic idea that we need to achieve the desirable career formation and the basic knowledge about working in society.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

高橋 実

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キG1年

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

■授業方式

オンデマンド授業（コンテンツ配信）とオンライン（リアルタイム配信）の併用を行います。（コロナ禍のため、対面の授業は行わない予定です）

■授業形態

講師による講義と、学生参加型の授業スタイル（オンライン上でのディスカッション、学習支援システム、メールを活用します）となり、教員や学生同士のコミュニケーション機会を多く持ちます。

■課題等の提出

・学習支援システムを利用して行います。
・講義後のリアクションペーパーの提出、最終レポート、その他講師が講義で指定した課題等の提出となります。

■フィードバック方法

・提出された課題については、学習支援システムを通じてフィードバックを行います。
・講師とのメールも活用してフィードバックを行います。
・提出された課題を、授業内で取り上げる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	【オンデマンド授業】企業の人事部長経験、現役の人事パラレルワーカー（複業者）として、私自身のキャリアケースをお話しします。また、授業の内容、進め方、受講のルールなど、この授業を通して何を学ぶべきなのかをお伝えします。	8	組織におけるコミュニケーション
2	大学での学び	【オンライン授業（リアルタイム配信型）】「大学でもっと多くのことを学んでおけば良かった」。多くの大人がそう考えています。大学は、キャリアの始まり。学び方も姿勢も大きく変えなければいけません。では、大学という場所では何を学び、何を活かしていくべきなのか。現役社会人の立場から皆さんに伝え、これからの大学での学び方を考えます。	9	キャリアモデルケーススタディ
3	社会に出るというトランジション	【オンデマンド授業】大学を卒業すると、多くの皆さんが社会に出ていきます。このステップは、人生でも最大級のトランジション（変わり目）になります。そこで何が変わるのかを学び、自分自身のキャリアで何を考え、行動していくかを解説します。	10	「評価される」とはどういうことか
4	働くことの意味	【オンライン授業（リアルタイム配信型）】「働く」意味の一つは「労働に対する対価（＝給料）を得る」というものですが、果たしてそれだけでいいのでしょうか？ では「働きたい」とはどういうことでしょうか？ 働くことは本当に辛いことなのでしょうか？ 大人でも悩むこのテーマをみなさんと一緒に考えます。	11	インターンシップ（キャリアセンター担当）
5	外部環境と個人のキャリア	【オンデマンド授業】世界が未曾有のコロナ禍に直面し、大きく変化してきています。これからの日本は世界でも未曾有の少子化による労働人口減少に直面します。未来の日本でこれからどんなことが起こるのか？ そして、その中でどのように生きていくべきなのか。皆さんを取り巻く社会の外部環境について解説します。	12	ポストコロナのオンライン時代に向けてやるべきこと
6	働き方と多様性	【オンライン授業（リアルタイム配信型）】女性は勿論、外国人、高齢者、障害者、LGBTQ など、働く人も多様になってきており、これからの時代は働き方そのものが大きく変わります。企業の人事部長経験や現役のパラレルワーカー（複業者）の視点から、これからの社会の変わりゆく多様性の解説と、「多様性とは何か」をみなさんと考えます。	13	学生生活と就職の準備（キャリアセンター担当）
7	なぜ企業は採用をするのか	【オンデマンド授業】なぜ企業は「採用」を行うのでしょうか？ 現役の企業人事だからこそ話せる、企業がなぜ採用をするのか、どんなことを考えて採用を行っているのかを赤裸々にお話しします。就活の相手となる企業の考えを理解することで、自分のこれからのキャリアを考えます。	14	学生生活の過ごし方
				【オンライン授業（リアルタイム配信型）】組織に属すると、周囲の人と必ずコミュニケーションを行っていかねばなりません。組織の目的と個人の目的は時としてずれてしまうこともあります。社会に出ると、好きでない人と付き合い合わねばならないことも多くあります。そんな組織で、どのようにコミュニケーションをとっていくべきなのか。組織におけるコミュニケーションを解説しつつ、みなさんと考えていきます。
				【オンデマンド授業】現役で働いている社会人をお呼びして、その方のキャリアと、どういう想いでキャリアを培ってきたのかをお話しいただきます。そして、そのキャリアモデルをもとに、自分自身のキャリアに置き換えて考えます。
				【オンライン授業（リアルタイム配信型）】社会人になり、経験を重ね、スキルやノウハウがつくと、立場が変わり、社会的責任が大きくなり、お給料も上がっていきます。そのキャリアプロセスでは常に「評価される」ということが行われます。「評価される」ということはどういうことなのかを解説を交えながらみなさんと考えます。
				【オンデマンド授業】インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人の体験ができる貴重な機会。本授業では大学キャリアセンター職員が先輩の事例や参加の注意点を解説します。
				【オンライン授業（リアルタイム配信型）】コロナ禍で、世界中の環境が激変しました。大変なこともあります。一方でテクノロジーや働き方の変化は大きく進むことになります。個人の自由度や選択肢は高まっていますが、その分求められるものが高度化しています。ポストコロナ時代の未来をみなさんが幸せに生きていくためにやるべきことを解説しつつ、みなさんと考えていきます。
				【オンデマンド授業】就職はキャリアのゴールではないですが、大学生活に重なる就職活動とはどのようなものか、そのために準備しておくことを大学キャリアセンター職員が解説します。
				【オンライン授業（リアルタイム配信型）】春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書き出し、グループでディスカッションをしながら「大学時代に何をやるか」の目標を設定しましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
また、復習のために、本受講の受講者は、必ず「本授業専用のキャリアマイノート」を準備し、毎回の授業の内容および感じたことを記載してもらいます。

なお、上記のほか、授業内で案内した書籍や、自主的なレポートは積極的に受け付けます（自主的な取り組みは加点評価を行います。積極的に取り組んでみてください）

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍を適宜案内します。積極的に読んでみてください。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出してもらうリアクションペーパーが 70%。期末レポートが 30% の割合で評価します。また、平常点も加味します。本授業は、授業の内容を通して「自らのキャリアと向き合う」ことを求めます。単に授業を聞くだけでなく、以下の点を求めます。

①考察をする

「考察」とは「物事を明らかにするために調べて考えること」です。授業で伝えた内容をもとに、さらに「考察」してもらうことが必要です。

②自分自身に向き合う

本授業は「自らのキャリアを考える」ことを主眼に置いています。授業内容をもとに必ず自分自身に照らした考察を求めます。

③自身の行動に落とし込む

本授業で伝えた知見は、それをもとに自身の行動が変わることが必要です。

また、提出を求める課題以外でも、授業で案内した書籍を読んで自分自身を振り返ったり、授業内容をもとに「行動した」レポートなどは、随時任意で提出することができます。その場合、提出内容を精査した上で、加点評価として加味します。積極的に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

「自分自身のキャリアを真剣に考えたい」人のみが受講してください。自分自身と向き合うためには、時間と熟慮が必要です。積極的な受講意識が必要になります。

【学生が準備すべき機器他】

本授業専用「キャリアマイノート」を必ず準備して、毎回の授業に臨んでください。授業内で学んだこと、そして感じたことを積極的にキャリアマイノートに記載してください。そのための筆記用具は必ず持参してください。

【その他の重要事項】**■講師プロフィール**

新卒で JCB 入社、その後 NTT、トヨタグループ企業で新規事業企画、営業などを歴任。その後 40 歳にして人事に転身。トヨタファイナンス、創業 100 年企業、IT 企業の HDE（現 HENNGE）で人事部長を歴任。これまで 2,000 人を超える新卒学生と面接を行っている。

現職は「マイクロ人事部長」として、複数社の企業の組織改革や人事に携わっている。

現職企業人事としてリアリティのあるキャリアデザイン講義となります。

https://www.dodadsj.com/content/180403_takahashi/

<https://bizhint.jp/report/398484>

【Outline and objectives】

In this lesson, we think about your university life and work in society together.

I support you can spend great time in your university life.

In this class, I provide the basic knowledge on the concept necessary for your “long-term” life and working in society.

Through this opportunity, the purpose of this lesson is to create your good attitude that you can think and act by yourself.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はハイブリット型（教室での対面授業+一部オンライン）で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、一部の授業回や課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。

授業内では参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては参加型授業の実施について一部変更となる可能性があります。

また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】

2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】	8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】
3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】	9	思考のメカニズム	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】	10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることがらのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】	11	仕事と幸福	キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンのPERMAモデルを取り上げて、幸福（ウエルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウエルビーイング、PERMAモデル、自己効力、幸福経営】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】	12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】	13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】

- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to develop a posture in which you can think and act by yourself through this class. In this class, we provide the basic idea that we need to achieve the desirable career formation and the basic knowledge about working in society.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

法文営国環キG1年

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】

基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回各授業回に関連した音声付の授業資料と課題を提示するので、授業が予定されている日程から一定の期間内（1週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】

2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】	8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】
3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】	9	思考のメカニズム	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】	10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることがらのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】	11	仕事と幸福	キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンのPERMAモデルを取り上げて、幸福（ウエルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウエルビーイング、PERMAモデル、自己効力、幸福経営】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】	12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】	13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【自己理解、就職活動】

- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は「学習支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等を利用して受講、学習してください。できればスマートフォンではなくパソコン、タブレットを使用されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to develop a posture in which you can think and act by yourself through this class. In this class, we provide the basic idea that we need to achieve the desirable career formation and the basic knowledge about working in society.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法文営国環キG1年

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

●参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック等）。

●大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います（オンデマンド型・オンライン型等の組み合わせた形態に進めていく予定）。授業実施形態の詳細は、別途「学習支援システム」よりお知らせします。

●課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

●課題・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。適宜「学習支援システム」にて個別フィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業主旨、進め方、成績評価方法、求められる参加態度、およびカリキュラム等について概要を説明します。 キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方についても解説します。

第2回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても触れていきます。
第3回	学生と社会人	社会人には何が求められているのだろう。学生とは何が異なるのだろう。それぞれの役割を比較し、社会人基礎力やライフスキルなどを理解することで、現在の自分の強みや将来にむけて強化すべき力を考えていきます。
第4回	ストレスとレジリエンス（復元力）	適度なストレスは、何かを頑張るための良い刺激となり、自己成長へ繋がります。一方、心が苦しくなったり、嫌な気分になったり、やる気をなくしたりする悪いストレスもあります。ストレスを理解し、対処する方法を学びます。
第5回	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。
第6回	働き方と多様性	変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域におけるダイバーシティー（多様性）、多様な雇用形態、パラレルキャリア、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考えていきます。
第7回	やる気とモチベーション	これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。
第8回	セルフマネジメント	自分自身が掲げた目標やビジョンを実現するために必要な行動、セルフマネジメントを学んでいきます。自分を成長に必要なサポートやコーチの存在などについても考えていきます。
第9回	働くことの意味	働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかをグループで議論し発表します。
第10回	グローバル人材とは	グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
第11回	激変する社会環境と課題	世の中はどのように変化していくのか、見通しが立てにくい時代を生きていく上で、私たちが活用できるブランドハプンスタンス理論・意思決定理論などを紹介していきます。またどのような人材として成長していくのが望ましいかについて考えていきます。

第12回	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので積極的な参加を期待しています。本授業では窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。
第13回	企業や組織を知る	今気になっている会社や公共機関、各種団体などについて情報収集します。また、皆さんがこれまで知らなかった会社や組織についても情報収集し、結果について議論します。
第14回	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書き出し「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードをしたりプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

・毎回のリアクションペーパー<70%>、期末試験での成績<30%>
・リアクションペーパーは、各授業テーマについての理解度や新たな気づきなど、記述内容・論理構成等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・昨年度の授業は、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、オンラインでも双方向のコミュニケーションを活発に行っていました。
・学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。

【学生が準備すべき機器他】

・オンライン授業用の通信端末機器
・筆記用具
・本授業用の専用ノート（デジタルも可）

※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

●担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約20年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。
●企業や大学では、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にもなっていました。相談件数は数千件に及びます。フリーランスのキャリアコンサルタントとしても仕事を請け負っています。
●授業では、これまでの私自身の経験や企業・組織の実態なども共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザインの重要性などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working. Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

藤澤 広美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業方式は、オンデマンド授業（コンテンツ配信）とオンライン（リアルタイム配信）の併用で実施し、参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。なお、リアクション・ペーパーにおけるコメント等に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明します。
2	キャリアとは	キャリアとは何か、大学生にとってのキャリアとは何か、なぜキャリアデザインが必要なのか、検討します。また、自身の価値観を探るワークを行います。
3	働くことの意味	あなたにとって働くことの意味や意義、やりがいとは何か、社会の中で自分自身がどのような役割を担っていくのか、ワークを通して検討します。

- | | | |
|----|---------------|--|
| 4 | 自己理解を深める | キャリアデザインの枠組みと自己理解の基本姿勢を学び、あなた自身が見ている「今の自分」について分析するワークを行います。 |
| 5 | 他者との関わり | コミュニケーションのプロを招いて、他者との関わり方やコミュニケーションの基礎等について学びます。他者との関わりは、自己理解を深め、自身の可能性をひらくことに繋がります。 |
| 6 | 多様なキャリアの捉え方 | 多様なキャリアに関する理論を学び、長期的なキャリアを歩むために必要となる考え方の修得を目指します。 |
| 7 | 偶然と転機を活かすキャリア | 偶然を活かすキャリア理論について学びます。参考動画の視聴を通して偶然を味方につける方法を検討します。 |
| 8 | キャリア・ストーリー | ゲストスピーカーにご登壇いただきキャリア・ストーリーをお話いただきます。これまでの学んできたキャリアに関する理論が実際のキャリアのなかで説明できるのか探っていきます。 |
| 9 | 働き方と多様性 | 多様な雇用形態、パラレルキャリア、短時間労働化、テレワークなど、これからの変化の激しい社会における働き方について考えていきます。 |
| 10 | ワーク・ライフ・バランス | ワーク・ライフ・バランスとは何か、結婚、出産や育児といったライフ・イベントに関するゲストスピーカーの事例をもとに検討します。 |
| 11 | 学生生活と就職の準備 | 本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職します。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。 |
| 12 | インターンシップ | インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会です。本授業では窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。 |
| 13 | 大学での学び | 大学での学びとは何か、春学期の授業を振り返ります。本授業と他の授業の接点や自身の生活における学びの応用など、ワークを通して検討します。 |
| 14 | 学生生活の過ごし方 | 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどのように過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるために何が必要か、学生生活の目標を設定します。 |

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。資料は「授業支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。

リアクションペーパー（毎回）：60%、レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度ゲストスピーカー登壇について好評を得たため、今年度も予定しています。なお、授業内での意見によって運営方法等は変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料（レジュメ、ワークシート等）や課題提出等で授業支援システムを利用します。各自印刷のうえ、授業に持参してください。

【その他の重要事項】

新卒で人材紹介会社にて人事コンサルティング営業に従事したのち、メーカー販社兼商社にて法人営業に就き、ベンチャー企業と創業100年を超える老舗企業を経験しました。また、3つの大学でキャリアカウンセラーとして、累計2,000件を超えるキャリアカウンセリングの経験があります。企業経験の観点からはリアルに、キャリアカウンセリングの観点からは皆さんと近い目線でキャリアデザインについて一緒に考えていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course deals with the how to spend at university and working in society.

By thinking them together, I will support you so that you can spend your student life meaningfully.

In the classroom, we provide basic knowledge about the way of thinking, society, and working that are necessary for walking a longer-term life.

It also enhances the development of students' attitude to act autonomously.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

各回の授業では当該テーマに関して生活の中で接点を探したり、それをきっかけに学びを深めたりすることを期待した発展ワークを出題します。日常生活でも学びを応用する機会を増やしていきましょう。

CAR100LA	キャリアデザイン入門	2017年度以降入学者	2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】
大八木 智一			3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティ】
この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。			5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
【到達目標】			6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。そのような中では、自ら課題を見つけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan,Do,See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。			7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1					
【授業の進め方と方法】					
【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】 基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回各授業回に関連した音声付の授業資料と課題を提示するので、授業が予定されている日程から一定の期間内（1週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし/No					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし/No					
【授業計画】					
回	テーマ	内容			
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】			

8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】	14	学生時代の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】
9	思考のメカニズム	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】			<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。</p> <p>【テキスト（教科書）】 特に定めません。</p> <p>【参考書】 授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介いたします。</p> <p>【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。</p> <p>【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。</p> <p>【学生が準備すべき機器他】 授業資料は「学習支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等を利用して受講、学習してください。できればスマートフォンではなくパソコン、タブレットを使用されることをお勧めします。</p> <p>【その他の重要事項】 新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。</p> <p>【Outline and objectives】 The purpose of this class is to develop a posture in which you can think and act by yourself through this class. In this class, we provide the basic idea that we need to achieve the desirable career formation and the basic knowledge about working in society.</p>
10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることからうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するこころの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】			
11	仕事と幸福	キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンのPERMAモデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMAモデル、自己効力、幸福経営】			
12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】			
13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【自己理解、就職活動】			

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キG 1年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】

基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回各授業回に関連した音声付の授業資料（一部動画）と課題を提示するので、授業が予定されている日程から一定の期間内（1週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローアップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 11 | 働き方研究④
「メンタルヘルス」 | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。 |
| 12 | キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」 | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。 |
| 13 | キャリア戦略②
「人生の経営戦略」 | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。 |
| 14 | キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスで自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。 |

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は「学習支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等を利用して受講、学習してください。できればスマートフォンではなくパソコン、タブレットを使用されることをお勧めします。

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法文営国環キG 1年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】

基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回各授業回に関連した音声付の授業資料（一部動画）と課題を提示するので、授業が予定されている日程から一定の期間内（1週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 11 | 働き方研究④
「メンタルヘルス」 | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。 |
| 12 | キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」 | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。 |
| 13 | キャリア戦略②
「人生の経営戦略」 | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。 |
| 14 | キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスで自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。 |

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は「学習支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等を利用して受講、学習してください。できればスマートフォンではなくパソコン、タブレットを使用されることをお勧めします。

CAR100LA	キャリアデザイン応用	2017年度以降入学者	2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
大八木 智一	開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 1/Thu.1		3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
単位数：2単位	法文営国環キG 1年～		4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：			5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】	この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。		6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
【到達目標】	この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。		7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】	各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
【授業の進め方と方法】	【この授業はハイブリット型（教室での対面授業+一部オンライン）で実施します】		9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
基本的には教室での対面で授業を実施しますが一部の授業回や課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定の期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。また、課題レポート等におけるコメントに関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。			10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり/Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】	なし/No				
【授業計画】					
回	テーマ	内容			
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。			

— 151 —

- | | | |
|----|-----------------------------------|--|
| 11 | 働き方研究④
「メンタルヘルス」 | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。 |
| 12 | キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」 | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。 |
| 13 | キャリア戦略②
「人生の経営戦略」 | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。 |
| 14 | キャリア戦略③
「自己実現に近づいたための行動様式変革戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。 |

【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間としては、各2時間の学習を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によってを受講、学習をしてください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営国環キG 1年～

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業はハイブリット型（教室での対面授業+一部オンライン）で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが一部の授業回や課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定の期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。また、課題レポート等におけるコメントに関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。

2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 11 | 働き方研究④
「メンタルヘルス」 | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。 |
| 12 | キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」 | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。 |
| 13 | キャリア戦略②
「人生の経営戦略」 | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。 |
| 14 | キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスで自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。 |

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline and objectives】

In this class, the purpose is to think about how to design your career plan through the understanding of various aspects of corporate activities and your internal values.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各2時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によってを受講、学習をしてください。

IDN100LA

大学を知ろう <法政学>への招 2017年度以降入学者待

小林 ふみ子、小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キG 1年～

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！ みなさんのこの大学や学部がいつどのようになり、どうして作られたのか知ってみたいくはありませんか？

この授業では、創立から 140 年以上となる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者 2 名のコーディネートののもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。

講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の Hoppii のコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。(科目責任者=小倉淳一)
2	市民社会の開明とノンエリートの夢～法政大学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。(浜村彰)
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約 30 年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。(岡孝)
4	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20 世紀初頭に始まる留学生の受け入れをはじめ、本学の国際関係を概観する。(高柳俊男)
5	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。(衣笠正晃)
6	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。(古俣達郎)

7	校歌「よき師よき友つどひ結び」	成立背景や作詞・作曲家、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながら歌唱指導を受ける。(児美川孝一郎)
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。(横内正雄)
9	法政大学のスポーツ	戦前よりさまざまな部活動が行われ、オリンピックを含め数々の名選手を輩出した本学のスポーツの特徴を考える。(ゲスト講師)
10	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他に類例がなく、研究実績で世に知られる音楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度はおなじみの LINE で 31 歳にして執行役員となった奥井麻矢さん（キャリアデザイン学部卒）をお招きする予定。
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した 90 年代以降の改革と、市ヶ谷に新たに置かれた 4 学部について学ぶ。(職員・各学部教員)
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。(科目責任者=小林ふみ子)
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。廣瀬克哉総長の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。(廣瀬克哉総長・科目責任者=小林)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。昨年オープンしたばかりの HOSEI ミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。

その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の Hoppii のコメントにみえる取り組み 70 %、期末レポート 30 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設 11 年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、授業支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】

・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講ももちろん歓迎します。

・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline and objectives】

Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座

2017 年度以降入学者

サブタイトル：金融リテラシー

コーディネータ：小原 丈明、講師（ゲストスピーカー）：
イオン銀行 岩波 俊哉氏 他

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キG 1 年～

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講義の目標です。

本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに最適の講師（ゲストスピーカー）が、講義を担当します。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性	生活を取り巻く社会環境、金融リテラシーの意義・重要性を学ぶ
2	人生とお金	人生にかかるお金の意味、ライフデザインの重要性、奨学制度などを学ぶ
3	お金を稼ぐ	職業選択の意義、就労形態と生涯所得、収支管理、社会保障制度の基礎を学ぶ
4	お金と経済	金融・経済環境の変化とその対応方法を学ぶ
5	ライフプランを描く①	ライフプランの全体像について学ぶ
6	ライフプランを描く②	ライフプランの重要性、人生の3大費用、キャッシュフローの分析などを学ぶ
7	お金を借りる①	クレジットカード・消費者ローンの仕組みと利用上の留意点
8	お金を借りる②	住宅ローンの仕組みと利用上の留意点
9	お金をふやす①	投資の意義、リスクとリターンの関係、長期投資の重要性などを学ぶ

10	お金をふやす②	投資信託の仕組み、分散投資の重要性などを学ぶ
11	リスクに備える①	人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用法などを学ぶ
12	リスクに備える②	生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の活用法などを学ぶ
13	トラブルに強くなる	学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と未然防止策などを学ぶ
14	ライフプランを描く③	ライフプランの作成・演習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
配布資料および web 上の参考資料を事後に読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（7 割以上）（20%）、中間小テスト（2 回）（20%）および最終レポート（60%）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活に役立つことが学べたといった意見を多くいただきましたので、2021 年度はさらに生活に密着した事例等を取り入れた内容とします。

また、2020 年度はオンライン・オンデマンドの授業形式で実施しましたが、2021 年度は状況に応じて、可能な限りディスカッションや直接質問を頂けるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline and objectives】

In today's society, it is unavoidable to be involved in finance, so it is important to acquire financial literacy (knowledge and judgment about money) as a living skill.

The goals of learning about financial literacy are as follows:

- ・ To understand the important things about life.
- ・ To acquire practical skills through gathering the information you need and getting actionable information to make comparisons, tests, and decisions.

This lecture is donated by AEON Bank, Ltd.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることに留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

【到達目標】

『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回 1~2 段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。

この授業はオンデマンドでの開講となる。学習支援システムに要点と解説を記した教材を掲載するので、教材をもとに学習し、レポートを提出する形で授業を進めていく。

レポートにおいて多くの人から質問があった事柄については次回の授業の教材の中で回答する。そのほか「学習支援システム」により適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらう。
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後まで話の展開を説明する。どのような出来事が起きるかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらう。
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。

- ④ 老馬の事・坂落しの事 平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。
- ⑤ 忠度の最期の事 一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
- ⑥ 敦盛最期の事 一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
- ⑦ 逆櫓の事 四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発の様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。
- ⑧ 大坂越の事・嗣信最期の事 四国の阿波に上陸した義経が陸路を通って屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
- ⑨ 那須与一の事 夕刻となって戦いが中断となりそうな時に平氏が扇の的を船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
- ⑩ 壇の浦合戦の事・遠矢の事 最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
- ⑪ 先帝御入水の事 阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安德天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
- ⑫ 能登殿最期の事 入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
- ⑬ 腰越の事 平氏を滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがために許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
- ⑭ 全体のまとめ 今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、それぞれの合戦の様子が把握できたか、『平家物語』の特色を理解できたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる段に必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおよその内容を把握するように心がける。復習として、授業内容をしっかり再確認し、わからなかった部分はまず自分で調べてみる。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『角川ソフィア文庫 平家物語 下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959 年。761 円。

【参考書】

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004 年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014 年。2200 円。
1500 円。
日下力『平家物語転読』笠間書院。2006 年。1900 円。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012 年。1900 円

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出する課題レポートの点数（50％）と、『平家物語』について自分なりにテーマを設定して調べたり考察したりした成果を報告する期末レポートの点数（50％）とを総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

『平家物語』は登場人物が多彩なため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline and objectives】

Read the "Heike Monogatari" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

LIT100LA

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

【到達目標】

義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に示したように、毎回テーマを決めて授業を行う。源義経や弁慶をめぐる出来事が文学作品にどのように描かれているか確認しながら、それぞれの話の特色を理解していく。

この授業はオンデマンドでの開講となる。学習支援システムに要点と解説を記した教材を掲載するので、教材をもとに学習し、レポートを提出する形で授業を進めていく。

レポートにおいて多くの人から質問があった事柄については次回の授業の教材の中で回答する。そのほか「学習支援システム」により適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。

④	伊勢三郎との出会い	関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
⑤	義経と兵法書	奥州平泉に身を落ち着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
⑥	弁慶の誕生と成長	弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
⑦	義経・弁慶の出会い	京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
⑧	義経・弁慶の主従契約	清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
⑨	頼朝からの刺客	平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入らず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
⑩	義経・弁慶の都落	鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
⑪	静との別れ	義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
⑫	義経・弁慶の北国落	吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
⑬	義経・弁慶の最期	奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
⑭	その後の義経伝説	義経伝説は平泉で終わるわけではない。義経が平泉を脱出してさらに北へと向かったとする伝説、北海道からさらに大陸へと向かう義経の伝説などにも注目していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。復習として、授業の中で疑問に思った事について自分なりに調べてみる。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な古典文学作品の本文を記載したプリントをH学習支援システムに掲載する。

【参考書】

梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999年。4457円

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出する課題レポートの点数（50%）と、義経伝説に関して自分なりにテーマを設定して調べたり考察したりした成果を報告する期末レポートの点数（50%）とを総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline and objectives】

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

LIT100LA

日本古典文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：『源氏物語』のはじまりー「桐壺」巻を読む

園 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』といえば、おそらく多くの人が「絶世の美男子・光源氏が多く女性の恋愛遍歴を重ねていく物語」というイメージを持っているように感じる。

しかし、なぜ光源氏が多く恋を重ねるようになったのかについては、意外に知られていないのではないだろうか。

本授業では、『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の読解を通して、この物語の発端がいかなるものなのかを理解するとともに、この巻の持つ54巻という長大な物語を牽引する力について考えてみる。

【到達目標】

『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の本文を物語の展開に沿って紹介し、主人公・光源氏の人生の発端がいかなるものであったのか、また、『源氏物語』が描こうとしたものは何であったのかを考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる講義形式。

なお、学習支援システム上でコメントが記入できる形式の授業内容に関わるアンケートへの回答を要求し、その内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	「桐壺」巻を読む	光源氏の誕生
③	「桐壺」巻を読む	源氏の母の立場の弱さ
④	「桐壺」巻を読む	源氏の母の死
⑤	「桐壺」巻を読む	母の葬送－それぞれの思い
⑥	「桐壺」巻を読む	追悼－源氏の祖母の嘆き・その1
⑦	「桐壺」巻を読む	追悼－源氏の祖母の嘆き・その2
⑧	「桐壺」巻を読む	追悼－帝の嘆き・その1
⑨	「桐壺」巻を読む	追悼－帝の嘆き・その2
⑩	「桐壺」巻を読む	「長恨歌」との関わり
⑪	「桐壺」巻を読む	成長する源氏－並はずれた美貌と才能
⑫	「桐壺」巻を読む	運命の女性・藤壺登場
⑬	「桐壺」巻を読む	源氏の元服と結婚
⑭	「桐壺」巻を読む	満たされぬ思い－藤壺への思慕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。
また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業支援システムを用いて、毎回必要な資料を配付する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『源氏物語』①（小学館）

新日本古典文学大系『源氏物語』①（岩波書店）

新潮日本古典集成『源氏物語』①（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容によって評価する（90%）。平常点は最終評価の参考とする（10%）。ただし、毎回提示するアンケートへの回答がない場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline and objectives】

This course introduces to the first volume of the Tale of Genji students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about the beginning of The of Genji.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

LIT100LA

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：『落窪物語』－日本のシンデレラストーリー

園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『落窪物語（おちくぼものがたり）』と聞いても、その内容が思い浮かぶ人は少ないかもしれないが、この作品は、継母に虐待されていた美しい姫君が、ある貴公子に救われてその妻となり幸せになるという構成の類似から、「日本のシンデレラストーリー」ともいわれ、後世の作品にも影響を及ぼしたものである。

本授業では、『落窪物語』の読解を通して、『源氏物語』以前に成立した整った構成を持つ「王朝家庭小説」といわれるこの作品の特性を考えてみる。

【到達目標】

『落窪物語』の本文を物語の展開に沿って紹介し、この物語の持つ特性や、当時の貴族社会の価値観を考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる講義形式。

なお、学習支援システム上でコメントが記入できる形式の授業内容に関わるアンケートへの回答を要求し、その内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに関与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『落窪物語』を読む	薄幸な美しい姫君
③	『落窪物語』を読む	貴公子、姫君に興味を持つ
④	『落窪物語』を読む	姫君への求婚
⑤	『落窪物語』を読む	秘密の結婚・その1
⑥	『落窪物語』を読む	秘密の結婚・その2
⑦	『落窪物語』を読む	貴公子、継母の虐待を知る
⑧	『落窪物語』を読む	継母、姫君と貴公子の関係を知り 逆上
⑨	『落窪物語』を読む	継母の陰謀－姫君の窮地
⑩	『落窪物語』を読む	姫君、貴公子に救出される
⑪	『落窪物語』を読む	貴公子の報復・その1
⑫	『落窪物語』を読む	貴公子の報復・その2
⑬	『落窪物語』を読む	和解－それぞれの思い
⑭	『落窪物語』を読む	結末－大団円へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業支援システムを用いて、毎回必要な資料を配付する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『落窪物語・堤中納言物語』（小学館）

新日本古典文学大系『落窪物語・住吉物語』（岩波書店）

新潮日本古典集成『落窪物語』（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容によって評価する（90%）。平常点は最終評価の参考とする（10%）。ただし、毎回提示するアンケートへの回答がない場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことで引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどうということなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline and objectives】

This course introduces to the Tale of Ochikubo students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about The of Ochikubo.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：「古事記」から日本の神話を読む。

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」から日本の神話を読む。

古事記の上巻の神代の部分を読むことから、日本人と神とのかかわり、自然観、始源に対するイマジネーション、当時の社会制度といったものを読み取るとともに、それらを表現した文学としての営みを理解し、享受する。

【到達目標】

神話の文学作品としての価値を理解する。

現代の日本社会、日本人にも通じる神・自然との関わりが古代からつながるものであることを理解する。

また他の地域の神話と比較することで始源や自然、人間以上の存在のイメージが、共通するものであることなどを理解する。

神話が現代のファンタジーを生み出す温床となっていることから、文学作品の、理解・享受・再生といった、つながりを理解する。

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあるを感じ取れるようになることと、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

可能な限り教室での対面式の授業での現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

学習支援システムを使つてのまとめ資料などの配布や、質問受付なども、必要に応じて行っていけたらと考えている。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 日本神話とは。	古事記の成立経緯から、時代背景など。
2	創世神話 1	物事の始まりを昔の人々はどうか大地の誕生のイメージ えたのか。
3	創世神話 2	多様な始源のイメージの存在と、古事記と日本書紀の違い 古事記の特性を考える。
4	イザナギ・イザナミ 1	出産という形の、人間的な神の誕生 国生み神話 生。
5	イザナギ・イザナミ 2	死の認識とイメージ。葬儀の風習 黄泉の国訪問と永遠の 別れ とのかかわり

- 6 アマテラスとスサノヲ 太陽神の姉と風の神の弟の対立。
1 禊により生まれた神とは。
- 7 アマテラスとスサノヲ 天変地異の理解と地上への追放
2 (天の神地の神の関係性)
天の岩戸神話を中心に
- 8 出雲神話 1 災害のイメージとマレビト神
八俣の大蛇
- 9 出雲神話 2 因幡の白兔
オオクニヌシ 1 末子相続のイメージと、共同体同
因幡の白兔を中心に考
える
- 10 出雲神話 3 異界・黄泉の国との関係。妻の
オオクニヌシ 2 力。
根の国とは何か
- 11 アマテラスから地上へ 天の神と地の神の関係からヤマト
くりかえされる失敗 朝廷の支配の姿。
の意味するもの
- 12 オオクニヌシの国譲り 支配者の変遷のイメージ
の意味するもの 出雲神話から大和の神話へのつな
がり
- 13 天孫降臨とは何か 古事記の今との関係性。
政治と神事との関係性とは。
- 14 試験・日本神話のま 神とはどのようなものだったか？
めと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近なまたは有名な神社の祭神について興味をもって見てみる、自然と人間とのかわり方について考えてみる、伝統的な年中行事の由来について考えてみる、といった意識をもつようにしてほしい。ギリシャ神話など多神教の神話や現代の神話的ファンタジー小説などを読んでおくと、古事記の神話との関係性が分かりやすいと思う。古事記成立時期前後（6世紀から8世紀）の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注古事記 中巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「空色勾玉」荻原規子
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に事前に発表した問題についてのテスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ100パーセント。評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。毎回出席をとり、50パーセント以上（7回以上）の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、授業計画どおりに作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。テーマが時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい

【Outline and objectives】

Read Japanese myths from "Kojiki".

From reading the Kojiki part of the first volume of the Kojiki, we read the relationship between the Japanese and God, the view of nature, the imagination of the origin, the social system at that time, and understood the literary activity that expressed them. Enjoy.

LIT100LA

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。神話を背景に描かれた、人間の物語を、ヤマトタケルやサホビメを中心に読み解き、現代のファンタジーにも影響を与える古事記の魅力を考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。文学作品が享受されることから新たに文学作品が生まれ出される関係性も見出していく。文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という2面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本は教室での対面授業を想定している。現代語訳付のテキストを使つての講義形式。現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。学習支援支援システムを使つての、質問受付や、理解確認のための設問、まとめ資料の配布なども考えている。受け身でない、授業参加姿勢を期待する。「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第2回	海幸山幸	神の時代から人の時代へ 他界からの助力による権力者の誕生。
第3回	神武天皇 1 東征の意味	東に進むメリットはあるのかを考える
第4回	神武天皇 2 神婚説話	神と権力の関係性。女性のもつ力を考える。
第5回	サホビメ・サホビコ 1 兄・妹の絆	家族制度のせめぎあい。 一夫多妻制における夫と妻と兄と妹の関係性
第6回	サホビメ・サホビコ 2	サホビメの変化・成長を読み取る 妹と妻と母、女性の姿

第7回	常世の国伝説	永遠へのあこがれと死
第8回	ヤマトタケル 1 西征	さまざまな形で勝ち続ける英雄の姿
第9回	ヤマトタケル 2 東征	戦う意味や心の支えを求めて苦悩する英雄の姿。
第10回	ヤマトタケル 3 英雄の終焉	英雄とはなにか。王権との関係性。 日本書紀のヤマトタケルとの比較。
第11回	風土記のヤマトタケルと「白鳥異伝」	現代のファンタジーとの関わり。古典の享受から生み出される現代の作品。現代にも生きる古典の意味。
第12回	神功皇后という存在はなにか	古事記の今との関わり。持統天皇との比較
第13回	古事記下巻や万葉集にみられるヤマトヒメと天皇の恋と妻問	天皇の恋と王権の関わり、天皇や皇后へのワイドショー的興味が生み出すもの
第14回	まとめと解説・レポート提出	古事記における人間の時代とは。下巻の終末と「古事記の今」との関わり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ギリシャ神話や萩原規子、上橋菜穂子のファンタジー作品などを読んでおくと比較がスムーズにできるので望ましい。
古事記成立時期前後（6世紀から8世紀）の日本史を、高校の日本史レベルお振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 中巻」次田真幸

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注 古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「白鳥異伝」萩原規子
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート。4000字相当がほぼ評価の100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
出席は、毎時間とる。半分以上（7回以上）の出席がレポート提出資格となる。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい。文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ、進めていく。また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

Read the part of "Kojiki" from the beginning of the human era. We will read the human story drawn against the background of myths, focusing on Yamato Takeru and Sahobime, and think about the charm of Kojiki, which also affects modern fantasy.

LIT100LA

日本古典文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：「古事記」から日本の神話を読む。

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」から日本の神話を読む。

古事記の上巻の神代の部分を読むことから、日本人と神とのかかわり、自然観、始源に対するイマジネーション、当時の社会制度といったものを読み取るとともに、それらを表現した文学としての営みを理解し、享受する。

【到達目標】

神話の文学作品としての価値を理解する。

現代の日本社会、日本人にも通じる神・自然との関わりが古代からつながるものであることを理解する。

また他の地域の神話と比較することで始源や自然、人間以上の存在のイメージが、共通するものであることなどを理解する。

神話が現代のファンタジーを生み出す温床となっていることから、文学作品の、理解・享受・再生といった、つながりを理解する。

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになることと、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

可能な限り教室での対面式の授業での現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

学習支援システムを使つてのまとめ資料などの配布や、質問受付なども、必要に応じて行っていけたらと考えている。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 日本神話とは。古事記とは。	古事記の成立経緯から、時代背景など。
2	創世神話 1	物事の始まりを昔の人々はどうか大地の誕生のイメージ えたのか。
3	創世神話 2	多様な始源のイメージの存在と、古事記と日本書紀の違い 古事記の特性を考える。
4	イザナギ・イザナミ 1	出産という形の、人間的な神の誕生 国生み神話 生。
5	イザナギ・イザナミ 2	死の認識とイメージ。葬儀の風習 黄泉の国訪問と永遠の 別れ とのかかわり

- 6 アマテラスとスサノヲ 太陽神の姉と風の神の弟の対立。
1 禊により生まれた神とは。
- 7 アマテラスとスサノヲ 天変地異の理解と地上への追放
2 (天の神地の神の関係性)
天の岩戸神話を中心に
- 8 出雲神話 1 災害のイメージとマレビト神
八俣の大蛇
- 9 出雲神話 2 因幡の白兔
オオクニヌシ 1 末子相続のイメージと、共同体同
因幡の白兔を中心に考
える
- 10 出雲神話 3 異界・黄泉の国との関係。妻の
オオクニヌシ 2 力。
根の国とは何か
- 11 アマテラスから地上へ 天の神と地の神の関係からヤマト
くりかえされる失敗 朝廷の支配の姿。
の意味するもの
- 12 オオクニヌシの国譲り 支配者の変遷のイメージ
の意味するもの 出雲神話から大和の神話へのつな
がり
- 13 天孫降臨とは何か 古事記の今との関係性。
政治と神事との関係性とは。
- 14 試験・日本神話のま 神とはどのようなものだったか？
めと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近なまたは有名な神社の祭神について興味をもって見てみる、自然と人間とのかわり方について考えてみる、伝統的な年中行事の由来について考えてみる、といった意識をもつようにしてほしい。ギリシャ神話など多神教の神話や現代の神話的ファンタジー小説などを読んでおくと、古事記の神話との関係性が分かりやすいと思う。古事記成立時期前後（6世紀から8世紀）の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注古事記 中巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「空色勾玉」荻原規子
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に事前に発表した問題についてのテスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ100パーセント。評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。毎回出席をとり、50パーセント以上（7回以上）の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、授業計画どおりに作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。テーマが時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい

【Outline and objectives】

Read Japanese myths from "Kojiki".

From reading the Kojiki part of the first volume of the Kojiki, we read the relationship between the Japanese and God, the view of nature, the imagination of the origin, the social system at that time, and understood the literary activity that expressed them. Enjoy.

LIT100LA

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古事記」の人間の時代に入ってから部分を読む。神話を背景に描かれた、人間の物語を、ヤマトタケルやサホビメを中心に読み解き、現代のファンタジーにも影響を与える古事記の魅力を考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。文学作品が享受されることから新たに文学作品が生まれ出される関係性も見出していく。文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という2面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本は教室での対面授業を想定している。現代語訳付のテキストを使つての講義形式。現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。学習支援支援システムを使つての、質問受付や、理解確認のための設問、まとめ資料の配布なども考えている。受け身でない、授業参加姿勢を期待する。「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第2回	海幸山幸	神の時代から人の時代へ 他界からの助力による権力者の誕生。
第3回	神武天皇 1 東征の意味	東に進むメリットはあるのかを考える
第4回	神武天皇 2 神婚説話	神と権力の関係性。女性のもつ力を考える。
第5回	サホビメ・サホビコ 1 兄・妹の絆	家族制度のせめぎあい。 一夫多妻制における夫と妻と兄と妹の関係性
第6回	サホビメ・サホビコ 2	サホビメの変化・成長を読み取る 妹と妻と母、女性の姿

第7回	常世の国伝説	永遠へのあこがれと死
第8回	ヤマトタケル 1 西征	さまざまな形で勝ち続ける英雄の姿
第9回	ヤマトタケル 2 東征	戦う意味や心の支えを求めて苦悩する英雄の姿。
第10回	ヤマトタケル 3 英雄の終焉	英雄とはなにか。王権との関係性。 日本書紀のヤマトタケルとの比較。
第11回	風土記のヤマトタケルと「白鳥異伝」	現代のファンタジーとの関わり。古典の享受から生み出される現代の作品。現代にも生きる古典の意味。
第12回	神功皇后という存在はなにか	古事記の今との関わり。持統天皇との比較
第13回	古事記下巻や万葉集にみられるヤマトヒメと天皇の恋と妻問	天皇の恋と王権の関わり、天皇や皇后へのワイドショー的興味が生み出すもの
第14回	まとめと解説・レポート提出	古事記における人間の時代とは。下巻の終末と「古事記の今」との関わり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ギリシャ神話や荻原規子、上橋菜穂子のファンタジー作品などを読んでおくと比較がスムーズにできるので望ましい。
古事記成立時期前後（6世紀から8世紀）の日本史を、高校の日本史レベルお振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 中巻」次田真幸

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 古事記 上巻」次田真幸
講談社学術文庫「全訳注 古事記 下巻」次田真幸
岩波文庫「古事記の世界」西郷信綱
徳間文庫「白鳥異伝」荻原規子
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート。4000字相当がほぼ評価の100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
出席は、毎時間とる。半分以上（7回以上）の出席がレポート提出資格となる。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。

数回、小テストというほどでないが、設問を出し、その回答に対して振り返りを行うことで、理解度が上がるということが、昨年のオンライン授業で経験したので、そうしたこともとり入れていきたい。文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ、進めていく。また、ディスカッションとはいかなくても、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

Read the part of "Kojiki" from the beginning of the human era. We will read the human story drawn against the background of myths, focusing on Yamato Takeru and Sahobime, and think about the charm of Kojiki, which also affects modern fantasy.

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：【日本近・現代文学の問題作を読む】

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき2～3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
- ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
- ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。

作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

春学期の「日本近・現代文学A」では明治期の文学を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は授業開始時刻に授業支援システム、Google Classroomなどで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

テキストは必ず事前に読んでくることを求めます。テキストを読んでもこない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「日本近代文学」の始まり：「日本」	授業計画および予備知識の説明。 『浮雲』
2	「日本近代文学」の始まり：「近代」	『浮雲』
3	「日本近代文学」の始まり：「文学」	『浮雲』
4	浪漫主義とはなにか	『たけくらべ』
5	大人の世界の影／背後からの監視	『たけくらべ』
6	テキストの空白について	『たけくらべ』
7	部落差別に関する予備知識そのほか	『破戒』
8	自然主義とはなにか	『破戒』
9	作者の意図と表現について	『破戒』
10	夏目漱石について	『ころも』

- 11 テキスト論について 『こころ』
 12 他者という恐怖について 『こころ』
 て
 13 まとめと説明① 明治文学
 14 まとめと説明② 大正文学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二葉亭四迷『浮雲』新潮文庫ほか
 樋口一葉『にごりえ・たけくらべ』岩波文庫
 島崎藤村『破戒』新潮文庫ほか
 夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

- ※ 専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。
 - ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時間に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
 - ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。
- 2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：【日本近・現代文学の問題作を読む】

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
 一作品につき3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
 - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
 - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。
 わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。
 秋学期の「日本近・現代文学B」では大正期、昭和期の作品を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は授業開始時刻に授業支援システム、Google Classroomなどで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

テキストは必ず事前に読んでくることを求めます。テキストを読んでもこない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	自然主義から私小説へ	『子をつれて』
3	やっかいな〈わたし〉	『子をつれて』
4	私小説の意義とはなにか	『子をつれて』
5	芥川龍之介について	『歯車』
6	文学と狂気について	『歯車』
7	芥川龍之介のたたかいとはなにか	『歯車』
8	戦前、戦中、戦後	『人間失格』
9	芥川龍之介と太宰治	『人間失格』
10	敗者の真実	『人間失格』
11	作品の時代背景——禁教の時代と第二次大戦後	『沈黙』
12	神の暴力について	『沈黙』
13	日向のにおい	『沈黙』

14 まとめと説明 まとめと説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

葛西善蔵『哀しき父 権の若葉』講談社文芸文庫
芥川龍之介『歯車他二篇』岩波文庫
太宰治『人間失格』新潮文庫ほか
遠藤周作『沈黙』新潮文庫

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

- ※ 専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。
- ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
- ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まづググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：【日本近・現代文学の問題作を読む】

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。一作品につき2～3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
 - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
 - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。

春学期の「日本近・現代文学A」では明治期の文学を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は授業開始時刻に授業支援システム、Google Classroomなどで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

テキストは必ず事前に読んでくることを求めます。テキストを読んでこない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 「日本近代文学」の始まり：「日本」	授業計画および予備知識の説明。 『浮雲』
2	「日本近代文学」の始まり：「近代」	『浮雲』
3	「日本近代文学」の始まり：「文学」	『浮雲』
4	浪漫主義とはなにか	『たけくらべ』
5	大人の世界の影／背後からの監視	『たけくらべ』
6	テキストの空白について	『たけくらべ』
7	部落差別に関する予備知識そのほか	『破戒』
8	自然主義とはなにか	『破戒』
9	作者の意図と表現について	『破戒』
10	夏目漱石について	『ころも』

- 11 テキスト論について 『こころ』
 12 他者という恐怖について 『こころ』
 て
 13 まとめと説明① 明治文学
 14 まとめと説明② 大正文学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二葉亭四迷『浮雲』新潮文庫ほか
 樋口一葉『にごりえ・たけくらべ』岩波文庫
 島崎藤村『破戒』新潮文庫ほか
 夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

- ※ 専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。
 - ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時間に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
 - ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。
- 2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：【日本近・現代文学の問題作を読む】

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
 一作品につき3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
 - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
 - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかわるかを問うてきました。
 わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。
 秋学期の「日本近・現代文学B」では大正期、昭和期の作品を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は授業開始時刻に授業支援システム、Google Classroomなどで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。

テキストは必ず事前に読んでくることを求めます。テキストを読んでもこない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	自然主義から私小説へ	『子をつれて』
3	やっかいな〈わたし〉	『子をつれて』
4	私小説の意義とはなにか	『子をつれて』
5	芥川龍之介について	『歯車』
6	文学と狂気について	『歯車』
7	芥川龍之介のたたかいとはなにか	『歯車』
8	戦前、戦中、戦後	『人間失格』
9	芥川龍之介と太宰治	『人間失格』
10	敗者の真実	『人間失格』
11	作品の時代背景——禁教の時代と第二次大戦後	『沈黙』
12	神の暴力について	『沈黙』
13	日向のにおい	『沈黙』

14 まとめと説明 まとめと説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

葛西善蔵『哀しき父 権の若葉』講談社文芸文庫
芥川龍之介『歯車他二篇』岩波文庫
太宰治『人間失格』新潮文庫ほか
遠藤周作『沈黙』新潮文庫

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（Google フォームなどを利用した課題）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

- ※ 専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。
- ※ 上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
- ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代国語」を越え、文学作品を能動的かつ創造的に読む。主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こす。多様な作品解釈に向けて、誤読の自由も行使する。神話、日本語、カネ、恋愛、戦争、テクノロジーなどのテーマに基づき、漱石、一葉、谷崎、戦後文学などを読み解く。

【到達目標】

日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的原因を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話す。随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらおう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文学とはどんな営みか？	神話と文学をつなぐもの
2	日本語とはどういう言語か？	魅惑の日本古典
3	お金の話 1	漱石を読む コトバカカネか？『ころ』の自由な読み方。誤読のススメ。
4	写生文について 2	漱石を読む 明治の散文理論
5	樋口一葉を読む	描写について 少女文学の元祖
6	快楽の活用	官能の哲学
7	性的人間	もてない男の栄光 さまざまな愛の形 同性愛 ロリコン フェティッシュ
8	日本論と日本人論	「武士道」、「日本風景論」、「茶の本」を読む。
9	戦争に負けるということ	大岡昇平『野火』、『武蔵野夫人』を読む。
10	戦後の文学	戦争文学 占領文学 坂口安吾の認識。敗戦と焼跡の想像力。

11	小説と“場所”	上京小説 よそ者の視点 芥川『歯車』を読む。可能性、パラレルワールド。
12	空っぽな心	三島由紀夫という逆説。川端という曖昧。
13	現代文学と世相	近頃巷で流行るもの 経済と文学。
14	まとめと質疑応答	これまでの質問、コメントに対する回答と論評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』 島田雅彦著 新潮選書 2009
『深読み日本文学』 島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【参考書】

『必読 150』 太田出版
それ以外は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準はレポート80%、平常点20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Beyond the "Gendai kokugo(contemporary Japanese)" we read literary works actively and creatively. We primarily focus to discover the hidden desires in Japanese contemporary novels. We also exercise freedom of misreading for interpretation of various works. Based on themes such as myths, languages money, romance, war, technology, we will read about Soseki, Ichiba, Tanizaki, postwar literature etc.

LIT100LA

日本文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「世界文学」のエポックメイキングな作品を能動的かつ創造的に読む。神話、言語、恋愛、交易、テクノロジーなどのテーマに基づき、履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。

【到達目標】

世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話す。随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夢見る力	神話の時代 口承文学
2	古代の英雄	「オイディプス王」を読む
3	聖書の虚実	政治、宗教というフィクション モーゼと一神教 イエスという男
4	恋愛の誕生	『神曲』を読む
5	ドン・ファンと光源氏	女たらし東西比較
6	ゲーテンベルク以後	出版文化の萌芽 大量複製時代
7	大航海時代	転換期の知性 交易と文学
8	宣教と棄教	East Meets West 日本におけるキリスト教布教の歴史
9	対話について	ドストエフスキー論
10	パロディ文学論	ジョイスとナボコフ 現代亡命文学事情
11	映画と文学	小説から劇映画へ 映像化された古典
12	政治と文学	物語と歴史のはざま ナショナルイズムというフィクション 想像の共同体
13	テクノロジーと文学	世界の終わり パラレルワールド 時間の彼方 SF の想像力

- 14 授業内試験か質疑応答 授業内試験ができない場合はレポート。この時間はまとめと質疑応答にあてる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『小説作法ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

【参考書】

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験80%、平常点20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Active and creative reading of epoch-making works of "World Literature". Based on themes such as myths, languages, romance, trade, technology, etc., Students face the must-read books of the Western classics, which have been read widely in Japan recognizing the role of literature in world history.

LIT100LA

日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：**戦前文学の社会性とメディア横断**

佐藤 未央子

開講時期：**春学期授業/Spring** | 曜日・時限：**火 5/Tue.5**

単位数：**2 単位**

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本近代文学が成立した明治期から昭和20年代までの文学を論じる。ドラスティックに変化する、いわゆる〈近代〉化の過程で、作家たちはいかなる言葉によって社会と、ひいてはそれを存立させる制度と切り結んできたか。同時期に発達する諸メディア（写真・雑誌・映画等）との関わりを参照しながら考えていく。また、戦前の作品がいまの時代に対して持つ批評的意義を積極的に読み解いていきたい。

【到達目標】

・文学作品をただ読むのではなく、時代・社会背景を考慮したうえで、その成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・文学作品は、それ単体でなく周辺の諸メディアと関わりながら成り立ってきたことを具体的な例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／「日本近代文学」とは何か
第2回	エリートと遊民のジレンマ	森鷗外「舞姫」「青年」、夏目漱石「三四郎」「それから」
第3回	「内面」の発見から告白の欲望へ	北村透谷と島崎藤村「春」
第4回	日露戦争というスペクタクル	田山花袋、国木田独歩の従軍
第5回	交差する演劇と文学	泉鏡花「義血侠血」「天守物語」ほか
第6回	消された言葉たち	社会主義思想と言論統制
第7回	〈拡散〉される私	谷崎潤一郎の映画論と「人面疽」
第8回	日本統治下の台湾と文学	佐藤春夫「女誠扇綺譚」「霧社」
第9回	震災を語る作家たち	内田百閒「アジンコート」、竹久夢二「東京災難画信」ほか
第10回	労働／消費が生み出すもの	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、梶井基次郎「泥濘」
第11回	「詩的精神」か「話の筋」か	芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」「歯車」
第12回	新感覚派の視角	横光利一「機械」、川端康成「水晶幻想」
第13回	疾病へのまなざし	北条民雄「いのちの初夜」
第14回	総括	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

- ・十川信介『近代日本文学案内』（2008、岩波文庫）
 - ・海野弘『モダン都市東京 日本の1920年代』（2007、中公文庫）
 - ・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』1、2巻（2018、岩波文庫）
- ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50%
 - ・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50%
- 以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より授業を担当するため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese literature 1870s-1940s. It also explains actuality and significance of prewar literature by referring to magazines and cinema.

LIT100LA

日本文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：映像から読む戦後文学

佐藤 未央子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、1940年代から2000年代までの文学作品を取り上げる。敗戦後、GHQの占領下でひとびとは〈焼跡〉から再起し、60年代には飛躍的な経済成長を遂げ、2000年代には匿名性の高い情報化社会が完成するが、この大きな物語の陰にある個人の生活と心情に焦点を絞る。再編され続ける制度や社会空間の中に生きる人々の姿を、作家がいかに捉えたかを明らかにしていく。また戦後、国際的に評価が高まった日本映画や演劇を参照することで、戦後日本の70年を視覚的にも確認していきたい。

【到達目標】

- ・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
- ・戦後日本の国際的な立場や文化状況の知識を持ち、作品解釈に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／戦争を語るということ
第2回	言論統制への抗い	谷崎潤一郎「細雪」
第3回	表現の不自由	田村泰次郎「春婦伝」と映画化をめぐる問題
第4回	爆撃と肉体	坂口安吾「墮落論」「白痴」
第5回	焼け跡を生きる	志賀直哉「灰色の月」、林芙美子「下町（ダウン・タウン）」
第6回	太宰治の〈戦争〉	「散華」「斜陽」ほか
第7回	「太陽族」の登場	石原慎太郎「太陽の季節」「狂った果実」
第8回	三島由紀夫の自己劇化	「憂国」「太陽と鉄」「楸」ほか
第9回	美しい日本の私	川端康成と日本文学の国際化
第10回	明暗の境界	宮本輝「泥の河」
第11回	アングラ演劇と文学の空間	安部公房・寺山修司・唐十郎
第12回	デタッチメントからコミットメントへ	村上春樹の位置
第13回	密室とセカイの通路	阿部和重「ニッポニア・ニッポン」
第14回	総括	授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

・磯田光一『戦後史の空間』（2000、新潮文庫）
 ・本多秋五『物語戦後文学史』上、中、下（2005、岩波現代文庫）
 ・ロバートキャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』3巻（2018、岩波文庫）
 ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50 %
 ・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50 %
 以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より授業を担当するため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with postwar Japanese literature, drama and cinema. It also explains how the author wrote about people in various systems and postwar societies.

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「旅」

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、ゲーテ『イタリア紀行』、アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。

春学期の授業では様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エッセー、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考える。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となります。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- 文学の題材と形式の関係を知ること。
- 「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての旅について
第2回	『オデュッセイア』精読（1）	第十一歌（ハデス）
第3回	『オデュッセイア』精読（2）	課題、ディスカッション
第4回	冥界への旅（1）	『オルペウスとエウリュディケ』 読解
第5回	冥界への旅（2）	課題、ディスカッション
第6回	近代文学とギリシャ神話（1）	T. マン『ベニスに死す』第3章読解
第7回	近代文学とギリシャ神話（2）	課題、ディスカッション
第8回	教養小説と「旅」（1）	ゲーテ『イタリア紀行』「ローマ」 読解
第9回	教養小説と「旅」（2）	課題、ディスカッション
第10回	ロマン主義と「旅」（1）	アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』第一章 読解
第11回	ロマン主義と「旅」（2）	課題、ディスカッション

第12回 映画と流行歌における W. ヴェンダース *Lisbon Story* 等
「旅」

第13回 映画と流行歌における 課題、ディスカッション
「旅」

第14回 まとめ 授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

T. マン：「ヴェネツィアに死す」、岸美光訳、光文社（2007）

【参考書】

ホメロス『オデュッセイア』

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：60%

（課題提出も含む）平常点：40%

（受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。）

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoomなどで接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的にPDFファイルになりますので、PDFフォームへの文字の入力方法などについてお持ちのPCを確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

From ancient Greek mythology *Odyssey*, to Swift's *Gulliver's travels*, Montaigne's *Essays*, until Eichendorf's *Memoirs of a Good-for-Nothing*, the relationship between travel and literature is one of the important theme of world literature.

In this course we will investigate various forms of travel literature including epic poem, diary, essay, satire, novel of formation etc.

LIT100LA

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。

授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

。今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。

。「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。

。異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
第2回	神話と変身（1）	オウィディウス『変身物語』読解（1）
第3回	神話と変身（2）	オウィディウス『変身物語』読解（2） 課題、ディスカッション
第4回	メルヘンと変身（1）	グリム『六羽の白鳥』読解
第5回	メルヘンと変身（2）	課題、ディスカッション
第6回	メルヘンと変装（1）	ペロー『ロバの皮』読解
第7回	メルヘンと変装（2）	課題、ディスカッション
第8回	オペラと変身（1）	ワグナー『ローエングリン』について
第9回	オペラと変身（2）	課題、ディスカッション
第10回	変身物語と映画（1）	ステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（1） 映画との比較
第11回	変身物語と映画（2）	ステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（2） 諸映画との比較 課題、ディスカッション

- 第12回 変身物語と映画 (3) カフカ『変身』読解 (1)
諸映画、コミック等との比較
- 第13回 変身物語と映画 (4) カフカ『変身』読解 (2)
諸映画、コミック等との比較
課題、ディスカッション
- 第14回 まとめ 授業の総括および試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト (初期) 設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

【参考書】

オウィディウス『変身物語』

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：60%

(課題提出も含む) 平常点：40%

(受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材 (Zoom など) で接続可能な機器) を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的にPDFファイルになりますので、PDFフォームへの文字の入力方法などについてお持ちのPCを確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr. Jekyll and Mr. Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キ 1~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランスのバカロレアは19世紀にナポレオンI世により創設されました。合格者には中等教育修了 (高等学校卒業程度) の認定と、高等教育進学 (大学やグランゼコールなど) の許可を兼ねる学位が付与されてきました。創設当時より、試験は記述式で行われています。

本授業では、バカロレアの国語の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます (作品は日本語で読めます)。春学期は「テキスト解釈」を扱います。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心です。

指示した文章 (リアクションペーパー、コメントなど) を書いてもらうこともあります。良いコメントは授業内で紹介します。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要・課題説明
2	象徴派の詩：ポートル	説明
3	テキスト解釈導入	ボードレールの詩の分析
4	ロマン派の詩：ビクトル・ユゴー	説明
5	テキスト解釈基本	ビクトル・ユゴーの詩の分析
6	論述文	エミリー・デュシャトレ「幸福論」
7	テキスト解釈練習	論述文の分析
8	ラ・フォンテーヌ『寓話』	説明
9	「テキスト解釈」バカロレア口述予想問題	ラ・フォンテーヌの『寓話』の分析
10	ヴォルテールと『百科全書』	説明
11	テキスト解釈練習問題	『百科全書』抜粋の分析
12	エミール・ゾラ	ドレフュス事件と「我弾劾す」
13	「テキスト解釈」バカロレア筆記過去問題	2016年度の問題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末試験 50%（教室授業が可能である場合）

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて事前に授業資料を配布するようにします。

【Outline and objectives】

An introduction to French literature and a literary analysis.

LIT100LA

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀にナポレオンⅠ世によって創設されたフランスのバカロレアは、幾度かの改革を経て今日に至っています。2021年度には再び大改革が行われ、必修科目の一つに「新口述試験」が加えられます。

本授業では春学期の続きとして、バカロレアの国語の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品に触れます。課題は「総括」「小論文」「創作作文」という三種類の論述文です。また、初等・中等教育の集大成と位置づけられる「新口述試験」について学びます。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・大学入試における口述試験について、フランスの事例を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約、授業に沿って指示する文章を書いてもらうこともあります。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期授業内容・課題説明
2	総括基礎	身近な文章
3	総括基本（1）	文学の課題 モーパッサン『ベラミ』
4	総括基本（2）	文学の課題 ゾラ『ボヌール百貨店』
5	総括基本（3）	文学の課題 フローベール『純な心』
6	「総括」2020年度期末試験課題解説	モーパッサン『ボヴァリー夫人』、モーパッサン『女の一生』
7	「総括」バカロレア課題	2016年の課題解説
8	小論文基礎	身近な文章/プランの立て方
9	小論文基本	文学の課題：2020年度期末試験課題解説
10	「小論文」バカロレア課題	2016年の課題解説
11	創作作文基本	ゾラ『ジェルミナル』
12	「創作作文」バカロレア課題	2016年の課題解説
13	新口述試験	試験内容、目的、対策
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

・横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%（教室授業が可能な場合）

【学生の意見等からの気づき】

課題の取り組み方をより丁寧に説明するようにします。

【Outline and objectives】

An introduction to French literature and a literary analysis.

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】

中国古典や漢詩を鑑賞するために必要な基本知識を習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、要領さえ掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。成立した時代背景・習俗や作者などを解説しつつ、原文を訓読で読解していく形を基本とする。授業は春秋時代から唐代まで、時代順に進めていく。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらって学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。その際には大学の学習支援システム（H oPPIi）でPDF等を使用し、zoomや動画・パワーポイントは用いない予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国とは	授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第2回	甲骨・金文	実際の甲骨文字と金文の出土資料を使い、現在の漢字に至るまでの文字の変遷を知る。
第3回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第4回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第5回	三曹の詩	三国志の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第6回	陶淵明	六朝期を代表する作品を比較しつつ鑑賞する。
第7回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に崔顥の「黄鶴楼」と孟浩然の「春暁」を読む。

第 8 回	李白	李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。
第 9 回	王維	王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。
第 10 回	杜甫	「春望」など、杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。
第 11 回	白居易	「長恨歌」を読み解く。
第 12 回	杜牧	杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。
第 13 回	復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店 2003 年）
岡村繁『文選の研究』（岩波書店 1999 年）
興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店 2000 年）
小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店 1975 年）
松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店 1987 年）
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に漢代のものから、より物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、その当時の時代背景や文化などと一緒によく多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。

【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。大学の行動方針レベルが 2 となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。その際には大学の学習支援システム（H oPPii）で PDF 等を使用し、zoom や動画・パワーポイントは用いない予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と中国文学全体の概説をする。
第 2 回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔斉伝を読む。
第 3 回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第 4 回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第 5 回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第 6 回	志怪小説を読む（1）	『搜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。 （1）では魂の行方をテーマとする
第 7 回	志怪小説を読む（2）	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第 8 回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。

- 第9回 「人虎伝」を読む(1) 中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝は日本でも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。
- 第10回 「人虎伝」を読む(2) 人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。
- 第11回 「人虎伝」を読む(3) 人虎伝の続きを読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。
- 第12回 「人虎伝」を読む(4) 結末を読み、人虎伝とは結局どのような物語であったのかを整理する。
- 第13回 復習と総括 第1回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。
- 第14回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『中国古典小説選 穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』
 明治書院『中国古典小説選 搜神記・幽明録・異苑他』
 明治書院『新釈漢文大系 史記八(列伝一)』
 明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
 平凡社『東洋文庫 搜神記』
 この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中のそれぞれの文献や文学作品を比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】

日中両国の文学作品を、より広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。その際には大学の学習支援システム（H oPPii）でPDF等を使用し、zoomや動画・パワーポイントは用いない予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第2回	「神話」を読む(1)	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第3回	「神話」を読む(2)	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第4回	「神話」を読む(3)	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、実在の王朝へとつながる部分を読む。
第5回	「神話」を読む(4)	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第6回	「神話」を読む(5)	日本の神話から、スサノオやオオクニヌシの部分を読む。
第7回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第8回	「魏志倭人伝」を読む(1)	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。この回では『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条(所謂「魏志倭人伝」)を実際に読む。

- 第9回 「魏志倭人伝」を読む (2) 「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。
- 第10回 説話を読む (1) 『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や思想・他界観が読み取れる話を読む。
- 第11回 説話を読む (2) 信貴山の縁起に関わる物語を読む。
- 第12回 『枕中記』を読む 中国唐代の伝記小説である『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
- 第13回 復習と総括 第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
- 第14回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などととも、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波文庫『古事記』
 明治書院『新釈漢文大系 史記一（本紀上）』
 中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く 三国志から見る邪馬台国』渡邊義浩著
 小学館『日本古典文学全集 今昔物語』
 小学館『日本古典文学全集 宇治拾遺物語』
 明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
 小学館『日本古典文学全集 枕草子』
 など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくることを望ましい。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

LIT100LA

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

【到達目標】

精読を通して、日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。その際には大学の学習支援システム（H oPPii）でPDF等を使用し、zoom や動画・パワーポイントは用いない予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明をする。
第2回	流浪する英雄—中国— (1)	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第3回	流浪する英雄—中国— (2)	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第4回	流浪する英雄—中国— (3)	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第5回	流浪する英雄—中国— (4)	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第6回	流浪する英雄—中国— (5)	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第7回	流浪する英雄—日本— (1)	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第8回	流浪する英雄—日本— (2)	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第9回	戦の天才とその末路— 中国— (1)	『史記』列伝から、中国史における軍事の天才の1人である楽毅の話を読む。
第10回	戦の天才とその末路— 中国— (2)	当時の時代背景などに注意しつつ、楽毅列伝から、楽毅の書いた手紙を読む。

第11回 戦の天才とその末路—
日本— (1)

日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。

第12回 戦の天才とその末路—
日本— (2)

『平家物語』の続きと義経の書いた手紙を読み、平家の結末に関して解説する。

第13回 復習と総括

第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。

第14回 試験・まとめと解説

授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『新釈漢文大系 史記五（世家上）』

明治書院『新釈漢文大系 春秋左氏伝（一）』

明治書院『新釈漢文大系 国語（上）』

明治書院『新釈漢文大系 国語（下）』

明治書院『新釈漢文大系 史記九（列伝二）』

小学館『日本古典文学全集 古事記 上代歌謡』

岩波書店『日本古典文学大系 32 平家物語上』

岩波書店『日本古典文学大系 33 平家物語下』

など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する機会がある。

シラバスに挙げていない作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくることを望ましい。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較と日韓問題

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国のより理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較してみることで、新しい発見や日韓の未来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的参加も歓迎します。

【到達目標】

日韓の文化や習慣・歴史の差などを多様な角度から比較することによって、日韓の様々な問題を総合理解し、解決の出発点に立つことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本人学生と韓国人の留学生の割合にもよりますが、日韓の文化・習慣・問題・歴史・トレンドなどについて比較したり、ご意見やご質問など、皆さんの積極的な授業への参加をお勧めします。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓簡単比較	日韓の基礎知識を比較します。
第 3 回	日韓問題について 1	日韓の間にはどのような問題があるかを調べてみます。
第 4 回	日韓習慣の比較	日韓の習慣などの比較をします。
第 5 回	現在の日韓問題について 2	現在の日韓問題について詳しく調べます。
第 6 回	現在の日韓トレンド	日韓トレンドを比較します。
第 7 回	日韓文化比較	日韓の様々な教育問題を比較します。
第 8 回	日韓教育問題比較	日韓の入試と大学生活などを比較してみます。
第 9 回	日韓問題比較 3	日本における渡来人などについて考えてみます。
第 10 回	日韓の文化を比較	日韓文化について比較をしてみます。
第 11 回	日韓の現在の問題について比較 4	日韓における現在に起きている様々な問題について比較します。
第 12 回	日韓の現在の問題について比較 5	日韓の現在の政治的な問題について比較します。

第 13 回 日韓の現在の問題について比較 6 日韓の歴史的な様々な問題について比較します。

第 14 回 日韓問題について直接意見交換をします。意見交換など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓についての記事や情報収集。授業感想など。日韓の文化・問題などの意見発表なども歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

授業中に必要な文献・資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業感想・レポートなど 50%、期末レポート 50%。

（学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします）

合計 100%

課題・授業感想等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【学生の意見等からの気づき】

もっと日韓文化・問題を知りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。授業中に DVD やインターネットを使います。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

We aim to deepen the understanding of both Japan and Korea by discussing their cultures and other interesting themes. By comparing cultures and problems between the two countries, you would make new findings and envision their future outlooks. The purpose of this course is to enhance the exchanges between the two countries by taking a broad look at issues and topics that young Koreans and Japanese are interested in from young people's perspectives. This course also welcomes Korean international students.

LIT100LA

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。特に、現在の韓国の若者のトレンドから日韓文化比較を更に進め、歴史から現在までの様々な日韓問題などを、日韓交流の発展を模索していく学習の場にしていきたいと思えます。

【到達目標】

常に、現在の韓国のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、韓国のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくるのが授業の目指す目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げた韓国の文化や話題や問題点について、韓国の両方の立場・視点から考えていく。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第2回	日韓文化比較 1	現在の韓流について考えてみます。
第3回	日韓文化比較 2	現在の日韓若者たちのトレンドについて調べてみます。
第4回	韓国のトレンド比較 1	現在の日韓若者たちのトレンドを比較してみます。
第5回	韓国のトレンド比較 2	日韓若者たちのファッションのトレンドを調べてみます。
第6回	日韓文化比較 3	日韓若者たちのファッショントレンドを比較してみます。
第7回	日韓問題比較 1	日韓若者たちの流行を調べてみます。
第8回	日韓問題比較 2	日韓若者たちの流行りを比較してみます。
第9回	日韓文化比較 4	北朝鮮について調べてみます。
第10回	日韓文化比較 5	北朝鮮と日韓問題について比較してみます。
第11回	日韓問題比較 3	韓国の宗教問題などを比較してみます。
第12回	日韓問題比較 4	韓国の企業問題などを比較してみます。

第13回 日韓文化比較 6 在日コリアン問題を調べてみます。

第14回 総合問題などの意見交換 意見交換などをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓問題の記事や情報など。授業内容などによるレポート。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

文献・資料などは授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法（平常点〔課題、授業感想など〕）50%、
期末レポート 50%

（発表など積極的な授業参加なども参考にします）

合計 100%

課題や授業感想等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【学生の意見等からの気づき】

韓国の様々な文化・問題についてもっと知りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業では DVD やインターネットなどを使用します。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

Based on the contents covered in the spring semester, we will look at Japanese and Korean cultures, their recent trend, and issues from various perspectives. In particular, we intend to further our comparison of cultures from the trend of young people in Japan and discuss various issues regarding the two countries to cogitate their potential development of exchanges in the future.

LIT100LA

日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：アダプテーションからみる日本近・現代文学

鈴木 彩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

法文営国環キ1～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代文学（特に明治・大正・昭和期）の「アダプテーション」について学ぶ。「アダプテーション」とは、ある作品を元に別の作品を創造すること、および創造された作品を指す言葉であり、小説やマンガの映画化・舞台化のように私たちの周囲に数多く存在する。この授業では、その中から文学テキストとして読むことが可能な小説と戯曲（演劇脚本）を中心に取り上げ、既存の物語がいかに作り替えられてきたのか、また、その変容に影響するものは何かを考える。

【到達目標】

私たちはアダプテーションの良し悪しを「原作」に忠実か、その雰囲気や再現し得ているかという点で評価する傾向にある。しかし、この授業ではそうした視点を離れ、アダプテーションの中にみられる原作の多様で自由な解釈や、原作に対する批評を読み解くことを主な目標とする。また、原作からの変容のしかたと、その変容の背景（時代・場所・作者など）の関係についても考察を試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業・オンデマンド形式（資料配信型）で行う。授業の要点を解説した音声付きパワーポイントと、引用文などをより詳しく掲載したPDFの別紙資料を配布する。毎授業資料の公開後、一定期間（4日程度）の間に、リアクションペーパーに相当する短い課題（講義の感想・質問、および講義に関連する問に対する自分の考えなど）を学習支援システムから提出してもらう。次の回の授業では、その課題の中からいくつかを取り上げ、フィードバックや質問への回答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・進め方について
第2回	「アダプテーション」と「間テクスト性」	授業で用いる概念の解説
第3回	小説／演劇における「芥川龍之介「地獄変」語り、の性質①	
第4回	小説／演劇における「三島由紀夫「地獄変」語り、の性質②	
第5回	古典演劇から近代文学へ	志賀直哉「クローディアスの日へ」
第6回	説話から近代文学へ①	浦島伝説と近代文学
第7回	説話から近代文学へ②	太宰治「浦島さん」
第8回	アダプテーションと時代背景	木下順二「夕鶴」
第9回	アダプテーションと原作への疑問	泉鏡花「海神別荘」
第10回	近代戯曲の現代上演	「海神別荘」のミュージカル化

第11回 原作への忠実さ・原作 尾崎紅葉「金色夜叉」

からの距離①

第12回 原作への忠実さ・原作 宮本研「新釈・金色夜叉」

からの距離②

第13回 ちりばめられた作品イ 泉鏡花「南地心中」

メージ

第14回 総括

授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、「授業計画」に挙げた作品を事前に読み、内容を把握する。（授業内ではあらすじの説明にはあまり時間を割かないので、必ず事前に読んでおくこと。長編作品の場合は、目を通すべき章を授業内で指示する。）

復習として、PDFの別紙資料に改めて目を通し、理解度を確認する。またリアクションペーパーに相当する短い課題（「授業の進め方と方法」に記載したもの）を提出する。

本授業の準備・復習時間は各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜資料の配布を行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・レポートによる評価 60%

・学習支援システムを利用した「小テスト」（半期につき2回予定・時間制限付き）による評価…20%

・平常点（毎授業後のリアクションペーパーの提出率・内容）による評価…20%

以上を総合して判断する。ただしレポートの提出を行わなかった場合、単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料冒頭で、前の回の課題に記入いただいたコメントの共有や、質問への回答を行うことは好評であるため、今年度も継続します。小テストの難易度は、やや高く感じられるかもしれませんが、受講生の皆さんには改めてそれまでの授業内容を見直した上で、自身の理解度を確認していただきたいという考えから、事前に授業内容の復習・確認が必要となる難易度で、今後も実施する予定です。また、昨年度もオンデマンド型授業でしたが、資料配信が遅れ、ご迷惑をおかけすることがありましたので、今年度はそのようなことがないように、十分に注意して実施します。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・事務的な連絡などは、学習支援システムを通じて行う。

【Outline and objectives】

This course deals with "Adaptation". By "adaptation" we mean the creation of works based on other works such as making a movie inspired from a comic book. We can find many adapted works around us. In this course, I will pick up the novels and plays (theater scripts) because we can read them as published texts. Students can learn the differences between an original work and adapted one, and also what influences these differences.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：日本近・現代文学から浮かび上がる作者のイメージ

鈴木 彩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学テキストから浮かび上がる「作者像」を読み解く。多くの場合、文学作品を読む読者は、それを書いた作者について、何らかのイメージを抱く。しかし実在の作者と、作品から想起される「作者像」は必ずしも同じではない。この授業では日本近現代文学（特に明治・大正・昭和期）の中から、作家を主人公にして書かれたフィクションや、作者の体験に重なる小説などを読むことを通して、作者のイメージがどのように形成され、流布するのかを考える。

【到達目標】

作者に関する情報は、作品を読むにあたって参照され、時にはそれに基づいて登場人物と作者が重ねられもする。しかし文学を学ぶにあたっては、実在する作者と、作品を読む上で想起される「作者像」を適切に切り分ける必要がある。そのことを理解した上で、テキストがどのような「作者像」を構築しようとしているかを読み取り、それらのテキストが持つ意義や戦略性を学ぶことを、この授業の主な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業・オンデマンド形式（資料配信型）で行う。授業の要点を解説した音声付きパワーポイントと、引用文などをより詳しく掲載したPDFの別紙資料を配布する。毎授業資料の公開後、一定期間（4日程度）の間に、リアクションペーパーに相当する短い課題（講義の感想・質問、および講義に関連する問に対する自分の考えなど）を学習支援システムから提出してもらう。次の回の授業では、その課題の中からいくつかを取り上げ、フィードバックや質問への回答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・進め方について
第2回	文学研究は「作者」をどう考えるか	授業で用いる概念の解説
第3回	「作者」をめぐる論争	夏目漱石「こころ」
第4回	「作者像」の流布と更新①	樋口一葉「にごりえ」
第5回	「作者像」の流布と更新②	樋口一葉「十三夜」
第6回	「作者像」の流布と更新③	井上ひさし「頭痛肩こり樋口一葉」
第7回	明治時代へのノスタルジー	泉鏡花「薄紅梅」
第8回	自伝的小説を書き換えること①	林芙美子「放浪記」
第9回	自伝的小説を書き換えること②	「放浪記」の改稿について

- 第10回 流行作家の文壇批判① 龍胆寺雄「放浪時代」
 第11回 流行作家の文壇批判② 龍胆寺雄「M・子への遺書」
 第12回 「作者像」の構築方法 太宰治「新ハムレット」
 ①
 第13回 「作者像」の構築方法 太宰治「人間失格」
 ②
 第14回 総括 授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、「授業計画」に挙げた作品を事前に読み、内容を把握する。（授業内ではあらすじの説明にはあまり時間を割かないので、必ず事前に読んでくること。長編作品の場合は、目を通すべき章を授業内で指示する。）

復習として、PDFの別紙資料に改めて目を通し、理解度を確認する。またリアクションペーパーに相当する短い課題（「授業の進め方と方法」に記載したもの）を提出する。

本授業の準備・復習時間は各3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・レポートによる評価 60%
- ・学習支援システムを利用した「小テスト」（半期につき2回予定・時間制限付き）による評価…20%
- ・平常点（毎授業後のリアクションペーパーの提出率・内容）による評価…20%

以上を総合して判断する。ただしレポートの提出を行わなかった場合、単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料冒頭で、前の回の課題に記入いただいたコメントの共有や、質問への回答を行うことは好評であるため、今年度も継続します。小テストの難易度は、やや高く感じられるかもしれませんが、受講生の皆さんには改めてそれまでの授業内容を見直した上で、理解度を確認していただきたいという考えから、事前に授業内容の復習・確認が必要となる難易度で、今後も実施する予定です。また、昨年度もオンデマンド型授業でしたが、資料配信が遅れ、ご迷惑をおかけすることがありましたので、今年度はそのようなことがないように、十分に注意して実施します。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・事務的な連絡などは、学習支援システムを通じて行う。

【Outline and objectives】

This course deals with the characterization of authors. While reading literary works, we can imagine what kind of personality the author has (earnest, delicate, humorous, and so on) However, that image is not necessarily the same as the author himself. In this course, I will focus on the works that overlap the experiences of the real author, and the works in which authors appear as characters. Students can learn how the characterization of authors are formed and disseminated.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

萩野 了子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正しい日本語の文章の書き方を学び、自身の考えを正確に分かりやすく伝える技術・知識を身につける。

【到達目標】

レポート、小論文、手紙（メール）などの正しい書き方について学ぶ。普段日本語を用いて生活していたとしても、正しい作法で分かりやすい文章を書くことは、実は決して容易ではない。今一度、文章表現の基礎を見直しながら繰り返し作文練習を行うことで、これまでよりも高い水準の文章を作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システム上に教材・課題がアップロードされたら、各自ダウンロードして学習した上で、課題を作成・提出すること。

課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。学習支援システム内の提示、お知らせ、メール通知などを、よく確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の進め方について
第二回	文章表現の基礎①	原稿用紙の使い方について
第三回	文章表現の基礎②	基本的な文法について
第四回	文章表現の基礎③	レトリック・敬語表現について
第五回	文章表現の基礎・実践	これまでの内容を総括・文章作成
第六回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第七回	レポート・小論文の書き方①	アカデミックライティングの基礎
第八回	レポート・小論文の書き方②	文章構成について
第九回	レポート・小論文の書き方・実践	これまでの内容を総括・文章作成
第十回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第十一回	手紙・メールの書き方①	マナー学習・敬語表現の復習
第十二回	手紙・メールの書き方②	これまでの内容を総括・文章作成
第十三回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第十四回	まとめ	授業の総括・課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示する課題レポートのための調査、文章作成など。本授業の準備・復習時間は、各5時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時間までに「学習支援システム」にアップロードするので各自ダウンロードすること。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点・小テスト 10 点・レポート課題 50 点

【学生の意見等からの気づき】

質問・要望等は、学習支援システムの掲示板やメールなどで常時受け付ける。個別もしくは授業内で返答する。

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

- ・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
- ・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。
- ・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

- ・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。

- ・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

- ・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

3 複数の「文章論」クラスへの仮登録

- ・なお、春学期にはこの授業も含めて3クラスの「文章論」の授業があります（川鍋担当の留学生クラス（火5限）を除く）。対象学部学年、曜日時限を確認してください。

Q1062 文国環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年 水 3 西元 康雅（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1061 法キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年 水 5 萩野 了子（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1063 文営国環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年 金 3 川鍋 義一（仮登録締切：4月8日 20:59）

- ・それぞれの担当者が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。

- ・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスに予め全て仮登録しておいてください。

- ・2021 年度は4/7水曜日スタートなので、選抜（抽選）は、西元クラス → 萩野クラス → 川鍋クラス（通常クラス）の順に実施します。

- ・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。（例：西元クラスで当選 → 萩野クラスと川鍋クラスの仮登録を取り消され、選抜（抽選）を受けられない。）

- ・また、留学生クラス（火5限）と、通常の3クラスのいずれか（または全て）に併せて仮登録している学生については、留学生クラスに回ってもらう場合があります。

4 選抜（抽選）後

- ・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。

- ・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to write an effective composition.

BSP100LA

文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：

西元 康雅

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文国環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、小論文やレポートの課題を書くことに困っていませんか？それは（おそらく）これまで日本語の書き方を正式に教わってこなかったからです。ルールさえ知っていれば、書くことは難しくありません。本授業では実践的な「書く力」の修得を目指します。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

*添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず指定の日時までに授業支援システムで仮登録してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介文	他社の共感を得られる「私」へ
第2回	原稿用紙の使い方	タイトル・学科・学籍番号・氏名を正確に配置する
第3回	推敲の基礎	ワークシートに基づいて悪文を知る
第4回	推敲の応用	自己紹介文のリライト
第5回	意見文	夫婦別姓について
第6回	意見文のレビュー	意見文のリライト
第7回	出典表示	雑誌・新聞・和書・訳書などの書き分け
第8回	アカデミック・ライティング	問いの立て方
第9回	パラグラフ構成	トピックセンテンスとは？
第10回	パラグラフライティングの手引き	ワークシートで演習
第11回	パラグラフライティングの基礎	アウトラインを作成する

第12回 パラグラフライティング アウトラインから文章を作る
グの実践

第13回 パラグラフライティング 好例を励みに、リライトする
グのレビュー

第14回 総括 期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

下書きを完成させる、推敲を行う、清書を作成するなどの指示をします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業中に適宜、紹介します

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、中間提出物30%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

添削をより充実させる

【その他の重要事項】

※以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目に降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

※なお、春学期の文章論（この授業も含め4クラス全て）は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
※メール（大学のアカウント）は、頻りにチェックしてください。
2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

Do you have trouble writing an essay or report subject at university? That is because I probably have not officially taught how to write Japanese. If you know even the rules, writing is not difficult. In this class we aim to acquire practical "writing power".

BSP100LA

文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

留学生（法文営国環キ 1～4 年）クラス※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などはこのクラスの受講をおすすめします。なお、文章論の通常クラスは3クラスあります。自信があれば、留学生などが通常クラスに参加することを妨げるものではありません。

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全14回の授業でみなさんには4回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず指定の日時までに授業支援システムで仮登録してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。下の【その他の重要事項】もしっかり読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	わかりにくい文章のコツをプロの文章から学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義	課題②作文講評 ほか

7 回	課題③提示	悪文を反面教師にする ほか、敬語表現、誤りやすい表現を学ぶ
8 回	課題③提出および講義	データを一般化する
9 回	課題③添削返却および講義	課題③作文講評ほか
10 回	課題④提示	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	文章をパターンで理解する（その1）
12 回	課題④添削返却および講義	課題④作文講評 ほか文章をパターンで理解する（その2）
13 回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）
14 回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを4回。ほかに「教員にメールを書く」という課題を出します。「文章をパターンで理解する」に関する問いに答える課題（Google フォームを利用する）などを出します。

【テキスト（教科書）】

随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（提出しなければならぬ課題がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数50%で評価します。

メール、Google フォームの課題も含め、一つでも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

※以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

このクラスは、「留学生を主な対象とする文章論」です。通常クラスは3クラスあります（それぞれ異なる授業を展開します。詳細についてはシラバスを読んでください）。

Q1062 文国環 1 年/法文営国環キ 2～4 年 水 3 西元 康雅（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1061 法キ 1 年/法文営国環キ 2～4 年 水 5 萩野 了子（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1065 文営国環 1 年/法文営国環キ 2～4 年 金 3 川鍋 義一（仮登録締切：4月8日 20:59）

※以下も大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
・受講希望者は必ず4月12日 21:59 までに仮登録してください。
・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

・また、留学生クラス（火5限）と、通常の3クラスのいずれか（または全て）に併せて仮登録している学生については、留学生クラスに回ってもらう場合があります。

3 選抜（抽選）後

・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。

・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

※ なお、春学期の文章論（この授業も含め4クラス全て）は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：留学生を主な対象とする

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

留学生（法文営国環キ 1～4 年）クラス※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などはこのクラスの受講をおすすめします。なお、文章論の通常クラスは3クラスあります（春学期）。自信があれば、留学生などが通常クラスに参加することを妨げるものではありません。

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全14回の授業でみなさんには4回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず指定の日時までに授業支援システムで仮登録してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。下の【その他の重要事項】もしっかり読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題	課題：エッセイを書く ①提示
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	わかりにくい文章のコツをプロの文章から学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義	課題②作文講評 ほか講義

7 回	課題③提示	悪文を反面教師にする ほか、敬語表現、誤りやすい表現を学ぶ
8 回	課題③提出および講義	データを一般化する
9 回	課題③添削返却および講義	課題③作文講評ほか
10 回	課題④提示	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	文章をパターンで理解する（その1）
12 回	課題④添削返却および講義	課題④作文講評 ほか文章をパターンで理解する（その2）
13 回	これまでの学習した内容のまとめ（その1）	これまでの学習した内容のまとめ（その2）
14 回	これまでの学習した内容のまとめ（その1）	これまでの学習した内容のまとめ（その2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを4回。ほかに「教員にメールを書く」という課題を出します。「文章をパターンで理解する」に関する問いに答える課題（Google フォームを利用する）などを出します。

【テキスト（教科書）】

随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（提出しなければならない課題がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数50%で評価します。

メール、Google フォームの課題も含め、一つでも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

※ 以下、大変重要なことですから、しっかり読んでください。

- 1 選抜（抽選）
 - ・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
 - ・受講希望者は必ず9月20日 21:59 までに仮登録してください。
 - ・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。
 - 2 仮登録
 - ・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
 - ・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。
 - ・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。
 - 3 選抜（抽選）後
 - ・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。
 - ・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。
- ※ なおこの授業は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業は火曜5限に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
- ※ メール（大学のアカウント）は、頻りにチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続きました。そういうことがないようにしましょう。
- ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文芸国環 1 年/法文芸国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義

上記のように3回で1セット、全14回の授業でみなさんには4回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にしぼります。希望者多数の場合には抽選します。受講希望者は必ず指定の日時までに授業支援システムで仮登録してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。下の【その他の重要事項】もしっかり読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題	課題：エッセイを書く ①提示
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	わかりにくい文章のコツをプロの文章から学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義	課題②作文講評 ほか講義

7回	課題③提示	悪文を反面教師にする ほか、敬語表現、誤りやすい表現を学ぶ
8回	課題③提出および講義	データを一般化する
9回	課題③添削返却および講義	課題③作文講評ほか
10回	課題④提示	課題：要約と意見を分ける
11回	課題④作文提出および講義	文章をパターンで理解する（その1）
12回	課題④添削返却および講義	課題④作文講評 ほか文章をパターンで理解する（その2）
13回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）
14回	これまでに学習した内容のまとめ（その1）	これまでに学習した内容のまとめ（その2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを4回。ほかに「教員にメールを書く」という課題を出します。「文章をパターンで理解する」に関する問いに答える課題（Google フォームを利用する）などを出します。

【テキスト（教科書）】

随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（提出しなければならない課題がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数50%で評価します。

メール、Google フォームの課題も含め、一つでも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。
・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。
・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

3 複数の「文章論」クラスへの仮登録

・なお、春学期にはこの授業も含めて3クラスの「文章論」の授業があります（川鍋担当の留学生クラス（火5限）を除く）。対象学部学年、曜日時限を確認してください。

Q1062 文国環1年／法文営国環キ2～4年 水3 西元 康雅
（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1061 法キ1年／法文営国環キ2～4年 水5 萩野 了子（仮登録締切：4月6日 20:59）

Q1065 文営国環1年／法文営国環キ2～4年 金3 川鍋 義一（仮登録締切：4月8日 20:59）

・それぞれの担当者が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。
・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスに予め全て仮登録しておいてください。

・2021年度は4/7水曜日スタートなので、選抜（抽選）は、西元クラス → 萩野クラス → 川鍋クラス（通常クラス）の順に実施します。
・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。（例：西元クラスで当選 → 萩野クラスと川鍋クラスの仮登録を取り消され、選抜（抽選）を受けられない。）

・また、留学生クラス（火5限）と、通常の3クラスのいずれか（または全て）に併せて仮登録している学生については、留学生クラスに回ってもらう場合があります。

4 選抜（抽選）後

・当否の連絡はメールで授業開始日に届きます。また、掲示もされますので、必ず確認してください。

・当選者は、学習支援システムの指示に従って学習を開始してください。

※ なお、春学期の文章論（この授業も含め4クラス全て）は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。

※ メール（大学のアカウント）は、頻りにチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続きました。そういうことがないようにしましょう。

※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西元 康雅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、エッセー、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語の持つ豊かさを味わって欲しい。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	要約	要約の三要素
第2回	推敲	簡潔な文章を目指す
第3回	論文の構成～入門編	ワークシートを用いて、パラグラフライティングを学ぶ
第4回	パラグラフライティングの難所	トピックセンテンスとサポートセンテンスを上手く書き出す
第5回	パラグラフライティングの完成	秀逸な学生の記述を基にレビュー、後にリライト
第6回	批評文を知る	どのような文章が批評文として優れているかを考察する
第7回	批評文を書く	講義内で示した批評文を書くコツをもとに、単なる批判にとどまらない批評文を作成する
第8回	批評文の完成	秀逸な学生のエッセーを披露し、レビュー。後に各自リライト。
第9回	エッセーを書く	作家のエッセーを基に、どういった着眼点のエッセーに求められるかを考察する。後、エッセーを書く
第10回	エッセーを完成させる	秀逸な学生のエッセーをもとに、エッセーをリライトする
第11回	口語自由詩の作成	萩原朔太郎に導かれながら、口語自由詩を実作する

第12回	リレー小説	ある有名な短編の柱を切り取り、余白を分担しながら全員で埋めていく
第13回	リレー小説レビュー	出来上がったリレー小説をレビュー、期末課題を提示
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 40%、期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

より学生の視点に立った添削・コメントを施す。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Wordをインストール）

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

- 1 選抜（抽選）
 - ・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
 - ・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。
 - ・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。
 - 2 仮登録
 - ・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
 - ・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。
 - ・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。
 - ※ なお、秋学期の文章論は、オンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroomなどで公開されます。
 - ※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
 - ※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【Outline and objectives】

In this lesson, in addition to writing paragraph writing writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from essays, criticisms to the creation of novels.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～W / 法文営国環キ 2～4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

春学期は「課題提出型」の授業となる。具体的な授業内容、授業で使用する資料などは学習支援システムで提示する。

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「課題提出型」授業は以下のように行なう。

1. 講義資料、資料をまとめた PPT を読む
2. 授業曜日の課題に対する解答を提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 言語学入門 1	言語学とは何か 言語の特質（1）
第 2 回	言語学入門 2	言語の特質（2）
第 3 回	言語学入門 3	言語の特質（3）
第 4 回	音声学 1	音声器官
第 5 回	音声学 2	調音
第 6 回	音声学 3	母音、子音
第 7 回	音韻論 1	異音、相補分布
第 8 回	音韻論 2	環境同化、音声的類似
第 9 回	音韻論 3	日本語の音韻体系
第 10 回	第二言語習得研究 1	第二言語習得研究の流れ
第 11 回	第二言語習得研究 2	中間言語
第 12 回	第二言語習得研究 3	学習者の母語と第二言語習得
第 13 回	第二言語習得研究 4	習得順序と発達順序
第 14 回	第二言語習得研究 5	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は「課題提出型」の授業となる。本授業の開始日は 4 月 12 日とし、この日までに具体的な授業の課題などを、学習支援システムで提示する。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：『日本語教師トレーニングマニュアル 3 よくわかる言語学入門 解説と演習』 著者：町田健ほか 出版社：バベルプレス 定価：2233 円＋税

【参考書】

参考文献は PPT で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出した課題の内容で 100 % 評価する。

【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Linguistic course - this is an introductory course to Linguistics. This course is not just to introduce students to language, phonetics, phonology and another language acquisition but to encourage them to analyze, be interactive and seize the many aspects of the language and language learning.

LIN100LA

言語学B

2017年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法1年 A~W / 法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1言語習得1	第一言語とは？
第2回	第1言語習得2	第一言語習得とは？
第3回	第1言語習得3	第一言語習得研究の方法
第4回	第1言語習得メカニズム1	第一言語習得のメカニズム
第5回	第1言語習得メカニズム2	主な言語発達理論（基礎編）
第6回	第1言語習得メカニズム3	主な言語発達理論（応用編）
第7回	母語獲得とインプットの役割1	子どもの構造依存性 語順獲得母語獲得とインプットの役割
第8回	母語獲得とインプットの役割2	肯定証拠と否定証拠
第9回	母語獲得とインプットの役割3	インプットの効果
第10回	異文化理解1	カルチャーショック
第11回	異文化理解2	ジョハリの窓
第12回	異文化トレーニング1	異文化トレーニング方法1
第13回	異文化トレーニング2	異文化トレーニング方法2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。

講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。

授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800 円＋税』

【参考書】

PPT の参考文献に示した。

【成績評価の方法と基準】

全ての課題提出を期末試験に換算し、100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。

・前期に言語学 A を履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学 B では前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていたようでよかった。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Fall semester course has two parts:

- I. The first half of this course is an overview of the first language acquisition.
- II. The second half is understanding Japanese language history and grammar.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

齋藤 雄介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法 1 年 Y、文環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第 2 回	音声学・音韻論 1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第 3 回	音声学・音韻論 2	音声器官、調音点
第 4 回	音声学・音韻論 3	母音と子音
第 5 回	音声学・音韻論 4	音素と異音
第 6 回	音声学・音韻論 5	日本語と英語の強勢の違い
第 7 回	形態論 1	語の構造と語の構成
第 8 回	形態論 2	派生接辞と屈折接辞
第 9 回	形態論 3	語彙範疇と機能範疇
第 10 回	形態論 4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第 11 回	形態論 5	語の右側主要部規則
第 12 回	統語論 1	文法とは何か
第 13 回	統語論 2	文法構造
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。授業中に配布したプリント及び自分で取ったノートの内容を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用せず

【参考書】

毎回プリントを配布する。

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

言語学B

2017年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

法1年Y、文環キ1年／法文営国環キ2～4年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	言語学入門	言語学とは何かを説明し、言語学Aの内容を若干復習する
第2回	統語論1	文法とは何か 文の構造
第3回	統語論2	下位範疇と句構造規則
第4回	統語論3	変形文法
第5回	統語論4	Xバー統語論
第6回	意味論1	語と語の意味関係
第7回	意味論2	語の内部の意味関係
第8回	意味論3	語の意味と背景知識
第9回	意味論4	意味と話者の関係
第10回	語用論1	語用論とは何か
第11回	語用論2	言語能力と言語運用と語用論
第12回	語用論3	会話仮説理論
第13回	語用論4	関連性理論
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。使用するテキスト以外に授業中に配布したプリントも試験範囲に含まれるため、その内容も確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【参考書】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

当国 1 年 / 法文当国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。

次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。

最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるかを考えます。

【到達目標】

- 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

世界の言語について概観し、言語学がどうそれらを扱ってきたかを紹介します。

次いで、「言語学」の基礎的な術語・概念について講義します。

最後に、「コミュニケーション」と言語との関係について詳述します。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第 2 回	世界の言語・言語の起源	世界の言語の現状と、言語の起源について
第 3 回	ヨーロッパの諸言語入門	使用するテキストについて、印欧語とは何か
第 4 回	インド・ヨーロッパ語について	グリムの法則
第 5 回	比較言語学の誕生	「印欧諸語」の成立について解説する
第 6 回	比較言語学の成果	「比較言語学」でわかったことを紹介する
第 7 回	アフリカの諸言語入門	アフリカの語族について
第 8 回	アフリカの「アフロアジア諸語」	「アフロアジア諸語」の解説
第 9 回	アフリカの「ニジェール・コルドファン諸語」	「ニジェール・コルドファン諸語（バントゥー諸語）」の解説
第 10 回	日本語の音韻に関する諸問題	日本語の音声・音韻の諸問題を扱う

第 11 回 日本語の文法に関する諸問題 日本語の文法に関する諸問題を扱う

第 12 回 ポライトネス 人間の社会的距離を調整する言語の機能について解説する

第 13 回 日本語の「敬語」 ポライトネスの観点からみると、日本語の「敬語」とは何か

第 14 回 「ことば」を考えると「ことば」の力、言語の発見等についての考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ヨーロッパの諸言語については、ステイーブソン / 江村他訳 (2010) 『図説 ことばの世界 - 欧米の言語史 -』 青山社、を使用します。

【参考書】

「言語学史」については、風間喜代三 (1978) 『言語学の誕生』 岩波新書、「共時言語学」については、佐久間淳一他 (2007) 『言語学入門』 研究社と千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂、「コミュニケーション」については、平凡社 (1988) 『コミュニケーション事典』をあげておきます。

必要に応じて、授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

試験の得点 100 点満点で評価します。

ただし、このシラバスでは最終回まで授業をし、試験期間に試験を行うという前提で内容を紹介しましたが、受講者の人数によっては、最終回に授業内試験をする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

知識としてどうこうというよりも、発想法についてこれない学生が多いように、経験的に感じます。

例としてあげる個々の様々な言語の実例を覚える必要はありません。言語学という学問がヒトの言語とはどういうものであると見なしているかという考え方に慣れてください。

【学生が準備すべき機器他】

受講生が多いことが予想されるので、基本的にパワーポイントを使って講義を進めていく予定です。受講生が少なかった場合にはそれに応じてやり方を考えます。

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしていただくことを期待します。

【Outline and objectives】

Here we discuss about what is Linguistics. The first, we survey the history of Linguistics. The second, we introduce famous Linguists and thier theories. The third, we master the way of the Comparative Study of Linguistics. The fourth, we know the Descriptive Linguistics after Ferdinand de Saussure.

LIN100LA

言語学B

2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

当国 1 年 / 法文当国環キ 2~4 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。

次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。

最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるかを考えます。

【到達目標】

- 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

世界の言語について概観し、言語学がどうそれらを扱ってきたかを紹介します。

次いで、「言語学」の基礎的な術語・概念について講義します。

最後に、「コミュニケーション」と言語との関係について詳述します。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語：コード理論	「コード」として言語を考える
第 2 回	言語の要素：音の単位	「音声学」から「音韻論」について解説する
第 3 回	言語の要素：意味の単位	「形態論」、「組み立て規則」について解説する
第 4 回	意味	「意味」について考察する
第 5 回	「意義素論」	「意義素論」を紹介する
第 6 回	文法カテゴリー（数・人称他）	文法カテゴリーの各項目について解説する
第 7 回	文法カテゴリー（クラス・ダイクシス他）	文法カテゴリーの各項目について解説する
第 8 回	構造	構造とは何かについて概観する
第 9 回	宗教	言語の最重要課題である宗教について概観する
第 10 回	言語学と語用論	言語学と語用論の観点の違いについて紹介する
第 11 回	コミュニケーションの定義	そもそもコミュニケーションとは何か、解説する

第 12 回	コミュニケーションにおける「ことば」	コミュニケーションの要素の一つ、「ことば」について解説する
第 13 回	コミュニケーションの要素	コミュニケーションを考えるときの要素について解説する
第 14 回	コミュニケーションの限界	コミュニケーションの限界について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料等を参考にし、理解をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

秋学期のテキストは未定です。

【参考書】

「共時言語学」については、佐久間淳一他 (2007) 『言語学入門』 研究社と千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂、「コミュニケーション」については、平凡社 (1988) 『コミュニケーション事典』をあげておきます。

必要に応じて、授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

試験の得点 100 点満点で評価します。

ただし、このシラバスでは最終回まで授業をし、試験期間に試験を行うという前提で内容を紹介しましたが、受講者の人数によっては、最終回に授業内試験をする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

知識としてどうこうというよりも、発想法についてこれない学生が多いように、経験的に感じます。

例としてあげる個々の様々な言語の実例を覚える必要はありません。言語学という学問がヒトの言語とはどういうものであると見なしているかという考え方に慣れてください。

【学生が準備すべき機器他】

受講生が多いことが予想されるので、基本的にパワーポイントを使って講義を進めていく予定です。受講生が少なかった場合にはそれにに応じてやり方を考えます。

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしていただくことを期待します。

【Outline and objectives】

Here we discuss about what is Linguistics. The first, we survey the history of Linguistics. The second, we introduce famous Linguists and thier theories. The third, we master the way of the Comparative Study of Linguistics. The fourth, we know the Descriptive Linguistics after Ferdinand de Saussure.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

本講義では、このテーマを踏まえながら、環境と共生という現代的視点から、哲学的テーマをとりあげます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

本講義では、環境と共生をめぐる哲学的アプローチ、そして現代の理論的問題を明らかにすることを通して、これからの世界を生きる人間と社会のあり方を考える手がかりが得られることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面とオンラインを併用するハイブリッド型になる。授業支援システムのホッピーを活用して、資料配布、質疑応答をおこなう。またオンラインのときは、Google-Meet を用いる。対面、オンラインをどう配置するかについては、コロナの状況を見ながら決めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	自然と人間との関係についての考え方の違いを扱う。
	自然観をめぐる近代以前と近代	
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学者デカルトを通して、自然を支配するというその歴史的意義を扱う。
	考え方	
第 3 回	哲学の基本的性格 2	権利概念が、哲学の歩みのなかで人間の権利、自然の権利
		どう広がってきたかを扱う。
第 4 回	哲学の歴史 1	19 世紀前半のアメリカのナチュラリスト、ソローを通して、考える。
第 5 回	哲学の歴史 2	19 世紀半ばのドイツの生物学者ヘッケルの提唱した「エコロジー」の意味を明らかにする。
第 6 回	哲学の歴史 3	20 世紀初頭の成果、食物連鎖、エコロジーの発想にもとづく新しい学問的成果
		ならびに遷移- 極相理論の哲学的意味を探る。
第 7 回	哲学の歴史 4	1930 年代中西部アメリカの砂嵐問題とエコロジーの出会いを扱う。
第 8 回	哲学の歴史 5	レオポルドのランド・エシックスを取り上げる。
	現代環境思想のフロンティア	

第 9 回	哲学の基本問題 1	生命圏中心主義をとるディープ・現代環境思想 1
第 10 回	哲学の基本問題 2	アメリカの女性哲学者マーチャントの、社会的公正を重視するラディカル・エコロジーを取り上げる。
		配分的正義の問題を扱う。
第 11 回	哲学の基本問題 3	環境と共生をめぐる現代的テーマ 1
第 12 回	哲学の基本問題 4	世代間の公正の問題を扱う。環境と共生をめぐる現代的テーマ 2
第 13 回	哲学の基本問題 5	自然の権利の問題を扱う。環境と共生をめぐる現代的テーマ 3
第 14 回	哲学 I のまとめ	春学期に扱った諸問題をふりかえり、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

出席にあたっては、教科書を下読みしていただくことが望ましい。講義で取り扱ったテーマについて、リアクションペーパーに感想や質問を書くことで、さらに理解が深まるでしょう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。資料は授業支援システムのホッピーでアップします。

【テキスト（教科書）】

滝口清栄『環境と共生のリテラシー』（DTP 出版、1200 円）

【参考書】

『環境と共生のリテラシー』の巻末に一覧をあげておきました。

【成績評価の方法と基準】

試験 90 %、平常点 10 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

「授業改善アンケート」では、私語に対してきちんと対処している中で、静かな雰囲気の中で受講できるという評価を得ています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic characters of philosophy in the historical point of view, then makes clear the fundamental problems of philosophy. In particular this course deals with the relationship of nature, mankind and society.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。

本講義では、近代ドイツの哲学者ヘーゲルを通して、このような問題にアプローチします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

本講義では、ヘーゲル哲学をメインにすえて、認識、存在、人間、社会などの根本にある問題を扱います。これらを通して、常識をつねに問い返す哲学的思考に触れることができるでしょう。こうして得られた思考様式が、現代の問題を考える大切なツールになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講義は対面とオンラインを併用するハイブリッド型です。どのように組み合わせるかは、コロナの状況を見て決めていきます。資料は、授業支援システムのホッピャーを使ってアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	近代という時代の特徴をつかんで、この時代の哲学思想にアプローチする。
第 2 回	18 - 19 世紀の思想と時代の動き	J. ロックを通して、近代の新しいテーマを理解する。
第 3 回	哲学の基本的性格 1 個人の自由と社会	A. スミスを通して、伝統的な見方が転換する場面を理解する。
第 4 回	哲学の基本的性格 2 経済の哲学的意義	ルソーを通して、自由をめぐる独創的な問題提起を理解する。
第 5 回	哲学の根本問題について 1 自由と共同	フランス革命がドイツの思想界に与えたインパクトを扱う。
第 6 回	哲学の根本問題について 2 フランス革命とドイツ思想界	若きヘーゲルの思索の出発点を扱う。
第 7 回	哲学の根本問題について 3 宗教をめぐる哲学的思索	理想と現実との関係をくぐり抜けるとはどういうことか？ヘーゲルの思索を扱う。
第 8 回	哲学の根本問題について 4 理想と現実	

第 8 回	哲学の根本問題について 5 〈存在するものの理解〉という視点	現実にアプローチするとはどのようなことか？ヘーゲルの思索を追う。
第 9 回	哲学の根本問題について 6 哲学は〈体系〉という発想法	ドイツ観念論のなかでライトモチーフとなる体系という発想の特徴を理解する。
第 10 回	哲学の根本問題について 7 近代とはどのような時代か？	ヘーゲルの近代観の特徴を、ほかの諸思想との対比のなかで理解する。
第 11 回	哲学の根本問題について 8 世界を経験して、教養形成の旅	哲学史のなかの奇書『精神現象学』を取り上げる。
第 12 回	現代世界と哲学について 社会をグランドデザインするとはどういうことか？	『法（権利）の哲学』（1820 年）を通して、このテーマにアプローチする。
第 13 回	現代日本と哲学について 人類に発展はあるか？	『世界史の哲学講義』を通して、この問題にアプローチし、あわせて、後世ならびに日本への影響を扱う。
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	秋学期にとりあげた諸問題をふりかえり、論点の整理をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を下読みしていただくのがぞましい。講義を聴いて、感想、質問などをリアクションペーパーに書くことを通して、理解を深めてほしい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。資料はホッピャーでアップします。

【テキスト（教科書）】

滝口清栄『ヘーゲル哲学入門』（社会評論社、1800 円）

【参考書】

広松渉・加藤尚武編『ヘーゲル・セレクション』（平凡社ライブラリー、1500 円）

【成績評価の方法と基準】

学期末授業内試験 90%、平常点 10%として、それらを総合して成績を出します。

【学生の意見等からの気づき】

「授業改善アンケート」では、授業中の私語について、きちんと対処しているので、静かな雰囲気の中で、講義を聴けるという評価を得ています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In general the philosophy aims for criticizing old ways of thinking and new ways of thinking. From this perspective this course explains major theories from ancient times to modern times. In particular this course deals with Hegels philosophy.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・イデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） イデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） イデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 10 回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン

第 11 回 哲学の基本問題 3 知性と神：アリストテレス

第 12 回 哲学の基本問題 4 モラルの危機と哲学

第 13 回 哲学の基本問題 5 一元論思想とその問題点

東西の一元論思想

第 14 回 哲学 I のまとめ 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績+平常点（40%）とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんには、何よりもまず、テキスト・資料を深く読むこと、そして思想の本質・核心を正しく・真直ぐに捉えることを強く望みます。解説は丁寧に行います。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to help students understand the meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy, the grounds for the possibility of common understanding on values, and how to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：

- ・近代哲学の難問とその解決策。
- ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
- ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第 8 回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ

第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学
第 12 回	哲学の根本問題について 9	超越論的哲学の展開 2 世界信念
第 13 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績＋平常点（40%）とにより評価する。

学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメと説明がわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes. This course gives an explanation of the problems arisen from Descartes' dualism and Kant's and Husserl's solutions to the problems.

This course also gives students an understanding of the problem of nihilism pointed out by Nietzsche and his solutions to the problem.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・イデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。対面でもオンラインでも授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） イデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） イデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 10 回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン

第 11 回	哲学の基本問題 3	知性と神：アリストテレス
第 12 回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学
第 13 回	哲学の基本問題 5	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第 14 回	哲学 I のまとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。
（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績+平常点（40%）とにより評価する。
授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんには、何よりも、テキスト・資料を深く読み、思想の本質・核心を正しく・真直ぐに捉え理解していく態度・心掛けを強く望みます。解説は丁寧に行います。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to help students understand the meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy, the grounds for the possibility of common understanding on values, and how to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：

- ・近代哲学の難問とその解決策。
- ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
- ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・实在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第 8 回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ

第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学
第 12 回	哲学の根本問題について 9	超越論的哲学の展開 2 世界信念
第 13 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績＋平常点（40%）とにより評価する。

学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメと説明がわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes. This course gives an explanation of the problems arisen from Descartes' dualism and Kant's and Husserl's solutions to the problems.

This course also gives students an understanding of the problem of nihilism pointed out by Nietzsche and his solutions to the problem.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文 1 年 A~I / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、わたしたちを導く教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

哲学映画《星の王子さま》《ソフィーの世界》と《マトリックス三部作》とを、高画質のDVD映像で上映します。《星の王子さま》では、哲学の基本的性格について、《ソフィーの世界》では西洋哲学の歴史について、《マトリックス三部作》では、哲学の基本問題について学びます。その際に担当教員による詳細な哲学的解明をメインにします。授業時課題レポートの講評は、次回授業でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 話	哲学 I のプレゼンテーション	講義シラバス解説
第 2 話	哲学の基本的性格 1 序論 (I)	《星の王子さま》と哲学の問い
第 3 話	哲学の基本的性格 2 序論 (II)	哲学的思考と哲学の暫定的定義
第 4 話	哲学の歴史 1 《ソフィーの世界 I》	古代ギリシアの哲学
第 5 話	哲学の歴史 2 《ソフィーの世界 II》	中世・近世の哲学
第 6 話	哲学の歴史 3 《ソフィーの世界 III》	現代の哲学
第 7 話	哲学の基本問題 1 《マトリックス I》	現実世界について
第 8 話	哲学の基本問題 2 《マトリックス II》	現実と虚構の区別について
第 9 話	哲学の基本問題 3 《マトリックス・リローデッド I》	行為の因果性について
第 10 話	哲学の基本問題 4 《マトリックス・リローデッド II》	運命と自由意志の関係について
第 11 話	哲学の基本問題 5 《マトリックス・レボリューションズ I》	生命に目的はあるか？ 1
第 12 話	哲学の基本問題 6 《マトリックス・レボリューションズ II》	生命に目的はあるか？ 2

第 13 話 哲学の基本問題 7 《マトリックス三部作》の哲学的トリックス解説篇 解明

第 14 話 哲学 I のまとめ 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読したり、授業内で紹介された関連文献を調べたりして、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。使用 DVD は AV ライブラリーで視聴できます。

【参考書】

参考書は、開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

Semester 末の授業内試験 (70%) を基準として、平常評価 (30%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当事項なし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the philosophical principle of culture.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、現代哲学の基本問題を、哲学的映像とスクリーン投影テキストでできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

今期は、学生が常識批判の方法としての懐疑を、現代哲学の学習を通して深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すため、マルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行ないます。哲学的な映像を、高画質のDVD映像で毎回、上映します。授業時課題レポートの講評は次回授業時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 話	哲学Ⅱのプレゼンテーション	講義シラバス解説
第 2 話	哲学の基本性格 1	哲学の暫定的定義と方法
第 3 話	哲学の基本性格 2	哲学の懐疑
第 4 話	哲学の基本問題について 1	現実世界について
第 5 話	哲学の基本問題について 2	科学的世界像について
第 6 話	哲学の基本問題について 2	言語について
第 7 話	哲学の基本問題について 3	個人の自由について
第 8 話	哲学の基本問題について 4	幸福について
第 9 話	哲学の基本問題について 5	我執について
第 10 話	哲学の基本問題について 5	道徳について
第 11 話	哲学の基本問題について 6	死について
第 12 話	現代世界と哲学について	現代世界の精神状況について
第 13 話	現代日本と哲学について	現代日本の精神状況について
第 14 話	哲学Ⅱのまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を毎回、事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用テキストはスクリーンにプロジェクターで投影し、学習支援システムでも公開します。

【参考書】

参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

Semester末の授業内試験を基準 (70%) として、平常評価 (30%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当項目なし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the fundamental problems of contemporary philosophy.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は学習支援システムを介したオンデマンド授業となります。PDF 教材または動画教材による学習の後、毎回簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 — 古代	イデア
5	哲学の歴史 2 — 中世	普遍の实在性
6	哲学の歴史 3 — 近世	観念
7	哲学の歴史 4 — 現代 前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 — 現代 後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 — 現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 — 現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 — 運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 — 行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 — 生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline and objectives】

An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は学習支援システムを介したオンデマンド授業となります。PDF 教材または動画教材による学習の後、毎回簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：愛
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の懐疑	隣接学問領域との対比：友人
4	哲学の根本問題について 1 — 現実世界について	「ある」
5	哲学の根本問題について 2 — 科学的世界像について	時間
6	哲学の根本問題について 3 — 言語について	言葉の意味
7	哲学の根本問題について 4 — 個人の自由について	自由と平等
8	哲学の根本問題について 5 — 幸福について	退屈
9	哲学の根本問題について 6 — 我執について	悪
10	哲学の根本問題について 7 — 道徳について	道徳の根拠
11	哲学の根本問題について 8 — 死について	死との向き合い方
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでなく自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline and objectives】

Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

谷口 力

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 W~X / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。
この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「世界」、および、「世界」に関するいくつかの論理的な問題（存在論、認識論、言語論、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界の原理
- ・大陸合理論における世界の構造
- ・イギリス経験論における世界の認識
- ・近代ドイツ哲学における世界の説明
- ・19~20 世紀哲学における世界の解釈
- ・現代分析哲学における世界の分析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学の内容に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第 2 回	哲学の歴史～哲学の基本問題 1	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち① ：古代ギリシャ哲学（さまざまなアルケー、有）
第 3 回	哲学の基本問題 2	・ソクラテス以前の哲学者たち② ：古代ギリシャ哲学（ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース）
第 4 回	哲学の基本問題 3	・ソクラテス（無知の知） ・プラトン①（イデア論） ：古代ギリシャ哲学（3）
第 5 回	哲学の基本問題 4	・プラトン②（知識とは何か） ・アリストテレス（四原理、デュナミスとエネルゲイア） ・プロティノス（一者、流出説） ：古代ギリシャ哲学（4）

第 6 回	哲学の基本問題 5	・近代への過渡期 ：大陸合理論（1）
第 7 回	哲学の基本問題 6	・スピノザ（実体、属性、様態） ：大陸合理論（2） ・ライプニッツ（モノドロジー、最善世界説）
第 8 回	哲学の基本問題 7	・ロック（経験と観念） ：イギリス経験論（1） ・ヒューム（因果律の否定）
第 9 回	哲学の基本問題 8	・バークリ（物質的実体の否定） ：イギリス経験論（2）
第 10 回	哲学の基本問題 9	・カント（感性と悟性、カテゴリーと図式、ア・プリオリな総合判断） ：近代ドイツ哲学（1）
第 11 回	哲学の基本問題 10	・フィヒテ（自我と非我） ：近代ドイツ哲学（2） ・シェリング（主客の無差別） ・ヘーゲル（絶対者の発展、弁証法）
第 12 回	哲学の基本問題 11	・ショーペンハウアー（意志と表象） ：19~20 世紀哲学 ・ニーチェ（真理らしさ、パースペクティブ） ・ハイデガー（世界-内-存在）
第 13 回	哲学の基本問題 12	・ウイトゲンシュタイン（事実の総体、言語批判、語りえぬもの） ：現代分析哲学（1）
第 14 回	哲学の基本問題 13	・その他の現代形而上学 ：現代分析哲学（2） ～哲学 I のまとめ ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Semester 末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: world and some related logical problems of world (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

谷口 力

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「心」、および、「心」に関するいくらかの倫理的な問題（価値、道徳、生、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心の原理
- ・大陸合理論における心の構造
- ・イギリス経験論における心の認識
- ・近代ドイツ哲学における心の説明
- ・19～20 世紀哲学における心の解釈
- ・現代分析哲学における心の分析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第 2 回	哲学の根本問題について 1 ：古代ギリシャ哲学(1)	・ソクラテス（徳の知、死） ・プラトン①（プシュケー、ハデス、想起説）
第 3 回	哲学の根本問題について 2 ：古代ギリシャ哲学(2)	・プラトン②（魂の正しさ）
第 4 回	哲学の根本問題について 3 ：古代ギリシャ哲学(3)	・アリストテレス（アニマ） ・近代への過渡期
第 5 回	哲学の根本問題について 4 ：大陸合理論	・デカルト（コギト、心身二元論） ・スピノザ（神、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モノアド）

第 6 回	哲学の根本問題について 5 ：イギリス経験論	・ロック（タブラ・ラサ、感覚と反省） ・ヒューム（知覚の束、同一性の否定） ・バークリ（存在するとは知覚されることである）
第 7 回	哲学の根本問題について 6 ：近代ドイツ哲学(1)	・カント（先験的仮象、実践的要請、定言命法）
第 8 回	哲学の根本問題について 7 ：近代ドイツ哲学(2)	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学）
第 9 回	哲学の根本問題について 8 ：19～20 世紀哲学	・シュテイルナー（唯一者） ・ニーチェ（自己、エス） ・ジェームズ（純粹経験） ・フッサール（志向性）
第 10 回	哲学の根本問題について 9 ：現代分析哲学(1)	・ウイトゲンシュタイン①（独我論の貫徹および消去、視野の比喩） ・ライル（カテゴリー-ミステイク）
第 11 回	哲学の根本問題について 10 ：現代分析哲学(2)	・現代の心の哲学①（行動主義、心脳同一説、機能主義、消去主義、随伴現象説、性質二元論、など）
第 12 回	哲学の根本問題について 11 ：現代分析哲学(3)	・現代の心の哲学②（非法則的一元論、クオリア、認知的閉鎖、さまざまな思考実験、など）
第 13 回	哲学の根本問題について 12 ：現代分析哲学(4)	・ウイトゲンシュタイン②（生きている人間、目、まなざし、微笑み）
第 14 回	哲学の根本問題について 13 ：大乘仏教の哲学～現代世界および現代日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Semester 末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: `mind` and some related ethical problems of `mind` (value, moral, life, etc.).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 J~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	ガイダンス 哲学とは？
2	哲学の基本的性格 1	プラトン (1) 「アイデアの萌芽」としての人間存在
3	哲学の基本的性格 2	プラトン (2) 『饗宴』 アリストファネスの話
4	哲学の歴史 1	プラトン (3) 『饗宴』 ソクラテスの話
5	哲学の歴史 2	西田幾多郎 (1) 『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	哲学の歴史 3	西田幾多郎 (2) 「主客合一」としての人間存在
7	哲学の歴史 4	和辻哲郎 (1) 『倫理学』 - 「問柄」としての人間存在
8	哲学の歴史 5	和辻哲郎 (2) 「矛盾の統一」としての人間存在
9	哲学の基本問題 1	和辻哲郎 (3) 『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	哲学の基本問題 2	和辻哲郎 (4) 主体としての風土
11	哲学の基本問題 3	ブーバー (1) 『我と汝』
12	哲学の基本問題 4	ブーバー (2) 「汝」としての世界
13	哲学の基本問題 5	ブーバー (3) 「本質行為」としての人間
14	哲学 I のまとめ	ふりかえりと試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』

復習として、講義の内容をノートで整理すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、試験 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline and objectives】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 J～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	ガイダンス 哲学への導入
2	哲学の基本的性格 1	今西錦司 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	哲学の基本的性格 2	その 2 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
4	哲学の根本問題について 1	アリストテレス 自己形成的世界観としての形而上学
5	哲学の根本問題について 2	その 2 自己形成的世界観としての形而上学
6	哲学の根本問題について 3	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	哲学の根本問題について 4	デカルトの近代的世界観 近代的主客二元論
8	哲学の根本問題について 5	デカルト (2) 近代的な主客二元論
9	哲学の根本問題について 6	デカルト (3) 「近代的分裂」の予告としての近代的な主客二元論
10	哲学の根本問題について 7	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	哲学の根本問題について 8	カントとヘーゲル カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	現代世界と哲学について	カントとヘーゲル カントのアンチノミー論

- 13 現代日本と哲学について カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観
 14 哲学Ⅱのまとめ カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、講義の内容をノートで整理すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、試験 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

☆ 2020 年度は授業動画を視聴するパソコン。また毎回確認テストとして google フォームテストでテストを受ける。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline and objectives】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文 1 年 L~R、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観を通して、知るこのの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること—自然哲学—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること—ソクラテス—
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1—プラトーン—
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2—アリストテレス—
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知—中世哲学—
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について—近代哲学—
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1—大陸合理論—
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2—イギリス経験論—
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由—カント—
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と授業の内容理解度のバランスを随時調整します。

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

文 1 年 L~R、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1—デカルト—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2—ロック—
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学
第 6 回	哲学の根本問題について 2	『純粋理性批判』を読む 1—超越論的感性論—
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 2—超越論的分析論—
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 3—概念の分析論—
第 9 回	哲学の根本問題について 5	『純粋理性批判』を読む 4—純粋悟性概念の演繹について—
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学
第 11 回	現代世界と哲学について 1	現代の哲学思想
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カント哲学の解釈
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について 4 まとめ	グローバル化時代の哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と授業の内容理解度のバランスを随時調整します。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 T~V、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探求するものです。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆきます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に学習支援システムでのオンライン授業（オンデマンド授業・資料型）とする。事情が許せば、3 回程度、教室で対面授業を実施する。質問等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	講義全体の外観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第 3 回	哲学の基本的性格 2 — 哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第 4 回	哲学の歴史 1 — 近代 ①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第 5 回	哲学の歴史 2 — 近代 ②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第 6 回	哲学の歴史 3 — 現代 ①	ヤスパース：実存と永遠
第 7 回	哲学の歴史 4 — 現代 ②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第 8 回	哲学の基本問題 1 — 死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第 9 回	哲学の基本問題 2 — 死について②	ドストエフスキー：死と魂の不滅
第 10 回	哲学の基本問題 3 — 現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第 11 回	哲学の基本問題 4 — 人生に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第 12 回	哲学の歴史 5 — 古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志
第 13 回	哲学の歴史 6 — 中世	証空：浄土教における無限者との一体化

第 14 回 哲学 I のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で提示する教材文書を読み返すこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020 年、2700 円（税抜）。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40% くらい）と学期末のレポート（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

文1年T～V、環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に学習支援システムでのオンライン授業（オンデマンド授業・資料型）とする。事情が許せば、3回程度、教室で対面授業を実施する。質問等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第2回	哲学の基本的性格—哲学の暫定的定義と方法、哲学の懐疑	哲学することの動機
第3回	哲学の根本問題について1—科学的認識と行為の因果性について	カントの認識論
第4回	哲学の根本問題について2—道徳、自由、幸福について	カント：道徳と宗教
第5回	哲学の根本問題について3—現実世界と人間存在について	ヤスパース：包越者論
第6回	哲学の根本問題について4—真理について	ヤスパース：理性と交わり
第7回	哲学の根本問題について5—哲学的世界像について	古代ギリシャの存在論
第8回	哲学の根本問題について6—現実世界の運動について	ヘーゲルの弁証法
第9回	哲学の根本問題について7—近世日本の道徳観	伊藤仁斎の「仁」の思想
第10回	現代日本と哲学について1	夏目漱石：現代日本批判と自己本位

第11回 現代日本と哲学について2 夏目漱石：道と天

第12回 現代世界と哲学について1 小林秀雄：信じられる自己、言葉、物、美

第13回 現代世界と哲学について2 小林秀雄：西洋と日本、自己を超える存在

第14回 哲学Ⅱのまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で提示するプリントを読み返すこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020年、2700円（税抜）。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40%くらい）と学期末のレポート（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学という難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指しているが、善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、哲学を学ぶことが必要なのである。

哲学はあらゆる学問の基礎である。学生は、何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【到達目標】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学（I）では、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。

学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	足の裏に影はあるか？
2	哲学の基本的性格 1	「哲学」とは何か？
3	哲学の基本的性格 2	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の歴史 1 (哲学の出発点 1)	無知の自覚と愛知
5	哲学の歴史 2 (哲学の出発点 2)	ソクラテスの無知の自覚
6	哲学の歴史 3 (哲学の出発点 3)	懐疑、驚き、絶望… (デカルト～ヤスパース)

7	哲学の歴史 4 (哲学の究極)	愛についての考察・アイデア論とプラトニックラブ
8	哲学の歴史 5 (哲学とは何か・まとめ)	愛の3つの対象と知への愛
9	哲学の基本問題 1 (哲学と科学 1)	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学の基本問題 2 (哲学と科学 2)	対象の違い——部分と全体、本質と現象
11	哲学の基本問題 3 (哲学と科学 3)	方法の違い——仮説と真理、分析と反省
12	哲学の基本問題 4 (哲学と科学 4)	事実と価値・目的と手段
13	哲学の基本問題 5 (哲学と科学 5)	主体知と客体知・相補性
14	哲学 I まとめと学期末試験	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験（レポート）（60 %）によって評価する。試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学(Ⅱ)では、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと願っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教について、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つけようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」ことと「知る」こととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリント配信を用いた講義形式で進める。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、補助資料によって、哲学者たちの生き方をめぐるユニークなエピソードなども交えながら、著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義して理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出やコメントを重視する。課題やコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。なるべく哲学Ⅰから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か?哲学と科学と宗教
2	哲学の基本的性格 1	哲学と宗教の相違点——知の立場と信の立場

3	哲学の基本的性格 2 (宗教の予備学習 1)	ユダヤ教とキリスト教
4	哲学の基本的性格 3 (宗教の予備学習 2)	キリスト教——愛の宗教
5	哲学の根本問題について 1 (哲学と宗教 1)	知と信の葛藤——ギリシア哲学とキリスト教
6	哲学の根本問題について 2 (哲学と宗教 2)	現代における宗教の存在理由——理性の偉大さとその限界
7	哲学の根本問題について 3 (哲学と宗教 3)	宗教心の源泉——バスカル『パンセ』より
8	哲学の根本問題について 4 (哲学と宗教 4)	自由意志と悪の問題——バスカルとアウグスティヌス
9	哲学の根本問題について 5 (哲学と宗教 5)	自力と他力——人間の強さと弱さについて
10	現代日本と哲学について (哲学と幸福 1)	幸福論——哲学とよき生について
11	現代日本と哲学について (哲学と幸福 2)	意志の弱さと選択の問題
12	現代世界と哲学について (哲学と幸福 3)	正義と幸福——ソクラテスの場合
13	現代世界と哲学について (幸福論の系譜)	ソクラテスの後継者たち——禁欲主義と快楽主義
14	哲学Ⅱ まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。本授業の準備・復習時間は、各々 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』

内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点 (40%) と、学期末試験 (レポート) (60%) によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学の根本問題、善、自己、社会（共同体）、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）べきか？（3）

第 13 回 私は法にかなったこと 社会契約論をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40%くらい）と学期末のレポート（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあつて、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならぬのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならぬのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならぬのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならぬのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）

第 11 回 人間の責任はどこまで 世代間倫理（フレチェット）及ぶのか？（1）

第 12 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）及ぶのか？（2）

第 13 回 何が暴力を抑止するの か？ 暴力と倫理学

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また、授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40%くらい）と学期末のレポート（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文 1 年 L~X・キ／法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の「ハイブリッド型授業」（対面授業と Zoom でのリアルタイム型オンライン授業の組み合わせ）です。当授業では、対面授業の回とオンライン授業の回を組み合わせで実施します。ただし、他の授業との関係で受講者が対面授業やオンライン授業に出席できない場合のことを考えて、オンデマンド授業（対面欠席者対象）と Zoom での授業を録画した映像授業も併せて実施します。授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで Zoom でのリアルタイム型オンライン授業を行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快樂主義とストア派の倫理学

第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【その他の重要事項】

倫理学 II も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday

life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文 1 年 L~X・キ/法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の「ハイブリッド型授業」（対面授業と Zoom でのリアルタイム型オンライン授業の組み合わせ）です。当授業では、対面授業の回とオンライン授業の回を組み合わせで実施します。ただし、他の授業との関係で受講者が対面授業やオンライン授業に出席できない場合のことを考えて、オンデマンド授業（対面欠席者対象）と Zoom での授業を録画した映像授業も併せて実施する予定です。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで Zoom でのリアルタイム型オンライン授業を行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するか？（3）	テロリズムと戦争

第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	生命倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	まとめの授業を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかを見てゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

学期末にテストを行なう。

成績評価の基準は次のようにする。

授業への貢献度 30%；小テスト 20%；テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答します。

コメントペーパーを見ていると、4 月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

哲学的・倫理的に考えることが、少しずつですが定着していると思えます。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年I～N・Y / 法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかを見てゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第2回	何が暴力を抑止するか？（2）	暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するか？（3）	テロリズムと戦争
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	生命倫理学
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理

第11回 環境は保護しなければ 環境倫理学とは何か？
ならないのか？（1）

第12回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（2）

第13回 環境は保護しなければ 21世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（3）

第14回 まとめ これまでのまとめ、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
など

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらいます。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点35%；レポート65%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、Zoomでの授業だったので、すこし感想の雰囲気がちがいますが、次のようなコメントがありました。

「秋学期間ありがとうございました。春学期につづき、哲学対話などがあつたので、受動的に授業を受けるだけでなかつたのでよかったです。倫理学を学んで、自分の考えの幅が広がりました。」
授業で「哲学対話」を取り入れたので、コメントにはそのことがふれられています。以下のコメントは、その点についてもっと述べてくれています。「ふつう」とは？ということテーマにして哲学対話をやったのです。

「秋学期は「ふつう」についての哲学対話が特に心に残っています。改めて考えてみると考えるほど疑問が生まれて難しい問題だと思いました。最近でもテレビや話しの中でふつうというワードが出てくると「ふつうって何？」と今まで疑問に思うことのなかつたことを疑問に思うようになり、日常生活に新たな疑問が生まれました。家族でもよく話す話題になって「ふつう」の哲学対話は生活に影響を与えました。」

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営 1 年 A~H、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

* 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	「私」とは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界の中にいるとはどういうことか？
第 3 回	人間とは何か？（3）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学：快楽と禁欲
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？：自由意志と責任

第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論：人民の主権と法の支配
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体的多元性
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年 適宜、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（30%）、期末試験またはレポート（70%）

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

【その他の重要事項】

※ 例え倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないで OK。（基本的に初学者向けの授業です）

※ たんに単位を取るためだけに履修しようと思う人にはお勧めしない。

【Outline and objectives】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～H、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

* 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するか？ (1)	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するか？ (2)	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するか？ (3)	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？ (1)	生存権 / 人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？ (2)	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？ (3)	動物倫理学

第 7 回 私は生命を操作する権利があるのか？ (4)

第 8 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？ (1)

第 9 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？ (2)

第 10 回 人間の責任はどこまで及ぶのか？ (3)

第 11 回 環境は保護しなければならないのか？ (1)

第 12 回 環境は保護しなければならないのか？ (2)

第 13 回 環境は保護しなければならないのか？ (3)

第 14 回 まとめ 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
田島樹里奈『デリダのポリティカルエコノミー：パレルゴン・自己免疫・暴力』北樹出版、2019 年
その他、適宜授業中に紹介します

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（30%）、期末試験またはレポート（70%）

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰを受けてから受講すると、より理解しやすくなります。リアクションペーパー（コメントシート）の提出をもって出席としますが、内容を重視しています。

※ たんに単位だけ欲しくて履修しようと思う人にはお勧めしません。

【Outline and objectives】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文 1 年 A～I、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	・受講上の注意 ・授業内容についてのイントロダクション
第 2 回	人間とは何か？（2）	・「現に問うているのは誰か？」 ・ハイデガー哲学からみた「私」の位置
第 3 回	人間とは何か？（3）	・「世界内存在としての私」 ・「私は世界とどのように関わるのか？」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	・「倫理学とは何か？」
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	・「絶対的な善とは何か？」 ・倫理学と宗教
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	・アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	・快樂主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・功利主義 ・義務と有用性
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・自由とは何か？ ・権利と自由
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・カント倫理学 ・権利と義務
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	・法実証主義 ・法と倫理

- 第 12 回 私は法にかなったこと ・社会契約論
をなすべきか？（2） ・国家と個人
- 第 13 回 私は法にかなったこと ・自由主義・共同体主義
をなすべきか？（3） ・政治と倫理
・社会と個人
- 第 14 回 まとめ ・倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

・定期試験（30%）に加え、リアクションペーパーや小テスト（70%）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

・倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていかない限り、倫理的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

文 1 年 A～I、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）	・暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理

第 11 回 環境は保護しなければ ・環境倫理学とは何か？

ならないのか？（1）

第 12 回 環境は保護しなければ ・持続可能な社会とは何か？

ならないのか？（2）

第 13 回 環境は保護しなければ ・21世紀の倫理学に向けて

ならないのか？（3）

第 14 回 まとめ ・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（30%）に加え、小テスト（70%）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 J~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1） ——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第 2 回	人間とは何か？（2） ——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイドガールの思想を解説する。
第 3 回	人間とは何か？（3） ——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第 4 回	私は何をなすべきか？ （1）——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の3つのレベルの違いという観点から解説する。
第 5 回	私は何をなすべきか？ （2）——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第 6 回	私は何をなすべきか？ （3）——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第 7 回	私は何をなすべきか？ （4）——快樂主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。

- 第 8 回 私は自分の義務をなすべきか？（1）——功利主義
公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。
- 第 9 回 私は自分の義務をなすべきか？（2）——自由とは何か？
倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
- 第 10 回 私は自分の義務をなすべきか？（3）——カント倫理学
カント倫理学の概要を解説する。
- 第 11 回 私は法にかなったことをなすべきか？（1）——法実証主義
現に通用している法律の妥当性を倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
- 第 12 回 私は法にかなったことをなすべきか？（2）——社会契約論
ホッブズの社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズ思想について解説する。
- 第 13 回 私は法にかなったことをなすべきか？（3）——自由主義・共同体主義
社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体としての善を重視する「共同体主義」について考える。
- 第 14 回 まとめ
※別途定期試験を実施する
これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50%）定期試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 J~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）——「正義の戦争」はありうるか？	正義論とはなにか、正義論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）——暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）——テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）——生存権／人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）——「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」といって何を指すのか？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）——動物倫理学	シンガーの「動物解放論」について解説する。

第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）——動物倫理学	動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）——責任という原理（ヨナス）	ヨナスの責任概念を中心に相互性の問題について考える。
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）——科学技術の倫理	科学技術の発展がもたらす倫理問題を考える。
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）——世代間倫理	世代内倫理に対する世代間倫理について解説する。
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）——環境倫理学とは何か？	世代間倫理としての環境倫理学について解説する。
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）——持続可能な社会とは何か？	「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）——21世紀の倫理学に向けて	なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
第 14 回	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、※別途定期試験を実施する 理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013 年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50%）定期試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学の根本問題、善、自己、社会（共同体）、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）べきか？（3）

第 13 回 私は法にかなったこと 社会契約論をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40%くらい）と学期末のレポート（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

法1年S~W / 法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあつて、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムによるオンライン授業、オンデマンド授業・資料型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、状況によっては変更あるものと心得ておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第2回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第3回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第7回	環境は保護しなければならぬのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第8回	環境は保護しなければならぬのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第9回	環境は保護しなければならぬのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第10回	環境は保護しなければならぬのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）

第11回 人間の責任はどこまで 世代間倫理（フレチェット）及ぶのか？（1）

第12回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）及ぶのか？（2）

第13回 何が暴力を抑止するの か？ 暴力と倫理学

第14回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また、授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40%くらい）と学期末のレポート（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～V / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりが ついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てます。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムや Google フォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念 (1)	概念とは何か－内包と外延、類と種
4	概念 (2)	矛盾概念と反対概念
5	概念 (3)	概念の定義
6	判断 (1)	判断とは何か
7	判断 (2)	判断の分類
8	判断 (3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断 (4)	ベン図の図形
10	推理 (1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理 (2)	対当推理
12	推理 (3)	変形推理
13	推理 (4)	三段論法の形式
14	推理 (5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
予習は、事前に教科書の次の章を読む。
復習は、授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 80 %、平常点 20 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業内でたびたびアクションペーパーの提出があります。

【Outline and objectives】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In particular, this logic I focuses on traditional formal logic since Aristotle.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～V / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった!」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われました。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てます。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムや Google フォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法 (1)	三段論法の格式と規則
3	三段論法 (2)	三段論法の格式と規則
4	三段論法 (3)	ベンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理 (1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理 (2)	ミルの帰納法
8	記号論理学 (1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学 (2)	命題論理学
10	記号論理学 (3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学 (4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学 (5)	恒真命題
13	記号論理学 (6)	公理主義体系
14	記号論理学 (7)	限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、授業で解答が示された教科書の問題を解きなすこと。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】

授業内でたびたびリアクションペーパーの提出があります。

【Outline and objectives】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In LogicI, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this LogicII also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take LogicI.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N・WX / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。この授業で、学生は論理的に思考するための基礎的知識を身につけることができます。

【到達目標】

学生は、まずは、概念、命題、推理についてなど、論理的に思考するための基礎知識を学び、身につけることができます。命題のあり方や推理の基本を学ぶことで、論理的思考の訓練になります。レポートや小論文などを書く上でも、言葉や論理に気をつけるようになるでしょう。公務員試験などにも論理学の基礎知識を問う問題も出るようです。何もを学ぶにも論理学の基礎知識は有用です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。基本的にはプリントを用いた講義形式ですが、理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく説明していきます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席（課題の提出）を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学 I と II とを通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律について
3	概念論 1、概念とは何か？	概念とは何か、概念の形成
4	概念論 2、概念の性質	概念の性質、内包と外延
5	概念論 3、分類とは何か？	分類体系図とカテゴリー
6	概念論 4、概念の種類	概念の種類・問題演習
7	命題論 1、命題とは何か？	命題とは何か？ 命題の標準形式
8	命題論 2、命題の種類	について 定言命題の基本形式
9	命題論 3、命題の表し方	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論 4、問題演習	問題演習
11	推理 1、直接推理	対当関係による推理
12	推理 2、対当関係	対当の四角形と解説
13	推理 3、対当による推理	問題演習

14 前期のまとめと試験 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃

『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧に分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合は、授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートは、どちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N・WX / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆく。実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。論理学を学ぶことで、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

【到達目標】

学生は、直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることができる。例えば、「勉強したら試験に受かるが、勉強しないと試験に受からない」のかどうか……。学生は、特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学び、解き方を身につけることができる。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートや小論文などを書く際にも大いに役立つだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的な事例を配布プリントを用いて講義した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？ いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。毎回の課題を解くことで、理解を深めるように工夫しています。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の練習問題や課題の提出を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	推理論 1	推理とは何か？
2	変形による直接推理 1、換質法	換質法の解説と問題演習
3	変形による直接推理 2、換位法	換位法の解説と問題演習
4	変形による直接推理 3、換質換位法	換質・換位法のまとめと問題演習
5	間接推理、定言三段論法	三段論法とは何か？
6	三段論法の規則	定言三段論法の公理と規則（1） 公理と6つの規則、特に媒概念不周延の誤謬について

7	三段論法の規則（つづき）	定言三段論法の公理と規則（2） 大概念、小概念不当周延の規則について、その他の規則について
8	三段論法の問題演習	問題演習・定言三段論法の格と式について
9	仮言三段論法の解説と演習 1	混合仮言三段論法の解き方と問題演習
10	仮言三段論法の解説と演習 2	純粹仮言三段論法の解き方と問題演習
11	選言三段論法の解説と演習	選言三段論法の解き方と問題演習
12	両刀論法の解説と演習	両刀論法（ジレンマ）の解き方と問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	後期のまとめと試験	授業内試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題や課題の提出を重視します。平常点（40%）と学期末試験の成績（60%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧に分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合、私語厳禁、板書の写メやスマホ禁止に注意喚起する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 A~I / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

対面でもオンラインでも授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3~4 回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）

第 3 回 概念論

1. 概念の形成過程
2. 概念の外延と内包
3. アリストテレスの概念論
4. 概念の種類

第 4 回 判断論（命題論） 1

1. 判断（命題）とは
2. 命題の種類
3. 定言命題
4. 命題の標準形式化
5. 練習問題

第 5 回 判断論（命題論） 2

1. 周延の概念
2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係
3. 定言命題において周延をもつ名辞

第 6 回 推理論：直接推理 1

1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当
2. 練習問題

第 7 回 推理論：直接推理 2

1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当
2. 練習問題

第 8 回 推理論：直接推理 3

1. 命題の変形による推理：換質法・换位法
2. 練習問題

第 9 回 推理論：直接推理 4

1. 命題の変形による推理：換質换位法
2. 練習問題
3. 排他的命題の標準形式化

第 10 回 推理論：間接推理 1（定言三段論法）

1. 間接推理（三段論法）の種類
2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞
3. 定言三段論法の格と式

第 11 回 推理論：間接推理 2（定言三段論法）

1. 妥当な定言三段論法の見分け方
2. 練習問題（初級）

第 12 回 推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）

1. 練習問題（中級）
2. 仮言命題（条件文）について
3. 純粹仮言三段論法
4. 練習問題

第 13 回 推理論：間接推理 4（仮言三段論法）

1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
2. 練習問題

第 14 回 授業内試験・まとめ

- 筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（70%）、授業内容確認小テストの成績＋平常点（30%）により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は、理解して自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目です。積極的に練習問題に取り組んでください。解説は丁寧に行います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

法1年A～I / 法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、昨年度までの授業内容とは異なり、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

授業は基本的に講義形式で行いますが、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1) : 復習	1. 仮言命題 (条件文) : 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・ トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 小テスト (筆記試験) 2. 意味論と構文論
第 8 回	論理トレーニング (1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第 9 回	論理トレーニング (2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第 13 回	論理トレーニング (6)	1. 接続表現 (続き) 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	小テスト (筆記試験) まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題 (宿題) または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

2 回の小テストの成績 (80%) と平常点 (20%) に基づき評価。2 回ともいづれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

2 回とも採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学の授業は、授業中に練習問題をするのが楽しいようです。解説は丁寧に行いますので、積極的に練習問題に取り組んでみてください。

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 A~J、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 I の授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①正しい推論のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の授業は、対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型 / オンデマンド型] の組み合わせ）となります。学習支援システム Hoppii を通じて、ナレーション付きのパワーポイント教材、解説動画、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題の提出をもって、出席と判断します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の 3 原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の 4 種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）

5	変形推理（1. 換質法、2. 换位法、3. 換質换位法、4. 戻換法）	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、戻換法、直接推理の有用性
6	課題プリント（第 1 回から第 5 回）の解答と解説、三段論法定言三段論法の規則	課題プリント（第 1 回から第 5 回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
7	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題（設問 1 から設問 6）、妥当性の判定の練習問題（設問 8 から 11）	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粹仮言三段論法（第 1 格から第 4 格）
8	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第 1 格、第 2 格、第 3 格、第 4 格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第 1 格）、差異の原理（第 2 格）、用例の原理（第 3 格）、逆の原理（第 4 格）
9	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粹仮言三段論法（第 1 格から第 4 格）
10	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類（肯定肯定式、否定肯定式）、選択肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
11	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法の概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
12	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
13	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2 時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②春学期試験の点数。①と②をそれぞれ 50 % の割合で総合評価する。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下)とし、合格は A+、A、B、C とします。
A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。
A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。
B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。
C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。このシステムを活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。もし可能であれば、Web カメラとプリンターを用意してください。

【その他の重要事項】

ハイブリッド型授業の詳細は、学習支援システム Hoppii に掲載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline and objectives】

Learning logic is all about laying the groundwork for us to think and act reasonably. It can help solve the various problems we encounter in our daily lives and also foster the employment skills we need to prepare as members of society. The Logic course deals with traditional logic from Aristotle and aims to develop the ability to determine the correct reasoning.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学Ⅰ（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
- ③仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型 / オンデマンド型] の組み合わせ）となります。学習支援システム Hoppii を通じて、ナレーション付きのパワーポイント教材、解説動画、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題の提出をもって、出席と判断します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび F・ベーコンの帰納法	秋学期セメスターの授業内容、授業の進め方など、F・ベーコンの帰納法論理（イドラ論と四つの表）
第 2 回	J・S・ミルの帰納法	ミルの論理学体系、一致法、差異法、一致差異併用法、剰余法、自然の斉一性の原理、ベーコンとミルの帰納法の共通点と相違点
第 3 回	デカルトとライブニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直観および演繹の確実性）、ライブニッツ（定義論、結合法、根拠律）、両者の共通点と相違点
第 4 回	アンチノミーと弁証法	カントの超越論的論理（超越論的論理、分析論と弁証論、アンチノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第 5 回	文（命題）の真偽および論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理関数、複合命題の真理値、否定
第 6 回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、条件（含意）、等値、ブール代数の考え方

第7回	文と文の論理的関係の具体相	同一命題の連言、同一命題の両立の選言、同一命題の排反的選言、論理代数のまとめ
第8回	つねに真である文と真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理表で知る。テキストの問題を解く。
第9回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題を解く。
第10回	三段論法（推理）の妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テキストの問題を解く。帰謬法の導入
第11回	帰謬法	教科書およびその他の練習問題を解く。
第12回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬法を用いた推論の妥当性の検証
第13回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解く。対偶律、両刀論法
第14回	述語論理学の導入	述語論理学の歴史、特徴、量化的考え方、量化記号

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013年、2,100円（ISBN ISBN-10: 4872620321）

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②最後に行う秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価します。課題と期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)、D(59点以下)とし、合格はS、A、B、Cとします。なお、ABCに関しては、さらに三区間に細分化されています。

S：優れた学修態度および特に課題の全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題の非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題の正答率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題の未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の様々な質問に答えるために、希望者の方にオンラインで面談時間（オフィスアワー）を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを用い、授業で使用した教材や練習問題及びその解答などを随時ダウンロードできるようにします。したがって、自宅でパソコン、インターネット、プリンターなどを使用します。

【その他の重要事項】

Hoppiiのメールリストを使用して、受講生に連絡を取りますので、授業登録時に連絡可能なメールアドレスを必ず記入してください。

【Outline and objectives】

Learning logic is all about laying the groundwork for us to think and act reasonably. It can help solve the various problems we encounter in our daily lives and also foster the employment skills we need to prepare as members of society. This class aims to acquire modern propositional logic and logic on scientific thinking, cognition, and history.

PHL100LA

論理学 I

2017年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

営1年K~U、キ1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということ、基礎から順に学んでいきます。そして最後に、日常生活で正しく思考し行動するためには正しい知識と正しい論理（推理）が必要であることを確認します。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業の混合で行います。ただし大学の行動方針レベル2になった場合には、オンライン授業で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。オンライン授業では丁寧な資料を配信します。まずは対面とオンラインの授業で、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明して行きます。また、論理的な思考が実際に身につくようにするために、演習として練習問題に取り組みでもらいます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めて行き、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学びますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第2回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第3回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第4回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第5回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第6回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第7回	定言命題の4種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第8回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第9回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。

第10回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第11回	命題の変形による直接推理について	換質法・换位法についての説明
第12回	命題の変形による直接推理について	換質换位法及び本格的な推理についての説明
第13回	練習問題で推理を身につけよう。	命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。
第14回	授業内試験：まとめと解説	論理的な正しい思考ができるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めて論理学を学ぶ学生は、特に学んだ事柄を教科書で復習し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は2時間。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（粹出版社、2013年）（アマゾン POD で入手可能）

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と学期末レポート（60%）で決定します。オンライン授業に取り組んで下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「問題演習もあってよかった」等、書いてくれていました。オンライン授業でも、分かりやすい資料を配信し、理解が進むよう授業を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にあたっては、配信資料を受信できるパソコンなどの機器が必要となります。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

営1年K~U、キ1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに役立つことを説明します。さらに本格的な推理の三段論法に入り、正しい思考法をまなびます。論理学は、正しく考えるということにおいて、これからの人生の様々な場面において役に立つと思います。

正しい思考は正しい知識と正しい論理から可能になりますが、この授業では、その正しい論理（推理）について学ぶのです。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。学期末レポートでは、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業の混合で行います。ただし大学の行動方針レベル2になった場合には、オンライン授業で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。オンライン授業では、丁寧な資料を配信しますのでよく読み内容を理解して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第2回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・换位法についての説明
第3回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第4回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第5回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第6回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第7回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明
第8回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第9回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第10回	両刀論法（ディレンマ）について	単純構成的両刀論法、単純破壊的両刀論法、複合構成的両刀論法、複合破壊的両刀論法についての説明

第 11 回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第 12 回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第 13 回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第 14 回	まとめ レポート課題の提示	これまでの内容をまとめ、レポート課題を提示します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めて論理学を学ぶ学生は、学んだ内容を教科書で復習し、次の授業内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 2 時間。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。大貫義久・他『改訂版論理学の初歩』（梓出版社・2013 年）（アマゾン POD で入手可能）

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と学期末レポート（60％）で決定します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が授業について「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」と書いてくれていました。内容をもっと理解しやすいものにするために、オンライン授業では、丁寧な資料を配信します。問題にも取り組んでもらい、論理的思考が実際に身に着くようにします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にあたって、配信資料を受信できるパソコンなどの機器が必要となります。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students.

Lastly this course gives students a introduction to modern propositional logic. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 J~N / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的論理学が扱う内容を、概念に始まり、命題、命題間の関係、そして命題の変形、虚偽論というかたちで検討していきます。日本では、論理的思考力をメインにあつかう科目は、ようやく大学でとりあげられます。この機会を利用して、しっかりした論理的思考の訓練をしてください。

【到達目標】

人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていません。しかし、文法をよく知るようになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。

論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。

本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面とオンラインを併用するハイブリッド型になる。授業支援システムのホッピーを活用して、資料配布、質疑応答をおこなう。またオンラインのときは、Google-Meet を用いる。対面、オンラインをどう配置するかについては、コロナの状況を見ながら決めていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	論理的に考える一論理と接続詞	接続詞を通して、論理的な頭の体操をします。
2	論理学の原理	論理学の基本原則を学ぶ。同一律、矛盾律、排中律
3	概念とは何か？	ひとは概念を通して考え、判断をしている。概念の基本を学ぶ
4	定義と区分	分かるとははっきりと分けることができること。ものごとの道理をつかむ基本は定義と区分にある
5	概念、定義と区分—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
6	判断とは何か？	判断を通して、私たちはものごとを知っていきます。その基本を学ぶ
7	判断とは何か？ 練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
8	対当推理	判断と判断の関係を扱うのが、対当推理です。ていねいに見ていきます

9	対当推理—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
10	これまでの学習内容の確認のための試験と講評	第一回小テストをおこない、講評します
11	変形推理	一つの判断を、意味内容を同じしたままにして、判断を変形していきます。その基本問題を見ておきます
12	変形推理—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
13	虚偽論	論理学を学ぶ意義の一つは、論理的にいかさまを見抜く力をつけることです。論理的虚偽の基本パターンをみます
14	虚偽論	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を多く解きます。授業内で解くほかに、課題を出します。また復習きちんとやってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。資料などは、授業支援システムのホッピーを用いてアップします。

【テキスト（教科書）】

大貫義久他著『論理学の初歩』梓出版社、2000 円

【参考書】

論理に親しむうえで、山下正男『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書）はおもしろいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

試験 90 %、平常点 10 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題を解くことで理解が深まるというコメントが多くみられます。本年も同じように練習問題を解きながら、理解を深めていきます。なお、論理学は積み重ねなので、欠席しないようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

私語は、他の人への迷惑、授業の障害。厳しく対処します。

【Outline and objectives】

This course introduces traditional logic, for example, concept, proposition, deformation reasoning, oppositions and fallaciousness fallacy. To deepen understanding this course gives participants many exercises.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

滝口 清栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法 1 年 J~N / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的論理学の、三段論法、両刀論法（ジレンマ）、科学的発見の論理としての帰納法、そして現代の記号論理学として命題論理学の初歩を扱う。

【到達目標】

人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていない。しかし、文法をよく知るようになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。

論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。

本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながりますので、通年で受講することをすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。ただし、できるだけ多く問題を解くことによって、思考の訓練をおこないます。

この授業は対面とオンラインを併用するハイブリッド型です。どのように組み合わせるかは、コロナの状況を見て決めていきます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	定言三段論法（1）	二つの前提から結論をひきだす三段論法の規則を学びます。論理的思考が深まるでしょう
2	定言三段論法（2）	三つの円を使って、正しいか間違っているかを判定する、ベン図による判定をおこないます
3	定言三段論法—練習問題	練習問題を通して、理解を深めます
4	仮言三段論法	ふだんの生活のなかで、ひっかかりやすい仮言三段論法があります。この理解を通して、論理的センスを磨きます
5	仮言三段論法—練習問題	練習問題を通して、理解を深めます
6	選言三段論法	選言三段論法のしくみを説明する
7	選言三段論法—練習問題	練習問題を解いて、理解を深めます
8	定言三段論法、仮言算段論法、選言三段論法	これまで学んだ三つの三段論法についての定着度を見るために小テストをおこない、講評する

9	両刀論法	これまでの三つの三段論法を総合した両刀論法のしくみを説明します
10	両刀論法—練習問題を解く	不完全な両刀論法をどう切り返すか？ 練習問題を解きます
11	ミルの帰納法—データをもとに規則を発見する。	近代では科学的発見の論理として、帰納法が重視されます。その基本を学びます
12	帰納法について練習問題を解く	これまでの科学的発見のなかで、どの方法がつかわれていたか、出題します
13	論理的な文を記号で表す	記号論理学のなかでも、命題論理学の初歩を学びます。命題を単位として、推理が妥当かどうかを見ていくものです。その手始めに、いろいろな推理を記号で表す練習をしてみます。
14	真理表を作り、真偽を判定する	そして、実際に表を作り、ある推理が妥当かどうかの判定をおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を多く解きます。授業以外に、課題を出しますから、それを家でやってきてください。また復習をおこなってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。資料等、授業支援システムのホッピャーを用いてアップします。

【テキスト（教科書）】

大貫義久他著『論理学の初歩』梓出版社

【参考書】

【参考書】

論理に親しむうえで、山下正男『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書）はおもしろいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

試験90%、平常点10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題については、理解が深まるというコメントが多く寄せられますので、本年も同じく練習問題を通して理解を深めるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

練習問題を解くことで、理解が深まるという声を聞きます。こつこつと取り組むことから、得られることが多いと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces syllogism, inductive reasoning and propositional logic first steps. To deepen understanding this course gives participants many exercises.

PHL100LA

論理学 I

2017年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

法1年S~W / 法文営国環キ 2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の伝統的論理学の基礎 — オイラー図とベン図で知る — 古代ギリシア以来のアリストテレスの伝統的論理学を学びます。(1) 概念、(2) 判断、(3) 推理が三本柱となります。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ないシンプルな図形の組合せだけで伝統的論理学を知ることができます。覚えねばならないことは少なく、図形を使って論理的に考える力が身につきます。

【到達目標】

《知識》ヨーロッパの伝統的論理学の基礎的な知識を得る。

《態度》論理的に冷静に考える態度を身につける。

《技能》論理的に正しく推理することができる。

- (1) オイラー図を使って伝統的論理学に則った正しい推理ができる。
- (2) ベン図を使って伝統的論理学に則る正しい推理ができる。
- (3) 図形を使って直観的に正しく考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストを用い、必要に応じてプロジェクターを使います。
- (2) 各回の授業の終わりに、課題プリントの提出を求めます。
- (3) 授業の初めに、前回で提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ③思考の3原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断（オイラー図）
3	直接推理（対当推理）	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理（オイラー図）
4	直接推理（変形推理）	①換質法 ②换位法 ③戻換法（オイラー図）
5	間接推理（三段論法）	①三段論法の妥当性をオイラー図で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。
8	直接推理をベン図で考える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の戻換法をベン図で考える
9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考える ③三段論法の問題をベン図で解く

10	ベン図で三段論法 (実践)	①実例で三段論法の妥当性を判定する
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粹仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粹選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法 (ジレンマ)	①両刀論法 (ジレンマ) ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①試験問題を解く

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
《予習》各回の授業内容についてテキストや参考書で確認しておく。
《復習》各回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

【テキスト (教科書)】

菅沢龍文『論理学 はじめの一步 ——オイラー図とベン図で知る伝統的論理学——』(春風社、2021年3月31日刊行予定)

【参考書】

大貫・白根・菅沢・中釜『論理学の初歩』梓出版社
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 (参加姿勢、確認プリントの評価など)
 - 全体についての春学期試験の点数
- (1) を 70 %、(2) を 30 % の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
- 授業内容は必須事項と発展的な事項との区別をつけて、必須事項の習得に重点を置く。

【Outline and objectives】

Elements of the European Traditional Logic, Using Euler Diagrams and Venn Diagrams: We learn the ancient Greek traditional logic of Aristotle. This logic is constituted by three parts: (1) concepts, (2) judgements, (3) reasoning. Using Euler diagrams and Venn diagrams, by simple combinations of the figures we can realize the traditional logic. We don't have to learn so many things by heart and we will get the skill to think logically with the diagrams.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法1年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

知識についての哲学的論理、命題論理および述語論理の初歩。
近代科学の知識がどのようにして成り立つのかについてベーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの論理を初歩的に学ぶ。そして、ブール論理学から始まる現代の命題論理学、そして述語論理の基礎を習得する。また、論理代数、真理表、ベン図などの多様な表現方法で理解を深めるようにする。これにより、近代科学の論理や19世紀以降の命題論理の基礎について学ぶことができる。

【到達目標】

《知識》近代哲学の知識の論理、現代の命題論理、述語論理の初歩的知識を得る。

《態度》論理的に世界について考える態度を身につける。

《技能》論理的に物事を考える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- テキストに加えてプロジェクターやプリントを用います。
- 授業内では、板書で問題を解きます。
- 毎回理解を確認するためのプリントを提出します。
- 授業の初めに、前回で提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	(1) 授業について F・ベーコンの考えたこと
2	帰納法と演繹法	(1) ミルの帰納法 (2) 自然の斉一性 (3) デカルトと演繹法
3	哲学的論理	(1) ライブニッツ 充足理由律 (2) カント 超越論的論理学 (3) ヘーゲル 弁証法
4	命題論理学 — 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	(1) 命題 (2) 論理的結合子 (3) 真理表とベン図 —複合命題の真理値— (1) 否定 (2) 連言
5	複合命題の真理値	—複合命題の真理値— (3) 選言 (4) 条件 (5) 等値 —論理代数を用いて考える—
6	問題を解く	テキストの 137 頁
7	恒真命題 (1)	(1) 恒真命題 (2) 恒偽命題・総合命題 (3) 恒真命題の判定 (真理表)

8	恒真命題 (2)	(1) 恒真命題の判定 (真理表と帰謬法)
9	恒真命題と推理の妥当性	(1) 恒真命題の判定 (帰謬法) (2) 推理の妥当性
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	(1) クラス理論 (2) 嘘つきのパラドックス (3) タイプ理論
11	述語論理学のはじめ (I)	(1) 命題関数 (2) 限量記号 (3) 概念の述語化
12	述語論理学のはじめ (II)	(1) 対当推理を考える (2) 多項述語で考える
13	総復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
《復習》前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。
《予習》次回の内容についてテキストや参考書で概観しておく。

【テキスト (教科書)】

大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』(梓出版社)

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 (参加姿勢、確認プリントの評価など)、(2) 全体についての秋学期試験の点数、これら (1) を 70 % (2) を 30 % の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
- (2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、できるだけ整理して、具体例も分かりやすくする。
- (3) テキストから離れる部分もあるので、テキストとの関連がよく分かるようにする。

【Outline and objectives】

Elements of Modern Philosophical Logic of Knowledge, Propositional Logic and Predicate Logic:

At first we learn elementarily from modern European philosophers, beginning with F. Bacon and R. Descartes, in what way the knowledge of modern sciences is logically formed. In the second place we learn also elementarily the logic of our time, from the Boolean propositional logic down to the predicate logic. We use some means of expression like logical algebra, truth-chart and Venn diagram and apprehend the logic clearly. Therefor we can learn the essential philosophical logic of modern sciences and the elements of the propositional logic.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年・法 1 年 Y / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

(論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。)

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識 (たとえば、論理学の基本的な規則・法則等) と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文 (命題) が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な (定言三段論法等の) 推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

対面でもオンラインでも授業は講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (3~4 回程度実施予定。)

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題 (小テスト) 等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開 (論理学史) 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学 (直観主義論理)
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第4回	判断論（命題論）1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第5回	判断論（命題論）2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第6回	推理論：直接推理1	1. 対当関係による推理： 矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第7回	推理論：直接推理2	1. 対当関係による推理： 小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第8回	推理論：直接推理3	1. 命題の変形による推理： 換質法・换位法 2. 練習問題
第9回	推理論：直接推理4	1. 命題の変形による推理： 換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第10回	推理論：間接推理1 （定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三名題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第11回	推理論：間接推理2 （定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第12回	推理論：間接推理3 （定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第13回	推理論：間接推理4 （仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法： 前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(70%)、授業内容確認小テストの成績+平常点(30%)により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は、理解して自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目です。積極的に練習問題に取り組んでください。解説は丁寧にしています。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

国1年・法1年Y／法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、昨年度までの授業内容とは異なり、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

授業は基本的に講義形式で行いますが、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1) : 復習	1. 仮言命題 (条件文) : 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・ トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 小テスト (筆記試験) 2. 意味論と構文論
第 8 回	論理トレーニング (1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第 9 回	論理トレーニング (2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第 13 回	論理トレーニング (6)	1. 接続表現 (続き) 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	小テスト (筆記試験) まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題 (宿題) または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

2 回の小テストの成績 (80%) と平常点 (20%) に基づき評価。
2 回ともいづれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

2 回とも採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学の授業は、授業中に練習問題をするのが楽しいようです。解説は丁寧に行いますので、積極的に練習問題に取り組んでみてください。

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of premodern China

Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法1年A～N、国キ1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義にて行っていく予定ですが、状況によっては大人教授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行う可能性もあります。課題に対するフィードバック等は学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of modern China

Objectives:Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y、文 1 年 A~N / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法1年S～Y、文1年A～N / 法文営国環キ 2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義にて行っていく予定ですが、状況によっては大人教授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行う可能性もあります。課題に対するフィードバック等は学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of modern China

Objectives:Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかにか普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型／オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しています。

課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

文1年P～X、環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからの主體的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主體的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom等のリアルタイム型/オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しています。

課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ/中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of premodern China

Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義にて行っていく予定ですが、状況によっては大人教授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行う可能性もあります。課題に対するフィードバック等は学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ / 中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかにかに普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型 / オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しています。

課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介してゆきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of premodern China

Objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

営1年K～U、キ1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからの主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom等のリアルタイム型/オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しています。

課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ/中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline: Surveying the history of modern China

Objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化を上げてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1： ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2： 古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3： ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4： ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5： 古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6： ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1： 中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2： 国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3： 中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4： キリスト教の発展、十字軍運動のキリスト教世界の発展と十字軍	展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5： 黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネ サンスの展開について

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%

* 出席管理は厳格に行う。

・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度春学期は全学的に授業改善アンケートを実施しなかったため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
- ＊出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生を巻き込みながら、双方向的に授業を展開していくことを心がけていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化を上げてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1： ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2： 古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3： ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4： ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5： 古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6： ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1： 中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2： 国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3： 中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4： キリスト教の発展、十字軍運動と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5： 危機と変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネ サンスの展開について

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %

* 出席管理は厳格に行う。

・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度春学期は全学的に授業改善アンケートを実施しなかったため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
- ＊出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生を巻き込みながら、双方向的に授業を展開していくことを心がけていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化を上げてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1： ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2： 古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3： ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4： ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5： 古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6： ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1： 中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2： 国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3： 中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4： キリスト教の発展、十字軍運動と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5： 危機と変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネ サンスの展開について
サンス

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %

* 出席管理は厳格に行う。

・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度春学期は全学的に授業改善アンケートを実施しなかったため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
- ・* 出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生を巻き込みながら、双方向的に授業を展開していくことを心がけていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化を上げてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1： ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2： 古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3： ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4： ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5： 古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6： ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1： 中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2： 国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3： 中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4： キリスト教の発展、十字軍運動と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5： 危機と変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネサンスの展開について

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年

南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30%

* 出席管理は厳格に行う。

・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度春学期は全学的に授業改善アンケートを実施しなかったため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

法 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
- ・* 出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生を巻き込みながら、双方向的に授業を展開していくことを心がけていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A~H / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主としてプリント配付によりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきつまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について

第 11 回 建武新政と室町幕府の展開
鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について

第 12 回 日明関係と室町文化の特質
15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について

第 13 回 戦国の動乱と関東地方
戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について

第 14 回 試験と解説
授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配信、または配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）により行う。レポートは word による原稿で提出すること。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は主としてプリント配付により、シラバス通りに進める。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中の日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）により行う。レポートは word による原稿で提出すること。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

文 1 年 T～V、営 1 年 A～J、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築して見ます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、臆てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずで

ます。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずで

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

文1年T～V、営1年A～J、国1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。

第2回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第5回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第6回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第8回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。
第9回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第10回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第11回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第14回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前の配布資料の内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30分以上は必要になるはずです。事前の配布資料や補足教材は、授業支援システムを通じて行います。それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定し

ています（5%

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007年、『『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築して見ます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、臆てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずで

ます。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずで

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

文1年/法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。

第2回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第5回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第6回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第8回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。
第9回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第10回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第11回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第14回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前の配布資料の内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30分以上は必要になるはずです。事前の配布資料や補足教材は、授業支援システムを通じて行います。それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定し

ています（5%

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007年、『『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。これに対して、翌週以降の授業で回答・説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジア世界の中の日本史とは何かを学問的に考えた上で、時代区分論の諸説を検討する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。
9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。

- | | | |
|----|--------------|---|
| 10 | 執権政治の展開と元寇 | 執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。 |
| 11 | 建武新政と室町幕府の展開 | 鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。 |
| 12 | 日明関係と室町文化の特質 | 日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。 |
| 13 | 戦国の動乱と関東地方 | 室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。 |
| 14 | 試験と解説 | 古代とは何か、中世とは何かを総合的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70%）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomにて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese history during the Ancient and Medieval Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。これに対して、翌週以降の授業で回答・説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界のなかの近世・近代日本について、時代区分に関する諸説を中心に検討する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察した上で、国際関係のなかの「鎖国」の意義を問う。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくのかを考察する。
8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。

9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。
10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総合的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70%）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomにて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese history during the Early Modern and Modern Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、臆てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずですが、また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

営1年K～U、環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。

第2回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第4回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第5回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第6回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第7回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第8回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。
第9回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第10回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第11回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第12回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第13回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第14回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前の配布資料の内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30分以上は必要になるはずですが、事前の配布資料や補足教材は、授業支援システムを通じて行います。それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定し

ています（5%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度サバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007年、『『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

国環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主としてプリント配付によりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきつまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について

第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第 14 回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。レポートは word による原稿で提出すること。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

国環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業とオンライン授業の組み合わせにより講義形式で行う。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主としてプリント配布によりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中の日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）により行う。レポートは word による原稿で提出すること。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom にて受講できる環境を整えること。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法営国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋思想の根底にあり、また日本の宗教文化とは異なるキリスト教の思想を学ぶと同時に、それによって日本の思考の特性を参照体に明らかにする。そして私たちが抱える現代の諸問題解決のためのヒントを旧約・新約聖書の中の記述及びそれに基づいたキリスト教思想の中に見出す。

【到達目標】

ユダヤ教及びキリスト教の全体像を掴むことができる。実際に旧約聖書、新約聖書に何が書かれているかを知ることができる。それらを読むことによって、現代社会が抱える様々な問題を解明、克服するヒントを掴むことができる。また、ユダヤ教やキリスト教といういわゆる一神教のものの考え方をすることで、それとは対照的な日本人の無意識の宗教観に気づくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド型のリモート講義という形をとる。音声付きのパワーポイント資料（スライド資料）とそれをPDFにした資料（解説ノート付き）を「学習支援システム」上に掲示するので、受講者はそれらを視聴、熟読してほしい。また、毎回「掲示板」にその日の授業テーマについての討論用スレッドを設置するので、そこに必ず意見を投稿すること。この投稿は出席確認とするので、授業資料を視聴していても意見投稿をしなければ欠席とみなされるので注意のこと。提出されたリアクションペーパーへのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。投稿された質問や意見に対するフィードバックは、掲示板上で返信(Re)という形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	思想としてのキリスト教にを学ごとの意義。
2	キリスト教とはどのような宗教か	キリスト教の全体像
3	旧約聖書とは何か①	イスラエルの歴史
4	旧約聖書とは何か②	一神教と偶像崇拜批判
5	新約聖書とは何か	イエスとは誰か
6	新約聖書とは何か②	キリスト教教会の発展
7	キリスト教における「祈り」とは何か	「祈り」の現象学的分析
8	ジェンダーを巡る問題	キリスト教は性差別、性の多様性の問題にどのように答えるか
9	家族を巡る問題	キリスト教における家族観はどのようなものか、現代的な家族の問題についてどのように答えるか
10	富と貧困を巡る問題	経済格差が拡大する現代社会において、キリスト教は貧困の問題についてどのように答えるか

11	グローバル化・多元化を巡る問題	経済社会的にグローバル化が進行する現代社会において価値観の衝突を回避することは可能か
12	環境破壊を巡る問題	環境破壊の元凶をキリスト教思想に見出すことは可能か
13	生命操作を巡る問題	生命操作技術の発展はキリスト教の人間観と矛盾するか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。授業時に提示する参考文献をできるだけ読んで予習、復習しておく。

【テキスト（教科書）】

使わない。

【参考書】

声名定道・土井健司・辻学共著『改訂新版 現代を生きるキリスト教』（教文館、2004 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価（100 点満点とし、60 点以上が合格）は、期末のレポート課題の点数（配分 90 %）とリアクションペーパーの点数（配分 10 %）で行う。レポート課題の評価基準は、レポート提出の形式的条件（表題をつける、字数制限など）を満たしているか、授業の到達目標であるユダヤ教・キリスト教の人間観、世界観およびそれらの現代的意義について深く理解しているか、それらについて自分の意見が論理的に述べられているかの 3 点である。リアクションペーパーの評価基準は授業内容を理解できているか、自分の意見が述べられているかの 2 点である。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの字が小さすぎるといふ指摘があったので、できるだけ情報を制限して大きなポイントで表示するようにする。

【Outline and objectives】

We will study Christian thought, which is alien to Japanese culture, and at the same time it will reveal the characteristics of Japanese thinking. We will also look for hints in the Bible and Christian thought to help us solve the various problems we face today.

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法営国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教とは何か」という問いに対して現象学的観点から解き明かしてゆく。人々の生活の中に深く浸透している宗教的な儀式、慣習、そして人々の考え方の中に少なからず影響を与えている宗教的な観念、心理などを「宗教現象」（その宗教性を意識しているかないにかかわらず）として捉え、その意味は何なのかを知る。

【到達目標】

到達目標は、「宗教」は何か危険なもの、「信仰」をもつ人は何か異質な人、という多くの日本人が漠然としてもっている宗教理解の一面性を批判する力、いかなる宗教であれそれを客観的に公正に評価することができる力、さらにはその知識を自分の生き方に活かす力を身に着けることにある。したがって、成績評価の基準は日常的経験の中に潜む宗教現象の意味を的確に分析、批判できるようになったかどうかにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。毎回リアクションペーパーを提出しそれをもって出席確認とする。遠隔授業となった場合には、オンデマンド型のリモート講義という形をとる。音声付きのパワーポイント資料（スライド資料）とそれをPDFにした資料（解説ノート付き）を「学習支援システム」上に掲示するので、受講者はそれらを視聴、熟読してほしい。また、毎回「掲示板」にその日の授業テーマについての討論用スレッドを設置するので、そこに必ず意見を投稿すること。この投稿は出席確認とするので、授業資料を視聴していても意見投稿をしなければ欠席とみなされるので注意のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教研究の方法	「宗教学」とはどのような学問か。神学、宗教哲学との違いは何か
2	比較宗教学の方法	様々な宗教を分類・類型化する
3	宗教現象学の方法	「宗教現象」の基本的な枠組みとしての「聖と俗」、「ハレとケ」
4	聖なる言葉 (1)	「祈り」とは何か
5	聖なる言葉 (2)	「物語」とは何か
6	聖なる言葉 (3)	「神話」という物語は何を語るのか
7	宗教的世界観	我々はどこから来て、今どのような世界に生き、死後どこへ行くのか
8	聖なる行為 (1)	儀礼とは何か
9	聖なる行為 (2)	通過儀礼、イニシエーションとは何か
10	聖なる行為 (3)	祝祭とは何か
11	宗教と呪術	シャーマニズムとは何か
12	宗教と近代科学 (1)	科学革命を成しえた西欧におけるキリスト教という宗教の役割

- 13 宗教と近代科学 (2) 科学の時代における宗教の意義とは何か
- 14 まとめ これまでの授業の総括とレポート課題についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- ①ファン・デル・レーウ『宗教現象学入門』（1979年、東京大学出版会）
- ②ミルチャ・エリアーデ『聖と俗』（1994年、法政大学出版局）
- ③ウィリアム・E・ペイドン『比較宗教学』（1995年、東京大学出版会）
- ④佐々木宏幹『宗教人類学』（1995年、講談社学術文庫）

【成績評価の方法と基準】

最終授業日後にレポートを提出してもらう。その内容と（90%）と投稿の内容（10%）によって成績評価をする。ただし、投稿回数すなわち出席回数が、全授業回数の3分の2を下回るとレポート提出資格を失うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

スライド資料に文字を入れすぎとの批判もあるので、よりシンプルにします。

【Outline and objectives】

This course deals with the question "what is religion?" from a phenomenological point of view. The students taking this course learn the meaning of religious phenomena like rituals or customs that have deeply penetrated into people's lives, and like religious ideas or psychology that have a considerable influence on people's views of life and sense of values.

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文営環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、既存の宗教への理解を深めていく。

【到達目標】

宗教の基本を客観的に学んで、「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

教室定員にたいする受講者人数を把握するため、初回授業は Zoom で行う。アドレスは学習支援システムで連絡する。人数が多い場合は抽選を行う可能性もあるので、初回は必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今学期の授業の概要の説明	宗教を学ぶことの意義を中心に説明
第 2 回	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する
第 3 回	宗教形態の基本的な問題	一神教と多神教など
第 4 回	世界の主要宗教を概観する (1)	ユダヤ教
第 5 回	世界の主要宗教を概観する (2)	キリスト教
第 6 回	世界の主要宗教を概観する (3)	イスラム教
第 7 回	世界の主要宗教を概観する (4)	仏教
第 8 回	日本の宗教観 (1)	神道と仏教
第 9 回	日本の宗教観 (2)	無宗教と現代
第 10 回	宗教現象の分析 (1)	神とカミガミ
第 11 回	宗教現象の分析 (2)	祈り
第 12 回	宗教現象の分析 (3)	祭礼
第 13 回	宗教現象の分析 (4)	現代の問題
第 14 回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容やディスカッションへの参加状況、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline and objectives】

We will acquire an overview on the genesis and forms of religions and deepen our understanding of existing religions.

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

文営環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

【到達目標】

宗教に対する基本的な見方を学び、さらに世界の歴史に眼を向け、宗教現象を広い視点で捉えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	今学期の授業の概要の 説明	宗教論とは何か
第2回	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など
第3回	宗教現象の基本的な見 方	聖と俗など
第4回	聖なることば(1)	祈りを中心に
第5回	聖なることば(2)	神話を中心に
第6回	宗教的世界観(3)	聖なる空間および他界について
第7回	聖なる行為(1)	儀礼とは何か
第8回	聖なる行為(2)	通過儀礼が意味するもの
第9回	聖なる行為(3)	祝祭とは何か
第10回	理性と宗教(1)	宗教・呪術・科学
第11回	理性と宗教(2)	呪術と宗教
第12回	理性と宗教(3)	西洋占星術の起源から近代天文学 の誕生へ
第13回	理性と宗教(4)	近代科学革命のなかで
第14回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末試験が50%。前者はリアクションペーパーの内容やディスカッションへの参加状況、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline and objectives】

We will learn about major religious phenomena, mainly focusing on the relationship between God (or gods) and human beings. We will also consider the role religion played in the history from ancient to modern.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文営国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術の意味」を学ぶ。具体的には、芸術作品のイメージと概念を通じて、芸術を理解していくことが目的である。

【到達目標】

授業の目的でも述べた通り、「芸術の意味」を問い、芸術を理解することが目標である。そして具体的には、実際の作品や映像を見ながら、芸術作品について語れるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

私の作ったテキストと映像を用いて授業を行う。また質問等に対するフィードバックは授業時間内に、リアクションペーパーは次回授業の最初にフィードバックを行う。

なお、春学期は、コロナウイルスの影響により、学習支援システムにてオンデマンド授業を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の予定、勉強の仕方と評価の方法。 芸術は教育の基礎であるという理念について。
第 2 回	芸術の基礎知識 1	芸術の定義、美感、美の定義、芸術と美の区別。
第 3 回	芸術の基礎知識 2	直観としての芸術、古典的芸術、画一的でない芸術、芸術と美学。
第 4 回	芸術の基礎知識 3	形態と表現、黄金分割、幾何学的調和の限界、歪曲。
第 5 回	芸術の基礎知識 4	パターン、個人的要素、パターンの定義、形態の定義。
第 6 回	芸術の基礎知識 5	絵を見るとき何が起るか。感情移入、感傷、形態の必要。
第 7 回	芸術の基礎知識 6	内容、内容のない芸術、抽象芸術、人間主義の芸術・肖像画、心理的価値。
第 8 回	芸術の基礎知識 7	芸術作品の諸要素、線、調子、色彩、形態、統一、構造上の素因。
第 9 回	芸術史 1	原始芸術、有機的芸術と幾何学的芸術。
第 10 回	芸術史 2	芸術と宗教、芸術とヒューマニズム、エジプト芸術。
第 11 回	芸術史 3	先コロンビア芸術、中国芸術、ベルシア芸術、ビザンティン芸術、ケルト芸術。
第 12 回	芸術史 4	キリスト教芸術、ゴシック芸術。
第 13 回	芸術史 5	リアリズム、自然主義、バロック芸術、ロココ芸術、芸術と自然。
第 14 回	芸術史 6	印象派、象徴主義、表現主義、シュルレアリスム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけては、展覧会、演劇、コンサートなどに足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

私の作ったテキストを学習支援システムにて提供する。

【参考書】

ゴンブリッチ『美術の物語』（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

対面授業は、平常点（40 %）と到達目標に関する記述試験（60 %）で総合 100 点満点で評価し、60 点以上が合格となる。

なお春学期は、学習支援システムでのオンデマンド授業を予定しているため、その場合、授業の中での 3 回の課題提出を総合して 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

You learn the meaning of art. The objective of this class is to understand the art through the images and the terms of art works.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文営国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術の意味」を学ぶ。具体的には芸術作品のイメージと概念を通じて、芸術を理解していくことが目的である。

【到達目標】

授業の目的でも述べた通り、「芸術の意味」を問い、実際に芸術を理解することが目標である。さらに具体的には、作品やその映像を見ながら、芸術について語れるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

わたしが作ったテキストを使用し、映像を用いながら、授業を行う。質問などのフィードバックは授業時間内に、リアクションペーパーは次回授業の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 生命力のイメージ	授業について：勉強の仕方と成績評価。
第 2 回	美の発見	洞窟壁画について。 コンポジションの法則：ハーモニー、プロポーション、シンメトリー、セレンティ。
第 3 回	未知なるものの象徴	呪術と宗教。空間感情。初期キリスト教芸術。
第 4 回	理想としての人間	表現主義と理想主義。 天国の美と地上の美。
第 5 回	現実の錯覚 1	感情の形。真の意識と偽の意識。 真正直の意識が芸術の基礎。
第 6 回	現実の錯覚 2	リアル・プレゼンス。芸術の目的、主観のリアリティ。
第 7 回	自己の境界	自己の定義。芸術とは真の自己の無意識の漏洩か。
第 8 回	構成的イメージ	芸術の創造説。セザンヌの苦悩。 キュビズムと構成主義。
第 9 回	社会における芸術の機能	「アート」の曖昧さ。芸術の貴族的価値と革命的価値、そして民主主義の理想。
第 10 回	合理的社会と非合理的芸術	愛と苦しみの非合理的芸術。芸術の衰退化。芸術の合理性は可能か。
第 11 回	絵画の限界	西欧絵画に欠けている「気韻生動」の概念。オートマティズムとアクション・ペインティング。イメージの曖昧さ。
第 12 回	様式と表現 1	スタイルの起源。個人の様式から非個人の様式へ。表現主義の謬見。
第 13 回	様式と表現 2	感情の秩序。よき形態と様式。

第 14 回 期末試験

芸術の意味に関する諸問題の整理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけては、展覧会、演劇、コンサートに足を運んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

わたしの作ったテキストを配布する。

【参考書】

ゴンブリッチ『美術の物語』（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と到達目標に関する記述試験（60%）で総合 100 点満点で評価し、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

You learn the meaning of art. The objective of this subject is to understand the art through the images and conceptions of art works.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の芸術や美術史を時代背景とともに概観する。その際、哲学思想や社会学、文化人類学などの関連する学問領域の議論も参照する。それは、同時代を表象する芸術と社会の関係性を考察する力を養うことでもある。

【到達目標】

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。それは、この先行きの見えない同時代に対する視点を獲得することでもある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か？	本授業において、どのようなものあるいはことを「芸術」と呼ぶかについて。
2	芸術の規則	過去 200 年のアートの歩みを振り返り、芸術は時代とともにどのように変容してきたのかを概観する。
3	絵画の歩み	ギュスターヴ・クールベやエドゥアール・マネなど、絵画の可能性を切り開いた芸術および思考について。
4	眼から頭脳へ	マルセル・デュシャンとコンセプチュアル・アートについて考える。
5	複製技術と芸術の地殻変動	写真術の誕生とそれがアートに与えた衝撃について考える。
6	写真の存在論	写真が芸術になるとき、それは世界の何を切り取って伝えているのかについて考える。
7	彫刻とインスタレーション	彫刻の歩みについて、19 世紀末フランスのオーギュスト・ロダンから眺める。
8	映像の誕生	19 世紀末フランスのリュミエール兄弟やアメリカのエジソンが発明した映像とそれが開く文化について考える。
9	スペクタクルの社会と映像	テレビジョンやインターネットの到来と映像作品の関係を考える。

10	パフォーマンスとアート	生身の体を表現の媒体とするパフォーマンスを時代や社会背景の関係において考える。
11	大正デモクラシーと太平洋戦争期の芸術	自由の実践と権力への抵抗のかたちについて考える。
12	日本戦後の前衛芸術の歩み	「反芸術」と言われた戦後日本の前衛芸術運動を紹介しながら、現代の日本のアートと時代の間を考察する。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出。
14	多様化する現代の芸術	絵画や彫刻、写真、インスタレーション、映像、デジタルテクノロジー、またそれらの組み合わせで成立する現代の芸術について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実物を見学する。不定期に課される小レポートを提出し、学習の到達点を講師に伝える。また、授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。授業内試験 80%、小レポート 20%で評価する。芸術や美術史を知識として身につけているだけではなく、それが作られたり議論されたりした時代との関係で捉えられているかどうかを問う。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture series is to understand a basic history of art from the early 19th century to the late 20th century. Referring to related academic studies in philosophy, sociology or anthropology, students are encouraged to grasp artworks in relation to various social conditions in different eras.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義と芸術の関係について、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館の民営化などをとおして考察する。

【到達目標】

政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方を多角的に考察する。時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代アートのあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界と芸術のこれからの探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アート界とアートの関係について（オリエンテーション）	アートをアートとして成り立たせる制度との関係で考える。
2	アート界の仕組み	現代アートを動かしているアート界の仕組みと運動について概説する。
3	美術館と展覧会の歴史	時代や社会背景とともにあり方が変わる美術館の今と、時代や社会を鋭い視点で表した展覧会を紹介する。
4	グローバリゼーションと多文化主義	1980 年代後半以降の展覧会と表象文化における議論を紹介する。
5	国際展の時代	ヴェネチア・ビエンナーレほか、1990 年代以降加速的に増加した国際展とその社会的機能について考察する。
6	「他者」とは誰か？ 1	大地の魔術師たち展やドクメンタ 11（2002）などをとおして、他者の表象の移り変わりについて考える。
7	「他者」とは誰か？ 2	近年のトランスナショナルなアートとアーティストについて紹介し、グローバリゼーションの影を問う。
8	ドクメンタ 14 から見える世界	新自由主義が生み出してきた非対称な世界とドクメンタ 14（2017）について考える。

9	地域社会と芸術祭	2000 年代以降、全国各地で開催されるようになっていく芸術祭について、地域の特性と展示内容の関係を考える。
10	アーティスト・イン・レジデンスと地域社会	アーカスプロジェクトの実践をとおして、先鋭的な現代アートと地域社会を結ぶ回路作りを考える。
11	2021 年の同時代性 1	人新世に関する議論を紹介し、エコロジーとアートの関係を考察する。
12	2021 年の同時代性 2	戦争や疫病、災害などのカタストロフとアートの関係を考察する。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出。
14	2021 年以降の芸術を考える	まとめと来るべき時代とますます多様になる芸術表現について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実物を見学する。不定期に課される小レポートを提出し、学習の到達点を講師に伝える。また、授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典

<http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。授業内試験 80%、小レポート 20% で評価する。1990 年代以降の芸術の実践を同時代との関係において捉えているかを問う。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture series is to understand diverse aspects of contemporary art in the era of globalization. Students are encouraged to grasp art practices after 1990's in relation to the current social, political and economic conditions in the era of Neoliberalism.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第 3 回	風景画の成立	特に風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第 4 回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第 5 回	バロック・ロココ美術	バロック、ロココ美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第 6 回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第 7 回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第 8 回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。
第 9 回	世紀末から 20 世紀	世紀末から第一次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。

第 10 回	彫刻	西洋の彫刻について、ロダン及びロダン以降の近代彫刻を中心に概説する。
第 11 回	万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。
第 12 回	ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。
第 13 回	欧米の美術館	欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する。
第 14 回	まとめ	授業を通しての総括を実施する。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポート、残りの半分程度を授業外での作品鑑賞などにあてるのが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）；50%

課題レポート；50%

課題レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

【学生の意見等からの気づき】

歴史的な内容について、一昨年よりも厚い内容となっています。

【Outline and objectives】

In this class, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history after the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる。
第 3 回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する。
第 4 回	洋風画から洋画へ	洋画の影響や洋風画の流行、および明治初期の洋画の成立に関して、作品を取り上げつつ概説する。
第 5 回	明治・大正期の日本の洋画	西洋絵画技法の導入により成立した明治・大正期の洋画について、その成立過程と初期の作品を解説する。
第 6 回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の需要を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第 7 回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第 8 回	仏展・日仏芸術社	初期の西洋美術品流入におけるトピックとして、仏蘭西現代美術展およびその運営母体の日仏芸術社を取り上げる。

- 第 9 回 黎明期の日本の美術館 日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立への運動を中心に解説する。また、黎明期の美術館として東京府美術館の設立過程を中心に解説する。
- 第 10 回 美術館の役割（展示・作品収集） 美術館の役割を規定した法律、及び美術館における展示と作品収集について解説する。
- 第 11 回 美術館の役割（保存修復） 美術館の役割の 1 つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する。
- 第 12 回 美術館の役割（調査研究・教育普及） 調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する。
- 第 13 回 美術館の外の美術 パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。
- 第 14 回 まとめ 授業を通しての総括を行う。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポート、残りの半分程度を授業外での作品鑑賞などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業レポート）：50%

課題レポート：50%

課題レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

【学生の意見等からの気づき】

第 2 回から第 5 回の歴史を主に扱う講義に関して、時代が入り組んでいてわかりにくかったという意見がありましたので、一部順番を入れ替えています。

【Outline and objectives】

In this class, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The establishment process and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基礎を身につけ、日本国憲法の基本原則を理解し、法律との関連を理解することを目的とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。レジュメは学習支援システムで配布する。学生は講義を受講し、テキストを読み、学習支援システムで提示された小テストにとりくむ。小テストは受付終了時に自動採点によってフィードバックされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義
第 2 回	法とは何か	法の特徴と働き、法の学び方
第 3 回	法の仕組み	法源、成文法の分類
第 4 回	憲法 1（憲法の基礎）	日本国憲法の基本
第 5 回	憲法 2（国の統治機構 1）	三権分立、国会
第 6 回	憲法 3（国の統治機構 2）	裁判所、地方自治
第 7 回	憲法 4（人権①平等）	人権の保障の基礎、平等権を学ぶ
第 8 回	憲法 5（人権②精神的自由権）	精神的自由権を学ぶ
第 9 回	憲法 6（人権③経済的自由権）	経済的自由権を学ぶ
第 10 回	憲法 7（人権④人身の自由）	人身の自由を学ぶ
第 11 回	憲法 8（人権⑤生存権）	生存権、教育権を学ぶ
第 12 回	憲法 9（人権⑥社会権）	勤労権、労働基本権を学ぶ

第 13 回 裁判の仕組みを学ぶ

裁判の意義と機能を学ぶ

第 14 回 授業内試験と解説

筆記試験の実施、解説・講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を事前の予習する。毎回の授業の後には判例百選等を用いて、扱った裁判例を復習する。学習支援システムで宿題を提出する。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学』（第 7 版）（成文堂、2019 年）2900 円＋税

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに実施する小テスト及びレポート課題 45 %、期末試験 55 % を総合して評価する。

オンラインでの授業の実施の場合には、成績評価の方法と基準を変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、開講時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業で図書館の理由が困難だったことから、参考文献について図書館の電子書籍の利用を呼びかけた。

【学生が準備すべき機器他】

事前に学習支援システムで配布した資料をプリントアウトして手元におくこと。

【Outline and objectives】

It aims to acquire the foundation of law, to understand the basic principles of the Japanese Constitution, and to understand the relationship with the law.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の基礎を身につける。民法、刑法、商法、労働法、社会保障法、医療法、情報法、国際法等の基礎を理解することを目的とする。

【到達目標】

学生が大学生として最低限必要な法に関する知識を身につけ、法的思考力（リーガルマインド）をつけていることを到達目標とする。民法、刑法、労働法、社会保障法、医療法、情報法、国際法等に関する課題を発見し、学説や判例を引いて、課題に関する自分の意見を論理的に述べるができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Zoom によるオンライン授業は講義形式で、パワーポイントを用いて行う。毎回、授業後に小テストを実施する。学習支援システムで提示された小テストにとりくむ。小テストは受付終了時に自動採点によってフィードバックされる。法改正動向によって授業計画が変更されることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財産と法 1	財産法の構造、債権法の基礎
2	財産と法 2	物権、法律行為の主体
3	経済取引と法 1	消費者契約法、消費者被害と法
4	経済取引と法 2	企業と法、経済と法
5	家族と法 1	家族法総論、夫婦と法
6	家族と法 2	親子と法、相続
7	犯罪と法	刑法の機能と基本原則
8	労働と法	労働基準法、労働基本権
9	事故と法	不法行為責任、被害者救済
10	社会保障と社会福祉	社会保障法、社会福祉制度
11	医療と法	医療訴訟、生命を巡る法律問題
12	情報化社会と法	情報の保護と法、アクセス権
13	国際社会と法	国際社会と国際法
14	試験とまとめ	授業内試験の実施と解説、講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に指定テキストの第 11 章から 20 章を通読しておくこと。毎回講義前にテキストの該当する箇所を通読し、レジュメをプリントアウトして予習し、疑問点をノートに書き出しておくこと。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学（第 7 版）』成文堂、2019 年、2900 円＋税

【参考書】

講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後の小テスト（45%）と学期末の試験（55%）を総合して評価する。試験は設問に対し、法律条文を解釈し、学説や判例を引用したうえで自分の意見を論理的に述べるができるかを評価基準とする。最終レポートを提出しない者には単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業を視聴し、小テストを受験すること。小テストは時間制限がある場合があるので、復習をしてから取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで事前にレジュメを配布するので、各自、プリントアウトして手元に用意すること。

【Outline and objectives】

It aims to acquire the foundation of civil law, criminal law, commercial law, labor law, social security law, medical law, information law, international law.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法 1 年 I～N・Y、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施に必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。春学期の「法学Ⅰ」では、主に法全体の仕組みや体系に関わる内容を取り上げ、法とはどういうもので、いかなる構造でできているかの理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割

第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権

第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）
伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

法 1 年 I～N・Y、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。秋学期の「法学Ⅱ」では、刑法、民法、労働法及び国際法の基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念の理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基礎 1	権利能力と行為能力

第 5 回	民法の基本原則 1 - (1)	契約自由の原則
第 6 回	民法の基本原則 1 - (2)	契約の成立と効力
第 7 回	民法の基本原則 2 - (1)	不法行為と損害賠償
第 8 回	民法の基本原則 2 - (2)	過失責任の原則とその修正
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）

伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は講義進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 Y、文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

（はじめに）この「法学 I」の授業は、対面授業を基本とした「ハイブリッド型」〈対面授業とオンライン授業の組み合わせ〉で進める予定です。なお、今後新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等の影響により、授業形態に変更があることも予想されますので、大学からのお知らせその他にご注意ください。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムは、いま大きく変貌しようとしており（第 3 の法制改革）、昨年 2020 年 4 月には、世界的なコロナ禍のなかで、制定以来 120 年ぶりの民法・債権法改正が行われました。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、時事的なテーマもとりあげながら授業を進めます。

また、授業時に、リアクションペーパー（対面授業）や課題レポート（主にオンライン授業）を提出してもらうことがありますが、次の授業時にそれらで取り上げられた事項についての講評を加え、場合によってはディスカッション、ディベートにつなげて考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
3	法と権利	権利義務関係
4	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
5	法の解釈	法解釈の性質と役割
6	法の分類	法をどう分類するか
7	国家と法	立憲主義と「法の支配」
8	明治憲法と日本国憲法	近代日本のふたつの法体系

9	日本国憲法の基本原理	国民主権 1
10	日本国憲法の基本原理	平和主義 2
11	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは 3（1）
12	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成 3（2）
13	統治機構 1	国会と内閣
14	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②また、下記の「参考書」欄に挙げた書物などを参考にして、関心ある文献の一部または全部を読んでおくこと、が大切だと思います。

また講義後の復習としては、①テキスト（教科書）や配布したプリントを見直すこと、②講義のなかでとりあげた文献や、教科書、プリントにでていた条文や判例にあたっておくことが大切です。

なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、世界的なコロナ禍がつづく現代の社会生活を支える「政治」、「経済」、「法」という 3 つの領域全体の動向に目を配るようにすることです。はじめはすこしいへんかかもしれませんが是非がんばってください。

【テキスト（教科書）】

「日本の法（第二版）」緒方桂子ほか編（日本評論社、2020 年刊）1,980 円（税込み）

【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）
「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）
「憲法入門 5 訂版」樋口陽一（勁草書房）
「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）
「市民社会と市民法——civil の思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業中のレポートなど（30%）の割合で評価する予定です。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）に取り組むよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。

内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law for the students who study law for the first time. It covers major key concepts in Japanese legal system, and provides a brief explanation of the principles of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法1年Y、文1年A～I / 法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中で法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(はじめに) この「法学Ⅱ」の授業は、対面授業を基本とした「ハイブリッド型」〈対面授業とオンライン授業の組み合わせ〉で進める予定です。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等の影響により、授業形態に変更がある場合もありますので、大学からのお知らせその他にご注意ください。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法(1947年施行)を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外の政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしています(第3の法制改革)。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、刑法、民法、労働法、そして国際法にかかわるテーマをとりあげます。

また、授業時に、リアクションペーパー(対面授業)や課題レポート(主にオンライン授業)を提出してもらうことがありますが、次の授業時にそれらで取り上げられた事項についての講評を加え、場合によってはディスカッション、ディベートにつなげたいと思っています。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
2	犯罪と刑罰1	罪刑法定主義とは何か
3	犯罪と刑罰2	犯罪の成立
4	権利能力と行為能力	近代市民法における個人とは
5	契約自由の原則	契約自由の原則はなぜ大切なのか
6	契約の成立と効力	消費者契約、労働契約を中心に
7	不法行為と損害賠償	不法行為責任とは
8	過失責任の原則	過失責任と無過失責任

9	家族関係と法1	夫婦と親子
10	家族関係と法2	扶養と相続
11	労働関係と法1	労働法の理念と体系
12	労働関係と法2	労働法の具体的な内容
13	国際関係と法1	主権と領土
14	国際関係と法2	国際法と国内法

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②また、下記の「参考書」欄に挙げた書物などを参考にして、関心ある文献の一部または全部を読んでおくこと、が大切だと思います。また講義後の復習としては、①テキスト(教科書)や配布したプリントを見直すこと、②講義のなかでとりあげた文献や、教科書、プリントにでていた条文や判例にあたっておくことが大切です。なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律(学)に限定せず、現代の社会生活を支える「政治」、「経済」、「法」という3つの領域全体の動向に目を配るということです。はじめはすこしいへんかもしれませんが是非がんばってください。

【テキスト(教科書)】

「日本の法(第二版)」緒方桂子ほか編(日本評論社、2020年刊)1,980円(税込み)をテキスト(教科書)として利用します。またテーマによっては参考資料、プリントを追加します。

【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編(日本評論社)
「法の世界へ(第7版)」池田真朗ほか(有斐閣)
「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三(岩波書店)
「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴(筑摩書房)
「市民社会と市民法——civilの思想と制度」水林彪、吉田克己編(日本評論社)

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)、授業中のレポートなど(30%)の割合で評価する予定です。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習(図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など)に取り組むよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。気になることがあったら気軽に指摘してください。力をあわせてよい授業にしていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law for the students who study law for the first time. The course will give you a comprehensive introduction of the modern Japanese laws : such as Criminal Law, Civil Law, Labor Law, and International Law.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 L~X / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施に必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。春学期の「法学Ⅰ」では、主に法全体の仕組みや体系に関わる内容を取り上げ、法とはどういうもので、いかなる構造でできているかの理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割

第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権

第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）
伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

文 1 年 L~X / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。秋学期の「法学Ⅱ」では、刑法、民法、労働法及び国際法の基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念の理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基礎 1	権利能力と行為能力

第 5 回	民法の基本原則 1 - (1)	契約自由の原則
第 6 回	民法の基本原則 1 - (2)	契約の成立と効力
第 7 回	民法の基本原則 2 - (1)	不法行為と損害賠償
第 8 回	民法の基本原則 2 - (2)	過失責任の原則とその修正
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）
伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は講義進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 E~J / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施に必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。春学期の「法学Ⅰ」では、主に法全体の仕組みや体系に関わる内容を取り上げ、法とはどういうもので、いかなる構造でできているかの理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割

第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権

1		
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義
2		
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的的人権とは
3- (1)		
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
3- (2)		
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）

伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 E~J / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの理解がねらいである。単に用語や概念を「覚える」だけでなく、それに伴う論理や筋道を整理して理解すること、論点・問題点を考えることを重点とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行いつつ、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しながら行う。対面・オンライン・オンデマンドのいずれの場合も、授業の中でコメントや小論文等の課題を出すことがある。それに対しては、課題の中の重要論点の解説を授業の中で行ったり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。

内容的には、法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行う（ので受講者はこの両方を履修することが望ましい）。秋学期の「法学Ⅱ」では、刑法、民法、労働法及び国際法の基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念の理解を図る。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基礎 1	権利能力と行為能力

第 5 回	民法の基本原則 1 - (1)	契約自由の原則
第 6 回	民法の基本原則 1 - (2)	契約の成立と効力
第 7 回	民法の基本原則 2 - (1)	不法行為と損害賠償
第 8 回	民法の基本原則 2 - (2)	過失責任の原則とその修正
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門』（新世社、2012 年）
伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
六法（小さなもの）を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでも、自分が見やすいと思うものでよい。

【参考書】

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況などにより、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合もある。併せて、授業内でコメント提出を実施した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は講義進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、国際法に関して、条約の締結や EU 法についても学ぶ。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、外出自粛が求められる中、現時点では ZOOM によるオンライン講義となります。

レジュメと教科書を用いて、ZOOM による講義を行い、確認となる課題（小テスト・レポート）を提出するという形式で授業を進めてきます。これらの課題については、次の授業の冒頭において、復習事項として確認を行います。

教科書と六法を使用しますので準備をお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
2	契約をすることと生活	生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
3	契約と権利義務	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。
4	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について
5	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
6	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について
7	不法行為（1）	他人によって自分の権利を侵害された場合について

8	不法行為（2）	典型的な不法行為とその解決
9	憲法とは	憲法は何のためにあり、何を守るものか。
10	憲法と私人	憲法は何を保障するか。憲法が保障する基本的人権について
11	憲法と統治機構	なぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
12	裁判制度	権力の一つである裁判制度を概観する
13	冤罪と司法改革	冤罪を防ぐためにどのような手法がとられているか
14	まとめ	春学期の重要な点について再度、検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田・犬伏・野川・大塚『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）

なお、版が改訂される場合があるが、講義では最新版のものを使用するので、版の改訂を確認の上購入すること。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

田中淳子・大野正博編『法学入門』（成文堂、2015 年）

末川博編『法学入門〔第 6 版〕』（有斐閣双書、2009 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年） など

【成績評価の方法と基準】

記号選択問題によっておこなう期末試験の成績（80 %）、これに、授業内で行った小テスト・レポート（20 %）で評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A + とする。

【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

板書は楷書でおこない、パワーポイントを利用する。

【Outline and objectives】

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会には多くない。本講義では、働くこととかわる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっている EU の仕組みなどを通じて、国際的な法律関係、とくに EU 法を素材として、人権や平等、労働法上の規制等についても知識を深めることを目的とする。

【到達目標】

発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。

これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。

EU などの国際法的な関係についても、労働という視点から EU 指令、EU 裁判所制度、EU の社会保障制度などについても法的な理解を深める。

上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナ感染症対策が求められている現状においては、ZOOMを使用したオンライン講義を行うようである。レジュメ、パワーポイントを用いた講義形式で授業を進める。授業ごとに、フィードバック課題として、確認テストあるいはレポートの提出を求める予定である。これらのフィードバック課題については、次の授業冒頭において復習事項として、再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業
2	アルバイトを決める時に確認すること	労働契約を結び働く場合の法律関係について
3	働く場合の法律 労働時間・賃金	労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金
4	働く場合の法律 休む	休憩・休息時間・休日・休暇について
5	仕事を辞める労働契約の終了について	採用内定の取り消し・解雇
6	働く場合の法律	最近の問題
7	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化
8	安全に働く	労働災害・過労死について知る
9	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題

10	国と国の関係と働くこと	グローバル化の中で労働はどのように変わってきているのか
11	EU 諸国と働くこと	EU 市民と EU 加盟国はどのような関係にあるのか
12	EU の制度概略	EU 指令の制度、EU 加盟国の立法権、EU 裁判所の制度
13	EU と人権	EU において人権や働く権利、私生活はどのように保障されているのか。
14	働くことと法	働く状況が大きく変わる中で、どのような法が求められるのだろうか検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）（改訂版が出た場合は最新のものとすること）
このほか今年度版の六法を用意すること。
六法については初回の授業で詳しく紹介します。

【参考書】

伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第 7 版〕』（有斐閣アルマ、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80 %）、これに、授業内で行った小テスト（20 %）で評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A + とする。

【学生の意見等からの気づき】

EU やフランス法との比較法的な検討について、関心が高かったので今後もそのような比較法的な視点からの講義を増やすこととしたい。

また、コロナ感染症対策における雇用政策や公衆衛生法についても関心が高かったので、時事的な問題や直ちに影響を受ける政策について情報を提供するように心がけた。

【Outline and objectives】

Even if you work as a regular employee, even students, there are close relationships between labor and law, such as when working part-time. However, there are not many opportunities to learn about law and labor in the age of students. In this lecture, we will consider the problems of labor and law related to students. Specifically, employment offer and cancellation, premium wage for overtime work, paid vacation, occupational accidents. Next, consider important issues such as wages, working hours, relocation, and dismissal. Also consider the Constitution related to labor. It aims to deepen knowledge about international legal relations through freedom of movement of workers in the EU, regulations on labor by EU directive, and so on.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

法1年A～H / 法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法の意義や種類といった法学全体に関わる一般的・包括的な知識と、裁判の種類や裁判手続といった裁判制度に関する知識を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかを理解する。
- ③裁判制度、裁判手続、裁判所の組織について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド形式で実施する。受講者は学習支援システムを通じて配布されるプリントとその解説動画を視聴しながら自己学習を行い、疑問点があれば学習支援システム上に設けられた授業内掲示板を通じて質問をする。質問に対するフィードバックも学習支援システムを介して行う。なお、本授業では、秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第2回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第3回	法の分類	法の種類と体系
第4回	権利と義務	権利と義務の種類、権利の主体
第5回	裁判制度①：裁判の役割	裁判の意義と機能
第6回	裁判制度②：裁判の種類	裁判の種類と特徴、裁判の当事者、訴訟手続
第7回	裁判制度③：裁判上の基本原則	裁判公開の原則、当事者主義
第8回	法の解釈	法解釈の方法、法解釈の基準
第9回	法の歴史	大陸法と英米法
第10回	日本法の歴史①：近代以前	近代以前の日本法の特徴
第11回	日本法の歴史②：近代法の継受	近代憲法と近代民法の継受
第12回	日本法の歴史③：現代法の発展	社会法・経済法等の発展
第13回	法の根拠	自然法の意義、法実証主義による自然法批判
第14回	法の効力	法の効力の種類、法適用の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

末川博（編）『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に学習支援システムを用いて実施するオンラインテストの点数で成績を評価する（100％）。

なお、学期途中にオンライン上で小テストを実施することがあり、その場合は小テストと期末テストの点数を合わせて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけではなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験に基づいて、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れる。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the foundation of legal studies. The content of the lecture consists of general knowledge related to legal science and the judicial system.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2単位

法1年A～H / 法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容には、民法、消費者法、労働法、刑法等の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②民法、消費者法、経済法、労働法、刑法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ③法的なものの考え方（いわゆる「リーガルマインド」）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド形式で実施する。受講者は学習支援システムを通じて配布されるプリントとその解説動画を視聴しながら自己学習を行い、疑問点があれば学習支援システム上に設けられた授業内掲示板を通じて質問をする。質問に対するフィードバックも学習支援システムを介して行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。授業計画は以下の予定だが、授業の進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	近代法と現代法	近代法の基本原則と現代法による修正について学ぶ。
第3回	民法①：民法の基礎	民法の構造、権利と義務の種類、権利の主体等について学ぶ。
第4回	民法②：契約法	契約法の基礎的知識について学ぶ。
第5回	民法③：不法行為法	不法行為法の基礎的知識について学ぶ。
第6回	民法④：物権法	物権法の基礎的知識について学ぶ。
第7回	民法⑤：家族法・相続法	家族法・相続法の基礎的知識について学ぶ。
第8回	消費者法	消費者法の基礎的知識について学ぶ。
第9回	経済法	経済法の基礎的知識について学ぶ。
第10回	労働法	労働法の基礎的知識について学ぶ。
第11回	憲法	憲法の基礎的知識について学ぶ。
第12回	刑法	刑法の基礎的知識について学ぶ。
第13回	社会保障法	社会保障法の基礎知識について学ぶ。
第14回	国際法	国際法の基礎知識について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

末川博（編）『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に学習支援システムを用いて実施するオンラインテストの点数で成績を評価する（100％）。

なお、学期途中にオンライン上で小テストを実施することがあり、その場合は小テストと期末テストの点数を合わせて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけではなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れていく。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to give lectures on the foundation of jurisprudence, mainly for beginners of law. The contents of lecture contain basic knowledge of civil law, consumer law, labor law, criminal law and international law.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者に対して、法の成立や国家の統治構造の基礎、具体的な紛争の解決方法について講義を実施する。

講義前半（第 1 回～第 7 回）はオンデマンド型の講義として、資料をウェブシステム上にアップする。受講生は都合の良い時間に資料にアクセスし、指定された期日（第 8 回講義の前日）までに課題を提出する（課題提出方法については、ウェブシステムを通じて通知）。オンデマンド型の講義では、法や国家の成立、統治構造の基礎を学ぶ。

講義後半（第 8～第 14 回）は対面型講義とする。前半で学んだ知見を基にして、法的紛争に関する各個別の事例を学ぶ。

法学 I では、法的視点から紛争を解決する方法を身に付けることを目的とする。また、日々のニュースについて、報道を鵜呑みにせず、多角的な視点から物事を考えることができる視点の獲得を目指す。

【到達目標】

法学 I の具体的な学習目標は以下の通りである。

①何故、法が社会に必要とされるのかを理解できるようになること。

②国家の成立過程を理解し、国家の役割が何かを理解できるようになること。

③法的紛争の解決において、相対する紛争当事者の双方の主張を読みとり、どちらの主張が妥当であるのかを判断する際に、論理的思考ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義前半（第 1 回～第 7 回）はオンデマンド型とし、受講生は資料にアクセスして、課題をこなす。講義後半（第 8 回～第 14 回）は対面型とし、前半に取得した基礎知識を基にして、具体的な法的紛争の事例を学ぶ。

提出された課題については、講義中に模範解答を示し、レポート全体の傾向を講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法とは何か（オンデマンド型）	社会規範としての法の特徴と役割を学ぶ。
2	国家の成立（オンデマンド型）	国家が存在しない状態を理解し、国家権力の存在意義を学ぶ。
3	国家の役割①（オンデマンド型）	国家により策定された法制度が国民意識の醸成や秩序の維持などどのように役立つのかを学ぶ。
4	国家の役割②（オンデマンド型）	国家の役割が法を通じて人々の権利自由を保護するところにあることを学ぶ。
5	法による国家権力の統制（オンデマンド型）	国家権力が強力である必要とそれを法に縛る必要性を学ぶ。

6	立憲主義（オンデマンド型）	立憲主義に関する基礎的な知識を学ぶ。
7	統治構造の基礎（オンデマンド型）	権力分立が人権保障に果たす役割について学ぶ。
8	憲法の基本原理①（対面型）	国民主権の基礎知識について学ぶ。
9	憲法の基本原理②（対面型）	基本的人権の尊重の基礎知識について学ぶ。
10	統治の仕組み①（対面型）	法の策定機関である国会と法の執行機関である内閣に関する基礎知識を学ぶ。
11	統治の仕組み②（対面型）	法を解釈する機関である裁判所に関する基礎知識を学ぶ。
12	法の策定と統治機構（対面型）	主要な統治機関（国会、内閣、裁判所）が法とどのように関わっているのかを学ぶ。
13	社会変動と法（対面型）	社会の変化に法が如何に対応すべきかを学ぶ。
14	グローバル化と法（対面型）	グローバル化による法規制の緩和が人々にもたらした影響を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。参考文献は講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、2 つの課題によって評価する。内訳は講義前半（オンデマンド型講義）の課題（50 %）と講義後半（対面講義）の課題（50 %）である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義に関する質問は講義の前後に受け付ける。

または、ウェブシステムを通じての質問も随時受け付ける。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to give lectures to beginners in law about the enactment of law, the basics of the governing structure of the state, and specific methods of resolving disputes.

The first half of this lecture (1st to 7th) will be an on-demand type lecture. The wide range of this lecture (8th to 14th) will be a face-to-face lecture.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者に対して、法の基礎知識を教授し、それが具体的に法的紛争の解決に如何に用いられるのかを学ぶ。

講義前半（第 1 回～第 7 回）はオンデマンド型の講義として、資料をウェブシステム上にアップする。受講生は都合の良い時間に資料にアクセスし、指定された期日（第 8 回講義の前日）までに課題を提出する（課題提出方法については、ウェブシステムを通じて通知）。オンデマンド型の講義では、法的紛争解決に必要な基礎知識を学ぶ。講義後半（第 8～第 14 回）は対面型講義とする。前半で学んだ知見を基にして、法的紛争に関する各個別の事例を学ぶ。

法学Ⅰでは、法的視点から紛争を解決する方法を身に付けることを目的とする。また、日々のニュースについて、報道を鵜呑みにせず多角的な視点から物事を考えることができる視点の獲得を目指す。

【到達目標】

本講義の具体的な到達目標は以下の通りである。

- ①法学に関する基礎知識を獲得する。
- ②法的紛争の解決に必要な知見を獲得する。
- ③法的視点に基づく論理的思考（自らの主張を説得的に展開するために必要な思考）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義前半（第 1 回～第 7 回）はオンデマンド型とし、受講生は資料にアクセスして、課題をこなす。講義後半（第 8 回～第 14 回）は対面型とし、前半に取得した基礎知識を基にして、具体的な法的紛争の事例を学ぶ。

提出された課題については、講義中に模範解答を示し、レポート全体の傾向を講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国家と権利の保障①（オンデマンド型）	国家による権利侵害と権利保障に関する基礎知識を学ぶ。
2	国家と権利の保障②（オンデマンド型）	国家による権利保障に関する基礎知識を学ぶ。
3	権利保障の特色（オンデマンド型）	人権の種類や権利の分類などについて学ぶ。
4	権利保障の限界（オンデマンド型）	権利保障が如何なる場合に制約されるのかを学ぶ。
5	社会の変動と権利保障①（オンデマンド型）	私人間における人権侵害の危険性について学ぶ。
6	社会の変動と権利保障②（オンデマンド型）	グローバル化推進による規制緩和（自由の追求）がもたらした権利自由の侵害について学ぶ。
7	社会の変動と権利保障③（オンデマンド型）	法によって明記されていない権利の保障について学ぶ。
8	平等原則（対面型）	平等に関する基礎知識を学ぶ。
9	性差別と法（対面型）	性差別に関する主要判例を学ぶ。

10	男女共同参画（対面型）	男女共同参画の法制度をめぐる功罪について学ぶ。
11	平等と逆差別（対面型）	アファーマティブアクションの是非を考える。
12	家族関係と法（対面型）	家族関係における別異取扱を婚外子の事例を挙げて学ぶ。
13	宗教と法（対面型）	信教の自由や政教分離原則の基礎知識を学ぶ。
14	経済活動の自由（対面型）	経済活動の自由の追求と国民生活の安全について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めめるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は 2 つの課題によって評価する。内訳は講義前半のオンデマンド型に関する課題（50%）と講義後半の対面講義で出題する課題（50%）である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度事業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講義の前後に質問を受け付ける。また、ウェブシステムを通じて、随時質問を受け付ける。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to teach beginners in law the basic knowledge of law and how it can be used specifically to resolve legal disputes.

The first half of this lecture (1st to 7th) will be an on-demand type lecture. The wide range of this lecture (8th to 14th) will be a face-to-face lecture.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中で法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（はじめに）この「法学 I」の授業は、対面授業を基本とした「ハイブリッド型」〈対面授業とオンライン授業の組み合わせ〉で進める予定です。なお、今後新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等の影響により、授業形態に変更があることも予想されますので、大学からのお知らせその他にご注意ください。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムは、いま大きく変貌しようとしており（第 3 の法制改革）、昨年 2020 年 4 月には、世界的なコロナ禍のなかで、制定以来 120 年ぶりの民法・債権法改正が行われました。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、時事的なテーマもとりあげながら授業を進めます。

また、授業時に、リアクションペーパー（対面授業）や課題レポート（主にオンライン授業）を提出してもらうことがありますが、次の授業時にそれらで取り上げられた事項についての講評を加え、場合によってはディスカッション、ディベートにつなげて考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
3	法と権利	権利義務関係
4	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
5	法の解釈	法解釈の性質と役割
6	法の分類	法をどう分類するか
7	国家と法	立憲主義と「法の支配」
8	明治憲法と日本国憲法	近代日本のふたつの法体系

9	日本国憲法の基本原理	国民主権
10	日本国憲法の基本原理	平和主義
11	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは
12	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
13	統治機構 1	国会と内閣
14	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②また、下記の「参考書」欄に挙げた書物などを参考にして、関心ある文献の一部または全部を読んでおくこと、が大切だと思います。

また講義後の復習としては、①テキスト（教科書）や配布したプリントを見直すこと、②講義のなかでとりあげた文献や、教科書、プリントにでていた条文や判例にあたっておくことが大切です。

なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律（学）に限定せず、世界的なコロナ禍がつづく現代の社会生活を支える「政治」、「経済」、「法」という 3 つの領域全体の動向に目を配るようにすることです。はじめはすこしいへんかかもしれませんが是非がんばってください。

【テキスト（教科書）】

「日本の法（第二版）」緒方桂子ほか編（日本評論社、2020 年刊）1,980 円（税込み）

【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編（日本評論社）
「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）
「憲法入門 5 訂版」樋口陽一（勁草書房）
「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）
「市民社会と市民法——civil の思想と制度」水林彪、吉田克己編（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業中のレポートなど（30%）の割合で評価する予定です。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）に取り組むよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。

内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law for the students who study law for the first time. It covers major key concepts in Japanese legal system, and provides a brief explanation of the principles of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

前川 佳夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年/法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(はじめに) この「法学Ⅰ」の授業は、対面授業を基本とした「ハイブリッド型」〈対面授業とオンライン授業の組み合わせ〉で進める予定です。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等の影響により、授業形態に変更がある場合もありますので、大学からのお知らせその他にご注意ください。

「近代憲法」としての性質を色濃く示す日本国憲法(1947年施行)を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外の政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしています(第3の法制改革)。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、刑法、民法、労働法、そして国際法にかかわるテーマをとりあげます。

また、授業時に、リアクションペーパー(対面授業)や課題レポート(主にオンライン授業)を提出してもらうことがありますが、次の授業時にそれらで取り上げられた事項についての講評を加え、場合によってはディスカッション、ディベートにつなげたいと思っています。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
2	犯罪と刑罰1	罪刑法定主義とは何か
3	犯罪と刑罰2	犯罪の成立
4	権利能力と行為能力	近代市民法における個人とは
5	契約自由の原則	契約自由の原則はなぜ大切なのか
6	契約の成立と効力	消費者契約、労働契約を中心に
7	不法行為と損害賠償	不法行為責任とは
8	過失責任の原則	過失責任と無過失責任

9	家族関係と法1	夫婦と親子
10	家族関係と法2	扶養と相続
11	労働関係と法1	労働法の理念と体系
12	労働関係と法2	労働法の具体的な内容
13	国際関係と法1	主権と領土
14	国際関係と法2	国際法と国内法

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習としては、①新聞その他のメディアで判決や法改正の記事などがとりあげられていたら目を通しておくこと、②また、下記の「参考書」欄に挙げた書物などを参考にして、関心ある文献の一部または全部を読んでおくこと、が大切だと思います。また講義後の復習としては、①テキスト(教科書)や配布したプリントを見直すこと、②講義のなかでとりあげた文献や、教科書、プリントにでていた条文や判例にあたっておくことが大切です。なお授業時間外の学習全体をとおしてお願いしておきたいことは、学習対象を法律(学)に限定せず、現代の社会生活を支える「政治」、「経済」、「法」という3つの領域全体の動向に目を配るようなことです。はじめはすこしいへんかもしれませんが是非がんばってください。

【テキスト(教科書)】

「日本の法(第二版)」緒方桂子ほか編(日本評論社、2020年刊)1,980円(税込み)をテキスト(教科書)として利用します。またテーマによっては参考資料、プリントを追加します。

【参考書】

「新版 法学の世界」南野森編(日本評論社)
「法の世界へ(第7版)」池田真朗ほか(有斐閣)
「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三(岩波書店)
「法学の誕生—近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴(筑摩書房)
「市民社会と市民法——civilの思想と制度」水林彪、吉田克己編(日本評論社)

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)、授業中のレポートなど(30%)の割合で評価する予定です。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく授業時間外の学習(図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など)に取り組むよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。気になることがあったら気軽に指摘してください。力をあわせてよい授業にしていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of the basic concepts of law for the students who study law for the first time. The course will give you a comprehensive introduction of the modern Japanese laws : such as Criminal Law, Civil Law, Labor Law, and International Law.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の内容を達成するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計5回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第14回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会及び国家との関係
第2回	法の特質	道徳等との関係 権利義務との関係
第3回	憲法の特質	法の分類 法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第4回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特質
第5回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第6回	日本国憲法の特質	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則
第7回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制 内閣
第8回	統治機構②	裁判所 違憲審査制 財政及び地方自治
第9回	統治機構③	象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第10回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第11回	基本的人権②	身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第12回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務

第13回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第14回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005年）
伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006年）
末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）及び授業内小レポート（20%）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の内容を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計5回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第14回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会及び国家との関係
第2回	法の特質	道徳等との関係 権利義務との関係
第3回	憲法の特質	法の分類 法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第4回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特質
第5回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第6回	日本国憲法の特質	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則
第7回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制 内閣
第8回	統治機構②	裁判所 違憲審査制 財政及び地方自治
第9回	統治機構③	象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第10回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第11回	基本的人権②	身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第12回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務

第13回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第14回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005年）
伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006年）
末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）及び授業内小レポート（20%）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計5回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第14回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会及び国家との関係
第2回	法の特質	道徳等との関係 権利義務との関係
第3回	憲法の特質	法の分類 法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第4回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特質
第5回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第6回	日本国憲法の特質	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則
第7回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制 内閣
第8回	統治機構②	裁判所 違憲審査制 財政及び地方自治
第9回	統治機構③	象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第10回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第11回	基本的人権②	身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第12回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務

第13回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第14回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005年）
伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006年）
末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）及び授業内小レポート（20%）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の内容を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義や権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計5回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第14回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会及び国家との関係
第2回	法の特質	道徳等との関係 権利義務との関係
第3回	憲法の特質	法の分類 法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第4回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特質
第5回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第6回	日本国憲法の特質	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則
第7回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制
第8回	統治機構②	内閣 裁判所 違憲審査制
第9回	統治機構③	財政及び地方自治 象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第10回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権
第11回	基本的人権②	法の下での平等 身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第12回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務

第13回 平和主義

規定の背景
規定の内容及び解釈
安全保障

第14回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005年）
伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006年）
末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）及び授業内小レポート（20%）によって評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC科目であることに留意します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan.

ECN100LA

経済学 I

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第 2 版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline and objectives】

This course is intended to understand the logical background of economics and introduce the basics of interpreting major economic indicators and their implications.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、マイクロ編第Ⅴ部）
第5回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、マイクロ編第Ⅴ部）
第6回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、マイクロ編第Ⅴ部）
第7回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、マイクロ編第Ⅴ部）
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰマイクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019. ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルズ著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline and objectives】

With reference to Economics I, this course addresses a selection of topics discussed in the real world and aims to understand theories and issues behind.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

西崎 文平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

国環キ 1 年 / 法文国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I はミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意思決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学 II はマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で行います。事前配布資料を一読したうえでの授業参加を前提とし、授業では特につまづきやすい点、現実の問題への当てはめ、例題や練習問題の解き方を中心に解説します。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います（その場合の詳細は学習支援システムで伝達します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎概念、需要と供給	経済学とは、家計の需要、企業の供給
第 2 回	市場均衡	市場とは、需要曲線、供給曲線、市場均衡
第 3 回	市場均衡の変化	需要曲線のシフト、供給曲線のシフト、市場均衡の変化
第 4 回	価格弾力性	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性、価格弾力性と均衡の変化
第 5 回	価格規制	上限価格規制、下限価格規制、割当て
第 6 回	租税	課税による均衡の変化、価格弾力性と税の帰着
第 7 回	市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡の効率性
第 8 回	市場の失敗	独占、外部性
第 9 回	分業の利益	トレードオフと機会費用、比較優位と交易の利益、絶対優位と比較優位
第 10 回	貿易政策	内外価格差と貿易、保護貿易
第 11 回	需要と供給の方程式	直線の方程式、関数記号による記述
第 12 回	ゲーム理論①	ゲームとは、ナッシュ均衡、有名なゲーム
第 13 回	ゲーム理論②	逐次手番ゲーム、コミットメント
第 14 回	まとめ	難しかった点の復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料に目を通し、概要を把握したうえで授業に参加する。また、重要な用語を覚えるとともに、例題を自分で解いてみるなどの復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第 2 版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）+ 期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

内容を十分に絞り込んで、重要な点は時間をかけて説明するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を学習支援システムに掲載するので、事前にプリントして授業に持参してください。オンデマンド方式で行う場合は、Zoom のリンクを学習支援システムでお知らせします。

【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

西崎 文平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2単位

国環キ1年／法文国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰはミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意思決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学Ⅱはマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で行います。事前配布資料を一読したうえでの授業参加を前提とし、授業では特につまづきやすい点、現実の問題への当てはめ、例題や練習問題の解き方を中心に解説します。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います（その場合の詳細は学習支援システムで伝達します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学の考え方	マクロ経済学とは、マクロ経済学と政策
第2回	GDP	国民経済計算、三面等価、経済成長率
第3回	民間需要	個人消費、設備投資
第4回	GDP決定の簡単なモデル	財市場の均衡、乗数
第5回	財政政策	財政政策とは、財政政策の効果
第6回	金融①	利率、金融政策
第7回	金融②	株式市場、銀行、金融危機
第8回	物価	物価とは、物価の統計、名目利率と実質利率
第9回	為替レート	為替レートの見方、購買力平価、金利平価
第10回	外需と国際収支	輸出入の決定要因、経常収支と財・サービス収支
第11回	貨幣と物価	貨幣とは、貨幣数量方程式
第12回	総需要と雇用	総需要のまとめ、失業率の変動
第13回	経済成長	GDPと生活水準、経済成長の源泉
第14回	まとめ	難しかった点の復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料に目を通し、概要を把握しておく。また、重要な用語を覚えるとともに、例題を自分で解いてみるなどの復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第2版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）+期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

内容を十分に絞り込んで、重要な点は時間をかけて説明するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を学習支援システムに掲載するので、事前にプリントして授業に持参してください。オンデマンド方式で行う場合は、Zoomのリンクを学習支援システムでお知らせします。

【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして骨太な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になるのかという観点に立つて、経済社会の出来事を理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々のニュースの表面的な内容だけではなく深層にあるメカニズムに納得できることの3点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発言できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。現実問題の理解を深めるために、新聞・雑誌などからも教材を選択する。講義資料はパワーポイントで作成し、学習支援システムに掲載する。リアクションペーパーを3回予定し、経済学の基礎用語の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場の機能と経済学	経済学の基本的考え方を学ぶ
2	需要と供給	需要と供給による市場の取引を理解する（教科書第1章）
3	消費者の行動（1）	需要曲線を学ぶ（第2章）
4	消費者の行動（2）	消費者余剰を学ぶ（第2章）
5	企業の行動（1）	供給曲線を学ぶ（第3章）
6	企業の行動（2）	生産者余剰を学ぶ（第3章）
7	市場競争と資源配分	価格メカニズムと余剰分析を学ぶ（第4章）
8	市場の失敗と政府の役割	外部効果と公共財を学ぶ（第6章）
9	不完全な情報	情報の不完全性と取引を学ぶ（第7章）
10	ゲームの理論（1）	囚人のディレンマを学ぶ（第8章）
11	ゲームの理論（2）	オークションやマッチングにおける経済学の活用を学ぶ
12	経済学と経済政策	競争政策や公共財に関する政策の考え方を学ぶ（第5章、第6章、第8章）
13	経済学と社会保障	医療の経済学的分析を学ぶ（第7章）
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

大竹文雄（2017）『競争社会の歩き方』中公新書
 坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書
 坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書
 田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
 一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 45%（3回）、期末試験 55%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生は授業の出席率が高く、そしてゲームの理論に高い関心を示したので、今年度はゲームの理論の講義を増やして2回とする。一昨年度の受講生からは、講義内容があてはまる事例を生活の中から取り上げたことが理解に役立ったとの意見が多数あったので、具体例の紹介を今年度も続ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。オフィスアワーは、大学院政策創造研究科にて設ける。

【Outline and objectives】

This is a course for introductory microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social events based on the reasoning with microeconomics.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業はマクロ経済学を取り上げる。GDP（国内総生産）による経済全体の把握、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①経済が持続的に成長するために必要なこと、②政府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆する政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、経済データの図表を教材として配布する。講義資料はパワーポイントで作成し、学習支援システムに掲載する。リアクションペーパーを3回予定し、マクロ経済学の重要用語が正しく理解できるかを試す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済とは	GDP（国内総生産）を学ぶ（教科書第9章）
2	経済成長	経済成長を需要側と供給側から考える（第15章）
3	有効需要	マクロ経済の均衡を学ぶ（第10章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策を学ぶ（第12章）
5	景気対策	不況期の財政出動を学ぶ（第12章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と金融調節を学ぶ（第11章）
7	インフレとデフレ	物価の変動と経済への影響、金融政策の役割を学ぶ（第13章）
8	雇用と失業	労働市場の変動と要因を学ぶ（第13章）
9	日本型雇用	労働市場の動向、賃金決定、働き方改革を学ぶ（第13章）
10	高齢社会の財政運営	社会保障改革を学ぶ（第14章）
11	財政健全化	財政赤字の原因と対処を学ぶ（第14章）
12	為替レート	円高・円安の経済効果を学ぶ（第16章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方及び貿易と直接投資の動向を学ぶ（第16章）
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫
清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣
吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 45%（3回）、期末試験 55%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は雇用に関心のある学生が多数だったので、今年度は雇用の講義を増やして2回行い、最新の動きを取り上げる。講義が難しかったという意見と分かりやすかったという意見の両方があったので、対面授業においては受講生の理解度を細かく確認する。マクロ経済学は日常生活ではなじみが薄い学問かもしれないので、受講生は復習を行いながら履修することを望む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。オフィスアワーは、大学院政策創造研究科にて設ける。

【Outline and objectives】

This is an introductory course for standard macroeconomics. Topics to be covered are GDP statistics, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, and goods and service trade and financial transaction. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年、国 1 年 / 法文国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline and objectives】

This course is intended to understand the logical background of economics and introduce the basics of interpreting major economic indicators and their implications.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

文 1 年、国 1 年 / 法文国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第5回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第6回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第7回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルズ著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline and objectives】

With reference to Economics I, this course addresses a selection of topics discussed in the real world and aims to understand theories and issues behind.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A~J / 営 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずで

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章 マクロ経済学とは 2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する 1 (GDP)	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。

5	マクロ経済を観察する 3 (物価)	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する 4 (失業率、景気)	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場 1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場 2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マクロ経済を支える金融市場 3	貨幣の機能と中央銀行の役割 1
10	貨幣の機能と中央銀行の役割 2	金融システムの安定化の意義を理解します
11	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
12	財政の仕組みと機能 1	税制の基本を学びます
13	財政の仕組みと機能 2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
14	財政の仕組みと機能 3	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います。対面授業の予定です。
15	演習	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+ a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S~D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C~D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を持っています。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も持っています。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 営 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになります。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によっては途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何が起きるのかを理解します

6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 営 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずで

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章 マクロ経済学とは 2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する 1 (GDP)	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。

5	マクロ経済を観察する 3 (物価)	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する 4 (失業率、景気)	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場 1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場 2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マクロ経済を支える金融市場 3	貨幣の機能と中央銀行の役割 1
10	貨幣の機能と中央銀行の役割 2	金融システムの安定化の意義を理解します
11	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
12	財政の仕組みと機能 1	税制の基本を学びます
13	財政の仕組みと機能 2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
14	財政の仕組みと機能 3	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います。対面授業の予定です。
15	演習	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S~D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C~D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を持っています。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も持っています。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 営 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何が起きるのかを理解します

6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S~D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C~D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明するように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

当 1 年 A~J / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。「心理学 II」を連続履修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	私は誰（Who am I）？	社会の中の自己、様々な自己概念、「シリアスな自己紹介」
第 3 回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか？	心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観
第 4 回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、身近な異常性
第 5 回	子どもと青少年における社会性	社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ
第 6 回	中間レポート：グループ発表と評価	「シリアスな自己紹介」（第 2 回授業）の発表・評価・提出
第 7 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性考

第 8 回	精神疾患か、それとも悪か？	暴力性の本質、道徳的排他性、モラルサークル
第 9 回	人間性を（再）定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動
第 10 回	3つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、才能、価値観、キャラクターストレス
第 11 回	なぜあの人は私よりも幸せなのか？	ポジティブな主観的経験、幸福感と個人差、心理的ウェルビーイング
第 12 回	「俺か、俺以外か。」を科学する	精神的に健康で、充実した人生を生きるための心理教育的アプローチ
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学 I」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷（ユートピア）は可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、春秋社、2012 年）
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となりますが、授業内でグループ発表と評価を行ってまいります（当日提出となります）。期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day issues.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。

オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観
第 3 回	「知る」の探究（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の探究（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の探究	学習過程と条件づけ
第 6 回	「憶える」の探究	認知過程と記憶
第 7 回	「考える」の探究	高次認知過程と思考
第 8 回	「やる気」の探究（1）	学習性楽観（学習性無力感）、心理学的レジリエンス
第 9 回	「やる気」の探究（2）	動機づけのメカニズム
第 10 回	「感じる」の探究	主観的経験の本質、感情と身体的反応
第 11 回	「成長する」の探究	発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第 12 回	「進化する」の探究	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学Ⅱ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）

上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 A～H、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎週「学習支援システム：教材」にパワーポイントによる資料を掲載します。オンデマンド形式なので、学期末まで資料を閲覧できます。各章ごとに、復習問題を提示するので、各自資料を参考にして教科書をよく読み、取り組んでください。

尚、資料掲載は基本的に月曜日 13 時をめぐりますが、早まることもありますので学習支援システムを適宜チェックしてください。質問は「学習支援システム：授業掲示板」より受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活	学校は楽しいか
第 6 回	子どもと情報通信メディア	子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 7 回	からだと運動	からだと健康
第 8 回	ことば	言語発達の概要
第 9 回	知性	知能 思考
第 10 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 11 回	認知と思考	記憶
第 12 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 13 回	動機づけ	動機づけのメカニズム、学習への
第 14 回	内発的動機づけと外的報酬	動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 15 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力

第 14 回 まとめ

児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
 2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
 3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ－児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ，2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男著 誠信書房，2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ，2010 年

【成績評価の方法と基準】

課題に対するレポート提出により評価します。

課題の提示は 6 月末になりますので「学習支援システム：課題」をチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため、学生から授業に対する意見等を得ることができませんでした。

課題に対するレポート提出を数回求めましたが、理解度は概ね合格基準に達していませんでしたので、オンライン授業を継続することもよいのではないかと思います。

【その他の重要事項】

教科書は必ず購入してください。

心理学 I、心理学 II を通じて同じ教科書を使います。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法 1 年 A～H、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてる。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システム教材に ppt の資料を掲載します。ppt の資料を参考にして教科書をよく読み、各章ごとに提示される復習問題に各自取り組んでください。質問等は学習支援システムの授業掲示板で受け付けます。

基本的に資料は月曜日 13 時をめぐりに掲載しますが、早まることもありますので、適宜学習支援システムをチェックしてください。オンデマンド形式なので、資料は学期末まで閲覧できます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流 れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理 臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみる。

・日頃から児童（子ども）を取り巻く現代環境に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どものこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題に対するレポート提出により評価します。

課題提示は 6 月末を目安としますので、学習支援システムの課題をチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は履修者数が多かったため、オンライン授業でした。学生から意見を得ることはできませんでしたが、課題に対するレポートは概ね合格基準に達していました。

オンライン授業でも、学生は授業内容を理解して行けることが示されたのではないのでしょうか。

【その他の重要事項】

心理学 I を履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

国 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。「心理学 II」を連続履修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業（オンデマンド型）となります。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	私は誰（Who am I）？	社会の中の自己、様々な自己概念、「シリアスな自己紹介」
第 3 回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか？	心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観
第 4 回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、身近な異常性
第 5 回	子どもと青少年における社会性	社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ
第 6 回	中間レポート	「シリアスな自己紹介」（第 2 回授業）提出
第 7 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性
第 8 回	精神疾患か、それとも悪か？	暴力性の本質、道徳的排他性、モラルサークル

第 9 回	人間性を（再）定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動
第 10 回	3つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、才能、価値観、キャラクター・ストレングス
第 11 回	なぜあの人は私よりも幸せなのか？	ポジティブな主観的経験、幸福感と個人差、心理的ウェルビーイング
第 12 回	「俺か、俺以外か。」を科学する	精神的に健康で、充実した人生を生きるための心理教育的アプローチ
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学 I」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷（ユートピア）は可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、春秋社、2012 年）
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day issues.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

国 1 年、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？ そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？ これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業（オンデマンド型）となります。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観
第 3 回	「知る」の探究（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の探究（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の探究	学習過程と条件づけ
第 6 回	「憶える」の探究	認知過程と記憶
第 7 回	「考える」の探究	高次認知過程と思考
第 8 回	「やる気」の探究（1）	学習性楽観（学習性無力感）、心理学的レジリエンス
第 9 回	「やる気」の探究（2）	動機づけのメカニズム
第 10 回	「感じる」の探究	主観的経験の本質、感情と身体的反応
第 11 回	「成長する」の探究	発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第 12 回	「進化する」の探究	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学Ⅱ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）

上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかで、よりアカデミックな領域を概観します。計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅱでは、認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものか理解することが目標です。

見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに見（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。曜日・時限の設定は履修登録に必須だけで、いつでもアクセス可能です。

参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す（仮想）日程を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。ときにはテキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わりに？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず（概略報告は無用です）、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かったという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多彩な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他について
2	「心」は目に見えない…	計量心理学〔テキスト序章①〕
3	「心」を測定する？	計量心理学〔テキスト序章②〕
4	目は「心」の一部？	知覚心理学〔テキスト第 1 章①〕
5	何を・どのように見て	知覚心理学〔テキスト第 1 章②〕
6	「心」は見えないが行動は見える？	学習心理学〔テキスト第 2 章①〕
7	刺激-反応-結果で説明できる？	学習心理学〔テキスト第 2 章②〕
8	ヒトの「心」の特徴は？	進化心理学〔テキスト第 3 章①〕
9	学び教える「心」	進化心理学〔テキスト第 3 章②〕
10	「心」は脳にある？	神経心理学〔テキスト第 4 章①〕
11	「心」は電気信号？	神経心理学〔テキスト第 4 章②〕
12	それぞれの人にそれぞれの心	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章①〕
13	知能は測定できる？	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章②〕
14	おまけ	掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子をを整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。「何を覚えるか」ではなく、自分が自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

金沢 創・市川寛子・作田由衣子 2015 ゼロからはじめる心理学・入門一人の心を知る科学 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

とくに指定しません。「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらいは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさえも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった 2020 年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学 LB」の「授業改善アンケート」（匿名）と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか（意味を変えない範囲で文体など差し替えました）を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉 掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト(初期)設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切(掲示板の閉鎖)時に、(閉鎖後のアクセスを予定しない)デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳2〉 この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生(匿名)の質問に海部(は名乗ります)が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が(匿名で)質問し、海部が回答する」形になります。ほかにも、オススの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」していると映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもまいりわからなかった。

〈言い訳3〉 率直に指摘くださり、深謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉 成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、(例年、履修登録が減る)秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで(誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ)その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿(「返信」や直接いただいたメールを含む)その他を、改めて個々別々に(個人別に)整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S~E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳5〉 Zoom等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を1つに絞れず、見つけることすら難しい「こころ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳6〉 そうですよ。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)を講じる(説明する)」講義しかできません。「面談」は好きですが…。

以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分1人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ち楽になった。

※匿名でなかったら言えないとも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思った。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったり聞いて、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさんの学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込んで楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人と人の繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学1年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を讀んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを1人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったのが、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これからは自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの視点からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういう面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べるのができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができる良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がほんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るのには、自分の心を分析していくようでも面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方・ものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「こころ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。

※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色んな問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週1のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色んな問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前と思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたなと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそその学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえらるととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わるのができたのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

- (1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動するため、続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり始めます。
- (2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。
- (3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる **and/or** 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (**responsibility**) とは、反応する (**response**) 能力 (**ability**) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。
- (4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

* Note : Psychology II, We learn areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかで、よりアカデミックな領域を概観します。認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅰでは、計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものか理解することが目標です。見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに見（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。曜日・時限の設定は履修登録に必須だけで、いつでもアクセス可能です。

参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す（仮想）日程を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。ときにはテキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わりに？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず（概略報告は無用です）、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かりますという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多様な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「心」は機械で置き換えられる？	認知心理学〔テキスト第 6 章①〕
2	記憶はどこにある？	認知心理学〔テキスト第 6 章②〕
3	ヒトは白紙で生まれてくる？	発達心理学〔テキスト第 7 章①〕
4	発達にとって何が重要？	発達心理学〔テキスト第 7 章②〕
5	表情から感情がわかる？	感情心理学〔テキスト第 8 章①〕
6	感情の役割って？	感情心理学〔テキスト第 8 章②〕
7	いい人？ 悪い人？	社会心理学〔テキスト第 9 章①〕
8	文化が違って見るとは同じ？	社会心理学〔テキスト第 9 章②〕
9	なんだかいやな気持ち/ストレスと欲求不満	臨床心理学〔テキスト第 10 章①〕
10	ストレスへの対処	臨床心理学〔テキスト第 10 章②〕
11	発達の「障害」と発達の種類と多様性	発達の種類と多様性〔テキスト第 11 章〕
12	「心」の問題へのアプローチ	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第 12 章①〕
13	「支援」とは何か	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第 12 章②〕
14	おまけ	掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子をを整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。「何を覚えるか」ではなく、自分が自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

金沢 創・市川寛子・作田由衣子 2015 ゼロからはじめる心理学・入門一人の心を知る科学 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

とくに指定しません。「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらは投稿・コメントしてください。レポートのようにも構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を押し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさへも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?)オンライン・オンデマンドとなった2020年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学LB」の「授業改善アンケート」(匿名)と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか(意味を変えない範囲で文体など差し替えました)を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト(初期)設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切(掲示板の閉鎖)時に、(閉鎖後のアクセスを予定しない)デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳2〉この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生(匿名)の質問に海部(は名乗ります)が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が(匿名で)質問し、海部が回答する」形になります。ほかにも、オススメの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」しているかと映るでしょう。怪しく不可解に感じ当然です。申し訳りません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもいまいちわからなかった。

〈言い訳3〉率直に指摘くださり、深謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、(例年、履修登録が減る)秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで(誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ)その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿(「返信」や直接いただいたメールを含む)その他を、改めて個々別々に(個人別に)整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S~E)12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳5〉Zoom等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を1つに絞れず、見つけることすら難しい「こころ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤して下さるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳6〉そうですね。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)を講じる(説明する)」講義しかできません。「面談」は好きですが…。以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分1人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ちが楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思えた。※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったりを聞いて、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさんの方が意見交換して、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたし新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人との繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人になったこと分かったことは、今年大学1年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を読んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、STEIホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを1人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったのが、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これからは自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの方からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができ楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見るのが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういった面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べる事ができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような遠親した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができた良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がほんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るのには、自分の心を分析していくようでも面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方ももの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「こころ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。

※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色々な問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週1のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前前に思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しからないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそその学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえらるととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わる事ができたのではないかと。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

- (1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動するため、続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり始めます。
- (2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。
- (3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (responsibility) とは、反応する (response) 能力 (ability) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。
- (4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

* Note : Psychology I, We learn areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 E~N / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかで、よりアカデミックな領域を概観します。計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅱでは、認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものか理解することが目標です。

見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに見（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。曜日・時限の設定は履修登録に必須だけで、いつでもアクセス可能です。

参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す（仮想）日程を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。ときにはテキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わりに？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず（概略報告は無用です）、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かったという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多彩な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他について
2	「心」は目に見えない…	計量心理学〔テキスト序章①〕
3	「心」を測定する？	計量心理学〔テキスト序章②〕
4	目は「心」の一部？	知覚心理学〔テキスト第 1 章①〕
5	何を・どのように見ています？	知覚心理学〔テキスト第 1 章②〕
6	「心」は見えないが行動は見える？	学習心理学〔テキスト第 2 章①〕
7	刺激-反応-結果で説明できる？	学習心理学〔テキスト第 2 章②〕
8	ヒトの「心」の特徴は？	進化心理学〔テキスト第 3 章①〕
9	学び教える「心」	進化心理学〔テキスト第 3 章②〕
10	「心」は脳にある？	神経心理学〔テキスト第 4 章①〕
11	「心」は電気信号？	神経心理学〔テキスト第 4 章②〕
12	それぞれの人にそれぞれの心	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章①〕
13	知能は測定できる？	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章②〕
14	おまけ	掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子をを整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。「何を覚えるか」ではなく、自分が自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

金沢 創・市川寛子・作田由衣子 2015 ゼロからはじめる心理学・入門一人の心を知る科学 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

とくに指定しません。「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらいは投稿・コメントしてください。レポートのようになっても構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさえも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった 2020 年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学 LB」の「授業改善アンケート」（匿名）と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか（意味を変えない範囲で文体など差し替えました）を「気づき」とします。

まず6点、もっともな不信・不審や疑問に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳1〉 掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト(初期)設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切(掲示板の閉鎖)時に、(閉鎖後のアクセスを予定しない)デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳2〉 この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の5科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生(匿名)の質問に海部(は名乗ります)が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が(匿名で)質問し、海部が回答する」形になります。ほかにも、オススメの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」していると映るでしょう。怪しく不可解に感じて当然です。申し訳ありません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもまいりわからなかった。

〈言い訳3〉 率直に指摘くださり、感謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ってしまったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳4〉 成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計7000件ほど、(例年、履修登録が減る)秋学期も5000件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで(誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ)その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿(「返信」や直接いただいたメールを含む)その他を、改めて個々別々に(個人別に)整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S~E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳5〉 Zoom等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を1つに絞れず、見つけることすら難しい「こころ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤してくださるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳6〉 そうですよ。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)を講じる(説明する)」講義しかできません。「面談」は好きですが…。

以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分1人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ちが楽になった。

※匿名でなかったら言えないとも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思った。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったり聞けて、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさんの学生が意見交流していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込んで楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人と人の繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人がいると分かったことは、今年大学1年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を讀んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、ステイホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを1人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったのが、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これからも自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの視点からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができて楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見ることが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういう面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べるのができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような達観した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができる良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がほんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るのには、自分の心を分析していくようでも面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方・ものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「こころ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。

※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色んな問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週1のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色んな問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前と思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたなと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそその学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえらるととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わるのができたのではないかな。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

- (1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動するため、続けるの履修を期待します。心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり始めます。
- (2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。
- (3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる **and/or** 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (**responsibility**) とは、反応する (**response**) 能力 (**ability**) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。
- (4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

* Note : Psychology II, We learn areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 E~N / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかで、よりアカデミックな領域を概観します。認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅰでは、計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものか理解することが目標です。見えていなくても（見たいように）見てしまう、見えているのに見（え）ない。（いやでも）見る・気づく・気にする・考える（しかない）側から、（見たいものしか）見ない・気づかない・気にしない・考えない（で済む）側まで、「こころ」は我が儘です。「こころ」は、どこに・なぜ・どのようにあるか、「いのち」は、いつ始まり、終わるのか、「人権」とは何か。

「私は私」・「オレはオレ」というアイデンティティは、自生（天然）が成り立ちません。他者がいて自己になる。他者と相見（まみ）え初めて自己が立ち現れます。思春期・青年期の「第 2 の誕生」によって、自分が自分の「こころ・いのち（人権）」を産み出します。あなたは誰ですか。よりよく自分自身を生きたいですか…。

「こころ・いのち（人権）」について、感じ思い考える能力を身につけます。知識とともに潜在的な可能性（ポテンシャル）を磨き、決めつけや思い込みにとらわれず、新鮮で柔軟な態度をとれる選択肢（キャパシティ）を増やします。主体的・批判的に検討し、的確な意見を論じることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。いろいろな事情や背景があるので、リアルタイム中継は実施しません。曜日・時限の設定は履修登録に必須だけで、いつでもアクセス可能です。

参照：【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【成績評価の方法と基準】【学生の意見等からの気づき】

指定テキスト（教科書）の独学独習が要件です。「授業計画」として示す（仮想）日程を目安に、それぞれのペースで読み進めます。合わせて、Hoppii（学習支援システム）の「お知らせ・アナウンス」および「授業内掲示板」に目を通し、投稿（コメント）・議論することが基本です。受け身でいたら、面白くも愉しくもなく、訳が分からないままになりかねません。

「お知らせ・アナウンス」：おおむね週 1 回（水曜を予定）配信。登録アドレス宛てメールでも届けます（真夜中や未明・早朝の際に備え、通知音オフ推奨）。ときにはテキストの解説や補助教材の案内もしますが、（参考書代わりに？）折々のモノ・コトを紹介し、コメントへのリプライ・フィードバック、SNS の引用、記事や資料、動画（へのリンク）を伝えます。

「授業内掲示板」：テキストの内容に限らず（概略報告は無用です）、アナウンスや他の学生の投稿・コメントその他に関して、質問や感想・意見・主張を書き込むことが、「授業」参加になります。匿名（いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かりますという少しディストピア的な）設定です。「返信」を用いて、学生どうし多様な意見交換を試みてください。日々の鬱憤や悩みの相談・雑談、オススメまで、自由な対話を通し、互いに見解（意見と理解）を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「心」は機械で置き換えられる？	認知心理学〔テキスト第 6 章①〕
2	記憶はどこにある？	認知心理学〔テキスト第 6 章②〕
3	ヒトは白紙で生まれてくる？	発達心理学〔テキスト第 7 章①〕
4	発達にとって何が重要？	発達心理学〔テキスト第 7 章②〕
5	表情から感情がわかる？	感情心理学〔テキスト第 8 章①〕
6	感情の役割って？	感情心理学〔テキスト第 8 章②〕
7	いい人？ 悪い人？	社会心理学〔テキスト第 9 章①〕
8	文化が違って見るとは同じ？	社会心理学〔テキスト第 9 章②〕
9	なんだかいやな気持ち/ストレスと欲求不満	臨床心理学〔テキスト第 10 章①〕
10	ストレスへの対処	臨床心理学〔テキスト第 10 章②〕
11	発達の「障害」と発達の種類と多様性	発達の種類と多様性〔テキスト第 11 章〕
12	「心」の問題へのアプローチ	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第 12 章①〕
13	「支援」とは何か	アセスメントと支援：臨床心理学〔テキスト第 12 章②〕
14	おまけ	掲示板への投稿締切

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 回あたりの準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間（計 4 時間）を標準〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とします。

といっても（オンライン・オンデマンドゆえ）、いつも「授業時間外の学習」？ 心身の調子をを整え、うまく各自の都合で時間配分しつつ、テキストや「お知らせ・アナウンス」、「授業内掲示板」その他を読み解き、投稿を進めます。「何を覚えるか」ではなく、自分が自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

金沢 創・市川寛子・作田由衣子 2015 ゼロからはじめる心理学・入門一人の心を知る科学 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>

必ず用意してください。版元品切れになりがちです。大学生協の通信販売も活用し、早めに入手してください。

【参考書】

とくに指定しません。「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」その他、随時あれこれを参考にします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）：「授業内掲示板」での動向を通して、何を・いつ・なぜ・どのように感じ思い考えてきたか拝察します。

テキストのみならず、「お知らせ・アナウンス」や「授業内掲示板」、各々が見出した文献、Web サイト、動画、マンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画などを味わい、それらと日常とを結びつけた感想や意見・主張、問題提起を任意に、しかし数回くらは投稿・コメントしてください。レポートのようにも構いません。ファイル添付も可能です。短文の連打も歓迎します。そこに表（さ）れる内容から、テキストその他の読み込み具合、味わい方、取り組む姿勢・態度を推し測ります。

裏付けとなる根拠が明らかな論述はもちろん、奔放な相談や雑談、対話にさへも、主体的・批判的に学び調べ、何を理解し、どのように「こころ・いのち（人権）」について感じ思い考えてきたか、相当程度、くつきりと示されますから、労力と時間は膨大にかかりますが、存分に評定できます（します）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて本格的な(?) オンライン・オンデマンドとなった 2020 年度秋学期「心理学Ⅱ」・「心理学 LB」の「授業改善アンケート」(匿名)と「授業内掲示板」に寄せられた記述の幾つか(意味を変えない範囲で文体など差し替えました)を「気づき」とします。

まず 6 点、もっともな不信・不審や疑念に対する言い訳です。いずれも用心していきます。

(1) 春学期、掲示板で匿名がはがれたことがあった。これは絶対に避けなければいけないことだ。

(2) 先生自身も学生に成りすまして自問自答のようなことをしていたがどういう意図なのか？

〈言い訳 1〉 掲示板は、「投稿者を表示する」というデフォルト(初期)設定を改変し、匿名にしています。ところが春学期、投稿締切(掲示板の閉鎖)時に、(閉鎖後のアクセスを予定しない)デフォルトに戻ってしまい、匿名設定が解除されるエラーが生じました。急いで再び匿名設定にしたものの、反映まで時間がかかったようです。済みませんでした。その後は、支障なかったはずです。

〈言い訳 2〉 この「匿名がはがれた」時間帯、「学生に成りすまして自問自答」しているようなケースが見えたかもしれません。「授業内掲示板」は科目別で、当該科目に登録した学生しか読み書きできず、海部担当の 5 科目で共有する仕組みがないため、春学期の初め、共有したい投稿を海部が「コピペ」していました。たとえば学生(匿名)の質問に海部(は名乗ります)が回答したとき、その投稿を海部が「コピペ」すると、当該科目以外では「海部が(匿名で)質問し、海部が回答する」形になります。ほかにも、オススメの投稿などを「コピペ」していました。「匿名がはがれた」ときにアクセスしたら、「成りすまして自問自答」しているかと映るでしょう。怪しく不可解に感じ当然です。申し訳りません。

(3-1) お知らせが見づらい。

(3-2) 毎回共通アナウンスというお知らせがあるが、文章が複雑で何を伝えたいのか考えてもいまいちわからなかった。

〈言い訳 3〉 率直に指摘くださり、深謝します。「お知らせ・アナウンス」は細切れの引用やリンクが多くて、掲示板も合わせ、継続する流れが分かりづらく、独り善がりが目立ったと思います。個別に意見や批判をいただいたときなど、次の回でのリプライ・フィードバックを試みてはいたのですが、不行き届きをお許しください。

(4) 成績評価が曖昧だという印象をぬぐい切れなかった。

〈言い訳 4〉 成績評価は、俗に言う「量よりも質」で、数値・数量化した基準を示すことができず、ご不満を招く覚悟です。プロセスは次のとおりです。春学期は合計 7000 件ほど、(例年、履修登録が減る)秋学期も 5000 件近い投稿その他を頂戴しました。リアルタイムで(誰の投稿であるかは不明ながら転送メールにて内容のみ)その都度、拝読した後、「いつ誰が何を書いたか・読んだか、教員のみが知り分かる」設定の掲示板で再読・再々読を繰り返し、「既読としてマーク」の状況も確認して、特定の例は、まとめて読み直します。そのうえで学期末に、それぞれの投稿(「返信」や直接いただいたメールを含む)その他を、改めて個々別々に(個人別に)整理し、「いつ誰が何を書いたか・読んだか」すべてを精査します。おのずと浮き彫りになる生成・変化・展開の様相も踏まえて採点し、(S~E)の12段階で評価します。

(5-1) Zoom 等は使用しないにしろ各週での課題を提示してくれたほうが取り組みやすかった。

(5-2) 提出必須の課題を出してほしかった。

〈言い訳 5〉 Zoom 等は得手不得手に加え、通信環境の事情・背景もあり、使用しません。また、恐縮ですが、「各週での課題」は嫌悪・苦痛しかないという声が圧倒的だと認識しています。それでも、ときどき、各々のペースでレポートや小論文を提出くだされば受け取る旨は案内し、実際に掲示板への投稿(もしくは直接のメール)にファイル添付された方が少なくありませんでした。海部は、一方的に「教える」のではなく、設問形式の課題も提示しません。何かを紹介し、意見交換や議論を通じて、ともに学び合うことを重視します。まして、「正解」や「最適解」を 1 つに絞れず、見つけることすら難しい「こころ・いのち(・人権)」については、じっくりと各自で試行(思考)錯誤して下さるよう望みます。

(6-1) リアルタイム授業を何回か開いてほしかった。

(6-2) せめて動画授業をするなど、先生が顔と声を出して対面してほしかった。大学の授業において、最後までどんな先生が授業をしているのか分からないのはおかしいと感じた。残念。

〈言い訳 6〉 そうですよ。もしリクエストがあるなら、顔と声がどんなふうであるかくらいは知らせるようにしますか。けれども海部は、表情や視線、口調、身振り素振り、動作、姿勢・態度、距離感、関心の向き、構え、といった何らかがないと、率直で親密な対話・コミュニケーションを組み立てられないので、オンライン併用の「リアルタイム授業」や対面同様の「動画授業」は困難です。そもそも「業(わざ)を授(さず)ける」器量がなく、「対面」でも「義(条理)を講じる(説明する)」講義しかできません。「面談」は好きですが…。以下は、ひきつづき大切にしたい観点です。

※いろいろ考え悩んでるのが自分 1 人じゃないんだなって思うだけでかなり気持ちが楽になった。

※匿名でなかったら言えないことも言える。同じような意見や考えの人がいることに気づけて、自分だけではなかったんだと思えた。

※匿名だからこそ言える、他の人が普段考えてる事だったり不安に思ってる事だったりを聞けて、同じような悩みを持つてる人は自分だけじゃないんだと知れた。匿名で様々な意見を交換できるというオンラインの良さを活用した授業、とても楽しかった。

※オンラインならではの方式で、新鮮だった。匿名の環境下、他の受講者とコミュニケーションをとるのが楽しかった。

※たくさん学生の意見交換していて、オンラインの利点を生かしているなあと思う。

※ふだんなら相談しないことや考えないことを書き込めて楽しかった。

※普段の生活における疑問、意見の吐口となってくれた。匿名だからこそ、話せること、聞けることが沢山あった。

※自分の考えを躊躇することなく伝えることができて良かった。

※日常の愚痴などもたくさん見て、共感できたり新鮮だった。

※みんなの本音が知れて面白かった。

※他の生徒がどのように感じているのかを読むことが出来たのでとてもいい工夫がされていたのではないかな。

※多くの受講生のほとんど正直な意見を見ることができ、意見交換できたことが良かった。

※教科書に対する意見やプライベートな話を読んで、顔は見えていなくてもその時だけは、同じ空間で繋がっているような気がした。

※人との繋がりを感ずることが出来たことや、同じように悩む人になったこと分かったことは、今年大学 1 年生で友達がいない自分にとって大きな心の支えになった。

※孤独や不安を感じることも多かった状況の中でコミュニケーションを取ることでできる大切な場になっていた。コメントで会話したり、様々な意見を読んだりすることがとても楽しかった。

※異例の事態で、生徒間、先生-生徒間の交流が失われた中、この掲示板を見ている時は皆との距離が縮まったように感じられた。

※書き込むことで皆さんとつながっている気持ちになり、大学生になったことを唯一実感できる場だった。

※慣れないことばかりで肉体的にも精神的にも辛い期間を、時には自分の思いや弱音を吐き出し、時には誰かの思想に触れ、時には共感しながら過ごせる大切な場所だった。

※課題に追われず、自分の興味関心と精神状態に合わせて無理なく学ぶことができた。

※時間に縛られることなく、参加できたのはよかった。

※のびのびと参加することができて良かった。

※自分のペースで学習がしやすく、掲示板もしっかり活用できてとても充実した。

※いつでも、またどんなことでも掲示板に書き込めるため縛られている感じがなくてよかった。

※自分に合った方法で参加することができ、掲示板が上手く利用されていた。自由性が高く、匿名で他の人の投稿に意見できたり、逆にアドバイスをもらうことができていたりしてとても楽しかったし、STEI ホーム期間の心の支えになってくれた。

※自分とは何なのか、感情・行動とは何なのかを 1 人でじっくり考える機会を作ることが出来た。

※自分について考える時間が増えた。教科書に書いてあることに自分を重ねたり、自分の内面に意識を向けたりしながら読み進めたからだと思う。これまで時間を取って自分についてじっくり考える、ということをしてこなかったのが、改めて自分について客観的に考えることができて良かった。

※常に新しい発見ができ、テキストを読み進めるにつれて自分で考える力を養うことができた。

※テキストを読み、意見交換することで色々な認識が変わった。これからは自分とは何か、心とは何か考え続けていきたい。

※他人との交流や違った視点の意見を聞くことの大切さを改めて実感した。たくさんの方からのコメントに触れることで理解が深まった。

※さまざまな方々の意見に触れることで、普段は知り得ないような意見をたくさん知ることができた。

※様々な考え方に触れることができ楽しかった。また、考えさせられる機会を得ることができ、良い経験であった。

※他の生徒の意見などを見るのが出来たのが私にとってすごく新鮮で、こういう考えもあるんだと、そういった面でも学ぶことが出来た。

※先生や他学生との議論で自身の考えを発信し、異なる意見を聞くなどして理解を深めることができた。

※さまざまな方とコミュニケーションをとるのがとても楽しかったし、みなさんの鋭い視点に毎日驚かされ新鮮な日々だった。

※見ず知らずの人が私が書き込んだことに反応してくれて嬉しかった。人の心や脳は難しく、けど面白いと思った。

※匿名だからこそ自由に、素直な気持ちを述べる事ができた。様々な人の様々な意見を知ることができた。年が同じまたは近い人の意見とは思えないような遠親した鋭い指摘がたくさんあり、視野を広げることができた良い機会となった。

※匿名だからこそ話すことのできる主張を学生が出来る場で、自分とは異なる様々な意見に触れることが出来た。

※自分の心を見つめ直すきっかけに繋がった。自分がほんやりと感じていたことを、何が原因でどういう仕組みでそう感じたのか知るのには、自分の心を分析していくようでも面白かった。

※自分と向き合う機会が得られたことで、自分自身の知らなかった部分を知ることができた。

※自分のネガティブな面について詳しく知れて良かった。

※様々な考えや知識をインプットするだけでなく、自分の学びをアウトプットすることによって、普段は気にすることのない自分の考え方やものの見方などに気づくことができた。

※思ったことをためらわずに書き込める。自分の心で思っていることを文章にすることはとても難しい。そのもやもやを言葉としての形にする訓練ができる場であった。

※考え方の多様性を実感し、また自分自身も改めて自分の考えを深め言語化することができ、勉強になった。

※教科書の内容である知識はもちろんのこと、紹介された様々な問題に触れることによって人の数だけ考え方が存在し、それを理解できなくとも認め合うことの大切さを感じた。

※日常生活の様々な場面で「こころ」に目を向けることができるようになったと実感している。

※以前より自分の視野が広がり、人の気持ちについて考える機会が多くなった。

※投稿や題材には考えさせられ、とても良い刺激と学習になった。

※タイムリーな話題や重要な事柄を毎週まとめて知らせてくれるのが良かった。

※毎週のアナウンスと掲示板のコメントを読んで、色々な問題やそれに対する意見・価値観を知ることが出来た。

※現代の社会問題や時事問題を取り上げていて、週1のメッセージだけでも多くのことをまなぶことができる有意義な時間だった。

※社会の色々な問題や現実を知り、それに対する皆さんの意見や考えを知ることができたので新しい見方や価値観を学ぶことができた。

※毎週のお知らせが結構救いになったり、考えさせられたりした。色々な気づきを得ることができた。

※お知らせがとても分かりやすく、また考えさせられるものだった。

※示された記事や社会問題などを通じて色々なことを考える機会が沢山あり、自分の考えや思っていることを改めて再認識することが出来た。

※時事的な内容と心理学が結び付けられていて、ニュースでは考えられない考えを得ることが出来た。

※様々な話を読む中で、自分の経験や知識がとても狭いものだというにも気付かされた。心理学ということで、はじめは他者の心理を理解していくつもりで履修していたが、1年間で自分自身の内面も見つめ直す良い機会になった。オンラインでも人との関わりがあることを確認できた。

※様々な社会問題や性差別問題などに対して、自身の意見を持っている人がこんなにも多いのかと驚いた。

※自分が考えたこともないような悩みを抱えている人がいることを知った。もっと世間のことに目を向けるべきであると感じた。

※特に差別のことについて考えさせられた。当たり前に思っていたことがよく考えてみると変だったり過程を知ると気持ち悪かったり、多くのことを学べた。

※いろいろな意見を読んで、批判すること・指摘することは大事だと分かった。批判しても何も変わらない、損しかしないと思っていた。しかし、批判することも必要。そして、自分では考えられないような・知らなかったような立場の人の意見は、耳が痛くなることもあるけど、目を背けずに、発してくれた人に感謝する。意見は、世の中の生きづらい人を失くしていくための材料であると分かった。

※とても良い仕組みだと感じた。固定観念や一般常識にとらわれないものの見方を学ぶことが出来た。

※前は“ふつう”だと思っていたことに、少しずつだが、“これって実はおかしいんじゃない？”と気付けるようになった。

※社会問題について考える時間が増えたと思った。今までなら素通りしていたニュースや疑問、おかしいと思う気持ちをしっかりと自分の中で考える時間を作ることができた。匿名ということもあって様々な意見に触れることができたり、同じ考えを持つ人から返信をいただくことができたりと、対面でないからこそその学びを得ることができ楽しかった。

※悩みや社会の情勢についての意見などを多くの人と共有できる形がとても良かった。自分の意見にコメントをもらえたり共感してもらえらるととても嬉しいと感じた。顔が見えなかったり発信者がわからないことによって、より深くまで関わる事ができたのではないかと。心理学ならではの形態がとても良かった。

【その他の重要事項】

- (1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動するため、続けて履修を期待します。心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり始めます。
- (2) 年度や受講生によって講義のスタイルを変えます。“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。
- (3) 臨床心理士として、生きづらく悩んでいる and/or 悩ませ困らせている方々と接してきました。「心の痛み」や「心の傷」、「心の病気」、「心の性」、「心神喪失・耗弱(こうじゃく)」、「責任能力」の検証も必要でした。責任 (responsibility) とは、反応する (response) 能力 (ability) です。性別を問わず、家庭・家族事情、少年院や刑務所、半グレやヤクザ、加害・被害、不登校、ひきこもり、派遣切り、就労苦、生活困窮、ホームレス、あるいはガールズバーやキャバクラ、援交・パパ活、ホストクラブ、風俗、売買春など、さまざまな体験があり、心身不穏や自傷、虚無・空白やトラウマ・トラブル、自家中毒・矛盾・煩悶(はんもん)を抱えた制御困難な誰もが、「自己責任」で片付けられては堪(たま)らない方ばかりです。「みんなちがって、みんないい」は絵空事? 「おかしい」と呼ばれやすい人々の「こころ・いのち(・人権)」が脅かされるのは、むしろ何かと「おかしい」世の中の「問題」ではないのか。そんなこんなを感じ思い考え続けています。
- (4) オフィスアワー(お喋りタイム?)は、原則として木曜の4時限ないし5時限に設ける見込みです。同予約ほか、なんでもリクエスト・問い合わせは、「授業内掲示板」または kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

* Note : Psychology I, We learn areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。「心理学 II」を連続履修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	私は誰（Who am I）？	社会の中の自己、様々な自己概念、「シリアスな自己紹介」
第 3 回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか？	心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観
第 4 回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、身近な異常性
第 5 回	子どもと青少年における社会性	社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ
第 6 回	中間レポート：グループ発表と評価	「シリアスな自己紹介」（第 2 回授業）の発表・評価・提出
第 7 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性考

第 8 回	精神疾患か、それとも悪か？	暴力性の本質、道徳的排他性、モラルサークル
第 9 回	人間性を（再）定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動
第 10 回	3つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、才能、価値観、キャラクターストレス
第 11 回	なぜあの人は私よりも幸せなのか？	ポジティブな主観的経験、幸福感と個人差、心理的ウェルビーイング
第 12 回	「俺か、俺以外か。」を科学する	精神的に健康で、充実した人生を生きるための心理教育的アプローチ
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学 I」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷（ユートピア）は可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、春秋社、2012 年）
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となりますが、授業内でグループ発表と評価を行ってまいります（当日提出となります）。期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day issues.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。

オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観
第 3 回	「知る」の探究（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の探究（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の探究	学習過程と条件づけ
第 6 回	「憶える」の探究	認知過程と記憶
第 7 回	「考える」の探究	高次認知過程と思考
第 8 回	「やる気」の探究（1）	学習性楽観（学習性無力感）、心理学的レジリエンス
第 9 回	「やる気」の探究（2）	動機づけのメカニズム
第 10 回	「感じる」の探究	主観的経験の本質、感情と身体的反応
第 11 回	「成長する」の探究	発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第 12 回	「進化する」の探究	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学Ⅱ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）

上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。また、心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決にどのように活用することができるのか、従来の心理学領域に加え、「平和心理学」や「ポジティブ心理学」による観点などにも敷衍して考察していきます。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。「心理学 II」を連続履修することで、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学 I」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	私は誰（Who am I）？	社会の中の自己、様々な自己概念、「シリアスな自己紹介」
第 3 回	ゴッホはなぜ自分の耳を切り落としたのか？	心理臨床の諸アプローチとその根底にある人間観
第 4 回	異常性を定義する	「異常者のためのマニュアル」、心の障害、身近な異常性
第 5 回	子どもと青少年における社会性	社会的スキルとしての人間関係、不登校・いじめ
第 6 回	中間レポート：グループ発表と評価	「シリアスな自己紹介」（第 2 回授業）の発表・評価・提出
第 7 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）	個人と集団に対する社会的影響、「他者」という社会的関係性考

第 8 回	精神疾患か、それとも悪か？	暴力性の本質、道徳的排他性、モラルサークル
第 9 回	人間性を（再）定義する	「よい生き方」の科学の勃興、人間性と道徳性、向社会的行動
第 10 回	3つの「生きる」	「正常者のためのマニュアル」、才能、価値観、キャラクターストレス
第 11 回	なぜあの人は私よりも幸せなのか？	ポジティブな主観的経験、幸福感と個人差、心理的ウェルビーイング
第 12 回	「俺か、俺以外か。」を科学する	精神的に健康で、充実した人生を生きるための心理教育的アプローチ
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学 I」総括	授業内容の振り返り：心理学的な理想郷（ユートピア）は可能か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、春秋社、2012 年）
上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となりますが、授業内でグループ発表と評価を行ってまいります（当日提出となります）。期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. In addition to the basic content of conventional psychology (which will be reviewed in Psychology I and Psychology II), further attention will be given to some emerging perspectives in psychological science, such as Peace Psychology and Positive Psychology, that are so critical in approaching possible solutions to modern day issues.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が 20 世紀の時代に何を探究し理解してきたのか、そして、その探究を今世紀においてどのように推し進めようとしているのか、基礎的な内容と研究方法を押さえながら概観します。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の主眼とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通してオンライン授業となります。オンデマンド型を基本としますが、グループディスカッションの入る回は Zoom によるリアルタイム型となります（学期中、2 回ほど予定していますが、初回のガイダンスで具体的な日程と参加方法をお伝えします。なお、初回のガイダンスは、オンデマンド型で視聴いただく予定です）。

オンデマンド型学習のために、学習支援システムと Google Classroom を併用します。学期中の通信手段は主にメールとなりますので、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「心理学Ⅱ」ガイダンス	授業概要、授業のねらいなど
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観
第 3 回	「知る」の探究（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	「知る」の探究（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	「学ぶ」の探究	学習過程と条件づけ
第 6 回	「憶える」の探究	認知過程と記憶
第 7 回	「考える」の探究	高次認知過程と思考
第 8 回	「やる気」の探究（1）	学習性楽観（学習性無力感）、心理学的レジリエンス
第 9 回	「やる気」の探究（2）	動機づけのメカニズム
第 10 回	「感じる」の探究	主観的経験の本質、感情と身体的反応
第 11 回	「成長する」の探究	発達段階と知性、生涯発達とエイジング
第 12 回	「進化する」の探究	心と脳科学：認知と行動の生物学的基盤
第 13 回	期末試験	レポート（小論文）形式、オープンブック
第 14 回	「心理学Ⅱ」総括	授業内容の振り返り：「心の理論」は人間をどう捉えるのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）

上記テキストに加えて、講義スライドの要点をまとめた補助資料を配布します。

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、中間レポート 30%、授業に関係するアクティビティ 30%

中間レポートは、授業内容に基づく出題となります。

期末試験は、テスト形式ではなく、レポート（小論文）形式となります。

暗記による知識ではなく理解度を確認しますので、試験当日はオープンブック（補助資料等参照可）とします。

その他の詳細についてはガイダンスでお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～B / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回の授業はオンラインで行う。また、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合も原則としてオンラインにより授業を進める。詳細は学習支援システムに掲載する。

前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力

第 14 回 まとめ

児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ，2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男著 誠信書房，2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ，2010 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため学生から意見を得ることはできませんでした。

課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できることが示されたと思います。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～B / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

行動方針レベルが 1 から 2 になった場合、この授業は原則としてオンラインで進める。詳細は学習支援システムに掲載する。

講義形式で授業を進めていきます。ppt を提示して説明しますが、DVD 鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。

ショートレポート課題を数回提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流 れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理 臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
- ・日頃から児童（子ども）を取り巻く現代環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、授業内のショートレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため学生からの意見を得ることはできませんでした。

課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できていることが示されました。

【その他の重要事項】

心理学 I を履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

高木 正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法環 1 年/法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。学習支援システムでの授業開始は、5月11日からとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へー地理学の学問的性格
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	日本における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	世界における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	宗教からみる世界の多様性
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	現代世界の政治状況
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	観光と地域経済
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントを持参してください。プリントは予備がないので、跡で渡すことはできません。なお少なくとも1時間を目途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績要素の配分は、試験 80 %、平常点 20 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline and objectives】

Main subjects:Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

高木 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	地図の一般的説明とその観方
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料の紹介とその活用
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	新聞記事の紹介とその利用方法
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映像資料の紹介とその活用
第 7 回	現代世界の諸地域 (1)	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域 (2)	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域 (3)	人口
第 10 回	現代世界の諸地域 (4)	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域 (5)	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域 (6)	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業で配布したプリントを持参してください。プリントの予備はないので、後で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間を目途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は、試験 80 %、平常点 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline and objectives】

Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、都市(地域)、日本、世界からアフターコロナ後の地域社会の在り方をも考えていきます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。さらに重要なことは、学問にふれながら、どんな時代でも、どんな危機の時でも、自らの意思で行動し、自ら考える能力を成長させていくことだと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本、対面授業中心のハイブリッド型授業となります。状況次第で、各回の授業計画や授業形式の変更などについては、学習支援システムなどで連絡します。しばらくは、ハイフレックス型は限界（システムや人数など）があると思いますので当初は、行いませんが状況により始めることもあります。

高校時代に地理を学習していない受講生や留学生でも参加しやすいように、AL やフィールドワークの基礎を映像や VR などからも試みます。大学での地理学を身近なことから学問的に始めると考えていきますので、暗記科目というイメージと違い、基礎的なリベラルアーツの入り口と位置付けています。各テーマにかかわるトピックやテーマの内容等を映像等も含めて紹介、考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	地理学への招待状
4/22		
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業でとらえる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方 東京・TOKYO・今いる地域
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 —プラタモリの世界—
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境 —海外旅行はいつが一番お得かを地理学で—
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境 なぜ、最近暑い
第 7 回	現代の人の生活・文化	餃子で考える、環境・文化・食文化と環境決定論の世界
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	日本はこんなに世界から遅れたか C・・

第 9 回 現代社会の情報・通信・観光 AI、ビッグデータ、GIS

第 10 回 日本社会における諸問題（1） 地理学的な考え方を学ぶ災害を GoogleMap で東北から考える

第 11 回 日本社会における諸問題（2） 日本の諸地域を事例として 東京だけが・・・

第 12 回 グローバル社会における諸問題（1） 地理学的な考え方を学ぶには？ あなたの服はどこで作られた

第 13 回 グローバル社会における諸問題（2） 世界の諸地域を事例として 共生と分断の今

第 14 階 まとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。そこで常に疑問や多様性を見つけてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内および授業支援システムなどで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、基本的にはハイブリッド型(対面授業含む)の形式になります。具体的な方法と基準は、授業開始日あるいは学習支援システムで提示しますが、原則的には、複数レポートによる評価中心の可能性がります。変更の場合は、すぐにお知らせしますが、複数レポート(80%)平常点(20%)で総合評価予定とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナのため、大半の学生の皆さんはオンライン授業で苦労したと思います。映像資料(写真や YOUTUBE など)は好評でしたので、いろいろと今後も活用しようと思います。アフターコロナ以降は、なんでも前向きに考えてみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組、新聞などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。また、支援システム等で資料などを提示する機会が多いですので、慣れるようにしてください。

【その他の重要事項】

暗記科目からの脱却などから、春学期で問題意識や論理的思考からの学問への一歩ととらえ基礎的なリベラルアーツと位置付けています。これは教職や公務員志望の人も同様で論理的にどう考えるか、応用できるかで学びがかわると思います。秋学期のⅡはグローバルな地誌的な見方での応用が中心ですから、できるだけ通年でなくとも、Ⅰ、Ⅱを合わせて履修してみてください。なかなか一歩踏み出せない、柔軟な思考を持ちたいなどの人がかわるかもしれません。なお、担当者の地理学 LC、LD の発展編とは異なる予定です。このためⅠ、Ⅱの授業内容の詳細に関しては 4 月(9 月)に授業内で説明します。

【Outline and objectives】

In high school geography, it seems that the focus was "to memorize" various events around the world and Japan. However, in university geography, from the geographical keywords such as space, area, landscape and place, we deeply understand the various events of the modern world and learn the importance of what students themselves think logically.

In this course, we will consider the state of the local community after-corona from city, country, and the world.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。コロナ以前の世界はコロナ以降のような変化が起きたでしょう。今期は「世界を知ろう」が中心になります。多様な社会や人びとが共生する多様性の重要性と受講生自らが考える力を養います。暗記や知識ではありませんから、初めての受講や高校まで地理をとってなくても心配ありません。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。アフターコロナ後の世界各地や日本などについて、自ら考えていけるようになることを目標とします。さらに、高校までの地理の復習や延長ではなく、地理学とおして多様な持続可能な考え方を尊重することも同様に目標としたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には、ハイブリッド型(対面授業中心の可能性)となります。基本は「世界を知ろう」です。担当者の研究の関係等から日本、アジアを中心に欧米も含めて扱います。詳細は支援システム等でお知らせします。支援システム中心に教材、課題を提示しますので、パソコン等の使用にも慣れてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？～地理学への招待 VR で見る世界
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	かつての大英帝国が地誌を重要視した理由 世界は変わる
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	海外の地下鉄マップやGIS、認知地図などから考える
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	GISやビックデータなど統計資料の紹介と分析を学ぶ
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	昨年と今の世界の相違
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画を分析してみよう
第 7 回	現代世界の諸地域	アメリカから競争、格差分断を考える
第 8 回	現代世界の諸地域	アジアの自然・資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	アジアの光と影 成長市場
第 10 回	現代世界の諸地域	世界と日本の都市を考える

第 11 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパの多様性を見直す・・・自然も含めた生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパの民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。基本的には資料等を支援システム等に掲載する予定である。

【参考書】

適宜授業内で紹介するが、各回の PPT などに載せる参考情報なども確認してほしい。

【成績評価の方法と基準】

現時点では、原則的には、中間、期末のレポート(合計で80パーセント)になると思います(毎回レポート等ではありません)また、残りをリアクションシート、平常点などをプラス評価に加える予定です。

【学生の意見等からの気づき】

この授業だけでなく、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心のハイブリッド形式を予定していますから、授業を起点としたコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを教材や課題等で使用するので、慣れてほしい。もう 1 つは通信環境です。最悪の場合はスマホでも仕方ありませんが、秋学期は、パソコン等大学の無料貸し出しも含めて考えてみてください。

【その他の重要事項】

秋以降のコロナ次第ですが、万が一の ZOOM などのオンライン授業の場合は常識的なルールは大人として考え、行動してください。状況次第ですが昨年できなかったフィールドワークもトライできることを祈っています。

【Outline and objectives】

We will compare various regions of the world and Japan based on various materials and learn that there are various regions and people in modern society. Besides, in the society in which globalization is prosperous, we will cultivate the students themselves to think about the importance of coexistence of diverse people.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシア・ヨーロッパの集落景観、民族と国家、観光などを中心に扱います。各テーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。大学の方針に従って、対面授業・オンライン授業の併用を考えています。対面授業が可能になっても、1 限のため、開始時間をずらし、授業支援システムでの資料配信やコメント提出もしていただきます。リアクションペーパーには授業支援システムを使って教員からコメントをします。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明 ～集落景観と地理学
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方 ～法政大学周辺を地理学的に考える
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 ～プラタモリにみる地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境～ロシア・ヨーロッパの地形・気候・土壌・植生
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境～日本の地形・気候・土壌・植生
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	ロシア・モスクワの都市生活・文化
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	ロシア・カフカス地方における紛争
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	ヨーロッパにおける世界遺産と歴史的景観保存

第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？～日本の観光地理の現在
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として～現代日本におけるインバウンド観光と地域のあり方～京都・大阪
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？～ロシア・ヨーロッパにおける地域共同体の現在
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として～ロシア・ヨーロッパの民族と国家の関係
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート課題 100%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真や DVD、映画など）は好評でしたので、対面授業が可能になった場合は、鑑賞する機会をもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います。それを見ることができるよう PC などの機器類を準備してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、主に日本・ロシアの地誌を扱います。大学の方針に従って、対面授業・オンライン授業の併用を考えています。対面授業が可能になっても、1限のため、開始時間をずらし、授業支援システムでの資料配信やリアクションペーパーの提出・返送も行います。必要な事項は全員向けに授業支援システム内の掲示板を利用します。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？～地誌＝地域像・世界像の構築
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明～日本とロシアの地誌とは？
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	世界地図を眺め、どこにどのような国々があるのか、把握する
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料をもとに、ロシアと日本の現状を把握する
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日露関係をめぐるニュースや記事を取り上げる
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	北方領土問題に関する NHK スペシャル → 内容をレジюмеで紹介する
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家～ロシアと日本
第 8 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの人口問題
第 10 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために～日露関係の未来とは？
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います。それを見ることができるよう、PC などの機器類は準備してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

文 1 年 P～X、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないだろうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。環境問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、レポートを提出いただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？

第 13 回 グローバル社会における世界の諸地域を事例として
る諸問題（2）

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline and objectives】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, area, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

文1年P～X、国1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「海」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸の視点も組み入れて諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼システムを見据えながら「人間社会と海の関係性」をさらに考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、レポートを提出いただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	戦後日本における沿岸域の開発とその問題
第4回	映像資料から世界・日本について考える	日本の里海再生の取り組みとその現状
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と島嶼ネットワーク
第6回	統計資料をもとに世界・日本について考える	日本の海洋産業の現状と課題
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化
第12回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など

第13回 現代の私たちが描く世 未来の社会のために

界像・日本像

第14回 まとめ 試験

授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline and objectives】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between human society and the sea" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」に関する様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案が目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々に顕在化してきています。全 14 回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、レポートを提出いただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々
第 8 回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第 9 回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として

第 12 回 グローバル社会における地理学的な考え方を学ぶには？

諸問題（1）

第 13 回 グローバル社会における世界の諸地域を事例として

諸問題（2）

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってください。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。

【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思っております。必ずご確認くださいませよう。

【Outline and objectives】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, area, landscape and location. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全 14 回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、レポートを提出いただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第 4 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第 5 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本における島嶼政策の展開とその問題
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	島嶼コミュニティの力
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後は、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館を活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。

【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思ひます。必ずご確認くださいませう。

【Outline and objectives】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

状況の許す限り対面を考えているが、オンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの講評は基本的に次の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「社会学」とはどのような学問か
第 2 回	自己と他者の社会学	相互行為と自己
第 3 回	行為と集団	行為の種類、群衆・公衆・大衆
第 4 回	公共空間と親密空間	電車の中の社会学
第 5 回	多様化する家族	誰を家族とするか
第 6 回	生殖という問題	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと生命倫理
第 7 回	家族の中の人生	現代の家族をめぐる諸問題
第 8 回	セクシュアリティとジェンダー	性現象の見方、フェミニズム
第 9 回	職業労働と家事労働	ワーク・ライフ・バランス、男性学
第 10 回	社会福祉と社会保障	福祉国家・貧困・福祉政策
第 11 回	貧困と社会的排除	日本における社会保障
第 12 回	健康と医療	医療社会学の基本概念
第 13 回	医療と自己決定	「病いの語り」を解釈する
第 14 回	薬害を考える	サリドマイド事件再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）を授業にて配布する。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007年）、松田健『テキスト現代社会学 [第 3 版]』ミネルヴァ書房（2003年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%と期末レポート 50%を成績の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using newspaper and video materials including teaching contents created by the teacher in charge, learning mainly focuses on lecture forms while taking up actual social phenomena.

In addition, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, there are times when we address the challenge and comment preparation within the class.

Students' submissions are fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

法 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

状況が許す限り対面で行う予定だが、場合によってはオンデマンド形式で授業資料を配信することもあり得る。質問はメールにて受け付ける。リアクションペーパーの課題を毎回出し、翌週プライとして全体の講評を行うスタイルにしたいが、すべてオンデマンドになった場合には、2020年度と同様に5回の小課題を出すことも検討している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働の意味	就労をめぐる諸問題
第2回	消費社会を生きる	ポストフォーディズムと超越性
第3回	地域社会	コミュニティの形成と都市社会学
第4回	国家とグローバリゼーション	グローバル化、ネイション、ナショナリズム
第5回	エスニシティ	エスニシティとは何か、同化主義、多文化主義
第6回	宗教と社会	社会学にける宗教研究、グローバル化と宗教対立
第7回	犯罪と逸脱	「犯罪とは何か」という問い
第8回	教育と社会	現近代における教育、教育格差
第9回	社会秩序と権力	秩序維持のメカニズム、フリーライダー問題
第10回	社会運動と社会構想	市民活動と政治変革
第11回	マスコミュニケーション	マスコミの効果・影響
第12回	ジャーナリズム	ニュースのつくられ方
第13回	メディア	公共性、メディア論の視点
第14回	総括	「個人と社会」再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）をアップする。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007年）、松田健『テキスト現代社会学【第3版】』ミネルヴァ書房（2003年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーもしくは小課題などの平常点 50%、期末レポート 50%を成績評価の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using newspaper and video materials including teaching contents created by the teacher in charge, learning mainly focuses on lecture forms while taking up actual social phenomena.

In addition, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, there are times when we address the challenge and comment preparation within the class.

Students' submissions are fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる新書『ポスト戦後社会』をテキストとする。

社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業形態は以下の通り（ただし、市ヶ谷キャンパスの授業実施状況により変更される可能性がある）。

自宅または教室など学内外の学習環境の整った場所（遠隔を含む）での電子教材による学習と、オンライン（Zoom）での質疑、ディスカッションとを組み合わせて、授業を進めていく予定である。電子教材で学習する回では、その最後に、学習した内容を踏まえた課題に取り組み。課題は、次回授業日までの指定される期限内に、学習支援システムにより提出する。

課題等に対するフィードバックは、配信する電子教材内での紹介やコメントを基本とする。ディスカッションをおこなう場合には、その場で発言してもらい、受講者の間で考察を深めていくきっかけにしたい。個別的な質問等については、メールおよび学習支援システム（教員のコメント）で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、進め方等の説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習したのち、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。（ディスカッションを交える予定）
第 4 回	「新しい社会運動」	「新しい社会運動」について、対抗文化の概念と合わせて学習する。

第 5 回 「市民」、ジェンダー 新しい社会運動の具体的事例として、1960～70 年代の「市民」運動と、1970 年代の女性解放運動を考察しつつ、ジェンダー概念について学習する。（ディスカッションを交える予定）

第 6 回 「沖縄返還」 1972 年の「沖縄返還」に対する、当時の沖縄社会における多声性を学ぶ。

第 7 回 「情報化社会」 メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。

第 8 回 社会階層 階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察をおこなう。

第 9 回 消費社会 消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的变化、「都市のメディア化・ステージ化」について学習する。（ディスカッションを交える予定）

第 10 回 小フィールド調査：市街空間をメディア論の視点から読む 市街空間をメディア論の視点から実践するべく、各自でフィールド調査とその報告をおこなう。

第 11 回 自己意識 自己意識の概念を学習した上で、これを情報社会化・消費社会化とかわらせて考察する。

第 12 回 国土開発 戦後の開発と国土の変容について学習する。

第 13 回 政治社会学の観点 「田中政治」を事例に、政治現象を社会変化と結びつけて考察する視点を学ぶ。

第 14 回 振り返りと総括 各自、春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題に取り組みと共に、疑問点を整理する。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

- ・ニッポン戦後サブカルチャー史
(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)
 - ・NHKアーカイブス「NHK 名作選」> ニュース
(<http://www.nhk.or.jp/archives/search/genre/>)
 - ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）
- その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、視点の提起やディスカッションでの発言とその内容（10%）、で評価する。ただし、事情があってオンラインでのディスカッションに参加できない場合は、課題の提出状況とその内容（100%）、で評価する。なお、電子教材で学習する回は基本的に毎回、課題に取り組み。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 日本のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、個人用情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる新書『ポスト戦後社会』をテキストとする。

社会学Ⅱでは、家族の意識・ジェンダー構造・住まいや地域開発をテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業形態は以下の通り（ただし、市ヶ谷キャンパスの授業実施状況により変更される可能性がある）。

自宅または教室など学内外の学習環境の整った場所（遠隔を含む）での電子教材による学習と、オンライン（Zoom）での質疑、ディスカッションとを組み合わせて、授業を進めていく予定である。電子教材で学習する回では、その最後に、学習した内容を踏まえた課題に取り組む。課題は、次回授業日までの指定される期限内に、学習支援システムにより提出する。

課題等に対するフィードバックは、配信する電子教材内での紹介やコメントを基本とする。ディスカッションをおこなう場合には、その場で発言してもらい、受講者の間で考察を深めていくきっかけにしたい。個別的な質問等については、メールおよび学習支援システム（教員のコメント）で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概容、進め方等の説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	ジェンダー構造	近代家族やライフ・サイクルの概念を学習しつつ、日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	「友愛家族」の社会的基盤	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回 郊外

郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。

第5回 「リアリティの反転」

「リアリティ」の概念を学習した上で、パーソナルメディアによる「リアリティの反転」について考察する。

第6回 犯罪社会学

見田宗介『まなごしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。

第7回 ひきこもり

ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を、家族社会学の視点と絡めて学習する。

第8回 公害と環境問題

水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。

第9回 地域開発——産業・自然・地域社会

1960年代~70年代前半の地域開発について、映像資料も参照して考察する。

第10回 定住圏構想

1977年に国が策定した全国総合開発計画（三全総）が提示した定住圏構想を、イラストを使って理解、説明する。

第11回 「自然」とは

NHKの証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然保護」を相対化する視点を学習する

第12回 1980年代以降の都市再開発と地域開発

都市再開発と高層化に関して学習したのち、地域リゾート開発の教訓について考察する。

第13回 縮減社会と地域自治

マクロの状況をおさえつつ、地方の地域づくりについて考える。

第14回 振り返りと総括

各自、秋学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題に取り組むと共に、疑問点を整理する。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

【参考書】

- ・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)
 - ・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)
 - ・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapps.gsi.go.jp/>)
 - ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019年）
- その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、視点の提起やディスカッションでの発言とその内容（10%）、で評価する。ただし、事情があってオンラインでのディスカッションに参加できない場合は、課題の提出状況とその内容（100%）、で評価する。なお、電子教材で学習する回は基本的に毎回、課題に取り組む。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes social world with key concepts and social theories through looking at social change of Japan's society since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、ハイブリッド型の授業形態で実施の予定です。対面で授業できる場合は、教室で資料配布＋講義＋課題提出、対面で授業できない場合は、オンラインで資料の配付＋ ZOOM での講義＋オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。

- 第 11 回 現代の社会について考える 1 スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
- 第 12 回 現代の社会について考える 2 旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
- 第 13 回 現代の社会について考える 3 住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
- 第 14 回 現代の社会について考える 4 今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどのようなものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどのようなものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどのようなものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline and objectives】

Students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.

Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、ハイブリッド型の授業形態で実施の予定です。対面で授業できる場合は、教室で資料配布＋講義＋課題提出、対面で授業できない場合は、オンラインで資料の配布＋ZOOMでの講義＋オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム (1)	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム (2)	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム (3)	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム (4)	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き (1)	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き (2)	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き (3)	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き (4)	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題 (1)	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題 (2)	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題 (3)	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題 (4)	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題 (5)	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。

14 まとめ

今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういったものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30%）、および中間レポート（30%）、期末レポート（40%）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOMとマイクソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline and objectives】

Students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる新書『ポスト戦後社会』をテキストとする。

社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業形態は以下の通り（ただし、市ヶ谷キャンパスの授業実施状況により変更される可能性がある）。

自宅または教室など学内外の学習環境の整った場所（遠隔を含む）での電子教材による学習と、オンライン（Zoom）での質疑、ディスカッションとを組み合わせて、授業を進めていく予定である。電子教材で学習する回では、その最後に、学習した内容を踏まえた課題に取り組み。課題は、次回授業日までの指定される期限内に、学習支援システムにより提出する。

課題等に対するフィードバックは、配信する電子教材内での紹介やコメントを基本とする。ディスカッションをおこなう場合には、その場で発言してもらい、受講者の間で考察を深めていくきっかけにしたい。個別的な質問等については、メールおよび学習支援システム（教員のコメント）で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、進め方等の説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習したのち、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。（ディスカッションを交える予定）
第 4 回	「新しい社会運動」	「新しい社会運動」について、対抗文化の概念と合わせて学習する。

第 5 回 「市民」、ジェンダー 新しい社会運動の具体的事例として、1960～70 年代の「市民」運動と、1970 年代の女性解放運動を考察しつつ、ジェンダー概念について学習する。（ディスカッションを交える予定）

第 6 回 「沖縄返還」 1972 年の「沖縄返還」に対する、当時の沖縄社会における多声性を学ぶ。

第 7 回 「情報化社会」 メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。

第 8 回 社会階層 階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察をおこなう。

第 9 回 消費社会 消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的变化、「都市のメディア化・ステージ化」について学習する。（ディスカッションを交える予定）

第 10 回 小フィールド調査：市街空間をメディア論の視点から読む 市街空間をメディア論の視点から実践するべく、各自でフィールド調査とその報告をおこなう。

第 11 回 自己意識 自己意識の概念を学習した上で、これを情報社会化・消費社会化とかわらせて考察する。

第 12 回 国土開発 戦後の開発と国土の変容について学習する。

第 13 回 政治社会学の観点 「田中政治」を事例に、政治現象を社会変化と結びつけて考察する視点を学ぶ。

第 14 回 振り返りと総括 各自、春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題に取り組みと共に、疑問点を整理する。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

- ・ニッポン戦後サブカルチャー史
(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)
 - ・NHKアーカイブス「NHK 名作選」> ニュース
(<http://www.nhk.or.jp/archives/search/genre/>)
 - ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）
- その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、視点の提起やディスカッションでの発言とその内容（10%）、で評価する。ただし、事情があってオンラインでのディスカッションに参加できない場合は、課題の提出状況とその内容（100%）、で評価する。なお、電子教材で学習する回は基本的に毎回、課題に取り組み。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 日本のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、個人用情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる新書『ポスト戦後社会』をテキストとする。

社会学Ⅱでは、家族の意識・ジェンダー構造・住まいや地域開発をテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業形態は以下の通り（ただし、市ヶ谷キャンパスの授業実施状況により変更される可能性がある）。

自宅または教室など学内外の学習環境の整った場所（遠隔を含む）での電子教材による学習と、オンライン（Zoom）での質疑、ディスカッションとを組み合わせて、授業を進めていく予定である。電子教材で学習する回では、その最後に、学習した内容を踏まえた課題に取り組む。課題は、次回授業日までの指定される期限内に、学習支援システムにより提出する。

課題等に対するフィードバックは、配信する電子教材内での紹介やコメントを基本とする。ディスカッションをおこなう場合には、その場で発言してもらい、受講者の間で考察を深めていくきっかけにしたい。個別的な質問等については、メールおよび学習支援システム（教員のコメント）で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概容、進め方等の説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	ジェンダー構造	近代家族やライフ・サイクルの概念を学習しつつ、日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	「友愛家族」の社会的基盤	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回 郊外

郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。

第5回 「リアリティの反転」

「リアリティ」の概念を学習した上で、パーソナルメディアによる「リアリティの反転」について考察する。

第6回 犯罪社会学

見田宗介『まなごしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。

第7回 ひきこもり

ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を、家族社会学的視点と絡めて学習する。

第8回 公害と環境問題

水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。

第9回 地域開発——産業・自然・地域社会

1960年代～70年代前半の地域開発について、映像資料も参照して考察する。

第10回 定住圏構想

1977年に国が策定した全国総合開発計画（三全総）が提示した定住圏構想を、イラストを使って理解、説明する。

第11回 「自然」とは

NHKの証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然保護」を相対化する視点を学習する

第12回 1980年代以降の都市再開発と地域開発

都市再開発と高層化に関して学習したのち、地域リゾート開発の教訓について考察する。

第13回 縮減社会と地域自治

マクロの状況をおさえつつ、地方の地域づくりについて考える。

第14回 振り返りと総括

各自、秋学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で出される課題に取り組むと共に、疑問点を整理する。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

【参考書】

- ・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)
 - ・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)
 - ・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapps.gsi.go.jp/>)
 - ・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019年）
- その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、視点の提起やディスカッションでの発言とその内容（10%）、で評価する。ただし、事情があってオンラインでのディスカッションに参加できない場合は、課題の提出状況とその内容（100%）、で評価する。なお、電子教材で学習する回は基本的に毎回、課題に取り組む。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC やタブレットなどの情報機器および通信環境。
- ・この授業では、電子教材の配信や課題提出に関する案内を、学習支援システムでおこないます。履修を考えられる場合には、学習支援システムへの登録を早めにおこなってください。

【Outline and objectives】

You will consider how sociology views and analyzes social world with key concepts and social theories through looking at social change of Japan's society since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

営 1 年 A~J、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンデマンド（資料型等）の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付 + ZOOM での講義 + オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。

第 11 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
第 12 回	現代の社会について考える 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 13 回	現代の社会について考える 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 14 回	現代の社会について考える 4	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどのようなものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどのようなものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどのようなものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年

https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline and objectives】

Students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.

Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

営 1 年 A~J、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンデマンド（資料型等）の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付 + ZOOM での講義 + オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム (1)	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム (2)	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム (3)	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム (4)	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き (1)	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き (2)	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き (3)	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き (4)	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題 (1)	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題 (2)	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題 (3)	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題 (4)	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題 (5)	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996 年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30 %）、および中間レポート（30 %）、期末レポート（40 %）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline and objectives】

Students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に、オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロード（できれば印刷も）して受講する。対面授業の回は応用編であり、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。（もし希望者がいれば、Zoom を利用したリアルタイム型を併用し、ハイブリッド型で行なう）。各テーマにおいてリアクションまたは課題を課し、その場でまたは翌週の授業でフィードバックする。

なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、社会と社会学	授業の進め方について（ネット環境等の確認）、テキスト第1章概説
2	社会学は社会のどこで生まれるか	第1章発展編
3	相互作用と自己	テキスト第2章概説
4	〈自分らしく生きる〉とはどういうことか	第2章発展編
5	家族と親密な関係	テキスト第3章概説
6	「フツの家族」は普通なのか	第3章発展編
7	ジェンダーとセクシュアリティ	テキスト第4章概説
8	男社会の構造は変わりうるか	第4章発展編
9	労働と企業組織	テキスト第5章概説
10	働くことは喜びか、苦しみか	第5章発展編
11	環境と科学技術	テキスト第6章概説

12 環境は成長と開発の呪

縛を解くことができる

か

13 医療・保健・福祉 テキスト第7章概説

14 病いや障害は「不幸」 第7章発展編

なことなのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。

またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

橋本みゆき編著『二世に聴く在日コリアンの生活文化』（社会評論社、近刊）

他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生はそれぞれ関心ある題材に出会えるだろう。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

【Outline and objectives】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年S～Y / 法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に、オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロード（できれば印刷も）して受講する。対面授業の回は応用編であり、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める（もし希望者がいれば、Zoomを利用したリアルタイム型を併用し、ハイブリッド型で行なう）。各テーマにおいてリアクションまたは課題を課し、その場でまたは翌週の授業でフィードバックする。なお大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、逸脱と社会病理：テキスト概説	授業の進め方の説明、テキスト第8章概説
2	病いや障害は「不幸」なことなのか	第8章発展編
3	階層・階級・不平等	テキスト第9章概説
4	親から子どもへ格差が受け継がれやすいのはなぜか	第9章発展編
5	都市とコミュニティ	テキスト第10章概説
6	都市研究には社会学のどんな姿が映しだされているか	第10章発展編
7	グローバリゼーションとエスニシティ	テキスト第11章概説
8	グローバリゼーションは社会や社会学理論にどのような変化をもたらしたか	第11章発展編
9	メディアとコミュニケーション	テキスト第13章概説

10	「民意を問う」とはどのようなことか	第13章発展編
11	社会運動とNPO/NGO	テキスト第14章概説
12	市民は社会を変革できるか	第14章発展編
13	国家・権力・公共性	テキスト第15章概説
14	パラリンピックはなにを夢見るのか	第15章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。
・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。
またテーマごとに資料を用意する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生は関心ある題材に出会えるかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもおもしろいだろう。

【その他の重要事項】

授業内容は春学期の続き（テキスト第8章以降）であるが、扱うテーマは独立したものであるため、秋学期から受講しても差し支えない。ただし社会学の基本的視座を示したテキスト第1章は開講前に読んでおくこと。
なお受講生に相談したうえで順序等を変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型] を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	政治学、経済学との比較を通して、社会学の特徴を理解する
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	森達也『放送禁止歌』を事例に
10	対抗文化	小池征人のドキュメンタリー映画「人間の街」を事例に
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス
14	政治社会学の視点	M・ヴェーバー『職業としての政治』、同『権力と支配』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用います。

【参考書】

必要に応じて追加で配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。

ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。
マックス・ヴェーバー（1989）大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。

マックス・ヴェーバー（1972）清水幾太郎訳『社会学の根本概念』

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する際の課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業〔Zoom等のリアルタイム型〕を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料を用います。

【参考書】

見田宗介（1996）『現代社会の理論』岩波新書

ジグムント・バウマン（2008）伊藤茂訳『新しい貧困』青土社

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、Zoom等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用するの課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型 / オンデマンド型] の組み合わせ）を基本とする。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム（Hoppii）」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	政治学、経済学との比較を通して、社会学の特徴を理解する
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	森達也『放送禁止歌』を事例に
10	対抗文化	小池征人のドキュメンタリー映画「人間の街」を事例に
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス
14	政治社会学の視点	M・ウェーバー『職業としての政治』、同『権力と支配』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用います。

【参考書】

必要に応じて追加で配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。

ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。マックス・ヴェーバー（1989）大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。

マックス・ヴェーバー（1972）清水幾太郎訳『社会学の根本概念』

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、対面もしくは Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する際の課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業〔Zoom等のリアルタイム型／オンデマンド型〕の組み合わせ）を基本とする。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム（Hoppii）」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料を用います。

【参考書】

見田宗介（1996）『現代社会の理論』岩波新書
ジグムント・バウマン（2008）伊藤茂訳『新しい貧困』青土社

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と期末試験（60%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価します。期末試験は、対面もしくは Zoom 等のリアルタイム型で実施予定です。「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用した課題提出や告知がありますので、必ず頻繁に使用するメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はテキストを中心にしたレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してテキスト、レジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）

【参考書】

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および 1～2 回の小レポート課題によって評価を決める。試験が 70%、小レポート課題が 30% とするが、回数と割合は教室を使った試験ができるかオンラインかによって変わる場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline and objectives】

You will study basic concept of politics and political system in nation by lecture.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はテキストを中心としたレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してテキスト、レジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017年、定価 2200 円（税込）

【参考書】

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年 836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年 1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および 1～2 回の小レポート課題によって評価を決める。試験が 70%、小レポート 30% とするが、回数と割合は教室を使った試験ができるかオンラインかによって変わる場合がある。評価基準として、政治学の基本概念と政治制度を中心とした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline and objectives】

You will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度（=手書きのレポートなどの提出物、30%）+試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）です。

（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%（受講態度 50%+提出物 50%）の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート・教科書

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年

杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度（＝手書きのレポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）です。

（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%（受講態度 50%＋提出物 50%）の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度（=手書きのレポートなどの提出物、30%）+試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）です。

（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%（受講態度 50%+提出物 50%）の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いつつ蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年

杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

例年の場合、参加度（＝手書きのレポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）です。

（ただし、非常事態宣言に伴うオンライン講座の対応となった場合、参加度のみの 100%（受講態度 50%＋提出物 50%）の評価といたします。無論、上記の措置が解除され大学での試験実施が可能な場合は通常通りの実施となります。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の

専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。

試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法 1 年 H~N、環キ 1 年/法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づく講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

法 1 年 H～N、環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくても理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はテキストを中心にしたレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してテキスト、レジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）

【参考書】

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および 1～2 回の小レポート課題によって評価を決める。試験が 70%、小レポート課題が 30% とするが、回数と割合は教室を使った試験ができるかオンラインかによって変わる場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline and objectives】

You will study basic concept of politics and political system in nation by lecture.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はテキストを中心としたレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してテキスト、レジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017年、定価 2200 円（税込）

【参考書】

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年 836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年 1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および 1～2 回の小レポート課題によって評価を決める。試験が 70%、小レポート 30%とするが、回数と割合は教室を使った試験ができるかオンラインかによって変わる場合がある。評価基準として、政治学の基本概念と政治制度を中心とした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline and objectives】

You will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 Q~U、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【重要】

・第1回授業は、学習支援システム（Hoppi）によるオンデマンド型授業で実施する。開講時限になったら、Hoppi にアクセスすること。
・また、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ※学習支援システム (Hoppi)によるオンデマンド型授業で実施	講義の概要について説明する
2	古代と近代の民主政治	プラトンとルソーを中心に(教科書、1章1・2節)
3	自由主義と民主主義	権力分立、基本的人権(1章3節)
4	民主政治に対する懐疑と再定義	ナショナリズム、ポピュリズム、全体主義の経験から(2章)
5	福祉国家の構造と論争	社会民主主義と新自由主義(3章)
6	議院内閣制と大統領制	行政の最高責任者の選出法とその影響(4章)
7	選挙と投票行動	組織票、無党派、無関心(5章)
8	議会と政党	国会無能論、多数者の専制(6章)
9	官僚と利益集団	縦割り行政、官僚制の肥大化、族議員(7章)
10	世論	マスメディアの役割、SNSの台頭(8章)
11	地方自治	地方分権改革の問題(9章)
12	主権国家と国際秩序	グローバル・イシューの噴出(10章)
13	アイデンティティと差異	フェミニズム、多文化主義、熟議民主主義(11章)
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』東京大学出版会、2012年、2,420円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験(80%)、リアクションペーパー(20%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 Q～U、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	戦後の日本政治 (教科書 1 章)	1 戦後改革から 55 年体制の成立へ 2 経済成長と自民党長期政権 3 政治改革と日本政治の変容
3	政治参加 (2 章)	1 国政選挙と日本人の投票行動 2 投票参加と投票行動 3 現代日本の政治参加
4	団体政治・自発的結社 (3 章)	1 団体・結社とは何か 2 現代日本政治における団体・結社の影響力 3 民主政治における団体の重要性
5	政党と政治家 (4 章)	1 誰がどのような活動をしているのか 2 政党の理念と組織、政党システム 3 選挙制度の影響
6	議院内閣制と首相 (5 章)	1 議院内閣制とは何か 2 戦後日本の首相 3 21 世紀日本の首相
7	国会 (6 章)	1 国会の特徴 2 立法過程 3 国会の評価
8	官僚・政官関係 (7 章)	1 官僚制とは何か 2 戦後日本政治における政官関係 3 官僚制と私たち
9	メディア (8 章)	1 政治的なコミュニケーションにおけるメディア 2 現代日本政治とマスメディア 3 メディア環境の変化と政治への影響

10	政策過程の全体像 (9 章)	1 現代日本の政策過程 2 政策過程とは何か 3 政策過程と有権者
11	地方自治 (10 章)	1 なぜ地方自治が必要なのか 2 自治体の政策は誰がどのように決定しているか 3 住民はどのように関わられるのか
12	安心社会とケア (11 章)	1 日本型福祉レジームの特徴 2 日本の政党政治と福祉レジーム 3 ジェンダー視点から見た日本型福祉レジーム
13	共生社会とシティズンシップ (12 章)	1 近代国民国家の誕生 2 近代シティズンシップ論 3 共生の原理としてのシティズンシップ
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上神貴佳、三浦まり編『日本政治の第一歩』有斐閣ストゥディア、2018 年、2,090 円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80%）、リアクションペーパー（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline and objectives】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～E / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。現代において政治を構成するさまざまな要素について、時事的な現象と関連付けて学んでいく。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれにたいする回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での複数回のレポート課題および小テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点にもとづき総合的に評価する。平常点は、毎回の授業への取り組み、小テストやレポートなどの課題の提出とその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会における課題と政治学を関連づけ、考察する機会を意図的に授業の中で設けていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science. This course deals with basic concepts of the political science.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～E / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。現代において政治を構成するさまざまな要素について、時事的な現象と関連付けて学んでいく。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれにたいする回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での複数回のレポート課題および小テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第 3 回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第 4 回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第 5 回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第 6 回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第 7 回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第 8 回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第 9 回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第 10 回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第 11 回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第 12 回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第 13 回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点にもとづき総合的に評価する。平常点は、毎回の授業への取り組み、小テストやレポートなどの課題の提出とその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

現代に起こる政治的事象と政治学の概念を関連付けて考える機会をより充実させていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science. This course deals with the modern politics in Japan.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 F~O / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。
 復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

営 1 年 F～O / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくても理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline and objectives】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。また、授業の初めに、前回の授業の課題に対する回答をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換・再分配	文化人類学の理論の中核を成す、贈与、交換、再分配に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第九回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十一回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十二回	ポストコロニアル人類学	80年代以降、人類学は、コロナル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十三回	オリエンタリズム批判とポストモダニズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題 60%、レポート 40% で評価する。ただし、レポートの提出は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらつつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of cultural anthropology. Students should think what understanding of a culture is and how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

四條 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな民族の諸活動の背景にある「文化」を理解して、多様な人間のあり方を考えます。また、文化人類学の基本的な考え方を理解した上で、異文化および自文化の構造や意味を、自分の力で客観的かつ理論的に認識・分析できるようになることを目指します。

【到達目標】

文化人類学の基本的な考え方を理解した上で、異文化および自文化の構造や意味を、自分の力で客観的かつ理論的に認識・分析できるようになることを目標とします。なお、本講義は秋学期開講科目（火曜 3・4 限）の「文化人類学 L」と合わせて履修すると、より文化人類学に関する理解が深まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業の冒頭では、提出されたミニレポート／課題の回答のうち興味深い例を紹介し、前回授業の振り返りを行います。

また履修人数によっては、授業内でグループディスカッションやミニディスカッションなども予定しています。

なお授業形式は、履修人数や開講時の社会状況などにより変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方について詳細を説明します。
第 2 回	文化人類学とは①	「進化」のこれまで・これからについて考えます。
第 3 回	文化人類学とは②	多文化社会を支える文化相対主義について考えます。
第 4 回	文化人類学とは③	柳田國男と宮本常一の生き方を通して、日本における人類学の歴史を見つめます。
第 5 回	フィールドワーク	人類学の醍醐味であるフィールドワークについて、実施方法や考え方を学びます。
第 6 回	結婚	多様な結婚について考えます。
第 7 回	オヤコ	家族の形とは？
第 8 回	儀礼	私たちの日常にあふれる儀礼について考えます。
第 9 回	妊娠と出産	文化と妊娠・出産との関係は？
第 10 回	食	あなたの「好き」「嫌い」が操作されている？
第 11 回	互酬性	私たちをとりまく「give and take」について考えます。
第 12 回	開発	人類学の視点から、開発について考えます。
第 13 回	観光	「ニセモノ」は「ニセモノ」なのか？

第 14 回 多元的社会

文化・言語としての「ろう」を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【予習課題】：毎回のテーマに関連するリーディングとその要約を行い、指定した方法で提出します。

【復習課題】：毎回のテーマと関係するトピックについてミニ・リサーチなどを行い、指定した方法で提出します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

毎回のテーマに関する参考文献は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のミニレポートと課題：40%

期末試験（もしくはレポート）：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業では、英語メディア教材（リーディング課題や参照動画）を併用します。履修生は英語学習を習慣化し（英語ラジオや英語動画の視聴など）、英語理解力の向上を心がけましょう。

【Outline and objectives】

Through understanding of the basic concepts and ideologies of cultural anthropology, students will learn and also be required to comprehend the meanings of each cultural/social practice in the current global society.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会現象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	スリランカ伝承医療との出会い（フィールドワーク紹介）	私（担当教員）がスリランカ伝承医療の治療家のもとで行なったフィールドワークについて紹介します。
3	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず受講してください。

4	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。
5	言葉と認識:言葉が違おうと世界も違って見える?	文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論について学びます。
6	ケガレとタブー:「きたなさ」の正体をさぐる	日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。
7	ケガレと吉祥:スリランカ女性のライフサイクルと身体	スリランカ女性のライフサイクルに生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。
8	贈与と交換と絆:社会をつくる経済活動	人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与と交換を題材に、社会の作られ方と人びとの繋がり方について考えます。
9	布施が支える社会福祉:スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス	スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。
10	輪廻転生の世界観	チベット仏教に伝わる「死者の書」に関するドキュメンタリー映像を鑑賞しながら、輪廻転生の死生観やそれに基づき死者を弔う人びとの生き方について考えます。
11	不幸の説明と呪術:医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくなるのはなぜだろう?	突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ?」という問いに、対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。
12	癒しと呪術:スリランカの悪魔払い	スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。
13	ジェンダー	文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。
14	自己に住まう他者:「私」と「あなた」の境界はどこにある?	様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対し対面あるいはオンラインによるインタビューを実施し、それに基づきその人のライフヒストリーを作成してもらいます。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（60%）および小レポートの内容（40%）にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、言語や文化、社会構造、環境問題といったさまざまなトピックを通して学ぶ。

【到達目標】

文化の多様性と普遍性について知る。異文化と自文化を理解する力を身に付ける。全体を通して、文化人類学的な物の見方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回異なった話題とテーマを取り上げ、文化人類学の方法論や概念を解説する。文化の概念、言語の多様性と構造的な特色、社会構造、日本の民俗、通過儀礼、宗教問題などを取り上げ、文化人類学の学問的意義、基本的発想、概念等について体系的かつ平易に解説する。なお、毎回の授業ではプリントを配り、それに沿って講義を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文化人類学とはなにか	文化人類学の概要を解説し、それを学ぶことの意義を説明する。
2	人間と文化	文化人類学の基本となる人間と文化について解説する。
3	言語（1）	言語人類学について解説する。
4	言語（2）	言語人類学について解説する。
5	言語（3）	言語人類学について解説する。
6	民俗社会	日本の民俗社会について考える。
7	社会構造	社会構造について解説する。
8	通過儀礼（1）	通過儀礼について解説する。
9	通過儀礼（2）	通過儀礼について解説する。
10	農耕	農耕と文化について解説する。
11	補足（1）	全体的な補足をおこなう。
12	補足（2）	全体的な補足をおこなう。
13	調査とレポート	文化人類学の調査方法と論文のまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめをおこない、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネット等を通して、授業テーマに関する情報に接するよう心がけること。また、授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、復習をして授業内容に対する理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験の結果によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて適宜、授業の進度を変える。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

You can study on this program about general theory of cultural anthropology.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。また、授業の初めに、前回の授業の課題に対する回答をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相對主義	機能構造主義と文化相對主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換・再分配	文化人類学の理論の中核を成す、贈与、交換、再分配に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第九回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十回	国民国家とナショナルイズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十一回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十二回	ポストコロニアル人類学	80年代以降、人類学は、コロナル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十三回	オリエンタリズム批判とポストモダニズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアルイズム批判を理解する。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心にに応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題60%、レポート40%で評価する。ただし、レポートの提出は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらおうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of cultural anthropology. Students should think what understanding of a culture is and how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

営1年A～J / 法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会事象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」の「授業内掲示板」から授業動画のURLをお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	スリランカ伝承医療との出会い（フィールドワーク紹介）	私（担当教員）がスリランカ伝承医療の治療家のもとで行なったフィールドワークについて紹介します。
3	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず受講してください。
4	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。

- | | | |
|----|--|--|
| 5 | 言葉と認識:言葉が違うと世界も違って見える? | 文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論について学びます。 |
| 6 | ケガレとタブー:「きたなさ」の正体をさぐる | 日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。 |
| 7 | ケガレと吉祥:スリランカ女性のライフサイクルと身体 | スリランカ女性のライフサイクルに生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。 |
| 8 | 贈与交換と絆:社会をつくる経済活動 | 人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与と交換を題材に、社会の作られ方人びとの繋がり方について考えます。 |
| 9 | 布施が支える社会福祉:スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス | スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。 |
| 10 | 輪廻転生の世界観 | チベット仏教に伝わる「死者の書」に関するドキュメンタリー映像を鑑賞しながら、輪廻転生の死生観やそれに基づき死者を弔う人びとの生き方について考えます。 |
| 11 | 不幸の説明と呪術:医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくならないのはなぜだろう? | 突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ?」という問いに対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。 |
| 12 | 癒しと呪術:スリランカの悪魔祓い | スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。 |
| 13 | ジェンダー | 文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。 |
| 14 | 自己に住まう他者:「私」と「あなた」の境界はどこにある? | 様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対し対面あるいはオンラインによるインタビューを実施し、それに基づきその人のライフストーリーを作成してもらいます。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート(60%)および小レポートの内容(40%)にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

阿部 朋恒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

営1年K~O / 法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きるために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、前半をオンラインリアルタイム講義とオンデマンド資料配信講義をとりまぜながら行い、後半は状況が許せば対面式の授業を適宜実施したい。なお対面授業を行う場合でも、講義を動画資料として配信し、オンラインでも受講ができるよう対応する。

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。各回授業内容についての質問はリアクションペーパーを通じて受け付け、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックを行う。また隔週でオンライン相談窓口（オフィスアワーに相当）を開設し、個別の質問にも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。

7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日の状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。
14	試験・総括と解説	筆記形式（選択問題および論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみること。その際、文化人類学の考え方を応用するなどのような発見があるのかを意識してほしい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『文化人類学キーワード [改訂版]』山下晋司・船曳建夫（編）有斐閣、2008年。

上記の他にも、毎回の授業に関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40%）、筆記形式の期末試験（60%）により評価する。なお、期末試験は紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。期末試験への実地参加が難しい受講生には、オンラインで受験が可能な代替試験を用意する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないように配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。

また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン型リアルタイム授業では Zoom の利用、オンデマンド型動画配信授業では Google Classroom の利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたいうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline and objectives】

Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

阿部 朋恒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

営1年Q~U / 法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きるために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、前半をオンラインリアルタイム講義とオンデマンド資料配信講義をとりまぜながら行い、後半は状況が許せば対面式の授業を適宜実施したい。なお対面授業を行う場合でも、講義を動画資料として配信し、オンラインでも受講ができるよう対応する。

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

各回授業内容についての質問はリアクションペーパーを通じて受け付け、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックを行う。また隔週でオンライン相談窓口（オフィスアワーに相当）を開設し、個別の質問にも対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。

7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。
14	試験・総括と解説	筆記形式（選択問題および論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するなどのような発見があるのかを意識してほしい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『文化人類学キーワード [改訂版]』山下晋司・船曳建夫（編）有斐閣、2008年。

上記の他にも、毎回の授業に関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40%）、筆記形式の期末試験（60%）により評価する。なお、期末試験は紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。期末試験への実地参加が難しい受講生には、オンラインで受験が可能な代替試験を用意する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないように配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。

また、オンライン化に伴って例年になく課題に追われるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン型リアルタイム授業ではZoomの利用、オンデマンド型動画配信授業ではGoogle Classroomの利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたいうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline and objectives】

Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

四條 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

キ1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな民族の諸活動の背景にある「文化」を理解して、多様な人間のあり方を考えます。また、文化人類学の基本的な考え方を理解した上で、異文化および自文化の構造や意味を、自分の力で客観的かつ理論的に認識・分析できるようになることを目指します。

【到達目標】

文化人類学の基本的な考え方を理解した上で、異文化および自文化の構造や意味を、自分の力で客観的かつ理論的に認識・分析できるようになることを目標とします。なお、本講義は秋学期開講科目（火曜3・4限）の「文化人類学L」と合わせて履修すると、より文化人類学に関する理解が深まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業の冒頭では、提出されたミニレポート/課題の回答のうち興味深い例を紹介し、前回授業の振り返りを行います。

また履修人数によっては、授業内でグループディスカッションやミニディスカッションなども予定しています。

なお授業形式は、履修人数や開講時の社会状況などにより変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について詳細を説明します。
第2回	文化人類学とは①	「進化」のこれまで・これからについて考えます。
第3回	文化人類学とは②	多文化社会を支える文化相対主義について考えます。
第4回	文化人類学とは③	柳田國男と宮本常一の生き方を通して、日本における人類学の歴史を見つめます。
第5回	フィールドワーク	人類学の醍醐味であるフィールドワークについて、実施方法や考え方を学びます。
第6回	結婚	多様な結婚について考えます。
第7回	オヤコ	家族の形とは？
第8回	儀礼	私たちの日常にあふれる儀礼について考えます。
第9回	妊娠と出産	文化と妊娠・出産との関係は？
第10回	食	あなたの「好き」「嫌い」が操作されている？
第11回	互酬性	私たちをとりまく「give and take」について考えます。
第12回	開発	人類学の視点から、開発について考えます。
第13回	観光	「ニセモノ」は「ニセモノ」なのか？

第14回 多元的社会

文化・言語としての「ろう」を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習課題】：毎回のテーマに関連するリーディングとその要約を行い、指定した方法で提出します。

【復習課題】：毎回のテーマと関係するトピックについてミニ・リサーチなどを行い、指定した方法で提出します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

毎回のテーマに関する参考文献は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のミニレポートと課題：40%

期末試験（もしくはレポート）：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

本授業では、英語メディア教材（リーディング課題や参照動画）を併用します。履修生は英語学習を習慣化し（英語ラジオや英語動画の視聴など）、英語理解力の向上を心がけましょう。

【Outline and objectives】

Through understanding of the basic concepts and ideologies of cultural anthropology, students will learn and also be required to comprehend the meanings of each cultural/social practice in the current global society.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

国環1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化や国際化の加速度的な進展とともに、地球上のすべての社会を取り巻く文化的環境は大きく変化している。それに伴い、文化人類学では、新しい知の体系を再構築するべく現代的課題を積極的に扱うようになった。本授業では、異文化理解のための基本的な視座を養うとともに、宗教とナショナリズム、開発援助、科学技術、観光と文化創造などの現代的諸テーマを把握し、また自らもかわるグローバルな問題として理解することを目指す。

【到達目標】

- ・異文化の比較考察を行うためのものの見方や基本概念を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・文化的多様性を理解するとともに、グローバル化の渦中の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は【オンデマンド型】で行う予定です（変更の場合は学習支援システムを通して事前に連絡します）。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	フィールドワークの論理	質的調査の方法論とその考え
第3回	親族の組織化	キンドレッド・出自・母系社会
第4回	宗教と精神世界	日本人は「無宗教」なのか
第5回	境界性とタブー	「汚さ」の正体
第6回	人生と儀礼	儀礼の構造と論理
第7回	セクシュアリティとジェンダー	性の多義性とは
第8回	贈物と交換	贈物を社会関係から考える
第9回	芸術とモノ	「美しさ」の正体
第10回	科学技術と人類学	ネットワークとしての科学
第11回	開発現象と人類学	社会開発への転換
第12回	観光と文化創造	「楽園」ハワイの事例から
第13回	オリエンタリズム批判	他者表象の政治性と人類学批判
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
 岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房、2018年。
 梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017年。
 波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。

【成績評価の方法と基準】

レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

学期中にシラバスや授業計画の変更が余儀なくされた場合は学習支援システムで周知します。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We try to understand global issues, such as international development, tourism and conflicts, from anthropological perspective.

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文 1 年 E~N、T~X / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Google Classroom クラスコード 5twv66m
 オンデマンド授業をあくまで原則としますが、状況が許す場合に限り、数回は対面授業（ハイフレックス対応）を実施する可能性があります。オンデマンド授業は、Google Classroom（クラスコード 5twv66m）を使用し、毎回、動画視聴（60分程度）+課題実施というメニューとします。質問には、Google Classroom を利用して随時対応します。
 履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください（クラスコード 5twv66m）。
 登録方法が分からない場合や、そのほか履修前に質問がある場合は、Hoppii のこの授業の掲示板を通じて遠慮なく質問してください。「社会思想」は、社会にかかわるさまざまな考えを学ぶ科目です。この「社会思想 I」のクラスでは、まったくの初学者にも学びやすいように、過去から現代までの理想社会論（ユートピア論）を学びます。どのような社会が、理想的な社会なのでしょう。だれかが考えた「理想社会」は、ほかのひとつにとっては、悪夢ではないでしょうか。

【到達目標】

代表的なユートピア論を学びながら、社会や政治にかかわる学問的理解の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。資料を配布します。履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください（クラスコード 5twv66m）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要
第 2 回	プラトン『国家』	真理にもとづく政治
第 3 回	モア『ユートピア』	平等という理想
第 4 回	ベーコン『ニューアトランティス』、カンパネラ『太陽の都』	コントロールされる性愛
第 5 回	ハリントン『オセアナ』	制度論のアプローチ
第 6 回	カント『永遠平和のために』	国際社会の理想と現実
第 7 回	ユートピア思想としての社会主義	社会主義とはなんだだったかの社会主義
第 8 回	オーウェル『動物農場』	ユートピアからディストピアへ
第 9 回	オーウェル『1984年』	監視国家
第 10 回	ハクスリー『すばらしい新世界』	幸福なディストピア
第 11 回	現代のユートピア・ディストピア（1）	災害ユートピア（ソルニット）
第 12 回	現代のユートピア・ディストピア（2）	パンデミックディストピア（アトウッド）

第13回 現代のユートピア・パンデミックディストピア（そのディストピア（3）ほか）

第14回 まとめ 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した作品を1冊でも、最初から最後まで実際に自分で読んでみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

授業で用いる資料は配布します。

【参考書】

授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、期末の授業内試験（30%）

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり一方向的な講義とならないように留意します。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom で動画を視聴して課題を実施するために、情報通信環境が必須です。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。

さまざまな他人の考えを学ぶのは、それに賛成か反対かにかかわらず、わたしたち自身の考え方を豊かにするための有力な方法です（いうまでもありませんが、この授業は、特定の思想を押しつけるものではありません）。

【Outline and objectives】

Explores history of Utopian political theories from ancient Greece to contemporary Japan.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

文1年 E～N、T～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Google Classroom クラスコード lm5nhkg

オンデマンド授業をあくまで原則としますが、状況が許す場合に限り、数回は対面授業（ハイフレックス対応）を実施する可能性があります。オンデマンド授業は、Google Classroom（クラスコード lm5nhkg）を使用し、毎回、動画視聴（60分程度）+課題実施というメニューとします。質問には、Google Classroom を利用して随時対応します。

履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください（クラスコード lm5nhkg）。登録方法が分からない場合や、そのほか履修前に質問がある場合は、Hoppii のこの授業の掲示板を通じて遠慮なく質問してください。

「社会思想」は、社会についてのさまざまな考え方を学ぶ科目です。この「社会思想Ⅱ」のクラスでは、「正義」をめぐる社会思想を学びます。

【到達目標】

「正義」について理解を深めて、社会にある実際の問題について考える思考力をアップグレードします。

医療現場において、仮にひとりしか助けられないとしたら、だれを助けるべきなのでしょう（トリアージ）。貧困は、努力しなかった本人の自己責任ではないのでしょうか。海外の貧困よりも、国内の貧困にこそ、優先的に取り組むべきでしょうか。死刑は、認められるのでしょうか。正しい戦争はあるのでしょうか——この授業では、こうした問題を考えるための学問的基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。資料を配布します。履修者は、各自で、Google Classroom でこの授業を登録してください（クラスコード lm5nhkg）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに：正義とはなにか。正義は、ひとそれぞれではないのか	教科書第1章
第2回	最大多数の最大幸福	教科書第3章（1）
第3回	最大多数の最大幸福	教科書第3章（2）
第4回	貧困や格差をどうするか（1）	教科書第8章前半、第2章
第5回	貧困や格差をどうするか（2）	教科書第5章
第6回	貧困や格差をどうするか（3）	教科書第6章
第7回	貧困や格差をどうするか（4）	教科書第7章
第8回	グローバルな貧困・格差	教科書第8章後半

第9回 教育	教科書第9章
第10回 医療	教科書第10章
第11回 死刑	教科書第11章
第12回 戦争	教科書第12章
第13回 地球環境	教科書第14章
第14回 まとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した作品を1冊でも、最初から最後まで実際に自分で読んでみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

宇佐見誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論』（法律文化社、2019）講義は、基本的にこの教科書に即して行いますので、より深く理解するためには、この教科書を使った予習・復習が推奨されます。しかし、毎回の授業に持参する必要はありません。

【参考書】

授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、期末の授業内試験（30%）

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり一方向的な講義とならないように留意します。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom で動画を視聴して課題を実施するために、情報通信環境が必須です。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。

さまざまな他人の考えを学ぶのは、それに賛成か反対かにかかわらず、わたしたち自身の考え方を豊かにするための有力な方法です（いうまでもありませんが、この授業は、特定の思想を押しつけるものではありません）。

【Outline and objectives】

Explores various conceptions of justice in social philosophy.

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法1年 H~Y、キ1年 / 法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本に諸々のオンライン授業を組み合わせた形式でおこなう。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について

5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
定期試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

法1年H～Y、キ1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一面面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解をもって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本に諸々のオンライン授業を組み合わせた形式でおこなう。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念

- 5 近代国家の形成② ピューリタン革命とホブズの『リヴァイアサン』について
- 6 市民革命の理論① ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
- 7 市民革命の理論② ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
- 8 市民革命の理論③ バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
- 9 自由主義と社会主義① スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
- 10 自由主義と社会主義② マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
- 11 自由主義と社会主義③ ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
- 12 現代政治① 20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
- 13 現代政治② ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
- 14 講義総括 社会思想の歴史的・研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
定期試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

文1年P～R、営1年A～H、国1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治・政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施し制度を構築する必要があります。そしてその際には、政策がもたらす経済的效果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのようにして実現するかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、望ましい社会のあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、望ましい社会のあり方に関する様々な立場を学びます。これらを学ぶことによって、現代社会のあり方を再検討できるようになるとともに、望ましい社会のあり方を自ら考えていけるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) 功利主義、リベタリアニズム、平等主義的リベラリズム、といった代表的な社会構想について理解すること。(2) それらの構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようになること。(3) 望ましい社会のあり方に関する自らの考え方を構築できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中および授業後に、できる限り質問の時間を設けます。授業時間の最後には、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーでいただいたコメントに対しては、前回の授業の復習も兼ねて、次の授業の冒頭でいくつかの回答を行います。※大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要の説明
第2回	功利主義（1）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第3回	功利主義（2）	功利主義への批判と応答
第4回	リベタリアニズム（1）	自由を絶対的に尊重する社会の構想
第5回	リベタリアニズム（2）	リベタリアニズムへの批判と応答
第6回	リベラルな平等主義（1）	自由で平等な人々の公正な協働
第7回	リベラルな平等主義（2）	リベラルな平等主義への批判と応答
第8回	平等主義の展開（1）	「何の平等か？」をめぐる論争
第9回	平等主義の展開（2）	平等主義／優先主義／充分主義の差異
第10回	運の平等主義（1）	選択責任の尊重と不運からの保護
第11回	運の平等主義（2）	運の平等主義への批判と応答
第12回	関係論的平等主義（1）	平等な存在として関わり合う社会
第13回	関係論的平等主義（2）	関係論的平等主義への批判と応答
第14回	授業内試験	論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間が標準となります。

参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱った議論について自分で考えてみることを、推奨します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を4冊挙げておきます。どれか1冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。

※授業内容との関連という点では、(1)→(4)の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、(4)→(1)という順番で読みやすいと思います。

(1) W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005年

(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年

(3) 川崎修・杉田敦(編)『現代政治理論』有斐閣、2012年
 (4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年

※その他、それぞれの授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末試験が70%になります。平常点に関しては、授業後に毎回提出していただくリアクションペーパー、授業内での質問や発言、普段の聴講態度、この3つを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ(本授業)の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。

【Outline and objectives】

In this course, students learn modern political philosophy. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies or social institutions. These values or ideals include liberty, equality, or fairness. In the spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can critically evaluate existing institutions and construct their own conception of a just society.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

文1年P~R、営1年A~H、国1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治・政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施し制度を構築する必要があります。そしてその際には、政策がもたらす経済的効果の大きさに加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのようにして実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、望ましい社会のあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期では、現代の様々な社会的課題に対して、規範的政治理論の観点から考察を行います。これらの考察を通じて、現代の社会的課題に関して、規範的な論争点を理解するとともに、自らの考え方を構築できるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。(1) 様々な社会的課題に関して、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。(2) それらの論争点に関してどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。(3) 現代の社会的課題に関して、自らの立場を考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中および授業後に、できる限り質問の時間を設けます。授業時間の最後には、リアクションペーパーを提出していただきます。リアクションペーパーでいただいたコメントに対しては、前回の授業の復習も兼ねて、次の授業の冒頭でいくつか応答を行います。また、秋学期までに新型コロナウイルスの感染状況が改善すれば、何度かグループディスカッションの時間を設ける予定です。

※大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要
第2回	貧困	貧困に陥るのは自己責任なのか？
第3回	市場経済の制度	市場経済が公正であるための条件
第4回	税と社会保障	課税と社会保障に正当性はあるか？
第5回	健康と医療(1)	人々の選択と医療資源の分配
第6回	健康と医療(2)	健康の社会的決定要因
第7回	教育(1)	教育はどのような意味を持つか？
第8回	教育(2)	教育機会の公正とは何か？
第9回	差別(1)	差別とは何か？
第10回	差別(2)	差別はなぜ不正なのか？
第11回	障害	障害と社会的包摂
第12回	政治的意志決定(1)	デモクラシーは望ましいのか？
第13回	政治的意志決定(2)	デモクラシーとポピュリズム
第14回	授業内試験	論述試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったトピックについて自分で考えてみることを、推奨します。

【テキスト(教科書)】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※(1)の本と(2)の第2部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。(3)と(4)は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスへの対応と、デモクラシーについて、それぞれ論じる本になります。

- (1) J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、2016年
 (2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックからフロンティアまで』法律文化社、2019年
 (3) 広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年
 (4) 宇野重規『民主主義とは何か』講談社、2020年
 ※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末試験が70%になります。平常点に関しては、授業後に毎回提出していただくリアクションペーパー、授業内での質問や発言、普段の聴講態度、この3つを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行いますが、合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていたいただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline and objectives】

In this course, students learn modern political philosophy. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies or social institutions. These Values or ideals include liberty, equality, or fairness. In the fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, or discrimination from the perspective of modern political philosophy. After completing the course, students can present their own views on social problems.

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

文1年A～B、営1年J～U、環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では小説家フランツ・カフカの思想を学びます。19世紀末にオーストリア＝ハンガリー帝国領ブラハで生まれ、ドイツ語で書いたユダヤ人カフカの作品は現代においてもなお「重要な問い」を発しています。この授業では世紀転換期を生きたその生涯を概観しながら、具体的な作品を読み、名前、アイデンティティ、法、家族、フィクション、ディアスポラ性などの主題について学びます。

【到達目標】

カフカの作品をていねいに読むことができる
 時代背景をふまえて、カフカ思想の主題を理解することができる
 カフカの作品から学んだことを自分の言葉で表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コロナ対応のため2021年度春学期はオンラインで授業を行い、4月12日に学習支援システムを通して授業を開始します。その際初回ガイダンスを行いますので、詳細は提示するガイダンスのファイルを確認するようにしてください。提出された課題に対しては授業のなかでフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、進め方、成績評価の方法などについての説明
2	導入（1）	19世紀末という時代（1）
3	導入（2）	19世紀末という時代（2）
4	展開（1）	抑圧された名前（1）
5	展開（2）	抑圧された名前（2）
6	展開（3）	アイデンティティの病（1）
7	展開（4）	アイデンティティの病（2）
8	展開（5）	ディアスポラ（1）
9	展開（6）	ディアスポラ（2）
10	展開（7）	掟の前で（1）
11	展開（8）	掟の前で（2）
12	結論（1）	脱出（1）
13	結論（2）	脱出（2）
14	結論（3）	フィクションと現実

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をうけるにあたって、1時間ほどテキストや参考文献を自ら読んで読み、問題意識を持って授業に臨むことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各1～2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出する 10 回分の小レポート課題を平常点として成績評価を行います。

各レポートの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。1 回分の配分を 10 % とし、10 回のレポートによって合計 100 % として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces some ideas of novelist Franz Kafka to students taking this course.

Although born at the end of 19's century Prague Kafka is still bringing up important issues for us. The aim of this course is to guide students to acquire of these issues, for example a meaning of name, identity, law, family, fiction and a state of diaspora.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文 1 年 A～B、営 1 年 J～U、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではハンナ・アーレントの思想を学びます。20 世紀初めにドイツで生まれ、ハイデガーやヤスパースに哲学を学び、ユダヤ人であったためナチズムから逃れてアメリカへ亡命するという経験をへて、彼女は政治思想家になりました。この授業ではその生涯を踏まえながら、20 世紀という時代の経験を生きたアーレントの政治思想を学びます。

【到達目標】

アーレントが生きた時代の歴史的背景を理解することができる

アーレントの政治思想を理解することができる

アーレントの政治思想をレポートなどによって自分の言葉で表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

2021 年度秋学期はコロナ対応のため、オンライン授業の予定です。詳細については初回ガイダンス時に説明します。提出された課題に対しては授業のなかでフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、成績評価の方法についての説明
2	導入（1）	時代背景（1）
3	導入（2）	時代背景（2）
4	哲学と詩（1）	マールブルクとハイデルベルク
5	哲学と詩（2）	ナチ前夜
6	亡命の時代（1）	パリ
7	亡命の時代（2）	収容所
8	ニューヨーク（1）	難民という経験
9	ニューヨーク（2）	全体主義の起源
10	1950 年代（1）	ヨーロッパ再訪
11	1950 年代（2）	人間の条件
12	アメリカ社会（1）	レッシング賞
13	アメリカ社会（2）	アイヒマン論争
14	まとめ	精神の生活

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をうけるにあたって文献を自ら進んで読み、問題意識を持って授業に臨むことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 1～2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業後に提出する 10 回分の小レポート課題を平常点として成績評価を行います。

各レポートの評価基準としては、各回の授業ごとに、主題を理解し、その内容を自らの言葉によって解釈し、表現していることとします。1回分の配分を10%とし、10回のレポートによって合計100%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces political ideas of Hannah Arendt to students taking this course.

Born in Germany at the beginning of the 20's century and after grown up she studied philosophy from Heidegger and Jaspers. But German Nazism expelled her from her own country to USA and that event made her political philosopher. The aim of this course is to guide students to acquire Arendt's life and her political ideas.

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

環1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会批評の形成・流通・普及の過程を、日本における人文書の興亡とジャーナリズムの展開のなかで考える。敗戦後の1945年から1980年代まで、もっとも精彩を放ちながら戦後日本をリードした思想家と人文書、および出版人に焦点を合わせ、その思想が社会に与えたインパクトと意味を析出する。現役の出版人による戦後出版通史、人文学史。

【到達目標】

いまや古典となりつつある基本的な戦後批評の文献を概観しながら、社会と思想とメディアの機能について「批評的」「根源的」に考える力を培う。また、批評の興亡を通時的に見極めることで、現代の思想状況に対しても主体的に、根拠を示しながら判断・評価することができるようにする。こうした読書と研究の実践によって、批評意識をもった社会人へと成長する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義の詳細レジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に「Hoppii（学習支援システム）」の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いものを次回以降に発表する。受講学生数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／ 人文学の再定義	授業の進め方を提示しながら、人文書を読むことの意義を再確認する。
2	社会科学から人文学へ	社会科学と人文学は本質的にどこが違っているのか？ 戦後思想を考察するための基礎的な定義を試みる。
3	8月15日からの出発 ——丸山眞男①	『世界』の創刊（1946年）と丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を中心に、戦後ジャーナリズムの始まりを見る。
4	8月15日からの出発 ——丸山眞男②	「超国家主義の論理と心理」を精読し、「抑圧移譲」など丸山政治学の基礎的発想の意味を再検討する。
5	マルクス、リベラル、 保守	講和条約から60年安保闘争へと至る時代に現れて戦後思想の基盤を形作った、「左・右」さまざまな思潮を概観する。

- 6 60年安保とマスコミ知識人——清水幾太郎① 戦後最大の大衆運動、60年安保闘争の渦中に進出したマスコミ知識人たちの活動を、清水幾太郎らによる啓蒙に探る。
- 7 60年安保闘争とマスコミ知識人——清水幾太郎② 清水幾太郎『現代思想』（1966年）を参照しながら、清水の「転向」と60年安保以降の思想の転換点を探る。
- 8 戦後の終焉と日本民俗の再発見——柳田國男 戦後の終焉と高度経済成長の開始とともに見直された日本の民俗文化を、柳田國男『遠野物語』を中心に解説する。
- 9 在野思想家の顛覆戦略——吉本隆明 東京オリンピックを経た高度経済成長時代を挟み、既成知識人を圧倒した在野思想家吉本隆明の戦略を探る。
- 10 文化人類学と新しい知——山口昌男 歴史主義的思考に異を唱えた山口昌男の「中心と周縁」論と、構造人類学がもたらした新しい知の誕生の成否を探る。
- 11 言語学から構造主義へ——翻訳書の時代 レヴィ=ストロースの人類学と、それに影響を与えたソシュール『一般言語学講義』における構造主義の衝撃を読む。
- 12 伝統からの応答①国文学——西郷信綱 伝統的な人文学はいかに革新を果たしたのか？ 国文学者西郷信綱の著作をもとに、古典を読むことの意味を再発見する。
- 13 伝統からの応答②歴史学——網野善彦 伝統的な人文学はいかに革新を果たしたのか？ 日本史学者網野善彦の著作のなかに、新しい人文学誕生の可能性を見る。
- 14 まとめ 13回分の講義を総復習して、春学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

取り扱う思想家および文献が多岐にわたるため、テキスト（教科書）は指定しない。必要なものは適宜抜粋してコピーを配布する。

【参考書】

丸山眞男『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）、清水幾太郎『現代思想』（岩波書店）、柳田國男『遠野物語』（ちくま文庫）、吉本隆明『共同幻想論』（角川ソフィア文庫）、山口昌男『山口昌男コレクション』（ちくま学芸文庫）、ソシュール／小林英夫訳『一般言語学講義』（岩波書店）、西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）、網野善彦『増補 無縁・公界・楽』（平凡社ライブラリー）など。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30点）および期末レポート試験（70点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

戦後すぐ（70年以上前）の文章を読むことから始めるので、最初の数回は文体に慣れるのに少し苦勞するかもしれない。

【Outline and objectives】

This is a lecture by an active publisher on the history of postwar publication and books on humanities. We consider the process of formation and spread of social criticism while focusing on the thinkers, books on humanities and publishers that most remarkably influenced the postwar Japan from 1945 to the 1980s. Finally, we think about the impact and meaning of those thoughts on our society.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

環1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が開花こうとしていた。20世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想的に読み解いていく。

【到達目標】

20世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義の詳細レジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に「Hoppii（学習支援システム）」の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いものを次回以降に発表する。受講学生数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／20世紀思想とユダヤ人	授業の進め方を提示しながら、あわせて概論として20世紀思想におけるユダヤ人問題を取り上げる
2	ベンヤミンのパリ	19世紀という変貌する時代における大都市パリの姿を提示し、加えてベンヤミンの伝記とその思想を概説する。
3	パリのパサージュ	パサージュのなかで絢爛たる消費文化が開花し、そこで芸術は商品に奉仕する（I「フーリエあるいはパサージュ」①）。
4	鉄の構成	鉄とガラスを用いた建築がパサージュや駅、博覧会場として史上初めて登場する（I「フーリエあるいはパサージュ」②）。
5	ユートピアのかたち	社会主義者フーリエはパサージュに触発され、具体的ユートピア像を構想する（I「フーリエあるいはパサージュ」③）。

6	パノラマから写真へ	パノラマ画の大流行の後を受けて写真が発明され、芸術観を一変させる「(Ⅱ「ダゲールあるいはパノラマ」)。
7	商品という幻像	商品の幻像を展示する万国博覧会と、商品を描くグランヴィルのイメージ世界(Ⅲ「グランヴィルあるいは万国博覧会」)。
8	室内の痕跡	商品に抗うようにブルジョワジーの室内に蒐集品があふれ、そこから探偵小説が誕生する(Ⅳ「ルイ＝フィリップあるいは室内」)。
9	アレゴリカーの描くパリ①	遊歩者はパサージュを創作の場所に変える。詩人ボードレールもその一人だった(Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」①)。
10	アレゴリカーの描くパリ②	ボードレールはアレゴリーを用いて、パリという都市を初めて作品化する(Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」②)。
11	アレゴリカーの描くパリ③	新しさの永遠回帰が近代の本質となる。ボードレール『悪の華』の画期性(Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」③)。
12	パリ大改造	県知事オスマンのパリ改造計画が都市の姿を一新し、資本主義の世界が貫徹する(Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」①)。
13	オスマン対コミュニケーション	広い街路にパリケードが造られ、パリ・コミュニケーションの夢が一瞬だけ実現するが……(Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」②)。
14	夢と覚醒の精神史／まとめ	芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う変化の時代は、私たちに何を語りかけているか？

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

ヴァルター・ベンヤミン「パリ——十九世紀の首都」(浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション1』ちくま学芸文庫、1995年、所収)を主に使用する。

【参考書】

引用文献は多岐にわたるため、適宜、コピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス(30点)および期末レポート試験(70点)で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講読するテキストは短いものだが、多彩な内容が取り上げられているので、難易度は低くない。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline and objectives】

In 19th century Paris where capitalism was beginning to mature, the best metropolitan culture in Europe was about to blossom. Walter Benjamin, one of the greatest thinkers of the 20th century, wrote "Paris: Capital of the Nineteenth Century" to find the true meaning of Paris which continued to change. Carefully reading this excellent essay, we restore various images developed in Paris at the time to understand the era of changes in which the world of art and thought competed with that of technology and commodities as a history of thought.

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

法1年A～G、キ1年/法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らざるにはいかなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本に諸々のオンライン授業を組み合わせた形式でおこなう。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について

5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと16世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20％
複数回の小レポート：30％
定期試験：50％

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

法1年A～G、キ1年/法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一面面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を收拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解をもって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本に諸々のオンライン授業を組み合わせた形式でおこなう。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念

5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%
複数回の小レポート：30%
定期試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

MAT100LA

教養数学A

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

法1年A～G、文1年E～I・P～V / 法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。毎回授業時間内に、質問や意見を聴く時間を設け、応答や議論を行うことでフィードバックの場とする。また、学習支援システムの掲示板でも質疑応答できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第2回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第3回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第4回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。

第5回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第6回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第7回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第8回	代数系	群構造について学ぶ。
第9回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。
第10回	連立合同式	異なる周期をもつ2つの事柄について考える。
第11回	連立合同式	異なる周期をもつ3つ以上の事柄について考える。
第12回	整数の理論の応用	2つの素数の積について調べる。
第13回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第14回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価（100%）する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法1年A～G、文1年E～I・P～V / 法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。毎回授業時間内に、質問や意見を聴く時間を設け、応答や議論を行うことでフィードバックの場とする。また、学習支援システムの掲示板でも質疑応答できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。

第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価（100%）する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H~N、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に付けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題でも積極的に扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。毎回授業時間内に、質問や意見を聴く時間を設け、応答や議論を行うことでフィードバックの場とする。また、学習支援システムの掲示板でも質疑応答できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、べき乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。

第5回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第6回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第7回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第8回	代数系	群構造について学ぶ。
第9回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。
第10回	連立合同式	異なる周期をもつ2つの事柄について考える。
第11回	連立合同式	異なる周期をもつ3つ以上の事柄について考える。
第12回	整数の理論の応用	2つの素数の積について調べる。
第13回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第14回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価(100%)する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

法1年H～N、キ1年/法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。毎回授業時間内に、質問や意見を聴く時間を設け、応答や議論を行うことでフィードバックの場とする。また、学習支援システムの掲示板でも質疑応答できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。

第7回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第8回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第9回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第10回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第11回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第12回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第13回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第14回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価（100%）する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらったの評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学A

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

法1年S~Y / 法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身につけている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績に出席状況、黒板で発表した回数、内容などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A・B・L～N・W・X、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績に出席状況、黒板で発表した回数、内容などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

文 1 年 A・B・L～N・W・X、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアマダクジを作る。

第14回 さまざまな応用 結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

キ1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第13回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第14回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学A

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

環1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいろいろは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配信に基づいて授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第02回	整数論の基礎	整数論の基本的な定義や用語を確認する。
第03回	ユークリッドの互除法	21分と50分の砂時計を使って1分を計る方法を考える。
第04回	合同式	合同式の基本的な性質と計算方法を学ぶ。
第05回	連立合同式	合同式を利用して、上記例題の解法を修得する。
第06回	整数論の応用	整数論を利用した公開鍵暗号の仕組みを理解する。

第 07 回	エラトステネスの篩	素数表の作成法と素数分布の特徴を紹介する。
第 08 回	計算の一般化	行列の基本的な定義や用語を理解する。
第 09 回	行列の基本計算	行列の掛算と計算の意味を理解する。
第 10 回	行列計算の応用	日本の 2030 年人口の予測を行う。
第 11 回	隣接行列・確率行列	隣接行列・確率行列の応用例を学ぶ。
第 12 回	逆行列	逆行列の計算方法とその応用例を学ぶ。
第 13 回	項書換え系	項書換え系の基本的な定義を理解する。
第 14 回	項書換え系の応用	項書換え系を利用した代数問題の解法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配布資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配信に基づいて授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	動的計画法	動的計画法の基本的な考え方を理解する。
第 03 回	ナップサック問題	ナップサックに最も効率よく財宝を詰込む方法を求める。
第 04 回	予習時間計画問題	試験に対する最適な予習時間配分の求め方を紹介する。
第 05 回	編集距離	2つの文字列の類似度の測定方法を紹介する。
第 06 回	グラフ理論	グラフ理論の基礎となる定義と用語を理解する。
第 07 回	グラフ理論の応用例	グラフ理論の初歩的な活用事例を紹介する。
第 08 回	プリム法	東京 23 区役所の効率的なネットワーク配線法を求める。

第 09 回	集合場所の問題	最小コストで全員が集合できる駅を求める方法を学ぶ。
第 10 回	オイラーの定理	上記例題に答える為の定理を紹介する。
第 11 回	一筆書きの構成	一筆書き経路を具体的に作成する方法を学ぶ。
第 12 回	ダイキストラ法	町田から羽田空港への最短経路を求める。
第 13 回	組合せ論	順列と組合せの基本的な計算方法を学ぶ。
第 14 回	母関数	100 円の両替パターンの総数を求める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配付資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。 学習支援システムによるオンライン授業。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。

第12回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第13回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

国環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。

第7回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義.	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える.
第8回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する.
第9回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明.
第10回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する.
第11回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する.
第12回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える.
第13回	2番目の課題	2番目の課題を与える.
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配信に基づいて授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第3回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第4回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第5回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第6回	整数の表現	2進数について学ぶ。
第7回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第8回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第9回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第10回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第11回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第12回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第13回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

環キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配信に基づいて授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明.
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する.
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する.
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える.
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える.
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。 学習支援システムによるオンライン授業。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。

第12回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第13回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第3回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第4回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、安定マッチング問題を理解する。
第5回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第6回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。

第7回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義.	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える.
第8回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する.
第9回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明.
第10回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する.
第11回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する.
第12回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える.
第13回	2番目の課題	2番目の課題を与える.
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムによる、小テスト、レポート、で総合的に評価する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 A・B・C / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	Σ記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 A・B・C / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 D・E / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 D・E / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 F / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 F / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 R・S / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 R・S / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 O・Q・T・U / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

営 1 年 O・Q・T・U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 N / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配付や Zoom を利用して授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを経由したコンテンツ配信・資料配付や Zoom を利用して授業を進める。その中で、様々な例で具体的なイメージを作りながら、演習問題を通して重要事項を理解していく。具体的な方法等は、授業開始日に学習支援システムで提示する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 G・H・J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。大学の行動方針レベルが2となった場合には原則としてオンラインで行う。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	Σ記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式のオンライン授業では受講生の理解度の把握や授業参加意識の向上のために学習支援システムのテスト／アンケート機能を活用する重要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

営 1 年 G・H・J / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

期末試験が実施されなかった昨年度は電子演算機器、情報資源、人的資源を有効に活用する総合力が成績評価に大きく影響したように感じられた。学期開始の時点で人間関係が形成されていた2年次以上の履修生が人的資源を有効に活用する傾向が見られた。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1年 K・L・M / 法文営国環キ 2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。大学の行動方針レベルが2となった場合には原則としてオンラインで行う。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	数列 1	数列とは
第3回	数列 2	等差数列
第4回	数列 3	等比数列
第5回	数列 4	Σ記号
第6回	数列 5	階差数列
第7回	指数と対数 1	指数とは
第8回	指数と対数 2	指数の計算
第9回	指数と対数 3	対数とは
第10回	指数と対数 4	対数の計算
第11回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第12回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第13回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第14回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式のオンライン授業では受講生の理解度の把握や授業参加意識の向上のために学習支援システムのテスト／アンケート機能を活用する重要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

営 1 年 K・L・M / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

期末試験が実施されなかった昨年度は電子演算機器、情報資源、人的資源を有効に活用する総合力が成績評価に大きく影響したように感じられた。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A～G、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚しいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによる。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギーについて解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章、原子から宇宙まで	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第 12 回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第 13 回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係について解説する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches the physical phenomena, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法 1 年 A~G、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光の性質（波動性）	光（電磁波）の波動性について解説する。
第 2 回	光の性質（粒子性）	太陽電池に関係する、光の粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質（二重性）	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	水素ランプからの光	ランプから発せられる光の波長の法則について解説する。
第 5 回	原子の構造（電子の発見）	陰極線から電子の発見に至る研究について解説する。
第 6 回	原子の構造（原子核の発見）	原子の構造について解説する。
第 7 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 8 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 9 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 10 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 11 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第12回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第13回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第14回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題70%と期末試験の成績30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches physics after the 20th century, such as light, elementary particles and the universe. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

法1年S~W / 法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究がなされている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。

本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行う。初回授業を含め、各回の授業方式は学習支援システム上で連絡する。

対面授業として実施する回では、スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。オンライン授業では、原則として資料配布型オンデマンド授業とする予定であり、資料は学習支援システム上で配布する。

オンライン授業・対面授業の実施方式にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	授業全体の内容を紹介する
第2回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する
第3回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する

第4回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する
第5回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する
第6回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する
第7回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する
第8回	摩擦力和空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する
第9回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する
第10回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する
第11回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する
第12回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する
第13回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する
第14回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第13回までに実施した小テストの講評と解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の整理や復習を行うことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約50%）と小テスト（約50%）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・Recognize and recall the Newtonian laws of motion and universal gravitation
- ・Discuss the similarities and differences in motions of objects on the Earth and in the universe
- ・Explain the falling motion of objects
- ・Describe the scientific definition of the work and energy
- ・Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

PHY100LA

入門物理学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

法1年S~W / 法文営国環キ 2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に大きな宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行う。初回授業を含め、各回の授業方式は学習支援システム上で連絡する。

対面授業として実施する回では、スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合があります。オンライン授業では、原則として資料配布型オンデマンド授業とする予定であり、資料は学習支援システム上で配布する。オンライン授業・対面授業の実施方式にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第2回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第3回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第4回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第5回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第6回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する

第7回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第8回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第9回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第10回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第11回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第12回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第13回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第14回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第13回までに実施した小テストの講評と解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の整理や復習を行うことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約50%）と小テスト（約50%）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms
- ・ Explain the structure of atom focusing on the electron orbits
- ・ Explain the basic principles of the experiment that confirms the existence of the atomic nucleus
- ・ Recognize and recall the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
- ・ Describe the scientific concept of elementary particles
- ・ Explain the energy source of the stars
- ・ Explain the Big Bang in the early universe

PHY100LA

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

法1年 H～N・Y / 法文営国環キ 2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。
- ・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。

9	色々な運動 (1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。
10	色々な運動 (2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動 (3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動 (4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動 (5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
- ・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- ・「世界のたね－真理を追いもつめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・演習問題）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を6割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which is very fundamental field of physics.

Students will learn how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

入門物理学 B

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法 1 年 H～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（気圧、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
- ・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光 (1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光 (2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光 (1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光 (2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光 (1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光 (2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
- ・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・演習問題）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を6割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

Students will learn how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらええる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

授業は対面とオンラインのハイブリッド型で行う。対面とオンラインをどのように振り分けるか学生諸君の意見も取り入れたいのでアンケートを実施する予定である。初回授業はオンラインで、2回目は対面で行う（2回目は予定）ので判断の参考にしてほしい。対面・オンラインの振り分け方としては、「小テストおよび期末試験の実施日は対面とし、その他はオンラインする」などが考えられる。授業形態は学習支援システムに掲載するのでチェックを忘れないように。オンラインの場合は Zoom によるリアルタイム授業（参加は任意）を行い、参加できなかった学生がオンデマンドで視聴できるように録画を公開する。対面授業の動画（対応する内容を説明した動画）の公開も検討している。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後には必ず学習支援システムを確認しよう。授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第2回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第3回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第4回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第5回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第6回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときを感じる慣性力を理解する。
第7回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第8回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第9回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第10回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第11回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第12回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第13回	ダイエットしても重くなる	動くとき物体の質量が増加することを学ぶ。
第14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は1時間、復習は3時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用したパワーポイントのpdfファイルを学習支援システムで公開する。オンライン授業（可能であれば対面授業も）は録画をGoogle Driveで共有して視聴できるようにする。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利, 左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第1巻, 第2巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論のABC 福島肇(著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or レポート, 配分 60%）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40%）で評価する。小テストと期末試験ではノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載したpdfファイルを印刷したもの）を参照可とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。対面授業時に病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合（昨年度がそうであった）もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【その他の重要事項】

対面授業の場合は、授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。オンラインの場合はリアルタイム授業に参加するか録画を必ず視聴しよう。平常点の割合が高いことに注意せよ。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、学習支援システムに掲載する。

【Outline and objectives】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：オーロラと太陽と宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでほしい。

授業は対面とオンラインのハイブリッド型で行う。対面とオンラインをどのように振り分けるか学生諸君の意見も取り入れたいのでアンケートを実施する予定である。初回授業は対面、2 回目はオンラインで行う予定なので判断の参考にしてほしい。対面・オンラインの振り分け方としては、「小テストおよび期末試験の実施日は対面とし、その他はオンラインする」などが考えられる。授業形態は学習支援システムに掲載するのでチェックを忘れないように。オンラインの場合は Zoom によるリアルタイム授業（参加は任意）を行い、参加できなかった学生がオンデマンドで視聴できるように録画を公開する。対面授業の動画（対応する内容を説明した動画）の公開も検討している。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後には必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マイクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのになぜか焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。
第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用したパワーポイントの pdf ファイルを学習支援システムに掲載する。オンライン授業（可能であれば対面授業も）は録画を Google Drive で共有して視聴できるようにする。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

(pdf ファイル <https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>)

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or レポート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。小テストと期末試験ではノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。対面授業時に病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合（昨年度がそうであった）もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【その他の重要事項】

対面授業の場合は、授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。オンラインの場合はリアルタイム授業に参加するか録画を必ず視聴しよう。平常点の割合が高いことに注意せよ。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、学習支援システムに掲載する。

【Outline and objectives】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究がなされている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。

本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行う。初回授業を含め、各回の授業方式は学習支援システム上で連絡する。

対面授業として実施する回では、スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。オンライン授業では、原則として資料配布型オンデマンド授業とする予定であり、資料は学習支援システム上で配布する。

オンライン授業・対面授業の実施方式にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介します
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する

第4回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する
第5回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する
第6回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する
第7回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する
第8回	摩擦力和空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する
第9回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する
第10回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する
第11回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する
第12回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する
第13回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する
第14回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第13回までに実施した小テストの講評と解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の整理や復習を行うことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約50%）と小テスト（約50%）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・Recognize and recall the Newtonian laws of motion and universal gravitation
- ・Discuss the similarities and differences in motions of objects on the Earth and in the universe
- ・Explain the falling motion of objects
- ・Describe the scientific definition of the work and energy
- ・Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

PHY100LA

入門物理学 B

2017年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

文1年P～X / 法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に大きな宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業のハイブリッド方式で行う。初回授業を含め、各回の授業方式は学習支援システム上で連絡する。

対面授業として実施する回では、スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合があります。オンライン授業では、原則として資料配布型オンデマンド授業とする予定であり、資料は学習支援システム上で配布する。

オンライン授業・対面授業の実施方式にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第2回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第3回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第4回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第5回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第6回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する

第7回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第8回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第9回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第10回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第11回	さらにマイクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第12回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第13回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第14回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第13回までに実施した小テストの講評と解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の整理や復習を行うことが望ましい。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約50%）と小テスト（約50%）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms
- ・ Explain the structure of atom focusing on the electron orbits
- ・ Explain the basic principles of the experiment that confirms the existence of the atomic nucleus
- ・ Recognize and recall the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
- ・ Describe the scientific concept of elementary particles
- ・ Explain the energy source of the stars
- ・ Explain the Big Bang in the early universe

PHY100LA

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀末から20世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、マイクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章、原子から宇宙まで	講義の全体について紹介する。
第2回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第3回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第4回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第5回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第6回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第7回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第8回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第9回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第10回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第 12 回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第 13 回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係について解説する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題 70%と期末試験の成績 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches the physical phenomena, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A~J、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光の性質（波動性）	光（電磁波）の波動性について解説する。
第 2 回	光の性質（粒子性）	太陽電池に関係する、光の粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質（二重性）	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	水素ランプからの光	ランプから発せられる光の波長の法則について解説する。
第 5 回	原子の構造（電子の発見）	陰極線から電子の発見に至る研究について解説する。
第 6 回	原子の構造（原子核の発見）	原子の構造について解説する。
第 7 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 8 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 9 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 10 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 11 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第12回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第13回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第14回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」からの課題70%と期末試験の成績30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】

This course teaches physics after the 20th century, such as light, elementary particles and the universe. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

営1年K～U / 法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

授業は対面とオンラインのハイブリッド型で行う。対面とオンラインをどのように振り分けるか学生諸君の意見も取り入れたいのでアンケートを実施する予定である。初回授業はオンラインで、2回目は対面で行う（2回目は予定）ので判断の参考にしてほしい。対面・オンラインの振り分け方としては、「小テストおよび期末試験の実施日は対面とし、その他はオンラインする」などが考えられる。授業形態は学習支援システムに掲示するのでチェックを忘れないように。オンラインの場合はZoomによるリアルタイム授業（参加は任意）を行い、参加できなかった学生がオンデマンドで視聴できるように録画を公開する。対面授業の動画（対応する内容を説明した動画）の公開も検討している。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後には必ず学習支援システムを確認しよう。授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標はYouTubeの動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときを感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動くとき物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用したパワーポイントの pdf ファイルを学習支援システムで公開する。オンライン授業（可能であれば対面授業も）は録画を Google Drive で共有して視聴できるようにする。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利, 左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻, 第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇(著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or レポート、配分 60%）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40%）で評価する。小テストと期末試験ではノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。対面授業時に病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合（昨年度がそうであった）もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

対面授業の場合は、授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。オンラインの場合はリアルタイム授業に参加するか録画を必ず視聴しよう。平常点の割合が高いことに注意せよ。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：オーロラと太陽と宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでほしい。

授業は対面とオンラインのハイブリッド型で行う。対面とオンラインをどのように振り分けるか学生諸君の意見も取り入れたいのでアンケートを実施する予定である。初回授業は対面、2 回目はオンラインで行う予定なので判断の参考にしてほしい。対面・オンラインの振り分け方としては、「小テストおよび期末試験の実施日は対面とし、その他はオンラインする」などが考えられる。授業形態は学習支援システムに掲載するのでチェックを忘れないように。オンラインの場合は Zoom によるリアルタイム授業（参加は任意）を行い、参加できなかった学生がオンデマンドで視聴できるように録画を公開する。対面授業の動画（対応する内容を説明した動画）の公開も検討している。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後には必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マイクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのになぜか焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。
第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用したパワーポイントの pdf ファイルを学習支援システムに掲載する。オンライン授業（可能であれば対面授業も）は録画を Google Drive で共有して視聴できるようにする。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

(pdf ファイル <https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>)

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or レポート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。小テストと期末試験ではノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）を参照可とする。難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。対面授業時に病欠などのやむを得ない理由により小テストを受けられなかった場合には、レポートを課す場合もある。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合（昨年度がそうであった）もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を定めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【その他の重要事項】

対面授業の場合は、授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。オンラインの場合はリアルタイム授業に参加するか録画を必ず視聴しよう。平常点の割合が高いことに注意せよ。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、学習支援システムに掲載する。

【Outline and objectives】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。

・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確認するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。

9	色々な運動 (1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。
10	色々な運動 (2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動 (3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動 (4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動 (5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
- ・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- ・「世界のたね－真理を追いもつめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・演習問題）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を6割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which is very fundamental field of physics.

Students will learn how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（気圧、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
- ・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光 (1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光 (2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光 (1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光 (2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光 (1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光 (2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
- ・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・演習問題）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を6割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

Students will learn how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A~J / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学 A」では、ミクロな視点から生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。「細胞」「遺伝子」「タンパク質」などについて、生物学の発展に寄与した代表的な研究の内容にもふれながら学ぶことにより、生物が生きているための精巧なしくみについての理解を深めます。

【到達目標】

生物学の基礎的な知識を会得し、生物学に関する最近の話題を理解できるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	細胞培養とは	細胞を用いた実験の手法等について概説します。
第 3 回	細胞の構造	生物の体を構成している細胞の構造について概説します。
第 4 回	細胞の機能	細胞の働きを支える細胞内のしくみについて概説します。
第 5 回	DNA とは	DNA はどのような物質であるかについて概説します。
第 6 回	DNA の構造	DNA の構造に関する特徴について概説します。
第 7 回	DNA の機能	DNA の配列情報からタンパク質を合成するしくみについて概説します。
第 8 回	遺伝とは	親から子へと形質が遺伝するしくみについて概説します。
第 9 回	タンパク質の性質	タンパク質とはどのような物質であるかについて概説します。
第 10 回	タンパク質の機能	タンパク質の様々な働きについて概説します。

第 11 回	生命の設計図に手を加える技術	細胞や遺伝子を操作する様々な技術について概説します。
第 12 回	生命科学の発展を支える研究	生命科学に関する研究がどのように進められているのかについて概説します。
第 13 回	振り返り	授業全体の要点を整理し、各項目のつながりを考え理解を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biology at the microscopic level. The aim of this course is to help students understand how the body works, including cells and genes.

Lectures will also learn about representative research that has contributed to the development of biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

営 1 年 A~J / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学 B」では、マクロな視点から生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。地球上には、多種多様な生物が存在しており、生命活動を営んでいます。生物の持つ様々な特徴、生物どうしの関わりについて、生物学の発展に寄与した代表的な研究の内容にもふれながら学ぶことにより、生物が環境に適応し生きていくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	発生とは	受精卵から個体になるまでの過程について概説します。
第 3 回	生物の多様性	地球上に生息する多種多様な生物について概説します。
第 4 回	生物の進化	生物の進化のしくみについて概説します。
第 5 回	生態系を支える生物	生態系の中での生物の役割や性質について概説します。
第 6 回	地球環境と生物	地球環境と生物の関係性について概説します。
第 7 回	生物学研究の進め方	生物学の研究手法・研究成果の発表方法などについて概説します。
第 8 回	生物の行動とは	生物の行動の特徴や、生物の行動をひもとく研究について概説します。

第9回	生物の体のつくり	種間で共通する点・異なる点に着目しながら生物の体のつくりについて概説します。
第10回	生物の生きる戦略	生物が進化の過程で手にした特徴的な性質について概説します。
第11回	生物の体のしくみ	生物の持つ様々な体のしくみをひもとく研究について概説します。
第12回	生物の中のヒトとは	多くの生物の中でのヒトの特徴について概説します。
第13回	振り返り	授業全体の要点を整理し、各項目のつながりを考え理解を深めます。
第14回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biology at the macroscopic level. The aim of this course is to help students understand the characteristics of various organisms and biological diversity. Lectures will also learn about representative research that has contributed to the development of biology.

BIO100LA

入門生物学 A

2017年度以降入学者

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

営1年K~U、キ1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学 A」では、ミクロな視点から生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。「細胞」「遺伝子」「タンパク質」などについて、生物学の発展に寄与した代表的な研究の内容にもふれながら学ぶことにより、生物が生きるための精巧なしくみについての理解を深めます。

【到達目標】

生物学の基礎的な知識を会得し、生物学に関する最近の話題を理解できるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲載しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第2回	細胞培養とは	細胞を用いた実験の手法等について概説します。
第3回	細胞の構造	生物の体を構成している細胞の構造について概説します。
第4回	細胞の機能	細胞の働きを支える細胞内のしくみについて概説します。
第5回	DNA とは	DNA はどのような物質であるかについて概説します。
第6回	DNA の構造	DNA の構造に関する特徴について概説します。
第7回	DNA の機能	DNA の配列情報からタンパク質を合成するしくみについて概説します。
第8回	遺伝とは	親から子へと形質が遺伝するしくみについて概説します。
第9回	タンパク質の性質	タンパク質とはどのような物質であるかについて概説します。
第10回	タンパク質の機能	タンパク質の様々な働きについて概説します。

第 11 回	生命の設計図に手を加える技術	細胞や遺伝子を操作する様々な技術について概説します。
第 12 回	生命科学の発展を支える研究	生命科学に関する研究がどのように進められているのかについて概説します。
第 13 回	振り返り	授業全体の要点を整理し、各項目のつながりを考え理解を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biology at the microscopic level. The aim of this course is to help students understand how the body works, including cells and genes.

Lectures will also learn about representative research that has contributed to the development of biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

営 1 年 K~U、キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学 B」では、マクロな視点から生物学を学ぶことを目的とし、生物学を初めて学ぶことを想定して授業を展開します。地球上には、多種多様な生物が存在しており、生命活動を営んでいます。生物の持つ様々な特徴、生物どうしの関わりについて、生物学の発展に寄与した代表的な研究の内容にもふれながら学ぶことにより、生物が環境に適応し生きていくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

生物の多様性についての知識を会得し、近年大きな課題となっている生物多様性保全の重要性に関して理解を深めることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

授業実施形態等の詳細につきましては「学習支援システム」を通じてお伝えします。

また、授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲示しますので、随時ご確認ください。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	発生とは	受精卵から個体になるまでの過程について概説します。
第 3 回	生物の多様性	地球上に生息する多種多様な生物について概説します。
第 4 回	生物の進化	生物の進化のしくみについて概説します。
第 5 回	生態系を支える生物	生態系の中での生物の役割や性質について概説します。
第 6 回	地球環境と生物	地球環境と生物の関係性について概説します。
第 7 回	生物学研究の進め方	生物学の研究手法・研究成果の発表方法などについて概説します。
第 8 回	生物の行動とは	生物の行動の特徴や、生物の行動をひもとく研究について概説します。

第9回	生物の体のつくり	種間で共通する点・異なる点に着目しながら生物の体のつくりについて概説します。
第10回	生物の生きる戦略	生物が進化の過程で手にした特徴的な性質について概説します。
第11回	生物の体のしくみ	生物の持つ様々な体のしくみをひもとく研究について概説します。
第12回	生物の中のヒトとは	多くの生物の中でのヒトの特徴について概説します。
第13回	振り返り	授業全体の要点を整理し、各項目のつながりを考え理解を深めます。
第14回	授業のまとめ・試験	最終回到授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basis of biology at the macroscopic level. The aim of this course is to help students understand the characteristics of various organisms and biological diversity. Lectures will also learn about representative research that has contributed to the development of biology.

BIO100LA

入門生物学A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2単位

文1年、環1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNAから細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私達の生活や社会に関わる技術について考えます。授業を通じて、生物学の進歩は「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・毎回10~15分程度の映像教材を呈示します。
- ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第4回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第5回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという物質でした。その発見の歴史を学びます。
第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。
第 9 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。
第 10 回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第 11 回	ゲノムと医療	個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第 12 回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第 13 回	クローン技術と iPS 細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第 14 回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

文 1 年、環 1 年/法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
 ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
 ・毎回 10~15 分程度の映像教材を呈示します。
 ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べる微生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第 9 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第 10 回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第 11 回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第 12 回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。
第 13 回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第 14 回	種と多様性	人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A~G / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、ニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、医療や食などの身近な分野では是非が問われている科学技術についてもより明確な意見を持つことができるようになると思います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 3 点です。1) ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識の取得すること。2) 取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、特に後半では科学技術に関するディスカッションの機会も設ける予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。

第4回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第5回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第6回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第7回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第8回	ゲノム分析	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を解析できれば、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノム分析はヒトをはじめとする生命について何を教えてくれるかを考えて見ます。
第9回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNAという分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第10回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第11回	生命操作と生物利用 1 ：微生物	人間は、細菌類などの微生物を古代から活用してきましたが、遺伝子組み換え技術はそのあり方を大きく変えました。微生物利用の歴史と共に、現在の微生物技術についても学びます。
第12回	生命操作と生物利用 2 ：動植物	遺伝子組み換えやクローニング技術は、植物や動物にも適用されています。食料生産などの開発・実用事例から現状を解説します。
第13回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を次々と獲得してきました。それは、人類の未来にとって何を意味するのか。特に医療分野に注目して考えてみます。
第14回	科学技術は誰のもの？	科学技術の開発・運用に関わる社会経済的背景について考察しながら急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppi 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加しているという実感の持てる進行を各回で工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。リモート講義になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provides an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

法 1 年 A~G / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的現象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるでしょう。また、そこから問題解決への考え・意見を持つことができると思います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1) 社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識の取得すること。2) 取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、演習などの参加型の学習機会も設ける予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数動的な振舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第 2 回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第 3 回	生態系のはたらき 1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。
第 4 回	生態系のはたらき 2：物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。

第 5 回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。
第 7 回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いに闘いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第 8 回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第 9 回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の2つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第 13 回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第 14 回	人間の活動を含めた環境保全	農地や都市といった人間の活動と環境保全の両立を目指す取り組みを通して秋学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常点 (20%) を基本とします。小テストは、学習内容の理解度 (到達目標 1) を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく問題解決への応用力 (到達目標 2) を評価するものです。平常点は、各回の学習状況や演習での参加度などを評価するものです。総合成績で 60% 以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

演習以外にも各回で参加型の授業進行ができるような工夫を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。

Zoom による授業になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学的発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、ニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、医療や食などの身近な分野では是非が問われている科学技術についてもより明確な意見を持つことができるようになると思います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識の取得すること。2) 取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、特に後半では科学技術に関するディスカッションの機会も設ける予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。

第4回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第5回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第6回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第7回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第8回	ゲノム分析	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を解析できれば、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノム分析はヒトをはじめとする生命について何を教えてくれるかを考えて見ます。
第9回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNAという分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第10回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第11回	生命操作と生物利用 1 ：微生物	人間は、細菌類などの微生物を古代から活用してきましたが、遺伝子組み換え技術はそのあり方を大きく変えました。微生物利用の歴史と共に、現在の微生物技術についても学びます。
第12回	生命操作と生物利用 2 ：動植物	遺伝子組み換えやクローニング技術は、植物や動物にも適用されています。食料生産などの開発・実用事例から現状を解説します。
第13回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を次々と獲得してきました。それは、人類の未来にとって何を意味するのか。特に医療分野に注目して考えてみます。
第14回	科学技術は誰のもの？	科学技術の開発・運用に関わる社会経済的背景について考察しながら急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppi 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業に参加しているという実感の持てる進行を各回で工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。リモート講義になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provides an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法 1 年 S~Y / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるでしょう。また、そこから問題解決への考え・意見を持つことができると思います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1) 社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識の取得すること。2) 取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、演習などの参加型の学習機会も設ける予定です。また「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則として zoom によるオンライン形式で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数動的な振舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第 2 回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第 3 回	生態系のはたらき 1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。
第 4 回	生態系のはたらき 2：物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。

第 5 回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。
第 7 回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いに闘いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第 8 回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第 9 回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の2つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第 13 回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第 14 回	人間の活動を含めた環境保全	農地や都市といった人間の活動と環境保全の両立を目指す取り組みを通して秋学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常点 (20%) を基本とします。小テストは、学習内容の理解度 (到達目標 1) を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく問題解決への応用力 (到達目標 2) を評価するものです。平常点は、各回の学習状況や演習での参加度などを評価するものです。総合成績で 60% 以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

演習以外にも各回で参加型の授業進行ができるような工夫を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。

Zoom による授業になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 H~N / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私達の生活や社会に関わる技術について考えます。授業を通じて、生物学の進歩は「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・毎回 10~15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。
第 7 回	生命情報	DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第8回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第12回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第13回	クローン技術とiPS細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第14回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200字要約レポート 85%（第1回目の授業でミニ講義をし、第2回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第2回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

BIO100LA

入門生物学B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

法1年H～N / 法文営国環キ2～4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1が2にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
 ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
 ・毎回10～15分程度の映像教材を呈示します。
 ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べる微生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第2回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第3回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第4回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第5回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第6回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介し、学びます。
第7回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第 9 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第 10 回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第 11 回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第 12 回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。
第 13 回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第 14 回	種と多様性	人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年/法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体を作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私達の生活や社会に関わる技術について考えます。授業を通じて、生物学の進歩は「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・毎回 10~15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。
第 7 回	生命情報	DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回	ウイルスと生命	単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。
第 9 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。
第 10 回	食糧問題とバイオテクノロジー	遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。
第 11 回	ゲノムと医療	個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。
第 12 回	遺伝子治療	人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。
第 13 回	クローン技術と iPS 細胞	細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。
第 14 回	移植医療・再生医療	臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物が集まることでできあがる生態系です。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会」と呼ばれたりしています。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、「生物学」という言葉に臆することなく、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」はわからないと最初から諦めている状態から、調べればわかりそうだという段階までステップアップすることを目指します。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
 ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
 ・毎回 10~15 分程度の映像教材を呈示します。
 ・リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べる微生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介しします。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。
第 9 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。
第 10 回	生物の社会	人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。
第 11 回	発生・分化	一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。
第 12 回	再生	多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。
第 13 回	薬と生物学	さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。
第 14 回	種と多様性	人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週4時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（アンケートへの参加率等を評価します。）
 ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業でミニ講義をし、第 2 回目の授業のはじめにそれを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、授業支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 I~N、文 1 年 A~I・W~X、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	物質の進化	元素の生い立ちについて
第 3 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 4 回	原子固有の光	電子の軌道と光のエネルギーについて
第 5 回	同位体	放射性同位体の壊変と半減期について
第 6 回	放射線	放射線の種類と性質
第 7 回	放射線と生体	放射線の活用や生体に及ぼす影響について
第 8 回	化学結合	原子が結びつく仕組みについて
第 9 回	分子の立体構造	化学結合によってできる分子の形について
第 10 回	炭素材料	炭素原子のみでできた物質の種類と機能について
第 11 回	水と物質	物質に対する水の挙動について
第 12 回	燃焼と消火	物質と酸素の化学反応
第 13 回	電池	化学電池、特にリチウムイオン二次電池の構造と特徴
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで公開します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします(配分 40%)。期末試験の結果(配分 60%)と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験が課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces molecular structure and properties. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

法 1 年 I~N、文 1 年 A~I・W~X、国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目(理系科目)の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	光の三原色	光の性質と発光物質について
第 3 回	色の三原色	色素分子の特徴とクロミック現象について
第 4 回	自然の色素	天然の色素分子と視物質の挙動について
第 5 回	ヨウ素の科学	ヨウ素分子とヨウ化物イオン、有機ヨウ素分子の違いとそれぞれの利用について
第 6 回	光の散乱	分子の振動と光を用いた物質の分析について
第 7 回	赤外線吸収	二酸化炭素の振動のしかたと赤外線吸収の関係について
第 8 回	キラリティー	分子の右手と左手の関係について
第 9 回	液晶の発見と構造色	物質の状態変化にともなう分子の配向、運動状態の変化について
第 10 回	液晶ディスプレイ	電気を流さない物質が電場から受ける影響について
第 11 回	高分子	天然高分子と化学繊維やプラスチックの違いについて
第 12 回	触媒	化学反応を促進する原理について
第 13 回	排煙の浄化	排気ガスの浄化や化学物質の合成における触媒の役割について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします(配分 40%)。期末試験の結果(配分 60%)と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験が課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces molecular structure and properties. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

法 1 年 S~W、文 1 年 P~V / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(HOPPII)に提示します。毎回の授業で、HOPPIIを介して課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特にHOPPIIの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時HOPPIIにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第2回	物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第4回	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第7回	酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第8回	化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第9回	物質の状態	気体・液体・固体間の変化と熱収支、溶液
第10回	放射化学	放射性崩壊とは、放射線の種類、放射性物質

第11回	地球温暖化(1)	地球温暖化の仕組みと原因物質
第12回	地球温暖化(2)	地球温暖化の影響
第13回	大気・水質・土壌汚染	オゾン層の破壊、海洋汚染、有害物質
第14回	エネルギーと環境	化石燃料と再生可能エネルギー

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

使用しません。学習支援システム(HOPPII)に教材をアップします。

【参考書】

一般化学(四訂版)、長島弘三(著)、富田功(著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケート結果がないため、一昨年のアンケート結果に基づき、基礎化学については内容を絞ってより丁寧な説明をするとともに、環境問題をはじめ身近な話題と化学とのつながりがより理解しやすいようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、および通信環境を準備し、学習支援システム(HOPPII)にアクセスできる必要があります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions.

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

法1年S~W、文1年P~V / 法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(HOPPII)に提示します。毎回の授業で、HOPPIIを介して課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特にHOPPIIの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時HOPPIIにてお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要の説明、物質の構成単位である原子・分子について解説
第2回	有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第3回	官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第5回	炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第6回	酸素・窒素含有化合物	身近な酸素・窒素含有化合物の構造と性質について
第7回	芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質について
第8回	有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、燃焼反応、反応熱について
第9回	有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について

第10回	生体を作る有機化合物	糖質とタンパク質について
	①	
第11回	生体を作る有機化合物	脂質と核酸について
	②	
第12回	生体内の化学反応	酵素、代謝について
第13回	有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について
第14回	化学物質の管理	化学物質の有害性情報のみかたについて、有害化学物質の管理について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システム (HOPPII) に教材をアップします。

【参考書】

一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容と課題についてはおおむね好評だったので、今年度も同様に、化学の基礎的事項の丁寧な説明と、身近な問題や環境問題と化学とのつながりについて理解が深まるような講義にしたいと思います。授業の仕方については、前年度は資料型オンデマンド授業として文書教材の配布によりましたが、音声説明の要望があったため、今年度はZoomや動画資料の配布を併用します。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、および通信環境を準備し、学習支援システム (HOPPII) にアクセスできる必要があります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonds, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms.

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

営1年、環1年/法文営国環キ2~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当たりのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンデマンド授業（資料型等）の形態によって行われます。すなわち、毎回の授業では、学習支援システム (HOPPII) にアップロードされた学習メモ、スライド資料、プリント教材、課題ファイルなどをダウンロードして各自で学習を行います。その後、Zoomを使用する双方向型授業（金曜日3時限）に参加していただき、理解を深めます。質問等は、Zoom授業内のほか、HOPPIIの掲示板を通して受け付けます。さらに、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、課題を課題ファイルに作成します。完成した課題ファイルは、HOPPIIを通して提出期限までに提出します。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第2回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第3回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第4回	放射性壊変（1）	α 壊変および β 壊変について学習する。
第5回	放射性壊変（2）	その他の放射性壊変について学習する。
第6回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第7回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。

第 8 回	^{235}U の誘導核分裂	^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	^{239}Pu の誘導核分裂	^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 10 回	核エネルギー	核反応にもなって反応系に入ったりするエネルギーについて考察する。
第 11 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 12 回	原子力発電所の種類 (1)	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類 (2)	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学習支援システム (HOPPII) を通して提出される課題 (100%) によって決定されます。各課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は、最大履修者数 250 名で抽選が行われますので、履修を希望する方は、必ず事前の抽選に参加してください。抽選に関する詳細は、追って ILAC 掲示板で周知しますので注意しておいてください。

秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

営 1 年、環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンデマンド授業（資料型等）の形態によって行われます。すなわち、毎回の授業では、学習支援システム (HOPPII) にアップロードされた学習メモ、スライド資料、プリント教材、課題ファイルなどをダウンロードして各自で学習を行います。その後、Zoom を使用する双方向型授業（金曜日 3 時限）に参加していただき、理解を深めます。質問等は、Zoom 授業内のほか、HOPPII の掲示板を通して受け付けます。さらに、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、課題を課題ファイルに作成します。完成した課題ファイルは、HOPPII を通して提出期限までに提出します。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第 4 回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第 5 回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第 6 回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。

第7回	炭化水素のH/C比	炭化水素のH/C比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第8回	CO ₂ の排出量	CO ₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第9回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第10回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第11回	天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第12回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第13回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学習支援システム（HOPPII）を通して提出される課題（100%）によって決定されます。各課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

本授業は、最大履修者数250名で抽選が行われますので、履修を希望する方は、必ず事前の抽選に参加してください。抽選に関する詳細は、追ってILAC掲示板で周知しますので注意しておいてください。

春学期に開講される「入門化学A」を合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy consumption caused by the combustion of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

法文営国環キ1~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「化学」という学問の視点から、自然界の物質やその構成要素である「分子」について学習します。地球上の物質として生命体は、ほとんどすべて原子が2個以上結合してできた分子で作られています。この分子の、自然界、生命体、日常生活での役割について学びます。その理由は、私たちがより良く生きるためには、自然界を構成している物質や分子を理解することがとても大切だからです。

【到達目標】

物質の構成要素である分子について、以下のことを理解し、口頭または文章で表現できるようになること：

- 1) 分子は、物質や生命体の構成要素であること。
- 2) 原子の結合によって分子が生じ、その性質や数にはほとんど限りが無いこと。
- 3) 分子は人間の生存に必要な「エネルギー」に関係していること。
- 4) 自然界や人間の日常的世界における分子の役割について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインで資料を掲示する形式で行います。資料は、パワーポイントファイルとワードによるパワーポイントファイルの内容の説明のファイルです。課題が出ます。また、毎回、出席調査票を配布（掲示）します。学習支援システムからの質問、感想を歓迎します。質問には詳しい解説をします。また、課題には、提出後、解説と、それを理解する上でのポイントを掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	自然界と自然界にある物質、その構成要素である分子について、14回の授業に沿った概論的な話をします。
2	自然界と物質	物質は何でできているのだろうか。どんな状態にあるのだろうか。固体、液体、気体の性質を考えます。
3	物質と分子	物質はどこまで分けられるか？物質を構成するものは何だろうか。元素と同位元素、そして原子とは？
4	分子と原子	分子とは何だろうか。分子は原子から形成されていることを学びます。
5	分子と化合物、そしてイオン	原子が2個以上結合すると分子が生じますが、それは様々な性質や形を持つ化合物や電荷を持つイオンになります。

- | | | |
|----|---------------------------|---|
| 6 | 分子の数：その数え方 | 分子の変化（化学反応）を学ぶ基礎として、アボガドロ数とモルについて学びます。 |
| 7 | 分子と結合：共有結合とイオン結合 | 原子から分子が生成するときの、原子が他の原子と形成する結合の数と結合の仕方を学びます。 |
| 8 | 分子の大きさ：分子、巨大分子、高分子、そして超分子 | 分子1個はナノメートルサイズあるいはそれ以下です。しかし、その何千倍、何万倍の巨大分子や超分子も存在します。 |
| 9 | 分子は形をもつ | 分子は特定の三次元的な形を持っていて、それが性質に大きく関わります。 |
| 10 | 分子は変化する：化学反応の世界 | 分子を加熱したり、光照射したりすると、結合が切断されて別の分子になります。これが化学反応で、物質に変化をもたらします。 |
| 11 | 分子と日常生活 | 食物、衣服、医薬品（薬）など、身の周りの物質はほとんどが分子から構成されています。 |
| 12 | 生命体を作る分子：タンパク質 | 私たちの体を作っているのも分子です。その代表格のタンパク質の基礎を学びます。 |
| 13 | 化学反応とエネルギー | 化学反応が起こるとエネルギーの出入りがあります。その基礎と応用について学びます。 |
| 14 | まとめ：実験はどうやるのだろうか。 | ここまでのまとめと、分子を研究するための実験装置、器具、実験方法について学びます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習としてまず教科書をよく読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容への「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。週一回の授業に対して、授業時間を含めて、最低4時間の学習（予習・復習）が必要です。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円+税

【参考書】

1)「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2)分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3)人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店。この他にも授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、課題（複数回）50%。内容の理解度や論述の仕方（文章表現）で評価する。期末試験を受験しない場合は、単位の認定はできません。期末試験や課題の具体的方法等は授業で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で配布（掲示）する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回掲示し、返信をお願いしていきます。質問やコメントには、きる限り早めに答えるようにしていきます。（今年度は学習支援システム内で行います。）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで授業資料を見るための機器等。

【その他の重要事項】

秋学期の入門化学 B（赤羽担当）へと内容が連続していくので、化学全般を理解するために、入門化学 B も履修することが望ましい。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the world of molecules that form materials in nature. The course will deal with: a) the molecules consist of atoms: b) a tiny molecule, the size of it is usually within the order of nm or less, may make giant molecules like proteins by using chemical bonds, c) chemical reactions of molecules may produce new molecules eventually leading to new materials that are not present until then. It will also point out important role of chemistry in everyday life, and will emphasize the vital relationship of chemistry with energy that mankind needs to live. The course will be designed for college students who will take chemistry course as a subject for the first time.

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の入門化学 A を基礎に、より進んだ段階の化学を扱います。具体的には、1) 身の回りにある物質に関係の深い有機化合物の化学とそれが起こす化学反応、2) 生体内反応で使われている酵素などのタンパク質の化学、そして、エネルギーと環境の観点から、3) 人間の生活に必要なエネルギーとその化学について、具体的には化石燃料の化学、太陽光エネルギー有効利用にかかわる有機化合物と光の相互作用とそれが起こす化学反応、について学びます。この授業は、21世紀の社会に貢献するために、いかなる職業につこうとも必要となる自然科学（化学）の素養を形成します。

【到達目標】

分子の性質と化学反応、分子と光の相互作用、分子の持つエネルギーの利用可能性について、以下のことを理解し、口頭あるいは文章で表現できること。1) 基本的な有機化合物の構造と性質、および、それが起こす化学反応、2) 生体内化学反応に関与するタンパク質である酵素についての基礎的事柄、3) 化石燃料の利用、4) 有機化合物と光の相互作用、ならびに、光により起こる有機化合物の化学反応、5) 分子を利用したエネルギー変換について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインで資料を掲示する形式で行います。資料は、パワーポイントファイルとワードによるパワーポイントファイルの内容の説明のファイルです。課題が出ます。また、毎回、出席調査票を配布（掲示）します。学習支援システムからの質問、感想を歓迎します。質問には詳しい解説をします。また、課題には、提出後、解説と、それを理解する上でのポイントを掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有機化合物とは：その歴史と人間社会での役割	有機化合物とは何か、歴史も含めて、その基本を学びます。
2	有機化合物の構造と性質：官能基	有機化合物の性質を決める「官能基」を中心に、構造や反応性の基礎を学びます。
3	いろいろな有機化合物（1）炭化水素	炭素原子の結合の作り方を中心に、炭素と水素で作られている炭化水素の構造について学びます。
4	いろいろな有機化合物（2）アルコールとカルボン酸、エステル類	酸素原子を含む有機化合物について学びます。日常生活においても重要な化合物です。
5	有機化合物の立体化学：分子の不思議な関係	有機化合物には、「右手」と「左手」に相当する分子が存在します。その性質と意味について考えます。
6	アミノ酸の化学とタンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸や、生体内化学反応の「触媒」である酵素の基礎を学びます。

7	材料の有機化学	材料でもある衣服や紙など、日常的に使われている有機化合物の化学から最先端材料の化学までを学びます。
8	酸素の化学：有機化合物との相互作用	酸素がなければヒトは生きていきません。酸素と有機化合物の相互作用、酸化、燃焼について学びます。オゾンにも触れます。
9	酸素とフリーラジカルの化学	物質や生体内分子が、酸素下でフリーラジカルとどのような反応を起こすかを学びます。
10	光と分子：光は分子に何ができるか。	有機化合物が光を吸収するとどのような挙動を示すかを探ります。
11	光と有機化合物	有機化合物が光を吸収した場合に起こす結合開裂や形の変化の基礎を学びます。
12	有機化合物の光化学反応とエネルギーの利用	有機化合物が光の作用で起こす化学変化を、主にエネルギーの利用という観点から考えます
13	エネルギーと有機化学	化石燃料とその利用について学びます。
14	まとめ	これまでのまとめとして、有機化合物、酸素、光、そして、エネルギーの関係を復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習として教科書をしっかり読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容の「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。授業を十分に理解するには、予習と復習の時間を合わせて、4 時間は必要です。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円+税

【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店；4) 有機化学の基本ー電子のやりとりから反応を理解するー、富岡秀雄ら著、化学同人；5) エネルギーの化学ー人類の未来に向けてー（第2版）、安井伸郎、三共出版。この他にも授業中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、課題（複数回）50%。内容の理解度や論述の仕方（文章表現）で評価する。期末試験を受験しない場合は、単位の認定はできません。期末試験や課題の具体的方法等は授業で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で配布する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回配布していきます。質問やコメントには、きる限り早めに答えるようにしていきます。（今年度は学習支援システム内で行います。）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスする機器以外には、特にありません。

【その他の重要事項】

春学期の入門化学 A（赤羽担当）の内容を基礎とするので、入門化学 A を履修していることが望ましいですが、もちろん義務ではありません。化学を理解するため、入門化学 A を履修していない学生もぜひ履修してください。初めてこの入門化学 B を取る学生にもわかりやすく、入門化学 A の内容にも時々触れながら授業を行います。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1) が、分子の性質や働きについては2) が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3) が特に役に立つと思います。また、有機化学入門には4) が、エネルギーの化学全般には5) が有用です。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the structures, reactions, and utility of organic compounds. The compounds include hydrocarbons, alcohols, esters, proteins, compounds containing asymmetric carbons, and various organic materials such as dyes and other advanced materials. The course will also deal with unique role of molecular oxygen in living world, and typical organic transformation with molecular oxygen, including combustion of fossil fuels, will be explained. Finally, organic photochemistry, i.e., the interaction of light with organic compounds, will be described in terms of utilization of solar energy conversion as a promising energy conversion technology in 21st century.

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

法1年A～H・Y、文1年L～N / 法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム(HOPPII)に提示します。毎回の授業で、HOPPIIを介して課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特にHOPPIIの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時HOPPIIにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第2回	物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第4回	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第7回	酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第8回	化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第9回	物質の状態	気体・液体・固体間の変化と熱収支、溶液
第10回	放射化学	放射性崩壊とは、放射線の種類、放射性物質

第11回	地球温暖化(1)	地球温暖化の仕組みと原因物質
第12回	地球温暖化(2)	地球温暖化の影響
第13回	大気・水質・土壌汚染	オゾン層の破壊、海洋汚染、有害物質
第14回	エネルギーと環境	化石燃料と再生可能エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システム (HOPPII) に教材をアップします。

【参考書】

一般化学(四訂版)、長島 弘三(著)、富田 功(著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケート結果がないため、一昨年のアンケート結果に基づき、基礎化学については内容を絞ってより丁寧な説明をするとともに、環境問題をはじめ身近な話題と化学とのつながりがより理解しやすいようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、および通信環境を準備し、学習支援システム (HOPPII) にアクセスできる必要があります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions.

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

法1年A~H・Y、文1年L~N / 法文営国環キ2~4年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。授業教材は、事前に学習支援システム (HOPPII) に提示します。毎回の授業で、HOPPII を介して課題を出します。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に HOPPII の掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時 HOPPII にてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要の説明、物質の構成単位である原子・分子について解説
第2回	有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第3回	官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第5回	炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第6回	酸素・窒素含有化合物	身近な酸素・窒素含有化合物の構造と性質について
第7回	芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質について
第8回	有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、燃焼反応、反応熱について
第9回	有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について

第10回	生体を作る有機化合物	糖質とタンパク質について
	①	
第11回	生体を作る有機化合物	脂質と核酸について
	②	
第12回	生体内の化学反応	酵素、代謝について
第13回	有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について
第14回	化学物質の管理	化学物質の有害性情報のみかたについて、有害化学物質の管理について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システム (HOPPII) に教材をアップします。

【参考書】

一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容と課題についてはおおむね好評だったので、今年度も同様に、化学の基礎的事項の丁寧な説明と、身近な問題や環境問題と化学とのつながりについて理解が深まるような講義にしたいと思います。授業の仕方については、前年度は資料型オンデマンド授業として文書教材の配布によりましたが、音声説明の要望があったため、今年度はZoomや動画資料の配布を併用します。

【学生が準備すべき機器他】

PCやタブレット端末等、および通信環境を準備し、学習支援システム (HOPPII) にアクセスできる必要があります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonds, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms.

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

法文営国環キ 1~4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「化学」という学問の視点から、自然界の物質やその構成要素である「分子」について学習します。地球上の物質として生命体は、ほとんどすべて原子が2個以上結合してできた分子で作られています。この分子の、自然界、生命体、日常生活での役割について学びます。その理由は、私たちがより良く生きるためには、自然界を構成している物質や分子を理解することがとても大切だからです。

【到達目標】

物質の構成要素である分子について、以下のことを理解し、口頭または文章で表現できるようになること：

- 1) 分子は、物質や生命体の構成要素であること。
- 2) 原子の結合によって分子が生じ、その性質や数にはほとんど限りがないこと。
- 3) 分子は人類の生存に必要な「エネルギー」に関係していること。
- 4) 自然界や人間の日常的世界における分子の役割について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインで資料を掲示する形式で行います。資料は、パワーポイントファイルとワードによるパワーポイントファイルの内容の説明のファイルです。課題が出ます。また、毎回、出席調査票を配布（掲示）します。学習支援システムからの質問、感想を歓迎します。質問には詳しい解説をします。また、課題には、提出後、解説と、それを理解する上でのポイントを掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	自然界と自然界にある物質、その構成要素である分子について、14回の授業に沿った概論的な話をします。
2	自然界と物質	物質は何でできているのだろうか。どんな状態にあるのだろうか。固体、液体、気体の性質を考えます。
3	物質と分子	物質はどこまで分けられるか？物質を構成するものは何だろうか。元素と同位元素、そして原子とは？
4	分子と原子	分子とは何だろうか。分子は原子から形成されていることを学びます。
5	分子と化合物、そしてイオン	原子が2個以上結合すると分子が生じますが、それは様々な性質や形を持つ化合物や電荷を持つイオンになります。

6	分子の数：その数え方	分子の変化（化学反応）を学ぶ基礎として、アボガドロ数とモルについて学びます。
7	分子と結合：共有結合とイオン結合	原子から分子が生成するときの、原子が他の原子と形成する結合の数と結合の仕方を学びます。
8	分子の大きさ：分子、巨大分子、高分子、そして超分子	分子1個はナノメートルサイズあるいはそれ以下です。しかし、その何千倍、何万倍の巨大分子や超分子も存在します。
9	分子は形をもつ	分子は特定の三次元的な形を持っていて、それが性質に大きく関わります。
10	分子は変化する：化学反応の世界	分子を加熱したり、光照射したりすると、結合が切断されて別の分子になります。これが化学反応で、物質に変化をもたらします。
11	分子と日常生活	食物、衣服、医薬品（薬）など、身の周りの物質はほとんどが分子から構成されています。
12	生命体を作る分子：タンパク質	私たちの体を作っているのも分子です。その代表格のタンパク質の基礎を学びます。
13	化学反応とエネルギー	化学反応が起こるとエネルギーの出入りがあります。その基礎と応用について学びます。
14	まとめ：実験はどうやるのだろうか。	ここまでのまとめと、分子を研究するための実験装置、器具、実験方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習としてまず教科書をよく読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容への「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。週一回の授業に対して、授業時間を含めて、最低4時間の学習（予習・復習）が必要です。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円+税

【参考書】

1)「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2)分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3)人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店。この他にも授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、課題（複数回）50%。内容の理解度や論述の仕方（文章表現）で評価する。期末試験を受験しない場合は、単位の認定はできません。期末試験や課題の具体的方法等は授業で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で配布（掲示）する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回掲示し、返信をお願いしていきます。質問やコメントには、きる限り早めに答えるようにしていきます。（今年度は学習支援システム内で行います。）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで授業資料を見るための機器等。

【その他の重要事項】

秋学期の入門化学 B（赤羽担当）へと内容が連続していくので、化学全般を理解するために、入門化学 B も履修することが望ましい。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the world of molecules that form materials in nature. The course will deal with: a) the molecules consist of atoms: b) a tiny molecule, the size of it is usually within the order of nm or less, may make giant molecules like proteins by using chemical bonds, c) chemical reactions of molecules may produce new molecules eventually leading to new materials that are not present until then. It will also point out important role of chemistry in everyday life, and will emphasize the vital relationship of chemistry with energy that mankind needs to live. The course will be designed for college students who will take chemistry course as a subject for the first time.

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

赤羽 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の入門化学 A を基礎に、より進んだ段階の化学を扱います。具体的には、1) 身の回りにある物質に関係の深い有機化合物の化学とそれが起こす化学反応、2) 生体内反応で使われている酵素などのタンパク質の化学、そして、エネルギーと環境の観点から、3) 人間の生活に必要なエネルギーとその化学について、具体的には化石燃料の化学、太陽光エネルギー有効利用にかかわる有機化合物と光の相互作用とそれが起こす化学反応、について学びます。この授業は、21世紀の社会に貢献するために、いかなる職業につこうとも必要となる自然科学（化学）の素養を形成します。

【到達目標】

分子の性質と化学反応、分子と光の相互作用、分子の持つエネルギーの利用可能性について、以下のことを理解し、口頭あるいは文章で表現できること。1) 基本的な有機化合物の構造と性質、および、それが起こす化学反応、2) 生体内化学反応に関与するタンパク質である酵素についての基礎的事柄、3) 化石燃料の利用、4) 有機化合物と光の相互作用、ならびに、光により起こる有機化合物の化学反応、5) 分子を利用したエネルギー変換について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインで資料を掲示する形式で行います。資料は、パワーポイントファイルとワードによるパワーポイントファイルの内容の説明のファイルです。課題が出ます。また、毎回、出席調査票を配布（掲示）します。学習支援システムからの質問、感想を歓迎します。質問には詳しい解説をします。また、課題には、提出後、解説と、それを理解する上でのポイントを掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有機化合物とは：その歴史と人間社会での役割	有機化合物とは何か、歴史も含めて、その基本を学びます。
2	有機化合物の構造と性質：官能基	有機化合物の性質を決める「官能基」を中心に、構造や反応性の基礎を学びます。
3	いろいろな有機化合物（1）炭化水素	炭素原子の結合の作り方を中心に、炭素と水素で作られている炭化水素の構造について学びます。
4	いろいろな有機化合物（2）アルコールとカルボン酸、エステル類	酸素原子を含む有機化合物について学びます。日常生活においても重要な化合物です。
5	有機化合物の立体化学：分子の不思議な関係	有機化合物には、「右手」と「左手」に相当する分子が存在します。その性質と意味について考えます。
6	アミノ酸の化学とタンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸や、生体内化学反応の「触媒」である酵素の基礎を学びます。

7	材料の有機化学	材料でもある衣服や紙など、日常的に使われている有機化合物の化学から最先端材料の化学までを学びます。
8	酸素の化学：有機化合物との相互作用	酸素がなければヒトは生きていきません。酸素と有機化合物の相互作用、酸化、燃焼について学びます。オゾンにも触れます。
9	酸素とフリーラジカルの化学	物質や生体内分子が、酸素下でフリーラジカルとどのような反応を起こすかを学びます。
10	光と分子：光は分子に何が出来るか。	有機化合物が光を吸収するとどのような挙動を示すかを探ります。
11	光と有機化合物	有機化合物が光を吸収した場合に起こす結合開裂や形の変化の基礎を学びます。
12	有機化合物の光化学反応とエネルギーの利用	有機化合物が光の作用で起こす化学変化を、主にエネルギーの利用という観点から考えます
13	エネルギーと有機化学	化石燃料とその利用について学びます。
14	まとめ	これまでのまとめとして、有機化合物、酸素、光、そして、エネルギーの関係を復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習として教科書をしっかり読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容の「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。授業を十分に理解するには、予習と復習の時間を合わせて、4 時間は必要です。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円+税

【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店；4) 有機化学の基本ー電子のやりとりから反応を理解するー、富岡秀雄ら著、化学同人；5) エネルギーの化学ー人類の未来に向けてー（第2版）、安井伸郎、三共出版。この他にも授業中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、課題（複数回）50%。内容の理解度や論述の仕方（文章表現）で評価する。期末試験を受験しない場合は、単位の認定はできません。期末試験や課題の具体的方法等は授業で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で配布する出席調査票の意見や質問が大変有益でした。今年度も毎回配布していきます。質問やコメントには、きる限り早めに答えるようにしていきます。（今年度は学習支援システム内で行います。）

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスする機器以外には、特にありません。

【その他の重要事項】

春学期の入門化学 A（赤羽担当）の内容を基礎とするので、入門化学 A を履修していることが望ましいですが、もちろん義務ではありません。化学を理解するため、入門化学 A を履修していない学生もぜひ履修してください。初めてこの入門化学 B を取る学生にもわかりやすく、入門化学 A の内容にも時々触れながら授業を行います。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1) が、分子の性質や働きについては2) が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3) が特に役に立つと思います。また、有機化学入門には4) が、エネルギーの化学全般には5) が有用です。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the structures, reactions, and utility of organic compounds. The compounds include hydrocarbons, alcohols, esters, proteins, compounds containing asymmetric carbons, and various organic materials such as dyes and other advanced materials. The course will also deal with unique role of molecular oxygen in living world, and typical organic transformation with molecular oxygen, including combustion of fossil fuels, will be explained. Finally, organic photochemistry, i.e., the interaction of light with organic compounds, will be described in terms of utilization of solar energy conversion as a promising energy conversion technology in 21st century.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
2	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
3	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
4	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
5	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
6	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が違って何が見えないかを学ぶ。
9	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
10	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
11	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
13	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
14	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知します。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル
https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese
 質疑応答集の PDF ファイル
https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。課題の提示は5月に行う。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を利用することを勧める。

【Outline and objectives】

Study the wonder of the universe. Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

文環 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知します。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese
 質疑応答集の PDF ファイル
https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。課題の提示は10月に行う。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を利用することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。春学期では、地球・太陽系・恒星に焦点を当てる。とくに我々の身近な環境である地球環境に重点を置く。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンドで行う。資料と動画を Hoppii を通じて配布しオンラインで学習する。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	宇宙の階層構造	地球のスケールから宇宙全体のスケールまでの構造を概観する。
第 3 回	地球の構造	地球の構造について学ぶ。
第 4 回	地球の大気	地球のうち、大気に焦点を当てる。
第 5 回	気候変動	気候変動について学ぶ。地球温暖化についても焦点を当てる。
第 6 回	温室効果	大気の温室効果について説明する。
第 7 回	地球の歴史	地球誕生から現在までの 46 億年の歴史を概観する。さらに生物の進化について考察する。
第 8 回	月	月の形成と地球との関わりについて学ぶ。
第 9 回	太陽系の概要	太陽系全体を概観する。
第 10 回	惑星	地球型惑星と木製型惑星の違いを学ぶ。
第 11 回	太陽と恒星	太陽に代表される恒星について学ぶ。
第 12 回	恒星の構造	恒星の構造について学び、恒星がなぜ光るかを理解する。
第 13 回	恒星と惑星の形成	恒星と惑星が形成する過程について学ぶ。
第 14 回	恒星の進化	恒星の進化について学ぶ。白色矮星・中性子星・ブラックホールについても学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
状況によっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。昨年度は zoom リアルタイムで授業を行ったので、携帯電話を用いたミニテストを行い好評であった。今年度はリアルタイムで授業を実施しないため、Hoppii を持ちてミニテストを行う。

【Outline and objectives】

The students learn the introduction of astronomy. In the spring semester, we focus on the Earth, solar system, and stars.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

営キ 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。秋学期では、恒星の集団である銀河、銀河の集団である銀河団、さらに宇宙全体を対象とする。

天文学 II は天文学 I からの続きである。必ずしも天文学 I を事前に受講する必要はないが、天文学 I と II を両方受講すると理解は深まるであろう。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンドで行う。資料と動画を Hoppii を通じて配布しオンラインで学習する。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第 2 回	銀河の分類	銀河をいくつかの種類（渦巻銀河・棒渦巻銀河・楕円銀河など）に分類する。
第 3 回	銀河の構造	それぞれの銀河の種類について、それらの構造を学ぶ。
第 4 回	銀河の進化	銀河の内部における星形成と、銀河の進化について学ぶ。
第 5 回	暗黒物質	銀河の主要な構成要素である暗黒物質（ダークマター）について学ぶ。
第 6 回	銀河の形成	銀河の形成過程について学ぶ。
第 7 回	宇宙膨張	膨張する宇宙について学ぶ。ハッブルの法則について学ぶ。
第 8 回	宇宙の大規模構造	宇宙全体の構造について学ぶ。赤方偏移探査について学ぶ。
第 9 回	ビッグバン	宇宙の始まりであるビッグバンについて学ぶ。
第 10 回	宇宙年齢	ハッブルの法則を用いて、宇宙の年齢を導く。
第 11 回	宇宙背景放射	ビッグバンの残光である宇宙背景放射について学ぶ。
第 12 回	宇宙の地平線	宇宙の果てがどのようなになっているかを理解する。
第 13 回	宇宙の未来	今後宇宙がどのような進化をたどるかを学ぶ。
第 14 回	地球外生命探査	地球以外の惑星に生物はいるか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
状況によっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。昨年度は zoom リアルタイムで授業を行ったので、携帯電話を用いたミニテストを行い好評であった。今年度はリアルタイムで授業を実施しないため、Hoppii を持ちてミニテストを行う

【Outline and objectives】

The students learn the introduction of astronomy. In the fall semester, we focus on galaxies and the Universe.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
2	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
3	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
4	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
5	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
6	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が違って何が見えないかを学ぶ。
9	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
10	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
11	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
13	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
14	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知します。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。課題の提示は5月に行う。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を利用することを勧める。

【Outline and objectives】

Study the wonder of the universe. Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知します。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese
質疑応答集の PDF ファイル
https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。課題の提示は10月に行う。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を利用することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

【例】

（なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋における科学的／哲学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく。
第 3 回	古代の天文学とその発展	前回とは別の視点から、西洋古代における天文学の歴史を見ていく。
第 4 回	アリストテレスの自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく。
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく。
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」をプトレマイオス天文学との対比で見ていく。
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかをティコ、ガリレオ、ケプラーなどの研究を中心に見ていく。
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 1）	天文学の革新と呼応して進んだ力学や物質論などの革新を見ていく。
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 2）	前回に引き続き、17 世紀科学革命における宇宙論や自然観、あるいは神学における革新を見ていく。
第 10 回	近代科学の基礎付けの試み：ペーコン・デカルト・ロック	哲学者たちによる新しい自然学の哲学的位置づけの試みを見ていく。
第 11 回	ニュートンとライブニッツの論争（その 1）	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察する。まずは両者の立場と論争の主要な争点の紹介。
第 12 回	ニュートンとライブニッツの論争（その 2）	前回に引き続き、両者の論争とその位置づけを見ていく。
第 13 回	ニュートン力学の発展とその後	18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を見ていく。さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく。

第 14 回 全体のまとめ/授業内試験 全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、一般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聞き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聞き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法国 1 年 / 法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。（なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋古代思想における目的論と反目的論	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代に立ち戻り、哲学者たちの自然観を「目的論」（アリストテレス、ストア派が代表）と「反目的論」（古代原子論が代表）に大別しながらその内容を見ていく。
第 3 回	17 世紀科学革命・機械論的自然観と動物機械論	17 世紀科学革命において「機械論的自然観」が提起され、アリストテレスの目的論的／有機体的自然観は退けられる。これをその典型であるデカルトの「動物機械論」を中心に考察していく。
第 4 回	ニュートンとライブニッツの論争における生氣論と機械論の対立	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を今期も取り上げる。ここでは、いずれも目的論的自然観を部分的に再導入しながら、「生氣論」と「機械論」に分かれて対立しあう両者の主張を見ていく。
第 5 回	17-18 世紀における生物研究の発展	17 世紀科学革命以降、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされたどのような問題が議論されたのかを見ていく。
第 6 回	進化論前史：19 世紀における自然神学と地質学ほか	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する。
第 7 回	ダーウィンの分岐進化の思想と本質主義批判	進化論的な思想はダーウィンが創始したわけではないが、ダーウィンはそれ以前の進化思想には見られなかった「分岐進化」の思想を導入する。この思想の革新性をそれ以前の進化思想との対比で見ていく。

第 8 回	ダーウィンの自然選択説による「目的論の否定／目的論の自然化」	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められている。この回ではこのメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく。
第 9 回	非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけては、自然選択説が顧みられなくなり「非ダーウィンの進化論」が全盛になったとされる。それらの学説の内容と、そこに共通する生命についての見方を考察する。
第 10 回	進化論の社会的影響	ダーウィンの『種の起原』は科学の世界を超えた社会的影響を与えた。この回ではそれを見ていくと共に、「科学と社会」という大きな問題も考えたい。
第 11 回	進化の新しい総合	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義とダーウィン主義の総合により、「進化の総合説」が誕生し、ダーウィンの自然選択説が改めて進化の主要な要因と見なされるようになる。この回ではこの成立とその後の発展の歴史、批判者との応答などを見ていく。
第 12 回	分子生物学と生物機械論の復活	この回では分子生物学をはじめとする、進化論とは別の方面から進んだ生物学の近代化の歴史を見ていく。
第 13 回	現代における進化生物学の多様な浸透	現代、ダーウィン進化論は生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している。この回では、歴史的観点を踏まえつつこれらの現代的問題を見ていく。
第 14 回	全体のまとめ／授業内試験／レポート提出	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、一般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聞き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

詫間 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

法文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、科学技術のアウトプット（科学知識や人工物など）は社会のすみずみまで浸透している。また、大抵の社会問題に科学技術が絡んでくるようになってきているので、科学技術なしには問題を語ることも解決することもできないと言ってもよいほどの状況にある。この授業は、科学技術がこれほどまでに大きな存在となった歴史的経緯をたどり、科学技術に対する理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

・科学技術の歴史がどのように展開してきたのか、その流れをイメージできるようにすること。

・科学技術が社会の中でどのように作動しているのか、そのおおよそのしくみを理解できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。スライド (PowerPoint) を用いる。適宜、ビデオを鑑賞してもらう。科学技術に関する個別の専門的知識は必要としない。文科系の学生にも分かりやすいように、科学と技術の歴史的・社会的性格を論じる。

また、毎回、授業の終了後、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびイントロダクション	授業の概要と進め方。「科学」「技術」「科学技術」の簡単な定義。科学と技術の歴史的発達の概要。本講義で科学と技術を一緒に議論する理由。
第 2 回	古代ギリシャ・ローマの科学と技術	古代ギリシャ人による自然現象の探求と、古代ローマ人の実用重視の傾向を理解する。
第 3 回	中世の科学・技術（その 1）	西欧における農業生産の拡大、都市の発達、イスラムの科学・技術、12 世紀ルネサンス、などを例に文明と科学・技術の関係を理解する。
第 4 回	中世の科学・技術（その 2）	火薬、鉄砲、製紙、活版印刷など、今日にも影響を与えている諸技術について、その発明と発達の様子を見る。
第 5 回	科学革命への先駆けー地動説の発達	地動説の発達を支えた観測技術、および研究者たちの異様な努力を知る。
第 6 回	科学革命と科学の制度化	英国王立協会や仏科学アカデミーなど科学の制度化とその思想的背景を理解する。また、ニュートンによる力学の確立を簡単にふりかえる。

第7回	産業革命の始まり	産業革命の発端が、蒸気機関の導入ではなく、木綿工業における生産性の飛躍的向上であることを理解する。
第8回	産業革命の他部門への波及	木綿工業における紡績・織布工程の生産革命が、他の部門（動力（蒸気機関）、漂白剤、製鉄業、鉄道、工作機械など）の発達を促進した経緯を理解する。
第9回	産業革命のイギリス以外の国々への波及	産業革命が仏・独・米・日などへの国々へ波及していく過程を追い、産業革命と国家形成が共進化する様子を把握する。
第10回	科学の専門職業化	研究・教育で生計をたてることのできる科学者が大量に出現した経緯を、独・仏・米・日本における大学や高等教育機関の整備と併わせて理解する。
第11回	第二次産業革命	科学知識をベースとするに産業革命の特徴を理解する。
第12回	戦争と科学技術	二つの世界大戦における科学者・技術者の動員体制の形成と権益化の様子を見る。
第13回	大量生産方式の発達	アメリカンシステム（互換性の確立）、フォードとGMの生産方式、トヨタのカンバン方式、全自動無人工場など、大量生産方式の過去の具体例を学び、未来の生産方式を考える際の基礎とする。
第14回	まとめ	授業をふりかえり、総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 毎回の授業の前までにその前の週の授業内容について、復習を充分しておくこと。
 - ② 中間レポートには十分な時間を掛けて取り組むこと。
 - ③ 期末試験の前には再度復習を行い、2000年に及ぶ歴史のおおよその流れを把握しておくこと。
 - ④ 毎回の授業で紹介する関連文献やインターネットサイトについて積極的に閲覧し、理解を深めることを推奨する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

本授業で取り上げた事項についてさらに詳しく調べたい人は、たとえば、
中島秀人（2008年）『社会の中の科学』（日本放送出版協会）を参照されたい。
また、必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点30%、中間レポート20%、期末試験50%。
・平常点は、毎回提出してもらったリアクション・ペーパーをもとに採点する。
白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。
・中間レポートでは、科学史・技術史の研究者カードウエルの文章を要約してもらう。

【学生の意見等からの気づき】

最終回を講義することができなかったが、講義してほしかったという声もあったので、今年度は講義できるよう努力する。

【Outline and objectives】

The outputs of science and technology, such as scientific knowledge and artifacts, have spread into every corner of society. We may say that science and technology are indispensable in dealing with almost all the social problems. This course aims at providing students' understanding of science and technology by observing how they have become such a big stuff.

SHS100LA

科学史 B

2017年度以降入学者

詫間 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：2単位

法文環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の発達は、かつては輝かしい未来を約束するものであったが、近年では手放して喜べるものではなくなっている。本講義では、現代史において科学技術の負の側面が社会に悪影響をもたらした事例を紹介し、そうした負の側面にどう対処して正の側面を活かせばよいか、ガバナンス方法を考えていく。

【到達目標】

- ・現代史における諸事例を通じて、科学技術が社会の中でどのように作動しているのか、そのおおよそのしくみを理解できるようにすること。
- ・その理解のために有用な諸概念や考え方を紹介するので、それに習熟すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。スライド(PowerPoint)を用いて各回の授業テーマについて解説を行う。適宜、ビデオを鑑賞してもらう。また、毎回、授業の終了後に、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的と背景、授業の進め方についての説明。「科学」「技術」「科学技術」の定義、科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第2回	関連する諸概念の紹介	研究開発とリニアモデル、イノベーションと科学技術との関係（技術イノベーションと社会イノベーションの違い）。
第3回	科学に対する期待のターニングポイント	科学が光り輝いていた1960年代、科学技術に対する疑念が生じた1970年代。
第4回	日本における科学者・専門家への信頼の失墜 — 1995年	阪神淡路大震災、オウム真理教による地下鉄サリン事件、高速増殖炉もんじゅのナトリウム漏洩事故、葉害エイズ問題。
第5回	英国における科学者・専門家への信頼の失墜と信頼回復の取り組み	英国におけるBSE（牛海綿状脳症）危機で科学者や専門家に対する信頼が失墜した経緯を論じ、その後、信頼を取り戻すために科学コミュニケーションスタイルが刷新されたことを紹介する。
第6回	科学技術のガバナンス方法の変遷	行政における専門家の台頭、政府の失敗と市場の活用、市場の失敗と第三の道としての市民参加型熟議。

第7回	科学技術がはらむ不確実性とリスク	Known unknowns ：地震予測と気候変動問題における不確実性、 Unknown unknowns ：フロンによるオゾン層破壊。
第8回	科学技術のガバナンスの手法（その1）	立証責任の配分と事前警戒原則、リオ宣言、偽陰性と偽陽性、水俣病にける立証責任配分と事前警戒原則。
第9回	科学技術のガバナンスの手法（その2）	今日の環境問題と医療裁判における立証責任と事前警戒原則の取り扱い、事前警戒原則の適用にあたっての注意点。
第10回	科学技術のガバナンスの手法（その3）	気候変動問題における政策決定方法。
第11回	科学技術のガバナンスにおける総合的なフレミングの必要性	「緑の革命」が一部地域で飢餓をもたらした理由。
第12回	医療と生命科学における諸問題（その1）	医師患者関係とインフォームド・コンセント。
第13回	医療と生命科学における諸問題（その2）	ES細胞、iPS細胞、遺伝子組み換えとゲノム編集。
第14回	まとめ	講義を振り返り、総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すでに説明したことは理解している前提で講義を進めていくので、授業が一回終わるたびに、次の授業回までによく復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

多くの授業回は、次の本を参考としている：

平川秀幸（2010年）『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書）。

紙媒体は品切れだが、電子書籍版が購入できる。

そのほか、必要に応じて授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点30%、中間レポート20%、期末試験50%。

・平常点は、毎回提出してもらうリアクション・ペーパーをもとに採点する。

・中間レポートは、20世紀以降において科学技術が引き起こした失敗事例を一つ選んで報告してもらうことを予定している。

【学生の意見等からの気づき】

医療と生命科学に関する回が、時間の都合で講義できなかつたが、講義してほしかったという声もあったので、今年度はベース配分を見直すなどして、講義できるよう努力する。

【Outline and objectives】

Development of science and technology once were to promise a rosy future, but recently we can't think so without reservation. This lecture examines recent examples of science and technology where there was negative impacts on society, and discusses how we can govern such negative impacts and make better use of science and technology.

SHS100LA

科学史 A

2017年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

文営環1年／法文営国環キ2～4年

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然科学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

(1) 講義で取り上げた科学史的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。

(2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

【例】

（なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第2回	西洋における科学的／哲学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく。
第3回	古代の天文学とその発展	前回とは別の視点から、西洋古代における天文学の歴史を見ていく。
第4回	アリストテレスの自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく。
第5回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく。
第6回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」をプトレマイオス天文学との対比で見ていく
第7回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかをティコ、ガリレオ、ケプラーなどの研究を中心に見ていく。

第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (その 1)	天文学の革新と呼応して進んだ力学や物質論などの革新を見ていく。
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (その 2)	前回は引き続き、17 世紀科学革命における宇宙論や自然観、あるいは神学における革新を見ていく。
第 10 回	近代科学の基礎付けの試み：ペーコン・デカルト・ロック	哲学者たちによる新しい自然学の哲学的位置づけの試みを見ていく。
第 11 回	ニュートンとライブニッツの論争 (その 1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察する。まずは両者の立場と論争の主要な争点の紹介。
第 12 回	ニュートンとライブニッツの論争 (その 2)	前回は引き続き、両者の論争とその位置づけを見ていく。
第 13 回	ニュートン力学の発展とその後	18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を見ていく。さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく。
第 14 回	全体のまとめ／授業内試験／レポート提出	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供しますが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。(質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。) 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、一般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』(すばる舎)、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生 (上・下)』(講談社学術文庫)、トマス・クーン『コペルニクス革命』(講談社学術文庫)、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』(岩波書店)、木島泰三『自由意志の向こう側』(講談社選書メチエ) など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

文営環 1 年／法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる (春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい)。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける (提出課題は翌週以降コメントを付して返却する)。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

(なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋古代思想における目的論と反目的論	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代に立ち戻り、哲学者たちの自然観を「目的論」(アリストテレス、ストア派が代表)と「反目的論」(古代原子論が代表)に大別しながらその内容を見ていく。
第 3 回	17 世紀科学革命・機械論的自然観と動物機械論	17 世紀科学革命において「機械論的自然観」が提起され、アリストテレスの目的論的／有機体的自然観は退けられる。これをその典型であるデカルトの「動物機械論」を中心に考察していく。

第 4 回	ニュートンとライプニッツの論争における生氣論と機械論の対立	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を今期も取り上げる。ここでは、いずれも目的論的自然観を部分的に再導入しながら、「生氣論」と「機械論」に分かれて対立しあう両者の主張を見ていく。
第 5 回	17-18 世紀における生物研究の発展	17 世紀科学革命以降、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされたのかのような問題が議論されたのかを見ていく。
第 6 回	進化論前史：19 世紀における自然神学と地質学ほか	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する。
第 7 回	ダーウィンの分岐進化の思想と本質主義批判	進化論的な思想はダーウィンが創始したわけではないが、ダーウィンはそれ以前の進化思想には見られなかった「分岐進化」の思想を導入する。この思想の革新性をそれ以前の進化思想との対比で見ていく。
第 8 回	ダーウィンの自然選択説による「目的論の否定／目的論の自然化」	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められている。この回ではこのメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく。
第 9 回	非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけては、自然選択説が顧みられなくなり「非ダーウィンの進化論」が全盛になったとされる。それらの学説の内容と、そこに共通する生命についての見方を考察する。
第 10 回	進化論の社会的影響	ダーウィンの『種の起原』は科学の世界を超えた社会的影響を与えた。この回ではそれを見ていくと共に、「科学と社会」という大きな問題も考えたい。
第 11 回	進化の新しい総合	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義とダーウィン主義の総合により、「進化の総合説」が誕生し、ダーウィンの自然選択説が改めて進化の主要な要因と見なされるようになる。この回ではこの成立とその後の発展の歴史、批判者との応答などを見ていく。
第 12 回	分子生物学と生物機械論の復活	この回では分子生物学をはじめとする、進化論とは別の方面から進んだ生物学の近代化の歴史を見ていく。
第 13 回	現代における進化生物学の多様な浸透	現代、ダーウィン進化論は生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している。この回では、歴史的観点を踏まえつつこれらの現代的問題を見ていく。
第 14 回	全体のまとめ／授業内試験／レポート提出	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2)の到達度の評価を中心とする(70%)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1)の到達度の評価(15%)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度(15%)も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営キ 1 年/法文営国環キ 2~4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋における科学的／哲学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく。
第 3 回	古代の天文学とその発展	前回とは別の視点から、西洋古代における天文学の歴史を見ていく。
第 4 回	アリストテレスの自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく。
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく。
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」をプトレマイオス天文学との対比で見えていく
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかをティコ、ガリレオ、ケプラーなどの研究を中心にみていく。
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 1）	天文学の革新と呼応して進んだ力学や物質論などの革新を見ていく。

- 第 9 回 17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判（その 2）
- 第 10 回 近代科学の基礎付けの試み：ペーコン・デカルト・ロック
- 第 11 回 ニュートンとライブニッツの論争（その 1）
- 第 12 回 ニュートンとライブニッツの論争（その 2）
- 第 13 回 ニュートン力学の発展とその後
- 第 14 回 全体のまとめ／授業内試験／レポート提出
- 前回に引き続き、17 世紀科学革命における宇宙論や自然観、あるいは神学における革新を見ていく。哲学者たちによる新しい自然学の哲学的位置づけの試みを見ていく。
- 初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察する。まずは両者の立場と論争の主要な争点の紹介。
- 前回に引き続き、両者の論争とその位置づけを見ていく。
- 18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を見ていく。さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく。
- 全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70%)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15%)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15%) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

（なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など。
第 2 回	西洋古代思想における目的論と反目的論	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代に立ち戻り、哲学者たちの自然観を「目的論」（アリストテレス、ストア派が代表）と「反目的論」（古代原子論が代表）に大別しながらその内容を見ていく。
第 3 回	17 世紀科学革命・機械論的自然観と動物機械論	17 世紀科学革命において「機械論的自然観」が提起され、アリストテレスの目的論的／有機体的自然観は退けられる。これをその典型であるデカルトの「動物機械論」を中心に考察していく。

第 4 回	ニュートンとライブニッツの論争における生氣論と機械論の対立	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライブニッツの論争を今期も取り上げる。ここでは、いずれも目的論的自然観を部分的に再導入しながら、「生氣論」と「機械論」に分かれて対立しあう両者の主張を見ていく。
第 5 回	17-18 世紀における生物研究の発展	17 世紀科学革命以降、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく。
第 6 回	進化論前史：19 世紀における自然神学と地質学ほか	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する。
第 7 回	ダーウィンの分岐進化の思想と本質主義批判	進化論的な思想はダーウィンが創始したわけではないが、ダーウィンはそれ以前の進化思想には見られなかった「分岐進化」の思想を導入する。この思想の革新性をそれ以前の進化思想との対比で見えていく。
第 8 回	ダーウィンの自然選択説による「目的論の否定／目的論の自然化」	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められている。この回ではこのメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく。
第 9 回	非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけては、自然選択説が顧みられなくなり「非ダーウィンの進化論」が全盛になったとされる。それらの学説の内容と、そこに共通する生命についての見方を考察する。
第 10 回	進化論の社会的影響	ダーウィンの『種の起原』は科学の世界を超えた社会的影響を与えた。この回ではそれを見ていくと共に、「科学と社会」という大きな問題も考えたい。
第 11 回	進化の新しい総合	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義とダーウィン主義の総合により、「進化の総合説」が誕生し、ダーウィンの自然選択説が改めて進化の主要な要因と見なされるようになる。この回ではこの成立とその後の発展の歴史、批判者との応答などを見ていく。
第 12 回	分子生物学と生物機械論の復活	この回では分子生物学をはじめとする、進化論とは別の方面から進んだ生物学の近代化の歴史を見ていく。
第 13 回	現代における進化生物学の多様な浸透	現代、ダーウィン進化論は生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している。この回では、歴史的観点を踏まえつつこれらの現代的問題を見ていく。
第 14 回	全体のまとめ／授業内試験／レポート提出	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供しますが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、一般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる「到達目標」(2)の到達度の評価を中心とする(70%)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1)の到達度の評価(15%)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度(15%)も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることが心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】

Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：ありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：なし

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体(生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ(生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第5週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について (化学)	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸と塩基 (化学)	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 14 週	灰の文化誌 (化学)	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室(サイエンスルーム)を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し(続き)、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 14 週	灰の文化誌（化学）	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

メール添付などの方法を用いて課題等に対するフィードバックをおこないます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 8 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第8週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNAの抽出 (生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第5週	現代のDNA学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。
化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。
生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験 (化 学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第8週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。
生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成
に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれ
の分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生から
は実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対
応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。
化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。
生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験 (化 学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第8週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。
生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。
物理学分野：ありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験 (化 学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第8週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質(物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験(物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察(物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察(物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験 (化 学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第8週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	物質観の変遷と燃焼の理解について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	物質観の変遷と燃焼の理解について（化学）	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験 (化 学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第8週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質(物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験(物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察(物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察(物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験 (化 学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第8週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質(物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験(物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察(物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察(物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験 (化 学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第8週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察 (物理学)	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。

第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。
生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。
化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と 関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験 (化 学)	銅の各種反応を観察し、化学反応 で元素変換ができないことを理解 する。
第8週	マグネシウム金属の燃 焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と 金属灰の重量増の定量的な関係を 学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の 測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子 の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か? (生 物学)	メンデルはどうやって遺伝子を発 見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体 (生物 学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝 の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分 子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証 明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上 で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学 (生物 学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断 など応用も含めた DNA 研究の現 状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子 組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評 価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物 学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。

第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。
化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。
生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第8週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術(物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものを見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものを見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。

第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。
化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。
生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第8週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術(物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：特に指定しませんが、授業で紹介する場合があります。

生物分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。

第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：ありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術 (物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室(サイエンスルーム)を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 8 週	DNA の抽出 (生物学)	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学 (生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術 (物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学分野：ありません。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

物理学分野：参考書はありません。教材プリントをよく読んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある 3 つの実験室(サイエンスルーム)を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。

第 8 週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質観の変遷と燃焼の理解について (化学)	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	酸と塩基 (化学)	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ(生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術(物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。

第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。
物理や化学では特に参考書はありません。
教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質観の変遷と燃焼の理解について (化学)	燃焼がどのように理解されてきたのかを、物質観の歴史とともに学ぶ。
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	酸と塩基 (化学)	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ(生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術(物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物ではレポート作成の手助けになる参考書、検索キーワードを授業の中で提示します。

物理や化学では特に参考書はありません。

教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。

第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第8週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術(物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。

第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

向井 知大、島野 智之、柳瀬 宏太

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第8週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術(物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的な特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術 (物理学)	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

- 第8週 DNAの抽出(生物学) DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
- 第9週 現代のDNA学(生物学) 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
- 第10週 エネルギーとは(物理学) エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
- 第11週 電気エネルギーと熱エネルギー(物理学) 電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
- 第12週 落体実験(物理学) 物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
- 第13週 LEDの実験(物理学) LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
- 第14週 エネルギーに関する技術(物理学) 熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボA

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボAは身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係(光走性、概日リズムなど)を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験(色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など)によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボAでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナーダタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用(化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て(化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成(化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価(化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ(生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第7週	植物と光(生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。

第8週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第14週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられました。21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボB

2017年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、井坂 政裕

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボBは科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体がDNAであることの証明、それ以後のDNA学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察やDNAの抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボBでは、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	火-燃焼-酸化-電池 につながる理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体 (生物学)	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ (生物学)	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第8週	DNAの抽出(生物学)	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第9週	現代のDNA学(生物学)	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは(物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー(物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験(物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LEDの実験(物理学)	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術(物理学)	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実験毎にレポートが課されます。

【テキスト(教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野：必要に応じて授業内で紹介します。

生物学分野：参考書はありません。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

化学分野：特に参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

20年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかったとの意見が多く寄せられ、21年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

文：英文 LMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業はオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、対面事業での数種目のスポーツ実技から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。提出されたいくつかのレポート課題に対しては、授業の始めにフィードバックをおこなう。

なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	バドミントン(基礎)	基本的な動作(ラケットの操作方法、シャトルの当て方)を学習する(講義・演習)。
4	バドミントン(実践：シングルス)	ゲーム(シングルス)を実践し、実践的な技術について学習する(講義・実習)。
5	バドミントン(実践：ダブルス)	ゲーム(ダブルス)を実践し、実践的な戦術について学習する(講義・実習)。
6	身体活動と超高齢社会(身体的虚弱偏：講義)	超高齢社会における身体的な虚弱(フレイル)と身体活動のあり方について学習する(講義)

7	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏：演習)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル)と身体活動のあり方 について議論する(演習)
8	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏：講義)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症)と身体活動のあり方 について学習する(講義)
9	卓球	ゲーム(ダブルス)を実践し、実 践的な技術について学習する(講 義・実習)。
10	ドッチビー	フライングディスクの基礎的な技 術を身に着けた後、ゲームを実践 し、実践的な技術について学習す る(講義・実習)。
11	ソフトバレーボール	ゲーム(5対5)を実践し、実践 的な戦術について学習する(講 義・実習)。
12	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏：演習)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症)と身体活動のあり方 について議論する(演習)。
13	身体活動と格差社会 (講義)	身体活動と健康格差、格差は正に 向けた方略について学習する(講 義)。
14	身体活動と格差社会 (演習)	身体活動と健康格差、格差は正に 向けた方略について議論する(演 習)。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 40%、2) 講義に関するレポート 60%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

身体活動と社会、特に福祉との関連に関する教材が好評であったため、本年度は重点的に解説する。

【学生が準備すべき機器他】

講義・演習はオンラインで実施します。PCとweb環境を整えてください。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

文：哲 AB・日 E

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業はオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、対面事業での数種目のスポーツ実技から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。提出されたいくつかのレポート課題に対しては、授業の始めにフィードバックをおこなう。

なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	バドミントン(基礎)	基本的な動作(ラケットの操作方法、シャトルの当て方)を学習する(講義・演習)。
4	バドミントン(実践：シングル)	ゲーム(シングルス)を実践し、実践的な技術について学習する(講義・実習)。
5	バドミントン(実践：ダブルス)	ゲーム(ダブルス)を実践し、実践的な戦術について学習する(講義・実習)。

6	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏：講義)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル)と身体活動のあり方 について学習する(講義)
7	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏：演習)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル)と身体活動のあり方 について議論する(演習)
8	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏：講義)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症)と身体活動のあり方 について学習する(講義)
9	卓球	ゲーム(ダブルス)を実践し、実 践的な技術について学習する(講 義・実習)。
10	ドッチビー	フライングディスクの基礎的な技 術を身に着けた後、ゲームを実践 し、実践的な技術について学習す る(講義・実習)。
11	ソフトバレーボール	ゲーム(5対5)を実践し、実践 的な戦術について学習する(講 義・実習)。
12	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏：演習)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症)と身体活動のあり方 について議論する(演習)。
13	身体活動と格差社会 (講義)	身体活動と健康格差、格差是正に 向けた方略について学習する(講 義)。
14	身体活動と格差社会 (演習)	身体活動と健康格差、格差是正に 向けた方略について議論する(演 習)。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は毎回の授業前に授業支援システムを通じて配布する。授業時にプリントアウトしておいた方がよい資料もあるため、毎回授業前に学習支援システムの「お知らせ」を確認すること。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 講義に関するレポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

身体活動と社会、特に福祉との関連に関する教材が好評であったため、本年度は重点的に解説する。

【学生が準備すべき機器他】

講義・演習はオンラインで実施します。PCとweb環境を整えてください。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

栗林 千聡

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：2単位

文：英文 LMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。(講義及び実習)
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球	卓球の基本技術を活用して、ゲームを行う。(講義及び実習)
5	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
6	心身の健康と運動との関連を学ぶ：基礎編	心身の健康と運動との関連について学び、意見交換する。(講義)
7	心身の健康と運動との関連を学ぶ：応用編	心身の健康と運動との関連について学び、応用する。(講義)
8	セルフモニタリングについて学ぶ	心と体の繋がりに関して学び、自己理解を深める。(講義)
9	フットサル	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)

10	フットサル	基本技術を活用して、ゲームを行う。(講義及び実習)
11	バレーボール	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	コミュニケーションを学ぶ	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。(講義)
13	動機づけを学ぶ	動機づけに関する理論や実践法を学ぶ。(講義)
14	思考法について学ぶ	パフォーマンスを発揮するための思考法を学ぶ。(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

栗林 千聡

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：哲 AB・日 E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。(講義及び実習)
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球	卓球の基本技術を活用して、ゲームを行う。(講義及び実習)
5	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
6	心身の健康と運動との関連を学ぶ：基礎編	心身の健康と運動との関連について学び、意見交換する。(講義)
7	心身の健康と運動との関連を学ぶ：応用編	心身の健康と運動との関連について学び、応用する。(講義)
8	セルフモニタリングについて学ぶ	心と体の繋がりについて学び、自己理解を深める。(講義)
9	フットサル	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)

10	フットサル	基本技術を活用して、ゲームを行う。(講義及び実習)
11	バレーボール	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	コミュニケーションを学ぶ	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。(講義)
13	動機づけを学ぶ	動機づけに関する理論や実践法を学ぶ。(講義)
14	思考法について学ぶ	パフォーマンスを発揮するための思考法を学ぶ。(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：英文 LMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は対面およびオンライン（リアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成）講義の双方を用いる。毎回の授業ごとに、対面かオンラインかは異なるが、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行う。なお、対面の講義の際の会場は市ヶ谷体育館あるいは富士見坂体育館（4F）である。

また、授業内での学習活動やレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

課題等に対するフィードバック方法として、対面講義では、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンライン講義では、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（オンライン講義）	授業ガイダンス、身体のエネルギー摂取と消費（演習）
2	体力測定（オンライン講義）	体力測定の実践（演習）
3	身体活動と心理的効果（1）（オンライン講義）	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係（講義と演習）

4	身体活動の心理的効果 (2) (オンライン講義)	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法 (講義と演習)
5	身体活動と生理的機能 (オンライン講義)	運動による心臓への影響と健康管理 (講義と演習)
6	対面実技講義 1 : 卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。(対面講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
7	対面実技講義 2 : 卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行う。(対面講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
8	対面実技講義 3 : 卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
9	身体活動の心理的効果 (3) オンライン講義	行動の実施や継続のための行動変容 (講義と演習)
10	身体活動の心理的効果 (4) (オンライン講義)	心理的効果を促進する方法の実践 (講義と演習)
11	身体活動と社会 (オンライン講義)	健康に関連する社会的要因と様々な疾病 (講義と演習)
12	対面実技講義 4 : バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
13	対面実技講義 5 : バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
14	対面実技講義 6 : バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 5F

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業において指示される活動 (授業内学習) に加えて、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践する。これらの学習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は毎回の授業前に授業支援システムを通じて配布する。授業時にプリントアウトしておいた方がよい資料もあるため、毎回授業前に学習支援システムの「お知らせ」を確認すること。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 対面実技科目の活動に対する参画状況および課題と、オンライン講義の参画状況およびレポートをそれぞれ 50 % 配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。
3. なお、この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。また、学期途中で授業形態が変更 (対面授業、オンライン授業など) になった場合には、評価方法が変更になる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

過去の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫を行うとともに、授業における学生の様子や課題の成績、コメントなどに基づき、改善を行う。特に、昨年度はオンライン講義での実施だったこともあり、学生間の交流の機会が損なわれていたことから、感染症対策を十分にとったうえで、対面・オンライン講義双方において、学生間の相互交流・学習を可能とする取組みを講義内で実施する。

【学生が準備すべき機器他】

マスクの着用は必須となります。何らかの理由により、着用が難しい場合には、個別に相談をしてください。
実技内容によって、タオルを持参してもらうことがあります。必要な際には事前にアナウンスをします。
実技の実施時には、各自体育館履きを準備してください。
感染症対策により、ロッカールームの使用人数に制限がありますので、対面講義の際は時間に余裕を持って来校するようにしてください。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は、特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料、動画の URL 等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとって行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態 (対面・オンライン) に変更が生じる場合があります。その際も、Hoppii を利用して連絡をします。

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：哲 AB・日 E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は対面およびオンライン（リアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成）講義の双方を用いる。毎回の授業ごとに、対面かオンラインかは異なるが、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行う。なお、対面の講義の際の教場は市ヶ谷体育館あるいは富士見坂体育館（4F）である。

また、授業内での学習活動やレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

課題等に対するフィードバック方法として、対面講義では、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンライン講義では、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（オンライン講義）	授業ガイダンス、身体のエネルギー摂取と消費（演習）
2	体力測定（オンライン講義）	体力測定の実践（演習）
3	身体活動と心理的効果（1）（オンライン講義）	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係（講義と演習）

4	身体活動の心理的効果（2）（オンライン講義）	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法（講義と演習）
5	身体活動と生理的機能（オンライン講義）	運動による心臓への影響と健康管理（講義と演習）
6	対面実技講義1：卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。（対面講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
7	対面実技講義2：卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行う。（対面講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
8	対面実技講義3：卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
9	身体活動の心理的効果（3）（オンライン講義）	行動の実施や継続のための行動変容（講義と演習）
10	身体活動の心理的効果（4）（オンライン講義）	心理的効果を促進する方法の実践（講義と演習）
11	身体活動と社会（オンライン講義）	健康に関連する社会的要因と様々な疾病（講義と演習）
12	対面実技講義4：バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
13	対面実技講義5：バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
14	対面実技講義6：バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において指示される活動（授業内学習）に加えて、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践する。これらの学習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は毎回の授業前に授業支援システムを通じて配布する。授業時にプリントアウトしておいた方がよい資料もあるため、毎回授業前に学習支援システムの「お知らせ」を確認すること。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 対面実技科目の活動に対する参画状況および課題と、オンライン講義の参画状況およびレポートをそれぞれ50%配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、第1回目の授業から出席すること。
3. なお、この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。また、学期途中で授業形態が変更（対面授業、オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

過去の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫を行うとともに、授業における学生の様子や課題の成績、コメントなどに基づき、改善を行う。特に、昨年度はオンライン講義での実施だったこともあり、学生間の交流の機会が損なわれていたことから、感染症対策を十分にとったうえで、対面・オンライン講義双方において、学生間の相互交流・学習を可能とする取組みを講義内で実施する。

【学生が準備すべき機器他】

マスクの着用は必須となります。何らかの理由により、着用が難しい場合には、個別に相談をしてください。実技内容によって、タオルを持参してもらうことがあります。必要な際には事前にアナウンスをします。実技の実施時には、各自体育館履きを準備してください。感染症対策により、ロッカールームの使用人数に制限がありますので、対面講義の際は時間に余裕を持って来校するようにしてください。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は、特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料、動画の URL 等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとりて行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態（対面・オンライン）に変更が生じる場合があります。その際も、Hoppii を利用して連絡をします。

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻 大士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

文：英文 LMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	身体活動と社会的健康	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う（講義及び演習）
4	身体活動と心理的効果 (1)	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係を学ぶ（講義及び演習）
5	身体活動の心理的効果 (2)	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法を学ぶ（講義及び演習）
6	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）

7	フラッグフットボールを学ぶ	フラッグフットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
8	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	身体活動と社会（3）	健康に関連する社会的要因と様々な疾病を学ぶ（講義及び演習）
12	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
13	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
14	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

辻 大士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

文：哲 AB・日 E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週1回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	身体活動と社会的健康	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う（講義及び演習）
4	身体活動と心理的効果（1）	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係を学ぶ（講義及び演習）
5	身体活動の心理的効果（2）	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法を学ぶ（講義及び演習）
6	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）

7	フラッグフットボールを学ぶ	フラッグフットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
8	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	身体活動と社会（3）	健康に関連する社会的要因と様々な疾病を学ぶ（講義及び演習）
12	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
13	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
14	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

栗林 千聡

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：地理 TUV

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。(講義及び実習)
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球	卓球の基本技術を活用して、ゲームを行う。(講義及び実習)
5	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
6	心身の健康と運動との関連を学ぶ：基礎編	心身の健康と運動との関連について学び、意見交換する。(講義)
7	心身の健康と運動との関連を学ぶ：応用編	心身の健康と運動との関連について学び、応用する。(講義)
8	セルフモニタリングについて学ぶ	心と体の繋がりについて学び、自己理解を深める。(講義)
9	フットサル	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)

10	フットサル	基本技術を活用して、ゲームを行う。(講義及び実習)
11	バレーボール	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	コミュニケーションを学ぶ	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。(講義)
13	動機づけを学ぶ	動機づけに関する理論や実践法を学ぶ。(講義)
14	思考法について学ぶ	パフォーマンスを発揮するための思考法を学ぶ。(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

栗林 千聡

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：日 FGH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。(講義及び実習)
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
4	卓球	卓球の基本技術を活用して、ゲームを行う。(講義及び実習)
5	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
6	心身の健康と運動との関連を学ぶ：基礎編	心身の健康と運動との関連について学び、意見交換する。(講義)
7	心身の健康と運動との関連を学ぶ：応用編	心身の健康と運動との関連について学び、応用する。(講義)
8	セルフモニタリングについて学ぶ	心と体の繋がりについて学び、自己理解を深める。(講義)
9	フットサル	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)

10	フットサル	基本技術を活用して、ゲームを行う。(講義及び実習)
11	バレーボール	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	コミュニケーションを学ぶ	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。(講義)
13	動機づけを学ぶ	動機づけに関する理論や実践法を学ぶ。(講義)
14	思考法について学ぶ	パフォーマンスを発揮するための思考法を学ぶ。(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：地理 TUV

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業はオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、対面事業での数種目のスポーツ実技から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。提出されたいくつかのレポート課題に対しては、授業の始めにフィードバックをおこなう。

なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。「大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	バドミントン（基礎）	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
4	バドミントン（実践：シングル）	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
5	バドミントン（実践：ダブルス）	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。
6	身体活動と超高齢社会（身体的虚弱偏：講義）	超高齢社会における身体的な虚弱（フレイル）と身体活動のあり方について学習する（講義）

7	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏：演習)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル)と身体活動のあり方 について議論する(演習)
8	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏：講義)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症)と身体活動のあり方 について学習する(講義)
9	卓球	ゲーム(ダブルス)を実践し、実 践的な技術について学習する(講 義・実習)。
10	ドッチビー	フライングディスクの基礎的な技 術を身に着けた後、ゲームを実践 し、実践的な技術について学習す る(講義・実習)。
11	ソフトバレーボール	ゲーム(5対5)を実践し、実践 的な戦術について学習する(講 義・実習)。
12	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏：演習)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症)と身体活動のあり方 について議論する(演習)。
13	身体活動と格差社会 (講義)	身体活動と健康格差、格差は正に 向けた方略について学習する(講 義)。
14	身体活動と格差社会 (演習)	身体活動と健康格差、格差は正に 向けた方略について議論する(演 習)。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 講義に関するレポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

身体活動と社会、特に福祉との関連に関する教材が好評であったため、本年度は重点的に解説する。

【学生が準備すべき機器他】

講義・演習はオンラインで実施します。PCとweb環境を整えてください。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

文：日 FGH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業はオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、対面事業での数種目のスポーツ実技から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。提出されたいくつかのレポート課題に対しては、授業の始めにフィードバックをおこなう。

なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	バドミントン(基礎)	基本的な動作(ラケットの操作方法、シャトルの当て方)を学習する(講義・演習)。
4	バドミントン(実践：シングル)	ゲーム(シングルス)を実践し、実践的な技術について学習する(講義・実習)。
5	バドミントン(実践：ダブルス)	5 バドミントン(実践：ダブルス)ゲーム(ダブルス)を実践し、実践的な戦術について学習する(講義・実習)。

6	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏：講義)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル)と身体活動のあり方 について学習する(講義)
7	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏：演習)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル)と身体活動のあり方 について議論する(演習)
8	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏：講義)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症)と身体活動のあり方 について学習する(講義)
9	卓球	ゲーム(ダブルス)を実践し、実 践的な技術について学習する(講 義・実習)。
10	ドッチビー	フライングディスクの基礎的な技 術を身に着けた後、ゲームを実践 し、実践的な技術について学習す る(講義・実習)。
11	ソフトバレーボール	ゲーム(5対5)を実践し、実践 的な戦術について学習する(講 義・実習)。
12	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏：演習)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症)と身体活動のあり方 について議論する(演習)。
13	身体活動と格差社会 (講義)	身体活動と健康格差、格差は正に 向けた方略について学習する(講 義)。
14	身体活動と格差社会 (演習)	身体活動と健康格差、格差は正に 向けた方略について議論する(演 習)。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 講義に関するレポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

身体活動と社会、特に福祉との関連に関する教材が好評であったため、本年度は重点的に解説する。

【学生が準備すべき機器他】

講義・演習はオンラインで実施します。PCとweb環境を整えてください。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

文：地理 TUV

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は対面およびオンライン(リアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成)講義の双方を用いる。毎回の授業ごとに、対面かオンラインかは異なるが、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行う。なお、対面の講義の際の会場は市ヶ谷体育館あるいは富士見坂体育館(4F)である。

また、授業内での学習活動やレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

課題等に対するフィードバック方法として、対面講義では、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンライン講義では、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(オンライン講義)	授業ガイダンス、身体のエネルギー摂取と消費(演習)
2	体力測定(オンライン講義)	体力測定の実践(演習)
3	身体活動と心理的効果(1)(オンライン講義)	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係(講義と演習)

- | | | |
|----|-----------------------------|---|
| 4 | 身体活動の心理的効果
(2) (オンライン講義) | 軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法 (講義と演習) |
| 5 | 身体活動と生理的機能
(オンライン講義) | 運動による心臓への影響と健康管理 (講義と演習) |
| 6 | 対面実技講義 1 : 卓球 | 基礎技術やルールを学び、実践する。(対面講義及び実習)
予定教場：市ヶ谷体育館 4F |
| 7 | 対面実技講義 2 : 卓球 | 基礎技術を活用し、ゲームを行う。(対面講義及び実習)
予定教場：市ヶ谷体育館 4F |
| 8 | 対面実技講義 3 : 卓球 | 応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
予定教場：市ヶ谷体育館 4F |
| 9 | 身体活動の心理的効果
(3) オンライン講義 | 行動の実施や継続のための行動変容 (講義と演習) |
| 10 | 身体活動の心理的効果
(4) (オンライン講義) | 心理的効果を促進する方法の実践 (講義と演習) |
| 11 | 身体活動と社会 (オンライン講義) | 健康に関連する社会的要因と様々な疾病 (講義と演習) |
| 12 | 対面実技講義 4 : バレーボール | 基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習)
予定教場：市ヶ谷体育館 5F |
| 13 | 対面実技講義 5 : バレーボール | 基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習)
予定教場：市ヶ谷体育館 5F |
| 14 | 対面実技講義 6 : バドミントン | 基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
予定教場：市ヶ谷体育館 5F |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業において指示される活動 (授業内学習) に加えて、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践する。これらの学習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は毎回の授業前に授業支援システムを通じて配布する。授業時にプリントアウトしておいた方がよい資料もあるため、毎回授業前に学習支援システムの「お知らせ」を確認すること。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 対面実技科目の活動に対する参画状況および課題と、オンライン講義の参画状況およびレポートをそれぞれ 50 % 配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。
3. なお、この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。また、学期途中で授業形態が変更 (対面授業、オンライン授業など) になった場合には、評価方法が変更になる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

過去の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫を行うとともに、授業における学生の様子や課題の成績、コメントなどに基づき、改善を行う。特に、昨年度はオンライン講義での実施だったこともあり、学生間の交流の機会が損なわれていたことから、感染症対策を十分にとったうえで、対面・オンライン講義双方において、学生間の相互交流・学習を可能とする取組みを講義内で実施する。

【学生が準備すべき機器他】

マスクの着用は必須となります。何らかの理由により、着用が難しい場合には、個別に相談をしてください。
実技内容によって、タオルを持参してもらうことがあります。必要な際には事前にアナウンスをします。
実技の実施時には、各自体育館履きを準備してください。
感染症対策により、ロッカールームの使用人数に制限がありますので、対面講義の際は時間に余裕を持って来校するようにしてください。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は、特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料、動画の URL 等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとりて行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態 (対面・オンライン) に変更が生じる場合があります。その際も、Hoppii を利用して連絡をします。

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：日 FGH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は対面およびオンライン（リアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成）講義の双方を用いる。毎回の授業ごとに、対面かオンラインかは異なるが、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行う。なお、対面の講義の際の教場は市ヶ谷体育館あるいは富士見坂体育館（4F）である。

また、授業内での学習活動やレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

課題等に対するフィードバック方法として、対面講義では、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンライン講義では、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（オンライン講義）	授業ガイダンス、身体のエネルギー摂取と消費（演習）
2	体力測定（オンライン講義）	体力測定の実践（演習）
3	身体活動と心理的効果（1）（オンライン講義）	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係（講義と演習）

4	身体活動の心理的効果（2）（オンライン講義）	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法（講義と演習）
5	身体活動と生理的機能（オンライン講義）	運動による心臓への影響と健康管理（講義と演習）
6	対面実技講義1：卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。（対面講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
7	対面実技講義2：卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行う。（対面講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
8	対面実技講義3：卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
9	身体活動の心理的効果（3）（オンライン講義）	行動の実施や継続のための行動変容（講義と演習）
10	身体活動の心理的効果（4）（オンライン講義）	心理的効果を促進する方法の実践（講義と演習）
11	身体活動と社会（オンライン講義）	健康に関連する社会的要因と様々な疾病（講義と演習）
12	対面実技講義4：バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
13	対面実技講義5：バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
14	対面実技講義6：バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において指示される活動（授業内学習）に加えて、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践する。これらの学習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は毎回の授業前に授業支援システムを通じて配布する。授業時にプリントアウトしておいた方がよい資料もあるため、毎回授業前に学習支援システムの「お知らせ」を確認すること。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 対面実技科目の活動に対する参画状況および課題と、オンライン講義の参画状況およびレポートをそれぞれ50%配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、第1回目の授業から出席すること。
3. なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。また、学期途中で授業形態が変更（対面授業、オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

過去の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫を行うとともに、授業における学生の様子や課題の成績、コメントなどに基づき、改善を行う。特に、昨年度はオンライン講義での実施だったこともあり、学生間の交流の機会が損なわれていたことから、感染症対策を十分にとったうえで、対面・オンライン講義双方において、学生間の相互交流・学習を可能とする取組みを講義内で実施する。

【学生が準備すべき機器他】

マスクの着用は必須となります。何らかの理由により、着用が難しい場合には、個別に相談をしてください。実技内容によって、タオルを持参してもらうことがあります。必要な際には事前にアナウンスをします。実技の実施時には、各自体育館履きを準備してください。感染症対策により、ロッカールームの使用人数に制限がありますので、対面講義の際は時間に余裕を持って来校するようにしてください。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は、特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料、動画の URL 等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとって行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態（対面・オンライン）に変更が生じる場合があります。その際も、Hoppii を利用して連絡をします。

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻 大士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：地理 TUV

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	身体活動と社会的健康	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う（講義及び演習）
4	身体活動と心理的効果 (1)	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係を学ぶ（講義及び演習）
5	身体活動の心理的効果 (2)	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法を学ぶ（講義及び演習）
6	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）

7	フラッグフットボールを学ぶ	フラッグフットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
8	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	身体活動と社会（3）	健康に関連する社会的要因と様々な疾病を学ぶ（講義及び演習）
12	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
13	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
14	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻 大士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

文：日 FGH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	身体活動と社会的健康	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う（講義及び演習）
4	身体活動と心理的効果（1）	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係を学ぶ（講義及び演習）
5	身体活動の心理的効果（2）	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法を学ぶ（講義及び演習）
6	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）

7	フラッグフットボールを学ぶ	フラッグフットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
8	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	身体活動と社会（3）	健康に関連する社会的要因と様々な疾病を学ぶ（講義及び演習）
12	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
13	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
14	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

文：史 PQR

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講されます。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与します。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明します。

2021年度は、密にならない環境下での実技を実施するため、3週目以降は「実技」と「講義またはオンライン授業」を3週単位で交互に実践していきます。

なお、前週までの授業で実施した演習の結果や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス、授業概要の説明（講義）
第2回	体力測定	体力測定の実践（講義と実技）
第3回	対戦形式（ネット型）	バレーボールを通じた協同活動の集団スポーツを学ぶ 理解と実践（講義および実習）
第4回	対戦形式（ネット型）	バレーボールの技能練習を通じた集団スポーツを学ぶ グループ活動の実践（講義および実習）
第5回	対戦形式（ネット型）	バレーボールのゲームを通じた集団スポーツを学ぶ グループ活動の実践（講義および実習）
第6回	健康関連情報の使い方を考える	様々な健康関連・医学的情報を理解し、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得（講義）

第7回	エネルギーの摂取・消費から身体活動を考える	基礎代謝量と摂取エネルギー量を算出法と日常における身体活動のあり方の理解（講義および演習）
第8回	運動習慣の確立に関係する要因を学ぶ	身体活動に関連する諸要因の理解と自身の運動習慣の確立に向けた検討（講義および演習）
第9回	ニュースポーツを学ぶ(1)	様々なニュースポーツの概要や特徴の理解、ユニホックを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第10回	ニュースポーツを学ぶ(2)	アルティメットの技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第11回	ニュースポーツを学ぶ(3)	アルティメットのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第12回	身体活動と健康との関係を理解する	スポーツ・身体活動が心身に及ぼす影響と健康への貢献（講義）
第13回	身体活動時の感覚について学ぶ	身体活動時に重要となる各種感覚に関連した数種類の測定の実践（演習）
第14回	身体活動時を巧みに行うための生理的・心理的要因について学ぶ	体力要素としての調整力・巧緻性の理解、および前回の演習結果の評価と関連する要因の解説（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業において直接配布する。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題・レポート 40%、の配分として総合評価する。

この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は、すべてオンラインでの授業を実施せざるを得なかったため、リアルタイムのオンライン授業ではグループディスカッションを取り入れ、受講者間が交流できる機会を設けましたが、対面で実技や交流をしたかったという意見を頂きました。

2021年度は、教場の使用者数制限により実技と講義を3週ごとにローテーションする形で授業を展開する予定ですが、実技の演習や実習においては、可能な限り受講生間のコミュニケーションを促進する機会を設けていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly leaning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their health, to acquire the necessary knowledge to self-health care, and develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

文：日1・心 WX

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講されます。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与します。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明します。

2021年度は、密にならない環境下での実技を実施するため、3週目以降は「実技」と「講義またはオンライン授業」を3週単位で交互に実践していきます。

なお、前週までの授業で実施した演習の結果や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス、授業概要の説明（講義）
第2回	体力測定	体力測定の実践（講義と実技）
第3回	対戦形式（ネット型）	バレーボールを通じた協同活動の集団スポーツを学ぶ
(1)		理解と実践（講義および実習）
第4回	対戦形式（ネット型）	バレーボールの技能練習を通じた
(2)		集団スポーツを学ぶ
		グループ活動の実践（講義および実習）
第5回	対戦形式（ネット型）	バレーボールのゲームを通じた
(3)		集団スポーツを学ぶ
		グループ活動の実践（講義および実習）
第6回	健康関連情報の使い方	様々な健康関連・医学的情報を理解し、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得（講義）

第7回	エネルギーの摂取・消費から身体活動を考える	基礎代謝量と摂取エネルギー量を算出法と日常における身体活動のあり方の理解（講義および演習）
第8回	運動習慣の確立に関係する要因を学ぶ	身体活動に関連する諸要因の理解と自身の運動習慣の確立に向けた検討（講義および演習）
第9回	ニュースポーツを学ぶ(1)	様々なニュースポーツの概要や特徴の理解、ユニホックを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第10回	ニュースポーツを学ぶ(2)	アルティメットの技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第11回	ニュースポーツを学ぶ(3)	アルティメットのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第12回	身体活動と健康との関係を理解する	スポーツ・身体活動が心身に及ぼす影響と健康への貢献（講義）
第13回	身体活動時の感覚について学ぶ	身体活動時に重要となる各種感覚に関連した数種類の測定の実践（演習）
第14回	身体活動時を巧みに行うための生理的・心理的要因について学ぶ	体力要素としての調整力・巧緻性の理解、および前回の演習結果の評価と関連する要因の解説（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業において直接配布する。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題・レポート 40%、の配分として総合評価する。

この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は、すべてオンラインでの授業を実施せざるを得なかったため、リアルタイムのオンライン授業ではグループディスカッションを取り入れ、受講者間が交流できる機会を設けましたが、対面で実技や交流をしたかったという意見を頂きました。

2021年度は、教場の使用者数制限により実技と講義を3週ごとにローテーションする形で授業を展開する予定ですが、実技の演習や実習においては、可能な限り受講生間のコミュニケーションを促進する機会を設けていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly leaning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their health, to acquire the necessary knowledge to self-health care, and develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：史 PQR

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は対面およびオンライン（リアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成）講義の双方を用いる。毎回の授業ごとに、対面かオンラインかは異なるが、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行う。なお、対面の講義の際の教場は市ヶ谷体育館あるいは富士見坂体育館（4F）である。

また、授業内での学習活動やレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

課題等に対するフィードバック方法として、対面講義では、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンライン講義では、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（オンライン講義）	授業ガイダンス、身体のエネルギー摂取と消費（演習）
2	体力測定（オンライン講義）	体力測定の実践（演習）
3	身体活動と心理的効果（1）（オンライン講義）	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係（講義と演習）

4	身体活動の心理的効果 (2) (オンライン講義)	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法 (講義と演習)
5	身体活動と生理的機能 (オンライン講義)	運動による心臓への影響と健康管理 (講義と演習)
6	対面実技講義 1 : 卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。(対面講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
7	対面実技講義 2 : 卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行う。(対面講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
8	対面実技講義 3 : 卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
9	身体活動の心理的効果 (3) オンライン講義	行動の実施や継続のための行動変容 (講義と演習)
10	身体活動の心理的効果 (4) (オンライン講義)	心理的効果を促進する方法の実践 (講義と演習)
11	身体活動と社会 (オンライン講義)	健康に関連する社会的要因と様々な疾病 (講義と演習)
12	対面実技講義 4 : バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。(講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
13	対面実技講義 5 : バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。(講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
14	対面実技講義 6 : バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習) 予定教場：市ヶ谷体育館 5F

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業において指示される活動 (授業内学習) に加えて、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践する。これらの学習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は毎回の授業前に授業支援システムを通じて配布する。授業時にプリントアウトしておいた方がよい資料もあるため、毎回授業前に学習支援システムの「お知らせ」を確認すること。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 対面実技科目の活動に対する参画状況および課題と、オンライン講義の参画状況およびレポートをそれぞれ 50 % 配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。
3. なお、この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。また、学期途中で授業形態が変更 (対面授業、オンライン授業など) になった場合には、評価方法が変更になる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

過去の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫を行うとともに、授業における学生の様子や課題の成績、コメントなどに基づき、改善を行う。特に、昨年度はオンライン講義での実施だったこともあり、学生間の交流の機会が損なわれていたことから、感染症対策を十分にとったうえで、対面・オンライン講義双方において、学生間の相互交流・学習を可能とする取組みを講義内で実施する。

【学生が準備すべき機器他】

マスクの着用は必須となります。何らかの理由により、着用が難しい場合には、個別に相談をしてください。
実技内容によって、タオルを持参してもらうことがあります。必要な際には事前にアナウンスをします。
実技の実施時には、各自体育館履きを準備してください。
感染症対策により、ロッカールームの使用人数に制限がありますので、対面講義の際は時間に余裕を持って来校するようにしてください。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は、特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料、動画の URL 等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとって行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態 (対面・オンライン) に変更が生じる場合があります。その際も、Hoppii を利用して連絡をします。

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：日 1・心 WX

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は対面およびオンライン（リアルタイム動画やオンデマンド動画による講義、オンラインでの受講者間のディスカッション、数種目の自宅等での身体活動および受講者自身の調査活動等から構成）講義の双方を用いる。毎回の授業ごとに、対面かオンラインかは異なるが、原則時間割に設定された曜日・時限に合わせて行う。なお、対面の講義の際の教場は市ヶ谷体育館あるいは富士見坂体育館（4F）である。

また、授業内での学習活動やレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。なお、詳細については、各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

課題等に対するフィードバック方法として、対面講義では、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンライン講義では、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（オンライン講義）	授業ガイダンス、身体のエネルギー摂取と消費（演習）
2	体力測定（オンライン講義）	体力測定の実践（演習）
3	身体活動と心理的効果（1）（オンライン講義）	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係（講義と演習）

4	身体活動の心理的効果（2）（オンライン講義）	軽運動とリラクゼーションを活用した心身の自己調整法（講義と演習）
5	身体活動と生理的機能（オンライン講義）	運動による心臓への影響と健康管理（講義と演習）
6	対面実技講義1：卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。（対面講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
7	対面実技講義2：卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行う。（対面講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
8	対面実技講義3：卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 4F
9	身体活動の心理的効果（3）（オンライン講義）	行動の実施や継続のための行動変容（講義と演習）
10	身体活動の心理的効果（4）（オンライン講義）	心理的効果を促進する方法の実践（講義と演習）
11	身体活動と社会（オンライン講義）	健康に関連する社会的要因と様々な疾病（講義と演習）
12	対面実技講義4：バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
13	対面実技講義5：バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F
14	対面実技講義6：バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習） 予定教場：市ヶ谷体育館 5F

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において指示される活動（授業内学習）に加えて、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践する。これらの学習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は毎回の授業前に授業支援システムを通じて配布する。授業時にプリントアウトしておいた方がよい資料もあるため、毎回授業前に学習支援システムの「お知らせ」を確認すること。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 対面実技科目の活動に対する参画状況および課題と、オンライン講義の参画状況およびレポートをそれぞれ50%配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、第1回目の授業から出席すること。
3. なお、この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。また、学期途中で授業形態が変更（対面授業、オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

過去の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫を行うとともに、授業における学生の様子や課題の成績、コメントなどに基づき、改善を行う。特に、昨年度はオンライン講義での実施だったこともあり、学生間の交流の機会が損なわれていたことから、感染症対策を十分にとったうえで、対面・オンライン講義双方において、学生間の相互交流・学習を可能とする取組みを講義内で実施する。

【学生が準備すべき機器他】

マスクの着用は必須となります。何らかの理由により、着用が難しい場合には、個別に相談をしてください。実技内容によって、タオルを持参してもらうことがあります。必要な際には事前にアナウンスをします。実技の実施時には、各自体育館履きを準備してください。感染症対策により、ロッカールームの使用人数に制限がありますので、対面講義の際は時間に余裕を持って来校するようにしてください。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は、特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料、動画の URL 等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとって行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態（対面・オンライン）に変更が生じる場合があります。その際も、Hoppii を利用して連絡をします。

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：史 PQR

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
4	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
5	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
6	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
7	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。

8	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
9	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
10	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
11	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
12	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
13	運動習慣を促進するための方法を学ぶ（講義および実習）	運動習慣を促進するための方法を学び、意見交換を行う。
14	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「健康に対しての意識が形成された」「今まで受けたどの体育の授業より面白かったです」「今まで体育が嫌いでしたが、とても楽しく参加できました」などのポジティブな意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

文：日1・心 WX

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週1回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
4	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
5	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
6	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
7	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。

8	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
9	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
10	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
11	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
12	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
13	運動習慣を促進するための方法を学ぶ（講義および実習）	運動習慣を促進するための方法を学び、意見交換を行う。
14	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「健康に対しての意識が形成された」「今まで受けたどの体育の授業より面白かったです」「今まで体育が嫌いでしたが、とても楽しく参加できました」などのポジティブな意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2単位

営：戦略N・市場QRS

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ リモートにより自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

開始は4月7日からとします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践とリモートから構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

本授業は対面授業7回、リモート授業7回でおこないます。リモート授業で出た課題を対面授業時にフィードバックをおこないます。14回目の授業では理解力テストとは反省・感想をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスにより、授業内容を理解する	リモートによる「春学期授業の場所・内容・注意事項の説明」
2	卓球を知る	リモートによる「卓球の歴史とルール」課題に答えて提出
3	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球シングルの動画を観て」課題に答えて提出
4	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球ダブルスの動画を観て」課題に答えて提出
5	卓球のことを良く知り、実際に対面で打ち合い楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習（サーブ・レシーブ・ラリー等）
6	卓球のシングルの楽しさを知る	対面によるシングルゲームのリーグ戦
7	卓球のダブルスを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面によるダブルスゲームのリーグ戦

8	バドミントンを知る	リモートによる「バドミントンの歴史とルール」課題に答えて提出
9	バスケットボールを知る	リモートによる「バスケットボールの歴史とルール」課題に答えて提出
10	バレーボールを知る	リモートによる「バレーボールの歴史とルール」課題に答えて提出
11	実際に打ち合いバドミントンの楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サービス・レシーブ等) 半面シングルス
12	バスケットボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・シュート・ドリブル等) ゲーム
13	バレーボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・アタック・サーブ等) ゲーム
14	総括	対面により総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の授業は授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

リモートについては、資料を読んで課題に応じて提出をお願い致します。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業はリモートにより知識を得てから、実技をおこないます。実際に対面で行い（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。

昨年同様に授業内で全員に最低1回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 O・市場 TU

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ リモートにより自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

開始は9月22日からとします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践とリモートから構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

本授業は対面授業7回、リモート授業7回でおこないます。リモート授業で出た課題を対面授業時にフィードバックをおこないます。14回目の授業では理解力テストとは反省・感想をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスにより、授業内容を理解する	リモートによる「春学期授業の場所・内容・注意事項の説明」
2	卓球を知る	リモートによる「卓球の歴史とルール」課題に答えて提出
3	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球シングルの動画を観て」課題に答えて提出
4	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球ダブルスの動画を観て」課題に答えて提出
5	卓球のことを良く知り、実際に対面で打ち合い楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等)
6	卓球のシングルの楽しさを知る	対面によるシングルスゲームのリーグ戦
7	卓球のダブルスを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面によるダブルスゲームのリーグ戦

8	バドミントンを知る	リモートによる「バドミントンの歴史とルール」課題に答えて提出
9	バスケットボールを知る	リモートによる「バスケットボールの歴史とルール」課題に答えて提出
10	バレーボールを知る	リモートによる「バレーボールの歴史とルール」課題に答えて提出
11	実際に打ち合いバドミントンの楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サービス・レシーブ等) 半面シングルス
12	バスケットボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・シュート・ドリブル等) ゲーム
13	バレーボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・アタック・サーブ等) ゲーム
14	総括	対面により総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の授業は授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

リモートについては、資料を読んで課題に応じて提出をお願い致します。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業はリモートにより知識を得てから、実技をおこないます。実際に対面で行い（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。

昨年同様に授業内で全員に最低 1 回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 N・市場 QRS

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

4 月 7 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

最終授業で、1 3 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 3 回	講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	講義及びバスケット ボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 5 回	健康についての講義①	睡眠についてのテーマを解説する オンライン授業 レポート課題提出
第 6 回	健康についての講義②	栄養についてのテーマを解説する オンライン授業 レポート課題提出
第 7 回	健康についての講義③	熱中症についてのテーマを解説する オンライン授業 レポート課題提出
第 8 回	講義及びホッケー 体育館	ホッケーの基本技術の習得及びルールについて説明する

第9回	講義及びバドミントン 体育館	バドミントンの基本技術の習得及 びルールについて説明する
第10回	講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルール について説明する
第11回	健康についての講義④ オンライン授業 レポート課題提出	飲酒についてのテーマを解説する
第12回	健康についての講義⑤ オンライン授業 レポート課題提出	かぜについてのテーマを解説する
第13回	健康についての講義⑥ オンライン授業 レポート課題提出	健康についてのまとめを解説する
第14回	まとめ オンライン授業 レポート課題提出	最終レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ2時間程度

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

具体的な方法と基準は、授業開始日のガイダンスで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2単位

営：戦略○・市場 TU

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4月7日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	講義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及び ルールについて説明する
第3回	講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及 びルールについて説明する
第4回	講義及びバスケット ボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習 得及びルールについて説明する
第5回	健康についての講義① オンライン授業 レポート課題提出	睡眠についてのテーマを解説する
第6回	健康についての講義② オンライン授業 レポート課題提出	栄養についてのテーマを解説する
第7回	健康についての講義③ オンライン授業 レポート課題提出	熱中症についてのテーマを解説す る

第 8 回	講義及びホッケー 体育館	ホッケーの基本技術の習得及び ルールについて説明する
第 9 回	講義及びバドミントン 体育館	バドミントンの基本技術の習得及 びルールについて説明する
第 10 回	講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルール について説明する
第 11 回	健康についての講義④ オンライン授業 レポート課題提出	飲酒についてのテーマを解説する
第 12 回	健康についての講義⑤ レポート課題提出	かぜについてのテーマを解説する
第 13 回	健康についての講義⑥ レポート課題提出	健康についてのまとめを解説する
第 14 回	まとめ オンライン授業 レポート課題提出	最終レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

具体的な方法と基準は、授業開始日のガイダンスで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 N・市場 QRS

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定及びウォーミングアップについての講義を行い、体力測定を実施する
第 3 回	体力測定及びドッジビー	体力測定の説明及び実施 軽スポーツ（ドッジビー）の実施
第 4 回	講義及び実技（バドミントン）	体力測定のフィードバック及びバドミントンの実施
第 5 回	講義「健康について」	健康についての講義を行う
第 6 回	講義及「体力について」	体力についての講義を行う
第 7 回	講義「睡眠について」	睡眠についての講義を行う
第 8 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	運動の効果について講義及びソフトバレーボールの実施
第 9 回	講義及び実技（アルティメット）	スポーツにおけるコミュニケーション、チームワークについて講義及びアルティメットのール実施
第 10 回	講義及び実技（卓球）	スポーツと健康について講義及び卓球の実施

第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う
第 12 回	講義「トレーニング理論」 「筋力トレーニング」	トレーニング理論及び筋力トレーニングについて講義を行う
第 13 回	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う
第 14 回	授業の総括及び栄養ダイエツトについて	授業の総括及び栄養の摂取、ダイエツトについて講義を行う レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。

教員の指示に従って以下の事を行うこと

- 1) 次回に取り組み授業計画の内容を調べる。(技術、ルール、マナー)
- 2) 日常生活(食事、運動、休養等)の記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
 - 2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge for self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 O・市場 TU

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定及びウォーミングアップについての講義を行い、体力測定を実施する
第 3 回	体力測定及びドッジビー	体力測定の説明及び実施 軽スポーツ(ドッジビー)の実施
第 4 回	講義及び実技(バドミントン)	体力測定のフィードバック及びバドミントンの実施
第 5 回	講義「健康について」	健康についての講義を行う
第 6 回	講義及「体力について」	体力についての講義を行う
第 7 回	講義「睡眠について」	睡眠についての講義を行う
第 8 回	講義及び実技(ソフトバレーボール)	運動の効果について講義及びソフトバレーボールの実施
第 9 回	講義及び実技(アルティメット)	スポーツにおけるコミュニケーション、チームワークについて講義及びアルティメットのルール実施
第 10 回	講義及び実技(卓球)	スポーツと健康について講義及び卓球の実施

第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う
第 12 回	講義「トレーニング理論」 「筋力トレーニング」	トレーニング理論及び筋力トレーニングについて講義を行う
第 13 回	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う
第 14 回	授業の総括及び栄養ダイエツトについて	授業の総括及び栄養の摂取、ダイエツトについて講義を行う レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。

教員の指示に従って以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組み授業計画の内容を調べる。(技術、ルール、マナー)
- 2) 日常生活(食事、運動、休養等)の記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して、対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
 - 2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 N・市場 QRS

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題(レポート等)に対して講評する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定の意義について(講義)	体力測定の意義、内容及び手段を理解する。
3	肥満の成因について(講義)	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
4	目的別栄養学について(講義)	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
5	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践(実習&講義)	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
6	卓球の基本及び実践(実習&講義)	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	バドミントンの基本及び実践(実習&講義)	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	睡眠について(講義)	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
9	飲酒について(講義)	飲酒における害及び正しい飲み方等を取り上げる。
10	ストレスについて(講義)	ストレスの概論について説明し、各自のストレス状態について簡単なチェックをする。
11	バレーボールの基本及び実践(実習&講義)	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
12	バレーボールの応用及び実践(実習&講義)	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
13	バスケットボールの基本及び実践(実習&講義)	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	健康観についての講義及びレポート作成・提出	健康観について講義した後各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60％）、レポート及び課題（40％）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

営：戦略 O・市場 TU

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定の意義について（講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解する。
3	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
4	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
5	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習&講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
6	卓球の基本及び実践（実習&講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	バドミントンの基本及び実践（実習&講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	睡眠について（講義）	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
9	飲酒について（講義）	飲酒における害及び正しい飲み方等を取り上げる。
10	ストレスについて（講義）	ストレスの概論について説明し、各自のストレス状態について簡単なチェックをする。
11	バレーボールの基本及び実践（実習&講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
12	バレーボールの応用及び実践（実習&講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
13	バスケットボールの基本及び実践（実習&講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	健康観についての講義及びレポート作成・提出	健康観について講義した後各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60％）、レポート及び課題（40％）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 ABGH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ リモートにより自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

開始は4月7日からとします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践とリモートから構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

本授業は対面授業7回、リモート授業7回でおこないます。リモート授業で出た課題を対面授業時にフィードバックをおこないます。14回目の授業では理解力テストとは反省・感想をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスにより、授業内容を理解する	リモートによる「春学期授業の場所・内容・注意事項の説明」
2	卓球を知る	リモートによる「卓球の歴史とルール」課題に答えて提出
3	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球シングルの動画を観て」課題に答えて提出
4	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球ダブルスの動画を観て」課題に答えて提出
5	卓球のことを良く知り、実際に対面で打ち合い楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習（サーブ・レシーブ・ラリー等）
6	卓球のシングルの楽しさを知る	対面によるシングルスゲームのリーグ戦
7	卓球のダブルスを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面によるダブルスゲームのリーグ戦

8	バドミントンを知る	リモートによる「バドミン トンの歴史とルール」課題に 答えて提出
9	バスケットボールを知る	リモートによる「バスケット ボールの歴史とルール」課題 に答えて提出
10	バレーボールを知る	リモートによる「バレーボ ールの歴史とルール」課題に 答えて提出
11	実際に打ち合いバドミ ントンの楽しさを知る	対面による歴史・道具・ル ールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッ シュ・サービス・レシーブ等) 半面シングルス
12	バスケットボールを通 してチームワークとコ ミュニケーションをは かる	対面による歴史・道具・ル ールの説明 基本練習 (パス・シュート・ドリブル等) ゲーム
13	バレーボールを通して チームワークとコミュ ニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ル ールの説明 基本練習 (パス・アタック・サーブ等) ゲーム
14	総括	対面により総括と歴史・ル ールのテスト。レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の授業は授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

リモートについては、資料を読んで課題に応じて提出をお願い致します。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業はリモートにより知識を得てから、実技をおこないます。実際に対面で行い（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。

昨年同様に授業内で全員に最低 1 回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】**Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 CDEF

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ リモートにより自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

開始は9月22日からとします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践とリモートから構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

本授業は対面授業 7 回、リモート授業 7 回でおこないます。リモート授業で出た課題を対面授業時にフィードバックをおこないます。1 4 回目の授業では理解力テストとは反省・感想をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスにより、授業内容を理解する	リモートによる「春学期授業の場 所・内容・注意事項の説明」
2	卓球を知る	リモートによる「卓球の歴史と ルール」課題に答えて提出
3	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球シングルス の動画を観て」課題に答えて提出
4	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球ダブルスの 動画を観て」課題に答えて提出
5	卓球のことを良く知り、実際に対面で打ち合い楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの 説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等)
6	卓球のシングルの楽しさを知る	対面によるシングルスゲームの リーグ戦
7	卓球のダブルスを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面によるダブルスゲームのリー グ戦

8	バドミントンを知る	リモートによる「バドミントンの歴史とルール」課題に答えて提出
9	バスケットボールを知る	リモートによる「バスケットボールの歴史とルール」課題に答えて提出
10	バレーボールを知る	リモートによる「バレーボールの歴史とルール」課題に答えて提出
11	実際に打ち合いバドミントンの楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サービス・レシーブ等) 半面シングルス
12	バスケットボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・シュート・ドリブル等) ゲーム
13	バレーボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・アタック・サーブ等) ゲーム
14	総括	対面により総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の授業は授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

リモートについては、資料を読んで課題に応じて提出をお願い致します。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業はリモートにより知識を得てから、実技においてフィードバックをおこないます。実際に対面で行い（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。

昨年同様に授業内で全員に最低 1 回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 ABGH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

4 月 7 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

最終授業で、1 3 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 3 回	講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	講義及びバスケット ボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 5 回	健康についての講義①	睡眠についてのテーマを解説する オンライン授業 レポート課題提出
第 6 回	健康についての講義②	栄養についてのテーマを解説する オンライン授業 レポート課題提出
第 7 回	健康についての講義③	熱中症についてのテーマを解説する オンライン授業 レポート課題提出
第 8 回	講義及びホッケー 体育館	ホッケーの基本技術の習得及びルールについて説明する

第9回	講義及びバドミントン 体育館	バドミントンの基本技術の習得及 びルールについて説明する
第10回	講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルール について説明する
第11回	健康についての講義④ オンライン授業 レポート課題提出	飲酒についてのテーマを解説する
第12回	健康についての講義⑤ オンライン授業 レポート課題提出	かぜについてのテーマを解説する
第13回	健康についての講義⑥ オンライン授業 レポート課題提出	健康についてのまとめを解説する
第14回	まとめ オンライン授業 レポート課題提出	最終レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ2時間程度

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

具体的な方法と基準は、授業開始日のガイダンスで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

営：営 CDEF

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4月7日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	講義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及び ルールについて説明する
第3回	講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及 びルールについて説明する
第4回	講義及びバスケット ボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習 得及びルールについて説明する
第5回	健康についての講義① オンライン授業 レポート課題提出	睡眠についてのテーマを解説する
第6回	健康についての講義② オンライン授業 レポート課題提出	栄養についてのテーマを解説する
第7回	健康についての講義③ オンライン授業 レポート課題提出	熱中症についてのテーマを解説す る

第 8 回	講義及びホッケー 体育館	ホッケーの基本技術の習得及び ルールについて説明する
第 9 回	講義及びバドミントン 体育館	バドミントンの基本技術の習得及 びルールについて説明する
第 10 回	講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルール について説明する
第 11 回	健康についての講義④ オンライン授業 レポート課題提出	飲酒についてのテーマを解説する
第 12 回	健康についての講義⑤ オンライン授業 レポート課題提出	かぜについてのテーマを解説する
第 13 回	健康についての講義⑥ オンライン授業 レポート課題提出	健康についてのまとめを解説する
第 14 回	まとめ オンライン授業 レポート課題提出	最終レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

具体的な方法と基準は、授業開始日のガイダンスで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 ABGH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	卓球（シングルス・ダブルス）	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 3 回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 4 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 5 回	運動の必要性	生涯スポーツとして健康を目的とした運動を実践していく必要性について習得する（講義）
第 6 回	体力の重要性	健康指標について理解し、自分の体力について見直し、改善法を習得する（講義）
第 7 回	運動の効果	運動が体に与える影響について運動生理学的に他者への説明が可能となるように習得する（講義）

第 8 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 9 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	トレーニング論	自分の身体を鍛えるためには科学的な知識と実技の両方が必要であり両方を座学を通して習得する（講義）
第 12 回	スポーツ栄養学及び休養学	健康の 3 要素には運動以外に栄養や休養も含まれ、それらの概要と運動との関連性について習得する（講義）
第 13 回	健康・体力の個人差	運動の効果には個人差があり、その解消に向けた指導法について習得する（講義）
第 14 回	まとめ	スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、運動・スポーツに関して習得すべき事項を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。
また、2020 年度には、単元の習得の理解が簡単かつ円滑となるようにオンライン動画教材などを用いて学生に授業を提供しており、その動画は随時改定している。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施となった場合、動画を見てレポートを提出するための PC 及び周辺機器と通信環境が必要となる場合がある。また必要に応じて提示した課題を提出する際も同様である。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 CDEF

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	卓球（シングルス・ダブルス）	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 3 回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 4 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 5 回	運動の必要性	生涯スポーツとして健康を目的とした運動を実践していく必要性について習得する（講義）
第 6 回	体力の重要性	健康指標について理解し、自分の体力について見直し、改善法を習得する（講義）
第 7 回	運動の効果	運動が体に与える影響について運動生理学的に他者への説明が可能となるように習得する（講義）

第 8 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 9 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	トレーニング論	自分の身体を鍛えるためには科学的な知識と実技の両方が必要であり両方を座学を通して習得する（講義）
第 12 回	スポーツ栄養学及び休養学	健康の 3 要素には運動以外に栄養や休養も含まれ、それらの概要と運動との関連性について習得する（講義）
第 13 回	健康・体力の個人差	運動の効果には個人差があり、その解消に向けた指導法について習得する（講義）
第 14 回	まとめ	スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、運動・スポーツに関して習得すべき事項を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。

また、2020 年度には、単元の習得の理解が簡単かつ円滑となるようにオンライン動画教材などを用いて学生に授業を提供しており、その動画は随時改定している。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施となった場合、動画を見てレポートを提出するための PC 及び周辺機器と通信環境が必要となる場合がある。また必要に応じて提示した課題を提出する際も同様である。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 ABGH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定の意義について（講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解する。
3	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
4	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
5	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習&講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
6	卓球の基本及び実践（実習&講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	バドミントンの基本及び実践（実習&講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	睡眠について（講義）	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
9	飲酒について（講義）	飲酒における害及び正しい飲み方等を取り上げる。
10	ストレスについて（講義）	ストレスの概論について説明し、各自のストレス状態について簡単なチェックをする。
11	バレーボールの基本及び実践（実習&講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
12	バレーボールの応用及び実践（実習&講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
13	バスケットボールの基本及び実践（実習&講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	健康観についての講義及びレポート作成・提出	健康観について講義した後に各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

営：営 CDEF

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定の意義について（講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解する。
3	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
4	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
5	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習&講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
6	卓球の基本及び実践（実習&講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	バドミントンの基本及び実践（実習&講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	睡眠について（講義）	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
9	飲酒について（講義）	飲酒における害及び正しい飲み方等を取り上げる。
10	ストレスについて（講義）	ストレスの概論について説明し、各自のストレス状態について簡単なチェックをする。
11	バレーボールの基本及び実践（実習&講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
12	バレーボールの応用及び実践（実習&講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
13	バスケットボールの基本及び実践（実習&講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	健康観についての講義及びレポート作成・提出	健康観について講義した後に各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60％）、レポート及び課題（40％）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 JL

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ リモートにより自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

開始は4月7日からとします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践とリモートから構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

本授業は対面授業7回、リモート授業7回でおこないます。リモート授業で出た課題を対面授業時にフィードバックをおこないます。14回目の授業では理解力テストとは反省・感想をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスにより、授業内容を理解する	リモートによる「春学期授業の場所・内容・注意事項の説明」
2	卓球を知る	リモートによる「卓球の歴史とルール」課題に答えて提出
3	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球シングルの動画を観て」課題に答えて提出
4	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球ダブルスの動画を観て」課題に答えて提出
5	卓球のことを良く知り、実際に対面で打ち合い楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習（サーブ・レシーブ・ラリー等）
6	卓球のシングルの楽しさを知る	対面によるシングルスゲームのリーグ戦
7	卓球のダブルスを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面によるダブルスゲームのリーグ戦

8	バドミントンを知る	リモートによる「バドミントンの歴史とルール」課題に答えて提出
9	バスケットボールを知る	リモートによる「バスケットボールの歴史とルール」課題に答えて提出
10	バレーボールを知る	リモートによる「バレーボールの歴史とルール」課題に答えて提出
11	実際に打ち合いバドミントンの楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サービス・レシーブ等) 半面シングルス
12	バスケットボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・シュート・ドリブル等) ゲーム
13	バレーボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・アタック・サーブ等) ゲーム
14	総括	対面により総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の授業は授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

リモートについては、資料を読んで課題に応じて提出をお願い致します。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業はリモートにより知識を得てから、実技においてフィードバックをおこないます。実際に対面で行い（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。

昨年同様に授業内で全員に最低 1 回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】**Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 KM

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ リモートにより自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

開始は9月22日からとします。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践とリモートから構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

本授業は対面授業7回、リモート授業7回でおこないます。リモート授業で出た課題を対面授業時にフィードバックをおこないます。14回目の授業では理解力テストとは反省・感想をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスにより、授業内容を理解する	リモートによる「春学期授業の場所・内容・注意事項の説明」
2	卓球を知る	リモートによる「卓球の歴史とルール」課題に答えて提出
3	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球シングルの動画を観て」課題に答えて提出
4	卓球の動画を観て、イメージアップ	リモートによる「卓球ダブルスの動画を観て」課題に答えて提出
5	卓球のことを良く知り、実際に対面で打ち合い楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 (サーブ・レシーブ・ラリー等)
6	卓球のシングルの楽しさを知る	対面によるシングルスゲームのリーグ戦
7	卓球のダブルスを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面によるダブルスゲームのリーグ戦

8	バドミントンを知る	リモートによる「バドミントンの歴史とルール」課題に答えて提出
9	バスケットボールを知る	リモートによる「バスケットボールの歴史とルール」課題に答えて提出
10	バレーボールを知る	リモートによる「バレーボールの歴史とルール」課題に答えて提出
11	実際に打ち合いバドミントンの楽しさを知る	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習 (クリア・ドロップ・スマッシュ・サービス・レシーブ等) 半面シングル
12	バスケットボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・シュート・ドリブル等) ゲーム
13	バレーボールを通してチームワークとコミュニケーションをはかる	対面による歴史・道具・ルールの説明 基本練習 (パス・アタック・サーブ等) ゲーム
14	総括	対面により総括と歴史・ルールのテスト。レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の授業は授業後に行うべき課題や次の授業に向けて準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

リモートについては、資料を読んで課題に応じて提出をお願い致します。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業はリモートにより知識を得てから、実技においてフィードバックをおこないます。実際に対面で行い（練習・ダブルス等）コミュニケーションを図り、積極的に友達作りをさせること。

昨年同様に授業内で全員に最低 1 回以上の声掛けを行い、積極的にコミュニケーションづくりをすること。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 JL

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。【重要】コロナウイルス感染症の対策のため、本授業では座学の割合が多くなっている。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	スポーツ実習 1	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー基本）
3	スポーツ実習 2	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ソフトバレーボール）
4	スポーツ実習 3	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン基本）
5	講義 1	一週間ぶんの歩数を毎日記録して、自身の運動量を把握しよう
6	講義 2	心理学実験に参加してみよう
7	講義 3	自己理解を深めるためのライフチャートを作成しよう
8	スポーツ実習 4	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（インディアカ）
9	スポーツ実習 5	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（卓球）

10	スポーツ実習 6	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン応用）
11	講義 4	自宅でできるエクササイズ実践
12	講義 5	自身の運動量の変化を把握しよう
13	講義 6	レポート作成
14	スポーツ実習 7	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー応用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 90 %、2) 課題・レポート 10 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、対面での実習をとまなうため、新型コロナウイルスの感染に十分に配慮した活動を行う。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能な限り必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 KM

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定及びウォーミングアップについての講義を行い、体力測定を実施する
第 3 回	体力測定及びドッジビー	体力測定の説明及び実施 軽スポーツ（ドッジビー）の実施
第 4 回	講義及び実技（バドミントン）	体力測定のフィードバック及びバドミントンの実施
第 5 回	講義「健康について」	健康についての講義を行う
第 6 回	講義及「体力について」	体力についての講義を行う
第 7 回	講義「睡眠について」	睡眠についての講義を行う
第 8 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	運動の効果について講義及びソフトバレーボールの実施
第 9 回	講義及び実技（アルティメット）	スポーツにおけるコミュニケーション、チームワークについて講義及びアルティメットのール実施
第 10 回	講義及び実技（卓球）	スポーツと健康について講義及び卓球の実施

第11回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う
第12回	講義「トレーニング理論」 「筋力トレーニング」	トレーニング理論及び筋力トレーニングについて講義を行う
第13回	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う
第14回	授業の総括 講義及び実技（卓球）	授業の総括 栄養の摂取、ダイエットについて 講義及び卓球を実施 レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。

教員の指示に従って以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組み授業計画の内容を調べる。(技術、ルール、マナー)
- 2) 日常生活(食事、運動、休養等)の記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況60%
 - 2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

営：戦略JL

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第2回	卓球（シングルス・ダブルス）	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第3回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第4回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第5回	運動の必要性	生涯スポーツとして健康を目的とした運動を実践していく必要性について習得する（講義）
第6回	体力の重要性	健康指標について理解し、自分の体力について見直し、改善法を習得する（講義）
第7回	運動の効果	運動が体に与える影響について運動生理学的に他者への説明が可能となるように習得する（講義）

第 8 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 9 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	トレーニング論	自分の身体を鍛えるためには科学的な知識と実技の両方が必要であり両方を座学を通して習得する（講義）
第 12 回	スポーツ栄養学及び休養学	健康の 3 要素には運動以外に栄養や休養も含まれ、それらの概要と運動との関連性について習得する（講義）
第 13 回	健康・体力の個人差	運動の効果には個人差があり、その解消に向けた指導法について習得する（講義）
第 14 回	まとめ	スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、運動・スポーツに関して習得すべき事項を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。
また、2020 年度には、単元の習得の理解が簡単かつ円滑となるようにオンライン動画教材などを用いて学生に授業を提供しており、その動画は随時改定している。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施となった場合、動画を見てレポートを提出するための PC 及び周辺機器と通信環境が必要となる場合がある。また必要に応じて提示した課題を提出する際も同様である。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

営：戦略 KM

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	卓球（シングルス・ダブルス）	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 3 回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 4 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 5 回	運動の必要性	生涯スポーツとして健康を目的とした運動を実践していく必要性について習得する（講義）
第 6 回	体力の重要性	健康指標について理解し、自分の体力について見直し、改善法を習得する（講義）
第 7 回	運動の効果	運動が体に与える影響について運動生理学的に他者への説明が可能となるように習得する（講義）

第 8 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 9 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	トレーニング論	自分の身体を鍛えるためには科学的な知識と実技の両方が必要であり両方を座学を通して習得する（講義）
第 12 回	スポーツ栄養学及び休養学	健康の 3 要素には運動以外に栄養や休養も含まれ、それらの概要と運動との関連性について習得する（講義）
第 13 回	健康・体力の個人差	運動の効果には個人差があり、その解消に向けた指導法について習得する（講義）
第 14 回	まとめ	スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、運動・スポーツに関して習得すべき事項を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。
また、2020 年度には、単元の習得の理解が簡単かつ円滑となるようにオンライン動画教材などを用いて学生に授業を提供しており、その動画は随時改定している。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施となった場合、動画を見てレポートを提出するための PC 及び周辺機器と通信環境が必要となる場合がある。また必要に応じて提示した課題を提出する際も同様である。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 BCDH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 4 月 8 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ 対面：（姿勢のセルフコントロール型）	①立位姿勢の構造：矢状面 ②実習：動作課題1（骨盤と脊柱のセルフコントロール） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ 対面：（姿勢の左右対称性）	①立位姿勢の構造：前額面 ②実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ オンライン：リアルタイム型（からだへの気づきと心身の健康）	①姿勢のセルフコントロールの意義 ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ③体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用）
12	スポーツと体力AⅡ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）

13	スポーツと体力AⅢ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅡ・体力AⅢに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田典典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない！ゆるまない！ひとりでも巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 %（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
- 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - 睡眠時間（睡眠状態）
 - 脈拍数（心拍数）
 - 歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 AEFG

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 9 月 23 のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ 対面：（姿勢のセルフコントロール）	①立位姿勢の構造：矢状面 ②実習：動作課題1（骨盤と脊柱のセルフコントロール） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ 対面：（姿勢の左右対称性）	①立位姿勢の構造：前額面 ②実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ オンライン：リアルタイム型（からだへの気づきと心身の健康）	①姿勢のセルフコントロールの意義 ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ③体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用）
12	スポーツと体力AⅡ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）

13	スポーツと体力AⅢ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅡ・体力AⅢに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田典典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない！ゆるまない！ひとりでも巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 %（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
- 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - 睡眠時間（睡眠状態）
 - 脈拍数（心拍数）
 - 歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 BCDH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 4 月 8 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
6	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
7	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
8	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力BⅡ （姿勢のセルフコントロールⅠ） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力BⅢ （姿勢のセルフコントロールⅡ） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が 60 %**（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、**レポート評価が 20 %**、**期末試験が 20 %**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1 回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 AEFG

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 9 月 23 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとおり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
6	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
7	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
8	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力BⅡ （姿勢のセルフコントロール1） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力BⅢ （姿勢のセルフコントロール2） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が 60 %**（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、**レポート評価が 20 %**、**期末試験が 20 %**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえらるかと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1 回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしてください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 BCDH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 4 月 8 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力A I 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
3	スポーツと体力A II 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
4	スポーツと体力A III オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
5	スポーツと医学 I オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと医学 II オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと医学 III オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力B I オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力B II （姿勢のセルフコントロール1） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

10	スポーツと体力B III （姿勢のセルフコントロール2） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力A I・体力A IIに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が 60 %**（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、**レポート評価が 20 %**、**期末試験が 20 %**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえたと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1 回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 AEFG

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 9 月 23 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容	10	スポーツと体力BⅢ (姿勢のセルフコントロール2)	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート	11	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
2	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	12	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	13	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）
5	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	④健康増進における体力の重要性 ⑤体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ⑥健康増進のための今後の課題と実践	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。 2. 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。 3. スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。 4. スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。 5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
6	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	⑦生活習慣病と運動処方 ⑧リアクションペーパー	【テキスト（教科書）】 必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。		
7	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	⑨身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ⑩リアクションペーパー	【参考書】 01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院 02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版 03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス 04. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス 05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社 06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書 07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社 08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店 09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号 10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社 11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社 12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書 13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社 14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社		
8	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	⑪立位姿勢のしくみ ⑫立位姿勢の撮影と分析・評価 ⑬リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
9	スポーツと体力BⅡ (姿勢のセルフコントロール1) 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が60%**（授業担当教員は各15点：計60点）、**レポート評価が20%**、**期末試験が20%**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が10回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が70%以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえらるかと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
2. 以下の項目を**継続的に記録可能なスマートフォン・アプリ**など
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時のZoom招待URLはHoppiiでお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも1週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしてください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

法：法律 BCDH

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤と背骨を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は4月8日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容	9	スポーツと体力A II 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (GoogleForm 利用) オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト (GogleForm 使用)
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方(※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意(※対面授業について) ③授業外学習(コンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート	10	スポーツと体力A III オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告(GoogleForm 利用) ③健康増進のための今後の課題と実践
2	スポーツと体力 B I (オンデマンド)：立位姿勢の構造と分析	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	11	スポーツと医学 I オンライン：リアルタイム双方向型(身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと体力 B II (対面+オンデマンド)：姿勢のセルフコントロール 1	グループ A (対面授業) ①実習：動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	12	スポーツと医学 II オンライン：リアルタイム双方向型(健康運動演習：身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと体力 B III (対面+オンデマンド)：姿勢のセルフコントロール 2	グループ A (オンデマンド) ①実習：動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	13	スポーツと医学 III オンライン：リアルタイム双方向型(生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向(ウエイトコントロール法)	グループ B (対面) ①実習：動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題(マークシート方式)
6	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型(栄養バランスの整え方)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
7	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型(目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
8	スポーツと体力 A I 対面：グループ A オンデマンド：グループ B	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
		対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (GoogleForm 利用) オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト (GogleForm 使用)			

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容(1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店

09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 60 % (授業担当教員は各 15 点：計 60 点)、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 %以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間 (睡眠状態)
 - ②脈拍数 (心拍数)
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン：リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法：法律 AEFG

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) コンディションの変化を考察できる
2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤と背骨を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は9月23日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 B I （オンデマンド）：立位姿勢の構造と分析	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
3	スポーツと体力 B II （対面+オンデマンド）：姿勢のセルフコントロール 1	グループ A（対面授業） ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト グループ B（オンデマンド） ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
4	スポーツと体力 B III （対面+オンデマンド）：姿勢のセルフコントロール 2	グループ A（オンデマンド） ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト グループ B（対面） ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
5	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと体力 A I 対面：グループ A オンデマンド：グループ B	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（GoogleForm 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（GoogleForm 使用）

- 9 スポーツと体力AⅡ 対面グループ
対面：グループB
オンデマンド：グループA
①体力のセルフチェックの方法・記録・注意
②セット法による実践と記録
③トレーニング前後の体調報告 (GoogleForm 利用)
オンデマンドグループ
①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝
②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置
③授業習熟度確認テスト (GoogleForm 使用)
- 10 スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型
①健康の保持増進における体力の重要性
②体力測定結果の評価と報告 (GoogleForm 利用)
③健康増進のための今後の課題と実践
- 11 スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)
①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
②リアクションペーパー
- 12 スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型 (健康運動演習：身体活動と身体応答)
①生活習慣病と運動処方
②リアクションペーパー
- 13 スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型 (生活習慣病とその運動処方)
①身体活動量とエネルギー消費
②加齢と体力
③リアクションペーパー
- 14 期末試験・総括と解説
①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容 (1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミイ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店

- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチ』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 % (授業担当教員は各 15 点：計 60 点)、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取り組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
- 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - 睡眠時間 (睡眠状態)
 - 脈拍数 (心拍数)
 - 歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン：リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：国際 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) コンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤

- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は4月8日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ 対面：（姿勢のセルフコントロール型）	①立位姿勢の構造：矢状面 ②実習：動作課題1（骨盤と脊柱のセルフコントロール） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ 対面：（姿勢の左右対称性）	①立位姿勢の構造：前額面 ②実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ オンライン：リアルタイム型（からだへの気づきと心身の健康）	①姿勢のセルフコントロールの意義 ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ③体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用）
12	スポーツと体力AⅡ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）

13	スポーツと体力AⅢ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅡ・体力AⅢに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田典典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 %（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
- 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - 睡眠時間（睡眠状態）
 - 脈拍数（心拍数）
 - 歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：政治 STUVW

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 9 月 23 のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ 対面：（姿勢のセルフコントロール）	①立位姿勢の構造：矢状面 ②実習：動作課題1（骨盤と脊柱のセルフコントロール） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ 対面：（姿勢の左右対称性）	①立位姿勢の構造：前額面 ②実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ オンライン：リアルタイム型（からだへの気づきと心身の健康）	①姿勢のセルフコントロールの意義 ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ③体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用）
12	スポーツと体力AⅡ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）

13	スポーツと体力AⅢ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅡ・体力AⅢに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田典典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない！ゆるまない！ひとりでも巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 %（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
- 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - 睡眠時間（睡眠状態）
 - 脈拍数（心拍数）
 - 歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：国際 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 4 月 8 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
6	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
7	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
8	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力BⅡ （姿勢のセルフコントロールⅠ） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力BⅢ （姿勢のセルフコントロールⅡ） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が60%**（授業担当教員は各15点：計60点）、**レポート評価が20%**、**期末試験が20%**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が10回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が70%以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時のZoom招待URLはHoppiiでお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも1週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

山田 優香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2単位

法：政治 STUVW

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は**9月23日**のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとりの方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
6	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
7	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
8	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力BⅡ （姿勢のセルフコントロールⅠ） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力BⅢ （姿勢のセルフコントロールⅡ） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が60%**（授業担当教員は各15点：計60点）、**レポート評価が20%**、**期末試験が20%**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が10回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が70%以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時のZoom招待URLはHoppiiでお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも1週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしてください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

法：国際Y

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は4月8日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力A I 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
3	スポーツと体力A II 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
4	スポーツと体力A III オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
5	スポーツと医学 I オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと医学 II オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと医学 III オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力B I オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力B II （姿勢のセルフコントロール1） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

10	スポーツと体力B III （姿勢のセルフコントロール2） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向型（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力A I・体力A IIに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が60%**（授業担当教員は各15点：計60点）、**レポート評価が20%**、**期末試験が20%**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が10回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が70%以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時のZoom招待URLはHoppiiでお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも1週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2単位

法：政治 STUVW

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は**9月23日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）**で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容	対面グループ	オンデマンドグループ	10	スポーツと体力BⅢ (姿勢のセルフコントロール2)	対面グループ
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用）	①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	11	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
2	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用）	①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	12	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用）	①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	13	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用）	①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）
5	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。 2. 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。 3. スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。 4. スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。 5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
6	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー	【テキスト（教科書）】 必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。		
7	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー	【参考書】 01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院 02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版 03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス 04. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス 05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社 06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書 07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社 08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店 09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号 10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社 11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社 12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書 13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社 14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社		
8	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
9	スポーツと体力BⅡ (姿勢のセルフコントロール1) 対面：グループA オンデマンド：グループB	①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト	①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト	①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が60%**（授業担当教員は各15点：計60点）、**レポート評価が20%**、**期末試験が20%**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が10回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が70%以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時のZoom招待URLはHoppiiでお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも1週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

法：国際Y

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤と背骨を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は4月8日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容	9	スポーツと体力A II 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (GoogleForm 利用) オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト (GoogleForm 使用)
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方(※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意(※対面授業について) ③授業外学習(コンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート	10	スポーツと体力A III オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告 (GoogleForm 利用) ③健康増進のための今後の課題と実践
2	スポーツと体力 B I (オンデマンド)：立位姿勢の構造と分析	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	11	スポーツと医学 I オンライン：リアルタイム双方向型(身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと体力 B II (対面+オンデマンド)：姿勢のセルフコントロール 1	グループ A (対面授業) ①実習：動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	12	スポーツと医学 II オンライン：リアルタイム双方向型(健康運動演習：身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと体力 B III (対面+オンデマンド)：姿勢のセルフコントロール 2	グループ A (オンデマンド) ①実習：動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	13	スポーツと医学 III オンライン：リアルタイム双方向型(生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向(ウエイトコントロール法)	グループ B (対面) ①実習：動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題(マークシート方式)
6	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型(栄養バランスの整え方)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
7	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型(目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
8	スポーツと体力 A I 対面：グループ A オンデマンド：グループ B	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
		対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (GoogleForm 利用) オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト (GoogleForm 使用)			

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容(1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店

09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 60 % (授業担当教員は各 15 点：計 60 点)、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 %以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間 (睡眠状態)
 - ②脈拍数 (心拍数)
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン：リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法：政治 STUVW

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) コンディションの変化を考察できる
2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤と背骨を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は9月23日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 B I （オンデマンド）：立位姿勢の構造と分析	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
3	スポーツと体力 B II （対面+オンデマンド）：姿勢のセルフコントロール 1	グループ A（対面授業） ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト グループ B（オンデマンド） ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
4	スポーツと体力 B III （対面+オンデマンド）：姿勢のセルフコントロール 2	グループ A（オンデマンド） ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト グループ B（対面） ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
5	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと体力 A I 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（GoogleForm 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（GoogleForm 使用）

- 9 スポーツと体力AⅡ 対面グループ
対面：グループB
オンデマンド：グループA
①体力のセルフチェックの方法・記録・注意
②セット法による実践と記録
③トレーニング前後の体調報告 (GoogleForm 利用)
オンデマンドグループ
①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝
②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置
③授業習熟度確認テスト (GoogleForm 使用)
- 10 スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型
①健康の保持増進における体力の重要性
②体力測定結果の評価と報告 (GoogleForm 利用)
③健康増進のための今後の課題と実践
- 11 スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)
①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
②リアクションペーパー
- 12 スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型 (健康運動演習：身体活動と身体応答)
①生活習慣病と運動処方
②リアクションペーパー
- 13 スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型 (生活習慣病とその運動処方)
①身体活動量とエネルギー消費
②加齢と体力
③リアクションペーパー
- 14 期末試験・総括と解説
①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容 (1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミイ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店

- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 % (授業担当教員は各 15 点：計 60 点)、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取り組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
- 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - 睡眠時間 (睡眠状態)
 - 脈拍数 (心拍数)
 - 歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン：リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 LMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) コンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤

- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は4月8日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ 対面：（姿勢のセルフコントロール型）	①立位姿勢の構造：矢状面 ②実習：動作課題1（骨盤と脊柱のセルフコントロール） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ 対面：（姿勢の左右対称性）	①立位姿勢の構造：前額面 ②実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ オンライン：リアルタイム型（からだへの気づきと心身の健康）	①姿勢のセルフコントロールの意義 ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ③体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用）
12	スポーツと体力AⅡ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）

13	スポーツと体力AⅢ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅡ・体力AⅢに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田典典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 %（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 IJK

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 9 月 23 のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ 対面：（姿勢のセルフコントロール）	①立位姿勢の構造：矢状面 ②実習：動作課題1（骨盤と脊柱のセルフコントロール） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ 対面：（姿勢の左右対称性）	①立位姿勢の構造：前額面 ②実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ オンライン：リアルタイム型（からだへの気づきと心身の健康）	①姿勢のセルフコントロールの意義 ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ③体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用）
12	スポーツと体力AⅡ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）

13	スポーツと体力AⅢ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①トレーニングマシンの安全な使用方法 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅡ・体力AⅢに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田典典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない！ゆるまない！ひとりでも巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 %（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
- 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - 睡眠時間（睡眠状態）
 - 脈拍数（心拍数）
 - 歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) コンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤

- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 4 月 8 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容	10	スポーツと体力BⅢ (姿勢のセルフコントロール2)	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート	対面：グループB オンデマンド：グループA		オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
2	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	11	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）	12	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践	13	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー	14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）
6	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー			
7	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー			
8	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			
9	スポーツと体力BⅡ (姿勢のセルフコントロール1) 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が 60 %**（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、**レポート評価が 20 %**、**期末試験が 20 %**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1 回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田**
 - 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
2. **スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤**
 - 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
3. **スポーツと健康：大西**
 - 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. **スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好**
 - 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
5. **スポーツと食事：山田**
 - 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 9 月 23 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力A I 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
3	スポーツと体力A II 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
4	スポーツと体力A III オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
5	スポーツと医学 I オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと医学 II オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと医学 III オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力B I オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力B II （姿勢のセルフコントロール1） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

10	スポーツと体力B III （姿勢のセルフコントロール2） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向型（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力A I・体力A IIに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が 60 %**（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、**レポート評価が 20 %**、**期末試験が 20 %**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1 回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしてください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 LMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 4 月 8 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
6	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
7	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
8	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力BⅡ （姿勢のセルフコントロールⅠ） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力BⅢ （姿勢のセルフコントロールⅡ） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が 60 %**（授業担当教員は各 15 点：計 60 点）、**レポート評価が 20 %**、**期末試験が 20 %**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1 回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしてください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 IJK

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は 9 月 23 日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14 回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力AⅠ 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
6	スポーツと体力AⅡ 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Form 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（Google Form 利用）
7	スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告（Google Form 利用） ③健康増進のための今後の課題と実践
8	スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力BⅡ （姿勢のセルフコントロールⅠ） 対面：グループA オンデマンド：グループB	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力BⅢ （姿勢のセルフコントロールⅡ） 対面：グループB オンデマンド：グループA	対面グループ ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト オンデマンドグループ ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディショニング記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディショニングを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が60%**（授業担当教員は各15点：計60点）、**レポート評価が20%**、**期末試験が20%**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が10回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が70%以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の**1回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時のZoom招待URLはHoppiiでお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも1週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしてください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

法：法律LMN

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
 - 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
 - 03) コンディションの変化を考察できる
- #### 2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
 - 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
 - 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- #### 3. スポーツと健康：大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
 - 09) 加齢と体力について理解する
 - 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
 - 12) 骨盤と背骨を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
 - 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- #### 5. スポーツと食事：山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
 - 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
 - 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は4月8日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせた**ブレンド型授業**で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容	
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート	9
2	スポーツと体力 B I (オンデマンド)：立位姿勢の構造と分析	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	10
3	スポーツと体力 B II (対面+オンデマンド) ：姿勢のセルフコントロール 1	グループ A (対面授業) ①実習：動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト グループ B (オンデマンド) ①実習：動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	11
4	スポーツと体力 B III (対面+オンデマンド) ：姿勢のセルフコントロール 2	グループ A (オンデマンド) ①実習：動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト グループ B (対面) ①実習：動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト	12
5	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向 (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト	13
6	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型 (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト	14
7	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型 (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト	
8	スポーツと体力 A I 対面：グループ A オンデマンド：グループ B	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (GoogleForm 利用) オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト (GigleForm 使用)	
		①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定結果の評価と報告 (GoogleForm 利用) ③健康増進のための今後の課題と実践	
		①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー	
		①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー	
		①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー	
		①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題 (マークシート方式)	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容 (1 日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店

09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 60 % (授業担当教員は各 15 点：計 60 点)、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取り組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 %以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間 (睡眠状態)
 - ②脈拍数 (心拍数)
 - ③歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン：リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法：法律 IJK

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：伊藤・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の保持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) コンディションの変化を考察できる
2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤と背骨を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を述べられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は9月23日のガイダンス（オンライン：リアルタイム双方向型）で説明します。必ず出席してください。

春学期の授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関してもHoppiiを通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<ガイダンス> オンライン：リアルタイム型	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（コンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 B I （オンデマンド）：立位姿勢の構造と分析	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
3	スポーツと体力 B II （対面+オンデマンド）：姿勢のセルフコントロール 1	グループ A（対面授業） ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト グループ B（オンデマンド） ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
4	スポーツと体力 B III （対面+オンデマンド）：姿勢のセルフコントロール 2	グループ A（オンデマンド） ①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト グループ B（対面） ①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度テスト
5	スポーツと食事 I オンライン：リアルタイム双方向（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと食事 II オンライン：リアルタイム双方向型（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと食事 III オンライン：リアルタイム双方向型（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた昼食のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと体力 A I 対面：グループ A オンデマンド：グループ B	対面グループ ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意 ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（GoogleForm 利用） オンデマンドグループ ①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ③授業習熟度確認テスト（GiogleForm 使用）

- 9 スポーツと体力AⅡ 対面グループ
対面：グループB
オンデマンド：グループA
①体力のセルフチェックの方法・記録・注意
②セット法による実践と記録
③トレーニング前後の体調報告 (GoogleForm 利用)
オンデマンドグループ
①トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝
②トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置
③授業習熟度確認テスト (GiogleForm 使用)
- 10 スポーツと体力AⅢ オンライン：リアルタイム型
①健康の保持増進における体力の重要性
②体力測定結果の評価と報告 (GoogleForm 利用)
③健康増進のための今後の課題と実践
- 11 スポーツと医学Ⅰ オンライン：リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)
①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム
②リアクションペーパー
- 12 スポーツと医学Ⅱ オンライン：リアルタイム双方向型 (健康運動演習：身体活動と身体応答)
①生活習慣病と運動処方
②リアクションペーパー
- 13 スポーツと医学Ⅲ オンライン：リアルタイム双方向型 (生活習慣病とその運動処方)
①身体活動量とエネルギー消費
②加齢と体力
③リアクションペーパー
- 14 期末試験・総括と解説
①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容 (1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミイ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店

- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 60 % (授業担当教員は各 15 点：計 60 点)、レポート評価が 20 %、期末試験が 20 %です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取り組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は通常計画される対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上あった一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは容易に理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
- 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - 睡眠時間 (睡眠状態)
 - 脈拍数 (心拍数)
 - 歩数・歩行距離・消費エネルギーなど
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、春学期の 1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン：リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 ACFHIJ・環 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1回目）の実施。
2	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
3	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進
4	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者から見た私」を知る
5	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
7	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査による自己理解の促進
8	健康を考える 1	健康とスポーツの関係について学ぶ
9	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

10	健康を考える 2	健康とスポーツ、食生活との関係について学ぶ
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	健康を考える 3	体組成を通して健康について考える
13	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2回目）の実施

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき4時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から科目を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望、感染症の影響に応じて変更する場合があります。

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 GKM・環 DE・キ F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1回目）の実施。
2	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
3	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進
4	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者から見た私」を知る
5	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
7	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査による自己理解の促進
8	健康を考える 1	健康とスポーツの関係について学ぶ
9	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

10	健康を考える 2	健康とスポーツ、食生活との関係について学ぶ
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	健康を考える 3	体組成を通して健康について考える
13	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき4時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から科目を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望、感染症の影響に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 ACFHIJ・環 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。各授業の初めには、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1回目）の実施。（講義および実習）
2	健康科学を学ぶ①	体組成の測定（1回目）を通して健康について考える（講義および実習）
3	個人スポーツを学ぶ① ：バドミントンを通じた協同活動の理解と実践	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
4	集団スポーツを学ぶ① ：バレーボールを通じた協同活動の理解と実践	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
5	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）

6	健康科学を学ぶ②	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
7	集団スポーツを学ぶ② ：バレーボールを通じた相互理解の促進	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	個人スポーツを学ぶ② ：バドミントンを通じた相互理解の促進	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
9	集団スポーツを学ぶ③ ：バレーボールを通じた対人スキルの促進	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
10	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	個人スポーツを学ぶ③ ：バドミントンを通じた対人スキルの促進	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括 1：社会的スキルの理解	社会的スキル診断検査（2回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルに与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	授業総括 2：健康科学を学ぶ③	体組成の測定（2回目）を実施し、これまでの授業が自身の健康と体格に与えた影響について理解を深める（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき4時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より新規担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査（初回）、体組成の測定（2回目）を実施するため、必ず初回と2回目の授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge for self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 GKM・環 DE・キ F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。各授業の初めには、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。（講義および実習）
2	健康科学を学ぶ①	体組成の測定（1 回目）を通して健康について考える（講義および実習）
3	個人スポーツを学ぶ① ：バドミントンを通じた協同活動の理解と実践	バドミンントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
4	集団スポーツを学ぶ① ：バレーボールを通じた協同活動の理解と実践	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
5	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）

6	健康科学を学ぶ②	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
7	集団スポーツを学ぶ② ：バレーボールを通じた相互理解の促進	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	個人スポーツを学ぶ② ：バドミントンを通じた相互理解の促進	バドミンントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
9	集団スポーツを学ぶ③ ：バレーボールを通じた対人スキルの促進	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
10	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	個人スポーツを学ぶ③ ：バドミントンを通じた対人スキルの促進	バドミンントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括 1：社会的スキルの理解	社会的スキル診断検査（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルに与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	授業総括 2：健康科学を学ぶ③	体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の健康と体格に与えた影響について理解を深める（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より新規担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査（初回）、体組成の測定（2回目）を実施するため、必ず初回と2回目の授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge and self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 ACFHIJ・環 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-beingおよびコンピテンシー診断検査（1回目）の実施（講義及び演習）
第2回	アイスブレイク	自己理解と他者理解の促進（講義及び演習）
第3回	集団スポーツ（1）	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実技）
第4回	集団スポーツ（2）	バレーボールを通じたリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第5回	心の健康	ストレスが心身に及ぼす影響の理解とその対処法（講義及び演習）
第6回	ヨガ・マインドフルネス ストレーニング（1）	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）
第7回	ヨガ・マインドフルネス ストレーニング（2）	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）

第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ（講義及び演習）
第 9 回	スポーツと Well-being	生活の質（Quality of Life）を高めるためのスポーツとの関わり方を学ぶ（講義及び演習）
第 10 回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通したスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 11 回	スポーツと文化	オリンピック・パラリンピックの成り立ち及び功罪（講義及び演習）
第 12 回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通した問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 14 回	運動と生活習慣病	運動が生活習慣病及び老化に及ぼす影響を学ぶ。授業の総括。 Will-being およびコンピテンシー診断検査（2回目）の実施（講義及び演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間（合計 4 時間）を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 GKM・環 DE・キ F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（1 回目）の実施（講義及び実習）
第 2 回	アイスブレイク	自己理解と他者理解の促進（講義及び実習）
第 3 回	集団スポーツ（1）	バレーボールを通した相互理解の促進（講義及び実技）
第 4 回	集団スポーツ（2）	バレーボールを通したリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 5 回	心の健康	ストレスが心身に及ぼす影響の理解とその対処法（講義及び実習）
第 6 回	ヨガ・マインドフルネストレーニング（1）	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）
第 7 回	ヨガ・マインドフルネストレーニング（2）	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）

第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ（講義及び実習）
第 9 回	スポーツと Well-being	生活の質（Quality of Life）を高めるためのスポーツとの関わり方を学ぶ（講義及び実習）
第 10 回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通したスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 11 回	スポーツと文化	オリンピック・パラリンピックの成り立ち及び功罪（講義及び実習）
第 12 回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通した問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 14 回	運動と生活習慣病	運動が生活習慣病及び老化に及ぼす影響を学ぶ。授業の総括。Will-being およびコンピテンシー診断検査（2 回目）の実施（講義及び実習）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 ACFHIJ・環 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。【重要】コロナウイルス感染症の対策のため、本授業では座学の割合が多くなっている。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	スポーツ実習 1	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー基本）
3	講義 1	一週間ぶんの歩数を毎日記録して、自身の運動量を把握しよう
4	講義 2	心理学実験に参加してみよう
5	スポーツ実習 2	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン基本）
6	講義 3	自宅でできるエクササイズ実践
7	講義 4	自己理解を深めるためのライフチャートを作成しよう
8	スポーツ実習 3	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ソフトバレーボール）
9	講義 5	一週間の食事内容を毎日記録して、自身の食生活を把握しよう
10	スポーツ実習 4	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（インディアカ）

11	講義 6	自身の運動量の変化を把握しよう
12	スポーツ実習 5	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン応用）
13	講義 7	レポート作成
14	スポーツ実習 6	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー応用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 90 %、2) 課題・レポート 10 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、対面での実習をとまなうため、新型コロナウイルスの感染に十分に配慮した活動を行う。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

国 GKM・環 DE・キ F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。【重要】コロナウイルス感染症の対策のため、本授業では座学の割合が多くなっている。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	スポーツ実習 1	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー基本）
3	講義 1	一週間ぶんの歩数を毎日記録して、自身の運動量を把握しよう
4	講義 2	心理学実験に参加してみよう
5	スポーツ実習 2	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン基本）
6	講義 3	自宅のできるエクササイズ実践
7	講義 4	自己理解を深めるためのライフチャートを作成しよう
8	スポーツ実習 3	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ソフトバレーボール）
9	講義 5	一週間の食事内容を毎日記録して、自身の食生活を把握しよう
10	スポーツ実習 4	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（インディアカ）

11	講義 6	自身の運動量の変化を把握しよう
12	スポーツ実習 5	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン応用）
13	講義 7	レポート作成
14	スポーツ実習 6	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー応用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 90 %、2) 課題・レポート 10 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、対面での実習をとまなうため、新型コロナウイルスの感染に十分に配慮した活動を行う。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 BD・環 ABC・キ G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。【重要】コロナウイルス感染症の対策のため、本授業では座学の割合が多くなっている。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	スポーツ実習 1	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー基本）
3	講義 1	一週間ぶんの歩数を毎日記録して、自身の運動量を把握しよう
4	講義 2	心理学実験に参加してみよう
5	スポーツ実習 2	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン基本）
6	講義 3	自宅のできるエクササイズ実践
7	講義 4	自己理解を深めるためのライフチャートを作成しよう
8	スポーツ実習 3	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ソフトバレーボール）
9	講義 5	一週間の食事内容を毎日記録して、自身の食生活を把握しよう
10	スポーツ実習 4	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（インディアカ）

11	講義 6	自身の運動量の変化を把握しよう
12	スポーツ実習 5	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン応用）
13	講義 7	レポート作成
14	スポーツ実習 6	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー応用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 90 %、2) 課題・レポート 10 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、対面での実習をとまなうため、新型コロナウイルスの感染に十分に配慮した活動を行う。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 EL・環 FKL・キ H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。【重要】コロナウイルス感染症の対策のため、本授業では座学の割合が多くなっている。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	スポーツ実習 1	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー基本）
3	講義 1	一週間ぶんの歩数を毎日記録して、自身の運動量を把握しよう
4	講義 2	心理学実験に参加してみよう
5	スポーツ実習 2	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン基本）
6	講義 3	自宅のできるエクササイズ実践
7	講義 4	自己理解を深めるためのライフチャートを作成しよう
8	スポーツ実習 3	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ソフトバレーボール）
9	講義 5	一週間の食事内容を毎日記録して、自身の食生活を把握しよう
10	スポーツ実習 4	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（インディアカ）

11	講義 6	自身の運動量の変化を把握しよう
12	スポーツ実習 5	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン応用）
13	講義 7	レポート作成
14	スポーツ実習 6	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー応用）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 90 %、2) 課題・レポート 10 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、対面での実習をとまなうため、新型コロナウイルスの感染に十分に配慮した活動を行う。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 BD・環 ABC・キ G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。各授業の初めには、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。（講義および実習）
2	健康科学を学ぶ①	体組成の測定（1 回目）を通して健康について考える（講義および実習）
3	個人スポーツを学ぶ①	バドミントンのルールや基礎的技術：バドミントンを通じた協同活動の理解と実践について理解を深める（講義および実技）
4	集団スポーツを学ぶ①	バレーボールのルールや基礎的技術：バレーボールを通じた協同活動の理解と実践について理解を深める（講義および実技）
5	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）

6	健康科学を学ぶ②	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
7	集団スポーツを学ぶ② バレーボールを通じた相互理解の促進	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	個人スポーツを学ぶ② バドミントンを通じた相互理解の促進	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
9	集団スポーツを学ぶ③ バレーボールを通じた対人スキルの促進	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
10	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	個人スポーツを学ぶ③ バドミントンを通じた対人スキルの促進	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括 1：社会的スキルの理解	社会的スキル診断検査（2回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルに与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	授業総括 2：健康科学を学ぶ③	体組成の測定（2回目）を実施し、これまでの授業が自身の健康と体格に与えた影響について理解を深める（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき4時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より新規担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査（初回）、体組成の測定（2回目）を実施するため、必ず初回と2回目の授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge for self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 EL・環 FKL・キ H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。各授業の初めには、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。（講義および実習）
2	健康科学を学ぶ①	体組成の測定（1 回目）を通して健康について考える（講義および実習）
3	個人スポーツを学ぶ① ：バドミントンを通じた協同活動の理解と実践	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
4	集団スポーツを学ぶ① ：バレーボールを通じた協同活動の理解と実践	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
5	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）

6	健康科学を学ぶ②	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
7	集団スポーツを学ぶ② ：バレーボールを通じた相互理解の促進	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	個人スポーツを学ぶ② ：バドミントンを通じた相互理解の促進	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
9	集団スポーツを学ぶ③ ：バレーボールを通じた対人スキルの促進	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
10	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	個人スポーツを学ぶ③ ：バドミントンを通じた対人スキルの促進	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括 1：社会的スキルの理解	社会的スキル診断検査（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルに与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	授業総括 2：健康科学を学ぶ③	体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の健康と体格に与えた影響について理解を深める（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より新規担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査（初回）、体組成の測定（2回目）を実施するため、必ず初回と2回目の授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 BD・環 ABC・キ G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（1回目）の実施（講義及び演習）
第2回	アイスブレイク	自己理解と他者理解の促進（講義及び演習）
第3回	集団スポーツ（1）	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実技）
第4回	集団スポーツ（2）	バレーボールを通じたリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第5回	心の健康	ストレスが心身に及ぼす影響の理解とその対処法（講義及び演習）
第6回	ヨガ・マインドフルネス ストレーニング（1）	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）
第7回	ヨガ・マインドフルネス ストレーニング（2）	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）

第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ（講義及び演習）
第 9 回	スポーツと Well-being	生活の質（Quality of Life）を高めるためのスポーツとの関わり方を学ぶ（講義及び演習）
第 10 回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通したスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 11 回	スポーツと文化	オリンピック・パラリンピックの成り立ち及び功罪（講義及び演習）
第 12 回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通した問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 14 回	運動と生活習慣病	運動が生活習慣病及び老化に及ぼす影響を学ぶ。授業の総括。 Will-being およびコンピテンシー診断検査（2回目）の実施（講義及び演習）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 EL・環 FKL・キ H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-beingおよびコンピテンシー診断検査（1回目）の実施（講義及び演習）
第2回	アイスブレイク	自己理解と他者理解の促進（講義及び演習）
第3回	集団スポーツ（1）	バレーボールを通した相互理解の促進（講義及び実技）
第4回	集団スポーツ（2）	バレーボールを通したリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第5回	心の健康	ストレスが心身に及ぼす影響の理解とその対処法（講義及び演習）
第6回	ヨガ・マインドフルネストレーニング（1）	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）
第7回	ヨガ・マインドフルネストレーニング（2）	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）

第8回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ（講義及び演習）
第9回	スポーツとWill-being	生活の質（Quality of Life）を高めるためのスポーツとの関わり方を学ぶ（講義及び演習）
第10回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通したスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第11回	スポーツと文化	オリンピック・パラリンピックの成り立ち及び功罪（講義及び演習）
第12回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通した問題解決能力の養成（講義及び実技）
第13回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第14回	運動と生活習慣病	運動が生活習慣病及び老化に及ぼす影響を学ぶ。授業の総括。Will-beingおよびコンピテンシー診断検査（2回目）の実施（講義及び演習）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 BD・環 ABC・キ G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。レポートやアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
3	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進
4	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者から見た私」を知る
5	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
7	スポーツと人間心理 1	「描画法」を用いたグループワークを通じて自己理解を促進する
8	スポーツと人間心理 2	「ジョハリの窓」を用いたグループワーク
9	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

10	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査による自己理解の促進
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	健康を考える	体組成を通して健康について考える
13	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき4時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

5. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

国 EL・環 FKL・キ H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。レポートやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1回目）の実施。
2	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
3	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進
4	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者から見た私」を知る
5	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
7	スポーツと人間心理 1	「描画法」を用いたグループワークを通じて自己理解を促進する
8	スポーツと人間心理 2	「ジョハリの窓」を用いたグループワーク
9	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

10	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査による自己理解の促進
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	健康を考える	体組成を通して健康について考える
13	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき4時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、栄養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

5. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ JKLMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1回目）の実施。
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
4	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者から見た私」を知る
5	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査による自己理解の促進
6	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
8	健康を考える 1	健康とスポーツの関係について学ぶ
9	健康を考える 2	健康とスポーツ、食生活との関係について学ぶ

10	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
11	健康を考える 3	スポーツとメンタルヘルス、ストレスへの対処について学ぶ
12	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
13	健康を考える 4	体組成を通して健康について考える
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき4時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から科目を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望、感染症の影響に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ ABCDE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1回目）の実施。
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進
3	集団スポーツを学ぶ1	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
4	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る
5	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査による自己理解の促進
6	集団スポーツを学ぶ2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
8	健康を考える1	健康とスポーツの関係について学ぶ
9	健康を考える2	健康とスポーツ、食生活との関係について学ぶ

10	個人スポーツを学ぶ2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
11	健康を考える3	スポーツとメンタルヘルス、ストレスへの対処について学ぶ
12	個人スポーツを学ぶ3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
13	健康を考える4	体組成を通して健康について考える
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき4時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から科目を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望、感染症の影響に応じて変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ JKLMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。【重要】コロナウイルス感染症の対策のため、本授業では座学の割合が多くなっている。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	講義 1	一週間ぶんの歩数を毎日記録して、自身の運動量を把握しよう
3	講義 2	心理学実験に参加してみよう
4	スポーツ実習 1	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー基本）
5	スポーツ実習 2	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ソフトバレーボール）
6	講義 3	自宅のできるエクササイズ実践
7	講義 4	自己理解を深めるためのライフチャートを作成しよう
8	スポーツ実習 3	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン）
9	講義 5	一週間の食事内容を毎日記録して、自身の食生活を把握しよう
10	講義 6	不安への対処方法を学ぶ、考える

11	スポーツ実習 4	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー応用）
12	講義 7	自身の運動量の変化を把握しよう
13	講義 8	レポート作成
14	スポーツ実習 5	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（インディアカ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 90 %、2) 課題・レポート 10 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、対面での実習をとまなうため、新型コロナウイルスの感染に十分に配慮した活動を行う。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

飯村 周平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ ABCDE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。【重要】コロナウイルス感染症の対策のため、本授業では座学の割合が多くなっている。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	講義 1	一週間ぶんの歩数を毎日記録して、自身の運動量を把握しよう
3	講義 2	心理学実験に参加してみよう
4	スポーツ実習 1	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー基本）
5	スポーツ実習 2	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ソフトバレーボール）
6	講義 3	自宅のできるエクササイズ実践
7	講義 4	自己理解を深めるためのライフチャートを作成しよう
8	スポーツ実習 3	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（バドミントン）
9	講義 5	一週間の食事内容を毎日記録して、自身の食生活を把握しよう
10	講義 6	不安への対処方法を学ぶ、考える

11	スポーツ実習 4	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（ドッチビー応用）
12	講義 7	自身の運動量の変化を把握しよう
13	講義 8	レポート作成
14	スポーツ実習 5	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習（インディアカ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
3. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
4. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 90 %、2) 課題・レポート 10 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、対面での実習をとまなうため、新型コロナウイルスの感染に十分に配慮した活動を行う。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツ実習の際には、ジャージと室内シューズを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

キ JKLMN

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定及びウォーミングアップについての講義を行い、体力測定を実施する
第 3 回	体力測定及びドッジビー	体力測定の説明及び実施 軽スポーツ（ドッジビー）の実施
第 4 回	講義「健康について」	健康についての講義を行う
第 5 回	講義「体力について」	体力についての講義を行う
第 6 回	講義及「睡眠について」	睡眠についての講義を行う
第 7 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	運動の効果について講義 及びソフトバレーボールの実施
第 8 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う
第 9 回	講義及び実技（フットサル&バスケットボール）	スポーツにおけるコミュニケーション、チームワークについて 講義 及びフットサル&バスケットボール実施

第10回	講義及び実技（バドミントン）	スポーツと健康について講義及びバドミントンの実施
第11回	講義「トレーニング理論について」「筋力トレーニングについて」	トレーニング理論及び筋力トレーニングについて講義を行う
第12回	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う
第13回	講義及び実技（卓球）	栄養と健康について講義及び卓球の実施
第14回	授業の総括及びダイエットについて	授業の総括及びダイエットについて講義を行う レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。

教員の指示に従って以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組む授業計画の内容を調べる（技術、ルール、マナー等）
- 2) 日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題を把握して、対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

キ ABCDE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	講義及び体力測定	体力測定及びウォーミングアップについての講義を行い、体力測定を実施する
第3回	体力測定及びドッジビー	体力測定の説明及び実施 軽スポーツ（ドッジビー）の実施
第4回	講義「健康について」	健康についての講義を行う
第5回	講義「体力について」	体力についての講義を行う
第6回	講義及「睡眠について」	睡眠についての講義を行う
第7回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	運動の効果について講義及びソフトバレーボールの実施
第8回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動について講義を行う
第9回	講義及び実技（フットサル&バスケットボール）	スポーツにおけるコミュニケーション、チームワークについて講義及びフットサル&バスケットボール実施

第10回	講義及び実技（バドミントン）	スポーツと健康について講義及びバドミントンの実施
第11回	講義「トレーニング理論について」「筋力トレーニングについて」	トレーニング理論及び筋力トレーニングについて講義を行う
第12回	講義「メンタルヘルスケアについて」	メンタルヘルスケアについて講義を行う
第13回	講義及び実技（卓球）	栄養と健康について講義及び卓球の実施
第14回	授業の総括及びダイエットについて	授業の総括及びダイエットについて講義を行う レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。

教員の指示に従って以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組み授業計画の内容を調べる。(技術、ルール、マナー)
- 2) 日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して、対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況60%
- 2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月6/Mon.6

単位数：2単位

法以外の学部再履修・社会人

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、法学部以外の学部再履修生および社会人（RSP含む）学生を対象に行う。1～6回を市ヶ谷キャンパスで開講し、7回～14回をサマーセッション期間中に、多摩キャンパスにおいて、2日間連続で行う。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこなう。履修可能者が決定される。

授業はスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験およびレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

本講義の詳細については、各学部のガイダンスおよび再履修者ガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康に及ぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	トレーニング演習 (講義および実習)	トレーニング理論および実践方法を理解し、実際に機器を使ってトレーニングを行う。また、自重を用いたトレーニング方法を習得する。

5	ウォーミングアップとクーリングダウン (講義および実習)	ウォーミングアップ、クーリングダウンの重要性について説明する。特にストレッチの種類、正確な行い方については実践を通じて習得する。
6	スポーツ傷害と応急処置 (講義および実習)	スポーツ傷害について、発生意因とその応急処置を説明する。また温・冷罨法における生体機能について説明する。
7	スポーツ・ウォーキング (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングにの身体へ及ぼす影響を理解し、基本的なウォーキング技術を習得しながら、多摩キャンパス内を実践する。
8	食事と健康 (講義)	栄養素と身体活動との関係を理解し、多摩キャンパス内の食堂でバランスの取れた食事を摂取する。
9	ニュースポーツ (講義および実習)	ニュースポーツについて概説し、その一つであるソフトバレーを実践する。基本的なパス、レシーブ、サーブ練習を行った後に、チームに分かれてゲームを行う。
10	ヨガと瞑想 (講義および実習)	ヨガについて概説し、基本のポーズを筋肉の解剖を理解しながら実践する。同時に、呼吸法の一つを実践することで瞑想状態に近づける。
11	トレッキングの基礎知識 (講義および実習)	トレッキングの基礎知識を概説し、多摩キャンパス近くにある高尾山を歩き、トレッキングを体験する。 自然活動を行う際の基礎的知識から、トレッキングなどの専門的知識などを実践を通じて学習する。
12	トレッキングと自然環境 (講義および実習)	高尾山の自然環境を体感することで、環境問題について意見を述べ合い、その対策などを確認しながら、トレッキングを実践する。
13	トレッキングと健康 (講義および実習)	トレッキングが身体の諸器官に与える影響について説明する。また適切な水分摂取の方法や身体ケアの方法について習得する。 総括として、自然活動のマナーやルールについて学生同士話し合いを行う。
14	まとめ (講義)	授業全体を通じて、学んだこと、感じたことを振り返り、身体活動の意義や役割について、学生同士意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況80%、2) 課題・レポート20%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

3) 毎回授業の最後に次回の内容を伝達し、次回の準備にあてるよう工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することががのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日15時～16時30分の1.5時間を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることががのぞましい。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 6/Mon.6

単位数：2 単位

法以外の学部再履修・社会人

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 6 回程度、教室での講義を 8 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。

授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	スタティックストレッチ・ダイナミックストレッチの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論を中心に学び、実践方法を理解する
9	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論に対する応用を学び実践に活かす方法を理解する
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとしてバレーボールの基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	バレーボールの応用技術を習得し、ゲームを行う
12	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅰ（理論と実習）	簡易チェックによって自身のバランスや左右差を評価し、原因となるそのアライメントや筋力の差を認識する
13	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅱ（理論と実習）	簡易チェックに対する結果から、改善のための方法を検討し、その実践方法を学ぶ
14	総括（講義）	コミュニケーション能力やリーダーシップ能力等について講義を行うと共に、これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各 2 時間を標準とする】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40% の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。なお、欠席及び課題の提出が期限を過ぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

In this course students will deepen their understanding of the implications of physical activity, acquiring fundamental knowledge and insight of its lifetime effects towards maintenance and self-management of physical, mental and social health through lectures and practical training.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

環 HIJ

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講に対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

また、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキング ストレッチ (講義および実習)	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	体力測定の意義とその 手順、データの解釈 (講義)	・体力とは 行動体力・防衛体力 ・公衆衛生・身体活動量と死亡との関係、健康寿命とは ・体力測定の意味 文科省 新体力テストとは ・体力測定の見方
4	トレーニングと健康 (講義)	・トレーニングの意義と目的 ・健康とは ・寿命と死因 ・健康を考える

5	スポーツ外傷・障害 (講義)	・スポーツ外傷・障害とは ・スポーツ外傷・障害の発生要因 ・スポーツ外傷・障害とアライメント ・スポーツ外傷・障害の予防
6	卓球の基礎 (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
7	卓球の応用 サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のゲームについて学ぶとともに、視覚に障害がある人を中心に行われている卓球について学ぶ。
8	心理面を通じたストレスマネジメント (講義)	・現代社会とストレス ・ストレスにおける症状 ・ストレスが身体運動に及ぼす影響 ・気持ちを言葉にする「筆記開示」
9	身体面を通じたストレスマネジメント (講義)	・ストレスの仕組み ・身体（姿勢、表情）や行動が心理面に及ぼす影響 ・ネガティブバイアス ・生活の見直しによるストレスの調整
10	様々なスポーツ参加の方法とパラ（障害者）スポーツ (講義)	・障害とは何か ・パラスポーツとアダプテーション ・アダプテーションとその様々な方法 ・パラスポーツにおけるアダプテーションの実際
11	フットサル ボッチャ (講義および実習)	フットサルの基礎並びに、体に障害のある人を中心に行われているボッチャという競技について学ぶ。
12	バレーボール シッティングバレーボール (講義および実習)	バレーボールの基礎について学ぶとともに、下肢に障害のある人等を中心に行われているシッティングバレーボールという競技について学ぶ。
13	パラ（障害者）スポーツの歴史と現状・課題 (講義)	・国内におけるパラスポーツの歴史 ・パラリンピックの歴史 ・パラリンピックの意義 ・パラリンピックの現状と課題
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序・内容等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge for self health care, and to develop attitudes for that.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート 20%、授業への参画状況 20%の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義の開始時にその日の授業構成並びに授業のねらいを示すことで、学生の学びを促すようにする。
- ・学生の興味や関心に応じて授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供する。
- ・授業の終わりに、次回の授業で行う内容について伝えることで、学生が次回の授業のために準備できるようにする。

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位
キ IOP

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

また、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	ウォーキング ストレッチ (講義および実習)	ウォーキングとストレッチについて、その理論と実践を通して学ぶ。
3	体力測定の意義とその手順、データの解釈 (講義)	・体力とは 行動体力・防衛体力 ・公衆衛生・身体活動量と死亡との関係、健康寿命とは ・体力測定の意味 文科省 新体力テストとは ・体力測定の見方
4	トレーニングと健康 (講義)	・トレーニングの意義と目的 ・健康とは ・寿命と死因 ・健康を考える

5	スポーツ外傷・障害 (講義)	・スポーツ外傷・障害とは ・スポーツ外傷・障害の発生要因 ・スポーツ外傷・障害とアラタイムント ・スポーツ外傷・障害の予防
6	卓球の基礎 (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
7	卓球の応用 サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のゲームについて学ぶとともに、視覚に障害がある人を中心に行われている卓球について学ぶ。
8	心理面を通じたストレスマネジメント (講義)	・現代社会とストレス ・ストレスにおける症状 ・ストレスが身体運動に及ぼす影響 ・気持ちを言葉にする「筆記開示」
9	身体面を通じたストレスマネジメント (講義)	・ストレスの仕組み ・身体（姿勢、表情）や行動が心理面に及ぼす影響 ・ネガティブバイアス ・生活の見直しによるストレスサワーの調整
10	様々なスポーツ参加の方法とパラ（障害者）スポーツ (講義)	・障害とは何か ・パラスポーツとアダプテーション ・アダプテーションとその様々な方法 ・パラスポーツにおけるアダプテーションの実際
11	フットサル ポッチャ (講義および実習)	フットサルの基礎並びに、体に障害のある人を中心に行われているポッチャという競技について学ぶ。
12	バレーボール シッティングバレーボール (講義および実習)	バレーボールの基礎について学ぶとともに、下肢に障害のある人等を中心に行われているシッティングバレーボールという競技について学ぶ。
13	パラ（障害者）スポーツの歴史と現状・課題 (講義)	・国内におけるパラスポーツの歴史 ・パラリンピックの歴史 ・パラリンピックの意義 ・パラリンピックの現状と課題
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・講義の開始時にその日の授業構成並びに授業のねらいを示すことで、学生の学びを促すようにする。
・学生の興味や関心に応じて授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供する。
・授業の終わりに、次回の授業で行う内容について伝えることで、学生が次回の授業のために準備できるようにする。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序・内容等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

環 HIJ

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。最終授業で13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。

授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	スタティックストレッチ・ダイナミックストレッチの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める
8	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論を中心に学び、実践方法を理解する
9	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論に対する応用を学び実践に活かす方法を理解する
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとしてバレーボールの基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	バレーボールの応用技術を習得し、ゲームを行う
12	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅰ（理論と実習）	簡易チェックによって自身のバランスや左右差を評価し、原因となるそのアライメントや筋力の差を認識する
13	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅱ（理論と実習）	簡易チェックに対する結果から、改善のための方法を検討し、その実践方法を学ぶ
14	総括（講義）	コミュニケーション能力やリーダーシップ能力等について講義を行うと共に、これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各2時間を標準とする】
 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
 また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40% の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。なお、欠席及び課題の提出が期限を過ぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

In this course students will deepen their understanding of the implications of physical activity, acquiring fundamental knowledge and insight of its lifetime effects towards maintenance and self-management of physical, mental and social health through lectures and practical training.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

キ IOP

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 6 回程度、教室での講義を 8 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。

授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	スタティックストレッチ・ダイナミックストレッチの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論を中心に学び、実践方法を理解する
9	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論に対する応用を学び実践に活かす方法を理解する
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとしてバレーボールの基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	バレーボールの応用技術を習得し、ゲームを行う
12	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅰ（理論と実習）	簡易チェックによって自身のバランスや左右差を評価し、原因となるそのアライメントや筋力の差を認識する
13	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅱ（理論と実習）	簡易チェックに対する結果から、改善のための方法を検討し、その実践方法を学ぶ
14	総括（講義）	コミュニケーション能力やリーダーシップ能力等について講義を行うと共に、これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各 2 時間を標準とする】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40% の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。なお、欠席及び課題の提出が期限を過ぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

In this course students will deepen their understanding of the implications of physical activity, acquiring fundamental knowledge and insight of its lifetime effects towards maintenance and self-management of physical, mental and social health through lectures and practical training.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

アダプテッドコース

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「スポーツ総合演習（アダプテッド・コース）」というコースであることに注意されたい。

本コースでは、自らの心身の状況を考慮しつつ、自己に適した運動・スポーツを行うことを重視する。

本授業では、身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、市ヶ谷キャンパスで開講される。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
3	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	ストレッチの概要を学び、実践する。
4	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
5	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
6	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。

7	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
8	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。
9	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
10	運動習慣を促進するための方法を学ぶ（講義および実習）	運動習慣を促進するための方法を学び、意見交換を行う。
11	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
12	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
13	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	健康を題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
14	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	スポーツを題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「様々な理由でこの授業を履修している方がいると思いますが、ボッチャだけでなく違うパラスポーツも体験してみたかったです。でも、スポーツに関して様々な観点から学べて充実していました」「運動を制限されている学生に対してもきちんとした対応がなされているだけでも良かったです。コースの人と楽しくスポーツを一緒にできてとても嬉しかったです。障害者スポーツに興味を持つことができました。今後、注目をして見ていきたいと思います」「身体への配慮が行き届いていて、無理なく身体を動かすことができた。授業内でも意見を交換するなど、コミュニケーションを取る場面が多く、人の意見を聞いて勉強になることが多かった。おそらく（人生で）最後の体育になるが、スポーツへのイメージがあまり良くなかったのが、ガラッと変わったので履修して、本当に良かった」「講義はスポーツマンシップ、スポーツの意義を中心に、健康に対する考え方、ストレスへの対処など多岐にわたる。実技はさほど激しくなく、それぞれの障害に配慮した内容になっていて、安心して受講できる」などの意見をもらいました。今後も、受講生の心身の状況（疾患、負傷、障がいなど）に合わせて、授業を実施します。

【その他の重要事項】

アダプテッド・コースの受講者は、以下に示す条件を満たして、担当教員から受講が認められた者とする。

1. スポーツ総合演習の受講に影響のある疾患または障がいのある者。
2. 負傷しており、所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習の受講が困難な者。
3. 所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習を履修する者の中で、授業期間中に授業参加が困難なほどに負傷した者。
4. その他、妥当だと判断される理由のある者。
5. 「選択科目」としての履修は、原則として認めない。
6. 「再履修」としての履修は認める。

なお、負傷している、または、障がいのある者であっても、本コースのスポーツ総合演習を履修するかどうかは、本人の希望を尊重する。また、本コースの受講を検討している者は、原則として、受講を希望する年度の履修登録期間の前に、保健体育部（事務）に連絡をすること。その後、担当教員と面談や情報交換を行った上で、受講の可否が決定される。

【Outline and objectives】

Please note that this course is adapted course for students with serious illnesses and disabilities.

In this course, while considering the physical and mental conditions of themselves, students will do exercise and sports suitable for themselves.

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期：春学期集中 | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

アダプテッドコース

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「スポーツ総合演習（アダプテッド・コース）」というコースであることに注意されたい。

本コースでは、自らの心身の状況を考慮しつつ、自己に適した運動・スポーツを行うことを重視する。

本授業では、身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、市ヶ谷キャンパスで開講される。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
3	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	ストレッチの概要を学び、実践する。
4	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
5	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
6	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。

7	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
8	ポッチャを学ぶ（講義および実習）	ポッチャのルールや技術を学び、実践する。
9	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
10	運動習慣を促進するための方法を学ぶ（講義および実習）	運動習慣を促進するための方法を学び、意見交換を行う。
11	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
12	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
13	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	健康を題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
14	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	スポーツを題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「様々な理由でこの授業を履修している方がいると思いますが、ポッチャだけでなく違うバラスポーツも体験してみたかったです。でも、スポーツに関して様々な観点から学べて充実していました」「運動を制限されている学生に対してもきちんとした対応がなされていてとても良かったです。コースの人と楽しくスポーツを一緒にできてとても嬉しかったです。障害者スポーツに興味を持つことができました。今後、注目をして見ていきたいと思います」「身体への配慮が行き届いていて、無理なく身体を動かすことができた。授業内でも意見を交換するなど、コミュニケーションを取る場面が多く、人の意見を聞いて勉強になることが多かった。おそらく（人生で）最後の体育になるが、スポーツへのイメージがあまり良くなかったのが、ガラッと変わったので履修して、本当に良かった」「講義はスポーツマンシップ、スポーツの意義を中心に、健康に対する考え方、ストレスへの対処など多岐にわたる。実技はさほど激しくなく、それぞれの障害に配慮した内容になっていて、安心して受講できる」などの意見をもらいました。今後も、受講生の心身の状況（疾患、負傷、障がいなど）に合わせて、授業を実施します。

【その他の重要事項】

アダプテッド・コースの受講者は、以下に示す条件を満たして、担当教員から受講が認められた者とする。

1. スポーツ総合演習の受講に影響のある疾患または障がいのある者。
2. 負傷しており、所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習の受講が困難な者。
3. 所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習を履修する者の中で、授業期間中に授業参加が困難なほどに負傷した者。
4. その他、妥当だと判断される理由のある者。
5. 「選択科目」としての履修は、原則として認めない。
6. 「再履修」としての履修は認める。

なお、負傷している、または、障がいのある者であっても、本コースのスポーツ総合演習を履修するかどうかは、本人の希望を尊重する。また、本コースの受講を検討している者は、原則として、受講を希望する年度の履修登録期間の前に、保健体育部（事務）に連絡をすること。その後、担当教員と面談や情報交換を行った上で、受講の可否が決定される。

【Outline and objectives】

Please note that this course is adapted course for students with serious illnesses and disabilities.

In this course, while considering the physical and mental conditions of themselves, students will do exercise and sports suitable for themselves.

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self-health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習 S

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するために、体育施設の使用人数制限に合わせ抽選を行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (教室)	ガイダンス	授業概要について説明する。
2 (教室)	体力測定	(講義と実習) 体力測定を実施し、自身の現状を把握する。
3 (富4)	ネットスポーツ I	(講義と実習) ネットスポーツとしてバドミントンを行う。
4 (富4)	ネットスポーツ II	(講義と実習) ネットスポーツとしてバレーボールを行う。
5 (教室)	トレーニングと健康	(講義) ・トレーニングの意義と目的 ・健康とは ・寿命と死因 ・健康を考える

- 6 (教室) 日常生活でできるトレーニング (講義)
・日常生活のヒント
・食事量を考える
・超回復と健康の方程式
・日常生活の中でできる運動
- 7 (教室) ウォーキング (講義)
・ウォーキングの効果
・ウォーキングの正しい姿勢
・ウォーキングの方法
・ウォーキング後の身体のケアについて
- 8 (市4) ネットスポーツⅢ (講義と実習)
ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う。
- 9 (市4) ネットスポーツⅣ (講義と実習)
ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う。
- 10 (教室) 様々なスポーツ参加の方法とパラ (障害者) スポーツ (講義)
・障害とは何か
・パラスポーツとアダプテーション
・アダプテーションとその様々な方法
・パラスポーツにおけるアダプテーションの実際
- 11 (教室) 心理面を通じたストレスマネジメント (講義)
・現代社会とストレス
・ストレスにおける症状
・ストレスが身体運動に及ぼす影響
・気持ちを言葉にする「筆記開示」
- 12 (教室) 身体面を通じたストレスマネジメント (講義)
・ストレスの仕組み
・身体 (姿勢、表情) や行動が心理面に及ぼす影響
・ネガティブバイアス
・生活の見直しによるストレスサワーの調整
- 13 (市5) ボールゲーム (講義と実習)
ボールゲームとしてバスケットボールを行う。
- 14 (市5) 総括 (講義)
これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を以って総括とする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60%、期末レポート 20%、授業への参画状況 20%の配分で評価する。なお、欠席および課題の提出が期限を過ぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から科目を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受信できるようにしておくこと。

【Outline and objectives】

By broadening their understanding of the role of physical exercise, students will expand their basic knowledge and views on the physical, mental and social effects of health management and maintenance through lectures and practical work.

HSS100LA

スポーツ総合演習S

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するために、体育施設の使用人数制限に合わせ抽選を行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1(教室)	ガイダンス	授業概要について説明する。
2(教室)	体力測定	(講義と実習) 体力測定を実施し、自身の現状を把握する。
3(富4)	ネットスポーツⅠ	(講義と実習) ネットスポーツとしてバドミントンを行う。
4(富4)	ネットスポーツⅡ	(講義と実習) ネットスポーツとしてバレーボールを行う。
5(教室)	トレーニングと健康	(講義) ・トレーニングの意義と目的 ・健康とは ・寿命と死因 ・健康を考える

- 6(教室) 日常生活でできるトレーニング (講義)
・日常生活のヒント
・食事量を考える
・超回復と健康の方程式
・日常生活の中でできる運動
- 7(教室) ウォーキング (講義)
・ウォーキングの効果
・ウォーキングの正しい姿勢
・ウォーキングの方法
・ウォーキング後の身体のケアについて
- 8(市4) ネットスポーツⅢ (講義と実習)
ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う。
- 9(市4) ネットスポーツⅣ (講義と実習)
ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う。
- 10(教室) 様々なスポーツ参加の方法とバラ (障害者) スポーツ (講義)
・障害とは何か
・パラスポーツとアダプテーション
・アダプテーションとその様々な方法
・パラスポーツにおけるアダプテーションの実際
- 11(教室) 心理面を通じたストレスマネジメント (講義)
・現代社会とストレス
・ストレスにおける症状
・ストレスが身体運動に及ぼす影響
・気持ちを言葉にする「筆記開示」
- 12(教室) 身体面を通じたストレスマネジメント (講義)
・ストレスの仕組み
・身体(姿勢、表情)や行動が心理面に及ぼす影響
・ネガティブバイアス
・生活の見直しによるストレスサワーの調整
- 13(市5) ボールゲーム (講義と実習)
ボールゲームとしてバスケットボールを行う。
- 14(市5) 総括 (講義)
これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を以って総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。なお、欠席および課題の提出が期限を過ぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から科目を担当するため特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受信できるようにしておくこと。

【Outline and objectives】

By broadening their understanding of the role of physical exercise, students will expand their basic knowledge and views on the physical, mental and social effects of health management and maintenance through lectures and practical work.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法以外

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。最終授業で13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。

授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	スタティックストレッチ・ダイナミックストレッチの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める
8	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論を中心に学び、実践方法を理解する
9	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論に対する応用を学び実践に活かす方法を理解する
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとしてバレーボールの基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	バレーボールの応用技術を習得し、ゲームを行う
12	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅰ（理論と実習）	簡易チェックによって自身のバランスや左右差を評価し、原因となるそのアライメントや筋力の差を認識する
13	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅱ（理論と実習）	簡易チェックに対する結果から、改善のための方法を検討し、その実践方法を学ぶ
14	総括（講義）	コミュニケーション能力やリーダーシップ能力等について講義を行うと共に、これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各2時間を標準とする】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40% の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。なお、欠席及び課題の提出が期限を過ぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

In this course students will deepen their understanding of the implications of physical activity, acquiring fundamental knowledge and insight of its lifetime effects towards maintenance and self-management of physical, mental and social health through lectures and practical training.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法以外

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を6回程度、教室での講義を8回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。最終授業で13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。

授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	スタティックストレッチ・ダイナミックストレッチの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を活用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論を中心に学び、実践方法を理解する
9	トレーニング理論と実践（講義）	トレーニングの理論に対する応用を学び実践に活かす方法を理解する
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとしてバレーボールの基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	バレーボールの応用技術を習得し、ゲームを行う
12	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅰ（理論と実習）	簡易チェックによって自身のバランスや左右差を評価し、原因となるそのアライメントや筋力の差を認識する
13	簡易アライメントチェックとフィジカルチェックの実践と分析Ⅱ（理論と実習）	簡易チェックに対する結果から、改善のための方法を検討し、その実践方法を学ぶ
14	総括（講義）	コミュニケーション能力やリーダーシップ能力等について講義を行うと共に、これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各2時間を標準とする】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを40%の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。なお、欠席及び課題の提出が期限を過ぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

In this course students will deepen their understanding of the implications of physical activity, acquiring fundamental knowledge and insight of its lifetime effects towards maintenance and self-management of physical, mental and social health through lectures and practical training.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。

毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるための小テストおよびリアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

※この授業は、適宜、オンライン（Zoom）または学習支援システムによる実施の週を設けます。大学の行動方針レベルが2となった場合には、原則としてオンライン授業のみとします。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習復習の仕方、辞書の活用法、などについて Unit 1 の冒頭を用いて説明する。
2	Unit 1 The Concept of Beauty「美」の概念 <前半>	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
3	Unit 1 <後半>	第 4～7 パラグラフ、および練習問題

4	Unit 2 Greek Mythology – – Stories of Gods and Humans ギリシア神話——— 神々と人間の物語 <前半>	第 1~3 パラグラフ、および練習 問題
5	Unit 2 <後半>	第 4~7 パラグラフ、および練習 問題
6	Unit 3 The Bible -- Mainstay of Christianity 聖書———キリスト 教の支柱 <前半>	第 1~4 パラグラフ、および練習 問題
7	Unit 3 <後半>	第 5~6 パラグラフ、および練習 問題
8	復習・補足	前半：Unit 1~3 の復習。 後半：Unit 1~3, 4~7 の補足・ 発展（事前に指示・配付した教材 に基づく）。
9	Unit 4 Renaissance -- Transcending Cultural Movements ルネサンス——— ジャンルを横断する ムーブメント <前半>	第 1~4 パラグラフ、および練習 問題
10	Unit 4 <後半>	第 5~6 パラグラフ、および練習 問題
11	Unit 7 The English Language 英語の変遷 <前半>	第 1~5 パラグラフ、および練習 問題
12	Unit 7 <後半>	第 6~7 パラグラフ、および練習 問題
13	復習・復習試験	前半：Unit 1~3, 4~7 の復習、 補足 後半：復習試験
14	Unit 5 The Structure of Fictional Literature/ Unit 6 The Theater and Acting（各自ど ちらかを選択）	各自のレポートに基づく、グルー プワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須である。
教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所を印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や章末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合もある。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton / 小田 島 恒 志,
TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity,
Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ—響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。
毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の小テスト・リアクションペーパー 40 %、レポート 10 %）、復習試験 50 % の成績の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の「学び合い」の時間を設けることが重要であるとわかったので、ペア/グループワークを効果的にとりいれたい。
質問・発言のしやすい環境を作る。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom による授業を大学で受けるときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意してください。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook which discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。

毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるための小テストおよびリアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

※この授業は、適宜、オンライン（Zoom または学習支援システム）による実施の週を設けます。大学の行動方針レベルが2となった場合には、原則としてオンライン授業のみとします。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8 The Rise of Cities 都市の隆盛	全文、および練習問題 (授業の最後にレポート①として提出)
2	Unit 9 Trusting in Recorded History 歴史という記録の信頼性 <前半>	第 1~3 段落、および練習問題
3	Unit 9 <後半>	第 4~8 段落、および練習問題
4	Unit 11 How Democracy Works 民主主義という制度 <前半>	第 1~2 段落、および練習問題

5	Unit 11 <後半>	第 3~6 段落、および練習問題
6	復習、補足	前半：Unit 8, 9, 11 の復習。 後半：Unit 8~14 の補足・発展 (事前に指示・配付した教材に基づく。)
7	Unit 12 Marriage and the State 結婚と国家 <前半>	第 1~3 段落、および練習問題
8	Unit 12 <後半>	第 4~5 段落、および練習問題
9	Unit 13 The Meaning of Prayers 「祈り」のもつ意味 <前半>	第 1~3 段落、および練習問題
10	Unit 13 <後半>	第 4~5 段落、および練習問題
11	Unit 15 The Importance of Discipline 「しつけ=規律」の重要性 <前半>	第 1~3 段落、および練習問題
12	Unit 15 <後半>	第 4~6 段落、および練習問題
13	復習・復習試験	前半：Unit 8, 9, 11, 12, 13, 15 の復習、補足 後半：復習試験
14	・Unit 10 Battles on Board Games 盤上の戦い—— チェス/将棋/チャトランガ… ・Unit 14 Mankind and Laughter 笑いとは人間 (各自どちらかを選択)	各自のレポート②に基づくグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所を印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や巻末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

補助教材については、本文の予習のほか、予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合がある。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton/小田島恒志, TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity, Kinseido, 2017. [『多元文化論 エッセイ——響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。

毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の小テスト・リアクションペーパー 40 %、および、提出物 2 回計 10 %）、および復習試験 50 % の成績の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

ペア/グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境を作る。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook which discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます。
- ・論理的な思考力を養います。
- ・語彙力を増やします。
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます。
- ・英語のリズムを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	A Matter of Time (listening)
3	Unit 1	A Matter of Time (reading)
4	Unit 2	Japan's Royal Dilemma (listening)
5	Unit 2	Japan's Royal Dilemma (reading)
6	Unit 3	Doing it Right (listening)
7	Unit 3	Doing it Right (reading)
8	Unit 4	From the Comfort of Home (listening)
9	Unit 4	From the Comfort of Home (reading)
10	Unit 5	No Age Barrier (listening)
11	Unit 5	No Age Barrier (reading)
12	Unit 6	Royal Split (listening)
13	Unit 6	Royal Split (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・春学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスクリプトと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (22)』

(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます。
- ・論理的な思考力を養います。
- ・語彙力を増やします。
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます。
- ・英語のリズムを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7	Grand Lady in Distress (listening)
3	Unit 7	Grand Lady in Distress (reading)
4	Unit 8	Edible Ecofriendliness (listening)
5	Unit 8	Edible Ecofriendliness (reading)
6	Unit 9	Protectors of the Forest (listening)
7	Unit 9	Protectors of the Forest (reading)
8	Unit 10	Youths Demand their Future (listening)
9	Unit 10	Youths Demand their Future (reading)
10	Unit 11	Christmas SOS (listening)
11	Unit 11	Christmas SOS (reading)
12	Unit 12	Not for Sale (listening)
13	Unit 12	Not for Sale (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・秋学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスクリプトと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (22)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内容と言語を同時に学ぶ CLIL(Content and Language Integrated Learning) のアプローチにもとづくテキストブックを用いて、自分の考えを発言できる力を伸ばします。学生は新しい語彙や表現、情報、ディスカッションのルールやマナー、論理的思考のあり方を「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能を用いてコミュニケーション能力を高めます。Reading においては、topic sentences, supporting sentences, concluding sentences に留意して論旨を素早く英語のままに把握することに力を入れます。また新聞、雑誌、ウェブサイトなどを使って、トピックス関連の事柄や時事問題に関する記事を読むことで、語彙力を高めます。

【到達目標】

高校までの英文解釈とは異なり、ある程度のスピードで「英文を英語のままに理解すること」を第 1 目標とします。「英文を行きつ戻りつ読んで和訳する」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことができません。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明することが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは穴埋め問題など、音声をもつて聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないとい入れられない問題が多いため、予習は必須で、ランダムに授業中に学生に問かけます。予習していないために答えられないことが続くと、成績に響く平常点にマイナスとなります。基本的に 1 ユニットを 2 回の授業でカバーします。読解力を伸ばすためにテキストブックに関連した記事や時事問題についての英文記事を授業で取り上げることがあります。さらに、語学ビデオを適宜見て、学習のモチベーションを上げることがあります。そのため、授業は必ずしもシラバスのスケジュール通りにならないことがあります。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図ります。また、毎回、授業後に Hoppi を用いて「リアクション・ペーパー」を期限内に提出することが求められます。これはその日の授業の理解度と、教師との意思疎通を図るために行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の内容・進め方、出欠の取り扱い、テキストブックについて、その他の注意点について
2	Unit 1-1 Artificial Intelligence	Introduction Reading Data
3	Unit 1-2 Artificial Intelligence	Discussion Supplemental Readings
4	Unit 2-1 Business	Introduction Reading Data
5	Unit 2-2 Business	Discussion Supplemental Readings
6	Unit 3-1 Food Waste	Introduction Reading Data

7	Unit 3-2 Food Waste	Discussion Supplemental Readings
8	Unit 4-1 Environmental Problems	Introduction Reading Data
9	Unit 4-2 Environmental Problems	Discussion Supplemental Readings
10	Unit 5-1 The Japanese Mentality	Introduction Reading Data
11	Unit 5-2 The Japanese Mentality	Discussion Supplemental Readings
12	Unit 7-1 Immigration	Introduction Reading Data
13	Unit 7-2 Immigration	Discussion Supplemental Readings
14	期末試験（授業内）	From textbook, Supplemental Readings

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. テキストブック及び補助教材のプリントの予習を必須とします。課題については提出期日をきちんと守ること。遅れた場合は原則受け取りませんので、平常点の大幅な減点となります。

【テキスト（教科書）】

CLIL: Discuss The Changing World (英語で考える現代社会)、Miyako NAKAYAMA, et alia、成美堂、2020 年、2200 円、ISBN:978-4-7919-7208-1

【参考書】

・総合英語 *Evergreen*、いっずな書店、2018 年、1520 円

・Japan Today <https://japantoday.com/>

・BBC Learning English

<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/>

・VOA Learning English

<https://learningenglish.voanews.com/>

・Oxford Online English

<https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish>

・日米会話学院 Hotwords

<https://www.nichibeikai.ac.jp/hotwords/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%（授業態度、毎回の予習状況、授業への参加度）、課題の提出 40%、学期末試験 40%として総合評価で 100%中 60%以上を合格とし単位を与えます。必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上の欠席者は試験を受けた場合でも原則単位を与えません。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、出席した場合でも欠席扱いとなります。

また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞や雑誌記事などを適宜授業に取り入れていて、毎年好評です。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信が付き、そして違う意見を知る機会になったという感想を学生から得ています。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書または電子辞書

【その他の重要事項】

授業中に辞書代わりに携帯電話を使用することを禁止します。

【Outline and objectives】

The objectives of this class is to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, i.e., topic sentences, supporting sentences, concluding sentences; and to enhance students' ability to understand English sentences without translating into Japanese. In addition, students will be able to learn various aspects of the society not only from the textbook, but also from the articles of newspapers, magazines, and the Web sites, which may widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、コミュニケーション能力を高め、英語の文章の構造を理解し論旨を素早く理解できるよう、高校までの「英語 → 日本語、日本語 → 英語」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことができません。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明することが出来るようになります。

【到達目標】

高校までの英文解釈とは異なり、ある程度のスピードで「英文を英語のまま理解すること」を第 1 目標とします。「英文を行きつ戻りつ読んで和訳する」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことができません。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明することが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは穴埋め問題など、音声をも前もって聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと入れられない問題が多いため、予習は必須で、ランダムに授業中に学生に問いかけます。予習していないために答えられないことが続くと、成績に響く平常点にマイナスとなります。基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーします。読解力を伸ばすためにテキストブックに関連した記事や時事問題についての英文記事を授業で取り上げることがあります。さらに、語学ビデオを適宜見て、学習のモチベーションを上げることがあります。そのため、授業は必ずしもシラバスのスケジュール通りにならないことがあります。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図ります。また、毎回、授業後に Hoppi を用いて「リアクション・ペーパー」を期限内に提出することが求められます。これはその日の授業の理解度と、教師との意思疎通を図るために行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8-1 Education	Introduction Reading Data
2	Unit 8-2 Education	Discussion Supplemental Readings
3	Unit 9-1 Culture	Introduction Reading Data
4	Unit 9-2 Culture	Discussion Supplemental Readings
5	Unit 10-1 Science	Introduction Reading Data
6	Unit 10-2 Science	Discussion Supplemental Readings
7	Unit 12-1 DNA	Introduction Reading Data
8	Unit 12-2 DNA	Discussion Supplemental Readings

9	Unit 13-1 Relationship with Other Countries	Introduction Reading Data
10	Unit 13-2 Relationship with Other Countries	Discussion Supplemental Readings
11	Unit 14-1 Religions	Introduction Reading Data
12	Unit 14-2 Religions	Discussion Supplemental Readings
13	Unit 15 Right to Be Forgotten	Introduction Reading Data
14	期末試験（授業内）	From textbook, Supplemental Readings

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. テキストブック及び補助教材のプリントの予習を必須とします。課題については提出期日をきちんと守ること。遅れた場合は原則受け取りませんので、平常点の大幅な減点となります。

【テキスト（教科書）】

CLIL: *Discuss The Changing World* (英語で考える現代社会)、Miyako NAKAYAMA, et alia、成美堂、2020 年、2200 円、ISBN:978-4-7919-7208-1

【参考書】

- ・総合英語 *Evergreen*、いっずな書店、2018 年、1520 円
- ・Japan Today <https://japantoday.com/>
- ・BBC Learning English <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/>
- ・VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>
- ・Oxford Online English <https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish>
- ・日米会話学院 Hotwords

【成績評価の方法と基準】

平常点 20% (授業態度、毎回の予習状況、授業への参加度)、課題の提出 40%、学期末試験 40%として総合評価で 100%中 60%以上を合格とし単位を与えます。必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上の欠席者は試験を受けた場合でも原則単位を与えません。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、出席した場合でも欠席扱いとなります。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞や雑誌記事などを適宜授業に取り入れていて、毎年好評です。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信が付き、そして違う意見を知る機会になったという感想を学生から得ています。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書または電子辞書

【その他の重要事項】

授業中に辞書代わりに携帯電話を使用することを禁止します。

【Outline and objectives】

The objectives of this class is to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, i.e., topic sentences, supporting sentences, concluding sentences; and to enhance students' ability to understand English sentences without translating into Japanese. In addition, students will be able to learn various aspects of the society not only from the textbook, but also from the articles of newspapers, magazines, and the Web sites, which may widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史を読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国以前から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力を養う。また、アメリカの歴史に関する知識を深める。アメリカの歴史を理解することは、アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する上で役に立つ。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確認する。予め担当者を決めず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。添削、解説、コメントによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての詳しい説明
2	Chapter 1	First Arrival
3	Chapter 2	England Takes the Lead
4	Chapter 3	Virginia Struggles for Survival
5	Chapter 4	The Pilgrims and New England
6	Chapter 5	America Grows to Thirteen Colonies
7	Chapter 6	Trouble with England
8	Chapter 7	Revolution!
9	Chapter 8	Shaping a New Government
10	Chapter 9	The Birth of Political Parties
11	Chapter 10	The War of 1812
12	Chapter 11	Marching Westward
13	期末試験・まとめと解説	春学期に学習した範囲から出題
14	レポート・まとめと解説	原則として春学期に学習した範囲から自由に題材を選んで提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and reviews should be around an hour a week for a one-credit course.

予習:和訳が出来るようにする。練習問題を解く。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。

復習:間違えたところや分からなかったところを中心に直す。

発表準備:キーワードについて調べ、纏める。

レポート準備:興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えて纏める。

【テキスト（教科書）】

Short History of America, 染矢正一他、朝日出版社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。欠席が 4 回以上になった学生は単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline and objectives】

We will learn American history. We will develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史を読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国以前から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力を養う。また、アメリカの歴史に関する知識を深める。アメリカの歴史を理解することは、アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する上で役に立つ。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。添削、解説、コメントによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の復習及び秋学期の授業について
2	Chapter 12	The Civil War
3	Chapter 13	Reconstruction
4	Chapter 14	America Grows Up
5	Chapter 15	Imperialism
6	Chapter 16	World War 1
7	Chapter 17	The Great Depression
8	Chapter 18	World War 2-The Western Front
9	Chapter 19	World War 2-The Pacific Front
10	Chapter 20	The Cold War
11	Chapter 21	The Counterculture of the 1960s
12	Chapter 22	Crisis in the White House
13	期末試験・まとめと解説	秋学期に学習した範囲から出題
14	レポート・まとめと解説	原則として秋学期に学習した範囲から自由に題材を選んで提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and reviews should be around an hour a week for a one-credit course.

予習:和訳が出来るようにする。練習問題を解く。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。

復習:間違えたところや分からなかったところを中心に直す。

発表準備:キーワードについて調べ、纏める。

レポート準備:興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えて纏める。

【テキスト（教科書）】

Short History of America, 染矢正一他、朝日出版社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。欠席が 4 回以上になった学生は単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline and objectives】

We will learn American history. We will develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Yuzuru Hanyu Kei Nishikori	日本のスポーツについて学習する。
3	Christel Takigawa Kyary Pamyu Pamyu	日本の新しい文化について学習する。
4	World Cultural Heritage Site Mount Fuji	世界文化遺産について学習する。
5	World Intangible Cultural Heritage Washoku	世界無形文化遺産について学習する。
6	Spiber	新しい産業について学習する。
7	Abenomics	経済について学習する。
8	Maglev Train	工業技術について学習する。
9	Pokémon Go	エンターテインメントについて学習する。
10	My Number	マイナンバーについて学習する。

11	Net TV	インターネットについて学習する。
12	Epsilon Rocket	人工知能について学習する。
13	Olive Oil Medicinal Plants	食品産業について学習する。 薬草について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Cool Japan 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline and objectives】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the business fields, English is the common language. Professional workers of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	No More Shakespeare? Privacy Matters	英文学 プライバシー
2	Pet Peeves Truth in advertising	ペット 広告
3	The Race to Work	通勤
4	Unsafe at Any Speed	交通
5	Up in Smoke	喫煙
6	Keeping Up Appearances	外見を飾る
7	Painful Cuts	支出削減
8	The Future of Cinema?	映画
9	Separate Ways	離婚
10	Power to the People	環境問題
11	Behind Bars	獄中からの叫び

12	O City of Broken Dreams	貧困
13	Changing Times	変遷
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】

U.K. Update いま、イギリスを読む 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the business fields, English is the common language. Professional workers of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの Unit を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

Unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 Super Language Learners: How do people learn many languages?	「語学の天才の謎」前半講読
3	Unit 1-2 Super Language Learners: How do people learn many languages?	「語学の天才の謎」後半講読
4	Unit 5-1 A Better World: Is the world getting more or less violent?	「世界の治安は悪化しているのか」前半講読

5	Unit 5-2 A Better World: Is the world getting more or less violent?	「世界の治安は悪化しているのか」後半講読
6	Unit 9-1 Science Fiction: Can it predict the future?	「SF の未来予想」前半講読
7	Unit 9-2 Science Fiction: Can it predict the future?	「SF の未来予想」後半講読
8	Unit 13-1 Genetically modified Food: Should we try to alter nature?	「遺伝子組み換え食品の倫理性」前半講読
9	Unit 13-2 Genetically modified Food: Should we try to alter nature?	「遺伝子組み換え食品の倫理性」後半講読
10	Unit 17-1 Free Trade: Good for all or good for some?	「自由貿易で得をするのは」前半講読
11	Unit 17-2 Free Trade: Good for all or good for some?	「自由貿易で得をするのは」後半講読
12	Unit 2-1 Flat Organizations: Do we need a boss?	「上司のいない組織」前半講読
13	Unit 2-2 Flat Organizations: Do we need a boss?	「上司のいない組織」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding Our New Challenges

(Dave Rear, 杉藤久志 著, 成美堂, 2018 年, 1,900 円 + 税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。授業への貢献 15 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 5 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したりスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2回の授業で1つのunitを扱う。

授業の初めにテキストから作成したりスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

unitごとに前半後半に分けて2回、復習の小テストを実施する。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 6-1 Sleep Myths: Early to bed and early to rise?	「早寝早起きの神話」前半講読
3	Unit 6-2 Sleep Myths: Early to bed and early to rise?	「早寝早起きの神話」後半講読
4	Unit 10-1 Medical Technology: Should we try to live forever?	「医療技術と長寿」前半講読
5	Unit 10-2 Medical Technology: Should we try to live forever?	「医療技術と長寿」後半講読

6	Unit 14-1 Climate Change: Can we stop global warming?	「温暖化を止めるには」前半講読
7	Unit 14-2 Climate Change: Can we stop global warming?	「温暖化を止めるには」後半講読
8	Unit 18-1 Social Inequality: Why is there a gap between rich and poor?	「格差社会の原因」前半講読
9	Unit 18-2 Social Inequality: Why is there a gap between rich and poor?	「格差社会の原因」後半講読
10	Unit3-1 Culture Shock: How do we adjust to living abroad?	「カルチャーショックを克服する」前半講読
11	Unit3-2 Culture Shock: How do we adjust to living abroad?	「カルチャーショックを克服する」後半講読
12	Unit 7-1 Happiness Ratings: Should governments prioritize happiness over growth?	「幸福度から見えるもの」前半講読
13	Unit 7-2 Happiness Ratings: Should governments prioritize happiness over growth?	「幸福度から見えるもの」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unitごとに2回小テストを実施するので、少なくとも1時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding Our New Challenges
(Dave Rear, 杉藤久志 著, 成美堂, 2018年, 1,900円+税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100満点とし、60点以上が合格となる。
授業への貢献 15% 小テスト 30% 期末テスト 50% 英作文 5%

欠席回数が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から30分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻2回で欠席1回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このよける時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期全体を通してオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。

動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用したディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、5.perfect, 4.very good, 3.good, 2.努力を要す、1. やり直しの 5 段階の評価をつけて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before careers	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末オンライン・ レポート試験・まとめ と解説	評価
第 14 回	春学期末オンライン・ レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. **Getting in to Details** のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. **Getting into Details** を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするるので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3

Nobuhiro Kumai, Steven Timson

(Seibido)

ISBN9784791960330

¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体がオンデマンド授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, anf by the field work at Sensoji Temple in Asakussa.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期全体を通じてオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュース 3 をナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペアワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期を通じてオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、5.perf3ct, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す、1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第 3 回	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 4 回	Unit 4 Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 5 回	Unit 5 Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 6 回	Unit 6 Do Happy People Live Long?	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 7 回	Unit 7 Selling Charity	Word Test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition

第 8 回	Unit 8 The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 9 回	Unit 9 A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	word test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Unit 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Word Test Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 12 The Joy of Cleaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末オンライ ン・レポート試験・ま とめと解説	評価
第 14 回	オンライン・レポート 追試験・再試験・ま とめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791971862 ¥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業のレポート課題の内 4 回以上未提出の場合には単位不認定とする。成績は、全 14 回の授業のレポート課題 40%、平常点(積極的な意見交換など)20%、授業貢献度 20%、秋学期末レポートテスト 20%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBLの観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいはPC かタブレット,WiFi 環境

【その他の重要事項】

対面授業のオフィスアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 4 and study reading and listening English in Journalism, mainly by shadowing, reading comprehensions, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生は世の中の動向に注視し、社会の様々な問題に関心を持つことが重要である。そのため、英字新聞のニュース・コラムを読むことによって、情報力、発表力及び英語力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースの情報力と英語の読解力 (Reading)・要約力・発表力 (speaking) を身につける。新聞ニュース記事の背景知識を把握し、新聞英語に見られる語彙・語法などの特徴を学習し、英字新聞を気軽に読めるようにする。また、英文をスムーズに音読し、英文を精読し、さらにどんな社会問題についても自分の意見を言えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

英字新聞にある政治・経済・社会・文化・スポーツなどの記事を取り上げ、語彙・語法をチェックした後、見出し、パラグラフごと訳し、さらに記事の内容について各自の意見をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。アンケートに回答する。
2	新聞の構成を学ぶ。	見出し・書き出し・本文を役割を説明する。
3	「見出し」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「見出し」の特徴を学び、演習する。
4	「書き出し」「本文」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「書き出し」「本文」の特徴を学び、演習する。
5	語彙・語法を学ぶ。 (1)	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
6	語彙・語法を学ぶ。 (2)	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
7	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。(1)	パラグラフを要約する。社会問題を考える。
8	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。(2)	パラグラフを要約する。社会問題を考える。
9	中間テスト	英文記事をパラグラフごとに訳す。
10	テストを振り返る。スキミング・スキヤニングを学ぶ(1)	テストを返却・解説する。スキミング・スキヤニングを実践演習する。
11	スキミング・スキヤニングを学ぶ(2)	スキミング・スキヤニングを実践演習する。
12	速読の方法を学ぶ。 (1)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
13	速読の方法を学ぶ。 (2)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
14	期末テスト	読解力・意見力をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【事前学習】 授業直前 1 週間のニュースをチェックしておく。

前週に配布されたプリントを予習する。音読練習し、滑らかに発音できるようにする。また、英文を正確に訳せるように準備する。記事の問題点などについて自分の意見を発表できるように関連情報を調べ、自分の意見をまとめておく。

【事後学習】 授業内容（ポイント、間違いなど）について復習する。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

『現代用語の基礎知識』『2021 年の論点 100』ほか

【成績評価の方法と基準】

平常点（学習状況・参加度）：30%

テスト（中間・期末）：70%

なお、欠席は 3 回まで、遅刻・欠席は減点対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツなど様々な分野のニュース記事を取り上げ、社会の動向に関心を持てるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read various topics in newspapers, including politics, economy, sports and social problems. Students will take a mid-term test and a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞のニュース・コラムを取り上げ、速読（スキミング・スキミング）により記事全体を速く把握し、読解力（reading）や要約する力を身につける。さらに、社会問題について自分の意見を発表するため、ニュースの背景知識を学習し、批判力・批評力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースを読む語彙力と意見を発表できる力を身につける。英文を理解するための基本スキルである語彙力を定着するため、語彙テストを実施する。また、発表力を養うために自分でニュース記事を選び、レジユメを準備して口頭発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞からニュース・コラムを選び、語彙・語法・内容をチェックし、意見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。アンケートに回答する。
2	「政治」のニュース・ コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
3	「経済」のニュース・ コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
4	「社会」のニュース・ コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
5	「社会」のニュースコ ラムを読む。	記事全体を要約し、意見を発表する。
6	語彙テスト（1） 「スポーツ」のニュー スを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体を要約し、意見を発表する。
7	中間テスト	記事内容把握・意見を述べる。
8	テストを振り返る。 「映画」のニュースを 読む。	内容把握し、意見をまとめる。
9	「データ記事」を読む。 (1)	データを速読する。意見を述べ る。
10	「データ記事」を読む。 (2)	データを速読する。意見を述べ る。
11	「時事漫画」を読む。	「時事漫画」の背景を理解し、意 見を述べる。
12	「写真ニュース」を読 む。	「写真ニュース」の背景を理解し、 意見を述べる。
13	語彙テスト（2）	語彙テストを実施する。 テストを解答し、自分の語彙力を 確認する。
14	期末テスト	読解力と意見力をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【事前学習】 授業直前1週間のニュースをチェックする。語彙テストに備える。発表のために、トピック選び、訳、問題点の解説、意見考察などレジメ作成の準備をする。

【事後学習】 授業内容（ポイント、間違いなど）について復習する。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

春学期と同じ

【成績評価の方法と基準】

平常点（学習状況・参加度）：30%

語彙テスト：20%

テスト（中間・期末）：50%

なお、欠席は3回まで、遅刻・欠席は減点対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

語彙力を養う語彙テストの方法を検討する。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read about various topics in newspapers, including politics, economy, sports, and social problems. Students will take a mid-term test and final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

高 友希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

法1年：英語9組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】

- 1 英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
- 2 読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
- 3 論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
- ②予習の結果および質問を踏まえて作成した解説動画を視聴し、クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
- ③テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。なお、この授業はオンライン（zoom等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon	Story 1
第3回	Blood Testing: Charged with Massive Fraud	Story 2
第4回	Millionaire Millennial	Story 3
第5回	Fighting Robocalls	Story 4
第6回	The Blue World	Story 5
第7回	Moment of Impact	Story 6
第8回	Father's New Hand	Story 7
第9回	Trump's Weapon Ban?	Story 8
第10回	American Men's Bobsledding Team	Story 9
第11回	Made in America: Recycling Discarded Water Bottles	Story 10
第12回	The Children of Syria	Story 11
第13回	Honoring Martin Luther King Jr	Story 12

第 14 回 Inside the Drug Story 13
Cartel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

S. Yamane and K. Yamane, Broadcast: ABC World News Tonight, Kinseido (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、クイズ（20 %）、平常点（授業への積極的参加（20 %）

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、(必要に応じて) zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

高 友希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】

- 1 英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
- 2 読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
- 3 論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
- ②予習の結果および質問を踏まえて作成した解説動画を視聴し、クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
- ③テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。なお、この授業はオンライン（zoom 等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Repairing Big Ben	Unit 1
第 2 回	Learning to Walk again	Unit 2
第 3 回	A Secret Garden in London	Unit 3
第 4 回	Unpaid Internships	Unit 4
第 5 回	The Wedding Gallery	Unit 5
第 6 回	A Modern Steam Train	Unit 6
第 7 回	A T-shirt Exhibition	Unit 7
第 8 回	Generation Z	Unit 8
第 9 回	Veganuary	Unit 9
第 10 回	Wind Power in Britain	Unit 10
第 11 回	Preventing Transgender Bullying	Unit 11
第 12 回	A Plastic Tenner	Unit 12
第 13 回	How to Delay Ageing	Unit 13
第 14 回	School Deal with Fake News	Unit 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

T. Knowles, C. Lowe, M. Tamura. M. Tanaka and M. Nakamura, British News Update, Kinseido (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）、クイズ（20％）、平常点（授業への積極的参加）（20％）

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 1a	Learning from the past
3	Workbook: 1a	Things they never taught you
4	Unit 1b	What makes us who we are?
5	Workbook: 1b	What's in a name?
6	Unit 1c	Immortal words
7	Workbook: 1c	The English we speak
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 1f	Arctic wisdom
10	Unit 2a	Living off the sea
11	Unit 2b	Smokejumpers
12	Unit 2c	Daring, defiant, and free
13	Workbook: 2c	Guerrilla geographer
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6A Combo Split
 著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,880 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-6>

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
 遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

「内容が難しいので、終わった後の達成感を感じることができる」「緊張感があつて集中することができた」「英語以外の知見も深まったため、非常に為になる」等、学習意欲の高い学生からのコメントが多数集まりました。程よい「緊張感」の中で、一人でも多くの学生が「達成感」を感じることのできる授業が行えるよう工夫を重ねたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

法 1 年: 英語 10 組

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English II までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 2f	Climbing Yosemite
2	Unit 3a	Towns with character
3	Unit 3b	Compact living
4	Unit 3c	The paper architect
5	Workbook: 3c	Biomimetic architecture
6	Unit 4a	Shrink it, bend it, fold it
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 4b	The mother of invention
9	Unit 4c	The shoe giver
10	Workbook: 4c	The new philanthropists
11	Unit 5a	How we travel
12	Unit 5c	The adventures of Herge
13	Unit 6c	The enigma of beauty
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6A Combo Split
 著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,880 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-6>

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
 遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

「内容が難しいので、終わった後の達成感を感じることができる」「緊張感があった集中することができた」「英語以外の知見も深まったため、非常に為になる」等、学習意欲の高い学生からのコメントが多数集まりました。程よい「緊張感」の中で、一人でも多くの学生が「達成感」を感じることのできる授業が行えるよう工夫を重ねたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べることもできるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることのできるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。春学期は対面授業ではなく、学習支援システムを用いて授業を行います。学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 課題（1）調査報告	授業の進め方の解説
2	課題（2） 言語と文化（1）	異文化理解
3	課題（3） 言語と文化（2）	文化の衝突
4	課題（4） 言語と文化（3）	英語公用語化
5	課題（5） 社会と環境（1）	環境破壊
6	課題（6） 社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験 まとめ	課題（1）～（6）の テキスト及び解説から 出題
8	課題（7） 経済と社会（1）	南北問題
9	課題（8） 経済と社会（2）	国際紛争
10	課題（9） 経済と社会（3）	児童労働
11	課題（10） 技術と人間（1）	臓器移植
12	課題（11） 技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	課題（12） 技術と人間（3）	インターネット中毒

14 学期末試験、まとめ 課題(7)～(12)の
テキストと解説から
出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストの英文を読み、必ず課題に取り組んでください。また、学習支援システムの「教材セクション」にある「解説」をしっかりと読み、前の週の復習をしてください。中間・期末試験では、課題と課題の解説から試験を出題します。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 60 %

試験（中間・期末） 40 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビッグデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	経済と社会（2）	経済格差
8	経済と社会（3）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（4）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 60 %

試験 40 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンラインの週があります。オンラインの週はオンデマンド（資料型）を基本とし、質疑応答の機会を適宜 Google Meet（リアルタイム）にて設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、初回（第 1 回：イントロダクション）の授業は、対面で行う予定です。

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体的内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120

第10回	Unit 4～Unit 7の まとめ	Unit 4～Unit 7の中のいずれか について、ライティングと授業内 発表
第11回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第12回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第13回	Unit 10	Lazy Ants
第14回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンラインの週があります。オンラインの週はオンデマンド（資料型）を基本とし、質疑応答の機会を適宜 Google Meet（リアルタイム）にて設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、初回（第 1 回：イントロダクション）の授業は、対面で行う予定です。

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11～Unit 13 のまとめ	Unit 11～Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus

第10回	Unit 14 ~ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ~ Unit 17 の中のい れかについて、ライティングと授 業内発表
第11回	Unit 18	The Ninth Planet
第12回	Unit 19	Dyson Sphere
第13回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第14回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ合衆国について書かれた文章を集めたテキストを使用して、読解力と語彙力を強化する。合衆国の社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2 回の授業で教科書の 1 章分を学習する。まず教科書本文のグラフ構成を確認したあと、練習問題の答え合わせをする。次に学生を指名して 1 段落ずつ音読と日本語訳を確認する。授業後半では、こちらで用意した時事問題に関するリスニングなどを行ってテーマを多角的に理解するよう努める。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明
2	Chapter 1 Dividing America 前半	本文読解 リスニング
3	Chapter 1 Dividing America 後半	本文読解 文法演習問題解説
4	Chapter 2 New England 前半	本文読解 リスニング
5	Chapter 2 New England 後半	本文読解 文法演習問題解説
6	Chapter 3 The New York Metropolis 前半	本文読解 リスニング
7	Chapter 3 The New York Metropolis 後半	本文読解 文法演習問題解説
8	Chapter 4 Appalachia 前半	本文読解 リスニング
9	Chapter 4 Appalachia 後半	本文読解 文法演習問題解説
10	Chapter 5 The South 前半	本文読解 リスニング
11	Chapter 5 The South 後半	本文読解 文法演習問題解説
12	Chapter 6 American Music Roots in the South 前半	本文読解 リスニング
13	Chapter 6 American Music Roots in the South 後半	本文読解 文法演習問題解説
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】

James M. Vardaman 著『Where Are You From?: American Regions 地図で見るアメリカ』鶴見書店（1900 円+税）

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 20 %

授業内で課される課題や小テスト 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】

教室での対面授業ではスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on the USA to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the USA.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、アメリカ合衆国について書かれた文章を集めたテキストを使用して、読解力と語彙力を強化する。合衆国の社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2 回の授業で教科書の 1 章分を学習する。まず教科書本文のグラフ構成を確認したあと、練習問題の答え合わせをする。次に学生を指名して 1 段落ずつ音読と日本語訳を確認する。授業後半では、こちらで用意した時事問題に関するリスニングなどを行ってテーマを多角的に理解するよう努める。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明
2	Chapter 7 The Industrial North 前半	本文読解 リスニング
3	Chapter 7 The Industrial North 後半	本文読解 文法演習問題解説
4	Chapter 8 The Heartland: Prairies and Plains 前半	本文読解 リスニング
5	Chapter 8 The Heartland: Prairies and Plains 後半	本文読解 文法演習問題解説
6	Chapter 9 Out West 前半	本文読解 リスニング
7	Chapter 9 Out West 後半	本文読解 文法演習問題解説
8	Chapter 10 Alaska 前半	本文読解 リスニング
9	Chapter 10 Alaska 後半	本文読解 文法演習問題解説
10	Chapter 11 The Pacific Northwest 前半	本文読解 リスニング
11	Chapter 11 The Pacific Northwest 後半	本文読解 文法演習問題解説
12	Chapter 12 The Southwest 前半	本文読解 リスニング

13	Chapter 12 The Southwest 後半	本文読解 文法演習問題解説
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】

James M. Vardaman 著『Where Are You From?: American Regions 地図で見るアメリカ』鶴見書店（1900 円+税）

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 20 %
授業内で課される課題や小テスト 20 %
期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】

授業中はスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on the USA to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the USA.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とする。特に英語の 4 技能の一つであるリーディング（文章理解、基礎的な文法の理解、語彙の増強）のスキルを強化し、読解力向上のための基盤づくりができるようにする。また、英語のリスニング、スピーキングの力も強化する。英語でコミュニケーションをすることの楽しさを実感し、日常的な場面で自分が伝えたいことを表現し、又相手が伝えたいことを理解できるようにする。コミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。さらに学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析能力を養う。

【到達目標】

テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、フレーズを理解し使えることができる。英語語彙力を身につける。（英単語レベル 4 以上をマスターする。）短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。英語ジャーナルを書いて発表する。テキスト、プリント等の記述内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出すことができる。英語で自分の意見を述べることができる。コミュニケーション能力を培い、自信を持って話せることができる。リスニング、リーディング、ライティングの課題に取り組む。ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、演習問題の正答をフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合があります。教科書の内容については、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。授業で配布するプリント、授業支援システム Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。英語によるプレゼンテーションを行い、受講生は自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Introduction to Environmental Issues	Environmental issues covers problems related to nature and society. You understand how our habits impact our environment.

Unit 2	Climate Change	Climate change means changes in the climate of our planet or a region. You understand how humans affect climate change.	40 % 平常点: 英語によるプレゼンテーション等、Zoom 授業で実施する活動の評価 30 % 小テスト: Forms により提出された評価結果 30 % レポート課題評価: エッセー (英文)、Hoppii の課題評価 尚、各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
Unit 3	Energy	Energy is the power required to provide light, heat and to move machines. You understand how humans are dependable on energy.	【学生の意見等からの気づき】 特にありませんが、今後も優れた授業ができるよう研究を重ねていきます。
Unit 4	Waste	Waste is anything that cannot be used or is not wanted anymore. You understand ways to minimize waste.	【学生が準備すべき機器他】 学習支援システム Hoppii の課題、Zoom 等を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。又、大学 (教室) において授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。
Unit 5	1-4 Review	Review of 1-4, based on TOEIC(R) Test Style.	【Outline and objectives】 The goal of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real world situations, and emphasizing natural speech and vocabulary development. Students will read passages of multiple paragraphs to discuss and talk on general topics and grasp the writer's intention and feeling. This course also helps students foster critical thinking skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information.
Unit 6	Population Growth	Population growth is a raising issue. You understand high-level vocabulary related to population growth.	
Unit 7	population	Environmental population is the introduction of harmful, unsafe or not suitable elements in the environment. You understand different type of pollution.	
Unit 8	Water	Less than 3% of all water in our planet is drinkable. You understand how water scarcity impacts our future.	
Unit 9	Deforestation	Deforestation happens when all trees in an area are cut down or burnt. You understand the importance of trees to the environment.	
Unit 10	6-9 Review	Review of 6-9, based on TOEIC(R) Test Style.	
Unit 11	Hydroelectricity	Hydroelectric power plants generate electricity from the flow of water. You understand some limitations of hydroelectric energy.	
Unit 12	Solar Panels	Solar panels absorb high photo and transform it into electricity. You understand how solar panels work.	
Unit 13	Wind Turbines	Wind turbines make electricity from the wind. You understand different types of wind turbines.	
Unit 14	Nuclear Energy	Nuclear energy is a technology that has low CO2 emission. You understand and evaluate the risks posed by nuclear energy.	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、準備学習に 90 分、そして復習に 60 分程度の時間を必要とします。又、授業で配布するプリント学習、学習支援システム Hoppii に出された課題等におよそ 90 分程度の時間を必要とします。

【テキスト (教科書)】

Textbook: Our World Today, 著者名: Adam Murray, Anderson Passos,
Publisher: 南雲堂, ISBN: 978-4-523-17789-3 C0082 ¥ 2,000-

【参考書】

電子辞書又は本型の辞書等 (機種、出版社等是不問) 授業には毎回持参すること。

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

深澤 清

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進む社会を考慮し、英語を使って人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明したりする、いわゆる「プレゼンテーション能力」(Presentation Skills in English)を養う。本授業は1.「知識を提供するプレゼンテーション」(Informative Presentations)、2.「説得的プレゼンテーション」(Persuasive Presentations)、3.「プレゼンテーション演習」(Presentation Practice)の三部構成からなり、プレゼンテーションの基礎的技術の向上を目指す。又、ビジネスの場面でも応用可能なコミュニケーション能力を養う。さらに英語リスニングのスキルを身につける。

【到達目標】

日常生活や現代社会の様々なトピックに関して自分なりの意見をまとめ、それを口頭や文章で効果的に表現する力を養うことができる。英語ジャーナルを書いて発表する。英語で書かれたトピックの内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出すことができる。プレゼンテーションのための基礎的な知識を身につける。英語によるプレゼンテーションを行う。英語リスニングのスキルアップを図る。英語語彙力をアップさせる。(英単語レベル 4 程度をマスターする。)テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語の短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、演習問題の正答をフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合があります。教科書の内容については、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。事前に配布するプリント、授業支援システム Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。英語によるプレゼンテーションを行い、受講生は自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。さらに、TOEIC(R)、TOEFL、英検等の資格試験対策も早期に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1. Chapter 1: Section 1	The History of Our University	Informative Presentations: Time「時間」
2. Section 2	My Favorite Country	Informative Presentations: Place「場所」
3. Section 3	The Four Basic Food Groups	Informative Presentations: Topical pattern「話題関連型」

4. Section 4	Japan's Education System	Informative Presentations: Classification pattern「分類型」
5. Section 5	What is Science?	Informative Presentations: Concepts「概念型」
6. Section 6	Social Networking Services	Informative Presentations: Advantages & Disadvantages「長所・短所型」
7. Section 7	The Four Basic Food Groups	Talk about Topical pattern
8. Chapter 2: Section 1	Should Students Wear School Uniforms?	Persuasive Presentations: Questions of Value「価値型」
9. Section 2	The Case for Organ Donation	Persuasive Presentations: Questions of Fact「事実型」
10. Section 3	Global Warming: What is to be done?	Persuasive Presentations: Problem -Solution Method「問題解決法」
11. Section 4	Exercise and Physical Fitness	Persuasive Presentations: Problem-Cause-Solution Method「問題・原因・解決法」
12. Section 5	Overpopulation: Causes and Consequences	Persuasive Presentations: Problem-Causes-Effect Method「問題・原因・結果法」
13. Section 6	Hybrid or Electric?	Persuasive Presentation: Comparative-Advantage Method「比較優位法」
14. Chapter 3: Presentation Practice	Presentation Practice	Brainstorming & Organizing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、準備学習に 90 分、そして復習に 60 分程度の時間を必要とします。又、授業で配布するプリント学習、毎回実施する英単語の小テストの準備、学習支援システム Hoppii に出された課題等におよそ 90 分程度の時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

Writing for Presentations in English 南雲堂
ISBN 978-4-523-17731-9 C0082 ¥ 1,870-

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】**Grading Criteria**

40 % 平常点: 英語によるプレゼンテーション等、Zoom 授業で実施する活動の評価

30 % 小テスト: Forms、Hoppii に出された課題の評価

30 % レポート: エッセー (英文)、レポート課題等の内容評価

尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、今後もより実りある授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii の課題、Zoom 等を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。又、大学 (教室) において授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks. They are also expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このよける時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期全体を通してオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。

動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用したディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの 5 段階の評価をつけて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before careers	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末オンライン・	評価
	レポート試験・まとめと解説	
第 14 回	春学期末オンライン・	評価
	レポート追試験・再試験・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. **Getting in to Details** のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. **Getting into Details** を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするるので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3

Nobuhiro Kumai, Steven Timson

(Seibido)

ISBN9784791960330

¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体がオンデマンド授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by the field work at Sensoji Temple in Asakussa.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期全体を通じてオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュース 3 をナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペアワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期全体を通じてオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す、1. やり直しの 5 段階の評価をつけて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第 3 回	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 4 回	Unit 4 Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 5 回	Unit 5 Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 6 回	Unit 6 Do Happy People Live Long?	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 7 回	Unit 7 Selling Charity	Word Test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition

第 8 回	Unit 8 The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 9 回	Unit 9 A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	word test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Uni 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 12 The Joy of Cleaining: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末オンライ ン・レポート試験・ま とめと解説	評価
第 14 回	オンライン・レポート 追試験・再試験・ま とめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791971862 ¥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業のレポート課題の内 4 回以上未提出の場合には単位不認定とする。成績は、全 14 回の授業のレポート課題 40%、平常点(積極的な意見交換など)20%、授業貢献度 20%、秋学期末レポートテスト 20%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、毎回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBLの観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいはPCかタブレット,WiFi環境

【その他の重要事項】

対面授業のオフィスアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 4 and study reading and listening English in Journalism, mainly by shadowing, reading comprehensions, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内容と言語とを同時に学ぶ CLIL(Content and Language Integrated Learning) のアプローチにもとづくテキストブックを用いて、自分の考えを発言できる力を伸ばします。学生は新しい語彙や表現、情報、ディスカッションのルールやマナー、論理的思考のあり方を「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能を用いてコミュニケーション能力を高めます。Reading においては、topic sentences, supporting sentences, concluding sentences に留意して論旨を素早く英語のまま把握することに力を入れます。また新聞、雑誌、ウェブサイトなどを使って、トピックス関連の事柄や時事問題に関する記事を読むことで、語彙力を高めます。

【到達目標】

高校までの英文解釈とは異なり、ある程度のスピードで「英文を英語のまま理解すること」を第 1 目標とします。「英文を行きつ戻りつ読んで和訳する」というこれまでのクセから抜け出せない、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことができません。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明することが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは穴埋め問題など、音声をも前もって聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと入れられない問題が多いため、予習は必須で、ランダムに授業中に学生に問いかけます。予習していないために答えられないことが続くと、成績に響く平常点にマイナスとなります。基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーします。読解力を伸ばすためにテキストブックに関連した記事や時事問題についての英文記事を授業で取り上げることがあります。さらに、語学ビデオを適宜見て、学習のモチベーションを上げることがあります。そのため、授業は必ずしもシラバスのスケジュール通りにならないことがあります。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図ります。また、毎回、授業後に Hoppi を用いて「リアクション・ペーパー」を期日内に提出することが求められます。これはその日の授業の理解度と、教師との意思疎通を図るために行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の内容・進め方、出欠の取り扱い、テキストブックについて、その他の注意点について
2	Unit 1-1 Artificial Intelligence	Introduction Reading Data
3	Unit 1-2 Artificial Intelligence	Discussion Supplemental Readings
4	Unit 2-1 Business	Introduction Reading Data
5	Unit 2-2 Business	Discussion Supplemental Readings
6	Unit 3-1 Food Waste	Introduction Reading Data

7	Unit 3-2 Food Waste	Discussion Supplemental Readings
8	Unit 4-1 Environmental Problems	Introduction Reading Data
9	Unit 4-2 Environmental Problems	Discussion Supplemental Readings
10	Unit 5-1 The Japanese Mentality	Introduction Reading Data
11	Unit 5-2 The Japanese Mentality	Discussion Supplemental Readings
12	Unit 7-1 Immigration	Introduction Reading Data
13	Unit 7-2 Immigration	Discussion Supplemental Readings
14	期末試験（授業内）	From textbook, Supplemental Readings

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. テキストブック及び補助教材のプリントの予習を必須とします。課題については提出期日をきちんと守ること。遅れた場合は原則受け取りませんので、平常点の大幅な減点となります。

【テキスト（教科書）】

CLIL: *Discuss The Changing World* (英語で考える現代社会)、Miyako NAKAYAMA, et alia、成美堂、2020 年、2200 円、ISBN:978-4-7919-7208-1

【参考書】

・総合英語 *Evergreen*、いづな書店、2018 年、1520 円
・Japan Today <https://japantoday.com/>
・BBC Learning English
<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/>
・VOA Learning English
<https://learningenglish.voanews.com/>
・Oxford Online English
<https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish>
・日米会話学院 Hotwords
<https://www.nichibei.ac.jp/hotwords/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%（授業態度、毎回の予習状況、授業への参加度）、課題の提出 40%、学期末試験 40%として総合評価で 100%中 60%以上を合格とし単位を与えます。必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上の欠席者は試験を受けた場合でも原則単位を与えません。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、出席した場合でも欠席扱いとなります。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞や雑誌記事などを適宜授業に取り入れていて、毎年好評です。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信が付き、そして違う意見を知る機会になったという感想を学生から得ています。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書または電子辞書

【その他の重要事項】

授業中に辞書代わりに携帯電話を使用することを禁止します。

【Outline and objectives】

The objectives of this class is to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, i.e., topic sentences, supporting sentences, concluding sentences; and to enhance students' ability to understand English sentences without translating into Japanese. In addition, students will be able to learn various aspects of the society not only from the textbook, but also from the articles of newspapers, magazines, and the Web sites, which may widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、コミュニケーション能力を高め、英語の文章の構造を理解し論旨を素早く理解できるよう、高校までの「英語 → 日本語、日本語 → 英語」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことができません。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明することが出来るようになります。

【到達目標】

高校までの英文解釈とは異なり、ある程度のスピードで「英文を英語のままに理解すること」を第 1 目標とします。「英文を行きつ戻りつ読んで和訳する」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことができません。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明することが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは穴埋め問題など、音声をも前もって聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと入れられない問題が多いため、予習は必須で、ランダムに授業中に学生に問いかけます。予習していないために答えられないことが続くと、成績に響く平常点にマイナスとなります。基本的に 1 ユニットを 2 回の授業でカバーします。読解力を伸ばすためにテキストブックに関連した記事や時事問題についての英文記事を授業で取り上げることがあります。さらに、語学ビデオを適宜見て、学習のモチベーションを上げることがあります。そのため、授業は必ずしもシラバスのスケジュール通りにならないことがあります。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図ります。また、毎回、授業後に Hoppi を用いて「リアクション・ペーパー」を期日内に提出することが求められます。これはその日の授業の理解度と、教師との意思疎通を図るために行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8-1 Education	Introduction Reading Data
2	Unit 8-2 Education	Discussion Supplemental Readings
3	Unit 9-1 Culture	Introduction Reading Data
4	Unit 9-2 Culture	Discussion Supplemental Readings
5	Unit 10-1 Science	Introduction Reading Data
6	Unit 10-2 Science	Discussion Supplemental Readings
7	Unit 12-1 DNA	Introduction Reading Data
8	Unit 12-2 DNA	Discussion Supplemental Readings

9	Unit 13-1 Relationship with Other Countries	Introduction Reading Data
10	Unit 13-2 Relationship with Other Countries	Discussion Supplemental Readings
11	Unit 14-1 Religions	Introduction Reading Data
12	Unit 14-2 Religions	Discussion Supplemental Readings
13	Unit 15 Right to Be Forgotten	Introduction Reading Data
14	期末試験（授業内）	From textbook, Supplemental Readings

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. テキストブック及び補助教材のプリントの予習を必須とします。課題については提出期日をきちんと守ること。遅れた場合は原則受け取りませんので、平常点の大幅な減点となります。

【テキスト（教科書）】

CLIL: *Discuss The Changing World* (英語で考える現代社会)、Miyako NAKAYAMA, et alia, 成美堂、2020 年、2200 円、ISBN:978-4-7919-7208-1

【参考書】

・総合英語 *Evergreen*、いづな書店、2018 年、1520 円
・Japan Today <https://japantoday.com/>
・BBC Learning English
<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/>
・VOA Learning English
<https://learningenglish.voanews.com/>
・Oxford Online English
<https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish>
・日米会話学院 Hotwords
<https://www.nichibeii.ac.jp/hotwords/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 20% (授業態度、毎回の予習状況、授業への参加度)、課題の提出 40%、学期末試験 40%として総合評価で 100%中 60%以上を合格とし単位を与えます。必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上の欠席者は試験を受けた場合でも原則単位を与えません。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、出席した場合でも欠席扱いとなります。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞や雑誌記事などを適宜授業に取り入れていて、毎年好評です。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信が付き、そして違う意見を知る機会になったという感想を学生から得ています。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書または電子辞書

【その他の重要事項】

授業中に辞書代わりに携帯電話を使用することを禁止します。

【Outline and objectives】

The objectives of this class is to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, i.e., topic sentences, supporting sentences, concluding sentences; and to enhance students' ability to understand English sentences without translating into Japanese. In addition, students will be able to learn various aspects of the society not only from the textbook, but also from the articles of newspapers, magazines, and the Web sites, which may widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 1.1	Personality Types
3	Unit 1.2	Method Acting
4	Unit 1.3	Charisma: A kind of magic?
5	Unit 1.5	Are women better drivers than men?
6	Unit 2.1	Tourism and travelling
7	Unit 2.2	Explorers
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 2.3	Wilfred Thesiger
10	Unit 3.1	Jobs
11	Unit 3.2	Working from home
12	Unit 3.3	Work Placements
13	Unit 4.1	Learning languages
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組み。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：New Language Leader (Intermediate)
著者：David Cotton, David Falvey, Simon Kent
出版社：Pearson Japan
出版年：2013
価格：2,750 円

【参考書】

<https://www.pearson.com/english/portal.html>
<http://www.bbc.co.uk/radio>
<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

中間試験：40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
期末試験：40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
平常点：20%（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）
学期中の欠席は3回までとし、それ以上授業を欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、2回の遅刻で1回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

「とても緊張感のある授業を受けることができた」「適度な緊張感が、学生の勉強へのモチベーションに繋がっている」「授業内容は非常に内容が濃く、意識的・意欲的に英語を学ぶ事が出来た」等、学習意欲の高い学生からのコメントが多数集まりました。程よい「緊張感」の中で、一人でも多くの学生が「達成感」を感じることで授業が行えるよう工夫を重ねたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1I(春学期) までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 4.2	The future of English
2	Unit 4.3	Avoiding online mistakes
3	Unit 5.1	What makes a good advert?
4	Unit 5.2	Manipulating images
5	Unit 5.3	Advertising and children
6	Unit 6.1	Education issues
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 6.2	Montessori
9	Unit 6.3	Should university be free?
10	Unit 7.3	Alessi's innovations
11	Unit 8.2	Business dilemmas
12	Unit 9.1	From engines to engineers
13	Unit 10.1	Tipping points
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：New Language Leader (Intermediate)
 著者：David Cotton, David Falvey, Simon Kent
 出版社：Pearson Japan
 出版年：2013
 価格：2,750 円

【参考書】

<https://www.pearson.com/english/portal.html>
<http://www.bbc.co.uk/radio>
<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 学期中の欠席は3回までとし、それ以上授業を欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、2回の遅刻で1回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

「とても緊張感のある授業を受けることができた」「適度な緊張感が、学生の勉強へのモチベーションに繋がっている」「授業内容は非常に内容が濃く、意識的・意欲的に英語を学ぶ事が出来た」等、学習意欲の高い学生からのコメントが多数集まりました。程よい「緊張感」の中で、一人でも多くの学生が「達成感」を感じることで授業が行えるよう工夫を重ねたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます。
- ・論理的な思考力を養います。
- ・語彙力を増やします。
- ・様々な英語 (Englishes) の発音に慣れます。
- ・英語のリズムを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	A Matter of Time (listening)
3	Unit 1	A Matter of Time (reading)
4	Unit 2	Japan's Royal Dilemma (listening)
5	Unit 2	Japan's Royal Dilemma (reading)
6	Unit 3	Doing it Right (listening)
7	Unit 3	Doing it Right (reading)
8	Unit 4	From the Comfort of Home (listening)
9	Unit 4	From the Comfort of Home (reading)
10	Unit 5	No Age Barrier (listening)
11	Unit 5	No Age Barrier (reading)
12	Unit 6	Royal Split (listening)
13	Unit 6	Royal Split (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・春学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study of the Definition と Examples を、後半はニュースのスクリプトと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (22)』
 (朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます。
- ・論理的な思考力を養います。
- ・語彙力を増やします。
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます。
- ・英語のリズムを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7	Grand Lady in Distress (listening)
3	Unit 7	Grand Lady in Distress (reading)
4	Unit 8	Edible Ecofriendliness (listening)
5	Unit 8	Edible Ecofriendliness (reading)
6	Unit 9	Protectors of the Forest (listening)
7	Unit 9	Protectors of the Forest (reading)
8	Unit 10	Youths Demand their Future (listening)
9	Unit 10	Youths Demand their Future (reading)
10	Unit 11	Christmas SOS (listening)
11	Unit 11	Christmas SOS (reading)
12	Unit 12	Not for Sale (listening)
13	Unit 12	Not for Sale (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・秋学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスクリプトと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (22)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Yuzuru Hanyu Kei Nishikori	日本のスポーツについて学習する。
3	Christel Takigawa Kyary Pamyu Pamyu	日本の新しい文化について学習する。
4	World Cultural Heritage Site Mount Fuji	世界文化遺産について学習する。
5	World Intangible Cultural Heritage Washoku	世界無形文化遺産について学習する。
6	Spiber	新しい産業について学習する。
7	Abenomics	経済について学習する。
8	Maglev Train	工業技術について学習する。
9	Pokémon Go	エンターテイメントについて学習する。
10	My Number	マイナンバーについて学習する。

11	Net TV	インターネットについて学習する。
12	Epsilon Rocket	人工知能について学習する。
13	Olive Oil Medicinal Plants	食品産業について学習する。 薬草について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈のない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Cool Japan 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で40%、期末試験の結果で60%で評価する。原則として半期で4回欠席した場合単位は認めない。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline and objectives】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the business fields, English is the common language. Professional workers of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年：英語19組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	No More Shakespeare?	英文学 プライバシー
	Privacy Matters	
2	Pet Peeves	ペット
	Truth in Advertising	広告
3	The Race to Work	通勤
4	Unsafe at Any Speed	交通
5	Up in Smoke	喫煙
6	Keeping Up Appearances	外見を飾る
7	Painful Cuts	支出削減
8	The Future of Cinema?	映画
9	Separate Ways	離婚
10	Power to the People	環境問題
11	Behind Bars	獄中からの叫び

12	O City of Broken Dreams	貧困
13	Changing Times	変遷
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
 毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】

U.K. Update いま、イギリスを読む 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the business fields, English is the common language. Professional workers of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

reading と writing を主眼に英語スキルの向上を目指します。テキストとして、新聞・雑誌の記事をプリントして配布します。基本文法と語法を確認しながら文を読み、英語でまとめる練習をします。さまざまなジャンルと長さの英文を正確に読み取ることを目標に、流れに沿って論旨をつかみ、必要な情報を取り出しましょう。

【到達目標】

さまざまなジャンル・長さの英文を正確に読み取ることを目標に、パラグラフの流れに沿って論旨をつかみ、必要な情報を取り出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

新聞・雑誌記事のプリントを配布し、内容に関するクイズや要約作成をする。短い記事はその場で読んで回答してもらう。長めの記事はあらかじめ配布するので、よく読み込んでほしい。秋期のプレゼンテーションテーマをしばらくこむために、興味ある記事を短くまとめて評価票に記入すること。（週に一篇で OK）授業のはじめに前回の提出課題からいくつか紹介し、全体に対するフィードバックとする。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システム絵伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	What's the Problem? 論旨のピックアップと要約文の作り方のフォームを配布して解説する。
2	Natural Environment	配布記事を読み、内容を確認するクイズに答える。
3	Natural Environment 2	記事を読み、要約を作成する。
4	Global Warming	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
5	Global Warming 2	記事を読み、要約を作成する。
6	Society	記事を読み、内容に関する駆使図に答える。
7	Society 2	記事を読み、要約を作成する。
8	Great Speeches	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
9	Great Speeches 2	記事を読み、要約を作成する。
10	Around Wars	記事を読み、内容に関する駆使図に答える。
11	Around Wars 2	記事を読み、要約を作成する。
12	Health	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
13	grammar review	文法と語法の復習プリントを配布する。
14	Review for Spring Term	春期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習時間は、併せて1時間を標準とします。】配布したプリントをよく読みこんで、論旨、問題点をピックアップしておくこと。授業で説明する文法事項等を復習すること。さらに、授業で使用する記事以外に、毎週各自が500語以上の英文記事を読み、評価表に記事の概要を英語でまとめること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

とくに指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%、授業時の提出物 50%、授業時の発表 20%として評価する。4回以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

評価票の提出について：レポートする記事の選択は「各自の興味あるもの」としてありますが、秋期のプレゼンテーションの下準備で、各自の興味の方向性をしぼることが目的です。単発でおわる記事ではなく、シリーズとして追いかけられそうなもの、続報が手に入りやすいようなトピックを選んでください。とくに、人物の紹介記事などを扱う場合は、ほかにどんな切り口がありそうか、広く展開できそうなものかを考えて、レポートに取り上げるかどうかを判断するとよいでしょう。（スポーツ関連で試合の結果を報じるものなどは不適といえます。）

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ずハードコピーの辞書または電子辞書を携帯してください。通信機器は使用しないでください。語義の確認だけではなく、用例を見て言葉の使い方をチェックするために、辞書を活用していただきたいと思います。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携帯してください。

遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意してください。

【Outline and objectives】

This class aims at enhancing your English-reading and writing skill. You'll be given various types of articles from newspapers or magazines. Try to pick out theme and support parts of the article and understand what the writer means.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1単位

法1年：英語20組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続きさまざまなテーマの英文に触れ、語彙を広げ、読解の基礎力を付けていきましょう。

英文を読み、論旨を英文でまとめたり、コメントを付ける練習をします。

【到達目標】

*自分で設定したテーマに沿って資料を検索する。

***theme/idea/opinion + support** という形でのまとめを作る。

*記事の原文そのままを抜き出してまとめるのではなく、全体の流れを把握したうえで、要点をじぶんの言葉で説明する。

*記事の内容に関してじぶんの意見をまとめてみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

英文記事を読み、内容把握のためのチェックプリントを使って論旨をつかむ。

配布プリントのほかに、プレゼンテーションとして各自用意した記事をレポートしてもらおう。プレゼンテーションの担当日は、使用する記事を提出してもらったうえで、授業時に指定する。プレゼンテーションは、4人程度のグループセッションで記事の内容を確認し、疑問点などを話し合ったのち、クラスセッションに移り、担当者の説明を聞く。授業のはじめに前回の提出課題からいくつか紹介し、全体に対するフィードバックとする。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Natural Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。 各自プレゼンテーション用の記事を提出。
2	Natural Science 2	配布した記事を読み、要約を作成する。 プレゼンテーションのグループ分けとスケジュールを決定。
3	Medical Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。レポート担当者は使用する記事のコピーをグループ内で配布する。
4	Presentation 1	グループ内で質問を出し合った後、担当者にクラス全員の前で発表してもらおう。
5	Presentation 2	グループ内で質問を出し合った後、担当者にクラス全員の前で発表してもらおう。
6	Presentation 3	グループ内で質問を出し合った後、担当者にクラス全員の前で発表してもらおう。

7	Presentation 4	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
8	Presentation 5	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
9	Presentation 6	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
10	Presentation 7	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
11	Presentation 8	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
12	Presentation 9	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
13	Presentation 10	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
14	Review for Autumn Term	秋期のまとめ 各自のプレゼンテーションのまとめレポートを提出する。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行すること。

遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意が必要。

【Outline and objectives】

You will make a presentation on an article of your choice. Try to explain clearly what is the problem and what the writer thinks of the problem through the group session and class session.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備学習・復習時間は、併せて1時間を標準とします。】レポートのテーマが同じ場合、レポートする記事もほかの発表者と重複することがあります。一つの分野でも、複数の記事に目を通し、いろいろな切り口からレポートできるように考えておきましょう。記事の長さなどは授業時に指定し、発表用のフォーム、提出用のフォームを配布しますので、しっかり準備して発表に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

プレゼンテーションの記事に関しては、発表者から提示された記事を全員が読み、指定された提出フォームを使用して予習課題（重要語句やキーフレーズのピックアップ）を提出していただきます。また、まとめとして口頭発表とは別に各自の担当記事の **Summary** を提出していただきます。

【参考書】

とくに指定しない

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物（小テスト・プレゼンテーションのグループセッションの際に記入して提出する予習用シートなど）60%、プレゼンテーションとファイナルレポート 40%として評価する。4回以上欠席した場合、評価の対象としない。

プレゼンテーションの予習用シートは、プレゼンターがあらかじめ配布する記事を読み、重要単語やキーフレーズをまとめ、質問点を記入するもので、このシートを準備することでグループ内の質疑応答を活性化する目的で配布している。シートの提出は各プレゼンテーションの当日のみ受け付けるので、しっかり記事を読み、グループ内で活発な議論が行われるようにしてほしい。プレゼンテーションの評価は、クラスセッションでの口頭発表と、ファイナルレポートを併せて行う。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションでは 1000 語以上の記事を選ぶよう指示してありましたが、記事が短すぎ、追加の記事を探す必要のあるかたが数人ありました。また、**disputable point**（論争となる問題点）を挙げてまとめてもらいましたが、状況説明に終始する記事を選んだため、指定されたまとめができなかった例もありました。

充実したプレゼンテーションを行うために、どんな記事が適しているかよく考えて選択してください。

春期に新聞記事のまとめを作っていたたくのも、自分の興味がどこにあるかをあらかじめ考えていただきたいからです。

長期的に追いかけるテーマを早い段階で明確にしておく必要があるでしょう。

また、ファイナルレポートにはプレゼンテーションに使用した記事のほかに、サポートとなる追加記事のまとめも提出してもらいます。メインとなる記事の輪郭がより鮮明になるようなサポート記事を考えてもらえればと期待しています。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの Unit を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

Unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 Super Language Learners: How do people learn many languages?	「語学の天才の謎」前半講読
3	Unit 1-2 Super Language Learners: How do people learn many languages?	「語学の天才の謎」後半講読
4	Unit 5-1 A Better World: Is the world getting more or less violent?	「世界の治安は悪化しているのか」前半講読

5	Unit 5-2 A Better World: Is the world getting more or less violent?	「世界の治安は悪化しているのか」後半講読
6	Unit 9-1 Science Fiction: Can it predict the future?	「SF の未来予想」前半講読
7	Unit 9-2 Science Fiction: Can it predict the future?	「SF の未来予想」後半講読
8	Unit 13-1 Genetically modified Food: Should we try to alter nature?	「遺伝子組み換え食品の倫理性」前半講読
9	Unit 13-2 Genetically modified Food: Should we try to alter nature?	「遺伝子組み換え食品の倫理性」後半講読
10	Unit 17-1 Free Trade: Good for all or good for some?	「自由貿易で得をするのは」前半講読
11	Unit 17-2 Free Trade: Good for all or good for some?	「自由貿易で得をするのは」後半講読
12	Unit 2-1 Flat Organizations: Do we need a boss?	「上司のいない組織」前半講読
13	Unit 2-2 Flat Organizations: Do we need a boss?	「上司のいない組織」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding Our New Challenges (Dave Rear, 杉藤久志 著, 成美堂, 2018 年, 1,900 円 + 税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。授業への貢献 15 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 5 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れなければならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したりスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの unit を扱う。

授業の初めにテキストから作成したりスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 6-1 Sleep Myths: Early to bed and early to rise?	「早寝早起きの神話」前半講読
3	Unit 6-2 Sleep Myths: Early to bed and early to rise?	「早寝早起きの神話」後半講読
4	Unit 10-1 Medical Technology: Should we try to live forever?	「医療技術と長寿」前半講読
5	Unit 10-2 Medical Technology: Should we try to live forever?	「医療技術と長寿」後半講読

6	Unit 14-1 Climate Change: Can we stop global warming?	「温暖化を止めるには」前半講読
7	Unit 14-2 Climate Change: Can we stop global warming?	「温暖化を止めるには」後半講読
8	Unit 18-1 Social Inequality: Why is there a gap between rich and poor?	「格差社会の原因」前半講読
9	Unit 18-2 Social Inequality: Why is there a gap between rich and poor?	「格差社会の原因」後半講読
10	Unit3-1 Culture Shock: How do we adjust to living abroad?	「カルチャーショックを克服する」前半講読
11	Unit3-2 Culture Shock: How do we adjust to living abroad?	「カルチャーショックを克服する」後半講読
12	Unit 7-1 Happiness Ratings: Should governments prioritize happiness over growth?	「幸福度から見えるもの」前半講読
13	Unit 7-2 Happiness Ratings: Should governments prioritize happiness over growth?	「幸福度から見えるもの」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unitごとに2回小テストを実施するので、少なくとも1時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding Our New Challenges
(Dave Rear, 杉藤久志 著, 成美堂, 2018年, 1,900円+税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100満点とし、60点以上が合格となる。
授業への貢献 15% 小テスト 30% 期末テスト 50% 英作文 5%

欠席回数が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から30分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻2回で欠席1回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このよけな時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期全体を通してオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。

動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用したディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、1. perfect, 2. very good, 3. good, 4. 努力を要す、5. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before careers	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末オンライン・ レポート試験・まとめ と解説	評価
第 14 回	春学期末オンライン・ レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストーリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. **Getting in to Details** のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. **Getting into Details** を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするるので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体がオンデマンド授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by the field work at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期全体を通じてオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。動画のストーリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュース 3 をナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

動画のストーリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペアワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期全体を通じてオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す、1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第 3 回	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 4 回	Unit 4 Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 5 回	Unit 5 Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 6 回	Unit 6 Do Happy People Live Long?	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 7 回	Unit 7 Selling Charity	Word Test Unit Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition

第 8 回	Unit 8 The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 9 回	Unit 9 A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	word test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Uni 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 12 The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末オンライ ン・レポート試験・ま とめと解説	評価
第 14 回	オンライン・レポート 追試験・再試験・ま とめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791971862 ¥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業のレポート課題の内 4 回以上未提出の場合には単位不認定とする。成績は、全 14 回の授業のレポート課題 40%、平常点(積極的な意見交換など)20%、授業貢献度 20%、秋学期末レポートテスト 20%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBLの観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいはPC かタブレット,WiFi 環境

【その他の重要事項】

対面授業のオフィスアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 4 and study reading and listening English in Journalism, mainly by shadowing, reading comprehensions, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生は世の中の動向に注視し、社会の様々な問題に関心を持つことが重要である。そのため、英字新聞のニュース・コラムを読むことによって、情報力、発表力及び英語力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースの情報力と英語の読解力 (Reading)・要約力・発表力 (speaking) を身につける。

新聞ニュース記事の背景知識を把握し、新聞英語に見られる語彙・語法などの特徴を学習し、英字新聞を気軽に読めるようにする。また、英文をスムーズに音読し、英文を精読し、さらにどんな社会問題についても自分の意見を言えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞にある政治・経済・社会・文化・スポーツなどの記事を取り上げ、語彙・語法をチェックした後、見出し、パラグラフごと訳し、さらに記事の内容について各自の意見をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。アンケートに回答する。
2	新聞の構成を学ぶ。	新聞記事の「見出し・書き出し・本文」を役割を説明する。
3	「見出し」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「見出し」の特徴を学び、演習する。
4	「書き出し」「本文」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「書き出し」「本文」の特徴を学び、演習する。
5	語彙・語法を学ぶ。 (1)	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
6	語彙・語法を学ぶ。 (2)	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
7	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。(1)	パラグラフを要約する。社会問題を考える。
8	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。(2)	パラグラフを要約する。社会問題を考える。
9	中間テスト	英文記事をパラグラフごとに訳す。
10	テストを振り返る。スキミング・スキヤニングを学ぶ(1)	テストを返却・解説する。スキミング・スキヤニングを実践演習する。
11	スキミング・スキヤニングを学ぶ(2)	スキミング・スキヤニングを実践演習する。
12	速読の方法を学ぶ。 (1)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
13	速読の方法を学ぶ。 (2)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
14	期末テスト	読解力・意見力をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【事前学習】 授業直前1週間のニュースをチェックしておく。

前週に配布されたプリントを予習する。音読練習し、滑らかに発音できるようにする。また、英文を正確に訳せるように準備する。記事の問題点などについて自分の意見を発表できるように関連情報を調べ、自分の意見をまとめておく。

【事後学習】 授業内容（ポイント、間違いなど）について復習する。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

『現代用語の基礎知識』『2021年の論点100』ほか

【成績評価の方法と基準】

平常点（学習状況・参加度）：30%

テスト（中間・期末）：70%

なお、欠席は3回まで、遅刻・欠席は減点対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツなど様々な分野のニュース記事を取り上げ、社会の動向に関心を持てるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read various topics in newspapers, including politics, economy, sports and social problems. Students will take a mid-term test and a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1単位

法1年：英語 23組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞のニュース・コラムを取り上げ、速読（スキミング・スキミング）により記事全体を速く把握し、読解力（reading）や要約する力を身につける。さらに、社会問題について自分の意見を発表するため、ニュースの背景知識を学習し、批判力・批評力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースを読む語彙力と意見を発表できる力を身につける。英文を理解するための基本スキルである語彙力を定着するため、語彙テストを実施する。また、発表力を養うために自分でニュース記事を選び、レジユメを準備して口頭発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞からニュース・コラムを選び、語彙・語法・内容をチェックし、意見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	「政治」のニュース・ コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
3	「経済」のニュース・ コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
4	「社会」のニュース・ コラムを読む。	記事全体の内容把握と意見の発表をする。
5	「社会」のニュースコ ラムを読む。	記事全体を要約し、意見を発表する。
6	語彙テスト（1） 「スポーツ」のニュー スを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体を要約し、意見を発表する。
7	中間テスト	記事の内容把握・意見をテストする。
8	テストを振り返る。 「映画」のニュースを 読む。	テストを返却・解説する。内容把握し、意見をまとめる。
9	「データ記事」を読む。 (1)	データを速読する。意見を述べる。
10	「データ記事」を読む。 (2)	データを速読する。意見を述べる。
11	「時事漫画」を読む。	「時事漫画」の背景を理解し、意見を述べる。
12	「写真ニュース」を読 む。	「写真ニュース」の背景を理解し、意見を述べる。
13	語彙テスト（2）	語彙テストを実施する。 テストを解答し、自分の語彙力を確認する。
14	期末テスト	読解力と意見力をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。
【事前学習】 授業直前1週間のニュースをチェックする。語彙テストに備える。発表のために、トピック選び、訳、問題点の解説、意見考察などレジメ作成の準備をする。
【事後学習】 授業内容（ポイント、間違いなど）について復習する。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

春学期と同じ

【成績評価の方法と基準】

平常点(学習状況・参加度)：30%

語彙テスト：20%

期末テスト：50%

なお、欠席は3回まで、遅刻・欠席は減点対象になる。

【学生の意見等からの気づき】

語彙力を養う語彙テストの方法を検討する。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read about various topics in newspapers, including politics, economy, sports, and social problems. Students will take a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

高 友希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】

- 1 英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
- 2 読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
- 3 論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
- ②予習の結果および質問を踏まえて作成した解説動画を視聴し、クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
- ③テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。なお、この授業はオンライン（zoom等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon	Story 1
第3回	Blood Testing: Charged with Massive Fraud	Story 2
第4回	Millionaire Millennial	Story 3
第5回	Fighting Robocalls	Story 4
第6回	The Blue World	Story 5
第7回	Moment of Impact	Story 6
第8回	Father's New Hand	Story 7
第9回	Trump's Weapon Ban?	Story 8
第10回	American Men's Bobsledding Team	Story 9
第11回	Made in America: Recycling Discarded Water Bottles	Story 10
第12回	The Children of Syria	Story 11
第13回	Honoring Martin Luther King Jr	Story 12

第14回 Inside the Drug Story 13
Cartel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

S. Yamane and K. Yamane, Broadcast: ABC World News Tonight, Kinseido (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、クイズ（20%）、平常点（授業への積極的参加（20%）

なお、欠席が4回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

高 友希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法1年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】

- 1 英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
- 2 読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
- 3 論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
- ②予習の結果および質問を踏まえて作成した解説動画を視聴し、クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
- ③テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。なお、この授業はオンライン（zoom等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Repairing Big Ben	Unit 1
第2回	Learning to Walk again	Unit 2
第3回	A Secret Garden in London	Unit 3
第4回	Unpaid Internships	Unit 4
第5回	The Wedding Gallery	Unit 5
第6回	A Modern Steam Train	Unit 6
第7回	A T-shirt Exhibition	Unit 7
第8回	Generation Z	Unit 8
第9回	Veganuary	Unit 9
第10回	Wind Power in Britain	Unit 10
第11回	Preventing Transgender Bullying	Unit 11
第12回	A Plastic Tenner	Unit 12
第13回	How to Delay Ageing	Unit 13
第14回	School Deal with Fake News	Unit 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

T. Knowles, C. Lowe, M. Tamura. M. Tanaka and M. Nakamura, British News Update, Kinseido (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）、クイズ（20％）、平常点（授業への積極的参加）（20％）

なお、欠席が4回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、(必要に応じて) zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ合衆国について書かれた文章を集めたテキストを使用して、読解力と語彙力を強化する。合衆国の社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

2回の授業で教科書の1章分を学習する。まず教科書本文のグラフ構成を確認したあと、練習問題の答え合わせをする。次に学生を指名して1段落ずつ音読と日本語訳を確認する。授業後半では、こちらで用意した時事問題に関するリスニングなどを行ってテーマを多角的に理解するよう努める。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明
2	Chapter 1 Dividing America 前半	本文読解 リスニング
3	Chapter 1 Dividing America 後半	本文読解 文法演習問題解説
4	Chapter 2 New England 前半	本文読解 リスニング
5	Chapter 2 New England 後半	本文読解 文法演習問題解説
6	Chapter 3 The New York Metropolis 前半	本文読解 リスニング
7	Chapter 3 The New York Metropolis 後半	本文読解 文法演習問題解説
8	Chapter 4 Appalachia 前半	本文読解 リスニング
9	Chapter 4 Appalachia 後半	本文読解 文法演習問題解説
10	Chapter 5 The South 前半	本文読解 リスニング
11	Chapter 5 The South 後半	本文読解 文法演習問題解説
12	Chapter 6 American Music Roots in the South 前半	本文読解 リスニング
13	Chapter 6 American Music Roots in the South 後半	本文読解 文法演習問題解説
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】

James M. Vardaman 著『Where Are You From?: American Regions 地図で見るアメリカ』鶴見書店（1900 円+税）

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 20 %

授業内で課される課題や小テスト 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】

教室での対面授業ではスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on the USA to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the USA.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、アメリカ合衆国について書かれた文章を集めたテキストを使用して、読解力と語彙力を強化する。合衆国の社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2 回の授業で教科書の 1 章分を学習する。まず教科書本文のグラフ構成を確認したあと、練習問題の答え合わせをする。次に学生を指名して 1 段落ずつ音読と日本語訳を確認する。授業後半では、こちらで用意した時事問題に関するリスニングなどを行ってテーマを多角的に理解するよう努める。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明
2	Chapter 7 The Industrial North 前半	本文読解 リスニング
3	Chapter 7 The Industrial North 後半	本文読解 文法演習問題解説
4	Chapter 8 The Heartland: Prairies and Plains 前半	本文読解 リスニング
5	Chapter 8 The Heartland: Prairies and Plains 後半	本文読解 文法演習問題解説
6	Chapter 9 Out West 前半	本文読解 リスニング
7	Chapter 9 Out West 後半	本文読解 文法演習問題解説
8	Chapter 10 Alaska 前半	本文読解 リスニング
9	Chapter 10 Alaska 後半	本文読解 文法演習問題解説
10	Chapter 11 The Pacific Northwest 前半	本文読解 リスニング
11	Chapter 11 The Pacific Northwest 後半	本文読解 文法演習問題解説
12	Chapter 12 The Southwest 前半	本文読解 リスニング

13	Chapter 12 The Southwest 後半	本文読解 文法演習問題解説
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】

James M. Vardaman 著『Where Are You From?: American Regions 地図で見るアメリカ』鶴見書店（1900 円+税）

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 20 %

授業内で課される課題や小テスト 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】

授業中はスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on the USA to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the USA.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べることができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。春学期は対面授業ではなく、学習支援システムを用いて授業を行います。学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 課題（1）調査報告	授業の進め方の解説
2	課題（2） 言語と文化（1）	異文化理解
3	課題（3） 言語と文化（2）	文化の衝突
4	課題（4） 言語と文化（3）	英語公用語化
5	課題（5） 社会と環境（1）	環境破壊
6	課題（6） 社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験 まとめ	課題（1）～（6）の テキスト及び解説から 出題
8	課題（7） 経済と社会（1）	南北問題
9	課題（8） 経済と社会（2）	国際紛争
10	課題（9） 経済と社会（3）	児童労働
11	課題（10） 技術と人間（1）	臓器移植
12	課題（11） 技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	課題（12） 技術と人間（3）	インターネット中毒

- 14 学期末試験、まとめ 課題(7)～(12)の
テキストと解説から
出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストの英文を読み、必ず課題に取り組んでください。また、学習支援システムの「教材セクション」にある「解説」をしっかりと読み、前の週の復習をしてください。中間・期末試験では、課題と課題の解説から試験を出題します。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 60 %

試験（中間・期末） 40 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビッグデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	経済と社会（2）	経済格差
8	経済と社会（3）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（4）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 60 %

試験 40 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンラインの週があります。オンラインの週はオンデマンド（資料型）を基本とし、質疑応答の機会を適宜 Google Meet（リアルタイム）にて設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、初回（第 1 回：イントロダクション）の授業は、対面で行う予定です。

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体的内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120

第10回	Unit 4 ~ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ~ Unit 7 中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第11回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第12回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第13回	Unit 10	Lazy Ants
第14回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円(税別))

配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンラインの週があります。オンラインの週はオンデマンド（資料型）を基本とし、質疑応答の機会を適宜 Google Meet（リアルタイム）にて設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、初回（第 1 回：イントロダクション）の授業は、対面で行う予定です。

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ~ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ~ Unit 13 中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus

第10回	Unit 14 ~ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ~ Unit 17 の中のい れかについて、ライティングと授 業内発表
第11回	Unit 18	The Ninth Planet
第12回	Unit 19	Dyson Sphere
第13回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第14回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学
習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、
1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課
題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点
(40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回
分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に
多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場
を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class
is reading the sentence, explaining the sentence, answering
some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うこと
を目的とする。特に英語の 4 技能の一つであるリーディング (文章
理解、基礎的な文法の理解、語彙の増強) のスキルを強化し、読解
力向上のための基盤づくりができるようにする。また、英語のリス
ニング、スピーキングの力も強化する。英語でコミュニケーション
をすることの楽しさを実感し、日常的な場面で自分が伝えたいこと
を表現し、又相手が伝えたいことを理解できるようにする。コミュ
ニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。
さらに学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本
の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティ
カルな分析能力を養う。

【到達目標】

テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、フレーズを理解
し使えることができる。英語語彙力を身につける。(英単語レベル 4
以上をマスターする。) 短いフレーズは何度もドリル練習をして暗
記することができる。英語ジャーナルを書いて発表する。テキスト、
プリント等の記述内容を理解し、その内容を他者に伝えることがで
きる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出す
ことができる。英語で自分の意見を述べることができる。コミュニ
ケーション能力を培い、自信を持って話せることができる。リスニ
ング、リーディング、ライティングの課題に取り組み。ペアワーク、
グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させることが
できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：
DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を
Zoom で実施します。基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業
では教科書の内容について解説し、演習問題の正答をフィードバック
します。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii
に掲示する場合があります。教科書の内容については、ペアワーク、
グループワークにより意見交換をします。授業で配布するプリント、
授業支援システム Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以
外でも受講生は継続的に学習します。英語によるプレゼンテーショ
ンを行い、受講生は自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積
極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解
説、正答のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Introduction to Environmental Issues	Environmental issues covers problems related to nature and society. You understand how our habits impact our environment.

Unit 2	Climate Change	Climate change means changes in the climate of our planet or a region. You understand how humans affect climate change.	40 % 平常点: 英語によるプレゼンテーション等、Zoom 授業で実施する活動の評価 30 % 小テスト: Forms により提出された評価結果 30 % レポート課題評価: エッセー (英文)、Hoppii の課題評価 尚、各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
Unit 3	Energy	Energy is the power required to provide light, heat and to move machines. You understand how humans are dependable on energy.	【学生の意見等からの気づき】 特にありませんが、今後も優れた授業ができるよう研究を重ねていきます。
Unit 4	Waste	Waste is anything that cannot be used or is not wanted anymore. You understand ways to minimize waste.	
Unit 5	1-4 Review	Review of 1-4, based on TOEIC(R) Test Style.	【学生が準備すべき機器他】 学習支援システム Hoppii の課題、Zoom 等を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。又、大学 (教室) において授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。
Unit 6	Population Growth	Population growth is a raising issue. You understand high-level vocabulary related to population growth.	
Unit 7	population	Environmental population is the introduction of harmful, unsafe or not suitable elements in the environment. You understand different type of pollution.	【Outline and objectives】 The goal of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real world situations, and emphasizing natural speech and vocabulary development. Students will read passages of multiple paragraphs to discuss and talk on general topics and grasp the writer's intention and feeling. This course also helps students foster critical thinking skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information.
Unit 8	Water	Less than 3% of all water in our planet is drinkable. You understand how water scarcity impacts our future.	
Unit 9	Deforestation	Deforestation happens when all trees in an area are cut down or burnt. You understand the importance of trees to the environment.	
Unit 10	6-9 Review	Review of 6-9, based on TOEIC(R) Test Style.	
Unit 11	Hydroelectricity	Hydroelectric power plants generate electricity from the flow of water. You understand some limitations of hydroelectric energy.	
Unit 12	Solar Panels	Solar panels absorb high photo and transform it into electricity. You understand how solar panels work.	
Unit 13	Wind Turbines	Wind turbines make electricity from the wind. You understand different types of wind turbines.	
Unit 14	Nuclear Energy	Nuclear energy is a technology that has low CO2 emission. You understand and evaluate the risks posed by nuclear energy.	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、準備学習に 90 分、そして復習に 60 分程度の時間を必要とします。又、授業で配布するプリント学習、学習支援システム Hoppii に出された課題等におよそ 90 分程度の時間を必要とします。

【テキスト (教科書)】

Textbook: Our World Today, 著者名: Adam Murray, Anderson Passos,
Publisher: 南雲堂, ISBN: 978-4-523-17789-3 C0082 ¥ 2,000-

【参考書】

電子辞書又は本型の辞書等 (機種、出版社等不問) 授業には毎回持参すること。

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

深澤 清

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進む社会を考慮し、英語を使って人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明したりする、いわゆる「プレゼンテーション能力」(Presentation Skills in English)を養う。本授業は1.「知識を提供するプレゼンテーション」(Informative Presentations)、2.「説得的プレゼンテーション」(Persuasive Presentations)、3.「プレゼンテーション演習」(Presentation Practice)の三部構成からなり、プレゼンテーションの基礎的技術の向上を目指す。又、ビジネスの場面でも応用可能なコミュニケーション能力を養う。さらに英語リスニングのスキルを身につける。

【到達目標】

日常生活や現代社会の様々なトピックに関して自分なりの意見をまとめ、それを口頭や文章で効果的に表現する力を養うことができる。英語ジャーナルを書いて発表する。英語で書かれたトピックの内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出すことができる。プレゼンテーションのための基礎的な知識を身につける。英語によるプレゼンテーションを行う。英語リスニングのスキルアップを図る。英語語彙力をアップさせる。(英単語レベル 4 程度をマスターする。)テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語の短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、演習問題の正答をフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合があります。教科書の内容については、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。事前に配布するプリント、授業支援システム Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。英語によるプレゼンテーションを行い、受講生は自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。さらに、TOEIC(R)、TOEFL、英検等の資格試験対策も早期に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1. Chapter 1: Section 1	The History of Our University	Informative Presentations: Time「時間」
2. Section 2	My Favorite Country	Informative Presentations: Place「場所」
3. Section 3	The Four Basic Food Groups	Informative Presentations: Topical pattern「話題関連型」

4. Section 4	Japan's Education System	Informative Presentations: Classification pattern「分類型」
5. Section 5	What is Science?	Informative Presentations: Concepts「概念型」
6. Section 6	Social Networking Services	Informative Presentations: Advantages & Disadvantages「長所・短所型」
7. Section 7	The Four Basic Food Groups	Talk about Topical pattern
8. Chapter 2: Section 1	Should Students Wear School Uniforms?	Persuasive Presentations: Questions of Value「価値型」
9. Section 2	The Case for Organ Donation	Persuasive Presentations: Questions of Fact「事実型」
10. Section 3	Global Warming: What is to be done?	Persuasive Presentations: Problem -Solution Method「問題解決法」
11. Section 4	Exercise and Physical Fitness	Persuasive Presentations: Problem-Cause-Solution Method「問題・原因・解決法」
12. Section 5	Overpopulation: Causes and Consequences	Persuasive Presentations: Problem-Causes-Effect Method「問題・原因・結果法」
13. Section 6	Hybrid or Electric?	Persuasive Presentation: Comparative-Advantage Method「比較優位法」
14. Chapter 3: Presentation Practice	Presentation Practice	Brainstorming & Organizing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、準備学習に 90 分、そして復習に 60 分程度の時間を必要とします。又、授業で配布するプリント学習、毎回実施する英単語の小テストの準備、学習支援システム Hoppii に出された課題等におよそ 90 分程度の時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

Writing for Presentations in English 南雲堂
ISBN 978-4-523-17731-9 C0082 ¥ 1,870-

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

40 % 平常点: 英語によるプレゼンテーション等、Zoom 授業で実施する活動の評価

30 % 小テスト: Forms、Hoppii に出された課題の評価

30 % レポート: エッセイ (英文)、レポート課題等の内容評価

尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、今後もより実りある授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii の課題、Zoom 等を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。又、大学 (教室) において授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks. They are also expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このよける時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部：法律学科：DP3・DP4、法学部：政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期全体を通してオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。

動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用したディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before careers	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末オンライン・ レポート試験・まとめ と解説	評価
第 14 回	春学期末オンライン・ レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. **Getting in to Details** のヒアリング・ディクションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. **Getting into Details** を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体がオンデマンド授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、毎回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by the field work at Sensoji Temple in Asakussa.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期全体を通じてオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュース 3 をナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペアワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期全体を通じてオンデマンド授業を実施する。学習支援システムを使用する。動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コン・プリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す, 5. やり直しの評価をつけて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第 3 回	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 4 回	Unit 4 Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	Questionary for the fieldwork Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 5 回	Unit 5 Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Questionary for the fieldwork Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 6 回	Unit 6 Do Happy People Live Long?	Questionary for the fieldwork Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 7 回	Unit 7 Selling Charity	Questionary for the fieldwork Word Test Unit Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition

第 8 回	Unit 8 The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 9 回	Unit 9 A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Questionary for the fieldwork Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	word test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Uni 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 12 The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末オンライ ン・レポート試験・ま とめと解説	評価
第 14 回	オンライン・レポート 追試験・再試験・ま とめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791971862 ¥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業のレポート課題の内 4 回以上未提出の場合には単位不認定とする。成績は、全 14 回の授業のレポート課題 40%、平常点(積極的な意見交換など)20%、授業貢献度 20%、秋学期末レポートテスト 20%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBLの観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいはPC かタブレット,WiFi 環境

【その他の重要事項】

対面授業のオフィースアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 4 and study reading and listening English in Journalism, mainly by shadowing, reading comprehensions, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史を読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国以前から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力を養う。また、アメリカの歴史に関する知識を深める。アメリカの歴史を理解することは、アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する上で役に立つ。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確認する。予め担当者を決めず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。添削、解説、コメントによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての詳しい説明
2	Chapter 1	First Arrival
3	Chapter 2	England Takes the Lead
4	Chapter 3	Virginia Struggles for Survival
5	Chapter 4	The Pilgrims and New England
6	Chapter 5	America Grows to Thirteen Colonies
7	Chapter 6	Trouble with England
8	Chapter 7	Revolution!
9	Chapter 8	Shaping a New Government
10	Chapter 9	The Birth of Political Parties
11	Chapter 10	The War of 1812
12	Chapter 11	Marching Westward
13	期末試験・まとめと解説	春学期に学習した範囲から出題
14	レポート・まとめと解説	原則として春学期に学習した範囲から自由に題材を選んで提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and reviews should be around an hour a week for a one-credit course.

予習:和訳が出来るようにする。練習問題を解く。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。

復習:間違えたところや分からなかったところを中心に見直す。

発表準備:キーワードについて調べ、纏める。

レポート準備:興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えて纏める。

【テキスト（教科書）】

Short History of America, 染矢正一他、朝日出版社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

3回の遅刻を1回の欠席とみなす。欠席が4回以上になった学生は単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline and objectives】

We will learn American history. We will develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法1年：英語 30組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史を読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国以前から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力を養う。また、アメリカの歴史に関する知識を深める。アメリカの歴史を理解することは、アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する上で役に立つ。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確認する。予め担当者を決めず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。添削、解説、コメントによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の復習及び秋学期の授業について
2	Chapter 12	The Civil War
3	Chapter 13	Reconstruction
4	Chapter 14	America Grows Up
5	Chapter 15	Imperialism
6	Chapter 16	World War 1
7	Chapter 17	The Great Depression
8	Chapter 18	World War 2-The Western Front
9	Chapter 19	World War 2-The Pacific Front
10	Chapter 20	The Cold War
11	Chapter 21	The Counterculture of the 1960s
12	Chapter 22	Crisis in the White House
13	期末試験・まとめと解説	秋学期に学習した範囲から出題
14	レポート・まとめと解説	原則として秋学期に学習した範囲から自由に題材を選んで提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and reviews should be around an hour a week for a one-credit course.

予習:和訳が出来るようにする。練習問題を解く。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。

復習:間違えたところや分からなかったところを中心に見直す。

発表準備:キーワードについて調べ、纏める。

レポート準備:興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えて纏める。

【テキスト（教科書）】

Short History of America, 染矢正一他、朝日出版社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

3回の遅刻を1回の欠席とみなす。欠席が4回以上になった学生は単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline and objectives】

We will learn American history. We will develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

清水 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文1年：英語1組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースウェブサイト **Insider** のコンテンツから選んだビデオの内容を学ぶことにより、語学学習の発展をめざす。内容は、政治、社会問題、健康、科学、文化、生活、環境問題の幅広いジャンルを含む。「今」を伝えるメディアの英語学習は、英語力の向上に加えて、世界に目を向けるきっかけを与えてくれる。

【到達目標】

World Insiders のテキスト学習によって、現代社会に関わる単語と言い回しを学び、英語圏文化と国際社会の抱える問題を理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルの向上をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援シ 3 システムでお知らせします

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたい。まず重要な語句に注意しながらビデオを見て、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図る。

テキスト内音声と映像はすべて金星堂の HP アクセスによって利用可能。

フィードバック方法は、授業中に講評を公表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Unit 1 Don't Squeeze on Me!	DVD+Reading
3	Unit 1 Don't Squeeze on Me	Exercises
4	Unit 2 Hard -Working Dad	DVD+Reading
5	Unit 2 Hard -Working Dads	Exercises
6	Unit 3 Life with Spice!	DVD+Reading
7	Unit 3 Life with Spice!	Exercises
8	Unit 4 The Importance of Insects	DVD+Reading
9	Unit 4 The Importance of Insects	Exercises
10	Unit 5 Suits for Discovery	DVD+Reading

11	Unit 5 Suits for Discovery	Exercises
12	映像批判分析	映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテスト とその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題;各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『INSIDER で観て学 総合英語と世界の深部』World Insiders-Authentic Videos from INSIDER 吉田国子著 金星堂 ISBN 978-4-7647-4121-8C1082 ￥2,300+税

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

【成績評価の方法と基準】

2/3以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度(50%)、そして筆記テスト(50%)の総合判断による。60点以上が合格点である。

各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。以上は対面授業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただくと、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。

教科書の音声と映像は、金星堂のHPにアクセスして使用できる。

【Outline and objectives】

The aim is to develop language learning by the text and the videos selected from the news website "Insider". The content covers a wide range of topics, including politics, social issues, health, science, culture, lifestyle, and environmental issues. Learning English from the contemporary media will not only improve your English, but also give you a chance to look widely and deeply at the world.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

清水 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文1年：英語1組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュースウェブサイトを Insider のコンテンツから選んだビデオの内容を学ぶことにより、語学学習の発展をめざす。内容は、政治、社会問題、健康、科学、文化、生活、環境問題の幅広いジャンルを含む。「今」を伝えるメディアの英語学習は、英語力の向上に加えて、世界に目を向けるきっかけを与えてくれる。

【到達目標】

World Insiders のテキスト学習によって、現代社会に関わる単語と言い回しを学び、英語圏文化と国際社会の抱える問題を理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルの向上をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援シ 3 ステムでお知らせします

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたい。まず重要な語句に注意しながらビデオを見て、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図る。

テキスト内音声と映像はすべて金星堂の HP アクセスによって利用可能。

フィードバック方法は、授業中に講評を公表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Unit 6 Changing Bodies	DVD+Reading
3	Unit 6 Changing Bodies	Exercises
4	Unit 7 A Cold Thought	DVD+Reading
5	Unit 7 A Cold Thought	Exercises
6	Unit 8 No Space for Wisdom	DVD+Reading
7	Unit 8 No Space for Wisdom	Exercises
8	Unit 9 Sounds from Plastic	DVD+Reading
9	Unit 9 Sounds from Plastic	Exercises
10	Unit 10 Forward vs.Backward	DVD+Reading
11	Unit 10 Forward vs.Backward	Exercises
12	映像批判分析	映像対象については未定

- 13 映像批判分析 映像対象については未定
質疑応答 今学期学習したことの質疑応答＋
まとめテストの説明
- 14 授業内まとめのテスト 内容は未定ならびに秘密事項
とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『INSIDER で観て学総合英語と世界の深部』World Insiders-Authentic Videos from INSIDER 吉田国子著 金星堂 ISBN 978-4-7647-4121-8C1082 ￥2,300+税

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

【成績評価の方法と基準】

2/3以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度(50%)、そして筆記テスト(50%)の総合判断による。60点以上が合格点である。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面授業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。

教科書の音声と映像は、金星堂のHPにアクセスして使用できる。

【Outline and objectives】

The aim is to develop language learning by the text and the videos selected from the news website "Insider". The content covers a wide range of topics, including politics, social issues, health, science, culture, lifestyle, and environmental issues. Learning English from the contemporary media will not only improve your English, but also give you a chance to look widely and deeply at the world.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1単位

文1年：英語2組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題とした。

【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。

受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

授業実施形態の説明

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。課題提出、フィードバックはGoogle Classroomを通して実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requires urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 3" 金星堂

【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題、提出物：50%、授業への取組み：20%、期末課題：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生がLL教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom, Zoom を使用する

大学でZoom授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要

【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文1年：英語2組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心(ニュースパリュウ)を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。

メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

尚、課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期の進め方等	休暇中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 3" 金星堂

【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題・提出物：50%、授業への取組み：20%、期末課題：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生がLL教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

竹内 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で書かれた膨大な情報が手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりとおさえながら、実際の英語ニュース記事を聴き取り、また読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった発音の訓練なども行っていきます。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書をもちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。あらかじめ全訳をノートに書いてくると、学習支援システム上の予習テストと復習テストに回答することが必須の課題です。授業内では、アトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中には speaking の練習、critical thinking の実践も行います。学期中に数回、英文ライティングの提出も課題となります。課題へのフィードバックは個別に行います。

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を zoom で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	unit 1-I: Can Babies Choose Between Good and Bad?	reading and listening
3	unit 1-II: Can Babies Choose Between Good and Bad?	reading and writing
4	unit 2-I: Half-Empty or Half-Full?	reading and listening
5	unit 2-II: Half-Empty or Half-Full?	reading and writing
6	unit 3-I: How to Pass a Test	reading and listening

7	unit 3-II: How to Pass a Test	reading and writing
8	unit 4-I: Soccer Brain Study	reading and listening
9	unit 4-II: Soccer Brain Study	reading and writing
10	unit 5-I: Google Glass for Firefighters	reading and listening
11	unit 5-II: Google Glass for Firefighters	reading and writing
12	unit 6-I: Women on Submarine	reading and listening
13	Unit 6-II: Women on Submarine	reading and writing
14	Review	Units 1-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です（教科書に訳を書き込むのは不可）。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をこなさなかったものとみなします。また、学習支援システム上で行う予習テスト、復習テストに期限内に回答すること。英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』 研究社。

【成績評価の方法と基準】

予習テスト：30%
 復習テスト：30%
 ライティング課題：20%
 授業内活動への参加：20%

【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

竹内 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報がすぐ手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりおさえながら、実際の英語ニュース記事を聴き取り、読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった発音の訓練なども行っていきます。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書を持ちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。予習として全訳をノートに書いてくること、学習支援システム上で行う予習テストと復習テストに期限内に回答することが必須の課題です。授業内ではアトラダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。この授業はハイブリッド型です。対面の週と zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7-I: iPhone Musician	reading and listening
2	Unit 7-II: iPhone Musician	reading and writing
3	Unit 8-I: Bringing People Back to Baseball	reading and listening
4	Unit 8-II: Bringing People Back to Baseball	reading and writing
5	Unit 9-I: Smell of Success	reading and listening
6	Unit 9-II: Smell of Success	reading and writing
7	Unit 10-I: Octocopter	reading and listening

8	Unit 10-II: Octoapter	reading and writing
9	Unit 11-I: Staying Safe Online	reading and listening
10	Unit 11-II: Staying Safe Online	reading and writing
11	Unit 12-I: Air Pollution in Asian Cities	reading and listening
12	Unit 12-II: Air Pollution in Asian Cities	reading and writing
13	Unit 13-I Protecting Michelangelo's Paintings	reading and listening
14	Unit 13-II Protecting Michelangelo's Paintings	reading and writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書き、予習テスト、復習テストに回答することが必須の課題です。教科書に訳を書き込むのは不可。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。

英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。

本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】

予習テスト：30%

復習テスト：30%

writing 課題：20%

授業内活動への参加：20%

【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代イギリスの文化・社会のさまざまなトピックについて学びながら、リーディング・スキルを中心とした英語力を養う。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

各授業の最後に、理解を確かめるための小テスト、リアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

※この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンライン（Zoom または学習支援システム）の週があります。大学の行動方針レベルが2となった場合には、原則としてオンラインとします。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業、および学習方法について。
2	Chapter 1: Multi-Cultural UK	Reading 1: White Flight
3	Chapter 1: Multi-Cultural UK	Reading 2: Fear of Increasing Immigration
4	Chapter 2: English Gardens	Reading 1: Public Gardens
5	Chapter 2: English Gardens	Reading 2: Private Gardens
6	Chapter 3: The British Royal Family	Reading 1: Constitutional Monarchy
7	Chapter 3: The British Royal Family	Reading 2: Princess Diana—Her Legacy
8	Chapter 4: Education in the UK	Reading 1: The Education System
9	Chapter 4: Education in the UK	Reading 2: Issues for the Universities
10	Chapter 5: Eating in Britain	Reading 1: Typical British Dining/ Reading 2: Poor Diet

11	Chapter 6: Health & the Medical System	Reading 1: The National Health Service (NHS)
12	Chapter 6: Health & the Medical System	Reading 2: The Corona Virus Pandemic
13	復習・復習試験	Chapter 1～6 の復習、および復習試験の実施
14	まとめ	復習試験の返却。Chapter 1～6 に関わる新聞・雑誌記事、映像などの講読、視聴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。標準的な流れとしては、(1) 音声（教科書会社のサイトからストリーミング可能）を聞きながら本文を一通り読み、(2) 不明点を辞書等でできる限り調べ、(3) 付属の問題を解く。残った不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつける、ノートに書き出すなどしておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James C. House/ Michiko Miyoshi, 『現代英国の文化・社会・歴史 (Modern Britain: Culture, Society and History)』 松柏社, 2021

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、リアクションペーパーなど）40%、および復習試験 60% の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の「学び合い」の時間を設けることが重要であるとわかったので、グループワークを効果的にとりいれたい。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom による授業を大学で受けるときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意してください。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class concerns recent social and cultural issues in Britain, covering a wide range of topics from food, education, to Brexit. It will help students to have an overall view of the UK today. In terms of language learning, each reading passage is accompanied by well-structured exercises and questions. Through working on them, students will be able to increase their active vocabulary and improve their listening, writing, and reading skills.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代イギリスの文化・社会のさまざまなトピックについて学びながら、リーディング・スキルを中心とした英語力を養う。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

各授業の最後に、理解を確かめるための小テスト、リアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

※この授業は、適宜、オンライン（Zoom または学習支援システム）による実施の週を設けます。大学の行動方針レベルが 2 となった場合には、原則としてオンライン授業のみとします。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 9: Post Brexit Britain	Reading 1: Is the Future of the UK in Europe?
2	Chapter 9: Post Brexit Britain	Reading 2: Uncertainty for Pensioners Living Abroad
3	Chapter 11: The British Empire	Reading 1: British Empire Survey
4	Chapter 11: The British Empire	Reading 2: Nostalgia for the British Empire in Hong Kong
5	Chapter 12: Media in the UK	Reading 1: Social Networking—Positives and Negatives
6	Chapter 12: Media in the UK	Reading 2: The BBC's Reporting—Is it Impartial?
7	Chapter 13: Regions of Britain	Reading 1: Regions of the UK
8	Chapter 13: Regions of Britain	Reading 2: England, North & South — A Divided Nation?
9	Chapter 14: God & a Dog	Reading 1: Christianity — A Minority Religion?
10	Chapter 14: God & a Dog	Reading 2: Being Homeless

11	Chapter 15: Class & Money	Reading 1: What is the British Class System?
12	Chapter 15: Class & Money	Reading 2: How Wealthy are the British?
13	復習・復習試験	Chapter 9, 11～15 の復習、および復習試験の実施
14	まとめ	復習試験の返却。Chapter 9, 11～15 に関わる新聞・雑誌記事、映像などの講読、視聴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。標準的な流れとしては、(1) 音声（教科書会社のサイトからストリーミング可能）を聞きながら本文を一通り読み、(2) 不明点を辞書等でできる限り調べ、(3) 付属の問題を解く。

残った不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつける、ノートに書き出すなどしておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James C. House/ Michiko Miyoshi, 『現代英国の文化・社会・歴史 (Modern Britain: Culture, Society and History)』松柏社, 2021

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。

予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、リアクションペーパーなど）40%、および復習試験 60% の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の「学び合い」の時間を設けることが重要であるとわかったので、グループワークを効果的にとりいれたい。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class concerns recent social and cultural issues in Britain, covering a wide range of topics from food, education, to Brexit. It will help students to have an overall view of the UK today. In terms of language learning, each reading passage is accompanied by well-structured exercises and questions. Through working on them, students will be able to increase their active vocabulary and improve their listening, writing, and reading skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 5 組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。

【到達目標】

・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。

・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。

・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。資料配布型の回と、対面型の回があります。感染状況を踏まえ、ワクチンが高齢者の方に行き届くまでの期間は資料配布とし、6 月をめどに、対面授業を実施する予定です。対面授業の効果も重視しているところですが、スケジュールについては、随時、学習支援システムでのアンケートで相談しながら進めていきます。

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていきます。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Chapter 1	Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（精読）
3	Chapter1	Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（再読、リスニング、質疑応答）
4	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（精読）
5	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（再読、リスニング、質疑応答）

6	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の4分の1がネット依存(精読)
7	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の4分の1がネット依存(再読、リスニング、質疑応答)
8	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ(精読)
9	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ(再読、リスニング、質疑応答)
10	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼い主に会えたハチ公(精読)
11	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼い主に会えたハチ公(再読、リスニング、質疑応答)
12	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のですり(精読)
13	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のですり(再読、リスニング、質疑応答)
14	Chapter 7	Chapter 7 26-year-old designs Honda's new sports car 26歳がスポーツカーをデザイン(精読)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業前に、事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語については授業後に復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(出席・予習・小テスト等)60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料の配布やアンケートを行いますので、アクセスできる環境を用意しておいてください。オンラインでの回は、資料配布ですので、zoomなどの動画に対応する必要はありません。

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

文1年：英語5組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。

【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていきます。基本的にテキスト1章分を2回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト(精読)
3	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト(再読、リスニング、質疑応答)
4	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット(精読)
5	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット(再読、リスニング、質疑応答)
6	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会(精読)

7	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（再読、リスニング、質疑応答）
8	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（精読）
9	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（再読、リスニング、質疑応答）
10	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（精読）
11	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（再読、リスニング、質疑応答）
12	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（精読）
13	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（再読、リスニング、質疑応答）
14	Chapter 14	Chapter 14 UN Women opens Japan office 国連女性事務所を東京に開設（精読、リスニング、質疑応答）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについては予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、学期末レポート40%で評価します。アンケートについて期限を過ぎた場合は遅刻とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1単位

文1年：英語6組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉聞いたことがあるだろう。イギリスのEU離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
- ・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。
- ・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声聞き、予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて5回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？ （前半）
2	Chapter 1	（後半）
3	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状 （前半）
4	Chapter 2	（後半）
5	Chapter 3 The UK and the EU	EU離脱とUKの未来 （前半）
6	Chapter 3	（後半）
7	Chapter 4 Tea	なんととっても「ティー」 （前半）
8	Chapter 4	（後半）

9	Chapter 5 Social class	階級社会の実情 (前半)
10	Chapter 5	(後半)
11	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み (前半)
12	Chapter 6	(後半)
13	Chapter 7	大学と高等教育 (前半)
14	Chapter 7	(後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに5回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書のHPから無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい（改定新版）』晋羽書房鶴見書店、2018年、1800円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお勧めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、授業態度等）30%＋平常の課題20%＋学期末試験（レポート）50%＝100%

・各学期の欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

・1回の欠席につき、平常点から10点の減点とする。1回の遅刻は3点の減点とし、30分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。

・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点対象となりうる。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時は、学習支援システムとZoomを用いるため、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら適宜判断します。

【Outline and objectives】

I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

文1年：英語6組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉聞いたことがあるだろう。イギリスのEU離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。

・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。

・得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。

・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習してくること。

・わからない単語は辞書をひいて5回ずつ練習して下さい。

・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。

・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性 (前半)
2	Chapter 8	(後半)
3	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術、発明、ビジネス (前半)
4	Chapter 9	(後半)
5	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま (前半)
6	Chapter 10	(後半)
7	Chapter 11 Food	英国の食文化 (前半)
8	Chapter 11	(後半)
9	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜 (前半)
10	Chapter 13	(後半)
11	Chapter 15 The arts	英国で「芸術」といえば？ (前半)

12	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」 (前半)
13	Chapter 16	(後半)
14	学期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに5回ずつ練習する。音声は教科書のHPから無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま>を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018年、1800円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30%＋学期末試験70%＝100%
- ・各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。
- ・1回の欠席につき平常点から10点の減点とする。1回の遅刻は3点の減点とし、30分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら判断します。

【Outline and objectives】

I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1単位

文1年：英語7組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNNで配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC®用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

- 1) 英語の運用能力
より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。
- 2) 文化理解
世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。
- 3) 分からないことを調べる姿勢
さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

以下授業計画に示した各Unit前半の回と後半の回とで内容を分けます。

① オンデマンド型による課題提出と説明

以下の問題を各自解いて Hoppii の「テスト・アンケート」機能より回答を提出し、採点后フィードバックとして解答、解説を示した文書をアップし、それを見て自ら学習してもらう。締切は各授業の翌日正午とする予定。授業時間100分中40分の分として設定。

前半の回：

TOEIC®のテキスト各Unit中、Mini-TOEIC® ListeningのPart 1と2

後半の回：

TOEIC®のテキスト各Unit中、Mini-TOEIC® ListeningのPart 3と4

② 対面式授業による演習

以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。※時間は60分とし、9:30～10:30に行う予定。また、大学の方針により教室での対面形式で実施できない場合は同時時間帯にZoomで授業を行う予定。

前半の回：

・TOEIC®のテキスト各Unit中、Warm-up Exerciseの演習と表現の練習

・CNNのテキスト各Unit中、Before listeningの演習

後半の回：

CNNのテキスト各Unit中、ListeningとAfter listeningの演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明

2	TOEIC® テキスト Unit 1 前半+ CNN テキスト Unit 1 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Void Found in Giza's Great Pyramid のリーディング
3	TOEIC® テキスト Unit 1 後半+ CNN テキスト Unit 1 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Void Found in Giza's Great Pyramid のリスニング、リーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 2 前半+ CNN テキスト Unit 2 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Railway Apologizes for 20-Second Error のリーディング
5	TOEIC® テキスト Unit 2 後半+ CNN テキスト Unit 2 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Railway Apologizes for 20-Second Error のリスニング、リーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 3 前半+ CNN テキスト Unit 3 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Observers Report Nine-Hour Rainbow のリーディング
7	TOEIC® テキスト Unit 3 後半+ CNN テキスト Unit 3 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Observers Report Nine-Hour Rainbow のリスニング、リーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 4 前半+ CNN テキスト Unit 4 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Death of Chef Paul Bocuse のリーディング
9	TOEIC® テキスト Unit 4 後半+ CNN テキスト Unit 4 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Death of Chef Paul Bocuse のリスニング、リーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 5 前半+ CNN テキスト Unit 5 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + KFC Runs Out of Chicken のリーディング
11	TOEIC® テキスト Unit 5 後半+ CNN テキスト Unit 5 後半	資格試験問題を使ったリスニング + KFC Runs Out of Chicken のリスニング、リーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 6 前半+ CNN テキスト Unit 6 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Pope Disallows Death Penalty のリーディング
13	TOEIC® テキスト Unit 6 後半+ CNN テキスト Unit 6 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Pope Disallows Death Penalty のリスニング、リーディング
14	レポートあるいは試験	授業で扱った内容を範囲としたレポートあるいは試験、まとめと解説

【テキスト（教科書）】

30-Second CNN Short News: Culture and Society in a Changing World, Yasushi Mano 編著, (朝日出版社, 2021 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テストや学期末試験（あるいはレポート）を 70 %、平常点を 30 % とし、総合的に評価する。対面授業（あるいは Zoom 授業）で出欠を取り、欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各授業後に TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の問題を解き Hoppii より提出し、採点后、解答・解説を読み復習すること。また、対面授業の内容も含め、授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分けます。

① オンデマンド型による課題提出と説明

以下の問題を各自解いて Hoppii の「テスト/アンケート」機能より回答を提出し、採点后フィードバックとして解答、解説を示した文書をアップし、それを見て自ら学習してもらう。締切は各授業の翌日正午とする予定。授業時間 100 分中 40 分の分として設定。

前半の回：

TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2

後半の回：

TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4

② 対面式授業による演習

以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。※時間は 60 分とし、9:30~10:30 に行う予定。また、大学の方針により教室での対面形式で実施できない場合は同時時間帯に Zoom で授業を行う予定。

前半の回：

・ TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習

・ CNN のテキスト各 Unit 中、Before listening の演習

後半の回：

CNN のテキスト各 Unit 中、Listening と After listening の演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明

2	TOEIC® テキスト Unit 7 前半+ CNN テキスト Unit 7 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + New Zealand's "First Baby" at the UN のリーディング
3	TOEIC® テキスト Unit 7 後半+ CNN テキスト Unit 7 後半	資格試験問題を使ったリスニング + New Zealand's "First Baby" at the UN のリスニング、リーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 8 前半+ CNN テキスト Unit 8 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Rare Appearance of "Living Goddess" のリーディング
5	TOEIC® テキスト Unit 8 後半+ CNN テキスト Unit 8 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Rare Appearance of "Living Goddess" のリスニング、リーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 9 前半+ CNN テキスト Unit 9 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Adventurer Swims around Britain のリーディング
7	TOEIC® テキスト Unit 9 後半+ CNN テキスト Unit 9 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Adventurer Swims around Britain のリスニング、リーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 10 前半+ CNN テキスト Unit 10 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Emperor's Final New Year's Speech のリーディング
9	TOEIC® テキスト Unit 10 後半+ CNN テキスト Unit 10 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Emperor's Final New Year's Speech のリスニング、リーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 11 前半+ CNN テキスト Unit 11 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Better Investment with Gender Balance のリーディング
11	TOEIC® テキスト Unit 11 後半+ CNN テキスト Unit 11 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Better Investment with Gender Balance のリスニング、リーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 12 前半+ CNN テキスト Unit 12 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Taiwan's First Same-Sex Marriages のリーディング
13	TOEIC® テキスト Unit 12 後半+ CNN テキスト Unit 12 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Taiwan's First Same-Sex Marriages のリスニング、リーディング
14	レポートあるいは試験	授業で扱った内容を範囲としたレポートあるいは試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各授業後に TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の問題を解き Hoppii より提出し、採点后、解答・解説を読み復習すること。また、対面授業の内容も含め、授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト（教科書）】

30-Second CNN Short News: Culture and Society in a Changing World, Yasushi Mano 編著, (朝日出版社, 2021 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テストや学期末試験（あるいはレポート）を 70 %、平常点を 30 % とし、総合的に評価する。対面授業（あるいは Zoom 授業）で出欠を取り、欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英国の社会・文化について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションやライティングを行う。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

授業は基本的に zoom で行い、試験のみ対面で行う。zoom 等の詳細については、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Multi-Cultural UK
2	Chapter 2	English Gardens
3	Chapter 3	The British Royal Family
4	Chapter 4	Education in the UK
5	Chapter 5	Eating in Britain
6	Chapter 6	Health & the Medical System
7	Chapter 7	Music & Fashion
8	Chapter 8	Tourism
9	Chapter 9	Post Brexit Britain
10	Chapter 10	Leisure & Sport in the UK
11	Chapter 11	The British Empire
12	Chapter 12	Media in the UK
13	Chapter 13	Regions of Britain
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。必ず事前に Warm-up に取り組み、Reading1 および 2 のテキストを読み、訳してくること。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

James C. House、三好道子『Modern Britain: Culture, Society and History/現代英国の文化・社会・歴史』（南雲堂、2021年）、2000円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

試験 70%

4回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern Britain.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1単位

文1年：英語8組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションやライティングを行う。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

授業は基本的に zoom で行い、試験のみ対面で行う。zoom 等の詳細については、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	America's Easter Tradition
2	Chapter 2	America's Inner-city Music
3	Chapter 3	African American Music
4	Chapter 4	The American Academy of Motion Picture Arts and Sciences
5	Chapter 5	American Fashion
6	Chapter 6	American Universities
7	Chapter 7	American Social Networking
8	Chapter 8	American Innovators and Innovation
9	Chapter 9	American Football
10	Chapter 10	Hollywood
11	Chapter 11	Walt Disney
12	Chapter 12	Historic Route 66
13	chapter 13	American Fast Food
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。必ず事前に Warm-up に取り組み、Reading1 および 2 のテキストを読み、訳してくる。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

Ryan Smithers, Craig Gamble 『Modern America: Culture, Society and History/現代米国の文化・社会・歴史』（南雲堂、2021年）、2000円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

試験 70%

4回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正量を考慮する。

【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

本間 章郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1単位

文1年：英語9組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようになることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようになることを期待します。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 時事英語に類出する重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストは語彙の理解や、リスニングなどを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。小テスト等は、適宜、受講者に返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第2回	Chapter 1: 国内政治	本文読解
第3回	Chapter 1: 国内政治	問題演習
第4回	Chapter 2: 政治・ビジネス (1)	本文読解
第5回	Chapter 2: 政治・ビジネス (1)	問題演習
第6回	Chapter 3: 政治・ビジネス (2)	本文読解
第7回	Chapter 3: 政治・ビジネス (2)	問題演習
第8回	Chapter 4: 外交・国際会議	本文読解
第9回	Chapter 4: 外交・国際会議	問題演習
第10回	Chapter 5: 軍事	本文読解
第11回	Chapter 5: 軍事	問題演習
第12回	Chapter 6: 海外政治情勢	本文読解

第13回 Chapter 6: 海外政治 問題演習
情勢

第14回 試験・まとめと解説 授業の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

English for Mass Communication 2021 Edition (『時事英語の総合演習 — 2021 年度版』)

堀江洋文他著 朝日出版社 2021年 1700円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト(60%)、英作文(20%)、小テスト(20%)から成績を評価します。主に到達目標の(1)と(2)と(4)を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3)を英作文から判断します。なお、各学期の欠席が4回以上になった場合は、原則として単位習得を認めないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

これまで授業の中で教科書以外のニュース記事を受講生に要約をして、提出してもらいましたが、もう少し要約の時間を多く取りたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics range widely from politics or economy to entertainment or sports, which help students understand contemporary issues in Japan and the world. Some students may think it is rather difficult to read news reports in English. But most of students know more or less about these topics, because these topics were reported in Japanese news media. I think it is easy for them to get the gist of the news reports. The topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

本間 章郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1単位

文1年：英語9組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようになることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようにすることを期待します。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 時事英語に類出する重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストは語彙の理解や、リスニングなどを問う問題になります。授業の進度と受講者の教科書の内容への理解に応じて、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。小テスト等は、適宜、受講者に返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第2回	Chapter 7: 文化・社会	本文読解
第3回	Chapter 7: 文化・社会	問題演習
第4回	Chapter 8: 犯罪・事件	本文読解
第5回	Chapter 8: 犯罪・事件	問題演習
第6回	Chapter 9: 裁判・法令	本文読解
第7回	Chapter 9: 裁判・法令	問題演習
第8回	Chapter 10: 地球環境	本文読解
第9回	Chapter 10: 地球環境	問題演習
第10回	Chapter 11: 気象・災害	本文読解
第11回	Chapter 11: 気象・災害	問題演習

- 第12回 Chapter 12: 人口・労働 本文読解&問題演習
働問題
- 第13回 Chapter 13: テクノロジー 本文読解&問題演習
ロジー
- 第14回 試験・まとめと解説 授業の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

English for Mass Communication 2021 Edition (『時事英語の総合演習—2021年度版』)
堀江洋文他著 朝日出版社 2021年 1700円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト(60%)、英作文(20%)、小テスト(20%)から成績を評価します。主に到達目標の(1)と(2)と(4)を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3)を英作文から判断します。なお、各学期の欠席が4回以上になった場合は、原則として単位取得を認めないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

これまで授業の中で教科書以外のニュース記事を受講生に要約をして、提出してもらいましたが、もう少し要約の時間を多く取りたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics range widely from politics or economy to entertainment or sports, which help students understand contemporary issues in Japan and the world. Some students may think it is rather difficult to read news reports in English. But most of students know more or less about these topics, because these topics were reported in Japanese news media. I think it is easy for them to get the gist of the news reports. The topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1単位

文1年：英語10組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立てとらえることができるようになることを目的としています。毎時間NHKの「世界へ発信! SNS英語術」(仮題)を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえていきます。

【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自立的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1. NHK「世界へ発信! SNS英語術」(仮題)
 - ① 指定のニュースを辞書を引きながら速読します。
 - ② ニュースの解説
- 2 テキストの学習
 - ① Words& Phrases
 - ② Before you Watch
 - ③ Watch the News
 - ④ Understand the News
 - ⑤ News の読解
 - ⑥ Review the Key Expressions

課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要の説明
2	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (語彙、DVD)
3	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (訳読)
4	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (まとめ)
5	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (語彙)
6	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (DVD)
7	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (訳読)
8	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (まとめ)

9	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (語 彙)
10	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (DVD)
11	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (訳 読)
12	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (ま とめ)
13	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (語 彙)
14	最新のニュース	春学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読 (パラグラフごと
に大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らか
にしてから授業に出席しましょう。)
2. 復習 (テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。
ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをし
ましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、平常点 40 %
原則として、欠席が 4 回以上の場合、単位の認定はいたしません。

【学生の意見等からの気づき】

学生はテキストの内容把握に時間を取るなので、DVD を丁寧に見て
いくようにします。

【学生が準備すべき機器他】

英和、和英辞書を持参すること

【その他の重要事項】

授業はすべて Zoom で行います。
マイク付きヘッドセットを用意し、間隔をあけて着席し、換気をする
等の感染予防対策をとってください。
上記のシラバスは、授業進行上、変更を加えます。
mieko.muramatsu.79@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. In the beginning of every class, the students will read the current news. After that, the students will read and listen to the several phrases of Japanese culture.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力
を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえ
ることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK
の「世界へ発信! SNS 英語術」(仮題) を使い、現在ニュースで話題
になっているテーマを取り上げ、読解を行います。そして外国人の
視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中
での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めること
ができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるよう
になる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことが
できるようになる。
4. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表
現できるようになる。
5. 授業外でも自立的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：
DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1. NHK「世界へ発信! SNS 英語術」(仮題)

①ニュースを辞書を引きながら読解します。

②ニュースの解説

2 テキストの学習

① Words & Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (DVD)
2	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (訳 読)
3	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (まとめ)
4	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (語彙)
5	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (DVD)
6	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (訳読)
7	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (まとめ)

8	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (語彙)
9	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (DVD)
10	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (訳読)
11	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (まとめ)
12	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (語彙)
13	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (DVD)
14	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out(訳読 まとめ)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読 (パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。
 2. 復習テキストは音読3回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60%、平常点 40%、
原則として、欠席が4回以上の場合は、単位の認定はいたしません。

【学生の意見等からの気づき】

学生は教科書のDVDを難しいと感じているようなので、丁寧に解説していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

英和英辞書

【その他の重要事項】

授業はすべて Zoom で行います。
マイク付きヘッドセットを用意し、間隔をあけて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。
上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。
mieko.muramatsu.79@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. In the beginning of every class, the students will read current news. After that, the students will read and listen to several phrases of Japanese culture.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文1年：英語 11組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み (チャンク・リーディング)、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。音読練習を徹底的に行った上で、読んだ内容を相手に伝えるリテリング (=再話) の練習へと発展させる。この訓練を繰り返すことによって、まとまった情報を効果的に伝える能力を身につけることができるようになる。また、学習内容のトピックについて、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読やリテリングは、ペア/グループで互いの成果をチェックしてもらう。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。学期末には音読発表を行い、クラスメートの評価を受ける。使用する CALL (コンピュータ支援の語学学習) 教室の特性を活かして、様々な学習ツール (グループワーク機能、音声&文字チャット、音声録音など) を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第2回	Unit 1: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第3回	Unit 1: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第4回	Unit 2: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第5回	Unit 2: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第6回	Unit 3: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第7回	Unit 3: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第8回	Unit 4: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up

第 9 回	Unit 4: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story	・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
第 10 回	Unit 5: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up	
第 11 回	Unit 5: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story	
第 12 回	Unit 6: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up	
第 13 回	Unit 6: Reading & 発表	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story & 口頭発表とクラスメートによる評価	
第 14 回	期末試験 (筆記)	まとめ & ポストテスト	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分程度を標準とします。
 ・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。(90 分程度)
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト (教科書)】

Pleasure in Reading Aloud and Retelling (金星堂, 2019) 1800 円 (税別)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (筆記) 60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う (ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く)。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

Zoom によるリアルタイムの双方向授業を毎回行なったが、通信環境のよくない学生への配慮から接続時間を短縮し、その代わり小テストや課題を行う時間を設けることにした。これにより自律的な学習習慣が身についたのではないかと考えている。本授業以外にリアルタイムの授業がほとんどないことを学生から聞いたので、ペア・グループ同士で話し合ったり考えたりする時間をできるだけ多く取るよう心がけた。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では、学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。Zoom によるリアルタイム配信型の授業では、マイク・カメラのついた PC で参加のこと。なお、大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course expects students to gain an increased critical understanding of various topics and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。音読練習を徹底的に行った上で、読んだ内容を相手に伝えるリテリング（＝再話）の練習へと発展させる。この訓練を繰り返すことによって、まとまった情報を効果的に伝える能力を身につけることができるようになる。また、学習内容のトピックについて、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読やリテリングは、ペア/グループで互いの成果をチェックしてもらい、提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。学期末には音読発表を行い、クラスメートの評価を受ける。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声&文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 7: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 3 回	Unit 7: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 4 回	Unit 8: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 5 回	Unit 8: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 6 回	Unit 9: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 7 回	Unit 9: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 8 回	Unit 10: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 9 回	Unit 10: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story

第 10 回	Unit 11: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 11 回	Unit 11: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 12 回	Unit 12: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 13 回	Unit 12: Reading & 発表	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story & 口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分程度を標準とします。
・テキストの予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Pleasure in Reading Aloud and Retelling（金星堂、2019）1800 円（税別）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition(Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

オンライン授業になった場合は、Zoom によるリアルタイム配信型の授業を毎週行う予定である。授業時間に参加できなかった場合は欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

春学期同様、Zoom によるリアルタイムの双方向授業を行なった。音読練習の一環として、学生の録音音声をウェブ上にアップしてクラスメートと共有する活動を行なったところ、クラス全体のレベルが驚くほど上がった。学生の評判も良く、今後も取り入れていきたい活動の 1 つになった。ただ、評価方法に改善点があることが判明したので変更したい。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course expects students to gain an increased critical understanding of various topics and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

小田井 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を

鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

- ・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
- ・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
- ・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2 回で 1 章のペースで進めていきます。まず授業で扱う内容に関する映像などを視聴し、リスニングエクササイズをするとともに、本文の内容についての基礎知識を学びます。そして本文を 1 文 1 文日本語に直し、英文の構造をしっかりと確認しながら、読解を進めます。そして本文の読解後、英語で内容の要約やリアクションペーパーなどを作成します。授業内で回収したもの、中間テストに関しては随時返却し、フィードバックします。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、教科書、評価方法などについて説明。
2	Unit 1 A 20th-century Hero and Icon 前半	マンデラの生涯について映像を視聴、本文の前半を読解
3	Unit 1 A 20th-century Hero and Icon 後半	マンデラの生涯について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
4	Unit 2 From Seaspeak to Singlish 前半	世界で使用される英語について映像を視聴、本文の前半を読解
5	Unit 2 From Seaspeak to Singlish 後半	世界で使用される英語について本文の後半を読解、英作文エクササイズ

6	Unit 3 There's More to the Isle of Man than Motor Racing and Tax Breaks 前半	マン島について映像を視聴、本文の前半を読解
7	Unit 3 There's More to the Isle of Man than Motor Racing and Tax Breaks 後半	マン島について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
8	中間テストと解説	Unit 1～3
9	Unit 4 Future Predictions for Artificial Intelligence and Automation 前半	人工知能について映像を視聴、本文の前半を読解
10	Unit 4 Future Predictions for Artificial Intelligence and Automation 後半	人工知能について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
11	Unit 5 Take More Proactive Climate Action 前半	気候変動について映像を視聴、本文の前半を読解
12	Unit 5 Take More Proactive Climate Action 後半	気候変動について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
13	総復習	これまでの総復習をします
14	期末テストと解説	Unit 4、5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を日本語に訳す。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

河原真也、伊藤健一郎『世界を読み解く 15 の扉』（朝日出版社、2019）

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末テスト 40%、平常点 20%で評価します。
4 回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当する授業のため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

The goal of this class is that students will improve literacy in English and get to understand logical passages. In order to achieve the goal, students will read refined articles which were published in newspapers, in magazines or on the Internet. In addition, students will do listening and writing practices.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小田井 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

- 英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
- パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
- 正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2 回で 1 章のペースで進めていきます。まず授業で扱う内容に関する映像などを視聴し、リスニングエクササイズをするとともに、本文の内容についての基礎知識を学びます。そして本文を 1 文 1 文日本語に直し、英文の構造をしっかりと確認しながら、読解を進めます。そして本文の読解後、英語で内容の要約やリアクションペーパーなどを作成します。授業内で回収したもの、中間テストに関しては随時返却し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 6 UNESCO "Japanese Food" 前半	世界に広がる和食について映像を視聴、本文の前半を読解
2	Unit 6 UNESCO "Japanese Food" 後半	世界に広がる和食について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
3	Unit 7 The Origins of Bathhouse Culture around the World 前半	世界の温浴文化について映像を視聴、本文の前半を読解
4	Unit 7 The Origins of Bathhouse Culture around the World 後半	世界の温浴文化について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
5	Unit 8 All 155 Aboard Safe as Crippled Jet Crash-Lands in Hudson 前半	ハドソン川の奇跡について映像を視聴、本文の前半を読解

6	Unit 8 All 155 Aboard Safe as Crippled Jet Crash-Lands in Hudson 後半	ハドソン川の奇跡について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
7	中間テストと解説	Unit 6～8
8	Unit 9 The History of Hanukkah 前半	ユダヤ教のハヌカについて映像を視聴、本文の前半を読解
9	Unit 9 The History of Hanukkah 後半	ユダヤ教のハヌカについて本文の後半を読解、英作文エクササイズ
10	Unit 10 Fashion History 前半	ダンディズムについて映像を視聴、本文の前半を読解
11	Unit 10 Fashion History 後半	ダンディズムについて本文の後半を読解、英作文エクササイズ
12	Unit 11 A City's Art Biennial Can Be like Watching an Army of Curatorial Truffle Pigs 前半	ビエンナーレについて映像を視聴、本文の前半を読解
13	Unit 11 A City's Art Biennial Can Be like Watching an Army of Curatorial Truffle Pigs 後半	ビエンナーレについて本文の後半を読解、英作文エクササイズ
14	期末テストと解説	Unit 9～11

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を日本語に訳す。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

河原真也、伊藤健一郎『世界を読み解く 15 の扉』（朝日出版社、2019）

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末テスト 40%、平常点 20%で評価します。4 回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当する科目なので、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

The goal of this class is that students will improve literacy in English and get to understand logical passages. In order to achieve the goal, students will read refined articles which were published in newspapers, in magazines or on the Internet. In addition, students will do listening and writing practices.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit1	語彙の予習と本文の精読
2	Unit1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit6,7	Unit6 小テスト、Unit7 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

"Guess What?! -Intercultural Surprises-

『世界の衝撃アイテムから学ぶ 15 の国の文化と人々』

松江夏津紀、飯田泰弘、金田直子、ケン・ウィング・ブーン、横山仁視

南雲堂

2020 年 2090 円

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline and objectives】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics about 15 foreign cultures will give you information about different culture.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

"Guess What?! -Intercultural Surprises-"

『世界の衝撃アイテムから学ぶ 15 の国の文化と人々』

松江夏津紀、飯田泰弘、金田直子、ケン・ウィング・ブーン、横山仁視

南雲堂

2020 年 2090 円

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

(音声を用いたリスニングがあるため)

【Outline and objectives】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics about 15 foreign cultures will give you information about different culture.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、イギリス公共放送 BBC の映像付き記事から 15 トピックが精選され、それぞれに Vocabulary Build-Up や Composition Exercise などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴し、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。課した宿題をその都度点検し、必要に応じて指導します。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 "Less Plastic at Glastonbury"[マイボトルでエコなフェスを満喫!] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 1 "Less Plastic at Glastonbury"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 3 回	Unit 2 "One Way to Find a Job"[新しい就活の形] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Unit 2 "One Way to Find a Job"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。

第 5 回	Unit 3 "Sport for Musicians"[スポーツ音楽の意外な関係?] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 3 "Sport for Musicians"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Unit 4 "A Healthy Supermarket"[スーパーのレイアウトで、肥満を減らせる?] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Unit 4 "A Healthy Supermarket"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 10 回	Unit 5 "Van Gogh's London House"[ゴッホが過ごしたロンドンの家] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Unit 5 "Van Gogh's London House"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 12 回	Unit 6 "Esports Scholarships"[e スポーツで奨学金] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Unit 6 "Esports Scholarships"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他編著『British News Update 3—映像で学ぶイギリス公共放送の最新ニュース』（金星堂、2021 年）2700 円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、ほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、イギリス公共放送 BBC の映像付き記事から 15 トピックが精選され、それぞれに **Vocabulary Build-Up** や **Composition Exercise** などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴し、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。課した宿題をその都度点検し、必要に応じて指導します。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 7 "Snow Camp" [スキーで恵まれない若者にチャンスを] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 7 "Snow Camp" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 3 回	Unit 8 "Fighting Parkinson's with Ballet"[バレエのレッスンでパーキンソン病に立ち向かえ!] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。

第4回	Unit 8 "Fighting Parkinson's with Ballet"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第5回	Unit 9 "The Battersea Academy" [イギリス発、犬猫レスキュー講座に世界が注目] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第6回	Unit 9 "The Battersea Academy" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第7回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第8回	Unit 10 "Students in Poverty" [貧困学生を救う学内フードバンク] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第9回	Unit 10 "Students in Poverty" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第10回	Unit 11 "The Importance of Creative Subjects" [軽視されるアート科目] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第11回	Unit 11 "The Importance of Creative Subjects" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第12回	Unit 12 "New Rules for Drones" [急増するドローンに対策を] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第13回	Unit 12 "New Rules for Drones" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第14回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他編著『British News Update 3 一映像で学ぶイギリス公共放送の最新ニュース』（金星堂、2021年）2700円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45点）と期末試験（45点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10点）を勘案した上で、100点満点に換算した基準点を割り出し、ほぼ60点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業にするように心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす>
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

<※この授業はハイブリッド型です。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、原則としてオンラインのみでの実施となります。詳細は学習支援システムでお知らせします。>

Zoom 授業（リアルタイム双方向）、学習支援システム（教材提示・課題提出）、（可能な場合）教室対面（受講生の発話を伴わない内容など）、を効果的に組み合わせで実施予定です。具体的にはその都度事前に学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」を通じて確認・連絡します。

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信→考察→発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの要旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業内で課題や質問等へのフィードバックやアドバイスをを行います。学期を通じて身につけた力を、授業、課題、小テスト、プレゼンテーションで発揮する流れになります。

（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (4/12)	イントロダクション。 Unit 1 Cross-cultural understanding	授業の概要説明。アンケート。リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	

2 (4/19)	Cross-cultural understanding	精読・要約・ライティング リーディング・パート詳細理解と考察
3 (4/26)	Unit 2 Foods	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
4 (5/10)	Foods	精読・要約・ライティング リーディング・パート詳細理解と考察
5 (5/17)	Unit 3 Foreign language learning	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
6 (5/24)	Foreign language learning	精読・要約・ライティング リーディング・パート詳細理解と考察
7 (5/31)	Unit 4 Sports	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
8 (6/7)	Sports	精読・要約・ライティング リーディング・パート詳細理解と考察
9 (6/14)	Unit 5 Fashion	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
10 (6/21)	Fashion	精読・要約・ライティング リーディング・パート詳細理解と考察
11 (6/28)	Unit 6 Living things	リスニング・速読 リスニング・パート。リーディング・パート導入
12 (7/5)	Living things	精読・要約・ライティング リーディング・パート詳細理解と考察
13 (7/12)	プレゼンテーション・リハーサル	練習・アドバイス（全体および個別指導）
14 (7/19)	プレゼンテーション。まとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返り・今後の展望（アンケート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、(英語およびそれ以外の)知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推した上で、かならず辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約（各 1～2 文程度）を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を読み、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）※課題は指示に沿って期限内に提出する。

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容とプレゼン用 PDF 教材（学習支援システム）を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。※プレゼン原稿は指示に沿って期限内に事前提出する。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを継続するほど、英語力の伸びが期待されます。

【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略！ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2020 [秋冬]』（朝日出版社）、『英語モード』でライティング』（講談社）、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力。』『英語で話す力。』（三修社）、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』（DHC）、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー（BT3 階）など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習と授業への取り組み・課題・小テスト）85%、プレゼンテーション 15%の割合で、上記到達目標（1）～（5）に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失いますので注意してください。特別な理由がある場合は、早めに担当教員に相談・連絡してください。

次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服・実力アップ／STEP ④授業・課題・小テスト・プレゼンテーションで成果を発揮

【学生の意見等からの気づき】

英語力を伸ばそうとする個々の継続した取り組みと、意見交換などを通じて互いから刺激を受け学び合う姿勢が印象的でしたので、内容・手法の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす＞
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

＜※この授業はハイブリッド型です。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、原則としてオンラインのみでの実施となります。詳細は学習支援システムでお知らせします。＞

Zoom 授業（リアルタイム双方向）、学習支援システム（教材提示・課題提出）、（可能な場合）教室対面（受講生の発言を伴わない内容など）、を効果的に組み合わせ実施予定です。具体的にはその都度事前に学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」を通じて確認・連絡します。

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの要旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業内で課題や質問等へのフィードバックやアドバイスをします。学期を通じて身につけた力を、授業、課題、小テスト、プレゼンテーションで発揮する流れになります。

（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/20)	Unit 7 Art	リスニング・速読 グ・パート。リーディング・パート導入
2 (9/27)	Art	リーディング・精読・要約・ライティング パート詳細理解と考察

3 (10/4)	Unit 8 Global issues リスニング・パート。 リーディング・パート 導入	リスニング・速読
4 (10/11)	Global issues リー ディング・パート詳細 理解と考察	精読・要約・ライティング
5 (10/18)	Unit 9 Japanese culture リスニング・ パート。リーディン グ・パート導入	リスニング・速読
6 (10/25)	Japanese culture リーディング・パート 詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
7 (11/1)	Unit 10 Human rights リスニング・ パート。リーディン グ・パート導入	リスニング・速読
8 (11/8)	Human rights リーディング・パート 詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
9 (11/15)	Unit 11 Health & medical issues リス ニング・パート。リー ディング・パート導入	リスニング・速読
10 (11/22)	Health & medical issues リーディン グ・パート詳細理解と 考察	精読・要約・ライティング
11 (11/29)	Unit 12 Environmental issues リスニング・ パート。リーディン グ・パート導入	リスニング・速読
12 (12/6)	Environmental issues リーディング・ パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
13 (12/13)	プレゼンテーション・ リハーサル	練習・アドバイス (全体と個別指 導)
14 (1/17)	プレゼンテーション。 まとめ	発表・意見交換・講評。学期の振 り返り・今後の展望 (アンケート)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、(英語およびそれ以外の) 知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推した上で、かならず辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約 (各 1～2 文程度) を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を読み、音読練習する。(関連教材についてもほぼ同様。) ※課題は指示に沿って期限内に提出する。

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を (テキストを見ながら/見ないで) 聴く、リピート/シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って/書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って/書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。(関連教材についてもほぼ同様。)

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容とプレゼン用 PDF 教材 (学習支援システム) を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。※プレゼン原稿は指示に沿って期限内に事前提出する。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを継続するほど、英語力の伸びが期待されます。

【テキスト (教科書)】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate* (4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編) 金星堂、2,000 円 (税別) (※関連教材は、随時配布・指示します。)

【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略! ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2020 [秋冬]』(朝日出版社)、『「英語モード」でライティング』(講談社)、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力。』、『英語で話す力。』(三修社)、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』(DHC)、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニング リスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会) ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー (BT3 階) など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習と授業への取り組み・課題・小テスト) 85%、プレゼンテーション 15% の割合で、上記到達目標 (1)～(5) に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失いますので注意してください。特別な理由がある場合は、早めに担当教員に相談・連絡してください。

次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席 / STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習 / STEP ③復習と自習で定着・苦手克服・実力アップ / STEP ④授業・課題・小テスト・プレゼンテーションで成果を発揮

【学生の意見等からの気づき】

英語力を伸ばそうとする個々の継続した取り組みと、意見交換などを通じて互いから刺激を受け学び合う姿勢が印象的でしたので、内容・手法の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得します。リスニング力を身につけるために、クイックレスポンス、シャドーイング、シンクロリーディングをします。また、読解力を身につけるために、スラッシュ・リーディングをして訳出テクニックを身につけます。

【到達目標】

- ・日常生活に必要な英語を身につける。
- ・リスニング力を身につける
- ・読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、テキストを中心に演習授業になります。ペアワーク中心に進めます。ペアワークの後、発表して実践力を身につけていきます。積極的な参加ができるように、楽しい雰囲気作りをします。授業内での課題、発表に対して、平常点として、口頭で結果をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 自己紹介ゲーム	ガイダンス 自己紹介ゲーム
2	Unit 1 Counting Calories On Dieting	日常会話 リスニング力取得訓練
3	Unit 1 Counting Calories Dieting: Japan VS. America	読解力取得訓練
4	Unit 2 A New Sports Tradition Before the Game	日常会話 リスニング力取得訓練
5	Unit 2 A New Sports Tradition The Tailgate Party	読解力取得訓練
6	Unit 3 As American as Apple Pie Homemade Apple Pie	日常会話 リスニング力取得訓練
7	Unit 3 As American as Apple Pie An Apple a Day	読解力取得訓練

8	Unit 4 Use as Directed The Shimanto River and Sweetfish Dishes	日常会話 リスニング力取得訓練
9	Unit 4 Use as Directed Best Before and Use-by Dates	読解力取得訓練
10	Unit 5 The End of Home Cooking Drive-Thru	日常会話 リスニング力取得訓練
11	Unit 5 The End of Home Cooking Cooking for a Family VS. Eating Out	読解力取得訓練
12	Unit 6 Just Follow the Recipe Mother's Curry	日常会話 リスニング力取得訓練
13	Unit 6 Just Follow the Recipe Japanese Flavors and the Traditional Diet	読解力取得訓練
14	期末試験	期末試験 正答解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
分からない語彙、訳があれば辞書を引き予習しておくこと。CD を聞き、発音を確認しておくこと。テキストの練習問題を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

Food for Thought「現代の食を考える」
Shinobu Sunaga, Rie Suzuki, Shintaro Sekine, Linda Miyashita
南雲堂、2019

【参考書】

学生のレベルを鑑み、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：40%（授業への参加度、授業内発表）
期末試験：60%（期末試験の結果）
欠席 4 回以上で単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick response, shadowing, and synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得します。リスニング力を身につけるために、クイックレスポンス、シャドーイング、シンクロリーディングをします。また、読解力を身につけるために、スラッシュ・リーディングをして訳出テクニックを身につけます。

【到達目標】

- ・日常生活に必要な英語を身につける。
- ・リスニング力を身につける
- ・読解力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、テキストを中心に演習授業になります。ペアワーク中心に進めます。ペアワークの後、発表して実践力を身につけていきます。積極的な参加ができるように、楽しい雰囲気作りをします。授業内での課題、発表に対して、平常点として、口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Unit 7 Supplemental Health Supplements Supplements: Pros and Cons	ガイダンス 日常会話 リスニング力取得訓練 読解力取得訓練
2	Unit 8 Time for Tea Coffee or Tea? Tea Time	日常会話 リスニング力取得訓練 読解力取得訓練
3	Unit 9 Fresh from the Garden Vegetable Garden On the history of Mayonnaise	日常会話 リスニング力取得訓練 読解力取得訓練
4	Unit 10 Local Delicacies Japanese Delicacies Different National Cuisines in Japan	日常会話 リスニング力取得訓練 読解力取得訓練
5	Unit 11 Trick or Treat? Halloween Barmbrack History of Halloween	日常会話 リスニング力取得訓練 読解力取得訓練

6	Unit 12 Giving Thanks Thanks Giving Break	日常会話 リスニング力取得訓練
7	Unit 12 Giving Thanks The American Holiday Rush	読解力取得訓練
8	Unit 13 Turkey and All the Trimblings Christmas	日常会話 リスニング力取得訓練
9	Unit 13 Turkey and All the Trimblings Recipe: Roast Turkey	読解力取得訓練
10	Unit 14 From Your Valentine Saint Valentine's Day	日常会話 リスニング力取得訓練
11	Unit 14 From Your Valentine St. Valentine	読解力取得訓練
12	Unit 15 The Meaning of Easter How to Make Hot Cross Buns	日常会話 リスニング力取得訓練
13	Unit 15 The Meaning of Easter Celebrating Easter	読解力取得訓練
14	期末試験	期末試験・正答解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

分からない語彙、訳があれば辞書を引き予習しておくこと。CD を聞き、発問を確認しておくこと。テキストの練習問題を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

Food for Thought「現代の食を考える」
Shinobu Sunaga, Rie Suzuki, Shintaro Sekine, Linda Miyashita
南雲堂、2019

【参考書】

学生のレベルを鑑み、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：40%（授業への参加度、授業内発表）

期末試験：60%（期末試験の結果）

欠席 4 回以上で単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

Continuing from the spring semester, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick response, shadowing, and synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

授業実施形態の説明

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。課題提出、フィードバックは Google Classroom を通じて実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requires urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週 1 時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 3" 金星堂

【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題、提出物： 50%、授業への取組み： 20%、期末課題： 30%

毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生が L L 教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom, Zoom を使用する

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要

【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。

メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。尚、課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期の進め方等	休暇中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 3" 金星堂

【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題・提出物：50%、授業への取組み：20%、期末課題：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生がL教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学習した知識を基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とします。

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を身につけます。特に、パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりに留意しつつ、構造・論旨を把握し、必要な知識・情報をつかみとること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点をおきます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的視点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行ないます。授業の一環として「聴く力」の育成も行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる
- ②これまでに培った文法・構文を復習し強化する
- ③目的に応じた速度で英文を読み、必要な情報をつかみとる
- ④書き手の感情や意図、論旨を正確に把握し、批判的に読んだ上で、自分の考えを英語で書くことができる
- ⑤英語辞書の効果的な使い方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の構造や内容、注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらい場合が多いのでしっかり予習しましょう。その後、文章の内容について批判的に考え、英語で表現する練習を行います。

基本的にひとつの文章につき2回授業を行い、2回の授業が終了した次の回で復習のための小テストを行います。また、学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に2回行います。ライティング課題は講師が添削して返却し、小テスト・試験は解説を行います。

*この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

*進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブイトやアプリケーションの紹介	PC を利用した演習

3	Security Cameras ① CHAPTER 2	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
4	Security Cameras ② CHAPTER 2	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
5	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ① CHAPTER 4	CHAPTER 2 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
6	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ② CHAPTER 4	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
7	中間試験	試験の実施、解説・復習
8	Extreme Sports ① CHAPTER 6	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
9	Extreme Sports ② CHAPTER 6	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
10	Casinos and Gambling ① CHAPTER 7	CHAPTER 6 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
11	Casinos and Gambling ② CHAPTER 7	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
12	Spouse Hunting ① CHAPTER 8	CHAPTER 7 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
13	Spouse Hunting ② CHAPTER 8	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
14	期末試験	試験の実施、解説・復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント

*授業には必ず辞書を持参してください。

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 15%、小テスト 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。

*各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、スピーキングのアクティビティも適宜取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。詳細は授業で指示します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, this course will help students foster critical thinking skills, instead of accepting an object unquestioningly. This course will also offer instruction and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語18組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は **English 1 I** で学んだことを発展させ、総合的な英語力を養うことを目的とします。複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を身につけます。特に、パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりに留意しつつ、構造・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみとること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点をおきます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的視点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。

授業の一環として「聴く力」の育成も行います。また精読した英文の要旨や、自分の意見を英語で書く練習も行います。

【到達目標】

この授業は以下の6つを到達目標とします：

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる
- ②これまでに培った文法・構文を復習し強化する
- ③目的に応じた速度で英文を読み、必要な情報をつかみとる
- ④書き手の感情や意図、論旨を正確に把握し、批判的に読んだ上で、それを英語で書くことができる
- ⑤英語辞書の効果的な使い方を習得する
- ⑥パラグラフの構造に留意して簡単なエッセイを書ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読みます。ひとつの文章につき2回の授業を行います。1回目は文章の構成や内容、注意すべき文法事項などを確認します。教師が確認する場合がありますが、グループやペアワークで確認してもらった場合もあるのでしっかり予習しましょう。2回目は読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。グループやペアワークが中心となりますが、講師が適宜説明やアドバイスをしています。

学習内容の理解を確認・復習するための試験を学期中に2回行います。ライティング課題は講師が添削して返却し、小テスト・試験は解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Becoming a World Heritage Site ① CHAPTER10	記事の読解、英語の文章の構成
2	Becoming a World Heritage Site ② CHAPTER10	記事の読解、Thesis Statement
3	Driverless Cars ① CHAPTER11	記事の読解、Main Point
4	Driverless Cars ② CHAPTER11	記事の読解、Topic Sentence

5	The Lay-Judge System in Japan ① CHAPTER12	記事の読解、Supporting Sentence
6	The Lay-Judge System in Japan ② CHAPTER12	記事の読解、Concluding Sentence
7	中間試験	試験の実施、解説、復習
8	Artificial Intelligence ① CHAPTER13	記事の読解、要約
9	Artificial Intelligence ② CHAPTER13	記事の読解、要約
10	Life-prolonging Treatment ① CHAPTER14	記事の読解、意見を表現する
11	Life-prolonging Treatment ② CHAPTER14	記事の読解、意見を表現する
12	Trusting Statistics ① CHAPTER15	記事の読解、要約、意見を表現する
13	Trusting Statistics ② CHAPTER15	記事の読解、要約、意見を表現する
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。また、講師の指示に従って授業で読んだ英文の要約や、そのトピックに関する意見を短い英文で書いてきてもらうこともありです。期末試験は普段の予習と、テスト前の復習をしっかりとすれば確実に得点できるはずで。

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント *授業には必ず辞書を持参してください。

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 15%、ライティング課題 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が4回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

講師による文法事項や本文内容の解説に昨年度よりも少し長い時間をかけ、学生の理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやスマートフォン、タブレットを使用します。詳細は授業で指示します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will learn paragraph structure (e.g. Introduction/Body/Conclusion, Thesis Statement, and Topic Sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

宇野 毅

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・現代英語の総合的学力向上
- ・平易な英文を読んで、背後にある文化的な事柄を的確に理解する。

【到達目標】

- ・日英文化に関する平易なエッセイを読んで、その中に出てくる文化事象の違いを習得できるように、日英比較文化論の見地からも授業を進める。
- ・本講義では、英語を通してその背後にある社会や文化を修得して、グローバルな異文化の世界に対応できるようになることが、究極的な到達目標といえるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・受講生諸君は、必ず予習をして忘れずに辞書を持参する事。次週の学習範囲の予習が毎週の宿題である。出席は極めて重要であるが、教室にいるだけでは出席にはならないので、注意が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Chapter 1 Trainspotting (前半)	イギリスの鉄道： 本文理解・解説 意見交換
第2回	Chapter 1 Trainspotting (後半)	鉄道事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第3回	Chapter 2 Pedal Power (前半)	イギリスの自転車事情 本文理解・解説 意見交換
第4回	Chapter 2 Pedal Power (後半)	自転車利用の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第5回	Chapter 3 Crime and Punishment (前半)	イギリスの犯罪事情 本文理解・解説 意見交換
第6回	Chapter 3 Crime and Punishment (後半)	犯罪事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第7回	Chapter 4 Power to the People (前半)	イギリス人の権利 本文理解・解説 意見交換
第8回	Chapter 4 Power to the People (後半)	権利意識の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第9回	Chapter 5 Please, Belt Up! (前半)	イギリスの自動車事情 本文理解・解説 意見交換

第10回	Chapter 5 Please, Belt Up! (後半)	自動車事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第11回	Chapter 6 Rise of the Vending Machines (前半)	イギリスの自動販売機は？ 本文理解・解説 意見交換
第12回	Chapter 6 Rise of the Vending Machines (後半)	自動販売機の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第13回	Chapter 7 Lovely Day, Isn't It? (前半)	英国の気候 本文理解・解説 意見交換
第14回	Chapter 7 Lovely Day, Isn't It? (後半)	気候の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業出席には、必ず予習が必須である。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて【最低でも】2時間を標準とする。
- ・(できれば紙の)辞書持参も必須である。

【テキスト（教科書）】

Your Japan, My Japan『わかる日本と不思議な日本』（南雲堂）

【参考書】

『(増補版)現代イギリスの社会と文化 ゆとりと思いやりの国』（彩流社）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点40点・期末試験等60点を基準として評価する。
- ・原則として、欠席が4回以上の場合は、単位修得を認めない事になっている。

【学生の意見等からの気づき】

- ・真面目にきちんと努力した人が報われる。

【Outline and objectives】

- ・ Perfect understanding of the English Language and culture
- ・ Improvement of the English 4 skills

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

宇野 毅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語19組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・現代英語の総合的学力向上。
- ・平易な英文を読んで、背後にある文化的な事柄を的確に理解する。

【到達目標】

- ・日英文化に関する平易なエッセイを読んで、その中に出てくる文化事象の違いを習得できるように、日英比較文化論の見地からも授業を進める。
- ・本講義では、英語を通してその背後にある社会や文化を修得して、グローバルな異文化の世界に対応できるようになることが、究極的な到達目標といえるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・受講生諸君は、必ず予習をして忘れずに辞書を持参する事。次週の学習範囲の予習が毎週の宿題である。出席は極めて重要であるが、教室にいるだけでは出席にはならないので、注意が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Chapter 8 The Graduate 前半	英語圏の卒業式 本文理解・解説 意見交換
第2回	Chapter 8 The Graduate 後半	卒業式の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第3回	Chapter 9 A Change for the Worse 前半	欧米人の食事傾向 本文理解・解説 意見交換
第4回	Chapter 9 A Change for the Worse 後半	食事の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第5回	Chapter 10 Is Bigger Always Better? 前半	車の環境問題 本文理解・解説 意見交換
第6回	Chapter 10 Is Bigger Always Better? 後半	日英環境比較 内容確認・問題練習 まとめ
第7回	Chapter 11 The Land of the Loudspeaker 前半	イギリスの選挙 本文理解・解説 意見交換
第8回	Chapter 11 The Land of the Loudspeaker 後半	日英政治比較 内容確認・問題練習 まとめ
第9回	Chapter 12 Taxi! 前半	欧米のタクシー事情 本文理解・解説 意見交換
第10回	Chapter 12 Taxi! 後半	日英タクシー事情比較 内容確認・問題練習 まとめ

第11回	Chapter 13 Responsible Sleeping 前半	仕事と睡眠 本文理解・解説 意見交換
第12回	Chapter 13 Responsible Sleeping 後半	日英ライフワークバランス比較 内容確認・問題練習 まとめ
第13回	Chapter 14 That's Rubbish! 前半	イギリスの環境問題 本文理解・解説 意見交換
第14回	Chapter 14 That's Rubbish! 後半	日英環境問題比較 内容確認・問題練習 まとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業出席には、必ず予習が必須である。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて【最低でも】2時間を標準とする。
- ・(できれば紙の)辞書持参も必須である。

【テキスト（教科書）】

Your Japan, My Japan『わかる日本と不思議な日本』（南雲堂）

【参考書】

『現代イギリスの社会と文化 ゆとりとおもいやりの国』（彩流社）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点40点・期末試験等60点を基準として評価する
- ・原則として、欠席が4回以上の場合、単位修得を認めない事になっている。

【学生の意見等からの気づき】

- ・真面目にきちんと努力した人が報われる。

【Outline and objectives】

- ・ Perfect understanding of English Language and culture
- ・ Improvement of the English 4 skill

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文1年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

- 1) 英語の運用能力
より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。
- 2) 文化理解
世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。
- 3) 分からないことを調べる姿勢
さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

以下授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分けます。

① オンデマンド型による課題提出と説明

以下の問題を各自解いて Hoppii の「テスト・アンケート」機能より回答を提出し、採点后フィードバックとして解答、解説を示した文書をアップし、それを見て自ら学習してもらおう。締切は各授業の翌日正午とする予定。授業時間 100 分中 40 分の分として設定。

前半の回：

TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2

後半の回：

TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4

② 対面式授業による演習

以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。※時間は 60 分とし、10:40～11:40 に行う予定。また、大学の方針により教室での対面形式で実施できない場合は同時間帯に Zoom で授業を行う予定。

前半の回：

・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習

・CNN のテキスト各 Unit 中、Before listening の演習

後半の回：

CNN のテキスト各 Unit 中、Listening と After listening の演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明

2	TOEIC® テキスト Unit 1 前半+ CNN テキスト Unit 1 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Void Found in Giza's Great Pyramid のリーディング
3	TOEIC® テキスト Unit 1 後半+ CNN テキスト Unit 1 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Void Found in Giza's Great Pyramid のリスニング、リーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 2 前半+ CNN テキスト Unit 2 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Railway Apologizes for 20-Second Error のリーディング
5	TOEIC® テキスト Unit 2 後半+ CNN テキスト Unit 2 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Railway Apologizes for 20-Second Error のリスニング、リーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 3 前半+ CNN テキスト Unit 3 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Observers Report Nine-Hour Rainbow のリーディング
7	TOEIC® テキスト Unit 3 後半+ CNN テキスト Unit 3 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Observers Report Nine-Hour Rainbow のリスニング、リーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 4 前半+ CNN テキスト Unit 4 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Death of Chef Paul Bocuse のリーディング
9	TOEIC® テキスト Unit 4 後半+ CNN テキスト Unit 4 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Death of Chef Paul Bocuse のリスニング、リーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 5 前半+ CNN テキスト Unit 5 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + KFC Runs Out of Chicken のリーディング
11	TOEIC® テキスト Unit 5 後半+ CNN テキスト Unit 5 後半	資格試験問題を使ったリスニング + KFC Runs Out of Chicken のリスニング、リーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 6 前半+ CNN テキスト Unit 6 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Pope Disallows Death Penalty のリーディング
13	TOEIC® テキスト Unit 6 後半+ CNN テキスト Unit 6 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Pope Disallows Death Penalty のリスニング、リーディング
14	レポートあるいは試験	授業で扱った内容を範囲としたレポートあるいは試験、まとめと解説

【テキスト（教科書）】

30-Second CNN Short News: Culture and Society in a Changing World, Yasushi Mano 編著, (朝日出版社, 2021 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著,(成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テストや学期末試験（あるいはレポート）を 70 %、平常点を 30 % とし、総合的に評価する。対面授業（あるいは Zoom 授業）で出欠を取り、欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各授業後に TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の問題を解き Hoppii より提出し、採点后、解答・解説を読み復習すること。また、対面授業の内容も含め、授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分けます。

① オンデマンド型による課題提出と説明

以下の問題を各自解いて Hoppii の「テスト/アンケート」機能より回答を提出し、採点后フィードバックとして解答、解説を示した文書をアップし、それを見て自ら学習してもらう。締切は各授業の翌日正午とする予定。授業時間 100 分中 40 分の分として設定。

前半の回：

TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2

後半の回：

TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4

② 対面式授業による演習

以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。※時間は 60 分とし、10:40~11:40 に行う予定。また、大学の方針により教室での対面形式で実施できない場合は同時時間帯に Zoom で授業を行う予定。

前半の回：

・ TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習

・ CNN のテキスト各 Unit 中、Before listening の演習

後半の回：

CNN のテキスト各 Unit 中、Listening と After listening の演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明

2	TOEIC® テキスト Unit 7 前半+ CNN テキスト Unit 7 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + New Zealand's "First Baby" at the UN のリーディング
3	TOEIC® テキスト Unit 7 後半+ CNN テキスト Unit 7 後半	資格試験問題を使ったリスニング + New Zealand's "First Baby" at the UN のリスニング、リーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 8 前半+ CNN テキスト Unit 8 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Rare Appearance of "Living Goddess" のリーディング
5	TOEIC® テキスト Unit 8 後半+ CNN テキスト Unit 8 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Rare Appearance of "Living Goddess" のリスニング、リーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 9 前半+ CNN テキスト Unit 9 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Adventurer Swims around Britain のリーディング
7	TOEIC® テキスト Unit 9 後半+ CNN テキスト Unit 9 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Adventurer Swims around Britain のリスニング、リーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 10 前半+ CNN テキスト Unit 10 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Emperor's Final New Year's Speech のリーディング
9	TOEIC® テキスト Unit 10 後半+ CNN テキスト Unit 10 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Emperor's Final New Year's Speech のリスニング、リーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 11 前半+ CNN テキスト Unit 11 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Better Investment with Gender Balance のリーディング
11	TOEIC® テキスト Unit 11 後半+ CNN テキスト Unit 11 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Better Investment with Gender Balance のリスニング、リーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 12 前半+ CNN テキスト Unit 12 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Taiwan's First Same-Sex Marriages のリーディング
13	TOEIC® テキスト Unit 12 後半+ CNN テキスト Unit 12 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Taiwan's First Same-Sex Marriages のリスニング、リーディング
14	レポートあるいは試験	授業で扱った内容を範囲としたレポートあるいは試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各授業後に TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の問題を解き Hoppii より提出し、採点后、解答・解説を読み復習すること。また、対面授業の内容も含め、授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト（教科書）】

30-Second CNN Short News: Culture and Society in a Changing World, Yasushi Mano 編著, (朝日出版社, 2021 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テストや学期末試験（あるいはレポート）を 70 %、平常点を 30 % とし、総合的に評価する。対面授業（あるいは Zoom 授業）で欠席を取り、欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は 3 技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、イギリス公共放送 BBC の映像付き記事から 15 トピックが精選され、それぞれに Vocabulary Build-Up や Composition Exercise などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴し、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。課した宿題をその都度点検し、必要に応じて指導します。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 "Less Plastic at Glastonbury"[マイボトルでエコなフェスを満喫!] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 1 "Less Plastic at Glastonbury"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 3 回	Unit 2 "One Way to Find a Job"[新しい就活の形] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Unit 2 "One Way to Find a Job"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。

第 5 回	Unit 3 "Sport for Musicians"[スポーツ音楽の意外な関係?] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしませす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 3 "Sport for Musicians"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Unit 4 "A Healthy Supermarket"[スーパーのレイアウトで、肥満を減らせる?] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしませす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Unit 4 "A Healthy Supermarket"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 10 回	Unit 5 "Van Gogh's London House"[ゴッホが過ごしたロンドンの家] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしませす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Unit 5 "Van Gogh's London House"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 12 回	Unit 6 "Esports Scholarships"[e スポーツで奨学金] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしませす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Unit 6 "Esports Scholarships"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他編著『British News Update 3 一映像で学ぶイギリス公共放送の最新ニュース』（金星堂、2021 年）2700 円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、ほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

萩原 真一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、イギリス公共放送 BBC の映像付き記事から 15 トピックが精選され、それぞれに **Vocabulary Build-Up** や **Composition Exercise** などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴し、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事をパラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。課した宿題をその都度点検し、必要に応じて指導します。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 7 "Snow Camp"	DVD を活用して Watch の項の [スキーで恵まれない若者にチャンス] ①
第 2 回	Unit 7 "Snow Camp" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 3 回	Unit 8 "Fighting Parkinson's with Ballet"	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。①

第 4 回	Unit 8 "Fighting Parkinson's with Ballet" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 5 回	Unit 9 "The Battersea Academy" [イギリス発、犬猫レスキュー講座に世界が注目] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 9 "The Battersea Academy" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Unit 10 "Students in Poverty" [貧困学生を救う学内フードバンク] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Unit 10 "Students in Poverty" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 10 回	Unit 11 "The Importance of Creative Subjects" [軽視されるアート科目] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Unit 11 "The Importance of Creative Subjects" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 12 回	Unit 12 "New Rules for Drones" [急増するドローンに対策を] ①	DVD を活用して Watch の項の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Unit 12 "New Rules for Drones" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他編著『British News Update 3—映像で学ぶイギリス公共放送の最新ニュース』（金星堂、2021 年）2700 円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45点）と期末試験（45点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10点）を勘案した上で、100点満点に換算した基準点を割り出し、ほぼ60点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業にするように心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語22組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本の歴史について英語で考察します。グローバル化が進む今日において、自分の生まれた国の歴史や文化について英語で外国の人に紹介できることは必須の教養と言えます。学生は、毎回の授業で、3～5パラグラフからなる、日本の歴史に関する英語のエッセイを読みます。エッセイは各パラグラフ40～150wordsの英文で構成されており、全部で300～400words程度の長さです。日本語でよく知っている概念が英語でどのように表現されるかを知ることには、純粋な知的喜びがあり、日本語英語双方に対する理解を深めます。学生は、本授業を通じて、英文読解力のみならず、自らの歴史・文化について英語を用いて積極的に発信していく主体者としての意識を身に着けます。

【到達目標】

学生は、本授業を通じて以下の能力を身に付けることを目標とします。

- ① 300～400words程度の英文を読んで、細部から全体の流れまで正しく読み取ることができる。
- ② 文化や歴史、日常生活に関わる基本的な英単語・英語表現を覚える。
- ③ 日本の文化や歴史への理解を深め、それを文法的に正しい英語で発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。

授業は演習形式で進めます。

1回の授業で1つのChapterを進めていきます。

各Chapterの英文エッセイを、センテンスごとに読んで要約し、発表をしてもらいます。時間があれば、各Chapter末のExercisesにも取り組みます。

Reviewの回では、英文ライティング指導を行います。前期に読んだ内容のなかで、学生が興味を持った内容について、英文レポートを書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4月12日	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明。
4月19日	Chapter 1: The Jomon Period	リーディング：縄文時代について
4月26日	Chapter 2: The Yayoi Period	リーディング：弥生時代について
5月10日	Chapter 3: The Tumulus Period	リーディング：古墳時代について
5月17日	Chapter 4: The Asuka Period (Part 1)	リーディング：飛鳥時代について（前半）
5月24日	Chapter 5: The Asuka Period (Part 2)	リーディング：飛鳥時代について（後半）

5月31日	Chapter 6: The Nara Period	リーディング：奈良時代について
6月7日	Chapter 7: The Heian Period	リーディング：平安時代について
6月14日	Chapter 8: The End of the Heian Period and the Rise of the Bushi (Sanurai)	リーディング：平安時代の終わりと武士の勃興
6月21日	Chapter 9: The Kamakura Period (Part 1)	リーディング：鎌倉時代について(前半)
6月28日	Chapter 10: The Kamakura Period (Part 2)	リーディング：鎌倉時代について(後半)
7月5日	Review (1)	春学期の学習内容の復習。 ライティング指導。
7月12日	Review (2)	春学期の学習内容の復習。 ライティング指導。 ライティング発表。
7月19日	春学期末筆記試験	春学期の学習到達度確認のための筆記試験

It will be exciting for students to learn Japanese history in English because it will widen and broaden their understanding of history of their homeland, improving both of their English and Japanese language skills. Through this course, students will not only improve their English reading skill but also cultivate their sense of global citizens who actively send messages about their own cultures and history to foreigners in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

1 授業で1つの Chapter を進めていきます。英文は 300～400words 程度で、これを1回の授業で消化するには、事前学習として reading の内容に目を通し、分からない語を調べておくことが欠かせません。

復習は特に指定しませんが、授業内時間に終わらなかった Exercises を宿題として出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

教科書名：The General History of Japan（英語で学ぶ『日本の歴史』）

著者名：五十嵐昭人

出版社：英宝社

出版年：2016年

価格：2000円（税別）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、学期末筆記試験 60 点、計 100 点満点で評価します。
平常点は、毎回の要約発表、宿題の提出などを評価します。
欠席が 4 回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

リーディング授業であっても、グループワークを積極的に取り入れ、学生同士が教えあい学びあう機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Zoom を併用して授業を行います。
資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用します。
Zoom 入室のためのパスワード等も、学習支援システムを通じて告知しますので、必ず学習支援システムを確認してください。
他のクラスの対面授業のために大学にいる学生は、割り当てられた大学の教室から Zoom 授業を受けることになります。その際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

大学の教室で授業を受ける学生は、間隔を開けた着席、教室内の換気を行う必要があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will discuss Japanese history in English. It is supposed to be an essential literacy for global citizens to be able to introduce their own history and cultures to foreigners in English today. Students will read an essay written about Japanese history in every class. Each essay is made up of 3 to 5 paragraphs, and each paragraph is made up of 40 to 150 words. In a word, students will read an essay of 300 to 400 words in every class.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本の歴史について英語で考察します。グローバル化が進む今日において、自分の生まれた国の歴史や文化について英語で外国の人に紹介できることは必須の教養と言えます。学生は、毎回の授業で、3～5 パラグラフからなる、日本の歴史に関する英語のエッセイを読みます。各パラグラフは 40～150words の英文で構成されており、全部で 300～400words 程度の長さです。日本語でよく知っている概念が英語でどのように表現されるかを知ることには、純粋な知的喜びがあり、日本語英語双方に対する理解を深めます。学生は、本授業を通じて、英文読解力のみならず、自らの歴史・文化について英語を用いて積極的に発信していく主体者としての意識を身に着けます。

【到達目標】

学生は、本授業を通じて以下の能力を身に付けることを目標とします。

- ① 300～400words 程度の英文を読んで、細部から全体の流れまで正しく読み取ることができる。
- ②文化や歴史、日常生活に関わる基本的な英単語・英語表現を覚える。
- ③日本の文化や歴史への理解を深め、それを文法的に正しい英語で発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

授業は演習形式で進めます。

1 回の授業で 1 つの Chapter を進めていきます。

各 Chapter の英文エッセイを、センテンスごとに読んで要約し、発表をしてもらいます。時間があれば、各 Chapter 末の Exercises にも取り組みます。

Review の回では、英文ライティング指導を行います。前期に読んだ内容のなかで、学生が興味を持った内容について、英文レポートを書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9 月 26 日	Chapter 11: The Muromachi Period (Part 1)	室町時代について（前半） 建武の新政から北山文化まで
10 月 3 日	Chapter 12: The Muromachi Period (Part 2)	室町時代について（後半） 応仁の乱から戦国時代まで
10 月 17 日	Chapter 13: The Azuchi-Momoyama Period (Part 1)	安土桃山時代について（前半） 織田信長の統治
10 月 24 日	Chapter 14: The Azuchi-Momoyama Period (Part 2)	安土桃山時代について（後半） 豊臣秀吉の統治
10 月 31 日	Chapter 15: The Edo Period (Part 1)	江戸時代について① 関ヶ原の戦いから鎖国まで

11 月 1 日	Chapter 16: The Edo Period (Part 2)	江戸時代について② 江戸時代前半の政治・文化
11 月 8 日	Chapter 17: The Edo Period (Part 3)	江戸時代について③ 江戸時代後半の政治・文化
11 月 15 日	Chapter 18: The Edo Period (Part 4)	江戸時代について④ 幕末と開国
11 月 22 日	Chapter 19: The Meiji Period (Part 1)	明治時代について① 明治維新
11 月 29 日	Chapter 23: The Meiji Period (Part 2)	明治時代について② 文明開化と帝国議会
12 月 5 日	Chapter 24: The Meiji Period (Part 3)	明治時代について③ 明治時代の文学
12 月 12 日	Review (1)	秋学期の学習内容の復習。 英文ライティング指導。
12 月 19 日	Review (2)	秋学期の学習内容の復習。 英文ライティング指導。 ライティング発表。

1 月 17 日 秋学期末筆記試験

秋学期の学習到達度確認のための筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

1 授業で 1 つの Chapter を進めていきます。英文は 300～500words 程度。これを 1 回の授業で消化するには、事前学習として reading の内容に目を通し、分からない語を調べておくことが欠かせません。

復習は特に指定しませんが、授業内時間に終わらなかった Exercises を宿題として出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

教科書名： Twenty-Six Short Essays on English（英語についての 26 章）

著者名： Naoyuki Akaso, William Herlofsky, Katsumasa Shimizu

出版社：英宝社

出版年：2013 年

価格：1900 円（税別）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、学期末筆記試験 60 点、計 100 点満点で評価します。平常点は、毎回の要約発表、宿題の提出などを評価します。欠席が 4 回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

リーディング授業であっても、グループワークを積極的に取り入れ、学生同士が教えあい学びあう機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Zoom を併用して授業を行います。資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用します。Zoom 入室のためのパスワード等も、学習支援システムを通じて告知しますので、必ず学習支援システムを確認してください。他のクラスの対面授業のために大学にいる学生は、割り当てられた大学の教室から Zoom 授業を受けることになります。その際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

大学の教室で授業を受ける学生は、間隔を開けた着席、教室内の換気を行う必要があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will discuss Japanese history in English. It is supposed to be an essential literacy for global citizens to be able to introduce their own history and cultures to foreigners in English today. Students will read an essay written about Japanese history in every class. Each essay is made up of 3 to 5 paragraphs, and each paragraph is made up of 40 to 150 words. In a word, students will read an essay of 300 to 400 words in every class.

It will be exciting for students to learn Japanese history in English because it will widen and broaden their understanding of history of their homeland, improving both of their English and Japanese skills. Through this course, students will not only improve their English reading skill but also cultivate their sense of global citizens who actively send messages about their own cultures and history to foreigners in English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英国の社会・文化について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションやライティングを行う。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

授業は基本的に zoom で行い、試験のみ対面で行う。zoom 等の詳細については、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Multi-Cultural UK
2	Chapter 2	English Gardens
3	Chapter 3	The British Royal Family
4	Chapter 4	Education in the UK
5	Chapter 5	Eating in Britain
6	Chapter 6	Health & the Medical System
7	Chapter 7	Music & Fashion
8	Chapter 8	Tourism
9	Chapter 9	Post Brexit Britain
10	Chapter 10	Leisure & Sport in the UK
11	Chapter 11	The British Empire
12	Chapter 12	Media in the UK
13	Chapter 13	Regions of Britain
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Warm-up に取り組み、Reading1 および 2 のテキストを読み、訳してくる。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

James C. House、三好道子『Modern Britain: Culture, Society and History/現代英国の文化・社会・歴史』（南雲堂、2021年）、2000円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

試験 70%

4回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern Britain.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1単位

文1年：英語 23組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションやライティングを行う。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

授業は基本的に zoom で行い、試験のみ対面で行う。zoom 等の詳細については、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	America's Easter Tradition
2	Chapter 2	America's Inner-city Music
3	Chapter 3	African American Music
4	Chapter 4	The American Academy of Motion Picture Arts and Sciences
5	Chapter 5	American Fashion
6	Chapter 6	American Universities
7	Chapter 7	American Social Networking
8	Chapter 8	American Innovators and Innovation
9	Chapter 9	American Football
10	Chapter 10	Hollywood
11	Chapter 11	Walt Disney
12	Chapter 12	Historic Route 66
13	Chapter 13	American Fast Food
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Warm-up に取り組み、Reading1 および 2 のテキストを読み、訳してこよう。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に読みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないうか明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

Ryan Smithers, Craig Gamble 『Modern America: Culture, Society and History/現代米国の文化・社会・歴史』（南雲堂、2021年）、2000円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

試験 70%

4回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1単位

文1年：英語 24組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に効果的な英語のリーディングについて学びます。みなさんは、教科書のトピックに関してみなさんの考えを英語で話したり、書いたりして表現し、クラスの人と意見交換をし、多様な視点を学ぶことを目標とします。この授業では、英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を統合的に学習します。

【到達目標】

You will try to achieve these three goals :1) to learn reading strategies such as skimming, scanning, summarizing, paraphrasing or inferencing; 2) to develop an English vocabulary; and 3) to learn and practice summary writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- 1) You will take a quiz of vocabulary and summary writing of your reading assignments.
- 2) You will practice overshadowing text.
- 3) You will do a lot of pair work and group work.
- 4) You need to bring an English-English dictionary.
- 5) You will discuss the topic of each Chapter with your classmates.
- 6) I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Setting Goals Self-Introduction (Writing)	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself in English. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Self-Introduction (Speaking) Chapter 1	You will introduce yourself to your classmates. The Youngsters Behind YouTube
3	Chapter 1	The Youngsters Behind YouTube Skimming Topic Sentence
4	Chapter 2	Review of Skimming and Topic Sentence When to Use Female Nouns
5	Chapter 2	Supporting Sentence
6	Chapter 3	Review of Reading Strategies Your Negative Attitude Can Hurt Your Career
7	Chapter 3	Scanning

8	Chapter 4	The Colorful World of Synesthesia
9	Chapter 4	Review of Reading Strategies Inferences
10	Chapter 5	What is Creative Thinking?
11	Chapter 5	Review of Reading Strategies
12	Chapter 6	Listen Up
13	Chapter 6	Transitional Markers
14	Review Reflection	You will review what you learn in this course. You will reflect on your academic performance and set your goals for your summer vacation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read every week reading assignment and look up words and phrases you don't know in the dictionary
 - 2) to prepare for quizzes for each Chapter.
 - 3) to watch or listen to an English program regularly
 - 4) to practice overshadowing text every week
 - 5) to do assignments, submit them, and meet the deadline
- University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Lee, L., & Bernard J. (2011). Upper-Intermediate Select Readings: Teacher-approved readings for today's students. (2nd. Ed.). Oxford University Press.

*You should buy the SECOND edition of the textbook.

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), quizzes (10%), assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Most of my students who took this course seemed to be satisfied with this class. I would like to make this course more effective for students' English learning.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Online Learning System)

【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class. Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline and objectives】

You will mainly learn effective English reading in this class. You will express (speak and write) your thought of topics in the textbook in English and exchange them with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に英語の効果的なリーディングについて学びます。授業では、教科書のトピックに関してみなさんの考えを英語で話したり、書いたりして、クラスの人と意見交換をすることで、多様な視点を学ぶことを目標とします。この授業では、英語の4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を統合的に学習します。

【到達目標】

You will try to achieve these three goals: 1) to learn reading strategies such as skimming, scanning, summarizing, paraphrasing or inferencing; 2) to develop an English vocabulary; and 3) to learn and practice summary writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- 1) You will take a quiz of vocabulary and summary writing of your reading assignments.
- 2) You will practice overshadowing text.
- 3) You will do a lot of pair work and group work.
- 4) You need to bring an English-English dictionary.
- 5) You will discuss the topic of each Chapter with your classmates.
- 6) I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of Spring Semester Reflection on your study in the spring semester Introduction of this course	You will review and reflect on your study in the spring semester. I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this course.
2	Chapter 7	Student Won't Give Up Their French Fries
3	Chapter 7	You will continue to study Chapter 7. Summarizing
4	Chapter 8	Why I Quit the Company
5	Chapter 8	You will continue to study Chapter 8. Paraphrasing
6	Chapter 9	East Meets West on Love's Risky Cyberhighway
7	Chapter 9	You will continue to study Chapter 9. Points of View

8	Chapter 10	Don't Let Stereotypes Warp Your Judgment
9	Chapter 10	You will continue to study Chapter 10.
10	Chapter 11	The Art of Reading
11	Chapter 11	You will continue to study Chapter 11.
12	Chapter 12	When E.T. Calls
13	Chapter 12	You will continue to study Chapter 12.
14	Review Self-Reflection	You will review what you have learned in this class and discuss impressive chapters with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read every week reading assignment and look up words and phrases you don't know in the dictionary
 - 2) to prepare for quizzes for each Chapter
 - 3) to watch or listen to an English program regularly
 - 4) to practice overshadowing text every week
 - 5) to do assignments, submit them, and meet the deadline
- University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Select Readings (2nd Edition). Upper-Intermediate

Authors: Linder Lee, and Jean Bernard

Publisher: Oxford University Press

Publishing Year: 2011

*You should buy the SECOND edition of the textbook.

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), quizzes (10%), assignments (10%), and final examinations (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Most of my students who took this course seemed to be satisfied with this class. I would like to make this course more effective for students' English learning.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Online Learning System)

【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class.

【Outline and objectives】

You will mainly learn effective English reading in this class. You will express (speak and write) your thought of topics in the textbook in English and exchange them with your classmates. This course aims to enhance your English holistically.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。

毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるための小テストおよびリアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

※この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンライン（Zoomまたは学習支援システム）の週があります。大学の行動方針レベルが2となった場合には、原則としてオンラインとします。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習復習の仕方、辞書の活用法、などについて Unit 1 の冒頭を用いて説明する。
2	Unit 1 The Concept of Beauty「美」の概念 <前半>	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
3	Unit 1 <後半>	第 4～7 パラグラフ、および練習問題

4	Unit 2 Greek Mythology – – Stories of Gods and Humans ギリシア神話——— 神々と人間の物語 <前半>	第 1~3 パラグラフ、および練習 問題
5	Unit 2 <後半>	第 4~7 パラグラフ、および練習 問題
6	Unit 3 The Bible -- Mainstay of Christianity 聖書———キリスト 教の支柱 <前半>	第 1~4 パラグラフ、および練習 問題
7	Unit 3 <後半>	第 5~6 パラグラフ、および練習 問題
8	復習・補足	前半：Unit 1~3 の復習。 後半：Unit 1~3, 4~7 の補足・ 発展（事前に指示・配付した教材 に基づく）。
9	Unit 4 Renaissance -- Transcending Cultural Movements ルネサンス——— ジャンルを横断する ムーブメント <前半>	第 1~4 パラグラフ、および練習 問題
10	Unit 4 <後半>	第 5~6 パラグラフ、および練習 問題
11	Unit 7 The English Language 英語の変遷 <前半>	第 1~5 パラグラフ、および練習 問題
12	Unit 7 <後半>	第 6~7 パラグラフ、および練習 問題
13	復習・復習試験	前半：Unit 1~3, 4~7 の復習、 補足 後半：復習試験
14	Unit 5 The Structure of Fictional Literature/ Unit 6 The Theater and Acting（各自ど ちらかを選択）	各自のレポートに基づく、グルー プワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須である。
教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所を印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や章末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合もある。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton / 小田 島 恒 志,
TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity,
Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ—響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。
毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の小テスト・リアクションペーパー 40 %、レポート 10 %）、復習試験 50 % の成績の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の「学び合い」の時間を設けることが重要であるとわかったので、ペア/グループワークを効果的にとりいれたい。
質問・発言のしやすい環境を作る。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom による授業を大学で受けるときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意してください。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook which discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。

毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるための小テストおよびリアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

※この授業は、適宜、オンライン（Zoom または学習支援システム）による実施の週を設けます。大学の行動方針レベルが2となった場合には、原則としてオンライン授業のみとします。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8 The Rise of Cities 都市の隆盛	全文、および練習問題 (授業の最後にレポート①として提出)
2	Unit 9 Trusting in Recorded History 歴史という記録の信頼性 <前半>	第 1~3 段落、および練習問題
3	Unit 9 <後半>	第 4~8 段落、および練習問題
4	Unit 11 How Democracy Works 民主主義という制度 <前半>	第 1~2 段落、および練習問題

5	Unit 11 <後半>	第 3~6 段落、および練習問題
6	復習、補足	前半：Unit 8, 9, 11 の復習。 後半：Unit 8~14 の補足・発展 (事前に指示・配付した教材に基づく。)
7	Unit 12 Marriage and the State 結婚と国家 <前半>	第 1~3 段落、および練習問題
8	Unit 12 <後半>	第 4~5 段落、および練習問題
9	Unit 13 The Meaning of Prayers 「祈り」のもつ意味 <前半>	第 1~3 段落、および練習問題
10	Unit 13 <後半>	第 4~5 段落、および練習問題
11	Unit 15 The Importance of Discipline 「しつけ=規律」の重要性 <前半>	第 1~3 段落、および練習問題
12	Unit 15 <後半>	第 4~6 段落、および練習問題
13	復習・復習試験	前半：Unit 8, 9, 11, 12, 13, 15 の復習、補足 後半：復習試験
14	・Unit 10 Battles on Board Games 盤上の戦い—— チェス/将棋/チャトランガ… ・Unit 14 Mankind and Laughter 笑いとは人間 (各自どちらかを選択)	各自のレポート②に基づくグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所を印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や巻末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

補助教材については、本文の予習のほか、予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合がある。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton/小田島恒志, TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity, Kinseido, 2017. [『多元文化論 エッセイ——響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。

毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の小テスト・リアクションペーパー 40 %、および、提出物 2 回計 10 %）、および復習試験 50 % の成績の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

ペア/グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境を作る。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook which discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。音読練習を徹底的に行った上で、読んだ内容を相手に伝えるリテリング（＝再話）の練習へと発展させる。この訓練を繰り返すことによって、まとまった情報を効果的に伝える能力を身につけることができるようになる。また、学習内容のトピックについて、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読やリテリングは、ペア/グループで互いの成果をチェックしてもらい、提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。学期末には音読発表を行い、クラスメートの評価を受ける。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声&文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 3 回	Unit 1: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 4 回	Unit 2: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 5 回	Unit 2: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 6 回	Unit 3: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 7 回	Unit 3: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 8 回	Unit 4: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up

第 9 回	Unit 4: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 10 回	Unit 5: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 11 回	Unit 5: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 12 回	Unit 6: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 13 回	Unit 6: Reading & 発表	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story & 口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 90 分程度を標準とします。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90 分程度）
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Pleasure in Reading Aloud and Retelling（金星堂，2019）1800 円（税別）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

Zoom によるリアルタイムの双方向授業を毎回行ったが、通信環境のよくない学生への配慮から接続時間を短縮し、その代わり小テストや課題を行う時間を設けることにした。これにより自律的な学習習慣が身についたのではないかと考えている。本授業以外にリアルタイムの授業がほとんどないことを学生から聞いたので、ペア・グループ同士で話し合ったり考えたりする時間をできるだけ多く取るよう心がけた。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では、学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。Zoom によるリアルタイム配信型の授業では、マイク・カメラのついた PC で参加のこと。なお、大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course expects students to gain an increased critical understanding of various topics and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。音読練習を徹底的に行った上で、読んだ内容を相手に伝えるリテリング（＝再話）の練習へと発展させる。この訓練を繰り返すことによって、まとまった情報を効果的に伝える能力を身につけることができるようになる。また、学習内容のトピックについて、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読やリテリングは、ペア/グループで互いの成果をチェックしてもらう。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。学期末には音読発表を行い、クラスメートの評価を受ける。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 7: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 3 回	Unit 7: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 4 回	Unit 8: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 5 回	Unit 8: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 6 回	Unit 9: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 7 回	Unit 9: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 8 回	Unit 10: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 9 回	Unit 10: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story

第10回	Unit 11: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第11回	Unit 11: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第12回	Unit 12: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第13回	Unit 12: Reading & 発表	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story & 口頭発表とクラスメートによる評価
第14回	期末試験(筆記)	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて90分程度を標準とします。
 ・テキストの予習や英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自立的な学習習慣を身につけて欲しい。(90分程度)
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト(教科書)】

Pleasure in Reading Aloud and Retelling (金星堂, 2019) 1800円(税別)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition(Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(筆記) 60% + 発表 20% + 提出課題 10% + 平常点 10% によって評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格点とする。

欠席が4回以上になった場合は単位修得の資格を失う(ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く)。遅刻・早退3回で欠席1回の扱いとする。授業開始後30分以上の遅刻、および授業終了30分以前の退席は欠席とみなす。

オンライン授業になった場合は、Zoomによるリアルタイム配信型の授業を毎週行う予定である。授業時間に参加できなかった場合は欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

春学期同様、Zoomによるリアルタイムの双方向授業を行なった。音読練習の一環として、学生の録音音声をウェブ上にアップしてクラスメートと共有する活動を行なったところ、クラス全体のレベルが驚くほど上がった。学生の評判も良く、今後も取り入れていきたい活動の1つになった。ただ、評価方法に改善点があることが判明したので変更したい。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生はIDとパスワードを確認しておくこと。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course expects students to gain an increased critical understanding of various topics and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

小田井 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1単位

文1年：英語 27組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造(topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など)およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を

鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

- ・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
- ・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
- ・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

2回で1章のペースで進めていきます。まず授業で扱う内容に関する映像などを視聴し、リスニングエクササイズをするとともに、本文の内容についての基礎知識を学びます。そして本文を1文1文日本語に直し、英文の構造をしっかりと確認しながら、読解を進めます。そして本文の読解後、英語で内容の要約やリアクションペーパーなどを作成します。授業内で回収したもの、中間テストに関しては随時返却し、フィードバックします。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、教科書、評価方法などについて説明。
2	Unit 1 A 20th-century Hero and Icon 前半	マンデラの生涯について映像を視聴、本文の前半を読解
3	Unit 1 A 20th-century Hero and Icon 後半	マンデラの生涯について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
4	Unit 2 From Seaspeak to Singlish 前半	世界で使用される英語について映像を視聴、本文の前半を読解
5	Unit 2 From Seaspeak to Singlish 後半	世界で使用される英語について本文の後半を読解、英作文エクササイズ

6	Unit 3 There's More than Motor Racing and Tax Breaks 前半	マン島について映像を視聴、本文の前半を読解
7	Unit 3 There's More than Motor Racing and Tax Breaks 後半	マン島について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
8	中間テストと解説	Unit 1~3
9	Unit 4 Future Predictions for Artificial Intelligence and Automation 前半	人工知能について映像を視聴、本文の前半を読解
10	Unit 4 Future Predictions for Artificial Intelligence and Automation 後半	人工知能について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
11	Unit 5 Take More Proactive Climate Action 前半	気候変動について映像を視聴、本文の前半を読解
12	Unit 5 Take More Proactive Climate Action 後半	気候変動について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
13	総復習	これまでの総復習をします
14	期末テストと解説	Unit 4、5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を日本語に訳す。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

河原真也、伊藤健一郎『世界を読み解く15の扉』（朝日出版社、2019）

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末テスト 40%、平常点 20%で評価します。
4回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当する授業のため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

The goal of this class is that students will improve literacy in English and get to understand logical passages. In order to achieve the goal, students will read refined articles which were published in newspapers, in magazines or on the Internet. In addition, students will do listening and writing practices.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

小田井 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1単位

文1年：英語 27組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を

鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

- ・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
- ・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
- ・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

2回で1章のペースで進めていきます。まず授業で扱う内容に関する映像などを視聴し、リスニングエクササイズをするとともに、本文の内容についての基礎知識を学びます。そして本文を1文1文日本語に直し、英文の構造をしっかりと確認しながら、読解を進めます。そして本文の読解後、英語で内容の要約やリアクションペーパーなどを作成します。授業内で回収したものの、中間テストに関しては随時返却し、フィードバックします。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 6 UNESCO "Japanese Food" 前半	世界に広がる和食について映像を視聴、本文の前半を読解
2	Unit 6 UNESCO "Japanese Food" 後半	世界に広がる和食について本文の後半を読解、英作文エクササイズ
3	Unit 7 The Origins of Bathhouse Culture around the World 前半	世界の温浴文化について映像を視聴、本文の前半を読解
4	Unit 7 The Origins of Bathhouse Culture around the World 後半	世界の温浴文化について本文の後半を読解、英作文エクササイズ

5	Unit 8 All 155 Aboad Safe as Crippled Jet Crash-Lands in Hudson 前半	ハドソン川の奇跡について映像を 視聴、本文の前半を読解
6	Unit 8 All 155 Aboad Safe as Crippled Jet Crash-Lands in Hudson 後半	ハドソン川の奇跡について本文の 後半を読解、英作文エクササイズ
7	中間テストと解説	Unit 6～8
8	Unit 9 The History of Hanukkah 前半	ユダヤ教のハヌカについて映像を 視聴、本文の前半を読解
9	Unit 9 The History of Hanukkah 後半	ユダヤ教のハヌカについて本文の 後半を読解、英作文エクササイズ
10	Unit 10 Fashion History 前半	ダンディズムについて映像を視 聴、本文の前半を読解
11	Unit 10 Fashion History 前半	ダンディズムについて本文の後半 を読解、英作文エクササイズ
12	Unit 11 A City's Art Biennial Can Be like Watching an Army of Curational Truffle Pigs 前半	ビエンナーレについて映像を視 聴、本文の前半を読解
13	Unit 11 A City's Art Biennial Can Be like Watching an Army of Curational Truffle Pigs 後半	ビエンナーレについて本文の後半 を読解、英作文エクササイズ
14	期末テストと解説	Unit 9～11

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を日本語に訳す。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

河原真也、伊藤健一郎『世界を読み解く15の扉』（朝日出版社、2019）

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末テスト 40%、平常点 20%で評価します。
4回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当する科目なので、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

The goal of this class is that students will improve literacy in English and get to understand logical passages. In order to achieve the goal, students will read refined articles which were published in newspapers, in magazines or on the Internet. In addition, students will do listening and writing practices.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのぼす>
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

<※この授業はハイブリッド型です。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、原則としてオンラインのみでの実施となります。詳細は学習支援システムでお知らせします。>

Zoom 授業（リアルタイム双方向）、学習支援システム（教材提示・課題提出）、（可能な場合）教室対面（受講生の発言を伴わない内容など）、を効果的に組み合わせ実施予定です。具体的にはその都度事前に学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」を通じて確認・連絡します。

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの要旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業内で課題や質問等へのフィードバックやアドバイスをします。学期を通じて身につけた力を、授業、課題、小テスト、プレゼンテーションで発揮する流れになります。

（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (4/12)	イントロダクション Unit 1 Cross-cultural understanding	授業の概要説明。アンケート。リスニング・速読
		リスニング・パート。リーディング・パート導入

2 (4/19)	Cross-cultural understanding リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
3 (4/26)	Unit 2 Foods リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
4 (5/10)	Foods リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
5 (5/17)	Unit 3 Foreign language learning リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
6 (5/24)	Foreign language learning リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
7 (5/31)	Unit 4 Sports リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
8 (6/7)	Sports リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
9 (6/14)	Unit 5 Fashion リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
10 (6/21)	Fashion リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
11 (6/28)	Unit 6 Living things リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
12 (7/5)	Living things リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
13 (7/12)	プレゼンテーション・リハーサル	練習・アドバイス (全体および個別指導)
14 (7/19)	プレゼンテーション。まとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返り・今後の展望 (アンケート)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、(英語およびそれ以外の) 知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推した上で、かならず辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約 (各 1～2 文程度) を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を聴き、音読練習する。(関連教材についてもほぼ同様。) ※課題は指示に沿って期限内に提出する。

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を (テキストを見ながら/見ないで) 聴く、リピート/シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って/書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って/書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。(関連教材についてもほぼ同様。)

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容とプレゼン用 PDF 教材 (学習支援システム) を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。※プレゼン原稿は指示に沿って期限内に事前提出する。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを継続するほど、英語力の伸びが期待されます。

【テキスト (教科書)】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate* (4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編) 金星堂、2,000 円 (税別) (※関連教材は、随時配布・指示します。)

【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略! ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2020 [秋冬]』(朝日出版社)、『「英語モード」でライティング』(講談社)、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力。』、『英語で話す力。』(三修社)、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』(DHC)、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会) ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー (BT3 階) など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習と授業への取り組み・課題・小テスト) 85%、プレゼンテーション 15% の割合で、上記到達目標 (1)～(5) に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失いますので注意してください。特別な理由がある場合は、早めに担当教員に相談・連絡してください。

次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席 / STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習 / STEP ③復習と自習で定着・苦手克服・実力アップ / STEP ④授業・課題・小テスト・プレゼンテーションで成果を發揮

【学生の意見等からの気づき】

英語力を伸ばそうとする個々の継続した取り組みと、意見交換などを通じて互いから刺激を受け学び合う姿勢が印象的でしたので、内容・手法の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす>
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

<※この授業はハイブリッド型です。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、原則としてオンラインのみでの実施となります。詳細は学習支援システムでお知らせします。>

Zoom 授業（リアルタイム双方向）、学習支援システム（教材提示・課題提出）、（可能な場合）教室対面（受講生の発話を伴わない内容など）、を効果的に組み合わせで実施予定です。具体的にはその都度事前に学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」を通じて確認・連絡します。

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの要旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業内で課題や質問等へのフィードバックやアドバイスをを行います。学期を通じて身につけた力を、授業、課題、小テスト、プレゼンテーションで発揮する流れになります。

（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/20)	Unit 7 Art	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
2 (9/27)	Art	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	

3 (10/4)	Unit 8 Global issues	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
4 (10/11)	Global issues	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
5 (10/18)	Unit 9 Japanese culture	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
6 (10/25)	Japanese culture	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
7 (11/1)	Unit 10 Human rights	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
8 (11/8)	Human rights	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
9 (11/15)	Unit 11 Health & medical issues	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
10 (11/22)	Health & medical issues	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
11 (11/29)	Unit 12 Environmental issues	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
12 (12/6)	Environmental issues	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
13 (12/13)	プレゼンテーション・リハーサル	練習・アドバイス（全体と個別指導）
14 (1/17)	プレゼンテーション。まとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返り・今後の展望（アンケート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、（英語およびそれ以外の）知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推した上で、かならず辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約（各 1～2 文程度）を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を読み、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）※課題は指示に沿って期限内に提出する。

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容とプレゼン用 PDF 教材（学習支援システム）を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。※プレゼン原稿は指示に沿って期限内に事前提出する。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを継続するほど、英語力の伸びが期待されます。

【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略！ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2020 [秋冬]』（朝日出版社）、『英語モード』でライティング』（講談社）、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力。』『英語で話す力。』（三修社）、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』（DHC）、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー（BT3 階）など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習と授業への取り組み・課題・小テスト）85%、プレゼンテーション 15%の割合で、上記到達目標（1）～（5）に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失いますので注意してください。特別な理由がある場合は、早めに担当教員に相談・連絡してください。

次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服・実力アップ／STEP ④授業・課題・小テスト・プレゼンテーションで成果を発揮

【学生の意見等からの気づき】

英語力を伸ばそうとする個々の継続した取り組みと、意見交換などを通じて互いから刺激を受け学び合う姿勢が印象的でしたので、内容・手法の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

清水 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 29 組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学習のために特別に撮り下ろした映画を使ったインタラクティブ（相互作用的）な画期的なエデュメント（Education + Entertainment）教材を使って楽しく英語力の向上を目指す。

アメリカの若く美しき美術品泥棒の新しい仕事のハンドルネームは、Olive Green（オリーブ・グリーン）。イギリスに渡ったオリーブは、ある田舎町の邸宅に潜り込み、依頼された絵画を盗もうとする。しかし、そこで彼女が目にしたのは、思いもよらないものだった。その結果、オリーブはロシアのマフィアたちに追われる身となり、華やかに見えた邸宅の過去が次第に明らかになっていく…。

【到達目標】

Olive Green のテキストと映像学習によって、リスニング、スピーキング能力を高め、文法事項を確認して英語技能を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援シ 3 システムでお知らせします

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 3 回の授業で仕上げたい。まずテキストの Warm-up を学習したうえでビデオを見て、Exercises をこなしていく。そして最後にもう一度（二度??）ビデオを見る。

教科書内の音声と映像は朝日出版社のホームページに掲載

フィードバック方法は、授業中に講評を公表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Chapter 1 Job Offer	DVD、Let's Watch から前半
3	Chapter 1 Job Offer	DVD、Grammar 半ば
4	Chapter 1 Job Offer	DVD、Speaking Activities から後半
5	Chapter 2 The Murrays	DVD、Let's Watch から前半
6	Chapter 2 The Murrays	DVD、Grammar 半ば
7	Chapter 2 The Murrays	DVD、Speaking Activities から後半
8	Chapter 3 Old Berry's Best B & B	DVD、Let's Watch から前半
9	Chapter 3 Old Berry's Best B & B	DVD、Grammar 半ば

10	Chapter 3 Old Berry's Best B & B 後半	DVD、Speaking Activities から
11	Unit 4 Homemade Soup and Wine 前 半	DVD、Let's Watch から
12	Unit 4 Homemade Soup and Wine 半 ば	DVD、Grammar
13	Unit 4 Homemade Soup and Wine 後 半	質問、意見交換
14	まとめテストと解説	内容は秘密！しかし学んだこと から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『オリーブ・グリーン ミステリ-ドラマで学ぶ実用英語（CEFR-A1）Olive Green :Learning English through a Mystery Drama (CEFR-A1) 浅利庸子 他著 朝日出版社
ISBN978-4-255-15674-3C1082 ￥2,400+税

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

【成績評価の方法と基準】

2/3以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度(50%)、そして筆記テスト(50%)の総合判断による。60点以上が合格点である。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面授業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。
コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。
教科書の音声と映像は、朝日出版社のHPにアクセスして使用できる。

【Outline and objectives】

The goal is to improve English language skills in a fun way using innovative, interactive (Education + Entertainment) materials with the film *Olive Green* especially shot for English learning persons.

A young, beautiful American art thief's new job handle name is "Olive Green". When Olive travels to England, she sneaks into a country mansion and tries to steal a commissioned painting. But what she sees there is something unexpected. As a result, Olive is pursued by the Russian mafia, and the past of the seemingly glamorous mansion is gradually revealed...

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

清水 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語29組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学習のために特別に撮り下ろした映画を使ったインタラクティブ（相互作用的）な画期的なエデュメント（Education + Entertainment）教材を使って楽しく英語力の向上を目指す。

アメリカの若く美しき美術品泥棒の新しい仕事のハンドルネームは、Olive Green（オリーブ・グリーン）。イギリスに渡ったオリーブは、ある田舎町の邸宅に潜り込み、依頼された絵画を盗もうとする。しかし、そこで彼女が目にしたのは、思いもよらないものだった。その結果、オリーブはロシアのマフィアたちに追われる身となり、華やかに見えた邸宅の過去が次第に明らかになっていく…。

【到達目標】

Olive Green のテキストと映像学習によって、リスニング、スピーキング能力を高め、文法事項を確認して英語技能を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とZoomの週があります。詳細は学習支援シ3システムでお知らせします。

1ユニットで1テーマをなす本テキストを理想的には3回の授業で仕上げたい。まずテキストのWarm-upを学習したうえでビデオを見て、Exercisesをこなしていく。そして最後にもう一度(二度??)ビデオを見る。

教科書内の音声と映像は朝日出版社のホームページに掲載

フィードバック方法は、授業中に講評を公表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点欠欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Chapter 5 Jogging 前半	DVD、Let's Watch から
3	Chapter 5 Jogging 半ば	DVD、Grammar
4	Chapter 5 Jogging 後半	DVD、Speaking Activities から
5	Chapter 6 In the Pub 前半	DVD、Let's Watch から
6	Chapter 6 In the Pub 半ば	DVD、Grammar
7	Chapter 6 In the Pub 後半	DVD、Speaking Activities から
8	Chapter 8 Thistle Flower 前半	DVD、Let's Watch から
9	Chapter 8 Thistle Flower 半ば	DVD、Grammar

10	Chapter 8 Thistle Flower 後半	DVD、Speaking Activities から
11	Unit 9 Making the Plan 前半	DVD、Let's Watch から
12	残りの DVD 鑑賞	DVD+Exercises 見直し
13	残りの DVD 鑑賞	質問、意見交換
14	まとめテストと解説	内容は秘密！しかし学んだことから出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『オリーブ・グリーン ミステリ・ドラマで学ぶ実用英語（CEFR-A1）Olive Green :Learning English through a Mystery Drama (CEFR-A1) 浅利庸子 他著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15674-3C1082 ￥2,400+税

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

【成績評価の方法と基準】

2/3以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度(50%)、そして筆記テスト(50%)の総合判断による。60点以上が合格点である。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面所業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただくと、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。教科書の音声と映像は、朝日出版社のHPにアクセスして使用できる。

【Outline and objectives】

The goal is to improve English language skills in a fun way using innovative, interactive (Education + Entertainment) materials with the film *Olive Green* especially shot for English learning persons.

A young, beautiful American art thief's new job handle name is "Olive Green". When Olive travels to England, she sneaks into a country mansion and tries to steal a commissioned painting. But what she sees there is something unexpected. As a result, Olive is pursued by the Russian mafia, and the past of the seemingly glamorous mansion is gradually revealed...

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文1年：英語 30組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の5技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1章に2～3回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。なお、感染症拡大の状況を鑑みてオンデマンドでのオンライン授業と対面とのハイブリッド形式とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit1	語彙の予習と本文の精読
2	Unit1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit6,7	Unit6 小テスト、Unit7 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

"Guess What?! -Intercultural Surprises-

『世界の衝撃アイテムから学ぶ15の国の文化と人々』

松江夏津紀、飯田泰弘、金田直子、ケン・ウィング・ブーン、横山仁視

南雲堂

2020年 2090円

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト70%

平常点15%

その他提出物15%

とします

なお、4回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるようなPC環境

(音声を用いたリスニングがあるため)

【Outline and objectives】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics about 15 foreign cultures will give you information about different culture.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語30組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の5技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1章に2～3回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Unit14 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

"Guess What?! -Intercultural Surprises-

『世界の衝撃アイテムから学ぶ15の国の文化と人々』

松井夏津紀、飯田泰弘、金田直子、ケン・ウィング・ブーン、横山仁視

南雲堂

2020年 2090円

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるようなPC環境

(音声を用いたリスニングがあるため)

【Outline and objectives】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics about 15 foreign cultures will give you information about different culture.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語31組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立ってとらえることができるようになることを目的としています。毎時間NHKの「世界へ発信! SNS英語術」(仮題)を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえていきます。

【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自立的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信! SNS英語術」(仮題)

①ニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。

②ニュースの解説

2 テキストの学習

① Words& Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

⑦ Writing

課題へのフィードバックは、各学生にメールで伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要の説明
2	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (語彙、DVD)
3	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (訳読)
4	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (まとめ)
5	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (語彙)
6	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (DVD)
7	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (訳読)

8	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (まとめ)
9	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (語彙)
10	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (DVD)
11	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (訳読)
12	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (まとめ)
13	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (語彙)
14	最新のニュース	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 準備学習 テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。
2. 復習 テキストは音読3回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。他のニュースにもふれましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60% 平常点 40%

原則として、欠席が4回以上の場合は、単位の認定はいたしません。

【学生の意見等からの気づき】

学生はテキストの理解に時間を要するので、丁寧にDVDを見ていき、解説していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

英和、和英辞書を持参すること

【その他の重要事項】

授業はすべて Zoom で行います。
マイク付きヘッドセットを用意し、間隔を空けて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。
上記のシラバスは、授業進行上、変更を加えます。
mieko.muramatsu.79@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. In the beginning of every class, the students will read the current news. After that, the students will read and write about several phrases of Japanese culture.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語31組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。毎時間NHKの「世界へ発信! SNS 英語術」(仮題)を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自立的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信! SNS 英語術」(仮題)

①ニュースを辞書を引きながら読解します。

②ニュースの解説

2 テキストの学習

① Words & Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

課題へのフィードバックは、各学生へメールで伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (DVD)
2	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (訳読)
3	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (まとめ)
4	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (語彙)
5	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (DVD)
6	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (訳読)
7	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (まとめ)

8	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (語彙)
9	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (DVD)
10	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (訳読)
11	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (まとめ)
12	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (語彙)
13	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (DVD)
14	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out(訳読 まとめ)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 準備学習 テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。

2. 復習 テキストは音読3回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60%、平常点 40%、
原則として、欠席が4回以上の場合は、単位の認定はいたしません。

【学生の意見等からの気づき】

学生は教科書のDVDを難しいと感じているようなので、丁寧に解説していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

英和和英辞書

【その他の重要事項】

授業はすべて Zoom で行います。
マイク付きヘッドセットを用意し、間隔を空けて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。
上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。
mieko.muramatsu.79@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. In the beginning of every class, the students will read current news. After that, the students will read and listen to several phrases of Japanese culture.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす>
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

<※この授業はハイブリッド型です。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、原則としてオンラインのみでの実施となります。詳細は学習支援システムでお知らせします。>

Zoom 授業（リアルタイム双方向）、学習支援システム（教材提示・課題提出）、（可能な場合）教室対面（受講生の発言を伴わない内容など）、を効果的に組み合わせて実施予定です。具体的にはその都度事前に学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」を通じて確認・連絡します。

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの要旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業内で課題や質問等へのフィードバックやアドバイスをを行います。学期を通じて身につけた力を、授業、課題、小テスト、プレゼンテーションで発揮する流れになります。

（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (4/13)	イントロダクション Unit 1 Cross-cultural understanding	授業の概要説明。アンケート。リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	

2 (4/20)	Cross-cultural understanding リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
3 (4/27)	Unit 2 Foods リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
4 (5/11)	Foods リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
5 (5/18)	Unit 3 Foreign language learning リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
6 (5/25)	Foreign language learning リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
7 (6/1)	Unit 4 Sports リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
8 (6/8)	Sports リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
9 (6/15)	Unit 5 Fashion リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
10 (6/22)	Fashion リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
11 (6/29)	Unit 6 Living things リスニング・パート。リーディング・パート導入	リスニング・速読
12 (7/6)	Living things リーディング・パート詳細理解と考察	精読・要約・ライティング
13 (7/13)	プレゼンテーション・リハーサル	練習・アドバイス (全体および個別指導)
14 (7/20)	プレゼンテーション。まとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返り・今後の展望 (アンケート)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、(英語およびそれ以外の) 知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推した上で、かならず辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約 (各 1～2 文程度) を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を聴き、音読練習する。(関連教材についてもほぼ同様。) ※課題は指示に沿って期限内に提出する。

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を (テキストを見ながら/見ないで) 聴く、リピート/シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って/書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って/書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。(関連教材についてもほぼ同様。)

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容とプレゼン用 PDF 教材 (学習支援システム) を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。※プレゼン原稿は指示に沿って期限内に事前提出する。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを継続するほど、英語力の伸びが期待されます。

【テキスト (教科書)】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate* (4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編) 金星堂、2,000 円 (税別) (※関連教材は、随時配布・指示します。)

【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略! ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2020 [秋冬]』(朝日出版社)、『「英語モード」でライティング』(講談社)、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力。』、『英語で話す力。』(三修社)、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング』(DHC)、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』(一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会) ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー (BT3 階) など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習と授業への取り組み・課題・小テスト) 85%、プレゼンテーション 15% の割合で、上記到達目標 (1)～(5) に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失いますので注意してください。特別な理由がある場合は、早めに担当教員に相談・連絡してください。

次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席 / STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習 / STEP ③復習と自習で定着・苦手克服・実力アップ / STEP ④授業・課題・小テスト・プレゼンテーションで成果を発揮

【学生の意見等からの気づき】

英語力を伸ばそうとする個々の継続した取り組みと、意見交換などを通じて互いから刺激を受け学び合うみなさんの姿勢が印象的でしたので、内容・手法の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<社会・文化の諸相を学び、英語の諸技能をのばす>
世界のさまざまな側面を扱う英語素材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語のリーディング力とリスニング力をのばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 英語での発信・受信に使える語彙力がある
- (2) 英語で書かれたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (3) 英語で話されたものについて、内容・趣旨を把握できる
- (4) 英語で発信されたものについて、日本語や英語で要約・説明できる
- (5) さまざまなトピックについて、多面的・客観的に考察し、自分の見解を日本語や英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

<※この授業はハイブリッド型です。ただし、大学の行動方針レベルが2となった場合、原則としてオンラインのみでの実施となります。詳細は学習支援システムでお知らせします。>

Zoom 授業（リアルタイム双方向）、学習支援システム（教材提示・課題提出）、（可能な場合）教室対面（受講生の発話を伴わない内容など）、を効果的に組み合わせで実施予定です。具体的にはその都度事前に学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」を通じて確認・連絡します。

予習を前提として、授業では基本的に教科書に沿って問題・内容確認・練習を行います。教科書の英語は難解ではなく、受信 → 考察 → 発信の流れを目指す構成です。進捗状況に応じて、テーマに関連するビデオクリップや記事その他の副教材を活用します。理解と考察を促すために、適宜日本語や英語で発問します（話され／書かれたもの全体やパラグラフの要旨、語彙・指示語・構文、話者や筆者の立場、受講生の意見など）。教科書に沿って日本語や英語で要約・説明する練習、論理的に意見を発信する練習を行います。リスニングとスピーキングに役立つ音読練習も行います。授業内で課題や質問等へのフィードバックやアドバイスをを行います。学期を通じて身につけた力を、授業、課題、小テスト、プレゼンテーションで発揮する流れになります。

（下記授業計画は、状況に応じて変更の場合があります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/21)	Unit 7 Art	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
2 (9/28)	Art	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	

3 (10/5)	Unit 8 Global issues	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
4 (10/12)	Global issues	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
5 (10/19)	Unit 9 Japanese culture	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
6 (10/26)	Japanese culture	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
7 (11/2)	Unit 10 Human rights	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
8 (11/9)	Human rights	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
9 (11/16)	Unit 11 Health & medical issues	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
10 (11/30)	Health & medical issues	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
11 (12/7)	Unit 12 Environmental issues	リスニング・速読
	リスニング・パート。リーディング・パート導入	
12 (12/14)	Environmental issues	精読・要約・ライティング
	リーディング・パート詳細理解と考察	
13 (12/21)	プレゼンテーション・リハーサル	練習・アドバイス（全体と個別指導）
14 (1/11)	プレゼンテーション。まとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返り・今後の展望（アンケート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：STEP 1 テキストのリスニング・リーディング練習問題を解き、解答の根拠も言えるようにする。STEP 2 会話・文章全体を読み、（英語およびそれ以外の）知識と想像力を総合して趣旨を把握する。未知の単語は文脈から類推した上で、かならず辞書で確認する。STEP 3 文章構成を意識して、各段落・文章全体の要約（各 1～2 文程度）を日本語と英語で練習する。STEP 4 ダウンロード音声を読み、音読練習する。（関連教材についてもほぼ同様。）※課題は指示に沿って期限内に提出する。

②復習：STEP 5 内容を確認しながらテキストを再読する。STEP 6 ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）聴く、リピート／シャドーイングする。STEP 7 テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。STEP 8 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。STEP 9 出版物やウェブ上で情報収集、知識・視野を広げる。（関連教材についてもほぼ同様。）

③プレゼン準備：STEP 10 授業内容とプレゼン用 PDF 教材（学習支援システム）を参考にして少しずつ学期末のプレゼンテーションの準備をする。※プレゼン原稿は指示に沿って期限内に事前提出する。

※上達の度合いは、英語に触れた時間と相関関係があると考えられるため、①②③および英語で情報収集・好きなコンテンツを楽しむ・書く・話すなどを継続するほど、英語力の伸びが期待されます。

【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）（※関連教材は、随時配布・指示します。）

【参考書】

英語マスメディアのウェブサイト例：BBC Learning English (<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>), VOA Learning English (<https://learningenglish.voanews.com/>), CNN 10 (<http://edition.cnn.com/cnn10>), TED: Ideas Worth Spreading (<https://www.ted.com>), NPR (<https://www.npr.org/>), ABC News video (<http://abcnews.go.com/video>), 攻略！ABC ニュース英語 (www6.nhk.or.jp), CBS 60 Minutes (<https://www.cbsnews.com/60minutes/>), The New York Times (<http://www.nytimes.com/>), The Guardian (<http://www.theguardian.com/uk>). 参考書：『CNN® ENGLISH EXPRESS』、『CNN ニュース・リスニング 2020 [秋冬]』（朝日出版社）、『「英語モード」でライティング』（講談社）、『コンピューター対応 TOEFL® テストライティング完全制覇』、『英語で書く力』、『英語で話す力。』（三修社）、『英語ライティングルールブック』、『映画英語のリスニング（DHC）』、『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1-7』、『公式 TOEIC Listening & Reading トレーニングリスニング編』、『同リーディング編』、『TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック』、『TOEIC® テスト公式問題で学ぶボキャブラリー』、『TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題』（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）ほか。国際文化学部 HP→ 関連リンク「英語リスニング・ハンドブック」、図書館、AV ライブラリー（BT3 階）など活用して自分のレベルやスタイルに合ったものを探しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習と授業への取り組み・課題・小テスト）85%、プレゼンテーション 15%の割合で、上記到達目標（1）～（5）に照らして評価します。原則として欠席が 4 回以上になると単位取得の資格を失いますので注意してください。特別な理由がある場合は、早めに担当教員に相談・連絡してください。

次のような姿勢で取り組んでください：STEP ①予習して目標を持って出席／STEP ②授業では理解を深め積極的に参加・練習／STEP ③復習と自習で定着・苦手克服・実力アップ／STEP ④授業・課題・小テスト・プレゼンテーションで成果を発揮

【学生の意見等からの気づき】

英語力を伸ばそうとする個々の継続した取り組みと、意見交換などを通じて互いから刺激を受け学び合うみなさんの姿勢が印象的でしたので、内容・手法の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよび Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

授業で使えるように辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students improve their confidence and skills in English communication. Students will practice listening to and reading (and also writing and speaking) about various aspects of cultures and societies today, while building vocabulary, learning about the topics and developing their critical thinking skills. Students will give a short oral presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 2 組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、高度な英文を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができるようになる。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力を修得することができるようになる。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学修支援システムで配信します。】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。
- ④難しい英文も含まれますので、丁寧に説明します。
- ⑤授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第一回目の課題提示	Unit 1 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary
2	第二回の課題提示	① Unit 1 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 速読・音読・内容把握。 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語などの確認。 ②前回の課題のフィードバック
3	第三回の課題提示	① Unit 1 の課題③ Unit 1 のまとめ ②前回の課題のフィードバック。
4	第四回目の課題指示	① Unit 2 の課題① 以下の項目に注意して課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ②前回の課題のフィードバック

- 5 第五回目の課題表示 ① **Unit 2** の課題②
以下の項目に注意して課題に取り組んでください。
・速読・音読・内容把握。
・句動詞、慣用句・慣用表現・連語などの確認。
②前回の課題のフィードバック。
- 6 第六回目の課題提示 ① **Unit 3** の課題①
以下の項目に注意して課題に取り組んでください。
・ **Vocabulary**、
- 7 第七回目の課題提示 ① **Unit 3** の課題②
以下の項目に注意して課題に取り組んでください。
・速読・音読・内容把握。
・句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
②前回の課題のフィードバック。
- 8 第八回目の課題提示 ① **Unit 4** の課題①
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
・ **Vocabulary**
②前回の課題のフィードバック。
- 9 第九回目の課題提示 ① **Unit 4** の課題②
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
・速読・音読・内容把握。
・句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
②前回の課題のフィードバック。
- 10 第十回目の課題提示 ① **Unit 5** の課題①
以下の項目に注意して、問題に取り組んでください。
・ **Vocabulary**
②前回の課題のフィードバック。
- 11 第十一回目の課題 ① **Unit 5** の課題②
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
・速読・音読・内容把握。
・句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
②前回の課題のフィードバック。
- 12 第十二回目の課題 ① **Unit 6** の課題①
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
・ **Vocabulary**
②前回の課題のフィードバック。
- 13 第十三回目の課題 ① **Unit 6** の課題②
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
・速読・音読・内容把握。
・句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
②前回の課題のフィードバック。
- 14 第十四回目の課題 ① **Unit 7** の課題①
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
・ **Vocabulary**
②前回の課題のフィードバック。

出版社：南雲堂
出版年：2020 年
価格：2200 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

課題内容 100%

- ①全課題の回数の 10 回以上の提出を、単位取得のための必須条件とする。
②法政大学の学修主演システムの課題提出サイトは、受付時間が厳密です。時間に余裕をもって課題準備をしてください。
③手書き、写メの課題は受け付けません。
④ **Word** 作成の課題のみ受け付ける。

【学生の意見等からの気づき】

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

- ①課題提出に備えて、前もって予習をしておくこと。
予習の際に、**Unit** ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。
その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
②復習の際、語彙力を身に着けるために英作文などを作成しましょう。
③課題は、必ず期限内に提出準備を整える。

【テキスト（教科書）】

教科書：Reading Fusion 2

著者：Andrew E. Bennett

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができる。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指すことができる。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本授業の準備・復習時間は、各 90 分を標準とします。

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしてきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。
- ④難しい英文もあるので、丁寧に説明します。
- ⑤授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	Unit 7 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	Unit 7(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	Unit 8 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	Unit 8(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

6	Unit 9	Unit 9 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 9	Unit 9(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	Unit 10 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 10	Unit 10(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	Unit 11 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	Unit 11(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 12	Unit 12 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	Unit 12(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	後期復習 試験・まとめと解説 期末試験のフィードバックを行う。	Unit 7-Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
- ①わからない単語を調べる。
 - ②英文の構造・文法事項を確認する。
 - ③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。
 - ④授業内に指示された課題は、期限内に提出準備を整える。

【テキスト（教科書）】

教科書： Reading Fusion 2
著者： Andrew E. Bennett
出版社：南雲堂
出版年：2020 年
価格：2200 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・提出課題 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。

速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。

必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取る。また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseasies (1)	Diseasies (1) を学習する。
Chapter 5	Diseasies (2)	Diseasies (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。

Chapter Nightingale, 11 Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter Hospitals 12	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。
	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

試験 70％、授業への積極性 10％、課題 20％、
セメスター内で、4回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and get a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

営1年：英語3組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読むようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掴み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにする。英語辞書の効果的な使い方が出来るようにする。

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオ学習。	ビデオ学習をする。

試験 試験を行う。 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習しておくこと。授業の後には、復習しておくこと。また、授業のまえには、英文の音読しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The World (世界の主要国) 鳳書房 1,800円+税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験 70%、課題 20%、授業への積極性 10%、1セメスターで4回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。
英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。
授業中、スマホはカバンの中に入れておくこと。

【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and get a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉聞いたことがあるだろう。イギリスのEU離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
- ・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。
- ・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声を聞き、予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて5回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？ (前半)
2	Chapter 1	(後半)
3	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状 (前半)
4	Chapter 2	(後半)
5	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来 (前半)
6	Chapter 3	(後半)
7	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」 (前半)
8	Chapter 4	(後半)

9	Chapter 5 Social class	階級社会の実情 (前半)
10	Chapter 5	(後半)
11	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み (前半)
12	Chapter 6	(後半)
13	Chapter 7	大学と高等教育 (前半)
14	Chapter 7	(後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに5回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書のHPから無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい（改定新版）』晋羽書房鶴見書店、2018年、1800円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、授業態度等）30%＋平常の課題20%＋学期末試験（レポート）50%＝100%

・各学期の欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1回の欠席につき、平常点から10点の減点とする。1回の遅刻は3点の減点とし、30分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。

・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点対象となりうる。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時は、学習支援システムとZoomを用いるため、パソコンが必要となります。大学でZoom授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら適宜判断します。

【Outline and objectives】

I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語4組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉聞いたことがあるだろう。イギリスのEU離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて5回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性 (前半)
2	Chapter 8	(後半)
3	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術、発明、ビジネス (前半)
4	Chapter 9	(後半)
5	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま (前半)
6	Chapter 10	(後半)
7	Chapter 11 Food	英国の食文化 (前半)
8	Chapter 11	(後半)
9	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜 (前半)
10	Chapter 13	(後半)
11	Chapter 15 The arts	英国で「芸術」といえば？ (前半)

12	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」 (前半)
13	Chapter 16	(後半)
14	学期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに5回ずつ練習する。音声は教科書のHPから無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま>を知りたい（改定新版）』羽羽書房鶴見書店、2018年、1800円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30%＋学期末試験70%＝100%
- ・各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。
- ・1回の欠席につき平常点から10点の減点とする。1回の遅刻は3点の減点とし、30分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら判断します。

【Outline and objectives】

I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語5組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることと読解力を上げていき、必要な情報や知識を正しく得ていく。さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・口頭で英語を話すことに慣れる
- ・難しい単語の意味を知ること执着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・必要な知識・情報を正確に得ることが出来る
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。

リーディングに必要なスキルを理解し、英文を読み通すための集中力を上げ、大意をつかんでいく練習をします。内容を把握した後に、各自で音読し英語独特のリズムや英語を口にすることに慣れ、語彙・表現力を上げていきます。更に各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できる力をつけます。ユニットごとに単語の試験を実施し、語彙力の定着も図ります。質問などへのフィードバックはメール、又は「授業支援システム」を通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: All about Food (Reading One)	Reading comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: All about Food (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
4	Unit 1: Review Unit 2: Inventions (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
5	Unit 2: Inventions (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary

6	Unit 2: Review Unit 3: Studying Abroad (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
7	Unit 3: Studying Abroad (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
8	Unit 3: Review Unit4: Money and Budget (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
9	Unit 4: Money and Budget (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
10	Unit 4: Review Unit 5: Our Modern Lifestyle (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
11	Unit 5: Our Modern Lifestyle (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
12	Unit 5: Review Unit 6: The Olympics (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
13	Unit 6: The Olympics (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
14	Review Test	Review Test: 試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習では各チャプターを事前に読み、練習問題に目を通しておく。特にリーディングでは筆者が「何を」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書き出す。
- ・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習することを習慣化する。必ずフレーズを意識しながら日本語を介さず理解できるようになるまで復唱する。
- ・また理解したことだけで満足せずに、それを自分の言葉で説明することも重要。
- ・こうした復習で出来るだけ自然に表現力を上げていくことが望ましいが、同時に単語の試験を受けることで語彙力を強化していく。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N.J., *Active Skills for Reading 1* (Heinle Cengage Learning, 2013, ¥2,750+税)

授業開始までに富士見ゲート棟内の法政大学売店、三省堂書店にて購入しておくこと

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.

<http://dictionary.cambridge.org/>

<http://www.merriam-webster.com/>

Thesaurus: <http://thesaurus.com/>

Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

提出物 80%と各ユニットごとに課される小テスト 20%
提出するレポートは、与えられた問題に回答するのだけでなく、自分から自分自身の課題を見つけ出し分析・克服する作業に取り組む必要がある。
適切な理由により小テストを受けられなかった場合の代替措置が適応されるのは2回まで。
提出物が全体の70%に満たない場合には原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

- ・前代未聞のオンラインでの授業では、まずは学習習慣が身に付き、「自分のペースでゆっくりと英語に向き合えた」という感想があったように、自分の弱い部分に「気付ける」課題がこなせたようです。
- ・理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って、自分の言葉で英語で説明することには苦労したようですが、次第に考える習慣が付き、更にまとめ方を工夫できるようになっていきました。「自分の言葉で説明する」時にも「人に伝える」を意識することに気付いた人は語学力の飛躍的な向上につながりました。
- ・毎年、英語を声に出すことや、自分の言葉で表現する努力を「面倒がらずに」こなし受講生が、最終的に英語でのコミュニケーション力を上げていく結果になっています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにパソコンやネット環境の整備などの準備が必要です。

【その他の重要事項】

・課題の提出が遅れた場合、理由とその証拠を元に考慮される場合がありますので、メール akiko.sugi4i@hosei.ac.jp に連絡をしてください。

【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることと読解力を上げていき、必要な情報や知識を正しく得ていく。さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・必要な知識・情報を正確に得ることが出来る
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ペア/グループ・ワークを中心に、英文を読む/聞くとときの集中力を上げ、内容を理解し大意をつかんでいく。内容を把握した後、音読することで英語独特のリズムや英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにし、語彙・表現力を上げていく。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。周りの人との協力によるアクティブな学習をしていく。ユニットごとに単語の試験を実施します。質問などへのフィードバックは授業内又はメールで行います。

*状況に応じて、オンデマンド授業を取り入れる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7: Great Structures (Reading One)	Reading comprehension; Building vocabulary
2	Unit 7: Great Structures (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
3	Unit 7: Great Structures (Review); Unit 8: Language and Communication (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
4	Unit 8: Language and Communication (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary

5	Unit 8: Language and Communication (Review); Unit 9: Festivals and Celebrations (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Reading comprehension; Building vocabulary
6	Unit 9: Festivals and Celebrations (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Comprehension; Building vocabulary
7	Unit 9: Festivals and Celebrations (Review); Unit 10: Growing Up (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Reading comprehension; Building vocabulary
8	Unit 10: Growing Up (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
9	Unit 10: Growing Up (Review); Unit 11: Look into the Future (Reading One)	Reviewing the context; Comprehension; Building vocabulary
10	Unit 11: Look into the Future (Reading One);(Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
11	Unit 11: Look into the Future (Review); Unit 12: The Power of Stories (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
12	Unit 12: The Power of Stories (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
13	Unit 12: Look into the Future (Review)	Reviewing the context; Vocabulary test;
14	Review Test	Review Test : 試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習では各チャプターを事前に読み、練習問題に目を通しておく。特にリーディングでは筆者が「何を」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書き出す。
- ・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習することを習慣化する。必ずフレーズを意識しながら日本語を介さず理解できるようになるまで復唱する。
- ・また理解したことだけで満足せずに、それを自分の言葉で説明することも重要。
- ・こうした復習で出来るだけ自然に表現力を上げていくことが望ましいが、同時に単語の試験を受けることで語彙力を強化していく。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前期同様、Anderson, N.J., Active Skills for Reading 1 (Heinle Cengage Learning, 2013, ¥2,750+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけでなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity における授業中の積極的な取り組みを重視）
 ユニットごとに行われる Vocabulary tests 20 %
 Review Test 50%

適切な理由のない遅刻（授業開始から 30 分以内）は 2 回で欠席扱いとする。また各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

・前代未聞のオンラインでの授業では、まずは学習習慣が身に付き、「自分のペースでゆっくと英語に向き合えた」という感想があったように、自分の弱い部分に「気付ける」課題がこなせたようです。

・理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って、自分の言葉で英語で説明することには苦労したようですが、次第に考える習慣が付き、更にまとめ方を工夫できるようになっていきました。「自分の言葉で説明する」時にも「人に伝える」を意識することに気付いた人は語学力の飛躍的な向上につながりました。

・毎年、周囲と積極的に協力しあい、英語を声に出すことや、自分の言葉で書くという努力を「面倒がらずに」こなし受講生が、最終的に英語でのコミュニケーション力を上げていく結果になっていました。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めますが、授業中に許可なくその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。学習支援システムを利用できるようパソコンなど準備が必要です。

【その他の重要事項】

・共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます。

・欠席や課題の提出が遅れた場合、理由とその証拠を元に考慮される場合がありますので、メール akiko.sugi4i@hosei.ac.jp に連絡をしてください。

【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する

・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する

・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。リスニング課題を行う。
第3回	Is it in your blood? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。リスニング課題を行う。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。リスニング課題を行う。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。リスニング課題を行う。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。リスニング課題を行う。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。リスニング課題を行う。

第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 10 回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 11 回	Is netspeak harming the English language?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 12 回	Is netspeak harming the English language?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス. (¥2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末テスト (40%)

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 3 回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 4 回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 5 回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 6 回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 7 回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。

第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 10 回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 11 回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 12 回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス。(¥2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末テスト (40%)

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ることで、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するのでも必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてこよう。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1 (続き)	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2 (続き)	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3 (続き)	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4 (続き)	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5 (続き)	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6 (続き)	文法：動名詞および現在分詞

14 試験・まとめと解説 授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。

・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。

・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング—正しい英語の読み方』金星堂

【参考書】

文法の参考書は

・『FOREST』桐原書店を薦める。

英和辞典は

・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社

・『研究社英和大辞典』研究社

・『ランダムハウス英和大辞典』小学館

をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では

・『エクシード英和辞典』三省堂

が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。

・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）

・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。

以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。

・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

・期末試験 50 %

・学習態度および受講態度 50 %

遅刻の扱い

・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。

・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。

・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席

・座席は指定する。

オフィスアワー

・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてこよう。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7 (続き)	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8 (続き)	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9 (続き)	文法：it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10 (続き)	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11 (続き)	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12 (続き)	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング—正しい英語の読み方』金星堂

【参考書】

- 文法の参考書は
- ・『FOREST』桐原書店を薦める。
- 英和辞典は
- ・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』研究社
- ・『研究社英和大辞典』研究社
- ・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
- をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でない携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
- ・『エクシード英和辞典』三省堂が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

【成績評価の方法と基準】

- 単位取得条件
- ・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り 3 回まで欠席を認める）。
- ・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
- ・期末試験の結果が 100 点満点中 60 点以上であること。
- 以上 3 点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験
・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・期末試験 50 %
- ・学習態度および受講態度 50 %
- 遅刻の扱い
- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達するごとに 1 回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる（1 分の遅刻は 10 と記録する）。
- ・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

- 座席
- ・座席は指定する。
- オフィスアワー
- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田口 清一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

- * 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- * 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- * 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
- * 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインにて、原則として「オンデマンド型」で行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行う。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力をも高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

課題の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通して、各回の課題に対し次回の授業で解説を行う。最終回には春学期全体の講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理（可算と不可算）
第 3 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理（冠詞と限定詞）
第 4 回	Chapter1(Animals: Fictional and Real)	本文音読・読解、リスニング
	①	
第 5 回	Chapter1(Animals: Fictional and Real)	本文音読・読解、リスニング、英作文
	②	
第 6 回	Chapter2(Exporting Sport) ①	本文音読・読解、リスニング

第7回	Chapter2(Exporting Sport) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第8回	Chapter3(Literature: The Reading Boom) ①	本文音読・読解、リスニング
第9回	Chapter3(Literature: The Reading Boom) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第10回	Chapter4(Eating Habits: Changing Tastes) ①	本文音読・読解、リスニング
第11回	Chapter4(Eating Habits: Changing Tastes) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第12回	Chapter5(Art:Attitudes and Anonymity) ①	本文音読・読解、リスニング
第13回	Chapter5(Art:Attitudes and Anonymity) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第14回	学期末の講評	春学期の課題の講評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文演習においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。英作問題においては必ず自分の解答を用意して臨み、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントには次回までに必ず復習しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。
(University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.) 大学の基準は上記の通りだが、できれば予習・復習のそれぞれに少なくとも1時間は割いて頂きたい。

【テキスト（教科書）】

Insight into Britain 金星堂 1,800円(税別)

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書(体系的にある程度詳しく記述されたもの)を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業となるため、「平常点」(毎回の課題提出と出来)100%で評価する。課題に取り組む際に、到達目標に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。

尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が4回以上の場合には単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

田口 清一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語8組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識(一般教養)が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

- * 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- * 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- * 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
- * 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインにて、原則として「オンデマンド型」で行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

課題の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通して、各回の課題に対し次回の授業で解説を行う。最終回には年間を通しての講評も行う。

秋学期も原則としてオンライン授業の予定だが、新型コロナウイルスの感染が収束している場合には対面授業となる可能性もあるので、その際の変更については「学習支援システム」で改めて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本語と英語の相違	人称代名詞
第2回	日本語と英語の相違	文圧縮(名詞構文)
第3回	Chapter6(Population: Food for Thought) ①	本文音読・読解、リスニング
第4回	Chapter6(Population: Food for Thought) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第5回	Chapter7(Antiques:Old is Often Better) ①	本文音読・読解、リスニング
第6回	Chapter7(Antiques:Old is Often Better) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文

- 第7回 Chapter9(Edinburgh: A City of Festivals) ① 本文音読・読解、リスニング
- 第8回 Chapter9(Edinburgh: A City of Festivals) ② 本文音読・読解、リスニング、英文作文
- 第9回 Chapter10(Television: Reflecting Our Lives) ① 本文音読・読解、リスニング
- 第10回 Chapter10(Television: Reflecting Our Lives) ② 本文音読・読解、リスニング、英文作文
- 第11回 Chapter13(Education in the UK) ① 本文音読・読解、リスニング
- 第12回 Chapter13(Education in the UK) ② 本文音読・読解、リスニング、英文作文
- 第13回 Chapter14(Superstitions and Beliefs) 本文音読・読解、リスニング
- 第14回 年間の総評 年間を通しての講評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文演習においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読む。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。英作問題においては必ず自分の解答を用意して臨み、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントとは次回までに必ず復習しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。(University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.) 大学の基準は上記の通りだが、できれば予習・復習のそれぞれに少なくとも1時間は割いて頂きたい。

【テキスト（教科書）】

Insight into Britain(イギリス探訪) 金星堂 1,800円(税別)

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書(体系的にある程度詳しく記述されたもの)を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業となるので、「平常点」(毎回の課題提出と出来)100%で標準とする。課題に取り組む際に、到達目標に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。秋学期は春学期の習熟度も考慮する。

尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が4回以上の場合には単位修得の資格を失うものとする。

秋学期も原則としてオンライン授業の予定だが、新型コロナウイルスの感染が収束している場合には対面授業となる可能性もあるので、その際の成績評価の方法の変更については改めて通知する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付きものである。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレヴェル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語9組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、環境と文化の問題について書かれた英文エッセイの講読をします。エッセイは、1パラグラフあたり50～90words、8～10パラグラフで構成されており、全体で500～600words程度です。このような比較的骨のある英文を読みこなすには、パラグラフ・リーディングが不可欠です。英文の各パラグラフには必ず、核となるセンテンス、または核となるwordsがあります。この授業では、各パラグラフの核となるセンテンス、wordsを見つけ出し、そのパラグラフの内容を要約し、エッセイ全体の流れを理解する方法を学びます。また、英文ライティングも行います。

【到達目標】

学生は、本授業を通じて以下の能力を身に付けることを目標とします。

- ①英文の各パラグラフを要約できる。
- ②分からない単語や専門的な用語の意味を文脈から推測できる。
- ③自分の考えを正しい英語で表現することができる英文ライティング力を身に付ける。
- ④地球環境問題に関心を持ち、当事者としてこの問題と向き合う姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン(リアルタイム配信型)です。すべての回をZoomで実施します。

授業は演習形式で進めます。

基本的に2回の授業で1つのUnitを進めていきます。

1回目の授業でVocabularyとText readingを行います。Text readingは、英文エッセイをセンテンスごとに読んで要約し、発表をしてもらいます。

2回目の授業ではComprehension、Listening、Writing(Discussion)に取り組めます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4月8日	オリエンテーション Unit 1: Connecting Culture and Environmental Issues	授業の進め方、評価方法などの説明。 Reading: 文化と環境問題を結び付ける
4月15日	Unit 1: Connecting Culture and Environmental Issues	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)
4月22日	Unit 2: culture, Popular Pets, and unwanted Animals	Reading: 文化、ペット、害獣
5月6日	Unit 2: culture, Popular Pets, and unwanted Animals	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)

5月13日	Unit 3: Cultural Beliefs: Life or Death to Endangered Animals	Reading：文化的信条：絶滅危惧動物の命と死
5月20日	Unit 3: Cultural Beliefs: Life or Death to Endangered Animals	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)
5月27日	Unit 4: Culture and Energy Conservation	Reading：文化とエネルギー問題
6月3日	Unit 4: Culture and Energy Conservation	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)
6月10日	Unit 5: Fashion Culture and the Environment	Reading：ファッション文化と環境
6月17日	Unit 5: Fashion Culture and the Environment	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)
6月24日	Unit 6: Culture and Population Issues	Reading：文化と人口問題
7月1日	Unit 6: Culture and Population Issues	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)
7月8日	Unit 7: Consuming Cultures and the Environment	Reading, Comprehension, Listening, Writing (Discussion)：消費文化と環境
7月15日	春学期末筆記試験	春学期の学習到達度を確認するための筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

1回の授業で500～600words程度のReading Textを1つ読みます。このペースで内容を消化するには、事前学習としてreadingの内容に目を通し、分からない語を調べておくことが欠かせません。

復習は特に指定しませんが、授業内時間に終わらなかったWriting課題を宿題として出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

教科書名：Cultural Issues ⇔ Environmental Issues（環境と文化から見るグローバル世界）

著者名：Gregory Goodmacher、梶浦麻子

出版社：南雲堂

出版年：2016年

価格：2100円（税別）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、学期末筆記試験60点、計100点満点で評価します。

平常点は、毎回の要約発表、宿題の提出などを評価します。

欠席が4回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

リーディング授業であっても、グループワークを積極的に取り入れ、学生同士が教えあい学びあう機会を増やす予定です。ライティングはディスカッションの要素を取り入れ、学生が様々な意見に触れて刺激を受けられるようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとZoomを併用して授業を行います。

資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用します。

Zoom入室のためのパスワード等も、学習支援システムを通じて告知しますので、必ず学習支援システムを確認してください。

他のクラスの対面授業のために大学にいる学生は、割り当てられた大学の教室からZoom授業を受けることになります。その際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

大学の教室で授業を受ける学生は、間隔を開けた着席、教室内の換気を行う必要があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will read English essays written about human culture and environment. Each essay is made up of 8 to 10 paragraphs, and each paragraph is made up of 50 to 90 words. In a word, students will read an essay of 500 to 600 words in every class. In order to read and understand essays like this volume of words, skills for paragraph reading is necessary. There are sentences or words which are core of each paragraph. Students will learn how to find out the core sentences or core words, summarize each paragraph, and comprehend the whole picture of the essay. In addition, students will learn English writing in this course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、環境と文化の問題について書かれた英文エッセイの講読をします。エッセイは、1 パラグラフあたり 50～90words、8～10 パラグラフで構成されており、全体で 500～600words 程度です。このような比較的骨のある英文を読みこなすには、パラグラフ・リーディングが不可欠です。英文の各パラグラフには必ず、核となるセンテンス、または核となる words があります。この授業では、各パラグラフの核となるセンテンス、words を見つけ出し、そのパラグラフの内容を要約し、エッセイ全体の流れを理解する方法を学びます。また、英文ライティングも行います。

【到達目標】

学生は、本授業を通じて以下の能力を身に付けることを目標とします。

- ①英文の各パラグラフを要約できる。
- ②分からない単語や専門的な用語の意味を文脈から推測できる。
- ③自分の考えを正しい英語で表現することができる英文ライティング力を身に付ける。
- ④地球環境問題に関心を持ち、当事者としてこの問題と向き合う姿勢を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

授業は演習形式で進めます。

基本的に 2 回の授業で 1 つの Unit を進めていきます。

1 回目の授業で Vocabulary と Text reading を行います。Text reading は、英文エッセイをセンテンスごとに読んで要約し、発表をしてもらいます。

2 回目の授業では Comprehension、Listening、Writing (Discussion) に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9 月 30 日	Unit 8: Culture and Littering	Reading : 文化とゴミ捨て
10 月 7 日	Unit 8: Culture and Littering	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)
10 月 14 日	Unit 9: Cultural Views of Animal Rights	Reading : 動物の権利に関する文化的視点
10 月 21 日	Unit 9: Cultural Views of Animal Rights	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)
10 月 28 日	Unit 10: Extinct Animals, Plants, and Cultures	Reading : 絶滅した動物、植物、文化
11 月 4 日	Unit 10: Extinct Animals, Plants, and Cultures	Comprehension, Listening, Writing (Discussion)

11 月 11 日 Unit 11: Culture, Youth, and the Environment Reading : 文化と若者と環境

11 月 18 日 Unit 11: Culture, Youth, and the Environment Comprehension, Listening, Writing (Discussion)

11 月 25 日 Unit 12: Culture, Food, and Environment Issues Reading : 文化、食料、環境問題

12 月 2 日 Unit 12: Culture, Food, and Environment Issues Comprehension, Listening, Writing (Discussion)

12 月 9 日 Unit 13: Culture, Religions, and Environmental Issues Reading : 文化、宗教、環境問題
Comprehension, Listening, Writing (Discussion)

12 月 16 日 Unit 14: Our Homes and the Environment Reading : 私たちの家と環境問題
Comprehension, Listening, Writing (Discussion)

12 月 23 日 Unit 15: Culture and Heat Islands Reading : 文化とヒートアイランド

Comprehension, Listening, Writing (Discussion)

1 月 20 日 秋学期末筆記試験 秋学期の学習到達度を確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

1 回の授業で 500～600words 程度の Reading Text を 1 つ読みます。このペースで内容を消化するには、事前学習として reading の内容に目を通し、分からない語を調べておくことが欠かせません。

復習は特に指定しませんが、授業内時間に終わらなかった Writing 課題を宿題として出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

教科書名：Cultural Issues ⇔ Environmental Issues（環境と文化から見るグローバル世界）

著者名：Gregory Goodmacher、梶浦麻子

出版社：南雲堂

出版年：2016 年

価格：2100 円（税別）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、学期末筆記試験 60 点、計 100 点満点で評価します。平常点は、毎回の要約発表、宿題の提出などを評価します。欠席が 4 回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

リーディング授業であっても、グループワークを積極的に取り入れ、学生同士が教えあい学びあう機会を増やす予定です。ライティングはディスカッションの要素を取り入れ、学生が様々な意見に触れて刺激を受けられるようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Zoom を併用して授業を行います。資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用します。Zoom 入室のためのパスワード等も、学習支援システムを通じて告知しますので、必ず学習支援システムを確認してください。他のクラスの対面授業のために大学にいる学生は、割り当てられた大学の教室から Zoom 授業を受けることになります。その際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

大学の教室で授業を受ける学生は、間隔を開けた着席、教室内の換気を行う必要があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will read English essays written about human culture and environment. Each essay is made up of 8 to 10 paragraphs, and each paragraph is made up of 50 to 90 words. In a word, students will read an essay of 500 to 600 words in every class. In order to read and understand essays like this volume of words, skills for paragraph reading is necessary. There are sentences or words which are core of each paragraph. Students will learn how to find out the core sentences or core words, summarize each paragraph, and comprehend the whole picture of the essay. In addition, students will learn English writing in this course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイーック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。提出課題等は、その都度チェックして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①トピックセンテンス
8	テキストの演習	パラグラフの全体構造②文のつながり方
9	テキストの演習	パラグラフの構造③情報構造
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【コンクルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点30%、試験70パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

トイックとトーフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。提出していただいた課題は、その都度、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞・ギリシャ語系】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接頭辞・ラテン語系】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞・ラテン語系】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞・ギリシャ語系】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【二重母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【二重子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【連結】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめます。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点30%、試験成績70パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

トイックとトーフの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

渡辺 英依美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】

この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。

- (1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解することができる。
- (2) 客観的観点からパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉えることができる。
- (3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の理解を確認し、関連する知識を深めていく。このクラスでは狭義の読解を超えて、自ら英語で発信する力も育成する。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 1: Travel (1)	Scanning
3	Unit 1: Travel (2)	Predicting
4	Unit 2: Fashion (1)	Skimming for the main idea
5	Unit 2: Fashion (2)	Identifying main and supporting ideas
6	Unit 3: Disappearing Animals (1)	Identifying meaning from context
7	Unit 3: Disappearing Animals (2)	Identifying main ideas within paragraphs
8	Mid-semester Examination Unit 4: Big Money (1)	Mid-semester exam Identifying cause and effect
9	Review of the Exam Unit 4: Big Money (2)	Review of the exam Previewing
10	Unit 5: Celebrations Around the World (1)	Using subheadings to predict content
11	Unit 5: Celebrations Around the World (2)	Recognizing sequence of events

12	Unit 6: It's a Mystery! (1)	Making inferences
13	Unit 6: It's a Mystery! (2)	Identifying main ideas within paragraphs
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が必須。個々の単語を和訳するだけでなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning. [¥2,750（税別）]

【参考書】

英英辞典。他は必要に応じて授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・課題の提出 25 %

中間試験 35%

期末試験 40 %

欠席が4回以上の場合は、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and critical thinking skills. By the end of the course, students will acquire the skills to understand a variety of written materials accurately and to express their thoughts and opinions about the topics in English.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

渡辺 英依美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】

この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。

(1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解することができる。

(2) 客観的観点からパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉えることができる。

(3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の理解を確認し、関連する知識を深めていく。このクラスでは狭義の読解を超えて、自ら英語で発信する力も育成する。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 7: Health and Fitness (1)	Scanning
3	Unit 7: Health and Fitness (2)	Predicting
4	Unit 8: Space and Flight (1)	Identifying main and supporting ideas
5	Unit 8: Space and Flight (2)	Making inferences
6	Unit 9: The Changing Family (1)	Recognizing facts and opinions
7	Unit 9: The Changing Family (2)	Previewing
8	Mid-semester Examination	Mid-semester exam Arguing for and against a topic
9	Unit 10: The Future of Education (1)	Review of the exam Identifying meaning from context
10	Unit 11: The Mystery of Memory (1)	Identifying main ideas within paragraphs
11	Unit 11: The Mystery of Memory (2)	Scanning

12	Unit 12: Comics (1)	Recognizing sequence of events
13	Unit 12: Comics (2)	Identifying main and supporting ideas
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が必須。個々の単語を和訳するだけでなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning. [¥2,750（税別）]

【参考書】

英英辞典。他は必要に応じて授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・課題の提出 25 %

中間試験 35 %

期末試験 40 %

欠席が4回以上の場合は、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and critical thinking skills. By the end of the course, students will acquire the skills to understand a variety of written materials accurately and to express their thoughts and opinions about the topics in English.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、イギリスを代表する二大高級紙『タイムズ』と『ガーディアン』を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。
2	Unit 1	Unit 1 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 1	unit 1 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 2	Unit 2 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 2	Unit2 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 3	Unit 3 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。

7	Unit 3	Unit 3 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.
8	Unit 4	Unit 4 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	
9	Unit 4	Unit 4 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
10	Unit 5	Unit 5 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	
11	Unit 5	Unit 5 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
12	Unit 6	Unit 6 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	
13	Unit 6	Unit 6 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
14	前期の復習 試験	Unit 1～Unit 6	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①予習をして授業に臨むこと。
予習の際に、英文を速読をして論旨を把握することに努めてください。
その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。
注意：1回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』で読む今日の世界
著者：田中孝信著
出版社：音羽書房鶴見書店
出版年：2009年
価格：1800円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の10回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が3回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構成に留意して、英文の速読・音読・精読する。語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができるようになる。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指すことができる。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。
- ④難しい英文も含まれますので、丁寧に説明します。
- ⑤授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	Unit 7 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	Unit 7(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	Unit 8 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	Unit 8(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

6	Unit 9	Unit 9 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 9	Unit 9(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	Unit 10 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 10	Unit 10(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	Unit 11 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	Unit 11(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 12	Unit 12 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	Unit 12(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	(1) 後期の復習 (2) 試験・まとめと解説・フィードバック	Unit 7-Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

- ①予習をして授業に臨むこと。予習の際に、Unit ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。
- その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
- ②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかり身につけてください。
- ③授業内に指示された課題は、期限内に提出準備を整える。
注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』で読む今日の世界
著者：田中孝信
出版社：音羽書房鶴見書店
出版年：2009 年
価格：1800 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・提出課題 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 1a	Learning from the past
3	Workbook: 1a	Things they never taught you
4	Unit 1b	What makes us who we are?
5	Workbook: 1b	What's in a name?
6	Unit 1c	Immortal words
7	Workbook: 1c	The English we speak
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 1f	Arctic wisdom
10	Unit 2a	Living off the sea
11	Unit 2b	Smokejumpers
12	Unit 2c	Daring, defiant, and free
13	Workbook: 2c	Guerrilla geographer
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6A Combo Split
 著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,880 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-6>

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
 遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

「高校の時に行われていた授業に比べ能動的なものが多く、吸収するものが多かった」「人前で発言することが苦手だったのですが、先生が学生へ発言を促すよう指示してくださったおかげで、主体的に授業に参加することができました」「良かった点は高レベルな英語を濃い内容とともに学べたことです」等、学習意欲の高い学生からのコメントが多数集まりました。学生たちが、肯定的に受け取ってくれた部分は、授業スタイルとして継続したいと思います。また、「改善してほしい点は生徒同士で協力したり議論する機会が少なかったことです」といった貴重なコメントは、授業改善に役立てるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

営 1 年: 英語 13 組

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English II までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 2f	Climbing Yosemite
2	Unit 3a	Towns with character
3	Unit 3b	Compact living
4	Unit 3c	The paper architect
5	Workbook: 3c	Biomimetic architecture
6	Unit 4a	Shrink it, bend it, fold it
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 4b	The mother of invention
9	Unit 4c	The shoe giver
10	Workbook: 4c	The new philanthropists
11	Unit 5a	How we travel
12	Unit 5c	The adventures of Herge
13	Unit 6c	The enigma of beauty
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文の読み直し、音声資料の聞き直しを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6A Combo Split
 著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,880 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-6>

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
 遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

「高校の時に行われていた授業に比べ能動的なものが多く、吸収するものが多かった」「人前で発言することが苦手だったのですが、先生が学生へ発言を促すよう指示してくださったおかげで、主体的に授業に参加することができました」「良かった点は高レベルな英語を濃い内容とともに学べたことです」等、学習意欲の高い学生からのコメントが多数集まりました。学生たちが、肯定的に受け取ってくれた部分は、授業スタイルとして継続したいと思います。また、「改善してほしい点は生徒同士で協力したり議論する機会が少なかったことです」といった貴重なコメントは、授業改善に役立てるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者リチャード・パウエルが、四つの地域からなる United Kingdom について、それぞれの地域の特色を述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

【到達目標】

Dialogue、Passage、Exercise を行うことにより実践力を高める。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

フィードバック方法 最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。

授業実施形態 この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Arriving in London	London の代表的な公共交通機関には、世界で最も古い列車である地下鉄 (tube)、London 市内を走行する赤い二階建てバス (double decker)、cube というタクシーがある。列車やバスにはプリペイド式のオイスターカードが使用できる。
②	Unit 1 Arriving in London	Unit1 の Exercise を行う。
③	Unit 2 London's museums and art galleries	イギリスの主な博物館や美術館は入場料無料である。London にある National Gallery や Tate Modern も無料であり、多くの人に絵画や展示品を見せる機会を与えている。
④	Unit 2 London's museums and art galleries	Unit2 の Exercise を行う。
⑤	Unit 3 Royal palaces and castles	イギリスには英王室にゆかりのあるいくつかの城がある。その中には女王の私邸である Windsor 城や公邸である Buckingham 宮殿を始めとして、女王が夏の大半を過ごす Balmoral 城がある。
⑥	Unit 3 Royal palaces and castles	Unit3 の Exercise を行う。

- ⑦ Unit 5 Shopping in London London には Harrods や Fortnum and Mason のような伝統的な店がある一方で、多くのリーズナブルな品物を販売する fair (市) がある。
- ⑧ Unit 5 Shopping in London Unit5 の Exercise を行う。
- ⑨ Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury Somerset は、田園地方であり、cider (リンゴ酒)、beer、cheese の製造でよく知られている。
- ⑩ Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury Unit7 の Exercise を行う。
- ⑪ Unit 10 The Yorkshire Dales Yorkshire は、イングランドの一番北の州であり、スコットランドとの境界の州である。The Yorkshire Dales という国立公園となっている渓谷が広がっている。
- ⑫ Unit 10 The Yorkshire Dales Unit10 の Exercise を行う。
- ⑬ Unit 11 Newcastle-upon-Tyne Newcastle-upon-Tyne は、イングランドとスコットランドとの境界の Tyne 川のほとりにある町である。Newcastle の対岸には、Gateshead の町があり、そこには、歩行者と自転車専用の Gateshead Millennium Bridge がある。
- ⑭ 試験日 試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各章とも、Comprehension、Vocabulary、Expressions のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしてもらう。

【テキスト（教科書）】

Touring Britain (Richard Powell) 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 % として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持たたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline and objectives】

Using the textbook about United Kingdom written by an English author, students can learn the diverse and practical knowledge.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者リチャード・パウエルが、四つの地域からなる United Kingdom について、それぞれの地域の特色を述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

【到達目標】

Dialogue、Passage、Exercise を行うことにより実践力を高める。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

フィードバック方法 最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 12 Swansea and Gower	Swansea は、ウェールズ的首都 Cardiff の次に大きな町であり、20 世紀の詩人 Dylan Thomas の故郷でもある。
②	Unit 12 Swansea and Gower	Unit12 の Exercise を行う。
③	Unit 13 Brecon Beacons	ウェールズの Brecon Beacons は、イギリスの国立公園の一つである。自然の美しい地域として指定されていて、そこには植物や動物を保護する特別な法律がある。
④	Unit 13 Brecon Beacons	Unit13 の Exercise を行う。
⑤	Unit 14 Conwy and Caernarfon	北ウェールズの Conwy と Caernarfon の町には、それぞれ Conwy 城と Caernarfon 城がある。
⑥	Unit 14 Conwy and Caernarfon	Unit14 の Exercise を行う。
⑦	Unit 15 Edinburgh	ブリテン島の北部の地域にある Edinburgh は、多くの学者や科学者を輩出していることから、'Athens of North' 「北のアテネ」と呼ばれている。
⑧	Unit 15 Edinburgh	Unit15 の Exercise を行う。

- ⑨ Unit 16
Glasgow Glasgow は、19 世紀の産業革命の時代には、造船業で発達したが、現在は、Glasgow 出身の建築家 Charles Rennie Macintosh ゆかりの建造物を多くの観光客が訪れる場所となっている。
- ⑩ Unit 16
Glasgow Unit16 の Exercise を行う。
- ⑪ Unit 18
Belfast アイルランドは、イギリスの自治領である北アイルランドと南のアイルランド共和国に分離している。1990 年代初頭まで、北アイルランドでは、プロテスタント系住民とカソリック系住民の間で、毎日のように小競り合いが起きていた。しかし、1998 年に平和協定が結ばれてからは、抗争はなくなっている。
- ⑫ Unit 18
Belfast Unit18 の Exercise を行う。
- ⑬ Unit 19
Causeway Coast Belfast から Londonderry までの道路沿いに広がっている Causeway の海岸には、世界遺産の火山岩からなる何千もの六角形の石柱群がある。
- ⑭ 試験日 試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各章とも、Comprehension、Vocabulary、Expressions のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしてもらう。

【テキスト（教科書）】

Touring Britain (Richard Powell) 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 % として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持っていたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline and objectives】

Using the textbook about United Kingdom written by an English author, students can learn the diverse and practical knowledge.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの歴史について英語で学ぶテキスト『CD 付 エピソードで綴る英国史 [改訂版] Britain: Historical Tales [revised]』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『CD 付 エピソードで綴る英国史 [改訂版] Britain: Historical Tales [revised]』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1	The Celts ケルトは今も生きている
3	Chapter 2	Roman Britain この時代、ブリテン島は僻地だった
4	Chapter 3	The Anglo-Saxons 現代の WASP、ここに始まる
5	Chapter 4	Alfred the Great and the Danes 異民族を食い止めた古代のヒーロー
6	Chapter 5	William the Conqueror Pig or Pork? Ox or Beef? (ノルマンフレンチの流入)
7	Chapter 6	The Magna Carta 王権が制限された!
8	Chapter 7	The Tower of London Palace or Prison?

9	Chapter 8	William Caxton イングランドに印刷術をもたらした男
10	Chapter 9	Henry VIII Oxbridge に college も設立した王
11	Chapter 10	Elizabethan England 死の淵から蘇った処女王エリザベス
12	英文講読	イギリス史に関連する内容
13	復習	Chapter 1～Chapter 10 の復習
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Bill Benfield, Yutaka Waku『CD付エピソードで綴る英国史[改訂版]Britain: Historical Tales[revised]』2011年、三修社、2,000円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

Through reading stories in the textbook “Britain: Historical Tales” which consists of 21 episodes about British history, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの歴史について英語で学ぶテキスト『CD付エピソードで綴る英国史[改訂版]Britain: Historical Tales [revised]』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『CD付エピソードで綴る英国史[改訂版]Britain: Historical Tales[revised]』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 11	Shakespeare 英語に慣用句を残した戯作者
2	Chapter 12	Charles I and Parliament 国王・議会のせめぎ合い
3	Chapter 13	Cromwell and the Civil War 水清すぎて魚住めず
4	Chapter 14	East India Company アジアへの進出
5	Chapter 15	The Industrial Revolution 世界で最初の試み
6	Chapter 16	Queen Victoria 英国の古き良き時代
7	Chapter 17	Edward VIII 恋か王位か？ 王冠をかけた世紀の恋
8	Chapter 18	Winston Churchill and the Second World War ペンも取った稀代の政治家
9	Chapter 19	The 1960s and the Beatles 団塊の世代は熱狂した

10	Chapter 20	Margaret Thatcher 鉄の女の荒療治
11	Chapter 21	Tony Blair 若きカリスマ政治家の登場
12	英文講読	イギリス史に関連する内容
13	復習	Chapter 11～Chapter 21 の復習
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Bill Benfield, Yutaka Waku『CD付 エピソードで綴る英国史[改訂版]Britain: Historical Tales[revised]』2011年、三修社、2,000円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

Through reading stories in the textbook "Britain: Historical Tales" which consists of 21 episodes about British history, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年：英語16組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNNのニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます。
- ・論理的な思考力を養います。
- ・語彙力を増やします。
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます。
- ・英語のリズムを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

一つのunitを二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半はExamplesを小テストとして行い、DefinitionとExamplesの答え合わせした後、Blanks to Fill inでリスニングをし、答えの確認をします。後半はJudgments to Makeを小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Makeの答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	A Matter of Time (listening)
3	Unit 1	A Matter of Time (reading)
4	Unit 2	Japan's Royal Dilemma (listening)
5	Unit 2	Japan's Royal Dilemma (reading)
6	Unit 3	Doing it Right (listening)
7	Unit 3	Doing it Right (reading)
8	Unit 4	From the Comfort of Home (listening)
9	Unit 4	From the Comfort of Home (reading)
10	Unit 5	No Age Barrier (listening)
11	Unit 5	No Age Barrier (reading)
12	Unit 6	Royal Split (listening)
13	Unit 6	Royal Split (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・春学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半はWords and Phrases to Study of the DefinitionとExamplesを、後半はニュースのスクリプトとJudgments to Makeを予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNNビデオで見る世界のニュース(22)』

(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます。
- ・論理的な思考力を養います。
- ・語彙力を増やします。
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます。
- ・英語のリズムを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7	Grand Lady in Distress (listening)
3	Unit 7	Grand Lady in Distress (reading)
4	Unit 8	Edible Ecofriendliness (listening)
5	Unit 8	Edible Ecofriendliness (reading)
6	Unit 9	Protectors of the Forest (listening)
7	Unit 9	Protectors of the Forest (reading)
8	Unit 10	Youths Demand their Future (listening)
9	Unit 10	Youths Demand their Future (reading)
10	Unit 11	Christmas SOS (listening)
11	Unit 11	Christmas SOS (reading)
12	Unit 12	Not for Sale (listening)
13	Unit 12	Not for Sale (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・秋学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスクリプトと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (22)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

滝沢 玄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外一流メディアの英語記事を読みこなす力をつけ、様々なビジネス業種の取り組みを通して社会の動向への知見を深める。

【到達目標】

社会で起きているさまざまなビジネスの動向について関心を持ち、自らの意見を英語で表明する。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ構成の特徴をつかむ。英語の音声的傾向を体得し、リスニングの反射神経を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期は対面を基本として、状況に応じてオンラインを併用するハイブリッド型授業を行なう。

対面では受講者の予習を前提として進め、各問題の回答、本文読解、リスニング会話練習は自主的な発言を優先する。またグループ分けに基づき、各課終わりの英語で意見を述べるセクションをディスカッションに充てる。各課終了の翌週には単語小テストを行なう。オンラインでは Zoom でのオンタイム授業と、Google Classroom からの課題配信を行なう。いずれも課題は形式に応じて採点や添削をつけて返却後、レビューをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction : ガイダンス	授業の概要、テキストの内容等についての説明。時間があれば 1 に入る。
第 2 回	1.Zara	本文読解と発展問題
第 3 回	1.Zara	本文読解と発展問題、グループ会話
第 4 回	2. Airbnb	1 の小テスト、本文読解と発展問題
第 5 回	2. Airbnb	本文読解と発展問題、グループ会話
第 6 回	3. Facebook	2 の小テスト、本文読解と発展問題
第 7 回	3. Facebook	本文読解と発展問題、グループ会話
第 8 回	4. Adidas	3 の小テスト、本文読解と発展問題
第 9 回	4. Adidas	本文読解と発展問題、グループ会話
第 10 回	5.Toyota	4 の小テスト、本文読解と発展問題
第 11 回	5.Toyota	本文読解と発展問題、グループ会話
第 12 回	6. Starbucks	5 の小テスト、本文読解と発展問題
第 13 回	6. Starbucks	本文読解と発展問題、グループ会話
第 14 回	Test	「試験・まとめと解説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

****本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。****

リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点を説明できるように準備し、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむ。

【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi et als., Challenges of Global Enterprises (金星堂, 2019), ¥2100.

【参考書】

『エコノミスト』誌などの本格的な時事英語を読むので、『リーダーズ英和辞典』（研究社）レベルの英語辞書は欠かせない。

【成績評価の方法と基準】

【以下、対面授業で最終試験を行なうことを前提とするが、状況によって試験が実施できない場合、大きな変更が生じる。】

期末試験 40 %、小テスト、提出課題、グループ活動でのパフォーマンス 40%、平常点 20 %（予習と授業での積極的発言）。グループ不参加はテスト未受験と同等にみなす）予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。

【学生の意見等からの気づき】

例年より積極的かつ建設的な意見が多く、とても参考になったが、それをどう反映すべきかは今年度の授業環境に左右されるかと思う。

【Outline and objectives】

To acquire higher reading skills with a view to being more conscious of trends in contemporary business enterprises

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

滝沢 玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外一流メディアの英語記事を読みこなす力をつけ、様々なビジネス業種の取り組みを通して社会の動向への知見を深める。

【到達目標】

春学期のテーマを踏襲しつつ、さらに読みの精度を上げ、英文の細かなニュアンスへの対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

【以下、対面授業を前提として記述するが、オンライン授業の場合変更あり。】

受講者の予習を前提として進め、各問題の回答、本文読解、リスニング会話練習は自主的な発言を優先する。またグループ分けに基づき、各課終わりの英語で意見を述べるセクションをディスカッションに充てる。各課終了の翌週には単語小テストを行なう。課題は形式に応じて採点や添削をつけて返却後、レビューをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Review etc.	春学期試験のレビュー。残りの時間によってテキストに入るか、プリントを使用する。
第 2 回	7. McDonald	本文読解と発展問題
第 3 回	7. McDonald	本文読解と発展問題、グループ会話
第 4 回	9. Amazon	7 の小テスト、本文読解と発展問題
第 5 回	9. Amazon	本文読解と発展問題、グループ会話
第 6 回	10. Sony	9 の小テスト、本文読解と発展問題
第 7 回	10. Sony	本文読解と発展問題、グループ会話
第 8 回	11. IKEA	10 の小テスト、本文読解と発展問題
第 9 回	11. IKEA	本文読解と発展問題、グループ会話
第 10 回	12. Google	11 の小テスト、本文読解と発展問題
第 11 回	12. Google	本文読解と発展問題、グループ会話
第 12 回	14. Disney	12 の小テスト、本文読解と発展問題
第 13 回	14. Disney	本文読解と発展問題、グループ会話
第 14 回	Test	「試験・まとめと解説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

****本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。****

本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点を説明できるように準備し、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむ。

【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi et als., Challenges of Global Enterprises (金星堂, 2019), ¥2100.

【参考書】

『エコノミスト』誌などに掲載された本格的な時事英語を読むので、『リーダーズ英和』（研究社）レベルの英語辞書は欠かせない。

【成績評価の方法と基準】

【以下、対面授業を前提とした評価。オンライン授業の場合、とくに試験の割合について大きな変更が生じる。】

期末試験 50 %、小テストと提出課題 15 %、グループ活動でのパフォーマンス 15%（不参加はテスト未受験と同等にみなす）、平常点 20 %（予習と授業での積極的発言）。予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。欠席が 4 回以上の者は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

例年より積極的かつ建設的な意見が多く、とても参考になったが、それをどう反映すべきかは今年度の授業環境に左右されるかと思う。

【Outline and objectives】

To acquire higher reading skills with a view to being more conscious of trends in contemporary business enterprises

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞を教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
- ・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
- ・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
- ・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
- ・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
- ・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

<重要>この授業は【対面授業】です。ただし、Zoom を用いたオンライン授業を数回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

ユニット 1 つにつき、2 回の授業を充てる。

予習を前提に、1 回目の授業の最初に、単語の意味と記事の内容（何についてのニュースかを日本語で簡単に説明）を問う小テストを行う。また、2 回目の授業の最初に、リスニングの確認（穴埋め）テストを行う。

各授業の最後にリアクションペーパーを配布し、予習で苦勞した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

1 回目の授業は、リスニングとおおまかな読解を中心に進める。

2 回目の授業では、前回の補足を行った後、細部の読解を行うとともに、ニュースの内容を英語でまとめるグループワークを行う。なお、提出した課題（小テスト、作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦勞した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンライン（Zoom）】授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: 103-year old Italian says 'courage, faith' helped beat virus	小テスト（単語・内容確認）、リスニング、大意把握、文法事項の確認
3	Unit 1: 103-year old Italian says 'courage, faith' helped beat virus	小テスト（リスニング確認）、補足、精読、グループワーク（口頭要約、作文）

4	Unit 2: Ichibanya curry receives favorable reaction in India	小テスト (単語・内容確認)、リスニング、大意把握、文法事項の確認
5	Unit 2: Ichibanya curry receives favorable reaction in India	小テスト (リスニング確認)、補足、精読、グループワーク (口頭要約、作文)
6	Unit 3: Japan kyo-gen actor seeks popularity in France	小テスト (単語・内容確認)、リスニング、大意把握、文法事項の確認
7	Unit 3: Japan kyo-gen actor seeks popularity in France	小テスト (リスニング確認)、補足、精読、グループワーク (口頭要約、作文)
8	Unit 4: Vienna to reward carless travel with tickets	小テスト (単語・内容確認)、リスニング、大意把握、文法事項の確認
9	Unit 4: Vienna to reward carless travel with tickets	小テスト (リスニング確認)、補足、精読、グループワーク (口頭要約、作文)
10	Unit 5: New system eyed to reuse EV batteries	小テスト (単語・内容確認)、リスニング、大意把握、文法事項の確認
11	Unit 5: New system eyed to reuse EV batteries	小テスト (リスニング確認)、補足、精読、グループワーク (口頭要約、作文)
12	Unit 6: AI aphorism can produce cancer diagnoses	小テスト (単語・内容確認)、リスニング、大意把握、文法事項の確認
13	Unit 6: AI aphorism can produce cancer diagnoses	小テスト (リスニング確認)、補足、精読、グループワーク (口頭要約、作文)
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

[予習] 1. 記事を読み上げた音声をおおまかに聞き取れるようにしておく。2. 記事を読んで大意を把握し、教科書の **While reading** に答える。3. 単語や文法事項について調べておく。(次回の授業で単語の意味と記事の内容を問う小テストを行う。)

[復習] 1. 記事を読み上げた音声を細部まで聞き取れるようにしておく。(次回の授業で穴埋めによる確認テストを行う。) 2. 教科書の **After reading** に答える。3. 記事を精読する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Meet the world 2021 (若有保彦編、成美堂、2021 年、2,200 円)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (小テスト、リスニング確認テスト、受講態度) 40%
期末試験 60%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当であるため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書 (電子辞書可)。
学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器を持参してほしい。

【その他の重要事項】

第 1 回授業は【オンライン (Zoom)】で実施します。最新の情報は学習支援システムに載せるので、そちらも必ず確認してください。

【Outline and objectives】

Through reading English newspaper articles, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英字新聞を教材として、正確にかつ批判的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
- ・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
- ・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
- ・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
- ・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
- ・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

<重要>この授業は【対面授業】です。ただし、Zoom を用いたオンライン授業を数回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

ユニット 1 つにつき、2 回の授業を充てる。

予習を前提に、1 回目の授業の最初に、単語の意味と記事の内容 (何についてのニュースかを日本語で簡単に説明) を問う小テストを行う。また、2 回目の授業の最初に、リスニングの確認 (穴埋め) テストを行う。

各授業の最後にリアクションペーパーを配布し、予習で苦勞した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

1 回目の授業は、リスニングとおおまかな読解を中心に進める。

2 回目の授業では、前回の補足を行った後、細部の読解を行うとともに、ニュースの内容を英語でまとめるグループワークを行う。なお、提出した課題 (小テスト、作文等) はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦勞した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【対面】春学期の復習
2	Unit 7: Osaka University transplants iPS heart cells in world first	小テスト (単語・内容確認)、リスニング、大意把握、文法事項の確認
3	Unit 7: Osaka University transplants iPS heart cells in world first	小テスト (リスニング確認)、補足、精読、グループワーク (口頭要約、作文)

4	Unit 8: Foreign visitors' consumer complaints rise	小テスト（単語・内容確認）、リスニング、大意把握、文法事項の確認
5	Unit 8: Foreign visitors' consumer complaints rise	小テスト（リスニング確認）、補足、精読、グループワーク（口頭要約、作文）
6	Unit 9: Tokyo govt testing reward points for SDG-friendly activities	小テスト（単語・内容確認）、リスニング、大意把握、文法事項の確認
7	Unit 9: Tokyo govt testing reward points for SDG-friendly activities	小テスト（リスニング確認）、補足、精読、グループワーク（口頭要約、作文）
8	Unit 10: Itochu to launch business to recycle marine plastic waste	小テスト（単語・内容確認）、リスニング、大意把握、文法事項の確認
9	Unit 10: Itochu to launch business to recycle marine plastic waste	小テスト（リスニング確認）、補足、精読、グループワーク（口頭要約、作文）
10	Unit 11: U.S. lets autonomous vehicle bypass human-driver safety rules	小テスト（単語・内容確認）、リスニング、大意把握、文法事項の確認
11	Unit 11: U.S. lets autonomous vehicle bypass human-driver safety rules	小テスト（リスニング確認）、補足、精読、グループワーク（口頭要約、作文）
12	Unit 12: Hopes growing for lifting of China's ban on Japanese food products	小テスト（単語・内容確認）、リスニング、大意把握、文法事項の確認
13	Unit 12: Hopes growing for lifting of China's ban on Japanese food products	小テスト（リスニング確認）、補足、精読、グループワーク（口頭要約、作文）
14	期末試験	試験・まとめと解説

学習支援システムと **Zoom** を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器を持参してほしい。

【その他の重要事項】

第1回授業は【対面】で実施する予定です。ただし、状況によってはオンライン授業に変更する可能性もあります。最新の情報は学習支援システムに載せるので、そちらも必ず確認してください。

【Outline and objectives】

Through reading English newspaper articles, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習] 1. 記事を読み上げた音声をおおまかに聞き取れるようにしておく。2. 記事を読んで大意を把握し、教科書の **While reading** に答える。3. 単語や文法事項について調べておく。（次回の授業で単語の意味と記事の内容を問う小テストを行う。）

[復習] 1. 記事を読み上げた音声を細部まで聞き取れるようにしておく。（次回の授業で穴埋めによる確認テストを行う。）2. 教科書の **After reading** に答える。3. 記事を精読する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Meet the world 2021（若有保彦編、成美堂、2021年、2,200円）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、リスニング確認テスト、受講態度）40%
期末試験 60%
欠席が4回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当であるため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

滝沢 玄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語彙や音声をもふくめた総合的な英語力の発展。

【到達目標】

歴史上のできごとから現代の問題まで、さまざまなトピックに広く関心をもつ。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ構成の特徴をつかむ。英語の音声的傾向を体得し、リスニングの反射神経を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期は対面を基本として、状況に応じてオンラインを併用するハイブリッド型授業を行なう。

まず対面授業の進め方について。各レッスンはリスニングとリーディングのパートに分かれている。リスニングは問題を解くと同時に、音声聞きとりのコツを学ぶ。リーディングはパラグラフごとに音読し、内容を要約し、関連した問題を解く。参加者の積極的発言を優先し、ランダムな割りあてを組み合わせる。英語で意見を述べるセクションは、時おり会話練習や作文に応用する。各ユニット終了の翌週には語彙問題の小テストを行なう。

オンラインでは Zoom でのオンタイム授業と、Google Classroom からの課題配信を行なう。形式によって制約される部分はあるが、Zoom での授業の進め方も基本的には対面のそれを踏襲する。

いずれも課題は形式に応じて採点や添削をつけて返却後、レビューをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction : ガイダンス	授業の概要、テキストの内容等についての説明。時間があれば Unit 1 に入る。
第 2 回	Unit 1	リスニングと本文読解
第 3 回	Unit 1	本文読解と発展問題
第 4 回	Unit 2	リスニングと本文読解
第 5 回	Unit 2	本文読解と発展問題
第 6 回	Unit 3	リスニングと本文読解
第 7 回	Unit 3	本文読解と発展問題
第 8 回	Unit 4	リスニングと本文読解
第 9 回	Unit 4-5	本文読解と発展問題/リスニング
第 10 回	Unit 5	本文読解と発展問題
第 11 回	Unit 6	リスニングと本文読解
第 12 回	Unit 6-7	本文読解と発展問題/リスニング
第 13 回	Unit 7	本文読解と発展問題
第 14 回	Test	「試験・まとめと解説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点を説明できるように準備し、問題は事前に解いておく。リスニング問題もふくめ音声はダウンロード可能なので、必ず事前に聴き、単語のアクセントやイントネーションを意識しながら音読の練習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。*

【テキスト（教科書）】

Masamichi Mochizuki et als., *Ambitions (Intermediate)* (金星堂, 2018), ¥2000.

【参考書】

(言う必要もないことだが)『リーダーズ英和辞典』(研究社)など英語辞書は必携。スマホ使用は原則不可。

【成績評価の方法と基準】

【以下、対面授業で最終試験を行なうことを前提とするが、試験が実施できない場合は変更が生じる。】

期末試験 40%、小テストと提出課題 40%、平常点 20% (予習や授業への積極的参加)。予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。

【学生の意見等からの気づき】

例年より積極的かつ建設的な意見が多く、とても参考になったが、それをどう反映すべきかは今年度の授業環境に左右されるかと思う。

【Outline and objectives】

The development of comprehensive responsiveness to English

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

滝沢 玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

当 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語彙や音声をつくめた総合的な英語力の発展。

【到達目標】

歴史上のできごとから現代の問題まで、さまざまなトピックに広く関心をもつ。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ構成の特徴をつかむ。英語の音声的傾向を体得し、リスニングの反射神経を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

【以下、対面授業を前提として記述するが、オンライン授業の場合変更あり。】

各レッスンはリスニングとリーディングのパートに分かれている。リスニングは問題を解くと同時に、音声聞きとりのコツを学ぶ。リーディングはパラグラフごとに音読し、内容を要約し、関連した問題を解く。積極的発言を優先し、ランダムな割り当てと組み合わせる。英語で意見を述べるセクションは、時おり会話練習や作文に応用する。各ユニット終了の翌週には語彙問題の小テストを行なう。課題は形式に応じて採点や添削をつけて返却後、レビューをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Review etc.	春学期試験レビュー/ 残り時間によってプリント使用、 あるいはテキストに入る。
第 2 回	Unit 8	リスニングと本文読解
第 3 回	Unit 8-9	本文読解と発展問題/リスニング
第 4 回	Unit 9	本文読解と発展問題
第 5 回	Unit 10	リスニングと本文読解
第 6 回	Unit 10-11	本文読解と発展問題/リスニング
第 7 回	Unit 11	本文読解と発展問題
第 8 回	Unit 12	リスニングと本文読解
第 9 回	Unit 12-13	本文読解と発展問題/リスニング
第 10 回	Unit 13	本文読解と発展問題
第 11 回	Unit 14	リスニングと本文読解
第 12 回	Unit 14-15	本文読解と発展問題/リスニング
第 13 回	Unit 15	本文読解と発展問題
第 14 回	Test	「試験・まとめと解説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点を説明できるように準備し、問題は事前に解いておく。リスニング問題もふくめ音声はダウンロード可能なので、必ず事前に聴き、単語のアクセントやイントネーションを意識しながら音読の練習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。*

【テキスト（教科書）】

Masamichi Mochizuki et als., Ambitions (Intermediate) (金星堂, 2018), ¥2000.

【参考書】

(言う必要もないことだが)『リーダーズ英和辞典』(研究社)など英語辞書は必携。スマホ使用は原則不可。

【成績評価の方法と基準】

【以下、対面授業を前提とした評価。オンライン授業の場合、とくに試験の割合について大きな変更が生じる。】

期末試験 50 %、小テストと提出課題 30 %、平常点 20 % (予習や授業への積極的参加)。予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

例年より積極的かつ建設的な意見が多く、とても参考になったが、それをどう反映すべきかは今年度の授業環境に左右されるかと思う。

【Outline and objectives】

The development of comprehensive responsiveness to English

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、高度な英文を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができるようになる。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力を修得することができるようになる。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学修支援システムで配信します。】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。
- ④難しい英文も含まれますので、丁寧に説明します。
- ⑤授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第一回目の課題提示	Unit 1 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary
2	第二回の課題提示	① Unit 1 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 速読・音読・内容把握。 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語などの確認。 ②前回の課題のフィードバック
3	第三回の課題提示	① Unit 1 の課題③ Unit 1 のまとめ ②前回の課題のフィードバック。
4	第四回目の課題指示	① Unit 2 の課題① 以下の項目に注意して課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ②前回の課題のフィードバック

5	第五回目の課題表示	① Unit 2 の課題② 以下の項目に注意して課題に取り組んでください。 ・ 速読・音読・内容把握。 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語などの確認。 ②前回の課題のフィードバック。
6	第六回目の課題提示	① Unit 3 の課題① 以下の項目に注意して課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary、
7	第七回目の課題提示	① Unit 3 の課題② 以下の項目に注意して課題に取り組んでください。 ・ 速読・音読・内容把握。 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。 ②前回の課題のフィードバック。
8	第八回目の課題提示	① Unit 4 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ②前回の課題のフィードバック。
9	第九回目の課題提示	① Unit 4 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 速読・音読・内容把握。 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。 ②前回の課題のフィードバック。
10	第十回目の課題提示	① Unit 5 の課題① 以下の項目に注意して、問題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ②前回の課題のフィードバック。
11	第十一回目の課題	① Unit 5 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 速読・音読・内容把握。 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。 ②前回の課題のフィードバック。
12	第十二回目の課題	① Unit 6 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ②前回の課題のフィードバック。
13	第十三回目の課題	① Unit 6 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 速読・音読・内容把握。 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。 ②前回の課題のフィードバック。
14	第十四回目の課題	① Unit 7 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ②前回の課題のフィードバック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

- ①課題提出に備えて、前もって予習をしておくこと。
- 予習の際に、Unit ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。
- その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
- ②復習の際、語彙力を身につけるために英作文などを作成しましょう。
- ③課題は、必ず期限内に提出準備を整える。

【テキスト（教科書）】

教科書： Reading Fusion 2

著者： Andrew E. Bennett

出版社：南雲堂
 出版年：2020年
 価格：2200円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

課題内容 100%

- ①全課題の回数の10回以上の提出を、単位取得のための必須条件とする。
- ②法政大学の学修主演システムの課題提出サイトは、受付時間が厳密です。時間に余裕をもって課題準備をしてください。
- ③手書き、写メの課題は受け付けません。
- ④ Word 作成の課題のみ受け付ける。

【学生の意見等からの気づき】

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1単位

営1年：英語20組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしてきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	Unit 7 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	Unit 7(1) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	Unit 8 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	Unit 8(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

6	Unit 9	Unit 9 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。 詳細についてはオリエンテーションで説明する。
7	Unit 9	Unit 9(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	【学生の意見等からの気づき】 学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。
8	Unit 10	Unit 10 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	【Outline and objectives】 This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.
9	Unit 10	Unit 10(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
10	Unit 11	Unit 11 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	
11	Unit 11	Unit 11(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
12	Unit 12	Unit 12 ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	
13	Unit 12	Unit 12(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	
14	(1) 後期復習 (2) 試験・まとめと解説・フィードバック	Unit 7-Unit 12	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

①予習をして授業に臨むこと。

予習の際に、Unit ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。

その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。

②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。

③授業内に指示された課題は、期限内に提出準備を整える。

注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書：Reading Fusion 2

著者：Andrew E. Bennett

出版社：南雲堂

出版年：2020 年

価格：2200 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・提出課題 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

田口 清一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

- * 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- * 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- * 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
- * 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインにて、原則として「オンデマンド型」で行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力をも高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

課題の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通して、各回の課題に対し次回の授業で解説を行う。最終回には春学期全体の講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理（可算と不可算）
第 3 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理（冠詞と限定詞）
第 4 回	Chapter1(Animals: Fictional and Real) ①	本文音読・読解、リスニング
第 5 回	Chapter1(Animals: Fictional and Real) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第 6 回	Chapter2(Exporting Sport) ①	本文音読・読解、リスニング

第 7 回	Chapter2(Exporting Sport) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第 8 回	Chapter3(Literature: The Reading Boom) ①	本文音読・読解、リスニング
第 9 回	Chapter3(Literature: The Reading Boom) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第 10 回	Chapter4(Eating Habits: Changing Tastes) ①	本文音読・読解、リスニング
第 11 回	Chapter4(Eating Habits: Changing Tastes) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第 12 回	Chapter5(Art:Attitude and Anonymity) ①	本文音読・読解、リスニング
第 13 回	Chapter5(Art:Attitude and Anonymity) ②	本文音読・読解、リスニング、英作文
第 14 回	学期末の講評	春学期の課題の講評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文演習においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。英作問題においては必ず自分の解答を用意して臨み、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。
(University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.) 大学の基準は上記の通りだが、できれば予習・復習のそれぞれに少なくとも 1 時間は割いて頂きたい。

【テキスト（教科書）】

Insight into Britain 金星堂 1,800 円（税別）

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書（体系的にある程度詳しく記述されたもの）を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業となるため、「平常点」(毎回の課題提出と出来)100%で評価する。課題に取り組む際に、到達目標に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。

尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が 4 回以上の場合には単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

田口 清一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

- * 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- * 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- * 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
- * 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインにて、原則として「オンデマンド型」で行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

課題の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通して、各回の課題に対し次回の授業で解説を行う。最終回には年間を通しての講評も行う。

秋学期も原則としてオンライン授業の予定だが、新型コロナウイルスの感染が収束している場合には対面授業となる可能性もあるので、その際の変更については「学習支援システム」で改めて通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語と英語の相違	人称代名詞
第 2 回	日本語と英語の相違	文圧縮 (名詞構文)
第 3 回	Chapter6(Population: Food for Thought) ①	本文音読・読解、リスニング
第 4 回	Chapter6(Population: Food for Thought) ②	本文音読・読解、リスニング、作文
第 5 回	Chapter7(Antiques:Old is Often Better) ①	本文音読・読解、リスニング
第 6 回	Chapter7(Antiques:Old is Often Better) ②	本文音読・読解、リスニング、作文

- 第 7 回 Chapter9(Edinburgh:City of Festivals) ①
 第 8 回 Chapter9(Edinburgh:City of Festivals) ② 作文
 第 9 回 Chapter10(Television: Reflecting Our Lives) ①
 第 10 回 Chapter10(Television: Reflecting Our Lives) ② 作文
 第 11 回 Chapter13(Education in the UK) ①
 第 12 回 Chapter13(Education in the UK) ② 作文
 第 13 回 Chapter14(Superstition and Beliefs)
 第 14 回 年間の総評 年間を通しての講評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文演習においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読む。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。英作問題においては必ず自分の解答を用意して臨み、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。(University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.) 大学の基準は上記の通りだが、できれば予習・復習のそれぞれに少なくとも 1 時間は割いて頂きたい。

【テキスト（教科書）】

Insight into Britain(イギリス探訪) 金星堂 1,800 円 (税別)

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書(体系的にある程度詳しく記述されたもの)を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業となるので、「平常点」(毎回の課題提出と出来)100%で標準とする。課題に取り組む際に、到達目標に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。秋学期は春学期の習熟度も考慮する。

尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が 4 回以上の場合には単位修得の資格を失うものとする。

秋学期も原則としてオンライン授業の予定だが、新型コロナウイルスの感染が収束している場合には対面授業となる可能性もあるので、その際の成績評価の方法の変更については改めて通知する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。

速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取る。また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseasies (1)	Diseasies (1) を学習する。
Chapter 5	Diseasies (2)	Diseasies (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。

Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Life and Health (生活と健康) (鳳書房) 1,800 円 + 税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English (桐原書店)

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

当 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掴み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにする。英語辞書の効果的な使い方が出来るようにする。

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。

試験 試験を行う。

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円+税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。
英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。
授業中、スマホはカバンの中にしめておくこと。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

水野 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】

英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

『Skills for Better Reading 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉』と『English through the News Media 15 章版：ニュースメディアの英語』の二冊を教材として使用します。前者は英文に内在する論理構造のパターンを実感するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進捗については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	Conclusions/Reasons (1)	Headline: Don't freeze English education reform
第 02 回	Conclusions/Reasons (2)	Headline: In international test, Japan sinks to lowest-ever rank for students' reading skills
第 03 回	Social Trends (1)	Headline: News outlets are uncertain about the nation's future
第 04 回	Social Trends (2)	Headline: 'Flight-shaming' could slow growth of airline industry, says IATA
第 05 回	Results/Causes (1)	Headline: Saving the Fire Victims Who Cannot Flee: Australia's Koalas (1)
第 06 回	Results/Causes (2)	Headline: Saving the Fire Victims Who Cannot Flee: Australia's Koalas (2)
第 07 回	Several Explanations (1)	Headline: Beware the posh boy's hollow self-confidence (1)
第 08 回	Several Explanations (2)	Headline: Beware the posh boy's hollow self-confidence (2)

第 09 回	Comparisons (1)	Headline: The Price of Recycling Old Laptops: Toxic Fumes in Thailand's Lungs (1)
第 10 回	Comparisons (2)	Headline: The Price of Recycling Old Laptops: Toxic Fumes in Thailand's Lungs (2)
第 11 回	For and Against (1)	Headline: Why Are Some People So Much More Infectious Than Others? (1)
第 12 回	For and Against (2)	Headline: Why Are Some People So Much More Infectious Than Others? (2)
第 13 回	Classification (1)	Headline: What's essential? In France, pastry and wine — in the US, golf and guns (1)
第 14 回	Classification (2)	Headline: What's essential? In France, pastry and wine — in the US, golf and guns (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子『Skills for Better Reading < Intermediate > Third Edition 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉[第 3 版]』（南雲堂）ISBN:9784523179269

高橋優身、伊藤典子、Richard Powell『15 Selected Units of English through the News Media 2021 Edition 15 章版：ニュースメディアの英語 2021 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156644

【参考書】

必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より本授業を担当しますので、フィードバックはありません。

【Outline and objectives】

In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

水野 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】

英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

『Skills for Better Reading 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉』と『English through the News Media 15 章版：ニュースメディアの英語』の二冊を教材として使用します。前者は英文に内在する論理構造のパターンを実感するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進捗については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	History (1)	Headline: They Laid Foundation For a Wireless Society (1)
第 02 回	History (2)	Headline: They Laid Foundation For a Wireless Society (2)
第 03 回	Processes (1)	Headline: Saudi Society Is Changing. Just Take a Look at These Coffeehouses (1)
第 04 回	Processes (2)	Headline: Saudi Society Is Changing. Just Take a Look at These Coffeehouses (2)
第 05 回	Causes and Effects (1)	Headline: An Immigrant Influx That a Wall Won't Deter (1)
第 06 回	Causes and Effects (2)	Headline: An Immigrant Influx That a Wall Won't Deter (2)
第 07 回	Definition of a New Word (1)	Headline: Brave Blossoms Praise team unity
第 08 回	Definition of a New Word (2)	Headline: Japanese fans laud historic effort
第 09 回	Research (1)	Headline: Young Somalis Step in Where Government Fails (1)

第 10 回	Research (2)	Headline: Young Somalis Step in Where Government Fails (2)
第 11 回	New Products, New Services (1)	Headline: As Protests Rage on Citizenship Bill, Is India Becoming a Hindu Nation? (1)
第 12 回	New Products, New Services (2)	Headline: As Protests Rage on Citizenship Bill, Is India Becoming a Hindu Nation? (2)
第 13 回	Reading Graphs (1)	Headline: 'It Changed So Fast.' Oil Is Making Guyana Wealthy But Intensifying Tensions (1)
第 14 回	Reading Graphs (2)	Headline: 'It Changed So Fast.' Oil Is Making Guyana Wealthy But Intensifying Tensions (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子『Skills for Better Reading < Intermediate > Third Edition 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉[第 3 版]』（南雲堂） ISBN:9784523179269

高橋優身、伊藤典子、Richard Powell『15 Selected Units of English through the News Media 2021 Edition 15 章版：ニュースメディアの英語 2021 年度版』（朝日出版社） ISBN:9784255156644

【参考書】

必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より本授業を担当しますので、フィードバックはありません。

【Outline and objectives】

In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.

坂梨 健史郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてこよう。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
- ・各ユニットは4セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1（続き）	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2（続き）	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3（続き）	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4（続き）	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5（続き）	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6（続き）	文法：動名詞および現在分詞

14 試験・まとめと解説 授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング—正しい英語の読み方』金星堂

【参考書】

- 文法の参考書は
- ・『FOREST』桐原書店を薦める。
 - 英和辞典は
 - ・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』研究社
 - ・『研究社英和大辞典』研究社
 - ・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
- をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないとなりが難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
- ・『エクシード英和辞典』三省堂が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

【成績評価の方法と基準】

- 単位取得条件
- ・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。
 - ・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
 - ・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。
- 以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・期末試験 50 %
- ・学習態度および受講態度 50 %

遅刻の扱い

- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
- ・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席

- ・座席は指定する。
- オフィスアワー

- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ることで、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてこよう。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7 (続き)	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8 (続き)	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9 (続き)	文法：it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10 (続き)	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11 (続き)	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12 (続き)	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング—正しい英語の読み方』金星堂

【参考書】

文法の参考書は

- ・『FOREST』桐原書店

を薦める。

英和辞典は

- ・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』研究社

- ・『研究社英和大辞典』研究社

- ・『ランダムハウス英和大辞典』小学館

をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では

- ・『エクシード英和辞典』三省堂

が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

- ・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。

- ・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）

- ・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。

以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。

- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・期末試験 50 %

- ・学習態度および受講態度 50 %

遅刻の扱い

- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。

- ・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。

- ・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席

- ・座席は指定する。

オフィスアワー

- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語という言語について、英語を通じて深く広く考察します。学生は、毎回の授業で、3～4パラグラフからなる、英語に関する英語のエッセイを読みます。各パラグラフは100～200wordsの英文で構成されています。このような比較的骨のある英文を読みこなすには、パラグラフ・リーディングが不可欠です。英文の各パラグラフには必ず、核となるセンテンス、または核となる words があります。この授業では、各パラグラフの核となるセンテンス、words を見つけ出し、そのパラグラフの内容を要約し、エッセイ全体の流れを理解する方法を学びます。また、英文ライティング指導も行います。

【到達目標】

学生は、本授業を通じて以下の能力を身に付けることを目標とします。

- ①英文の各パラグラフを要約できる。
- ②分からない単語や専門的な用語の意味を文脈から推測できる。
- ③英語や第二外国語を学ぶことの意味について理解を深め、外国語学習に対する動機を高める。
- ④英語とその文化的背景、日本語と英語との関わり、グローバル社会における英語の役割など、我々を取り巻く社会環境の一部としての英語に関心を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

授業は演習形式で進めます。

1 回の授業で 1 つの Chapter を進めていきます。

各 Chapter の英文エッセイを、センテンスごとに読んで要約し、発表をしてもらいます。時間があれば、各 Chapter 末の Exercises にも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4 月 8 日	オリエンテーション Chapter 1: The Study of Language	授業の進め方、評価方法などの説明。 リーディング：なぜ外国語を学ぶ必要があるのか？
4 月 15 日	Chapter 2: British English and American English	リーディング：イギリス英語とアメリカ英語の違い
4 月 22 日	Chapter 3: English as a World Language	リーディング：世界言語としての英語
5 月 6 日	Chapter 4: Linguistics, Language, and Culture	リーディング：文化と言語
5 月 13 日	Chapter 5: Registers	リーディング：状況に応じた言葉の使い分け

5 月 20 日	Chapter 6: Language, Culture, and Categorization	リーディング：思考と言語の関係性
5 月 27 日	Chapter 7: First Language Acquisition	リーディング：第 1 言語獲得と臨界期
6 月 3 日	Chapter 8: The Study of the Sounds of Language	リーディング：音声学について
6 月 10 日	Chapter 9: Names in English	リーディング：英語の名前について
6 月 17 日	Chapter 10: Language Contact and Borrowing	リーディング：英語における借用語
6 月 24 日	Chapter 11: Language variation	リーディング：方言について
7 月 1 日	Chapter 12: Meaning in Words and Sentences	リーディング：文脈の中における言葉の意味
7 月 8 日	Chapter 13: Japanese English	リーディング：日本人英語について
7 月 15 日	春学期末筆記試験	春学期の学習到達度確認のための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

1 授業で 1 つの Chapter を進めていきます。英文は 300～500words 程度。これを 1 回の授業で消化するには、事前学習として reading の内容に目を通し、分からない語を調べておくことが欠かせません。

復習は特に指定しませんが、授業内時間に終わらなかった Exercises を宿題として出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

教科書名：Twenty-Six Short Essays on English（英語についての 26 章）

著者名：Naoyuki Akaso, William Herlofsky, Katsumasa Shimizu

出版社：英宝社

出版年：2013 年

価格：1900 円（税別）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、学期末筆記試験 60 点、計 100 点満点で評価します。平常点は、毎回の要約発表、宿題の提出などを評価します。欠席が 4 回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

リーディング授業であっても、グループワークを積極的に取り入れ、学生同士が教えあい学びあう機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Zoom を併用して授業を行います。資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用します。Zoom 入室のためのパスワード等も、学習支援システムを通じて告知しますので、必ず学習支援システムを確認してください。他のクラスの対面授業のために大学にいる学生は、割り当てられた大学の教室から Zoom 授業を受けることになります。その際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

大学の教室で授業を受ける学生は、間隔を開けた着席、教室内の換気を行う必要があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will consider the language of English widely and deeply using English. Students will read an essay written about English language in every class. Each essay is made up of 3 to 4 paragraphs, and each paragraph is made up of 100 to 200 words. In a word, students will read an essay of 300 to 400 words in every class. In order to read and understand essays like this volume of words, skills for paragraph reading is necessary. There are sentences or words which are core of each paragraph. Students will learn how to find out the core sentences or core words, summarize each paragraph, and comprehend the whole picture of the essay. In addition, students will learn English writing in this course.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語という言葉について、英語を通じて深く広く考察します。学生は、毎回の授業で、3～4パラグラフからなる、英語に関する英語のエッセイを読みます。各パラグラフは100～200wordsの英文で構成されています。このような比較的骨のある英文を読みこなすには、パラグラフ・リーディングが不可欠です。英文の各パラグラフには必ず、核となるセンテンス、または核となる words があります。この授業では、各パラグラフの核となるセンテンス、words を見つけ出し、そのパラグラフの内容を要約し、エッセイ全体の流れを理解する方法を学びます。

【到達目標】

学生は、本授業を通じて以下の能力を身に付けることを目標とします。

- ①英文の各パラグラフを要約できる。
- ②分からない単語や専門的な用語の意味を文脈から推測できる。
- ③英語や第二外国語を学ぶことの意味について理解を深め、外国語学習に対する動機を高める。
- ④英語とその文化的背景、日本語と英語との関わり、グローバル社会における英語の役割など、我々を取り巻く社会環境の一部としての英語に関心を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。

授業は演習形式で進めます。

1回の授業で1つのChapterを進めていきます。

各Chapterの英文エッセイを、センテンスごとに読んで要約し、発表をしてもらいます。時間があれば、各Chapter末のExercisesにも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9月30日	Chapter 14: Word Formation in English	リーディング：英語の語形成。どのように英語の言葉は生まれてきたのか。
10月7日	Chapter 15: Spelling and English Pronunciation	リーディング：英語のつづりと発音。
10月14日	Chapter 16: The Importance of Language	リーディング：言語の重要性。
10月21日	Chapter 17: Language Learning	リーディング：言語の習得。
10月28日	Chapter 18: Slang	リーディング：俗語、隠語、合言葉について。
11月4日	Chapter 19: Language and Computers	リーディング：言語とコンピューター。

11 月 11 日	Chapter 20: English in Scotland	リーディング：スコットランド英語について。
11 月 18 日	Chapter 21: Pidgin English	リーディング：ピジン英語について。
11 月 25 日	Chapter 22: English and Other Indo-European Languages	リーディング：英語とその他のインド・ヨーロッパ系言語について。
12 月 2 日	Chapter 23: Modern Linguistics	リーディング：現代言語学について。
12 月 9 日	Chapter 24: English Onomatopoeia	リーディング：英語のオノマトペ（擬音語、擬態語）について。
12 月 16 日	Chapter 25: English through the Ages	リーディング：時代における英語の変化について。
12 月 23 日	Chapter 26: Shakespeare and English	リーディング：シェイクスピアと英語。
1 月 20 日	秋学期末筆記試験	秋学期の学習到達度を確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

1 授業で 1 つの Chapter を進めていきます。英文は 300～500 words 程度。これを 1 回の授業で消化するには、事前学習として reading の内容に目を通し、分からない語を調べておくことが欠かせません。

復習は特に指定しませんが、授業内時間に終わらなかった Exercises を宿題として出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

教科書名：Twenty-Six Short Essays on English（英語についての 26 章）

著者名：Naoyuki Akaso, William Herlofsky, Katsumasa Shimizu

出版社：英宝社

出版年：2013 年

価格：1900 円（税別）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、学期末筆記試験 60 点、計 100 点満点で評価します。

平常点は、毎回の要約発表、宿題の提出などを評価します。

欠席が 4 回を超えると、原則として単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

リーディング授業であっても、グループワークを積極的に取り入れ、学生同士が教えあい学びあう機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Zoom を併用して授業を行います。

資料配布や課題提出のために学習支援システムを利用します。

Zoom 入室のためのパスワード等も、学習支援システムを通じて告知しますので、必ず学習支援システムを確認してください。

他のクラスの対面授業のために大学にいる学生は、割り当てられた大学の教室から Zoom 授業を受けることになります。その際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

大学の教室で授業を受ける学生は、間隔を開けた着席、教室内の換気を行う必要があります。

【Outline and objectives】

In this course, we will consider the language of English widely and deeply using English. Students will read an essay written about English language in every class. Each essay is made up of 3 to 4 paragraphs, and each paragraph is made up of 100 to 200 words. In a word, students will read an essay of 300 to 400 words in every class. In order to read and understand essays like this volume of words, skills for paragraph reading is necessary. There are sentences or words which are core of each paragraph. Students will learn how to find out the core sentences or core words, summarize each paragraph, and comprehend the whole picture of the essay. In addition, students will learn English writing in this course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

須藤 祐二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る英語の文章を正確に、かつある程度の速度で読める力を養うことを目的とする。また、パラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ることに重点を置く。また、テキストの表現を使って基本的な英文を書く練習も取り入れる。受講生は、英語運用能力の強化だけでなく、現代社会の諸問題への気づき、さらにそれらを考えるうえでの基本的語彙の習得や概念の理解も目指す。

【到達目標】

受講生は比較的難しい英文でも臆さずに読めるようにする。専門的な用語も含め、新聞記事や論文などで頻繁に使われる基礎的な英語表現・語句を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各授業の最初に予習度のチェックをする。その後、読解に移り、内容の確認を行う。また、教科書にでている表現を使ったライティング演習を配布プリントで行う。

提出された課題のフィードバックは、授業中だけでなく、「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行う。

大学の行動方針レベル1においては、ハイブリッド型授業である。対面の週と Zoom の週がある。詳細は学習支援システム (Hoppii) で知らせるので、毎週、確認してください。大学の行動方針レベル2以上では Zoom で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の授業の概要説明を行う
第 2 回	Unit1-A(Sweet Love)	Unit1-A を演習
第 3 回	Unit1-B(Food for the Future)	Unit1-B を演習
第 4 回	Unit1 Video と Unit2-A(Song of the Humpback)	Unit1 Video と Unit2-A を演習
第 5 回	Unit2-A(Song of the Humpback) と Unit2-B(The 1000-year Bird Song)	Unit2-A と Unit2-B を演習
第 6 回	Unit2-B(The 1000-year Bird Song) と Video(The Lion's Roar)	Unit2-B と Video を演習
第 7 回	配布プリントを用いた演習	時事問題を扱った英文記事を使った演習
第 8 回	Unit3-A(Was King Tut murdered?)	Unit3-A を演習
第 9 回	Unit3-B(Who killed the Iceman?)	Unit3-B を演習

第 10 回 Unit3 Unit3 Video と Unit4-A を演習

Video(Walking with Giants) と Unit4-A(Living Treasures)

第 11 回 Unit4-A(Living Treasures) と Unit4-B(The Changing Face of King Fu)

Unit4-A と Unit4-B を演習

第 12 回 Unit4-B(The Changing Face of King Fu) と Video(Dragon Boat Festival)

Unit4-B と Video を演習

第 13 回 配布プリントを用いた演習 時事問題を扱った英文記事を使った演習

第 14 回 試験・まとめと解説 学期中に学んだ項目のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で行う内容は必ず予習をすること。授業の最初に簡単なディクテーションを行うため、あらかじめしっかりとテキストの指定部分を読んでおくこと。また、有用と思われる英文資料を配布するので、その場合には、あらかじめ読んで授業に臨むこと。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Reading Explorer 2 (Cengage Learning、第 3 版)

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、授業内に課した課題を含む平常評価 (30%) によって総合評価する。4 回以上欠席した学生は成績評価の対象から外れる。また、欠席回数による減点もあるので注意すること。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

リーディング中心の授業だが、ライティングやスピーキングの演習も従来通り取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom による授業を大学でうけるとときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意すること。同じ授業を受けている学生が近くにいる状態でヘッドセットなしで授業を受けるとハウリングが起り、授業に支障がでる。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop students' ability for reading passages of multiple paragraphs written in English correctly and at a speed suitable for different circumstances. Paying attention to the logical relationship between paragraphs, students should try to fully understand the structure and argument of passages and to garner insights or relevant information from them. Practices will also be given to students for writing sentences in English, based on textbook models. In this course, students should not only improve their English proficiency, but also become more aware of contemporary social issues, and acquire the fundamental vocabulary and knowledge commonly used in them.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

須藤 祐二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る英語の文章を正確に、かつある程度の速度で読める力を養うことを目的とする。また、パラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ることに重点を置く。また、テキストの表現を使って基本的な英文を書く練習も取り入れる。受講生は、英語運用能力の強化だけでなく、現代社会の諸問題への気づき、さらにそれらを考えるうえでの基本的語彙の習得や概念の理解も目指す。

【到達目標】

受講生は比較的難しい英文でも臆さずに読めるようにする。専門的な用語も含め、新聞記事や論文などで頻繁に使われる基礎的な英語表現・語句を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各授業の最初に予習度のチェックをする。その後、読解に移り、内容の確認を行う。また、教科書にでている表現を使ったライティング演習を配布プリントで行う。

提出された課題のフィードバックは、授業中だけでなく、「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行う。

この授業はハイブリッド型で行う。対面の週と Zoom の週がある。詳細は Hoppii で知らせるので、毎週、確認してください。大学の行動方針レベル 2 以上では Zoom で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習と秋学期の授業についての概要	春学期に学んだ項目の復習と秋学期の授業の概要説明を行う
第 2 回	Unit5-A(The Secrets in the Sand)	Unit5-A を演習
第 3 回	Unit5-B(The Stories in the Rock)	Unit5-B を演習
第 4 回	Unit5 Video(Diggin into the Past) と Unit6-A(Cities beneath the Sea)	Unit5 Video と Unit6-A を演習
第 5 回	Unit6-A(Cities beneath the Sea) と Unit6-B(The Truth about Great Whites)	Unit6-A と Unit6-B を演習
第 6 回	Unit6-B(The Truth about Great Whites Roar) と Unit6 Video(Ocean Magabuilders)	Unit6-B と Video を演習
第 7 回	エッセイ・ライティングの基礎知識	エッセイ・ライティングの基本的な構成について、配布プリントを用いて説明・演習

第 8 回	Unit7-A(The Flower Trade)	Unit7-A を演習
第 9 回	Unit7-B(The Power of Perfume)	Unit7-B を演習
第 10 回	Unit7 Video(Flower from Ecuador) と Unit8-A(An Incredible Journey)	Unit7 Video と Unit8-A を演習
第 11 回	Unit8-A(An Incredible Journey) と Unit8-B(The Travels of Ibn Battuta)	Unit8-A と Unit8-B を演習
第 12 回	Unit8-B(The Travels of Ibn Battuta) と Video(The Legend of Marco Polo)	Unit8-B と Video を演習
第 13 回	エッセイのスタイルについての説明	エッセイ・ライティングのスタイルについて解説し、選択したスタイルに基づいて課題についてのエッセイを書く
第 14 回	試験・まとめと解説	学期中に学んだ項目のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で行う内容は必ず予習をすること。授業の最初に簡単なディクテーションを行うため、あらかじめしっかりとテキストの指定部分を読んでおくこと。また、有用と思われる英文資料を配布するので、その場合には、あらかじめ読んで授業に臨むこと。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Reading Explorer 2 (Cengage Learning、第 3 版)

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、授業内に課した課題を含む平常評価 (30%) によって総合評価する。4 回以上欠席した学生は成績評価の対象から外れる。また、欠席回数による減点もあるので注意すること。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

リーディング中心の授業だが、ライティングやスピーキングの演習も従来通り取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom による授業を大学でうけるときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意すること。同じ授業を受けている学生が近くにいる状態でヘッドセットなしで授業を受けるとハウリングが起り、授業に支障がでる。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop students' ability for reading passages of multiple paragraphs written in English correctly and at a speed suitable for different circumstances. Paying attention to the logical relationship between paragraphs, students should try to fully understand the structure and argument of passages and to garner insights or relevant information from them. Practices will also be given to students for writing sentences in English, based on textbook models. In this course, students should not only improve their English proficiency, but also become more aware of contemporary social issues, and acquire the fundamental vocabulary and knowledge commonly used in them.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフ）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。提出課題等は、その都度チェックして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①トピックセンテンス
8	テキストの演習	パラグラフの全体構造②文のつながり方
9	テキストの演習	パラグラフの構造③情報構造
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【コンクルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

トイックとトーフの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

当 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフ）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。提出していただいた課題は、その都度、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとプレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞・ギリシャ語系】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接頭辞・ラテン語系】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞・ラテン語系】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞・ギリシャ語系】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【二重母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【二重子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【連結】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点30%、試験成績70パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

トイックとトーフの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、イギリスを代表する二大高級紙『タイムズ』と『ガーディアン』を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができる。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指すことができる。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

【この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学修システムで配信します。】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第一回目の課題提示	① Chapter 1 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ・ 速読
2	第二回目の課題提示	① Chapter 1 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 句動詞、慣用句・慣用表現、連語 ②前回の課題のフィードバック。
3	第三回目の課題提示	① Chapter 1 の課題③ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語 ②前回の課題のフィードバック。
4	第四回目の課題提示	① Chapter 2 の① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ・ 速読 ②前回の課題のフィードバック。

5	第五回目の課題提示	① Chapter 2 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 ・ 句動詞・慣用句・慣用表現、連語 ②前回の課題のフィードバック。
6	第六回目の課題提示	① Chapter 2 の課題③ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語 ②前回の課題のフィードバック。
7	第七回目の課題提示	① Chapter 3 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ・ 速読 ②前回の課題のフィードバック。
8	第八回目の課題提示	① Chapter 3 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語 ②前回の課題のフィードバック。
9	第九回目の課題提示	① Chapter 3 の課題③ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語 ②前回の課題のフィードバック。
10	第十回目の課題提示	① Chapter 4 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ・ 速読 ②前回の課題のフィードバック。
11	第十一回目の課題提示	① Chapter 4 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語 ②前回の課題のフィードバック。
12	第十二回の課題提示	① Chapter 5 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ Vocabulary ・ 速読 ②前回の課題のフィードバック。
13	第十三回の課題提示	① Chapter 5 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語 ②前回の課題のフィードバック。
14	第十四回目の課題提示	① Chapter 5 の課題③ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ・ 精読・文法 ・ 句動詞、慣用句・慣用表現・連語 ②前回の課題のフィードバック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

- ①予習をして課題提出に臨むこと。
予習の際に、Unit ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。
- その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
- ②復習の際に、重要語彙をしっかりと身につけるために英作文を作成すること。
- ③課題は、期限内に提出すること

【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』で読む今日の世界
 著者：田中孝信著
 出版社：音羽書房鶴見書店
 出版年：2009年
 価格：1800円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

提出課題 100%

- ①提出課題は10回以上を、単位取得のための必須条件とする。
学習支援システムの課題提出サイトは、提出時間が厳密です。余裕をもって課題を提出すること。
- ②手書き、PDFの課題は受け付けない。
- ③word作成の課題のみ受け付ける。

【学生の意見等からの気づき】

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 II

2017年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

営1年：英語28組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができる。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指すことができる。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。
- ④難しい英文も含まれますので、丁寧に説明します。
- ⑤授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	Unit 7 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	Unit 7 (2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	Unit 8 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	Unit 8 (2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

6	Unit 9	Unit 9 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 9	Unit 9(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	Unit 10 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 10	Unit 10(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	Unit 11 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	Unit 11(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 12	Unit 12 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	Unit 12(2) ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	(1) 後期の復習 (2) 試験・まとめと解説・フィードバック	Unit 7-Unit 12

【学生の意見等からの気づき】

難しい英文もあるので、丁寧に説明することを心がけます。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

①予習をして授業に臨むこと。

予習の際に、Unit ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。

その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。

②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。

③授業内に指示された課題は、期限内に提出準備を整える。

注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』で読む今日の世界

著者：田中孝信

出版社：音羽書房鶴見書店

出版年：2009 年

価格：1800 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・提出課題 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

渡辺 英依美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

当 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】

この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。

- (1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解することができる。
- (2) 客観的観点からパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉えることができる。
- (3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の理解を確認し、関連する知識を深めていく。このクラスでは狭義の読解を超えて、自ら英語で発信する力も育成する。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 1: Travel (1)	Scanning
3	Unit 1: Travel (2)	Predicting
4	Unit 2: Fashion (1)	Skimming for the main idea
5	Unit 2: Fashion (2)	Identifying main and supporting ideas
6	Unit 3: Disappearing Animals (1)	Identifying meaning from context
7	Unit 3: Disappearing Animals (2)	Identifying main ideas within paragraphs
8	Mid-semester Examination	Mid-semester exam
	Unit 4: Big Money (1)	Identifying cause and effect
9	Review of the Exam	Review of the exam
	Unit 4: Big Money (2)	Previewing
10	Unit 5: Celebrations Around the World (1)	Using subheadings to predict content
11	Unit 5: Celebrations Around the World (2)	Recognizing sequence of events

12	Unit 6: It's a Mystery! (1)	Making inferences
13	Unit 6: It's a Mystery! (2)	Identifying main ideas within paragraphs
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が必須。個々の単語を和訳するだけでなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning. [¥2,750 (税別)]

【参考書】

英英辞典。他は必要に応じて授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・課題の提出 25 %

中間試験 35%

期末試験 40 %

欠席が4回以上の場合は、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and critical thinking skills. By the end of the course, students will acquire the skills to understand a variety of written materials accurately and to express their thoughts and opinions about the topics in English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

渡辺 英依美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】

この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。

- (1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解することができる。
- (2) 客観的観点からパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉えることができる。
- (3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べるすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の理解を確認し、関連する知識を深めていく。このクラスでは狭義の読解を超えて、自ら英語で発信する力も育成する。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 7: Health and Fitness (1)	Scanning
3	Unit 7: Health and Fitness (2)	Predicting
4	Unit 8: Space and Flight (1)	Identifying main and supporting ideas
5	Unit 8: Space and Flight (2)	Making inferences
6	Unit 9: The Changing Family (1)	Recognizing facts and opinions
7	Unit 9: The Changing Family (2)	Previewing
8	Mid-semester Examination	Mid-semester exam Arguing for and against a topic
9	Unit 10: The Future of Education (1)	Review of the exam Identifying meaning from context
10	Unit 10: The Future of Education (2)	Identifying main ideas within paragraphs
11	Unit 11: The Mystery of Memory (1)	Scanning
12	Unit 11: The Mystery of Memory (2)	

12	Unit 12: Comics (1)	Recognizing sequence of events
13	Unit 12: Comics (2)	Identifying main and supporting ideas
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が必須。個々の単語を和訳するだけでなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning. [¥2,750 (税別)]

【参考書】

英英辞典。他は必要に応じて授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・課題の提出 25 %

中間試験 35%

期末試験 40 %

欠席が4回以上の場合、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and critical thinking skills. By the end of the course, students will acquire the skills to understand a variety of written materials accurately and to express their thoughts and opinions about the topics in English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Is it in your blood? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。

第8回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末テスト (40%)

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。

第8回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第10回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末テスト (40%)

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 31 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉を知ったことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
- ・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。
- ・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声聞き、予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？ (前半)
2	Chapter 1	(後半)
3	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状 (前半)
4	Chapter 2	(後半)
5	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来 (前半)
6	Chapter 3	(後半)
7	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」 (前半)
8	Chapter 4	(後半)

9	Chapter 5 Social class	階級社会の実情 (前半)
10	Chapter 5	(後半)
11	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み (前半)
12	Chapter 6	(後半)
13	Chapter 7	大学と高等教育 (前半)
14	Chapter 7	(後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま>を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30 % + 平常の課題 20 % + 学期末試験（レポート）50 % = 100 %
- ・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点対象となりうる。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時は、学習支援システムと Zoom を用いるため、パソコンが必要となります。大学で Zoom 授業を受ける際はマイク付きのヘッドセットが必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら適宜判断します。

【Outline and objectives】

I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 31 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉を知ったことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。
- ・使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性 (前半)
2	Chapter 8	(後半)
3	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術, 発明, ビジネス (前半)
4	Chapter 9	(後半)
5	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま (前半)
6	Chapter 10	(後半)
7	Chapter 11 Food	英国の食文化 (前半)
8	Chapter 11	(後半)
9	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜 (前半)
10	Chapter 13	(後半)
11	Chapter 15 The arts	英国で「芸術」といえば? (前半)

12	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」 (前半)
13	Chapter 16	(後半)
14	学期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい（改定新版）音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお勧めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30 % + 学期末試験 70 % = 100 %
- ・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1 回の欠席につき平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら判断します。

【Outline and objectives】

I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. In this class, students will use a textbook on Britain, and improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely.

The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain, which is one of the most important countries in Europe.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 32 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの歴史について英語で学ぶテキスト『CD 付 エピソードで綴る英国史 [改訂版] Britain: Historical Tales [revised]』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『CD 付 エピソードで綴る英国史 [改訂版] Britain: Historical Tales [revised]』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1	The Celts ケルトは今も生きている
3	Chapter 2	Roman Britain この時代、ブリテン島は僻地だった
4	Chapter 3	The Anglo-Saxons 現代の WASP、ここに始まる
5	Chapter 4	Alfred the Great and the Danes 異民族を食い止めた古代のヒーロー
6	Chapter 5	William the Conqueror Pig or Pork? Ox or Beef? (ノルマンフレンチの流入)
7	Chapter 6	The Magna Carta 王権が制限された！
8	Chapter 7	The Tower of London Palace or Prison?

9	Chapter 8	William Caxton イングランドに印刷術をもたらした男
10	Chapter 9	Henry VIII Oxbridge に college も設立した王
11	Chapter 10	Elizabethan England 死の淵から蘇った処女王エリザベス
12	英文講読	イギリス史に関連する内容
13	復習	Chapter 1~Chapter 10 の復習
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてくださいます。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Bill Benfield, Yutaka Waku 『CD 付 エピソードで綴る英国史 [改訂版] Britain: Historical Tales [revised]』 2011 年、三修社、2,000 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

Through reading stories in the textbook “Britain: Historical Tales” which consists of 21 episodes about British history, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 32 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの歴史について英語で学ぶテキスト『CD 付 エピソードで綴る英国史 [改訂版] Britain: Historical Tales [revised]』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『CD 付 エピソードで綴る英国史 [改訂版] Britain: Historical Tales [revised]』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 11	Shakespeare 英語に慣用句を残した戯作者
2	Chapter 12	Charles I and Parliament 国王・議会のせめぎ合い
3	Chapter 13	Cromwell and the Civil War 水清すぎて魚住めず
4	Chapter 14	East India Company アジアへの進出
5	Chapter 15	The Industrial Revolution 世界で最初の試み
6	Chapter 16	Queen Victoria 英国の古き良き時代
7	Chapter 17	Edward VIII 恋か王位か？ 王冠をかけた世紀の恋
8	Chapter 18	Winston Churchill and the Second World War ペンも取った稀代の政治家
9	Chapter 19	The 1960s and the Beatles 団塊の世代は熱狂した

10	Chapter 20	Margaret Thatcher 鉄の女の荒療治
11	Chapter 21	Tony Blair 若きカリスマ政治家の登場 イギリス史に関連する内容
12	英文講読	Chapter 11~Chapter 21 の復習
13	復習	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説
14	期末試験・まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Bill Benfield, Yutaka Waku『CD 付 エピソードで綴る英国史 [改訂版] Britain: Historical Tales [revised]』2011 年、三修社、2,000 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

Through reading stories in the textbook “Britain: Historical Tales” which consists of 21 episodes about British history, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 33 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることと読解力を上げていき、必要な情報や知識を正しく得ていく。さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・口頭で英語を話すことに慣れる
- ・難しい単語の意味を知ること执着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・必要な知識・情報を正確に得ることが出来る
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。

リーディングに必要なスキルを理解し、英文を読み通すための集中力を上げ、大意をつかんでいく練習をします。内容を把握した後に、各自で音読し英語独特のリズムや英語を口にするに慣れ、語彙・表現力を上げていきます。更に各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できる力をつけます。ユニットごとに単語の試験を実施し、語彙力の定着を図ります。質問などへのフィードバックはメール、または「授業支援システム」を通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: All about Food (Reading One)	Reading comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: All about Food (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
4	Unit 1: Review Unit 2: Inventions (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
5	Unit 2: Inventions (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary

6	Unit 2: Review Unit 3: Studying Abroad (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
7	Unit 3: Studying Abroad (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
8	Unit 3: Review Unit4: Money and Budget (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
9	Unit 4: Money and Budget (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
10	Unit 4: Review Unit 5: Our Modern Lifestyle (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
11	Unit 5: Our Modern Lifestyle (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
12	Unit 5: Review Unit 6: The Olympics (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
13	Unit 6: The Olympics (Reading One Review); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
14	Review Test	Review Test : 試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習では各チャプターを事前に読み、練習問題に目を通しておく。特にリーディングでは筆者が「何を」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書き出す。
- ・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習することを習慣化する。必ずフレーズを意識しながら日本語を介さず理解できるようになるまで復唱する。
- ・また理解したことだけで満足せずに、それを自分の言葉で説明することも重要。
- ・こうした復習で出来るだけ自然に表現力を上げていくことが望ましいが、同時に単語の試験を受けることで語彙力を強化していく。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N.J., *Active Skills for Reading 1* (Heinle Cengage Learning, 2013, ¥2,750+税)

授業開始までに富士見ゲート棟内にある法政大学売店、三省堂書店にて購入しておくこと

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

提出物 80 % と各ユニットごとに課される小テスト 20 %
 提出するレポートは、与えられた問題に回答するのみではなく、自分から自分自身の課題を見つけ出し分析、克服する作業に取り組む必要がある。
 適切な理由により小テストが受けられなかった場合の代替措置が適応されるのは 2 回まで。
 提出物が全体の 70 % に満たない場合には原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

・前代未聞のオンラインでの授業で先ずは学習習慣が身に付き、「自分のペースでゆっくりと英語に向き合えた」という感想があったように、自分の弱い部分に「気付ける」課題がこなせたようです。

・理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って、自分の言葉で英語で説明することには苦労したようですが、次第に考える習慣が付き、更にまとめ方を工夫できるようになっていきました。「自分の言葉で説明する」時にも「人に伝える」を意識することに気付いた人は語学力の飛躍的な向上につながりました。

・毎年、英語を声に出すことや、自分の言葉で表現するという努力を「面倒がらずに」こなした受講生が、最終的に英語でのコミュニケーション力を上げていく結果になっています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようパソコンなど準備が必要です。

【その他の重要事項】

・課題の提出が遅れた場合、理由とその証拠を元に考慮される場合がありますので、メール akiko.sugi4i@hosei.ac.jp に連絡をしてください。

【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 33 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることによって読解力を上げていき、必要な情報や知識を正しく得ていく。さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・必要な知識・情報を正確に得ることが出来る
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ペア/グループ・ワークを中心に、英文を読む/聞くとときの集中力を上げ、内容を理解し大意をつかんでいく。内容を把握した後、音読することで英語独特のリズムや英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにし、語彙・表現力を上げていく。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。周りの人との協力によるアクティブな学習をしていく。ユニットごとに単語の試験を実施します。質問などへのフィードバックは授業内又はメールで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7: Great Structures (Reading One)	Reading comprehension; Building vocabulary
2	Unit 7: Great Structures (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
3	Unit 7: Great Structures (Review); Unit 8: Language and Communication (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
4	Unit 8: Language and Communication (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary

5	Unit 8: Language and Communication (Review); Unit 9: Festivals and Celebrations (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Reading comprehension; Building vocabulary
6	Unit 9: Festivals and Celebrations (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Comprehension; Building vocabulary
7	Unit 9: Festivals and Celebrations (Review); Unit 10: Growing Up (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Reading comprehension; Building vocabulary
8	Unit 10: Growing Up (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
9	Unit 10: Growing Up (Review); Unit 11: Look into the Future (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
10	Unit 11: Look into the Future (Reading One);(Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
11	Unit 11: Look into the Future (Review); Unit 12: The Power of Stories (Reading One)	Reviewing the context; Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary
12	Unit 12: The Power of Stories (Reading One); (Reading Two)	Reviewing the context; Reading comprehension; Building vocabulary
13	Unit 12: Look into the Future (Review)	Reviewing the context; Vocabulary test;
14	Review Test	Review Test : 試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習では各チャプターを事前に読み、練習問題に目を通しておく。特にリーディングでは筆者が「何を」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書き出す。
- ・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習することを習慣化する。必ずフレーズを意識しながら日本語を介さず理解できるようになるまで復唱する。
- ・また理解したことだけで満足せずに、それを自分の言葉で説明することも重要。
- ・こうした復習で出来るだけ自然に表現力を上げていくことが望ましいが、同時に単語の試験を受けることで語彙力を強化していく。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前期同様、Anderson, N.J., Active Skills for Reading 1 (Heinle Cengage Learning, 2013, ¥2,750+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけでなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity における授業中の積極的な取り組みを重視）
 ユニットごとに行われる Vocabulary tests 20 %

Review Test 50%

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・オンラインでの授業では、まずは学習習慣が身に付き、「自分のペースでゆっくと英語に向き合えた」という感想があったように、自分の弱い部分に「気付ける」課題がこなせたようです。
- ・理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って、自分の言葉で英語で説明することには苦労したようですが、次第に考える習慣が付き、更にまとめ方を工夫できるようになっていきました。「自分の言葉で説明する」時にも「人に伝える」を意識することに気付いた人は語学力の飛躍的な向上につながりました。
- ・毎年、周囲と積極的に協力しあい、英語を声に出すことや、自分の言葉で書くという努力を「面倒がらずに」こなし受講生が、最終的に英語でのコミュニケーション力を上げていく結果になっています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めますが、授業中に許可なくその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。学習支援システムを利用できるようパソコンなど準備が必要です。

【その他の重要事項】

- ・共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます。
- ・欠席や課題の提出が遅れた場合、理由とその証拠を元に考慮される場合がありますので、メール akiko.sugi4i@hosei.ac.jp に連絡をしてください。

【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 34 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの大衆文化の歴史を食、エンターテインメント、スポーツのテーマ別にアメリカ人の著者エドワード・ホフマンが書いたテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

【到達目標】

テキストの本文（長文）と Listening Comprehension Questions（会話文）のヒアリングを行うことにより実践力を高める。英作文を継続して学ぶことにより応用力を身につける。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

フィードバック方法 最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。

授業実施形態 この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 THE HAMBURGER ICON MCDONALD'S	ミルクセーキミキサーのセールスマンであるレイ・クロックは、デューク・マクドナルドとモーリス・マクドナルドの店で、ヘンリーフォードの自動車会社のように流れ作業の工程で料理を作るのを見、そこに大いなる可能性があると考えた。クロックは、マクドナルド兄弟の会社を莫大な額で買い取り、アメリカ国内はもとより、国際化に焦点を合わせた。マクドナルドの世界的成功は、それぞれの国の料理の好みに合わせる柔軟性である。
②	Unit 1 THE HAMBURGER ICON MCDONALD'S	Unit 1 の English Composition、復習テストを行う。
③	Unit 2 SOUTHERN USA CUISINE KENTUCKY FRIED CHICKEN (KFC)	(KFC) の創始者である Harlan Sanders は、皆に親しまれた南部料理の店を開業し、その功績が讃えられ、ケンタッキー州の知事から「カーネル」の称号を受けた。1976 年までには、彼は白いスーツとひもネクタイがトレードマークの世界でもっとも知られた有名人の 1 人となった。

④	Unit 2 SOUTHERN USA CUISINE KENTUCKY FRIED CHICKEN (KFC)	Unit 2 の English Composition、復習テストを行う。
⑤	Unit 3 COFFEE DRINKS FOR THE PLANET STARBUCKS	スターバックスは、シアトルに住む 3 人の友人達がアメリカのコーヒーは、ヨーロッパ人が飲んでいるものと比較して、品質が劣り、コーヒーの消費量が低下しているのだと考えたことから創業した店である。またスターバックスという名は、アメリカの有名な小説 Moby Dick に登場する航海士のスターバックスに由来するものである。
⑥	Unit 3 COFFEE DRINKS FOR THE PLANET STARBUCKS	Unit 3 の English Composition、復習テストを行う。
⑦	Unit 4 THE QUICK SNACK DUNKIN' DONUTS	ダンキンドーナツの創業者である William Rosenberg は、第 2 次世界大戦後に、ボストン郊外の地域の労働者に食事や「コーヒーブレイクの軽食」を提供することを始めた。これが、ダンキンドーナツの元になったのである。最初に作られたダンキンドーナツの店舗は、今でも古風な雰囲気が残るニューイングランドのマサチューセッツ州クインシーにある。
⑧	Unit 4 THE QUICK SNACK DUNKIN' DONUTS	Unit 4 の English Composition、復習テストを行う。
⑨	Unit 5 A MODERN LIFESTYLE 7 ELEVEN STORES	セブンイレブンは、1927 年テキサス州ダラスのサウスランド製氷会社から始まり、1946 年には、週 7 回午前 7 時から午後 11 時までという新しいタイプの店舗をオープンした。以後セブンイレブンは、世界でもっとも収益の多い小売業の 1 つになって行く。
⑩	Unit 5 A MODERN LIFESTYLE 7 ELEVEN STORES	Unit 5 の English Composition、復習テストを行う。
⑪	Unit 6 THE GREAT WHITE WAY	ニューヨークを訪れる際のもっともすばらしい経験は、ブロードウェイの演劇を見ることである。その歴史上一番長く上演されたショーは、『オペラ座の怪人』であり、もっとも称賛された物の 1 つには、20 世紀を代表する劇作家、アーサー・ミラーの『セールスマンの死』が挙げられる。
⑫	Unit 6 THE GREAT WHITE WAY	Unit 6 の English Composition、復習テストを行う。
⑬	Unit 7 AMERICA'S DREAM FACTORY HOLLYWOOD	ハリウッドという言葉は、アメリカの映画産業を表すと同時にカリフォルニア州南部の実際にある町の名前でもある。元来裕福な中西部の人々のための冬の別荘であったが、また 1 世紀の間、産業の中心となって来た場所でもある。

- ⑭ 試験日 試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章にある Reading Comprehension Questions、English Composition の予習。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ENJOYING AMERICAN POP CULTURE
Edward Hoffman 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 % として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline and objectives】

Using the textbook about America written by an American author, students can learn the diverse and practical knowledge.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 34 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの大衆文化の歴史を食、エンターテインメント、スポーツのテーマ別にアメリカ人の著者エドワード・ホフマンが書いたテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

【到達目標】

テキストの本文（長文）、Listening Comprehension Questions（会話文）のヒアリングを行うことにより実践力を高める。英作文を継続して学ぶことにより応用力を身につける。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

フィードバック方法 最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 8 ENTERTAINMENT CAPITAL OF THE WORLD LAS VEGAS	1900 年ぐらいまでは、ラスベガスは、閑散とした砂漠の町であったが、1930 年にその作業が始められた「ボールダー・ダム」の完成により、多くの人が訪れる今のようになつた。
②	Unit 8 ENTERTAINMENT CAPITAL OF THE WORLD LAS VEGAS	Unit 8 の English Composition、復習テストを行う。
③	Unit 9 THE CARTOON KINGDOM DISNEY WORLD	ウォルト・ディズニーが、「すべては、1 匹のネズミから始まった。」と述べたように、1928 年に創り出されたミッキーマウスは、世界でもっとも愛されているキャラクターの 1 つとなっている。ウォルト・ディズニーは、"Uncle Walt" として、子供達の間でその存在を知られていくようになった。
④	Unit 9 THE CARTOON KINGDOM DISNEY WORLD	Unit 9 の English Composition、復習テストを行う。
⑤	Unit 10 AMERICAN CYBER CULTURE	テレビゲームは、今日のアメリカの大衆文化の重要な特徴である。あらゆる地理的な場所や社会的背景を持つ青少年の生活に浸透している。

- ⑥ Unit 10
AMERICAN
CYBER CULTURE
Unit 10 の English
Composition、復習テストを行う。
- ⑦ Unit 11
AMERICA'S
NATIONAL
PASTIME
MAJOR LEAGUE
BASEBALL(MLB)
Unit 11 の English
Composition、復習テストを行う。
- ⑧ Unit 11
AMERICA'S
NATIONAL
PASTIME
MAJOR LEAGUE
BASEBALL(MLB)
Unit 11 の English
Composition、復習テストを行う。
- ⑨ Unit 12
AMERICA'S TV
SPORT
THE NATIONAL
FOOTBALL
LEAGUE(NFL)
Unit 12 の English
Composition、復習テストを行う。
- ⑩ Unit 12
AMERICA'S TV
SPORT
THE NATIONAL
FOOTBALL
LEAGUE(NFL)
Unit 12 の English
Composition、復習テストを行う。
- ⑪ Unit 13
AMERICA'S HOOP
SPORT
THE NATIONAL
BASKETBALL AS-
SOCIATION(NBA)
Unit 13 の English
Composition、復習テストを行う。
- ⑫ Unit 13
AMERICA'S HOOP
SPORT
THE NATIONAL
BASKETBALL AS-
SOCIATION(NBA)
Unit 13 の English
Composition、復習テストを行う。
- ⑬ Unit 15
AN ELITE SPORT
IS POPULARIZED
Unit 15 の English
Composition、復習テストを行う。
- ⑭ 試験日
試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【Outline and objectives】

Using the textbook about America written by an American author, students can learn the diverse and practical knowledge.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章にある Reading Comprehension Questions、English Composition の予習。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ENJOYING AMERICAN POP CULTURE

Edward Hoffman 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 %として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組/初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代イギリスの文化・社会のさまざまなトピックについて学びながら、リーディング・スキルを中心とした英語力を養う。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

各授業の最後に、理解を確かめるための小テスト、リアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

※この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンライン（Zoomまたは学習支援システム）の週があります。大学の行動方針レベルが2となった場合には、原則としてオンラインとします。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業、および学習方法について。
2	Chapter 1: Multi-Cultural UK	Reading 1: White Flight/ (Reading 2: Fear of Increasing Immigration)
3	Chapter 3: The British Royal Family	Reading 1: Constitutional Monarchy/ (Reading 2: Princess Diana—Her Legacy)
4	Chapter 4: Education in the UK	Reading 1: The Education System/ (Reading 2: Issues for the Universities)
5	Chapter 5: Eating in Britain	Reading 1: Typical British Dining/ (Reading 2: Poor Diet)
6	Chapter 6: Health & the Medical System	Reading 1: The National Health Service (NHS)/ (Reading 2: The Corona Virus Pandemic)
7	復習・復習試験 (1)	Chapter 1, 3～6 の復習、および復習試験の実施

8	Chapter 9: Post Brexit Britain	Reading 1: Is the Future of the UK in Europe?/ (Reading 2: Uncertainty for Pensioners Living Abroad)
9	Chapter 11: The British Empire	Reading 1: British Empire Survey/ (Reading 2: Nostalgia for the British Empire in Hong Kong)
10	Chapter 13: Regions of Britain	Reading 1: Regions of the UK/ (Reading 2: England, North & South — A Divided Nation?)
11	Chapter 14: God & a Dog	Reading 1: Christianity — A Minority Religion?/ (Reading 2: Being Homeless)
12	Chapter 15: Class & Money	Reading 1: What is the British Class System?/ (Reading 2: How Wealthy are the British?)
13	復習・復習試験 (2)	Chapter 9, 11, 13, 14, 15 の復習、および復習試験の実施
14	まとめ	今学期学んだことに関わる新聞・雑誌記事、映像などの講読、視聴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。標準的な流れとしては、(1) 音声（教科書会社のサイトからストリーミング可能）を聞きながら本文を一通り読み、(2) 不明点を辞書等でできる限り調べ、(3) 付属の問題を解く。

残った不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつける、ノートに書き出すなどしておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James C. House/ Michiko Miyoshi, 『現代英国の文化・社会・歴史 (Modern Britain: Culture, Society and History)』松柏社, 2021

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。

予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、リアクションペーパーなど）40 %、および 2 回の復習試験各 30 % の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

Zoom による授業を大学で受けるときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意してください。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class concerns recent social and cultural issues in Britain, covering a wide range of topics from food, education, to Brexit. It will help students to have an overall view of the UK today. In terms of language learning, each reading passage is accompanied by well-structured exercises and questions. Through working on them, students will be able to increase their active vocabulary and improve their listening, writing, and reading skills.

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組/初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文化・社会をめぐるさまざまなトピックを、多岐にわたるアプローチで捉えた英語の文章を読む。リーディングの力を段階的に伸ばしつつ、リスニングやライティングにも慣れる。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

毎回の授業の最後に、理解を確認するための小テストやアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

※この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンライン（Zoomまたは学習支援システム）の週があります。大学の行動方針レベルが2となった場合には、原則としてオンラインとします。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業について。学習方法について。
2	Unit 1 The Pencil	リーディングのコツ： Scanning
3	Unit 2 Running Marathons	Scanning
4	Unit 3 Superstition	Topic Sentences
5	Unit 4 The Printing Press	Topic Sentences
6	Unit 5 How Safe Is Air Travel?	Supporting Sentences
7	復習・復習試験 (1)	Unit 1～5 の復習、および復習試験の実施
8	Unit 6 Jazz Music	Supporting Sentences
9	Unit 7/ Unit 8	Discourse Markers
10	Unit 9/ Unit 10	Time Order
11	Unit 11	Cause and Effect
12	Unit 12	Cause and Effect
13	復習・復習試験 (2)	Unit 6～12 の復習、および復習試験の実施

14 Unit 13/ Unit 14/ まとめ Guessing the Meaning of Unfamiliar Words/「リーディングのコツ」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。本文を読み、練習問題を解いておくこと。本文の標準的な準備学習の流れとしては、(1) 音声（各自ダウンロード/ストリーミングできる）を聞きながら一通り目を通し、(2) 不明点を辞書等でできるだけ調べ、(3) 残った不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけたりノートに書き出したりしておく。本文の音読練習もなるべく行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu, Zachary Fillingham, Owain Mckimm, and Judy Majekwski『リーディング力アップのための 7 つの方略 Book 2 (Success with Reading: Boost Your Reading Skills, Book 2)』成美堂, 2021.

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト、リアクションペーパーなど）40 %、および 2 回の復習試験各 30 % の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

Zoom による授業を大学で受けるときには、自分用のマイク付きヘッドセットを用意してください。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills.

The textbook used in tis class is designed mainly to develop reading skills. It provides 7 “keys for learning” within 14 units, thus helping students learn, step by step, how to read more effectively. By applying these accumulated keys to each reading passage in the unit, students will be able to steadily develop their reading skills (steadily). Moreover, the well-structured exercises and questions accompanying each reading passage will be useful in developing listening and writing skills. The textbook will also help students to gain intellectual knowledge, because its topics are wide-ranging from the pencil to inflation and the approaches to them vary in field, such as cultural history, psychology, and economics.

LANe100LA

English I

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法 (Y 除く) 文営 2~3 年：補講 2 組/中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み (チャンク・リーディング)、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。音読練習を徹底的に行った上で、読んだ内容を相手に伝えるリテリング (= 再話) の練習へと発展させる。この訓練を繰り返すことによって、まとまった情報を効果的に伝える能力を身につけることができるようになる。また、学習内容のトピックについて、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読やリテリングについては、練習成果を見るために音声ファイルを提出してもらう。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。学期末には音読発表を行い、クラスメートの評価を受ける。授業形態は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型。第 1 回は Zoom によるリアルタイム配信型のガイダンス、第 14 回は対面授業を行い、それ以外はオンデマンド型授業の予定である。状況次第では変更の可能性もあるので、最新情報は学習支援システムで確認のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 3 回	Unit 1: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 4 回	Unit 2: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 5 回	Unit 2: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 6 回	Unit 3: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 7 回	Unit 3: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 8 回	Unit 4: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 9 回	Unit 4: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story

第 10 回	Unit 5: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 11 回	Unit 5: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 12 回	Unit 6: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 13 回	Unit 6: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 14 回	発表	口頭発表とクラスメートによる評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・テキストの予習や英文のチャンク分け、毎日の音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。(90 分程度)

【テキスト (教科書)】

Pleasure in Reading Aloud and Retelling (金星堂, 2019) 1800 円 (税別)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

口頭発表 20 % + 小テスト 40% + 提出課題 40 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う (ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く)。オンラインと対面授業を組み合わせたブレンド型授業を行う。出席確認は、対面授業の場合は名前の点呼によって、また、オンライン授業の場合は、授業時間内に解答した小テストや提出課題によって行う。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。初回授業から出席確認を行う。

【学生の意見等からの気づき】

Zoom によるリアルタイム配信型の授業を行う予定であったが、通信環境のよくない学生やこのような授業形態を強く拒む学生がいたため、資料配布型授業に変更した。映画教材を使った教科書であったため、映画をみたいという要望や Zoom で顔を合わせて授業をしたいという要望も寄せられたが、それに応えられなかったのは残念であった。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom によるリアルタイム配信型の授業では、マイク・カメラのついた PC で参加のこと。なお、大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

教科書は初回授業時までには用意することが望ましい。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course expects students to gain an increased critical understanding of various topics and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English II

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法 (Y 除く) 文営 2~3 年：補講 2 組/中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み(チャンク)、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。音読練習を徹底的に行った上で、読んだ内容を相手に伝えるリテリング (=再話) の練習へと発展させる。この訓練を繰り返すことによって、まとまった情報を効果的に伝える能力を身につけることができるようになる。また、学習内容のトピックについて、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読やリテリングの練習成果を見るために、音声ファイルを提出してもらい、提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。学期末には音読発表を行い、クラスメートの評価を受ける。授業形態は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型。第1回、2回、14回は対面授業を行い、それ以外はオンライン授業の予定である。(技術的なサポート等が必要になった場合は、数回対面授業を増やす可能性もある)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針の説明
第2回	Unit 7: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第3回	Unit 7: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第4回	Unit 8: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第5回	Unit 8: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第6回	Unit 9: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第7回	Unit 9: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第8回	Unit 10: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第9回	Unit 10: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story

第10回	Unit 11: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第11回	Unit 11: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第12回	Unit 12: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第13回	Unit 12: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第14回	発表	口頭発表とクラスメートによる評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・テキストの予習や英文のチャンク分け、毎日の音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。(90分程度)

【テキスト (教科書)】

Pleasure in Reading Aloud and Retelling (金星堂, 2019) 1800円 (税別)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

口頭発表 20% + 小テスト 40% + 提出課題 40% によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う (ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く)。オンラインと対面授業を組み合わせたブレンド型授業を行う。出席確認は、対面授業の場合は名前の点呼によって、また、オンライン授業は、授業時間内に解答した小テストによって行う。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。初回授業から出席確認を行う。

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイム配信型の授業を行ったせいか、受講生からの様々な要求や要望があり、対応に苦慮した。工夫と熱意は伝わったようだが、グループワークのやり方に課題があることが判明した。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

教科書は初回授業時まで用いることが望ましい。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course expects students to gain an increased critical understanding of various topics and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English I

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

法 (Y 除く) 文営 2~3 年：補講 3 組/上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み (チャンク・リーディング)、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。音読練習を徹底的に行った上で、読んだ内容を相手に伝えるリテリング (= 再話) の練習へと発展させる。この訓練を繰り返すことによって、まとまった情報を効果的に伝える能力を身につけることができるようになる。また、学習内容のトピックについて、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読やリテリングについては、練習成果を見るために音声ファイルを提出してもらう。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。学期末には音読発表を行い、クラスメートの評価を受ける。授業形態は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型。第 1 回は Zoom によるリアルタイム配信型のガイダンス、第 14 回は対面授業を行い、それ以外はオンデマンド型授業の予定である。状況次第では変更の可能性もあるので、最新情報は学習支援システムで確認のこと。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 3 回	Unit 1: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 4 回	Unit 2: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 5 回	Unit 2: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 6 回	Unit 3: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 7 回	Unit 3: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 8 回	Unit 4: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 9 回	Unit 4: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story

第 10 回	Unit 5: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 11 回	Unit 5: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 12 回	Unit 6: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第 13 回	Unit 6: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第 14 回	発表	口頭発表とクラスメートによる評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・テキストの予習や英文のチャンク分け、毎日の音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。(90 分程度)

【テキスト (教科書)】

Pleasure in Reading Aloud and Retelling (金星堂, 2019) 1800 円 (税別)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

口頭発表 20 % + 小テスト 40% + 提出課題 40 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う (ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く)。オンラインと対面授業を組み合わせたブレンド型授業を行う。出席確認は、対面授業の場合は名前の点呼によって、また、オンライン授業の場合は、授業時間内に解答した小テストや提出課題によって行う。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。初回授業から出席確認を行う。

【学生の意見等からの気づき】

Zoom によるリアルタイム配信型の授業を行う予定であったが、通信環境のよくない学生やこのような授業形態を強く拒む学生がいたため、資料配布型授業に変更した。映画教材を使った教科書であったため、映画をみたいという要望や Zoom で顔を合わせて授業をしたいという要望も寄せられたが、それに応えられなかったのは残念であった。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom によるリアルタイム配信型の授業では、マイク・カメラのついた PC で参加のこと。なお、大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

教科書は初回授業時まで用いることが望ましい。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course expects students to gain an increased critical understanding of various topics and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English II

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 3 組/上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。音読練習を徹底的に行った上で、読んだ内容を相手に伝えるリテリング（＝再話）の練習へと発展させる。この訓練を繰り返すことによって、まとまった情報を効果的に伝える能力を身につけることができるようになる。また、学習内容のトピックについて、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読やリテリングの練習成果を見るために、音声ファイルを提出してもらい、提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。学期末には音読発表を行い、クラスメートの評価を受ける。授業形態は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型。第1回、2回、14回は対面授業を行い、それ以外はオンライン授業の予定である。（技術的なサポート等が必要になった場合は、数回対面授業を増やす可能性もある）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針の説明
第2回	Unit 7: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第3回	Unit 7: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第4回	Unit 8: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第5回	Unit 8: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第6回	Unit 9: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第7回	Unit 9: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第8回	Unit 10: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第9回	Unit 10: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story

第10回	Unit 11: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第11回	Unit 11: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第12回	Unit 12: Warm-Up	Picture Dictionary / Fact Checker / Reading- Aloud Warm-Up
第13回	Unit 12: Reading	Repeat and Look Up! / Reading Aloud / Retelling the Story
第14回	発表	口頭発表とクラスメートによる評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や英文のチャンク分け、毎日の音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。（90分程度）

【テキスト（教科書）】

Pleasure in Reading Aloud and Retelling（金星堂，2019）1800円（税別）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

口頭発表 20% + 小テスト 40% + 提出課題 40% によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。オンラインと対面授業を組み合わせたブレンド型授業を行う。出席確認は、対面授業の場合は名前の点呼によって、また、オンライン授業は、授業時間内に解答した小テストによって行う。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。初回授業から出席確認を行う。

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイム配信型の授業を行ったせいか、受講生からの様々な要求や要望があり、対応に苦慮した。工夫と熱意は伝わったようだが、グループワークのやり方に課題があることが判明した。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

教科書は初回授業時までには用意することが望ましい。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course expects students to gain an increased critical understanding of various topics and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture 1, worksheet and readings, writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2, readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3, readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4, readings, Quiz #3 Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5, readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6, readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7, readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書"Speaking of Critical Thinking"に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをしながら授業を進めていく。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class. Read The Academic Advisor.
2	Unit 1 Critical Thinking	Read the unit well and do the exercises and understand it. Read the 'Academic Advisor' and think what the problem is.
3	Unit 1	Put yourself in Risa's position and think what you will do if you were in her shoes.
4	Unit 1	As a law major student what do think about the outcome of texting while driving? If the driver causes an accident, is he/she guilty?

5	Unit 3 Strategies. Connecting the Dots.	What does it mean by connecting the dots? Looking at the Appendix on page 97 to 99 what do you think about them.
6	Unit 3	Why is connecting the dots important in the product advertisement.
7	Unit 3	Group Activity 6. What would you do when your plane crashes and lands on a nearby uninhabited island.
8	Unit 4 Culture	Read the case studies introduced in this unit. What do you think about them?
9	Unit 4	What do you think are the gender equalities in different cultures?
10	Unit 4 Preparing for the presentation	What are the cons and pros of an international marriage? Preparing for the presentation
11	Unit 5 Communication Preparing for the presentation	Talk about the differences between a Japanese student and a foreign student. Preparing for the presentation
12	Unit 5 Preparing for the presentation.	What are the problems when working for a foreign company? Preparing for the presentation.
13	Presentation	Presentation.
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour or more a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Critical Thinking
Peter Vincent, Naoko Nakazato
Nanun-do

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となります、

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。教科書には多くの activities が記載されているのでそれらを通して role playing を行って行きたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書“Speaking of Critical Thinking”に入る前に簡単なリスニングを簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをどうして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
2	Unit 6 Perception	Read the case studies and think where the problems are.
3	Unit 6	What is the importance of perception? When is it important and when not.
4	Unit 6	Why do we have different interpretation towards the same thing? what are the differences between perception and interpretation?
5	Unit 7 Values	What are our values? Why does everyone have different values?

6	Unit 7	Take a look at Appendix 6A. what do you think about it?
7	Unit 7	What does SDGs mean to you? Does SDGs create something for the world? Do you think it is important?
8	Unit 8 Creative Thinking	What do you think of advertisements? Are we influenced by them?
9	Unit 8	What is the difference between different cultures towards the same advertisement?
10	Unit 8 Preparing for the presentation	What is important in an advertisement? How do we react to advertisements?
11	Unit 9 Business Preparing for the presentation	Read the Case Studies 1-4 What is important in a negotiation ?
12	Unit 9 Business Preparing for the presentation	What do you think are the differences when dealing with a person from different culture?
13	Presentation	Presentation
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour or more a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Critical Thinking
Peter Vincent Naoko Nakazato
Nan'un do

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%。とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom を使用する場合には、大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のParagraphを書く練習を行い、最終的には複数のParagraphからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聞く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

音読やシャドーイングなどを繰り返すことによって英語表現をインプットし、会話表現に出てきたことを参考にして英作文をその場で作ることで、アウトプットできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合はHoppiiにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第1課 Travel	この教科書の使い方 旅行全般について 単語 ディクテーション
4	第1課	発音 リーディング 口頭練習
5	第2課 Jobs and People	第1課小テスト 観光業界について 単語 ディクテーション
6	第2課	発音 リーディング 口頭練習

7	第3課 Getting on a Plane	第2課小テスト 搭乗する 単語 ディクテーション
8	第3課	発音 リーディング 口頭練習
9	第4課 At the Immigration and Customs	第3課小テスト 出入国管理と税関にて 単語 ディクテーション
10	第4課	発音 リーディング 口頭練習
11	第5課 At the Airport	第4課小テスト 空港にて 単語 ディクテーション
12	第5課	発音 リーディング 口頭練習
13	第6課 Hotel(Accommodations)	第5課小テスト ホテル(チェックイン) 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ベーシック観光英語 観光英検センター編 2014年 三修社
2000円
ISBN978-4-384-33437-1

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は3回で欠席1回に換算される。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの質問に早めに対応したい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成の Paragraph を書く練習を行い、最終的には複数の Paragraph からなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合は Hoppii にてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課 Restaurant(Breakfast and Fast Food)	レストランでの会話 単語 ディクテーション
3	第 7 課	発音 リーディング 口頭練習
4	第 8 課 Sightseeing	第 7 課小テスト 観光 単語 ディクテーション
5	第 8 課	発音 リーディング 口頭練習
6	第 9 課 Shopping	第 8 課小テスト 買い物での会話 単語 ディクテーション

7	第 9 課	発音 リーディング 口頭練習
8	第 10 課 Transportation	第 9 課小テスト 交通機関関連の会話 単語 ディクテーション
9	第 10 課	発音 リーディング 口頭練習
10	第 11 課 Problems and Complaints	第 10 課小テスト 問題と苦情 単語 ディクテーション
11	第 11 課	発音 リーディング 口頭練習
12	第 12 課 Transportation from the Airport to the Hotel	国内旅行での空港からホテルまで 単語 ディクテーション
13	第 12 課	発音 リーディング 口頭練習
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ベーシック観光英語 観光英検センター編著 2014 年 三修社
2000 円
ISBN978-4-7919-7185-5

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 % ・小テスト・レポート課題 10 % ・平常点 10 %。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの質問に早めに対応したい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

提出された課題に関しては、全体の講評を中心に個別でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習（シャドーイング入門）
3 回目	教科書 1 章	教科書に基づく演習（教科書 1 章）
4 回目	教科書 2 章	教科書に基づく演習（教科書 2 章）
5 回目	教科書 3 章	教科書に基づく演習（教科書 3 章）
6 回目	教科書 4 章	教科書に基づく演習（教科書 4 章）
7 回目	パラグラフ・ライティング（入門）	パラグラフ・ライティング（入門）
8 回目	教科書 5 章	教科書に基づく演習（教科書 5 章）
9 回目	教科書 6 章	教科書に基づく演習（教科書 6 章）
10 回目	教科書 7 章	教科書に基づく演習（教科書 7 章）

11 回目	教科書 8 章	教科書に基づく演習（教科書 8 章）
12 回目	教科書 9 章	教科書に基づく演習（教科書 9 章）
13 回目	パラグラフ・ライティング（実践編）	パラグラフ・ライティング演習
14 回目	まとめ	オンラインメディアを活用したシャドーイング学習法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してから授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモビア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ（ペレ出版）。

【成績評価の方法と基準】

演習（40%）、ライティング課題（40%）、試験（20%）

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンラインでの実施となり、従来の教授法とは異なるアプローチとなることを余儀なくされた。効率の良い学習方法の伝達につとめたが、授業時にもくりかえし触れたように、現在のオンラインメディアなども活用する形で英語に触れる具体的な学習法を伝達した。また、オンライン授業を通して、ラーニングシステムをはじめ本格的に使う機会を得た。ツールの有効活用は今後も継承したい。

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「English2 II」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

- ・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
- ・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。
- ・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

提出された課題に関しては、全体の講評を中心に個別でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
7 回目	検定試験型ライティング（導入）	検定試験型ライティングのパターンについて
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）

11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）
13 回目	検定試験型ライティング（実践編）	検定試験型ライティング（実践編）
14 回目	まとめ	インタビューを素材にしたシャドーイングの学習法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習して授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモビア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ、ペレ出版。

遠田和子・岩渕デボラ『究極の英語ライティング』研究社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40 %）、前の週の復習（40 %）、試験（20 %）

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンラインでの実施となり、従来の教授法とは異なるアプローチとなることを余儀なくされた。効率の良い学習方法の伝達につとめたが、授業時にもくりかえし触れたように、現在のオンラインメディアなども活用する形で英語に触れる具体的な学習法を伝達した。また、オンライン授業を通して、ラーニングシステムをはじめ本格的に使う機会を得た。ツールの有効活用は今後も継承したい。

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	What makes a good paragraph	How to write a good paragraph (topic sentences, supporting sentences and concluding sentences)
第 3 回	Peer editing	A. Select a short article from http://www.voanews.com , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. make groups for presentations selected from topic list provided by the instructor
第 4 回	differences/ commonalities	Paragraph writing practice. Any academic theme acceptable. Group work on presentations
第 5 回	inside looking out	C. TED Talk, "Your Body Language May Shape Who You Are" (21:02) Q & A
第 6 回	Outline	D. Work on presentations A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.

第 7 回 discussion

A. Select a short article from <http://www.japantoday.com>, highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class.
B. work on presentations

第 8 回 Peer editing

A. Peer editing on typed paragraphs
B. Group work on presentations

第 9 回 Short speeches

Short speeches on what you are most passionate about (no digital games, anime etc.)
B. Tony Robbins TED Talk, "Why We Do What We Do" (21:45)
C. Q & A

第 11 回 presentations

Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.

第 12 回 presentations

2~3 group presentations + Q & A

第 13 回 get ready

2~3 group presentations + Q & A

第 14 回 conversation

active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	Discuss what you did during your summer break.
第 2 回	Mistakes	How to avoid awkward expressions in writing and speaking https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/
第 3 回	Going global	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	writing	In class writing rough draft paragraph on globalization Typed paragraph due next week. Peer editing and discussion on globalization.
第 5 回	TED Talk	A. TED Talk, "The Habits of Happiness," Matthieu Ricard (20:54) B. Group work, Q & A C. Work on presentations
第 6 回	opinion	Outline due for one page essay. Essay due on week 11 In class work on essay selected from list provided by the instructor.

第 7 回	Group Discussion	A. Cultural taboos: discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	Read and discuss	A. Select a short article from http://www.japantoday.com , highlight important points and discuss it in small groups. You must be prepared before class. B. work on presentations
第 9 回	Short speeches	A. Bring a small and meaningful item from home and give a short speech. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations. One page essay due.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	Group discussions selected from list provided by instructor. See https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class unless I say differently. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Tme expressions. Comparative adjectives

11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press,2019.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more partner changes.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset.

Prepare an English dictionary. Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【Outline and objectives】

Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases

13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden and Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press,2019.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more partner changes.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Prepare an English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【Outline and objectives】

Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	2C One dark October evening	time sequencers and connectors, verb phrases.
7	3A Trip Aside	be going to, airports.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.

11	5B Twelve lost wallets	superlatives, describing a town or city.
12	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
13	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs.
14	6C The meaning of dreaming	review of verb forms, modifiers.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【その他の重要事項】

The textbook comes with an access code for an online course component. Please make sure to buy a textbook with a valid access code.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines).

Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C Internationaal inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.

12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.
13	12B Think before you speak.	reported speech.
14	12 C The English File quiz.	revision of question words, book revision.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA	4	第四回目の課題提示	① Unit 1 の課題④ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ニュース原稿の音読・内容把握を行う。
English 2 I			
2017 年度以降入学者			
新宅 美樹			
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：土 1/Sat.1	5	第五回目の課題表示	②前回の課題のフィードバック ① Unit 1 の課題⑤ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ニュース原稿を発音等に注意して音読する。
単位数：1 単位			
法 1 年：英語 8 組			
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：			
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 CNN ニュースを用いて、リスニング力を向上させることを目的とする。 更に英語発音の基礎（発音記号・リズム・強勢・母音と子音）を学ぶ。	6	第六回目の課題表示	②前回の課題のフィードバック ① Unit 2 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
【到達目標】 ①リズム・強弱・音変化といった英語の音読ポイントを習得することができる。 ②発信のためのコミュニケーションスキルを習得することができる。 ③更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力を習得することができる。	7	第七回目の課題表示	Words and Phrases to Study ②前回の課題のフィードバック ① Unit 2 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 Unit 2 の Words and Phrases to Study の英文の音読・内容把握を行う。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3	8	第八回目の課題表示	②前回の課題のフィードバック。 ① Unit 2 の課題③ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 朝日出版社のサイト、 あるいは当テキストの最初のページ「はしがき」 の左側に「音声・映像ストリーミング配信」で当 Unit の音声・映像を確認する。
【授業の進め方と方法】 ①この授業は、全 14 回オンデマンド授業（資料型）です。指示や課題は学習支援システムで配信します。 ②各 Unit で使用される難解な語彙の用法などを確認・音読し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。 ③ニュースの英語を効果的に聞き取り、内容を把握する。 ④ニュース内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、複数のパラグラフからなる短いレポートを書く。	9	第九回目の課題提示	②前回の課題のフィードバック。 ① Unit 2 の課題④ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ニュース原稿の音読・内容把握を行う。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No			
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No	10	第十回目の課題提示	②前回の課題のフィードバック ① Unit 2 の課題⑤ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 ニュース原稿を音読する。
【授業計画】			
回 テーマ 内容			
1 第一回目の課題提示			① Unit 1 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 当テキストの 3 ページと 4 ページの Words and Phrases to Study
2 第二回目の課題提示	12	第十二回の課題提示	① Unit 1 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 Words and Phrases to Study の英文の音読・内容把握を行う。 ②前回の課題のフィードバック。
3 第三回目の課題提示			① Unit 1 の課題③ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 朝日出版社のサイト、 あるいは当テキストの最初のページ「はしがき」 の左側に「音声・映像ストリーミング配信」で当 Unit の音声・映像を確認する。 ②前回の課題のフィードバック。
	13	第十三回目の課題提示	②前回の課題のフィードバック。 ① Unit 3 の課題③ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 朝日出版社のサイト、 あるいは当テキストの最初のページ「はしがき」 の左側に「音声・映像ストリーミング配信」で当 Unit の音声・映像を確認する。 ②前回の課題のフィードバック。

- 14 第十四回目の課題提示 ① Unit 3 の課題④
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
ニュース原稿の音読を行う。
②前回の課題のフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
予習①わからない単語を調べ、発音記号通りに発音できるように練習する。

②英語のニュース原稿を正しく音読できるように練習する。

③課題は、提出期限内に提出できるように準備する。

復習① Words and Phrases・各 Unit の Notes 内の難解単語を用いて英文を作成する。

【テキスト（教科書）】

教科書：CNN:ビデオで見る世界のニュース (22)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版社

出版年：2021 年

価格：1900 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 50%、提出課題内容 (50 %)

①課題提出 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

②学習支援システム内の課題提出時間内に課題を提出してください。

1 秒でも遅れると課題は提出できません。

③手書き、写メの課題は受取りません。

④ word で作成した課題のみ受け取ります。

【学生の意見等からの気づき】

発音記号を確認しながら、単語を発音するようにしてください。

更に英文を自然なスピードで読めるようにしてください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、リスニング力を向上させることを目的とする。

更に英語発音の基礎（発音記号・リズム・強勢・母音と子音）を学ぶ。

【到達目標】

①リズム・強弱・音変化といった英語の音読ポイントを習得することができる。

②発信のためのコミュニケーションスキルを習得することができる。

③更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

①各 Unit で使用される難解な語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。

②ニュースの英語を効果的に聞き取り、内容を把握する。

③ニュース内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、複数のパラグラフからなる短いレポートを書き、口頭発表などを行う。

④予習をしていることを前提に授業を進めて行く。

⑤授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 前期の振り返り	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
2	Unit 7(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
3	Unit 8	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
4	Unit 8(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
5	Unit 9	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
6	Unit 9(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
7	Unit 7-Unit 9 のまとめ	CNN ニュースの音読と発音指導

8	Unit 10	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 10(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
10	Unit 11	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 11(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
12	Unit 12	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 12(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
14	(1)Unit 7-Unit 12 の 振り返り (2) 試験とまとめと解 説・フィードバック	Unit 7-Unit 9

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習①わからない単語を調べ、発音記号通りに発音できるように練習する。

②授業内に指定された英文を正しく音読できるように練習する。

③授業内に指示された課題を、提出期限内に提出できるように準備する。

復習①授業内に解説した英文をリズム・強弱・発音などに注意して練習する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：CNN: ビデオで見る世界のニュース (22)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版社

出版年：2021 年

価格：1900 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・提出課題 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるようにする。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will assist students in acquiring more effective listening skills so as to enable them to be more competent in interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture with a greater emphasis on a variety of task based activities including periodic individual and small group presentations. The topics will be taken mainly from the text with supplemental materials used as appropriate. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reactions to the video.

In Week 7 and the final class, unit tests are reviewed as well as comments and explanations given for assignments (exercises, reports, presentations, etc.) completed.

*Please note that this is a hybrid class, meaning that we will meet some weeks in person and other weeks on Zoom. Please refer to Hoppii

(Announcements) for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages. Student career presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, grammar focus and reading comprehension.

7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Test scores; comments/ explanations on homework assignments (unit exercises, reports, etc) Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Interchange activity: Asking classmates to borrow, lend or refuse to lend something.
10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories; notetaking.
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing your own story; Groups: creating a news story.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations on creative news stories.
13	Units 3&4 test	Listening, grammar focus, vocabulary and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed and feedback of Spring term.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be weekly assignments mainly from the text. Students are expected to come to class fully prepared, having completed the assigned homework (Unit exercises, readings, teacher assigned tasks) and thus be able to contribute to class activities.

The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is as follows:

Oral dictation and vocabulary quizzes, Unit tests:40%

Participation (including the timely completion of all homework assignments) 30%

Individual and small group presentations: 30%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

NA (新担当者のためなし)

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii and Zoom will be used extensively throughout the term. Students attending a Zoom class on campus will need a headset.

【Outline and objectives】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】

Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience on relevant topics. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities in pairs and groups. There will continue to be periodic individual and group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to listening exercises and DVD showings.

In Week 8 and in the final class, unit test scores are returned as well as comments and explanations of all assignments (written reports, presentations, etc) given during the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	Student country presentations and follow-up student reactions.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Units 5 & 6 test.	Listening, grammar review, and reading.
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Test scores returned; comments and explanations on assignments (reports, presentations) are given.

9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Group discussion
10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.
11	Environmental solutions	Group topic presentations on various environmental issues.
12	The past and the future.	Talking about historical events and people; talking about the future. Exercises and practice.
13	Units 7 & 10 test.	Listening, grammar review, reading and writing (about a famous Japanese person).
14	Review of Units 7& 10.	Units 7& 10 test scores are returned; comments and explanations of completed assignments given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed all assigned homework from the previous class, and thus able to participate in current class discussion.

*The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ¥ 2750

【参考書】

Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is based on:

Unit Tests: 40%

Participation: (including the timely completion of homework assignments both written and reading): 30%

Performance in individual and group presentations: 30%

In principle no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

NA (新担当者のためなし)

【Outline and objectives】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge, and experience both orally and in writing. Furthermore, students will acquire more effective listening skills so as to enable them to be more competent interacting in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom. Please see HOPPII for further instructions about how to join our Zoom sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms - words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got

Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life	- Active participation in class: 20% (In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course) - Writing assignments and tests: 40% - Presentations: 40%
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)	【学生の意見等からの気づき】 There are no student comments that would require major changes to the course. The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives	【学生が準備すべき機器他】 ● Textbook ● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested. ● This class will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus need to prepare a headset. ● We will use online applications, such as Google Classroom, Zoom and HOPPII. Please check HOPPII regularly for further instructions about how to join our Zoom sessions, Google Classroom, etc.
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2	【その他の重要事項】 The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things	【Outline and objectives】 Learning English for active communication in the international environment
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend	
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans	
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty	
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic	
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】

English to English dictionary:
<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom. Please see HOPPII for further instructions about how to join our Zoom sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born

Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parrotting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】

English to English dictionary: <https://dictionary.cambridge.org/>
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

● This class will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus need to prepare a headset.

● We will use online applications, such as Google Classroom, Zoom and HOPPII. Please check HOPPII regularly for further instructions about how to join our Zoom sessions, Google Classroom, etc.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

Andrew E. Chen

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an On-Demand class for 2021. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	1A Who's who? Word order in questions	Common verb phrases, classroom language. Introduction to writing. Understanding process writing.
②	1B Who knows you better? Simple present tense	Personality adjectives, third person and plural-s. Family. Pre-Writing: gathering ideas, choosing and narrowing a topic.
③	1C At the Moulin Rouge Present continuous tense	Prepositions of place. The body. The structure of a paragraph: the definition and parts of of a paragraph.

- ④ 1D The Devil's Dictionary
Defining relative clauses
- ⑤ 2A Right place, wrong time
Simple past tense, regular and irregular verbs
- ⑥ 2B A moment in time
Past continuous tense
- ⑦ 2C Fifty years of pop music
Questions with and without auxiliaries
- ⑧ 2D One October evening
So, because, but, although. Midterm Exam
- ⑨ 3A Where are you going?
Going to, present continuous (future arrangements)
- ⑩ 3B The pessimist's phrase book
Will/Won't (predictions)
- ⑪ 3C I'll always love you
Will/ Won't (promises, offers, decisions)
- ⑫ 3D I was only dreaming
Review of Tenses: present, past, and future
- ⑬ 4A From rags to riches
Present perfect(experience) + ever, never; present perfect or simple past?
- ⑭ 4B Family conflicts
Present perfect + yet and already.
Final Exam
- Expressions for paraphrasing.
The structure of a paragraph: identifying and writing topic sentences.
- Vacations, -ed endings, irregular verbs. The development of a paragraph: paragraph support and development.
- Prepositions of time and place: in, on, at. The development of a paragraph: writing concluding sentences, peer editing.
- Question words. Pop music. Descriptive paragraphs: organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions.
- Verb Phrases. Descriptive paragraphs: using connecting words and phrases to write a paragraph that describes a process.
- look (for, through, etc.)
Opinion paragraph: distinguishing between fact and opinion, organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments.
- Opposite verbs. Opinion paragraphs: using transition words to express causality, modal expressions to make recommendations.
- Verb + back. Comparison / Contrast paragraph: organizing comparison / contrasting paragraphs.
- Verb + prepositions. Comparison/ Contrast paragraphs: connecting words used for comparing and contrasting topics, writing advantages and disadvantages of comparison/ contrast paragraphs.
- Clothes. Problem/ Solution paragraphs: using real and unreal conditionals.
- Verb phrases. Problem/ Solution paragraph: writing a two-paragraph paper with linking phrases.

【テキスト (教科書)】

American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】

Audio Student Book, Audio Workbook, Video On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: <https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja>

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed.

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」[大変だけど、やりがいのある授業でした] 「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】

Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007.

Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline and objectives】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Andrew E. Chen

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an On-Demand class for 2021. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	5A Are you a party animal? Uses of the infinitive.	Verbs + infinitive. The structure of an essay: the five paragraph essay.
②	5B What makes you feel good? Uses of the -ing form.	Verbs followed by -ing. The structure of an essay: formatting an essay, writing a thesis statement.
③	5C How much can you learn in a month? Have to, don't have to, must, must not, can't.	Modifiers, a little (bit), extremely, fairly, really, etc. Outlining an essay: the purpose of an outline, reading and outlining essays.

④	5D The name of the game Expressing movement.	Prepositions of movement, sports. Editing thesis statements. Identifying thesis statements in academic journals.
⑤	6A If something bad can happen, it will If + present: will + base form (first conditional)	Confusing verbs. Introductions and conclusions: the purpose of an introduction, types of information in introductions.
⑥	6B Never smile at a crocodile If + past; would + base form (second conditional)	Animals. Introductions and conclusions: the purpose of a conclusion, writing conclusions.
⑦	6C Decisions, decisions May/ Might (possibility)	Word building; noun formation. Unity and coherence: the importance of unity in essay writing, editing an essay for unity.
⑧	6D What should I do? Should / Shouldn't Midterm Exam	Get, sentence stress. Unity and coherence: the importance of coherence in essay writing, creating coherence.
⑨	7A Famous fears and phobias? Present perfect + for and since	Words related to fear. Opinion essay responses, Editorials.
⑩	7B Born to direct Present perfect of simple past?	Biographies. Newspaper editorials and responses.
⑪	7C I used to be a rebel Used to	School subjects; history, geography, etc. Essays for Examinations. Peer Editing of essay rough drafts.
⑫	7D The mothers of invention Passive	Verbs; invent, discover, etc. Essays for examination, graph descriptions. 2nd essay draft and peer editing, punctuation.
⑬	8A I hate weekends! Something, anything, nothing 8B How old is your body? Quantifiers, too, not enough	Adjectives ending in -ed and -ing. Writing timed essays. Health and Lifestyle. Final Essay draft: proof reading. Final essay due.
⑭	8C Waking up is hard to do Word order of phrasal verbs. 8D "I'm Jim." "So am I." so/ neither + auxiliaries Final Exam	Phrasal Verbs. Similarities. Return of final essays.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】

Audio Student Book, Audio Workbook, Video On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: <https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja>

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and writing assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」[大変だけど、やりがいのある授業でした] 「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】

Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline and objectives】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.

Each week students will prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10 minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned a variety of vocabulary exercises as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the previous lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Elliot 1 (The Ballet Class):	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Elliot 2 (The Private Lesson)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,

Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Eliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend approximately 1 hour to prepare vocabulary & review the previous lesson's material prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since students will be using photocopied handouts, they must bring an A4/B4 folder or binder to each lesson

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

30% - Classroom & Homework Assignments

40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation

Student will receive grammar guidance with common errors & report evaluations through email or HOPPI.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will also be made available online for further practice & study support.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

【Outline and objectives】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editing
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form

Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which must be printed on A4 paper. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will be made available online for further study & guidance.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

【Outline and objectives】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Course Description]

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】

The goal of this course is to improve the fluency of the students so that they are at an intermediate level in terms of their reading comprehension and speaking and listening abilities. They should have survival English skills that they could use when they would visit an English speaking country and/or when meeting English speakers in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations. The instructor will give students feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introductions / Question words	Where were you born? What is your hobby?
Class 2	Getting to know you	Reading - A Blind Date, Discussion - Talking about your friends
Class 3	Whatever makes you happy	She works in comedy clubs. She makes people laugh
Class 4	Whatever makes you happy	Money - the best things in life are free Discussion - What's important to you?
Class 5	What's in the news?	Walking the Amazon
Class 6	The flight attendant who lost his cool	Discussion - Famous for 15 minutes
Class 7	Midterm Exam	Eat, drink, and be merry! A couple talks about their diet.
Class 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants
Class 9	Looking forward	The girl with two families
Class 10	How does it feel to be in your twenties?	Living at home/leaving home

Class 11	The way I see it	Multicultural London
Class 12	People talk about who they like in their family	Deciding what to do in Los Angeles
Class 13	Review	Will review material that will be on a speaking exam
Class 14	Final Examination & Review	Will have short interviews with students covering the course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. I would suggest that you follow the University guidelines in preparing for your classes. You can review units in the textbook we have already done and preview upcoming units.

【テキスト（教科書）】

American Headway Book 2 Third Edition
Authors: John and Liz Soars
Publisher: Oxford University Press

【参考書】

If you have a bilingual English - Japanese dictionary, it would be useful to bring one to class to look up words you do not know.

【成績評価の方法と基準】

[Method of evaluation]

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30%

Please note that I follow the University's attendance policy that only allows for three absences; any more will result in an automatic failure. Class assignments and homework will be graded throughout the term..

【学生の意見等からの気づき】

Will consider.

【学生が準備すべき機器他】

The textbook and an English - Japanese dictionary.

【Outline and objectives】

[Course Objectives]

To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

法1年：英語 13組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Course Description]

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】

The goal of this course is to improve the fluency of the students so that they are at an intermediate level in terms of their reading comprehension and speaking and listening abilities. They should have survival English skills that they could use when they would visit an English speaking country and/or when meeting English speakers in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations. The instructor will give students feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Living History	Have you ever done anything dangerous? Family history
Class 2	Living History	Living in a stately home, The upper class and inherited wealth
Class 3	Girls and boys	An interview with Jessica Ennis, Olympic champion
Class 4	Girls and boys	Families with all boys or all girls, People talk about their families
Class 5	Time for a story	Good and evil - The strange case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde
Class 6	Time for a story	My favorite writer - Harper Lee and Robert Louis Stevenson
Class 7	Midterm Exam	Discussion questions on Living History, Girls and boys, or Time for a story

Class 8	Our interactive world / Smartphones	On the phone - Can I speak to >>> ? I'm calling because
Class 9	Our interactive world /	Five internet firsts, Modern life drives me crazy!
Class 10	Life's what you make it	Good news, bad news, Four generations of Gettys - a tragic dynasty
Class 11	Life's what you make it	Alison's life - A woman talks about her marriage, husband, and children
Class 12	Just wondering/ Life, the universe, and everything	Life, the universe, and everything
Class 13	Review	Smartphones, good news, bad news, Life and the universe
Class 14	Final Examination & Review	Will have short interviews with students covering the course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. You can review units in the textbook we have already done and preview upcoming units.

【テキスト（教科書）】

American Headway Book 2 Third Edition
Authors: John and Liz Soars
Publisher: Oxford University Press

【参考書】

It would be useful if you had an English-Japanese dictionary and brought it class so you could look up words you didn't know.

【成績評価の方法と基準】

[Method of evaluation]

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30%

Please note that I follow the University's attendance policy that only allows for three absences; any more will result in an automatic failure. Class assignments and homework will be graded throughout the term.

【学生の意見等からの気づき】

Will consider.

【学生が準備すべき機器他】

The textbook and an English-Japanese dictionary.

【その他の重要事項】

None.

【Outline and objectives】

[Course Objectives]

To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

関野 佳苗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の重要な問題に関する論点・争点を理解し、賛成と反対のどちらを支持するのかについて議論を展開するスキルの養成を目指します。必要な語彙や表現を学び、リーディング・リスニング・ディスカッションという段階的なアクティビティを通じて、知識をインプットしてから自らの見解を明確な理由と共に伝える技術を身に付けていきます。

【到達目標】

様々な分野の社会問題について書かれた英語の文章を理解し、確かな知識を身につける。

その上で自らの立場を選択し、英語で討論ができるようになる。

明確な理由を述べて相手を説得する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業2回でユニットひとつを進めていく。前期は Unit 6 まで進みます。授業ではまずトピックの歴史的背景、賛成・反対の争点をまとめた文章を読み、知識を深めていきます。リスニング問題を通して参考となる意見と討論をする際によく使われる表現を学んだのち、クラスでのディスカッションを行い、自分の意見のブラッシュアップを行います。

テキストの練習問題、小テストの結果から理解度を確認し、前回の授業で提出されたディスカッションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明および使用テキストの紹介
第 2 回	Unit 1 Internet Safety or Freedom of Expression? インターネット規制は必要か?	背景知識の学習
第 3 回	Unit1 Internet Safety or Freedom of Expression? インターネット規制は必要か?	授業内ディスカッション
第 4 回	Unit2 Honor or Burden? オリンピックの開催地になることは、栄誉? 負担?	背景知識の学習
第 5 回	Unit2 Honor or Burden? オリンピックの開催地になることは、栄誉? 負担?	授業内ディスカッション

- 第 6 回 Unit3 Clean Energy or Potential Threat? 背景知識の学習
原子力発電は、クリーンエネルギー？ 潜在的脅威？
- 第 7 回 Unit3 Clean Energy or Potential Threat? 授業内ディスカッション
原子力発電は、クリーンエネルギー？ 潜在的脅威？
- 第 8 回 Unit4 Real Risk or Great Technology? 背景知識の学習
遺伝子組換え食品は、危険？ 夢の技術？
- 第 9 回 Unit4 Real Risk or Great Technology? 授業内ディスカッション
遺伝子組換え食品は、危険？ 夢の技術？
- 第 10 回 Unit5 Legalization or Outlawing of Gay Marriage? 同性婚を法律で認めるべきか？ 背景知識の学習
- 第 11 回 Unit5 Legalization or Outlawing of Gay Marriage? 同性婚を法律で認めるべきか？ 授業内ディスカッション
- 第 12 回 Unit6 Separate Smoking Area or Total Ban? 公共の場では、分煙？ 全面禁煙？ 背景知識の学習
- 第 13 回 Unit6 Separate Smoking Area or Total Ban? 公共の場では、分煙？ 全面禁煙？ 授業内ディスカッション
- 第 14 回 試験・まとめと解説 授業内試験及び授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。

準備学習：

日本語と英語で書かれたトピックの概要を読んで理解する。

Vocabulary check を行う。

復習：

ディスカッションに向けて、自らの意見、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。

授業の内容、ディスカッションの内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

前回範囲を見直し、小テストに備える。

【テキスト（教科書）】

Pros and Cons, Discussing Today's Controversial Issues 賛否両論の社会問題を考える、植田一三 他著、Cengage Learning 2150 円

【参考書】

これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト 20 %、平常点（ディスカッションへの参加度） 20 %

総合評価 60%以上を合格とする。

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

辞書は持参するようにしてください。ノートをとるための PC の使用は許可しますが、それ以外の用途で使用していた場合、その日の授業は欠席となります。

【その他の重要事項】

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。

2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない（公欠の基準は大学の決まりに準じます）。

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to understand the problems in modern society and develop the skills to engage in discussions on whether you agree or disagree. Students will learn the vocabulary and expressions, and through step-by-step activities such as reading, listening, and discussion, you acquire the knowledge necessary for discussions and the ability to express your opinions with clear reasons.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

関野 佳苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業に引き続き、現代社会の重要な問題に関する論点・争点を理解し、賛成と反対のどちらを支持するのかについて議論を展開するスキルの養成を目指します。必要な語彙や表現を学び、リーディング・リスニング・ディスカッションという段階的なアクティビティを通じて、知識をインプットしてから自らの見解を明確な理由と共に伝える技術を身に付けていきます。

【到達目標】

様々な分野の社会問題について書かれた英語の文章を理解し、確かな知識を身につける。

その上で自らの立場を選択し、英語で討論ができるようになる。

明確な理由を述べて相手を説得する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業 2 回でユニットひとつを進めていく。授業ではまずトピックの歴史的背景、賛成・反対の争点をまとめた文章を読み、知識を深めていきます。リスニング問題を通して参考となる意見と討論をする際によく使われる表現を学んだのち、クラスでのディスカッションを行い、自分の意見のブラッシュアップを行います。

テキストの練習問題、小テストの結果から理解度を確認し、前回の授業で提出されたディスカッションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	前期の振り返り、授業の進め方の説明および使用テキストの紹介
第 2 回	Unit 7 Right to Die or Responsibility to Live? 死ぬ権利？ 生きる責任？	背景知識の学習
第 3 回	Unit 7 Right to Die or Responsibility to Live? 死ぬ権利？ 生きる責任？	授業内ディスカッション
第 4 回	Unit 8 Punishment or Discipline? 学校での体罰を許容するべきか？	背景知識の学習
第 5 回	Unit 8 Punishment or Discipline? 学校での体罰を許容するべきか？	授業内ディスカッション
第 6 回	Unit 9 To Skip or Not to Skip? 優秀な学生の飛び級を認めるべきか？	背景知識の学習

第 7 回	Unit 9 To Skip or Not to Skip? 優秀な学生の飛び級を認めるべきか？	授業内ディスカッション
第 8 回	Unit 10 Performance or Seniority? 能力給？ 年功序列？	背景知識の学習
第 9 回	Unit 10 Performance or Seniority? 能力給？ 年功序列？	授業内ディスカッション
第 10 回	Unit 11 Free Trade or Protection? TPP に賛成？ 反対？	背景知識の学習
第 11 回	Unit 11 Free Trade or Protection? TPP に賛成？ 反対？	授業内ディスカッション
第 12 回	Unit 12 Animal Rights or Human Profits? 動物の権利？ 人間の利益？	背景知識の学習
第 13 回	Unit 12 Animal Rights or Human Profits? 動物の権利？ 人間の利益？	授業内ディスカッション
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内試験と授業のまとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。準備学習：

日本語と英語で書かれたトピックの概要を読んで理解する。

Vocabulary check を行う。

前回範囲の Vocabulary を見直し、小テストに備える。

復習：

ディスカッションに向けて、自らの意見、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。

授業の内容、ディスカッションの内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

Pros and Cons, Discussing Today's Controversial Issues 賛否両論の社会問題を考える、植田一三 他著、Cengage Language 2150 円

【参考書】

これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60% 小テスト 20% 平常点（ディスカッションへの参加度）20%

総合評価 60%以上を合格とする。

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

本年度、新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は持参するようにしてください。ノートをとるための PC の使用は許可しますが、それ以外の用途で使用していた場合、その日の授業は欠席となります。

【その他の重要事項】

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。

2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない（公欠の基準は大学の決まりに準じます）。

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to understand the problems in modern society and develop the skills to engage in discussions on whether you agree or disagree. Students will learn the vocabulary and expressions, and through step-by-step activities such as reading, listening, and discussion, you acquire the knowledge necessary for discussions and the ability to express your opinions with clear reasons.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a largely task-based course in which all four language skills are exercised. There will be an in-class emphasis on listening and speaking with outside work focusing on reading and writing. The overall objective is to assist in helping students acquire these critical language skills in order to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

【到達目標】

The goal is to introduce practical and current English to students so as they can develop competence, and thus the confidence to apply it in everyday situations in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The method is largely communicative based. Each class will have some lecture, but there will be a strong focus on student to student interaction/participation, namely speaking, in task-based activities in pairs and groups throughout the term. Weekly written, listening and speaking assignments taken from the textbook as well as occasional supplemental handouts will serve as the basis for the course. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English 2	Class policies/procedures; student expectations.
2	Meeting people	Exchanging personal information. Listening for details.
3	Childhood memories	Talking and writing about your childhood.
4	Transportation services	Asking for and giving information.
5	Tourism campaign	Group presentations
6	Unit Test 1	Units 1&2
7	Houses and apartments	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail.
8	Lifestyle changes	Talking about change; Expressing wishes.
9	Food and snacks	Likes and dislikes. Talking about food.
10	Food recipes	Presentations: Step by step. Describing how to make something.
11	Household chores	Talking about family life; making requests.

12	Complaints, excuses, apologies	Responding to complaints and requests. Asking for a favor.
13	Travel planning.	Describing vacation plans; giving travel advice.
14	Unit Test II	Units 3,4,5.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2, Fifth Edition Jack C Richards Cambridge University Press 2017 ￥ 2750

【参考書】

Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation criteria for the course:

Participation: 30% (including the timely completion of all assignments, reading and written)

Mini presentations, paired and small group: 30%

Unit Tests, oral dictation and vocabulary quizzes: 40%

* Please be aware that, in principle, no more than 3 absences are permitted throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

Students enjoyed the textbook, so same textbook will be used again. However, there will be more speaking exercises.

【Outline and objectives】

This is a largely task-based course in which all four language skills are exercised. There will be an in-class emphasis on listening and speaking with outside work focusing on reading and writing. The overall objective is to assist in helping students acquire these critical language skills in order to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

【到達目標】

Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and effectively express themselves in an English speaking environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term.	Student expectations and objectives.
2	Technology: The world of computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological devices.	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Life in the past and present.	Talking about change; comparing time periods.
5	Life in the future; consequences	Describing a person's past, present and possible future.
6	Review of units 7&9	Unit 7&9 test
7	Abilities and skills.	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits.
8	Careers and job preferences.	Writing: an online job application; Interchange activity: interviewing for a job
9	World landmarks and monuments.	Talking about modern wonders. Describing landmarks.
10	World knowledge: Cities and countries.	Discussing facts about cities and countries; Group presentations
11	Storytelling.	Describing recent past events and experiences.
12	Holidays and festivals	Describing holidays, festival and special events.
13	Review	Units 8,10 & 11 test.

14	Final review and course wrap-up.	Review of unit test; student evaluations
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments prior to class.		
【テキスト（教科書）】		
Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.		
【参考書】		
Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.		
【成績評価の方法と基準】		
Grading criteria for this course will be based on:		
Class participation (including the timely completion of homework assignments) 30%, oral presentations, individual and small group: 30%, and Unit Tests 40%.		
*Attendance is expected every class. No more than three absences are allowed throughout the term. Without a valid reason (i.e. a medical emergency or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.		
【学生の意見等からの気づき】		
None		
【Outline and objectives】		
All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.		

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

- ・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
- ・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

提出された課題に関しては、全体の講評を中心に個別でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習（シャドーイング入門）
3 回目	教科書 1 章	教科書に基づく演習（教科書 1 章）
4 回目	教科書 2 章	教科書に基づく演習（教科書 2 章）
5 回目	教科書 3 章	教科書に基づく演習（教科書 3 章）
6 回目	教科書 4 章	教科書に基づく演習（教科書 4 章）
7 回目	パラグラフ・ライティング（入門）	パラグラフ・ライティング（入門）
8 回目	教科書 5 章	教科書に基づく演習（教科書 5 章）
9 回目	教科書 6 章	教科書に基づく演習（教科書 6 章）
10 回目	教科書 7 章	教科書に基づく演習（教科書 7 章）

11 回目	教科書 8 章	教科書に基づく演習（教科書 8 章）
12 回目	教科書 9 章	教科書に基づく演習（教科書 9 章）
13 回目	パラグラフ・ライティング（実践編）	パラグラフ・ライティング演習
14 回目	まとめ	オンラインメディアを活用したシャドーイング学習法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してから授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモビア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ（バレ出版）。

【成績評価の方法と基準】

演習（40%）、ライティング課題（40%）、試験（20%）

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンラインでの実施となり、従来の教授法とは異なるアプローチとなることを余儀なくされてしまった。効率の良い学習方法の伝達につとめたが、授業時にもくりかえし触れたように、現在のオンラインメディアなども活用する形で英語に触れる具体的な学習法を伝達した。また、オンライン授業を通して、ラーニングシステムをはじめ本格的に使う機会を得た。ツールの有効活用は今後も継承したい。

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「English2 II」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。

・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。

・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

提出された課題に関しては、全体の講評を中心に個別でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
7 回目	検定試験型ライティング（導入）	検定試験型ライティングのパターンについて
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）

11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）
13 回目	検定試験型ライティング（実践編）	検定試験型ライティング（実践編）
14 回目	まとめ	インタビューを素材にしたシャドーイングの学習法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習して授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモビア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ、ベレ出版。

遠田和子・岩瀬デボラ『究極の英語ライティング』研究社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40%）、前の週の復習（40%）、試験（20%）

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンラインでの実施となり、従来の教授法とは異なるアプローチとなることを余儀なくされてしまった。効率の良い学習方法の伝達につとめたが、授業時にもくりかえし触れたように、現在のオンラインメディアなども活用する形で英語に触れる具体的な学習法を伝達した。また、オンライン授業を通して、ラーニングシステムをはじめ本格的に使う機会を得た。ツールの有効活用は今後も継承したい。

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 17 組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a largely task-based course in which all four language skills are exercised. There will be an in-class emphasis on listening and speaking with outside work focusing on reading and writing. The overall objective is to assist in helping students acquire these critical language skills in order to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

【到達目標】

The goal is to introduce practical and current English to students so as they can develop competence, and thus the confidence to apply it in everyday situations in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The method is largely communicative based. Each class will have some lecture, but there will be a strong focus on student to student interaction/participation, namely speaking, in task-based activities in pairs and groups throughout the term. Weekly written, listening and speaking assignments taken from the text as well as occasional supplemental handouts will serve as the basis for the course. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English 2.	Class policies/procedures; student expectations.
2	Meeting people.	Exchanging personal information. Listening for details.
3	Childhood memories.	Talking and writing about your childhood.
4	Transportation services.	Asking for and giving information.
5	Tourism campaign.	Group presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2
7	Houses and apartments.	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail.
8	Lifestyle changes.	Talking about change; Expressing wishes.
9	Food and snacks.	Likes and dislikes. Talking about food.
10	Food recipes.	Presentations: Step by step. Describing how to make something.
11	Household chores.	Talking about family life; making requests.

12	Complaints, excuses, apologies.	Responding to complaints and requests. Asking for a favor.
13	Travel planning.	Describing vacation plans; giving travel advice.
14	Unit Test II	Units 3,4,5.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2, Fifth Edition Jack C Richards Cambridge University Press 2017 ￥ 2750

【参考書】

Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation criteria for the course:

Participation: 30% (including the timely completion of all assignments, reading and written)

Mini presentations, paired and small group: 30%

Unit Tests, oral dictation and vocabulary quizzes: 40%

* Please be aware that, in principle, no more than 3 absences are permitted throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

More speaking exercises will be included.

【Outline and objectives】

This is a largely task-based course in which all four language skills are exercised. There will be an in-class emphasis on listening and speaking with outside work focusing on reading and writing. The overall objective is to assist in helping students acquire these critical language skills in order to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

【到達目標】

Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and effectively express themselves in an English speaking environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term.	Student expectations and objectives.
2	Technology: The world of computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological devices.	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Life in the past and present.	Talking about change; comparing time periods.
5	Life in the future; consequences	Describing a person's past, present and possible future.
6	Review of units 7&9	Unit 7&9 test
7	Abilities and skills.	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits.
8	Careers and job preferences.	Writing: an online job application; Interchange activity: interviewing for a job
9	World landmarks and monuments.	Talking about modern wonders. Describing landmarks.
10	World knowledge: Cities and countries.	Discussing facts about cities and countries; Group presentations
11	Storytelling.	Describing recent past events and experiences.
12	Holidays and festivals	Describing holidays, festival and special events.
13	Review	Units 8,10 & 11 test.

14 Final review and course wrap-up. Review of unit test; student evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments prior to class.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

【参考書】

Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on:

Class participation (including the timely completion of homework assignments) 30%, oral presentations, individual and small group: 30%, and Unit Tests 40%.

*Attendance is expected every class. No more than three absences are allowed throughout the term. Without a valid reason (i.e. a medical emergency or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture 1, worksheet and readings, writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2, readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3, readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4, readings, Quiz #3 Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will be emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answer questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書”Speaking of Critical Thinking”に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
2	Unit 1 Critical thinking	Read the unit well and do the exercises and understand it. Read The Academic Advisor and think what the problem is.
3	Unit 1	Put yourself in Risa's position and think what you will do if you were in her shoes.
4	Unit 1	Read Advertising. What do you think about advertising.
5	Unit 1	As a law major student what do think about the outcome of texting while driving? If the driver causes an accident, is he/she guilty?

6	Unit 3 Strategies. Connecting the Dots.	What does it mean by connecting the dots? Looking at the Appendix on page 97 to 99 what do you think about them.
7	Unit 3	Why is connecting the dots important in the product advertisement.
8	Unit 3	What would you do when your plane crashes and lands on a nearby uninhabited island.
9	Unit 4 Culture	Read the case studies well. What do you think about them?
10	Unit 4 Preparing for the presentation	What is the difference between different cultures. Preparing for the presentation
11	Unit 4 Preparing for the presentation	What is the difference between different cultures What are the cons and pros of international marriages. Preparing for the presentation
12	Unit 4 Preparing for the presentation.	What are the problems when working for a foreign company? Do you think that there is a gender discrimination? Preparing for the presentation
13	Presentation	Preparing for the presentation. Presentation.
14	Exam & Summary	Exam of what was studied in the first semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Critical Thinking
Peter Vincent, Naoko Nakazato
Nanun-do

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）ディスカッション（10%）プレゼンテーション（15%）期末試験（70%）計100%とする。

なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学でZoom授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。

教科書”Speaking of Critical Thinking”に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
2	Unit 6 Perception	Read the case studies and think where the problems are.
3	Unit 6	What is the importance of perception? When is it important and when not.
4	Unit 6	Why do we have different interpretation towards the same thing? what are the differences between perception and interpretation?
5	Unit 7 Values	Read the case studies. What are our values? Why does everyone have different values?

6	Unit 7	Take a look at Appendix 6A. What do you think about it?
7	Unit 7	What does SDGs mean to you? Does SDGs create something for the world? Do you think it is important?
8	Unit 8 Creative Thinking	What do you think of advertisements? Are we influenced by them?
9	Unit 8	What is the difference between different cultures towards the same advertisement?
10	Unit 8 Preparing for the presentation	What is important in an advertisement? How do we react to advertisements?
11	"Unit 9 Business Preparing for the presentation"	Read the Case Studies 1-4 What is important in a negotiation?
12	Unit 9 Business Preparing for the presentation	What do you think are the differences when dealing with a person from different cultures?
13	Presentation	Presentation
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Critical Thinking
Peter Vincent, Naoko Nakazato
Nanun-do

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Tme expressions. Comparative adjectives

11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, and Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

* Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more partner changes and to watch the video story.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Bring an English dictionary. Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【Outline and objectives】

Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases

13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, and Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more chances to listen to the videos.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Bring an English dictionary. Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【Outline and objectives】

Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成の Paragraph を書く練習を行い、最終的には複数の Paragraph からなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合は Hoppii にてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション 第1課	基礎的な文法事項の確認 この教科書の使い方
3	第1課 On the Plane	飛行機内にて 単語 ディクテーション
4	第1課	発音 リーディング 口頭練習
5	第2課 Airport Arrival Procedures	第1課小テスト 入国手続き 単語 ディクテーション
6	第2課	発音 リーディング 口頭練習

7	第3課 Meeting the Host Family	第2課小テスト ホームステイ 単語 ディクテーション
8	第3課	発音 リーディング 口頭練習
9	第4課 Sharing Japanese Culture	第3課小テスト 日本の文化 単語 ディクテーション
10	第4課	発音 リーディング 口頭練習
11	第5課 Taking the Bus	第4課小テスト 交通機関 単語 ディクテーション
12	第5課	発音 リーディング 口頭練習
13	第6課 Orientation	第5課小テスト 語学学校でのオリエンテーション 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

グローバルキャリアをめざして 辻 勢都・辻 和成 著 2015年 三修社 2000円
ISBN978-4-384-33448-7

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持つてくること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は3回で欠席1回に換算される。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの質問に早めに対応したい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1単位

法1年：英語21組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のParagraphを書く練習を行い、最終的には複数のParagraphからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持つてくること。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合はHoppiiにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第7課 Making Phone Calls	電話をかける 単語 ディクテーション
3	第7課	発音 リーディング 口頭練習
4	第8課 Seeking Medical Care	第7課小テスト 病気 単語 ディクテーション
5	第8課	発音 リーディング 口頭練習
6	第9課 Giving Presentations	第8課小テスト プレゼンテーション 単語 ディクテーション

7	第9課	発音 リーディング 口頭練習
8	第10課 Shopping	第9課小テスト 買い物での会話 単語 ディクテーション
9	第10課	発音 リーディング 口頭練習
10	第11課 Airport Departure Procedures	第10課小テスト 出国手続き 単語 ディクテーション
11	第11課	発音 リーディング 口頭練習
12	第12課 Keeping in Touch by Email	第11課小テスト eメール 単語 ディクテーション
13	第12課	発音 リーディング 口頭練習
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

グローバルキャリアをめざして 辻 勢都・辻 和成 著 2015年 三修社 2000円
ISBN978-4-384-33448-7

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は3回で欠席1回に換算される。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの質問に早めに対応したい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年：英語22組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines).

Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	2C One dark October evening	time sequencers and connectors, verb phrases.
7	3A Trip Aside	be going to, airports.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.

- 11 5B Twelve lost wallets superlatives, describing a town or city.
- 12 5C How much is enough? quantifiers, health and the body.
- 13 6A Think positive – or negative? will/won't, opposite verbs.
- 14 6C The meaning of dreaming review of verb forms, modifiers.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【その他の重要事項】

The textbook comes with an access code for an online course component. Please make sure to buy a textbook with a valid access code.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines).

Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C Internationaal inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.

12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.
13	12B Think before you speak.	reported speech.
14	12 C The English File quiz.	revision of question words, book revision.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、リスニング力を向上させることを目的とする。

更に英語発音の基礎（発音記号・リズム・強勢・母音と子音）を学ぶ。

【到達目標】

- ①リズム・強弱・音変化といった英語の音読ポイントを習得することができる。
- ②発信のためのコミュニケーションスキルを習得することができる。
- ③更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①各 Unit で使用される難解な語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。
- ②ニュースの英語を効果的に聞き取り、内容を把握する。
- ③ニュース内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、複数のパラグラフからなる短いレポートを書き、口頭発表などを行う。
- ④授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。
- ⑤予習をしていることを前提に授業を進めて行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第一回目の課題提示	① Unit 1 の課題① 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 当テキストの 3 ページと 4 ページの Words and Phrases to Study
2	第二回目の課題提示	① Unit 1 の課題② 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 Words and Phrases to Study の英文の精読・音読 ②前回の課題のフィードバック。
3	第三回目の課題提示	① Unit 1 の課題③ 以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。 朝日出版社のサイト、あるいは当テキストの最初のページ「はしがき」の左側に「音声・映像ストーリーミング配信」で当 Unit の音声・映像を確認する。 ②前回の課題のフィードバック。

- 4 第四回目の課題提示 ① **Unit 1** の課題④
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
ニュース原稿の精読・音読
- 5 第五回目の課題表示 ① **Unit 1** の課題⑤
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
ニュース原稿を発音等に注意して精読する。
②前回の課題のフィードバック
- 6 第六回目の課題表示 ① **Unit 2** の課題①
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
Words and Phrases to Study
②前回の課題のフィードバック
- 7 第七回目の課題表示 ① **Unit 2** の課題②
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
Unit 2 の Words and Phrases to Study の英文の精読・音読
②前回の課題のフィードバック。
- 8 第八回目の課題表示 ① **Unit 2** の課題③
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
朝日出版社のサイト、
あるいは当テキストの最初のページ「はしがき」
の左側に「音声・映像ストーリーミング配信」で当 **Unit** の音声・映像を確認する。
②前回の課題のフィードバック。
- 9 第九回目の課題提示 ① **Unit 2** の課題④
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
ニュース原稿の精読・音読
②前回の課題のフィードバック
- 10 第十回目の課題提示 ① **Unit 2** の課題⑤
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
ニュース原稿を精読・音読する。
②前回の課題のフィードバック
- 11 第十一回目の課題提示 ① **Unit 3** の課題①
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
Words and Phrases to Study
②前回の課題のフィードバック
- 12 第十二回の課題提示 ① **Unit 3** の課題②
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
Unit 3 の Words and Phrases to Study の英文の精読・音読
②前回の課題のフィードバック。
- 13 第十三回目の課題提示 ① **Unit 3** の課題③
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
朝日出版社のサイト、
あるいは当テキストの最初のページ「はしがき」
の左側に「音声・映像ストーリーミング配信」で当 **Unit** の音声・映像を確認する。
②前回の課題のフィードバック。
- 14 第十四回目の課題提示 ① **Unit 3** の課題④
以下の項目に注意して、課題に取り組んでください。
ニュース原稿の精読・音読
②前回の課題のフィードバック

予習①わからない単語を調べ、発音記号通りに発音できるように練習する。

②英語のニュース原稿を正しく音読できるように練習する。

③課題は、提出期限内に提出できるように準備する。

復習① **Words and Phrases** ・各 **Unit** の **Notes** 内の難解単語を用いて英文を作成する。

【テキスト（教科書）】

教科書：CNN:ビデオで見る世界のニュース (22)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版社

出版年：2021 年

価格：1900 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 50%、提出課題内容 (50 %)

①課題提出 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

②学習支援システム内の課題提出時間内に課題を提出してください。

1 秒でも遅れると課題は提出できません。

③手書き、写メの課題は受取りません。

④ **word** で作成した課題のみ受け取ります。

【学生の意見等からの気づき】

発音記号を確認しながら、単語を発音するようにしてください。

更に英文を自然なスピードで読めるようにしてください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、リスニング力を向上させることを目的とする。

更に英語発音の基礎（発音記号・リズム・強勢・母音と子音）を学ぶ。

【到達目標】

- ①リズム・強弱・音変化といった英語の音読ポイントを習得することができる。
- ②発信のためのコミュニケーションスキルを習得することができる。
- ③更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①各 Unit で使用される難解な語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。
- ②ニュースの英語を効果的に聞き取り、内容を把握する。
- ③ニュース内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、複数のパラグラフからなる短いレポートを書き、口頭発表などを行う。
- ④授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。
- ⑤予習をしていることを前提に授業を進めて行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 前期の振り返り	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
2	Unit 7(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
3	Unit 8	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
4	Unit 8(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
5	Unit 9	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
6	Unit 9(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
7	Unit 7-Unit 9 のまとめ	CNN ニュースの音読と発音指導

8	Unit 10	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 10(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
10	Unit 11	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 11(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
12	Unit 12	① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 12(2)	① CNN ニュースの音読と発音指導 ② Judgments to Make ③ Partial Composition
14	(1)Unit 7-Unit 12 の振り返り (2) 試験とまとめと解説・フィードバック	Unit 7-Unit 9

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習①わからない単語を調べ、発音記号通りに発音できるように練習する。

②授業内に指定された英文を正しく音読できるように練習する。

③授業内に指示された課題を、提出期限内に提出できるように準備する。
復習①授業内に解説した英文をリズム・強弱・発音などに注意して練習する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：CNN: ビデオで見る世界のニュース (22)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版社

出版年：2021 年

価格：1900 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるようにする。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will also assist students in acquiring more effective listening skills so as enabling students to be more competent when interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a greater emphasis on a variety of task based activities (unit exercises, readings, discussion) and individual and group presentations. The topics will be taken from the text as well as from supplemental materials. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reaction to the video.

In Week 7 and in the final class, unit tests are reviewed as well as comments and explanations given for all assignments completed.

*Please note that this is a hybrid class, meaning that we will meet some weeks on Zoom and other times in person. Please refer to Hoppii (Announcements) for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages. Student presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, grammar review, reading comprehension.

7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Unit test scores, comments and explanations on homework assignments (unit exercises, reports, presentations,etc.) Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Asking classmates to borrow items; lending or refusing to lend something.
10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories.
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing about your own story. Create your own news stories.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations.
13	Units 3&4 test	Listening for details, grammar and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed; comments and explanations on term assignments given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be weekly assignments from the text (unit exercises and readings) as well as teacher assigned tasks. Students are expected to come to class fully prepared by having completed all assignments beforehand.

The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is as follows:

Oral dictation/vocabulary quizzes and Unit tests: 40%

Participation: (including *attendance and the timely completion of all homework assignments, reading and writing) 30%

Individual and small group presentations: 30%

*In principle no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

NA (新担当者のためなし)

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii and Zoom will be used extensively. For students who attend Zoom sessions on campus, a headset will be needed.

【Outline and objectives】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】

Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities (individual, paired and group). There will be periodic group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to Interchange DVD showings.

In Week 8 and in the final class, unit test scores are returned; comments and explanations of assignments (written reports, presentations, etc.) are given.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	Student country presentations and follow-up class reactions.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Unit 5 & 6 test	Listening for details; grammar review and reading.
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Test scores returned; comments and explanations on assignments are given.

9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Exercises and practice.
10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.
11	Environmental solutions	Group topic presentations on various issues.
12	The past and the future. Historical events.	Talking about historical events and people; talking about the future. Exercises and practice.
13	Units 7 & 10 test.	Listening, grammar review, reading and writing (about a famous Japanese person).
14	Review of Fall term.	Units 7& 10 test scores returned; comments and explanations of all assignments (written reports, presentations, etc.) for the Fall term are given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be weekly assignments from the text (unit exercises, writing, reading) as well as teacher assigned. Students are expected to come to class fully prepared by having completed all assignments beforehand.

The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ￥ 2750

【参考書】

Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is based on:

Oral dictation/vocabulary quizzes and Unit Tests: 40%

Participation: (including attendance and the timely completion of homework assignments both written and reading: 30%

Performance in individual and group presentations: 30%

*In principal, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

【Outline and objectives】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills (reading, writing, listening and speaking) will be practiced with a special classroom emphasis on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による意思疎通や議論に参加するために必要となる基礎的技術の習得を目指します。

身近な話題や現代における問題を扱った教材に含まれる読み物や映像の情報をベースに、受講者同士が英語で自身の考えを示しながら議論し、最終的には簡単なプレゼンテーションの準備をします。

【到達目標】

- ・ある程度自分の考えを英語で伝えることができると同時に、相手の考えを英語で聞き取ることができるようにする
- ・英語のプレゼンテーションをある程度理解し、内容と構成を整理して、メモをとること (notetaking) ができる
- ・パラグラフを基本単位とするプレゼンテーションやエッセイの構成を理解し、説得力のある短い文章を作成することができる
- ・簡単なプレゼンテーションを、聞き手が理解しやすい英語で行なうことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各授業回は、教科書およびそれに付随する教材 (TED Talks) をベースに進めていきます。

- ・リスニング、ノートテイキング、スピーキング (発音含む)、プレゼンテーションに関するさまざまなスキルについてのコラムを、受講生に内容確認しながら説明します。
- ・教科書の各設問について、受講生の中から無作為に指名し、答えを回答してもらいます。
- ・教科書でディスカッションの指示がある場合、ペアもしくはグループでディスカッションし、その中から無作為に指名し、内容を回答してもらいます。
- ・ノートテイキングで作成したメモやプレゼンテーションの資料 (アウトライン、スクリプト、VA など) は課題として提出します。
- ・提出された課題の一部については、次の授業回で言及し、クラス全体にフィードバックします。
- ・グループもしくは個人での英語プレゼンテーションの機会を学期中に 2 回以上設けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバス内容およびそれ以外の事項について説明する (あるいは検討する) ほか、次回以降の予習や課題についても話すので、必ず出席してください。 当然のことながら出席にカウントされます。
2	Independent Student Handbook	教科書の構成や ISH の解説
3	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 1 pp.2-8

4	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 1 アウトラインについて pp.8-11
5	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 2 TED Talks について pp.12-17
6	Unit 1: Small Actions, Big Results	PUT IT TOGETHER グループ発表の準備 (アウトライン) pp.18-20
7	Unit 1: Small Actions, Big Results	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
8	Unit 1: Small Actions, Big Results	Group presentations
9	Unit 2: Connecting to Nature	PART 1 pp.22-28
10	Unit 2: Connecting to Nature	PART 1 thought group と pause について pp.28-31
11	Unit 2: Connecting to Nature	PART 2 略語と記号について pp.32-37
12	Unit 2: Connecting to Nature	PUT IT TOGETHER 個人発表の準備 (アウトライン) pp.39-41
13	Unit 2: Connecting to Nature	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
14	Unit 2: Connecting to Nature	Individual presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。

授業は事前に教科書を十分予習したことを前提として進めます。教科書で正答を選ぶだけでは十分な予習とは見なされません。見慣れぬ／聞き慣れぬ語彙やフレーズは積極的に調べてノートするようにします。

語彙は必ず音声とセットで覚えるようにします。そうでないと語彙がリスニング問題にまったく役立ちません。したがって音声データの利用は必須であり、利用しているという前提で授業への参加度を評価していきます。

【テキスト (教科書)】

21st Century Communication: Listening, Speaking and Critical Thinking, Student Book 1A Split Edition (Cengage Learning, 2017), ¥ 2,360+税, 978-1-337-68859-8

授業時には、必ず紙媒体もしくは専用装置型の英和辞典もしくは英英辞典を持参して下さい (つまり Web 辞書・辞書アプリ以外)。

【参考書】

TED Talks (TED 公式サイト) : <https://www.ted.com/talks>
教科書で扱う TED Talks のフルバージョンを視聴できます。英語・日本語を含む各国語の字幕も表示可能であり、自主学習の際のリスニングの内容確認に有用です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への取り組み) : 60%

- ・受け答えにおいて予習・復習を踏まえた発言ができているか
- ・グループやペアの活動・議論に積極的に参加し、貢献しているか
- ・明瞭かつ正確な英語の発音ができていないか

提出課題 : 20%

- ・アウトライン
- ・スクリプト
- ・VA
- ・その他
- ・プレゼンテーションの完成度 : 20%
- ・構成

- ・英語 (正確な英語および Unit ごとに課される表現の使用)
- ・事実に照らして妥当であり、十分な説得力をもつ内容か
- ・聞き手の理解を助ける工夫

欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失いません。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

不正について

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や補助教材の配布、その他教員とのやりとりは学習支援システムおよび大学アカウントのEメールで行なわれます。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve their skills in English (i.e. listening, writing, and speaking) through notetaking and group/individual presentations on everyday topics or current issues.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年：英語25組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による意思疎通や議論に参加するために必要となる基礎的技術の習得を目指します。

身近な話題や現代における問題を扱った教材に含まれる読み物や映像の情報をベースに、受講者同士が英語で自身の考えを示しながら議論し、最終的には簡単なプレゼンテーションの準備をします。

【到達目標】

- ・ある程度自分の考えを英語で伝えることができると同時に、相手の考えを英語で聞き取ることができるようにする
- ・英語のプレゼンテーションをある程度理解し、内容と構成を整理して、メモをとること（notetaking）ができる
- ・パラグラフを基本単位とするプレゼンテーションやエッセイの構成を理解し、説得力のある短い文章を作成することができる
- ・簡単なプレゼンテーションを、聞き手が理解しやすい英語で行なうことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各授業回は、教科書およびそれに付随する教材（TED Talks）をベースに進めていきます。

- ・リスニング、ノートテイキング、スピーキング（発音含む）、プレゼンテーションに関するさまざまなスキルについてのコラムを、受講生に内容確認しながら説明します。
- ・教科書の各設問について、受講生の中から無作為に指名し、答えを回答してもらいます。
- ・教科書でディスカッションの指示がある場合、ペアもしくはグループでディスカッションし、その中から無作為に指名し、内容を回答してもらいます。
- ・ノートテイキングで作成したメモやプレゼンテーションの資料（アウトライン、スクリプト、VAなど）は課題として提出します。
- ・提出された課題の一部については、次の授業回で言及し、クラス全体にフィードバックします。
- ・グループもしくは個人での英語プレゼンテーションの機会を学期中に2回以上設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Unit 3: Going Places	今学期の授業計画について pp.42-46
2	Unit 3: Going Places	PART 1 signpost について インデントについて listing signals について pp.46-49
3	Unit 3: Going Places	PART 1 抑揚について pp.50-51 PART 2 pp.52-54

4	Unit 3: Going Places	PART 2 pp.55-58
5	Unit 3: Going Places	PUT IT TOGETHER グループ発表の準備（アウトライン） pp.59-60
6	Unit 3: Going Places	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
7	Unit 3: Going Places	Panel discussions
8	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 1 pp.62-67
9	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 1 因果関係について 縮約形について pp.67-71
10	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 2 pp.72-76
11	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 2 文の簡略化について pp.75-78
12	Unit 4: Music, Music Everywhere	PUT IT TOGETHER 個人発表の準備（アウトライン） pp.79-80
13	Unit 4: Music, Music Everywhere	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
14	Unit 4: Music, Music Everywhere	Individual presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。

授業は事前に教科書を十分予習したことを前提として進めます。教科書で正答を選ぶだけでは十分な予習とは見なされません。見慣れぬ／聞き慣れぬ語彙やフレーズは積極的に調べてノートするようにします。

語彙は必ず音声とセットで覚えるようにします。そうでないと語彙がリスニング問題にまったく役立ちません。したがって音声データの利用は必須であり、利用しているという前提で授業への参加度を評価していきます。

【テキスト（教科書）】

21st Century Communication: Listening, Speaking and Critical Thinking, Student Book 1A Split Edition (Cengage Learning, 2017), ¥ 2,360+税, 978-1-337-68859-8

授業時には、必ず紙媒体もしくは専用装置型の英和辞典もしくは英英辞典を持参して下さい（つまり Web 辞書・辞書アプリ以外）。

【参考書】

TED Talks (TED 公式サイト) : <https://www.ted.com/talks>

教科書で扱う TED Talks のフルバージョンを視聴できます。英語・日本語を含む各国語の字幕も表示可能であり、自主学習の際のリスニングの内容確認に有用です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み）：60%

- ・受け答えにおいて予習・復習を踏まえた発言ができていくか
- ・グループやペアの活動・議論に積極的に参加し、貢献しているか
- ・明瞭かつ正確な英語の発音ができていくか

提出課題：20%

- ・アウトライン
- ・スクリプト
- ・VA

・その他

プレゼンテーションの完成度：20%

- ・構成
 - ・英語（正確な英語および Unit ごとに課される表現の使用）
 - ・事実に照らして妥当であり、十分な説得力をもつ内容か
 - ・聞き手の理解を助ける工夫
- 欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失いません。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

不正について

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や補助教材の配布、その他教員とのやりとりは学習支援システムおよび大学アカウントの E メールで行なわれます。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve their skills in English (i.e. listening, writing, and speaking) through notetaking and group/individual presentations on everyday topics or current issues.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Andrew E. Chen

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an On-Demand class for 2021. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	1A Who's who? Word order in questions	Common verb phrases, classroom language. Introduction to writing. Understanding process writing.
②	1B Who knows you better? Simple present tense	Personality adjectives, third person and plural-s. Family. Pre-Writing: gathering ideas, choosing and narrowing a topic.
③	1C At the Moulin Rouge Present continuous tense	Prepositions of place. The body. The structure of a paragraph: the definition and parts of a paragraph.

④	1D The Devil's Dictionary Defining relative clauses	Expressions for paraphrasing. The structure of a paragraph: identifying and writing topic sentences.
⑤	2A Right place, wrong time Simple past tense, regular and irregular verbs	Vacations, -ed endings, irregular verbs. The development of a paragraph: paragraph support and development.
⑥	2B A moment in time Past continuous tense	Prepositions of time and place: in, on, at. The development of a paragraph: writing concluding sentences, peer editing.
⑦	2C Fifty years of pop music Questions with and without auxiliaries	Question words. Pop music. Descriptive paragraphs: organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions.
⑧	2D One October evening So, because, but, although. Midterm Exam	Verb Phrases. Descriptive paragraphs: using connecting words and phrases to write a paragraph that describes a process.
⑨	3A Where are you going? Going to, present continuous (future arrangements)	look (for, through, etc.) Opinion paragraph: distinguishing between fact and opinion, organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments.
⑩	3B The pessimist's phrase book Will/Won't (predictions)	Opposite verbs. Opinion paragraphs: using transition words to express causality, modal expressions to make recommendations.
⑪	3C I'll always love you Will/ Won't (promises, offers, decisions)	Verb + back. Comparison / Contrast paragraph: organizing comparison / contrasting paragraphs.
⑫	3D I was only dreaming Review of Tenses: present, past, and future	Verb + prepositions. Comparison/ Contrast paragraphs: connecting words used for comparing and contrasting topics, writing advantages and disadvantages of comparison/ contrast paragraphs.
⑬	4A From rags to riches Present perfect(experience) + ever, never; present perfect or simple past?	Clothes. Problem/ Solution paragraphs: using real and unreal conditionals.
⑭	4B Family conflicts Present perfect + yet and already. Final Exam	Verb phrases. Problem/ Solution paragraph: writing a two-paragraph paper with linking phrases.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】

Audio Student Book, Audio Workbook, Video On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: <https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja>

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい。「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」[大変だけど、やりがいのある授業でした]「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】

Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline and objectives】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

Andrew E. Chen

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an On-Demand class for 2021. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	5A Are you a party animal? Uses of the infinitive.	Verbs + infinitive. The structure of an essay: the five paragraph essay.
②	5B What makes you feel good? Uses of the -ing form.	Verbs followed by -ing. The structure of an essay: formatting an essay, writing a thesis statement.
③	5C How much can you learn in a month? Have to, don't have to, must, must not, can't.	Modifiers, a little (bit), extremely, fairly, really, etc. Outlining an essay: the purpose of an outline, reading and outlining essays.

- ④ 5D The name of the game
Expressing movement.
Prepositions of movement, sports.
Editing thesis statements.
Identifying thesis statements in academic journals.
- ⑤ 6A If something bad can happen, it will
If + present: will + base form (first conditional)
6B Never smile at a crocodile
If + past; would + base form (second conditional)
⑥ 6C Decisions, decisions
May/ Might (possibility)
Word building; noun formation.
Unity and coherence: the importance of unity in essay writing, editing an essay for unity.
- ⑧ 6D What should I do?
Should / Shouldn't
Midterm Exam
Get, sentence stress.
Unity and coherence: the importance of coherence in essay writing, creating coherence.
- ⑨ 7A Famous fears and phobias?
Present perfect + for and since
7B Born to direct
Present perfect of simple past?
⑩ 7C I used to be a rebel
Used to
Words related to fear.
Opinion essay responses, Editorials.
Biographies.
Newspaper editorials and responses.
- ⑪ 7C I used to be a rebel
Used to
School subjects; history, geography, etc.
Essays for Examinations. Peer Editing of essay rough drafts.
- ⑫ 7D The mothers of invention
Passive
Verbs; invent, discover, etc.
Essays for examination, graph descriptions. 2nd essay draft and peer editing, punctuation.
- ⑬ 8A I hate weekends!
Something, anything, nothing
8B How old is your body?
Quantifiers, too, not enough
8C Waking up is hard to do
Word order of phrasal verbs.
8D "I'm Jim." "So am I."
so/ neither + auxiliaries
Final Exam
Adjectives ending in -ed and -ing.
Writing timed essays.
Health and Lifestyle.
Final Essay draft: proof reading. Final essay due.
Phrasal Verbs.
Similarities.
Return of final essays.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】

Audio Student Book, Audio Workbook, Video On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: <https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&sellLanguage=ja>

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and writing assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than 3 absences per term will be allowed.

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」[大変だけど、やりがいのある授業でした] 「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】

Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline and objectives】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

関野 佳苗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の重要な問題に関する論点・争点を理解し、賛成と反対のどちらを支持するのかについて議論を展開するスキルの養成を目指します。必要な語彙や表現を学び、リーディング・リスニング・ディスカッションという段階的なアクティビティを通じて、知識をインプットしてから自らの見解を明確な理由と共に伝える技術を身に付けていきます。

【到達目標】

様々な分野の社会問題について書かれた英語の文章を理解し、確かな知識を身につける。

その上で自らの立場を選択し、英語で討論ができるようになる。

明確な理由を述べて相手を説得する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業 2 回でユニットひとつを進めていく。前期は Unit 6 まで進みます。授業ではまずトピックの歴史的背景、賛成・反対の争点をまとめた文章を読み、知識を深めていきます。リスニング問題を通して参考となる意見と討論をする際によく使われる表現を学んだのち、クラスでのディスカッションを行い、自分の意見のブラッシュアップを行います。

テキストの練習問題、小テストの結果から理解度を確認し、前回の授業で提出されたディスカッションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明および使用テキストの紹介
第 2 回	Unit 1 Internet Safety or Freedom of Expression? インターネット規制は必要か?	背景知識の学習
第 3 回	Unit 1 Internet Safety or Freedom of Expression? インターネット規制は必要か?	授業内ディスカッション
第 4 回	Unit2 Honor or Burden? オリンピックの開催地になることは、栄誉? 負担?	背景知識の学習
第 5 回	Unit2 Honor or Burden? オリンピックの開催地になることは、栄誉? 負担?	授業内ディスカッション

第 6 回	Unit3 Clean Energy or Potential Threat? 原子力発電は、クリーンエネルギー? 潜在的脅威?	背景知識の学習
第 7 回	Unit3 Clean Energy or Potential Threat? 原子力発電は、クリーンエネルギー? 潜在的脅威?	授業内ディスカッション
第 8 回	Unit4 Real Risk or Great Technology? 遺伝子組換え食品は、危険? 夢の技術?	背景知識の学習
第 9 回	Unit4 Real Risk or Great Technology? 遺伝子組換え食品は、危険? 夢の技術?	授業内ディスカッション
第 10 回	Unit5 Legalization or Outlawing of Gay Marriage? 同性婚を法律で認めるべきか?	背景知識の学習
第 11 回	Unit5 Legalization or Outlawing of Gay Marriage? 同性婚を法律で認めるべきか?	授業内ディスカッション
第 12 回	Unit6 Separate Smoking Area or Total Ban? 公共の場では、分煙? 全面禁煙?	背景知識の学習
第 13 回	Unit6 Separate Smoking Area or Total Ban? 公共の場では、分煙? 全面禁煙?	授業内ディスカッション
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内試験と授業のまとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。準備学習：

日本語と英語で書かれたトピックの概要を読んで理解する。

Vocabulary check を行う。

復習：

ディスカッションに向けて、自らの意見、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。

授業の内容、ディスカッションの内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

前回範囲の **Vocabulary** を見直し、小テストに備える。

【テキスト（教科書）】

Pros and Cons, Discussing Today's Controversial Issues 賛否両論の社会問題を考える、植田一三 他著、Cengage Language 2150 円

【参考書】

これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 % 小テスト 20 % 平常点（ディスカッションへの参加度）20 %

総合評価 60%以上を合格とする。

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

本年度、新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は持参するようにしてください。ノートをとるための PC の使用は許可しますが、それ以外の用途で使用していた場合、その日の授業は欠席となります。

【その他の重要事項】

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない（公欠の基準は大学の決まりに準じます）。

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to understand the problems in modern society and develop the skills to engage in discussions on whether you agree or disagree. Students will learn the vocabulary and expressions, and through step-by-step activities such as reading, listening, and discussion, you acquire the knowledge necessary for discussions and the ability to express your opinions with clear reasons.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

関野 佳苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業に引き続き、現代社会の重要な問題に関する論点・争点を理解し、賛成と反対のどちらを支持するのかについて議論を展開するスキルの養成を目指します。必要な語彙や表現を学び、リーディング・リスニング・ディスカッションという段階的なアクティビティを通じて、知識をインプットしてから自らの見解を明確な理由と共に伝える技術を身に付けていきます。

【到達目標】

様々な分野の社会問題について書かれた英語の文章を理解し、確かな知識を身につける。

その上で自らの立場を選択し、英語で討論ができるようになる。

明確な理由を述べて相手を説得する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業 2 回でユニットひとつを進めていく。授業ではまずトピックの歴史的背景、賛成・反対の争点をまとめた文章を読み、知識を深めていきます。リスニング問題を通して参考となる意見と討論をする際によく使われる表現を学んだのち、クラスでのディスカッションを行い、自分の意見のブラッシュアップを行います。

テキストの練習問題、小テストの結果から理解度を確認し、前回の授業で提出されたディスカッションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	前期の振り返り、授業の進め方の説明および使用テキストの紹介
第 2 回	Unit 7 Right to Die or Responsibility to Live? 死ぬ権利？	背景知識の学習
第 3 回	Unit 7 Right to Die or Responsibility to Live? 死ぬ権利？	授業内ディスカッション
第 4 回	Unit 8 Punishment or Discipline? 学校での体罰を許容するべきか？	背景知識の学習
第 5 回	Unit 8 Punishment or Discipline? 学校での体罰を許容するべきか？	授業内ディスカッション
第 6 回	Unit 9 To Skip or Not to Skip? 優秀な学生の飛び級を認めるべきか？	背景知識の学習

第7回	Unit 9 To Skip or Not to Skip? 優秀な学生の飛び級を認めるべきか?	授業内ディスカッション
第8回	Unit 10 Performance or Seniority? 能力給？年功序列？	背景知識の学習
第9回	Unit 10 Performance or Seniority? 能力給？年功序列？	授業内ディスカッション
第10回	Unit 11 Free Trade or Protection? TPPに賛成？ 反対？	背景知識の学習
第11回	Unit 11 Free Trade or Protection? TPPに賛成？ 反対？	授業内ディスカッション
第12回	Unit 12 Animal Rights or Human Profits? 動物の権利？ 人間の利益？	背景知識の学習
第13回	Unit 12 Animal Rights or Human Profits? 動物の権利？ 人間の利益？	授業内ディスカッション
第14回	試験・まとめと解説	授業内試験と授業のまとめと解説を行います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to understand the problems in modern society and develop the skills to engage in discussions on whether you agree or disagree. Students will learn the vocabulary and expressions, and through step-by-step activities such as reading, listening, and discussion, you acquire the knowledge necessary for discussions and the ability to express your opinions with clear reasons.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします。

準備学習：

日本語と英語で書かれたトピックの概要を読んで理解する。

Vocabulary check を行う。

前回範囲の **Vocabulary** を見直し、小テストに備える。

復習：

ディスカッションに向けて、自らの意見、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。

授業の内容、ディスカッションの内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

Pros and Cons, Discussing Today's Controversial Issues 賛否両論の社会問題を考える、植田一三 他著、Cengage Language 2150 円

【参考書】

これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60% 小テスト 20% 平常点（ディスカッションへの参加度）20%

総合評価 60%以上を合格とする。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

本年度、新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は持参するようにしてください。ノートをとるための PC の使用は許可しますが、それ以外の用途で使用していた場合、その日の授業は欠席となります。

【その他の重要事項】

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。

2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない（公欠の基準は大学の決まりに準じます）。

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Eliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer. Each week students will prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10 minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned a variety of vocabulary exercises as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the previous lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Eliot 1 (The Ballet Class):	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Eliot 2 (The Private Lesson)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,

Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Eliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend approximately 1 hour to prepare vocabulary & review the previous lesson's material prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since students will be using photocopied handouts, they must bring an A4/B4 folder or binder to each lesson

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:
 30% - Participation & Punctuality
 30% - Classroom & Homework Assignments
 40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation
 Student will receive grammar guidance with common errors & report evaluations through email or HOPPI.
 In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will also be made available online for further practice & study support.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

【Outline and objectives】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editing
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form

Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which must be printed on A4 paper. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will be made available online for further study & guidance.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

【Outline and objectives】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	What makes a good paragraph	How to write a good paragraph (topic sentences, supporting sentences and concluding sentences)
第 3 回	Peer editing	A. Select a short article from http://www.voanews.com , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. make groups for presentations selected from topic list provided by the instructor
第 4 回	differences/ commonalities	Paragraph writing practice. Any academic theme acceptable. Group work on presentations
第 5 回	inside looking out	C. TED Talk, "Your Body Language May Shape Who You Are" (21:02) Q & A
第 6 回	Outline	D. Work on presentations A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.

第 7 回 discussion

A. Select a short article from <http://www.japantoday.com>, highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class.
B. work on presentations

第 8 回 Peer editing

A. Peer editing on typed paragraphs
B. Group work on presentations

第 9 回 Short speeches

Short speeches on what you are most passionate about (no digital games, anime etc.)
B. Tony Robbins TED Talk, "Why We Do What We Do" (21:45)
C. Q & A

第 11 回 presentations

Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.

第 12 回 presentations

2~3 group presentations + Q & A

第 13 回 get ready

2~3 group presentations + Q & A

第 14 回 conversation

active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	Discuss what you did during your summer break.
第 2 回	Mistakes	How to avoid awkward expressions in writing and speaking https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/
第 3 回	Going global	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	writing	In class writing rough draft paragraph on globalization Typed paragraph due next week. Peer editing and discussion on globalization.
第 5 回	TED Talk	A. TED Talk, "The Habits of Happiness," Matthieu Ricard (20:54) B. Group work, Q & A C. Work on presentations
第 6 回	opinion	Outline due for one page essay. Essay due on week 11 In class work on essay selected from list provided by the instructor.

第 7 回	Group Discussion	A. Cultural taboos: discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	Read and discuss	A. Select a short article from http://www.japantoday.com , highlight important points and discuss it in small groups. You must be prepared before class. B. work on presentations
第 9 回	Short speeches	A. Bring a small and meaningful item from home and give a short speech. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations. One page essay due.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	Group discussions selected from list provided by instructor. See https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class unless I say differently. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Course Description]

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】

The goal of this course is to improve the fluency of the students so that they are at an intermediate level in terms of their reading comprehension and speaking and listening abilities. They should have survival English skills that they could use when they would visit an English speaking country and/or when meeting English speakers in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations. The instructor will give students feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introductions	Question words - Where were you born? What is your hobby?
Class 2	Getting to know you	Reading - A Blind Date, Discussion - Talking about your friends
Class 3	Whatever makes you happy	She works in comedy clubs. She makes people laugh
Class 4	Whatever makes you happy	Money - the best things in life are free Discussion - What's important to you?
Class 5	What's in the news?	Walking the Amazon
Class 6	The flight attendant who lost his cool	Discussion - Famous for 15 minute
Class 7	Midterm Exam	Eat, drink, and be merry! / A couple talks about their diet.
Class 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants
Class 9	Looking forward	The girl with two families
Class 10	How does it feel to be in your twenties?	Living at home/leaving home

Class 11	The way I see it	Multicultural London
Class 12	People talk about who they like in their family	Deciding what to do in Los Angeles
Class 13	Review	Your best friend, Money, What's important in life? Eating in restaurants
Class 14	Final Examination and Review	Discussion questions on best friends, money, What's important in life? Eating in restaurants

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. You can review material covered in previous units or preview material in upcoming units.

【テキスト（教科書）】

[Textbook]

American Headway 2 (Third Edition) By John and Liz Soars, Oxford University Press and an English - Japanese dictionary.

【参考書】

If you a bilingual English - Japanese dictionary, it would be useful to bring one to class to look up words you do not know.

【成績評価の方法と基準】

[Method of evaluation]

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30%

Please note that I follow the University's attendance policy that only allows for three absences; any more will result in an automatic failure. Class assignments and homework will be graded throughout the term..

【学生の意見等からの気づき】

Will consider.

【学生が準備すべき機器他】

The textbook and an English - Japanese dictionary.

【その他の重要事項】

None.

【Outline and objectives】

[Course Objectives]

To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

法 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[Course Description]

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】

The goal of this course is to improve the fluency of the students so that they are at an intermediate level in terms of their reading comprehension and speaking and listening abilities. They should have survival English skills that they could use when they would visit an English speaking country and/or when meeting English speakers in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The course will include readings on the culture and life in English speaking countries with an emphasis on the United States of America.

There will be comprehension questions, pair work and discussion activities.

There will be individual and/or group presentations. The instructor will give students feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Living History	Have you ever done anything dangerous? Family history
Class 2	Living History	Living in a stately home, The upper class and inherited wealth
Class 3	Girls and boys	An interview with Jessica Ennis, Olympic champion
Class 4	Girls and boys	Families with all boys or all girls, People talk about their families
Class 5	Time for a story	Good and evil - The strange case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde
Class 6	Time for a story	My favorite writer - Harper Lee and Robert Louis Stevenson
Class 7	Midterm Exam	Discussion questions on Living History, Girls and boys, or Time for a story

Class 8	Our interactive world	Smartphones, On the phone - Can I speak to >>> ? I'm calling because
Class 9	Our interactive world	Five internet firsts, Modern life drives me crazy!
Class 10	Life's what you make it	Good news, bad news, Four generations of Gettys - a tragic dynasty
Class 11	Life's what you make it	Alison's life - A woman talks about her marriage, husband, and children
Class 12	Just wondering	Life, the universe, and everything
Class 13	Review	Smartphones, good news, bad news, Life and the universe
Class 14	Final Examination and Review	Discussion question on smartphones, good news, bad news, Life and the universe

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. You can review previous units and preview upcoming units.

【テキスト（教科書）】

[Textbook]

American Headway 2 (Third Edition) By John and Liz Soars, Oxford University Press

【参考書】

If you have a bilingual English - Japanese dictionary, it would be useful to bring one to class to look up words you do not know.

【成績評価の方法と基準】

[Method of evaluation]

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30%

Please note that I follow the University's attendance policy that only allows for three absences; any more will result in an automatic failure. Class assignments and homework will be graded throughout the term..

【学生の意見等からの気づき】

Will consider.

【学生が準備すべき機器他】

The textbook and an English-Japanese dictionary.

【その他の重要事項】

None.

【Outline and objectives】

[Course Objectives]

To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using paragraph writing. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。初回授業にて詳しい説明をしますので、授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席してください。This is an online, real-time delivery course; every class will be taught on Zoom. Please refer to the instructions on Hoppii on how to connect to Zoom to attend the first class online, in which more detail will be explained.

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking

4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
9	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies for the summer

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments and writing (20%)
- 3) Weekly quizzes (60%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely or mostly in English. You are encouraged to participate actively, express your ideas clearly, and explain logically.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using multiple paragraphs. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。初回授業にて詳しい説明をしますので、授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席してください。This is an online, real-time delivery course; every class will be taught on Zoom. Please refer to the instructions on Hoppii on how to connect to Zoom to attend the first class online, in which more detail will be explained.

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing

5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Treatment of animals (Unit 11): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies

【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online (“Core Vocabulary”) before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments and writing (20%)
- 3) Unit quizzes (60%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught mostly in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学でZoom授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スピーチ（プレゼンテーション）、ライティング、リスニングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。英語エッセイの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】

文を暗唱することの重要性を理解する。
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。
効果的なスピーチのやり方を習得する。
英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようにする。
英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようにする。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①リスニングとスピーキング。授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。
- ②プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。
- ③ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。特にエッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。
- ④フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。②は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。③に関しては、最初に作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	トランプ暴動先導に関する映像ニュースを用いて、英語ニュースの聞き取りとシャドーイングを行う。

2	Conclusions/Reasons 型エッセイの理解。	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 意見サポート型（結論・理由）のエッセイの構造を理解する。
3	Conclusions/Reasons 型エッセイの実践。	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 意見サポート型（分析）のエッセイの和訳をする。
4	Conclusions/Reasons 型エッセイの作成。	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 東京オリンピック開催 [中止] 決定を伝える映像ニュースを聞く。 自己紹介を行う。 意見サポート型（分析）のエッセイのレイアウトを作成する。
5	Analysis 型エッセイの理解。	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 バイデン大統領就任に関するニュースを聞く。 意見サポート型（分析）のエッセイの構造を理解する。
6	Analysis 型エッセイの実践。	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 筋トレ老化防止貢献に森喜朗セクシスト暴言を伝える映像ニュースを聞き、日本の女性差別の現状を理解する。 意見サポート型（分析）のエッセイを英訳する。
7	Analysis 型のエッセイの作成。	アメリカ人肥満化の映像ニュースを見る。 意見サポート型（分析）のエッセイのレイアウトを作成する。
8	Theory/Proof 型のエッセイの理解。	健康問題を扱うニュースを聞く。 意見サポート型（理論・結論）のエッセイの構造を理解する。
9	Theory/Proof 型のエッセイの実践。	福島第一原発付近の現状を伝える映像ニュースを聞く。 意見サポート型（理論・結論）のエッセイを英訳する。
10	Theory/Proof 型のエッセイの作成。	コロナワクチンの効果に関するニュースを聞く。 意見サポート型（理論・結論）のエッセイレイアウトを作成する。
11	Controversy 型のエッセイの理解。	黒人に対する差別問題を扱うニュースを聞く。 列挙比較型（論争）のエッセイの構造を理解する。
12	Controversy 型のエッセイの実践。	野生動物に対する餌やりが招く悲劇を伝えるニュースを聞く。 列挙比較型（論争）のエッセイを英訳する。
13	Controversy 型のエッセイの作成。	テロ事件のニュースを聞く。 自己紹介を行う。 列挙比較型（論争）のエッセイを書く。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック。	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には 3 時間前後、エッセイ作成には 6 時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定個所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。

授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。
英文エッセーの作成（春学期に二度）。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子他、『Skills for Better Writing < Basic > 構造で書く英文エッセイ <初級編>』（南雲堂）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。
一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。
4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。
原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。
ライティングの比重を高くする。
英語で発言する機会を増やす。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、ライティングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】

文を暗唱することの重要性を理解する。
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。
効果的なスピーチのやり方を習得する。
英語エッセーの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようにする。
英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようにする。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

①リスニングとスピーキング。授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。
②プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。
③ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。特にエッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。
④フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。②は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。③に関しては、最初に作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Classification 型エッセイの理解。	アラスカのクマに関する聞く。列挙比較型（分類）のエッセイの構造を理解する。
2	Classification 型エッセイの実践。	スポーツ関連のニュースを聞く。列挙比較型（分類）のエッセイを英訳する。

3	Classification 型エッセイの作成。	ナキウサギ絶滅の危機に関するニュースを聞く。 列挙比較型（分類）のエッセイのアウトラインを作成する。
4	Instructions 型エッセイの理解。	アメリカの同性愛者の現状に関するニュースを聞く。列挙比較型（指示）のエッセイの構造を理解する。
5	Instructions 型エッセイの実践。	自然災害に関するニュースを聞く。 列挙比較型（指示）のエッセイを英訳する。
6	Instructions 型エッセイの作成。	グリーゼ絶滅の危機を伝えるニュースを見る。 列挙比較型（指示）のエッセイのアウトラインを作成する。
7	Chronological Order 型のエッセイの理解。	アメリカの銃所持の問題に関するニュースを聞く。 順序直線型（歴史）のエッセイの構造を理解する。
8	Chronological Order 型のエッセイの実践。	運転中のメールの危険性に関するニュースを聞く。 順序直線型（歴史）のエッセイを英訳する。
9	Chronological Order 型のエッセイの作成。	アフガニスタンの現状に関するニュースを聞く。 順序直線型（歴史）のエッセイのラインあるとを作成する。
10	提出されたエッセイに対するフィードバック。	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。
11	Cause and Effect 型エッセイの理解。	コロナ感染拡大 [収束] に関するニュースを聞く。 順序直線型（原因と結果）のエッセイの構造を理解する。
12	Cause and Effect 型エッセイの実践。	アメリカの教育問題を扱うニュースを聞く。 順序直線型（原因と結果）のエッセイを英訳する。
13	Cause and Effect 型エッセイの作成。	食糧危機に関するニュースを聞く。 順序直線型（原因と結果）のエッセイのアウトラインを作成する。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック。	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には3時間前後、エッセイ作成には6時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（秋学期に一度）。

英文エッセイの作成（秋学期に二度）。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子他、『Skills for Better Writing < Basic > 構造で書く英文エッセイ <初級編>』（南雲堂）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。

授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。一度休むごとに授業参加点から2点ずつ引いていく。

4回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。

原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。

ライティングの比重を高くする。

英語で発言する機会を増やす。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、スマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: vocabulary & listening	Introducing yourself Using used to for habitual actions
Week 3	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: reading & speaking	Asking about and explaining childhood experiences
Week 4	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: discussion & writing	Discuss things in common with classmates Essential components of paragraphs Using English-English dictionaries

Week 5	Unit 2 Transportation and problems: vocabulary & listening	Talking about Transportation and its problems, Evaluating city services
Week 6	Unit 2 Transportation and problems: reading & speaking	Asking for and giving information, Asking indirect questions
Week 7	Unit 2 Transportation and problems: discussion & writing	Discuss cities to visit & evaluate them Write a paragraph on 3 problems in city
Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Describing positive and negative features, making comparisons
Week 9	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: reading & speaking	Asking about and stating wishes. Using "too", "enough", and "as...as"
Week 10	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: discussion & writing	Comparing houses to apartments Compare wishes in the present time Write & explain 3 personal wishes
Week 11	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: vocabulary & listening	Talking about food. Stating likes and dislikes
Week 12	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: reading & speaking	Contrasting simple past with present perfect Using sequence adverbs to signal steps
Week 13	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: discussion & writing	Discuss experiences Describe how to do something Editing marks & peer editing
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation on 3 problems in a city	Quiz: units 3-4 Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework, class preparation, assignments-paragraphs

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%
 Class participation 15%
 Quizzes/Tests 40%
 Speech/Presentation 20%
 * In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on oral and written expression

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook
 Students should have a Zoom account for any classes given online.

Also, students should use a headset when joining any online classes from the designated classroom on campus
 Students should join Google Classroom for this course.
 Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline and objectives】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer
Week 2	Unit 5 Going places: vocabulary & listening	Describing vacation plans Stating personal plans in the future
Week 3	Unit 5 Going Places: reading & speaking	Giving travel advice Explaining future plans Using modals for necessity & suggestion
Week 4	Unit 5 Going Places: reading & speaking	Discuss how to do activities Write paragraph on a process
Week 5	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: vocabulary & listening	Making requests Accepting and refusing
Week 6	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: reading & speaking	Complaining, apologizing, making excuses

Week 7	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: discussion & writing	Discuss making apologies and giving excuses Writing: 3 suggestions for handling a situation
Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 What do you use this for: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Use of technology Using infinitives of purpose
Week 9	Unit 7 What do you use this for: reading & speaking	Using imperatives & infinitives Giving advice
Week 10	Unit 7 What do you use this for: discussion & writing	Discuss advice for problems Write about uses for technological devices
Week 11	Unit 8 Time to celebrate: vocabulary & listening	Describing holidays & festivals Relative clauses of time
Week 12	Unit 8 Time to celebrate: reading & speaking	Discussing pros and cons Adverb clauses of time
Week 13	Unit 8 Time to celebrate: discussion & writing	Discuss customs & celebrations
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on a process

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation and attendance.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

*In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on oral and written expression

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook
Students should have a Zoom account for any classes given online.
Also, students should use a headset when joining any online classes from the designated classroom on campus
Students should join Google Classroom for this course.
Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English 2 course, "Presenting Different Opinions: Part I," is designed for students to improve their listening, discussion, writing, and presentation skills. Students will study academic skills, think critically, participate in discussions, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】

The goal of this course is to give students opportunities to think about and express their opinions in written reports and in presentations on a wide variety of timely topics. Students will also study basic paragraph structure and practice how to write a logically organized paragraph. These writing skills will help students plan, write, and deliver in-class presentations. Students will gain more confidence in expressing opinions and ideas in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an online class with no face-to-face classes in the Spring semester. Classes will be held in real time in Zoom or through on-demand lectures in Google Classroom. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students are expected to complete 1 hour of homework each week to prepare for the next class. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course syllabus, expectations and grading criteria / Writing emails
Week 2	Presentation Topic: Education 1	Reading comprehension, written response and group discussion
Week 3	Presentation Topic: Education 2	Presentation plan / Brainstorming and Outlining
Week 4	Presentation Preparation and Research	Working draft / Slides and Script / Useful expressions
Week 5	Student Presentations and Peer Review	Presentations with prompt cards / Q & A / Peer feedback
Week 6	Academic Skills: Paragraph organization	Outlining and Paragraph structure / Transitions

Week 7	Paragraph Topic: Travel and Culture 1	Brainstorm and research topics for paragraph assignment
Week 8	Paragraph Topic: Travel and Culture 2	Gather ideas and outline paragraph / Use of original sources
Week 9	Paragraph Preparation and Research	Working draft / Opinions and facts / APA citation style
Week 10	Paragraph Assignments and Peer Review	Oral reports about outline and revised paragraph / Peer feedback
Week 11	Presentation Topic: Health & Environment 1	Reading comprehension, written response and group discussion
Week 12	Presentation Topic: Health & Environment 2	Presentation plan / Brainstorming and Outlining
Week 13	Presentation Preparation and Research	Working draft / Slides and Script / Useful expressions
Week 14	Final presentations and remarks	Presentations / Q & A / Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will use Zoom and Google Classroom in this course. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト（教科書）】

Richard McMahon (2017). Presenting Different Opinions. Nan'un-do Co.Ltd. ISBN4-523-17413-X. JPY 2,200

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Class participation and regular attendance 35%

Homework assignments 20%

Presentations and written texts 45%

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities.

【Outline and objectives】

This English 2 course, "Presenting Different Opinions: Part I," is designed for students to improve their listening, discussion, writing, and presentation skills. Students will study academic skills, think critically, participate in discussions, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English 2 course, "Presenting Different Opinions: Part II," is designed for students to improve their listening, discussion, writing, and presentation skills. Students will study academic skills, think critically, participate in discussions, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】

The goal of this course is to give students opportunities to think about and express their opinions in written reports and in presentations on a wide variety of timely topics. Students will also study basic paragraph structure and practice how to write a logically organized paragraph. These writing skills will help students plan, write, and deliver in-class presentations. Students will gain more confidence in expressing opinions and ideas in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students are expected to complete 1 hour of homework each week to prepare for the next class. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course syllabus, expectations and grading criteria
Week 2	Presentation Topic: Society 1	Reading comprehension, written response and group discussion
Week 3	Presentation Topic: Society 2	Presentation plan / Brainstorming and Outlining
Week 4	Presentation Preparation and Research	Working draft / Slides and Script / Useful expressions / Citing sources
Week 5	Student Presentations and Peer Review	Presentations with prompt cards / Q & A / Peer feedback
Week 6	Academic Skills: Outlining & Essay Organization	Outline / Introduction / Body paragraphs / Conclusion
Week 7	Presentation Topic: Relationships 1	Reading comprehension, written response and group discussion

Week 8	Presentation Topic: Relationships 2	Presentation plan / Brainstorming and Outlining
Week 9	Presentation Preparation and Research	Working draft / Slides and Script / Useful expressions /Citing sources
Week 10	Student Presentations and Peer Review	Presentations with prompt cards / Q & A / Peer feedback
Week 11	Essay Topic: Media and Technology 1	Brainstorm and outline essay / Use original sources
Week 12	Essay Preparation and Research	Outline / Draft of Introduction / APA style
Week 13	Essay Preparation and Research	Draft of body paragraphs and conclusion / APA style
Week 14	Final essay submission and remarks	Short reports about final essay assignment / Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

If we cannot meet in the classroom on campus, there will be online real time meetings (Zoom) and on-demand lectures through Google Classroom. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト（教科書）】

Richard McMahon (2017). Presenting Different Opinions. Nan'un-do Co.Ltd. ISBN4-523-17413-X. JPY 2,200

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Class participation and regular attendance 35%

Homework assignments 20%

Presentations and written texts 45%

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline and objectives】

This English 2 course, "Presenting Different Opinions: Part II," is designed for students to improve their listening, discussion, writing, and presentation skills. Students will study academic skills, think critically, participate in discussions, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なトピックを英語の文章を paragraph を使って書き、さらにそれを使って口頭で発表できるようになる。前期は一つの paragraph をさまざまな様式で書けるようになることを目指す。さらに、様々なトピックに関する英文の内容をリスニングで内容把握し、音で語彙を増やし聞く能力を高めることに前期は焦点を当てる。スピーキングに関しては、後期に対面授業において one minute speech やプレゼンテーションでより強化を図り、言語運用能力の向上を目指す。

【到達目標】

・ニュースメディアの内容を CD で音からの内容理解を実施する。まず、音と意味を一致させた語彙を脳内に input させて語彙を増やさない限り、コミュニケーション能力は伸びない事を自覚させる。
・ paragraph writing を毎回違ったトピックで書かせて習得する。翌週に添削して feedback された箇所をチェックして、英作力を強化させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。

毎週 paragraph writing の課題を与えられ、それについて学生は 200～300 字の paragraph を書き、提出。翌週必ず添削されたものがフィードバックされるので、教師に指摘された自分の間違いをチェックし、その解説に未習熟の表現や語彙があればそれを学び、次回の英作に使っていく。リスニングは summary /conversation in action の音声ファイルを通して音だけで内容把握することに始まり、cloze quiz, dictation and read aloud などのアクティビティを通して英語の音に対する意識を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction of how to proceed this class.	topic sentence /support sentences /concluding sentence とは？
	※ paragraph writing のトピックが与えられ、翌週には必ず提出すること。添削され翌週には必ず feedback される。	indentation, bridge, skipping the line などのテクニックの紹介。 good paragraph と bad paragraph の違い。 Introduce how to produce the correct English sounds and the structure of English sentences, marking, slash reading.

2	Conversation in action and summary (Green tea) : 音声ファイル使用 Paragraph writing: students will be given a certain topic.	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD on Green tea comprehension check [予習]writing a paragraph on the topic given. 40分。 [復習]conversation in action/summary 音読し確認 20分。	9	Conversation in action and summary (your smartphone) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	CD 内容把握。dictation and cloze quiz [予習]paragraph writing。40分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
3	Conversation in action and summary (the secret of life): 音声ファイル A new topic to be given.	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ conversation in action [予習]。paragraph writing on the topic 40分。 [復習]summary の音読を正確な音で再現し、音と意味が一致した語彙を脳内に input。20分。	10	Conversation in action and summary (language app) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	CD 内容把握。dictation and cloze quiz [予習]paragraph writing。40分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
4	Conversation in action and summary (rental business) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD comprehension check [予習] a new topic to be given for paragraph writing [復習]summary を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。30分。	11	Conversation in action and summary (selling charity) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing。40分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。feedback されたものをチェック。20分。
5	conversation in action Conversation in action and summary (Lack of sleep) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ conversation in action [予習]。paragraph writing on the topic 40分。 [復習]summary を正確な音で再現する。20分	12	wrap up give the students the information about the final test	warm-up exercises preview questions vocabulary check CD gives them a chance to understand only through the sound. comprehension check [予習]summary sheet の確認。 [復習] 正確な音で音読して内容理解。
6	Conversation in action and summary (lost in translation) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD comprehension check [予習] a new topic to be given for paragraph writing [復習]summary を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。30分。	13	final test	according to the testing information given before, you should prepare for it. check the mistakes made in the final test.
7	conversation in action Conversation in action and summary (coffee). 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing。40分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。20分。	14	check the feedback of the final test	【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】 paragraph writing の課題を宿題として提出。学生は正式な様式に従って英文を書く。 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。 【テキスト (教科書)】 not used 【参考書】 not used 【成績評価の方法と基準】 期末テスト40%、提出物 50%、平常点10% (提出期限厳守、質問等) の総合評価。 欠席が4回以上の場合、単位修得は認めない。 【学生の意見等からの気づき】 英語を表現することに慣れていなくても、回数を重ねるごとに上達していくと実感する学生の意見が多い。目にするものを英語でどう表現するんだろうという習慣をつけるのが大切。
8	Conversation in action and summary (a stitch in time) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing。40分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。feedback されたものをチェック。20分。			【その他の重要事項】 提出物の時間厳守。 【Outline and objectives】 The students are supposed to learn how to write a paragraph. Then they will be able to make a presentation based on it. In order to prevent the spread of the infection, the spring semester will be on-demand, focusing on paragraph writing and listening. As for speaking, in the fall semester, the students are supposed to get used to speaking in front of the other students through one minute speech and presentation in order to cultivate their language proficiency.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。スピーキングの前提となるすべての身の回りで起こっていることを英語で表現することに焦点を当てるために、one minute speech を毎回の授業で行い、presentation の強化を図る。リスニングも前期と同形式で実施することで言語運用能力を身につける。

【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。日常で起こっていることをすべて英語で表現することで、語彙、文章構成力を強化し会話力に繋げる。

CD を何度も聞いて conversation in action& summary を完成する。

power point 等を使い、効果的な presentation を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

essay writing の課題を隔週ごとに与える。翌週には添削されたものが feedback される。

CD/DVD を使用して音声から理解を強化。(group activities/ pair work)

one minute speech は前期と同様継続することでさらなる speaking skill を上げる。

支持されたトピックに対して、presentation を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	one minute speech What is an essay writing? Learn how to write an essay week1 topic is given and write an essay on it. listening activity ※前期に引き続き、エッセイの提出物を期限厳守で提出する。翌週には必ず添削されたものが feedback される。	Read the handout on an essay writing Listen to CD and fill in the blanks. [予習] essay writing について理解。与えられた topic について essay を書く。1 時間。listening task [復習] 正確な音声 30 分。

2	one minute speech listening activity (conversation in action and summary) group activities	whatever happened to you can be your topic [予習] preparation for one minute speech 40 分。 [復習] feedback された week1 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する 20 分。 CD の音声を確実に音で再現しコミュニケーションスキルを強化。子音、語尾の音に意識を高める。20 分。
3	one minute speech listening activity (water safety) group discussion	CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。 [予習] one minute speech の準備。40 分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20 分。
4	one minute speech CD/DVD (you stay up late at night?) group discussion	CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。 [予習] one minute speech の準備。40 分。 [復習] summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。疑問点を理解し再確認する。20 分。
5	one minute speech CD/ DVD (climate change eg. Texas in Feb. blackout in the heavy snow) group discussion	CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。 [予習] one minute speech の準備。40 分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20 分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
6	one minute speech CD/DVD (medical tourism) pair work	CD/ DVD で内容理解。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 [予習] one minute speech の準備 40 分。 [復習] feedback された week5 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する。 CD の音声を確実に音で再現しコミュニケーションスキルを強化。20 分。
7	one minute speech CXD/DVD (jackpot) group discussion	write an essay on the topic given Listen to CD and fill in the blanks. [予習] one minute speech。40 分。 [復習] week6 の課題チェック。添削された箇所を確認理解する。 CD の音声を確実に理解し、語彙も理解する。20 分。
8	One minute speech listening activity (Halloween) discussion	CD/ DVD で内容理解。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 [予習] one minute speech の準備 40 分。 [復習] feedback された week5 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する。 CD の音声を確実に音で再現しコミュニケーションスキルを強化。20 分。

9. one minute speech CD/DVD (chocolate) group presentation CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
10. one minute speech Listening activity (being relaxed in teaching) pair work CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
11. presentation make a presentation on your essay
[予習] 与えられたトピックで essay writing を完成。
presentation に向けて準備。1時間。
[復習]week10 の課題チェック。添削された箇所を確認理解する。CD の音声を確実な音で再現20分。
12. one minute speech CD/DVD (Christmas) CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
13. Final test test information to be given
[予習] 試験範囲をチェックして準備する。2時間。
[復習] 解答出来なかった項目を再確認。20分。
14. the last presentation The students will make a speech based on their drafts.
[予習]final speech に備えて入念に準備する。power point などを利用すると良い。3時間。
[復習]self-evaluation の項目に答える。

【学生の意見等からの気づき】

英語で身の回りで起こっていることをすべて英語で表現する。

【学生が準備すべき機器他】

PC or smart phone

【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after learning how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through one minute speech. They are encouraged to speak about what's happened in their daily lives as specifically as possible with the words they've already known in front of the students. In doing so, they will develop the skill of presentation as well.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出に向けて、essay writing では与えられたトピックについて書き、conversation in action/ summary で音の確認。one minute speech は毎週実施されるので毎日気になった事を英語で表現する習慣をつける。

エッセイライティングの課題を自宅で仕上げ提出。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせてほぼ1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間ほどを標準とします。

英語で、どのように表現するのかわからない時、native speakers はどのように表現するのかを参考にするために、以下のサイトを利用してより英語らしい表現を学んでいく。

- ・ DMM なんて uKnow?
- ・ Hapa 英会話
- ・ 英語 with Luke

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (the final presentation も含む) 40% : 各週の提出物 essay writing (40%): 平常点 (授業態度等) 20%
尚、4回以上の欠席 (不提出) は単位習得を認めない。

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

英語圏の文化や社会問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業の方法はオンデマンド方式（資料配布型）とする。

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生による課題制作の時間も設ける。

質問は授業内か授業前後に学習支援システム等を通じて受付け、適宜回答する。課題に関するフィードバックは授業内容に含む。

初回授業日（4/9）に必ず学習支援システムにログインし、授業の受講方法を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明 教科書 Unit1 の導入
第 2 回	Unit1-1	Job Interview (1) テキストを元に別れの挨拶を学び 実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit1-2	Job Interview (2) 過去完了形の復習をし、実際に使う 訓練を行う
第 4 回	Unit2-1	First Day on the Job (1) テキストを元に依頼の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit2-2	First Day on the Job (2) 助動詞の復習をし、実際に使う訓練 を行う
第 6 回	Unit3-1	Hurricane on the Weekend (1) テキストを元に反論の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 7 回	Unit3-2	Hurricane on the Weekend (2) 関係代名詞の復習をし、実際に使う 訓練を行う
第 8 回	Research	課題制作の準備
第 9 回	Presentation	課題の発表（提出）
第 10 回	Unit4-1	Andy's Makeover (1) テキストを元に困惑の表現を学び 実際に使う訓練を行う

第 11 回 Unit4-2

Andy's Makeover (2)

現在進行形の復習をし、実際に使う
訓練を行う

第 12 回 Unit5-1

Andy Meets Christian (1)

聞き返す表現を学び実際に使う訓練
を行う

第 13 回 Unit5-2

Andy Meets Christian (2)

助動詞の復習をし、実際に使う訓練
を行う

第 14 回 期末試験

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

テキストを事前に読み課された宿題を行う。

授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。

課題の制作や準備。

【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編 『『プラグを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の宿題・課題（30%）

中間課題（30%）

期末試験（40%）

各回の課題未提出が 3 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their skills of English listening, speaking and writing. Throughout researching and presentation, students also practice articulating their opinions in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

英語圏の文化や社会問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業の方法はオンデマンド方式（資料配布型）とする。

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生による課題制作の時間も設ける。

質問は授業内か授業前後に学習支援システム等を通じて受付け、適宜回答する。課題に関するフィードバックは授業内容に含む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	春学期テストのフィードバック 授業の進め方について
第 2 回	Unit6-1	Miranda's Request (1) テキストを元に希望を伝える表現を学び実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit6-2	Miranda's Request (2) 分詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 4 回	Unit7-1	Nate's Birthday (1) テキストを元に驚きを示す表現を学び実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit7-2	Nate's Birthday (2) 仮定法の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 6 回	Unit8-1	Andy's Decision (1) テキストを元に確認する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 7 回	Unit8-2	Andy's Decision (2) 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 8 回	Research	課題制作の準備
第 9 回	Presentation	課題の発表（提出）
第 10 回	Unit9-1	Break up with Nate (1) テキストを元に提案する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 11 回	Unit9-2	Break up with Nate (2) 動名詞の復習をし、実際に使う訓練を行う

第 12 回 Unit10-1

The Dream Job (1)

テキストを元に意思・予定を述べる表現を学び実際に使う訓練を行う

第 13 回 Unit10-2

The Dream Job (2)

受動態の復習をし、実際に使う訓練を行う

第 14 回 期末試験

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

テキストを事前に読み課された宿題をする。

授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。

課題の制作や発表準備。

【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の宿題・課題（30%）

中間課題（30%）

期末試験（40%）

各回の課題未提出が 3 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their skills of English listening, speaking and writing. Throughout researching and presentation, students also practice articulating their opinions in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society

【到達目標】

Students will practice and improve proficiency in all four language skills: Listening, Speaking, Reading, and Writing. How much students improve is dependent on how hard they apply themselves inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Course feedback will be provided in the classroom as well as online using Google Classroom or another platform. Students may also correspond with the instructor via e-mail.

NOTE: For the month of April classes will be conducted ONLINE.

After the Golden Week Holiday, we will change to an in-person, face-to-face classroom format. Instructions will be provided for students who need to continue to take classes online from May.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work
3	Unit 1 Video: Another Country	Video Worksheet activities. Paragraph Writing & assignment explanation.
4	Unit 2: The Way we Live	Writing assignment due. Reading and pair work: Practice asking questions.
5	Writing Improvement Instruction	Common grammar and preposition mistakes.
6	Unit 2 Video: New York City's Park in the Sky	Video listening practice; worksheet questions and research assignment
7	Location Research report/ mini-Presentations	Quiz on Units 1-2 vocabulary and grammar.
8	Unit 3: What Happened Next?	Practice past simple (questions and answers) in pair and group activities.

9	Unit 3: Telling a story & Video	Past tense practice. The Titanic video listening practice. Wworksheet assignment.
10	Titanic research report	Students report research on video from previous week. Explanation of Song Journal activity.
11	Unit 4: The Marketplace	Reading comprehension and practice using "how much/many".
12	Unit 4 Pt. II	Song Journal writing due. Activities — using polite language. Explanation of how to give effective presentations.
13	Song Journal Presentations	Student give mini-presentations on song journal content; Q & A
14	Mini-presentations II.	Final quiz on Units 3 & 4. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session.

Students should also practice listening with the CD-Rom provided in the text.

More detailed explanation will be given during the class period.

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars: American Headway Level 2 (3rd edition). Oxford University Press

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, writing assignments, presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More attention in class will be paid to how to write logical, coherent, and grammatically correct paragraphs and essays in English.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week.

Coming late to class twice = one absence (except for a good reason, like late trains)

【Outline and objectives】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning and Using English for Global Communication: This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in basic English.

【到達目標】

Students will improve in all four language skills: listening, speaking, reading and writing. How much they improve depends on how hard they work in and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and homework.

Feedback on student performance will be provided in class, on written assignments and quizzes. Students may also correspond with the instructor by e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 5: What Do You Want to Do?	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports.
2	Unit 5: Future Activities	Future tense practice—questions and answers in pair and group work.
3	Unit 5 video: A Green City for the Future	Video Worksheet activities and discussion. Assign research.
4	Energy and Conservation Reports	Students report on research. Begin Unit 6: Places and Things
5	Unit 6: What's it Like?	Practice on describing family with instruction on how to write an essay.
6	Unit 6: My family—similarities and differences	Essays due. Unit 6 reading assignment and pair/group activities. Role play textbook dialogue.
7	Writing Instruction; Video: Scotland	Essay writing feedback; Video Worksheet activities, research assignment.
8	Unit 6 Report and Wrap-up	Quiz on Units 5 & 6. Pair presentation assignment: Interview and Country Report.

9	Countries & Culture	Instruction on giving effective presentations. Begin Unit 7: The World of Work! Present perfect and past simple practice.
10	Student Country Presentations	Speaking and listening practice. Q & A.
11	Unit 7: Careers and Jobs	Textbook Reading activities Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 7 Video: Two Famous Firsts	Video worksheet and supplemental activities; final essay assignment.
13	Unit 8: Do's and Don't's	Final Essay Due; practice giving advice (have to/should)
14	Units 7-8 Review and Wrap-up.	Return final essays. Quiz on Units 7 & 8.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to work/read ahead in the text by doing the readings and completing the activities assigned. Other homework assignments will be assigned in class.

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars. American Headway 2 (3rd Edition).

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class.

【参考書】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, short essays, individual and group presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More instruction will be provided on how to write short position statements and essays, as well as how to improve presentation skills.

【学生が準備すべき機器他】

Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper to use during class.

【その他の重要事項】

In principle students are permitted up to 3 unexcused absences during the semester

Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason—such as train delays, etc)

【Outline and objectives】

While attention will be given to all four English skills, the emphasis is on oral communication, and so we spend considerable classroom time practicing listening and speaking. Students will also be given various writing assignments throughout the semester to practice expressing themselves in writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture 1, worksheet and readings, writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2, readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3, readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4, readings, Quiz #3 Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5, readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6, readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7, readings, Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading, Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading, Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading, Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11, readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12, readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will be emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

小野瀬 宗一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を効果的に文章・口頭で表現する力を養います。具体的には、論理的な構成のパラグラフを英語で書き、英語で短いプレゼンテーションと質疑応答をするスキルを身に付けます。また、英語のプレゼンテーションを理解する能力を培う一環として、適宜リスニングの練習も行います。

【到達目標】

論理的な構成のパラグラフが英語で書けるようになる。英語でプレゼンテーションや質疑応答をするための基礎スキルを身に付ける。英語のプレゼンテーションを聞き大意をつかむ力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、論理的な構成のパラグラフを書くための方法を学びます。チャプターを終える毎にパラグラフを書いてもらい、ピア・レビューを行います。学期の最後には各自英語でプレゼンテーションをしてもらいます。効果的なプレゼンテーションをするスキルを養うために、適宜ディスカッションやリスニング練習等のアクティビティをペアやグループで行います。

ピア・レビューの他に、ライティングの課題は教員が読み、添削とコメントを施して返却します。プレゼンテーションの文章や資料についても、同様にフィードバックを行います。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進行・成績評価等の説明
第 2 回	Topic Sentence	パラグラフの主題文について学ぶ (Ch.1)
第 3 回	Supporting Sentence / Concluding Sentence	パラグラフの支持文とまとめの文について学ぶ (Ch.1)
第 4 回	Peer Review (1)	第一回課題のパラグラフについてピア・レビューを行う
第 5 回	Staying on Topic	パラグラフのテーマに一貫性を持たせるためのスキルを学ぶ (Ch.2)
第 6 回	Transition Signals	パラグラフのテーマの展開をスムーズに行うためのスキルを学ぶ (Ch.2)
第 7 回	Logical Order	パラグラフのテーマの展開を論理的に組み立てるためのスキルを学ぶ (Ch.2)
第 8 回	Peer Review (2)	第二回課題のパラグラフについてピア・レビューを行う
第 9 回	Citation	引用の作法について学ぶ (Ch.3)
第 10 回	Paraphrase	引用した文を自分の言葉で言い換える方法を学ぶ (Ch.3)

第 11 回	Peer Review (3)	第三回課題のパラグラフについてピア・レビューを行う
第 12 回	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの形式や資料の使い方について説明する
第 13 回	プレゼンテーション (前半)	Summary (まとめ) 練習の一環として、英語でプレゼンテーションをする
第 14 回	プレゼンテーション (後半)	Summary (まとめ) 練習の一環として、英語でプレゼンテーションをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習範囲となる教科書のページを事前に読み、分からない単語があれば辞書等を使って意味を調べて下さい。必要に応じて、同じ範囲を読み返して復習して下さい。ライティング課題に関しては、提出する前に文法や綴り等をよくチェックすること。クラスメイトや教員からフィードバックがあった際は、コメントをよく読んで次の課題にいかすこと。

【テキスト（教科書）】

Alice Oshima and Ann Hogue. Longman Academic Writing Series 4: Paragraphs to Essays, 5th ed., Pearson Education, 2017.

【参考書】

適宜プリントを配布するつもりです。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、ライティング課題 40%、プレゼンテーション 30%
欠席が 4 回以上で原則として単位修得を認めません。30 分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべくペアワークやグループワークを取り入れ、学生が積極的に授業に参加できる機会を提供したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業関連の連絡や課題の提出は学習支援システムを使って行います。オンラインとなった場合は、Zoom でリアルタイムで授業をするつもりです。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to express their opinions in English in a logical and coherent manner by learning the rudiments of academic writing and speaking. Specifically, as regards academic writing, they will learn the basic structure and mechanics of a paragraph and write several paragraphs of substantial length over the course of the semester. As for academic speaking, students will acquire the basic skills for initiating and engaging in academic discussions through various activities and will give a short presentation at the end of the semester. Some of these activities will focus on enhancing the students' listening skills. Feedback will be given on each major assignment via peer review and comments by the course instructor so that students can review the key concepts and skills covered in class. While this course is structured around a textbook, students will be given many opportunities to interact with their classmates through various activities including pair and group work, discussions, and peer review.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

小野瀬 宗一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を効果的に文章・口頭で表現する方法を学びます。具体的には、論理的な構成のエッセイを英語で書き、英語でプレゼンテーションと質疑応答するスキルを磨きます。また、英語のプレゼンテーションを理解する能力を向上させる一環として、リスニングの練習も行います。

【到達目標】

Argumentative Essay（議論型エッセイ）が英語で書けるようになる。英語でプレゼンテーションや質疑応答をするためのスキルを磨く。英語のプレゼンテーションを聞き内容を正確に理解する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、Argumentative Essay を書くための方法を学びます。チャプターを終える毎に導入部とアウトラインを書いてもらい、ピア・レビューを行います。エッセイの各部分のドラフトについてもピア・レビューを行い、学期の最後には自分が書いたエッセイを元に各自英語でプレゼンテーションをしてもらいます。効果的なプレゼンテーションをするスキルを磨くために、適宜ディスカッションやリスニング練習等のアクティビティをペアやグループで行います。

ピア・レビューの他に、ライティングの課題は教員が読み、添削とコメントを施して返却します。プレゼンテーションの文章や資料についても、同様にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、 Essay Structure	授業の進行・成績評価等の説明、 エッセイの構成について学ぶ
第 2 回	Introduction	エッセイの導入部について学ぶ (Ch.4)
第 3 回	Body, Outline	エッセイの展開部とアウトライン について学ぶ (Ch.4)
第 4 回	Conclusion	エッセイの結論部について学ぶ (Ch.4)
第 5 回	Peer Review (1)	エッセイの導入部とアウトライン を書き、ピア・レビューを行う
第 6 回	Argumentative Essay	議論型エッセイの構成について学 ぶ (Ch.8)
第 7 回	Rebuttal	議論型エッセイの反駁部について 学ぶ (Ch.8)
第 8 回	Bibliography	参考文献表の作り方を学ぶ
第 9 回	Peer Review (2)	議論型エッセイの導入部とアウト ラインを書き、ピア・レビューを 行う
第 10 回	Body (1)	議論型エッセイの展開部の前半を 書き、ピア・レビューを行う
第 11 回	Body (2)	議論型エッセイの展開部の後半を 書き、ピア・レビューを行う

第 12 回	Conclusion	議論型エッセイの結論部を書き、 ピア・レビューを行う
第 13 回	プレゼンテーション (前半)	自分が書いた議論型エッセイを元 に、プレゼンテーションと質疑応 答を行う
第 14 回	プレゼンテーション (後半)	自分が書いた議論型エッセイを元 に、プレゼンテーションと質疑応 答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習範囲となる教科書のページを事前に読み、分からない単語があれば辞書等を使って意味を調べて下さい。必要に応じて、同じ範囲を読み返して復習して下さい。ライティング課題に関しては、提出する前に文法や綴り等をよくチェックすること。クラスメイトや教員からフィードバックがあった際は、コメントをよく読んで次の課題にいかすこと。

【テキスト（教科書）】

Alice Oshima and Ann Hogue. Longman Academic Writing Series 4: Paragraphs to Essays, 5th ed., Pearson Education, 2017.

【参考書】

適宜プリントを配布するつもりです。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、ライティング課題（アウトラインを含む）40%、プレゼンテーション 30%
欠席が 4 回以上で原則として単位修得を認めません。30 分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべくペアワークやグループワークを取り入れ、学生が積極的に授業に参加できる機会を提供したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業関連の連絡や課題の提出は学習支援システムを使って行います。オンラインとなった場合は、Zoom でリアルタイムで授業をするつもりです。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to express their opinions in English in a logical and coherent manner by learning the rudiments of academic writing and speaking. Specifically, as regards academic writing, they will learn the basic structure and mechanics of an argumentative essay, and write each component part (Introduction, Body, Conclusion) in the latter half of the course. At the end of the semester, students will give a presentation based on their argumentative essay. As for academic speaking, students will acquire more advanced skills for initiating and engaging in academic discussions through various activities. Some of these activities will focus on further enhancing the students' listening skills. Feedback will be given on each major assignment via peer review and comments by the course instructor so that students can review the key concepts and skills covered in class. While this course is structured around a textbook, students will be given many opportunities to interact with their classmates through various activities including pair and group work, discussions, and peer review.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture 1, worksheet and readings, writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2, readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3, readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4, readings, Quiz #3 Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5, readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6, readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows. Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7, readings, Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading, Quiz #7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading, Quiz #8 Writing assignment #6. Writing a whole paragraph.
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading, Quiz #9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11, readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12, readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Robert D. Hinton

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Due to the continued effect of the pandemic, classes for the Spring semester will be held on line, in an on-demand style. Each Friday, materials and weekly assignments will be found on the HOPPI learning system. Students will have one week to complete the assignments and enter their work into the HOPPI system. The materials will include handouts, worksheets and videos.

In this course students will have many opportunities to improve listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills through active listening and writing. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators.

Students will receive written comments and a score for all assignments and presentations. These scores will be done on weekly reports submitted on the HOPPI learning system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	A Favorite vacation	Free writing, writing a 5 paragraph report
Week 4	Undercover Boss	Listening comprehension worksheet, prepare a report
Week 5	Brainstorming	Do brainstorming lists, prepare 7 original lists
Week 6	Favorite Vacations	Design a travel plan
Week 7	Survival quiz	Watch the video and check quiz answers
Week 8	Survival in life	Write a one page non fiction survival story
Week 9	Country research project	Fill out Where in the World worksheet

Week 10	A dream Vacation	Research dream destinations, write a 7 day travel plan
Week 11	Extreme Makeover Home Edition	Design a dream house
Week 12	Oprah Winfrey	View video, read article, write an opinion paper
Week 13	A famous person	Brainstorming, research, write a 5 paragraph essay
Week 14	Culture Study - Hawaii	Complete listening comprehension worksheet, prepare a report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly assignments and reports (100%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Robert D. Hinton

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

Students will receive written comments and a score for all assignments and presentations. These scores will be done on weekly reports submitted on the HOPPI learning system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	Undercover Boss - Cinnabon	Information search about this companies
Week 4	Food show review	Students will write a recipe
Week 5	Meet the Robots	Student will prepare a report about technology
Week 6	Trivia Quiz	Students will create an original quiz
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Group presentations	Group presentations
Week 11	Unusual Crimes	Students will prepare a report about an unusual crime
Week 12	Judge Judy	Students will do a simulation activity
Week 13	Crime Ranking	Crime ranking activity

Week 14 Crime and Punishment Students will decide punishments for crimes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Student grades will be determined by weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を繰り返していきます。また関心の高いトピックについて、プレゼンテーションを行う練習をします。こうした練習を通して「聴く力」を育成することも目的のひとつです。

【到達目標】

この授業は以下の4つを到達目標とします：

- ①日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識、経験、意見を効果的に口頭および文章で表現することができる
- ②英語でプレゼンテーションを効果的に行うことができる
- ③効果的に、英語を聞き取り、意味をつかむことができる
- ④パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) に留意し、論理的構成をもつパラグラフを書くことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下の3つの活動を中心に毎回の授業を行います。

- ①スピーキングに重点を置いたテキストを用いた英語表現の習得と会話の練習（リスニングの練習を含む）
 - ②自分の知識、経験、意見を書く練習（授業毎に小エッセイを提出）
 - ③学期後半に授業内で行うプレゼンテーション大会のための準備
- いずれも講師の指示した予習・準備をしていることを前提に授業を進めます。

学習内容の理解を確認・復習するための中間試験を行います。

ライティング課題は講師が添削をして返却、プレゼンテーションは評価票とコメントを返却、試験は解説を行います。

*この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブサイトやアプリケーションの紹介	PC を利用した演習
3	テキスト Unit1-1・2 プレゼンのトピックを考える①	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
4	テキスト Unit1-3・4 プレゼンのトピックを考える②	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備

5	テキスト Unit1-5 プレゼンの構成を考える①	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
6	テキスト Unit2-1・2 プレゼンの構成を考える②	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
7	テキスト Unit2-3・4 プレゼンの台本を書く①	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
8	テキスト Unit2-5 プレゼンの台本を書く②	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
9	中間テスト	試験の実施、解説、復習
10	テキスト Unit3-1・2 プレゼンのビジュアル・エイドを作る①	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
11	テキスト Unit3-3・4 プレゼンのビジュアル・エイドを作る②	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
12	テキスト Unit3-5 プレゼンの練習をする	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
13	プレゼンテーション①	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
14	プレゼンテーション②	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, Kathryn O'Dell. Evolve Level 3 Student's Book with Online Practice (Cambridge University Press ¥ 3,000)
その他、オンラインで提示する教材あり

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（グループ/ペアワークへの参加）10%、エッセイ 20%、中間試験 35%、プレゼンテーション 35%で評価します。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、English2 I で学んだことを発展させ、日常生活や現代社会に関するやや難易度の高いトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成の paragraph を書く練習を行い、最終的には複数の paragraph からなる短いレポートを書けるようにします。また関心の高いトピックについて、プレゼンテーションを行う練習をします。こうした練習を通して「聴く力」を育成することも目的のひとつです。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①日常生活や現代社会に関する、ある程度難しいトピックについて、自分の知識、経験、意見を効果的に口頭および文章で表現することができる
- ②英語でプレゼンテーションを効果的に行うことができる
- ③効果的に英語を聞き取り、意味をつかむことができる
- ④ paragraph の構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) に留意し、論理的構成をもつ paragraph を書くことができる
- ⑤複数の paragraph からなる短いレポートを書くことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下の3つの活動を中心に毎回の授業を行います。

- ①スピーキングに重点を置いたテキストを用いた英語表現の習得と会話の練習（リスニングの練習を含む）
- ②自分の知識、経験、意見を書く練習（学期末にレポートを提出）
- ③学期後半に授業内で行うプレゼンテーション大会のための準備
いずれも講師の指示した予習・準備をしていることを前提に授業を進めます。
ライティング課題は講師が添削をして返却、プレゼンテーションは評価票とコメントを返却、試験は解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト Unit 4-1・2 プレゼンのトピックを 考える	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
2	テキスト Unit 4-3・4 プレゼンの構成を考え る	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
3	テキスト Unit 4-5 プレゼンの台本を書く ①	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
4	テキスト Unit 5-1・2 プレゼンの台本を書く ②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備

5	テキスト Unit 5-3 プレゼンのビジュアル ル・エイドを作る①	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
6	テキスト Unit 5-4 プレゼンのビジュアル ル・エイドを作る②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
7	テキスト Unit 5-5 プレゼンの練習を行う	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
8	プレゼンテーション①	受講者によるプレゼンテーショ ン、質疑応答
9	プレゼンテーション②	受講者によるプレゼンテーショ ン、質疑応答
10	テキスト Unit 6-1・2 英語でレポートを書く ①	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆（テーマを決め る）
11	テキスト Unit 6-3 英語でレポートを書く ②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆（構成を考える）
12	テキスト Unit 6-3 英語でレポートを書く ③	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆（文章を推敲す る）
13	テキスト Unit 6-4 英語でレポートを書く ④	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆（文章を推敲す る）
14	テキスト Unit 6-4 英語でレポートを書く ④	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆（Peer Review を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, Kathryn O'Dell. Evolve Level 3 Student's Book with Online Practice (Cambridge University Press ¥ 3,000)
その他、オンラインで提示する教材あり

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（グループ/ペアワークへの参加）20%、レポート 40%、プレゼンテーション 40%で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやスマートフォン、タブレットなどを用います。詳細は授業で指示します。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

【到達目標】

論理的構成を持つパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、パラグラフの基本的な構成を学び、パラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。英語でのプレゼンテーション、ペアワーク、グループワークをおこなう。

予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。

この授業はハイブリッド型で、対面の週と Zoom の週がある。詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 パラグラフの構造
2	The Topic Sentence (1)	主題文とは
3	The Topic Sentence (2)	主題文を書く
4	The Supporting Sentences (1)	支持文とは
5	The Supporting Sentences (2)	支持文を書く
6	The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは
7	The Concluding Sentence (2)	まとめの文を書く
8	Listing (1)	列挙のパラグラフとは
9	Listing (2)	列挙のパラグラフを書く
10	Time Order (1)	時間的順序のパラグラフとは
11	Time Order (2)	時間的順序のパラグラフを書く
12	Classification (1)	分類のパラグラフとは
13	Classification (2)	分類のパラグラフを書く
14	筆記試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。予習テストが出題された場合は、期限までに解答する。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2019 年 2200 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。

欠席が 4 回以上の場合には原則的に単位修得を認めない。予習テストに解答しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。英語で発話しやすくなるよう、グループワークで使える英語表現を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出に学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、必ず毎日チェックすること。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. They will learn how to write a logically organized paragraph, how to participate in and facilitate discussions, and how to deliver presentations. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

【到達目標】

論理的構成を持つ、様々な内容のパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションおよび質疑応答をおこなえるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、効果的なパラグラフとプレゼンテーションを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。ユニットによっては英語での発表もおこなう。授業では英語でのペアワーク、グループワークも取り入れるので、積極的に参加すること。予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。

この授業はハイブリッド型で、対面の週と Zoom の週がある。詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは
2	Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを書く
3	Comparison and Contrast (3)	パラグラフの発表
4	Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは
5	Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを書く
6	Cause and Effect (3)	パラグラフの発表
7	Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは
8	Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを書く
9	Problem-solution (3)	パラグラフの発表
10	Introduction	プレゼンテーションの導入を書く
11	Body	プレゼンテーションの展開部を書く
12	Conclusion	プレゼンテーションの結論部を書く
13	Presentation practice	グループでのプレゼンテーション
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。予習テストが出題された場合は、期限までに解答する。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2019 年 2200 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。

欠席が 4 回以上の場合は原則として単位修得を認めない。予習テストに解答しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。英語での質疑応答やディスカッションがしやすくなるよう、実例を示し、テーマ設定や導入の仕方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出には学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、必ず毎日チェックすること。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. They will learn how to write logically organized paragraphs about different topics, how to participate in and facilitate discussions, and how to deliver presentations. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator and provide face to face and online feedback to ensure students successfully achieve the goals of the course. This is a hybrid class. We will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 First Impressions	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Features you look for when you meet someone.
3	Unit 2 Big or small?	Sharing ideas about living in a big city or a small town.
4	Unit 3 The Good Language Learner	The pros and cons of living in another country.
5	Unit 6 What are friends for?	Things close friends do for each other.
6	Unit 7 What's for lunch?	Deciding which foods are healthy.
7	Unit 7 What's for lunch? Mid-semester task preparation.	Deciding which foods are healthy.
8	Mid-semester task.	Group speaking task.
9	Unit 8 Your Online Past	Digital literacy skills.
10	Paragraph writing	Writing a strong topic sentence.
11	Paragraph writing	Supporting the main ideas and giving details.
12	Paragraph writing	Writing a concluding sentence.

13	Semester review	Review of the semester.
14	Final tasks.	Final writing and speaking tasks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson

【参考書】

Worksheet
handouts

【成績評価の方法と基準】

Extensive listening and/or reading (10%)
Evaluation of in-class participation (15%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion (30%)
Final tasks (30%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform, and Zoom will be used throughout the semester. Students who attend a Zoom lesson on campus will need a headset.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator and provide face to face and online feedback to ensure students successfully achieve the goals of the course. This is a hybrid class. We will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Your summer vacation.	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your summer vacation.
2	Unit 10 My Student Life	Important reasons to go to university.
3	Unit 12 Create another future	Ways to save the environment.
4	Unit 14 Government Control	The government's plan to increase the birthrate.
5	Unit 15 Ask Annie	Giving advice.
6	Unit 16 What makes you happy?	Your ideas for happiness.
7	Mid-semester task	Speaking and listening task.
8	Unit 17 Who will help them?	Giving opinions about immigration.
9	Unit 20 A mother's story	Capital punishment.
10	Writing	Essay writing
11	Writing	Essay writing
12	Writing	Essay writing
13	Course review / writing lesson if required.	Review the contents of the course in preparation for the finals tasks.
14	Final tasks	Speaking, listening and writing tasks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments

from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

【参考書】

Worksheets

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Extensive listening and/or reading (10%)

Evaluation of in-class participation (15%)

Mid-semester task (15%)

Homework completion (30%)

Final tasks (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPii, the Hosei University learning management platform, and Zoom will be used throughout the semester. Students who attend a Zoom lesson on campus will need a headset.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline and objectives】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator and provide face to face and online feedback to ensure students successfully achieve the goals of the course. This is a hybrid class. We will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 First Impressions	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Features you look for when you meet someone.
3	Unit 2 Big or small?	Sharing ideas about living in a big city or a small town.
4	Unit 3 The Good Language Learner	The pros and cons of living in another country.
5	Unit 6 What are friends for?	Things close friends do for each other.
6	Unit 7 What's for lunch?	Deciding which foods are healthy.
7	Unit 7 What's for lunch? Mid-semester task preparation.	Deciding which foods are healthy.
8	Mid-semester task.	Group speaking task.
9	Unit 8 Your Online Past	Digital literacy skills.
10	Paragraph writing	Writing a strong topic sentence.
11	Paragraph writing	Supporting the main ideas and giving details.
12	Paragraph writing	Writing a concluding sentence.

13	Semester review	Review of the semester.
14	Final tasks.	Final writing and speaking tasks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson

【参考書】

Worksheet
handouts

【成績評価の方法と基準】

Extensive listening and/or reading (10%)
Evaluation of in-class participation (15%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion (30%)
Final tasks (30%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPii, the Hosei University learning management platform, and Zoom will be used throughout the semester. Students who attend a Zoom lesson on campus will need a headset.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator and provide face to face and online feedback to ensure students successfully achieve the goals of the course. This is a hybrid class. We will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Your summer vacation.	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your summer vacation.
2	Unit 10 My Student Life	Important reasons to go to university.
3	Unit 12 Create another future	Ways to save the environment.
4	Unit 14 Government Control	The government's plan to increase the birthrate.
5	Unit 15 Ask Annie	Giving advice.
6	Unit 16 What makes you happy?	Ideas to increase happiness.
7	Mid-semester task	Speaking and listening task.
8	Unit 17 Who will help them?	Giving opinions about immigration.
9	Unit 20 A mother's story	Capital punishment
10	Writing	Essay writing
11	Writing	Essay writing
12	Writing	Essay writing
13	Course review / writing lesson if required.	Review the contents of the course in preparation for the finals tasks.
14	Final tasks	Speaking, listening and writing tasks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments

from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

【参考書】

Worksheets

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Extensive listening and/or reading (10%)

Evaluation of in-class participation (15%)

Mid-semester task (15%)

Homework completion (30%)

Final tasks (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform, and Zoom will be used throughout the semester. Students who attend a Zoom lesson on campus will need a headset.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline and objectives】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

衣笠 正晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常のなかの多様なトピックについて知識や経験、意見を効果的に平易な英語で表現できる力を身につけることを目的とします。日本文化を題材にしたテキストを用いて、スピーチやプレゼンテーションの練習、論理的構成をもつパラグラフを書く練習をおこないます。

【到達目標】

- 1) トピックに関する英語情報を聴き取り／読み取り、整理できるようになる。
- 2) 自分の知識や経験、意見をわかりやすい英語で表現できるようになる。
- 3) 論理的な構成をもったパラグラフを英語で書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

原則としてテキストの各章を 2 週にかけて学びます。1 週目にはトピックに関する語彙の習得・理解、教材の聴き取り、それにもとづく口頭での意見発表の練習をおこないます。2 週目にはトピックにもとづくパラグラフ作成の練習をおこないます。毎回予習確認のためにクイズ（小テスト）を実施し、リアクションシートを提出してもらいます。リアクションシートのコメント・質問には翌週授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学期授業計画の説明
2	Getting to Know You (1)	教科書 Unit 1 にもとづくスピーキング
3	Getting to Know You (2)	教科書 Unit 1 にもとづくライティング
4	My Hometown (1)	教科書 Unit 2 にもとづくスピーキング
5	My Hometown (2)	教科書 Unit 2 にもとづくライティング
6	Japanese Food (1)	教科書 Unit 3 にもとづくスピーキング
7	Japanese Food (2)	教科書 Unit 3 にもとづくライティング
8	The Traditional Japanese House (1)	教科書 Unit 4 にもとづくスピーキング
9	The Traditional Japanese House (2)	教科書 Unit 4 にもとづくライティング
10	The Japanese Language (1)	教科書 Unit 5 にもとづくスピーキング
11	The Japanese Language (2)	教科書 Unit 5 にもとづくライティング
12	Explaining Japanese Things (1)	教科書 Unit 6 にもとづくスピーキング
13	Explaining Japanese Things (2)	教科書 Unit 6 にもとづくライティング

14 学期末試験とまとめ 筆記による試験+学期授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従ってテキストを予習し、問題の解答を作成するとともに、語彙や知識の整理をおこない、トピックに関する口頭での意見発表の準備をおこなう。またトピックに関連する英文（パラグラフ）を作成する。

※なお本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Simon Capper (著) *This Is Japan* < New Edition > (英語で伝える日本の文化と生活) (センゲージ ラーニング、2021 年) 税抜価格 2,200 円

※このほか必要に応じてプリントを配付・使用します。

【参考書】

随時授業中に指示します。なお授業には辞書を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、小テストなど。30 %）、提出物（ライティング課題など。30 %）、学期末試験（40 %）をあわせて評価します。評価にあたっては【到達目標】の各項目がどの程度達成できているかに注目します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付や課題の提出、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・初回授業までに教科書を購入し、持参してください。
- ・出席者の状況に合わせて授業の進め方に変更を加えたり、教材を差し替えたりする場合があります。
- ・初回授業で授業履修にあたって守るべき事柄を説明しますので、遵守してください。
- ・欠席が学期中 4 回を超えた場合は原則として単位履修の資格を失います。また遅刻 3 回を欠席 1 回としてカウントします。

【Outline and objectives】

The goal of this course is for students to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in everyday life in plain English. Using a textbook on Japanese culture, students will be required to learn how to give speeches and presentations as well as how to write a logically organized paragraph.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

衣笠 正晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常のなかの多様なトピックについて知識や経験、意見を効果的に明快な英語で表現できる力を身につけることを目的とします。日本文化を題材にしたテキストを用いて、プレゼンテーションやディスカッションなどの練習、複数のパラグラフからなる短いレポート（エッセイ）を書く練習をおこないます。

【到達目標】

- 1) トピックに関する英語情報を聴き取り／読み取り、整理できるようになる。
- 2) 自分の知識や経験、意見をわかりやすい英語で表現できるようになる。
- 3) 複数のパラグラフからなる短い文章（レポート）を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

原則としてテキストの各章を 2 週にかけて学びます。1 週目にはトピックに関する語彙の習得・理解、教材の聴き取り、それにもとづく口頭での意見発表の練習をおこないます。2 週目にはトピックにもとづくパラグラフまたはレポート作成の練習をおこないます。毎回予習確認のためにクイズ（小テスト）を実施し、リアクションシートを提出してもらいます。リアクションシートのコメント・質問には翌週授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学期授業計画の説明
2	Good Manners, Bad Manners (1)	教科書 Unit 7 にもとづくスピーキング
3	Good Manners, Bad Manners (2)	教科書 Unit 7 にもとづくライティング
4	Special Days and Events (1)	教科書 Unit 8 にもとづくスピーキング
5	Special Days and Events (2)	教科書 Unit 8 にもとづくライティング
6	School and University Life (1)	教科書 Unit 9 にもとづくスピーキング
7	School and University Life (2)	教科書 Unit 9 にもとづくライティング
8	Famous Japanese People and Movies (1)	教科書 Unit 10 にもとづくスピーキング
9	Famous Japanese People and Movies (2)	教科書 Unit 10 にもとづくライティング
10	Visiting Temples and Shrines (1)	教科書 Unit 11 にもとづくスピーキング
11	Visiting Temples and Shrines (2)	教科書 Unit 11 にもとづくライティング

12	Invisible Cultures (1)	教科書 Unit 12 にもとづくスピーキング
13	Invisible Cultures (2)	教科書 Unit 12 にもとづくライティング
14	学期末試験とまとめ	筆記による試験+学期授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従ってテキストを予習し、問題の解答を作成するとともに、語彙や知識の整理をおこない、トピックに関する口頭での意見発表の準備をおこなう。またトピックに関連する英文（パラグラフ）を作成する。

※なお本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Simon Capper (著) *This Is Japan* < New Edition > (英語で伝える日本の文化と生活) (センゲージラーニング、2021 年) 税抜価格 2,200 円

※このほか必要に応じてプリントを配付・使用します。

【参考書】

随時授業中に指示します。授業には辞書を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、小テストなど。30 %）、提出物（ライティング課題など。30 %）、学期末試験（40 %）をあわせて評価します。評価にあたっては【到達目標】の各項目がどの程度達成できているかに注目します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付や課題の提出、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・出席者の状況に合わせて授業の進め方に変更を加えたり、教材を差し替えたりする場合があります。
- ・担当教員から説明している授業履修にあたっての注意事項を遵守してください。
- ・欠席が学期中 4 回を超えた場合は原則として単位履修の資格を失います。また遅刻 3 回を欠席 1 回としてカウントします。

【Outline and objectives】

The goal of this course is for students to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in everyday life in lucid English. Using a textbook on Japanese culture, students will be required to learn how to participate in discussions and give presentations as well as how to write a short essay with multiple paragraphs.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society

【到達目標】

Students will practice and improve proficiency in all four language skills: Listening, Speaking, Reading, and Writing. How much students improve is dependent on how hard they apply themselves inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

NOTE: For the month of April classes will be conducted ONLINE.

After the Golden Week Holiday, we will change to an in-person, face-to-face classroom format. Instructions will be provided for students who need to continue to take classes online from May.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work
3	Unit 1 Video: Another Country	Video Worksheet activities. Paragraph Writing & assignment explanation.
4	Unit 2: The Way we Live	Writing assignment due. Reading and pair work: Practice asking questions.
5	Writing Improvement Instruction	Common grammar and preposition mistakes.
6	Unit 2 Video: New York City's Park in the Sky	Video listening practice; worksheet questions and research assignment
7	Location Research report/ mini-Presentations	Quiz on Units 1-2 vocabulary and grammar.

8	Unit 3: What Happened Next?	Practice past simple (questions and answers) in pair and group activities.
9	Unit 3: Telling a story & Video	Past tense practice. The Titanic video listening practice. Wworksheet assignment.
10	Titanic research report	Students report research on video from previous week. Explanation of Song Journal activity.
11	Unit 4: The Marketplace	Reading comprehension and practice using "how much/many".
12	Unit 4 Pt. II	Song Journal writing due. Activities — using polite language. Explanation of how to give effective presentations.
13	Song Journal Presentations	Student give mini-presentations on song journal content; Q & A
14	Mini-presentations II.	Final quiz on Units 3 & 4. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session.

Students should also practice listening with the CD-Rom provided in the text.

More detailed explanation will be given during the class period.

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars: American Headway Level 2 (3rd edition). Oxford University Press

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, writing assignments, presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More attention in class will be paid to how to write logical, coherent, and grammatically correct paragraphs and essays in English.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week.

Coming late to class twice = one absence (except for a good reason, like late trains)

【Outline and objectives】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning and Using English for Global Communication: This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in basic English.

【到達目標】

Students will improve in all four language skills: listening, speaking, reading and writing. How much they improve depends on how hard they work in and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and homework.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 5: What Do You Want to Do?	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports.
2	Unit 5: Future Activities	Future tense practice—questions and answers in pair and group work.
3	Unit 5 video: A Green City for the Future	Video Worksheet activities and discussion. Assign research.
4	Energy and Conservation Reports	Students report on research. Begin Unit 6: Places and Things
5	Unit 6: What's it Like?	Practice on describing family with instruction on how to write an essay.
6	Unit 6: My family—similarities and differences	Essays due. Unit 6 reading assignment and pair/group activities. Role play textbook dialogue.
7	Writing Instruction; Video: Scotland	Essay writing feedback; Video Worksheet activities, research assignment.

8	Unit 6 Report and Wrap-up	Quiz on Units 5 & 6. Pair presentation assignment: Interview and Country Report.
9	Countries & Culture	Instruction on giving effective presentations. Begin Unit 7: The World of Work! Present perfect and past simple practice.
10	Student Country Presentations	Speaking and listening practice. Q & A.
11	Unit 7: Careers and Jobs	Textbook Reading activities Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 7 Video: Two Famous Firsts	Video worksheet and supplemental activities; final essay assignment.
13	Unit 8: Do's and Don'ts	Final Essay Due; practice giving advice (have to/should)
14	Units 7-8 Review and Wrap-up.	Return final essays. Quiz on Units 7 & 8.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to work/read ahead in the text by doing the readings and completing the activities assigned. Other homework assignments will be assigned in class.

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars. American Headway 2 (3rd Edition).

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, short essays, individual and group presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More instruction will be provided on how to write short position statements and essays, as well as how to improve presentation skills.

【その他の重要事項】

In principle students are permitted up to 3 unexcused absences during the semester

Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason—such as train delays, etc)

【Outline and objectives】

While attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and so we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will also be given various writing assignments throughout the semester to practice expressing themselves in writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：1 単位

文 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator and provide face to face and online feedback to ensure students successfully achieve the goals of the course. This is a hybrid class. We will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 First Impressions	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Features you look for when you meet someone.
3	Unit 2 Big or small?	Sharing ideas about living in a big city or a small town.
4	Unit 3 The Good Language Learner	The pros and cons of living in another country.
5	Unit 6 What are friends for?	Things close friends do for each other.
6	Unit 7 What's for lunch?	Deciding which foods are healthy.
7	Unit 7 What's for lunch? Mid-semester task preparation.	Deciding which foods are healthy.
8	Mid-semester task.	Group speaking task.
9	Unit 8 Your Online Past	Digital literacy skills.
10	Paragraph writing	Writing a strong topic sentence.
11	Paragraph writing	Supporting the main ideas and giving details.
12	Paragraph writing	Writing a concluding sentence.

13	Semester review	Review of the semester.
14	Final tasks.	Final writing and speaking tasks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson

【参考書】

Worksheet
handouts

【成績評価の方法と基準】

Extensive listening and/or reading (10%)
Evaluation of in-class participation (15%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion (30%)
Final tasks (30%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPii, the Hosei University learning management platform, and Zoom will be used throughout the semester. Students who attend a Zoom lesson on campus will need a headset.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator and provide face to face and online feedback to ensure students successfully achieve the goals of the course. This is a hybrid class. We will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Your summer vacation.	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your summer vacation.
2	Unit 10 My Student Life	Important reasons to go to university.
3	Unit 12 Create another future	Ways to save the environment.
4	Unit 14 Government Control	The government's plan to increase the birthrate.
5	Unit 15 Ask Annie	Giving advice.
6	Unit 16 What makes you happy?	Ideas for happiness.
7	Mid-semester task	Speaking and listening task.
8	Unit 17 Who will help them?	Giving opinions about immigration.
9	Unit 20 A mother's story	Capital punishment
10	Writing	Essay writing
11	Writing	Essay writing
12	Writing	Essay writing
13	Course review / writing lesson if required.	Review the contents of the course in preparation for the finals tasks.
14	Final tasks	Speaking, listening and writing tasks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments

from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

【参考書】

Worksheets

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Extensive listening and/or reading (10%)

Evaluation of in-class participation (15%)

Mid-semester task (15%)

Homework completion (30%)

Final tasks (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPii, the Hosei University learning management platform, and Zoom will be used throughout the semester. Students who attend a Zoom lesson on campus will need a headset.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline and objectives】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：1 単位

文 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なトピックを英語の文章を paragraph を使って書き、さらにそれを使って口頭で発表できるようになる。前期は一つの paragraph をさまざまな様式で書けるようになることを目指す。さらに、様々なトピックに関する英文の内容をリスニングで内容把握し、音で語彙を増やし聞く能力を高めることに前期は焦点を当てる。スピーキングに関しては、後期に対面授業において one minute speech やプレゼンテーションでより強化を図り、言語運用能力の向上を目指す。

【到達目標】

・ニュースメディアの内容を CD で音からの内容理解を実施する。まず、音と意味を一致させた語彙を脳内に input させて語彙力を増やさない限り、コミュニケーション能力は伸びない事を自覚させる。
・ paragraph writing を毎回違ったトピックで書かせて習得する。翌週に添削して feedback された箇所をチェックして、英作力を強化させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。

毎週 paragraph writing の課題を与えられ、それについて学生は 200～300 字の paragraph を書き、提出。翌週必ず添削されたものがフィードバックされるので、教師に指摘された自分の間違いをチェックし、その解説に未習熟の表現や語彙があればそれを学び、次回の英作に使う。リスニングは summary /conversation in action の音声ファイルを通して音だけで内容把握することに始まり、cloze quiz, dictation and read aloud などのアクティビティを通して英語の音に対する意識を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction of how to proceed this class. ※ paragraph writing のトピックが与えられ、翌週には必ず提出すること。添削され翌週には必ず feedback される。	topic sentence /support sentences /concluding sentence とは？ indentation, bridge, skipping the line などのテクニックの紹介。 good paragraph と bad paragraph の違い。 Introduce how to produce the correct English sounds and the structure of English sentences, marking, slash reading.

2	Conversation in action and summary (Green tea) : 音声ファイル使用 Paragraph writing: students will be given a certain topic.	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD on Green tea comprehension check [予習]writing a paragraph on the topic given. 4 0分。 [復習]conversation in action/summary 音読し確認 2 0分。
3	Conversation in action and summary (the secret of life): 音声ファイル A new topic to be given.	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ conversation in action [予習]. paragraph writing on the topic 4 0分。 [復習]summary の音読を正確な音で再現し、音と意味が一致した語彙を脳内に input. 2 0分。
4	Conversation in action and summary (rental business) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD comprehension check [予習] a new topic to be given for paragraph writing [復習]summary を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。3 0分。
5	conversation in action Conversation in action and summary (Lack of sleep) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ conversation in action [予習]. paragraph writing on the topic 4 0分。 [復習]summary を正確な音で再現する。2 0分
6	Conversation in action and summary (lost in translation) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD comprehension check [予習] a new topic to be given for paragraph writing [復習]summary を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。3 0分。
7	conversation in action Conversation in action and summary (coffee). 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing. 4 0分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。2 0分。
8	Conversation in action and summary (a stitch in time): 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing. 4 0分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。feedback されたものをチェック。2 0分。

9	Conversation in action and summary (your smartphone) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	CD 内容把握。dictation and cloze quiz [予習]paragraph writing。40分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
10	Conversation in action and summary (language app) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	CD 内容把握。dictation and cloze quiz [予習]paragraph writing。40分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
11	Conversation in action and summary (selling charity) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing。40分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。feedback されたものをチェック。20分。
12	wrap up give the students the information about the final test	warm-up exercises preview questions vocabulary check CD gives them a chance to understand only through the sound. comprehension check [予習]summary sheet の確認。 [復習] 正確な音で音読して内容理解。
13	final test	according to the testing information given before, you should prepare for it.
14	check the feedback of the final test	check the mistakes made in the final test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題として提出。学生は正式な様式に従って英文を書く。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

not used

【参考書】

not used

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 40%、提出物 50%、平常点 10%（提出期限厳守、質問等）の総合評価。
欠席が 4 回以上の場合、単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英語を表現することに慣れていなくても、回数を重ねるごとに上達していくと実感する学生の意見が多い。目にするものを英語でどう表現するんだらうという習慣をつけるのが大切。

【その他の重要事項】

提出物の時間厳守。

【Outline and objectives】

The students are supposed to learn how to write a paragraph. Then they will be able to make a presentation based on it. In order to prevent the spread of the infection, the spring semester will be on-demand, focusing on paragraph writing and listening. As for speaking, in the fall semester, the students are supposed to get used to speaking in front of the other students through one minute speech and presentation in order to cultivate their language proficiency.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。スピーキングの前提となるすべての身の回りで起こっていることを英語で表現することに焦点を当てるために、one minute speech を毎回の授業で行い、presentation の強化を図る。リスニングも前期と同形式で実施することで言語運用能力を身につける。

【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。日常で起こっていることをすべて英語で表現することで、語彙、文章構成力を強化し会話力に繋げる。

CD を何度も聞いて conversation in action& summary を完成する。

power point 等を使い、効果的な presentation を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

essay writing の課題を隔週ごとに与える。翌週には添削されたものが feedback される。

CD/DVD を使用して音声から理解を強化。(group activities/ pair work)

one minute speech は前期と同様継続することでさらなる speaking skill を上げる。

支持されたトピックに対して、presentation を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	one minute speech What is an essay writing? Learn how to write an essay week1 topic is given and write an essay on it. listening activity	Read the handout on an essay writing Listen to CD and fill in the blanks. [予習]essay writing について理解。与えられた topic について essay を書く。1 時間。listening task ※前期に引き続き、エッセイの提出物を期限厳守で提出する。翌週には必ず添削されたものが feedback される。

- | | | | | | |
|----|---|---|--|--|---|
| 2 | one minute speech listening activity (conversation in action and summary) group activities | whatever happened to you can be your topic
[予習] preparation for one minute speech 40分。
[復習]feedback された week1 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する20分。
CD の音声を確実な音で再現しコミュニケーションスキルを強化。子音、語尾の音に意識を高める。20分。 | 9. | one minute speech CD/ DVD (chocolate) group presentation | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 |
| 3 | one minute speech listening activity (water safety) group discussion | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。 | 10. | one minute speech Listening activity (being relaxed in teaching) pair work | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 |
| 4. | one minute speech CD/DVD (you stay up late at night?) group discussion | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習]summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。疑問点を理解し再確認する。20分。 | 11. | presentation | make a presentation on your essay
[予習] 与えられたトピックで essay writing を完成。
presentation に向けて準備。1時間。
[復習]week10 の課題チェック。添削された箇所を確認理解する。CD の音声を確実な音で再現20分。 |
| 5. | one minute speech CD/ DVD (climate change eg. Texas in Feb. blackout in the heavy snow) group discussion | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 | 12. | one minute speech CD/DVD (Christmas) | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 |
| 6. | one minute speech CD/DVD (medical tourism) pair work | CD/ DVD で内容理解。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
[予習] one minute speech の準備 40分。
[復習]feedback された week5 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する。
CD の音声を確実な音で再現しコミュニケーションスキルを強化。20分。 | 13. | Final test | test information to be given
[予習] 試験範囲をチェックして準備する。2時間。
[復習] 解答出来なかった項目を再確認。20分。 |
| 7. | one minute speech CXD/DVD (jackpot) group discussion | write an essay on the topic given
Listen to CD and fill in the blanks.
[予習]one minute speech。40分。
[復習]week6 の課題チェック。添削された箇所を確認理解する。
CD の音声を確実に理解し、語彙も理解する。20分。 | 14. | the last presentation | The students will make a speech based on their drafts.
[予習]final speech に備えて入念に準備する。 power point などを利用すると良い。3時間。
[復習]self-evaluation の項目に答える。 |
| 8. | One minute speech listening activity (Halloween) discussion | CD/ DVD で内容理解。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
[予習] one minute speech の準備 40分。
[復習]feedback された week5 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する。
CD の音声を確実な音で再現しコミュニケーションスキルを強化。20分。 | <p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題提出に向けて、essay writing では与えられたトピックについて書き、conversation in action/ summary で音の確認。one minute speech は毎週実施されるので毎日気になった事を英語で表現する習慣をつける。
エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせてほぼ1時間を標準とします。</p> <p>【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。</p> <p>【参考書】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間ほどを標準とします。
英語で、どのように表現するのかわからない時、native speakers はどのように表現するのかを参考にするために、以下のサイトを利用してより英語らしい表現を学んでいく。
・ DMM なんて uKnow?
・ Hapa 英会話
・ 英語 with Luke</p> <p>【成績評価の方法と基準】
期末試験 (the final presentation も含む) 40% : 各週の提出物 essay writing (40%): 平常点 (授業態度等) 20%
尚、4回以上の欠席（不提出）は単位習得を認めない。</p> | | |

【学生の意見等からの気づき】

英語で身の回りで起こっていることをすべて英語で表現する。

【学生が準備すべき機器他】

PC or smart phone

【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after learning how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through one minute speech. They are encouraged to speak about what's happened in their daily lives as specifically as possible with the words they've already known in front of the students. In doing so, they will develop the skill of presentation as well.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、ライティング、スピーキングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。ライティングではパラグラフの構造を理解し、パラグラフライティングを実践する。スピーキングでは、効果的なスピーチの技術を学ぶ。最終的には、この授業で扱う様々な学習法を習得することによって、総合的な英語学習能力の獲得を目指す。

【到達目標】

外国語を学ぶとき、発音することの重要性を理解する。

英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。

英語らしい発音ができるようになる。

リスニング能力が向上する。

シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようになる。

論理的なパラグラフの構造を理解し、効果的なパラグラフが作成できる。

エッセイ作成のための手順を実践できる。

辞書がなんであるかを理解する。

英文を作成する際辞書が活用できるようになる。

1 パラグラフからなるエッセイを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

①リスニングとスピーキング。およそ二回に一度の頻度で、授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。

②プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。

③ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。特にエッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、複数のパラグラフからなるエッセイを作成する。

④フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。②は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。③に関しては、最初に作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の目的進め方に関してガイダンスを行う。 リスニング教材を用いて音声の練習をした後、シャドーイングを行う。
2	パラグラフの基本構造の理解	パラグラフの基本構造が主題文、指示文、結論文からなることを理解する。
3	パラグラフの基本構造の実践	福島第一原発付近の現状を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 主題文、指示文、結論文からなるパラグラフのアウトラインを作成する。
4	Narration 型エッセイの理解	Narration 型エッセイの構造を理解し、相手に伝えたい出来事の内容を時間の流れに沿って、わかりやすく物語風に見えるようにする。
5	Narration 型エッセイの実践	バイデン大統領就任を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Narration 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
6	Process 型エッセイの理解	型エッセイの構造を理解し、手続きや手順を相手にわかりやすく、正確に伝えられるように書けるようにする。
7	Process 型エッセイの実践	トランプ暴動先導を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Process 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
8	Description of Feelings 型エッセイの理解	Description of Feelings 型エッセイの構造を理解し、自分の思ったこと、感じたことを書けるようにする。
9	Description of Feelings 型エッセイの実践	森喜朗セクシスト発言の現状を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Description of Feelings 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
10	Description of People 型エッセイの理解	Description of People 型エッセイの構造を理解し、人物の外見、性格、気質などを書けるようにする。
11	Description of People 型エッセイの実践	Description of People 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
12	Description of Places & Locations 型エッセイの理解	東京オリンピック中止 [開催] を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Description of Places & Locations 型エッセイの構造を理解し、場所の特徴をわかりやすく表現できるようにする。

13	Description of Places & Locations 型エッセイの実践	Description of Places & Locations 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には 3 時間前後、エッセイ作成には 6 時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。

英文エッセイの作成（春学期に二度）。

【テキスト（教科書）】

仲谷都他著『Smart Writing-Active Approach to Paragraph Writing（はじめてのパラグラフ・ライティング）』（成美堂）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。

授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。

4 回以上欠席した場合は、原則として単位修得を認めない。原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。

ライティングの比重を高くする。

英語で発言する機会を増やす。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。

特に、授業中にスマホを机の上に出すことは禁止します。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of one paragraph by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、ライティング、スピーキングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。ライティングではパラグラフの構造を理解し、パラグラフライティングを実践する。スピーキングでは、効果的なスピーチの技術を学ぶ。最終的には、この授業で扱う様々な学習法を習得することによって、総合的な英語学習能力の獲得を目指す。

【到達目標】

外国語を学ぶとき、発音することの重要性を理解する。
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
英語らしい発音ができるようになる。
リスニング能力が向上する。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようになる。
論理的なパラグラフの構造を理解し、効果的なパラグラフが作成できる。
エッセイ作成のための手順を実践できる。
辞書がなんであるかを理解する。
英文を作成する際辞書が活用できるようになる。
最終的には4パラグラフからなるエッセイを書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①リスニングとスピーキング。およそ二回に一度の頻度で、授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。
- ②プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。
- ③ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。特にエッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。
- ④フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。②は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。③に関しては、最初に作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison & Contrast 型エッセイの理解	アメリカ人の肥満を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Comparison & Contrast 型エッセイの構造を理解し、2 人の人や 2 つの物事の類似点、相違点をわかりやすく書けるようにする。
2	Comparison & Contrast 型エッセイの実践	Comparison & Contrast 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
3	Cause & Effect 型 エッセイの理解	ナキウサギ絶滅の危機を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Cause & Effect 型エッセイの構造を理解し、物事の原因と結果を理解して、書けるようにする。
4	Cause & Effect 型 エッセイの実践	Cause & Effect 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
5	Problems & Solutions 型エッセイの理解	可哀想なクロクマの死を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Problems & Solutions 型エッセイの構造を理解し、問題を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるようにする。
6	Problems & Solutions 型エッセイの実践	Problems & Solutions 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
7	提出したエッセイに対するフィードバック	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。その際に、英語文章を作成するために必要な辞書の活用法を学習する。
8	Your Opinion -Agree 型エッセイの理解	コロナ感染収束 [拡大] を伝える映像ニュースを聞き、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Your Opinion Agree 型エッセイの構造を理解し、ある事象に対して、賛成する自分の意見をまとめて書けるようにする。
9	Your Opinion -Agree 型エッセイの実践	Your Opinion Agree 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。
10	Your Opinion -Disagree 型エッセイの理解	アラスカの自然の魅力を伝える映像を見て、シャドーイングを実践し、ニュースの内容に関して英語で意見を言う。 Your Opinion -Disagree 型エッセイの構造を理解し、ある事象に対して反対意見を表現できるようにする。
11	Your Opinion -Disagree 型エッセイの実践	Your Opinion -Disagree 型エッセイの例文を英訳し、エッセイ作成のためのアウトラインを作る。

- 12 **Data Analysis** 型
エッセイの理解 筋トレ健康を増進を伝える映像
ニュースを聞き、シャドーイング
を実践し、ニュースの内容に関し
て英語で意見を言う。
Data Analysis 型エッセイの構
造を理解し、集計結果をグラフや
表を使用してわかりやすく書ける
ようにする。
- 13 **Data Analysis** 型
エッセイの実践 **Data Analysis** 型エッセイの例
文を英訳し、エッセイ作成のため
のアウトラインを作る。
- 14 提出されたエッセイに 添削されたエッセイをコメントを
対するフィードバック。 添えて返却する。
学生が作成したエッセイの代表的
な間違いを辞書を活用しながら正
しく書き直す。その際に、英語文
章を作成するために必要な辞書の
活用法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には3時間前後、エッセイ作成には6時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（秋学期に一度）。

英文エッセイの作成（秋学期に二度）。

【テキスト（教科書）】

仲谷都他著『Smart Writing-Active Approach to Paragraph Writing（はじめてのパラグラフ・ライティング）』（成美堂）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加40パーセント、レポート・スピーチ・試験60パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。一度休むごとに授業参加点から2点ずつ引いていく。4回以上欠席した場合は、原則として単位修得を認めない。原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。

ライティングの比重を高くする。

英語で発言する機会を増やす。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語21組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator and provide face to face and online feedback to ensure students successfully achieve the goals of the course. This is a hybrid class. We will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppiii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 First Impressions	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Features you look for when you meet someone.
3	Unit 2 Big or small?	Sharing ideas about living in a big city or a small town.
4	Unit 3 The Good Language Learner	The pros and cons of living in another country.
5	Unit 6 What are friends for?	Things close friends do for each other.
6	Unit 7 What's for lunch?	Deciding which foods are healthy.
7	Unit 7 What's for lunch? Mid-semester task preparation.	Deciding which foods are healthy.
8	Mid-semester task.	Group speaking task.
9	Unit 8 Your Online Past	Digital literacy skills.
10	Paragraph writing	Writing a strong topic sentence.
11	Paragraph writing	Supporting the main ideas and giving details.
12	Paragraph writing	Writing a concluding sentence.

13	Semester review	Review of the semester.
14	Final tasks.	Final writing and speaking tasks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson

【参考書】

Worksheet
handouts

【成績評価の方法と基準】

Extensive listening and/or reading (10%)
Evaluation of in-class participation (15%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion (30%)
Final tasks (30%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform, and Zoom will be used throughout the semester. Students who attend a Zoom lesson on campus will need a headset.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also use activities and tasks to expand their vocabulary and grammatical knowledge. Students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The teacher will act as a facilitator and provide face to face and online feedback to ensure students successfully achieve the goals of the course. This is a hybrid class. We will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Your summer vacation.	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your summer vacation.
2	Unit 10 My Student Life	Important reasons to go to university.
3	Unit 12 Create another future	Ways to save the environment.
4	Unit 14 Government Control	The government's plan to increase the birthrate.
5	Unit 15 Ask Annie	Giving advice.
6	Unit 16 What makes you happy?	My ideas for happiness.
7	Mid-semester task	Speaking and listening task.
8	Unit 17 Who will help them?	Giving opinions about immigration.
9	Unit 20 A mother's story	Capital punishment
10	Writing	Essay writing
11	Writing	Essay writing
12	Writing	Essay writing
13	Course review / writing lesson if required.	Review the contents of the course in preparation for the finals tasks.
14	Final tasks	Speaking, listening and writing tasks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments

from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson

【参考書】

Worksheets
Handouts

【成績評価の方法と基準】

Extensive listening and/or reading (10%)
Evaluation of in-class participation (15%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion (30%)
Final tasks (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Previous students were happy with this course. There is no data available to support changes to it. The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform, and Zoom will be used throughout the semester. Students who attend a Zoom lesson on campus will need a headset.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline and objectives】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。
英語で文章を書く技術を習得する。
プレゼンテーション力を獲得する。
英語圏の文化や社会問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の方法はオンデマンド方式（資料配布型）とする。指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生による課題制作の時間も設ける。質問は授業内か授業前後に学習支援システム等を通じて受け付け、適宜回答する。課題に関するフィードバックは授業内容に含む。初回授業日（4/9）に必ず学習支援システムにログインし、授業の受講方法を確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明 教科書 Unit1 の導入
第 2 回	Unit1-1	Job Interview (1) テキストを元に別れの挨拶を学び 実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit1-2	Job Interview (2) 過去完了形の復習をし、実際に使う 訓練を行う
第 4 回	Unit2-1	First Day on the Job (1) テキストを元に依頼の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit2-2	First Day on the Job (2) 助動詞の復習をし、実際に使う訓練 を行う
第 6 回	Unit3-1	Hurricane on the Weekend (1) テキストを元に反論の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 7 回	Unit3-2	Hurricane on the Weekend (2) 関係代名詞の復習をし、実際に使う 訓練を行う
第 8 回	Research	課題制作の準備
第 9 回	Presentation	課題の発表（提出）
第 10 回	Unit4-1	Andy's Makeover (1) テキストを元に困惑の表現を学び 実際に使う訓練を行う

第 11 回 Unit4-2	Andy's Makeover (2) 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 12 回 Unit5-1	Andy Meets Christian (1) 聞き返す表現を学び実際に使う訓練を行う
第 13 回 Unit5-2	Andy Meets Christian (2) 助動詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 14 回 期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
テキストを事前に読み課された宿題を行う。
授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。
課題の制作や準備。

【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の宿題・課題（30%）
中間課題（30%）
期末試験（40%）
各回の課題未提出が 3 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their skills of English listening, speaking and writing. Throughout researching and presentation, students also practice articulating their opinions in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

英語圏の文化や社会問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の方法はオンデマンド方式（資料配布型）とする。

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生による課題制作の時間も設ける。

質問は授業内か授業前後に学習支援システム等を通じて受け付け、適宜回答する。課題に関するフィードバックは授業内容に含む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	春学期テストのフィードバック 授業の進め方について
第 2 回	Unit6-1	Miranda's Request (1) テキストを元に希望を伝える表現を学び実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit6-2	Miranda's Request (2) 分詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 4 回	Unit7-1	Nate's Birthday (1) テキストを元に驚きを示す表現を学び実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit7-2	Nate's Birthday (2) 仮定法の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 6 回	Unit8-1	Andy's Decision (1) テキストを元に確認する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 7 回	Unit8-2	Andy's Decision (2) 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 8 回	Research	課題制作の準備
第 9 回	Presentation	課題の発表（提出）
第 10 回	Unit9-1	Break up with Nate (1) テキストを元に提案する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 11 回	Unit9-2	Break up with Nate (2) 動名詞の復習をし、実際に使う訓練を行う

第12回 Unit10-1	The Dream Job (1) テキストを元に意思・予定を述べる表現を学び実際に使う訓練を行う
第13回 Unit10-2	The Dream Job (2) 受動態の復習をし、実際に使う訓練を行う
第14回 期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストを事前に読み課された宿題をする。授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。課題の制作や発表準備。

【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編 『『プラグダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の宿題・課題（30%）

中間課題（30%）

期末試験（40%）

各回の課題未提出が3回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their skills of English listening, speaking and writing. Throughout researching and presentation, students also practice articulating their opinions in English.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

文1年：英語23組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among 5 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Students will give a short presentation at the end of the term.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Introductions, greetings, names, nationalities: vocabulary & listening	Introducing yourself; "Be" verbs in questions & statements
Week 3	Unit 1 Introductions, greetings, names, nationalities: reading & speaking	Exchanging personal information; Starting & ending a conversation; Subject pronouns & possessive adjectives

Week 4	Unit 1 Introductions, greetings, names, & nationalities: discussion & writing	Sharing & collecting information about classmates Trendy names Using English-English dictionaries Paragraph components	【成績評価の方法と基準】 Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation. Homework 25% Class participation 15% Quizzes/Tests 40% Speech/Presentation 20% * In principle, no more than three absences per term are allowed.
Week 5	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules: vocabulary & listening	Asking for & giving opinions; Simple present wh- questions	【学生の意見等からの気づき】 Increased emphasis on vocabulary development & speaking fluency
Week 6	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules: reading & speaking	Describing daily schedules; prepositions of time	【学生が準備すべき機器他】 Students should purchase the textbook Students should have a Zoom account for any classes given online. Also, students should use a headset when joining any online classes from the designated classroom on campus Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)
Week 7	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules: discussion & writing	Comparing things in common Write a paragraph on job you want to do	【Outline and objectives】 In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.
Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Shopping; prices; colors; material: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Talking about prices; Giving opinions; Discussing preferences	
Week 9	Unit 3 Shopping; prices; colors; material: reading & speaking	Comparing with adjectives; How much/Which questions	
Week 10	Unit 3 Shopping; prices; colors; material: discussion & writing	Negotiating prices Unique products Write about unusual product you would purchase	
Week 11	Unit 4 Music, movies, & entertainment: vocabulary & listening	Questions with "do"; Talking about likes & dislikes	
Week 12	Unit 4 Music, movies, & entertainment: reading & speaking	Giving opinions; making invitations & excuses	
Week 13	Unit 4 Music, movies, & entertainment: discussion & writing	Discuss what you need & want to do Events in a famous person's life Editing marks & peer editing	
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation	Quiz: units 3-4 Presentation on job you want to do	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 1(5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62031-1

【参考書】

Self Study online

Interchange 1 Workbook, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

<http://www.cambridge.org/interchangeacademy/>

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among 5 units from the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Students will give a short presentation at the end of the term.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer
Week 2	Unit 5 Families & relationships: vocabulary & listening	Talking about family & family members; Present continuous questions
Week 3	Unit 5 Families & relationships: vocabulary & listening	Using quantifiers; Exchanging information about the present
Week 4	Unit 5 Families & relationships: reading & speaking	Discuss typical families Write paragraph on 3 things to do before retiring
Week 5	Unit 6 How often do you run: vocabulary & listening	Sports & fitness Adverbs of frequency
Week 6	Unit 6 How often do you run: reading & speaking	Asking & answering questions with "how." Weekly activities

Week 7	Unit 6 How often do you run: discussion & writing	Discuss personal talents & abilities Staying healthy Writing: 1 paragraph on the most exciting sport
Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 Free time & weekend activities: reading & speaking	Quiz Units 5-6 Questions-simple past
Week 9	Unit 7 Free time & weekend activities: reading & speaking	Talking about past events; Giving opinions about past experiences
Week 10	Unit 7 Free time & weekend activities: discussion & writing	Discuss memories & interesting vacations Write about an interesting vacation
Week 11	Unit 8 Stores & places in a city: vocabulary & listening	Asking about and describing locations; Prepositions of place
Week 12	Unit 8 Stores & places in a city: reading & speaking	Asking about quantity; How much/how many with nouns
Week 13	Unit 8 Stores & places in a city: discussion & writing	Discuss hip neighborhoods Play guessing game Citing outside sources in writing
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on 3 goals before retirement

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, assignments-paragraphs
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 1(5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62031-1

【参考書】

Self Study online
Interchange 1 Workbook, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
<http://www.cambridge.org/interchange/arcade/>
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 40%
Speech/Presentation 20%
* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on vocabulary development & speaking fluency

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook
Students should have a Zoom account for any classes given online.
Also, students should use a headset when joining any online classes from the designated classroom on campus
Students should join Google Classroom for this course.
Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion . Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture 1, worksheet and readings , writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2 , readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3 , readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4 , readings, Quiz #3 Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will be emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answer questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion . Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture 1, worksheet and readings , writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2 , readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3 , readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4 , readings, Quiz #3 Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will be emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answer questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline and objectives】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Robert D. Hinton

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Due to the continued effect of the pandemic, classes for the Spring semester will be held on line, in an on-demand style. Each Friday, materials and weekly assignments will be found on the HOPPI learning system. Students will have one week to complete the assignments and enter their work into the HOPPI system. The materials will include handouts, worksheets and videos.

In this course students will have many opportunities to improve listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills through active listening and writing. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators.

Students will receive written comments and a score for all assignments and presentations. These scores will be done on weekly reports submitted on the HOPPI learning system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	A Favorite vacation	Free writing, writing a 5 paragraph report
Week 4	Undercover Boss	Listening comprehension worksheet, prepare a report
Week 5	Brainstorming	Do brainstorming lists, prepare 7 original lists
Week 6	Favorite Vacations	Design a travel plan
Week 7	Survival quiz	Watch the video and check quiz answers
Week 8	Survival in life	Write a one page non fiction survival story
Week 9	Country research project	Fill out Where in the World worksheet

Week 10	A dream Vacation	Research dream destinations, write a 7 day travel plan
Week 11	Extreme Makeover Home Edition	Design a dream house
Week 12	Oprah Winfrey	View video, read article, write an opinion paper
Week 13	A famous person	Brainstorming, research, write a 5 paragraph essay
Week 14	Culture Study - Hawaii	Complete listening comprehension worksheet, prepare a report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly assignments and reports (100%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

Robert D. Hinton

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文1年：英語 26組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

Students will receive written comments and a score for all assignments and presentations. These scores will be done on weekly reports submitted on the HOPPI learning system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	Undercover Boss - Cinnabon	Information search about this companies
Week 4	Food show review	Students will write a recipe
Week 5	Meet the Robots	Student will prepare a report about technology
Week 6	Trivia Quiz	Students will create an original quiz
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Group presentations	Group presentations
Week 11	Unusual Crimes	Students will prepare a report about an unusual crime
Week 12	Judge Judy	Students will do a simulation activity
Week 13	Crime Ranking	Crime ranking activity

Week 14 Crime and Punishment Students will decide punishments for crimes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Student grades will be determined by weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

小野瀬 宗一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を効果的に文章・口頭で表現する力を養います。具体的には、論理的な構成のパラグラフを英語で書き、英語で短いプレゼンテーションと質疑応答をするスキルを身に付けます。また、英語のプレゼンテーションを理解する能力を培う一環として、適宜リスニングの練習も行います。

【到達目標】

論理的な構成のパラグラフが英語で書けるようになる。英語でプレゼンテーションや質疑応答をするための基礎スキルを身に付ける。英語のプレゼンテーションを聞き大意をつかむ力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、論理的な構成のパラグラフを書くための方法を学びます。チャプターを終える毎にパラグラフを書いてもらい、ピア・レビューを行います。学期の最後には各自英語でプレゼンテーションをしてもらいます。効果的なプレゼンテーションをするスキルを養うために、適宜ディスカッションやリスニング練習等のアクティビティをペアやグループで行います。

ピア・レビューの他に、ライティングの課題は教員が読み、添削とコメントを施して返却します。プレゼンテーションの文章や資料についても、同様にフィードバックを行います。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進行・成績評価等の説明
第 2 回	Topic Sentence	パラグラフの主題文について学ぶ (Ch.1)
第 3 回	Supporting Sentence / Concluding Sentence	パラグラフの支持文とまとめの文について学ぶ (Ch.1)
第 4 回	Peer Review (1)	第一回課題のパラグラフについてピア・レビューを行う
第 5 回	Staying on Topic	パラグラフのテーマに一貫性を持たせるためのスキルを学ぶ (Ch.2)
第 6 回	Transition Signals	パラグラフのテーマの展開をスムーズに行うためのスキルを学ぶ (Ch.2)
第 7 回	Logical Order	パラグラフのテーマの展開を論理的に組み立てるためのスキルを学ぶ (Ch.2)
第 8 回	Peer Review (2)	第二回課題のパラグラフについてピア・レビューを行う
第 9 回	Citation	引用の作法について学ぶ (Ch.3)
第 10 回	Paraphrase	引用した文を自分の言葉で言い換える方法を学ぶ (Ch.3)

第11回	Peer Review (3)	第三回課題の параграфについてピア・レビューを行う
第12回	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの形式や資料の使い方について説明する
第13回	プレゼンテーション (前半)	Summary (まとめ) 練習の一環として、英語でプレゼンテーションをする
第14回	プレゼンテーション (後半)	Summary (まとめ) 練習の一環として、英語でプレゼンテーションをする

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習範囲となる教科書のページを事前に読み、分からない単語があれば辞書等を使って意味を調べて下さい。必要に応じて、同じ範囲を読み返して復習して下さい。ライティング課題に関しては、提出する前に文法や綴り等をよくチェックすること。クラスメイトや教員からフィードバックがあった際は、コメントをよく読んで次の課題にいかすこと。

【テキスト (教科書)】

Alice Oshima and Ann Hogue. Longman Academic Writing Series 4: Paragraphs to Essays, 5th ed., Pearson Education, 2017.

【参考書】

適宜プリントを配布するつもりです。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、ライティング課題 40%、プレゼンテーション 30%
欠席が4回以上で原則として単位修得を認めません。30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべくペアワークやグループワークを取り入れ、学生が積極的に授業に参加できる機会を提供したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業関連の連絡や課題の提出は学習支援システムを使って行います。オンラインとなった場合は、Zoom でリアルタイムで授業をするつもりです。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to express their opinions in English in a logical and coherent manner by learning the rudiments of academic writing and speaking. Specifically, as regards academic writing, they will learn the basic structure and mechanics of a paragraph and write several paragraphs of substantial length over the course of the semester. As for academic speaking, students will acquire the basic skills for initiating and engaging in academic discussions through various activities and will give a short presentation at the end of the semester. Some of these activities will focus on enhancing the students' listening skills. Feedback will be given on each major assignment via peer review and comments by the course instructor so that students can review the key concepts and skills covered in class. While this course is structured around a textbook, students will be given many opportunities to interact with their classmates through various activities including pair and group work, discussions, and peer review.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

小野瀬 宗一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

文 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分の知識、経験、意見を効果的に文章・口頭で表現する方法を学びます。具体的には、論理的な構成のエッセイを英語で書き、英語でプレゼンテーションと質疑応答のスキルを磨きます。また、英語のプレゼンテーションを理解する能力を向上させる一環として、リスニングの練習も行います。

【到達目標】

Argumentative Essay (議論型エッセイ) が英語で書けるようになる。英語でプレゼンテーションや質疑応答をするためのスキルを磨く。英語のプレゼンテーションを聞き内容を正確に理解する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、Argumentative Essay を書くための方法を学びます。チャプターを終える毎に導入部とアウトラインを書いてもらい、ピア・レビューを行います。エッセイの各部分のドラフトについてもピア・レビューを行い、学期の最後には自分が書いたエッセイを元に各自英語でプレゼンテーションをしてもらいます。効果的なプレゼンテーションをするスキルを磨くために、適宜ディスカッションやリスニング練習等のアクティビティをペアやグループで行います。

ピア・レビューの他に、ライティングの課題は教員が読み、添削とコメントを施して返却します。プレゼンテーションの文章や資料についても、同様にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、Essay Structure	授業の進行・成績評価等の説明、エッセイの構成について学ぶ
第2回	Introduction	エッセイの導入部について学ぶ (Ch.4)
第3回	Body, Outline	エッセイの展開部とアウトラインについて学ぶ (Ch.4)
第4回	Conclusion	エッセイの結論部について学ぶ (Ch.4)
第5回	Peer Review (1)	エッセイの導入部とアウトラインを書き、ピア・レビューを行う
第6回	Argumentative Essay	議論型エッセイの構成について学ぶ (Ch.8)
第7回	Rebuttal	議論型エッセイの反駁部について学ぶ (Ch.8)
第8回	Bibliography	参考文献表の作り方を学ぶ
第9回	Peer Review (2)	議論型エッセイの導入部とアウトラインを書き、ピア・レビューを行う
第10回	Body (1)	議論型エッセイの展開部の前半を書き、ピア・レビューを行う
第11回	Body (2)	議論型エッセイの展開部の後半を書き、ピア・レビューを行う

第 12 回 Conclusion	議論型エッセイの結論部を書き、ピア・レビューを行う
第 13 回 プレゼンテーション (前半)	自分が書いた議論型エッセイを元に、プレゼンテーションと質疑応答を行う
第 14 回 プレゼンテーション (後半)	自分が書いた議論型エッセイを元に、プレゼンテーションと質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習範囲となる教科書のページを事前に読み、分からない単語があれば辞書等を使って意味を調べて下さい。必要に応じて、同じ範囲を読み返して復習して下さい。ライティング課題に関しては、提出する前に文法や綴り等をよくチェックすること。クラスメイトや教員からフィードバックがあった際は、コメントをよく読んで次の課題にいかすこと。

【テキスト（教科書）】

Alice Oshima and Ann Hogue. Longman Academic Writing Series 4: Paragraphs to Essays, 5th ed., Pearson Education, 2017.

【参考書】

適宜プリントを配布するつもりです。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、ライティング課題（アウトラインを含む）40%、プレゼンテーション 30%

欠席が 4 回以上で原則として単位修得を認めません。30 分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

なるべくペアワークやグループワークを取り入れ、学生が積極的に授業に参加できる機会を提供したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業関連の連絡や課題の提出は学習支援システムを使って行います。オンラインとなった場合は、Zoom でリアルタイムで授業をするつもりです。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to express their opinions in English in a logical and coherent manner by learning the rudiments of academic writing and speaking. Specifically, as regards academic writing, they will learn the basic structure and mechanics of an argumentative essay, and write each component part (Introduction, Body, Conclusion) in the latter half of the course. At the end of the semester, students will give a presentation based on their argumentative essay. As for academic speaking, students will acquire more advanced skills for initiating and engaging in academic discussions through various activities. Some of these activities will focus on further enhancing the students' listening skills. Feedback will be given on each major assignment via peer review and comments by the course instructor so that students can review the key concepts and skills covered in class. While this course is structured around a textbook, students will be given many opportunities to interact with their classmates through various activities including pair and group work, discussions, and peer review.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

【到達目標】

論理的構成を持つパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、パラグラフの基本的な構成を学び、パラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。英語でのプレゼンテーション、ペアワーク、グループワークをおこなう。

予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。

この授業はハイブリッド型で、対面の週と Zoom の週がある。詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 パラグラフの構造
2	The Topic Sentence (1)	主題文とは
3	The Topic Sentence (2)	主題文を書く
4	The Supporting Sentences (1)	支持文とは
5	The Supporting Sentences (2)	支持文を書く
6	The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは
7	The Concluding Sentence (2)	まとめの文を書く
8	Listing (1)	列挙のパラグラフとは
9	Listing (2)	列挙のパラグラフを書く
10	Time Order (1)	時間的順序のパラグラフとは
11	Time Order (2)	時間的順序のパラグラフを書く
12	Classification (1)	分類のパラグラフとは
13	Classification (2)	分類のパラグラフを書く
14	筆記試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。予習テストが出題された場合は、期限までに解答する。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2019 年
2200 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合は原則的に単位修得を認めない。予習テストに解答しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。英語で発話しやすくなるよう、グループワークで使える英語表現を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出に学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、必ず毎日チェックすること。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. They will learn how to write a logically organized paragraph, how to participate in and facilitate discussions, and how to deliver presentations. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

【到達目標】

論理的構成を持つ、様々な内容のパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションおよび質疑応答をおこなえるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、効果的なパラグラフとプレゼンテーションを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。ユニットによっては英語での発表もおこなう。授業では英語でのペアワーク、グループワークも取り入れるので、積極的に参加すること。予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。

この授業はハイブリッド型で、対面の週と Zoom の週がある。詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは
2	Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを書く
3	Comparison and Contrast (3)	パラグラフの発表
4	Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは
5	Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを書く
6	Cause and Effect (3)	パラグラフの発表
7	Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは
8	Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを書く
9	Problem-solution (3)	パラグラフの発表
10	Introduction	プレゼンテーションの導入を書く
11	Body	プレゼンテーションの展開部を書く
12	Conclusion	プレゼンテーションの結論部を書く
13	Presentation practice	グループでのプレゼンテーション
14		試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。予習テストが出題された場合は、期限までに解答する。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2019 年
2200 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合には原則として単位修得を認めない。予習テストに解答しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。英語での質疑応答やディスカッションがしやすくなるよう、実例を示し、テーマ設定や導入の仕方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出には学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、必ず毎日チェックすること。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. They will learn how to write logically organized paragraphs about different topics, how to participate in and facilitate discussions, and how to deliver presentations. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English 2 course, “Presenting Different Opinions: Part I,” is designed for students to improve their listening, discussion, writing, and presentation skills. Students will study academic skills, think critically, participate in discussions, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】

The goal of this course is to give students opportunities to think about and express their opinions in written reports and in presentations on a wide variety of timely topics. Students will also study basic paragraph structure and practice how to write a logically organized paragraph. These writing skills will help students plan, write, and deliver in-class presentations. Students will gain more confidence in expressing opinions and ideas in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an online class with no face-to-face classes in the Spring semester. Classes will be held in real time in Zoom or through on-demand lectures in Google Classroom. Active participation is essential. Students will work in pairs and in groups and give presentations based on topics of personal interest. Students are expected to complete 1 hour of homework each week to prepare for the next class. Students will submit assignments and receive feedback through Google Classroom. This course will be fun and exciting with the help of enthusiastic students who want to learn from each other and are committed to improving their English skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course syllabus, expectations and grading criteria / Writing emails
Week 2	Presentation Topic: Education 1	Reading comprehension, written response & group discussion
Week 3	Presentation Topic: Education 2	Presentation plan / Brainstorming and Outlining
Week 4	Presentation Preparation and Research	Working draft / Slides and Script / Useful expressions
Week 5	Student Presentations and Peer Review	Presentations with prompt cards / Q & A / Peer feedback
Week 6	Academic Skills: Paragraph organization	Outlining and Paragraph structure / Transitions

Week 7	Paragraph Topic: Travel and Culture 1	Brainstorm and research topics for paragraph assignment
Week 8	Paragraph Topic: Travel and Culture 2	Gather ideas and outline paragraph / Use of original sources
Week 9	Paragraph Preparation and Research	Working draft / Opinions and facts / APA citation style
Week 10	Paragraph Assignments and Peer Review	Oral reports about outline and revised paragraph / Peer feedback
Week 11	Presentation Topic: Health & Environment 1	Reading comprehension, written response and group discussion
Week 12	Presentation Topic: Health & Environment 2	Presentation plan / Brainstorming and Outlining
Week 13	Presentation Preparation and Research	Working draft / Slides and Script / Useful expressions
Week 14	Final presentations and remarks	Presentations / Q & A / Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will use Zoom and Google Classroom in this course. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggests preparation and review for a one-credit course to be around an hour a week.

【テキスト（教科書）】

Richard McMahon (2017). Presenting Different Opinions. Nan'un-do Co.Ltd. ISBN4-523-17413-X. JPY 2,200

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Class participation and regular attendance 35%

Homework assignments 20%

Presentations and written texts 45%

More than three absences will seriously affect your final grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities.

【Outline and objectives】

This English 2 course, "Presenting Different Opinions: Part I," is designed for students to improve their listening, discussion, writing, and presentation skills. Students will study academic skills, think critically, participate in discussions, and present opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

DONALD W WHYTE

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】

The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid them in preparation for presentations on the topics covered.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

If we cannot meet in the classroom, real time Zoom meetings will be arranged. Active participation is essential.

In pairs and in groups, students will read, discuss and write about a variety of topics.

Homework will be given to prepare students for the following class.

Submission of assignments and individual feedback will be on the Learning Management System.

General feedback on assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to the course.	Explanation of the course, class "rules" and expectations. Pair work and group discussion practice.
week 2	Topic: Society 1 Women's Rights	Reading comprehension, written response and discussion.
week 3	Topic: Society 2 Consumerism	Reading comprehension, written response and discussion.
week 4	Topic: Society 3 Work	Reading comprehension, written response and discussion.
week 5	Research and preparation for presentation	All students to give a 4 minute presentation on one of the topics so far studied
week 6	Topic: Relationships 1 Marriage	Reading comprehension, written response and discussion.
week 7	Topic: Relationships 2 Child Abuse	Reading comprehension, written response and discussion.

week 8	Topic: Relationships 3 Caring for Others	Reading comprehension, written response and discussion.
week 9	Research and preparation for presentation.	All students to give a 4 minute presentation on one of the topics studied on the theme of Relationships.
week 10	Topic: Media 1 Traditional Media	Reading comprehension, written response and discussion.
week 11	Topic: Media 2 The Influence of TV.	Reading comprehension, written response and discussion.
week 12	Topic: Media 3 Recent Technology.	Reading comprehension, written response and discussion.
week 13	Research and preparation for presentation.	All students to give a 4 minute presentation on the theme of Media and Technology.
week 14	Topic: Research skills and preparation for a final paper.	All students to present their final paper (in small discussion groups) on one of the topics so far studied.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be given to help students prepare for the following lesson.

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class.

It is recommended that students spend 1 hour a week outside of class so that they are properly prepared for the following class.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Richard McMahan(2017) Presenting Different Opinions. Na'un-do Co. Ltd. ISBN4-523-17413-X

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most of which will be on the internet.

【成績評価の方法と基準】

Final evaluation will be based on:
Participation and attendance 20%
Homework and written reports 40%
Presentations 40%

No more than 3 absences will be accepted.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

If it is not safe to conduct face to face classes, we will have zoom classes. If you attend these zoom classes while on campus, you will need a headset.

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using paragraph writing. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。初回授業にて詳しい説明をしますので、授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席してください。This is an online, real-time delivery course; every class will be taught on Zoom. Please refer to the instructions on Hoppii on how to connect to Zoom to attend the first class online, in which more detail will be explained.

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking

4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
9	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies for the summer

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments and writing (20%)
- 3) Weekly quizzes (60%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely or mostly in English. You are encouraged to participate actively, express your ideas clearly, and explain logically.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using multiple paragraphs. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。初回授業にて詳しい説明をしますので、授業支援システムに掲載される Zoom の接続法を参照して必ず出席してください。This is an online, real-time delivery course; every class will be taught on Zoom. Please refer to the instructions on Hoppii on how to connect to Zoom to attend the first class online, in which more detail will be explained.

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing

5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Treatment of animals (Unit 11): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online (“Core Vocabulary”) before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments and writing (20%)
- 3) Unit quizzes (60%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught mostly in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 31 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course Explanation of class requirements, tasks, goals	Explanation of class requirements, tasks, goals Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships: vocabulary & listening	Agreeing, Disagreeing, expressing likes and dislikes,
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships: reading & speaking	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 4	Unit 1 Describing personality & relationships: discussion & writing	Discuss personality traits Essential components of paragraphs Using English-English dictionaries

Week 5	Unit 2 Jobs, career skills: vocabulary & listening	Comparing with gerund phrases
Week 6	Unit 2 Jobs, career skills: reading & speaking	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 7	Unit 2 Jobs, career skills: discussion & writing	Discuss seating arrangement for networking event Write a paragraph on 3 pet peeves
Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Favors, requests, messages: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 9	Unit 3 Favors, requests, message: reading & speaking	Leaving messages Making indirect requests
Week 10	Unit 3 Favors, requests, messages: discussion & writing	Make direct requests & respond Discuss different kinds of requests Write 2 paragraphs comparing 2 jobs
Week 11	Unit 4 Narrating a story: vocabulary & listening	Describing events in the past Using past verb forms
Week 12	Unit 4 Narrating a story: reading & speaking	Listen to news broadcasts React to news
Week 13	Unit 4 Narrating a story: discussion & writing	Narrate & discuss unusual stories Editing marks & peer editing
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation on pet peeves	Quiz: units 3-4 Presentation

Also, students should use a headset when joining any online classes from the designated classroom on campus. Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press) ISBN: 978-1-316-62051-9
Students' book

【参考書】

Self-study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on stating and supporting opinions.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook
Students should have a Zoom account for any classes given online.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

文 1 年：英語 31 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer Review narration of events
Week 2	Unit 5 Comparing different cultures: vocabulary & listening	Describing customs State feelings about living abroad
Week 3	Unit 5 Comparing different cultures: reading & speaking	Stating customs in complex sentences
Week 4	Unit 5 Comparing different cultures: discussion & writing	Discuss foreign & Japanese customs Write 2 paragraphs on foreign customs
Week 5	Unit 6 Describing problems: vocabulary & listening	Making complaints Describing problems with household items
Week 6	Unit 6 Describing problems: reading & speaking	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems

Week 7	Unit 6 Describing problems: discussion & writing	Describe problems in rooms of a house Write about a problem with something purchased
Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 Environmental and world issues: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Identifying, describing problems Using the passive voice to point out negative effects
Week 9	Unit 7 Environmental and world issues: reading & speaking	Coming up with solutions to problems Using infinitives of purpose
Week 10	Unit 7 Environmental and world issues: discussion & writing	Discuss social problems & solutions Write about social problems
Week 11	Unit 8. Learning and education: vocabulary & listening	Describing preferences, Talking about learning methods
Week 12	Unit 8. Learning and education: reading & speaking	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 13	Unit 8. Learning and education: discussion & writing	Discuss self improvement & ways to learn things
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on foreign customs & social problems

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, assignments-paragraphs

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Self-Study online

Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Workbook

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on stating and supporting opinions.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook

Students should have a Zoom account for any classes given online.

Also, students should use a headset when joining any online classes from the designated classroom on campus

Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する。

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We

will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Placement Test	English 2 Unified Assignment #1
2	Introduction to Online English Stud	English 2 Unified Assignment #2
3	Online English Resources	English 2 Unified Assignment#3
4	Getting Ready for your Regular English Class	English 2 Unified Assignment #4
5	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
6	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
7	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
8	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple

9	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
10	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
11	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
12	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
13	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
14	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Test after each chapter 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 4 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more.

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する。

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We

will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Placement Test	English 2 Unified Assignment #1
2	Introduction to Online English Stud	English 2 Unified Assignment #2
3	Online English Resources	English 2 Unified Assignment#3
4	Getting Ready for your Regular English Class	English 2 Unified Assignment #4
5	Orientation & Getting to Know You.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
	Unit 1. Where are you from?	
6	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
7	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
8	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple

9	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
10	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
11	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
12	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
13	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
14	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Test after each chapter 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 4 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more.

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

【到達目標】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.

We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

All assignments will be issued, submitted and returned in digital format via Google Classroom. All written assignments will be returned with detailed comments showing how students can improve their writing skills.

This is an online course and all lessons will be taught on Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction of Course / Google Classroom / Policies.	Introduction of English Writing, assignments and assessment.
2.	Introduction and Process Writing Getting ready	Six Steps of Academic Writing. Using outlines Choosing a Topic Brainstorming
3.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence Editing
4.	Paragraph Development	Styles of support Detail, Explanation, Example
5.	Peer editing	Give constructive feedback using on-line sharing.
6.	Descriptive Writing	Using Adjectives: describing people and places.
7.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors.

- | | | |
|-----|------------------------------|--|
| 8. | Organising ideas | Keeping ideas connected and in order |
| 9. | Opinion Paragraphs | Persuade your readers to accept your opinion |
| 10. | Modal Auxiliary Verbs | Grammar Review: |
| 11. | Using Causal Adverbs | Describing cause and effect ideas |
| 12. | Comparing and Contrasting | Using comparative structures |
| 13. | Similarities and differences | Using Block or Point-by-point organization. |
| 14. | Advantages / Disadvantages | Writing paragraphs with two sections. |
- Review of Semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 Homework assignments writing different styles of paragraph.

All assignments written in digital format and submitted via Gmail.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework Assignments:30%

In class Worksheet Assignments:30%

Participation: 20%

Presentation: 20%

Attendance: In Principle: no more than 3 absences are allowed to achieve a Credit grade for this course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability. Access to Zoom (Zoom.us) is required. Students will be required to use headphones if joining the lesson from Hosei University classrooms.

Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom". Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code is: xkjzmd2

【Outline and objectives】

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a required course for first year students. Students will practice speaking and listening skills but the focus of this course is on effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will be able to apply these skills to any other subjects that they study in their university studies and in future work environments.

【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.

Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.

Students will prepare an essay outline with: an Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.

Students may be required to prepare a short presentation in which they demonstrate their understanding of the correct format for an Academic Essay. All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction of goals for semester 2.	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Problem and Solution Paragraphs	Using 5 Conditional Structures
Class 3	The history of English	Where does English come from?
Class 4	Modern English	Why is English the International language of Trade?
Class 5	Problem and Solution Paragraphs	Linking Problems with solutions for coherence

Class 6	The structure of an Essay	Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 7	Writing thesis statements	Thesis statement and conclusion
Class 8	Essay Outlines	Using software functions to prepare an outline for an essay
Class 9	Essay Development	Putting the flesh onto the outline.
Class 10	Introduction and Conclusion paragraphs	Writing the Introduction. Linking the conclusion for unity
Class 11	Cohesion	Check for Cohesion and Unity. Using reference pronouns.
Class 12	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 13	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 14	Review	Review the course objectives and student achievements.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

Writing Essays: from paragraph to Essay, Dorothy E. Zemach, Lisa A. Ghulldu, Macmillan Writing Series

【参考書】

To be advised during course

【成績評価の方法と基準】

3 homework assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

3 worksheet assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

2 Student Self Evaluations of pair and group discussion participation each worth 10% = 20%

1 Presentation of Final Essay structure 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their devices to class. A smartphone is acceptable but a tablet or laptop device is strongly encouraged. Students should have access to Japanese English and English - English e-dictionaries. Paper and pens/pencils might be required for mind-mapping and preparing diagrams.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with their "Class Number". The Course code for the class is: hxzymbj

【Outline and objectives】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice preparing a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Peer editing, using standard word processor software, will be practiced.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。コロナが収束すれば、以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail や手紙を紹介し、論理的な構成をもつパラグラフを紹介します。e-mail や手紙の書き方と基本的な口頭表現を学びます。

【到達目標】

この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では listening に力を入れますので、Key Expressions と Mini-conversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できているか確認する。授業では毎回私がやりとりしている英米人の e-mail や手紙も紹介します。章が終わるたびに確認テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明 Chapter 1	1 Key Expressions 2 Mini-conversations 3 Listening Challenge e-mail 紹介
2	Chapter 1 Hi! How are you?	4 Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
3	Chapter 2 What's your major?	Chapter 1 確認テスト 1 Key Expressions 2 Mini-conversations 3 Listening Challenge e-mail 紹介
4	Chapter 2	4 Power Listening One More Lesson e-mail 紹介

5	Chapter 3 What did she look like?	Chapter 2 確認テスト 1 Key Expressions 2 Mini-conversations 3 Listening Challenge e-mail 紹介
6	Chapter 3	4 Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
7	Chapter 4 Let's take a trip!	Chapter 3 確認テスト 1 Key Expressions 2 Mini-conversations 3 Listening Challenge e-mail 紹介
8	Chapter 4	4 Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
9	Chapter 5 How about going out for dinner?	Chapter 4 確認テスト 1 Key Expressions 2 Mini-conversations 3 Listening Challenge e-mail 紹介
10	Chapter 5	4 Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
11	Chapter 6 Let's go shopping!	Chapter 5 確認テスト 1 Key Expressions 2 Mini-conversations 3 Listening Challenge e-mail 紹介
12	Chapter 6	4 Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
13	春学期復習	Chapter 6 確認テスト Chapter1-6
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な資料、参考書については授業で紹介いたします

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、確認テスト等平常点（30%）で成績を評価します。各学期、欠席が4回以上の場合、原則として単位習得はみとめません。遅刻3回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話の習得と英文でのメールの書き方を学びましょう

【Outline and objectives】

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。コロナが収束すれば、以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail や手紙を紹介し、論理的な構成をもつパラグラフを紹介いたします。e-mail や手紙の書き方と基本的な口頭表現を学びます。

【到達目標】

この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならぬ時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では listening に力を入れますので、Key Expressions と Mini-conversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できているか確認する。授業では毎回私がやりとりしている英米人の e-mail や手紙も紹介します。章が終わるたびに確認テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 How are you feeling?	1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge e-mail 紹介
2	Chapter 7	4.Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
3	Chapter 8 Hello? Can I speak to Mary?	確認テスト Chapter 7 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge e-mail 紹介
4	Chapter 8	4.Power Listening One More Lesson e-mail 紹介

5	Chapter 9 I am so busy!	確認テスト Chapter 8 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge e-mail 紹介
6	Chapter 10	4.Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
7	Chapter 11 What do you do?	確認テスト Chapter 10 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge e-mail 紹介
8	Chapter 11	4.Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
9	Chapter 12 Let's watch sports!	確認テスト Chapter 11 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge e-mail 紹介
10	Chapter 12	4.Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
11	Chapter 13 Let's celebrate!	確認テスト Chapter 12 1.Key Expressions 2.Mini-conversations 3.Listening Challenge e-mail 紹介
12	Chapter 13	4.Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
13	復習 Chapter 8～ 13	確認テスト Chapter 8～13
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、確認テスト等平常点（30%）で成績を評価します。各学期、欠席が4回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻3回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話の習得を目指しましょう

【Outline and objectives】

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

大野 口ベルト

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々の暮しのなかにある身近なテーマから、関心のある学術的なテーマまで、幅広い事象について英語で言葉にすることができれば、実際の場面はもちろん、思考力を鍛錬するという意味でも大きな財産になることは言うまでもない。この授業では、一年を通じてパラグラフ・ライティングの技術を磨きながら、その応用としてプレゼンテーションの能力も同時に養う。

【到達目標】

説得力のある論理的な段落を英文で書けるようになる。英語のプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。自身も簡にして要を得たプレゼンテーションを行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。ただし大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。授業では教科書に沿ってパラグラフ・ライティングを学びながら、その過程でクラスメートと様々なテーマについてペアでの会話練習やディスカッションを行い、さらにクラス全体に向けた短いスピーチを繰り返し行う。小テストも随時実施する。毎週、授業内にフィードバックの時間を設ける。春学期はとくに書くことに注力する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit1 - Introduction	授業の進め方について説明し、パラグラフの基礎を学ぶ。
2	Unit2 - The Topic Sentence (1)	主題文とは何かについて学ぶ。
3	Unit2 - The Topic Sentence (2)	主題文を実際に書いてみる。
4	Unit3 - The Supporting Sentences (1)	支持文とは何かについて学ぶ。
5	Unit3 - The Supporting Sentences (2)	支持文を実際に書いてみる。
6	Unit4 - The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは何かについて学ぶ。
7	Unit4 - The Concluding Sentence (2)	まとめの文を実際に書いてみる。
8	Activity	文章を彩る修辭法について、アクティビティを通して学ぶ。
9	Unit5 - Listing (1)	列挙のパラグラフとは何かについて学ぶ。
10	Unit5 - Listing (2)	列挙のパラグラフを実際に書いてみる。

- | | | |
|----|----------------------------|------------------------|
| 11 | Unit6 - Time Order (1) | 時間的順序のパラグラフとは何かについて学ぶ。 |
| 12 | Unit6 - Time Order (2) | 時間的順序のパラグラフを実際に書いてみる。 |
| 13 | Unit7 - Classification (1) | 分類のパラグラフとは何かについて学ぶ。 |
| 14 | Unit7 - Classification (2) | 分類のパラグラフを実際に書いてみる。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は確実にこなすこと。次回分のテキストにはあらかじめ目をとおり、単語の意味などを理解しておく。授業ではテキストに登場しない表現も多く学ぶことになるので、復習も怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は毎回 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Yoffe et. al. *Message Delivered < Lower Intermediate >* 南雲堂、2020

【参考書】

授業中に折に触れて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、課題 30 %、小テスト合計 30 %
欠席回数が 4 回以上の受講者は、原則として単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバック不可。

【Outline and objectives】

Writing is thinking, and the world is full of things to think about. This course aims to facilitate the skills that would allow the students to express their opinions effectively, first as logically organized paragraphs, and then as convincing presentations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

大野 口ベルト

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々の暮らしのなかにある身近なテーマから、関心のある学術的なテーマまで、幅広い事象について英語で言葉にすることができれば、実際の場面はもちろん、思考力を鍛錬するという意味でも大きな財産になることは言うまでもない。この授業では、一年を通じてパラグラフ・ライティングの技術を磨きながら、その応用としてプレゼンテーションの能力も同時に養う。

【到達目標】

説得力のある論理的な段落を英文で書けるようになる。英語のプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。自身も簡にして要を得たプレゼンテーションを行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業を行う。ただし大学の行動方針レベルが2となった場合には、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。授業では教科書に沿ってパラグラフ・ライティングを学びながら、その過程でクラスメートと様々なテーマについてペアでの会話練習やディスカッションを行い、さらにクラス全体に向けた短いスピーチを繰り返し行う。小テストも随時実施し、期末には長めのグループ・スピーチを行う。毎週、授業内にフィードバックの時間を設ける。秋学期はとくに話すことに注力する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方について説明し、休暇中の出来事についてミニ・スピーチを行う。
2	Unit8 - Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは何かについて学ぶ。
3	Unit8 - Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを実際に書いてみる。
4	Unit9 - Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは何かについて学ぶ。
5	Unit9 - Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを実際に書いてみる。
6	Unit10 - Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは何かについて学ぶ。
7	Unit10 - Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを実際に書いてみる。
8	Activity	ユーモアのセンスを素材に、異文化コミュニケーションについて考える。
9	Unit11 - Presentation (Introduction)	プレゼンテーションの導入部について学ぶ。
10	Unit12 - Presentation (Body)	プレゼンテーションの展開部について学ぶ。

11	Unit13 - Presentation (Conclusion)	プレゼンテーションの結論部について学ぶ。
12	Unit14 - Presentation and Evaluation (1)	最終プレゼンテーションを行い、相互に評価する。
13	Unit14 - Presentation and Evaluation (2)	最終プレゼンテーションを行い、相互に評価する。
14	In-class Essay	一年の学びをふりかえり、限られた時間で文章化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は確実にこなすこと。次回分のテキストにはあらかじめ目をとおり、単語の意味などを理解しておく。授業ではテキストに登場しない表現も多く学ぶことになるので、復習も怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は毎回1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Yoffe et. al. *Message Delivered < Lower Intermediate >* 南雲堂、2020

【参考書】

授業中に折に触れて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、課題20%、小テスト合計20%、期末スピーチ30%
欠席回数が4回以上の受講者は、原則として単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバック不可。

【Outline and objectives】

Writing is thinking, and the world is full of things to think about. This course aims to facilitate the skills that would allow the students to express their opinions effectively, first as logically organized paragraphs, and then as convincing presentations.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

営1年：英語5組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking, writing, listening の練習をすることで、情報収集や paragraph writing, discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型（大学の行動方針レベル1の場合）です。対面の週と Zoom（リアルタイム配信）の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

各 Unit の進め方としては、1つの Unit を前半と後半に分け、2週にわたって1つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に listening, speaking, writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

（大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティ
	*授業実施方法（対面または Zoom）については授業支援システムでお知らせします	ティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。オンライン授業では Zoom を使用します。大学内でオンライン授業を受ける際にはマイク付きヘッドセット/イヤホンが必要です。

【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を授業担当者に伝えること。(対面授業時)

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write paragraphs and have a discussion in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones 4 (Second Edition) - Student Book (Text only)

著者：David Bohlke and Jennifer Wilkin

出版社：Cengage Learning

出版年：2016 年

価格：2250 円＋税

ISBN: 9781305259874

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 40 % (授業中の活動や課題・期末テスト)
2. 予習 30%
3. Writing 課題 30%
 - ・欠席回数 (Zoom 授業時には該当回に出す課題の未提出回数とする) が 4 回以上の場合、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻 (授業開始時刻から 10 分を超える場合) で 1 回の欠席とします。
 - ・対面授業にて、遅刻や欠席に関してやむを得ない事情がある場合、証明できるもの (交通機関の遅延証明書等) を必ず授業担当者に渡してください。Zoom 授業での遅刻や欠席については、授業担当者にその旨を連絡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking、writing、listening の練習をすることで、情報収集や essay writing、discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方としては、1つの Unit を前半と後半に分け、2週にわたって1つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に listening、speaking、writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティ
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication

7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名： Time Zones 4 (Third Edition) - Student Book (Text only)

著者： David Bohlke and Jennifer Wilkin

出版社： Cengage Learning

出版年： 2016 年

価格： 2250 円 + 税

ISBN: 9781305259874

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業中の活動・単語テスト）
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・ 欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・ 3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
 - ・ 遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・ 授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write an essay and have a discussion in English.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。

教科書”Speaking of Critical Thinking”に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をします。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのをしっかりと読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをおおして英語に一層親しんでいきたいと思う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
2	Unit 1 Critical Thinking	Read the unit well and do the exercises and understand it. Read the Academic Advisor and think where the problem lies.
3	Unit 1	Put yourself in Risa's position and think what you will do if you were in her shoes.
4	Unit 1	Read Advertising. What do you think about advertising.
5	Unit 1	What do you think about the outcome of texting while driving? If the driver causes an accident, is he/she guilty?

6	Unit 3 Strategies. Connecting the Dots.	What does it mean by connecting the dots? Looking at the Appendix on page 97 to 99 what do you think about them.
7	Unit 3	Why is connecting the dots important in the product advertisement? What do you value most when making an advertisement? Think about the 4 Ps.
8	Unit 3	What would you do when your plane crashes and lands on a nearby uninhabited island.
9	Unit 4 Culture	Read the case studies well. What do you think about them?
10	Unit 4 Preparing for the presentation	What do you think about gender equality? Does it differ according to culture? Why? Preparing for the presentation
11	Unit 4 Preparing for the presentation.	What are the problems when working for a foreign company? Preparing for the presentation.
12	Unit 4 Preparing for the presentation.	What are the cons and pros of international marriages.
13	Presentation	Presentation
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Critical Thinking
Peter Vincent Naoko Nakazato
Nanun-do

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

NA

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書”Speaking of Critical Thinking”に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのをしっかりと読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
2	Unit 6 Perception	Read the case studies and think where the problems are.
3	Unit 6	What is the importance of perception? When is it important and when not.
4	Unit 6	Why do we have different interpretation towards the same thing? what are the differences between perception and interpretation?
5	Unit 7 Values	What are our values? Why does everyone have different values?

6	Unit 7	Take a look at Appendix 6A. what do you think about it?
7	Unit 7	Does SDGs create something for the world? Do you think it is important?
8	Unit 8 Creative thinking	What do you think of advertisements? How are we influenced by them?
9	Unit 8	What is the difference between different cultures towards the same advertisement?
10	Unit 8 Preparing for the presentation	What is important in an advertisement? How do we react to advertisements? When making an advertisement what do you value most?
11	Unit 9 Business Preparing for the presentation	Read the Case Studies 1-4 What is important in a negotiation? How do you appeal yourself at a job hunting?
12	Unit 9 Business Preparing for the presentation	What do you think are the differences when dealing with a person from different culture?
13	Presentation	Presentation
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation."

【テキスト（教科書）】

Speaking of Critical Thinking
Peter Vincent, Naoko Nakazato
Nanun-do

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハ°ラク°ラフという文章形式の構造を理解し、英語でパラグラフを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを知り、実践する。題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。フ°レセ°ンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でフ°レセ°ンテーションでできるようにする。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ°ラク°ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べる ことができる。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリス°ムで話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本授業はオンライン（リアルタイム）形式で進められる。最初にパラグラフ形式とその論証の構造を講義する。次いでグループワークと添削を通してハ°ラク°ラフ形式のスク립トを練り上げる。発音練習を経た上で、フ°レセ°ンテーションする。クリティカルリーディングの考え方に則って、他の学生のパラグラフ・プレゼンテーションに回答するパラグラフをさらに作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	パラグラフについて	・パラグラフの内容と構造 ・パラグラフの見本 ・ディクテーション課題1 ・単語練習1
3	ライティング課題1 「結婚論」	・プロセスライティングの講義 ・パラグラフの各文を繋ぐ英語表現と使い処 ・プロセスライティング1
4	ライティング課題1 「結婚論」	・プロセスライティング2 ・ディクテーション課題2 ・単語練習2
5	ライティング課題1 「結婚論」	・プロセスライティング3（アウトラインの提出）
6	ライティング課題1 「結婚論」	・プロセスライティング4（第1稿の提出） ・ディクテーション課題3 ・単語練習3
7	ライティング課題1 「結婚論」	・プロセスライティング5 ・プレゼンテーションの方法と心構え

8	ライティング課題1 プレゼンテーション 課題 「結婚論」	・プロセスライティング6 ・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題4
9	プレゼンテーション 課題 ライティング課題2 「結婚論」	・プレゼンテーションの準備
10	プレゼンテーション 課題 ライティング課題2 「結婚論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング1 ・ディクテーション課題5
11	プレゼンテーション 課題 ライティング課題2 「結婚論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング2 (アウ トラインの提出)
12	ライティング課題2 「結婚論」	・プロセスライティング3 (第1 稿の提出) ・単語テスト ・ディクテーション課題6
13	ライティング課題2 「結婚論」	・プロセスライティング4
14	ライティング課題2 「結婚論」	・プロセスライティング5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

・『LINKS 1500 —大学生のためのトピック別必修英単語—』、金星堂、2013年、1800円（税別）（以下のURLで無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008年、4700円（税別）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス）30%、ライティング課題 45%、プレゼンテーション 25%

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前学期に引き続いてパラグラフ形式の英文作成、およびプレゼンテーションを行い、これらの習熟度を深める。

題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようになる。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ、ラク、ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べることが出来る。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリスニングで話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

パラグラフ形式とその論証的構造をおさらいする。グループワークと添削を通してパラグラフ形式のスキプトを練り上げる。発音練習を経た上で、プレゼンテーションする。クリティカルリーディングの考え方に則って、他の学生の考察に反応するパラグラフをさらに作る。

授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	ライティング課題1「教育論」	・パラグラフの内容と構造（おさらい） ・春学期のフィードバックとパラグラフの見本 ・プロセスライティング1 ・ディクテーション課題1 ・単語練習1
3	ライティング課題1「教育論」	・プロセスライティング2
4	ライティング課題1「教育論」	・プロセスライティング3（アウトラインの提出） ・ディクテーション課題2 ・単語練習2
5	ライティング課題1「教育論」	・プロセスライティング4（第1稿の提出）

6	ライティング課題1「教育論」	・プロセスライティング5 ・プレゼンテーションの方法と心構え（おさらい） ・ディクテーション課題3 ・単語練習3
7	ライティング課題1 プレゼンテーション課題 「教育論」	・プロセスライティング6 ・プレゼンテーションの準備
8	ライティング課題1 プレゼンテーション課題 「教育論」	・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題4
9	プレゼンテーション課題 ライティング課題2「教育論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング1
10	プレゼンテーション課題 ライティング課題2「教育論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング2 ・ディクテーション課題5
11	ライティング課題2「教育論」	・プロセスライティング3（アウトラインの提出）
12	ライティング課題2「教育論」	・プロセスライティング4（第1稿の提出） ・ディクテーション課題6
13	ライティング課題2「教育論」	・プロセスライティング5
14	ライティング課題2「教育論」	・プロセスライティング6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013年、1800円（税別）（以下のURLで無料でダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
 - ・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円（税込）
 - ・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008年、4700円（税別）
- その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス）30%、ライティング課題 45%、プレゼンテーション 25%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.

Feed back will be given via Google classroom comments, via email or in review sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice

week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids
week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation preparation, homework.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange intro fifth edition Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

Homework 40%

Oral presentation and Quizzes 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing material

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc.

Feedback will be given in comments in Google classroom, via email, or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation- visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot

week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms
week 14	Oral Presentations on where our parents work	companies, hotels, restaurants, stores, government

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, and university guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit cours

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Oral presentation and quiz 40%

Homework 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing material, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Email contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なトピックを英語の文章を paragraph を使って書き、さらにそれを使って口頭で発表できるようになる。前期は一つの paragraph をさまざまな様式で書けるようになることを目指す。さらに、様々なトピックに関する英文の内容をリスニングで内容把握し、音で語彙を増やし聞く能力を高めることに前期は焦点を当てる。スピーキングに関しては、後期に対面授業において one minute speech やプレゼンテーションでより強化を図り、言語運用能力の向上を目指す。

【到達目標】

- ・ニュースメディアの内容を CD で音からの内容理解を実施する。まず、音と意味を一致させた語彙を脳内に input させて語彙を増やさない限り、コミュニケーション能力は伸びない事を自覚させる。
- ・ paragraph writing を毎回違ったトピックで書かせて習得する。翌週に添削して feedback された箇所をチェックして、英作力を強化させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。

毎週 paragraph wrtiting の課題を与えられ、それについて学生は 200～300字の paragraph を書き、提出。翌週必ず添削されたものがフィードバックされるので、教師に指摘された自分の間違いをチェックし、その解説に未習熟の表現や語彙があればそれを学び、次回の英作に使う。リスニングは summary /conversation in action の音声ファイルを通して音だけで内容把握することに始まり、cloze quiz , dictation and read aloud などのアクティビティを通して英語の音に対する意識を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction of how to proceed this class.	topic sentence /support sentences /concluding sentence とは？
	※ paragraph writing のトピックが与えられ、翌週には必ず提出すること。添削され翌週には必ず feedback される。	indentation, bridge, skipping the line などのテクニックの紹介。 good paragraph と bad paragraph の違い。 Introduce how to produce the correct English sounds and the structure of English sentences, marking, slash reading.

2	Conversation in action and summary (Green tea) : 音声ファイル使用 Paragraph writing: students will be given a certain topic.	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD on Green tea comprehension check [予習]writing a paragraph on the topic given. 40分。 [復習]conversation in action/summary 音読し確認 20分。	9	Conversation in action and summary (your smartphone) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	CD 内容把握。dictation and cloze quiz [予習]paragraph writing。40分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
3	Conversation in action and summary (the secret of life): 音声ファイル A new topic to be given.	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ conversation in action [予習]。paragraph writing on the topic 40分。 [復習]summary の音読を正確な音で再現し、音と意味が一致した語彙を脳内に input。20分。	10	Conversation in action and summary (language app) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	CD 内容把握。dictation and cloze quiz [予習]paragraph writing。40分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
4	Conversation in action and summary (rental business) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD comprehension check [予習] a new topic to be given for paragraph writing [復習]summary を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。30分。	11	Conversation in action and summary (selling charity) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing。40分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。feedback されたものをチェック。20分。
5	conversation in action Conversation in action and summary (Lack of sleep) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ conversation in action [予習]。paragraph writing on the topic 40分。 [復習]summary を正確な音で再現する。20分	12	wrap up give the students the information about the final test	warm-up exercises preview questions vocabulary check CD gives them a chance to understand only through the sound. comprehension check [予習]summary sheet の確認。 [復習] 正確な音で音読して内容理解。
6	Conversation in action and summary (lost in translation) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD comprehension check [予習] a new topic to be given for paragraph writing [復習]summary を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。30分。	13	final test	according to the testing information given before, you should prepare for it. check the mistakes made in the final test.
7	conversation in action Conversation in action and summary (coffee). 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing。40分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。20分。	14	check the feedback of the final test	【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】 paragraph writing の課題を宿題として提出。学生は正式な様式に従って英文を書く。 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。 【テキスト (教科書)】 not used 【参考書】 not used 【成績評価の方法と基準】 期末テスト40%、提出物 50%、平常点10% (提出期限厳守、質問等) の総合評価。 欠席が4回以上の場合、単位修得は認めない。 【学生の意見等からの気づき】 英語を表現することに慣れていなくても、回数を重ねるごとに上達していくと実感する学生の意見が多い。目にするものを英語でどう表現するんだろうという習慣をつけるのが大切。
8	Conversation in action and summary (a stitch in time) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing。40分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。feedback されたものをチェック。20分。			【その他の重要事項】 提出物の時間厳守。 【Outline and objectives】 The students are supposed to learn how to write a paragraph. Then they will be able to make a presentation based on it. In order to prevent the spread of the infection, the spring semester will be on-demand, focusing on paragraph writing and listening. As for speaking, in the fall semester, the students are supposed to get used to speaking in front of the other students through one minute speech and presentation in order to cultivate their language proficiency.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。スピーキングの前提となるすべての身の回りで起こっていることを英語で表現することに焦点を当てるために、one minute speech を毎回の授業で行い、presentation の強化を図る。リスニングも前期と同形式で実施することで言語運用能力を身につける。

【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。日常で起こっていることをすべて英語で表現することで、語彙、文章構成力を強化し会話力に繋げる。

CD を何度も聞いて conversation in action& summary を完成する。

power point 等を使い、効果的な presentation を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

essay writing の課題を隔週ごとに与える。翌週には添削されたものが feedback される。

CD/DVD を使用して音声から理解を強化。(group activities/ pair work)

one minute speech は前期と同様継続することでさらなる speaking skill を上げる。

支持されたトピックに対して、presentation を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	one minute speech What is an essay writing? Learn how to write an essay week1 topic is given and write an essay on it. listening activity ※前期に引き続き、エッセイの提出物を期限厳守で提出する。翌週には必ず添削されたものが feedback される。	Read the handout on an essay writing Listen to CD and fill in the blanks. [予習] essay writing について理解。与えられた topic について essay を書く。1 時間。listening task [復習] 正確な音声 30 分。

2	one minute speech listening activity (conversation in action and summary) group activities	whatever happened to you can be your topic [予習] preparation for one minute speech 40 分。 [復習] feedback された week1 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する 20 分。 CD の音声を確実に音で再現しコミュニケーションスキルを強化。子音、語尾の音に意識を高める。20 分。
3	one minute speech listening activity (water safety) group discussion	CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。 [予習] one minute speech の準備。40 分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20 分。
4	one minute speech CD/DVD (you stay up late at night?) group discussion	CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。 [予習] one minute speech の準備。40 分。 [復習] summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。疑問点を理解し再確認する。20 分。
5	one minute speech CD/ DVD (climate change eg. Texas in Feb. blackout in the heavy snow) group discussion	CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。 [予習] one minute speech の準備。40 分。 [復習] 疑問点を理解し再確認する。20 分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
6	one minute speech CD/DVD (medical tourism) pair work	CD/ DVD で内容理解。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 [予習] one minute speech の準備 40 分。 [復習] feedback された week5 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する。 CD の音声を確実に音で再現しコミュニケーションスキルを強化。20 分。
7	one minute speech CXD/DVD (jackpot) group discussion	write an essay on the topic given Listen to CD and fill in the blanks. [予習] one minute speech。40 分。 [復習] week6 の課題チェック。添削された箇所を確認理解する。 CD の音声を確実に理解し、語彙も理解する。20 分。
8	One minute speech listening activity (Halloween) discussion	CD/ DVD で内容理解。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 [予習] one minute speech の準備 40 分。 [復習] feedback された week5 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する。 CD の音声を確実に音で再現しコミュニケーションスキルを強化。20 分。

9. one minute speech CDもしくは、DVDで内容把握。グループで理解チェック。発表。group presentation [予習]one minute speechの準備。40分。
[復習]疑問点を理解し再確認する。20分。summaryを正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
10. one minute speech CDもしくは、DVDで内容把握。Listening activity グループで理解チェック。発表。(being relaxed in [予習]one minute speechの準備。40分。teaching) [復習]疑問点を理解し再確認する。20分。summaryを正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。pair work
11. presentation make a presentation on your essay
[予習]与えられたトピックでessay writingを完成。presentationに向けて準備。1時間。
[復習]week10の課題チェック。添削された箇所を確認理解する。CDの音声を確実な音で再現20分。
12. one minute speech CD/DVD CDもしくは、DVDで内容把握。(Christmas) グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speechの準備。40分。
[復習]疑問点を理解し再確認する。20分。summaryを正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
13. Final test test information to be given
[予習]試験範囲をチェックして準備する。2時間。
[復習]解答出来なかった項目を再確認。20分。
14. the last The students will make a presentation speech based on their drafts.
[予習]final speechに備えて入念に準備する。power pointなどを利用すると良い。3時間。
[復習]self-evaluationの項目に答える。

【学生の意見等からの気づき】

英語で身の回りで起こっていることをすべて英語で表現する。

【学生が準備すべき機器他】

PC or smart phone

【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after learning how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through one minute speech. They are encouraged to speak about what's happened in their daily lives as specifically as possible with the words they've already known in front of the students. In doing so, they will develop the skill of presentation as well.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出に向けて、essay writingでは与えられたトピックについて書き、conversation in action/ summaryで音の確認。one minute speechは毎週実施されるので毎日気になった事を英語で表現する習慣をつける。

エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせてほぼ1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間ほどを標準とします。

英語で、どのように表現するのかわからない時、native speakersはどのように表現するのかを参考にするために、以下のサイトを利用してより英語らしい表現を学んでいく。

- ・ DMMなんてuKnow?
- ・ Hapa 英会話
- ・ 英語 with Luke

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (the final presentation も含む) 40% : 各週の提出物 essay writing (40%): 平常点 (授業態度等) 20%
尚、4回以上の欠席 (不提出) は単位習得を認めない。

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17

5	How to Make a Presentation Units 3-4	You will learn how to make a presentation. pp.18-25
6	Review Preparation for Debates	You will review presentation strategies. You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Review of Writing Strategies Units 5-6	You will review writing strategies. pp.26-33
10	Units 7-8	pp.34-41 You will discuss the topic of each chapter.
11	Units 9-10 Preparation for a Group Presentation	pp.42-49 You will discuss the topic of each chapter. You will prepare for a group presentation.
12	Presentation	You will make a group presentation.
13	Presentation	You will continue to make a group presentation.
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
 - 2) to watch or listen to an English program regularly
- University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline and objectives】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.

5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.	【Outline and objectives】 You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.
6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.	
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.	
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.	
9	Preparation for Group Presentation	You will prepare for your group presentation.	
10	Presentation	You will make a group presentation.	
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.	
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.	
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.	
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
 - 2) to watch or listen to an English program regularly
- University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL DONOVAN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

【到達目標】

We will complete an assignment, week by week. Each week the assignment will introduce a topic and language and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

All classes will be conducted online, with on demand materials. All instruction is in English. There are a variety of materials that include writing, reading, listening and speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	A - Self Introduction	See Assignment A - Letter Correction for details.
2	B - Letter Correction	See Assignment B - Letter Correction for details.
3	C - International Culture Quiz	See Assignment C - International Culture Quiz for details.
4	D - Mini Car Video	See Assignment D - Mini Car Video for details.
5	E - Mousetrap	See Assignment E - Mousetrap for details.
6	F - Sherlock Holmes Video	See Assignment F - Sherlock Holmes Video for details.
7	G - How We Met listening	See Assignment G - How We Met listening for details.
8	H - Wanted! listening	See Assignment H - Wanted! listening for details.
9	I - Romance	See Assignment I - Romance for details.
10	J - Jogging	See Assignment J - Jogging for details.
11	K - Reunion	See Assignment K - Reunion for details.
12	L - Japan Culture Quiz	See Assignment L - Japan Culture Quiz for details.
13	M - BBC World Service Video	See Assignment M - BBC World Service Video for details.
14	N - Purple Violin	See Assignment N - Purple Violin for details.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Materials are provided by the teacher and can be reviewed at your leisure. The more you study, the more you improve. Contact me at any time via email. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Feedback on assignments will entail further efforts if they are not completed to a satisfactory standard.

【テキスト（教科書）】

Materials are provided by the teacher.

【参考書】

No other reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Assignments completed and submitted in a timely manner. 100%

Assessment is based on the number and quality of assignments submitted - 100% of points are awarded to assignments submitted. Students should submit all the assignments. Missing more than three assignments will imperil a passing grade. Read and follow the instructions carefully and if you are not sure of anything please ask.

Feedback on assignments will entail further efforts if they are not completed to a satisfactory standard.

【学生の意見等からの気づき】

All materials, instruction and communication are in English only. The teacher is available at any time to any student via personal email to deal with any questions or problems. Students are welcome to collaborate and assist each other by online means.

【学生が準備すべき機器他】

The usual basic items, nothing special.

【その他の重要事項】

Contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time.

ID yourself clearly - for example "Hosei/ Period 2/ Your name and number in English".

【Outline and objectives】

Using a variety of materials will help stimulate interest and improve the ability to use a variety of English presented in a variety of ways, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

MICHAEL DONOVAN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities. A wide range of materials and activities will give students ample opportunity to experiment. Students active participation is essential for the success of the course. Lessons will be delivered online in a similar style and fashion as the first term. Read and follow the instructions for assignments carefully to make sure you are completing the tasks correctly. Submit the assignments in a timely manner.

【到達目標】

We will complete an assignment, week by week. Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students should keep up with the assignments and submit them within the deadline given. The course will help students familiarise themselves with native style British English and a range of cultural topics.

Feedback on assignments will entail further efforts if they are not completed to a satisfactory standard.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Holiday questionnaire and report.	Talking about the summer holiday. Making a questionnaire.
2	Current Affairs Quiz (Japan)	Q&A on Japanese current affairs. Making a quiz.
3	Money stories.	Making an interesting story using a picture story sequence.
4	Music, books and movies.	Talking about personal likes and dislikes.
5	Romance picture story.	Making an interesting story using a picture story sequence.
6	Sherlock Holmes.	Listening, reading, Q&A on the famous fictional detective.
7	Cultural Differences.	Giving advice. Travelling abroad and within Japan.
8	Newspaper Q/A.	Front page of a newspaper, answering and asking questions. Layout and scanning for information.
9	Purple Violin.	Listening, reading, Q&A on a rather unusual electric violin.

10	Current Affairs Quiz (International).	Q&A on international current affairs. Making a quiz.
11	Britain & the British.	Q&A on British culture. Making a quiz.
12	UFO stories.	Making an interesting story using a picture story sequence.
13	Superstitions.	1st conditional sentences. Origins, purpose and explanation.
14	BBC World Service.	Listening, reading, Q&A on the BBC world service.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Materials are provided by the teacher and can be reviewed at your leisure. The more you study, the more you improve. Contact me at any time via email.

Materials are provided by the teacher and can be reviewed at your leisure. The more you study, the more you improve. Talk to me in class or contact me at any time via email.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Feedback on assignments will entail further efforts if they are not completed to a satisfactory standard.

【テキスト（教科書）】

Materials are provided by the teacher.

【参考書】

No other reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Assignments completed and submitted in a timely manner. 100%

Assessment is based on the number and quality of assignments submitted - 100% of points are awarded to assignments submitted. Students should submit all the assignments. Missing more than three assignments will imperil a passing grade. Read and follow the instructions carefully and if you are not sure of anything please ask.

【学生の意見等からの気づき】

All materials, instruction and communication are in English only. The teacher is available at any time to any student via personal email to deal with any questions or problems. Students are welcome to collaborate and assist each other by online means.

【学生が準備すべき機器他】

The usual basic items, nothing special.

【その他の重要事項】

Contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time.

ID yourself clearly - for example "Hosei/ Period 1/ Your name and number in English".

【Outline and objectives】

Using a variety of materials will help stimulate interest and improve the ability to use a variety of English presented in a variety of ways, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Eliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer. Each week students will prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10 minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned a variety of vocabulary exercises as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the previous lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Eliot 1 (The Ballet Class):	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Eliot 2 (The Private Lesson)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,

Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Eliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend approximately 1 hour to prepare vocabulary & review the previous lesson's material prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since students will be using photocopied handouts, they must bring an A4/B4 folder or binder to each lesson

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:
 30% - Participation & Punctuality
 30% - Classroom & Homework Assignments
 40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation
 Student will receive grammar guidance with common errors & report evaluations through email or HOPPI.
 In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will also be made available online for further practice & study support.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

【Outline and objectives】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editing
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form

Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which must be printed on A4 paper. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will be made available online for further study & guidance.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

【Outline and objectives】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようにすることを重視します。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態 対面授業（ただし新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面授業の時間を短くし一部をオンデマンドで行う場合があります。授業形態に変更がある場合は授業と学習支援システムのお知らせから連絡するので確認してください）大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

テキスト British News Update 2 を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認します。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。テキストのリスニング、内容理解の問題を提出課題として学習支援システムから出題します。課題のフィードバックも学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Unit 1 A Coffee Shop in a Phone Box 前半	授業の進め方の説明 英作文について説明 Unit1 のリスニング
2	Unit 1 A Coffee Shop in a Phone Box 後半	テキスト P6 Summary のリスニング テキスト P1～6 の解説、会話練習
3	Unit 2 Breakdancing at the Olympics 前半	Unit2 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
4	Unit 2 Breakdancing at the Olympics 後半	テキスト P7～12 の解説後半、P12 Summary のリスニング、英作文
5	Unit 3 Shopping without Plastic 前半	Unit3 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
6	Unit 3 Shopping without Plastic 後半	テキスト P13～18 の解説後半、P18 Summary のリスニング、英作文
7	Unit 4 Edinburgh to Tax Tourists 前半	Unit4 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半

8	Unit 4 Edinburgh to Tax Tourists 後半	テキスト P19～24 の解説後半、P24 Summary のリスニング、英作文
9	Unit 5 A Four-Day Week 前半	Unit5 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
10	Unit 5 A Four-Day Week 後半	テキスト P25～30 の解説後半、P30 Summary のリスニング、英作文
11	Unit 6 The Fashion Industry and the Environment 前半	Unit6 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
12	Unit 6 The Fashion Industry and the Environment 後半	テキスト P31～36 の解説後半、P36 Summary のリスニング、英作文
13	Unit 7 Community Cycling	Unit7 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P42 Summary の小テスト、英作文
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードと URL が記載されているので、それを使用して事前にニュース映像を見て、News Story の英文を読んできて下さい。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせを進めていきます。各ユニットの内容理解の設問と Making a Summary のリスニングを学習支援システムから提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

British News Update 2（金星堂 2020）¥2,600（+ Tax） ISBN 978-4-7647-4097-6 価格 2,600 円（+税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの提課題）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールでご連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を一部オンデマンド形式に変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 13 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようにすることを重視します。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態 対面授業（ただし新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面授業の時間を短くし一部をオンデマンドで行う場合があります。授業形態に変更がある場合は授業と学習支援システムのお知らせから連絡するので確認してください）大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

テキスト British News Update 2 を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認します。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。テキストのリスニング、内容理解の問題を提出課題として学習支援システムから出題します。課題のフィードバックも学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Unit 8 A Smartphone Amnesty 前半	授業の進め方の説明 英作文についての説明 Unit8 リスニング
2	Unit 8 A Smartphone Amnesty 後半	テキスト P48 Summary のリスニング テキスト P43～48 の解説、会話練習
3	Unit 9 Guide Dog Discrimination 前半	Unit 9 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
4	Unit 9 Guide Dog Discrimination 後半	テキスト P49～54 の解説後半、P54 Summary のリスニング、英作文
5	Unit 10 Financial Literacy at School 前半	Unit 10 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
6	Unit 10 Financial Literacy at School 後半	テキスト P55～60 の解説後半、P18 Summary のリスニング、英作文
7	Unit 11 A Da Vinci Dispute 前半	Unit 11 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半

8	Unit 11 A Da Vinci Dispute 後半	テキスト P61～66 の解説後半、P66 Summary のリスニング、英作文
9	Unit 12 The Success of Hip and Knee Replacements 前半	Unit 12 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
10	Unit 12 The Success of Hip and Knee Replacements 後半	テキスト P67～72 の解説後半、P72 Summary のリスニング、英作文
11	Unit 13 Britons Apply for German Citizenship	Unit 13 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P73-78 Summary のリスニング、英作文
12	Unit 14 Squirrel on the Menu	Unit 14 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P79-84 Summary のリスニング、英作文
13	Unit 15 Climate Change Protests	Unit15 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P85-91 Summary のリスニング、英作文
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードと URL が記載されているので、それを使用して事前にニュース映像を見て、News Story の英文を読んでください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの内容理解の設問と Making a Summary のリスニングを学習支援システムから提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

British News Update 2（金星堂 2020）¥2,600（+ Tax） ISBN 978-4-7647-4097-6 価格 2,600 円（+税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの提課題）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールでご連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を一部オンデマンド形式に変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course Explanation of class requirements, tasks, goals	Explanation of class requirements, tasks, goals Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships: vocabulary & listening	Agreeing, Disagreeing, expressing likes and dislikes,
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships: reading & speaking	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 4	Unit 1 Describing personality & relationships: discussion & writing	Discuss personality traits Essential components of paragraphs Using English-English dictionaries

Week 5	Unit 2 Jobs, career skills: vocabulary & listening	Comparing with gerund phrases
Week 6	Unit 2 Jobs, career skills: reading & speaking	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 7	Unit 2 Jobs, career skills: discussion & writing	Discuss seating arrangement for networking event Write a paragraph on 3 pet peeves
Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Favors, requests, messages: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 9	Unit 3 Favors, requests, message: reading & speaking	Leaving messages Making indirect requests
Week 10	Unit 3 Favors, requests, messages: discussion & writing	Make direct requests & respond Discuss different kinds of requests Write 2 paragraphs comparing 2 jobs
Week 11	Unit 4 Narrating a story: vocabulary & listening	Describing events in the past Using past verb forms
Week 12	Unit 4 Narrating a story: reading & speaking	Listen to news broadcasts React to news
Week 13	Unit 4 Narrating a story: discussion & writing	Narrate & discuss unusual stories Editing marks & peer editing
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation on pet peeves	Quiz: units 3-4 Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press) ISBN: 978-1-316-62051-9
Students' book

【参考書】

Self-study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on stating and supporting opinions.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook

Students should have a Zoom account for any classes given online.

Also, students should use a headset when joining any online classes from the designated classroom on campus. Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 14 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer Review narration of events
Week 2	Unit 5 Comparing different cultures: vocabulary & listening	Describing customs State feelings about living abroad
Week 3	Unit 5 Comparing different cultures: reading & speaking	Stating customs in complex sentences
Week 4	Unit 5 Comparing different cultures: discussion & writing	Discuss foreign & Japanese customs Write 2 paragraphs on foreign customs
Week 5	Unit 6 Describing problems: vocabulary & listening	Making complaints Describing problems with household items
Week 6	Unit 6 Describing problems: reading & speaking	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems

Week 7	Unit 6 Describing problems: discussion & writing	Describe problems in rooms of a house Write about a problem with something purchased
Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 Environmental and world issues: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Identifying, describing problems Using the passive voice to point out negative effects
Week 9	Unit 7 Environmental and world issues: reading & speaking	Coming up with solutions to problems Using infinitives of purpose
Week 10	Unit 7 Environmental and world issues: discussion & writing	Discuss social problems & solutions Write about social problems
Week 11	Unit 8. Learning and education: vocabulary & listening	Describing preferences, Talking about learning methods
Week 12	Unit 8. Learning and education: reading & speaking	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 13	Unit 8. Learning and education: discussion & writing	Discuss self improvement & ways to learn things
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on foreign customs & social problems

【Outline and objectives】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Self-Study online

Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Workbook

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on stating and supporting opinions.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook

Students should have a Zoom account for any classes given online.

Also, students should use a headset when joining any online classes from the designated classroom on campus

Students should join Google Classroom for this course.

Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

当 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見などを効果的に表現する力を養います。論理的な構成の paragraph を書く練習を行い、最終的には複数の paragraph から成る短いレポートを書くことができることを目指します。また、関心の高いトピックについては、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションを行う練習も取り入れます。

【到達目標】

- (1) 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見を効果的に表現できるようになる
- (2) paragraph の構造に留意し、論理構成を持つ paragraph が書けるようになる
- (3) 効果的に英語を聞き取り、意味をつかめるようになる
- (4) 英語の辞書を効果的に使うことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、自分の経験や考えを英語で書いたり、表現したりすることに重点を置き、講義とグループワークを組み合わせ進めます。春学期は、テキストのトピックに従って、自分の経験や考えを短い文章にまとめる練習を中心に行います。各自で書いたエッセイは、教員によるフィードバックのほか、受講生同士で読み合ったり、コメントを付け合ったりするなど、コミュニケーションを大切に授業を行います。また、授業の冒頭で小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の説明と注意
Week 2	Unit 1-A: People	Introducing a person to someone else
Week 3	Unit 1-B: Lessons learned	Write about something you learned
Week 4	Unit 2-A: Foods we like	Making suggestions
Week 5	Unit 2-B: Eating well	Write a restaurant review
Week 6	Unit 3-A: You're in luck!	Talking about possibility
Week 7	Unit 3-B: Unsolved mysteries	Do research and write about an issue
Week 8	Unit 4-A: Lifestyle trends	Disagreeing
Week 9	Unit 4-B: Fashion trends	Give fashion advice to someone looking for a job
Week 10	Unit 5-A: Running errands	Making appointments
Week 11	Unit 5-B: My neighborhood	Write about your neighborhood
Week 12	Unit 6-A: Starting out	Responding

Week 13	Unit 6-B: After graduation	Write about your college experience
Week 14	Course Review	Peer-review of the essay drafts

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキストのトピックに関する課題が出されます。指示に従って取り組んでください。また、テキストに対応したウェブサイトを活用して、授業の予習・復習に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

James R. Morgan and Nancy Douglas, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016) — 2,900+tax yen

【参考書】

適宜、授業中に指示します。辞書は必ず持参してください。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 50%

- 学期末レポート 50%

原則として、4 回以上欠席すると単位の修得が認められません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、自分で課題を選び、資料を探したり、調べたことを自分でまとめたりする調べ学習の方法を取り入れたことが好評でした。

【その他の重要事項】

初回授業の実施方法は、学習支援システム（Hoppii）でお知らせします。必ず事前に確認の上、出席してください。

【Outline and objectives】

This class will encourage students to confidently express their opinions and experiences about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand English language regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will study and learn the structure and function of a paragraph, learn how to compose a short essay, and write a short essay composed of paragraphs.

Students will be able to:

- effectively express their opinion, knowledge, and experience on daily life
- understand the basic construction of an essay written in English
- listen to spoken English and understand the main points
- use an appropriate dictionary based on the assignment or task

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 15 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見などを効果的に表現する力を養います。論理的な構成の文章を英語で書く練習に加えて、秋学期はいくつかのトピックについて、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを重点的に行います。これらの活動を通して、自分の考えや経験を他者に伝えたり、他者から出された意見について返答したりする練習をします。

【到達目標】

- (1) 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見を効果的に表現できるようになる
- (2) 効果的なプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションができるようになる
- (3) 複数のパラグラフから成る短いレポートを書けるようになる
- (4) 英語の辞書を効果的に使うことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、自分の経験や考えを英語で書いたり、表現したりすることに重点を置き、講義とグループワークを組み合わせ進めます。秋学期は、テキストのトピックについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心に行います。春学期に学んだ「書く力」をもとにして、自分の意見や経験を英語で説明したり、聞き手の意見に返答したりする練習を行います。また、授業の冒頭で小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の説明
Week 2	Unit 7-A: Parties	Inviting someone to do something
Week 3	Unit 7-B: Festivals and holidays	Write about a holiday
Week 4	Week 4: Unit 8-A: What's the story about?	Keeping a story going
Week 5	Week 5: Unit 8-B: Modern fairy tales	Write an email about previous event
Week 6	Unit 9-A: Workplace traits	Interviewing for a job
Week 7	Unit 9-B: Dream jobs	Write a presentation about an interesting career
Week 8	Unit 10-A: Using the telephone	Using the telephone
Week 9	Unit 10-B: Always connected	Describe your phone use
Week 10	Preparation for presentation (1)	Choosing a topic
Week 11	Preparation for a presentation (2)	Making an outline

Week 12	Preparation for a presentation (3)	Writing a script
Week 13	Actual Presentation	Giving the presentation
Week 14	Course Review	Presentation Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. テキストのトピックに関する課題が出されます。指示に従って取り組んでください。また、テキストに対応したウェブサイトを活用して、授業の予習・復習に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

James R. Morgan and Nancy Douglas, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016) — 2,900+tax yen

【参考書】

授業中に、適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 50%
 - 学期末レポート 50%
- 原則として、4 回以上欠席すると単位の修得が認められません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、グループワークやペアワークを通して会話の練習をしたことが好評でした。今年度も引き続き、グループやペアでの活動を取り入れていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

This class will encourage students to confidently express their opinions and experiences about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand English language regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). Students will practice and learn the skills necessary to compose a text regarding their experiences, knowledge, and opinions about various issues. In addition, presentation skills will be introduced during the autumn semester. Students will be expected to prepare and deliver an effective, interactive presentation.

- effectively express their opinion, knowledge, and experience on daily life
- prepare and deliver a presentation
- write a short essay composed of paragraphs
- use an English dictionary appropriately with purpose

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Note: This is a hybrid class so we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

1. Reading articles from book.
2. Listening and watching audio/video.
3. Speaking and Role play in Pair & Groups.
4. Individual Presentations about a topic.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Good memories	Pair & group work. Grammar explanation.
3	Unit 1: Reading about Frida Kahlo	Pair & Group work on what you have in common.
4	Unit 2: Life in the city	Grammar explanation Discuss and write about your hometown.
5	Unit 2: Listening	Reading about the Happiest Cities.
6	Unit 3: Making changes	Pair & Group work. Grammar explanation.
7	Unit 3: Discuss your neighbors	Pair & Group work on comparisons. Write an email.
8	Midterm on Units 1-3	Written test on grammar and vocabulary.

9	Unit 4: Have your ever tried it?	Grammar explanation. Pair work about food.
10	Unit 4: Presentations	Presentations about your favorite food and how to make it.
11	Unit 5: Hit the road!	Listening and Group work. Grammar explanation.
12	Unit 5: comparison essay due	Listening & Pair Work about families. Grammar explanation.
13	Unit 6: Sure! Ill do it!	Unit 6: Pair work. Grammar explanation.
14	Final Exam	Written test about grammar & vocabulary.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 2 (5th Edition). Cambridge University Press

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

In principle, no more than 3 absences are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access. Also knowledge of Google classroom, Zoom and Hoppii.

【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 16 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Pair Work about technology. Grammar Explanation
2	Unit 7	Listening Writing 11. Write a message to your roommate.
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair work. Grammar Explanation Role Play about holidays.
4	Unit 8	Pair & Group Work Vocabulary Write about your favorite trip.
5	Unit 9: Only time will tell.	Pair Work & Listening about services. Grammar Explanation Word Power 10
6	Unit 9	Pair & Group Work Discuss cause/effect. Reading 13
7	Midterm 7-9	Grammar and Vocabulary Test.
8	Unit 10: I like working with people.	Pair & Group Work Prepare biographical presentation on a famous person.
9	Unit 10	Presentation due in front of class.

10	Unit 11: Its really worth seeing!	Pair & Group work Grammar Explanation
11	Unit 11	Listening Word Power Pair & Group Work on Disney.
12	Unit 13: Movies	Pair & Group Work about Movies. Grammar Explanation Word Power
13	Unit 13	Role Play Write a movie review.
14	Final Exam on 10,11 & 13	Grammar & Vocabulary Test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. Preparation and review should take 1 hour a week according to university guidelines. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 2 (5th Edition). Cambridge University Press

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

In principle, no more than 3 absences will be allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access

【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・基本的な会話ができるようになる。
- ・即興で簡単なスピーチをできるようにする。
- ・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
- ・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
- ・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
- ・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

<重要>この授業は【対面授業】です。ただし、少なくとも 2 回は Zoom を用いたオンライン授業を行う予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

1 つのユニットを 2 回の授業で進める。

2 回目の授業の最初に、リスニングの確認（穴埋め）テストを行う。途中、復習と補足の回を設け、単語・文法・読解に関するテストと、即興のミニプレゼン（Zoom 使用）を実施する。また、作文についての補足も行う。

授業中、英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。

最終課題として、複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。なお、提出した課題（小テスト、作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、学習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【Zoom】 授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: I Love Mixing Music!	リスニング、会話、文法事項の確認
3	Unit 1: I Love Mixing Music!	小テスト（リスニング確認）、読解、作文
4	Unit 2: How Long Have You Been Doing Archery?	リスニング、会話、文法事項の確認
5	Unit 2: How Long Have You Been Doing Archery?	小テスト（リスニング確認）、読解、作文
6	Unit 1-2 復習・補足	【Zoom】 ミニプレゼン、作文
7	Unit 1-2 復習、Unit 3: What Should I Do?	テスト（単語・文法・読解）、リスニング、会話
8	Unit 3: What Should I Do?	小テスト（リスニング確認）、文法事項の確認、読解、作文

9	Unit 4: The Koala Was Taken to a Shelter	リスニング、会話、文法事項の確認
10	Unit 4: The Koala Was Taken to a Shelter	小テスト（リスニング確認）、読解、作文
11	Unit 5: How Are They Made?	リスニング、会話、文法事項の確認
12	Unit 5: How Are They Made?	小テスト（リスニング確認）、読解、作文
13	Unit 3-5 復習・補足	【Zoom】 ミニプレゼン、作文
14	Unit 3-5 復習、まとめ	テスト（単語・文法・読解）、作文（最終課題）の推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習] 1. 教科書の練習問題（作文を含む）を解いておく。2. 単語や文法事項について調べておく。

[復習] 1. リスニングの音声を聞き取れるようにしておく。（次回の授業で穴埋めによる確認テストを行う。）2. 添削された作文を確認する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Time Zones 4, 3rd Edition (David Bohlke, Cengage Learning, 2021, ¥ 2,300)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最終課題の作文 30%

テスト 20%

ミニプレゼン 20%

平常点（リスニング小テスト、各ユニットでの作文、受講態度）30%

欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当であるため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器を持参してほしい。

【その他の重要事項】

第 1 回授業は【オンライン（Zoom）】で実施します。最新の情報は学習支援システムに載せるので、そちらも必ず確認してください。

【Outline and objectives】

Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 17 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・基本的な会話ができるようになる。
- ・即興で簡単なスピーチをできるようになる。
- ・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
- ・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
- ・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身に付ける。
- ・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

<重要>この授業は【対面授業】です。ただし、少なくとも 2 回は Zoom を用いたオンライン授業を行う予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

1 つのユニットを 2 回の授業で進める。

2 回目の授業の最初に、リスニングの確認（穴埋め）テストを行う。途中、復習と補足の回を設け、単語・文法・読解に関するテストと、即興のミニプレゼン（Zoom 使用）を実施する。また、作文についての補足も行う。

授業中、英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。

最終課題として、複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。なお、提出した課題（小テスト、作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、学習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【対面】春学期の復習
2	Unit 6: Look at Those Narwhals!	リスニング、会話、文法事項の確認
3	Unit 6: Look at Those Narwhals!	小テスト（リスニング確認）、読解、作文
4	Unit 7: It Might Have Been a Temple	リスニング、会話、文法事項の確認
5	Unit 7: It Might Have Been a Temple	小テスト（リスニング確認）、読解、作文
6	Unit 6-7 復習・補足	【Zoom】ミニプレゼン、作文
7	Unit 6-7 復習、Unit 8: It's Taller Than the Eiffel Tower!	Unit 6-7 テスト（単語・文法・読解）、リスニング、会話
8	Unit 8: It's Taller Than the Eiffel Tower!	小テスト（リスニング確認）、文法事項の確認、読解、作文
9	Unit 9: He's a Great Actor, Isn't He?	リスニング、会話、文法事項の確認

10	Unit 9: He's a Great Actor, Isn't He?	小テスト（リスニング確認）、読解、作文
11	Unit 10: I Wish I Could Be an Olympic Athlete!	リスニング、会話、文法事項の確認
12	Unit 10: I Wish I Could Be an Olympic Athlete!	小テスト（リスニング確認）、読解、作文
13	Unit 8-10 復習・補足	【Zoom】ミニプレゼン、作文
14	Unit 8-10 復習、まとめ	Unit 8-10 テスト（単語・文法・読解）、作文（最終課題）の推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】1. 教科書の練習問題（作文を含む）を解いておく。2. 単語や文法事項について調べておく。

【復習】1. リスニングの音声聞き取れるようにしておく。（次回の授業で穴埋めによる確認テストを行う。）2. 添削された作文を確認する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Time Zones 4, 3rd Edition (David Bohlke, Cengage Learning, 2021, ¥ 2,300)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最終課題の作文 30%

テスト 20%

ミニプレゼン 20%

平常点（リスニング小テスト、各ユニットでの作文、受講態度）30%

欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当であるため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器を持参してほしい。

【その他の重要事項】

第 1 回授業は【対面】で実施する予定です。ただし、状況によってはオンライン授業に変更する可能性もあります。最新の情報は学習支援システムに載せるので、そちらも必ず確認してください。

【Outline and objectives】

Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での **speaking**、**writing**、**listening** の練習をすることで、情報収集や **paragraph writing**、**discussion** に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、**speaking** や **writing** で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型（大学の行動方針レベル1の場合）です。対面の週と Zoom（リアルタイム配信）の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

各 Unit の進め方としては、1つの Unit を前半と後半に分け、2週にわたって1つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に **listening**、**speaking**、**writing** の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには **reading** のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、**speaking** のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

（大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス *授業実施方法（対面または Zoom）については授業支援システムでお知らせします	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には **Language Focus** の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「**Reading** の予習」を行ってください。「**Reading** の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・**Comprehension** の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones 4 (Second Edition) - Student Book (Text only)

著者：David Bohlke and Jennifer Wilkin

出版社：Cengage Learning

出版年：2016 年

価格：2250 円＋税

ISBN: 9781305259874

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 40 %（授業中の活動や課題・期末テスト）
2. 予習 30%
3. **Writing** 課題 30%
 - ・欠席回数（Zoom 授業時には該当回に出ず課題の未提出回数とする）が 4 回以上の場合、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
 - ・対面授業にて、遅刻や欠席に関してやむを得ない事情がある場合、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）を必ず授業担当者に渡してください。Zoom 授業での遅刻や欠席については、授業担当者にその旨を連絡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。オンライン授業では Zoom を使用します。大学内でオンライン授業を受ける際にはマイク付きヘッドセット/イヤフォンが必要です。

【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を授業担当者に伝えること。(対面授業時)

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write paragraphs and have a discussion in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 18 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking, writing, listening の練習をすることで、情報収集や essay writing, discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方としては、1つの Unit を前半と後半に分け、2週にわたって1つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に listening, speaking, writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセッションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティ
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication

7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write an essay and have a discussion in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones 4 (Third Edition) - Student Book (Text only)

著者：David Bohlke and Jennifer Wilkin

出版社：Cengage Learning

出版年：2016年

価格：2250円＋税

ISBN: 9781305259874

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30%（授業中の活動・単語テスト）
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が4回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3回の遅刻（授業開始時刻から10分を超える場合）で1回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する。

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing

9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation: 40%

Test after each chapter: 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 4 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more.

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 19 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する。

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect od past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs

11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Test after each chapter 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 4 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested easier listening exercises.

【学生が準備すべき機器他】

Zoom での授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学で Zoom 授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

【到達目標】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.

We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

All assignments will be issued, submitted and returned in digital format via Google Classroom. All written assignments will be returned with detailed comments showing how students can improve their writing skills.

This is an online course and all lessons will be taught using Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction of Course / Google Classroom / Policies.	Introduction of English Writing, assignments and assessment.
2.	Introduction and Process Writing Getting ready	Six Steps of Academic Writing. Using outlines Choosing a Topic Brainstorming
3.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence Editing
4.	Paragraph Development	Styles of support Detail, Explanation, Example
5.	Peer editing	Give constructive feedback using on-line sharing.
6.	Descriptive Writing	Using Adjectives: describing people and places.

7.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors.
8.	Organising ideas	Keeping ideas connected and in order
9.	Opinion Paragraphs	Persuade your readers to accept your opinion
10.	Modal Auxiliary Verbs	Grammar Review:
11.	Using Causal Adverbs	Describing cause and effect ideas
12.	Comparing and Contrasting	Using comparative structures
13.	Similarities and differences	Using Block or Point-by-point organization.
14.	Advantages / Disadvantages Review of Semester.	Writing paragraphs with two sections.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 Homework assignments writing different styles of paragraph.

All assignments written in digital format and submitted via Gmail.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework Assignments:30%

In class Worksheet Assignments:30%

Participation: 20%

Presentation: 20%

Attendance: In Principle: no more than 3 absences are allowed to achieve a Credit grade for this course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability. Access to Zoom (Zoom.us) is required. Students will be required to use headphones if joining the lesson from Hosei University classrooms
Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on their Hosei Gmail account with their "Class Number". Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code is: m4rqwwd

【Outline and objectives】

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 20 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a required course for first year students. Students will practice speaking and listening skills but the focus of this course is on effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will be able to apply these skills to any other subjects that they study in their university studies and in future work environments.

【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.

Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.

Students will prepare an essay outline with: an Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.

Students may be required to prepare a short presentation in which they demonstrate their understanding of the correct format for an Academic Essay. All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction of goals for semester 2.	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Problem and Solution Paragraphs	Using 5 Conditional Structures
Class 3	The history of English	Where does English come from?
Class 4	Modern English	Why is English the International language of Trade?
Class 5	Problem and Solution Paragraphs	Linking Problems with solutions for coherence

Class 6	The structure of an Essay	Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 7	Writing thesis statements	Thesis statement and conclusion
Class 8	Essay Outlines	Using software functions to prepare an outline for an essay
Class 9	Essay Development	Putting the flesh onto the outline.
Class 10	Introduction and Conclusion paragraphs	Writing the Introduction. Linking the conclusion for unity
Class 11	Cohesion	Check for Cohesion and Unity. Using reference pronouns.
Class 12	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 13	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 14	Review	Review the course objectives and student achievements.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

Writing Essays: from paragraph to Essay, Dorothy E. Zemach, Lisa A. Ghuldu, Macmillan Writing Series

【参考書】

To be advised during course

【成績評価の方法と基準】

3 homework assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

3 worksheet assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

2 Student Self Evaluations of pair and group discussion participation each worth 10% = 20%

1 Presentation of Final Essay structure 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their devices to class. A smartphone is acceptable but a tablet or laptop device is strongly encouraged. Students should have access to Japanese English and English - English e-dictionaries. Paper and pens/pencils might be required for mind-mapping and preparing diagrams.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with their "Class Number". The course code for the class is: z2n4ub7

【Outline and objectives】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice preparing a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Peer editing, using standard word processor software, will be practiced.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようにすることを重視します。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態 対面授業（ただし新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面授業の時間を短くし一部をオンデマンドで行う場合があります。授業形態に変更がある場合は授業と学習支援システムのお知らせから連絡するので確認してください）大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

テキスト British News Update 2 を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認します。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。テキストのリスニング、内容理解の問題を提出課題として学習支援システムから出題します。課題のフィードバックも学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Unit 1 A Coffee Shop in a Phone Box 前半	授業の進め方の説明 英作文について説明 Unit1 のリスニング
2	Unit 1 A Coffee Shop in a Phone Box 後半	テキスト P6 Summary のリスニング テキスト P1～6 の解説、会話練習
3	Unit 2 Breakdancing at the Olympics 前半	Unit2 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
4	Unit 2 Breakdancing at the Olympics 後半	テキスト P7～12 の解説後半、P12 Summary のリスニング、英作文
5	Unit 3 Shopping without Plastic 前半	Unit3 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
6	Unit 3 Shopping without Plastic 後半	テキスト P13～18 の解説後半、P18 Summary のリスニング、英作文
7	Unit 4 Edinburgh to Tax Tourists 前半	Unit4 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半

8	Unit 4 Edinburgh to Tax Tourists 後半	テキスト P19～24 の解説後半、P24 Summary のリスニング、英作文
9	Unit 5 A Four-Day Week 前半	Unit5 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
10	Unit 5 A Four-Day Week 後半	テキスト P25～30 の解説後半、P30 Summary のリスニング、英作文
11	Unit 6 The Fashion Industry and the Environment 前半	Unit6 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
12	Unit 6 The Fashion Industry and the Environment 後半	テキスト P31～36 の解説後半、P36 Summary のリスニング、英作文
13	Unit 7 Community Cycling	Unit7 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P42 Summary の小テスト、英作文
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードと URL が記載されているので、それを使用して事前にニュース映像を見て、News Story の英文を読んできて下さい。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの内容理解の設問と Making a Summary のリスニングを学習支援システムから提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

British News Update 2（金星堂 2020）¥2,600（+ Tax） ISBN 978-4-7647-4097-6 価格 2,600 円（+税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの提課題）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールでご連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を一部オンデマンド形式に変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 21 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようにすることを重視します。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解し、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態 対面授業（ただし新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面授業の時間を短くし一部をオンデマンドで行う場合があります。授業形態に変更がある場合は授業と学習支援システムのお知らせから連絡するので確認してください）大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

テキスト British News Update 2 を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認します。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。テキストのリスニング、内容理解の問題を提出課題として学習支援システムから出題します。課題のフィードバックも学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Unit 8 A Smartphone Amnesty 前半	授業の進め方の説明 英作文についての説明 Unit8 リスニング
2	Unit 8 A Smartphone Amnesty 後半	テキスト P48 Summary のリスニング テキスト P43～48 の解説、会話練習
3	Unit 9 Guide Dog Discrimination 前半	Unit 9 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
4	Unit 9 Guide Dog Discrimination 後半	テキスト P49～54 の解説後半、P54 Summary のリスニング、英作文
5	Unit 10 Financial Literacy at School 前半	Unit 10 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
6	Unit 10 Financial Literacy at School 後半	テキスト P55～60 の解説後半、P18 Summary のリスニング、英作文
7	Unit 11 A Da Vinci Dispute 前半	Unit 11 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半

8	Unit 11 A Da Vinci Dispute 後半	テキスト P61～66 の解説後半、P66 Summary のリスニング、英作文
9	Unit 12 The Success of Hip and Knee Replacements 前半	Unit 12 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説前半
10	Unit 12 The Success of Hip and Knee Replacements 後半	テキスト P67～72 の解説後半、P72 Summary のリスニング、英作文
11	Unit 13 Britons Apply for German Citizenship	Unit 13 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P73-78 Summary のリスニング、英作文
12	Unit 14 Squirrel on the Menu	Unit 14 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P79-84 Summary のリスニング、英作文
13	Unit 15 Climate Change Protests	Unit15 News Story のディクテーション、会話練習、テキスト解説、P85-91 Summary のリスニング、英作文
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードと URL が記載されているので、それを使用して事前にニュース映像を見て、News Story の英文を読んでください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの内容理解の設問と Making a Summary のリスニングを学習支援システムから提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

British News Update 2（金星堂 2020）¥2,600（+ Tax） ISBN 978-4-7647-4097-6 価格 2,600 円（+税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの提課題）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールでご連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。新型コロナウイルスの感染状況により授業形態を一部オンデマンド形式に変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書"Speaking of Critical Thinking"に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのをしっかりと読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	"Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
2	Unit 1 Critical thinking	Read the unit well and do the exercises and understand it.
3	Unit 1	Put yourself in Risa's position and think what you will do if you were in her shoes.
4	Unit 1 Reading Advertising	Read Advertising. What do you think about advertising.
5	Unit 1	What do you think about the outcome of texting while driving? If the driver causes an accident, is he/she guilty?

6	Unit 3 Strategies. Connecting the Dots.	What does it mean by connecting the dots? Looking at the Appendix on page 97 to 99 what do you think about them.
7	Unit 3	Why is connecting the dots important in the product advertisement
8	Unit 3	What would you value most when creating an advertisement? What are the 4Ps that are important?
9	Unit 3	What would you do when your plane crashes and lands on a nearby uninhabited island.
10	Unit 4 Culture Preparing for the presentation	Read the case studies. What do you think about them?
11	Unit 4 Culture Preparing for the presentation	Preparing for the presentation What is the difference between different cultures What are the cons and pros of international marriages.
12	Unit 4 Culture Preparing for the presentation.	Preparing for the presentation What are the problems when working for a foreign company? Is there a gender discrimination?
13	Presentation	Preparing for the presentation. Presentation.
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation."

【テキスト（教科書）】

Speaking of Critical Thinking
Peter Vincent, Naoko Nakazato
Nanun-do

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 22 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書"Speaking of Critical Thinking"に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
2	"Unit 6 Perception"	What is the importance of perception? When is it important and when not.
3	Unit 6	Why do we have different interpretation towards the same thing? What are the differences between perception and interpretation?
4	Unit 6	Why do we have different interpretation towards the same thing? what are the differences between perception and interpretation?

5	"Unit 7 Values"	What are our values? Why does everyone have different values?
6	Unit 7	Take a look at Appendix 6A. what do you think about it? What does SDGs mean to you? Does SDGs create something for the world? Do you think it is important?
7	Unit 7	Does SDGs create something for the world? Do you think it is important?
8	Unit 8 Creative Thinking	What do you think of advertisements? Are we influenced by them?
9	Unit 8	What is the difference between different cultures towards the same advertisement?
10	Unit 8 Preparing for the presentation	What is important in an advertisement? How do we react to advertisements?
11	Unit 9 Business Preparing for the presentation	Read the Case Studies 1-4 What is important in a negotiation ?
12	Unit 9 Business Preparing for the presentation	What do you think are the differences when dealing with a person from different culture?
13	Presentation	Presentation
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Critical Thinking
Peter Vincent, Naoko Nakazato
Nanun-do

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。コロナが取束すれば、以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail や手紙を紹介し、論理的な構成をもつパラグラフを紹介します。e-mail や手紙の書き方と基本的な口頭表現を学びます。

【到達目標】

この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では listening に力を入れますので、Key Expressions と Mini-conversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できているか確認する。授業では毎回私がやりとりしている英米人の e-mail や手紙も紹介します。章が終わるたびに確認テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明 Chapter 1 Hi! How are you?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
2	Chapter 1	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
3	Chapter 2 What's your major?	確認テスト Chapter 1 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
4	Chapter 2	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説

5	Chapter 3 What did she look like?	確認テスト Chapter 2 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
6	Chapter 3	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
7	Chapter 4 Let's take a trip!	確認テスト Chapter 3 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
8	Chapter 4	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
9	Chapter 5 How about going out for dinner?	確認テスト Chapter 4 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
10	Chapter 5	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
11	Chapter 6 Let's go shopping!	確認テスト Chapter 5 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
12	Chapter 6	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
13	春学期復習	chapter1-6 確認テスト Chapter 6
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』

Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。

各学期、欠席が4回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻3回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話の習得を目指しましょう

【Outline and objectives】

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 23 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。コロナが取束すれば、以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail や手紙を紹介し、論理的な構成をもつパラグラフを紹介します。e-mail や手紙の書き方と基本的な口頭表現を学びます。

【到達目標】

この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では listening に力を入れますので、Key Expressions と Mini-conversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できているか確認する。授業では毎回私がやりとりしている英米人の e-mail や手紙も紹介します。章が終わるたびに確認テストを行います。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 How are you feeling?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
2	Chapter 7	4. Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
3	Chapter 8 Hello? Can I speak to Mary?	確認テスト Chapter 7 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
4	Chapter 8	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介

5	Chapter 9 I'm so busy.	確認テスト Chapter 8 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
6	Chapter 10	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
7	Chapter 10 What do you do?	確認テスト Chapter 9 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
8	Chapter 10	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
9	Chapter 11 Let's watch sports!	確認テスト Chapter 10 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
10	Chapter 11	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
11	Chapter 12 Let's celebrate!	確認テスト Chapter 11 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
12	Chapter 12	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
13	秋学期復習	Chapter 8～12 確認テスト Chapter 12 試験・まとめと解説
14	授業内試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。各学期、欠席が4回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻3回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話の習得を目指しましょう

【Outline and objectives】

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パ・ラク・ラフという文章形式の構造を理解し、英語でパラグラフを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを知り、実践する。題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようにする。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・パ・ラク・ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べるができる。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリスニングで話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業はオンライン（リアルタイム）形式で進められる。最初にパラグラフ形式とその論証的構造を講義する。次いでグループワークと添削を通してパ・ラク・ラフ形式のスキプトを練り上げる。発音練習を経た上で、プレゼンテーションする。クリティカルリーディングの考え方に則って、他の学生のパラグラフ・プレゼンテーションに回答するパラグラフをさらに作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	パラグラフについて	・パラグラフの内容と構造 ・パラグラフの見本 ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
3	ライティング課題 1 「結婚論」	・プロセスライティングの講義 ・パラグラフの各文を繋ぐ英語表現と使い処 ・プロセスライティング 1
4	ライティング課題 1 「結婚論」	・プロセスライティング 2 ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2
5	ライティング課題 1 「結婚論」	・プロセスライティング 3 (アウトラインの提出)
6	ライティング課題 1 「結婚論」	・プロセスライティング 4 (第 1 稿の提出) ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
7	ライティング課題 1 「結婚論」	・プロセスライティング 5 ・プレゼンテーションの方法と心構え

8	ライティング課題 1 プレゼンテーション課題 「結婚論」	・プロセスライティング 6 ・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題 4
9	プレゼンテーション課題 ライティング課題 2 「結婚論」	・プレゼンテーションの準備
10	プレゼンテーション課題 ライティング課題 2 「結婚論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 1 ・ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション課題 ライティング課題 2 「結婚論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 2 (アウトラインの提出)
12	ライティング課題 2 「結婚論」	・プロセスライティング 3 (第 1 稿の提出) ・単語テスト ・ディクテーション課題 6 ・プロセスライティング 4
13	ライティング課題 2 「結婚論」	・プロセスライティング 5
14	ライティング課題 2 「結婚論」	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
- ・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
- ・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス）30%、ライティング課題 45%、プレゼンテーション 25%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 24 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前学期に引き続いてパラグラフ形式の英文作成、およびプレゼンテーションを行い、これらの習熟度を深める。

題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようになる。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ° ラク° ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べ° ことができる。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリス° ムで° 話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

パラグラフ形式とその論証的構造をおさらいする。グループワークと添削を通してパラグラフ形式のスキプトを練り上げる。発音練習を経た上で、プレゼンテーションする。クリティカルリーズニングの考え方に則って、他の学生の考察に反応するパラグラフをさらに作る。

授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	ライティング課題1 「教育論」	・パラグラフの内容と構造（おさらい） ・春学期のフィードバックとパラグラフの見本 ・プロセスライティング1 ・ディクテーション課題1 ・単語練習1
3	ライティング課題1 「教育論」	・プロセスライティング2
4	ライティング課題1 「教育論」	・プロセスライティング3（アウトラインの提出） ・ディクテーション課題2 ・単語練習2
5	ライティング課題1 「教育論」	・プロセスライティング4（第1稿の提出）

6	ライティング課題1 「教育論」	・プロセスライティング5 ・プレゼンテーションの方法と心 構え(おさらい) ・ディクテーション課題3 ・単語練習3
7	ライティング課題1 プレゼンテーション 課題 「教育論」	・プロセスライティング6 ・プレゼンテーションの準備
8	ライティング課題1 プレゼンテーション 課題 「教育論」	・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題4
9	プレゼンテーション 課題 ライティング課題2 「教育論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング1
10	プレゼンテーション 課題 ライティング課題2 「教育論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング2 ・ディクテーション課題5
11	ライティング課題2 「教育論」	・プロセスライティング3(アウ トラインの提出)
12	ライティング課題2 「教育論」	・プロセスライティング4(第1 稿の提出) ・ディクテーション課題6
13	ライティング課題2 「教育論」	・プロセスライティング5
14	ライティング課題2 「教育論」	・プロセスライティング6

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト(教科書)】

なし

【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013年、1800円(税別)(以下のURLで無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>)
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン(共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円(税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008年、4700円(税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス)30%、ライティング課題 45%、プレゼンテーション 25%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。
30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持つてくる。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation ,video activities, etc.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice

week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids
week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation preparation, homework.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange intro fifth edition Jack Richards 9781316620113

【参考書】

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

Homework 40%

Oral presentation and Quizzes 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing material

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 25 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc. Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation- visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot

week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms
week 14	Oral Presentations on where our parents work	companies, hotels, restaurants, stores, government

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, oral preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

Oral presentation and quiz 40%

Homework 40%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なトピックを英語の文章を paragraph を使って書き、さらにそれを使って口頭で発表できるようになる。前期は一つの paragraph をさまざまな様式で書けるようになることを目指す。さらに、様々なトピックに関する英文の内容をリスニングで内容把握し、音で語彙を増やし聞く能力を高めることに前期は焦点を当てる。スピーキングに関しては、後期に対面授業において one minute speech やプレゼンテーションを予定して、言語運用能力の向上を目指す。

【到達目標】

・ニュースメディアの内容を CD で音からの内容理解を実施する。まず、音と意味を一致させた語彙を脳内に input させて語彙力を増やさない限り、コミュニケーション能力は伸びない事を自覚させる。
・ paragraph writing を毎回違ったトピックで書かせて習得する。翌週に添削して feedback された箇所をチェックして、英作力を強化させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。

毎週 paragraph writing の課題を与えられ、それについて学生は 200～300 字の paragraph を書き、提出。翌週必ず添削されたものがフィードバックされるので、教師に指摘された自分の間違いをチェックし、その解説に未習熟の表現や語彙があればそれを学び、次回の英作に使う。リスニングは summary /conversation in action の音声ファイルを通して音だけで内容把握することに始まり、cloze quiz, dictation and read aloud などのアクティビティを通して英語の音に対する意識を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction of how to proceed this class. ※ paragraph writing のトピックが与えられ、翌週には必ず提出すること。添削され翌週には必ず feedback される。	topic sentence /support sentences /concluding sentence とは？ indentation, bridge, skipping the line などのテクニックの紹介。 good paragraph と bad paragraph の違い。 Introduce how to produce the correct English sounds and the structure of English sentences, marking, slash reading

2	Conversation in action and summary (Green tea) : 音声ファイル使用 Paragraph writing: students will be given a certain topic.	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD on Green tea comprehension check [予習]writing a paragraph on the topic given. 4 0分。 [復習]conversation in action/summary 音読し確認 2 0分。
3	Conversation in action and summary (the secret of life): 音声ファイル A new topic to be given for the next assignment.	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ conversation in action [予習]. paragraph writing on the topic 4 0分。 [復習]summary の音読を正確な音で再現し、音と意味が一致した語彙を脳内に input. 2 0分。
4	Conversation in action and summary (rental business) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD comprehension check [予習] a new topic to be given for paragraph writing [復習]summary を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。3 0分。
5	conversation in action Conversation in action and summary (Lack of sleep) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. summarization/ conversation in action [予習]. paragraph writing on the topic 4 0分。 [復習]summary を正確な音で再現する。2 0分
6	Conversation in action and summary (lost in translation) : 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	warm-up exercises vocabulary check Listen to CD comprehension check [予習] a new topic to be given for paragraph writing [復習]summary を数回音読してテキストなしで音だけで理解できるまでくりかえす。3 0分。
7	conversation in action Conversation in action and summary (coffee). 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing. 4 0分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。2 0分。
8	Conversation in action and summary (a stitch in time): 音声ファイル A new topic to be given for paragraph writing	text should be understood thoroughly by checking the important expressions. [予習]preparation for next week paragraph writing. 4 0分。 [復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。feedback されたものをチェック。2 0分。

- 9 Conversation in action and summary (your smartphone) : 音声ファイル
A new topic to be given for paragraph writing
CD 内容把握。dictation and cloze quiz
[予習]paragraph writing。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
- 10 Conversation in action and summary (language app) : 音声ファイル
A new topic to be given for paragraph writing
CD 内容把握。dictation and cloze quiz
[予習]paragraph writing。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。
- 11 Conversation in action and summary (selling charity) : 音声ファイル
A new topic to be given for paragraph writing
text should be understood thoroughly by checking the important expressions.
[予習]preparation for next week paragraph writing。40分。
[復習] 正確な音で summary を再現し、コミュニケーション能力を上げる。feedback されたものをチェック。20分。
- 12 wrap up
give the students the information about the final test
warm-up exercises
preview questions
vocabulary check
CD gives them a chance to understand only through the sound.
comprehension check
[予習]summary sheet の確認。
[復習] 正確な音で音読して内容理解。
- 13 final test
according to the testing information given before, you should prepare for it.
- 14 check the feedback of the final test
check the mistakes made in the final test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題として提出。学生は正式な様式に従って英文を書く。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

not used

【参考書】

not used

【成績評価の方法と基準】

期末テスト40%、提出物 50%、平常点10%（提出期限厳守、質問等）の総合評価。
欠席が4回以上の場合、単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英語を表現することに慣れていなくても、回数を重ねるごとに上達していくと実感する学生の意見が多い。目にするものを英語でどう表現するんだろうという習慣をつけるのが大切。

【その他の重要事項】

提出物の時間厳守。

【Outline and objectives】

The students are supposed to learn how to write a paragraph. Then they will be able to make a presentation based on it. In order to prevent the spread of the infection, the spring semester will be on-demand, focusing on paragraph writing and listening. As for speaking, in the fall semester, the students are supposed to get used to speaking in front of the other students through one minute speech and presentation in order to cultivate their language proficiency.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 26 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。スピーキングの前提となるすべての身の回りで起こっていることを英語で表現することに焦点を当てるために、one minute speech を毎回の授業で行い、presentation の強化を図る。リスニングも前期と同形式で実施することで言語運用能力を身につける。

【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。日常で起こっていることをすべて英語で表現することで、語彙、文章構成力を強化し会話力に繋げる。

CD を何度も聞いて conversation in action& summary を完成する。

power point 等を使い、効果的な presentation を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

essay writing の課題を隔週ごとに与える。翌週には添削されたものが feedback される。

CD/DVD を使用して音声から理解を強化。(group activities/ pair work)

one minute speech は前期と同様継続することでさらなる speaking skill を上げる。

支持されたトピックに対して、presentation を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	one minute speech What is an essay writing? Learn how to write an essay week1 topic is given and write an essay on it. listening activity	Read the handout on an essay writing Listen to CD and fill in the blanks. [予習]essay writing について理解。与えられた topic について essay を書く。1 時間。listening task ※前期に引き続き、エッセイの提出物を期限厳守で提出する。翌週には必ず添削されたものが feedback される。

- | | | | | | |
|----|---|---|--|--|---|
| 2 | one minute speech listening activity (conversation in action and summary) group activities | whatever happened to you can be your topic
[予習] preparation for one minute speech 40分。
[復習]feedback された week1 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する20分。
CD の音声を確実な音で再現しコミュニケーションスキルを強化。子音、語尾の音に意識を高める。20分。 | 9. | one minute speech CD/ DVD (chocolate) group presentation | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 |
| 3 | one minute speech listening activity (water safety) group discussion | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。 | 10. | one minute speech Listening activity (being relaxed in teaching) pair work | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 |
| 4. | one minute speech CD/DVD (you stay up late at night?) group discussion | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習]summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。疑問点を理解し再確認する。20分。 | 11. | presentation | make a presentation on your essay
[予習] 与えられたトピックで essay writing を完成。
presentation に向けて準備。1時間。
[復習]week10 の課題チェック。添削された箇所を確認理解する。CD の音声を確実な音で再現20分。 |
| 5. | one minute speech CD/ DVD (climate change eg. Texas in Feb. blackout in the heavy snow) group discussion | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 | 12. | one minute speech CD/DVD (Christmas) | CD もしくは、DVD で内容把握。グループで理解チェック。発表。
[予習]one minute speech の準備。40分。
[復習] 疑問点を理解し再確認する。20分。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。 |
| 6. | one minute speech CD/DVD (medical tourism) pair work | CD/ DVD で内容理解。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
[予習] one minute speech の準備 40分。
[復習]feedback された week5 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する。
CD の音声を確実な音で再現しコミュニケーションスキルを強化。20分。 | 13. | Final test | test information to be given
[予習] 試験範囲をチェックして準備する。2時間。
[復習] 解答出来なかった項目を再確認。20分。 |
| 7. | one minute speech CXD/DVD (jackpot) group discussion | write an essay on the topic given
Listen to CD and fill in the blanks.
[予習]one minute speech. 40分。
[復習]week6 の課題チェック。添削された箇所を確認理解する。
CD の音声を確実に理解し、語彙も理解する。20分。 | 14. | the last presentation | The students will make a speech based on their drafts.
[予習]final speech に備えて入念に準備する。 power point などを利用すると良い。3時間。
[復習]self-evaluation の項目に答える。 |
| 8. | One minute speech listening activity (Halloween) discussion | CD/ DVD で内容理解。summary を正確な音で音読して、音としての語彙力を高める。
[予習] one minute speech の準備 40分。
[復習]feedback された week5 の課題のチェック、添削された箇所を確認して理解する。
CD の音声を確実な音で再現しコミュニケーションスキルを強化。20分。 | <p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題提出に向けて、essay writing では与えられたトピックについて書き、conversation in action/ summary で音の確認。one minute speech は毎週実施されるので毎日気になった事を英語で表現する習慣をつける。
エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせてほぼ1時間を標準とします。</p> <p>【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。</p> <p>【参考書】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間ほどを標準とします。
英語で、どのように表現するのかわからない時、native speakers はどのように表現するのかを参考にするために、以下のサイトを利用してより英語らしい表現を学んでいく。
・ DMM なんて uKnow?
・ Hapa 英会話
・ 英語 with Luke</p> <p>【成績評価の方法と基準】
期末試験 (the final presentation も含む) 40% : 各週の提出物 essay writing (40%): 平常点 (授業態度等) 20%
尚、4回以上の欠席（不提出）は単位習得を認めない。</p> | | |

【学生の意見等からの気づき】

英語で身の回りで起こっていることをすべて英語で表現する。

【学生が準備すべき機器他】

PC or smart phone

【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after learning how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through one minute speech. They are encouraged to speak about what's happened in their daily lives as specifically as possible with the words they've already known in front of the students. In doing so, they will develop the skill of presentation as well.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	2C One dark October evening	time sequencers and connectors, verb phrases.
7	3A Trip Aside	be going to, airports.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.

11	5B Twelve lost wallets	superlatives, describing a town or city.
12	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
13	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs.
14	6C The meaning of dreaming	review of verb forms, modifiers.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【その他の重要事項】

The textbook comes with an access code for an online course component. Please make sure to buy a textbook with a valid access code.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 27 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C Internationaal inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.
12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.

- 13 12B Think before reported speech.
you speak.
- 14 12 C The English revision of question words,
File quiz. book revision.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer. Each week students will prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10 minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned a variety of vocabulary exercises as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the previous lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Elliot 1 (The Ballet Class):	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Elliot 2 (The Private Lesson)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,

Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Eliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend approximately 1 hour to prepare vocabulary & review the previous lesson's material prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since students will be using photocopied handouts, they must bring an A4/B4 folder or binder to each lesson

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

30% - Classroom & Homework Assignments

40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation

Student will receive grammar guidance with common errors & report evaluations through email or HOPPI.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will also be made available online for further practice & study support.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

【Outline and objectives】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 28 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editing
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form

Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which must be printed on A4 paper. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Many of the class materials will be made available online for further study & guidance.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

【Outline and objectives】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

MICHAEL DONOVAN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

【到達目標】

We will complete an assignment, week by week. Each week the assignment will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This class is conducted on-line with on demand weekly assignments via the Hosei website. Follow the instructions carefully and keep up with the assignments.

All instruction is in English. There are a variety of materials that include writing, reading, listening and speaking.

Materials are provided by the teacher and can be reviewed at your leisure. The more you study, the more you improve. Talk to me in class or contact me at any time via email on zoo57@yahoo.com at any time. ID yourself clearly - for example "Hosei/ Period 1/ Your name and number in English".

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Feedback on assignments will entail further efforts if they are not completed to a satisfactory standard.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	A - Self Introduction	See Assignment A - Self Introduction for details.
2	B - Letter	See Assignment B - Letter Correction for details.
3	C - International Culture Quiz	See Assignment C - International Culture Quiz for details. questions, and answers, clarifying, agreeing, disagreeing etc.
4	D - Mini Car Video	See Assignment D - Mini Car Video for details.
5	E - Mousetrap	See Assignment E - Mousetrap for details.
6	F - Sherlock Holmes Video	See Assignment F - Sherlock Holmes Video for details.
7	G - How We Met listening	See Assignment G - How We Met listening for details.

8	H - Wanted! Listening	See Assignment H - Wanted! listening for details.
9	I - Romance	See Assignment I - Romance for details.
10	J - Jogging	See Assignment J - Jogging for details.
11	K - Reunion	See Assignment K - Reunion for details.
12	L - Japan Culture Quiz	See Assignment L - Japan Culture Quiz for details.
13	M - BBC World Service Video	See Assignment M - BBC World Service Video for details.
14	N - Purple Violin	See Assignment N - Purple Violin for details.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Materials are provided by the teacher and can be reviewed at your leisure. The more you study, the more you improve. Contact me at any time via email on zoo57@yahoo.com at any time. ID yourself clearly - for example "Hosei/ Period 1/ Your name and number in English".

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Feedback on assignments will entail further efforts if they are not completed to a satisfactory standard.

【テキスト（教科書）】

Materials are provided by the teacher.

【参考書】

No other reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Assignments completed and submitted in a timely manner. 100%

Assessment is based on the number and quality of assignments submitted - 100% of points are awarded to assignments submitted. Students should submit all the assignments. Missing more than three assignments will imperil a passing grade. Read and follow the instructions carefully and if you are not sure of anything please ask.

【学生の意見等からの気づき】

All materials, instruction and communication are in English only. The teacher is available at any time to any student via personal email to deal with any questions or problems. Students are welcome to collaborate and assist each other by online means.

【学生が準備すべき機器他】

The usual basic items, nothing special.

【その他の重要事項】

Contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time in English.

ID yourself clearly - for example "Hosei/ Period 1/ Your name and number in English".

【Outline and objectives】

Using a variety of materials will help stimulate interest and improve the ability to use a variety of English presented in a variety of ways, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

MICHAEL DONOVAN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 29 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on improving students knowledge of English and will increase their ability to put English to practical use. A wide range of materials and activities will give students the confidence to cope with typical everyday situations in English. Students active participation is essential for the success of the course.

【到達目標】

Students should keep up with the assignments and submit them within the deadline given. The course will help students familiarise themselves with native style British English and a range of cultural topics. Reading and following the instructions carefully is essential to make sure you are completing the tasks correctly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

All classes will be delivered in a similar style and fashion as the first term. Students should keep up with the assignments and submit them within the deadline given. The course will help students familiarise themselves with native style British English and a range of cultural topics. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

Materials are provided by the teacher and can be reviewed at your leisure. The more you study, the more you improve. Talk to me in class or contact me at any time via email.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Feedback on assignments will entail further efforts if they are not completed to a satisfactory standard.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Holiday questionnaire and report.	Talking about the summer holiday. Making a questionnaire.
2	Current Affairs Quiz (Japan)	Q&A on Japanese current affairs. Making a quiz.
3	Money stories.	Making an interesting story using a picture story sequence.
4	Music, books and movies.	Talking about personal likes and dislikes.
5	Romance picture story.	Making an interesting story using a picture story sequence.

6	Sherlock Holmes.	Listening, reading, Q&A on the famous fictional detective.
7	Cultural Differences.	Giving advice. Travelling abroad and within Japan.
8	Newspaper Q/A.	Front page of a newspaper, answering and asking questions. Layout and scanning for information.
9	Purple Violin.	Listening, reading, Q&A on a rather unusual electric violin.
10	Current Affairs Quiz (International)	Q&A on international current affairs. Making a quiz.
11	Britain & the British.	Q&A on British culture. Making a quiz.
12	UFO stories.	Making an interesting story using a picture story sequence.
13	Superstitions.	1st conditional sentences. Origins, purpose and explanation.
14	BBC World Service.	Listening, reading, Q&A on the BBC world service.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Materials are provided by the teacher and can be reviewed at your leisure. The more you study, the more you improve. Talk to me in class or contact me at any time via email.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Feedback on assignments will entail further efforts if they are not completed to a satisfactory standard.

【テキスト（教科書）】

Materials are provided by the teacher.

【参考書】

No other reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Assignments completed and submitted in a timely manner. 100%

Assessment is based on the number and quality of assignments submitted - 100% of points are awarded to assignments submitted. Students should submit all the assignments. Missing more than three assignments will imperil a passing grade. Read and follow the instructions carefully and if you are not sure of anything please ask.

【学生の意見等からの気づき】

All materials, instruction and communication are in English only. The teacher is available at any time to any student via personal email to deal with any questions or problems. Students are welcome to collaborate and assist each other by online means.

【学生が準備すべき機器他】

The usual basic items, nothing special.

【その他の重要事項】

Contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time. ID yourself clearly - for example "Hosei/ Period 2/ Your name and number in English".

【Outline and objectives】

Using a variety of materials will help stimulate interest and improve the ability to use a variety of English presented in a variety of ways, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

齊藤 昇

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日常生活や現代社会のトピックを英語で表現する力を養います。適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

【到達目標】

日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短編小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

必要なプリントなどを提示しながらアメリカ短編小説を読み、適宜、日常生活のトピックを英語表現することを授業で行います。次回の授業において課題等に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。
2 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (2)	O・ヘンリーの短篇小説の中のユーモアの英語表現スキルの養い。
3 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (3)	O・ヘンリーの短篇小説のペインズの英語表現スキルの養い。小テストを実施。
4 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (4)	O・ヘンリーの短篇小説のウィットの英語表現スキルの養い。
5 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (5)	O・ヘンリーの短篇小説のユニークな英語表現スキルの養い。
6 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (6)	O・ヘンリーの短篇小説の古典的な英語表現スキルの養い。小テストを実施。
7 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (7)	O・ヘンリーの短篇小説の英語表現と現在の英語表現の相違について。
8 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (8)	O・ヘンリーの短篇小説の特徴的な英語表現について。小テストを実施。
9 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (9)	O・ヘンリーの短篇小説のどんでん返しの英語表現について。
10 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の歴史的な文化理解について。
11 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (10)	O・ヘンリーの短篇小説と今の意義について。小テストを実施。
12 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (11)	O・ヘンリーの短篇小説の優れた英語表現について。
13 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説に表現された英語を使つての英作スキルを養う。

- 14 回 テキスト講読とトピック O・ヘンリーの短篇小説の意義と
クの英語表現 (12) 英語表現について。小テストを実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んで、全体の文脈の把握をする。また、様々な日常生活のトピック英語に接する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

O.Henry: The Best Short Stories by J.Suzuki and N.Saito (松柏社)

【参考書】

授業時に指示する

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業のプレゼンの評価 30%と適宜実施する小テストの評価 30%と平常点 40%を総合的に考慮して成績評価とする。ただし、学期欠席が4回以上の場合には原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The program in the class fosters the ability to read some short stories critically, to appreciate the power of language to shape presentation. And it encourages students to develop their own style of writing English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

齊藤 昇

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 30 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日常生活や現代社会のトピックを英語で表現する力を養います。適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

【到達目標】

日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短編小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

必要な教材を活用してアメリカ短編小説を講読し、その文化的背景と英語表現を習得します。と同時に日常生活のトピックを英語表現できるスキルを養います。それらを授業でプレゼンしてもらいます。それには丁寧な予習と日ごろの英文文脈の把握の努力が必要です。次回の授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説「20 年後」の構成説明。
2 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (2)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の歴史的な背景について。
3 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (3)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の英文の特徴について。授業内小テスト実施。
4 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (4)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のユーモアについて。
5 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (5)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のウィットについて。授業内小テスト実施。
6 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (6)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の歴史的背景と英文表現の特徴について。
7 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (7)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のペイソスについて。授業内小テスト実施。
8 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (8)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の英語表現の特徴について。
9 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (9)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の口語体の英文表現について。授業内小テスト実施。
10 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (10)	O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」に表現された日常英語表現について。

- 11 回 テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (11) O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の葉」の英文表現の比較について。授業内小テスト実施。
- 12 回 テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (12) O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の葉」のユーモアの英語表現の比較について。
- 13 回 テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (13) O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の葉」のウィットの英語表現の比較について。
- 14 回 テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (14) O・ヘンリーの短篇小説における作家の特性と英語表現の特徴について。授業内小テスト実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

丁寧なテキスト精読と日常生活のトピック英文の文脈把握に努力すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

O.Henry : The Best Short Stories by J.Suzuki and N. Saito (松柏社)とプリント配布。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業のプレゼンの評価 30%と適宜実施する小テストの評価 30%と平常点 40%を総合的に判断して成績評価とする。ただし、学期欠席が4回以上の場合原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The program in the class fosters the ability to read some short stories critically, to appreciate the power of language to shape presentation. And it encourages students to develop their own style of writing English.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

DYLAN O SCUDDER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 31 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however special emphasis will be placed on academic writing and speaking skills.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills used in an English-speaking academic context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is a Zoom-based online class. Every class is conducted in real-time. Please see HOPPII, the University's Learning Management System for details.

Feedback on class assignments will be provided by email and/or in one-on-one discussions between the lecturer and the student. Students may request additional feedback on class assignments at any time during the semester. Various themes related to life in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to academic writing and speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
One	Speaking and Writing with Confidence: Is it ethical to track people's movements during a pandemic?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?
Two	Speaking and Writing with Confidence: When is animal testing justified?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?
Three	Speaking and Writing with Confidence: When is it alright to tweak someone's genes?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?
Four	Speaking and Writing with Confidence: Should we limit viewpoint diversity?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?

Five	Speaking and Writing with Confidence: Should there be limits to online privacy?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?	Eight	Speaking and Writing with Confidence: When is population control justified?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?
Six	Speaking and Writing with Confidence: Is making a profit unethical?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?	Nine	Speaking and Writing with Confidence: Who benefits and suffers during lockdowns?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?
Seven	Summarizing: Which of the dilemmas from the past 6 classes is the most important one?	The summary consists of 200-400 words. The template for the summary is provided by the instructor.			

Ten	Speaking and Writing with Confidence: When is selling weapons ethical?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>	Twelve	Speaking and Writing with Confidence: Is it alright to promote AI when it creates unemployment?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>
Eleven	Speaking and Writing with Confidence: Why shouldn't children be allowed to work?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>	Thirteen	Speaking and Writing with Confidence: Is the concept of meritocracy ethical?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>
			Fourteen	Summarizing: Which of the dilemmas discussed this semester is the most important one?	<p>The summary consists of 200-400 words. The template for the summary is provided by the instructor.</p>

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation and review should be around one hour per week. Preparation (homework) is a reflection paper of 200-400 words each week. The paper is based on (1) your learning goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class.

【テキスト（教科書）】

No textbook required this semester.

【参考書】

Any recommended references will be provided during class.

【成績評価の方法と基準】

Note: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Assuming that students are absent 3 times or less, their performance will be graded as described below.

Classwork: 50%

Homework: 50%

All classwork is due at the end of each class. At the beginning of each class, I will remind you of the classwork assignment (also in the syllabus). You will submit the classwork to me by the end of each class using a classwork template that I will give you. You will write 200-400 words each class.

Homework is a learning journal based on (1) your goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class. Your homework each week will also consist of 200-400 words.

There are no points for incomplete or late assignments.

In summary, if you complete all the classwork and the homework on time, you can expect a good grade.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

In order to complete and submit the classwork and homework for this class, you will need a computer and an internet connection.

【その他の重要事項】

Nothing in particular.

【Outline and objectives】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however special emphasis will be placed on academic writing and speaking skills.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

DYLAN O SCUDDER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 31 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however special emphasis will be placed on academic writing and speaking skills.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the sociolinguistic communication skills used in an English-speaking academic context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This is a Zoom-based online class. Every class is conducted in real-time. Please see HOPPII, the University's Learning Management System for details.

Feedback on class assignments will be provided by email and/or in one-on-one discussions between the lecturer and the student. Students may request additional feedback on class assignments at any time during the semester. Various themes related to life in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to academic writing and speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
One	Speaking and Writing with Confidence: Should universal basic income be a human right?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>
Two	Speaking and Writing with Confidence: Should every profession have equal numbers of men and women at every work level?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>
Three	Speaking and Writing with Confidence: Are the stakeholders who contribute most to a company also the most important stakeholders?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>
Four	Speaking and Writing with Confidence: Is it right to sell products that damage people's health?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>

Five	Speaking and Writing with Confidence: Is it right for a country not to accept refugees?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?	Eight	Speaking and Writing with Confidence: Should companies be legally required to donate some of their profit to environmental protection?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?
Six	Speaking and Writing with Confidence: Is making a profit unethical?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?	Nine	Speaking and Writing with Confidence: What should the ratio be between the salaries of the CEO and the lowest earner in the company?	In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class. Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision? Question 2: What do each of the stakeholders need most? Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders? Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved? Question 5: How should the problem be resolved? Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?
Seven	Summarizing: Which of the dilemmas from the past 6 classes is the most important one?	The summary consists of 200-400 words. The template for the summary is provided by the instructor.			

Ten	Speaking and Writing with Confidence: Should euthanasia be legalized?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>	Twelve	Speaking and Writing with Confidence: For non-native users of English, should "patchwriting" be allowed?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>
Eleven	Speaking and Writing with Confidence: When are "aggressive interrogation techniques" morally justified?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>	Thirteen	Speaking and Writing with Confidence: Is it ethical to increase a baby's IQ with genetic editing?	<p>In Zoom breakout rooms, students discuss 6 questions in teams of 4-5. One by one, each student comments on what they think the answer is to question 1. The other students type the speaker's comments into the template provided by the instructor. After each student has spoken about question 1, the team repeats the same process for the remaining 5 questions. Each student submits the template by the end of class.</p> <p>Question 1: Which stakeholders (people, organizations) will be influenced by this decision?</p> <p>Question 2: What do each of the stakeholders need most?</p> <p>Question 3: What is the main disagreement between the stakeholders?</p> <p>Question 4: What will happen if the disagreement is not resolved?</p> <p>Question 5: How should the problem be resolved?</p> <p>Question 6: How will the solution satisfy each stakeholder?</p>
			Fourteen	Summarizing: Which of the dilemmas discussed this semester is the most important one?	<p>The summary consists of 200-400 words. The template for the summary is provided by the instructor.</p>

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation and review should be around one hour per week. Preparation (homework) is a reflection paper of 200-400 words each week. The paper is based on (1) your learning goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class.

【テキスト（教科書）】

No textbook required this semester.

【参考書】

Any recommended references will be provided during class.

【成績評価の方法と基準】

Note: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Assuming that students are absent 3 times or less, their performance will be graded as described below.

Classwork: 50%

Homework: 50%

All classwork is due at the end of each class. At the beginning of each class, I will remind you of the classwork assignment (also in the syllabus). You will submit the classwork to me by the end of each class using a classwork template that I will give you. You will write 200-400 words each class.

Homework is a learning journal based on (1) your goals, (2) the challenges you are experiencing as you pursue your goals, (3) the approaches you are using to overcome these challenges and (4) your plans for your next steps. Similar to your classwork, you will write your homework using a template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class. Your homework each week will also consist of 200-400 words.

There are no points for incomplete or late assignments.

In summary, if you complete all the classwork and the homework on time, you can expect a good grade.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

In order to complete and submit the classwork and homework for this class, you will need a computer and an internet connection.

【その他の重要事項】

Nothing in particular.

【Outline and objectives】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however special emphasis will be placed on academic writing and speaking skills.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 32 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見などを効果的に表現する力を養います。論理的な構成の段落を書く練習を行い、最終的には複数の段落から成る短いレポートを書くことができることを目指します。また、関心の高いトピックについては、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションを行う練習も取り入れます。

【到達目標】

- (1) 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見を効果的に表現できるようになる
- (2) 段落の構造に留意し、論理構成を持つ段落を書くようになる
- (3) 効果的に英語を聞き取り、意味をつかめるようになる
- (4) 英語の辞書を効果的に使うことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、自分の経験や考えを英語で書いたり、表現したりすることに重点を置き、講義とグループワークを組み合わせで進めます。春学期は、テキストのトピックに従って、自分の経験や考えを短い文章にまとめる練習を中心に行います。各自で書いたエッセイは、教員によるフィードバックのほか、受講生同士で読み合ったり、コメントを付け合ったりするなど、コミュニケーションを大切に授業を行います。また、授業の冒頭で小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の説明と注意
Week 2	Unit 1-A: People	Introducing a person to someone else
Week 3	Unit 1-B: Lessons learned	Write about something you learned
Week 4	Unit 2-A: Foods we like	Making suggestions
Week 5	Unit 2-B: Eating well	Write a restaurant review
Week 6	Unit 3-A: You're in luck!	Talking about possibility
Week 7	Unit 3-B: Unsolved mysteries	Do research and write about an issue
Week 8	Unit 4-A: Lifestyle trends	Disagreeing
Week 9	Unit 4-B: Fashion trends	Give fashion advice to someone looking for a job
Week 10	Unit 5-A: Running errands	Making appointments
Week 11	Unit 5-B: My neighborhood	Write about your neighborhood
Week 12	Unit 6-A: Starting out	Responding

Week 13	Unit 6-B: After graduation	Write about your college experience
Week 14	Course Review	Peer-review of the essay drafts

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキストのトピックに関する課題が出されます。指示に従って取り組んでください。また、テキストに対応したウェブサイトを活用して、授業の予習・復習に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

James R. Morgan and Nancy Douglas, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016) — 2,900+tax yen

【参考書】

適宜、授業中に指示します。辞書は必ず持参してください。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 50%

- 学期末レポート 50%

原則として、4回以上欠席すると単位の修得が認められません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、自分で課題を選び、資料を探したり、調べたことを自分でまとめたりする調べ学習の方法を取り入れたことが好評でした。

【その他の重要事項】

初回授業の実施方法は、学習支援システム（Hoppii）でお知らせします。必ず事前に確認の上、出席してください。

【Outline and objectives】

This class will encourage students to confidently express their opinions and experiences about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand English language regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will study and learn the structure and function of a paragraph, learn how to compose a short essay, and write a short essay composed of paragraphs.

Students will be able to:

- effectively express their opinion, knowledge, and experience on daily life

- understand the basic construction of an essay written in English

- listen to spoken English and understand the main points

- use an appropriate dictionary based on the assignment or task

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 32 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見などを効果的に表現する力を養います。論理的な構成の文章を英語で書く練習に加えて、秋学期はいくつかのトピックについて、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを重点的に行います。これらの活動を通して、自分の考えや経験を他者に伝えたり、他者から出された意見について返答したりする練習をします。

【到達目標】

- (1) 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見を効果的に表現できるようになる
- (2) 効果的なプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションができるようになる
- (3) 複数のパラグラフから成る短いレポートを書けるようになる
- (4) 英語の辞書を効果的に使うことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、自分の経験や考えを英語で書いたり、表現したりすることに重点を置き、講義とグループワークを組み合わせで進めます。秋学期は、テキストのトピックについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心に行います。春学期に学んだ「書く力」をもとにして、自分の意見や経験を英語で説明したり、聞き手の意見に返答したりする練習を行います。また、授業の冒頭で小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	授業の説明
Week 2	Unit 7-A: Parties	Inviting someone to do something
Week 3	Unit 7-B: Festivals and holidays	Write about a holiday
Week 4	Unit 8-A: What's the story about?	Keeping a story going
Week 5	Unit 8-B: Modern fairy tales	Write an email about previous event
Week 6	Unit 9-A: Workplace traits	Interviewing for a job
Week 7	Unit 9-B: Dream jobs	Write a presentation about an interesting career
Week 8	Unit 10-A: Using the telephone	Using the telephone
Week 9	Unit 10-B: Always connected	Describe your phone use
Week 10	Preparation for presentation (1)	Choosing a topic
Week 11	Preparation for a presentation (2)	Making an outline

Week 12	Preparation for a presentation (3)	Writing a script
Week 13	Actual Presentation	Giving the presentation
Week 14	Course Review	Presentation Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキストのトピックに関する課題が出されます。指示に従って取り組んでください。また、テキストに対応したウェブサイトを活用して、授業の予習・復習に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

James R. Morgan and Nancy Douglas, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016) — 2,900+tax yen

【参考書】

授業中に、適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 50%

- 学期末レポート 50%

原則として、4回以上欠席すると単位の修得が認められません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、グループワークやペアワークを通して会話の練習をしたことが好評でした。今年度も引き続き、グループやペアでの活動を取り入れていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This class will encourage students to confidently express their opinions and experiences about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand English language regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). Students will practice and learn the skills necessary to compose a text regarding their experiences, knowledge, and opinions about various issues. In addition, presentation skills will be introduced during the autumn semester. Students will be expected to prepare and deliver an effective, interactive presentation.

- effectively express their opinion, knowledge, and experience on daily life

- prepare and deliver a presentation

- write a short essay composed of paragraphs

- use an English dictionary appropriately with purpose

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

営1年：英語 33組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

1. Reading articles from book.

2. Listening and watching audio/video.

3. Speaking and Role play in Pair & Groups.

4. Individual Presentations about a topic.

5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Good memories	Pair & group work. Grammar explanation.
3	Unit 1: Reading about Frida Kahlo	Pair & Group work on what you have in common.
4	Unit 2: Life in the city	Grammar explanation Discuss and write about your hometown.
5	Unit 2: Listening	Reading about the Happiest Cities.
6	Unit 3: Making changes	Pair & Group work. Grammar explanation.
7	Unit 3: Discuss your neighbors	Pair & Group work on comparisons. Write an email.
8	Midterm on Units 1-3	Written test on grammar and vocabulary.

9	Unit 4: Have your ever tried it?	Grammar explanation. Pair work about food.
10	Unit 4: Presentations	Presentations about your favorite food and how to make it.
11	Unit 5: Hit the road!	Listening and Group work. Grammar explanation.
12	Unit 5: comparison essay due	Listening & Pair Work about families. Grammar explanation.
13	Unit 6: Sure! Ill do it!	Unit 6: Pair work. Grammar explanation.
14	Final Exam	Written test about grammar & vocabulary.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 2 (5th Edition). Cambridge University Press

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

In principle, no more than 3 absences are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Student need smartphone or ipad or pc with a headset to participate in Zoom classes. They also need to know how to use Google classroom and Hoppii.

【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年：英語 33 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Pair Work about Technology. Grammar Explanation
2	Unit 7	Listening Writing 11. Write a message to your roommate.
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair work Grammar Explanation Role play about Holidays.
4	Unit 8	Pair & Group Work Vocabulary Write about something your favorite trip.
5	Unit 9: Only time will tell.	Pair Work & Listening about services. Grammar Explanation Word Power 10
6	Unit 9	Pair & Group Work Discuss cause/effect Reading 13
7	Midterm 7-9	Grammar and Vocabulary Test.
8	Unit 10: I like working with people.	Pair & Group Work Prepare biographical presentation on a famous person.

9	Unit 10	Presentation due in front of class.
10	Unit 11: Its really worth seeing!	Pair & Group work Grammar Explanation
11	Unit 11	Listening Word Power Pair & Group Work Reading
12	Unit 13: Movies	Pair & Group Work about Movies. Grammar Explanation
13	Unit 13	Role Play Write a movie review
14	Final Exam	Grammar & Vocabulary Test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 2 (5th Edition). Cambridge University Press

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

In principle, no more than 3 absences are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access

【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 34 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をとともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17

5	How to Make a Presentation Units 3-4	You will learn how to make a presentation. pp.18-25	*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom. 【Outline and objectives】 You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.
6	Review Preparation for Debates	You will review presentation strategies. You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.	
7	Debate	You will do the debate.	
8	Debate	You will continue to do the debate.	
9	Review of Writing Strategies Units 5-6	You will review writing strategies. pp.26-33	
10	Units 7-8	pp.34-41 You will discuss the topic of each chapter.	
11	Units 9-10 Preparation for a Group Presentation	pp.42-49 You will discuss the topic of each chapter. You will prepare for a group presentation.	
12	Presentation	You will make a group presentation.	
13	Presentation	You will continue to make a group presentation.	
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.

2) to watch or listen to an English program regularly

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

1) to bring an English-English dictionary

2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

鈴木 真奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年：英語 34 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.

5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.
6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Group Presentation	You will prepare for your group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
 - 2) to watch or listen to an English program regularly
- University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline and objectives】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 I

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組/上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語が使われている社会・文化を理解し、語彙と表現を覚え、英語で聞き、話し、読む、書くことができるスキルを身につける。ペアワークやプレゼンにより、コミュニケーション力を向上させる。

【到達目標】

日常生活や現代社会に関するトピックを理解、要約し、自分の考えを Essay を通して表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式を基に、ペアワーク、口頭発表、レポート・エッセイ提出などを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容・方針・成績評価の方法などについて説明する。アンケートに回答する。
第 2 回	Unit 1 Life with Pets ①	連結/同化、Listening 演習を行い、聴解力を身につける。対話では、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第 3 回	Unit 1 Life with Pets ②	文法（基本文）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第 4 回	Unit 2 Virtual relationship ①	脱落/弱形、Listening 演習を行い、聴解力、音読力を身につける。対話では、ペアワークを実践し、英問英答をできるようにする。
第 5 回	Unit 2 Virtual relationship ②	文法（動詞）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第 6 回	Unit 3 Changing Words over Time ①	短縮/省略、Listening 演習を行い、聴解力、音読力を身につける。対話では、ペアワークを実践し、英問英答をできるようにする。
第 7 回	Unit 3 Changing Words over Time ②	文法（時制）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第 8 回	Unit 4 Fika and Hygge ①	数字の表現、Listening 演習を行い、聴解力、音読力を身につける。対話では、ペアワークを実践し、英問英答をできるようにする。

- 第9回 Unit 4 Fika and Hygge ②
文法（助動詞）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
- 第10回 Essay を書く。
Paragraph の役割、Essay の構成を学び、Essay(150～200 words) を提出する。
- 第11回 Unit 5 Online Work Experience ①
前回提出の Essay を返却し、解説する。提案・間違いやすい発音、Listening 演習を行い、聴解力、音読力を身につける。対話では、ペアワークを実践し、英問英答できるようにする。
- 第12回 Unit 5 Online Work Experience ②
名詞・代名詞・冠詞、と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
- 第13回 テスト
Unit1～5 について到達度テストを実施する。
- 第14回 まとめ：成果と課題
テストの返却・解説、春学期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。
【事前学習】テキストの各 Unit の Exercise について解答できるように事前準備をする。不明な箇所は、辞書や情報機器を使って調べる。
【事後学習】授業内容（ポイント、間違いなど）を復習する。

【テキスト（教科書）】

Target!(upper-intermediate)【準上級】

森田彰ほか著
2021年
金星堂（2000円＋税）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（学習状況・参加度）：30%

Essay・レポート：20%

テスト：50%

なお、欠席は3回まで、遅刻・欠席は減点対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their listening, reading, speaking and writing skills. Students will talk about various topics, including life, culture, society, and media. Students will write several essays and take a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1単位

法（Y除く）文営 2～3年：補講 1組/上級

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語が使われている社会・文化を理解し、語彙と表現を覚え、英語で聞き、話し、読み、書くことができるスキルを身につける。ペアワークやプレゼンにより、コミュニケーション力を向上させる。

【到達目標】

日常生活や現代社会に関するトピックを読解、要約し、自分の考えを発表し、Essay を書くことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式を基に、ペアワーク、要約、エッセイ・レポート提出などを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容・方針・成績評価の方法などについて説明する。アンケートに回答する。
第2回	Unit 6 Fashion and Climate Change ①	挨拶の表現、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第3回	Unit 6 Fashion and Climate Change ②	文法（前置詞句）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第4回	Unit 7 Can We Travel to Space?①	依頼・勧誘の表現、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第5回	Unit 7 Can We Travel to Space?②	文法（形容詞・副詞）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第6回	Unit 8 Gender and Sports ①	いろいろな疑問文、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第7回	Unit 8 Gender and Sports ②	文法（受動態）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第8回	Unit 9 New "Old" Entertainment ①	意見や主張、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第9回	Unit 9 New "Old" Entertainment ②	文法（完了形）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第10回	Unit 10 New Way to Enjoy Cinema ①	音とグラフィックの照合、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。

- 第11回 Unit 10 New Way to Enjoy Cinema ② 文法（不定詞・動名詞）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
- 第12回 Essay を書く。 paragraph の役割、Essay の構成を学び、Essay(150～200 words)を提出する。
- 第13回 テスト Unit6～10 について到達度テストを実施する。
- 第14回 まとめ：成果と課題 テストの返却・解説、秋学期を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【準備学習】テキストの各 Unit の Exercise について事前準備をする。辞書、情報機器を使って、調べる。

【事後学習】授業内容（ポイント、間違いなど）を復習する。

【テキスト（教科書）】

Target! Upper-intermediate (準上級)

森田 彰ほか

2021 年

金星堂

2000 円＋税

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（学習状況・参加度）：30%

Essay・レポート：20%

テスト：50%

なお、欠席は3回まで、遅刻・欠席は減点対象になる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their listening, reading, speaking, and writing skills. Students will talk about various topics, including life, culture, society, and media. Students will write several essays and take a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 2 組/中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語が使われている社会・文化を理解し、語彙と表現を覚え、英語で聞き、話し、読む、書くことができるスキルを身につける。ペアワークやプレゼンにより、コミュニケーション力を向上させる。

【到達目標】

日常生活や現代社会に関するトピックを理解、要約し、自分の考えを Essay を通して表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式を基に、ペアワーク、口頭発表、レポート・エッセイ提出などを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容・方針・成績評価の方法などについて説明する。アンケートに回答する。
第2回	Unit 1 Life with Pets ①	連結/同化、Listening 演習を行い、聴解力を身につける。対話では、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第3回	Unit 1 Life with Pets ②	文法（基本文）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第4回	Unit 2 Virtual relationship ①	脱落/弱形、Listening 演習を行い、聴解力、音読力を身につける。対話では、ペアワークを実践し、英問英答をできるようにする。
第5回	Unit 2 Virtual relationship ②	文法（動詞）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第6回	Unit 3 Changing Words over Time ①	短縮/省略、Listening 演習を行い、聴解力、音読力を身につける。対話では、ペアワークを実践し、英問英答をできるようにする。
第7回	Unit 3 Changing Words over Time ②	文法（時制）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第8回	Unit 4 Fika and Hygge ①	数字の表現、Listening 演習を行い、聴解力、音読力を身につける。対話では、ペアワークを実践し、英問英答をできるようにする。

- 第9回 Unit 4 Fika and Hygge ②
文法（助動詞）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
- 第10回 Essay を書く。
Paragraph の役割、Essay の構成を学び、Essay(150～200 words) を提出する。
- 第11回 Unit 5 Online Work Experience ①
前回提出の Essay を返却し、解説する。提案・間違いやすい発音、Listening 演習を行い、聴解力、音読力を身につける。対話では、ペアワークを実践し、英問英答できるようにする。
- 第12回 Unit 5 Online Work Experience ②
名詞・代名詞・冠詞、と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につける。内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
- 第13回 テスト
Unit1～5 について到達度テストを実施する。
- 第14回 まとめ：成果と課題
テストの返却・解説、春学期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。
【事前学習】テキストの各 Unit の Exercise について解答できるように事前準備をする。不明な箇所は、辞書や情報機器を使って調べる。
【事後学習】授業内容（ポイント、間違いなど）を復習する。

【テキスト（教科書）】

Target!(upper-intermediate)【準上級】

森田彰ほか著
2021年
金星堂（2000円＋税）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（学習状況・参加度）：30%

Essay・レポート：20%

テスト：50%

なお、欠席は3回まで、遅刻・欠席は減点対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their listening, reading, speaking and writing skills. Students will talk about various topics, including life, culture, society, and media. Students will write several essays and take a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1単位

法（Y除く）文営 2～3年：補講 2組/中級

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語が使われている社会・文化を理解し、語彙と表現を覚え、英語で聞き、話し、読み、書くことができるスキルを身につける。ペアワークやプレゼンにより、コミュニケーション力を向上させる。

【到達目標】

日常生活や現代社会に関するトピックを読解、要約し、自分の考えを發表し、Essay を書くことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式を基に、ペアワーク、要約、エッセイ・レポート提出などを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容・方針・成績評価の方法などについて説明する。アンケートに回答する。
第2回	Unit 6 Fashion and Climate Change ①	挨拶の表現、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第3回	Unit 6 Fashion and Climate Change ②	文法（前置詞句）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第4回	Unit 7 Can We Travel to Space?①	依頼・勧誘の表現、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第5回	Unit 7 Can We Travel to Space?②	文法（形容詞・副詞）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第6回	Unit 8 Gender and Sports ①	いろいろな疑問文、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第7回	Unit 8 Gender and Sports ②	文法（受動態）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第8回	Unit 9 New "Old" Entertainment ①	意見や主張、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。
第9回	Unit 9 New "Old" Entertainment ②	文法（完了形）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第10回	Unit 10 New Way to Enjoy Cinema ①	音とグラフィックの照合、リスニング演習をし、ペアワーク、音読により、英問英答をできるようにする。

第11回	Unit 10 New Way to Enjoy Cinema ②	文法（不定詞・動名詞）と Reading 演習を行い、文法力と読解力を身につけて、内容把握の演習をし、英語で要約できるようにする。
第12回	Essay を書く。	paragraph の役割、Essay の構成を学び、Essay(150～200 words) を提出する。
第13回	テスト	Unit6～10 について到達度テストを実施する。
第14回	まとめ：成果と課題	テストの返却・解説、秋学期を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【準備学習】テキストの各 Unit の Exercise について事前準備をする。辞書、情報機器を使って、調べる。

【事後学習】授業内容（ポイント、間違いなど）を復習する。

【テキスト（教科書）】

Target! Upper-intermediate (準上級)

森田 彰ほか

2021 年

金星堂

2000 円＋税

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（学習状況・参加度）：30%

Essay・レポート：20%

テスト：50%

なお、欠席は3回まで、遅刻・欠席は減点対象になる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their listening, reading, speaking, and writing skills. Students will talk about various topics, including life, culture, society, and media. Students will write several essays and take a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 3 組/初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学習用に製作された映像ドラマを導入した教科書を題材に、(1) ドラマを通してリスニング力の増強をはかる、(2) スピーキングに必要な会話表現を学ぶ。

『オリーブ・グリーン——ミステリードラマで学ぶ実用英語』を教科書として、ミステリードラマを通して、英語で物語の展開を楽しむことができることを目指す。学習用に製作されていることから、語彙・会話表現についてディクテーションやクイズを通して無理なく身につけられる構成になっている。また、各課で学んだ会話表現を活用するアクティビティも盛り込まれていることから、リスニング・コンプリヘンション能力およびアウトプット力を増強する。

【到達目標】

(1) ドラマを通して、リスニング・コンプリヘンション力を身につける。

(2) 学んだ会話表現をアウトプットする練習を通して、会話表現力を増強する。

(3) パラグラフ・ライティングを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。

演習として、教科書の課題を毎回進めていく。

随時、ライティング演習も行う。

課題に関しては、ラーニングシステムを通じて提出する。フィードバックに関しては全体の講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	教科書『オリーブ・グリーン——ミステリー——ミステリードラマで学ぶ実用英語』についての導入	教科書『オリーブ・グリーン——ミステリー——ミステリードラマで学ぶ実用英語』の構成、ドラマの内容について。
第2回	教科書の演習（第1章）	Ch. 1 "Job Offer"
第3回	教科書の演習（第2章）	Ch. 2 "The Murrays"
第4回	教科書の演習（第3章）	Ch. 3 "Old berry's Best B&B"
第5回	教科書の演習（第4章）	Ch. 4 "Homemade Soup and Wine"
第6回	教科書の演習（第5章）	Ch. 5 "Jogging"
第7回	教科書の演習（第6章）	Ch. 6 "In the Pub"
第8回	ライティング演習（1）	教科書の復習をライティング課題につなげる。「ミステリードラマについて英語でレビューを書く」
第9回	教科書の演習（第8章）	Ch. 8 "Thistle Flowers"

第10回	教科書の演習（第9章）	Ch. 9 "Making the Plan"
第11回	教科書の演習（第10章）	Ch. 10 "Shopping for a Dress"
第12回	教科書の演習（第11章）	Ch. 11 "Party Time"
第13回	教科書の演習（第12章）	Ch. 12 "It's Time to Steal"
第14回	まとめ／ライティング演習（2）	教科書の復習をライティング課題につなげる。「ミステリードラマについて英語でレビューを書く」（仕上げ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『オリーブ・グリーン——ミステリードラマで学ぶ実用英語』（朝日出版社、2021年）

【参考書】

スクリーンプレイ社による映画を題材にした英語学習教材『スクリーンプレイ』シリーズ。

【成績評価の方法と基準】

・毎回実施する教科書を用いた演習課題（関連したライティング課題も含む）＝100%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため「なし」。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' listening ability. Students will watch and listen to a mystery drama at natural speed in order to get accustomed to rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in daily conversations. The goal is to develop students' listening ability so that they can grasp the outline and the main point of the drama and pick out necessary information.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1単位

法（Y除く）文営 2～3年：補講 3組/初級

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本で製作されたテレビ番組を題材に英語学習用に製作された教科書を用いて、(1) レポートを通してリスニング力の増強をはかる、(2) ディスカッションに必要な準備の仕方、会話表現を学ぶ。

『Discovering Cool Japan ——異文化理解から日本文化発信へ』を教科書として、テレビのレポート番組を通して、英語で内容を把握することができることを目指す。学習用に製作されていることから、語彙・会話表現についてディクテーションやクイズを通して無理なく身につけられる構成になっている。また、各課で学んだ会話表現を活用するアクティビティも盛り込まれていることから、リスニング・コンプリヘンション能力およびアウトプット力を増強する。

【到達目標】

- (1) TVのレポート番組を通して、リスニング・コンプリヘンション力を身につける。
- (2) 学んだ会話表現をアウトプットする練習を通して、会話表現力を増強する。
- (3) ディスカッションに必要な準備の仕方を学び、内容を踏まえた上での確に意見を述べる。
- (4) パラグラフ・ライティングを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。

演習として、教科書の課題を毎回進めていく。課題に関しては、ラーニングシステムを通じて提出する。フィードバックに関しては全体の講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	教科書『Discovering Cool Japan ——異文化理解から日本文化発信へ』についての導入	教科書『Discovering Cool Japan ——異文化理解から日本文化発信へ』の構成について。
第2回	教科書の演習（第1章）	Unit 1 "Long-Established Business"
第3回	教科書の演習（第2章）	Unit 2 "Uniforms"
第4回	教科書の演習（第3章）	Unit 3 "Voluntary Work"
第5回	教科書の演習（第4章）	Unit 4 "High-Tech Living"
第6回	教科書の演習（第5章）	Unit 5 "Japanese Tableware"
第7回	教科書の演習（第6章）	Unit 6 "Homemakers of Japan"
第8回	教科書の演習（第7章） ＋ライティング演習①	Unit 7 "Seafood"＋「日本文化を題材にしたライティング演習」①

第9回	教科書の演習（第8章）	Unit 8 "Voice Actors"
第10回	教科書の演習（第9章）	Unit 9 "Japanized Foreign Dishes"
第11回	教科書の演習（第10章）	Unit 10 "Bags"
第12回	教科書の演習（第11章）	Unit 11 "Senior citizens"
第13回	教科書の演習（第12章）	Unit 12 "Money"
第14回	まとめ++「日本文化を題材にしたライティング演習」②	教科書のまとめ+「日本文化を題材にしたライティング演習」②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『Discovering Cool Japan ―異文化理解から日本文化発信へ』（成美堂、2019年）

【参考書】

スクリーンプレイ社による映画を題材にした英語学習教材『スクリーンプレイ』シリーズ。

【成績評価の方法と基準】

・毎回実施する教科書を用いた演習課題（日本文化にまつわるライティング課題を含む）＝100%

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため「なし」。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' listening ability. Students will watch and listen to actual TV news videos at natural speed in order to get accustomed to rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in broadcast English. The ultimate goal is to develop students' listening ability so that they can grasp the outline and the main point of the broadcast and pick out necessary information.

LANe100LA

英語1

2017年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れなければならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したりスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身に付ける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2回の授業で1つのchapterを扱う。

授業の初めにテキストから作成したりスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文として課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

chapterごとに前半後半に分けて2回、復習の小テストを実施する。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意を」前半
3	Chapter 1-2 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意を」後半
4	Chapter 6-1 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」前半

- | | | |
|----|--|--------------------------------------|
| 5 | Chapter 6-2 Man Versus Machine: How are machines changing society? | 「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」後半 |
| 6 | chapter 1,6 のまとめと英作文 | chapter 1,6 のまとめと英作文 |
| 7 | Chapter 11-1 Saving the Environment: Can one person make a difference? | 「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」前半 |
| 8 | Chapter 11-2 Saving the Environment: Can one person make a difference? | 「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」後半 |
| 9 | Chapter 16-1 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question? | 「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」前半 |
| 10 | Chapter 16-2 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question? | 「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」後半 |
| 11 | chapter 11,16 のまとめと英作文 | chapter 11,16 のまとめと英作文 |
| 12 | Chapter 2-1 Watch This: Should the film industry be more socially responsible? | 「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」前半 |
| 13 | Chapter 2-2 Watch This: Should the film industry be more socially responsible? | 「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」後半 |
| 14 | まとめと期末テスト | まとめと期末テスト、解説 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017 年, 1,900 円+税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
 授業への貢献 15 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 5 %
 欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
 授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor make from other materials.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身に付ける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Chapter 7-1 More Than Enough: Are some people just too rich?	「十分すぎるほどの資産：裕福すぎる人もいる？」前半講読
3	Chapter 7-2 More Than Enough: Are some people just too rich?	「十分すぎるほどの資産：裕福すぎる人もいる？」後半講読
4	Chapter 12-1 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」前半講読

5	Chapter 12-2 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」後半講読
6	Chapter 7.12 のまとめと英作文	Chapter 7,12 のまとめと英作文
7	Chapter 17-1 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」前半講読
8	Chapter 17-2 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」後半講読
9	Chapter 3-1 Girl Power : Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」前半講読
10	Chapter 3-2 Girl Power : Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」後半講読
11	Chapter 17,3 のまとめと英作文	Chapter 17,3 のまとめと英作文
12	Chapter 8-1 Look Around: Are some people too attached to smartphones?	「周りをよく見て：スマホ依存症の人もいる？」前半講読
13	Chapter 8-2 Look Around: Are some people too attached to smartphones?	「周りをよく見て：スマホ依存症の人もいる？」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。

小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著、成美堂、2017 年、1,900 円＋税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。

授業への貢献 15 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 5 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from other materials.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べることができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。春学期は対面授業ではなく、学習支援システム（オンデマンド資料型）を用いて授業を行います。学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 課題（1）調査報告	授業の進め方の解説
2	課題（2） 言語と文化（1）	異文化理解
3	課題（3） 言語と文化（2）	文化の衝突
4	課題（4） 言語と文化（3）	英語公用語化
5	課題（5） 社会と環境（1）	環境破壊
6	課題（6） 社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験 まとめ	課題（1）～（6）の テキスト及び解説から 出題
8	課題（7） 経済と社会（1）	南北問題
9	課題（8） 経済と社会（2）	国際紛争
10	課題（9） 経済と社会（3）	児童労働
11	課題（10） 技術と人間（1）	臓器移植
12	課題（11） 技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	課題（12） 技術と人間（3）	インターネット中毒

14 学期末試験、まとめ 課題(7)～(12)の
テキストと解説から
出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストの英文を読み、必ず課題に取り組んでください。また、学習支援システムの「教材セクション」にある「解説」をしっかりと読み、前の週の復習をしてください。中間・期末試験では、課題と課題の解説から試験を出題します。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 60 %

試験（中間・期末） 40 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

英語3

2017年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。教室および学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビッグデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	経済と社会（2）	経済格差
8	経済と社会（3）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（4）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 60 %

試験 40 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を

合格とする。欠席（学習支援システムの場合には課題提出がない）が4回以上の

場合には、単位を取得することができません。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストコロナリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること, (2) 英語のみならず, その背景にある問題を調べて把握すること, (3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。(フィードバック方法について)リアクションペーパーに書かれた質問は全て次回の授業で取り上げて回答、コメントはクラス全体で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明、グループ、発表の順番決め、『リスニング・ハンドブック』の説明。
2	"Colonialism and Imperialism"	精読。割り当てられたグループによる発表。
3	"Colonialism and Imperialism"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
4	"Theories of Colonial Discourses"	精読。割り当てられたグループによる発表。
5	"Theories of Colonial Discourses"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
6	"Reading Orientalism (Part 1)"	精読。割り当てられたグループによる発表。
7	"Reading Orientalism (Part 1)"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
8	"Reading Orientalism (Part 2)"	割り当てられたグループによる発表。
9	"Reading Orientalism (Part 2)"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
10	"Imagining the Nation: Forging Tradition and History"	精読。割り当てられたグループによる発表。

- 11 "Imagining the Nation: Forging Tradition and History"(前回の続き) 精読. 割り当てられたグループによる発表.
- 12 "The Disenchantment with Nationalism" 精読. 割り当てられたグループによる発表.
- 13 "The Disenchantment with Nationalism"(前回の続き) 精読. 割り当てられたグループによる発表.
- 14 "English in the Colonies" 精読. 割り当てられたグループによる発表.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバル化へ』, John McLeod, 木村茂雄他編注(英宝社, 2015)。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社，1999），および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題含む平常点(20%)と2回の試験(80%)から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。

病欠も含めた欠席回数が4回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から20分以内に入室した者だけ認めますが、2回の遅刻につき1回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は20分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。また、難解な箇所の説明にも今まで以上に力を入れたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to read "post-colonialism" through an introductory book and discuss what is needed in the world of "globalisation".

LANe100LA

英語3

2017年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期科目「英語1」に引き続いて、ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。(フィードバック方法について)リアクションペーパーに書かれた質問は全て次回の授業で取り上げて回答します。また、授業で扱った内容に対するコメントはクラス全体で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明、グループ、発表の順番決め。
2	"English in the Colonies"(前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表
3	"Interrogating the Text"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
4	"Interrogating the Text"(前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表.
5	"The 'Double Colonisation' of Women"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
6	"The 'Double Colonisation' of Women"(前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表.
7	"Migration, Colonialism and Decolonisation"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
8	"Migration, Colonialism and Decolonisation"(前回の続き)	割り当てられたグループによる発表.
9	"Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
10	"Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"(前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表.

- | | | |
|----|---|----------------------------------|
| 11 | "Globalisation and 'Postcoloniality' the New Imprim? (Part 1) | 精読. 割り当てられたグループによる発表. |
| 12 | "Globalisation and 'Postcoloniality' the New Imprim? (Part 2) | 精読. 割り当てられたグループによる発表. |
| 13 | 関連する英文記事 (1) | 関連する英文記事で新しいものを選んで読み、内容について議論する. |
| 14 | 関連する英文記事 (2) | 関連する英文記事について議論する. |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバル化へ』, John McLeod, 木村茂雄他編注 (英宝社, 2015)。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社，1999），および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題を含めた平常点 (20%) と 2 回の試験 (80%) から総合的に評価します。

あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。

病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。リスニングのコツについても丁寧に説明するつもりです。

【Outline and objectives】

Following the course in the spring term, students will learn how to read "post-colonialism" and what is needed in the world of "globalisation".

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。

この授業で皆さんは、

- ・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面でも対応できるようにする
 - ・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
 - ・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
 - ・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
- ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。

授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

記事内容の要点・感想ほか課題類の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。提出物の一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
2	Unit 3 (1)	コアラが森林火災の犠牲に Saving the Fire Victims Who Cannot Flee: Australia's Koalas 小テスト
3	Unit 3 (2)	(前回の続き) Climate change and natural disasters
4	Unit 4 (1)	上流階級育ちの坊ちゃんの中身のない自信に気をつける Beware the posh boy's hollow self-confidence 小テスト
5	Unit 4 (2)	(前回の続き) The socio-economic structure in the UK
6	Unit 5 (1)	ノート型パソコンのリサイクルでの代償：タイで有毒ガスが The Price of Recycling Old Laptops: Toxic Fumes in Thailand's Lungs 小テスト
7	Unit 5 (2)	(前回の続き) The environmental impact of e-waste
8	Unit 6 (1)	他の人たちよりもずっと感染力が強い人たちがいる理由 Why Are Some People So Much More Infectious than Others? 小テスト
9	Unit 6 (2)	(前回の続き) How to save black and Hispanic lives in a pandemic
10	Unit 7 (1)	疫病の渦中で必要なのはフランスではベストリーとワイン、米国ではゴルフと銃 What's essential? In France, pastry and wine -- in the US, golf and guns 小テスト
11	Unit 7 (2)	(前回の続き) Some activities reflect a national identity.
12	Unit 8 (1)	iPhone のはるか前に無線社会の基礎を築いた人たち They Laid Foundation for a Wireless Society 小テスト
13	Unit 8 (2)	(前回の続き) The 2019 Nobel Prize winners in chemistry
14	試験・まとめと解説	Unit 8 のフィードバック 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします）。

具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。

・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていいように人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2021 Edition —（15章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2021年度版—）』、朝日出版社、2021年、1200円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の方は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が70%、後者が30%を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、**Summary** と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとの背景事情の説明にもっと時間を割きます。

【学生が準備すべき機器他】

Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

英語3

2017年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

英語1からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。

加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SAや語学認定試験に備えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には英語1と変わりません。

ただし、英語1からの「ステップアップ」であるため、英語1で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 9 (1)	サウジアラビア社会の変化はコーヒーハウスを覗けば分かる Saudi Society Is Changing. Just Take a Look at These Coffeehouses.
2	Unit 9 (2)	(前回の続き) As the government relaxes restrictions on men and women working and socializing together, coffeehouses are on the front lines of change.
3	Unit 10 (1)	移民流入は壁では阻止できない An Immigrant Influx That a Wall Won't Deter
4	Unit 10 (2)	(前回の続き) Millions Who Legally Enter the United States as Students or Tourists Never Go Back
5	Unit 12 (1)	ソマリアの若者たち、政府機能不全の地域に足を踏み入れる Young Somalis Step in Where Government Fails

- 6 Unit 12 (2) (前回の続き)
The rebuilding process in Somalia after the Shabab's control ended
- 7 Unit 13 (1) 新国憲法への反対運動が荒れ狂うが、インドはヒンドゥ教国となるのか
As Protests Rage on Citizenship Bill, Is India Becoming a Hindu Nation?
- 8 Unit 13 (2) (前回の続き)
Anti-Muslim policies under Mr. Modi's government
- 9 Unit 14 (1) 急激な変化：ガイアナは石油で裕福になったが、民族間の緊張も増大
'It Changed So Fast.' Oil Is Making Guyana Wealthy but Intensifying Tensions
- 10 Unit 14 (2) (前回の続き)
A new oil-producing economy which left the agricultural majority doomed
- 11 Unit 15 (1) カロス・ゴーンの大脱走劇
The Great Escape: How Carlos Ghosn became the world's most famous fugitive
- 12 Unit 15 (2) (前回の続き)
Once a hero in Japan, Carlos Ghosn's news conference unlikely to restore his image
- 13 予備日およびパラグラフ・ライティング指導 学期中に進行が遅れていた場合はこの回で調整します。また、パラグラフ・ライティングの指導も行ないます。いずれにせよ、必ず出席して下さい。
- 14 試験・まとめと解説 年度全体の授業の講評
筆記試験の実施の要領は英語 1 の時と同じです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします）。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

- ・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
- ・段落全体を見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずですよ。

- ・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種類など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけて下さい。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2021 Edition —（15章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2021年度版—）』、朝日出版社、2021年、1200円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の方は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が70%、後者が30%を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summaryと記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

・欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失いません。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいると思います。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの1年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入学したのですから、ただごまかし続けて1年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Unitごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

栗飯原 文子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド型）での開講となる。授業開始直前に「お知らせ」を配信するので確認すること。
- ・原則として、授業開始時刻にログインして、当日の期限内に「授業内課題」を提出すること。
- ・リスニングの自習を毎週、各自でおこない、その記録を提出してもらう。
- ・課題などの提出・フィードバックは学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。ひとりずつ英語で自己紹介をおこなう。
第 2 回	Unit 1 Why is God So Quiet?	Unit 1 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 1 Why is God So Quiet の続き	Unit 1 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 4 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke	Unit 2 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke の続き	Unit 2 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の練習問題。補助教材による速読の練習。

第 8 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do?	Unit 4 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do? の 続き	Unit 4 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 10 回	Unit 5 You Can Always Reach Me	Unit 5 の精読。補助教材による速読の練習。
第 11 回	Unit 5 You Can Always Reach Me の続き	Unit 5 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 12 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath	Unit 6 の精読。補助教材による速読の練習。
第 13 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath の続き	Unit 6 の練習問題。春学期の復習をおこなう。
第 14 回	まとめと復習	復習として授業内で練習問題に取り組み。春学期の期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
- ・毎回しっかりと課題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
- ・リスニングの自習の記録を毎週提出してもらう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 成績評価の方法と基準は次の通り。
- ・各回の教科書の課題の提出（50 %）
 - ・副教材・その他の課題の提出（20 %）
 - ・期末課題（30 %）
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リーディング中心の授業ではあるが、リスニングの練習も増やしたい。

【その他の重要事項】

- ・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。
- ・テキストを読む際に、辞書（電子辞書でも可）を必ず用いること。

【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

栗飯原 文子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおり、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。
- ・後半の授業では 4 度にわたり、パラグラフ・ライティングを学び、課題としてワンパラグラフ（100 語程度）の作文に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド型）での開講となる。授業開始直前に「お知らせ」を配信するので確認すること。
- ・原則として、授業開始時刻にログインして、当日の期限内に「授業内課題」を提出すること。
- ・リスニングの自習を毎週、各自でおこない、その記録を提出してもらう。
- ・課題などの提出・フィードバックは学習支援システムを通じておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションとプレゼンテーション	秋学期の授業の概要と進め方について説明。
第 2 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!	Unit 7 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!の続き	Unit 7 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 4 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?	Unit 8 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?の続き	Unit 8 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 9 Fighting is Good for You	Unit 9 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 9 Fighting is Good for You の続き	Unit 9 の練習問題。補助教材による速読の練習。

第 8 回	Unit 10 Food is Cruel	Unit 10 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 10 Food is Cruel の続き	Unit 10 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 10 回	Unit 11 But It's the Right Answer! パラグラフ・ライティング①	Unit 11 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 11 回	Unit 11 But It's the Right Answer!の続き パラグラフ・ライティング②	Unit 11 の練習問題。補助教材による速読の練習。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 12 回	Unit 12 University is a Waste of Time パラグラフ・ライティング③	Unit 12 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 13 回	Unit 12 University is a Waste of Time の続き パラグラフ・ライティング④	Unit 12 の練習問題。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 14 回	まとめと復習	復習として授業内で練習問題に取り組む。春学期の期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
- ・毎回しっかりと課題に取り組む、各自で復習をおこなっておくこと。
- ・リスニングの自習の記録を毎週提出してもらう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は次の通り。

- ・各回の教科書の課題の提出（50 %）
- ・副教材・その他の課題の提出（20 %）
- ・期末課題（30 %）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるように、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リスニングの練習を増やし、ライティング課題へのフィードバックをより丁寧におこなうよう心がけたい。

【その他の重要事項】

- ・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。
- ・テキストを読む際に、辞書（電子辞書でも可）を必ず用いること。

【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを目指す。

【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題について

英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト内のチャプターに関連する映像を視聴したあと、テキストの内容にそって

語彙学習、精読などを行う。問題演習ののちに適宜小テストで確認する。

また内容に関してのフィードバックは次回とする

感染症拡大状況を鑑みて一部オンデマンドでの授業とし、対面とのハイブリッド形式とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	授業の進め方についての説明、および Chapter1 で言及されている資料の視聴
2	Chapter1	Chapter1 についての語彙、文法チェック テキスト精読
3	Chapter1	前週の復習、および続きの精読
4	Chapter1	前週の続きの精読
5	Chapter1,2	Chapter1 小テストおよびまとめの問題演習 Chapter2 の資料の視聴
6	Chapter2	Chapter2 についての語彙、文法チェック テキスト精読
7	Chapter2	前週の復習、内容に関するまとめ
8	Chapter2	前週の続きの精読
9	Chapter2,3	Chapter2 の問題演習と小テスト、Chapter3 の資料視聴
10	Chapter3	Chapter3 についての語彙、文法チェック テキスト精読
11	Chapter3	前週の復習、内容に関するまとめ
12	Chapter3,4	Chapter3 の問題演習、小テスト、Chapter4 の資料視聴
13	Chapter4	Chapter4 語彙練習と精読
14	Chapter4	前週の続きの精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されている映像についての概要を把握する
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability" Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

【参考書】

都度指示します

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 15 %

提出物 15 %

小テスト 70 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

使用教科書の中での注釈等があまり正しくない箇所が散見された
また英語のみならず元が論文集ということで内容が多少難しいが
適宜補足予定

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを旨とする。

【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題について

英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習を行った後、

問題演習と小テストで確認を行う。

基本対面授業の予定だが、感染拡大時などは一部オンデマンドでの授業も検討する。

その場合は次週の資料等でのフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter4,5	Chapter4 について問題演習、小テスト、Chapter5 の資料視聴
2	Chapter5	Chapter5 の語彙、精読
3	Chapter5	前週の続き、復習
4	Chapter5	前週の復習、内容に関するまとめ
5	Chapter5,6	Chapter5 の問題演習、小テストならびに Chapter6 の資料視聴
6	Chapter6	Chapter6 の精読、語彙
7	Chapter6	前週の続きの精読
8	Chapter6,7	Chapter6 の問題演習、小テスト Chapter7 の資料視聴
9	Chapter7	Chapter7r についての語彙、文法チェック テキスト精読
10	Chapter7	前週の復習、内容に関するまとめ
11	Chapter7,8	Chapter7 の問題演習、小テスト Chapter8 の資料の視聴
12	Chapter8	Chapter8 の語彙、精読
13	Chapter8	Chapter8 についての語彙、文法チェック テキスト精読
14	Chapter8	問題演習と小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する

また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"

Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

【参考書】

特に指定なし

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 15 %

提出物 15 %

小テスト 70 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

テキストの中での注釈に不備が散見された

テキストの英語だけでなく扱われているテーマについても

適宜解説しておぎなうような問題が多かったので

資料等に言及する予定です

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身に付ける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時には注意を」前半
3	Chapter 1-2 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時には注意を」後半
4	Chapter 6-1 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」前半

5	Chapter 6-2 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」後半
6	chapter 1,6 のまとめ	chapter 1,6 のまとめと英作文と英作文
7	Chapter 11-1 Saving the Environment: Can one person make a difference?	「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」前半
8	Chapter 11-2 Saving the Environment: Can one person make a difference?	「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」後半
9	Chapter 16-1 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question?	「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」前半
10	Chapter 16-2 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question?	「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」後半
11	chapter 11,16 のまとめと英作文	chapter 11,16 のまとめと英作文
12	Chapter 2-1 Watch This: Should the film industry be more socially responsible?	「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」前半
13	Chapter 2-2 Watch This: Should the film industry be more socially responsible?	「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」後半
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著、成美堂、2017 年、1,900 円 + 税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。授業への貢献 15 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 5 % 欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor make from other materials.

LANe100LA

英語3

2017年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れなければならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したりスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身に付ける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2回の授業で1つのchapterを扱う。

授業の初めにテキストから作成したりスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

chapterごとに前半後半に分けて2回、復習の小テストを実施する。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Chapter 7-1 More Than Enough: Are some people just too rich?	「十分すぎるほどの資産：裕福すぎる人もいる？」前半講読
3	Chapter 7-2 More Than Enough: Are some people just too rich?	「十分すぎるほどの資産：裕福すぎる人もいる？」後半講読
4	Chapter 12-1 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」前半講読

- | | | |
|----|---|--|
| 5 | Chapter 12-2 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals? | 「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」後半講読 |
| 6 | Chapter 7.12 のまとめと英作文 | Chapter 7,12 のまとめと英作文 |
| 7 | Chapter 17-1 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real? | 「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」前半講読 |
| 8 | Chapter 17-2 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real? | 「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」後半講読 |
| 9 | Chapter 3-1 Girl Power: Do female action stars really empower women? | 「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」前半講読 |
| 10 | Chapter 3-2 Girl Power: Do female action stars really empower women? | 「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」後半講読 |
| 11 | Chapter 17,3 のまとめと英作文 | Chapter 17,3 のまとめと英作文 |
| 12 | Chapter 8-1 Look Around: Are some people too attached to smartphones? | 「周りをよく見て：スマホ依存症の人もいる？」前半講読 |
| 13 | Chapter 8-2 Look Around: Are some people too attached to smartphones? | 「周りをよく見て：スマホ依存症の人もいる？」後半講読 |
| 14 | まとめと期末テスト | まとめと期末テスト、解説 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。

小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017 年, 1,900 円+税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。

授業への貢献 15 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 5 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from other materials.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読むだけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
- ②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
- ③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
- ④わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に内容を推測できる
- ⑤各履修者が自分に合った、継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合がありますが、グループやペアワークで確認してもらった場合が多いのでしっかり予習しましょう。

基本的にひとつの文章につき2回授業を行い、2回の授業が終了した次の回で復習のための小テストを行います。学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に2回行います。ライティング課題は講師が添削して返却し、小テスト・試験は解説を行います。ライティング課題は講師が添削して返却し、小テスト・試験は解説を行います。

※この授業はハイブリッド型です。対面の週と Zoom の週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

※進捗や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブサイトやアプリケーションの紹介	PC を利用した演習
3	Security Cameras ① CHAPTER 2	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
4	Security Cameras ② CHAPTER 2	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察

5	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ① CHAPTER 4	CHAPTER 2 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
6	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ② CHAPTER 4	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
7	中間試験	試験の実施、解説、復習
8	Extreme Sports ① CHAPTER 6	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
9	Extreme Sports ② CHAPTER 6	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
10	Casinos and Gambling ① CHAPTER 7	CHAPTER 6 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
11	Casinos and Gambling ② CHAPTER 7	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
12	Spouse Hunting ① CHAPTER 8	CHAPTER 7 の小テスト、エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
13	Spouse Hunting ② CHAPTER 8	エッセイの読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント

*授業には必ず辞書を持参してください。

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 15%、小テスト 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、スピーキングのアクティビティも適宜取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom を使用します。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will review and reinforce English vocabulary, pronunciation, and grammar they learned in high school. Students will also learn how to read passages of multiple paragraphs without using a dictionary, guessing the meanings of unknown words from the context.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は英語 1 からのステップアップとして、英語の文章の構造に留意しながら英文を速く正確に読み取る訓練を行います。これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、Introduction/Body/ Conclusion Paragraph, Thesis Statement, Topic Sentence といった英文の構成をすばやく把握する能力を身につけます。また、読んだ英文を要約し、関連するトピックに対する意見を簡潔な英文で表現するパラグラフ・ライティングの練習を行います。

【到達目標】

この授業は以下の 6 つを到達目標とします：

- ①長文の英語を正確にかつ速く読みとることができる
- ②現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要な語彙力を増やす
- ③わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測することができる
- ④英語の文章の構成をすばやく把握する能力を習得する
- ⑤英文の内容を要約する方法を身につける
- ⑥読んだ英文に関連するトピックに関する自分の意見を簡潔な英文で表現する方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読みます。ひとつの文章につき 2 回の授業を行います。1 回目は文章の構成や内容、注意すべき文法事項などを確認します。教師が確認する場合がありますが、グループやペアワークで確認してもらい場合もあるのでしっかり予習しましょう。2 回目は読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。グループやペアワークが中心となりますが、講師が適宜説明やアドバイスをしています。

学習内容の理解を確認・復習するための試験を学期中に 2 回行います。ライティング課題は講師が添削して返却し、小テスト・試験は解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Becoming a World Heritage Site ① CHAPTER10	記事の読解、英語の文章の構成
2	Becoming a World Heritage Site ② CHAPTER10	記事の読解、Thesis Statement
3	Driverless Cars ① CHAPTER11	記事の読解、Main Point
4	Driverless Cars ② CHAPTER11	記事の読解、Topic Sentence
5	The Lay-Judge System in Japan ① CHAPTER12	記事の読解、Supporting Sentence

6	The Lay-Judge System in Japan ② CHAPTER12	記事の読解、Concluding Sentence
7	中間試験	試験の実施、解説、復習
8	Artificial Intelligence ① CHAPTER13	記事の読解、要約
9	Artificial Intelligence ② CHAPTER13	記事の読解、要約
10	Life-prolonging Treatment ① CHAPTER14	記事の読解、意見を表現する
11	Life-prolonging Treatment ② CHAPTER14	記事の読解、意見を表現する
12	Trusting Statistics ① CHAPTER15	記事の読解、要約、意見を表現する
13	Trusting Statistics ② CHAPTER15	記事の読解、要約、意見を表現する
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。また、講師の指示に従って授業で読んだ英文の要約や、そのトピックに関する意見を短い英文で書いてきてもらうこともあります。期末試験は普段の予習と、テスト前の復習をしっかりすれば確実に得点できるはずです。

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント * 授業には必ず辞書を持参してください。

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 15%、ライティング課題 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。原則として欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

講師による文法事項や本文内容の解説に昨年度よりも少し長い時間をかけ、学生の理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやスマートフォン、タブレットを使用します。詳細は授業で指示します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will learn paragraph structure (e.g. Introduction/Body/Conclusion, Thesis Statement, and Topic Sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストコロナリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。(フィードバック方法について)リアクションペーパーに書かれた質問は全て次回の授業で取り上げて回答します。また、授業で扱った内容に対するコメントはクラス全体で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明。グループ、発表の順番決め、『リスニング・ハンドブック』の説明。
2	"Colonialism and Imperialism"	精読。割り当てられたグループによる発表。
3	"Colonialism and Imperialism"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
4	"Theories of Colonial Discourses"	精読。割り当てられたグループによる発表。
5	"Theories of Colonial Discourses"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
6	"Reading Orientalism (Part 1)"	精読。割り当てられたグループによる発表。
7	"Reading Orientalism (Part 1)"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
8	"Reading Orientalism (Part 2)"	割り当てられたグループによる発表。
9	"Reading Orientalism (Part 2)"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
10	"Imagining the Nation: Forging Tradition and History"	精読。割り当てられたグループによる発表。

11	"Imagining the Nation: Forging Tradition and History"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
12	"The Disenchantment with Nationalism"	精読。割り当てられたグループによる発表。
13	"The Disenchantment with Nationalism"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
14	"English in the Colonies"	精読。割り当てられたグループによる発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英文の課題にも取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバルゼーションへ』, John McLeod, 木村茂雄他編注 (英宝社, 2015)。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』(東京:研究社, 1999), および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題含む平常点 (20%) と 2 回の試験 (80%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。

病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。また、難解な箇所の説明にも今まで以上に力を入れたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn how to read "post-colonialism" through an introductory book and discuss what is needed in the world of "globalisation".

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期科目「英語 1」に引き続いて、ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。（フィードバック方法について）リアクションペーパーに書かれた質問は全て次回の授業で取り上げて回答します。また、授業で扱った内容に対するコメントはクラス全体で共有できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明。グループ、発表の順番決め。
2	"English in the Colonies"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
3	"Interrogating the Text"	精読。割り当てられたグループによる発表。
4	"Interrogating the Text" (前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
5	"The 'Double Colonisation' of Women"	精読。割り当てられたグループによる発表。
6	"The 'Double Colonisation' of Women"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。
7	"Migration, Colonialism and Decolonisation"	精読。割り当てられたグループによる発表。
8	"Migration, Colonialism and Decolonisation"(前回の続き)	割り当てられたグループによる発表。
9	"Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"	精読。割り当てられたグループによる発表。
10	"Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。

- | | | |
|----|---|----------------------------------|
| 11 | "Globalisation and 'Postcoloniality' the New Imprium? (Part 1)" | 精読。割り当てられたグループによる発表。 |
| 12 | "Globalisation and 'Postcoloniality' the New Imprium? (Part 2)" | 精読。割り当てられたグループによる発表。 |
| 13 | 関連する英文記事 (1) | 関連する英文記事で新しいものを選んで読み、内容について議論する。 |
| 14 | 関連する英文記事 (2) | 関連する英文記事について議論する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英文の課題にも取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバルゼーションへ』, John McLeod, 木村茂雄他編注 (英宝社, 2015)。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』(東京: 研究社, 1999), および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題を含めた平常点 (20%) と 2 回の試験 (80%) から総合的に評価します。

あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。

病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。リスニングのコツについても丁寧に説明するつもりです。

【Outline and objectives】

Following the course in the spring term, students will learn how to read "post-colonialism" and what is needed in the world of "globalisation".

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。

この授業で皆さんは、

- ・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面で対応できるようにする
 - ・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
 - ・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
 - ・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
- ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。

授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

記事内容の要点・感想ほか課題類の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。提出物の一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
2	Unit 3 (1)	コアラが森林火災の犠牲に Saving the Fire Victims Who Cannot Flee: Australia's Koalas 小テスト (前回の続き)
3	Unit 3 (2)	Climate change and natural disasters 上流階級育ちの坊ちゃんの中身の無い自信に気をつけろ Beware the posh boy's hollow self-confidence 小テスト (前回の続き)
4	Unit 4 (1)	The socio-economic structure in the UK ノート型パソコンのリサイクルでの代償：タイで有毒ガスが The Price of Recycling Old Laptops: Toxic Fumes in Thailand's Lungs 小テスト (前回の続き)
5	Unit 4 (2)	The environmental impact of e-waste 他の人たちよりもずっと感染力が強い人たちがいる理由 Why Are Some People So Much More Infectious than Others? 小テスト (前回の続き)
6	Unit 5 (1)	How to save black and Hispanic lives in a pandemic 疫病の渦中で必要なのはフランスではペストリーとワイン、米国ではゴルフと銃 What's essential? In France, pastry and wine -- in the US, golf and guns 小テスト (前回の続き)
7	Unit 5 (2)	Some activities reflect a national identity. iPhone のはるか前に無線社会の基礎を築いた人たち They Laid Foundation for a Wireless Society 小テスト (前回の続き)
8	Unit 6 (1)	The 2019 Nobel Prize winners in chemistry Unit 8 のフィードバック 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。
9	Unit 6 (2)	
10	Unit 7 (1)	
11	Unit 7 (2)	
12	Unit 8 (1)	
13	Unit 8 (2)	
14	試験・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間以上を標準とします）。

具体的には、

・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。

・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずですよ。

・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種類など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2021 Edition —（15章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2021年度版—）』、朝日出版社、2021年、1200円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が70%、後者が30%を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、**Summary** と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

欠席および遅刻について

学期中に4回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積3回で欠席1回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの1年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入學したのですから、ただごまかし続けて1年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Unitごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。

加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には英語 1 と変わりません。

ただし、英語 1 からの「ステップアップ」であるため、英語 1 で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 9 (1)	サウジアラビア社会の変化はコーヒーハウスを覗けば分かる Saudi Society Is Changing. Just Take a Look at These Coffeehouses.
2	Unit 9 (2)	(前回の続き) As the government relaxes restrictions on men and women working and socializing together, coffeehouses are on the front lines of change.
3	Unit 10 (1)	移民流入は壁では阻止できない An Immigrant Influx That a Wall Won't Deter
4	Unit 10 (2)	(前回の続き) Millions Who Legally Enter the United States as Students or Tourists Never Go Back
5	Unit 12 (1)	ソマリアの若者たち、政府機能不全の地域に足を踏み入れる Young Somalis Step in Where Government Fails

6	Unit 12 (2)	(前回の続き) The rebuilding process in Somalia after the Shabab's control ended
7	Unit 13 (1)	新国籍法への反対運動が荒れ狂う が、インドはヒンドゥ教国となる のか As Protests Rage on Citizenship Bill, Is India Becoming a Hindu Nation?
8	Unit 13 (2)	(前回の続き) Anti-Muslim policies under Mr. Modi's government
9	Unit 14 (1)	急激な変化：ガイアナは石油で裕 福になったが、民族間の緊張も 増大 'It Changed So Fast.' Oil Is Making Guyana Wealthy but Intensifying Tensions
10	Unit 14 (2)	(前回の続き) A new oil-producing economy which left the agricultural majority doomed
11	Unit 15 (1)	カルロス・ゴーンの大脱走劇 The Great Escape: How Carlos Ghosn became the world's most famous fugitive
12	Unit 15 (2)	(前回の続き) Once a hero in Japan, Carlos Ghosn's news conference unlikely to restore his image
13	予備日およびパラグラフ・ライティング指導	学期中に進行が遅れていた場合は この回で調整します。 また、パラグラフ・ライティング の指導も行ないます。 いずれにせよ、必ず出席して下さい。
14	試験・まとめと解説	年度全体の授業の講評 筆記試験の実施の要領は英語 1 の時と同じです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします）。

具体的には、

・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさながらにこまめに辞書を引かなければいけません。

・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。

・段落全体を見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。

・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知ってそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2021 Edition —（15 章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2021 年度版— ）』、朝日出版社、2021 年、1200 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。・欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの 1 年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入學したのですから、ただごまかし続けて 1 年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合いしていく契機として活用しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるできるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。春学期は対面授業ではなく、学習支援システムを用いて授業を行います。学習支援システムを通してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 課題（1）調査報告	授業の進め方の解説
2	課題（2） 言語と文化（1）	異文化理解
3	課題（3） 言語と文化（2）	文化の衝突
4	課題（4） 言語と文化（3）	英語公用語化
5	課題（5） 社会と環境（1）	環境破壊
6	課題（6） 社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験 まとめ	課題（1）～（6）の テキスト及び解説から 出題
8	課題（7） 経済と社会（1）	南北問題
9	課題（8） 経済と社会（2）	国際紛争
10	課題（9） 経済と社会（3）	児童労働
11	課題（10） 技術と人間（1）	臓器移植
12	課題（11） 技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	課題（12） 技術と人間（3）	インターネット中毒

14 学期末試験、まとめ 課題(7)～(12)の
テキストと解説から
出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストの英文を読み、必ず課題に取り組んでください。また、学習支援システムの「教材セクション」にある「解説」をしっかりと読み、前の週の復習をしてください。中間・期末試験では、課題と課題の解説から試験を出題します。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 60 %

試験（中間・期末） 40 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

英語3

2017年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	経済と社会（2）	経済格差
8	経済と社会（3）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（4）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 60 %

試験 40 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを旨とする。

【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題について

英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト内のチャプターに関連する映像を視聴したあと、テキストの内容にそって

語彙学習、精読などを行う。問題演習ののちに適宜小テストで確認する。

基本的にフィードバックは次回とする

感染症拡大の状況を鑑みて一部オンライン授業とし、対面とのハイブリッド形式で授業を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	授業の進め方についての説明、および Chapter1 で言及されている資料の視聴
2	Chapter1	Chapter1 についての語彙、文法チェック テキスト精読
3	Chapter1	前週の復習、および続きの精読
4	Chapter1	前週の続きの精読
5	Chapter1,2	Chapter1 小テストおよびまとめの問題演習 Chapter2 の資料の視聴
6	Chapter2	Chapter2 についての語彙、文法チェック テキスト精読
7	Chapter2	前週の復習、内容に関するまとめ
8	Chapter2	前週の続きの精読
9	Chapter2,3	Chapter2 の問題演習と小テスト、Chapter3 の資料視聴
10	Chapter3	Chapter3 についての語彙、文法チェック テキスト精読
11	Chapter3	前週の復習、内容に関するまとめ
12	Chapter3,4	Chapter3 の問題演習、小テスト、Chapter4 の資料視聴
13	Chapter4	Chapter4 語彙練習と精読
14	Chapter4	前週の続きの精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されている映像についての概要を把握する
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"
Johnson Cheu 編 國友万裕/安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

【参考書】

都度指示します

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 15 %

提出物 15 %

小テスト 70 %

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

使用教科書の中での注釈等があまり正しくない箇所が散見された
また英語のみならず元が論文集ということで内容が多少難しいが
適宜補足予定

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

英語3

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かれない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを旨とする。

【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題について

英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際
文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習を行った後、

問題演習と小テストで確認を行う。

基本対面授業の予定だが、感染拡大時などは一部オンデマンドでの
授業も検討する。

その場合は次週の資料等でのフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter4,5	Chapter4 について問題演習、小テスト、Chapter5 の資料視聴
2	Chapter5	Chapter5 の語彙、精読
3	Chapter5	前週の続き、復習
4	Chapter5	前週の復習、内容に関するまとめ
5	Chapter5,6	Chapter5 の問題演習、小テスト ならびに Chapter6 の資料視聴
6	Chapter6	Chapter6 の精読、語彙
7	Chapter6	前週の続きの精読
8	Chapter6,7	Chapter6 の問題演習、小テスト Chapter7 の資料視聴
9	Chapter7	Chapter7 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
10	Chapter7	前週の復習、内容に関するまとめ
11	Chapter7,8	Chapter7 の問題演習、小テスト Chapter8 の資料の視聴
12	Chapter8	Chapter8 の語彙、精読
13	Chapter8	Chapter8 についての語彙、文法 チェック テキスト精読
14	Chapter8	問題演習と小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する

また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"

Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注 (松本恵美 井上裕子
轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子) 英宝社 2000 円＋税

【参考書】

特に指定なし

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 15 %

提出物 15 %

小テスト 70 %

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

テキストの中での注釈に不備が散見された

テキストの英語だけでなく扱われているテーマについても

適宜解説しておぎなうような問題が多かったので

資料等に言及する予定です

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

英語2

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】

Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This will be an online (Zoom),real-time class. Please see HOPPII, the University's Learning Management System, for more details. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term. Students who will be accessing Zoom on campus in the designated classroom should bring a headset (with microphone) to class so as to ensure privacy and minimize disruptions to others.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and self-introductions
Class 2	Textbook unit 1 Extreme Sports	Formulating and supporting opinions
Class 3	Textbook unit 1 Extreme Sports	Group discussion: Pros & cons of hosting the Tokyo Olympics
Class 4	Textbook unit 2 Identity Theft	Asking for and giving advice
Class 5	Textbook unit 2 Identity Theft	Group discussion: Giving advice on how to avoid identity theft
Class 6	Writing Workshop	Writing clear & concise sentences (in-class practice).
Class 7	Textbook unit 3 Space Exploration	Making and confirming predictions
Class 8	Textbook unit 3 Space Exploration	Group discussion: Future of space tourism
Class 9	Textbook unit 4 Being Persuasive	Using logical and emotional appeals

Class 10	Textbook unit 4 Being Persuasive	Group discussion: Comparative advertising (Japan vs. US)
Class 11	Individual Speech	3-5 minute talk on a. What makes you different from other people? or b. What makes Japan different from other countries?
Class 12	Individual Speech	3-5 minute talk on a. What makes you different from other people? or b. What makes Japan different from other countries?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final exam (units 1-4)	Online exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students can expect homework each week (approximately 1-2 hours) in terms of reviewing previous class material, reading assignments and weekly English journal entries to supplement and reinforce key class concepts.

【テキスト（教科書）】

NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson) ISBN 978-0-13-404981-6 (¥3,564)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

*Assignment 1—Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)

*Assignment 2—Prepare a 3-5 speech on

- What makes you different from other people? or,
- What makes Japan different from other countries?

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to be using a desktop, laptop or tablet computer equipped with a camera and microphone.

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】

Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

The class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and student interviews
Class 2	Textbook unit 5 Careers	Using follow-up questions to extend conversations
Class 3	Textbook unit 5 Careers	Job interview role play
Class 4	Textbook unit 6 Tourism	Considering all sides of an issue
Class 5	Textbook unit 6 Tourism	3-party simulation (developer / environmental group / local community) on building a new hotel in a developing country
Class 6	Writing workshop	Writing a well-constructed paragraph with topic and supporting sentences
Class 7	Textbook unit 7 Marriage	Using polite expressions to agree & disagree
Class 8	Textbook unit 7 Marriage	Group discussion on the pros & cons of marriage
Class 9	Textbook unit 8 Climate Change	Analyzing & explaining (presenting) data
Class 10	Textbook unit 8 Climate Change	Group discussion on ways to address climate change
Class 11	Individual Speech	3-5 minute talk on a. What would you like to change about yourself? or b. What would you like to change about Japan?

Class 12	Individual Speech	3-5 minute talk on a. What would you like to change about yourself? or b. What would you like to change about Japan?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final Exam (units 6-10)	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students can expect homework each week (approximately 1-2 hours) in terms of reviewing previous class material, reading assignments and weekly English journal entries to supplement and reinforce key class concepts.

【テキスト（教科書）】

NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson)
ISBN 978-0-13-404981-6 (¥3,564)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

*Assignment 1 — Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)

*Assignment 2 — Prepare a 3-5 speech on

a. What would you like to change about yourself? or,

b. What would you like to change about Japan?

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	my major	paper: Why I chose my major
第 3 回	culture	A. handout: What is Culture? How is living in a different culture a challenge? B. make groups for presentations related to student's SA experience.
第 4 回	differences/ commonalities	paper: differences and commonalities between Japanese students and students in your host country.
第 5 回	inside looking out	A. handout: How the U.S. is viewed from an international perspective. B. work on presentations
第 6 回	employment	paper: how studying abroad will set your employment apart from other students.
第 7 回	Social life	A. Discuss the social life that you would like to have while broad. B. work on presentations

第 8 回	childhood experiences	paper: write about several of your favorite childhood experiences.
第 9 回	traveling	A. discuss places that you have been & places that you would like to travel to B. Work on presentations.
第 10 回	final group presentation preparation	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class.
第 11 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 12 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 13 回	get ready	paper: Preparation to study abroad, getting visa, researching host country etc.
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会（¥2,200）

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40% Papers = 35% Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	discuss what you did during your summer break.
第 2 回	my major	paper: what I expect from the SA program
第 3 回	culture	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	loneliness	paper: homesickness while abroad
第 5 回	safety	A. handout: common sense safety while abroad B. work on presentations
第 6 回	opinion	paper: open topic
第 7 回	cultural taboos	A. Discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	food	paper: Write about different food and the Japanese food that you will miss while abroad
第 9 回	traveling	A. Discuss places that you have been & places that you would like to travel to. B. Work on presentations.

第10回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第11回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第12回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第13回	get ready	paper: open topic (student choice)
第14回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会（¥2,200）

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

ジョナサン・エイブル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Themes and situations relevant to the students' needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.

An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

【到達目標】

The goal of this course is to give the student confidence in their practical English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Please see Hoppii for details.The emphasis is on confidence building through practise.

Students will be given varied opportunities to communicate in English with each other and the teacher.

A textbook covering all the English language skills provides an anchor for studies, but extensive extra materials will also be used.

Students will give small-group presentations in class in the middle of the semester on topics relevant to study abroad.

Feedback on assignments will be given to individual students face to face.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Familiarising with the course and teacher.
2	Self-introduction	How to present yourself in class and outside.
3	Language	Looking at the English language and its place in the world.
4	Numbers	A variety of uses for numbers and how we express them.
5	Locations	How to explain and use locations from small to global.
6	Time	The various expressions and importance of time.
7	Preparation for presentations	Topics, group formation and planning for the following week.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	Relationships	Exploring family and other relationships across cultures.
10	Animals	A different set of relationships.
11	Home	Where we live and how it compares with other cultures.

12	Food	What we eat, why and how we eat it.
13	Sport	What, How and Why we play.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Pre-reading texts. Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Global Pre-Intermediate. MacMillan Pub.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 35%

Writing tasks: 20%

Presentation : 20%

Final interview test 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Themes and situations relevant to the students' needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.

An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ジョナサン・エイブル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.

Once again the emphasis is on confidence through practise.

【到達目標】

The goal is to achieve confident communication across cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Please see Hoppii for details.n these classes students will address the wider world, communicating their own opinions and responding to those of others.

Continuing with the same basic text we will also use other media from host countries to explore daily life and cultural context.

There will be small-group presentations in class.

Feedback on assignments will be given face to face to individual students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course content including writing example.
2	Entertainment	Movies, TV, Games and how we use them.
3	News	How we get our news. Writing week.
4	Work	Jobs in Japan and across the world.
5	Skills	What we can and can't do. Writing week.
6	Education	Learning in different cultures.
7	Presentation preparation	Forming groups, choosing topics and planning for next class.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	People	Examining how we feel about particular people. Writing week.
10	Weather	The seasons and weather as cultural phenomena.
11	Travelling	Good and bad experiences. Writing week.
12	Life events	Examining rites of passage.
13	Life on earth	Discussing nature. Writing week.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Pre-reading texts. Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Global Pre-Intermediate. MacMillan Pub.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 35%

Writing tasks: 20%

Presentation : 20%

Final interview test 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.

Once again the emphasis is on confidence through practise.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

榎木 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communication skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills—reading, writing, listening and speaking— although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given in class or via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation – What to expect
2	Being descriptive (1)	Using adjectives
3	Being descriptive (2)	Describing yourself and others
4	Asking Questions (1)	Asking for the 5W1H
5	Asking Questions (2)	Flow and continuance
6	Format (1)	How to write an academic essay
7	Discussion (1)	Being clear and persuasive – structure
8	Discussion (2)	Being clear and persuasive – support
9	Format (2)	Evaluation /Peer editing
10	Summarizing (1)	What is a summary?
11	Summarizing (2)	Diagramming, para-phrasing, quoting
12	Presentation (1)	stress / pronunciation / intonation

13	Presentation (2)	voice control / body language / effective audio-visual materials
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given in class.

【テキスト（教科書）】

Material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

榎木 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】

Building on the achievements of English 2, the goal of this course is for students to further develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deeper understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills – reading, writing, listening and speaking – although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese dishes
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations

12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation
13	Culture (3)	What is "intercultural communication"?
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation (writing scripts for presentation, reading the designated material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given by the instructor.

【テキスト（教科書）】

Material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2) essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom. Please see HOPPII for further instructions about how to join our Zoom sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending Money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)	<ul style="list-style-type: none"> ● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested. ● This class will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus need to prepare a headset. ● We will use online applications, such as Google Classroom, Zoom and HOPPII. Please check HOPPII regularly for further instructions about how to join our Zoom sessions, Google Classroom, etc. <p>【その他の重要事項】 The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.</p> <p>【Outline and objectives】 Learning English for active communication in the international environment</p>
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job	
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation	
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.	
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Reading: Pro gaming as a dream career; Vocabulary review	
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of	
Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)	
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic	
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】

English to English dictionary:
<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Presentations: 40%

- Writing assignments and tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom. Please see HOPPII for further instructions about how to join our Zoom sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading assignment: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parrotting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives

Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】

English to English dictionary: <https://dictionary.cambridge.org/>
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Presentations: 40%

- Writing assignments and tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

- Textbook.
- Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
- This class will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus need to prepare a headset.
- We will use online applications, such as Google Classroom, Zoom and HOPPII. Please check HOPPII regularly for further instructions about how to join our Zoom sessions, Google Classroom, etc.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & 1A Questions and answers	explanation of class requirements; question formation
2	1A Job interview	interview questions, figuring out meaning from context
3	1B "The Mystery of the Lighthouse Keepers"	auxiliary verbs
4	1B Personality test	compound adjectives, modifiers
5	2A Illnesses and injuries	present perfect simple and continuous
6	2A "Confessions of a cyberchondriac"	writing an informal email
7	2B Age-gap friendship	using adjectives as nouns
8	2B Dressing one's age	clothes and fashion
9	3A Air Travel	narrative tenses, past perfect continuous

10	3A "Routine flight goes 'batty'"	irregular past forms, sentence rhythm
11	3B 50 word stories	the position of adverbs and adverbial phrases
12	3B "The Necklace"	writing a short story.
13	4A Stormy weather	future perfect and future continuous
14	4A Climate stories	vowel sounds, modifiers with strong adjectives

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【その他の重要事項】

The textbook comes with an access code for an online course component. Please make sure to buy a textbook with a valid access code.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines).

Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	4B A risky business	zero and first conditionals
2	4B Extreme sports	expressions with "take"
3	5A I'm a survivor	feelings, word stress
4	5A Lost in the jungle	unreal conditionals
5	5B Wish you were here	wish for the present/ future, expressing feelings with verbs or -ed/-ing adjectives
6	5B Regrets	wish for past regrets, sentence rhythm
7	6A The way we used to sleep	used to, be used to, get used to
8	6A Facts about sleep	causal explanations
9	6B Music and emotion	gerunds and infinitives
10	6B Music while you work	foreign words used in English
11	7A Arguments: "Let's not argue"	past modals: must, have etc.

12	7A How to win an online argument	verbs often confused
13	7B How to improve your acting skills	verbs of the senses, the body
14	7B How to spot a liar; Semester review.	silent consonants; book revision.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】

Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This will be an online (Zoom), real-time class. Please see HOPPII, the University's Learning Management System, for more details. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term. Students who will be accessing Zoom on campus in the designated classroom should bring a headset (with microphone) to class so as to ensure privacy and minimize disruptions to others.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and self-introductions
Class 2	Textbook unit 1 Extreme Sports	Formulating and supporting opinions
Class 3	Textbook unit 1 Extreme Sports	Group discussion: Pros & cons of hosting the Tokyo Olympics
Class 4	Textbook unit 2 Identity Theft	Asking for and giving advice
Class 5	Textbook unit 2 Identity Theft	Group discussion: Giving advice on how to avoid identity theft
Class 6	Writing Workshop	Writing clear & concise sentences (in-class practice).
Class 7	Textbook unit 3 Space Exploration	Making and confirming predictions
Class 8	Textbook unit 3 Space Exploration	Group discussion: Future of space tourism
Class 9	Textbook unit 4 Being Persuasive	Using logical and emotional appeals

Class 10	Textbook unit 4 Being Persuasive	Group discussion: Comparative advertising (Japan vs. US)
Class 11	Individual Speech	3-5 minute talk on a. What makes you different from other people? or b. What makes Japan different from other countries?
Class 12	Individual Speech	3-5 minute talk on a. What makes you different from other people? or b. What makes Japan different from other countries?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final exam (units 1-4)	Online exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students can expect homework each week (approximately 1-2 hours) in terms of reviewing previous class material, reading assignments and weekly English journal entries to supplement and reinforce key class concepts.

【テキスト（教科書）】

NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson)
ISBN 978-0-13-404981-6 (¥3,564)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

*Assignment 1—Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)

*Assignment 2—Prepare a 3-5 speech on

- What makes you different from other people? or,
- What makes Japan different from other countries?

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to be using a desktop, laptop or tablet computer equipped with a camera and microphone.

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語 4

2017年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】

Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

The class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and student interviews
Class 2	Textbook unit 5 Careers	Using follow-up questions to extend conversations
Class 3	Textbook unit 5 Careers	Job interview role play
Class 4	Textbook unit 6 Tourism	Considering all sides of an issue
Class 5	Textbook unit 6 Tourism	3-party simulation (developer / environmental group / local community) on building a new hotel in a developing country
Class 6	Writing workshop	Writing a well-constructed paragraph with topic and supporting sentences
Class 7	Textbook unit 7 Marriage	Using polite expressions to agree & disagree
Class 8	Textbook unit 7 Marriage	Group discussion on the pros & cons of marriage
Class 9	Textbook unit 8 Climate change	Analyzing & explaining (presenting) data
Class 10	Textbook unit 8 Climate change	Group discussion on ways to address climate change
Class 11	Individual speech	3-5 minute talk on a. What would you like to change about yourself? or b. What would you like to change about Japan?

Class 12	Individual speech	3-5 minute talk on a. What would you like to change about yourself? or b. What would you like to change about Japan?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final Exam (units 6-10)	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students can expect homework each week (approximately 1-2 hours) in terms of reviewing previous class material, reading assignments and weekly English journal entries to supplement and reinforce key class concepts.

【テキスト（教科書）】

NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson)
ISBN 978-0-13-404981-6 (¥3,564)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

*Assignment 1 — Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)

*Assignment 2 — Prepare a 3-5 speech on

a. What would you like to change about yourself? or,

b. What would you like to change about Japan?

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	my major	paper: Why I chose my major
第 3 回	culture	A. handout: What is Culture? How is living in a different culture a challenge? B. make groups for presentations related to student's SA experience.
第 4 回	differences/ commonalities	paper: differences and commonalities between Japanese students and students in your host country.
第 5 回	inside looking out	A. handout: How the U.S. is viewed from an international perspective. B. work on presentations
第 6 回	employment	paper: how studying abroad will set your employment apart from other students.
第 7 回	Social life	A. Discuss the social life that you would like to have while broad. B. work on presentations

第 8 回	childhood experiences	paper: write about several of your favorite childhood experiences.
第 9 回	traveling	A. discuss places that you have been & places that you would like to travel to B. Work on presentations.
第 10 回	final group presentation preparation	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class.
第 11 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 12 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 13 回	get ready	paper: Preparation to study abroad, getting visa, researching host country etc.
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会（¥2,200）

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40% Papers = 35% Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	discuss what you did during your summer break.
第 2 回	my major	paper: what I expect from the SA program
第 3 回	culture	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	loneliness	paper: homesickness while abroad
第 5 回	safety	A. handout: common sense safety while abroad B. work on presentations
第 6 回	opinion	paper: open topic
第 7 回	cultural taboos	A. Discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	food	paper: Write about different food and the Japanese food that you will miss while abroad
第 9 回	traveling	A. Discuss places that you have been & places that you would like to travel to. B. Work on presentations.

第10回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第11回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第12回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第13回	get ready	paper: open topic (student choice)
第14回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会（¥2,200）

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom. Please see HOPPII for further instructions about how to join our Zoom sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending Money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Reading: Pro gaming as a dream career; Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of
Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】

English to English dictionary:
<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Presentations: 40%

- Writing assignments and tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

● This class will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus need to prepare a headset.

● We will use online applications, such as Google Classroom, Zoom and HOPPII. Please check HOPPII regularly for further instructions about how to join our Zoom sessions, Google Classroom, etc.

【その他の重要事項】

The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom. Please see HOPPII for further instructions about how to join our Zoom sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading assignment: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parrotting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives

Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】

English to English dictionary: <https://dictionary.cambridge.org/>
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Presentations: 40%

- Writing assignments and tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

- Textbook
- Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
- This class will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus need to prepare a headset.
- We will use online applications, such as Google Classroom, Zoom and HOPPII. Please check HOPPII regularly for further instructions about how to join our Zoom sessions, Google Classroom, etc.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines).

Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & 1A Questions and answers	explanation of class requirements; question formation
2	1A Job interview	interview questions, figuring out meaning from context
3	1B "The Mystery of the Lighthouse Keepers"	auxiliary verbs
4	1B Personality test	compound adjectives, modifiers
5	2A Illnesses and injuries	present perfect simple and continuous
6	2A "Confessions of a cyberchondriac"	writing an informal email
7	2B Age-gap friendship	using adjectives as nouns
8	2B Dressing one's age	clothes and fashion
9	3A Air Travel	narrative tenses, past perfect continuous

10	3A "Routine flight goes 'batty'"	irregular past forms, sentence rhythm
11	3B 50 word stories	the position of adverbs and adverbial phrases
12	3B "The Necklace"	writing a short story.
13	4A Stormy weather	future perfect and future continuous
14	4A Climate stories	vowel sounds, modifiers with strong adjectives

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【その他の重要事項】

The textbook comes with an access code for an online course component. Please make sure to buy a textbook with a valid access code.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. —

Students will work individually, and with a partner and in small groups (on Zoom, and in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines).

Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be quizzes during and at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	4B A risky business	zero and first conditionals
2	4B Extreme sports	expressions with "take"
3	5A I'm a survivor	feelings, word stress
4	5A Lost in the jungle	unreal conditionals
5	5B Wish you were here	wish for the present/ future, expressing feelings with verbs or -ed/-ing adjectives
6	5B Regrets	wish for past regrets, sentence rhythm
7	6A The way we used to sleep	used to, be used to, get used to
8	6A Facts about sleep	causal explanations
9	6B Music and emotion	gerunds and infinitives
10	6B Music while you work	foreign words used in English
11	7A Arguments: "Let's not argue"	past modals: must, have etc.

12	7A How to win an online argument	verbs often confused
13	7B How to improve your acting skills	verbs of the senses, the body
14	7B How to spot a liar; Semester review.	silent consonants; book revision.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

A computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera is needed to take part in Zoom meetings. Google Classroom will also be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline and objectives】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

佐藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Communication and academic skills in English

【到達目標】

Through this course students will develop confidence and skill in using English as a means of self-expression and learning. More specifically, students will learn the following:

- 1) many vocabulary items
- 2) basics of effective oral communication
- 3) critical thinking
- 4) current affairs and cultural issues
- 5) basics of group discussion
- 6) basics of group presentation
- 7) basic rules of email writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. Each class centres around pair and group work based on reading and/or listening homework on current affairs and/or cultural issues. The overall class atmosphere is friendly and informal. The lessons will be given in English and online via Zoom given the on-going Covid-19 crisis. Important information will be distributed via HOPPIL, and the notifications will be sent to your *Hosei email address*. Students have opportunities to ask questions, give opinions, and voice concerns etc both in class and in a post-lesson questionnaire conducted after each lesson. Feedback on these will be typically given in the next lesson. Feedback on the homework and presentations will be given in class and/or via HOPPIL.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction,	Communicative activities,
	getting to know each other	plans for the semester
2	Basics of oral communication, understanding	Conversation, vocabulary quiz 1, comprehension check on reading HW on Topic 1, Current Issue 1
3	Planned speech, Basics of group discussion, discussing Current Issue 1 (1)	Show & Tell 1, group discussion (1) on Topic 1
4	Planned speech, Discussing Current Issue 1 (2)	Show & Tell 2, group discussion (2) on Topic 1

5	Unplanned speech, discussing Current Issue 1 (3), basics of group presentation (1)	Conversation, group discussion (2) on Topic 1	【学生が準備すべき機器他】 A computer (preferable) or a mobile phone is necessary to attend our Zoom lessons. A headset is needed to avoid audio feedback if you take the lesson/s on campus. Students are also required to use slides (e.g. PowerPoint) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g. Word).
6	Unplanned speech, basics of group presentation (2), preparing for Presentation 1	Conversation, preparation for the group presentation on Topic 1	【Outline and objectives】 Communication and academic skills in English
7	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1	
8	Feedback on Presentation 1, unplanned speech, understanding Current Issue 2	Conversation, peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary Quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check	
9	Planned speech, discussing Current Issue 2 (1)	Show & Tell 3, group discussion on Topic 2	
10	Planned speech, discussing Current Issue 2 (2)	Show & Tell 4, group discussion on Topic 2	
11	Unplanned speech, discussing Current Issue 2 (3)	Conversation, group discussion	
12	Unplanned speech, preparing for Presentation 2	Conversation, preparation for the group presentation on Topic 2	
13	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2	
14	Feedback on Presentation 2, unplanned speech, recap of the semester & student feedback	Peer- and teacher feedback on presentation 2, recap of the semester, student feedback	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is assigned. Materials and homework information will be distributed via HOPP.II.

【参考書】

Good dictionaries that suit your level and need

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 25%

Homework and quizzes: 40%

Presentations: 35%

Please note that any student who misses the equivalent of more than 3 classes will not pass this course except in extreme circumstances. Please also note that absence does not excuse students from doing homework. When absent, students are also responsible for obtaining information etc by contacting the teacher and/or other students and for coming back to class in the following week with all the preparation done.

【学生の意見等からの気づき】

Although conducted online, this course seems to have enabled students to enjoy "talking" to each other in English, make friends, and develop a sense of community through its many communicative activities. Students also felt discussion and presentation skills very useful, and the topics interesting.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

佐藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Communication and academic skills in English

【到達目標】

Students will develop greater confidence and skill in using English as a means of self-expression and learning. More specifically, students will learn and/or practise the following:

- 1) many vocabulary items
- 2) basics of effective oral communication
- 3) basics of clear English pronunciation
- 4) critical thinking
- 5) group discussion skills
- 6) group presentation skills
- 7) current affairs and cultural issues
- 8) basics of academic writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. Each class centres around pair and group work based on reading and/or listening homework on current affairs and/or cultural issues. The overall class atmosphere is friendly and informal. The lessons will be given in English and online via Zoom given the on-going Covid-19 crisis. Important information will be distributed via HOPPII, and the notifications will be sent to your *Hosei email address*. Students have opportunities to ask questions, give opinions, and voice concerns etc both in class and in a post-lesson questionnaire conducted after each lesson. Feedback on these will be typically given in the next lesson. Feedback on the homework and presentations will be given in class and/or via HOPPII.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome back, plans for the semester	Communicative activities, plans for the semester
2	Unplanned speech 1, understanding Current Issue 1, basics of essay writing (1)	Conversation, vocabulary quiz 1, comprehension check on reading HW on Topic 1, basics of essay writing (1)
3	Planned speech, discussing Current Issue 1 (1), basics of essay writing (2)	Show & Tell 1, group discussion (1) on Topic 1, basics of essay writing (2)
4	Planned speech, discussing Current Issue 1 (2), basics of essay writing (3)	Show & Tell 2, group discussion (2) on Topic 1, basics of essay writing (3)

5	Unplanned speech, discussing Current Issue 1 (3), preparing for Presentation 1	Conversation, group discussion (2) on Topic 1, preparation for the group presentation on Topic 1
6	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1
7	Feedback on Presentation 1, unplanned speech, understanding Current Issue 2	Conversation, peer- and teacher feedback on presentation 1, Vocabulary Quiz on reading HW on Topic 2, reading HW comprehension check
8	Planned speech, discussing Current Issue 2 (1)	Show & Tell 3, group discussion on Topic 2
9	Planned speech, discussing Current Issue 2 (2)	Show & Tell 4, group discussion on Topic 2
10	Unplanned speech, discussing Current Issue 2 (3)	Conversation, group discussion
11	Unplanned speech, preparing for Presentation 2	Conversation, preparation for the group presentation on Topic 2
12	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2
13	Feedback on Presentation 2, sharing essay drafts	Peer- and teacher feedback on presentation 2, share & discuss essay drafts
14	Recap of the semester, student feedback, sharing essays	recap of the semester, student feedback, sharing & discussing essays

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is assigned. Materials and homework information will be distributed via HOPPII.

【参考書】

Good dictionaries that suit your level and need

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 25%

Homework and quizzes: 35%

Presentations & an essay: 40%

Please note that any student who misses the equivalent of more than 3 classes will not pass this course except in extreme circumstances. Please also note that absence does not excuse students from doing homework. When absent, students are also responsible for obtaining information etc by contacting the teacher and/or other students and for coming back to class in the following week with all the preparation done.

【学生の意見等からの気づき】

Although conducted online, this course seems to have enabled students to enjoy "talking" to each other in English, make friends, and develop a sense of community through its many communicative activities. Students also felt discussion, presentation, and essay writing skills very useful, and the topics interesting.

【学生が準備すべき機器他】

A computer (preferable) or a mobile phone is necessary to attend our Zoom lessons. A headset is needed to avoid audio feedback if you take the lesson/s on campus. Students are also required to use slides (e.g. PowerPoint) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g. Word).

【Outline and objectives】

Communication and academic skills in English

LANe100LA

英語2

2017年度以降入学者

榎木 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communication skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills—reading, writing, listening and speaking— although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given in class or via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation – What to expect
2	Being descriptive (1)	Using adjectives
3	Being descriptive (2)	Describing yourself and others
4	Asking Questions (1)	Asking for the 5W1H
5	Asking Questions (2)	Flow and continuance
6	Format (1)	How to write an academic essay
7	Discussion (1)	Being clear and persuasive – structure
8	Discussion (2)	Being clear and persuasive – support
9	Format (2)	Evaluation /Peer editing
10	Summarizing (1)	What is a summary?
11	Summarizing (2)	Diagramming, paraphrasing, quoting
12	Presentation (1)	stress / pronunciation / intonation

13	Presentation (2)	voice control / body language / effective audio-visual materials
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation (writing scripts for presentation, reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2) essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

榎木 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】

Building on the achievements of English 2, the goal of this course is for students to further develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deeper understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills – reading, writing, listening and speaking – although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese dishes
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations

12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation
13	Culture (3)	What is “intercultural communication”?
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the designated material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given by the instructor.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class or posted on the Class Support System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline and objectives】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語5

2017年度以降入学者

TOBY TRAUB

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines. handout discussion activities
2	Unit 1: Getting to Know Each Other Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Unit 1 Environmental Issues Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

4	The Way we Live Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	10	Unit 3: Swim against the stream. Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Unit 2 Technology: Friend or Foe Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	11	Unit 4: What will your verse be? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
6	Unit 2 Political Refugees Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	12	The road less traveled. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment. Tips for the Quiz Quiz Song lesson
7	Protests and dissent Research report/ mini- Presentations Connecting the dots Love and Loss Death	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	13	Meritocracy and Theocracy Quiz Song lesson	Go over quiz Speaking activity
8	Music and Art Unit 3: Global thinking Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	14	Wrap-up	
9	Unit 3: Seize the day Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete a writing assignment every week in preparation for discussion. This writing assignment will usually require research. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】
These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.
<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】
Class participation: 40%
Quizzes, writing assignments, presentations:60%
Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course. Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

This syllabus is subject to revision, and likely will change based on the students' needs, and topics will be based on relevant social issues of the moment.

Quizzes are not testing your English ability, but on the content of the course.

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of the world with an emphasis on American social, political, and popular culture.

LANe100LA

英語6

2017年度以降入学者

TOBY TRAUB

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome back	What I did over summer break. Recent happenings in the news. Research and writing assignment.
2	Homelessness Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Art and War Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

4	Human Compassion Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	10	Fabulous Japan Draft of words of presentations due. Current events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Is telling lies bad? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.	11	Christmas and holidays. 5 Powerpoints due Christmas/holiday comprehension skill building activity.Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
6	Immigration good, or bad? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.	12 13	Presentation Day. Song lesson My Winter break Pandemics	Tips for the Quiz Song lesson Discussion activity. No homework except to study for big quiz.
7	How neighborhoods happen. Introduce big presentation. Create teams. Go over expectations.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.	14	Big quiz	Quiz Games Puzzle
8	Rules versus freedom Presentation topics due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.			
9	Japan surveillance state. Outline of presentations due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are given a writing assignment almost every week. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>

<https://www.japantimes.co.jp/news/>

<https://www.yahoo.com/news/>

<http://www.bbc.com/news>

<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations:60%

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture.

LANe100LA

英語5

2017年度以降入学者

ラスカイル L. ハウザー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 5: Academic writing and presentation skills.

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.

- 13 Transitions 1 An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
- 14 Transitions 2 Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations: 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

More attention will be put on pair and group work than in the past.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English 5: Academic writing and presentation skills. Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語6

2017年度以降入学者

ラスカイル L. ハウザー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing causes and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.

13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Additional materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations: 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This year, more emphasis will be put on pair and group work.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English 5: Academic writing and presentation skills.

Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively

LANe100LA

英語5

2017年度以降入学者

KANG CHIA-WEI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 5 is a 4-Skills required course for 1st-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills with a focus on communicative reading and writing. This course's objective brings out the communicative elements of reading and writing through pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will demonstrate their critical thinking skills by expressing their insights and opinions in group discussions, presentations, and written forms. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

【到達目標】

The goals of the course are for students:

1.To learn and apply strategic listening skills to aid listening comprehension

2.To develop speaking skills and practice new expressions through output activities

3.To learn how to use skimming and scanning to identify main ideas and supporting details

4.To learn how to write various types of paragraphs effectively through writing exercises and assignments

5.To apply critical thinking strategies in analyzing texts

6.To become better independent language learners

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

The instructor would like to create a “safe” learning environment for students. “Safe” means that students can try to express their opinions and understand others’ viewpoints without feeling judged. The overall class vibe is informal. Students participate in various activities involving reading, writing, listening, and speaking. Students are expected to listen to others and interact with others actively in group discussions. While presenting their topics, students should use audio-visual aids.

Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback to in-class discussions. Students will receive a graded presentation rubric with the instructor’s written comments for presentations and paragraphs.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/Unit 1: Happiness	Course orientation, Icebreaking, Unit 1: Pre-reading activities

Lesson 2	Unit 1: Happiness	Reading 1: "Is There a Recipe for Happiness?" Reading Skills, Critical Thinking Skills, Discussions	Paragraph Writings: 40% (4 paragraphs: 10% each) Presentation: 10%
Lesson 3	Unit 1: Happiness	Reading 2: "Four Keys to Happiness," Group discussion based on the given response sheet. Opinion paragraph writing	Attendance policy: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. 【学生の意見等からの気づき】 None 【学生が準備すべき機器他】 We are going to use Hoppii and Zoom for the course, so when you attend the Zoom session on campus, you need a headset.
Lesson 4	Unit 2: Inventive Solutions	Unit 2: Pre-reading activities Reading 1: "The Power of Creativity," Reading Skills	【Outline and objectives】
Lesson 5	Unit 2: Inventive Solutions	Writing Workshop 1 Critical Thinking Skills, Discussions	English 5 is a 4-Skills required course for 1st-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills with a focus on communicative reading and writing. This course's objective brings out the communicative elements of reading and writing through pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will demonstrate their critical thinking skills by expressing their insights and opinions in group discussions, presentations, and written forms. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.
Lesson 6	Unit 2: Inventive Solutions	Reading 2: "Big Ideas, Little Packages?" Group discussion based on the given response sheet. Problem/Solution paragraph writing	
Lesson 7	Unit 3: Connected Lives	Unit 3: Pre-reading activities Reading 1: "The Power of Crowds," Reading Skills	
Lesson 8	Unit 3: Connected Lives	Writing Workshop 2 Critical Thinking Skills, Discussions	
Lesson 9	Unit 3: Connected Lives	Reading 2: "Internet Island," Group discussion based on the given response sheet. Descriptive paragraph writing	
Lesson 10	Unit 5: Memory and Learning	Unit 5: Pre-reading activities Reading 1: "The Art of Memory," Reading Skills	
Lesson 11	Unit 5: Memory and Learning	Writing Workshop 3 Critical Thinking Skills, Discussions	
Lesson 12	Unit 5: Memory and Learning	Reading 2: "Sleep and Memory," Group discussion based on the given response sheet. Paragraph writing	
Lesson 13	Individual Presentation	Individual Presentation	
Lesson 14	Individual Presentation/Review	Individual Presentation Writing Workshop 4	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
 “University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.” This course is a one-credit course; thus, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations around 1 hour a week.

【テキスト（教科書）】

Title: Pathways Reading and Writing Book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)

Publisher: Cengage Learning

ISBN: 978-1-33-762511-1

Price: ¥ 3,270

【参考書】

Bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 20%

Homework and quizzes: 30% (10 homework assignments: 3%, including 4 vocabulary quizzes, 4 response sheets, and 2 extra assignments)

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

KANG CHIA-WEI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6 is a 4-Skills required course for 1st-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills with a focus on communicative reading and writing. This course's objective brings out the communicative elements of reading and writing through pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will demonstrate their critical thinking skills by expressing their insights and opinions in group discussions, presentations, and written forms. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

【到達目標】

The goals of the course are for students:

- 1.To learn and apply strategic listening skills to aid listening comprehension
- 2.To develop speaking skills and practice new expressions through output activities
- 3.To learn how to use skimming and scanning to identify main ideas and supporting details
- 4.To learn how to write various types of essays effectively through writing activities and assignments
- 5.To learn how to properly quote and cite sources
- 6.To apply critical thinking strategies in analyzing texts
- 7.To become better independent language learners

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Please see Hoppii for details.

The instructor would like to create a “safe” learning environment for students. “Safe” means that students can try to express their opinions and understand others’ viewpoints without feeling judged. The overall class vibe is informal. Students participate in various activities involving reading, writing, listening, and speaking. Students are expected to listen to others and interact with others actively in group discussions. While presenting their topics, students should use audio-visual aids.

Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback to in-class discussions. Students will receive a graded presentation rubric with the instructor's written comments for presentations and essays.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/Unit 9: Happiness	Course orientation, Icebreaking, Unit 1: Pre-reading activities

Lesson 2	Unit 9: World Languages	Reading 1: “The Future of English,” Reading Skills, Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 3	Unit 9: World Languages	Reading 2: “Vanishing Voices,” Group discussion based on the given response sheet. Persuasive Essay writing
Lesson 4	Unit 7: Global Challenges	Unit 2: Pre-reading activities Reading 1: “A Need for Change,” Reading Skills Writing Workshop 1
Lesson 5	Unit 7: Global Challenges	Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 6	Unit 7: Global Challenges	Reading 2: “Eight Steps to a Sustainable Future,” Group discussion based on the given response sheet. Opinion Essay writing
Lesson 7	Unit 8: Medical Innovations	Unit 8: Pre-reading activities Reading 1: “The Healer of Cordoba,” Reading Skills
Lesson 8	Unit 8: Medical Innovations	Writing Workshop 2 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 9	Unit 8: Medical Innovations	Reading 2: “Medical Frontiers,” Group discussion based on the given response sheet. Research-based Essay writing
Lesson 10	Unit 10: Survival Instinct	Unit 10: Pre-reading activities Reading 1: “Deadly Summit,” Reading Skills
Lesson 11	Unit 10: Survival Instinct	Writing Workshop 3 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 12	Unit 10: Survival Instinct	Reading 2: “Breath of Life,” Group discussion based on the given response sheet. Individual Presentation
Lesson 13	Individual Presentation	
Lesson 14	Individual Presentation/Review	Individual Presentation/Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。*“University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.” This course is a one-credit course; thus, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations around 1 hour a week.

【テキスト（教科書）】

Title: Pathways Reading and Writing Book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)

Publisher: Cengage Learning

ISBN: 978-1-33-762511-1

Price: ¥ 3,270

【参考書】

Bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 20%

Homework and quizzes: 30% (10 homework assignments: 3%, including 4 vocabulary quizzes, 4 response sheets, and 2 extra assignments)

Essay Writings: 35% (3 essays: first 2 essays 10% each and the final essay 15%)

Presentation: 15%

Attendance policy: In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

We are going to use Hoppii and Zoom for the course, so when you attend the Zoom session on campus, you need a headset.

【Outline and objectives】

English 5 is a 4-Skills required course for 1st-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills with a focus on communicative reading and writing. This course's objective brings out the communicative elements of reading and writing through pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will demonstrate their critical thinking skills by expressing their insights and opinions in group discussions, presentations, and written forms. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

LANe100LA

英語5

2017年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be able to use English to talk about various topics.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents	gay issues, coming out
	Presentation preparation-structure	Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families	splitting time with parents
	Presentation preparation - physical elements	body language and voice
Week 8	Errands	errands and chores
	Presentation preparation-visual elements I	slide backgrounds
week 9	Neighborhoods	suburban, countryside, metro
	Presentation preparation- visual elements II	slide fonts
week 10	Parties types	types- wedding, house
	Presentation preparation script practice	warming, birthday, showers using a script to speak

week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes
week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and written), and Internet research. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

World Link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition
978-1-3056-4774-9

【参考書】

textbook, handouts, class blog, selected websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

Homework 40%

Group Presentation 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: “In principle, no more than 3 absences per term are allowed.”

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using four skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

英語6

2017年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc. Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories Presentation preparation	Aesops and others
Week 6	Jobs Presentation preparation-structure	examining jobs in the technology and travel industries Introduction/body/conclusion
Week 7	elements of work Presentation preparation-physical elements	looking at jobs abroad use of voice and body language
Week 8	telecommunications Presentation preparation-visual elements I	land lines, smartphones slide backgrounds
week 9	Telecommunications II Presentation preparation visual elements II	Internet websites font usage

week 10	Travel in Japan Presentation preparation scripts	Areas of Japan Using a script for a speech
week 11	Travel outside Japan Presentation preparation notes usage	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia using notes to make a speech natural
week 12	Presentations on fables	stories from Japan and elsewhere
week 13	Presentations on work	jobs we do: inside and outside
week 14	Presentations on telecommunications	Internet, smartphones, and landlines

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and regular), group presentation preparation. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

World link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition
978-1-3056-4774-9

【参考書】

textbook, handouts, blog website, other websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

Homework 40%

Group presentation 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Email contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

MARK E FIELD

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' receptive (listening and reading) and interactive (speaking and writing) abilities by learning techniques and strategies that help students relate ideas to personal experiences, respond to texts and photos, and synthesize information to overcome limitations. Course content will include extensive reading, listening and vocabulary development, as well as, extensive practice in using spoken and written English in various activities and assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. The first week will meet on Zoom while students register for other classes online. Please see HOPPII, Hosei University's Learning Management System for details.

The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to actively participate in classroom activities, prepare weekly homework assignments, and review lessons at home. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Requirements of the all-English Classroom
2 回	Introductory Strategy:	When in Doubt Ask the Instructor
3 回	Happiness Part 1:	Understanding Meaning from Context
4 回	Happiness Part 2:	Analyzing and Discussing Information
5 回	Happiness Part 3:	Paragraph Writing
6 回	Big Ideas Part 1:	Identifying Key Ideas
7 回	Big Ideas Part 2:	Identifying Part of Speech from Context
8 回	Big Ideas Part 3:	Writing a Descriptive Paragraph

9 回	Connected Lives Part 1:	Skimming for Gist
10 回	Connected Lives Part 2:	Interpreting Maps
11 回	Connected Lives Part 3:	Writing an Opinion Paragraph
12 回	Deep Trouble Part 1:	Understanding Meaning from Context
13 回	Deep Trouble Part 2:	Interpreting Visual Information
14 回	Deep Trouble Part 3:	Writing a Paragraph that Explains a Chart

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Students are expected to prepare weekly paper-based homework assignments at home, do internet-based homework assignments by assigned deadlines, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】

Laurie Blass & Mari Vargo,
Pathways 2: Reading, Writing and Critical Thinking 2nd
edition, Cengage Learning, 2018, ISBN-13: 978-1-337-62511-1

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study
Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination

**Class attendance is a course requirement. Students are
allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and
currently no student survey data is available to support major
changes. Course materials are reviewed periodically and
updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages
students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the
semester. The instructor reserves the right to modify this
course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

This course is for first year Intercultural Communication
students with a strong desire to improve their language skills
before studying abroad in an English-speaking country. The
course will focus on helping students acquire the learning skills
and strategies necessary for students to become more effective
communicators (readers, writers, & speakers).

LANe100LA

英語6

2017年度以降入学者

MARK E FIELD

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is for first year Intercultural Communication
students with a strong desire to improve their language skills
before studying abroad in an English-speaking country. The
course will focus on helping students acquire the learning skills
and strategies necessary for students to become more effective
communicators (readers, writers, & speakers).

【到達目標】

Building on what was studied in the first semester, the goal
of the course is to further develop students' ability to interact
more successfully in English. Course content will include
extensive reading, listening and vocabulary development, as
well as, extensive practice in using spoken and written English
in various activities and assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際
文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

The instructor's roles will be that of a co-communicator,
facilitator, guide and helper. Students will be expected to
actively participate in classroom activities, prepare weekly
homework assignments, and review lessons at home. Students
will receive feedback and comments on homework assignments
and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Reorientation:	How to Become a More Independent Language Learner
2 回	Learning Strategy:	Knowing What You Don't Know
3 回	Dangerous Cures Part 1:	Identifying Pros & Cons
4 回	Dangerous Cures Part 2:	Analyzing and Organizing Information into an Outline
5 回	Dangerous Cures Part 3:	Writing a Persuasive Paragraph
6 回	Nature's Fury Part 1:	Identifying Sequences
7 回	Nature's Fury Part 2:	Synthesizing Information
8 回	Nature's Fury Part 3:	Writing a Process Paragraph
9 回	Building Wonders Part 1:	Scanning for Specific Information
10 回	Building Wonders Part 2:	Using Prior Knowledge to Reflect on Context
12 回	Building Wonders Part 3:	Writing a Comparison Paragraph
12 回	Mobile Revolution Part 1:	Analyzing and Discussing Information

13 回	Mobile Revolution Part 2:	Identifying Problems and Solutions
14 回	Mobile Revolution Part 3:	Writing a Problem Solution Paragraph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Students are expected to prepare weekly paper-based homework assignments at home, do internet-based homework assignments by assigned deadlines, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】

Laurie Blass & Mari Vargo, Pathways 2: Reading, Writing and Critical Thinking 2nd edition, Cengage Learning, 2018, ISBN-13: 978-1-337-62511-1

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination

**Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

LANe100LA

英語5

2017年度以降入学者

ラスカイル L. ハウザー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 5: Academic writing and presentation skills.

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.

- 13 Transitions 1 An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
- 14 Transitions 2 Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English 5: Academic writing and presentation skills.

Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語6

2017年度以降入学者

ラスカイル L. ハウザー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing causes and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.

- 13 Conflict and Reconciliation 1 An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
- 14 Conflict and Reconciliation 2 Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Additional materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

More attention will be put on pair and group work than in the past.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語5

2017年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

国1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be able to use English to talk about various topics.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents	gay issues, coming out
	Presentation preparation-structure	Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families	splitting time with parents
	Presentation preparation - physical elements	body language and voice
Week 8	Errands	errands and chores
	Presentation preparation-visual elements I	slide backgrounds
week 9	Neighborhoods	suburban, countryside, metro
	Presentation preparation- visual elements II	slide fonts
week 10	Parties types	types- wedding, house
	Presentation preparation script practice	warming, birthday, showers using a script to speak

week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes
week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and written), and Internet research. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

World Link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition
978-1-3056-4774-9

【参考書】

textbook, handouts, class blog, selected websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

Homework 40%

Group Presentation 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using four skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

英語6

2017年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

国 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc. Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories Presentation preparation	Aesops and others
Week 6	Jobs Presentation preparation-structure	examining jobs in the technology and travel industries Introduction/body/conclusion
Week 7	elements of work Presentation preparation-physical elements	looking at jobs abroad use of voice and body language
Week 8	telecommunications Presentation preparation-visual elements I	land lines, smartphones slide backgrounds
week 9	Telecommunications II Presentation preparation visual elements II	Internet websites font usage

week 10	Travel in Japan Presentation preparation scripts	Areas of Japan Using a script for a speech
week 11	Travel outside Japan Presentation preparation notes usage	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia using notes to make a speech natural
week 12	Presentations on fables	stories from Japan and elsewhere
week 13	Presentations on work	jobs we do: inside and outside
week 14	Presentations on telecommunications	Internet, smartphones, and landlines

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and regular), group presentation preparation. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

World link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition
978-1-3056-4774-9

【参考書】

textbook, handouts, blog website, other websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

Homework 40%

Group presentation 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Email contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにしていきたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにしていきたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロス、フードロス、コロナなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発進していけるようにする。コロナに関してどのように開発途上国にワクチンが行き渡るのかをも考えていきたいと思う。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回は Zoom で実施します。

教科書である *You, Me and the World* を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回 2～3 人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。また前の授業の復習をしながらフィードバックをして行く。学期末にはそれぞれグループに分かれて 10～15 分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the class. Introducing yourself by interacting with your partner in English.
2	Unit 1 Waste and Recycling	What is happening with our garbage? Think about how we are dealing with our garbage. How much garbage do we throw away each week. Are we doing anything for the environment?
3	Unit 1	What do you we do with our garbage? What can we do with what we cannot throw away as garbage.

4	Unit 1	Role Play What can we do if our incinerator is old and emits dioxin. Also at the same time, the landfill is full. Think of a solution.	【Outline and objectives】 This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.
5	Unit 2 Endangered species	Why are some animals, plants, fish etc becoming extinct or endangered.	
6	Unit 2	What are the reasons of the living creatures' extinction or they being endangered. think of how much Human being is playing a part in this and why.	
7	Unit 2	Do you think endangered species should be protected? Discuss the pros and cons why they should be protected or not.	
8	Unit 3 Rainforests	What is happening to the rainforests? Why are they important? Why are they being destroyed?	
9	Unit 3	Discuss what should be done to save rainforests and why.	
10	Unit 4 Global warming. Start preparing for the presentation	"What are the causes of global warming? What is a presentation. The class will be divided into groups and each group will think of a theme connected to global warming. The presentation is 10-15 minutes. Explain the presentation using a power point."	
11	Unit 4 Preparing for the presentation	What are the effects of global warming? What can we do to prevent global warming? Preparing for the presentation.	
12	Unit 4 Preparing for the presentation	How do we deal with the problems of global warming. Preparing for the presentation.	
13	Presentation	Presentation	
14	Exam	Exam of what was studied during the semester.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation."

【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)

David Peaty

Kinseido

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学でZoom授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1992年に Severne Suzuki がリオの会議で発表したものも読んでいきたいと思う。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていきたい。

【到達目標】

世界で起こっている環境問題ならびに様々な問題に深く取り組んで行く。開発途上国の抱える問題、先進国が与える影響などを考えていく。また環境問題に関して英語で話せるようにしていく。昨年は Greta Thunberg が世界ので環境問題に対して将来の危機に関して発信していた。私たちも彼女に見習い環境問題に取り組まなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちに何ができるかを探っていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書である You, Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回2～3人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。先進国の開発途上国への影響をかんがえる。また前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。学期末にはそれぞれグループに分かれて10～15分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation of the questionnaire during the summer holidays	Depending on the situation of Covid 19, presentation of the result of the questionnaire to the foreigners during the summer holidays.
2	Unit 5 Energy	Think about where energy comes from. Why do we use fossil energy?
3	Unit 5	Think about where energy comes from. Is there any other energy we can use instead of fossil fuel? What is renewable energy and sustainable energy? How can we save energy?
4	Unit 5	Discussion on energy resources. Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.

5	Reading the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.	Reading the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.
6	Speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.	Speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.
7	Unit 6. Developing countries	What is happening in the developing countries. What can we do to help them.
8	Unit 6	Talk about the problems existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems.
9	Unit 6	Talk about the problems existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems
10	Unit 6	What is Village Concern trying to do? Why do you think Village Concern doing this.
11	Unit 7 Prepare for the presentation	"What kind of right do we have? Can we exercise our rights on anything? Prepare for the presentation."
12	Unit 7 Prepare for the presentation	How do we feel about the following issues. Discuss the death penalty, know exactly how your tax money is spent, parents to use physical punishment at home, physical punishment at school and treatment towards ethnic minorities.
13	Presentation Test Exam	Presentation Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 2 hours a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)
David Peaty
Kinseido

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。欠席4回以上の場合単位取得は不可である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to deepen their knowledge towards environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English. We will also focus on the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

【到達目標】

英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダ ンス	1 年間の予定、授業の 進め方などを説明す る。	1 年間の授業の予定、進め方など を説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章 を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習す る。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseasies (1)	Diseasies (1) を学習する。
Chapter 5	Diseasies (2)	Diseasies (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習す る。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を 学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習す る。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、
Semester 内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能
になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students
will first read an English text without a dictionary and a
general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【到達目標】

英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。
試験	試験を行う。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The World (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円+税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and get a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】

テキストの読解や設問、確認テストを通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
- ④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1 Multi-Cultural UK	Reading 1: White Flight
3	Chapter 1 Multi-Cultural UK	Reading 2: Fear of Increasing Immigration
4	Chapter 2 English Gardens	Reading 1: Public Gardens
5	Chapter 2 English Gardens	Reading 2: Private Gardens
6	Chapter 3 The British Royal Family	Reading 1: Constitutional Monarchy
7	Chapter 3 The British Royal Family	Reading 2: Princess Diana - Her Legacy

8	Chapter 4 Education in the UK	Reading 1: The Education System
9	Chapter 4 Education in the UK	Reading 2: Issues for the Universities
10	Chapter 5 Eating in Britain	Reading 1: Typical British Dining
11	Chapter 6 Eating in Britain	Reading 2: Poor Diet
12	Chapter 6 Health & the Medical System	Reading 1: The National Health Service (NHS)
13	Chapter 6 Health & the Medical System	Reading 2: The Corona Virus Pandemic
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてくてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James C. House, Michiko Miyoshi『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』2021 年、松柏社、2,000 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

Through reading stories and doing exercises in the textbook “Modern Britain: Culture, Society and History” consists of various topics about Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】

テキストの読解や設問、確認テストを通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
- ④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 Music & Fashion	Reading 1: Liverpool, the Beatles and more
2	Chapter 7 Music & Fashion	Reading 2: Fashion in the UK
3	Chapter 8 Tourism	Reading 1: Outbound Tourism
4	Chapter 8 Tourism	Reading 2: Inbound Tourism
5	Chapter 9 Post Brexit Britain	Reading 1: Is the Future of the UK in Europe?
6	Chapter 9 Post Brexit Britain	Reading 2: Uncertainly for Pensioners Living Abroad
7	Chapter 10 Leisure & Sport in the UK	Reading 1: Leisure Queens
8	Chapter 10 Leisure & Sport in the UK	Reading 2: Football in Britain
9	Chapter 11 The British Empire	Reading 1: British Empire Survey

10	Chapter 11 The British Empire	Reading 2: Nostalgia for the British Empire in Hong Kong
11	Chapter 12 Media in the UK	Reading 1: Social Networking the UK
12	Chapter 12 Media in the UK	Reading 2: The BBC's Reporting
13	Chapter 13 Regions of Britain	Regions of the UK
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてくださいます。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James C. House, Michiko Miyoshi『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』2021 年、松柏社、2,000 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

Through reading stories and doing exercises in the textbook “Modern Britain: Culture, Society and History” consists of various topics about Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。毎回リスニング小テストを行い、読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。リスニング小テスト、読解関連の課題、Listening&Dictation には、授業内で解答を示す。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第 2 回	Listening 小テスト 1 教科書英文 Reading のポイント 1	Ceremony 聴解 文体の特徴 1：構文
第 3 回	Listening 小テスト 2 教科書英文 Reading のポイント 2	School Life 聴解 文体の特徴 2：文法・語法
第 4 回	Listening 小テスト 3 Lesson 3 Higher Education	Transportation 聴解 Can the Humanities be Saved? 英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Outdoor Activities 聴解 How Far Will People Go? 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 Lesson 1 Language	Weather 聴解 A Review of the Professor and the Madman 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 Lesson 5 The Environment	Holiday Plans 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing

第 8 回	Listening 小テスト 7 環境問題新聞記事	Resort Area 聴解 Brazil's Deforestation 英文読解、コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 英語を書く 1	Directions 聴解 「これをやると大減点」のよくある誤り
第 10 回	Listening 小テスト 9 英語を書く 2	Job Experience 聴解 「日本語を英単語に置き換えるだけでは英文にならない」
第 11 回	Listening 小テスト 10 パラグラフ Writing 1	Summer Sale 聴解 Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ
第 12 回	Listening 小テスト 11 パラグラフ Writing 2	Review Test1・2 聴解 英文パラグラフ作成 1
第 13 回	パラグラフ Writing 3	英文パラグラフ作成 2
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために辞書を引くなどの予習が必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. 南雲堂
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60点、平常点 40点の合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに見たこともない単語が並んでいて難しいという意見があった。Academic Reading だけでなく Vocabulary 強化を意図して作られたテキストであるため、知らない単語が出ているのは当然である。難しい語彙の学習をしてから本文を読む手順にし、鋭意わかりやすい解説を心掛ける。また、Writing が苦手な学生もいるが、Reading で学習したことをもとにして Writing もできるよう努力してほしい。

【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。毎回リスニング小テストを行い、読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。リスニング小テスト、読解関連の課題、Listening&Dictation には、授業内で解答を示す。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Restaurant 聴解 Mapping the Brain 英文読解、 コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Arts & Entertainment 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Sports Events 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Having a Party 聴解 No Shoot! 語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Health 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Christmas 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 12 Cybercrime	Cleanup 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コ メント Writing

第 8 回	Listening 小テスト 8 経済新聞記事	Our Traditions & Customs 聴解 マイクロファイナンス英文読解、 コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 9 英語を書く 1	Examinations 聴解 英作文 35 の基本文
第 10 回	Listening 小テスト 10 英語を書く 2	Housing 聴解 引用と参考文献表示
第 11 回	Listening 小テスト 11 エッセイ論理展開学習	Review Test3・4 聴解 英語長文の論理展開
第 12 回	エッセイ Writing 1	英文エッセイ作成 1
第 13 回	エッセイ Writing 2	英文エッセイ作成 2
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験・ま とめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために辞書を引くなどの予習が必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. 南雲堂
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60点、平常点 40点の合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに見たこともない単語が並んでいて難しいという意見があった。Academic Reading だけでなく Vocabulary 強化を意図して作られたテキストであるため、知らない単語が出ているのは当然である。難しい語彙の学習をしてから本文を読む手順にし、鋭意わかりやすい解説を心掛ける。また、Writing が苦手な学生もいるが、Reading で学習したことをもとにして Writing もできるよう努力してほしい。

【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンラインの週があります。オンラインの週はオンデマンド（資料型）を基本とし、質疑応答の機会を適宜 Google Meet（リアルタイム）にて設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、初回（第 1 回：イントロダクション）の授業は、対面で行う予定です。

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Chapter 1	Fake Online Reviews
第 3 回	Chapter 2	Could I Become a YouTuber?
第 4 回	Chapter 3	Selling Viral Videos Makes Big Money
第 5 回	Chapter 1 ~ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ~ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 4	Retro Video Games Become Popular Again
第 7 回	Chapter 5	Why Don't We Ask Siri?
第 8 回	Chapter 6	Uncanny Valley
第 9 回	Chapter 7	Toddlers and Technology
第 10 回	Chapter 4 ~ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ~ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表

第 11 回 Chapter 8	No More Game-Changing Technology?
第 12 回 Chapter 9	Waiting in Line for Delicious New Food
第 13 回 Chapter 10	Sympathy for the Delivery Man
第 14 回 学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。

語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Meet

大学でリアルタイムオンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンラインの週があります。オンラインの週はオンデマンド（資料型）を基本とし、質疑応答の機会を適宜 Google Meet（リアルタイム）にて設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、初回（第 1 回：イントロダクション）の授業は、対面で行う予定です。

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体的内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Chapter 11	Black Friday
第 3 回	Chapter 12	Graduation Trips
第 4 回	Chapter 13	Aspects of Sneaker Culture
第 5 回	Chapter 11 ~ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ~ Chapter 13 のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 14	The Union Jack as Fashion Symbol
第 7 回	Chapter 15	Trends in Fitness
第 8 回	Chapter 16	Smart Rings
第 9 回	Chapter 17	Photogenicity

第10回	Chapter 14 ~ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ~ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第11回	Chapter 18	Stress Relief
第12回	Chapter 19	Young Women Turn to Gaming
第13回	Chapter 20	Young People and Criticism
第14回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。

語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900円(税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%)、授業態度・授業内に課した課題(ライティング課題の提出と発表を重視)や小テストと各回のコメントを含む平常点(40%)によって総合的に評価する。

4回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻2回は欠席1回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Meet

大学でリアルタイムオンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - I

2017年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

環1年：英語6組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英国 (Britain) についての文を読み、Britain について理解し、英語の読解力を養う。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アットランダムに学生を指し、教科書の英文を読み、口頭で問題に答える。なお、一回の授業で、2 Units 進むつもりですが、学生の進路に合わせて、無理なら、分量を減らします。課題を課す場合は、Hoppii（学習支援システム）に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	Zoom でオンラインで授業を行う。詳細は、Hoppii（学修支援システム）を参照してください。テキストの説明、辞書の使い方について説明する。学生さんたちには自己紹介を日本語でもらう。カメラとマイクとパソコンの用意をしておいてください。なお、スマートフォンでも Zoom は可能です。教科書はこの日までになるべく買って置いてください。
2	Unit 1 The Brexit Referendum & Unit 2 The New Mayor of London	対面授業。Brexit などの国民投票について学ぶ。ロンドン市長について学ぶ。テキストの予習復習をする。 この日までに教科書を手に入れましょう。
3	Unit 3 Brits on Bikes & Unit 4 Oxford and Cambridge: Looking to the Future	対面授業。自転車好きな英国人について学ぶ。オックスフォードとケンブリッジについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
4	Unit 5 A Profile of Cornwall & Unit 6 The Cost of Being Young Today	対面授業。コーンウォールについて学ぶ。「ジェネレーション Y」について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5	Unit 7 It All Began at Rugby School & Unit 8 Britain and the Sea	対面授業。ラグビー校について学ぶ。英国の海とのつながりについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
6	Unit 9 Images of Scotland & Unit 10 "The New Look": Beards and Tattoos	対面授業。スコットランドについて学ぶ。英国の髭や刺青について学ぶ。テキストの予習復習をする。

7	Unit 11 The Japanese in Britain & Unit 12 Health Matters	対面授業。英国と日本についての関係について学ぶ。英国の NHS という社会保障制度について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8	Unit 13 The House of Windsor: Crisis and Continuity & Unit 14 The Changing London Skyline	対面授業。現在の英王室ウィンザーについて学ぶ。ロンドンの街の建築物、その変化について学ぶ。テキストの予習復習をする。
9	Unit 15 Women's Rights: A Look through History & Unit 16 Women in Britain Today: A Report	対面授業。英国の女性問題について学ぶ。現在の英国の女性の社会進出について学ぶ。テキストの予習復習をする。
10	Unit 17 The White Rose of York & Unit 18 Charles Dickens: Childhood and Christmas	対面授業。ヨークシャーについて学ぶ。英国を代表する文豪チャールズ・ディケンズについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
11	Unit 19 The Great British Bake Off	対面授業。英国の食生活について学ぶ。テキストの予習復習をする。
12	Unit 20 Brits Abroad	対面授業。英国を離れて暮らす英国人について学ぶ。テキストの予習復習をする。
13	予備日	対面授業。授業の進行が遅れた時に備えて、この時間を取っておく。なお、テキストがもう終わっていたら、プリントを配布してそれを読む。
14	まとめテスト	対面授業。まとめ 前期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle & Atsushi Mukuhira 『Britain at a Watersheds』成美堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最後の授業のテストを 60%、平常点を 40% で計算します。課題の未提出、欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書
テキスト

【Outline and objectives】

Reading a text called *Britain at a Watershed*, and develop English reading skills.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本で最近に起こった、話題になったこと 15 個を取り上げたテキストを読みながら、英語の読解力アップを目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

各授業で予習をしてきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。その後、各章の読解を確認する問題を解いていきます。課題を課す場合は、Hoppii に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	前期のテキストの残った章を読む。きっと、Unit 12 Fukushima Watch: Who Wrote the New Anti-Nuke Novel?	前期に飛ばした、Unit 12『原発ホホワイトアウト』という本について学ぶ。後期テキストの説明、辞書の説明。前期テストの返却。後期のテキストを買っておく。
2 回目	Unit 1 5 Things You Didn't Know about Kawaii	対面授業。Kawaii の美学について学ぶ。テキストの予習復習しておく。
3 回目	Unit 2 Uniqlø Finds Wealth of Data in Bangladesh Not-For-Profit Venture	対面授業。ユニクロが蓄積したお宝データについて学ぶ。テキストの予習復習しておく。
4 回目	Unit 3 When the B List Is Best	対面授業。味が勝負の B 級グルメについて学ぶ。テキストの予習復習しておく。
5 回目	Unit 4 Harvard Degree: The Political Economy of Kumamon	対面授業。くまモンの政治経済学について学ぶ。テキストの予習復習しておく。
6 回目	Unit 5 Saving Fukuoka's Street Food	対面授業。福岡の屋台文化の歴史について学ぶ。テキストの予習復習しておく。
7 回目	Unit 6 A Japanese Artis Finds New Life a Year after the Quake	対面授業。ある芸術家（奈良美智）の再生と「成長」について学ぶ。テキストの予習復習しておく。
8 回目	Unit 7 Fictional Japanese TV Banned naked Takes Double the Payback	対面授業。ドラマ『半沢直樹』ヒットの構造について学ぶ。テキストの予習復習しておく。

9 回目	Unit 8 As Sentiment Improves. Red Lipstick Back in Vogue	対面授業。赤い口紅と景気の関係について学ぶ。テキストの予習復習をしておく。
10 回目	Unit 9 Japan's Aging, Female Criminals?	対面授業。女性受刑者の倍増と犯罪のグローバル化について学ぶ。テキストの予習復習をしておく。
11 回目	Unit 10 Cult TV Travwelogue Let's You Share Wednesday's Ride	対面授業。『水曜どうでしょう』のロングヒットの秘密について学ぶ。テキストの予習復習をしておく。
12 回目	Unit 11 Want to Cosplay? Then Lose that Sword	対面授業。コスプレを安全に楽しむ方法について学ぶ。テキストの予習復習をしておく。
13 回目	Unit 15 New for Valentine's Day in Japan: No Men	対面授業。新しいバレンタインデーの潮流について学ぶ。テキストの予習復習をしておく。
14 回目	復習 まとめ テスト	対面授業。復習/まとめを行う。課の復習をしておく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストの予習復習をしておく。Matching Words & Phrases を辞書を活用して予習し、本文を辞書を活用して読め、かつ、訳せるように予習し、True/False, How to Read a Paragraph の本文理解の質問に答えておく。英作文については予習して解けるようにしておく。Listening Summary は授業の最後に CD を使って行う。

【テキスト（教科書）】

宮本文『15 Things Happening in Japan 1: From < A Hit Drama "Hanzawa Naoki" to < Yoshitomo Nara's New Life >』松柏社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、学期末テストを60%で計算します。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Reading a textbook called *15 Things Happening in Japan 1*, develop English reading skills and come to know many incidents occurred in Japan recently.

LANe100LA

English 1 - I

2017年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

環1年：英語7組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにしていきたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにしていきたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。

温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロスなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発進していけるようにする。また前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the class. Introducing yourself by interacting with your partner in English.
2	Unit 1 Waste and Recycling	What is happening with our garbage? Think about how we are dealing with our garbage. How much garbage do we throw away each week. Are we doing anything for the environment?
3	Unit 1	What do you do with our garbage? What can we do with what we cannot throw away as garbage.
4	Unit 1	Role Play What can we do if our incinerator is old and emits dioxin. Also at the same time, the landfill is full. Think of a solution.
5	Unit 2 Endangered species	Why are some animals, plants, fish etc becoming extinct or endangered.

6	Unit 2	What are the reasons of the living creatures' extinction or they being endangered. think of how much Human being is playing a part in this and why.
7	Unit 2	Do you think endangered species should be protected? Discuss the pros and cons why they should be protected or not.
8	Unit 3 Rainforests	What is happening to the rainforests? Why are they important? Why are they being destroyed?
9	Unit 3	Discuss what should be done to save rainforests and why.
10	Unit 4 Global warming. Start preparing for the presentation	What are the causes of global warming? What is a presentation. The class will be divided into groups and each group will think of a theme connected to global warming. The presentation is 10-15 minutes. Explain the presentation using a power point.
11	Unit 4 Preparing for the presentation	What are the effects of global warming? What can we do to prevent global warming? Preparing for the presentation.
12	Unit 4 Preparing for the presentation	How do we deal with the problems of global warming. Preparing for the presentation.
13	Presentation	Presentation
14	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation."

【テキスト（教科書）】

You, Me and the World Second edition

David peaty

Kinseido

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一昨年 Greta Thunburg が世界ので環境問題に対して将来の危機に関して声を発進していました。私たちが彼女に見習い環境問題に取り組まなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていききたい。また1992年に Severne Suzuki がリオの会議で発表したものも読んでいききたいと思う。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていききたい。

【到達目標】

世界で起こっている環境問題ならびに様々な問題に深く取り組んで行く。開発途上国の抱える問題、先進国が与える影響などを考えていく。また環境問題に関して英語で話せるようにしていく。昨年は Greta Thunberg ならびに Severne Suzuki が世界ので環境問題に対して将来の危機に関して発進していた。私たちが彼女たちに見習い環境問題に取り組まなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行き自分たちに何ができるかを探っていききたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書である You, Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回2～3人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。先進国の開発途上国への影響をかながえる。また前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。

学期末にはそれぞれグループに分かれて10～15分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation of the questionnaire during the summer holidays	Depending on how Covid 19 is. Presentation of the result of the questionnaire to the foreigners during the summer holidays.
2	Unit 5 Energy	Think about where energy comes from. Why do we use fossil energy?
3	Unit 5	Discussion on energy resources. Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.
4	Unit 5	Discussion on energy resources. Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.

5	Speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.	Reading the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.
6	Speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki	Speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki. Discuss what you can do to send out a message to people with concrete ideas.
7	"Unit 6. Developing countries"	What is happening in the developing countries. What can we do to help them.
8	Unit 6	Talk about the problems existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems.
9	Unit 6	What is Village Concern trying to do? Why do you think Village Concern doing this.
10	Unit 7 Human rights Start preparing for a presentation	"What is human rights? Does everyone in the world have a human right? Start preparing for a presentation.
11	Unit 7 Prepare for the presentation	What kind of right do we have? Can we exercise our rights on anything? Prepare for the presentation.
12	Unit 7 Prepare for the presentation	How do we feel about the following issues. Discuss the death penalty, know exactly how your tax money is spent, parents to use physical punishment at home , physical punishment at school and treatment towards ethnic minorities.
13	Presentation	Presentation
14	Exam	Exam on what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 2 hours a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)
David Peaty
Kinseido

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。

4回以上の欠席の場合は単位の取得は不可である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline and objectives】

This class is to enhance the students to deepen their knowledge towards environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English. We will also focus on the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

【到達目標】

英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダ	1年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseasies (1)	Diseasies (1) を学習する。
Chapter 5	Diseasies (2)	Diseasies (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
復習	復習と試験を行う。	試験・まとめと解説 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、
 セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能
 になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【Outline and objectives】

Learn how to read English quickly and accurately. Students will first read an English text without a dictionary and get a general idea of the full content, then examine the text in detail.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【到達目標】

英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間
 環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。
復習と試験	復習と試験を行う。	試験・まとめと解説試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld（世界の主要国） 鳳書房 1,800円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで4回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】

テキストの読解や設問、確認テストを通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
- ④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1 Multi-Cultural UK	Reading 1: White Flight
3	Chapter 1 Multi-Cultural UK	Reading 2: Fear of Increasing Immigration
4	Chapter 2 English Gardens	Reading 1: Public Gardens
5	Chapter 2 English Gardens	Reading 2: Private Gardens
6	Chapter 3 The British Royal Family	Reading 1: Constitutional Monarchy
7	Chapter 3 The British Royal Family	Reading 2: Princess Diana - Her Legacy

8	Chapter 4 Education in the UK	Reading 1: The Education System
9	Chapter 4 Education in the UK	Reading 2: Issues for the Universities
10	Chapter 5 Eating in Britain	Reading 1: Typical British Dining
11	Chapter 6 Eating in Britain	Reading 2: Poor Diet
12	Chapter 6 Health & the Medical System	Reading 1: The National Health Service (NHS)
13	Chapter 6 Health & the Medical System	Reading 2: The Corona Virus Pandemic
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James C. House, Michiko Miyoshi『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』2021年、松柏社、2,000円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

Through reading stories and doing exercises in the textbook “Modern Britain: Culture, Society and History” consists of various topics about Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter.

LANe100LA

English 1 - II

2017年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

環1年：英語9組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】

テキストの読解や設問、確認テストを通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
- ④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 Music & Fashion	Reading 1: Liverpool, the Beatles and more
2	Chapter 7 Music & Fashion	Reading 2: Fashion in the UK
3	Chapter 8 Tourism	Reading 1: Outbound Tourism
4	Chapter 8 Tourism	Reading 2: Inbound Tourism
5	Chapter 9 Post	Reading 1: Is the Future of the UK in Europe?
6	Chapter 9 Post	Reading 2: Uncertainly for Pensioners Living Abroad
7	Chapter 10 Leisure & Sport in the UK	Reading 1: Leisure Queens
8	Chapter 10 Leisure & Sport in the UK	Reading 2: Football in Britain
9	Chapter 11 The British Empire	Reading 1: British Empire Survey

10	Chapter 11 The British Empire	Reading 2: Nostalgia for the British Empire in Hong Kong
11	Chapter 12 Media in the UK	Reading 1: Social Networking
12	Chapter 12 Media in the UK	Reading 2: The BBC's Reporting
13	Chapter 13 Regions of Britain	Regions of the UK
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James C. House, Michiko Miyoshi『現代英国の文化・社会・歴史 Modern Britain: Culture, Society and History』2021年、松柏社、2,000円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline and objectives】

Through reading stories and doing exercises in the textbook "Modern Britain: Culture, Society and History" consists of various topics about Britain, we mainly study how to read the sentences correctly. When we read the sentences, we try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, we have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter.

LANe100LA

English 1 - I

2017年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

環1年：英語10組

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは1パラグラフの要約形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。毎回リスニング小テストを行い、読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。リスニング小テスト、読解関連の課題、Listening&Dictation には、授業内で解答を示す。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第2回	Listening 小テスト1 教科書英文 Reading のポイント1	Ceremony 聴解 文体の特徴1：構文
第3回	Listening 小テスト2 教科書英文 Reading のポイント	School Life 聴解 文体の特徴2：文法・語法
第4回	Listening 小テスト3 Lesson 3 Higher Education	Transportation 聴解 Can the Humanities Saved? 英文読解、コメント Writing
第5回	Listening 小テスト4 Lesson 2 Social Psychology	Outdoor Activities 聴解 How Far Will People Go? 英文読解、コメント Writing
第6回	Listening 小テスト5 Lesson 1 Language	Weather 聴解 A Review of the Professor and the Madman 英文読解、コメント Writing
第7回	Listening 小テスト6 Lesson 5 The Environment	Holiday Plans 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing

第 8 回	Listening 小テスト7 環境問題新聞記事	Resort Area 聴解 Brazil's Deforestation 英文読 解、コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト8 英語を書く1	Directions 聴解 「これをやると大減点」のよくある 誤り
第 10 回	Listening 小テスト9 英語を書く2	Job Experience 聴解 「日本語を英単語に置き換えるだ けでは英文にならない」
第 11 回	Listening 小テスト 10 パラグラフ Writing 1	Summer Sale 聴解 Paragraph Writing を通して英 語の論理展開を学ぶ
第 12 回	Listening 小テスト 11 パラグラフ Writing 2	Review Test1・2 聴解 英文パラグラフ作成1
第 13 回	パラグラフ Writing 3	英文パラグラフ作成2
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験・まと めと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために辞書を引くなどの予習が必要。教科書にある **Listening&Dictation** 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。**Writing** も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. 南雲堂

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、**Writing**・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに見たこともない単語が並んでいて難しいという意見があった。**Academic Reading** だけでなく **Vocabulary** 強化を意図して作られたテキストであるため、知らない単語が出ているのは当然である。難しい語彙の学習をしてから本文を読む手順にし、鋭意わかりやすい解説を心掛ける。また、**Writing** が苦手な学生もいるが、**Reading** で学習したことをもとにして **Writing** もできるよう努力してほしい。

【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。毎回リスニング小テストを行い、読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。リスニング小テスト、読解関連の課題、Listening&Dictation には、授業内で解答を示す。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Restaurant 聴解 Mapping the Brain 英文読解、 コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Arts & Entertainment 聴解 Mapping the Brain 英文読解、 コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Sports Events 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Having a Party 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Health 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Christmas 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 12 Cybercrime	Cleanup 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、 コメント Writing

第 8 回	Listening 小テスト 8 経済新聞記事	Our Traditions & Customs 聴解 マイクロファイナンス英文読解、 コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 9 英語を書く 1	Examinations 聴解 英作文 35 の基本文
第 10 回	Listening 小テスト 10 英語を書く 2	Housing 聴解 引用と参考文献表示
第 11 回	Listening 小テスト 11 エッセイ論理展開学習	Review Test3・4 聴解 英語長文の論理展開
第 12 回	エッセイ Writing 1	英文エッセイ作成 1
第 13 回	エッセイ Writing 2	英文エッセイ作成 2
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために辞書を引くなどの予習が必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. 南雲堂
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60% 以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに見たこともない単語が並んでいて難しいという意見があった。Academic Reading だけでなく Vocabulary 強化を意図して作られたテキストであるため、知らない単語が出ているのは当然である。難しい語彙の学習をしてから本文を読む手順にし、鋭意わかりやすい解説を心掛ける。また、Writing が苦手な学生もいるが、Reading で学習したことをもとにして Writing もできるよう努力してほしい。

【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンラインの週があります。オンラインの週はオンデマンド（資料型）を基本とし、質疑応答の機会を適宜 Google Meet（リアルタイム）にて設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、初回（第 1 回：イントロダクション）の授業は、対面で行う予定です。テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Chapter 1	Fake Online Reviews
第 3 回	Chapter 2	Could I Become a YouTuber?
第 4 回	Chapter 3	Selling Viral Videos Makes Big Money
第 5 回	Chapter 1 ~ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ~ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 4	Retro Video Games Become Popular Again
第 7 回	Chapter 5	Why Don't We Ask Siri?
第 8 回	Chapter 6	Uncanny Valley
第 9 回	Chapter 7	Toddlers and Technology
第 10 回	Chapter 4 ~ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ~ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表

第 11 回	Chapter 8	No More Game-Changing Technology?
第 12 回	Chapter 9	Waiting in Line for Delicious New Food
第 13 回	Chapter 10	Sympathy for the Delivery Man
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Meet

大学でリアルタイムオンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。対面の週とオンラインの週があります。オンラインの週はオンデマンド（資料型）を基本とし、質疑応答の機会を適宜 Google Meet（リアルタイム）にて設けます。詳細は学習支援システムでお知らせします。なお、初回（第 1 回：イントロダクション）の授業は、対面で行う予定です。

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Chapter 11	Black Friday
第 3 回	Chapter 12	Graduation Trips
第 4 回	Chapter 13	Aspects of Sneaker Culture
第 5 回	Chapter 11 ~ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ~ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 14	The Union Jack as Fashion Symbol
第 7 回	Chapter 15	Trends in Fitness
第 8 回	Chapter 16	Smart Rings
第 9 回	Chapter 17	Photogenicity

第 10 回	Chapter 14 ~ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ~ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 18	Stress Relief
第 12 回	Chapter 19	Young Women Turn to Gaming
第 13 回	Chapter 20	Young People and Criticism
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Meet

大学でリアルタイムオンライン授業を受ける際には、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の最近の動向についての文を読み、現代の問題を理解し、英語の読解力を養う。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

CD でテキストの音読を聞き、リピートすることから始め、理解できているか確認するために、アットランダムに学生を指し、教科書の英文を読み、日本語訳をしたり、口頭で問題に答えてもらう。課題を課す場合は、Hoppii（学習支援システム）に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	Zoom でオンラインで授業を行う。詳細は、Hoppii（学修支援システム）を参照してください。テキストの説明、辞書の使い方について説明する。学生さんたちには自己紹介を日本語でもらう。カメラとマイクとパソコンの用意をしておいてください。なお、スマートフォンでも Zoom は可能です。教科書はこの日までになるべく買って置いてください。
2	Chapter 1 I Don't Know What to Believe	対面授業。オンラインの嘘について学ぶ。テキストの予習復習をする。この日までに教科書を手に入れましょう。
3	Chapter 2 It's a Hikikomori World	対面授業。引きこもりについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
4	Chapter 3 Not Just for Fun	対面授業。遊びやゲームの重要性について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5	Chapter 4 See It While You Can	対面授業。Over-Tourism について学ぶ。テキストの予習復習をする。
6	Chapter 5 The World's Greatest Gamers	対面授業。E-スポーツについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
7	Chapter 6 3D-Printed Limbs and Robot Doctors	対面授業。医療技術の進歩について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8	Chapter 7 Fake Burgers and Electric Gum	対面授業。新しい食品、食品の未来像について学ぶ。テキストの予習復習をする。

9	Chapter 8 The Sports Space Race	対面授業。スポーツにおける科学の役割について学ぶ。テキストの予習復習をする。
10	Chapter 9 Turn Out the Lights	対面授業。光汚染について学ぶ。テキストの予習復習をする。
11	Chapter 10 It's Good to Be Grumpy	対面授業。不機嫌な気分の大切さについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
12	Chapter 11 A Full Working Week	対面授業。どのくらい就労するべきかについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
13	残りの Chapter で、学生が読みたい Chapter を読む	対面授業。どのチャプターになるかは分からないので、明言できない。
14	まとめ テスト	対面授業。まとめ 前期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Anthony Sellick, James Bury & Kaori Horiuchi 『Grand Tour: Seeing the World』成美堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最後の授業のテストを 60%、平常点を 40% で計算します。課題の未提出、最後のテストの未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書
テキスト

【Outline and objectives】

Reading a text called *Grand Tour: Seeing the World*, and develop English reading skills.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のものづくりの会社を取り上げた15章のテキストを読みながら、英語の読解力アップを目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

各授業で予習をしてきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。その後、各章の読解を確認する問題を解いていきます。課題を課す場合は、Hoppii に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	前期のテキストの続き、生徒が読みたい前期のテキストの残りの章から1章を読む。	前期のテキストの続き、内容は、前期に学生にアンケートをとって決める。後期のテキストを買っておく。
2 回目	Chapter 1 Mazda	対面授業。「走る歓び」を通して人生に輝きをもたらすことを目指してきたマズダについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
3 回目	Chapter 2 House	対面授業。パーモントカレーなどの発明を行ってきたハウスの歴史について学ぶ。テキストの予習復習をする。
4 回目	Chapter 3 TOTO	対面授業。腰掛け式水洗便器を製造してきた TOTO の歴史について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5 回目	Chapter 4 Shimano	対面授業。サイクリングと釣り用具のメーカー、シマノについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
6 回目	Chapter 5 Mazda Design	対面授業。車メーカー、マツダのデザインについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
7 回目	Chapter 6 UCC	対面授業。UCC 上島珈琲の歴史と発展について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8 回目	Chapter 7 Daifuku	対面授業。ものを動かす技術（マテリアルハンドリング）の総合メーカー、ダイフクについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
9 回目	Chapter 8 Sakura Color Products	対面授業。サクラクレパスのクレパス、クービーペンシルの発明などについての企業の軌跡を学ぶ。テキストの予習復習をする。

10 回目	Chapter 9 Yanmar	対面授業。世界で初めて小型ディーゼルエンジンを開発したヤンマーについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
11 回目	Chapter 10 Magokichi Yamaoka	対面授業。ヤンマーの創業者山岡孫吉について学ぶ。テキストの予習復習をする。
12 回目	Chapter 11 Otafuku Sauce	対面授業。お好み焼きソースで有名なオタフクソースについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
13 回目	Chapter 12 Tombow	対面授業。制服メーカー、トンボ学生服について学ぶ。テキストの予習復習をする。
14 回目	復習 まとめ テスト	対面授業。復習／まとめを行う。テストに備えて、学期内で行なった課の復習をしておく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストの予習復習をする。Vocabulary を辞書を活用して予習し、授業中に Language in Use を CD を聴きながら穴埋めし、本文を辞書を活用して読め、かつ、訳せるように予習し、Synonym Questions で本文に出てきた単語の理解を深め、Questions & Answers, Comprehension Check, Chronological Table の本文理解の質問に答えておく。Composition は飛ばす。

【テキスト（教科書）】

吉野成美／Justin Harris/井上 治／Paul Leeming『Outstanding Monozukuri Companies in Japan』松柏社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、最後のテストを60%で計算します。最後のテスト未受験、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Reading a textbook called *Outstanding Monozukuri Companies in Japan*, learn each company and develop English reading skills.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広いトピックの多読と多聴を行います。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプット（reading and listening）をアウトプット（speaking and writing）に接続していきます

【到達目標】

1 多様な話題についてのニュースを正確に聞き取ることができるようになること

2 テキストを正確に理解し分析できるようになること

3 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

* This is an on-demand class, and instructions and assignments will be given through Hoppii. (この授業はオンデマンド[資料型]です。指示や課題を学習支援システムで配信します)

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

(1) Reading: paragraph reading

(2) Listening: listening to mini-talks and global news

(3) Writing: summary and paragraph writing

(4) Speaking: preparation for presentation

Submission of assignments and feedback will be on Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1 Course Orientation	1 Explaining the course 2 Reading and listening practices
2	Understanding Issue: Internet Safety or Freedom of Expression?	1 Reading paragraphs on controlling Internet content 2 Listening practice
3	Understanding Issue: Eco or Ego?	1 Reading paragraphs on eco-friendliness 2 Listening practice
4	Understanding Issue: Clean Energy or Potential Threat?	1 Reading paragraphs on restoring nuclear power generation 2 Listening practice
5	Understanding Issue: International Outlook	1 Reading paragraphs on International Outlook 2 Listening practice
6	Understanding Issue: Democracy	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice
7	Understanding Issue: The Constitution of Japan	1 Reading the Constitution of Japan in English 2 Listening practice

8	Learning Academic Writing (1)	1 Writing an effective summary 2 Listening practice
9	Learning Academic Writing (2)	1 Rewriting sentences 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Casinos	1 Reading paragraphs on legalizing casinos 2 Listening practice
11	Understanding Issue: Globalization	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice
12	Understanding Issue: Human or AI?	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice
13	Understanding Issue: Larger Budget for Education	1 Reading paragraphs on education expenditure 2 Listening practice
14	Review and Test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

1 Weekly reading, listening or writing home assignments

2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Cengage Learning)

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Attendance and Home assignment (50%)

Writing assignment (20%)

Tests (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (春学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase opportunities to listen to English materials. I hope your passionate participation makes this course exciting.

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうなることを希望します。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline and objectives】

This advanced English class is for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will practice skills connected to systematic reading, listening and well-organized writing. There will be also Workshops focusing on paragraph or essay writing as well as speaking your opinions.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オーセンティック・マテリアルをより実践的に多読多聴します。「英語を読み聴く」「英語で考え発信する」へと発展させていくことを目的とします (Learning four skills of reading, listening, speaking and writing)

【到達目標】

- 幅広い分野のトピックを「英語で読む」ことができるようになること
- 学んだトピックについての意見のやりとりを正確に聞き取ることができるようになること
- 学んだトピックについて論理的構成を持つパラグラフが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

* This is an on-demand class, and instructions and assignments will be given through Hoppii. (この授業はオンデマンド [資料型] です。指示や課題を学習支援システムで配信します) Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- (1) Reading: paragraph reading
 - (2) Listening: listening to mini-talks and global news
 - (3) Writing: summary and paragraph writing
 - (4) Speaking: preparation for presentation
- Submission of assignments and feedback will be on Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Understanding Issue: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?	1 Explaining the course of this semester 2 Reading paragraphs on a gap year 3 Listening practice
2	Understanding Issue: Big Government or Limited Government?	1 Reading paragraphs on big government or limited government 2 Listening practice
3	Understanding Issue: Are Homeless Responsible for Their Homelessness?	1 Reading paragraphs on self-responsibility for the homeless 2 Listening practice
4	Understanding Issue: Open Border or Closed Societies?	1 Reading paragraphs on an open door policy for immigrants 2 Listening practice

5	Understanding Issue: Human Rights(1)	1 Reading paragraphs on The Universal Declaration of Human Rights 2 Paragraph Writing
6	Understanding Issue: Human Rights(2)	1 Reading paragraphs on Nuclear Ban Treaty 2 Listening practice
7	Understanding Issue: Death Penalty or Human Rights?	1 Reading paragraphs on death penalty 2 Listening practice
8	Understanding Issue: Tax Hikes: Direct or Indirect?	1 Reading paragraphs on tax hikes on wealth or on consumption 2 Listening practice
9	Learning Academic Writing (1)	1 Writing an agree or disagree paragraph 2 Listening practice
10	Learning Academic Writing (2)	1 Writing an effective summary 2 Listening practice
11	Understanding Issue: International Comparison of Military Expenditures	1 Reading paragraphs on Military expenditure 2 Listening practice
12	Understanding Issue: International Competitiveness	1 Reading paragraphs on Global Competitiveness 2 Listening practice
13	Understanding Issue: What Makes a Nation Prosperous?	1 Reading paragraphs on Human Development Index 2 Listening practice
14	Review and test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly reading, listening, or writing home assignments
- 2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Cengage Learning)

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Attendance and Home assignment (50%)
Writing assignment (20%)
Final test (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (秋学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' support and encouragement will keep yourself motivated.

だんだんハードになってくると思いますが、励ましあいながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline and objectives】

This is an English class for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will learn basic structures through reading and listening to authentic materials. You will also practice summary and paragraph writings.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広いトピックの多読と多聴を行います。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプット（reading and listening）をアウトプット（speaking and writing）に接続していきます

【到達目標】

- 1 多様な話題についてのニュースを正確に聞き取ることができるようになること
- 2 テキストを正確に理解し分析できるようになること
- 3 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

* This is an on-demand class, and instructions and assignments will be given through Hoppii. (この授業はオンデマンド[資料型]です。指示や課題を学習支援システムで配信します)

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- (1) Reading: paragraph reading
- (2) Listening: listening to mini-talks and global news
- (3) Writing: summary and paragraph writing
- (4) Speaking: preparation for presentation

Submission of assignments and feedback will be on Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1 Course Orientation 2 Understanding Issue	1 Explaining the course 2 Reading and listening practices
2	Understanding Issue: Internet Safety or Freedom of Expression?	1 Reading paragraphs on controlling Internet content 2 Listening practice
3	Understanding Issue: Eco or Ego?	1 Reading paragraphs on eco-friendliness 2 Listening practice
4	Understanding Issue: Clean Energy or Potential Threat?	1 Reading paragraphs on restoring nuclear power generation 2 Listening practice
5	Understanding Issue: International Outlook	1 Reading paragraphs on International Outlook 2 Listening practice
6	Understanding Issue: Democracy	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice
7	Understanding Issue: The Constitution of Japan	1 Reading the Constitution of Japan in English 2 Listening practice

8	Learning Academic Writing (1)	1 Writing an effective summary 2 Listening practice
9	Learning Academic Writing (2)	1 Rewriting sentences 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Casinos	1 Reading paragraphs on legalizing casinos 2 Listening practice
11	Understanding Issue: Globalization	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice
12	Understanding Issue: Human or AI?	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice
13	Understanding Issue: Larger Budget for Education	1 Reading paragraphs on education expenditure 2 Listening practice
14	Review and Test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly reading, listening or writing home assignments
- 2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Cengage Learning)

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Attendance and Home assignment (50%)

Writing assignment (20%)

Tests (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (春学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase opportunities to listen to English materials. I hope your passionate participation makes this course exciting.

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうなることを希望します。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline and objectives】

This advanced English class is for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will practice skills connected to systematic reading, listening and well-organized writing. There will be also Workshops focusing on paragraph or essay writing as well as speaking your opinions.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オーセンティック・マテリアルをより実践的に多読多聴します。「英語を読み聴く」「英語で考え発信する」へと発展させていくことを目的とします (Learning four skills of reading, listening, speaking and writing)

【到達目標】

- 幅広い分野のトピックを「英語で読む」ことができるようになること
- 学んだトピックについての意見のやりとりを正確に聞き取ることができるようになること
- 学んだトピックについて論理的構成を持つパラグラフが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

* This is an on-demand class, and instructions and assignments will be given through Hoppii. (この授業はオンデマンド [資料型] です。指示や課題を学習支援システムで配信します) Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- (1) Reading: paragraph reading
 - (2) Listening: listening to mini-talks and global news
 - (3) Writing: summary and paragraph writing
 - (4) Speaking: preparation for presentation
- Submission of assignments and feedback will be on Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Understanding Issue: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?	1 Explaining the course of this semester 2 Reading paragraphs on a gap year 3 Listening practice
2	Understanding Issue: Big Government or Limited Government?	1 Reading paragraphs on big government or limited government 2 Listening practice
3	Understanding Issue: Are Homeless Responsible for Their Homelessness?	1 Reading paragraphs on self-responsibility for the homeless 2 Listening practice
4	Understanding Issue: Open Border or Closed Societies?	1 Reading paragraphs on an open door policy for immigrants 2 Listening practice

5	Understanding Issue: Human Rights(1)	1 Reading paragraphs on The Universal Declaration of Human Rights 2 Paragraph Writing
6	Understanding Issue: Human Rights(2)	1 Reading paragraphs on Nuclear Ban Treaty 2 Listening practice
7	Understanding Issue: Death Penalty or Human Rights?	1 Reading paragraphs on death penalty 2 Listening practice
8	Understanding Issue: Tax Hikes: Direct or Indirect?	1 Reading paragraphs on tax hikes on wealth or on consumption 2 Listening practice
9	Learning Academic Writing (1)	1 Writing an agree or disagree paragraph 2 Listening practice
10	Learning Academic Writing (2)	1 Writing an effective summary 2 Listening practice
11	Understanding Issue: International Comparison of Military Expenditures	1 Reading paragraphs on Military expenditure 2 Listening practice
12	Understanding Issue: International Competitiveness	1 Reading paragraphs on Global Competitiveness 2 Listening practice
13	Understanding Issue: What Makes a Nation Prosperous?	1 Reading paragraphs on Human Development Index 2 Listening practice
14	Review and test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly reading, listening or writing home assignments
- 2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Cengage Learning)

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Attendance and Home assignment (50%)
Writing assignment (20%)
Final test (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (秋学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' support and encouragement will keep yourself motivated.

だんだんハードになってくると思いますが、励ましあいながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline and objectives】

This is an English class for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will learn basic structures through reading and listening to authentic materials. You will also practice summary and paragraph writings.

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけでなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタビューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。

第 6 回	プレゼンテーション	各自が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 7 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 8 回	ツアー・休暇の過ごし方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。
第 9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション原稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。

授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation. Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically. In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2- II

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 1 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタビューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。

第4回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できることを発表者に伝える。
第5回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第6回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第7回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第8回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できることを発表者に伝える。
第9回	英会話（会話）	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第10回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第11回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第12回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できることを発表者に伝える。
第13回	英会話（会話とリスニング）	クラスメートとともに大学のキャンパスで使う英会話を行う。また、同様の内容の英会話のリスニングを行う。
第14回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第3版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60点以上で合格です。

4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability.

specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.

Then, you will make and give a presentation on a specific topic.

By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.

In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生向けの英語ニュース CNN10 の映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。語学、SNS、技術と暮らしなどのトピックについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

本授業はオンライン（リアルタイム）形式で進められる。授業 2 回でひとつの Unit を学習する。Unit の内容に関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。スピーキング用のスクリプトやパワーポイント資料は、作成方法の指導、添削指導を授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Unit1 (1) 水と共にある東京	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1) ・ ディクテーション課題 1 ・ 単語練習 1
3	Unit1 (2) 水と共にある東京	・ Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
4	Unit3 (1) ある森林監視員の生活	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1) ・ ディクテーション課題 2 ・ 単語練習 2

5	Unit3 (2) ある森林監視員の生活 プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary ・ プレゼンテーションの方法と心構え
6	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーションの準備 1 ・ ディクテーション課題 3 ・ 単語練習 3
7	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーション本番 1
8	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーション本番 2 ・ ディクテーション課題 4
9	Unit5 (1) MRI で探る犬の気持ち	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
10	Unit5 (2) MRI で探る犬の気持ち	・ Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary ・ ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ 単語テスト ・ プレゼンテーションの準備 1
12	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーションの準備 2 ・ ディクテーション課題 6
13	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『CNN 10 Student News Vol.9』、朝日出版社、2021 年、1800 円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業のパフォーマンス 30 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN10 news are the main learning materials. Their topics include language learning, social networking, technology and life, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 2 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生向けの英語ニュース CNN10 の映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。語学、SNS、技術と暮らしなどのトピックについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

- ・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
- ・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

授業 2 回でひとつの Unit を学習する。Unit の内容に関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。スピーキング用のスクリプトやパワーポイント資料は、作成方法の指導、添削指導を授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの確認	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての確認。テキストの確認。
2	Unit7 (1) 冒険という名の旅行	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1) ・ ディクテーション課題 1 ・ 単語練習 1
3	Unit7 (2) 冒険という名の旅行	・ Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
4	Unit12 (1) 街の移動はレンタルスクーターで	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1) ・ ディクテーション課題 2 ・ 単語練習 2

- | | | |
|----|--|--|
| 5 | Unit12 (2)
街の移動はレンタルスクーターで
プレゼンテーション課題1「最も重要な発明」 | ・ Exercises
-Transcript Completion(2),
Comprehension Questions,
Summary
・プレゼンテーションの方法と心構え |
| 6 | プレゼンテーション課題1「最も重要な発明」 | ・プレゼンテーションの準備1
・ディクテーション課題3
・単語練習3 |
| 7 | プレゼンテーション課題1「最も重要な発明」 | ・プレゼンテーション本番1 |
| 8 | プレゼンテーション課題1「最も重要な発明」 | ・プレゼンテーション本番2
・ディクテーション課題4 |
| 9 | Unit14 (1)
風を使った発電システム | ・ Exercises
-Warm Up, Vocabulary,
Vocabulary Exercise, Topic
Paragraph, Transcript
Completion(1) |
| 10 | Unit14 (2)
風を使った発電システム | ・ Exercises
-Transcript Completion(2),
Comprehension Questions,
Summary
・ディクテーション課題5 |
| 11 | プレゼンテーション課題2「再生可能エネルギーの企業」 | ・単語テスト
・プレゼンテーションの準備1 |
| 12 | プレゼンテーション課題2「再生可能エネルギーの企業」 | ・プレゼンテーションの準備2
・ディクテーション課題6 |
| 13 | プレゼンテーション課題2「再生可能エネルギーの企業」 | ・プレゼンテーション本番1 |
| 14 | プレゼンテーション課題2「再生可能エネルギーの企業」 | ・プレゼンテーション本番2 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『CNN 10 Student News Vol.9』、朝日出版社、2021年、1800円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013年、1800円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011年、1944円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008年、4700円（税別）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業のパフォーマンス 30%、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻は欠席1回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持つてくる。

【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN10 news are the main learning materials. Their topics include language learning, social networking, technology and life, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2021 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウィルスといった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。授業は、ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。毎回解答用の Answer Sheet を、LMS を通して配布するので、それを締め切り日までに LMS を通して提出する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題の語彙を小テストに充てる。

課題等のフィードバック方法

毎回の授業で提出物があるので、それは次の授業回で採点返却される。後日正解が LMS を通して配布される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	初回授業のおよそ 1 週間前に LMS を通して配布されるプリント教材課題を LMS を通して提出する。
2	Unit 1 米疾病対策センター所長が語った「コロナウィルスの未来」	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
3	Unit 1 米疾病対策センター所長が語った「コロナウィルスの未来」	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
4	Unit 2 日本で新天皇即位「令和」に持ち越された皇位継承問題	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）

5	Unit 2 日本で新天皇即位「令和」に持ち越された皇位継承問題	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
6	Unit 3 オリンピックを支える頼もしい味方日本が誇る羽田空港	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
7	Unit 3 オリンピックを支える頼もしい味方日本が誇る羽田空港	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
8	Unit 4 待ち時間ゼロ!? ロンドン発、忙しい現代人の健康を救う AI 診療	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
9	Unit 4 待ち時間ゼロ!? ロンドン発、忙しい現代人の健康を救う AI 診療	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
10	Unit 5 日本発! VR 技術が可能にする高齢者の仮想世界旅行	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
11	Unit 5 日本発! VR 技術が可能にする高齢者の仮想世界旅行	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
12	Unit 6 ハリー王子&メーガン妃決意の英王室離脱表明の裏側	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
13	Unit 6 ハリー王子&メーガン妃決意の英王室離脱表明の裏側	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめと期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本学習の準備学習、復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの音声ダウンロードして聴く。

Words and Phrases , Examples を予習して語彙を徹底的に調べておく。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (22)
朝日出版社 1900 円 + 税

【参考書】

特になし
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出（Answer Sheet の空欄が全て解答されていること）
20%

小テスト 50 点 ×6 回分 300 点

30%

期末試験課題 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。

*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 3 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2021 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。授業は、ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。毎回解答用の Answer Sheet を、LMS を通して配布するので、それを締め切り日までに LMS を通して提出する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題の語彙を小テストに充てる。

課題等のフィードバック方法

毎回の授業で提出物があるので、それは次の授業回で採点返却される。後日正解が LMS を通して配布される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming up	初回授業のおよそ 1 週間前に配布されるプリント教材課題を提出する。
2	Unit 7 燃え落つ 850 年の歴史 フランスの象徴ノート ルダム大聖堂	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 ×10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
3	Unit 7 燃え落つ 850 年の歴史 フランスの象徴ノート ルダム大聖堂	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点）
4	Unit 8 ブラゴミ問題の救世主 南アフリカ発「食べられる食器」とは？	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 ×10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）

- 5 Unit 8 プラゴミ問題の救世主南アフリカ発「食べられる食器」とは？
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 6 Unit 9 歴史的勝訴！先祖の土地を森林破壊から守ったアマゾン先住民
Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点)
Examples 解答 (採点しない)
blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。(採点しない)
- 7 Unit 9 歴史的勝訴！先祖の土地を森林破壊から守ったアマゾン先住民
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 8 Unit 10 気候変動対策求め、英国の子供たちが「絶滅への反抗」デモ
Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点)
Examples 解答 (採点しない)
blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。(採点しない)
- 9 Unit 10 気候変動対策求め、英国の子供たちが「絶滅への反抗」デモ
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 10 Unit 11 中国からの SOS？ 受刑者が思いを託した 1 通の X マスカード
Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点)
Examples 解答 (採点しない)
blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。(採点しない)
- 11 Unit 11 中国からの SOS？ 受刑者が思いを託した 1 通の X マスカード
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 12 Unit 12 正気か狂気か トランプ大統領の「グリーンランド購入」発言
Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点)
Examples 解答 (採点しない)
blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。(採点しない)
- 13 Unit 12 正気か狂気か トランプ大統領の「グリーンランド購入」発言
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 14 これまでのまとめと期末試験
これまでのまとめ
期末試験課題の提出

小テスト 50 点 ×6 回分 300 点

30%

期末試験課題

50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて (解答されていて) 出席とする。(空欄の内容に全て解答すること)

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本学習の準備学習、復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
テキストの音声ダウンロードして聴く。

Words and Phrases , Examples を予習して語彙を徹底的に調べておく。

【テキスト (教科書)】

CNN ビデオで見る世界のニュース (22)

朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】

特になし

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていること)

20%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では量よりも正確さを重視し、論理的思考力・文化/教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。この授業は指示や課題を「学習支援システム」で配信するオンデマンド（資料型）です。各回の授業計画の変更がある場合は「学習支援システム」で提示する。課題等の提出や全体に対するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Andy Meets Miranda (1)	ミランダの面接／課題レポートの指示 過去完了の使い方
②	Unit 1 Andy Meets Miranda (2)	ミランダの面接／前回のフィードバック・課題レポートの指示 面接の英語表現
③	Unit 2 Andy's First Day at Runway (1)	アンディの初出勤／前回のフィードバック・課題レポートの指示 関係代名詞
④	Unit 2 Andy's First Day at Runway (2)	アンディの初出勤／前回のフィードバック・課題レポートの指示 電話の対応の英語表現
⑤	Unit 3 Miranda, the Almighty (1)	すべてはミランダの手の中に／前回のフィードバック・課題レポートの指示 助動詞
⑥	Unit 3 Miranda, the Almighty (2)	すべてはミランダの手の中に／前回のフィードバック・課題レポートの指示 反論する英語表現
⑦	Unit 4 Andy's Metamorphosis (1)	アンディの変身／前回のフィードバック・課題レポートの指示 現在進行形の使い方
⑧	Unit 4 Andy's Metamorphosis (2)	アンディの変身／前回のフィードバック・課題レポートの指示 困惑を示す英語表現
⑨	Unit 5 Andy Performs a Miracle (1)	アンディ奇跡を起こす／前回のフィードバック・課題レポートの指示 助動詞の様々な使い分け

- ⑩ Unit 5 Andy Performs a Miracle (2) アンディ奇跡を起こす／前回のフィードバック・課題レポートの指示 依頼する英語表現・希望を伝える英語表現
- ⑪ Intermission The Princess Diaries (1) アン・ハサウェイが主演する他の作品の一部を鑑賞し、彼女の発音とアクセントに慣れてきたかチェックする。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。
- ⑫ Intermission The Princess Diaries (2) 前回到引き続きアン・ハサウェイ他の作品の一部を鑑賞し、『ブラダを着た悪魔』と比較する。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。
- ⑬ 復習と学期末レポート 課題の説明 Unit 1 から Unit 5 の問題演習
- ⑭ 学期末レポート課題・まとめと解説 学期末レポート課題・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』、Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (35%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の配信日までとする。課題レポートの点数配分の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。レポート課題の提出をもって授業出席確認とする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。成績評価の方法と基準に変更がある場合は、授業開始日以降に「学習支援システム」で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持ってもらえるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 4 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、秋学期でも主として音声上の英語運用能力を養うことに主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視して、量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。この授業は指示や課題を「学習支援システム」で配信するオンデマンド（資料型）です。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。フィードバックは授業課題の提出レポートからいくつかの問題点を取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Guidance/ 学期末レポート課題のフィードバックと論評：秋学期最初の課題レポート	学期末レポート課題の全体に対するフィードバックと問題点の指摘と解説／課題レポートの指示
②	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (1)	アンディ株上昇／前回のフィードバック・課題レポートの指示 仮定法
③	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (2)	アンディ株上昇／前回のフィードバック・課題レポートの指示 驚きを示す英語表現
④	Unit 7 Andy's Dilemma (1)	アンディのジレンマ／前回のフィードバック・課題レポートの指示 動名詞
⑤	Unit 7 Andy's Dilemma (2)	アンディのジレンマ／前回のフィードバック・課題レポートの指示 提案の英語表現
⑥	Unit 8 A Night in Paris (1)	パリでの初日／前回のフィードバック・課題レポートの指示 受動態
⑦	Unit 8 A Night in Paris (2)	パリでの初日／前回のフィードバック・課題レポートの指示 意思・予定を述べる英語表現
⑧	Unit 9 A Plot against Miranda (1)	陰謀／前回のフィードバック・課題レポートの指示 関係代名詞
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	陰謀／前回のフィードバック・課題レポートの指示 称賛を表す英語表現

- | | | |
|---|----------------------------------|---|
| ⑩ | Unit 10 Andy's Final Choice (1) | 最後の選択／前回のフィードバック・課題レポートの指示 使役動詞 |
| ⑪ | Unit 10 Andy's Final Choice (2) | 最後の選択／前回のフィードバック・課題レポートの指示 丁寧な依頼の英語表現 |
| ⑫ | Post feminism in popular culture | Paul Hodgkinson の 'Media Culture and Society' (2017) の 13 章 'Media, Gender and Sexuality' の抜粋を読む。 |
| ⑬ | 復習と学期末レポート課題の説明 | Unit 6 から Unit 10 の問題演習 |
| ⑭ | 学期末レポート課題・まとめと解説 | 学期末レポート課題・まとめと解説 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期と同じ。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (35%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の配信日までとし、課題レポートの点数配分の中には授業への積極的な参加・貢献も含まれる。レポート課題の提出をもって授業出席確認とする。未提出課題が 5 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成の段落を書く練習を行い、最終的には複数の段落からなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ポキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合は Hoppii にてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション 第1課	基礎的な文法事項の確認 この教科書の使い方
3	第1課 On the Plane	飛行機内にて 単語 ディクテーション
4	第1課	発音 リーディング 口頭練習
5	第2課 Airport Arrival Procedures	第1課小テスト 入国手続き 単語 ディクテーション
6	第2課	発音 リーディング 口頭練習
7	第3課 Meeting the Host Family	第2課小テスト ホームステイ 単語 ディクテーション

8	第3課	発音 リーディング 口頭練習
9	第4課 Sharing Japanes Culture	第3課小テスト 日本の文化 単語 ディクテーション
10	第4課	発音 リーディング 口頭練習
11	第5課 Taking the Bus	第4課小テスト 交通機関 単語 ディクテーション
12	第5課	発音 リーディング 口頭練習
13	第6課 Orientation	第5課小テスト 語学学校でのオリエンテーション 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

グローバルキャリアをめざして 辻 勢都・辻 和成 著 2015年 三修社 2000 円
ISBN978-4-384-33448-7

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの質問に早めに対応したい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 5 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のParagraphを書く練習を行い、最終的には複数のParagraphからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合は Hoppii にてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課 Making Phone Calls	電話をかける 単語 ディクテーション
3	第 7 課	発音 リーディング 口頭練習
4	第 8 課 Seeking Medical Care	第 7 課小テスト 病気 単語 ディクテーション
5	第 8 課	発音 リーディング 口頭練習
6	第 9 課 Giving Presentations	第 8 課小テスト プレゼンテーション 単語 ディクテーション

7	第 9 課	発音 リーディング 口頭練習
8	第 10 課 Shopping	第 9 課小テスト 買い物での会話 単語 ディクテーション
9	第 10 課	発音 リーディング 口頭練習
10	第 11 課 Airport Departure Procedures	第 10 課小テスト 出国手続き 単語 ディクテーション
11	第 11 課	発音 リーディング 口頭練習
12	第 12 課 Keeping in Touch by Email	第 11 課小テスト e メール 単語 ディクテーション
13	第 12 課	発音 リーディング 口頭練習
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

グローバルキャリアをめざして 辻 勢都・辻 和成 著 2015 年 三修社 2000 円
ISBN978-4-384-33448-7

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの質問に早めに対応したい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC®形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。なお、リスニングやディクテーション課題には解答を示し、英文コメントは添削して返却する。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と質疑応答によりスピーチに備える。なお、プレゼンテーション等では単語の発音、アクセント、イントネーションについて個別にコメントを提供し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1 英語を書くときのポイント 1	Ceremony 聴解 「これをやると大減点」のよくある誤り
第 3 回	Listening 小テスト 2 英語を書くときのポイント 2	School Life 聴解 「日本語を英単語に置き換えるだけでは英文にならない」
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 1	Transportation 聴解 Unit1 老舗 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 2	Outdoor Activities 聴解 Unit2 制服 PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 3	Weather 聴解 Unit3 ボランティア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 4	Holiday Plans 聴解 Unit4 ハイテク生活 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 5	Resort Area 聴解 Unit5 和食器 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 DVD による Dictation 6 プレゼンテーションの方法	Directions 聴解 Unit6 主婦 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 10 回	Listening 小テスト 9 プレゼンテーションの方法と英文原稿の論理構成	Job Experience 聴解 英語 Paragraph 構成 PPT ファイルへの音声録音 英語 Speech 実演 DVD 視聴
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Summer Sale 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 1 (写真説明)
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 2 (写真説明)
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーション音声録音 済み PPT ファイルを鑑賞し、質疑応答を行う
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験（含リスニング）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用スクリプトはコピー冊子を配布)

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】

Longman Academic Writing Series

研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%)、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

DVD は日本をテーマにしたナレーションとスタジオディスカッションの組み合わせだが、特にディスカッションが生の音声を元にしていて癖のある話し方のものは聞き取れないとの指摘があった。英語が世界語になり、Native English Speaker でなくても英語を使ってコミュニケーションを取ることで、さまざまな英語が存在するのが実情である。学生は、将来そのような場面に遭遇することも予想されるうに、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要がある。Listening テストで聴くようなプロのナレーションではない生の音声を利用しての学習が欠かせないので、さまざまなヒントを提供したり、グループで話し合ったりして答えを導き出せるようにしたい。

【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：英語 6 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スク립トのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。なお、リスニングやディクテーション課題には解答を示し、英文コメントは添削して返却する。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と質疑応答によりスピーチに備える。なお、プレゼンテーション等では単語の発音、アクセント、イントネーションについて個別にコメントを提供し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉 英文を書くときの形式	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ レポート作成、引用と参考文献表示
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Restaurant 聴解 Unit8 声優 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Arts & Entertainment 聴解 Unit9 和製料理 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Sports Events 聴解 Unit10 かばん PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Having a Party 聴解 Unit11 シニア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Health 聴解 Unit12 お金 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Christmas 聴解 Unit13 猿 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 写真説明 Speaking1	Cleanup 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 1
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking2	Our Traditions & Customs 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 2
第 10 回	Listening 小テスト 9 英文エッセイについて 英語による質疑応答	Examinations 聴解 Paragraph から Essay へ 質疑応答練習
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原 稿作成 (1)	Housing 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原 稿作成 (2)	Review Test3・4 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応 答
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験 (含リ スニング)・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用スクリプトはコピー冊子を配布)

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】

Longman Academic Writing Series

研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%)、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

DVD は日本をテーマにしたナレーションとスタジオディスカッションの組み合わせだが、特にディスカッションが生の音声を元にしていて癖のある話し方のは聞き取れないとの指摘があった。英語が世界語になり、Native English Speaker でなくても英語を使ってコミュニケーションを取るの、さまざまな英語が存在するのが実情である。学生は、将来そのような場面に遭遇することも予想されるうえに、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要がある。Listening テストで聴くようなブロードのナレーションではない生の音声を利用しての学習が欠かせないので、さまざまなヒントを提供したり、グループで話し合ったりして答えを導き出せるようにしたい。

【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけでなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタビューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。

第 6 回	プレゼンテーション	各自が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 7 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 8 回	ツアー・休暇の過ごし方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。
第 9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション原稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation. Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically. In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 7 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタビューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。

第4回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できることを発表者に伝える。
第5回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第6回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第7回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第8回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できることを発表者に伝える。
第9回	英会話（会話）	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第10回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第11回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第12回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できることを発表者に伝える。
第13回	英会話（会話とリスニング）	クラスメートとともに大学のキャンパスで使う英会話を行う。また、同様の内容の英会話のリスニングを行う。
第14回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第3版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60点以上で合格です。

4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability.

specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.

Then, you will make and give a presentation on a specific topic.

By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.

In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生向けの英語ニュース CNN10 の映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。語学、SNS、技術と暮らしなどのトピックについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

本授業はオンライン（リアルタイム）形式で進められる。授業 2 回でひとつの Unit を学習する。Unit の内容に関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。スピーキング用のスクリプトやパワーポイント資料は、作成方法の指導、添削指導を授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Unit1 (1) 水と共にある東京	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1) ・ ディクテーション課題 1 ・ 単語練習 1
3	Unit1 (2) 水と共にある東京	・ Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
4	Unit3 (1) ある森林監視員の生活	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1) ・ ディクテーション課題 2 ・ 単語練習 2

5	Unit3 (2) ある森林監視員の生活 プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary ・ プレゼンテーションの方法と心構え
6	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーションの準備 1 ・ ディクテーション課題 3 ・ 単語練習 3
7	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーション本番 1
8	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーション本番 2 ・ ディクテーション課題 4
9	Unit5 (1) MRI で探る犬の気持ち	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1)
10	Unit5 (2) MRI で探る犬の気持ち	・ Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary ・ ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ 単語テスト ・ プレゼンテーションの準備 1
12	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーションの準備 2 ・ ディクテーション課題 6
13	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『CNN 10 Student News Vol.9』、朝日出版社、2021 年、1800 円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業のパフォーマンス 30 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN10 news are the main learning materials. Their topics include language learning, social networking, technology and life, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 8 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生向けの英語ニュース CNN10 の映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。語学、SNS、技術と暮らしなどのトピックについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

- ・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
- ・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

授業 2 回でひとつの Unit を学習する。Unit の内容に関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。スピーキング用のスクリプトやパワーポイント資料は、作成方法の指導、添削指導を授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの確認	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての確認。テキストの確認。
2	Unit7 (1) 冒険という名の旅行	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1) ・ ディクテーション課題 1 ・ 単語練習 1
3	Unit7 (2) 冒険という名の旅行	・ Exercises -Transcript Completion(2), Comprehension Questions, Summary
4	Unit12 (1) 街の移動はレンタルスクーターで	・ Exercises -Warm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph, Transcript Completion(1) ・ ディクテーション課題 2 ・ 単語練習 2

- | | | |
|----|--|--|
| 5 | Unit12 (2)
街の移動はレンタルスクーターで
プレゼンテーション課題1「最も重要な発明」 | ・ Exercises
-Transcript Completion(2),
Comprehension Questions,
Summary
・ プレゼンテーションの方法と心構え |
| 6 | プレゼンテーション課題1「最も重要な発明」 | ・ プレゼンテーションの準備1
・ ディクテーション課題3
・ 単語練習3 |
| 7 | プレゼンテーション課題1「最も重要な発明」 | ・ プレゼンテーション本番1 |
| 8 | プレゼンテーション課題1「最も重要な発明」 | ・ プレゼンテーション本番2
・ ディクテーション課題4 |
| 9 | Unit14 (1)
風を使った発電システム | ・ Exercises
-Warm Up, Vocabulary,
Vocabulary Exercise, Topic
Paragraph, Transcript
Completion(1) |
| 10 | Unit14 (2)
風を使った発電システム | ・ Exercises
-Transcript Completion(2),
Comprehension Questions,
Summary
・ ディクテーション課題5 |
| 11 | プレゼンテーション課題2「再生可能エネルギーの企業」 | ・ 単語テスト
・ プレゼンテーションの準備1 |
| 12 | プレゼンテーション課題2「再生可能エネルギーの企業」 | ・ プレゼンテーションの準備2
・ ディクテーション課題6 |
| 13 | プレゼンテーション課題2「再生可能エネルギーの企業」 | ・ プレゼンテーション本番1 |
| 14 | プレゼンテーション課題2「再生可能エネルギーの企業」 | ・ プレゼンテーション本番2 |

【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN10 news are the main learning materials. Their topics include language learning, social networking, technology and life, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『CNN 10 Student News Vol.9』、朝日出版社、2021 年、1800 円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 ー大学生のためのトピック別必修英単語ー』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業のパフォーマンス 30 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持つてくる。

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2021 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウィルスといった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。授業は、ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。毎回解答用の Answer Sheet を、LMS を通して配布するので、それを締め切り日までに LMS を通して提出する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題の語彙を小テストに充てる。

課題等のフィードバック方法

毎回の授業で提出物があるので、それは次の授業回で採点返却される。後日正解が LMS を通して配布される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	初回授業のおよそ 1 週間前に LMS を通して配布されるプリント教材課題を LMS を通して提出する。
2	Unit 1 米疾病対策センター所長が語った「コロナウィルスの未来」	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
3	Unit 1 米疾病対策センター所長が語った「コロナウィルスの未来」	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
4	Unit 2 日本で新天皇即位「令和」に持ち越された皇位継承問題	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）

5	Unit 2 日本で新天皇即位「令和」に持ち越された皇位継承問題	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
6	Unit 3 オリンピックを支える頼もしい味方日本が誇る羽田空港	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
7	Unit 3 オリンピックを支える頼もしい味方日本が誇る羽田空港	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
8	Unit 4 待ち時間ゼロ!? ロンドン発、忙しい現代人の健康を救う AI 診療	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
9	Unit 4 待ち時間ゼロ!? ロンドン発、忙しい現代人の健康を救う AI 診療	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
10	Unit 5 日本発! VR 技術が可能にする高齢者の仮想世界旅行	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
11	Unit 5 日本発! VR 技術が可能にする高齢者の仮想世界旅行	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
12	Unit 6 ハリー王子&メーガン妃決意の英王室離脱表明の裏側	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
13	Unit 6 ハリー王子&メーガン妃決意の英王室離脱表明の裏側	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本学習の準備学習、復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの音声ダウンロードして聴く。

Words and Phrases , Examples を予習して語彙を徹底的に調べておく。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (22)
朝日出版社 1900 円 + 税

【参考書】

特になし
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出（Answer Sheet の空欄が全て解答されていること）
20%

小テスト 50 点 ×6 回分 300 点

30%

期末試験課題 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。

*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 9 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2021 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウィルスといった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。授業は、ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。毎回解答用の Answer Sheet を、LMS を通して配布するので、それを締め切り日までに LMS を通して提出する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題の語彙を小テストに充てる。

課題等のフィードバック方法

毎回の授業で提出物があるので、それは次の授業回で採点返却される。後日正解が LMS を通して配布される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming up	初回授業のおよそ 1 週間前に配布されるプリント教材課題を提出する。
2	Unit 7 燃え落つ 850 年の歴史 フランスの象徴ノート ルダム大聖堂	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 ×10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
3	Unit 7 燃え落つ 850 年の歴史 フランスの象徴ノート ルダム大聖堂	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点）
4	Unit 8 ブラゴミ問題の救世主 南アフリカ発「食べられる食器」とは？	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 ×10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）

- 5 Unit 8 プラゴミ問題の救世主南アフリカ発「食べられる食器」とは？
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 6 Unit 9 歴史的勝訴！先祖の土地を森林破壊から守ったアマゾン先住民
Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点)
Examples 解答 (採点しない)
blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。(採点しない)
- 7 Unit 9 歴史的勝訴！先祖の土地を森林破壊から守ったアマゾン先住民
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 8 Unit 10 気候変動対策求め、英国の子供たちが「絶滅への反抗」デモ
Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点)
Examples 解答 (採点しない)
blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。(採点しない)
- 9 Unit 10 気候変動対策求め、英国の子供たちが「絶滅への反抗」デモ
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 10 Unit 11 中国からの SOS？ 受刑者が思いを託した 1 通の X マスカード
Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点)
Examples 解答 (採点しない)
blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。(採点しない)
- 11 Unit 11 中国からの SOS？ 受刑者が思いを託した 1 通の X マスカード
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 12 Unit 12 正気か狂気か トランプ大統領の「グリーンランド購入」発言
Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点)
Examples 解答 (採点しない)
blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。(採点しない)
- 13 Unit 12 正気か狂気か トランプ大統領の「グリーンランド購入」発言
Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
- 14 これまでのまとめと期末試験
これまでのまとめ
期末試験課題の提出

小テスト 50 点 ×6 回分 300 点

30%

期末試験課題

50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて (解答されていて) 出席とする。(空欄の内容に全て解答すること)

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本学習の準備学習、復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
テキストの音声ダウンロードして聴く。

Words and Phrases , Examples を予習して語彙を徹底的に調べておく。

【テキスト (教科書)】

CNN ビデオで見る世界のニュース (22)

朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】

特になし

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていること)

20%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では量よりも正確さを重視し、論理的思考力・文化/教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。この授業は指示や課題を「学習支援システム」で配信するオンデマンド（資料型）です。各回の授業計画の変更がある場合は「学習支援システム」で提示する。課題等の提出や全体に対するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Andy Meets Miranda (1)	ミランダの面接／課題レポートの指示 過去完了の使い方
②	Unit1 Andy Meets Miranda (2)	ミランダの面接／前回のフィードバック・課題レポートの指示 面接の英語表現
③	Unit 2 Andy's First Day at Runway (1)	アンディの初出勤／前回のフィードバック・課題レポートの指示 関係代名詞
④	Unit 2 Andy's First Day at Runway (2)	アンディの初出勤／前回のフィードバック・課題レポートの指示 電話の対応の英語表現
⑤	Unit 3 Miranda, the Almighty (1)	すべてはミランダの手の中に／前回のフィードバック・課題レポートの指示 助動詞
⑥	Unit 3 Miranda, the Almighty (2)	すべてはミランダの手の中に／前回のフィードバック・課題レポートの指示 反論する英語表現
⑦	Unit 4 Andy's Metamorphosis (1)	アンディの変身／前回のフィードバック・課題レポートの指示 現在進行形の使い方
⑧	Unit 4 Andy's Metamorphosis (2)	アンディの変身／前回のフィードバック・課題レポートの指示 困惑を示す英語表現
⑨	Unit 5 Andy Performs a Miracle (1)	アンディ奇跡を起こす／前回のフィードバック・課題レポートの指示 助動詞の様々な使い分け

- ⑩ Unit 5 Andy Performs a Miracle (2) アンディ奇跡を起こす／前回のフィードバック・課題レポートの指示 依頼する英語表現・希望を伝える英語表現
- ⑪ Intermission The Princess Diaries (1) アン・ハサウェイが主演する他の作品の一部を鑑賞し、彼女の発音とアクセントに慣れてきたかチェックする。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。
- ⑫ Intermission The Princess Diaries (2) 前回到引き続きアン・ハサウェイ他の作品の一部を鑑賞し、『ブラダを着た悪魔』と比較する。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。
- ⑬ 復習と学期末レポート課題の説明 Unit 1 から Unit 5 の問題演習
- ⑭ 学期末レポート課題・まとめと解説 学期末レポート課題・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』、Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (35%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の配信日までとする。課題レポートの点数配分の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。レポート課題の提出をもって授業出席確認とする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。成績評価の方法と基準に変更がある場合は、授業開始日以降に「学習支援システム」で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持ってもらえるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 10 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、秋学期でも主として音声上の英語運用能力を養うことに主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上がりにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視して、量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。この授業は指示や課題を「学習支援システム」で配信するオンデマンド（資料型）です。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。フィードバックは授業課題の提出レポートからいくつか問題点を取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Guidance/ 学期末レポート課題のフィードバックと論評：秋学期最初の課題レポート	学期末レポート課題の全体に対するフィードバックと問題点の指摘と解説／課題レポートの指示
②	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (1)	アンディ株上昇／前回のフィードバック・課題レポートの指示 仮定法
③	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (2)	アンディ株上昇／前回のフィードバック・課題レポートの指示 驚きを示す英語表現
④	Unit 7 Andy's Dilemma (1)	アンディのジレンマ／前回のフィードバック・課題レポートの指示 動名詞
⑤	Unit 7 Andy's Dilemma (2)	アンディのジレンマ／前回のフィードバック・課題レポートの指示 提案の英語表現
⑥	Unit 8 A Night in Paris (1)	パリでの初日／前回のフィードバック・課題レポートの指示 受動態
⑦	Unit 8 A Night in Paris (2)	パリでの初日／前回のフィードバック・課題レポートの指示 意思・予定を述べる英語表現
⑧	Unit 9 A Plot against Miranda (1)	陰謀／前回のフィードバック・課題レポートの指示 関係代名詞
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	陰謀／前回のフィードバック・課題レポートの指示 称賛を表す英語表現

- ⑩ Unit 10 Andy's Final Choice (1) 最後の選択／前回のフィードバック・課題レポートの指示 使役動詞
- ⑪ Unit 10 Andy's Final Choice (2) 最後の選択／前回のフィードバック・課題レポートの指示 丁寧な依頼の英語表現
- ⑫ Post feminism in popular culture Paul Hodgkinson の 'Media Culture and Society' (2017) の 13 章 'Media, Gender and Sexuality' の抜粋を読む。Unit 6 から Unit 10 の問題演習
- ⑬ 復習と学期末レポート 課題の説明
- ⑭ 学期末レポート課題・まとめと解説 学期末レポート課題・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期と同じ。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (35%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の配信日までとし、課題レポートの点数配分の中には授業への積極的な参加・貢献も含まれる。レポート課題の提出をもって授業出席確認とする。未提出課題が 5 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成の段落を書く練習を行い、最終的には複数の段落からなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聞く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ポキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合は Hoppii にてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第1課 第1課 Travel	この教科書の使い方 旅行全般について 単語 ディクテーション
4	第1課	発音 リーディング 口頭練習
5	第2課 Jobs and People	第1課小テスト 観光業界について 単語 ディクテーション
6	第2課	発音 リーディング 口頭練習
7	第3課 Getting on a Plane	第2課小テスト 搭乗する 単語 ディクテーション

8	第3課	発音 リーディング 口頭練習
9	第4課 At the Immigration and Customs	第3課小テスト 出入国管理と税関にて 単語 ディクテーション
10	第4課	発音 リーディング 口頭練習
11	第5課 At the Airport	第4課小テスト 空港にて 単語 ディクテーション
12	第5課	発音 リーディング 口頭練習
13	第6課 Hotel(Accommodations)ホテル(チェックイン)	第5課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ベーシック観光英語 観光英検センター編 2014 年 三修社
2000 円
ISBN978-4-384-33437-1

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの質問に早めに対応したい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 11 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のParagraphを書く練習を行い、最終的には複数のParagraphからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度コメントを、またオンラインの場合は Hoppii にてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課 Restaurant(Breakfast and Fast Food)	レストランでの会話 単語 ディクテーション
3	第 7 課	発音 リーディング 口頭練習
4	第 8 課 Sightseeing	第 7 課小テスト 観光 単語 ディクテーション
5	第 8 課	発音 リーディング 口頭練習
6	第 9 課 Shopping	第 8 課小テスト 買い物での会話 単語 ディクテーション

7	第 9 課	発音 リーディング 口頭練習
8	第 10 課 Transportation	第 9 課小テスト 交通機関関連の会話 単語 ディクテーション
9	第 10 課	発音 リーディング 口頭練習
10	第 11 課 Problems and Complaints	第 10 課小テスト 問題と苦情 単語 ディクテーション
11	第 11 課	発音 リーディング 口頭練習
12	第 12 課 Transportation from the Airport to the Hotel	第 11 課小テスト 国内旅行での空港からホテルまで 単語 ディクテーション
13	第 12 課	発音 リーディング 口頭練習
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ベーシック観光英語 観光英検センター編著 2014 年 三修社
2000 円
ISBN978-4-7919-7185-5

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 % ・小テスト・レポート課題 10 % ・平常点 10 % 。
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの質問に早めに対応したい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC®形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。なお、リスニングやディクテーション課題には解答を示し、英文コメントは添削して返却する。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と質疑応答によりスピーチに備える。なお、プレゼンテーション等では単語の発音、アクセント、イントネーションについて個別にコメントを提供し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1 英語を書く 1	Ceremony 聴解 「これをやると大減点」のよくある誤り
第 3 回	Listening 小テスト 2 英語を書く 2	School Life 聴解 「日本語を英単語に置き換えるだけでは英文にならない」
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 1	Transportation 聴解 Unit1 老舗 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 2	Outdoor Activities 聴解 Unit2 制服 PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 3	Weather 聴解 Unit3 ボランティア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 4	Holiday Plans 聴解 Unit4 ハイテク生活 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 5	Resort Area 聴解 Unit5 和食器 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 DVD による Dictation 6	Directions 聴解 Unit6 主婦 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 10 回	Listening 小テスト 9 プレゼンテーションの方法と英文原稿の論理構成	Job Experience 聴解 英語 Paragraph 構成 PPT ファイル録音 英語 Speech 実演 DVD 視聴
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Summer Sale 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 1 (写真説明)
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 2 (写真説明)
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーション音声録音 済み PPT ファイルを鑑賞し、質疑応答を行う
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験（含リスニング）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用スクリプトはコピー冊子を配布)

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】

Longman Academic Writing Series

研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%)、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

DVD は日本をテーマにしたナレーションとスタジオディスカッションの組み合わせだが、特にディスカッションが生の音声を元にしていて癖のある話し方のものは聞き取れないとの指摘があった。英語が世界語になり、Native English Speaker でなくても英語を使ってコミュニケーションを取ることで、さまざまな英語が存在するのが実情である。学生は、将来そのような場面に遭遇することも予想されるうに、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要がある。Listening テストで聴くようなプロのナレーションではない生の音声を利用しての学習が欠かせないので、さまざまなヒントを提供したり、グループで話し合ったりして答えを導き出せるようにしたい。

【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：英語 12 組

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。教室での対面の週とオンデマンドの週があります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。なお、リスニングやディクテーション課題には解答を示し、英文コメントは添削して返却する。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と質疑応答によりスピーチに備える。なお、プレゼンテーション等では単語の発音、アクセント、イントネーションについて個別にコメントを提供し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉 英文を書くときの形式	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ レポート作成、引用と参考文献表示
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Restaurant 聴解 Unit8 声優 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Arts & Entertainment 聴解 Unit9 和製料理 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Sports Events 聴解 Unit10 かばん PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Having a Party 聴解 Unit11 シニア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Health 聴解 Unit12 お金 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Christmas 聴解 Unit13 猿 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 写真説明 Speaking1	Cleanup 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 1
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking2	Our Traditions & Customs 聴解 Speaking & Writing TOEIC® 写真問題 2
第 10 回	Listening 小テスト 9 英文エッセイについて 英語による質疑応答	Examinations 聴解 Paragraph から Essay へ 質疑応答練習
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原 稿作成 (1)	Housing 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原 稿作成 (2)	Review Test3・4 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応 答
第 14 回	復習と試験	学習内容に関する筆記試験 (含リ スニング)・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用スクリプトはコピー冊子を配布)

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】

Longman Academic Writing Series

研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%)、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

DVD は日本をテーマにしたナレーションとスタジオディスカッションの組み合わせだが、特にディスカッションが生の音声を元にしていて癖のある話し方のものは聞き取れないとの指摘があった。英語が世界語になり、Native English Speaker でなくても英語を使ってコミュニケーションを取るの、さまざまな英語が存在するのが実情である。学生は、将来そのような場面に遭遇することも予想されるうえに、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要がある。Listening テストで聴くようなブロードのナレーションではない生の音声を利用しての学習が欠かせないので、さまざまなヒントを提供したり、グループで話し合ったりして答えを導き出せるようにしたい。

【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

ESTHER STOCKWELL

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class (または Zoom) or through the Learning Management System.

大学の行動方針レベルが2となった場合、本科目の授業は原則としてオンラインで行います。オンライン授業では、①学習支援システム（Hoppii）と②ZOOM（映像授業と小グループ、クラスディスカッション）、二つのツールを利用して行う予定です。

まず、①学習支援システム（Hoppii）についてですが、学習資料（Listening 音源）をアップロードします。学生はその Listening 音源と教科書を利用して、自習することができます。②ZOOM を利用して、オンラインでインタラクティブ映像授業を行います。対面授業と同じ方法で、教科書を持って、ZOOM のオンライン授業に参加してください。オンライン授業の中には毎週 Vocabulary Quiz とグループディスカッションも行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course	Overview of English 2-I subject and explaining online activities
Unit 1	Greetings & small talk	Listening for greetings and introduction
Unit 2	Making weekend plans	Listening for gist and time and number
Unit 3	Making complains	Listening for jobs, gist and details
Unit 4	Asking for reasons	Listening for reasons and details
Unit 5	Talking about people	Listening for praise or criticism and gist
Unit 6	Travel stories	Listening for acceptances, refusals and comparisons

Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 2 to week 7 / After testing, check the test content
Unit 7	Talking about housing	Listening for negative and positive information
Unit 8	Telling stories	Listening for gist and details
Unit 9	Invitations	Listening for gist and details
Unit 10	Giving opinions	Listening for agreement and disagreement
Unit 11	Talking about a vacation City improvement	Listening for gist and details Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 9 to week 13 / After the test, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about one hour for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

書名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:
www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e
学習支援システム（Hoppii）

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

ESTHER STOCKWELL

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 13	Special Days	Overview of English 2-II subject and Listening for gist, details, likes and dislikes
Unit 14	Describing clothes, time and numbers	Listening for gist and time and number
Unit 15	Asking about preferences	Listening for agreement and disagreement
Unit 16	Leaving messages	Listening for topics and details
Unit 17	Past Events	Listening for sequence and making predictions
Unit 18	Talking about vacations	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 1 to week 6 / After testing, check the test content
Unit 19	Talking about current events	Listening for topics and details
Unit 20	Expressing your views	Listening for gist, details, opinions and reasons
Unit 21	Famous lives	Listening for gist, detail and sequence
Unit 22	Food and Nutrition	Listening for suggestions and sequence
Unit 23	Talking about difficult situations	Listening for details and attitudes
Unit 24	Talking about Global issues	Listening for preferences and advice

End-term Test Listening test Review the content from week 8 to week 13 / After testing, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about one hour for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

書名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

ESTHER STOCKWELL

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class (または Zoom) or through the Learning Management System.

大学の行動方針レベルが2となった場合、本科目の授業は原則としてオンラインで行います。オンライン授業では、①学習支援システム (Hoppii) と② ZOOM (映像授業と小グループ、クラスディスカッション)、二つのツールを利用して行う予定です。

まず、①学習支援システム (Hoppii) についてですが、学習資料 (Listening 音源) をアップロードします。学生はその Listening 音源と教科書を利用して、自習することができます。② ZOOM を利用して、オンラインでインタラクティブ映像授業を行います。対面授業と同じ方法で、教科書を持って、ZOOM のオンライン授業に参加してください。オンライン授業の中には毎週 Vocabulary Quiz とグループディスカッションも行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course	Overview of English 2-I subject and explaining online activities
Unit 1	Greetings & small talk	Listening for greetings and introduction
Unit 2	Making weekend plans	Listening for gist and time and number
Unit 3	Making complains	Listening for jobs, gist and details
Unit 4	Asking for reasons	Listening for reasons and details
Unit 5	Talking about people	Listening for praise or criticism and gist
Unit 6	Travel stories	Listening for acceptances, refusals and comparisons

Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 2 to week 7 / After testing, check the test content
Unit 7	Talking about housing	Listening for negative and positive information
Unit 8	Telling stories	Listening for gist and details
Unit 9	Invitations	Listening for gist and details
Unit 10	Giving opinions	Listening for agreement and disagreement
Unit 11	Talking about a vacation City improvement	Listening for gist and details Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 9 to week 13 / After the test, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about one hour for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

書名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:
www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e
学習支援システム (Hoppii)

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

ESTHER STOCKWELL

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年：上級クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 13	Special Days	Overview of English 2-II subject and Listening for gist, details, likes and dislikes
Unit 14	Describing clothes, time and numbers	Listening for gist and time and number
Unit 15	Asking about preferences	Listening for agreement and disagreement
Unit 16	Leaving messages	Listening for topics and details
Unit 17	Past Events	Listening for sequence and making predictions
Unit 18	Talking about vacations	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 1 to week 6 / After testing, check the test content
Unit 19	Talking about current events	Listening for topics and details
Unit 20	Expressing your views	Listening for gist, details, opinions and reasons
Unit 21	Famous lives	Listening for gist, detail and sequence
Unit 22	Food and Nutrition	Listening for suggestions and sequence
Unit 23	Talking about difficult situations	Listening for details and attitudes
Unit 24	Talking about Global issues	Listening for preferences and advice

End-term Test Listening test Review the content from week 8 to week 13 / After testing, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about one hour for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

書名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 a 組/2(上/下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻く経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方などを身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 1,2,5,6,7,10

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。

毎回 Answer Sheet を LMS を通して配布するので、その指示に従って締め切り日までに LMS を通して提出する。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、それは次の授業回までに返却され、後日解答が配布される。

小テスト部分は採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	初回授業のおよそ 1 週間前に LMS を通して配布されるプリント教材課題を LMS を通して提出する。
2	Chapter 1 I don't know What to believe. Finding Truth among online lies.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点×8 問 = 16 点）
3	Chapter 1 I don't know What to believe. Finding Truth among online lies.	summary の解答と和訳（採点する 1 点×6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）

4	Chapter 2 It's a Hikikomori World Why do some people withdraw from society ?	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点×8 問 = 16 点）
5	Chapter 2 It's a Hikikomori World Why do some people withdraw from society ?	summary の解答と和訳（採点する 1 点×6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
6	Chapter 5 The World greatest Gamers. The Rise of Esports.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点×8 問 = 16 点）
7	Chapter 5 The World greatest Gamers. The Rise of Esports.	summary の解答と和訳（採点する 1 点×6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
8	Chapter 6 3-D printed Limbs and Robot Doctors Amazing advances in medicine.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点×8 問 = 16 点）
9	Chapter 6 3-D printed Limbs and Robot Doctors Amazing advances in medicine.	summary の解答と和訳（採点する 1 点×6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
10	Chapter 7 Fake Burgers and Electric Gum. The future of foods.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点×8 問 = 16 点）
11	Chapter 7 Fake Burgers and Electric Gum. The future of foods.	summary の解答と和訳（採点する 1 点×6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
12	Chapter 10 It's good to be Grumpy. The positive consequences of negative feelings.	Useful Words 解答（採点しない） Question for Understanding, Part1, 2 解答（採点する 2 点×8 問 = 16 点）
13	Chapter 10 It's good to be Grumpy. The positive consequences of negative feelings.	summary の解答と和訳（採点する 1 点×6 問 = 6 点 和訳 8 点） Over to You（採点しない）
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各 Chapter の Useful Words を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。

【テキスト（教科書）】

Grand Tour - Seeing the World

新たな時代への扉
成美堂 1900 円 + 税

【参考書】

特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出（Answer Sheet の空欄が全て解答されていること）
20%

小テスト 30 点×6 回分 180 点

30%

期末試験課題 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。

*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 a 組/2(上/下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻く経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読を通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方などを身にすることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 11,13,15,16,18,20

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。

毎回 Answer Sheet を LMS を通して配布するので、その指示に従って締め切り日までに LMS を通して提出する。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、それは次の授業回までに返却され、後日解答が配布される。

小テスト部分は採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming Up	初回授業のおよそ 1 週間前に配布されるプリント教材課題を提出する。
2	Chapter 11 A full working Week. How long should we work ?	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点 × 8 問 = 16 点)
3	Chapter 11 A full working Week. How long should we work ?	summary の解答と和訳 (採点する 1 点 × 6 問 = 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
4	Chapter 13 Try This Why giving things away can be good for business	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点 × 8 問 = 16 点)

5	Chapter 13 Try This Why giving things away can be good for business	summary の解答と和訳 (採点する 1 点×6 問= 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
6	Chapter 15 Paying for Information The Cost of News	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点×8 問= 16 点)
7	Chapter 15 Paying for Information The Cost of News	summary の解答と和訳 (採点する 1 点×6 問= 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
8	Chapter 16 Your phone is soldier What does cyberwar mean?	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点×8 問= 16 点)
9	Chapter 16 Your phone is soldier What does cyberwar mean?	summary の解答と和訳 (採点する 1 点×6 問= 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
10	Chapter 18 It's a Man's World The cost of ignoring Women's needs.	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点×8 問= 16 点)
11	Chapter 18 It's a Man's World The cost of ignoring Women's needs.	summary の解答と和訳 (採点する 1 点×6 問= 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
12	Chapter 20 It's the Law Identifying Good and Bad Laws	Useful Words 解答 (採点しない) Question for Understanding, Part1, 2 解答 (採点する 2 点×8 問= 16 点)
13	Chapter 20 It's the Law Identifying Good and Bad Laws	summary の解答と和訳 (採点する 1 点×6 問= 6 点 和訳 8 点) Over to You (採点しない)
14	これまでのまとめと期 末試験	これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
各 Chapter の Useful Words を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。

【テキスト (教科書)】

Grand Tour - Seeing the World
新たな時代への扉
成美堂 1900 円+税

【参考書】

特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていること)
20%

小テスト 30 点×6 回分 180 点

30%

期末試験課題 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて (解答されていて) 出席とする。(空欄の内容に全て解答すること)

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

西野 方子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 b 組/4(中の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は以下の 3 点です。

- 1) 複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読めるようになる
 - 2) パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取り、また書き手の感情や意図をつかめるようになる
 - 3) 得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、批判的思考力を養う
- その他、「聴く力」の育成、英語での内容要約や批評コメントの執筆の練習をします。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の 6 点です。

- 1) パラグラフの構造を理解する
- 2) パラグラフ同士の繋がりを正確に把握しながら全体の内容を理解する
- 3) これまでに学んだ文法・構文を復習する
- 4) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図や論旨など必要な情報をつかめるようにする
- 5) 批判的にエッセイを読んだ上で、エッセイについて英語で要旨や批評文を書けるようにする
- 6) 英語辞書の効果的な使い方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では現代の諸問題を扱う英語のエッセイを読みます。受講生は予習としてエッセイを事前に読み、また指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙などを確認します。基本的にひとつの章につき 2 回授業を行い、1 回目の授業ではエッセイの内容確認や知識定着のための小テスト、2 回目の授業では内容を批判的に考えたりまたライティング課題を課すなどして自分の意見を英語で表現する練習を行う予定です。小テストの採点結果やライティング課題へのフィードバックは次の回の授業で返却します。

※進捗や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明・文章の構造導入
第 2 回	Chapter 1 Animals in Zoos [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 3 回	Chapter 1 Animals in Zoos [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 4 回	Chapter 2 Security Cameras [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト

第 5 回	Chapter 2 Security Cameras [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 6 回	Chapter 3 Can Customer Service Go Too Far? [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 7 回	Chapter 3 Can Customer Service Go Too Far? [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 8 回	Chapter 5 Womenomics [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 9 回	Chapter 5 Womenomics [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 10 回	Chapter 6 Extreme Sports [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 11 回	Chapter 6 Extreme Sports [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 12 回	Chapter 7 Casinos and Gambling [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 13 回	Chapter 7 Casinos and Gambling [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 14 回	今学期のまとめ	文章の読解、エクササイズ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では辞書をひきながらテキストを読み、まずは自分の力で設問に答えてみてください。予習は疑問を見つけるための作業と考え、授業はその疑問を解消する場として利用してください。また授業後に授業内で身につけた知識を振り返り、知識を定着させることもしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、ライティング課題 50%で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位習得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行う予定です。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要になります。

【その他の重要事項】

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

西野 方子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 b 組/4(中の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は以下の 3 点です。

- 1) 複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読めるようになる
 - 2) パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取り、また書き手の感情や意図をつかめるようになる
 - 3) 得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、批判的思考力を養う
- その他、「聴く力」の育成、英語での内容要約や批評コメントの執筆の練習をします。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の 6 点です。

- 1) パラグラフの構造を理解する
- 2) パラグラフ同士の繋がりを正確に把握しながら全体の内容を理解する
- 3) これまでに学んだ文法・構文を復習する
- 4) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図や論旨など必要な情報をつかめるようにする
- 5) 批判的にエッセイを読んだ上で、エッセイについて英語で要旨や批評文を書けるようにする
- 6) 英語辞書の効果的な使い方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では現代の諸問題を扱う英語のエッセイを読みます。受講生は予習としてエッセイを事前に読み、また指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙などを確認します。基本的にひとつの章につき 2 回授業を行い、1 回目の授業ではエッセイの内容確認や知識定着のための小テスト、2 回目の授業では内容を批判的に考えたりまたライティング課題を課すなどして自分の意見を英語で表現する練習を行う予定です。小テストの採点結果やライティング課題へのフィードバックは次の回の授業で返却します。

※進捗や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明・文章の構造導入
第 2 回	Chapter 9 Space Exploration [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 3 回	Chapter 9 Space Exploration [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題

第 4 回	Chapter 10 Becoming a World Heritage Site [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 5 回	Chapter 10 Becoming a World Heritage Site [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 6 回	Chapter 11 Driverless Cars [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 7 回	Chapter 11 Driverless Cars [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 8 回	Chapter 12 The Lay-Judge System in Japan [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 9 回	Chapter 12 The Lay-Judge System in Japan [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 10 回	Chapter 13 Artificial Intelligence [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 11 回	Chapter 13 Artificial Intelligence [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 12 回	Chapter 15 Trusting Statistics [For]	文章の読解、エクササイズ、小テスト
第 13 回	Chapter 15 Trusting Statistics [Against]	文章の読解、エクササイズ、ライティング課題
第 14 回	今学期のまとめ	文章の読解、エクササイズ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習では辞書をひきながらテキストを読み、まずは自分の力で設問に答えてみてください。予習は疑問を見つけるための作業と考え、授業はその疑問を解消する場として利用してください。また授業後に授業内で身につけた知識を振り返り、知識を定着させることもしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)
その他、配布プリント

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、ライティング課題 50%で評価します。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行う予定です。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要になります。

【その他の重要事項】

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 c 組/7(基礎の基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英国の社会・文化について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションやライティングを行う。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

授業は基本的に zoom で行い、試験のみ対面で行う。zoom 等の詳細については、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Multi-Cultural UK
2	Chapter 2	English Gardens
3	Chapter 3	The British Royal Family
4	Chapter 4	Education in the UK
5	Chapter 5	Eating in Britain
6	Chapter 6	Health & the Medical System
7	Chapter 7	Music & Fashion
8	Chapter 8	Tourism
9	Chapter 9	Post Brexit Britain
10	Chapter 10	Leisure & Sport in the UK
11	Chapter 11	The British Empire
12	Chapter 12	Media in the UK
13	Chapter 13	Regions of Britain
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Warm-up に取り組み、Reading1 および 2 のテキストを読み、訳してこること。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

James C. House、三好道子『Modern Britain: Culture, Society and History/現代英国の文化・社会・歴史』（南雲堂、2021年）、2000円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

試験 70%

4回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern Britain.

LANe100LA

英語 1 - II

2017年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 c 組/7(基礎の基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションやライティングを行う。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

授業は基本的に zoom でを行い、試験のみ対面で行う。zoom 等の詳細については、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	America's Easter Tradition
2	Chapter 2	America's Inner-city Music
3	Chapter 3	African American Music
4	Chapter 4	The American Academy of Motion Picture Arts and Sciences
5	Chapter 5	American Fashion
6	Chapter 6	American Universities
7	Chapter 7	American Social Networking
8	Chapter 8	American Innovators and Innovation
9	Chapter 9	American Football
10	Chapter 10	Hollywood
11	Chapter 11	Walt Disney
12	Chapter 12	Historic Route 66
13	Chapter 13	American Fast Food
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Warm-up に取り組み、Reading1 および 2 のテキストを読み、訳してくる。特に指名された学生は、自身の担当箇所について、ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

Ryan Smithers, Craig Gamble 『Modern America: Culture, Society and History/現代米国の文化・社会・歴史』（南雲堂、2021年）、2000円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

試験 70%

4回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.

LANe100LA

英語 1－I

2017年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1単位

キ1年：英語d組/1(上の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

UK ロックの歴史を 50 年代から現代まで辿るテキストを使う。その精読及び速読を通して読解力を強化し、イギリスに対する理解を深めるとともに文化と社会の関係について考える。また、イギリス史を足掛かりに共時態の視点から日本の戦後史を見直し、歴史経験の違いと普遍性を見て行く。さらに、テキストに設定されたディベート演習を通して批判的な思考と論理的な文章を書く力を養う。テキストにはロックソングが教材として取り上げられているが、そのほかに映画などを追加して英語の音声に慣れる機会も設ける。

【到達目標】

- (1) 単語の意味をつないで適当に文意を類推するのではなく、文の構造や修飾関係を正確に把握した上で内容が理解できる。
- (2) 様々なテーマについて複数の立場から考え、自分の考えを平易な英語で書くことが出来る。
- (3) 英語の音声に慣れ、ポイントとなる部分を正しく聞き取ることが出来る。
- (4) 歴史を踏まえて異文化を理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を行います。テキストは全部で 15 ユニットから成っていますが、春学期は Unit 7 まで（ロック前史から 70 年代前半のパンクの登場まで）を扱い、映画鑑賞なども挟んで、特に 60 年代と 70 年代前半を丁寧に見て行きます。テキストは精読、速読を取り混ぜ、意味や構文の取りにくい文に特に注意を払いながら読んでいきますが、予習を促し理解を深めるため、プリント教材による読解演習や小テスト（辞書参照可）を追加する予定です。各ユニットの **Debate & Further Research** のセクションについては全部取り上げず、関連する日本社会の様々な側面も意識しつつ、たたき台として短い作文（英文、又は和文）を用意した上でクラスメートと意見交換してもらいます。（事情が許せばグループトークの形で行う予定です。）また、映画鑑賞の時間を設けるほか、テキストとは別にリスニング演習を加えます。

なお、提出してもらった課題は個々に採点等して返却するか、または授業内で全体としてフィードバックを行います。

最後に、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととなります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や英語読解のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Reading Practice Learning about History	Unit 1 Introduction: Rock Roots 若者文化台頭の歴史的背景
3	Reading Practice Writing Skills	Unit 1 パラグラフの構造

4	Reading Practice Learning about History	Unit 2 1850s-1950s: Before Rock and Roll (速読) 60年代のイギリスと日本
5	Reading Practice Watching a Film	Unit 3 Early 1960s: Enter Rock and Roll <i>The Boat That Rocked</i> (1)
6	Reading Practice Watching a Film	Unit 3 <i>The Boat That Rocked</i> (2)
7	Reading Practice Expressing Yourself	Unit 3 60年代の社会と文化に関連した テーマでのディベート (1)
8	Reading Practice Learning about History	Unit 4 Later 1960s: Into Psychedelic (速読) 70年代前半のイギリスと日本
9	Reading Practice	Unit 5 Early 1970s: Prog Rock (速読)
10	Reading Practice Expressing Yourself	Unit 6 Early 1970s: Glam Rock 60年代の社会と文化に関連した テーマでのディベート (2)
11	Reading Practice Learning about History	Unit 6 70年代後半のイギリスと日本
12	Reading Practice	Unit 7 Mid-1970s: Punk Rock
13	Reading Practice Expressing Yourself	Unit 7 パンクロックに関連したテーマ
14	期末テスト	総括+読解の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
Reading Passage の予習は必須。未知の単語を調べるのは勿論のこと、すぐに答えられるよう、精読のユニットはきちんと和訳しておく。また、文の構造や文意についても自分の頭でよく考え、疑問点があれば洗い出し、授業で質問して解消した上で復習する。クラスメートとの意見交換（ディベート）に備え、必要なりサーチを行い、短い英語または日本語の文章を用意する。

【テキスト（教科書）】

Paul Hullah & 寺西雅之 *Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法>

- ・期末に読解の復習テストを実施します。
- ・小テスト形式の読解演習（辞書参照可）を適宜行い、短い英作文を課します。
- ・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

<成績評価基準・評価の配分等>

- ・期末テストと読解の小テスト及び演習は到達目標の (1)(4) に対応し、授業を真面目によく聞き、学習したことがきちんと身についているかどうか、地道な努力が出来ているかどうかを見ます。
- ・英作文やディベートは到達目標の (1)~(4) に対応し、必要な資料を読み込んだり聞いたりして、自分の考えを論理的かつ正確でわかりやすい英語で表現出来ているかどうかを見ます。
- ・上記のほか、到達目標の (1)~(4) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が4回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも3回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末テスト (50%)、読解の小テスト及びディベート用英作文 (30%)、平常点（英作文以外の提出物、授業内の読解やリスニングなどの演習、その他授業への貢献度など） (20%)

【学生の意見等からの気づき】

説明は口頭だけでなく板書やプリントも活用し、ディベート（クラスメートとの意見交換）の時間を十分取るようにします。

【Outline and objectives】

It is often said that in Britain the movements and styles of rock music, a key element of youth culture, are closely connected with the period and social climate from which they emerge. In this course, therefore, students will see how rock songs have reflected the views and moods of British people since the 1950s when rock music first arrived in Britain from the U.S. By reading the texts carefully, they are expected to develop the reading skills necessary to grasp the structure of complex sentences accurately. They will also, by exploring the history of UK rock music, not only learn more about Britain and the British but also understand the historical relationship between culture and society. Thereby, they will be able to expand their horizons as well. There will also be time for debate or group talk, and students are required to write, in English, a few short essays for them.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 d 組/1(上の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

80 年代から 2000 年代にいたる文化と歴史の関係について、特に 80 年代と 90 年代を中心にイギリスと日本を比較しながら考察する。また、引き続き Writing と Listening の力の向上も目指し、Reading については、正確に、かつ速くたくさん読める力を養う。

【到達目標】

- (1) Reading, Listening とも英語の語順通りに意味を取ることが出来る。
- (2) 速読のコツを掴み、効率的な読み方が出来る。
- (3) ディベート等を通して自分の考えを論理的かつ説得力のある英語または日本語で表現し、異文化や社会の課題についてより深く批判的な考察が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じで、テキスト後半の Unit 9 からを対象とします。また、Skimming や Scanning などの代表的な速読方法を学び、より効率的な速読が出来るようにします。

課題に対するフィードバックについても、春学期同様、課題の性質により個々に返却するか、もしくは授業内で全体に対して行います。なお、秋学期も大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととなります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading Skills Learning about History	Skimming & Scanning について 80 年代のイギリスと日本
2	Reading Practice	Unit 12 Women in UK Rock (速読)
3	Reading Practice	Unit 9 Early 1980s: New Romanticism, etc.
4	Reading Practice Expressing Yourself	Unit 9 フェミニズムに関連したテーマ
5	Reading Practice	Unit 10 Later 1980s: Romantic Realism
6	Reading Practice Watching a Film	Unit 10 <i>Billy Elliot</i> (1)
7	Reading Practice Watching a Film	Unit 11 1990s: Britpop <i>Billy Elliot</i> (2)
8	Reading Practice Learning about History	Unit 11 90 年代のイギリスと日本
9	Reading Practice Expressing Yourself	Unit 11 80 年代の社会に関連したテーマ
10	Reading Practice	Unit 13 1980s-Present: Dance Music (速読)
11	Reading Practice	Unit 14 2000s-Present: Where Now? Where Next?

12	Reading Practice Expressing Yourself	Unit 14 21 世紀を迎えた社会もしくは ジェンダーに関連したテーマ
13	Reading Practice	Unit 15 Conclusion: Function of Rock (速読)
14	期末テスト	総括 + 読解の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。春学期同様、Reading Passage の予習は必須。ほかに、読解演習のプリントなどを使った復習やディベートに備えたりサーチ及び英作文など。

【テキスト（教科書）】

Paul Hullar & 寺西雅之 *Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法>

- ・期末に読解の復習テストを実施します。
- ・小テスト形式の読解演習（辞書参照可）を適宜行い、短い英作文を課します。
- ・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

<成績評価基準・評価の配分等>

・期末テストと読解の小テスト及び演習は到達目標の (1)(2) に対応し、授業を真面目によく聞き、学習したことがきちんと身についているかどうか、要点をしっかり把握し、正確な読みが出来ているかどうかを見ます。

・英作文やディベートは到達目標の (1)~(3) に対応し、与えられた資料だけでなく、自分でも必要な資料を集め、これを読み込んだり聞いたりした上で、自分の考えを論理的かつ正確でわかりやすい英語または日本語で表現出来ているかどうかを見ます。

・上記のほか、到達目標の (1)~(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末テスト (50%)、読解の小テスト及びディベート用英作文 (30%)、平常点（英作文以外の提出物、授業内の読解やリスニングなどの演習、その他授業への貢献度など）(20%)

【学生の意見等からの気づき】

説明は口頭だけでなく板書やプリントも活用し、ディベート（クラスメートとの意見交換）の時間を十分取るようにします。

【Outline and objectives】

You will continue to read about the historical relationship between culture and society from the 1980s to the present and to compare the post-war histories of Britain and Japan. In addition, you are expected to understand complex sentences as you read them without translating each of them into Japanese, which is necessary for extensive reading and should also lead to your developing confidence in listening.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 e 組/3(中の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら、人口問題、温暖化等の環境問題について考える。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。レポートは評価を付け後日返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その①
第 3 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その②
第 4 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その③
第 5 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その④
第 6 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤
第 7 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑥
第 8 回	ストックホルム宣言	宣言文その①
第 9 回	ストックホルム宣言	宣言文その②
第 10 回	ストックホルム宣言	宣言文その③
第 11 回	ストックホルム宣言	宣言文その④
第 12 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑤
第 13 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑥
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

環境問題に関する基本的英文の理解力を試す。

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on environment can be developed.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 e 組/3(中の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら。温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。後日評価を付け返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その①
第 2 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その②
第 3 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③
第 4 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④
第 5 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑤
第 6 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑥
第 7 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑦
第 8 回	東京宣言	宣言文その①
第 9 回	東京宣言	宣言文その②
第 10 回	東京宣言	宣言文その③
第 11 回	東京宣言	宣言文その④
第 12 回	東京宣言	宣言文その⑤
第 13 回	東京宣言	宣言文その⑥
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on environment can be developed.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

鈴木 博雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 f 組/5(基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学 1 年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【到達目標】

日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・本授業は、ZOOM によるリアルタイム型オンライン授業を基本に行う。

・英語の文章の構造を踏まえながら、精読、速読の作業を並行して行う。

・英文内容についての質疑応答を行い、予習や復習の状況を確認し、個々の応答に対し、口頭で助言、学習方法等についてのフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト Unit 1 前半	Poor Little Laika ①
2	テキスト Unit 1 後半	Poor Little Laika ②
3	テキスト Unit 2 前半	Where Did That Idiom Come From? ①
4	テキスト Unit 2 後半	Where Did That Idiom Come From? ②
5	テキスト Unit 3 前半	Heroes from the Canine Kingdom ①
6	テキスト Unit 3 後半	Heroes from the Canine Kingdom ②
7	テキスト Unit 4 前半	Pack Carefully ①
8	テキスト Unit 4 後半	Pack Carefully ②
9	テキスト Unit 5 前半	The Many Lives of Yoshiko Yamaguchi ①
10	テキスト Unit 5 後半	The Many Lives of Yoshiko Yamaguchi ②
11	テキスト Unit 6 前半	Taxation in the 21st Century ①
12	テキスト Unit 6 後半	Taxation in the 21st Century ②
13	テキスト Unit 7 前半	The Unusual Secretary...or Secretaries? ①
14	テキスト Unit 7 後半	The Unusual Secretary...or Secretaries? ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Premium Reader Intermediate』（金星堂）

【ISBN：978-4-7647-3910-9】

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60%）、期末試験点（40%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline and objectives】

(1)To obtain the ability to read ordinary English the difficulty of which is adequate for the freshmen.

(2)By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading English of various kinds of style which is required when the students go up to juniors and seniors or get out into the world after they graduate.

LANe100LA

英語1－Ⅱ

2017年度以降入学者

鈴木 博雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

キ1年：英語f組/5(基礎の上)

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【到達目標】

春学期に養成した学力を踏まえ、大学1年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・本授業は、ZOOMによるリアルタイム型のオンライン授業を基本に行う。

・英語の文章の構造を踏まえながら、春学期よりも一層高度な精読、速読の作業を並行して行う。

・英文内容についての質疑応答を行い、予習や復習の状況を確認し、個々の応答に対し、口頭で、助言、学習方法等についてのフィードバックを与える。オンラインの場合は、文書によるフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 8 前半	Mother Complex ①
2	Unit 8 後半	Mother Complex ②
3	Unit 9 前半	The Death of the Newspaper ①
4	Unit 9 後半	The Death of the Newspaper ②
5	Unit 10 前半	The Great Escape: Over, Under, or Through the Berlin Wall ①
6	Unit 10 後半	The Great Escape: Over, Under, or Through the Berlin Wall ②
7	Unit 11 前半	Technology, Friend or Fiend?①
8	Unit 11 後半	Technology, Friend or fiend?②
9	Unit 12 前半	Alcohol: A Dangerous Drug Across Cultures ①
10	Unit 12 後半	Alcohol: A Dangerous Drug Across Cultures ②
11	Unit 13 前半	The Superior Bee ①
12	Unit 13 後半	The Superior Bee ②
13	Unit 14 前半	The Remarkable Bullet...Train ①
14	Unit 14 後半	The Remarkable Bullet...Train ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Premium Reader』（金星堂）

【ISBN：978-4-7647-3910-9】

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60%）、期末試験点（40%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
- ・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline and objectives】

(1)To obtain the ability to read ordinary English the difficulty of which is adequate for the freshmen after learning English in the spring semester.

(2)By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading English of various kinds of style which is required when the students go up to juniors and seniors or get out into the world after they graduate.

LANe100LA

英語 1－I

2017年度以降入学者

馬上 紗矢香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 g 組/2(上/下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた多岐にわたるトピックの文章を正確に、かつ目的に応じた速度で読み、理解することのできる力を養うとともに、世界情勢への理解を深める。

【到達目標】

タイムリーなトピックのリーディングやリスニングの学習を通して、長い英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。まずは英文の基本的なパラグラフの構造を理解し、効果的に文章の要点や情報をつかむ練習を行う。さらに、文章を批評的に読み、客観的に分析する思考力の養成も行う。また、関連するトピックについて自ら調べ、分析し、発表も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、すべての回を Zoom で実施する。

1 回の授業で 1 つのユニットを学習する。毎回授業の初めに前回の学習内容の小テストを行う。教科書を読みながらリーディングスキルやテキストの背景を学ぶ。また、ニュースなどの様々なリスニングも行う。学生には授業内で自ら読み、分析した記事のプレゼンテーションを行ってもらおう。課題等に対するフィードバックはコメントと共に授業内で返却を行う。グループワークで授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	テキストの説明、授業内容や履修方法についての説明
2	Unit 1: Don't freeze English education reform, In international test, Japan sinks to lowest-ever rank for students' reading skills	Warm Up, Reading and Summary, Exercises, About Presentation
3	Unit 2: Building the UK's tech workforce	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
4	Unit 3: News outlets are uncertain about the nation's future, Flight-shaming could slow growth of airline industry, says IATA	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
5	Unit 4: Saving the Fire Victims Who Cannot Flee: Australia's Koalas	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises

6	Unit 5: Beware the posh boy's hollow self-confidence	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
7	Unit 6: Stopping superhuman A.I.	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
8	Unit 7: The Price of Recycling Old Laptops: Toxic Fumes in Thailand's Lungs	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
9	Unit 8: Can esports save post-Olympics Japan?	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
10	Unit 9: You don't have to be Asian to wear a face mask in an epidemic	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
11	Unit 10: Why Are Some People So Much More Infectious Than Others?	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
12	Unit 11: What's essential? In France, pastry and wine—in the US, golf and guns	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises, About Final Exam
13	Unit 12: They Laid Foundation For a Wireless Society	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises, まとめ
14	期末試験・まとめと解説	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

教科書の英単語を調べ、英文を読み自分なりに要約してみる。その上でエクササイズを行う。

前回の授業の内容を復習し、小テストに備える。

自らトピックを決め、文献を調べ、プレゼンテーションの準備を行う。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media 2021 Edition (『ニュースメディアの英語 2021 年度版』) 朝日出版社、2021 年、1700 円＋税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、小テスト 20%、宿題・その他課題 30%、平常点 10%
欠席が多い場合（4 回以上）は期末試験を受験できないので注意すること。

出席点はないので、授業に積極的に参加すること。

20 分以上の遅刻は欠席とみなす。3 回の遅刻で 1 回の欠席扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Zoom を使用する。

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットを各自用意すること。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持参すること。

積極的な授業参加が必須の授業です。

【Outline and objectives】

Students will read essays and paragraphs on many kinds of topics, summarize what they read, and understand various situations in the world.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

馬上 紗矢香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 g 組/2(上/下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた多岐にわたるトピックの文章を正確に、かつ目的に応じた速度で読み、理解することのできる力を養うとともに、世界情勢への理解を深める。

【到達目標】

タイムリーなトピックのリーディングやリスニングの学習を通して、長い英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。まずは英文の基本的なパラグラフの構造を理解し、効果的に文章の要点や情報をつかむ練習を行う。さらに、文章を批評的に読み、客観的に分析する思考力の養成も行う。また、関連するトピックについて自ら調べ、分析し、発表も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、すべての回を Zoom で実施する。

1 回の授業で 1 つのユニットを学習する。毎回授業の初めに前回の学習内容の小テストを行う。教科書を読みながらリーディングスキルやテキストの背景を学ぶ。また、ニュースなどの様々なリスニングも行う。学生には授業内で自ら読み、分析した記事のプレゼンテーションを行ってもらい。課題等に対するフィードバックはコメントと共に授業内で返却を行う。グループワークで授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス Unit 13: Sanna Marin of Finland to become World's Youngest Prime Minister, Finland retains crown as world's happiest country	テキストの説明、授業内容や履修方法についての説明 Warm Up, Reading and Summary, Exercises
2	Unit 14: Saudi Society Is Changing. Just Take a Look at These Coffeehouses.	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises, About Presentation
3	Unit 15: An Immigrant Influx That a Wall Won't Deter	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
4	Unit 16: We Are Like Animals: Inside Greece's Secret Site for Migrants	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises

5	Unit 17: Brave Blossoms praise team unity, Japanese fans laud historic effort	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
6	Unit 18: Russian security raid shocks scientists	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
7	Unit 19: Young Somalis Step in Where Government Fails	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
8	Unit 20: As Protests Rage on Citizenship Bill, Is India Becoming a Hindu Nation?	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
9	Unit 21: It Changed So Fast. Oil Is Making Guyana Wealthy But Intensifying Tensions	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
10	Unit 22: A nation pushed to the brink	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
11	Unit 23: Twenty years after independence, China eager to help cash-strapped East Timor	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
12	Unit 24: Makeup artist Kazu Hiro wins second Oscar for work on Bombshell, Oscar for Parasite Quenches Koreans' Long Thirst for Recognition	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises
13	Unit 25: The Great Escape: How Carlos Ghosn became the world's most famous fugitive	Weekly Quiz, Warm Up, Reading and Summary, Exercises, まとめ
14	期末試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

教科書の英単語を調べ、英文を読み自分なりに要約してみる。その上でエクササイズを行う。

前回の授業の内容を復習し、小テストに備える。

自らトピックを決め、文献を調べ、プレゼンテーションの準備を行う。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media 2021 Edition (『ニュースメディアの英語 2021年度版』) 朝日出版社、2021年、1700円＋税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、小テスト 20%、宿題・その他課題 30%、平常点 10%
欠席が多い場合（4回以上）は期末試験を受験できないので注意すること。

出席点はないので、授業に積極的に参加すること。

20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Zoom を使用する。

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットを各自用意すること。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持参すること。

積極的な授業参加が必須の授業です。

【Outline and objectives】

Students will read essays and paragraphs on many kinds of topics, summarize what they read, and understand various situations in the world.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 h 組/4(中の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

【到達目標】

英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（資料型）でおこなう。指示や課題は、学習支援システムで配信する。

現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉えたうえで文章全体の内容を適切に読み取っていく。さらに、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。また、課題等に対するフィードバックは、学習支援システムで配信する各回の課題と併せて前回課題のフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Unit 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Unit 1 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	英語教育改革を凍結させてはいけない—読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	英語教育改革を凍結させてはいけない—練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	日本の報道機関、自国の将来に確信がない—読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	日本の報道機関、自国の将来に確信がない—練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	コアラが森林火災の犠牲に—読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	コアラが森林火災の犠牲に—練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	上流階級育ちの坊ちゃんの中身の無い自身に気をつけろ—読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	上流階級育ちの坊ちゃんの中身の無い自身に気をつけろ—練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	ノート型パソコンのリサイクルでの代償:タイで有毒ガスが—読解による内容理解
11	構文の理解と練習問題	ノート型パソコンのリサイクルでの代償:タイで有毒ガスが—練習問題と構文の確認

12	語彙の確認と内容の把握	他の人たちよりもずっと感染力が強い人たちがいる理由—読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	他の人たちよりもずっと感染力が強い人たちがいる理由—練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に本文の単語を調べて文脈を追い、授業後に論述の展開を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

【テキスト（教科書）】

15 Selected Units of English through the News Media -2021-朝日出版社、2021 年 1 月

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

課題 (100%)

英文の内容を自らの言葉で説明できることを評価基準とする。原則として課題未提出が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行を急がずに、各ユニットの内容を着実に消化させる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】

課題未提出は欠席とみなす。

【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students understand the contents of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 h 組/4(中の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

【到達目標】

英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（資料型）でおこなう。指示や課題は、学習支援システムで配信する。

現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉えたい文章全体の内容を適切に読み取っていく。さらに、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。また、課題等に対するフィードバックは、学習支援システムで配信する各回の課題と併せて前回課題のフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Unit 7	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Unit 7 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	疫病の渦中で必要なのはフランスではペストリーとワイン、米国ではゴルフと銃—読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	疫病の渦中で必要なのはフランスではペストリーとワイン、米国ではゴルフと銃—練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	iPhone のはるか前に無線社会の基礎を築いた人たち—読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	iPhone のはるか前に無線社会の基礎を築いた人たち—練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	サウジ社会の変化はコーヒーハウスを覗けば分かる—読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	サウジ社会の変化はコーヒーハウスを覗けば分かる—練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	移民流入は壁では阻止できない—読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	移民流入は壁では阻止できない—練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	「桜戦士」、チームの結束を称賛—読解による内容理解

11	構文の理解と練習問題	「桜戦士」、チームの結束を称賛—練習問題と構文の確認
12	語彙の確認と内容の把握	ソマリアの若者たち、政府機能不全の地域に足を踏み入れる—読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	ソマリアの若者たち、政府機能不全の地域に足を踏み入れる—練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に本文の単語を調べて文脈を追い、授業後に論述の展開を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

【テキスト（教科書）】

15 Selected Units of English through the News Media -2021- 朝日出版社、2021 年 1 月

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

課題 (100%)

英文の内容を自らの言葉で説明できることを評価基準とする。原則として課題未提出が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行を急がずに、各ユニットの内容を着実に消化させる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】

課題未提出は欠席とみなす。

【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students understand the contents of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 i 組/6(基礎の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

アメリカに関する英文を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。後日評価を付け返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	試験的に和訳し進度等を説明する。
第 2 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその①
第 3 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその②
第 4 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその③
第 5 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその④
第 6 回	Gateway to the USA	確認テスト
第 7 回	the Melting Pot	人種のるつぼその①
第 8 回	the Melting Pot	人種のるつぼその②
第 9 回	the Melting Pot	人種のるつぼその③
第 10 回	the Melting Pot	人種のるつぼその④
第 11 回	the Melting Pot	確認テスト
第 12 回	the American Character	アメリカ人の特質その①
第 13 回	the American Character	アメリカ人の特質その②
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Background to the USA（金星堂）

【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your reading skill on America can be developed.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 i 組/6(基礎の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

アメリカに関する英文を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。後日評価を付け返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	American English	アメリカ英語その①
第 2 回	American English	アメリカ英語その②
第 3 回	American English	アメリカ英語その③
第 4 回	American English	アメリカ英語その④
第 5 回	American English	確認テスト
第 6 回	Blacks and Whites	人種問題その①
第 7 回	Blacks and Whites	人種問題その②
第 8 回	Blacks and Whites	人種問題その③
第 9 回	Blacks and Whites	人種問題その④
第 10 回	Blacks and Whites	確認テスト
第 11 回	The American Indians	インディアン問題その①
第 12 回	The American Indians	インディアン問題その②
第 13 回	The American Indians	インディアン問題その③
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Background to the USA（金星堂）

【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明する。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on America can be developed.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 j 組/1(上の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】

大学生として抑えておきたい心理学的、社会学的な知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。対面授業時には、中盤以降はグループで学習し、発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。課題等のフィードバックは、授業時（対面授業もしくは双方向性授業）に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス (Zoom を使用します)
第 2 講	発音ドリル	発音の確認
第 3 講	Lesson 1(1) What Is Business Psychology?	内容の講読
第 4 講	Lesson 1(2) What Is Business Psychology?	内容の要約と意見のまとめ
第 5 講	Lesson 2 (2)The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 2 The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 3 Rest Assured	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 4 Working with Robots	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 1)
第 9 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 1	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 2)
第 10 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 2	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 3)
第 11 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション	グループ・プレゼンテーション 1 (プレゼンの作成) 1(対面授業時)

第 12 講 グループ学習のまとめ グループ・プレゼンテーションとプレゼンテーション 2 (発表準備)

2(対面授業時)

復習 全体の復習 復習 (テキスト Lesson1-5 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)

総括 総括 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】

Mind Matters -The Psychology of Business and Work- Jim Knudsen 著 南雲堂
ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の教場練習への参加程度 (50%) 及び期末試験や課題等 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスの数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという苦情が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず発言の機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張っていたいただきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、テキスト、ノート、辞書類を用意して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、個人差があり、授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われれます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities if having classes on campus is available.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 j 組/1(上の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】

大学生として抑えておきたい心理学的、社会的な知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、対面学習時にはグループ学習に慣れることも目標とします。グループ・プレゼンテーションでは、英語で自分の意見を言えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。対面学習時には、中盤以降はグループで学習し、英語で発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。課題等のフィードバックは、授業時（対面授業もしくは双方向性授業）に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	夏休みの出来事を書く	夏休みの出来事をテンプレートを用いて書く
第 3 講	夏休みの予定を書く	夏休みの予定をテンプレートを用いて書く
第 4 講	Lesson 7 Me, Myself, and I	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 5 講	Lesson 8 Give and Take	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 9 What a Troublemaker: The Office Gossip	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 10 What a Troublemaker: The Office Control Freak	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 11 Handsome Is As Handsome Does	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 1)
第 9 講	Lesson 12 My Space, Your Space	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 2)
第 10 講	Lesson 13 So You Want to Be An Entrepreneur	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 3)

第 11 講 グループ学習のまとめ グループ・プレゼンテーションとプレゼンテーション 3 (打ち合わせ)

第 12 講 グループ学習のまとめ グループ・プレゼンテーションとプレゼンテーション 4 (リハーサル練習)

4
復習 全体の復習 復習 (テキスト Lesson7-13 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)

総括 総括 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】

Mind Matters - The Psychology of Business and Work - Jim Knudsen 著 南雲堂 2017 年 ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加程度 (50%) 及び期末試験 (50%) 等 (もしくは課題) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという苦情が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張ってくださいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、個人差があり、授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities if having classes on campus is available.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

宮本 和恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 k 組/3(中の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、読解力向上を主眼としています。

【到達目標】

辞書を使わなくても、ある程度の内容を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらいます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内に行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	学習の進め方について説明する
2	文型	歌舞伎を革新する松本幸四郎
3	文型	「歌舞伎を革新する松本幸四郎」の読解展開
4	時制	日本の知性
5	助動詞	傑物
6	名詞・代名詞	オバマ広島スピーチ
7	名詞・代名詞	「オバマ広島スピーチ」の読解展開
8	形容詞	多様化する IoT
9	形容詞	「多様化する IoT」の読解展開
10	副詞	金融効率化
11	副詞	「金融効率化」の読解展開
12	比較	癌の救世主
13	比較	「癌の救世主」の読解展開
14	復習	内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の単語を調べて、意味を取る予習をしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

進化する日本 南雲堂

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト。小テスト 60%

平常点 40%

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

遅刻は30分まで、それ以降は欠席扱いとする

遅刻3回で欠席1回とする

【学生の意見等からの気づき】

学生は、ゆっくりの進度を希望している

【Outline and objectives】

Primarily we are going to learn reading skill. And we study fundamental grammar through 'Grammar Review.'

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

宮本 和恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 k 組/3(中の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、読解力向上に主眼を置いている

【到達目標】

辞書を使わなくても、ある程度、理解できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらいます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内に行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受動態	生態系を解析
2	受動態	「生態系を解析」の読解展開
3	分詞	北限の椿
4	分詞	「北限の椿」の読解展開
5	動名詞	至上の米
6	動名詞	「至上の米」の読解展開
7	不定詞	「働き方改革のストレスチェック」
8	不定詞	「働き方改革のストレスチェック」の読解展開
9	前置詞	リーズナブルなジェネリック医薬品
10	前置詞	「リーズナブルなジェネリック医薬品」の読解展開
11	接続詞	夢の自動運転車
12	接続詞	「夢の自動運転車」の読解展開
13	仮定法	無限の再生可能エネルギー
14	復習	内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の単語を調べて、意味を取る予習をしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

進化する日本 南雲堂

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 60%

平常点 40%

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

遅刻は30分まで、それ以降は欠席扱いとする

遅刻3回で欠席1回とする

【学生の意見等からの気づき】

学生はゆっくりした進度を望んでいる

【Outline and objectives】

Primarily we are going to learn reading skill. And we study fundamental grammar through 'Grammar Review.'

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 I 組/5(基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけます。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむことができますようにします。

【到達目標】

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる。
- ②これまでに培った語彙・文法・構文を復習し強化する。
- ③幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
- ④英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
- ⑤効果的に辞書を使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英語の文章の内容を的確につかむことができますようにします。指定のテキストの他、新聞記事・雑誌の記事なども扱います。リスニングの練習も適宜行う予定です。

課題について、間違いの多かった部分を中心に、クラス全体で共有します。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。

【注】 下記の授業計画は、状況によって変更場合があります。

※この授業は、オンライン（主として学習支援システムからの資料配信）と教室対面による実施の週を設ける予定です。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明。 現在のリーディング力を診断。
第 2 回	英文の内容を予測する < 1 >	知らない単語を推測する。 辞書の効果的な使い方を学ぶ。
第 3 回	英文の内容を予測する < 2 >	トピック：環境——仮想水。
第 4 回	英文の内容を予測する < 3 >	トピック：生物——自然から学ぶ。
第 5 回	メインアイデアを理解する< 1 >	トピック：文化——ポピュラーカルチャー。
第 6 回	メインアイデアを理解する< 2 >	トピックセンテンスを参考に要約をする。
第 7 回	メインアイデアを理解する< 3 >	トピック：ガリバー旅行記。
第 8 回	メインアイデアを理解する< 4 >	トピック：科学。 文と文のつながりの役割を果たす表現を学ぶ。
第 9 回	まとめ	前半のまとめ。
第 10 回	プロジェクト< 1 >	プロジェクトの準備。
第 11 回	プロジェクト< 2 >	プロジェクトの完成。
第 12 回	プロジェクト< 3 >	プロジェクトの発表。
第 13 回	要約の方法を理解する	重要な情報を含めて要約する。
第 14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をすること。

また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

その他、授業内で指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reader's Ark Basic(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的参加、宿題・課題およびプロジェクトの内容等）60%

期末テスト 40%

*なお、各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

遅刻3回で欠席1扱いになります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてZoomも使用する可能性がある。Zoomの回には、受講環境によりヘッドセットが必要となる場合があります。

【その他の重要事項】

電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。

*コロナの感染状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システム(hoppi)の「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline and objectives】

This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.

This course also uses listening text to help students improve their listening skills.

LANe100LA

英語1－Ⅱ

2017年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：1単位

キ1年：英語I組/5(基礎の上)

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけます。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむことができるようになります。

【到達目標】

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる。
- ②これまでに培った語彙・文法・構文を復習し強化する。
- ③幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
- ④英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
- ⑤効果的に辞書を使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

英語の文章の内容を的確につかむことができるようにします。指定のテキストの他、資料を配布し、新聞記事・雑誌の記事なども扱います。リスニングの練習も適宜行う予定です。

課題について、間違いの多かった部分を中心に、クラス全体で共有します。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。

【注】 下記の授業計画は、状況によって変更場合があります。

※この授業は、オンライン（主として学習支援システムからの資料配信）と教室対面による実施の週を設ける予定です。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習 要約をする	授業の進め方の説明。 トピックセンテンスを見つけ情報をまとめる。
第2回	パラグラフ構造 < 1 > > [導入]	分類・比較・対象の構造を意識して英文記事を読む。
第3回	パラグラフ構造 < 1 > > [詳細]	英文の細部を理解する。 世界遺産・文化についての英文を読む。
第4回	パラグラフ構造 < 2 > > [導入]	原因と結果、理由のつながりを意識して、ゲーム理論についての英文記事を読む。
第5回	パラグラフ構造 < 2 > > [詳細]	英文の細部を理解する。 現代社会の課題についての英文を読む。
第6回	パラグラフ構造 < 2 > > [発展]	第4・5回の内容をさらに発展させる。
第7回	映画鑑賞とリスニング	テーマに関連した映画の一部を鑑賞し、リスニング練習を行う。
第8回	プロジェクト < 1 >	プロジェクトの準備。
第9回	プロジェクト < 2 >	プロジェクト原稿完成。
第10回	プロジェクト < 3 >	プロジェクトの発表。
第11回	著名人のスピーチ < 1 >	スクリプトの大枠を理解する。

第12回 著名人のスピーチ< 2 スクリプトの細部を理解する。

>

第13回 学術的な記事を読む 内容を理解し要約する。

第14回 期末テスト・まとめ 期末テスト・まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をすること。

また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

その他、授業内で指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reader's Ark Basic(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的参加、宿題・課題の提出・内容等）40%

・プロジェクト課題 20%

・期末テスト 40%

*なお、各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めません。

遅刻3回で欠席1回扱いになります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてZoomも使用する可能性がある。Zoomの回には、受講環境によりヘッドセットが必要となる場合があります。

【その他の重要事項】

電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。

*コロナの感染状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システム(hoppii)の「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline and objectives】

This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.

This course also uses listening text to help students improve their listening skills.

LANe100LA

英語1－I

2017年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：1単位

キ1年：英語m組/8(基礎の基礎の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高めると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化について学びます。

【到達目標】

英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せるようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得することができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英文等の内容に関する問題を解きます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 『タイタニック』	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 映画『タイタニック』のあらすじと時代背景を理解する。
第2回	'My Heart Will Go On' Celine Dion	Celine Dion 'My Heart Will Go On' を聞いて、その歌詞を訳す。
第3回	リスニング (TOEIC・写真描写問題)	TOEIC形式の写真描写問題を解く。
第4回	リーディング (ナショナル・アイデンティティの和訳)	カナダのナショナル・アイデンティティに関する英文を日本語に訳す。
第5回	リーディング (ナショナル・アイデンティティの内容理解)	ナショナル・アイデンティティにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第6回	Maroon 5 'Sugar'	Maroon 5 'Sugar' を聞いて、その歌詞を訳す。
第7回	リスニング (TOEIC・応答問題)	TOEIC形式の応答問題を解く。
第8回	リーディング (結婚文化の和訳)	欧米の結婚に関する英文を日本語に訳す。
第9回	リーディング (結婚文化の内容理解)	欧米の結婚にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第10回	『ズートピア』	映画『ズートピア』のあらすじと背景を理解する。
第11回	'Try Everything'	'Try Everything' を聞いて、その歌詞を訳す。
第12回	リーディング (迷信の和訳)	欧米の迷信にまつわる英文を日本語に訳す。

- 第14回 リーディング（迷信の 欧米の迷信にまつわる英文の内容
内容理解）に関する問題を解く。
第14回 授業内試験 春学期に学んだ内容に関する筆記
試験（リスニング問題を含む）を
行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト等を事前に読み、理解できない部分を明確にしておく。
授業中に学んだ内容を踏まえ、再度テキスト等を読み、理解できな
い箇所がないか確認する。もしわからないところがあれば次回の授
業で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs(New Edition) (『ポップスで学ぶ総合英
語』)・角山彦彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第3版、ケンブリ
ッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

授業参加（20%）と期末試験（80%）の合計で評価します。60点以
上で合格です。

4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にい
ない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除い
た遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証
を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いもの
となりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly reading and listening
abilities.

Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics.
You also read short essays on western culture so you learn not
only how to read English, but also how to read western culture
and its point of view.

LANe100LA

英語1－Ⅱ

2017年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

キ1年：英語m組/8(基礎の基礎の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高め
ると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化
について学びます。

【到達目標】

英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せる
ようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得すること
ができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を
学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャ
リアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英
文等の内容に関する問題を解きます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから
いくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さら
に、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内
で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 『アナと雪の女王』	オリエンテーション：シラバスに 基づき講義内容を説明する。 『アナと雪の女王』のあらすじと 背景を理解する。
第2回	'Let It Go'	'Let It Go'を聞いて、その歌詞を 訳す。
第3回	リスニング (TOEIC・会話問題)	TOEIC形式の会話問題を解く。
第4回	リーディング（ディズ ニー・和訳）	ディズニーに関する英文を日本語 に訳す。
第5回	リーディング（ディズ ニー・内容理解）	ディズニーにまつわる英文の内容 に関する問題を解く。
第6回	Bruno Mars 'Just The Way You Are'	Bruno Mars 'Just The Way You Are'を聞いて、その歌詞を訳す。
第7回	リスニング（説明文問 題）	TOEIC形式の説明文問題を解く。
第8回	『ハリーポッター』	映画『ハリーポッター』のあらす じと背景を理解する。
第9回	リーディング（ハリー ポッター・和訳）	『ハリー・ポッター』に関する英 文を日本語に訳す。
第10回	リーディング（ハリー ポッター・内容理解）	『ハリー・ポッター』にまつわる 英文の内容に関する問題を解く。
第11回	Ariana Grande 'Santa Tell Me'	Ariana Grande 'Santa Tell Me' を聞いて、その歌詞を訳す。
第12回	リーディング（クリス マス・和訳）	クリスマスに関する英文を訳し て、その内容を理解する。
第13回	リーディング（クリス マス・内容理解）	クリスマスにまつわる英文の内容 に関する問題を解く。

第14回 授業内試験

春学期に学んだ内容に関する筆記試験（リスニング問題を含む）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト等を事前に読み、理解できない部分を明確にしておく。授業中に学んだ内容を踏まえ、再度テキスト等を読み、理解できない箇所がないか確認する。もしわからないところがあれば次回の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs(New Edition)（『ポップスで学ぶ総合英語』・角山照彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第3版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

授業参加（20%）と期末試験（80%）の合計で評価します。60点以上で合格です。

4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly reading and listening abilities.

Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics. You also read short essays on western culture so you learn not only how to read English, but also how to read western culture and its point of view.

LANe100LA

英語2－I

2017年度以降入学者

馬上 紗矢香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

キ1年：英語a組/2(上/下)

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における様々なトピックについて、自分でリサーチ、分析を行い、口頭および文章での確に表現できる力を養成する。プレゼンテーションやパラグラフライティングの方法を基礎から学習する。

【到達目標】

ライティングやプレゼンテーションの方法を基礎から学び、自ら考えた意見をしっかりと表現できるようになる。今学期のライティングではパラグラフライティングの方法を学び、来学期に長文でレポートを書けるように基礎作りをする。クラス内でプレゼンテーションを行ったり、お互いの文章を読みあうことで、論理的思考力を養う。また、様々なプレゼンテーションの映像を見ることでリスニングだけでなく効果的なプレゼンテーションの方法も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、すべての回をZoomで実施する。

テキストやハンドアウトを用いてパラグラフライティングやプレゼンテーションの方法を学ぶ。学生はテキストやハンドアウトの予習をしてもらうだけでなく、定期的にプレゼンテーションやライティングの提出を行ってもらう。お互いの文章を読みあったり、プレゼンテーションにリアクションをしたりすることによって得た学びを自らの発表や作文にも反映できるようにする。

課題等に対するフィードバックはコメントと共に授業内で返却を行い、次のプレゼンテーションやライティングに活用できるようにする。

グループワークで授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス About Self-Introduction Presentation	テキストの説明、授業内容や履修方法についての説明
2	Self-Introduction Presentation; Structure of Presentation; Chapter 1: Flow of Sentences	Presentation Learn the basic structure of presentation Reading text and Exercises
3	Chapter 2: Basic Paragraph Posture and Eye Contact	Reading text and Exercises Learn posture and eye contact
4	Chapter 3: Developing Coherence Gestures	Reading text and Exercises Learn gestures
5	Chapter 4: Guiding Your Readers Voice Inflection	Reading text and Exercises Learn voice inflection

6	Chapter 5: Hedges and Boosters Formatting your paragraph	Reading text and Exercises Learn how to format your writing
7	Presentation How to Research	Presentation Learn how to conduct your research
8	Chapter 6: Generating Ideas Visual Aid	Reading text and Exercises Learn how to make your visual aid
9	Chapter 7: How to Attract Your Readers	Reading text and Exercises Preparation for finals
10	Chapter 8: Supporting your	Reading text and Exercises Preparation for finals
11	Chapter 9: Concluding Paragraphs	Reading text and Exercises Preparation for finals
12	Watching Presentations	Watch presentations and understand the details Preparation for finals
13	Final Presentation	Final Presentation
14	Final Presentation	Final Presentation Submission of Final Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

教科書やハンドアウトの英単語を調べ、理解した上でエクササイズを行う。

教員の指示に従ってライティングを作成する。

自らトピックを決め、文献を調べ、プレゼンテーションの準備を行う。

【テキスト（教科書）】

中谷安男著『Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals 大学生のためのアカデミックライティング・ストラテジー』金星堂、2020年、2000円＋税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

Final Writing 30%, Final Presentation 30%, 宿題・その他課題 30%、平常点 10%

欠席が多い場合（4回以上）は Final Writing の提出と Final Presentation ができないので注意すること。

出席点はないので、授業に積極的に参加すること。

20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Zoom を使用する。

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットを各自用意すること。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持参すること。

積極的な授業参加が必須の授業です。

【Outline and objectives】

Students will learn the basic patterns of Presentation and Paragraph Writing. Students will conduct research on various topics in the society, analyze it, and express their opinions through presentations and writings.

LANe100LA

英語2－Ⅱ

2017年度以降入学者

馬上 紗矢香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

キ1年：英語a組/2(上/下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における様々なトピックについて、自分でリサーチ、分析を行い、プレゼンテーションおよびエッセイで的確に表現できる力を養成する。パラグラフライティングの基礎を用いて、エッセイを作成する方法を学習する。

【到達目標】

ライティングやプレゼンテーションの方法を用いて、自らの意見をさらにしっかりと英語で表現できるようになる。今学期のライティングではパラグラフライティングの基礎をふまえて、エッセイライティングの方法を学び、論理的な文章が書けるようにする。クラス内でプレゼンテーションを行ったり、お互いの文章を読みあうことで、論理的思考力を養う。また、様々なプレゼンテーションの映像を見ることでリスニングだけでなく効果的なプレゼンテーションの方法も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、すべての回を Zoom で実施する。

テキストやハンドアウトを用いてエッセイライティングやプレゼンテーションの方法を学ぶ。学生はテキストやハンドアウトの予習をしてもらうだけでなく、定期的にプレゼンテーションやライティングの提出を行ってもらう。お互いの文章を読みあったり、プレゼンテーションにリアクションをしたりすることによって得た学びを自らの発表や作文にも反映できるようにする。

課題等に対するフィードバックはコメントと共に授業内で返却を行い、次のプレゼンテーションやライティングに活用できるようにする。

グループワークで授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス Presentation	テキストの説明、授業内容や履修方法についての説明 Impromptu Presentation
2	Chapter 10: Comparison and Contrast Paragraphs Sample Presentation	Reading text and Exercises Watch presentations and understand the details
3	Chapter 11: Essay Structure Sample Presentation	Reading text and Exercises Watch presentations and understand the details
4	Essay Structure Sample Presentation	Reading text and Exercises Watch presentations and understand the details

5	Outline of Essay How to Format Your Essay Sample Presentation	Reading text and Exercises Learn how to format your essay Watch presentations and understand the details	積極的な授業参加が必須の授業です。 【Outline and objectives】 Students will conduct research on various topics in the society, analyze it, and express their opinions through presentations and essays. Students will learn the basic patterns of an essay.
6	Introduction and Conclusion Citation and Reference List Sample Presentation	Reading text and Exercises Learn citation and reference list Watch presentations and understand the details	
7	Presentation	Presentation	
8	Unity and Coherence Sample Presentation	Reading text and Exercises Watch presentations and understand the details	
9	Chapter 12: Problem-Solving Essay Sample Presentation	Reading text and Exercises Watch presentations and understand the details	
10	Chapter 13: The First Step for Academic Papers Sample Presentation	Reading text and Exercises Watch presentations and understand the details	
11	Chapter 14: Creating a research Niche Sample Presentation	Reading text and Exercises Watch presentations and understand the details Preparation for Finals	
12	Chapter 15: Review Sample Presentations	Reading text and Exercises Watch presentations and understand the details Preparation for Finals	
13	Final Presentation	Final Presentation	
14	Final Presentation	Final Presentation Submission of your final essay	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

教科書やハンドアウトの英単語を調べ、理解した上でエクササイズを行う。

教員の指示に従ってライティングを作成する。

自らトピックを決め、文献を調べ、プレゼンテーションの準備を行う。

【テキスト（教科書）】

中谷安男著『Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals 大学生のためのアカデミックライティング・ストラテジー』金星堂、2020年、2000円+税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

Final Writing 30%, Final Presentation 30%, 宿題・その他課題30%、平常点10%

欠席が多い場合（4回以上）はFinal Writingの提出とFinal Presentationができないので注意すること。

出席点はないので、授業に積極的に参加すること。

20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとZoomを使用する。

大学でZoom授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットを各自用意すること。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持参すること。

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 b 組/4(中の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

【到達目標】

さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（資料型）でおこなう。指示や課題は、学習支援システムで配信する。

英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をとおして単語や語群の配列を詳細に検討していく。さらに、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認などもおこなないながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。また、課題等に対するフィードバックは、学習支援システムで配信する各回の課題と併せて前回課題のフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 1 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	英語の文の語順
3	英作文演習と構文の理解	主語の数と動詞の形
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	いろいろな動詞
5	英作文演習と構文の理解	目的語 2 つの文・1 つの文
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	目的語・補語のある文
7	英作文演習と構文の理解	情報の伝え方
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	現在形・現在進行形で表せること
9	英作文演習と構文の理解	過去形・過去進行形
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	未来表現
11	英作文演習と構文の理解	現在完了形

- 12 内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理 過去完了形・未来完了形
- 13 英作文演習と構文の理解 助動詞
- 14 理解度の確認 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業後に授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

【テキスト（教科書）】

スキル統合型:英作文トレーニング
朝日出版社、野田小枝子著

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

課題 (100%)

自らの言葉で状況説明や意思伝達ができることを評価基準とする。原則として課題未提出が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】

課題未提出は欠席とみなす。

【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 b 組/4(中の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

【到達目標】

さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（資料型）でおこなう。指示や課題は、学習支援システムで配信する。

英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をとおして単語や語群の配列を詳細に検討していく。さらに、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認などもおこないながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。また、課題等に対するフィードバックは、学習支援システムで配信する各回の課題と併せて前回課題のフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 13	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 13 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	条件文と仮定法
3	英作文演習と構文の理解	仮定法を使った定型表現
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	受身形
5	英作文演習と構文の理解	動名詞と不定詞
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	比較
7	英作文演習と構文の理解	後置修飾
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	関係代名詞
9	英作文演習と構文の理解	関係副詞
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	文のつなげ方
11	英作文演習と構文の理解	分詞構文

12 内容把握のための練習 it を使った構文

問題と語彙や文法の整

理

13 英作文演習と構文の理 いろいろな否定文

解

14 理解度の確認 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

授業の前に基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業後に授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

【テキスト（教科書）】

スキル統合型:英作文トレーニング

朝日出版社、野田小枝子著

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

課題 (100%)

自らの言葉で状況説明や意思伝達ができることを評価基準とする。原則として課題未提出が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】

課題未提出は欠席とみなす。

【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 c 組/7(基礎の基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline and objectives】

This class will show you how your basic communicative English skill can be developed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な会話文を習得し、簡単な英文を聞いて理解できるようにする。

【到達目標】

簡単な英語を聞き取りその英語を用いて簡単な会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生諸君には多くの基本会話文を読んでもらい、多くの基本英文を聞いてもらう。

授業中のレポートは後日評価を付け返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	会話 Lesson One	Presentation を中心に練習する。
第 2 回	会話 Lesson One	Application Dialogue を中心に練習する。
第 3 回	会話 Lesson One	Application Dialogue を中心に練習する。
第 4 回	Listening	Application Dialogue を用いて listening の練習をする。
第 5 回	Listening	プリントを用いて listening の練習をする。
第 6 回	Listening	プリントを用いて listening の練習をする。
第 7 回	会話 Lesson Two	Presentation を中心に練習する。
第 8 回	会話 Lesson Two	Application Dialogue を中心に練習する。
第 9 回	会話 Lesson Two	Application Dialogue を中心に練習する。
第 10 回	Listening	Application Dialogue を用いて listening の練習をする。
第 11 回	Listening	プリントを用いて listening の練習をする。
第 12 回	会話 Lesson Three	Presentation を中心に練習する。
第 13 回	面接試験	テキスト使用
第 14 回	面接試験	テキスト使用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず授業で学習した英文を暗記すること。予習よりも復習を中心に毎回 1 時間以上学習する必要がある。

【テキスト（教科書）】

『アメリカ口語教本一初級用』 William L. Clark 研究社

【参考書】

特に用いない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、面接試験点 80 % 各学期 4 回以上の欠席は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明したい。

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 c 組/7(基礎の基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline and objectives】

This class will show you how your basic communicative English skill can be developed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生諸君が英語表現に慣れその表現を使えるようにする。

【到達目標】

簡単な英語を聞き取り、自分でも英語で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャ
リアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの対話文を聞き、リスニング力を養成し、聞いた表
現を用いて簡単な会話の練習をする。授業中のレポートは評価を付
け後日返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	A Modern Home(解 説)	Presentation を聞き、その内容 について質問する。
第 2 回	A Modern Home (導 入)	Dialogue を聞く。
第 3 回	A Modern Home (応 用)	Dialogue を読む。
第 4 回	A Modern Home (実 践)	Dialogue の表現を用いて会話を する。
第 5 回	Micky's Home Town (解説)	Presentation を聞き、その内容 について質問する。
第 6 回	Micky's Home Town (導入)	Dialogue を聞く。
第 7 回	Micky's Home Town (応用)	Dialogue を読む。
第 8 回	Micky's Home Town (実践)	Dialogue の表現を用いて会話を する。
第 9 回	Two Successful Men (解説)	Presentation を聞き、その内容 について質問をする。
第 10 回	Two Successful Men (導入)	Dialogue を聞く。
第 11 回	Two Successful Men (応用)	Dialogue の表現を用いて会話を する。
第 12 回	Two Successful Men	二人の成功者その④
第 13 回	面接試験	テキスト使用
第 14 回	面接試験	テキスト使用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習よりも復習を中心に毎回 1 時間以上学習する必要がある。

【テキスト（教科書）】

アメリカ口語教本一初級用（研究者）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 d 組/1(上の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。対面学習時にはグループ・プレゼンテーションの方法も学びます。

【到達目標】

英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。プレゼンテーションが英語で行えるような練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。個人及びグループでのプレゼンテーションを効果的に行う方法も学びます。課題等のフィードバックは、授業時（対面授業もしくは双方向性授業）に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス (Zoom を使用します)
第 2 講	発音練習	発音の練習をする
第 3 講	New York	梨沙、ニューヨークへ
	Week 1	
第 4 講	Week 2	由紀、ロンドンに到着
第 5 講	Week 3	自由の女神を見学
第 6 講	Week 4	ロンドンの暮らし
第 7 講	Week 5	シェウハウスへ引っ越し
第 8 講	Week 6	マンハッタンを楽しむ
第 9 講	Week 7&8	お好み焼きを作る ニューヨークでデート
第 10 講	Week 9&10	ビジネスの新展開 初めての挫折
第 11 講	Week 11& 12	セブン・シスターズへ 由紀、ロンドンへ戻る
第 12 講	プレゼンテーション練習	プレゼンテーション (練習とリハーサル)
復習	復習	復習 (テキスト week 1-12 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)
総括	総括	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。内容としては、毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】

おとなの基礎英語 Season 6 松本茂監修 主婦の友社 2018 年 ISBN 978-4-07-426578-7

【参考書】

英和・和英辞書

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言 (50%) およびペーパーテストや課題等 (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

【学生が準備すべき機器他】

毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】

授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内の打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

【Outline and objectives】

This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 d 組/1(上の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。効果的なプレゼンテーションの方法も学びます。

【到達目標】

英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。また、プレゼンテーションを英語で行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。また、グループでプレゼンテーションを英語で行います。課題等のフィードバックは、授業時(対面授業もしくは双方向性授業)に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音クリニック	発音の確認
第 3 講	Week 13	ナディアの夢
第 4 講	Week 14	イザベラの夢
第 5 講	Week 15	由紀、NY に現れる
第 6 講	Week 16	梨紗の才能
第 7 講	Week 17-18	友紀の再出発 カムデン・タウン
第 8 講	Week 19-20	由紀とプライス 母娘の再会
第 9 講	Week 21-22	ジョンの告白 梨紗の夢、梨紗の決断
第 10 講	Week 23-24	アリスとの再会 友紀の再出発!
第 11 講	プレゼンテーションの技法	プレゼンテーションの技法を学ぶ
第 12 講	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
復習	復習	全体の復習
総括	総括	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習・復習とクラス外で自己練習が必要です。

【テキスト（教科書）】

おとなの基礎英語 Season 6 松本茂監修 主婦の友社 2018 年
ISBN 978-4-07-426578-7

【参考書】

英和・和英辞書

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 (50%) およびペーパーテストや課題等 (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

【学生が準備すべき機器他】

DVD およびプロジェクタを使用する場合があります。

【その他の重要事項】

プレゼンテーションでは、春学期からのバージョン・アップが求められます。

【Outline and objectives】

This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and presentations.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

【Outline and objectives】

We are going to learn about the difference of nuance between Japanese and English through English composition.

宮本 和恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 e 組/3(中の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日英のニュアンスや発想上の違いについて、学習する

【到達目標】

一歩進んだ英語を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらいます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内に行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 月	導入	授業の進め方について説明
2	名詞（1）	メガネは glass か glasses か
3	名詞（1）	メガネは glass か glasses か
4	名詞（2）	「お客」は常に guest だろうか
5	名詞（2）	「お客」は常に guest だろうか
6	冠詞	by an hour と by the hour の違い
7	冠詞	by an hour と by the hour の違い
8	動詞（1）	marry him と marry with him はどちらが正しいか
9	動詞（1）	marry him と marry with him はどちらが正しいか
10	動詞（2）	「寝る」は常に sleep か
11	動詞（2）	「寝る」は常に sleep か
12	助動詞	shall, will, may の違い
13	時制	動詞は「時」とともに変化する
14	復習	内容理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスを参考に予習する

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

Write it Right! 鶴見書店

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 60%

平常点 40%

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

遅刻は30分までで、それ以降は欠席扱いとする

遅刻3回で欠席1回とする

【学生の意見等からの気づき】

学生は緩やかな進度を希望している

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

宮本 和恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 e 組/3(中の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

遅刻 3 回で欠席 1 回とする

【学生の意見等からの気づき】

学生はゆっくりした進度を希望しています

【Outline and objectives】

We are going to learn about the difference of nuance between Japanese and English through English composition.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日英のニュアンスや発想の違いについて学習する

【到達目標】

一歩進んだ英語を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャ
リアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらおう。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、
さらなる議論に活かします。最終授業で、13 回までの講義内容の
まとめや復習だけでなく、授業内に行った試験や小レポート等、課
題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準動詞	「泳ぎに行く」は go to swim か go swimming か
2	準動詞	「泳ぎに行く」は go to swim か go swimming か
3	形容詞（1）	「とても美味しい」は very delicious か
4	形容詞	「とても美味しい」は very delicious か
5	形容詞（2）	「狭い」はいつも narrow だろう か
6	形容詞（2）	「狭い」はいつも narrow だとう か
7	副詞	ago と before のちがい
8	副詞	afo と before のちがい
9	比較	多様な比較表現を学習する
10	関係詞	「場所」の後がいつも where か
11	関係詞	「b 所」の後がいつも where か
12	接続詞	日本語の「と」や「が」はいつも and と but ではない
13	接続詞	野本後の「と」や「が」はいつも and と but ではない
14	復習	内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする
シラバスを参考に予習する

【テキスト（教科書）】

Write it Right 鶴見書店

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 60%

平常点 40%

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

遅刻は 30 分までで、それ以降は欠席扱いとする

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 f 組/5(基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で表現する力を養います。基本例文から始め、論理的な構成をもつ短いパラグラフを書く練習を行います。

【到達目標】

- ①総合的な英語力の向上。
- ②論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
- ③使える語彙を増やす。
- ④論理的な構成をもつパラグラフを書くことができる。
- ⑤英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) を理解し、身近なトピックについて、パラグラフの論理的構成をふまえたうえで、表現できるように基礎固めをします。リスニングの練習も適宜行います。

課題については、間違いの多かった部分を中心にクラス全体で共有し、フィードバックをします。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。

【注】 下記の授業計画は、状況によって変更の場合があります。

※この授業は、オンライン（主として学習支援システムからの資料配信）と教室対面による実施の週を設ける予定です。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明と自己紹介。辞書の使い方を学ぶ。
第 2 回	自己紹介・定義の仕方	自己紹介をする。英語にない文化、趣味などの表現の仕方を学ぶ。
第 3 回	出来事や経験を語る①	環境に関する記事、プロジェクトに関する報告を読み、文章の構造を理解する。
第 4 回	出来事や経験を語る②	時系列に沿って短い物語を表現する。
第 5 回	メインアイデアを理解する①	生物にかんするアカデミックな文章を読み、構成を理解する。
第 6 回	メインアイデアを理解する②	トピックセンテンスを参考に要約をする。
第 7 回	メインアイデアを理解する③	文学作品の要約を読み、文章の組み立て、そこで使われている表現を学ぶ。
第 8 回	メインアイデアを理解する④	文と文のつながりの役割を果たす表現を学び、適切に使えるようにする。
第 9 回	まとめ	前半のまとめ
第 10 回	プロジェクト①	プロジェクトの準備。
第 11 回	プロジェクト②	プロジェクトの完成。
第 12 回	プロジェクト③	プロジェクトの発表。

第 13 回 要約の方法を学ぶ 重要な情報を含めて要約する。

第 14 回 期末試験、まとめ 期末試験、まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライティングの課題などが出された場合は、しっかり取り組むこと（次回授業を受ける前提となります）。

授業で学んだ重要表現については復習し、自分で使えるようにすること。

その他、授業内で指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Writing Frontiers(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的参加、宿題・課題およびプロジェクトの内容等） 60 %

期末テスト 40 %

*なお各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

遅刻 3 回で欠席 1 回扱いです。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境によりヘッドセットが必要となる場合があります。

【その他の重要事項】

電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。

*コロナの感染状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システム (hoppii) の「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline and objectives】

This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 f 組/5(基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で表現する力を養います。日常生活だけではなく、大学生としてより広い社会問題や文化などについても、考えを整理して伝えることができる基礎作りを行います。基本例文から始め、論理的な構成をもつ短いパラグラフを書く練習を行います。

【到達目標】

- ①総合的な英語力の向上。
- ②論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
- ③使える語彙を増やす。
- ④論理的な構成をもつ短いパラグラフを書くことができる。
- ⑤英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) を理解し、身近なトピックについて、パラグラフの論理的構成をふまえたうえで、表現できるように基礎固めをします。リスニングの練習も適宜おこないます。

課題については、間違いの多かった部分を中心にクラス全体で共有し、フィードバックをします。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。

【注】 下記の授業計画は、状況によって変更場合があります。

※この授業は、オンライン（主として学習支援システムからの資料配信）と教室対面による実施の週を設ける予定です。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	授業の進め方の説明。 重要な情報を要約をするストラテジーを磨く。
第 2 回	パラグラフ構造①	「分類」を学ぶ。 シグナルワードから流れを理解する。
第 3 回	パラグラフ構造②	「比較」と「対照」を学ぶ。シグナルワードから流れを理解する。
第 4 回	パラグラフ構造③	「原因」と「結果」、「理由のつながり」を意識して英文記事を読む。
第 5 回	パラグラフ構造④	「原因」と「結果」を意識して、社会課題について書かれた英文を題材に、パラグラフ構造を理解する。
第 6 回	パラグラフ構造⑤	「分類」「比較・対照」「原因と結果」を述べる文章において、適切なシグナルワードを自分で使えるようにする。
第 7 回	映画鑑賞とリスニング	関連した映画の一部を鑑賞し、リスニングを行う。
第 8 回	プロジェクト①	プロジェクトの準備。

第 9 回	プロジェクト②	プロジェクトの準備の続きを行う。
第 10 回	プロジェクト③	プロジェクトの発表。
第 11 回	著名人のスピーチ①	概要を聞き取る。
第 12 回	著名人のスピーチ②	リスニングの強化。 スピーチの構成について理解し、より聞き取ることでできる部分を増やす。
第 13 回	学術的な記事	短い学術的な文章を読み、スタイルを学ぶ。
第 14 回	期末試験、まとめ	期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライティングの課題などが出された場合は、しっかりと取り組むこと（次回授業を受ける前提となります）。

授業で学んだ重要表現については復習し、自分で使えるようにすること。

その他、授業内で指示します。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Writing Frontiers(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布します。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的参加。課題の提出、内容等） 40 %

・プロジェクト課題 20 %

・期末課題（期末テスト） 40 %

*なお各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

遅刻 3 回で欠席 1 回扱いです。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境によりヘッドセットが必要となる場合があります。

【その他の重要事項】

電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。

*コロナの感染状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システム (hoppii) の「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline and objectives】

This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 g 組/2(上/下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2021 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、全 14 回を全てオンライン（オンデマンド、資料配付型）授業とする。授業は、ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。毎回解答用の Answer Sheet を、LMS を通して配布するので、それを締め切り日までに LMS を通して提出する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題の語彙を小テストに充てる。

課題等のフィードバック方法

毎回の授業で提出物があるので、それは次の授業回で採点返却される。後日正解が LMS を通して配布される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	初回授業のおよそ 1 週間前に LMS を通して配布されるプリント教材課題を LMS を通して提出する。
2	Unit 1 米疾病対策センター所長が語った「コロナウイルスの未来」	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
3	Unit 1 米疾病対策センター所長が語った「コロナウイルスの未来」	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
4	Unit 2 日本で新天皇即位「令和」に持ち越された皇位継承問題	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）

5	Unit 2 日本で新天皇即位「令和」に持ち越された皇位継承問題	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
6	Unit 3 オリンピックを支える頼もしい味方日本が誇る羽田空港	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
7	Unit 3 オリンピックを支える頼もしい味方日本が誇る羽田空港	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
8	Unit 4 待ち時間ゼロ!? ロンドン発、忙しい現代人の健康を救う AI 診療	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
9	Unit 4 待ち時間ゼロ!? ロンドン発、忙しい現代人の健康を救う AI 診療	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
10	Unit 5 日本発! VR 技術が可能にする高齢者の仮想世界旅行	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
11	Unit 5 日本発! VR 技術が可能にする高齢者の仮想世界旅行	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
12	Unit 6 ハリー王子&メーガン妃決意の英王室離脱表明の裏側	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2 点 × 10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リスニングをして空欄に解答を書き、ニューススクリプトを完成させる。（採点しない）
13	Unit 6 ハリー王子&メーガン妃決意の英王室離脱表明の裏側	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 × 8 問 = 40 点）
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキストの音声ダウンロードして聴く。

Words and Phrases , Examples を予習して語彙を徹底的に調べておく。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (22)

朝日出版社 1900 円 + 税

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていること)
20%

小テスト 50 点 ×6 回分 300 点

30%

期末試験課題 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。

*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて (解答されていて) 出席とする。(空欄の内容に全て解答すること)

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 g 組/2(上/下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CNN International シリーズ 2021 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、全 14 回を全てオンライン (オンデマンド、資料配付型) 授業とする。授業は、ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。毎回解答用の Answer Sheet を、LMS を通して配布するので、それを締め切り日までに LMS を通して提出する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の

T, F 問題の語彙を小テストに充てる。

課題等のフィードバック方法

毎回の授業で提出物があるので、それは次の授業回で採点返却される。後日正解が LMS を通して配布される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming Up	初回授業のおよそ 1 週間前に配布されるプリント教材課題を提出する。
2	Unit 7 燃え落つ 850 年の歴史 フランスの象徴ノート ルダム大聖堂	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点) Examples 解答 (採点しない) blanks to fill in、リ
3	Unit 7 燃え落つ 850 年の歴史 フランスの象徴ノート ルダム大聖堂	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)
4	Unit 8 ブラゴミ問題の救世主 南アフリカ発「食べられる食器」とは?	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味 (採点する 2 点 ×10 問 = 20 点) Examples 解答 (採点しない) blanks to fill in、リ
5	Unit 8 ブラゴミ問題の救世主 南アフリカ発「食べられる食器」とは?	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。(採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点)

6	Unit 9 歴史的勝訴！先祖の土地を森林破壊から守ったアマゾン先住民	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2点 ×10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リ
7	Unit 9 歴史的勝訴！先祖の土地を森林破壊から守ったアマゾン先住民	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点）
8	Unit 10 気候変動対策求め、英国の子供たちが「絶滅への反抗」デモ	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2点 ×10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リ
9	Unit 10 気候変動対策求め、英国の子供たちが「絶滅への反抗」デモ	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点）
10	Unit 11 中国からの SOS？ 受刑者が思いを託した 1 通の X マスカード	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2点 ×10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リ
11	Unit 11 中国からの SOS？ 受刑者が思いを託した 1 通の X マスカード	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点）
12	Unit 12 正気か狂気か トランプ大統領の「グリーンランド購入」発言	Judgments to Make , T か F かを解答し、各文を和訳する。（採点する。記号 2 点、和訳 3 点、5 点 ×8 問 = 40 点）
13	Unit 12 正気か狂気か トランプ大統領の「グリーンランド購入」発言	Words and Phrases to Study, 解答と語彙の意味（採点する 2点 ×10 問 = 20 点） Examples 解答（採点しない） blanks to fill in、リ
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキストの音声ダウンロードして聴く。

Words and Phrases , Examples を予習して語彙を徹底的に調べておく。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（22）

朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出（Answer Sheet の空欄が全て解答されていること）
20%

小テスト 50 点 ×6 回分 300 点

30%

期末試験課題 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。

*毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

西野 方子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 h 組/4(中の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は以下の 3 点です。

- 1) 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養う
 - 2) 論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフから成る短いレポートを書けるようになる
 - 3) 関心の高いトピックについて、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をする
- その他、「聴く力」の育成もします。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の 5 点です。

- 1) 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識、経験、意見を効果的に口頭および文章で表現できるようになる
- 2) プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを効果的に行う方法を身につける
- 3) 効果的に英語を聞き取り、意味をつかむ力を身につける
- 4) パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) に留意し、論理的構成をもつパラグラフおよびエッセイを書けるようにする
- 5) 英語辞書の効果的な使い方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業ではプレゼンテーションの基本を模範例から学び、それにならったスピーチをしてもらいます。授業では各回で扱うサンプルとなる文章について解説もしますので、受講生は予習として教科書の指定範囲を事前に読み、また指定された問題を行なってから授業に臨んでください。基本的にひとつの章につき 2 回授業を行い、1 回目の授業ではエッセイの内容確認や知識定着のための小テスト、2 回目の授業ではスピーチの原稿を執筆したり実際に発表をしてもらう予定です。小テストの採点結果やスピーチへのフィードバックは次の回の授業で返却します。

※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・導入	授業内容の説明・文章の構造
第 2 回	Unit 1 Introduction	文章の読解、小テスト
第 3 回	Unit 1 Introduction	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 4 回	Unit 2 Talking about Hobbies	文章の読解、小テスト
第 5 回	Unit 2 Talking about Hobbies	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 6 回	Unit 3 Talking about People	文章の読解、小テスト

第 7 回	Unit 3 Talking about People	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 8 回	Unit 4 Talking about Places	文章の読解、小テスト
第 9 回	Unit 4 Talking about Places	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 10 回	Unit 5 Telling Stories	文章の読解、小テスト
第 11 回	Unit 5 Telling Stories	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 12 回	Unit 7 Talking about Entertainment	文章の読解、小テスト
第 13 回	Unit 7 Talking about Entertainment	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 14 回	今学期のまとめ	スピーチ、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では辞書をひきながらテキストを読み、まずは自分の力で設問に答えてみてください。予習は疑問を見つけるための作業と考え、授業はその疑問を解消する場として利用してください。また授業後に授業内で身につけた知識を振り返り、知識を定着させることもしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking in Public (2008 年、成美堂 ¥1900)

その他、配布プリント

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、ライティングおよびスピーチ 50%で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位習得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行う予定です。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要になります。

【その他の重要事項】

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

西野 方子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 h 組/4(中の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は以下の 3 点です。

- 1) 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養う
 - 2) 論理的な構成の段落を書く練習を行い、最終的には複数の段落から成る短いレポートを書けるようになる
 - 3) 関心の高いトピックについて、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をする
- その他、「聴く力」の育成もします。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の 5 点です。

- 1) 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識、経験、意見を効果的に口頭および文章で表現できるようになる
- 2) プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを効果的に行う方法を身につける
- 3) 効果的に英語を聞き取り、意味をつかむ力を身につける
- 4) パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) に留意し、論理的構成をもつパラグラフおよびエッセイを書けるようにする
- 5) 英語辞書の効果的な使い方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業ではプレゼンテーションの基本を模範例から学び、それにならったスピーチをしてもらいます。授業では各回で扱うサンプルとなる文章について解説もしますので、受講生は予習として教科書の指定範囲を事前に読み、また指定された問題を行なってから授業に臨んでください。基本的にひとつの章につき 2 回授業を行い、1 回目の授業ではエッセイの内容確認や知識定着のための小テスト、2 回目の授業ではスピーチの原稿を執筆したり実際に発表をしてもらう予定です。小テストの採点結果やスピーチへのフィードバックは次の回の授業で返却します。

※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明・文章の構造導入
第 2 回	Unit 8 Doing a Little Research	文章の読解、小テスト
第 3 回	Unit 8 Doing a Little Research	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 4 回	Unit 9 Causes and Effects	文章の読解、小テスト
第 5 回	Unit 9 Causes and Effects	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 6 回	Unit 10 Problems and Solutions	文章の読解、小テスト

第 7 回	Unit 10 Problems and Solutions	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 8 回	Unit 11 Informative Speech	文章の読解、小テスト
第 9 回	Unit 11 Informative Speech	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 10 回	Unit 12 Persuasive Speech	文章の読解、小テスト
第 11 回	Unit 12 Persuasive Speech	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 12 回	Unit 13 Informative Speech with PowerPoint	文章の読解、小テスト
第 13 回	Unit 13 Informative Speech with PowerPoint	ライティング・エクササイズ、スピーチ
第 14 回	今学期のまとめ	スピーチ、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では辞書をひきながらテキストを読み、まずは自分の力で設問に答えてみてください。予習は疑問を見つけるための作業と考え、授業はその疑問を解消する場として利用してください。また授業後に授業内で身につけた知識を振り返り、知識を定着させることもしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking in Public (2008 年、成美堂 ¥1900)

その他、配布プリント

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50%、ライティングおよびスピーチ 50%で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位習得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行う予定です。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要になります。

【その他の重要事項】

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 i 組/6(基礎の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法を理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。

【到達目標】

英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はハイブリッド型です。資料配布型の回と、対面型の回があります。感染状況を踏まえ、ワクチンが高齢者の方に行き届くまでの期間は資料配布とし、6 月をめどに、対面授業を実施する予定です。対面授業の効果も重視しているところですが、スケジュールについては、随時、学習支援システムでのアンケートで相談しながら進めていきます。

テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこないます。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1 (精読、内要理解)
3	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1 (再読、リスニング、質疑応答)
4	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2 (精読、内要理解)
5	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2 (再読、リスニング、質疑応答)
6	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞 (精読、内容理解)
7	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞 (再読、リスニング、質疑応答)
8	Unit 4	Unit 4: デパ地下でお買い物 / 不定詞 2 (精読、内要理解)
9	Unit 4	Unit 4: デパ地下でお買い物 / 不定詞 2 (再読、リスニング、質疑応答)

10	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞 (精読、内要理解)
11	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞 (再読、リスニング、質疑応答)
12	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1 (精読、内要理解)
13	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1 (再読、リスニング、質疑応答)
14	Unit 7	Unit 7: 秋葉原を散策 / 接続詞 2 (精読、内要理解)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！ - 続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English-English Once More! II-』朝日出版社、2016 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料の配布やアンケートを行いますので、アクセスできる環境を用意しておいてください。オンラインでの回は、資料配布ですので、zoom などの動画に対応する必要はありません。

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 i 組/6(基礎の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。

【到達目標】

英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこないます。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（精読、内容理解）
3	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（再読、リスニング、質疑応答）
4	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅） / 話法 1（精読、内容理解）
5	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅） / 話法 1（再読、リスニング、質疑応答）
6	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（精読、内容理解）
7	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（再読、リスニング、質疑応答）
8	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（精読、内容理解）
9	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（再読、リスニング、質疑応答）
10	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園） / 関係代名詞 2（精読、内容理解）
11	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園） / 関係代名詞 2（再読、リスニング、質疑応答）

12 Unit 13

Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞（精読、内容理解）

13 Unit 13

Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞（再読、リスニング、質疑応答）

14 Unit 14

Unit 14: 最後の晩餐 / 仮定法 1（精読、リスニング、質疑応答）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ -Introduce Japan in Easy English- English Once More! II-』朝日出版社、2016 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、学期末レポート 40%で評価します。アンケートについて期限を過ぎた場合は遅刻とみなし、また 3 回の遅刻は 1 回の欠席とみなします。4 回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 j 組/1(上の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

単文レベルの和文英訳から一歩進め、アカデミック・ライティングの基礎を身につけて平易な英語を使った説明や自己表現を行う。読みにわかりやすいパラグラフの書き方を学ぶとともに、効果的に意図を伝えるスキルを実践し着実に身につけるため英文ライティングの演習を行う。同時に、プリント教材を使って英語の音声と口語表現に慣れる。

【到達目標】

- (1) 平易な英語で簡単な説明をしたり、自分の考えを述べるができる。
- (2) パラグラフ・ライティングの基礎を学び、首尾一貫性、結束性のある文章が書ける。
- (3) ナチュラルスピードの英語に慣れ、ポイントとなる部分の聞き取りができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を行います。テキストは3つの Part に分けられ、15の章から成っています。春学期は、パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ Chapter 9 までを扱い、読み手にとって読みやすく説得力のあるパラグラフを書く基本と自分の考えをより具体的に記述する方法を学びます。同時に、意見を正確に伝えるための文法の見直しも適宜行います。各章では様々なアカデミック・ライティングのストラテジーが取り上げられており、ペア又はグループワークなどのタスクを経て、章ごとの課題（SDGs に関する社会的な問題）に沿った、まとまりのある文章を書いてもらうようになっています。ライティング・タスクの中には省略するものもありますが、いくつかは提出してもらいます。また、書くだけでなく、自己添削や互いの書いたものを読者目線でチェックする Peer Review の Activity もあります。さらに、聴解力強化のため、プリント教材を使った Listening 演習（主にテスト形式）も行う予定です。

なお、提出してもらった課題は個々に採点して返却するか、または授業内で全体としてフィードバックを行います。

最後に、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととなります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や辞書の使い方、英語学習のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Flows of Sentences Listening Practice	Chapter 1 英文の流れの作り方 Listening 演習
3	Basic Paragraph Listening Practice	Chapter 2 パラグラフの基本構造 Listening 演習
4	Developing Coherence Listening Practice	Chapter 3 パラグラフの一貫性の構築 Listening 演習
5	Creating Cohesion Listening Practice	Chapter 3 文法的&意味的結束 Listening 演習

6	Guiding Your Readers Listening Practice	Chapter 4 読者をいかに誘導するか：その方法 Listening 演習
7	Hedges and Boosters Listening Practice	Chapter 5 ヘッジとブースターの使い方 Listening 演習
8	Generating Ideas Listening Practice	Chapter 6 ブレインストーミング Listening 演習
9	Critical Thinking Listening Practice	Chapter 6 Topic: Convenient for Who? Listening 演習
10	How to Attract Your Readers Listening Practice	Chapter 7 Topic & Controlling Ideas Listening 演習
11	Supporting Your Ideas Listening Practice	Chapter 7 + Chapter 8 支持文の書き方 Listening 演習
12	Concluding Paragraphs Listening Practice	Chapter 8 + Chapter 9 パラグラフの終わらせ方 Listening 演習
13	Problem-solving Paragraphs Listening Practice	Chapter 9 Topic: City and Environment Review Test
14	Listening Guided Writing	指定されたテーマと様式によるワンパラグラフの作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。Model Essay は事前に目を通し、疑問点があればピックアップしてテキストのタスクがスムーズに行えるようにしておく。また、学習したポイントはその都度復習し、次の授業に活かせるようにしておく。その他、Writing やグループワークのための準備及び指定された箇所の予習を行う。

【テキスト（教科書）】

中谷安男 *Academic Writing Strategies - Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals* (2020 金星堂)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法>

・期末にまとまった内容の文章（長めのワンパラグラフ）を書いてもらいます。

・原則として毎週、テスト形式又はディクテーションによる Listening 演習を行い、期末に Review Test を実施します。

・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

<成績評価基準・評価の配分等>

・期末の作文と授業内の Writing 関連のタスクは到達目標の (1)(2) に対応し、地道な努力を重ねて学習したことがきちんと身につけているかどうか、自分の考えを正確でわかりやすい英語を使い、論理的に表現出来ているかどうかを見ます。

・Listening 演習は到達目標の (3) に対応し、英語の語彙の多様性を認識し、勘頼みではなく、ポイントとなる部分を正しく聞き取れているかどうかを見ます。

・上記のほか、到達目標の (1)~(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも3回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末の作文 (40%)、Listening 演習 (Review Test 含む) (30%)、平常点（授業内の様々なタスクの出来具合、その他授業への貢献度など）(30%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンライン授業となったため、グループワークなどクラスメートとの意見交換の時間が取れなかったため、今年度は、制約があるかもしれませんが何らかの形で確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングの基礎についても、より丁寧に小さな演習を重ねることで最後の作文に取り組みやすくします。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the basics of paragraph writing and some useful writing skills so that they can, in the end, write a paragraph not only easy for readers to follow but also logical and convincing enough. For example, they will learn the basic paragraph structure, ways to develop coherence and create cohesion, how to generate ideas and persuade readers, and so on. The topics in the textbook are all global issues that have something to do with SDGs (Sustainable Development Goals). Students are expected, each week, to do several tasks, including pair work and group talk, in order to put what they have learned into practice, and finally write a long paragraph on a given theme in plain English. In addition, they will have some listening practice so that they can get used to natural-speed English and develop confidence in listening.

LANe100LA

英語2－Ⅱ

2017年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

キ1年：英語j組/1(上の上)

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ・ライティングとアカデミック・ペーパーの書き方の基礎を学んで複数のパラグラフから成るより長い文章に取り組み。また、リスニング演習を通して聴解力の向上を目指すとともに、正確な表現のための文法の見直しも適宜行う。

【到達目標】

- (1) 中級程度の英語を使って意思の伝達や自己表現ができる。
- (2) エッセイ・ライティングの基礎を身につけ、より長い論理的かつ説得力のある文章が書ける。
- (3) 耳にした順に英語の語順で内容を追うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じですが、Guided Writingは2回実施します。テキストはChapter 10からです。パラグラフからエッセイへと重点を移し、比較や問題解決など、広い意味での大学の勉強に必要な（したがって、日本語で書くレポートにも応用可能な）論理的かつ説得力のある文章の書き方を学びます。

フィードバックについても春学期と変わりません。

なお、秋学期も大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行うこととなります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison & Contrast	Chapter 10 3つのタイプの比較と対照
	Listening Practice	Listening 演習
2	Thinking about Education	Chapter 10 Topic: Education for Future
	Watching a Film	映画鑑賞 Part 1
3	Writing Strategies	Process Writing
	Watching a Film	映画鑑賞 Part 2
4	Listening Practice	Listening 演習
	Guided Writing	Writing a comparison and/or contrast paragraph
5	Essay Structure	Chapter 11 エッセイの構成と Thesis Statement の書き方
	Listening Practice	Listening 演習
6	Problem-solving Essay	Chapter 11+Chapter 12 問題解決型エッセイの書き方
	Listening Practice	Listening 演習
7	Solving Problems	Chapter 12 Topic: Eco-friendly 問題解決の方法と提示の仕方
8	The First Step for Academic Papers	Chapter 13 論文の構成
	Listening Practice	Listening 演習
9	Writing Introduction	Chapter 13 テーマの重要性の伝え方
	Listening Practice	Listening 演習

10	Creating a Research Niche Listening Practice	Chapter 14 研究論文の基礎 Listening 演習
11	A Persuasive Essay Listening Practice	Chapter 14 説得力のあるエッセイの書き方 Listening 演習
12	Review	Chapter 15 Academic Writing の復習
13	Writing Strategies Listening	引用の仕方を学ぶ－剽窃を避けるために Review Test
14	Guided Writing	Outline Paragraph をエッセイに展開する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。春学期同様、Model Essay は事前に目を通し、テキストのタスクがスムーズに行えるようにしておく。その他、ポイントの復習や返却された課題の見直しなどを主体的に行うだけでなく、Writing やグループワークのための準備及び指定された箇所の予習を行う。

【テキスト（教科書）】

中谷安男 *Academic Writing Strategies - Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals* (2020 金星堂)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価の方法＞

- ・学期前半と期末の2回、まとまった内容の文章（前半にパラグラフ、期末にエッセイ）を書いてもらいます。
- ・ほぼ毎週、Listening 演習を行い、期末に Review Test を実施します。
- ・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

＜成績評価基準・評価の配分等＞

- ・学期前半と期末の Guided Writing と授業内の Writing 関連のタスクは到達目標の (1)(2) に対応し、学習したことがしっかりと身についているかどうか、自分の考えを正確かつわかりやすい英語で表現し、論理的かつ説得力のある形で述べられているかどうかを見ます。
- ・Listening 演習は到達目標の (3) に対応し、勘頼みではなく流れに沿って内容が理解出来ているかどうかを見ます。
- ・上記のほか。到達目標の (1)～(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が4回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも3回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

Guided Writing 2回 (50%)、Listening 演習 (Review Test を含む) (30%)、平常点 (授業内の様々なタスクの出来具合、その他授業への貢献度など) (20%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンライン授業となったため、グループワークなど、クラスメートとの意見交換の時間が取れなかったため、今年度は、制約はあるかも知れませんが何らかの形で確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングの基礎についてより丁寧に小さな演習を重ねることで2回の作文に取り組みやすくします。

【Outline and objectives】

Students will learn the basics of essay writing and academic papers and are expected to write, following the instructions, one comparison and/or contrast paragraph, and an essay or part of a research paper which is related to the topic they are interested in. Also, students will be given some opportunities to enhance their listening skill in one way or another.

LANe100LA

英語2－I

2017年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ1年：英語k組/3(中の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら、温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。その内容について英語で質問をする。授業中のレポートは評価を付け後日返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明	環境問題の背景
第2回	ストックホルム宣言(背景)	ストックホルム宣言に関する英文記事その①
第3回	ストックホルム宣言(意義)	ストックホルム宣言に関する英文記事その②
第4回	ストックホルム宣言(問題点)	ストックホルム宣言に関する英文記事その③
第5回	内容確認	記事内容についての英語質問
第6回	ストックホルム宣言(汚染)	ストックホルム宣言に関する英文記事その④
第7回	ストックホルム宣言(評価)	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤
第8回	内容確認	記事内容についての英語質問
第9回	ストックホルム宣言(人間)	宣言文その①
第10回	ストックホルム宣言(汚染)	宣言文その②
第11回	ストックホルム宣言(発展途上国)	宣言文その③
第12回	内容確認	宣言文についての英語質問
第13回	面接試験	英問英答(出席番号前半) まとめと解説
第14回	面接試験	英問英答(出席番号後半) まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。1時間以上の予習を必要とする。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、面接試験 80 % 各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English skill on environment can be developed.

LANe100LA

英語2－Ⅱ

2017年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

キ1年：英語k組/3(中の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言文を読みながら、スモッグ、酸性雨等の問題について考える。reading,listening,writing,speaking の力を同時に養成する。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。学生諸君が主体的に読み、書き、聞き、話すことが求められる。授業中のレポートは評価を付け後日返却する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する記事を英文で読む。テキスト内の表現を利用して英文を書き、それを基に会話をする。テキスト以外の環境問題に関する英文を聞く。授業中のレポートは評価点を付け後日返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その①
第2回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その②
第3回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③
第4回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④
第5回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第6回	東京宣言	内容表現を用いてのディクテーション
第7回	東京宣言	宣言文その①
第8回	東京宣言	宣言文その②
第9回	東京宣言	宣言文その③
第10回	東京宣言	宣言文その④
第11回	東京宣言	宣言文その⑤
第12回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第13回	面接試験	英問英答(出席番号前半) まとめと解説
第14回	面接試験	英問英答(出席番号後半) まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。学習時間は1時間以上を必要とする。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル、カーソン）

【成績評価の方法と基準】

簡易な英文を聞き、理解し、自分の意見を表現する力を試す。

平常点 20%、期末試験 80%

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading, writing, speaking, listening skill on environment can be developed.

LANe100LA

英語2－I

2017年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

キ1年：英語I組/5(基礎の上)

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットやSNSの発達により、今日ではライティングの能力が必須となっている。そこで、このクラスでは、特にリスニングとライティングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

【到達目標】

- ・日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の意見を文章で表現できるようになる。
- ・教材の英語を聞き取れるようになる。
- ・メールを書いたり、グラフや図を英語で説明できるようになる。
- ・論理的なパラグラフを書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とする。学習支援システム（Hoppii）を用いたオンデマンド授業（資料型）とする。
- ・わからない単語は辞書を調べ、ルーズリーフやノートに5回ずつ練習してください。
- ・予習を行い、わからない単語は辞書で調べる。
- ・テキストの問題演習を行う。
- ・音声教材を用いて聞き取りを行う。
- ・英作文を書く。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1 Welcome to the party!	友人へメールを書こう
2	Unit 2 I'm planning to study abroad	先輩や先生にメールを書こう
3	Unit 3 I'm afraid that it was damaged	苦情のメールを書こう
4	Unit 4 Let me introduce myself	自分の紹介文を書こう
5	Unit 5 My hobby is ...	自分の趣味を書こう
6	Unit 6 This is my dream	自分の夢を書こう
7	Unit 7 Isn't it exciting to go out?	自分の出来事を書こう
8	Unit 8 My memorial pictures	写真や絵を説明しよう
9	Unit 9 What I experienced	印象的な思い出を説明しよう

10	Unit 10 How long did you sleep?	グラフや図を説明しよう
11	Unit 11 I like tennis the best	アンケートをまとめよう
12	Unit 12 In my opinion ...	調査の結果から意見を言ってみよう
13	Unit 13 Do you agree with my idea?	賛成/反対を表明しよう
14	I'd like to have a 'free space'	自分の要望を述べよう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.kinsei-do.co.jp/download/4040>

各回、英作文を提出し、添削されたものは、修正原稿を再提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

工藤洋路著『Have Fun Writing! 楽しく学ぶ英文ライティング入門』金星堂、1800 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）と和英辞典が入っている電子辞書をお薦めします。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題提出等）30%＋平常の課題への評価（授業内小テスト）70%＝100%

・各学期の欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。オンライン授業の場合、4 回以上課題を提出しなかった場合は、原則として単位修得を認めない。

・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。オンラインの場合、1 回分の課題を提出しないと欠席扱いとなる。

・毎回の英作文が授業内小テストの扱いとなるため、課題を提出しなかった場合、その回の評価は 0 点となる。

・コピー&ペーストや翻訳ソフトの使用は不正とみなし、これらの行為を行ったことが明らかになった場合は、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ毎回英作文へのフィードバックをおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン学習時は、学習支援システムを用いるため、スマートフォンやパソコンが必要となります（パソコンの方が望ましい）。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら適宜判断します。

【Outline and objectives】

With the development of Internet and SNS today, the English communication is becoming more and more important for Japanese. Therefore, in this class, students will improve the English communication skills of listening and writing.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 I 組/5(基礎の上)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットや SNS の発達により、今日ではライティングの能力が必須となっている。そこで、このクラスでは、特にライティングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

【到達目標】

・日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の意見を文章で表現できるようになる。

・特に大学生活に関連した内容の英文を書けるようになる。

・論理的なパラグラフを書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・予習を行い、わからない単語は辞書で調べること。

・知らない単語はルーズリーフかノートに 5 回ずつ練習してください。出欠確認時に見せてもらいます（対面授業時のみ）。

・テキストの問題演習を行う。

・英作文を書く。

・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう（対面授業では直接学生に返却する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Course Description
2	Unit 2	Daily Schedule
3	Unit 3	Weekly Schedule
4	Unit 4	Punctuality
5	Unit 5	Dream
6	Unit 6	Tests
7	Unit 7	Being Healthy
8	Unit 8	Comparison
9	Unit 9	Volunteer Work
10	Unit 10	Prediction
11	Unit 11	Eco-friendly
12	Unit 12	Vacation
13	Unit 13	What to Wear?
14	Unit 14	Going to a Hairdresser

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。

各回、英作文を提出し、添削されたものは、修正原稿を再提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小室夕里著『Write Better with Patterns 辞書を活用する英文ライティング』金星堂、2011 年、1900 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）と和英辞典が入っている電子辞書をお薦めします。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題提出等）30% + 平常の課題への評価（授業内小テスト）70% = 100%
- ・各学期の欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。オンライン授業の場合、4回以上課題を提出しなかった場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1回の欠席につき、平常点から10点の減点とする。オンラインの場合、1回分の課題を提出しないと欠席扱いになる。
- ・30分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとし、1回の遅刻で3点の減点とする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。
- ・毎回の英作文が授業内小テストの扱いとなるため、課題を提出しなかった場合、その回の評価は0点となる。
- ・コピー&ペーストや翻訳ソフトの使用は不正とみなし、これらの行為を行った場合は、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ毎回英作文へのフィードバックをおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン学習時は、学習支援システムを用いるため、スマートフォンやパソコンが必要となります（パソコンの方が望ましい）。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら適宜判断します。

【Outline and objectives】

With the development of Internet and SNS today, the English communication is becoming more and more important for Japanese. Therefore, in this class, students will improve the English communication skills of listening and writing.

LANe100LA

英語2－I

2017年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

キ1年：英語m組/8(基礎の基礎の下)

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を用いて自分の考えを表現し、効果的に情報を発信できるようになることを目指す。パラグラフの構造を理解し、論理的なパラグラフを作文できるようになる。

【到達目標】

- ・論理的な英語のパラグラフを書けるようになる。
- ・英語を聞き取り、意味を掴むことができるようになる。
- ・文法力を向上させる。
- ・語彙力を向上させる。
- ・論理的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パラグラフの構造やパラグラフ・ライティングに必要な文法事項などについて学習し、演習問題を通して理解を深める。適宜 Writing の課題を課し提出を求める。提出された課題のいくつかは授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業は基本的に zoom で行い、試験のみ対面で行う。zoom 等の詳細については、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1	The Story of Wagashi
2	Unit 2	Architecture: Japanese Castles
3	Unit 3	Matsuri: Festivals in Japan
4	Unit 4	Japanese Corporate Culture
5	Unit 5	Examination War
6	Unit 6	Uniqueness of Japanese Trains
7	Unit 7	The Key to Long Life
8	Unit 8	Distinct Style or Neglect of Identity?
9	Unit 9	Drinking Rituals
10	Unit 10	Traditional Crafts in Japan
11	Unit 11	Home Video Consoles from Japan
12	Unit 12	Onsen Hot Springs
13	Unit 13	Folktales: Sensitivity to Things and Nature
14	Unit 14/15	Mythologies and Legends: Sense of Time/ From a Part to the Whole: Sense of Space

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。各Unitのリーディング・パッセージは事前に読んで訳していただくこと。

【テキスト（教科書）】

日本英語表現学会テキスト研究会『Writing Skills for Readers/日本文化の再発見から学ぶエッセイの書き方・読み方』（南雲堂、2021年）、2200円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %

レポート 70 %

4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to write English paragraphs and to express their opinions in English.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

キ 1 年：英語 m 組/8(基礎の基礎の下)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を用いて自分の考えを表現し、効果的に情報を発信できるようになることを目指す。複数のパラグラフからなる論理的なエッセイを書けるようになる。また、エッセイをもとにプレゼンテーションを行うことができるようになる。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる短い英文エッセイを書けるようになる。
- ・英語を聞き取り、意味を掴むことができるようになる。
- ・英語を用いて口頭で自分の意見を発表できるようになる。
- ・文法力を向上させる。
- ・語彙力を向上させる。
- ・論理的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英文のパラグラフの構造や種類について学習し、演習問題を通して実際にパラグラフを書くことに取り組む。適宜 Writing の課題を課す。提出された課題のいくつかは授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業は基本的に zoom で行い、試験のみ対面で行う。zoom 等の詳細については、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 1/2	Explanatory Paragraphs/ Information Paragraphs
2	Chapter 3/4	Opinion Paragraphs/ Descriptive Paragraphs
3	Chapter 5/6	Comparative Paragraphs/ Contrast Paragraphs
4	Chapter 7/8	Cause and Effect Paragraphs/ Argumentative Paragraphs
5	Chapter 9	Problem and Solution Paragraphs
6	Chapter 10	Time-order Paragraphs
7	Chapter 11	Let me Process Paragraphs
8	Chapter 12	Summaries
9	Chapter 13	Five Paragraph Essays
10	Chapter 14	Concluding Paragraphs for Essays
11	Chapter 15	Effective Ways to Begin an Essay
12	プレゼンテーション	プレゼンテーションの方法
13	プレゼンテーション発表表	学生によるプレゼンテーション表（前半）
14	プレゼンテーション発表表	学生によるプレゼンテーション表（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各 Unit のリーディング・パッセージは事前に読んで訳しておくこと。

【テキスト（教科書）】

Kate Elwood, Leonid Yoffe/From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II (効果的な英文エッセイの書き方)、南雲堂、2013年、2000円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %

プレゼンテーション 30%

レポート 40 %

4回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline and objectives】

This class aims to develop the abilities to write English essays and to express their opinions in English.

LANe100LA

Academic English R&W I

2017年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法Y 1年/a 上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Orientation. Getting Genius: to to know you. Nature Start unit 1.? or Nurture	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.Begin unit 1: Discussion and vocabulary.
Unit 1	Reading 1: A Genius Explains.	Inference - understanding assumptions. Note-taking - marking important information. Distinguishing voice in quotations. Grammar - Past perfect.
Unit 1	Reading 2: 10,000 Hours to Mastery.	Review - Identifying and correcting sentence fragments. Video - Child prodigies. Writing - A summary paragraph.Writing - A report on a genius. Exchange texts and edit,

Unit 2	Reading 1: A Life of Facing Twists and Turns: Life's The Story of Frank Obstacles. McCourt.	Inferring the meaning of idioms. Taking notes using questions. Recognizing positive redundancy.	【Outline and objectives】 In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.
Unit 2	Reading 2: Marla Runyan Has Never Lost Sight of her goals.	Gerunds and infinitives. Choosing appropriate supporting sentences.	
Unit 2	Write a biographical paragraph.	Exchange texts and edit, Video - A girl with autism. Plan and write a biographical essay on a famous person who has overcome an obstacle.	
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 1 and 2 Vocabulary quiz.	
Unit 3	Reading 1: Genetic Testing and Disease: Medical Decisions. Would you want to know?	Inferring degree of support. Taking notes on cause and effect using a graphic organizer. Organizing event in a time line.	
Unit 3	Reading 2: Norman Cousin's Laughter Therapy.	Past unreal conditionals. Writing introduction and hooks. Preparing to write an opinion essay.	
Unit 3	Video: Sleep deprivation and health issues.	Unit review. A written presentation on genetic testing.	
Unit 4	Reading 1: Extreme Perception and In-tellect Animal Intelligence.	Inferring the use of Hedging. Taking notes with outlining. Adjective clauses.	
Unit 4	Reading 2: How Smart are Animals?	Paraphrasing. A summary in journalistic style. Video: Talking to animals.	
Unit 4	Write a research summary on a famous animal.	Plan. Outline Draft. Write. Self edit. Exchange. Peer review.	
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】

Northstar 4 Reading and Writing (5th Edition) Student Book with app & resources by Andrew K. English and Laura Monahon English (Pearson)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and homework 20%
Writing assignments(portfolio of all drafts)40%
Vocabulary quizzes 20%
Midterm and final exams 20%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

LANe100LA

Academic English L&S I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法Y 1 年/a 上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to prepare for academic study and to take English listening and speaking exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking lectures, podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given online and in the class. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Orientation. Getting to know you.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Start Unit 1.
Unit 1	Unit 1 Behavioural Science: THE SCIENCE OF SHOPPING	An interview about Consumer Behavior. Recognizing a speaker's attitude.
Unit 1	Video: The Decoy Effect.	Quoting statistics and asking rhetorical questions. Question intonation. Real and unreal conditionals.
Unit 1	A Lecture about Gender and shopping.	Designing a store layout. Giving a persuasive presentation. Recognizing pros and cons.

Unit 2	MOTHER NATURE A Panel Discussion about a Film Contest.	Listening for details. Noting who says what. Making suggestions. Group presentations.
Unit 2	Video: Turtles Under Threat.	Adjective clauses. Using context clues. Deciding on criteria. Evaluating, personalizing, organizing information.
Unit 2	Presenting a proposal	Discussing conservation and extinction. .
Unit 3	ON THE MOVE A Lecture about Migration.	Listening for the order of events. Expressing probability. Expressing your opinion strongly.
Unit 3	Video: What Ellis Island means today.	Noting contrasting ideas. Noticing clues to meaning. Categorizing information. Linking phrases.
Unit 3	Discussing a case study.	A study group discussion. Presenting a view.
Unit 4	OUR CHANGING Earth PLANET An Earth Science lecture.	Recognizing digressions. Noting supporting ideas. Answering questions effectively.
Unit 4	Creating a legend.	Making eye contact. Presenting a business report.
Unit 5	MAKING A LIVING, Eco-nomics/ MAKING A DIFFERENCE A talk about a co-operative business.	Listening for similarities and contrasts. Using abbreviations. Using numbers and statistics.
Unit 5	Video: Light for India's villages. Discussing small businesses.	Indirect questions. Pronouncing large numbers. Looking up while speaking.
Semester Review	Presenting a socially responsible business. Class review.	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】

Pathways 3: Listening, Speaking, and Critical Thinking (Second Edition) by Becky Tarver Chase and Christien Lee (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 25%

Quizzes 20%

Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline and objectives】

In this class, students will listen to a variety of materials. Students will speak about a variety of topics. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier. Students speaking will listen more effectively and become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法 Y 1 年/a 上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 5	Reading 1: Death Do Us Part Much of a Good Thing?	Inferring attitudes and feelings. Taking notes with signposts. Using titles and headings to identify main ideas.
Unit 5	Reading 2: Toward Immortality: The Social Burden of Longer Lives	Grammar - simple past, present perfect, and present perfect progressive. Revise - using figurative language.
Unit 5	A descriptive essay.	Video: The long lives of the residents of Acciaroli. Write a report about a part of the world where people live long lives using questions as guides.
6	Reading 1: Justin Making a Difference	Inferring people's reactions. Taking compare and contrast notes with a t-chart. Recognizing persuasive language.

Unit 6	Reading 2: Some Problems with Mandatory Volunteering.	Grammar: Making concessions. Writing introductions and thesis statements.
Unit 6	A persuasive essay.	Video: Philanthropy. Create a powerpoint presentation or poster about philanthropy in your community.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 5 and 6. Vocabulary quiz.
Unit 7	Reading 1: Sea An Unworthy: A Personal Journey into the Pacific	Inferring the author's point of view and possible bias. Taking notes on pros and cons. Creating headings based on main ideas.
Unit 7	Reading 2: Two Proposals to Clean Up Our Oceans of Garbage: Will Either Work?	Grammar: Subordinators and transitions. Writing conclusions.
Unit 7	A problem-solution essay.	Video: Water conservation in college dormitories. Create a powerpoint or presentation about a solution to an environmental issue with accompanying campaign proposal.
Unit 8	Reading 1: Smart-phone-Induced Problems in the Twenty-First Century	Inferring an author's appeal to authority. Taking three-column notes to show time sequence. Identifying referents for the pronoun 'it'.
Unit 8	Reading 2: Unplugging Wired Kids: A Vacation from Technology and Social Media	Grammar: Subordinators and prepositional phrases. Using transitions. Video: Video games.
Unit 8	A cause-and-effect essay.	Conduct research and give a powerpoint presentation about the evolution of a technological device.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline and objectives】

In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】

Northstar 4 Reading and Writing (5th Edition) Student Book with app & resources by Andrew K. English and Laura Monahon English (Pearson)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and homework 20%
Writing assignments(portfolio of all drafts)40%
Vocabulary quizzes 20%
Midterm and final exams 20%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 Y 1 年/a 上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to prepare for academic study and to take English listening exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking lectures, podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given online and in the class. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 6	DESIGN WITH PURPOSE	Listening for inferences. Noting steps in a process.
	A guest lecture about design.	
Unit 6	Video: Designing the future.	Body language. Vocabulary with multiple meanings. Making inferences.
Unit 6	Presenting a process.	Making comparisons. Effective pausing.
Unit 7	INSPIRED TO PROTECT	Understanding a speaker's purpose. Dividing your notes. Using world maps.
Environ-mental Sci-ences	A podcast about the mental environment.	

Unit 7	Video: Three seconds. A talk about the environment.	Using analogies. Tag questions. Intonation with tag questions.
Unit 7	Planning a video	Storyboarding. Preparing a group presentation.
Unit 8	TRADITIONAL AND MODERN MEDICINE	Listening for supporting details. Indenting details. Using phrases to signal reasons.
Medicine	A lecture about plant based medicines.	
Unit 8	Video: Wild health. A podcast about prosthetic devices.	Word families. Adverb clauses of reason and purpose.
Unit 8	Discussing claims about public health. A presentation on medicine and health.	Practicing and timing your presentation.
Unit 9	UNCOVERING THE PAST	Understanding referents. Noting questions and answers.
Anthro-pology/History	An interview with an archeologist.	Introducing your talk. Phrasal verbs.
Unit 9	Video: How Trajan's column was built. Presenting about life in the past or future.	Participating in a group discussion. Using demonstratives.
Unit 10	EMOTIONS AND PERSONALITY	Listening for consequences. Defending an opinion. Latin prefixes and suffixes.
Psychology	A lecture about fear.	
Unit 10	Video: A tribute to discomfort. Talking about food and emotions.	Surveying classmates. Interacting with the audience.
Semester Review	Presenting research. Class review.	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】

Pathways 3: Listening, Speaking, and Critical Thinking (Second Edition) by Becky Tarver Chase and Christien Lee (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%
Presentations 25%
Quizzes 20%
Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline and objectives】

In this class, students will listen to a variety of materials. Students will speak about a variety of topics. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier. Students speaking will listen more effectively and become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W I

2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法 Y 1 年/c 中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class. Readings should be read at home and students will have group discussion about them.

【到達目標】

You will read 6 articles and write 6 short essays about them to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Students should do the reading at home and participate in group discussion in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Handout of article 1 about USA. Discussion about it. Prepare writing outline.
2	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 1 descriptive style.
3	Reading	Discuss article 2 about China and prepare outline for writing 2.
4	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 2 analytical style
5	Reading	Discuss article 3 about India and prepare outline for writing 3. Writing 2 due
6	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 3 opinion style
7	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 4. Writing 3 due
8	Mid-term exam	online
9	Exam review	Review writing 4
10	Reading	Discuss article 4 about Thailand and prepare outline for writing 5 comparative style.
11	Writing review	Teacher review. Homework: reading article 5 about Myanmar and summarize in writing 6.
12	Presentations	Student present their summary of article 5 in 1 minute and critique each other.
13	Reading	Discuss article 6 about the Philippines. Homework: study for final.
14	Final exam	feedback & review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None. Handouts will be provided online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% writing

25% participation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Read a variety of articles including newspapers and magazines and identify the topic, main idea and support reasons and examples. Then practice writing about those articles.

LANe100LA

Academic English L&S I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 Y 1 年/c 中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class with some lessons in person and others online via Zoom. Learn to give give opinions based on reading and listening to Ted Talks. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	An explanation of the class requirements. Pair & Group discussion
2	Speaking	Pair & Group discussion about making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: study for mid-term
7	Mid-term exam	Feedback
8	Review Mid-term	Homework: watch video
9	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video

11	Speaking	Pair & Group discussion about improving lives. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: study for final.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% exams and quizzes

25% effort & class participation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Feedback will be given in class, over Zoom and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【1】

None

【2】

None

【3】

None

【4】

None

【Outline and objectives】

You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically

LANe100LA

Academic English R&W II

2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

法Y1年/c中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Readings should be read before class and students will have group discussion about them in class. Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class.

【到達目標】

You will read 6 articles and write 6 short essays to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Reading at home and group discussion in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Handout of article.	Reading and group discussion. Homework: writing 1.
2	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 2 about Korea
3	Reading	Discuss article 2 and prepare outline for writing 2. Homework: writing 2.
4	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 3 about Taiwan
5	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 3. Homework: writing 3.
6	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 4 about Vietnam
7	Reading	Discuss article 4 and prepare outline for writing 4. Homework: writing 4.
8	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 5 about Bangladesh
9	Reading	Discuss article 5 and prepare outline for writing 5. Homework: writing 5
10	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 6 about Malaysia
11	Reading	Discuss article 6 and prepare outline for writing 6. Homework: writing 6

12	Writing review	Teacher will review writing. Homework: prepare for group discussion.
13	Group Discussion	Discussion. Homework: study for final exam.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

50% writing

25% reading quizzes

25% class participation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Computer access

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Read a variety of articles and learn to identify the topic sentence, main idea and supporting reasons. Then practice academic writing using the information from the articles.

LANe100LA

Academic English L&S II

2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法Y 1年/c 中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about about your own opinions and experiences with class-mates.

【到達目標】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Group discussion

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion about healthcare solutions. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about user experience. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about making suggestions. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about community builders. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about community building. Homework: study for mid-term exam
7	Mid-term exam	feedback Homework: watch video.
8	Speaking	Pair & Group discussion about changing places. Homework: watch video

9	Speaking	Pair & Group discussion about Barefoot college. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about Identity. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about global movement. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about Global Migration. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about Emotional Intelligence. Homework: study for final.
14	Final exam	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
75% exams and quizzes
25% effort & participation
In principle, no more than 3 absences allowed.
Feedback will be provided in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
none

【学生が準備すべき機器他】
Computer and internet access

【その他の重要事項】
None

【Outline and objectives】
You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically

LANe100LA

Academic English R&W I

2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

法Y1年/e初級

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Online class. All classes will be taught using zoom.

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time, or submitted by email and checked by instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction/Overview	Lesson 1
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 4
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 5
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 6
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 7
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 8
11	Presentation II.1	Lesson 9
12	Presentation II.1	Lesson 10

- 13 Topic Sentences / Lesson 11
Support 1
- 14 Topic Sentences / Lesson 12
Support 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

N/A

LANe100LA

Academic English L&S I

2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法Y1年/e 初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Online class. All classes will be taught using zoom.

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Holiday xwords
2	Introduction/Overview	Food xwords (1)p4 A B /HW p8 1 A B
3	Food	Sports xwords/HW p11 C
4	Sports	PP matching activity/p6 listening/HW p10 reading A D
5	Countries of the World	Group guessing 1-7/Countries xwords/HW p10 5 A D
6	Money and Economy	Money and economy xwords/p11 8 C p154 3/HW p17 6 C
7	Travel	Tide xwords P18 1 B C p19 4 A B/HW p21 5 B
8	Shopping	Relative xwords P22 Grammar p23 Reading/HW p24 3
9	Health	School Subjects xwords P26 6 B C p27 7 A/HW p28 A D

10	Housework	Education xwords P30 5 D p31 7 A C/HW p34 D
11	Dreams	Cities of the world xwords P36 A B p37 6 A/HW p36 5 C
12	Describing Cities	Detergent xwords P38 1 A 2 B/HW p40 4 C
13	Complaints	Where would you hear these? P41 5 B p42 Grammar, Reading
14	Revise and Check	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

N/A

LANe100LA

Academic English R&W II

2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法Y1年/e 初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games.

English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email to the instructor for evaluation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction / Overview	Lesson 1
3	Writing Skills: Review	Lesson 2
4	Writing Skills: Review	Lesson 2
5	Presentation Skills: Review	Lesson 3
6	Presentation Skills: Review	Lesson 3
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
9	Academic Presentation I.1	Lesson 5

10	Academic Presentation I.1	Lesson 5
11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
13	Academic Presentation I.2	Lesson 7
14	Academic Presentation I.2	Lesson 7

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

N/A

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 Y 1 年/e 初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	How was your summer vacation?/HW p45 4 B
2	Meaning of Dreams	Halloween xwords (1) P44 3 p46 5 B p47 7 A/HW p48 1 C D
3	Happiness	Street scene A/B P51 B C D/HW p54 1 B p55 1 C
4	Learning Foreign Languages	Marathon print activity P56-57 6 C D /HW p58 C
5	Telling Stories	Hobbies xwords P59 2 A p60 6 B/HW p60-61 F G
6	Danger	Halloween xwords (2) P62 Grammar, Vocabulary/HW p66 6 B C

7	Evaluating Risk	Music xwords P65 B C p69 3/HW p70 4 D E
8	Nationalities	Reported speech activity p77 6 A B/HW p76 3 E
9	Inventions	IF matching activity P78 1 A p79 3 G/HW p80 4 A B
10	Describing Differences	Alligator xwords P82 Grammar, Vocabulary/HW p86 5 B
11	School Subjects	Food xwords (2) P90 4 A B C p91 5 B/HW p89 3 B C
12	Making Decisions	Christmas xwords P95 2 A Relative xwords/HW p94 1 C D
13	Reported Speech	P102 Grammar, Vocabulary
14	Review	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

N/A

LANe100LA

Academic English R&W I

2017年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法Y 1年/b 上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Orientation. Getting to know you.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Begin unit 1: Discussion and vocabulary.
Nature or Nurture		
Unit 1	Reading 1: A Genius Explains.	Inference - understanding assumptions. Note-taking - marking important information. Distinguishing voice in quotations. Grammar - Past perfect.

Unit 1	Reading 2: 10,000 Hours to Mastery.	Review - Identifying and correcting sentence fragments. Video - Child prodigies. Writing - A summary paragraph. Writing - A report on a genius. Exchange texts and edit,	Midterm and final exams 20% *In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course. 【学生の意見等からの気づき】 Not applicable. 【学生が準備すべき機器他】
Unit 2	Reading 1: A Life of Facing Twists and Turns: Life's The Story of Frank Obstacles.	Inferring the meaning of idioms. Taking notes using questions. Recognizing positive redundancy.	Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Prepare an English-English dictionary.
Unit 2	Reading 2: Marla Runyan Has Never Lost Sight of her goals.	Gerunds and infinitives. Choosing appropriate supporting sentences.	【その他の重要事項】 The above may change according to the interests and abilities of the class.
Unit 2	Write a biographical paragraph.	Exchange texts and edit, Video - A girl with autism. Plan and write a biographical essay on a famous person who has overcome an obstacle.	【Outline and objectives】 In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 1 and 2 Vocabulary quiz.	
Unit 3	Reading 1: Genetic Testing and Disease: Would you want to know?	Inferring degree of support. Taking notes on cause and effect using a graphic organizer. Organizing event in a time line.	
Unit 3	Reading 2: Norman Cousin's Laughter Therapy.	Past unreal conditionals. Writing introduction and hooks. Preparing to write an opinion essay.	
Unit 3	Video: Sleep deprivation and health issues.	Unit review. A written presentation on genetic testing.	
Unit 4	Reading 1: Extreme Perception and Animal Intelligence.	Inferring the use of Hedging. Taking notes with outlining. Adjective clauses.	
Unit 4	Reading 2: How Smart are Animals?	Paraphrasing. A summary in journalistic style. Video: Talking to animals.	
Unit 4	Write a research summary on a famous animal.	Plan. Outline Draft. Write. Self edit. Exchange. Peer review.	
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】

Northstar 4 Reading and Writing (5th Edition) Student Book with app & resources by Andrew K. English and Laura Monahan English (Pearson)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and homework 20%

Writing assignments(portfolio of all drafts)40%

Vocabulary quizzes 20%

LANe100LA

Academic English L&S I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法Y 1年/b 上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to prepare for academic study and to take English listening exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking lectures, podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given online and in the class. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Orientation. Getting to know you.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Start Unit 1.
Unit 1	Unit 1 Behavioural Science: THE SCIENCE OF SHOPPING	An interview about Consumer Behavior. Recognizing a speaker's attitude.
Unit 1	Video: The Decoy Effect.	Quoting statistics and asking rhetorical questions. Question intonation. Real and unreal conditionals.
Unit 1	A Lecture about Gender and shopping.	Designing a store layout. Giving a persuasive presentation. Recognizing pros and cons.

Unit 2	MOTHER NATURE A Panel Discussion about a Film Contest.	Listening for details. Noting who says what. Making suggestions. Group presentations.
Unit 2	Video: Turtles Under Threat.	Adjective clauses. Using context clues. Deciding on criteria. Evaluating, personalizing, organizing information.
Unit 2	Presenting a proposal	Discussing conservation and extinction. .
Unit 3	ON THE MOVE A Lecture about Migration.	Listening for the order of events. Expressing probability. Expressing your opinion strongly.
Unit 3	Video: What Ellis Island means today.	Noting contrasting ideas. Noticing clues to meaning. Categorizing information. Linking phrases.
Unit 3	Discussing a case study.	A study group discussion. Presenting a view.
Unit 4	OUR CHANGING Earth PLANET An Earth Science lecture.	Recognizing digressions. Noting supporting ideas. Answering questions effectively.
Unit 4	Creating a legend.	Making eye contact. Presenting a business report.
Unit 5	MAKING A LIVING, Eco-nomics/ MAKING A DIFFERENCE A talk about a co-operative business.	Listening for similarities and contrasts. Using abbreviations. Using numbers and statistics.
Unit 5	Video: Light for India's villages. Discussing small businesses.	Indirect questions. Pronouncing large numbers. Looking up while speaking.
Semester Review	Presenting a socially responsible business. Class review.	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】

Pathways 3: Listening, Speaking, and Critical Thinking (Second Edition) by Becky Tarver Chase and Christien Lee (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 25%

Quizzes 20%

Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Prepare an English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline and objectives】

In this class, students will listen to a variety of materials. Students will speak about a variety of topics. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier. Students speaking will listen more effectively and become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 Y 1 年/b 上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 5	Reading 1: Death Do Us Part Much of a Good Thing?	Inferring attitudes and feelings. Taking notes with signposts. Using titles and headings to identify main ideas.
Unit 5	Reading 2: Toward Immortality: The Social Burden of Longer Lives	Grammar - simple past, present perfect, and present perfect progressive. Revise - using figurative language.
Unit 5	A descriptive essay.	Video: The long lives of the residents of Acciaroli. Write a report about a part of the world where people live long lives using questions as guides.
6	Reading 1: Justin Making a Difference	Inferring people's reactions. Taking compare and contrast notes with a t-chart. Recognizing persuasive language.

Unit 6	Reading 2: Some Take the Time Gladly Problems with Mandatory Volunteering.	Grammar: Making concessions. Writing introductions and thesis statements.
Unit 6	A persuasive essay.	Video: Philanthropy. Create a powerpoint presentation or poster about philanthropy in your community.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 5 and 6. Vocabulary quiz.
Unit 7	Reading 1: Sea An Unworthy: A Personal Journey into the Pacific	Inferring the author's point of view and possible bias. Taking notes on pros and cons. Creating headings based on main ideas.
Unit 7	Garbage Patch. Reading 2: Two Proposals to Clean Up Our Oceans of Garbage: Will Either Work?	Grammar: Subordinators and transitions. Writing conclusions.
Unit 7	A problem-solution essay.	Video: Water conservation in college dormitories. Create a powerpoint or presentation about a solution to an environmental issue with accompanying campaign proposal.
Unit 8	Reading 1: Man-aging Your Smart-phone	Inferring an author's appeal to authority. Taking three-column notes to show time sequence. Identifying referents for the pronoun 'it'.
Unit 8	Reading 2: Unplugging Wired Kids: A Vacation from Technology and Social Media	Grammar: Subordinators and prepositional phrases. Using transitions. Video: Video games.
Unit 8	A cause-and-effect essay.	Conduct research and give a powerpoint presentation about the evolution of a technological device.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Prepare an English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline and objectives】

In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】

Northstar 4 Reading and Writing (5th Edition) Student Book with app & resources by Andrew K. English and Laura Monahon English (Pearson)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and homework 20%
Writing assignments(portfolio of all drafts)40%
Vocabulary quizzes 20%
Midterm and final exams 20%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法Y 1 年/b 上級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to prepare for academic study and to take English listening exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking lectures, podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

This is an online class, and all weeks will be taught on Zoom and using Google Classroom. Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given online and in the class. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 6	DESIGN WITH PURPOSE	Listening for inferences. Noting steps in a process.
	A guest lecture about design.	
Unit 6	Video: Designing the future.	Body language. Vocabulary with multiple meanings. Making inferences.
Unit 6	Presenting a process.	Making comparisons. Effective pausing.
Unit 7	INSPIRED TO PROTECT	Understanding a speaker's purpose. Dividing your notes. Using world maps.
Environ-mental Sci-ences	A podcast about the environment.	

Unit 7	Video: Three seconds. A talk about the environment.	Using analogies. Tag questions. Intonation with tag questions.
Unit 7	Planning a video	Storyboarding. Preparing a group presentation.
Unit 8	TRADITIONAL AND MODERN MEDICINE	Listening for supporting details. Indenting details. Using phrases to signal reasons.
Medicine	A lecture about plant based medicines.	
Unit 8	Video: Wild health. A podcast about prosthetic devices.	Word families. Adverb clauses of reason and purpose.
Unit 8	Discussing claims about public health. A presentation on medicine and health.	Practicing and timing your presentation.
Unit 9	UNCOVERING THE PAST	Understanding referents. Noting questions and answers.
Anthro-pology/History	An interview with an archeologist.	Introducing your talk. Phrasal verbs.
Unit 9	Video: How Trajan's column was built. Presenting about life in the past or future.	Participating in a group discussion. Using demonstratives.
Unit 10	EMOTIONS AND PERSONALITY	Listening for consequences. Defending an opinion. Latin prefixes and suffixes.
Psychology	A lecture about fear.	
Unit 10	Video: A tribute to discomfort. Talking about food and emotions.	Surveying classmates. Interacting with the audience.
Semester Review	Presenting research. Class review.	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】

Pathways 3: Listening, Speaking, and Critical Thinking (Second Edition) by Becky Tarver Chase and Christien Lee (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%
Presentations 25%
Quizzes 20%
Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Prepare an English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline and objectives】

In this class, students will listen to a variety of materials. Students will speak about a variety of topics. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier. Students speaking will listen more effectively and become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 Y 1 年/d 中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Read a variety of articles including newspapers and magazines and identify the topic, main idea and support reasons and examples. Then practice writing about those articles.

【到達目標】

You will read 6 articles and write 6 short essays about them to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class with some classes in person and some online via Zoom. Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class. Readings should be read at home and students will have group discussion about them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Handout of article 1 about USA. Discussion about it. Prepare writing outline.
2	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 1 descriptive style.
3	Reading	Discuss article 2 about China and prepare outline for writing 2. Writing 1 due
4	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 2 analytical style.
5	Reading	Discuss article 3 about India and prepare outline for writing 3. Writing 2 due
6	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 3 opinion style.
7	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 4. Writing 3 due
8	Mid-term exam	none
9	Exam review	Also review writing 4.

10	Reading	Discuss article 4 about Thailand and prepare outline for writing 5 comparative style.
11	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: reading article 5 and summarize in writing 6.
12	Student presentation	Student present their summary of article 5 in 1 minutes and critique each other. Homework: read article 6
13	Discussion	Discuss article 6. Homework: study for final exam.
14	Final exam	review and return final writing assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None required. Articles will be provided online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Writing 75%

Participation 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Learn how to skim and scan articles for the main idea and supporting details. Improve writing skills by writing summaries and opinion essays about the readings.

LANe100LA

Academic English L&S I

2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法Y 1年/d 中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class with some lessons in person and some online via Zoom. Learn to give give opinions based on reading and listening to Ted Talks.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: watch video
7	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: study for mid-term
8	Mid-term exam	Feedback
9	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about improving lives. Homework: watch video

12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: prepare for final exam
14	Final exam	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% exams and quizzes

25% effort & class participation

In principle, no more than 3 absences allowed per term.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】

None

【None】

none

【1】

none

【2】

none

【3】

none

【4】

none

【Outline and objectives】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

LANe100LA

Academic English R&W II

2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

法Y1年/d中級

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Read a variety of articles and learn to identify the topic sentence, main idea and supporting reasons. Then practice academic writing using the information from the articles.

【到達目標】

To improve reading and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Reading at home and group discussion in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and reading	Reading and group discussion. Homework: writing 1
2	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 2 about Korea
3	Reading	Discuss article 2 and prepare outline for writing 2. Homework: do writing 2.
4	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 3 about Taiwan
5	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 3.
6	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 4 about Indonesia
7	Reading	Discuss article 4 and prepare outline for writing 4
8	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 5 about Bangladesh
9	Reading	Discuss article 5 and prepare outline for writing 5
10	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 6 about Malaysia.
11	Reading	Discuss article 6 and prepare outline for writing 6
12	Writing review	Teacher will review writing. Homework: submit final homework.
13	Review	Homework: study for final.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

50% writing

25% reading quizzes

25% class participation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Computer/internet access

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

Readings should be read before class and students will have group discussion about them in class. Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class

LANe100LA

Academic English L&S II

2017年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法Y 1年/d 中級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

Learn to give give opinions based on reading and listening to Ted Talks.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion about everyday heroes. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion about making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: prepare for mid-term exam
7	Mid-term exam	Feedback Homework: watch video
8	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: watch video
9	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about predicting trends. Homework: watch video

11	Speaking	Pair & Group discussion about proving lives. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: prepare for final exam
14	Final exam	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% exams and quizzes.
25% class participation.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

LANe100LA

Academic English R&W I

2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

法Y1年/f初級

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Online class. All classes will be taught using zoom.

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time, or submitted by email and checked by instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction/Overview	Lesson 1
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 4
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 5
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 6
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 7
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 8
11	Presentation II.1	Lesson 9
12	Presentation II.1	Lesson 10

- 13 Topic Sentences / Lesson 11
Support 1
- 14 Topic Sentences / Lesson 12
Support 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

N/A

LANe100LA

Academic English L&S I

2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法Y 1年/f 初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Online class. All classes will be taught using zoom.

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Holiday xwords
2	Introduction/Overview	Food xwords (1)p4 A B /HW p8 1 A B
3	Food	Sports xwords/HW p11 C
4	Sports	PP matching activity/p6 listening/HW p10 reading A D
5	Countries of the World	Group guessing 1-7/Countries xwords/HW p10 5 A D
6	Money and Economy	Money and economy xwords/p11 8 C p154 3/HW p17 6 C
7	Travel	Tide xwords P18 1 B C p19 4 A B/HW p21 5 B
8	Shopping	Relative xwords P22 Grammar p23 Reading/HW p24 3
9	Health	School Subjects xwords P26 6 B C p27 7 A/HW p28 A D

10	Housework	Education xwords P30 5 D p31 7 A C/HW p34 D
11	Dreams	Cities of the world xwords P36 A B p37 6 A/HW p36 5 C
12	Describing Cities	Detergent xwords P38 1 A 2 B/HW p40 4 C
13	Complaints	Where would you hear these? P41 5 B p42 Grammar, Reading
14	Revise and Check	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

N/A

LANe100LA

Academic English R&W II

2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法Y 1年/f 初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games.

English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email to the instructor for evaluation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction / Overview	Lesson 1
3	Writing Skills: Review	Lesson 2
4	Writing Skills: Review	Lesson 2
5	Presentation Skills: Review	Lesson 3
6	Presentation Skills: Review	Lesson 3
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
9	Academic Presentation I.1	Lesson 5

10	Academic Presentation I.1	Lesson 5
11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
13	Academic Presentation I.2	Lesson 7
14	Academic Presentation I.2	Lesson 7

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

N/A

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

法 Y 1 年/f 初級

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	How was your summer vacation?/HW p45 4 B
2	Meaning of Dreams	Halloween xwords (1) P44 3 p46 5 B p47 7 A/HW p48 1 C D
3	Happiness	Street scene A/B P51 B C D/HW p54 1 B p55 1 C
4	Learning Foreign Languages	Marathon print activity P56-57 6 C D /HW p58 C
5	Telling Stories	Hobbies xwords P59 2 A p60 6 B/HW p60-61 F G
6	Danger	Halloween xwords (2) P62 Grammar, Vocabulary/HW p66 6 B C

7	Evaluating Risk	Music xwords P65 B C p69 3/HW p70 4 D E
8	Nationalities	Reported speech activity p77 6 A B/HW p76 3 E
9	Inventions	IF matching activity P78 1 A p79 3 G/HW p80 4 A B
10	Describing Differences	Alligator xwords P82 Grammar, Vocabulary/HW p86 5 B
11	School Subjects	Food xwords (2) P90 4 A B C p91 5 B/HW p89 3 B C
12	Making Decisions	Christmas xwords P95 2 A Relative xwords/HW p94 1 C D
13	Reported Speech	P102 Grammar, Vocabulary
14	Review	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

N/A

LANj100LA

日本語 1 I

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
 2. メモを取りながら読解または聴解を行う
 3. メモをもとにアウトラインを作成する
 4. （可能であれば）読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語 1 II

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。また、読解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 読解課題に取り組む
 2. 読解のトピックに関してディスカッションを行う
 3. 2を踏まえ、再度1の読解課題に取り組む
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	教材1の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	教材1の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	教材1の読解	メモを取りながら聴読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	教材1の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
6	教材1の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

10	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	教材2の読解	メモを取りながら読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末考査	期末考査・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通して教材を配布する。

日本社会の現状に概観を与える社会科学分野の文献を2本読む予定である。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題60%、期末考査40%

欠席が4回以上の学生に対しては原則として成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語 1 I

2017年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：1単位

営国環1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. メモを取りながら読解または聴解を行う
3. メモをもとにアウトラインを作成する
4. 読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語 1 II

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

営国環 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。また、読解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 読解課題に取り組む
 2. 読解のトピックに関してディスカッションを行う
 3. 2を踏まえ、再度1の読解課題に取り組む
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	教材1の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	教材1の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	教材1の読解	メモを取りながら聴読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	教材1の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
6	教材1の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

10	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	教材2の読解	メモを取りながら聞読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	教材2の読解	読解課題に取り組む。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末考査	期末考査・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通して教材を配布する。

日本社会の現状に概観を与える社会科学分野の文献を2本読む予定である。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題60%、期末考査40%

欠席が4回以上の学生に対しては原則として成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語2 I

2017年度以降入学者

中沢 佐企子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

文1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。

【到達目標】

書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
- 2 書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
- 3 1回目の作文を書き、提出する。作文は手書きで書き、授業時間内に提出する。
- 4 次の授業で、1回目の作文を返却・フィードバックし、書き直しをする。
- 5 最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	授業についての説明
	文章表現練習	作文を書く練習
2回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
3回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
4回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
5回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
6回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
7回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
8回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
9回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
10回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
11回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
12回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
13回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
14回	作文の発表	今学期に書いた作文を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は、語彙・文法などの復習をする。

授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂東実子（2021）『大学生のための文章表現練習帳 第2版』国書刊行会

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・話し合いや発表も含む）20%、課題（作文）80%

※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする

- (1) 欠席回数が4回以下であること
- (2) 授業で課題を提出していること
- (3) 最後の授業で発表をしていること

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・出席を重視する。
- ・プリントは一人一回しか配布しない。
- ・課題を遅れて提出した場合は-30%で計算する。
- ・平常点では、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline and objectives】

Students will develop their academic skills through writing exercises. They will be able to write reports with proper languages as a university student.

LANj100LA

日本語Ⅱ

2017年度以降入学者

中沢 佐企子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1単位

文1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。春学期より長い文章を書く練習を行う。

【到達目標】

書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章がかけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
- 2 書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
- 3 1回目の作文を書き、提出する。作文は手書きで書き、授業時間内に提出する。
- 4 次の授業で、1回目の作文を返却・フィードバックし、書き直しをする。
- 5 最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	授業の説明
	文章表現練習	作文を書く練習
2回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
3回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
4回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
5回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
6回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
7回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
8回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
9回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
10回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
11回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
12回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
13回	文章表現練習	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
14回	作文の発表	今学期に書いた作文を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は、語彙・文法などの復習をする。

授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂東実子（2021）『大学生のための文章表現練習帳 第2版』国書刊行会

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・話し合いや発表も含む）20%、課題（作文）80%

※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする

- (1) 欠席回数が4回以下であること
- (2) 授業で課題を提出していること
- (3) 最後の授業で発表をしていること

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

- ・出席を重視する。
- ・プリントは一人一回しか配布しない。
- ・課題を遅れて提出した場合は-30%で計算する。
- ・平常点では、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline and objectives】

Students will develop their academic skills through writing exercises. They will be able to write reports with proper languages as a university student.

LANj100LA

日本語2 I

2017年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営国環1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

【到達目標】

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を取得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップされた文章作成課題に取り組む。課題に対する教師からのフィードバックを読み、課題に修正を加える。各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	導入、実力診断作文
第2回	論理的コミュニケー ション（論証）の基礎 ①	「論理的コミュニケーション（論証）」とは何か
第3回	論理的コミュニケー ション（論証）の基礎 ②	「論理的コミュニケーション（論証）」のプロトタイプ（根拠と主張）を理解する
第4回	論理的コミュニケー ション（論証）の基礎 ③	「論拠」について理解する
第5回	パラグラフ・ライテ ィングの基礎①	段落を「構成する」ことの重要性を理解する
第6回	パラグラフ・ライテ ィングの基礎②	段落の基本構造を理解する
第7回	パラグラフ・ライテ ィングの基礎③	「論証する」ために段落を「構成する」ことができる
第8回	パラグラフ・ライテ ィングの基礎④	文と文、段落と段落を関連づける、メタ言語の役割を理解する
第9回	要約文①	文章の要約を通して、文章の概要（アウトライン）を把握する
第10回	要約文②	論文の構造を把握し、論文の概要（アウトライン）を把握する
第11回	レポートを書く①	レポートの基本的な書式と形式
第12回	レポートを書く②	序論の展開について理解する
第13回	レポートを書く③	本論と結論の展開について理解する
第14回	総括	今学期の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・毎回、プリントを配布する。

・補助教材プリントは順番にファイルにとじて、毎回授業に必ず持ってくること。

【参考書】

適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：60%

期末課題:40%

【学生の意見等からの気づき】

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるようになると思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。

※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語Ⅱ

2017年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営国環1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

【到達目標】

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を習得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が課した課題に学生は個人またはグループで取り組む。

その後、課題に関連した発表を行う場合もある。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設ける。時間内に終わらなかった場合は、次回の授業までの宿題とする。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の復習
第2回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える①	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／法を学ぶ／レポートの構成を考える
第3回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える②	意見文の論理構成を考える
第4回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える③	自身の主張を述べる際に用いる文法表現、他者の主張を論評する際に用いる文法表現を学ぶ
第5回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える④	意見文の本論を書く
第6回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える⑤	意見文の序論と結論を書く
第7回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える⑥	ポートフォリオに従い、意見文を見直し、第二校を作成する
第8回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える⑦	引用表現を学ぶ

第9回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える⑧	間接引用表現の種類、使い分け方を学ぶ
第10回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える⑨	文章を読解し、その概要を間接引用表現を用い作成する
第11回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える⑩	文章を読解し、その概要を間接引用表現を用い作成する
第12回	レポート・論文で用いる表現・文法を学ぶ／レポートの構成を考える⑪	文章を読解し、その概要を間接引用表現を用い作成する／文献表の書き方を学ぶ
第13回	最終課題	レポートを作成する
第14回	最終課題	レポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員が提起した問題、あるいは、課した課題に学生は個人でないしグループで取り組む。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設けるが、書き終わらなかった場合は、次回までに完成し提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・毎回、教材を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

・各授業の課題（60％）

・期末課題（40％）

※4回以上欠席した場合は、原則として単位を出さない。

※課題の提出率が70%以下の場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるようになると思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。

※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語2 I

2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法キ1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の学部レポート作成に必要な作文技能を習得する。対象は日本語を母語としない学部1年の学生を基本とする。

【到達目標】

アカデミック・ライティングの基礎となる語彙、文法、表現の知識を持ち、必要に応じてこれが使え。各学科のレポート作成にあたり、レポート文の文体や語彙、表現など、必要な基礎的知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・教科書に沿った課題演習を中心に行う。
・適宜ハンドアウトによる補充問題の演習も行う。後半の演習には、毎回何らかの作文作成が含まれる。
・授業のはじめに前週の課題のフィードバックと、復習クイズを行う。
・状況（主に学生の来日と、病気の流行の度合い）により、zoomとGoogle Classroomを用いたオンライン授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介 文体①	・授業運営の説明 ・書き言葉の文末表現
第2回	レポートに使われる文体	・書き言葉の文末表現、語彙と文法の接続
第3回	文の基本①	・自動詞や受け身形を使った文 ・助詞「は」と「が」の使い分け
第4回	文の基本②	・語や文の名詞化 ・「の」と「こと」の使い分け ・パラフレーズ
第5回	首尾一貫した文	・呼応 ・複文の適切な使い方
第6回	各種記号と引用	・句読点と記号 ・引用文
第7回	段落	・段落の構造 ・段落の分け方と構成
第8回	仕組みの説明	・組織や物事の仕組みの分析と描写
第9回	歴史的な経過	・時系列的な説明のしかた ・過去と現在のつながりを示す
第10回	分類	・何らかの基準に基づいて分類し、その各々の要素について説明する方法
第11回	定義	・定義対象のカテゴリー分けと特徴の説明。定義づけ
第12回	比較・対象	二つ以上のものを比べ、その性格・性質を明らかにする
第13回	因果関係	原因・理由と結果の表現
第14回	期末試験	学習した表記、文法、語彙の復習と小作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業中、前週の学習内容について、小テストを行うので、復習しておくこと。また、小テストが受けられなかった場合は、その分の評価を受けられないので注意すること。

・授業外学習時間は30分を標準とするが、授業内に課題が完成しない場合、また添削後に書き直しが指示された場合は、さらに30分ほど必要と想定している。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二通信子・佐藤不二子(2020)『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

★上記教科書は、2003初版から大きく改訂されているので、必ず「新訂版」を購入すること。

【参考書】

①石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク

②小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版

③鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク

④友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク

【成績評価の方法と基準】

提出物：30%

平常点：20%

クイズ：20%

期末試験：30%で評価する

・提出物を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、期日を守ること。

・授業を4回以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

・学部1年生は、前期末の各教科の各種レポートの作成に不安や戸惑いがあるので、前期末終了段階で基礎的なレポート作成の目安がほしいとの声が多かった。そのため、本授業では、前期末終了少し前にはレポート作成技術のある程度習得し、学生のニーズに応えられるように努める。

・オンライン使用にあたっては、学生の接続環境や情報の管理に気を配り、また機器やソフトの使用法についてさらに改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

・PC、ノートパソコン、タブレット、スマートホンなど、またウェブカメラ、マイクなどZoomでのオンライン授業を可能にするデバイス。(カメラ付きPCが好ましい)

【その他の重要事項】

★必ずグーグルクラスルームに登録すること。(中国からの接続にはVPNが必要名場合があるので注意)

★グーグルクラスルームへの参加方法をはじめ、最新情報をHoppiiで確認すること。また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

・タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前にZOOMのアプリをダウンロードしておくこと。

【Outline and objectives】

This course will provide students with basic skills of academic writing in Japanese. It is basically designed for first-year students, who learn Japanese as their second language.

LANj100LA

日本語Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1単位

法キ1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない、学部1年生の日本語作文。

前半は日本語2-Iに続くレポートの作成練習、後半は様々な実用的なテーマに沿って、簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

【到達目標】

日本語での文章作成が必要とされる様々な場面に対応して簡潔かつ適切な文章表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・教科書を用いた演習。

・前半は教科書に沿ったレポート作成の基本を学習する。

・後半は各テーマごとに、問題点を話し合い、その後各自あるいはグループで、与えられた状況に応じた文章の作成を行う。

・状況によって、ZoomおよびGoogle Classroomを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	意見と根拠①	・効果的な意見の述べ方 ・意見表明の文末表現
第2回	意見と根拠②	・事実と意見のかき分け ・レポート論文における事実文、意見文、行動文の使い方の確認
第3回	資料の利用①	・資料の探し方と選別、利用のしかた
第4回	資料の利用②	・引用文の復習 ・参考文献の書き方
第5回	レポートの作成①	・レポートの構成と作成のプロセス
第6回	レポートの作成②	・レポートのドラフト作成
第7回	メールの書き方 お知らせのメール	(★レポート提出) ・同窓会への招待
第8回	お知らせのメール②	・長期欠席の通知
第9回	問い合わせのメール	・活動内容の問い合わせ ・資料請求など
第10回	お願いのメール①	・本の貸し出し依頼 ・期限の延期願い
第11回	お願いのメール②	・アドバイスを求める ・資料提供を求める
第12回	掲示板やメーリングリストを使う	・使い方と、トラブル回避の方法
第13回	自己アピールをする①	・奨学金などへの応募
第14回	自己アピールをする②	・就職・転職活動をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回から第5回までの授業では、授業外学習時間は60分程度を想定しているが、第6回目の後は、レポート作成のために3時間程度は必要である。

第9回以降は、原則として、毎回の授業の終わりに課題が与えられるので、期日（授業の次の金曜日 21:00）までにメールで課題を提出すること。7回目以降の授業に必要な学習時間は、30～40分を標準とする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

【参考書】

野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

提出物：60% 平常点：40%

- ★欠席4回以上で履修資格を失うので注意すること。
- ★遅刻（授業開始後20分まで）3回で欠席1回として扱う。
- ★課題を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、提出期限を守ることに。

【学生の意見等からの気づき】

- ・トピックによって、グループ活動を行う。
- ・また、学生の作文の添削作業を一部クラス内で参加者全員で行う。（学生の意見により導入したところ、好評だったため）
- ・オンライン使用にあたって、学生の接続環境や情報の管理に気を配り、また機器やソフトの使用方法についてさらに改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC、ノートパソコン、タブレット、スマートフォンなど、またウェブカメラ、マイクなど Zoom でのオンライン授業を可能にするデバイス。

【その他の重要事項】

- ★必ずグーグルクラスルームに登録すること。（中国からの接続にはVPNが必要名場合があるので注意）
- ★グーグルクラスルームへの参加方法をはじめ、最新情報を Hoppii で確認すること。また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。
- ・タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前にZOOMのアプリをダウンロードしておくこと

【Outline and objectives】

This course is basically designed for the first-year students who use Japanese as second language. It provides students with basic knowledge of writing for practical uses, such as e-mails, application forms, reports, etc., as well as academic report writing.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法 1 年 A

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語の発音と初級文法の習得を目的として設定します。

この授業でドイツ語を学ぶことで、外国語を一から学ぶ方法を習得することができます。また日本語とも英語とも違う発想方を習得するために、高校までにならった英文法との比較も積極的に行います。

【到達目標】

- 今学期の授業では、
- ・ドイツ語の発音の基礎
 - ・規則動詞および不規則動詞の人称変化
 - ・動詞の命令形
 - ・名詞の格および冠詞
 - ・人称代名詞
 - ・前置詞

について習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業内で課題を解きます。またノートや練習問題の解答を提出することを平常点評価のために求めます。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットおよびドイツ語の発音	ドイツ語のアルファベットおよび母音の発音練習
2	ドイツ語の発音および人称代名詞と動詞の現在人称変化名詞の解説	ドイツ語の子音の発音練習 人称代名詞の1格の導入 動詞の現在人称変化についての解説
3	人称代名詞と動詞の現在人称変化名詞の問題演習	人称代名詞の1格および動詞の現在人称変化についての練習問題を解く 練習問題について解説
4	名詞の性と格の解説	名詞の性と格の概念を解説 定冠詞と不定冠詞の格変化の解説
5	名詞の性と格の解説および問題演習	複数形の解説 名詞の格および性についての練習問題を解く 練習問題について解説
6	中間試験1および定冠詞類と不定冠詞類の解説	発音～名詞の性と格についての中間試験を実施 定冠詞類と不定冠詞類の導入 定冠詞類と不定冠詞類の格変化の解説

7	定冠詞類と不定冠詞類の解説と問題演習	所有冠詞の解説 否定冠詞の解説 定冠詞類と不定冠詞類の練習問題を解く 練習問題の解説
8	人称代名詞の解説	人称代名詞の格変化の解説 3 人称の人称代名詞の解説 3 格と 4 格の語順の解説
9	人称代名詞の解説と問題演習	非人称の es の解説 人称代名詞についての練習問題を解く 練習問題の解説
10	中間試験 2 および不規則動詞の解説	定冠詞類と不定冠詞類および人称代名詞についての中間試験を実施 重要な不規則動詞について解説
11	命令形の解説ならびに不規則動詞および命令形の問題演習	命令形について解説 不規則動詞および命令形についての練習問題を解く 練習問題を解説する
12	前置詞の解説	3 格支配の前置詞の解説 4 格支配の前置詞の解説
13	前置詞の解説と問題演習	3・4 格支配の前置詞について解説 前置詞についての練習問題を解く 練習問題について解説する
14	期末試験・まとめと解説	全体を試験範囲とした試験を実施し、その後試験問題を解説しつつまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。復習を中心に据えて行ってください。特に宿題となる課題の提出状況を重視します。

【テキスト（教科書）】

萩原耕平、山崎泰孝
『プロムナード やさしいドイツ語文法（改訂版・CD 付）』（白水社、2019 年）

【参考書】

独和辞典
どの出版社のものでも構いませんが、独和辞典を所有していない方は、『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題の提出および授業内での質問やコメントなどの積極的参加具合）:50%
中間試験および期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

高校英語との異同（異なる部分を中心に）を積極的に説明します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします）。

【Outline and objectives】

In this class, students shall learn pronunciations and the basic grammar of the German language.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

法 1 年 A

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ドイツ語の発音と初級文法の習得を目的として設定します。

この授業でドイツ語を学ぶことで、外国語を一から学ぶ方法を習得することができます。また日本語とも英語とも違う発想方を習得するために、英文法との比較も積極的に行います。

【到達目標】

今学期の授業では、

- ・ドイツ語の文のワク構造
 - ・動詞の時制
 - ・接続法
 - ・形容詞の使い方
- について習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式で行いますが、授業時間内および時間外に問題演習を積極的に行います。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	夏学期の復習および分離動詞	夏学期の復習 分離動詞と非分離動詞 枠構造
第 2 回	接続詞	分離動詞の問題演習 従属接続詞および並列接続詞
第 3 回	話法の助動詞の解説	接続詞の問題演習 話法の助動詞 未来・推量の助動詞
第 4 回	中間試験 1 ならびに動詞の 3 基本形	第 3 回までの範囲の中間試験 動詞の 3 基本形 過去分詞で ge がつかない動詞
第 5 回	動詞の過去形の活用	過去形 動詞の 3 基本形と過去形の問題演習
第 6 回	現在完了形	現在完了形 haben 支配と sein 支配 問題演習
第 7 回	受動文	受動文 状態受動 問題演習
第 8 回	形容詞の格変化	形容詞の 3 用法 形容詞の格変化 問題演習
第 9 回	形容詞・副詞の比較表現	比較級と最上級 問題演習

第10回	再帰代名詞と再帰動詞	再帰代名詞 再帰動詞 問題演習
第11回	中間試験 2 ならびに zu 不定詞	第4回から第10回までの範囲の 中間試験 zu 不定詞の用法 問題演習
第12回	関係代名詞	関係代名詞 問題演習
第13回	接続法	接続法 2 式 問題演習
第14回	期末試験・まとめと解 説	秋学期の学習範囲全体を試験範囲 とした試験を実施し、その後試験 問題を解説しつまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。復習を中心に据えて行ってください。特に宿題で出す課題の提出状況を重視します。

【テキスト（教科書）】

荻原耕平、山崎泰孝
『プロムナード やさしいドイツ語文法（改訂版・CD付）』
（白水社、2019年）

【参考書】

独和辞典
どの出版社のものでも構いませんが、独和辞典を所有していない方は、『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（問題演習の提出状況）：50%
中間試験および期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

高校英語との異同（異なる部分を中心に）を積極的に説明します。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと（なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoomのインストールをお願いします）。

【Outline and objectives】

In this class, students shall learn pronunciations and the basic grammar of the German language.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017年度以降入学者

児島 由理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 B

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年間かけてドイツ語の初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題や読解テキストを通じて語彙や表現を覚えることも目標とします。

【到達目標】

必要かつ十分な文法説明に加えて練習問題でドイツ語文法への理解を深めることができます。

また、読解テキストを通じて語彙を増やし読解力を養います。

ドイツ語圏に渡航した場合にも役立つ会話表現も学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

週1回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。しっかり身につくように、手と口と頭を働かせ、積極的に参加する授業を目指します。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

提出された課題・宿題は添削して返却し、授業でコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、ドイツ語圏概説、アルファベット、発音、挨拶など
第2回	Lektion 1	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化）、seinの現在人称変化（不規則変化）
第3回	Lektion 1	定動詞の位置、自己紹介の表現
第4回	Lektion 2	名詞の性・数・格、定冠詞・不定冠詞、habenの現在人称変化
第5回	Lektion 2	定冠詞・不定冠詞（続き）、möchteの現在人称変化、ホテルに宿泊する時の会話
第6回	Lektion 1-2（復習）	Lesetext（読んで練習してみましよう）
第7回	Lektion 3	不規則動詞の現在人称変化、人称代名詞の3格と4格
第8回	Lektion 3	非人称のes、動詞の命令形、切符を買う時の会話
第9回	Lektion 4	名詞の複数形、定冠詞類
第10回	Lektion 4	不定冠詞類、買い物をする時の会話
第11回	Lektion 3-4（復習）	Lesetext（読んで練習してみましよう）
第12回	Lektion 5	前置詞の格支配

第 13 回 Lektion 5 前置詞と定冠詞の融合形、道を尋

ねる時の会話

第 14 回 期末試験 春学期に学習した内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。次の授業で答え合わせまたは提出とします。適宜小テストも行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ドイツ☆スーパー』小野寿美子・中川明博・西巻文児
朝日出版社、2400 円

【参考書】

独和辞典を必ず購入すること。初回の授業で何点が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験+小テスト 70 %、授業参加度（宿題・課題を含む平常点）30 %の割合で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

今後の状況次第で Zoom などオンライン授業に転換した場合に対応できるように、パソコンやタブレットを用意しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

児島 由理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 B

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間かけてドイツ語の初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題や読解テキストを通じて語彙や表現を覚えることも目標とします。

【到達目標】

必要かつ十分な文法説明に加えて練習問題を解くことでドイツ語文法への理解を深めることができます。

また、読解テキストを通じて語彙を増やし読解力を養います。

ドイツ語圏に渡航した場合にも役立つ会話表現も学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。それまでに学んだ知識を活かし、応用的な練習問題にも徐々に取り組んでいきます。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。しっかり身につくように、手と口と頭を働かせ、練習問題をしながら先に進んでいきます。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

提出された課題・宿題は添削して返却し、授業でコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期に学習した内容の確認・復習
第 2 回	Lektion 6	話法の助動詞、未来の助動詞
第 3 回	Lektion 6	従属の接続詞と副文、両替をする時の会話
第 4 回	Lektion 5-6 (復習)	Lesetext (読んで練習してみましょう)
第 5 回	Lektion 7	形容詞の格変化
第 6 回	Lektion 7	zu 不定詞句、レストランで注文する時の会話
第 7 回	Lektion 8	動詞の 3 基本形、過去人称変化
第 8 回	Lektion 8	過去人称変化 (続き)、オペラ観劇する時の会話
第 9 回	Lektion 7-8 (復習)	Lesetext (読んで練習してみましょう)
第 10 回	Lektion 9	現在完了形、分離動詞
第 11 回	Lektion 9	分離動詞 (続き)、サッカー観戦する時の会話
第 12 回	Lektion 10	形容詞と副詞の比較、関係代名詞
第 13 回	Lektion 10	関係代名詞 (続き)、メールの書き方
第 14 回	期末試験	秋学期に学習した内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。次の授業で答え合わせまたは提出とします。適宜小テストも行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ドイツ☆ズーパー』小野寿美子・中川明博・西巻丈児
朝日出版社、2400円

【参考書】

独和辞典を必ず購入すること。初回の授業で何点か紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験+小テスト70%、授業参加度（宿題・課題を含む平常点）30%の割合で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

今後の状況次第でZoomなどオンライン授業に転換した場合に対応できるよう、パソコンやタブレットを用意しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

法1年C・D

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法事項の習得

【到達目標】

基本的な文法事項を習得します。また、DVD映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1. 授業は主に次の3点から構成されます。

- 1) 講義
 - 2) 実習
 - 3) 映像鑑賞
2. 対面授業とオンライン授業（ハイブリッド型）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス（オンライン・リアルタイム授業）	自己紹介 授業の進め方
2.	つづりの読み方と発音	発音と簡単な挨拶の口頭練習
3.	第1課（1）	動詞の現在人称変化（1）
4.	第1課（2）	sein と haben の現在人称変化 語順
5.	第2課（1）	定冠詞と名詞の格変化
6.	第2課（2）	不定冠詞と名詞の格変化
7.	第3課	名詞の複数形 人称代名詞
8.	第1回テスト	テスト・まとめと復習
9.	第4課	動詞の現在人称変化（2） 命令法
10.	第5課（1）	定冠詞類
11.	第5課（2）	不定冠詞類
12.	第6課（1）	前置詞の格支配（1）
13.	第6課（2）	前置詞の格支配（2）
14.	第2回テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題となった練習問題

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前田・高木『身につくドイツ文法＜Leicht＞2』郁文堂

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の3点を総合して評価します。

- 1) 第1回テスト35%
- 2) 第2回テスト35%
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

1) 新型コロナウイルス感染拡大状況により、対面授業となるかオンライン授業となるかは異なります。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。
2) 第 1 回目授業のガイダンスはオンライン・リアルタイムで行います。第 1 回目授業前に、アクセス URL は Hoppii 学習支援システムにアップします。

【Outline and objectives】

German grammar

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 C・D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得

【到達目標】

春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得をします。また、DVD 映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1. 授業は主に次の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習
3. 映像鑑賞
2. 対面授業とオンライン授業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	第 7 課 (1)	話法の助動詞 未来形
2.	第 7 課 (2)	非人称動詞 時刻の表現
3.	第 8 課 (1)	分離動詞 非分離動詞
4.	第 8 課 (2)	接続詞
5.	第 9 課	動詞の 3 基本形 過去形
6.	第 10 課 (1)	現在完了形
7.	第 1 回テスト	テスト・まとめと復習
8.	第 10 課 (2)	再帰表現
9.	第 11 課	形容詞の格変化 序数 日付の表現
10.	第 12 課 (1)	形容詞と副詞の比較変化
11.	第 12 課 (2)	zu 不定詞
12.	第 13 課 (1)	関係代名詞
13.	第 13 課 (2)	指示代名詞
14.	第 2 回テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題となった練習問題

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前田・高木『身につくドイツ文法 < Leicht > 』 郁文堂

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

次の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35%
- 2) 第 2 回テスト 35%
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの感染拡大状況により、対面授業となるかオンライン授業となるかは異なります。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。

【Outline and objectives】

German grammar

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法の教科書を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

接続法までの初級文法を一通り学習することによって、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

※春学期は対面授業と Zoom によるオンライン授業（リアルタイム配信型）を組み合わせた形での開講を予定しているが、少なくとも 4 月中はオンラインで実施し、それ以降は状況を見ながらの判断となる。オンライン授業への参加方法等具体的なことについては、授業開始日までに「学習支援システム」で提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 15 課からなり、各課とも文法、練習問題から構成されている。まず文法の説明をし、それから練習問題に取り組む。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット
2	発音 1	発音の原則、母音の発音
3	発音 2	子音の発音
4	Lektion 1	動詞の現在人称変化
5	Lektion 2	名詞の性／冠詞の格変化
6	Lektion 3	不規則変化動詞／命令形
7	Lektion 4	定冠詞類・不定冠詞類
8	Lektion 5	複数形／人称代名詞
9	Lektion 6	前置詞の格支配①
10	Lektion 6	前置詞の格支配②
11	Lektion 7	形容詞の格変化①
12	Lektion 7	形容詞の格変化②
13	Lektion 8	話法の助動詞
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』（白水社）ISBN9784560064207 ¥2,300

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、小テストの得点を 10 %、平常点を 30 % の合計で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題について予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法の教科書を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点をも身につけることを目的とする。

【到達目標】

接続法までの初級文法を一通り学習することによって、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）4、3 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

※秋学期は対面授業とオンライン授業を組み合わせたかたちでの開講を予定している。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 15 課からなり、各課とも文法、練習問題から構成されている。まず文法の説明をし、それから練習問題に取り組む。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 9	分離動詞
2	Lektion 9	接続詞と副文
3	Lektion 10	zu 不定詞
4	Lektion 10	再帰代名詞
5	Lektion 11	動詞の 3 基本形
6	Lektion 11	過去形
7	Lektion 12	現在完了形
8	Lektion 12	非人称表現
9	Lektion 13	受動態
10	Lektion 13	比較表現
11	Lektion 14	関係代名詞
12	Lektion 14	関係副詞
13	Lektion 15	接続法
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』（白水社）ISBN9784560064207 ¥2,300

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、平常点を 40 % の合計で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題について予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 A

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を使いこなすためのドイツ語文法前半の習得を目的とする。

【到達目標】

簡単な文法事項に慣れ、使いこなしができる。発音のルールを知り、初めて見るドイツ語の単語が正しく発音できるようになる。簡単なドイツ語の文章を辞書を用いて読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は ZOOM による双方向オンラインで行う。学習支援システム Hoppii の情報に注意すること。ただし初回は ZOOM では行わず、Hoppii による資料、課題配布型とする。

最初に文法事項の解説を行う。その後、できるだけたくさんの問題を解き、発表してもらい。積極的な態度で授業に参加すること。重要な文法項目前半部分はすべて学習するので、欠席は極力避けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	学習の仕方
	教科書、学習方法の説明	ドイツ語のアルファベット 簡単なドイツ語の表現
2	Lektion 0. 1	発音、規則動詞・定形の位置 以下オンライン（リアルタイム型） を基本とする。
3	Lektion 0. 1	規則動詞、sein と haben
4	Lektion 2	名詞の性
5	Lektion 2	格変化
6	Lektion 3	所有冠詞
7	Lektion 3	人称代名詞
8	Lektion 4	前置詞
9	Lektion 4	非人称主語
10	Lektion 5	動詞の 3 基本形
11	Lektion 5	過去人称変化
12	Lektion 6	現在完了形
13	Lektion 6	接続詞、zu 不定詞
14	春学期での習得した知識の確認	試験と解説 今まで習得した文法事項の確認と 応用力のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を行い、わからないことがあれば、次の授業で質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブリュッケ』木下他（朝日出版社）

【参考書】

テキストは参考書と違い説明は最小限である。既習事項があやふやになってきた場合の自習用として、「ゼロから始めるドイツ語—文法中心」在間進、三修社等の参考書は役に立つ。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（60%）と授業での発表等の平常点（40%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

様々な学生への配慮

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（リアルタイム型）で行うので、法政大学授業支援システム Hoppii や ZOOM 等が使用できる PC 機器等をそなえておくこと。ZOOM の情報や授業の資料、課題等は Hoppii に掲載されるので注意すること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is learning the first half of German grammar to understand German.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 A

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ文法後半の学び、春学期に学んだ知識と合わせて、基本的なドイツ語文法全般を習得する。

【到達目標】

基本的なドイツ語文法の習得を終了し、辞書を使って様々な文章を読むことができる。簡単なドイツ語の文章が作れるようになる。さらなるドイツ語の学習のための準備段階を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

できるだけたくさんの問題を練習してもらおう。積極的な態度で授業に参加すること。重要な文法項目は、すべて学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 7	話法の助動詞
2	Lektion 7	未来形
3	Lektion 8	分離動詞と非分離動詞
4	Lektion 8	受動態
5	Lektion 9	不規則変化の動詞
6	Lektion 9	命令形
7	Lektion 10	接続法の変化
8	Lektion 10	接続法の用法
9	Lektion 11	再帰代名詞、再帰動詞
10	Lektion 11	比較級、最上級
11	Lektion 12	関係代名詞
12	Lektion 12	関係代名詞の練習
13	Lektion 13	接続法の練習
14	秋学期での習得した知識の確認	試験と解説 今まで習得した文法事項の確認と応用力のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を行い、わからないことがあれば、次の授業で質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブリュッケ』木下他（朝日出版社）

【参考書】

テキストは参考書と違い説明は最小限である。既習事項があやふやになってきた場合の自習用として、「ゼロから始めるドイツ語—文法中心」在間進、三修社 等の参考書は役に立つ。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

様々な学生への対応。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔授業の可能性も高いので、法政大学授業支援システム Hoppii や ZOOM 等が使用できる環境や機器をそなえておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is learning the second half of German grammar to understand German.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 B～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

ドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる語彙、表現を学ぶことができる。

ドイツ語で簡単な日常会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 発音とアクセント	発音の仕方 綴りの基本 ドイツ語の主語について du,ihr,Sie について
第 2 回	ドイツ語の動詞について	疑問詞 動詞の現在人称変化
第 3 回	Lektion2 ドイツ語の名詞について	名詞の性と格
第 4 回	Lektion2 ドイツ語の複数形について	複数形と冠詞の使い方
第 5 回	Lektion3 ドイツ語の冠詞について	所有冠詞
第 6 回	Lektion3 ドイツ語の否定冠詞について	否定冠詞と人称代名詞の格変化
第 7 回	Lektion4 ドイツ語の前置詞について	前置詞の格支配
第 8 回	Lektion4 ドイツ語の es について	非人称の es を用いた表現
第 9 回	Lektion5 過去形について	動詞の 3 基本形

第 10 回	Lektion5 ドイツ語の過去人称変化について	人称による過去形の動詞の形
第 11 回	Lektion6 ドイツ語の現在完了形について	現在完了形と接続詞
第 12 回	Lektion 6 ドイツ語の zu 不定詞について	zu 不定詞の用法
第 13 回	春学期ドイツ語学習の振り返りと総復習	Plus 文法と文法の確認
第 14 回	春学期期末試験、解説 とまとめ	春学期期末試験、解説とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポイントを確認し、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

「ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく」 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価手法について
成績配分は期末試験 50 %、平常点（これまでの小テストの点数の累計、訳読、課題提出、授業への積極的取り組みを含む）50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.
This course provides elementary German grammar for beginners.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

文 1 年 B～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。日常的によく使われる語彙、表現を学ぶことができる。ドイツ語で簡単な日常会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックは次回の授業時にそのつど、解説を加えたフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion 7 ドイツ語の話法の助動詞について	話法の助動詞の現在人称変化と構文
第 2 回	Lektion 7 ドイツ語の未来形について	未来形の用法と文
第 3 回	Lektion 8 ドイツ語の分離動詞について	分離・非分離動詞
第 4 回	Lektion 8 ドイツ語の受動文について	受動文の用法と形式
第 5 回	Lektion 9 ドイツ語の命令形について	命令形とその用法
第 6 回	Lektion 9 ドイツ語の不規則変化動詞について	不規則変化動詞の用法
第 7 回	Lektion10 ドイツ語の接続法について	接続法第 2 式の用法と形式
第 8 回	Lektion10 ドイツ語の婉曲話法について	婉曲話法と接続法第 2 式の用法

第 9 回	Lektion11 ドイツ語の再帰代名詞 について	再帰代名詞の人称変化
第 10 回	Lektion11 ドイツ語の比較級・最 上級について	比較級・最上級の用法と形態
第 11 回	Lektion12 ドイツ語の関係代名詞 について	定関係代名詞
第 12 回	Lektion12 ドイツ語の関係副詞に ついて	関係副詞と不定関係代名詞
第 13 回	Plus 文法と振り返り	Plus 文法と 別冊練習問題を使つての文法事項 の確認
第 14 回	期末試験、まとめと解 説	期末試験、文法事項を中心とした まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

「ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく」 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。
期末試験 50 %
平常点（訳読などの課題発表・確認テストの成績累計、授業への積極的取組・参加）50 %
出席は単位修得の前提条件です。

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高め、理解をより確実なものにします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.
This course provides elementary German grammar for beginners.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

文 1 年 L・P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を初めて学ぶ学生のみなさんを対象に、ドイツ語文法の基礎をひとつと学習することを目的とする授業です。学習内容をもとに文法問題や会話練習に取り組むことにより、文法知識の効率的な習得を目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。
ドイツ語の発音のルールを知り、初見の単語でも発音できる。
ドイツ語の基本的な口語表現を身につける。
独和辞典に習熟し、自律的なドイツ語学習に慣れ親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員が文法事項を紹介し（講義形式）。その後、文法事項の習得度をチェックするため、受講生のみなさんに文法問題を解いてもらいます。これとやらんで、パートナーとともに該当する文法事項を用いた会話練習を行ないます（演習形式）。小テストや課題に取り組んで知識の定着を図るとともに、疑問が残る点についてリアクションペーパーで質問を受け付けます（フィードバック）。なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行ないます。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	アルファベット、つづりと発音、語彙・表現
第 2 回	人称代名詞と動詞の現在人称変化、語順	人称代名詞／動詞の形と現在人称変化
第 3 回	人称代名詞と動詞の現在人称変化、語順	語順（動詞の位置）／動詞 sein, haben の現在人称変化
第 4 回	不規則変化動詞、名詞の性と複数形（1）	不規則変化動詞の現在人称変化／の性と複数形（1） ja, nein, doch
第 5 回	不規則変化動詞、名詞の性と複数形（2）	名詞の性／名詞の複数形
第 6 回	名詞・代名詞の格変化（1）	名詞の格変化
第 7 回	名詞・代名詞の格変化（2）	人称代名詞の格変化／疑問代名詞の格変化／不定代名詞
第 8 回	冠詞類、否定文、命令形（1）	冠詞類
第 9 回	冠詞類、否定文、命令形（2）	否定冠詞 kein と nicht の使い分け／ nicht の位置／命令形の作り方
第 10 回	前置詞、接続詞（1）	前置詞
第 11 回	前置詞、接続詞（2）	前置詞の熟語的用法／前置詞と代名詞の融合形／接続詞と語順

- 第12回 話法の助動詞、分離動 話法の助動詞
詞（1）
- 第13回 話法の助動詞、分離動 未来形／分離動詞／非分離動詞
詞（2）
- 第14回 理解度の確認 学期末テストにより、春学期に学習した内容の習熟度を測る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。毎回の授業まえには、授業であつかう文法事項の説明を読み、知らない単語などは辞書であらかじめ確認するようにしてください。また、練習問題に取り組み、会話練習の準備をしておいてください。授業後には、予習で誤答したところをとくに重点的にチェックしてください。また課題が出た場合には提出期限までに忘れずに取り組み、知識の定着を図ってください。

【テキスト（教科書）】

高橋亮介／川名真矢『アプライゼ——伝え合うドイツ語』、朝日出版社、2018年。

——なお、独和辞典を必ず準備してもらいます。ただし、詳しくは初回授業の際にお話しするので、その後に購入するようにしてください。

【参考書】

中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ——改訂版』、白水社、2003年。

——その他については授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、小テスト・課題提出など）：60％
期末試験：40％（受験しない場合は単位の認定ができません）

——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期とおした受講を強くお勧めします。

【Outline and objectives】

This beginners' course is designed to introduce students to the basics of German grammar. Students will work on grammar questions and conversation exercises in order to acquire knowledge efficiently.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1単位

文1年L・P

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語文法の基礎を学習していきます。学習内容をもとに文法問題や会話練習に取り組みることにより、文法知識の効率的な習得を目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。
ドイツ語の発音のルールを知り、初見の単語でも発音できる。
ドイツ語の基本的な口語表現を身につける。
独和辞典に習熟し、自立的なドイツ語学習に慣れ親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教員が文法事項を紹介します（講義形式）。その後、文法事項の習得度をチェックするため、受講生のみさんに文法問題を解いてもらいます。これとやらんで、パートナーとともに該当する文法事項を用いた会話練習を行います（演習形式）。小テストや課題に取り組んで知識の定着を図るとともに、疑問が残る点についてリアクションペーパーで質問を受け付けます（フィードバック）。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行ないません。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の復習
第2回	動詞の3基本形、過去の表わし方（1）	動詞の3基本形／過去人称変化の表わし方（1）
第3回	動詞の3基本形、過去の表わし方（2）	注意を要する過去分詞／過去の形の表わし方／現在完了形
第4回	形容詞の格変化と比較変化（1）	形容詞の格変化
第5回	形容詞の格変化と比較変化（2）	形容詞の比較変化／比較の表現変化（2）
第6回	zu不定詞、分詞（1）	zu不定詞の用法
第7回	zu不定詞、分詞（2）	現在分詞と過去分詞の用法／非人称esの用法
第8回	再帰表現、関係代名詞（1）	再帰代名詞／再帰動詞
第9回	再帰表現、関係代名詞（2）	関係文と関係代名詞／関係代名詞の形と用法
第10回	受動態（1）	受動態／受動文と能動文の関係
第11回	受動態（2）	受動文の時制／自動詞を用いた受動文／状態受動
第12回	接続法（1）	接続法とは何か／接続法第1式の作り方／接続法第1式の用法
第13回	接続法（2）	接続法第2式の作り方／接続法第2式の用法
第14回	理解度の確認	学期末テストにより、秋学期に学習した内容の習熟度を測る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。毎回の授業まえには、授業であつかう文法事項の説明を読み、知らない単語などは辞書であらかじめ確認するようにしてください。また、練習問題に取り組み、会話練習の準備をしておいてください。授業後には、予習で誤答したところをとくに重点的にチェックしてください。また課題が出た場合には提出期限までに忘れずに取り組み、知識の定着を図ってください。

【テキスト（教科書）】

高橋亮介／川名真矢『アプライゼ——伝え合うドイツ語』、朝日出版社、2018年。

——なお、独和辞典を必ず準備してください。詳しくは初回授業の際にお話しします。

【参考書】

中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ——改訂版』、白水社、2003年。

——その他については授業中に適宜ご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、小テスト・課題提出など）：60％
 期末試験：40％（受験しない場合は単位の認定ができません）
 ——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした受講を強くお勧めします。

【Outline and objectives】

This beginners course is designed to introduce students to the basics of German grammar. Students will work on grammar questions and conversation exercises in order to acquire knowledge efficiently.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017年度以降入学者

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

文1年 T~W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音のルールを知って、初見の単語でも発音できるようにする。

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】

発音、動詞の現在形、名詞、前置詞、接続詞、代名詞、冠詞類を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業と Zoom によるオンライン授業の組み合わせによるブレンド型授業を行います。初回は対面授業にしたいところでしたが、Zoom を使ったりリアルタイムのオンライン授業になります。具体的な授業の進め方、注意事項などを説明します。WiFi につなぐことのできるスマートフォンあるいはタブレットできればPC、教科書を用意しておいてください。対面授業のときは教室から Zoom に入るかもしれません。WiFi につながるスマートフォン、ヘッドセットなどを用意してください。学習支援システムにお知らせをよく載せるので、常にチェックすること。特に初回の前は早めにお知らせチェックをしてください。下の「その他の注意事項」も必ず目を通すこと。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、勉強の仕方、勉強に役立つ情報などの説明。とても大事な回	授業の進め方、勉強の仕方、勉強に役立つ情報などを聞く。 Zoom に入れる機器（スマートフォン、タブレット PC などと場合によってヘッドセット）を持ってきてください。 オンラインで。
2	アルファベット、つづりの読み方と発音	発音練習 発音練習は口の形を直せるように自宅から Zoom で行います。 可能な限り Zoom で口の形を見せられる場所で受講してください。 オンラインで。
3	発音練習	前回の続き 口の形に気をつけながら発音練習。 オンラインで。
4	発音練習の仕上げ	応用練習、クイズなどで発音練習の仕上げをする。 オンラインで。
5	第1課：動詞の人称変化	動詞の人称変化について学ぶ 対面で。

6	動詞の現在人称変化	動詞の現在人称変化、不定詞句と平叙文、疑問文について学ぶ オンラインで
7	第2課：名詞の性、数、格	名詞の性、複数形についてについて学ぶ オンラインで
8	名詞の格変化	名詞の格変化と格の用法について学ぶ オンラインで
9	第3課：前置詞、接続詞	前置詞の格支配 前置詞と冠詞の融合形について学ぶ 対面で
10	従属接続詞と副文	従属接続詞と副文、不規則動詞について学ぶ オンラインで
11	第4課：人称代名詞、再帰代名詞、再帰動詞	人称代名詞の格変化 不定冠詞類 再帰代名詞、再帰動詞について学ぶ オンラインで
12	第5課：冠詞類	定冠詞類の格変化 不定冠詞類の格変化について学ぶ オンラインで
13	命令の表現	命令の表現と提案の表現について学ぶ オンラインで
14	総復習 秋学期に向けての準備	学んだことが身につくような復習 対面で

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藪正彦著 朝日出版社

【参考書】

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

【成績評価の方法と基準】

出席は原則として3分の2以上を必要とする。配慮される場合については【その他の重要事項】を参照のこと。基本的には期末試験70%、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30%の割合で総合評価する。遅刻3回で欠席1回にカウントされる。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も楽しく、真剣に学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomが使える機器（教室ではスマートフォン、タブレットなどWiFiとつながるもの、自宅ではPCがあればPC、なければスマートフォン、タブレットなど）、ヘッドセット。

【その他の重要事項】

楽しく、まじめに勉強しましょう。
公欠届、診断書などはきちんと出してください。
教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を毎回手元に置き、使用すること。
対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけてください。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline and objectives】

To master the pronunciation of German and the basic grammar.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017年度以降入学者

外山 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

文1年 T~W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】

動詞と助動詞の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

再帰代名詞、再帰動詞から接続法までの文法を対面授業とZoomによるオンライン授業で習得します。学習支援システムも連絡や資料アップや課題提出などに使用します。初回は教室の都合によりオンライン授業で、その後しばらくオンライン授業をやり、進度に合わせて対面授業を数回入れます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

下の「その他の重要事項」も必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだことを復習する 教科書と辞書を手元に置くこと Zoomに入れるようにしておいてください。 オンラインで
2	6課：形容詞の格変化	形容詞の格変化について学ぶ オンラインで
3	形容詞の比較変化	形容詞の比較変化について学ぶ オンラインで
4	第7課：分離動詞	分離動詞、非分離動詞について学ぶ オンラインで
5	分離・非分離前綴り	分離・非分離前綴りについて学ぶ 対面で
6	第8課：話法の助動詞	話法の助動詞の変化、話法の助動詞の各種用法について学ぶ オンラインで
7	助動詞 werden, lassen	助動詞 werden, lassen について学ぶ オンラインで
8	第9課：過去形	動詞の3基本形、過去形について学ぶ オンラインで
9	現在完了形	現在完了形について学ぶ 対面で
10	第10課：受動態	受動態、状態受動、能動態と受動態について学ぶ オンラインで
11	受動態の機能	受動態の機能について学ぶ オンラインで

12	第11課：関係文 関係副詞、指示代名詞	定関係代名詞、関係文、不定関係 代名詞について学ぶ 関係副詞、指示代名詞について 学ぶ オンラインで
13	第12課：接続法	接続法の変化、接続法第1式につ いて学ぶ オンラインで
14	接続法第2式 総復習	接続法第2式について学ぶ 秋学期に学んだことが身につくよ うな復習と補足 対面で

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間、合わせて1時間を標準とします。

学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藪正彦著 朝日出版社

【参考書】

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

【成績評価の方法と基準】

出席は原則として3分の2以上を必要とする。配慮される場合については[その他の重要事項]を参照のこと。基本的には期末試験70%、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30%の割合で総合評価する。遅刻3回で欠席1回にカウントされる。

【学生の意見等からの気づき】

好奇心をもって授業にのぞんでもらえるように頑張ります。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomが使える機器（教室ではスマートフォンあるいはタブレットなどWiFiとつながるもの、自宅ではPCがあればPC、なければスマートフォン、タブレットなど）、ヘッドセット。

【その他の重要事項】

春学期と基本的に同じ。

秋から履修する人は教科書を準備しておくこと。

毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を手元に置き、使用すること。

公欠届、診断書などはきちんと出してください。

対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけてください。

休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline and objectives】

To master the basic grammar.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017年度以降入学者

児島 由理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

営1年A～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年間かけてドイツ語の初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題や読解テキストを通じて語彙や表現を覚えることも目標とします。

【到達目標】

必要かつ十分な文法説明に加えて練習問題でドイツ語文法への理解を深めることができます。

また、読解テキストを通じて語彙を増やし読解力を養います。

ドイツ語圏に渡航した場合にも役立つ会話表現も学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

週1回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。しっかり身につくように、手と口と頭を働かせ、積極的に参加する授業を目指します。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

提出された課題・宿題は添削して返却し、授業でコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、ドイツ語圏概説、アルファベット、発音、挨拶など
第2回	Lektion 1	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化）、seinの現在人称変化（不規則変化）
第3回	Lektion 1	定動詞の位置、自己紹介の表現
第4回	Lektion 2	名詞の性・数・格、定冠詞・不定冠詞、habenの現在人称変化
第5回	Lektion 2	定冠詞・不定冠詞（続き）、möchteの現在人称変化、ホテルに宿泊する時の会話
第6回	Lektion 1-2（復習）	Lesetext（読んで練習してみましよう）
第7回	Lektion 3	不規則動詞の現在人称変化、人称代名詞の3格と4格
第8回	Lektion 3	非人称のes、動詞の命令形、切符を買う時の会話
第9回	Lektion 4	名詞の複数形、定冠詞類
第10回	Lektion 4	不定冠詞類、買い物をする時の会話
第11回	Lektion 3-4（復習）	Lesetext（読んで練習してみましよう）
第12回	Lektion 5	前置詞の格支配

第 13 回 Lektion 5 前置詞と定冠詞の融合形、道を尋ねる時の会話

第 14 回 期末試験 春学期に学習した内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。次の授業で答え合わせまたは提出とします。適宜小テストも行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ドイツ☆スーパー』小野寿美子・中川明博・西巻文児
朝日出版社、2400 円

【参考書】

独和辞典を必ず購入すること。初回の授業で何点が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験+小テスト 70 %、授業参加度（宿題・課題を含む平常点）30 %の割合で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

今後の状況次第で Zoom などオンライン授業に転換した場合に対応できるように、パソコンやタブレットを用意しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

児島 由理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年 A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間かけてドイツ語の初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題や読解テキストを通じて語彙や表現を覚えることも目標とします。

【到達目標】

必要かつ十分な文法説明に加えて練習問題を解くことでドイツ語文法への理解を深めることができます。

また、読解テキストを通じて語彙を増やし読解力を養います。

ドイツ語圏に渡航した場合にも役立つ会話表現も学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。それまでに学んだ知識を活かし、応用的な練習問題にも徐々に取り組んでいきます。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。しっかり身につくように、手と口と頭を働かせ、練習問題をしながら先に進んでいきます。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

提出された課題・宿題は添削して返却し、授業でコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期に学習した内容の確認・復習
第 2 回	Lektion 6	話法の助動詞、未来の助動詞
第 3 回	Lektion 6	従属の接続詞と副文、両替をする時の会話
第 4 回	Lektion 5-6 (復習)	Lesetext (読んで練習してみましょう)
第 5 回	Lektion 7	形容詞の格変化
第 6 回	Lektion 7	zu 不定詞句、レストランで注文する時の会話
第 7 回	Lektion 8	動詞の 3 基本形、過去人称変化
第 8 回	Lektion 8	過去人称変化 (続き)、オペラ観劇する時の会話
第 9 回	Lektion 7-8 (復習)	Lesetext (読んで練習してみましょう)
第 10 回	Lektion 9	現在完了形、分離動詞
第 11 回	Lektion 9	分離動詞 (続き)、サッカー観戦する時の会話
第 12 回	Lektion 10	形容詞と副詞の比較、関係代名詞
第 13 回	Lektion 10	関係代名詞 (続き)、メールの書き方
第 14 回	期末試験	秋学期に学習した内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。次の授業で答え合わせまたは提出とします。適宜小テストも行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ドイツ語☆ズーパー』小野寿美子・中川明博・西巻丈児
朝日出版社、2400円

【参考書】

独和辞典を必ず購入すること。初回の授業で何点か紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験+小テスト70%、授業参加度（宿題・課題を含む平常点）30%の割合で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

今後の状況次第でZoomなどオンライン授業に転換した場合に対応できるよう、パソコンやタブレットを用意しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】

The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017年度以降入学者

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営1年G~L

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音のルールを知って、初見の単語でも発音できるようにする。

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】

発音、動詞の現在形、名詞、前置詞、接続詞、代名詞、冠詞類を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業とZoomによるオンライン授業の組み合わせによるブレンド型授業を行います。初回は対面授業にしたいところでしたが、Zoomを使ったりリアルタイムのオンライン授業になります。具体的な授業の進め方、注意事項などを説明します。WiFiにつなぐことのできるスマートフォンあるいはタブレット、できればPC、教科書を持ってきてください。対面授業のときは教室からZoomに入るかもしれません。WiFiにつながるスマートフォン、ヘッドセットなどを用意してください。学習支援システムにお知らせをよく載せるので、常にチェックすること。特に初回の前は早めにお知らせチェックをしてください。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、勉強の仕方、勉強に役立つ情報などの説明。とても大事な回	授業の進め方、勉強の仕方、勉強に役立つ情報などを聞く。 Zoomに入れる機器（スマートフォン、タブレット、PC、場合によってはヘッドセットなどを用意してください。
2	アルファベット、つづりの読み方と発音	発音練習 発音練習は口の形を直せるように自宅からZoomで行います。可能なかぎりZoomで口の形を見せられる場所で受講してください。
3	発音練習	オンラインで 前回の続き 口の形に気をつけながら発音練習。
4	発音練習の仕上げ	オンラインで 応用練習、クイズなどで発音練習の仕上げをする。
5	第1課：動詞の人称変化	オンラインで 動詞の人称変化について学ぶ 対面で
6	動詞の現在人称変化	動詞の現在人称変化、不定詞句と平叙文、疑問文について学ぶ オンラインで

7	第2課：名詞の性、数、格	名詞の性、複数形についてについて学ぶ オンラインで
8	名詞の格変化	名詞の格変化と格の用法について学ぶ オンラインで
9	第3課：前置詞、接続詞	前置詞の格支配 前置詞と冠詞の融合形について学ぶ 対面で
10	従属接続詞と副文	従属接続詞と副文、不規則動詞について学ぶ オンラインで
11	第4課：人称代名詞、再帰代名詞、再帰動詞	人称代名詞の格変化 不定冠詞類 再帰代名詞、再帰動詞について学ぶ オンラインで
12	第5課：冠詞類	定冠詞類の格変化 不定冠詞類の格変化について学ぶ オンラインで
13	命令の表現	命令の表現と提案の表現について学ぶ オンラインで
14	総復習 秋学期に向けての準備	学んだことが身につくような復習 対面で

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藪正彦著 朝日出版社

【参考書】

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

【成績評価の方法と基準】

出席は原則として3分の2以上を必要とする。配慮される場合については【その他の重要】を参照のこと。基本的には期末試験70%、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30%の割合で総合評価する。遅刻3回で欠席1回にカウントされる。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も楽しく、真剣に学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom ができる機器（教室ではスマートフォンあるいはタブレットなどWiFi とつながるもの、自宅ではPCがあればPC, なければスマートフォン、タブレットなど）、ヘッドセット。

【その他の重要事項】

楽しく、まじめに勉強しましょう。
公欠届、診断書などはきちんと出してください。
教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を毎回手元に置き、使用すること。
対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけてください。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline and objectives】

To master the pronunciation of German and the basic grammar.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

外山 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】

動詞と助動詞の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

再帰代名詞、再帰動詞から接続法までの文法を対面授業と Zoom によるオンライン授業で習得します。学習支援システムも連絡や資料アップや課題提出などに使用します。初回は教室のつごうによりオンライン授業で、その後しばらくオンライン授業をやり、進度に合わせて対面授業を数回入れます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

下の「その他の重要事項」も必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだことを復習する 教科書と辞書を手に置くこと Zoom に入れるようにしておいてください。 オンラインで
2	6 課：形容詞の格変化	形容詞の格変化について学ぶ オンラインで
3	形容詞の比較変化	形容詞の比較変化について学ぶ オンラインで
4	第7課：分離動詞	分離動詞、非分離動詞について学ぶ オンラインで
5	分離・非分離前綴り	分離・非分離前綴りについて学ぶ 対面で
6	第8課：話法の助動詞	話法の助動詞の変化、話法の助動詞の各種用法について学ぶ オンラインで
7	助動詞 werden, lassen	助動詞 werden, lassen について学ぶ オンラインで
8	第9課：過去形	動詞の3基本形、過去形について学ぶ オンラインで
9	現在完了形	現在完了形について学ぶ 対面で
10	第10課：受動態	受動態、状態受動、能動態と受動態について学ぶ オンラインで
11	受動態の機能	受動態の機能について学ぶ オンラインで

- 12 第11課：関係文
関係副詞、指示代名詞 定関係代名詞、関係文、不定関係代名詞について学ぶ
関係副詞、指示代名詞について学ぶ
オンラインで
オンラインで
- 13 第12課：接続法 接続法の変化、接続法第1式について学ぶ
オンラインで
- 14 接続法第2式
総復習 接続法第2式について学ぶ
秋学期に学んだことが身につくような復習と補足
対面で

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藪正彦著 朝日出版社

【参考書】

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

【成績評価の方法と基準】

出席は原則として3分の2以上を必要とする。配慮される場合については【その他の重要事項】を参照のこと。基本的には期末試験70%、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30%の割合で総合評価する。遅刻3回で欠席1回にカウントされる。

【学生の意見等からの気づき】

好奇心をもって授業にのぞんでもらえるように頑張ります。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom ができる機器（教室ではスマートフォンあるいはタブレットなどWiFi とつながるもの、自宅ではPCがあればPC、なければスマートフォンあるいはタブレットなど）、ヘッドセット。

【その他の重要事項】

春学期と基本的に同じ。

秋から履修する人は教科書を準備しておくこと。

毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を手元に置き、使用すること。

公欠届、診断書などはきちんと出してください。

対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけてください。

休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline and objectives】

To master the basic grammar.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

JAMBOR A DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 Q・R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語 1 I では、教科書を用いてドイツ語の初級文法を体系的に学習します。ドイツ語の読解と作文を通してドイツ語の基本的な仕組みを理解することが本授業の目的です。文法の説明とグループワークでの練習によってドイツ語の発音と基本的な表現を身につけます。

【到達目標】

発音、動詞の人称変化、名詞の性と代名詞、冠詞の格変化、複数形、命令形、冠詞類、前置詞と接続詞、話法助動詞、形容詞を習得する。独検 4 級の問題を読み解くようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明が終了後、練習問題を通して実際にその文法を使い、習得する。会話とグループ練習を通してさらにドイツ語文法への理解を深め、基本的な文章を発言させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Lektion 1：発音	ドイツ語の基本的な発音を学ぶ
2 回	Lektion 2：動詞の人称変化	動詞の現在人称変化と動詞の位置を学ぶ
3 回	Lektion 3：不規則動詞	不規則動詞の人書変化と命令文を学ぶ
4 回	Lektion 4：名詞と冠詞	名詞の性と冠詞について学ぶ
5 回	Lektion 4：複数形	複数形について学ぶ
6 回	Lektion 5：人称代名詞	人称代名詞の格変化について学ぶ
7 回	Lektion 5：冠詞類	冠詞類について学ぶ
8 回	Lektion 6：分離動詞	分離動詞と非分離動詞を学ぶ
9 回	Lektion 7：接続詞	従属の接続詞と副文を学ぶ
10 回	Lektion 7：前置詞（1）	3 格支配と 4 格支配の前置詞について学ぶ
11 回	Lektion 8：前置詞（2）と疑問詞	3・4 格支配の前置詞と疑問詞を学ぶ。
12 回	Lektion 9：助動詞	話法助動詞について学ぶ
13 回	Lektion 10：形容詞	形容詞の格変化と序数を学ぶ
14 回	復習	Lektion 1～10 を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。前回の授業の文法を復習すること、単語を暗記すること、与えた課題・宿題に取り組むことが授業時間以外の主な学習です。

【テキスト（教科書）】

『ideal 例文で学ぶドイツ語文法 改訂版』、秋葉裕一/石井道子/中村采女/Wolfgang Schlecht
朝日出版社、ISBN: 978-4-255-25425-8

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト・期末試験の平均点数 70%、平常点 30%。
平常点において課題提出、出席、積極的な授業参加を総合的に評価する。

課題を行わない場合、平常点を減点する。
無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が緊張せず質問しやすい授業になるように努力いたしますので、授業中に不明なところがありましたら、気楽に質問していただければ幸いです。学生の質問に合わせてより適切で分かりやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典
教室で授業を行えない場合、Zoom に接続可能なデバイス（パソコンやタブレットが望ましい）とマイク付きイヤホン（ヘッドセット）

【Outline and objectives】

This lecture aims at teaching basic German grammar skills. By reading and writing German phrases the students will attain a basic knowledge of the German language. The students will usually work in pairs, so that they are able to practice pronunciation and remember basic German sentences.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

JAMBOR A DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 Q・R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語 1 II では、教科書を用いてドイツ語の初級文法を体系的に学習します。ドイツ語の読解と作文を通してドイツ語の基本的な仕組みを理解することが本授業の目的です。文法の説明とグループワークでの練習によってドイツ語の発音と基本的な表現を身につけます。

【到達目標】

再帰動詞、形容詞の比較級・最上級、過去形、完了形、受動態、zu 不定詞、接続法第 1・2 式、関係代名詞、指示代名詞を習得する。独検 3 級の問題を読み解くようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明が終えた後、練習問題を通して実際にその文法を使い、習得する。会話とグループ練習を通してさらにドイツ語文法への理解を深め、基本的な文章を発言させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Lektion 11:形容詞の比較級・最上級	比較級と最上級を学ぶ
2 回	Lektion 11:再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞を学ぶ
3 回	Lektion 12:過去形	動詞の 3 基本形と過去形を学ぶ
4 回	Lektion 13:完了形	現在完了形と過去完了形を学ぶ
5 回	Lektion 14:zu 不定詞	zu 不定詞について学ぶ
6 回	Lektion 15:受動	受動について学ぶ
7 回	Lektion 16:関係代名詞	関係代名詞と関係文について学ぶ
8 回	Lektion 17:関係副詞	関係副詞と指示代名詞の使い方を学ぶ
9 回	Lektion 17:ロマンチック街道	ロマンチック街道に関する文章を講読する。
10 回	Lektion 18:接続法 (1)	接続法第 2 式を学ぶ
11 回	Lektion 18:接続法 (2)	接続法第 2 式の使う場面について学ぶ
12 回	Lektion 19:接続法 (3)	接続法第 1 式と間接話法について学ぶ
13 回	Lektion 20:副詞的接続詞	副詞的接続詞とドイツのことわざについて学ぶ
14 回	復習	Lektion 11~20 を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。前回の授業の文法を復習すること、単語を暗記すること、与えた課題・宿題に取り組むことが授業時間以外の主な学習です。

【テキスト（教科書）】

『ideal 例文で学ぶドイツ語文法 改訂版』、秋葉裕一 / 石井道子 / 中村采女 / Wolfgang Schlecht
朝日出版社、ISBN: 978-4-255-25425-8

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト・期末試験の平均点数 70%、平常点 30%。
平常点において課題提出、出席、積極的な授業参加を総合的に評価する。課題を行わない場合、平常点を減点する。
無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が緊張せず質問しやすい授業になるように努力いたしますので、授業中に不明なところがありましたら、気楽に質問していただければ幸いです。学生の質問に合わせてより適切で分かりやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典

教室で授業を行えない場合、Zoom に接続可能なデバイス（パソコンやタブレットが望ましい）とマイク付きイヤホン（ヘッドセット）

【Outline and objectives】

This lecture aims at teaching basic German grammar skills. By reading and writing German phrases the students will attain a basic knowledge of the German language. The students will usually work in pairs, so that they are able to practice pronunciation and remember basic German sentences.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 A

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではやさしいドイツ語の文章を読み、ドイツ語でのかんたんな会話を練習しながら、ドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自立的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、かんたんな会話ができるようになる。
- ・文法を意識しながら外国語の文章を正確に読み取るスキルを身につける。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自立的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は教科書にそって進めます。原則として一つの課を 2 回の授業で扱い、前半では文法事項について解説してから練習問題を解きます。後半では前回学んだ文法事項の復習をしながらドイツ語の文章を読んだり、ペアワークで会話の練習を行ったりします。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と辞書について / ドイツ語の発音
第 2 回	第 1 課（前半）	文法：動詞の現在人称変化（I）
第 3 回	第 1 課（後半）	練習：自己紹介
第 4 回	第 2 課（前半）	文法：動詞の現在人称変化（II）・並列の接続詞
第 5 回	第 2 課（後半）	練習：ドイツ語圏の国々 / 職業を尋ねる
第 6 回	第 3 課（前半）	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化
第 7 回	第 3 課（後半）	練習：広告文を読む / プレゼントをあげる
第 8 回	第 4 課（前半）	文法：名詞の複数形・人称代名詞
第 9 回	第 4 課（後半）	練習：レシピを読む
第 10 回	第 5 課（前半）	文法：不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回	第 5 課（後半）	練習：仕事を探す / 電話をする
第 12 回	第 6 課（前半）	文法：動詞の現在人称変化（III）・命令形
第 13 回	第 6 課（後半）	練習：Heidi を読む / 趣味を尋ねる
第 14 回	前期のまとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次に授業で扱う範囲を声に出して読み、わからない単語を辞書で調べる。

復習：授業中に出された課題に取り組む。

※本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子・亀ヶ谷 昌秀・正木晶子・中野有希子（2019 年）『ゲナウ！ レーゼン』第 4 版、第三書房。

【参考書】

独和辞典（できれば紙のもの）を購入すること。くわしくは初回授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・提出課題： 40 %

学期末テスト： 40 %

平常点（授業への積極的な参加・予習）： 20 %

※ 以上を踏まえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの意見や要望に耳を傾けます。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom および Zoom を使用できる機器（パソコン・タブレット・スマートフォン）を用意してください。オンライン授業やハイフレックス授業に転換した際には、Zoom を使用します。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic skills in German by learning pronunciation, basic grammar and reading texts. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 A

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではやさしいドイツ語の文章を読み、ドイツ語でのかんたんな会話を練習しながら、ドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、かんたんな会話ができるようになる。
- ・文法を意識しながら外国語の文章を正確に読み取るスキルを身につける。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は教科書にそって進めます。原則として一つの課を 2 回の授業で扱い、前半では文法事項について解説してから練習問題を解きます。後半では前回学んだ文法事項の復習をしながらドイツ語の文章を読んだり、ペアワークで会話の練習を行ったりします。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と辞書について / ドイツ語の発音
第 2 回	第 7 課（前半）	文法：話法の助動詞
第 3 回	第 7 課（後半）	練習：『アンネの日記』
第 4 回	第 8 課（前半）	文法：前置詞・再帰動詞
第 5 回	第 8 課（後半）	練習：ドイツの祝祭日についての文章を読む
第 6 回	第 9 課（前半）	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞句・従属の接続詞
第 7 回	第 9 課（後半）	練習：インタビューを読む
第 8 回	第 10 課（前半）	文法：動詞の 3 基本形（I）・過去形・現在完了形
第 9 回	第 10 課（後半）	練習：童話『小さな魔女』を読む
第 10 回	第 11 課（前半）	文法：動詞の 3 基本形（II）・受動態
第 11 回	第 11 課（後半）	練習：ハリボーについての説明文を読む
第 12 回	第 12 課（前半）	文法：形容詞の変化・比較・関係代名詞
第 13 回	第 12 課（後半）	練習：童話『イソップ物語』を読む
第 14 回	前期のまとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次に授業で扱う範囲を声に出して読み、わからない単語を辞書で調べる。

復習：授業中に出された課題に取り組む。

※本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子・亀ヶ谷 昌秀・正木晶子・中野有希子（2019 年）『ゲナウ！ レーゼン』第 4 版、第三書房。

【参考書】

独和辞典（できれば紙のもの）を購入すること。くわしくは初回授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・提出課題： 40 %

学期末テスト： 40 %

平常点（授業への積極的な参加・予習）： 20 %

※ 以上を踏まえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの意見や要望に耳を傾けます。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom および Zoom を使用できる機器（パソコン・タブレット・スマートフォン）を用意してください。オンライン授業やハイフレックス授業に転換した際には、Zoom を使用します。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic skills in German by learning pronunciation, basic grammar and reading texts. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 B

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語以外の外国語にも触れることにより、多様な価値観や教養を身につけるための基礎的な能力を養う。

【到達目標】

簡単なドイツ語が辞書なしで読めるようになる。ドイツ語の基本的な文法事項の前半部分を習得することにより、ドイツ語の簡単な文章の意味が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

オンライン（リアルタイム型）で行う。授業は ZOOM による遠隔授業とする。法政大学授業支援システム Hoppii を毎週チェックすること。ただし初回は Hoppii による資料配布と課題提出とする。文法事項の説明。その知識をもとにして練習問題を解いてもらう。文章の発音と読解の練習をする。解答をできるだけ多くの出席者に発表してもらい正解を全員で考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書の紹介。授業の進め方。ドイツ語とはなにか。アルファベット。簡単な表現。
2	Lektion 1 動詞の現在人称変化	発音の規則の解説と練習。ドイツ語でのあいさつ。現在人称変化。以下オンライン（リアルタイム型）で行う。
3	Lektion 1 動詞の現在人称変化の練習	人称代名詞と規則動詞の変化。sein 動詞。定動詞の位置。
4	Lektion 2 名詞の性、冠詞の格変化	名詞の性、格変化、haben の文法の説明。問題練習。
5	Lektion 2 名詞の性、冠詞の格変化の練習	名詞の性、格変化、haben 等を使った表現の練習。2 課の読解。
6	Lektion 3 不規則動詞、命令形	不規則動詞、命令形の文法の説明。問題練習。
7	Lektion 3 不規則動詞、命令形の練習	不規則動詞、命令形を使った表現の練習。3 課の読解。
8	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類・不定冠詞類の文法の説明。問題練習。
9	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類の練習	定冠詞類・不定冠詞類を使った表現の練習。4 課の読解。
10	Lektion 5 複数形、人称代名詞	複数形、人称代名詞の文法の説明。問題練習。
11	Lektion 5 複数形、人称代名詞の練習	複数形、人称代名詞を使った表現の練習。5 課の読解。

12	Lektion 6 前置詞	前置詞の文法の説明。問題練習。
13	Lektion 7 形容詞の格変化	形容詞の変化（解説と練習）。
14	春学期の学修事項の確認	到達度テスト 学修事項の確認と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書をひき予習する。学んだことを振り返り、わからないことがあれば次の回に質問する。教科書に添付された学修用 CD を聞いて発音になれる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版] 「上野成利他」
白水社

【参考書】

任意の独和辞典

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

知識を確実にするためには、できるだけ多くの問題練習をする必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（リアルタイム型）で行うので、法政大学授業支援システム Hoppii や ZOOM 等が使用できるよう遠隔授業のための PC 等をそなえておくこと。ZOOM の情報や授業の資料、課題等は Hoppii に掲載されるので注意すること。

【Outline and objectives】

By learning foreign languages other than English, cultivate the basic ability to acquire diverse values and cultures.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 B

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語以外の外国語にも触れることにより、多様な価値観や教養を身につけるための基礎的な能力を養う。

【到達目標】

ドイツ語の基本的な文法事項の後半を習得することにより、ドイツ語の基本的な文章を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の説明。修得した知識をもとに練習問題を解く。文章の発音と読解の練習。解答をできるだけ多くの出席者に発表してもらいその正解を全員で考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 8	話法の助動詞、未来形の文法の説明。問題練習。
2	Lektion 8	話法の助動詞、未来形を使った表現の練習。8 課の読解。
3	Lektion 9	分離動詞、接続詞と副文の文法の説明。問題練習。
4	Lektion 9	分離動詞、接続詞と副文を使った表現の練習。9 課の読解。
5	Lektion 10	zu 不定詞、再帰代名詞の文法の説明。問題練習。
6	Lektion 10	zu 不定詞、再帰代名詞を使った表現の練習。10 課の読解。
7	Lektion 11	三基本形、過去形の文法の説明。問題練習。
8	Lektion 11	三基本形、過去形を使った表現の練習。11 課の読解。
9	Lektion 12	現在完了形の文法の説明。問題練習。
10	Lektion 12	現在完了形を使った表現の練習。12 課の読解。
11	Lektion 13	受動態の文法の説明。問題練習。
12	Lektion 13	受動態を使った表現の練習。13 課の読解。
13	Lektion 14	関係代名詞、関係副詞を使った表現の練習。接続法の練習。
	Lektion 15	接続法、関係副詞

14 秋学期の学修事項の確認 到達度テスト
到達度の確認と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書をひき予習する。学んだことを振り返り、わからないことがあれば次の回に質問できるように用意する。教科書に添付された学習用 CD を聞いて発音になれる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版] 「上野成利他」白水社

春学期に入手したもので結構です。

【参考書】

任意の独和辞典

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

知識を確実にするためには、できるだけ多くの問題練習をする必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔授業に必要な PC 等

【Outline and objectives】

By learning foreign languages other than English, cultivate the basic ability to acquire diverse values and cultures.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 C・D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Zoom を用いたリアルタイムでのオンライン授業を基本（主）とします。授業に関する連絡を行うので、授業開始前に、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。

授業は教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について・ドイツ語のアルファベート
第 2 回	発音	ドイツ語の発音ルール
第 3 回	第 1 章 (1)	動詞の現在人称変化、動詞 sein と haben の変化
第 4 回	第 1 章 (2)	動詞の位置
第 5 回	第 2 章 (1)	名詞の性、名詞の 1 格・4 格
第 6 回	第 2 章 (2)	所有冠詞
第 7 回	第 3 章 (1)	不規則動詞の現在人称変化
第 8 回	第 3 章 (2)	名詞の複数形
第 9 回	第 4 章 (1)	名詞の 3 格
第 10 回	第 4 章 (2)	前置詞と名詞の格
第 11 回	第 5 章 (1)	人称代名詞の 3・4 格
第 12 回	第 5 章 (2)	分離動詞、非分離動詞
第 13 回	第 6 章 (1)	話法の助動詞
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2 6 0 0 円 + 税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。

また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40％、期末試験60％

【学生の意見等からの気づき】

学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったため、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 C・D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Zoom を用いたリアルタイムでのオンライン授業を基本（主）とします。授業に関する連絡を行うので、授業開始前に、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。

授業は春学期に引き続き、教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第6章(2)	命令形
第2回	第7章(1)	3・4格支配の前置詞
第3回	第7章(2)	並列接続詞
第4回	第8章(1)	現在完了形
第5回	第8章(2)	過去形
第6回	第9章(1)	定冠詞類
第7回	第9章(2)	副文
第8回	第10章(1)	比較級と最上級
第9回	第10章(2)	再帰代名詞と再帰動詞
第10回	第11章(1)	形容詞の格変化
第11回	第11章(2)	天候の表現（esの用法）
第12回	第12章(1)	接続法第2式
第13回	第12章(2)	zu不定詞句
第14回	期末試験	第1回～第13回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2600円＋税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。

また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったので、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

【到達目標】

基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1. 授業は主に次の3点から構成されます。

- 1) 講義
 - 2) 実習
 - 3) 映像鑑賞
2. 対面授業とオンライン授業(ハイブリッド型)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス（オンライン・リアルタイム授業）	自己紹介 授業の進め方
2.	つづりの読み方と発音	母音・子音の発音 日常会話の基本的表現
3.	第1課（1）	動詞の現在人称変化
4.	第1課（2）	動詞の現在人称変化
5.	第1課（3）	動詞の現在人称変化
6.	第2課（1）	名詞と冠詞の格変化・名詞の複数形
7.	第2課（2）	名詞と冠詞の格変化・ 名詞の複数形
8.	第2課（3）	名詞と冠詞の格変化・名詞の複数形
9.	第1回テスト	テスト・まとめと復習
10.	第3課（1）	不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞
11.	第3課（2）	不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞
12.	第3課（3）	不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞
13.	第4課（1）	定冠詞類・不定冠詞類
14.	第2回テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題となった練習問題

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 2.0』朝日出版社

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の3点を総合して評価します。

- 1) 第1回テスト35%

- 2) 第 2 回テスト 35 %
3) 平常点 (出席状況と受講態度) 30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、学習支援システム上で、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

- 1) 新型コロナウイルスの感染拡大状況により、対面授業となるかオンライン授業となるかは異なってきます。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。
2) 第 1 回目授業のガイダンスはオンライン・リアルタイムで行います。第 1 回目授業前に、アクセス URL は Hoppii 学習支援システムにアップします。

【Outline and objectives】

German grammar and reading

LANd100LA

ドイツ語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

【到達目標】

春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1. 授業は主に次の 3 点から構成されます。

- 1) 講義
 - 2) 実習
 - 3) 映像鑑賞
2. 対面授業とオンライン授業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	第 4 課 (2)	定冠詞類・不定冠詞類
2.	第 4 課 (3)	定冠詞類・不定冠詞類
3.	第 5 課 (1)	前置詞の格支配
4.	第 5 課 (2)	前置詞の格支配
5.	第 5 課 (3)	前置詞の格支配
6.	第 6 課 (1)	話法の助動詞・未来形
7.	第 6 課 (2)	分離動詞・非分離動詞・接続詞
8.	第 6 課 (3)	分離動詞・非分離動詞・接続詞
9.	第 1 回テスト	テスト・まとめと復習
10.	第 7 課 (1)	動詞の三基本形・過去形
11.	第 7 課 (2)	現在完了形
12.	第 7 課 (3)	現在完了形
13.	第 8 課 (1)	再帰表現・zu 不定詞
14.	第 2 回テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題となった練習問題

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 2.0』朝日出版社

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

次の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35 %
- 2) 第 2 回テスト 35 %
- 3) 平常点 (出席状況と受講態度) 30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許す限り、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの感染拡大状況により、対面授業となるかオンライン授業となるかは異なってきます。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。

【Outline and objectives】

German grammar and reading

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

JAMBOR A DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 A

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語 2I では、教科書を用いてドイツ語の読解を体系的に学習します。ドイツ語の文章を読み解くことで基本的なドイツ語単語を身につけ、ドイツ語文法を具体的にどう使用されるか学ぶ。文章と練習問題を通して、ドイツ語圏とドイツ語という言語に関する知識が得られます。

【到達目標】

前期：発音、動詞の現在形と未来系、名詞と代名詞、複数形、命令形、冠詞類、前置詞と接続詞、話法助動詞を習得する。独検 4 級の問題を読み解くようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明が終了後、練習問題を通して実際にその文法を使い、習得する。会話とグループ練習を通してさらにドイツ語文法への理解を深め、基本的な文章を発言させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	アルファベット	発音の練習とあいさつの表現
2 回	Lektion 1 : Willkommen!	動詞の現在人称変化と語順を学ぶ
3 回	Lektion 1 : 自己紹介	自己紹介を学ぶ
4 回	Lektion 2:Nanas Universität	名詞の性と人称代名詞を学ぶ
5 回	Lektion 2 : 格変化と 複数形	名詞の格変化と複数学習する
6 回	Lektion 3 : Meine Familie	動詞の現在人称変化・冠詞の変化を学ぶ
7 回	Lektion 3 : 命令形	動詞の命令形を学ぶ
8 回	Lektion 3 : 否定文	否定文の作り方を学ぶ
9 回	Lektion 4 : Eine Reise nach Dresden	話法の助動詞を学ぶ
10 回	Lektion 4 : 前置詞	2・3・4 格支配の前置詞について学ぶ
11 回	Lektion 5 : Genießen wir jeden Sommertag	複合動詞について学ぶ
12 回	Lektion 5 : 接続詞	接続詞について学ぶ
13 回	Lektion 5 : 形容詞の 格変化	形容詞の格変化を学ぶ
14 回	復習	1～5 章を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。前回の授業の文法を復習すること、単語を暗記すること、与えた課題・宿題に取り組むことが授業時間以外の主な学習です。

【テキスト（教科書）】

『ドイツに行ってみませんか (Ver.3)』佐藤和弘 Heike Pinnau
中村俊子、郁文堂 ISBN 978-4-261-01256-9

【参考書】

ない

【成績評価の方法と基準】

小テスト・期末試験の平均点数 70%、平常点 30%。
平常点において課題提出、出席、積極的な授業参加を総合的に評価する。課題を行わない場合、平常点を減点する。
無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

緊張しすぎない質問しやすい授業になるように努力いたしますので、授業中に不明なところがありましたら、気楽に質問していただければ幸いです。学生の質問に合わせてより適切で分かりやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典

教室で授業を行えない場合、Zoom に接続可能なデバイス（パソコンやタブレットが望ましい）とマイク付きイヤホン（ヘッドセット）

【Outline and objectives】

This lecture aims at teaching basic German reading skills. By reading German dialogues and texts the students gain insight into basic grammar and pronunciation. The students will further learn basic facts about the German language and German culture and society.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

JAMBOR A DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 A

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語 2II では、教科書を用いてドイツ語の読解を体系的に学習します。ドイツ語の文章を読み解くことで基本的なドイツ語単語を身につけ、ドイツ語文法を具体的にどう使用されるか学ぶ。文章と練習問題を通して、ドイツ語圏とドイツ語という言語に関する知識が得られます。

【到達目標】

複合動詞、再帰、形容詞の格変化と比較変化、過去形・現在完了形、受動態、指示代名詞・関係代名詞、接続法を学習する。独検 3 級の問題を読み解くようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明が終えた後、練習問題を通して実際にその文法を使い、習得する。会話とグループ練習を通してさらにドイツ語文法への理解を深め、基本的な文章を発言させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Lektion 6 : Der Beginn des Wintersemesters	動詞の 3 基本形を学ぶ
2 回	Lektion 6: 過去形	過去形を学ぶ
3 回	Lektion 6: 現在完了形	現在完了形を学ぶ
4 回	Lektion 7 : Ein Waldspaziergang	受動態を学ぶ
5 回	Lektion 7 : 比較級と最上級	形容詞の比較級と最上級を学ぶ
6 回	Lektion 8 : Berlin hat viele Gesichter	関係代名詞を学ぶ
7 回	Lektion 8 : 再帰代名詞・再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞を学ぶ
8 回	Lektion 9 : Auf dem Weihnachtsmarkt	Zu 不定詞を学ぶ
9 回	Lektion 9 : 分詞の用法	分詞の作り方を学ぶ
10 回	Lektion 9 : 非人称動詞	非人称動詞について学ぶ
11 回	Lektion 10 : Rollenverteilung heute	接続法を学ぶ
12 回	Lektion 10 : 接続法 II 式	接続法 II 式を学ぶ
13 回	復習①	6 章～8 章を復習する
14 回	復習②	9 章・10 章を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

前回の授業の文法を復習すること、単語を暗記すること、与えた課題・宿題に取り組むことが授業時間以外の主な学習です。

【テキスト（教科書）】

『ドイツに行ってみませんか (Ver.3)』佐藤和弘 Heike Pinnau
中村俊子、郁文堂 ISBN 978-4-261-01256-9

【参考書】

ない

【成績評価の方法と基準】

小テスト・期末試験の平均点数 70%、平常点 30%。
平常点において課題提出、出席、積極的な授業参加を総合的に評価する。課題を行わない場合、平常点を減点する。
無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

緊張しすぎない質問しやすい授業になるように努力いたしますので、授業中に不明なところがありましたら、気楽に質問していただければ幸いです。学生の質問に合わせてより適切で分かりやすい説明を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典

教室で授業を行えない場合、Zoom に接続可能なデバイス（パソコンやタブレットが望ましい）とマイク付きイヤホン（ヘッドセット）

【Outline and objectives】

This lecture aims at teaching basic German reading skills. By reading German dialogues and texts the students gain insight into basic grammar and pronunciation. The students will further learn basic facts about the German language and German culture and society.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

文 1 年 B～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、現代ドイツでよく引用されたり、パロディー化されている名言名句、諺や格言などをもとに、基礎ドイツ語を学ぶ。
この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- 基礎ドイツ語の能力、特に読解力を身につける。
- ドイツ人の価値観、文学や音楽などについて知識を広げる。
- Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	発音、その他
②	動詞の現在人称変化	<i>Ich denke, also bin ich (hier falsch).</i>
③	名詞の性と格変化	<i>Der Name der Rose</i>
④	定冠詞類と不定冠詞類	<i>Jeder Mensch ist ein Künstler.</i>
⑤	前置詞の格支配	<i>Liebe geht durch den Magen.</i>
⑥	名詞の複数形	<i>Kleider machen Leute.</i>
⑦	中間テスト	①～⑥
⑧	形容詞の格変化	<i>Ein Freund, ein guter Freund, das ist das Beste, was es gibt auf der Welt.</i>
⑨	命令法	<i>Erkenne dich selbst!</i>
⑩	話法の助動詞	<i>Wer nicht hören will, muss fühlen.</i>
⑪	接続詞 (1)	<i>Mit Erstaunen bemerkte Aschenbach, dass der Knabe vollkommen schön war.</i>
⑫	分離動詞	<i>Ilsebill saltzte nach.</i>
⑬	復習	⑧～⑬
⑭	試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

独和辞典を持ってきて下さい。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト：50 %

平常点：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoomなどで接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的にPDFファイルになりますので、PDFフォームへの文字の入力方法などについてお持ちのPCを確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

In this class we learn the basics of German grammar using memorable proverbs, famous sentences, refrains of popular songs etc. to become able to read simple texts.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

文1年 B～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、現代ドイツでよく引用されたり、パロディー化されている名言名句、諺や格言などをもとに、基礎ドイツ語を学ぶ。

この授業はオンライン・オンデマンド型での実施となりました。参照：【授業の進め方と方法】【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】【学生が準備すべき機器他】

【到達目標】

- 基礎ドイツ語の能力、特に読解力を身につける。
- ドイツ人の価値観、文学や音楽、映画などについて知識を広げる。
- Web上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド（資料型）です。リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。

基本的にアップロード動画を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	過去	<i>Der Esel schrie, der Hund bellte, der Hahn krächte, die Katze miaute.</i>
②	現在完了	<i>Ich hab mein Herz in Heidelberg verloren.</i>
③	接続詞（2）	<i>Als Gregor Samsa eines Morgens aus unruhigen Träumen erwachte, (...)</i>
④	zu 不定詞	<i>Es ist nicht genug zu wissen, man muss auch anwenden. Es ist nicht genug zu wollen, man muss auch tun.</i>
⑤	形容詞の比較変化	<i>Schneller, höher, stärker! (Besser?)</i>
⑥	再帰動詞	<i>Wenn zwei sich streiten, freut sich der Dritte.</i>
⑦	中間テスト	①～⑥
⑧	関係文（1）	<i>Wer den Pfennig ehrt, betet den Taler an.</i>
⑨	関係文（2）	<i>Den lieb ich, der Unmögliches begehrt.</i>
⑩	受動	<i>Rom ist nicht an einem Tage erbaut worden.</i>
⑪	接続法（1）	<i>Edel sei der Mensch, hilfreich und gut.</i>
⑫	接続法（2）	<i>Katzen würden Wiskas kaufen.</i>
⑬	復習	⑧～⑫
⑭	学期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

独和辞典を持ってきて下さい。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

中間、学期末テスト：50%

平常点：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム「Hoppii」を介した方法のみで授業を行うため特殊な機材（Zoomなどで接続可能な機器）を用意する必要はありませんが、課題用紙を含めて教員から提示される文字資料は基本的にPDFファイルになりますので、PDFフォームへの文字の入力方法などについてお持ちのPCを確認することを勧めます。

【Outline and objectives】

In this class we learn the basics of German grammar using memorable proverbs, famous sentences, refrains of popular songs etc. to become able to read simple texts.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ I

2017年度以降入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

文1年L・P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得する。ドイツ語とはどんな言葉なのかを理解する。

【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、ドイツ語を正しく発音し、基本的な表現を口頭で練習し身につけ簡単な内容の事柄をドイツ語で表現できるよう目指す。また、辞書を使い、ドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語を始めて学ぶ者を対象とする授業である。ドイツ語を正しく発音し、ドイツ語を用いての日常の表現力を養う。各課の文法の説明をまず行ない、本文のドイツ語を読み、解釈し、聞き取ったりする練習を行う。各課の練習問題の答えなどは履修者に発表してもらい、各自で内容を確認し疑問点などは質問するようにする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベート	ドイツ語およびドイツ語圏の紹介。授業の進め方やテキストおよび辞書の説明などを行う。アルファベートの読み方。
2	アルファベートと単語の発音	アルファベートの読み方。単語の発音の原則と注意すべき母音・子音の説明。
3	動詞の形は変わります(1)	主語となる人称代名詞。現在形の形態と用法。
4	動詞の場所は決まっています	定動詞の位置(1)(平叙文と疑問文)
5	冠詞と名詞の形も変わります	不定冠詞・定冠詞と名詞の性と格変化。2格の位置、3格と4格の順序。
6	名詞の複数の形・誰・何をあらわすものたち	複数形の種類と格変化・疑問詞werとwasの用法。
7	母音が変わる動詞があります	語幹の母音が変わる3つのパターンと独特な変わり方をする動詞の現在人称変化を覚える。
8	命令の形は3種類です・まとめと練習	命令形の作り方と用法・これまでに学んだことの復習と問題練習。
9	冠詞の仲間たち	冠詞と同じような格変化をする定冠詞類や不定冠詞類の形と用法・否定の表現。
10	ich du er などにも3格・4格があります	人称代名詞の格変化と3格・4格の文章における順序。
11	前置詞の相手は決まっています	特定の格と結びつく前置詞の意味と用法(2格、3格、4格、3・4格支配)

12	前置詞に関連した事柄	前置詞の融合形と特定の前置詞と結びつく動詞や形容詞を覚える。
13	総復習	春学期で学習した文法項目や各種の表現の復習とこれまでの疑問点の解明。
14	期末のまとめのテストと総括	文法と読解力のチェックをするための試験を実施する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の情報を得たうえで、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また独和辞典を引き、教科書付属のCDで発音練習などもしておく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「ドイツ語エコー」—スマート版ドイツ語スパイラル—
高橋秀彰・著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末のまとめのテストの他に、毎回の授業への取り組み方、課題の提出などの点も加味して到達目標に達しているかを考慮して総合的に評価する。中間のまとめのテストと到達目標に達しているかを問う期末のまとめのテストが70%、授業への取り組み方や課題の提出などが30%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、履修者による発表や自発的な質問を行えるように徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ禍によりオンラインやハイフレックス授業に転換になった場合には、学習支援システムやZoom等を使用するため、接続可能なパソコンや資料保存のためにプリンターなどが必要になります。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

文1年L・P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得し、文の内容を理解する。ドイツ語の発音に習熟する。春学期の文法項目を復習しながら、複雑になってきた文法を正確に理解する。ドイツ語の文章を読みすすめていく中で、ドイツとその文化への関心を深め、日本と日本文化との違いを認識する。

【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、簡単な内容のことならドイツ語で表現できるようにする。ドイツ語を正しく発音し、基本表現を覚え、辞書を用いてドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期終了の箇所から順に学んでいく。文法は基礎を反復練習しながら、詳しく説明し、CDの発音を聞き、ドイツ語の文を全員で読む。テキストの本文や練習問題は、問題を指名した人にやってもらい、全員で音読練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学習した項目の復習およびプリントによる問題練習。
2	話法の助動詞・未来のこと	話法の助動詞の種類・用法と未来形の類似点および未来形の用法。
3	ふたつに分かれる動詞があります	分離動詞と非分離動詞の用法。枠構造についての説明。
4	形容詞にも語尾がつきます・形容詞は名詞としても使えます	形容詞の格変化の種類と名詞化された形容詞の意味するもの。
5	比較のしかた・動詞も形容詞のように使えます	形容詞および副詞の比較級と最上級の形とその使い方。現在分詞の形態。現在分詞と過去分詞の付加語としての用法。
6	動詞の3つの基本となる形	規則変化と不規則変化の過去基本形と過去分詞。
7	完了形には完了の助動詞が必要です	現在完了と過去完了の形態と用法。完了の助動詞はseinかhabenか？
8	動詞の過去に気をつけましょう・語順を変える接続詞があります	過去の人称変化と用法について。定動詞の位置に関するまとめ。副文について。
9	受動態	受動の表現について学ぶ。動作受動と状態受動について。
10	zu + 不定詞の用法(1)	zu 不定詞の基本的な構造と用法。英語との相違点。
11	zu + 不定詞の用法(2)	zu 不定詞の注意すべき構造と用法。英語との相違点。
12	関係詞とは	先行詞のある関係代名詞の形と用法・関係詞を用いた文中での定動詞の位置の説明。

13	総復習	秋学期に学んだ項目の確認と練習。
14	期末試験	秋学期で学んだ文法と読解力のチェックのための試験を実施する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

独和辞典を引き、教科書付属の CD で発音練習をする。前もって「授業テーマ」や「授業内容」に目を通して、教科書の該当箇所の事項についての情報を得たうえで疑問点等を明確にしておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「ドイツ語エコー」－スマート版ドイツ語スパイラルー
高橋秀彰・著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末のまとめのテストの他に、毎回の授業への取り組み方、課題の提出などの点も加味して到達目標に達しているかを考慮して総合的に評価する。中間のまとめのテストと到達目標に達しているかを問う期末のまとめのテストが 70 %、授業への取り組み方や課題の提出などが 30 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、また履修者による発表や自主的な質問などができるように徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ禍によりオンラインやハイフレックス授業に転換になった場合には、学習支援システムや Zoom 等を使用するため、接続可能なパソコンや資料保存のためにプリンターなどが必要になります。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like. Moreover, the students who take part in this class read the German sentences and can understand the country "Germany" and its culture.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

文 1 年 T~W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を初めて学ぶ学生のみなさんを対象に、やさしい文章の読解をとおしてドイツ語文法を学習することを目的とする授業です。学んだ文法知識を動員し、また語彙を増やすことにより、ドイツ語の文章から適切な情報を得るための基礎を身につけることを目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的な文法知識を用いて、やさしい文章を読解できる。ドイツ語の発音のルールを知り、初見の単語でも発音できる。ドイツ語の基本的な口語表現を身につける。

独和辞典に習熟し、自律的なドイツ語学習に慣れ親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員が文法事項を紹介します（講義形式）。

その後、文法知識の習得度をチェックするため、受講生のみなさんに文法問題を解いてもらいます。またドイツ語の文章から情報を読み取り、その内容を簡単なドイツ語で表現してもらいます（演習形式）。小テストや課題に取り組んで知識の定着を図るとともに、疑問が残る点についてリアクションペーパーで質問を受け付けます（フィードバック）。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行ないます。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	Das Alphabet / つづり字と発音 / 発音練習・数詞
第 2 回	合言葉はエストテンテン	動詞 / 主語と動詞の現在人称変化 / 語順 / 重要な動詞 sein, haben
第 3 回	男・女・中はドイツ語の血液型だ	名詞は大文字で・名詞の性 / 名詞の複数形 / 人称代名詞と名詞の性 / 名詞の合成と性
第 4 回	Übungen	練習問題を解いて復習しよう① (規則動詞と重要動詞の現在人称変化 / 定冠詞・不定冠詞・代名詞 / 対義語)
第 5 回	Lesetext	テキストを読んでドイツ語で答えよう① (, Kennen Sie Deutschland?)
第 6 回	動詞の幹母音に気をつけて	不規則動詞の変化 / 「～しなさい」の表現 / 否定詞 nicht の位置 / ja, nein, doch
第 7 回	違いの分かる変化デア・デス・デム・デン	名詞の格変化 / kein の使い方 / kein と nicht の使い分け
第 8 回	Übungen	練習問題を解いて復習しよう② (不規則動詞の現在人称変化 / 定冠詞・不定冠詞・否定冠詞・代名詞 / 語彙)

第 9 回	Lesetext	テキストを読んでドイツ語で答えよう② („ Was machen Deutsche gern?“)
第 10 回	「私の」も「この」も冠詞と同じ働き	mein 型の格変化 / dieser 型の格変化 / 形容詞の語尾変化
第 11 回	「で」と「へ」では何がちがう？	前置詞の格支配 / 3 格と 4 格をとる前置詞 / 前置詞と定冠詞の縮約形 / es を用いた表現
第 12 回	Übungen	練習問題を解いて復習しよう③ (冠詞類の格変化 / 形容詞の語尾変化 / 前置詞 / 語彙)
第 13 回	Lesetext	テキストを読んでドイツ語で答えよう③ („ Was schmeckt denn in Deutschland?“)
第 14 回	理解度の確認	学期末テストにより、春学期に学習した内容の習熟度を測る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業まえには、授業であつかう文法事項の説明を読んでおいてください。また、練習問題に取り組み、文章のなかに知らない単語などは辞書であらかじめ確認して、テキスト読解の準備をしておいてください。

授業後には、予習で誤答したところをとくに重点的にチェックしてください。また課題が出た場合には提出期限までに忘れずに取り組み、知識の定着を図ってください。

【テキスト（教科書）】

森田悟／宮澤義臣／川上博子『すすめ！ アンベルマン——合言葉はエストテンテン』、朝日出版社、2011 年。

——なお、独和辞典を必ず準備してもらいます。ただし、詳しくは初回授業の際にお話しするので、その後に購入するようにしてください。

【参考書】

中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ——改訂版』、白水社、2003 年。

——その他については授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、小テスト・課題提出など）：60 %
 期末試験：40 %（受験しない場合は単位の認定ができません）

——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のため PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をおとした受講を強くお勧めします。

【Outline and objectives】

This beginner class introduces students to German grammar through the reading of simple texts. The aim of this course is to help students obtain correct information from German texts by learning elementary grammar and vocabulary.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

文 1 年 T~W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、やさしい文章の読解をおとしたドイツ語文法の学習を続けていきます。学んだ文法知識を動員し、また語彙を増やすことにより、ドイツ語の文章から適切な情報を得るための基礎を身につけることを目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的な文法知識を用いて、やさしい文章を読解できる。ドイツ語の発音のルールを知り、初見の単語でも発音できる。ドイツ語の基本的な口語表現を身につける。独和辞典に習熟し、自律的なドイツ語学習に慣れ親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教員が文法事項を紹介します（講義形式）。

その後、文法知識の習得度をチェックするため、受講生のみなさんに文法問題を解いてもらいます。またドイツ語の文章から情報を読み取り、その内容を簡単なドイツ語で表現してもらいます（演習形式）。小テストや課題に取り組みで知識の定着を図るとともに、疑問が残る点についてリアクションペーパーで質問を受け付けます（フィードバック）。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行ないます。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	何を指すのかよく考えよう	人称代名詞 / 3 人称の人称代名詞 / 疑問代名詞
第 3 回	離れていても心はひとつ	分離動詞 / 形容詞の比較級・最高級 / 「~なる」、「~なもの」
第 4 回	Übungen	練習問題を解いて復習しよう① (分離動詞 / 代名詞 / 命令形 / 語彙)
第 5 回	Lesetext	テキストを読んでドイツ語で答えよう① („ Urlaub ist für Deutsche am wichtigsten.“)
第 6 回	ドイツ語でサンドイッチをつくらう	話法の助動詞・未来形 / 再帰表現 / 所有の 3 格と sich
第 7 回	動詞の位置に気をつけて	完了形 / 従属接続詞
第 8 回	Übungen	練習問題を解いて復習しよう② (従属接続詞 / 現在完了形 / 語彙)
第 9 回	Lesetext	テキストを読んでドイツ語で答えよう② („ Wie ist Ihr Eindruck von den Deutschen?“)
第 10 回	過去形はスッテンテン	過去形 / zu 不定詞
第 11 回	動作主を言いたくないときは…	受動態 / da(r) + 前置詞

- 第12回 **Übungen** 練習問題を解いて復習しよう③
(zu 不定詞／過去形／受動態／語彙)
- 第13回 **Lesetext** テキストを読んでドイツ語で答えよう③ („ Ich erzähle von mir selbst.“)
- 第14回 理解度の確認 学期末テストにより、秋学期に学習した内容の習熟度を測る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。毎回の授業まえには、授業であつかう文法事項の説明を読んでおいてください。また、練習問題に取り組み、文章のなかに知らない単語などは辞書であらかじめ確認して、テキスト読解の準備をしておいてください。

授業後には、予習で誤答したところをとくに重点的にチェックしてください。また課題が出た場合には提出期限までに忘れずに取り組み、知識の定着を図ってください。

【テキスト（教科書）】

森田悟／宮澤義臣／川上博子『すすめ！ アンペルマン——合言葉はエストテンテン』、朝日出版社、2011年。
——なお、独和辞典を必ず準備してください。詳しくは初回授業の際にお話します。

【参考書】

中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ——改訂版』、白水社、2003年。
——その他については授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、小テスト・課題提出など）：60％
期末試験：40％（受験しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、念のためPCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした受講を強くお勧めします。

【Outline and objectives】

This beginner class introduces students to German grammar through the reading of simple texts. The aim of this course is to help students obtain correct information from German texts by learning elementary grammar and vocabulary.

LANd100LA

ドイツ語2 I

2017年度以降入学者

長倉 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
単位数：1 単位
営 1年 A～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語をはじめて学ぶ人のための授業です。発音を身に付け、基本文法を学びながら、実用的な表現を学んでいきます。初回はオンライン授業となりましたので、Hoppiiを通じて実施します。実質は二回目からになります。テキストの基本文の習得、それに必要な文法解説を加え、できるだけ要領よく身に付くようにします。

【到達目標】

これから1年間でドイツ語の基礎を身につけます。秋学期の授業に進むことができる段階に達するのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期には、基礎になる部分を学びます。授業はテキスト（登場人物はドイツ人だけで、話す速度も通常のままなので、最高のビデオといえます）に即して進めます。実用的な表現の習得を重視しますが、文法の解説も適宜加えて進めます。語学教師の能力が試されるのは、どれほど「臨機応変」に説明を加え、また練習問題や小テストを活用し、定着させることができるかだと自覚していますので、そのような基本姿勢で授業を進めます。小テストなどはすべて早急に添削後返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語習得のために重要なことについて、ならびにアルファベット
第2回	ドイツ語の単語の発音	アルファベット、基数
第3回	Lektion1「ミュンヘンで、こんにちは」	動詞の現在人称変化。疑問文のくり方。前回の復習（基数）
第4回	Lektion1「ミュンヘンで、こんにちは」	動詞の現在人称変化
第5回	Lektion2「クラウディアは街に行きません」	自己紹介の練習 名詞の性と冠詞
第6回	Lektion2「クラウディアは街に行きません」	名詞の性と冠詞 所有冠詞
第7回	Lektion3「共同住宅」	不規則動詞の現在人称変化 名詞の複数形
第8回	Lektion3「共同住宅」	不規則動詞の現在人称変化 名詞の複数形
第9回	復習	第1～第7回の内容確認
第10回	Lektion 4「ザルツブルクへの旅行」	不規則動詞 分離動詞
第11回	Lektion4「ザルツブルクへの旅行」	分離動詞 定冠詞類 基数の復習と時刻
第12回	Lektion5「ミヒャエルの一日」	前置詞の格支配 冠詞の復習

- 第13回 **Lektion5**「ミヒャエ 前置詞の格支配
ルの一日」 人称代名詞の格変化
第14回 学期末試験 第13回までの内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。予習の必要はありません。基本文の暗記や文法の練習問題を宿題に出します。必ず宿題をやって授業に出ること。次回に解説を加えるか、小テストを実施し定着するようにします。

【テキスト（教科書）】

書名：『ハロー・ミュンヘン・ノイ』
著者：関口一郎
出版社：白水社 ISBN：978-4-560-06402-3
そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

『独和辞典』（5万語以上のもの）
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧
共著）白水社

【成績評価の方法と基準】

授業の平常点（50%）期末テスト（50%）による総合評価。平常点は、宿題をやった上での出席点とします。宿題をやっていない場合は、その回はマイナス10点として扱います。小テストの結果が極端に悪い場合も、欠席相当とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合には、パソコン（貸与も可能とのこと）が必要になります。

【その他の重要事項】

独和辞典を用意すること。『プログレッシブ独和辞典』（小学館）など、5万語以上掲載のものを、必ず準備すること。

【Outline and objectives】

In this course, participants learn the rules of pronunciation, basic grammar and the most important expressions of the German language.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

長倉 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1単位

営1年A～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4月からドイツ語を学びはじめた人のための授業です。基本文法を学びながら、実用的な表現を学んでいきます。

【到達目標】

ドイツ語の基礎を身につけます。中級に進むことができる段階に達するのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期の授業に引き続き、秋学期には、残りの部分を学びます。授業はテキスト（登場人物はドイツ人だけで、最高のビデオ）に即して進めます。実用的な表現の習得を重視しますが、文法の補足も適宜加えて進めます。語学教師の力量を試されることですが、できるだけ要領よく身に付くように「臨機応変」に、追加練習問題を利用したり、小テストを加えたりしながら進めます。小テストは早急に添削の上返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	文法事項の総復習
第2回	Lektion6「オリンピック公園にて」	話法の助動詞
第3回	Lektion6「オリンピック公園にて」	話法の助動詞の基本例文
第4回	Lektion6「オリンピック公園にて」	本文読解
第5回	Lektion7「買い物」	形容詞の格変化
第6回	Lektion7「買い物」	形容詞の格変化の基本例文習得
第7回	Lektion7「買い物」	形容詞の比較級、最高級、本文読解
第8回	Lektion8「週末」	動詞の三基本形、基本例文習得
第9回	Lektion8「週末」	現在完了形の練習
第10回	Lektion8「週末」	本文読解
第11回	Lektion9「ベルリンについての会話」	過去形の基本例文習得
第12回	Lektion9「ベルリンについての会話」	受動態の練習
第13回	Lektion9「ベルリンについての会話」	本文読解
第14回	学期末試験	第13回までの内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。宿題をやってこない人は欠席扱いにします。宿題は、文法事項ならびに基本文の暗記など、授業内容の復習です。次回の授業で解説する、あるいは小テストを実施することになります。

【テキスト（教科書）】

書名：『ハロー・ミュンヘン・ノイ』
著者：関口一郎
出版社：白水社 ISBN：978-4-560-06402-3
そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

『独和辞典』（5万語以上のもの）
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧
共著）白水社

【成績評価の方法と基準】

授業の平常点（50%）期末テスト（50%）による総合評価。平常点は宿題を行なった上での出席点です。宿題を忘れた場合には（小テストの結果によって判断することもある）、1回につきマイナス10点とします。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合には、パソコンが必要になります。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This course is for students who have been learning German since April. Students will learn basic grammar and practical expressions.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の文法をひとつおき確認しつつ、適度の文章を読んでゆくことによってドイツ語運用になれていくことをめざします。さらに、文法知識の確認しながら、読解の助けにしていきます。テキストは Deutschland wie es ist, ASAHI VERLAG(Masao Kasuga, Jun Matsuzawa) リーダー部分が受講者にとってやさしいばあいは、能力に応じてプリントで読解問題は配布します。

【到達目標】

辞書を引き、ある程度のドイツ語文章を理解できるようになること。そのドイツ語を正しく発音できるようになること。ドイツ語圏の国々やその文化・経済・政治などについても、ある程度の知識を身に付けること。または、その関心を高めること。

To draw a dictionary and to understand some degree of German sentences. Being able to pronounce that German correctly. To acquire a certain level of knowledge about German-speaking countries and their culture, economy, politics and others. Or, raise that interest.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法演習と簡単な訳読講義。ドイツ文化圏の情報ソースの提示。画像・動画も利用する。Reading exercises and lectures. Presentation of Information source in German cultural area. Use images and movies. 課題のフィードバックは、haruki@tt.rim.or.jp 個人 mail で受け付けます。

大学の行動方針レベルがレベル1の場合は教場での講義、レベル2以後の場合は原則としてすべてオンライン授業（Zoom 利用）で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容と学生の指導方針を解説。アルファペートの発音。
Lektion1	人称代名詞・動詞。動詞の現在人称変化。	sein, haben, trinken というよく使う動詞による動詞の現在人称変化になれる。
Lektion2	名詞の性と動詞の位置。	疑問文。Ja と nein
Lektion3	重要な不規則動詞。否定冠詞。	基本構文をまなぶ。
Lektion3	不規則動詞の文章読解。	簡単な訳読練習。
Lektion4	名詞の 1/3/4 格	配布プリント教材で簡単な訳読練習を行う。
Lektion4	名詞の 1/3/4 格を正しく訳読する。	格支配と例文復習
Lektion5	名詞の 2 格 前置詞	例文演習（訳読）

Lektion5人称代名詞 1/3/4 格	教材訳読 適宜プリントを配布する
Lektion5人称代名詞	教材訳読 適宜プリントを配布する
Lektion63/4 格支配の前置詞	教材訳読 適宜プリントを配布する
Lektion7話法の助動詞。	文章を丁寧に読んでいく。教材訳読
Lektion7話法の助動詞のていねいな訳し方。	前期はテキスト第7課までを目標とする。
14 前記 試験	ドイツ語の既読文章と初読文章のふたつを訳読する。プラス簡単な文法問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習ならびに復習。

【テキスト（教科書）】

Einfaches Deutsch mit Umweltgedanken. ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ。(第三書房)

【参考書】

独和辞書は必携。講義内でも使用します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験および、平常授業時の発表／小テスト／提出課題レポートなどを総合評価する。フィードバックは haruki@tt.rim.or.jp にて行います。

【学生の意見等からの気づき】

英語に慣れ親しんできた学生諸君には、ヨーロッパのドイツ語やフランス語をはじめとする諸語は冠詞などの変化もあり、最初はとまどうこともあると思いますが、現地では小学生がはじめる学びからはじめて、一気に上級の構文までまなぶようになる語学学習ですので、1回1回に集中しましょう。わからないのではなく、おぼえるのが面倒なだけということがあります。初心にかえて、「復唱」を忘れずに。ただし、理解しない学生を残したまま進行せず、そのつど確認していきます。なにより、最初の数回が大事です。「習うより、慣れよ!」です。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom の接続が可能な機材・デバイスの準備、独和辞書（電子辞書も可）

【その他の重要事項】

出席重視。やむなく欠席する場合は事前・事後に、申し出て補うこと。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

After studying German grammar, we aim to make the students become German by reading moderate sentences. Furthermore, while reading grammar knowledge, it improves reading comprehension ability.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の初級程度の文法・訳読テキストを使い、同時にドイツ語圏の文化・歴史・政治・社会への関心や知識もふかめていく。テキストのほかに、適宜、リーディングの素材を配布して、読解力を高める練習をします。

【到達目標】

ドイツ語の読解・運用能力を養う。ドイツを中心としたヨーロッパ世界への知識と関心を高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法・訳読練習と教員による解説・講義。また映像・図版による資料の提示もある。

大学の行動方針レベルがレベル 1 の場合は教場での講義、レベル 2 以後の場合は原則としてすべてオンライン授業（Zoom 利用）で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	訳読と理解 1 教材 8 課 分離動詞・再帰動詞	特殊な用法の動詞の説明
第 2 回	訳読と理解 2 教材 8 課 es の用法と例文	多用される便利な表現
第 3 回	訳読と理解 3 教材 9 課 形容詞の格変化	日本人にはややこしい形容詞の各語尾をゆっくりとていねいに解説する。
第 4 回	訳読と理解 4 教材 9 課 形容詞の名詞化	大文字かすれば名詞に早変わり。
第 5 回	訳読と理解 5 教材 10 課 動詞の三基本形	不定詞・過去基本形・過去分詞。表現の幅がひろがる。
第 6 回	訳読と理解 6 教材 10 課 過去人称変化	過去形にも人称変化？ しかし。それほどむずかしくはない。
第 7 回	訳読と理解 7 教材 11 課 完了形	ドイツ語には完了形が 2 パターンあるのが特徴。
第 8 回	時事的現代文 1 教材 12 課 関係代名詞 1	関係文はなれるが勝ち。構文構造は単純です
第 9 回	時事的現代文 2 教材 13 課 関係代名詞 2	同上
第 10 回	時事的現代文 3 教材 14 課 比較・現在分詞 zu 不定詞	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)

- 第11回 時事的現代文 4
教材 15 課 受動
ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
- 第12回 時事的現代文 5
接続法 1
ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
- 第13回 時事的現代文 6
接続法 2
ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
- 第14回 期末読解。訳読試験。 後期の配布テキストより出題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットなどでドイツの情報サイトを検索してみる。

【テキスト（教科書）】

Deutschland,wie es ist.Masao Kasuga,Jun Matsuzawa,ASAHI VERLAG

【参考書】

Spiegel や ZEIT などのネット記事情報。(授業時に細かく指示します)

【成績評価の方法と基準】

平常点および筆記試験。

【学生の意見等からの気づき】

予習などの平常点として各自のノートも授業内に評価する時間も学期末にもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom の接続が可能な機材・デバイスの準備。独和辞書(電子辞書可)

【その他の重要事項】

出席重視とします。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

初級・中級程度のドイツ語を単語を調べながら、適切に意味をとらえる練習をします。また、後期には、過去形・受動態・関係代名詞といった構文がでてきます。

ドイツ語の文章は通常過去形で書かれますので、読解には重要な知識となります。

In the latter semester we study syntax such as past form, passive voice.

German sentences are usually written in the past, which is important knowledge for reading comprehension.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

小野間 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 Q・R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語学習の基礎となる初級文法を学ぶ。辞書を用いて平易なドイツ語のテキストが読める力を養成する。作文や会話の練習を通じて基本的な語彙や表現を習得する。

【到達目標】

初級文法および基本的な語彙・表現を習得する。ドイツ語を正確に発音できるようになる。辞書を用いて平易なドイツ語のテキストを読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

はじめに文法事項について説明し、筆記および口頭での練習を通じて知識の定着を図る。

また、様々なテーマについて書かれたドイツ語のテキストを読み、語彙や表現を学ぶ。履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・読解テキストの和訳を行い、その都度教員が確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	ドイツ語のアルファベットと発音を学ぶ
第 2 回	自己紹介	動詞の現在人称変化を学ぶ
第 3 回	自己紹介	自己紹介文を読む
第 4 回	ドイツ語圏の国々	動詞の現在人称変化・並列の接続詞を学ぶ
第 5 回	ドイツ語圏の国々	ドイツ語圏の国々に関するテキストを読む
第 6 回	広告	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化を学ぶ
第 7 回	広告	広告文を読む
第 8 回	ドイツ語圏の食べ物・飲み物	名詞の複数形・人称代名詞を学ぶ
第 9 回	ドイツ語圏の食べ物・飲み物	ドイツ語圏の食べ物・飲み物に関するテキストを読む
第 10 回	家族と職業	不定冠詞類・定冠詞類を学ぶ
第 11 回	家族と職業	職業に関するテキストを読む
第 12 回	余暇活動	動詞の現在人称変化・命令形を学ぶ
第 13 回	余暇活動	『ハイジ』の 1 節を読む
第 14 回	試験・まとめ	前期に学んだ内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法事項は随時復習を心掛けること。読解テキストは必ず予習を行ってから授業に臨むこと。授業中に予習を行うことは一切認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ゲナウ！レーゼン（2版）』新倉真矢子・亀ヶ谷昌秀・正木晶子・中野有希子著、第三書房、2017年刊、2500円（税別）
ISBN978-4-8086-1060-9

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中野悠爾・平尾浩三・朝倉巧著、白水社、2003年刊、1600円（税別）
ISBN978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

テキスト和訳・発音練習・練習問題への取り組み 40%と期末試験 60%を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

各課ごとに文法説明と読解のバランスを考えながら授業を運営するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教務システムや Zoom に接続可能なデバイスを用意すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the rules of German grammar and commonly used expressions. It also will enable students to read texts in plain German with the help of a dictionary.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

小野間 亮子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 Q・R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語学習の基礎となる初級文法を学ぶ。
辞書を用いて平易なドイツ語のテキストが読める力を養成する。
作文や会話の練習を通じて基本的な語彙や表現を習得する。

【到達目標】

初級文法および基本的な語彙・表現を習得する。
ドイツ語を正確に発音できるようになる。
辞書を用いて平易なドイツ語のテキストを読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

はじめに文法事項について説明し、筆記および口頭での練習を通じて知識の定着を図る。

また、様々なテーマについて書かれたドイツ語のテキストを読み、語彙や表現を学ぶ。

履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・読解テキストの和訳を行い、その都度教員が確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日記・メール	話法の助動詞・未来形を学ぶ
第2回	日記・メール	『アンネの日記』の1節およびメール形式で書かれたを読む
第3回	祝祭	前置詞・再帰動詞を学ぶ
第4回	祝祭	ドイツの祝祭について書かれたテキストを読む
第5回	インタビュー	分離動詞・非分離動詞・zu不定詞句・従属の接続詞を学ぶ
第6回	インタビュー	聖トーマス教会合唱団の団員へのインタビューを読む
第7回	童話	動詞の3基本形・過去形・現在完了形を学ぶ
第8回	童話	『小さい魔女』の1節を読む
第9回	説明文	動詞の3基本形・受動態を学ぶ
第10回	説明文	HARIBOのクマ型グミについての説明文を読む
第11回	イソップ童話	形容詞の変化・比較表現を学ぶ
第12回	イソップ童話	関係代名詞を学ぶ
第13回	イソップ童話	『ウサギとカメ』を読む
第14回	試験・後期のまとめ	後期に学んだ内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法事項は随時復習を心掛けること。
読解テキストは必ず予習を行ってから授業に臨むこと。
授業中に予習を行うことは一切認めない。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ゲナウ！レーゼン（2版）』新倉真矢子・亀ヶ谷昌秀・正木晶子・中野有希子著、第三書房、2017年刊、2500円（税別）

ISBN978-4-8086-1060-9

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中野悠爾・平尾浩三・朝倉巧著、白水社、2003年刊、1600円（税別）

ISBN978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

テキスト和訳・発音練習・練習問題への取り組み 40 % と期末試験 60 % を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

各課ごとに文法説明と読解のバランスを考えながら授業を運営するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教務システムや Zoom に接続可能なデバイスを用意すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the rules of German grammar and commonly used expressions. It also will enable students to read texts in plain German with the help of a dictionary.

LANd100LA

ドイツ語(1) I

2017年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語初級の講義です。文法初歩からはじめ、発音・基本会話・初級程度のドイツ文の理解をふくめた入門授業です。

学生が、異文化理解のために、ヨーロッパ言語のひとつであるドイツ語り基本的運用をまなび、あわせてその文化的背景や現状をまなびます。学生が、グローバル時代の国際的視野をひろげる一助となることをめざします。

【到達目標】

学生がドイツ語のニュース記事を理解でき、平易な日時用会話が運用できる。そのための文法ならびにリーディングのスキルを習得します。異文化理解のために、ヨーロッパの代表的国のひとつであるドイツの様々な事情をあわせて学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

初級入門テキストを使用し、読み書き話すの基本的能力の修得をめざします。ドイツ語での自己紹介からはじめて、いくつかのテーマで自分の意見を表明できる表現力を養う。英語での自己紹介能力に準ずるレベルで。教材(テキスト)は、2週で **Lektion** をひとつずつ進めるペースで行います。警戒レベルが L1 の場合は対面型授業。L2 からは、自宅あるいは手持ちの PC による講義となります。L1 でも、受講が不可能な学生のためには HOPPII に授業内容を解説して掲載します。L2 になったときは、Zoom による講義となります。講義内容は、初級入門テキストを使用し、読み書き話すの基本的能力の修得をめざします。ドイツ語での自己紹介からはじめて、いくつかのテーマで自分の意見を表明できる表現力を養う。英語での自己紹介能力に準ずるレベルで。教材(テキスト)は、2週で **Lektion** をひとつずつ進めるペースで行う。レベル 2 以上の警戒レベルにおいては、課題などのレスポンスは、HOPPII の機能を活用します。場合によっては、例外的に教員個人のアドレスに送付して返送する手段も利用いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lektion	教材冒頭の	アルファベットの発音。日常によく使われる単語をもちいての発音練習。
O	Lektion0(ゼロ)にある基本単語・日常単語による「発音」	音声サイト URL あり。
Lektion1	Wie heisst du? ①	人称代名詞と不定詞。定動詞の現在人称変化
Lektion1	Wie heisst du? ②	定動詞の位置・語順・sein の現在人称変化。
Lektion2	Was ist das?①	名詞の性と格について。
Lektion2	Was ist das?②	冠詞の変化。haben の現在人称変化。
Lektion3	Das Buch gehoert mir. ①	名詞の複数形・男性弱変化名詞と例外的名詞について。
Lektion3	Das Buch gehoert mir. ②	人称代名詞

Lektion4不規則動詞①	不規則動詞の現在人称変化①
Faehrst du nach ～? 君は～へ行きますか?	
Lektion4不規則動詞②	不規則動詞の現在人称変化②
例文で覚えましょう!	
Lektion5Meine Familie 私の家族	不定冠詞類 (所有冠詞・否定冠詞)
Lektion5Meine Familie 私の家族	定冠詞類
前期の復習	前期、これまでの復習と応用。テキストの
LektionS	復習と文法問題練習をします
前期の復習	前期、これまでの復習と応用。テキストの
LektionS	復習と和訳問題練習をします。
前期試験	規定により実施します。
	詳細は開講以後にお知らせします。
【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】	
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。	
【テキスト (教科書)】	
「つながるドイツ語みっとりーべ」中村・中川・大沢著 (朝日出版社)	
【参考書】	
中級独和辞書必須。	
【成績評価の方法と基準】	
①平常点 (授業への参加率 10 パーセント)②課題の提出 30 パーセント③定期試験 60 パーセントを目安にする。具体的には授業の参加度、ドイツ語の初級文法を理解し、簡単なドイツ作文、ドイツ語文章の読解力、正しく発音ができる等の能力の判定となります。これらは、個別ではなく総合的能力として判定いたします。	
【学生の意見等からの気づき】	
平常の教場授業はよいとして、場合によっては遠隔講義もありえますので、孤立感がでないように、コミュニケーションや質問ができる環境をもうけます。	
はじめての語学なので、学生さんの苦労は想像できますので、困ったら相談してください。個々にはではなく全体に、解決法をアナウンスするようにします。	
【学生が準備すべき機器他】	
Zoom の接続が可能な機材・デバイスの準備。独和辞書 (電子辞書でも可)	
【その他の重要事項】	
質問・相談・欠席届けなどは、先生の haruki@tt.rim.or.jp へ送ってもかまいませんが、個別に対応するのではなく、教場または Web 上で、一般的な解答をあげていきます。多少のことであわてることはありません。学生諸君の精神的・肉体的健康を第一に配慮します。	
【None】	
None	
【None】	
None	
【None】	
None	
【None】	
None	
【None】	
None	
【Outline and objectives】	
Learn German grammar and German reading, which includes pronunciation, basic conversation, and understanding of German sentences at the beginner level.	

LANd100LA

ドイツ語 (1) II

2017 年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語初級の文法および訳読の初歩講義の後期内容です。とくに読解のための知識と練習を重視します。

【到達目標】

ドイツ語初級の文法および訳読の基礎を完成させ、中級程度へ進めるまでのドイツ語を理解できる能力をめざします。履修学生は、履修後において、それぞれ関心のある分野の情報にアクセスしある程度までは理解できる能力をめざします。基本文法をマスターしたあとは、各自の意欲によりますが、ドイツ語の「窓」をあけたことにより、ヨーロッパおよびドイツからの情報にアクセスできる土台を構築したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

レベル 1 の場合は教場での講義とします。レベル 2 以後の場合はすべてオンライン授業となります。その際、Zoom による講義となります。

基本的には解説・リピート練習が中心となります。Web 講義の場合は、学生氏君のレスポンスをもとめ、課題などで理解度を確かめていくようにします。そのフィードバックは、Hoppii の機能を利用して行います。いずれも Zoom が使えるの機材の準備をしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lktion1 から 5 までの復習	夏休みを皆さんの後期最初は、前期の内容の確認をしていきます。
Lektion6	Wie komme ich zur Post ?	前置詞の格支配。その運用を例文でまなぶ。
Lektion6	同上	前置詞をもちいた表現。日常会話での例など。
Lektion7	分離動詞・非分離動詞	時刻表現。
Lektion7	分離動詞・非分離動詞	不定詞 + gehenu などの慣用文。辞書を引きまくって考えることも大事です。
Lektion8	話法の助動詞①	いわゆる英語の助動詞のことで、can→konnenschall→sollen など似ています。
Lektion8	話法の助動詞②	話法の助動詞を使った例文の和訳練習。数をこなすことがマスターの決め手です。
Lektion9	再帰動詞と再帰代名詞 zu 不定詞	sich～と動作が自らにもどってくるような動詞。
Lektion9	再帰動詞の例文演習。	なにいつてるかわかりませんが、たいしたことはありません。
Lektion9	再帰動詞の例文演習。	たくさん文章にふれて、なじむことです。
Lektion10	動詞の三基本形。	動詞の現在形・過去形・過去分詞のことで。
Lektion10	現在完了形	文字どおり完了形ですが、英語と違って会話文で多用されます。

Step up1	受動態のつくりかた。	概念は英語とおなじです。 werden + 過去分詞 (文末) の構文。
Step up2	関係代名詞	関係代名詞にも格があり、ややこしいですが、習うより慣れろの精神で指導します。英語の仮定法にした「接続法」の動詞・文型も付属します。
後期試 験・課 題	文法問題+訳読	辞書使用可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『つながるドイツ語みっとりーべ』朝日出版社

【参考書】

参考書は指定しない。教科書をみっちりやれば十分です。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（場合によってはレポート提出）では、ドイツ語和訳文+簡単な独作文+文法問題が基本となります。評価は平常時なら「教室試験70パーセント・レポート提出や授業参加率あわせて30パーセント」で評価します。レポートのみ提出の場合は、教材参照頻度も評価に入れます。レポートなどのフィードバックは、Hoppiiの機能を活用します。

【学生の意見等からの気づき】

英語とくらべ、動詞の変化、冠詞の変化があって、はじめはとっつきにくい語学であることはたしかですが、英語以外のヨーロッパ諸言語はフランス語でも他の言語でも、このはじめはややこしい変化はつきものなのです。しかし、習うより慣れよ!の気持ちで、しばらくすると慣れてくるのがわかります。相変わらずなれなくて、めんどうと思えるのは、まだまだとどろくむ時間や集中力が不足しているのではないのでしょうか。これは、遠隔授業だけでなく、平常の教室授業でも感じられます。まあ、できるだけわかりやすく説明していくつもりですが、覚えねばならんことは、ちゃんと覚えてください。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom などか使用できる機材の準備をお願いします。自宅でもモバイルでもさしつかえありません。ただし、独和辞書は紙でも電子辞書でも必要です。

【その他の重要事項】

通学(平常授業)にしる遠隔授業にしる、孤立感を深めないでください。かくいう先生だって、前年度の遠隔講義にはまいりました。なれないことであるし、ほかの人との連絡もわずかの孤独作業でしたからね。ドイツ語の文法や訳読だけでなく、ドイツでの経験や、わたしの得意分野のグリム童話やドイツ飛行船 Zeppelin の話なんかもしたいです。これまでは、講義のあいまに、いろいろドイツでの映像を学生さんにお見せしていたんですが、もしまた遠隔になってしまったら、URL とかはりつけてみます。教室であれば DVD ソースを持参します。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

This is the second half of the elementary lecture on German grammar and translation. Emphasis is placed on knowledge and practice for reading comprehension.

LANd100LA

ドイツ語(2) I

2017年度以降入学者

平松 英人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級文法教科書を使って、ドイツ語の読み、書き、聞く、話す力をバランスよく習得する。使用頻度の高い文法事項を重点的に学習することで、メリハリのある基礎力を身につける。また同じゲルマン諸語である英語との比較を通じて、異文化理解の視点を身につけることも目的とする。

【到達目標】

1年間の授業を通じて関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

※春学期の最初の2回、第8回目、最後の2回は対面での開講、それ以外はオンラインでの開講を原則とする。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は12課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 0	イントロダクション ドイツ語の発音①規則 ドイツ語の発音②母音 ドイツ語の発音③子音
2	Lektion 1	ドイツ語の動詞① 人称代名詞 動詞の現在人称変化
3	Lektion 1	ドイツ語の動詞② 文の構成 sein の現在人称変化
4	Lektion 2	名詞の性と格 複数形
5	Lektion 2	冠詞 重要動詞 haben と werden の変化
6	Lektion 3	所有冠詞 否定冠詞 kein
7	Lektion 3	人称代名詞の格変化
8	Lektion 4	これまでの確認テスト 前置詞
9	Lektion 4	非人称の es
10	Lektion 5	動詞の3基本形
11	Lektion 5	動詞の過去人称形
12	Lektion 6	現在完了形 接続詞
13	Lektion 6	zu 不定詞 これまでのまとめ

14 期末テスト 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木下直也・日中鎮郎・岡本雅克・杉内有介・小野間亮子・白井智美『ブリュッケ-初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』（朝日出版社）ISBN978-4-255-25435-7 ¥2,200 + 税

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間の確認テストと期末テストの得点を60%、平常点を40%の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答あるいは提出すること。提出された課題は次の授業の冒頭で解説し、間違いやすいポイントや発展的な内容について説明を加える。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業ではZoomを利用するので、接続可能なデバイス（パソコンを推奨）を用意すること。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

ドイツ語(2)Ⅱ

2017年度以降入学者

平松 英人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法1年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級文法教科書を使って、ドイツ語の読み、書き、聞く、話す力をバランスよく習得する。使用頻度の高い文法事項を重点的に学習することで、メリハリのある基礎力を身につける。また同じゲルマン諸語である英語との比較を通じて、異文化理解の視点を身につけることも目的とする。

【到達目標】

1年間の授業を通じて関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

※秋学期の最初の2回、第7回目、最後の2回は対面での開講、それ以外はオンラインでの開講を原則とする。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は12課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 7	話法の助動詞の現在人称変化 構文
2	Lektion 7	話法の助動詞の主な意味 未来形
3	Lektion 8	分離動詞と非分離動詞
4	Lektion 8	受動文
5	Lektion 9	動詞の現在人称変化（不規則変化）
6	Lektion 9	命令形
7	Lektion 10	これまでの確認テスト 接続法
8	Lektion 10	接続法2式の人称変化 接続法2式の用法（現在形）
9	Lektion 11	再帰代名詞の人称変化 再帰動詞
10	Lektion 11	形容詞の比較級と最上級の形態 比較級と最上級の用法
11	Lektion 12	関係代名詞 関係代名詞の形と用法
12	Lektion 12	不定関係代名詞 wer, was
13	これまでのまとめ	これまでのまとめと補足
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木下直也・日中鎮郎・岡本雅克・杉内有介・小野間亮子・白井智美
『ブリュッケ-初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』（朝日出版社）
ISBN978-4-255-25435-7 ¥2,200 + 税

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間の確認テストと期末テストの得点を 60%、平常点を 40% の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答あるいは提出すること。提出された課題は次の授業の冒頭で解説し、間違いやすいポイントや発展的な内容について説明を加える。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では Zoom を利用するので、接続可能なデバイス（パソコンを推奨）を用意すること。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

ドイツ語 1

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。SA ドイツ語圏での留学準備として、この「ドイツ語 1」と「ドイツ語 3」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテキストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を常に振り返ることのできる（反省能力のある）学習者になることです。1年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

・法政大学の 2021 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。初回授業はハイフレックス型（対面+リアルタイム型オンライン授業）となる可能性が高いです。

・Hoppii のほか、Zoom と Google Classroom をツールとして使用します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音とあいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則 1、
2	Lektion1A：発音の規則、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ あいさつの表現
3	Lektion1A：発音の規則、動詞の現在人称変化（1）、定動詞と不定詞（1）	自己紹介（1）、苗字と名前、不定詞と動詞の現在人称変化、数詞変化（1）、定動詞と不定詞（1）

- | | | |
|----|--|--|
| 4 | Lektion1B ：発音の規則、動詞の現在人称変化（2）、定動詞と不定詞（2）、定動詞の位置と語順（1） | 自己紹介（2）、自分の職業を言う（1） |
| 5 | Lektion2A ：名詞の性と格（1） | 相手をお茶に誘う、自分の予定を説明する（1） |
| 6 | Lektion2B ：名詞の性と格（2）、「否定冠詞と所有冠詞」（1） | 自分の家族について話す（1） |
| 7 | Lektion2B ：否定冠詞と所有冠詞（2）、ja/nein/doch の使い方 | 自分の家族について話す（2） |
| 8 | Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（1） | 自分が今やっていることを説明する、人を招待する（1） |
| 9 | Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（2）、3格目的語の使い方 | 自分が今やっていることを説明する、人を招待する（2） |
| 10 | Lektion3B ：定冠詞類（1）、人称代名詞の3・4格（1） | 旅行の計画をたてる（1） |
| 11 | Lektion3B ：人称代名詞の3・4格、目的語の語順 | 旅行の計画をたてる（2） |
| 12 | Lektion4A ：前置詞（1） | 友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係を人に説明する（1） |
| 13 | Lektion4A ：前置詞（2） | 友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係や時間の経過を人に説明する（2） |
| 14 | まとめ | 学期末最終試験・まとめと解説 |

・ハイフレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールと LMS (Hoppii, Google Classroom) を確認するようにしてください。

【Outline and objectives】

German course for absolute Beginners, exclusively for Participants of the SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。ドイツ語の文・文章はどれも必ず音読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017年）

羽鳥重雄・平塚久裕編『[[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003年）

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）

清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 30%、小テスト（単語テスト）40%、学期末試験 30%を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

・ハイフレックス型の授業となる可能性が高いです。WiFi が利用可能なデジタルガジェット（PC ないしスマートフォン、タブレットのどれか）とイヤホン（ヘッドセット/ヘッドフォンマイク）を用意してください。

【その他の重要事項】

・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

・「ドイツ語2 (SA)」とは内容がリンクしています。教科書も同一（『シュトラッセ・ノイ Ver.3』）のものを使用します。

LANd100LA

ドイツ語3

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語1」に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。SAドイツ語圏での留学準備に重点を置き、ドイツ語圏の多様性にも触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指します。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。「ドイツ語1」の学習項目を積み上げながら、自分の触れているドイツ語が、どのようなシーンで活用されるのかを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ぜひ1年次のうちに、自身の学びかたそのものを意識するクセをつけましょう。第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）とその発音練習・会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

・法政大学の2021年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。ハイフレックス型（対面+リアルタイム型オンライン授業）となる可能性も高いです。

・Hoppiiのほか、ZoomとGoogle Classroomをツールとして使用します。

・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、小テスト	春学期の復習、既習事項の小テスト
2	Lektion4A：前置詞（3）	友人と旅行をする、地図を観る、「移動先を示す」と「位置・場所を示す」ことの違いを理解する
3	Lektion4B：枠構造と話法の助動詞、話法の助動詞の種類について	ドイツ語の基本的な発想を理解する（1）、話法の助動詞を使う、そのココロを理解する
4	Lektion4B：複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、「前つづり」の意味	ドイツ語の基本的な発想を理解する（2）、分離動詞の基本的な構文

5	Lektion5A：動詞の3基本形、現在完了形（1）	夏休みには何をしたの？（1）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（3）
6	Lektion5A/B：現在完了形（2）、過去時制と過去人称変化	夏休みには何をしたの？（2）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（4）
7	Lektion5B：過去時制と現在完了形の使い分け、ふたつの接続詞、従属接続詞と副文	過去の出来事を説明する、定動詞の位置と主文・副文の関係
8	Lektion6A：受動態（1）	誕生日という大切な日について（1）、なんで受動態にしなきゃいけないの？ドイツ語の基本的な発想を理解する
9	Lektion6A：受動態（2）	誕生日という大切な日について（2）、状態受動の意味
10	Lektion6B：zu不定詞とzu不定詞句	天候の表現、品詞を理解して文を作る（1）
11	Lektion7A：形容詞の使い方、形容詞の付加法的用法	ショッピングに出かけよう（1）、色と好みの話、形容詞の使い方全般を文法でしっかり理解する
12	Lektion7A：形容詞の比較級・最上級	ショッピングに出かけよう（2）、形容詞と名詞の組み合わせ、比較・最上級の持つ意味と冠詞の持つ意味を統合させる
13	Lektion7B：再帰動詞	病気になったら？他動詞の使い方と代名詞の意味をしっかりと理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかりと見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017年）

羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003年）

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）

清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加35%（外部試験の受験結果含）、小テスト（単語テスト）や提出物30%、学期末試験35%を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

・ハイフレックス型の授業となる可能性が高いです。WiFiが利用可能なデジタルガジェット（スマートフォン、タブレット、PCのどれか）とイヤホン（マイク付きヘッドセット）を用意してください。

【その他の重要事項】

・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

・「ドイツ語4（SA）」とは内容がリンクしています。教科書も同一（『シュトラッセ・ノイ Ver.3』）のものを使用します。

・ハイフレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

・履修者には、2021年12月実施予定の「ドイツ語技能検定試験」(公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催)、2021年度中に実施されるドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験(Goethe Zertifikat)ないしオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験(ÖSD)の試験からどれか1つ以上を受験してもらいます(Goethe Zertifikatについては割引料金適応)。受験級はそれぞれの学習段階にふさわしいものを選んでください。受験結果は上記「成績評価の方法と基準」のうち「授業への積極的な参加(35%)」に加算されます(2022年1月25日までに担当者に通知されたものに限る)。以上の受験費用は自己負担ですが、難しい場合はぜひ担当者に相談してください。

【Outline and objectives】

German course for Beginners, exclusively for Participants of "German 1 (SA)" 2019SS as well as of the SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces, continuing from the "German 1 (SA)", elementary Grammar, vocabulary and communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

LANd100LA

ドイツ語2

2017年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：1単位

国1年SA

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するための授業です。SAドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語(外国語)の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ペアワーク、グループワークを中心として会話練習や読解練習を行う。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/発音とあいさつの表現	授業の進め方について/ドイツ語のアルファベットの発音
2	Lektion 1A	発音の規則について/あいさつと自己紹介(1)/数詞
3	Lektion 1B	あいさつと自己紹介(2)/自分の職業を言う
4	Lektion 2A(1)	カフェやレストランで注文をする
5	Lektion 2A(2)	買い物をする
6	Lektion 2B(1)	自分の家族について話す(1)
7	Lektion 2B(2)	自分の家族について話す(2)
8	Lektion 3A(1)	自分のやっていることを説明する(1)/人を招待する(1)
9	Lektion 3A(2)	自分のやっていることを説明する(2)/人を招待する(2)
10	Lektion 3B(1)	旅行の計画をたてる(1)/時刻を言う(1)
11	Lektion 3B(2)	旅行の計画をたてる(2)/時刻を言う(2)
12	Lektion 4A(1)	友人と旅行をする(1)/地図を観る(2)/空間の位置関係を説明する
13	Lektion 4A(2)	友人と旅行をする(2)/地図を観る(2)/時間の経過を説明する
14	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな項目がでてきますので、学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直してください。またドイツ語の文・テキストは必ず音読してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3.0』（朝日出版社、2017年）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・提出課題：40%

学期末テスト：40%

平常点（授業への積極的な参加・予習）：20%

※ 以上を踏まえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典。とくに紙の辞典を勧めます。

・Google Classroom および Zoom を使用できる機器（パソコン・タブレット・スマートフォン）を用意してください。オンライン授業やハイフレックス授業に転換した際には、Zoom を使用します。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline and objectives】

This preparatory course for studying abroad aims to acquire the basic language skills in German by learning pronunciation, basic grammar and basic conversation. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

ドイツ語4

2017年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

国1年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語2」に引き続き、SAドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して、「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語（外国語）の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ペアワーク、グループワークを中心として会話練習や読解練習を行う。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の復習
2	Lektion 4B (1)	旅先の楽しみ (1) / 時を表す表現 (1)
3	Lektion 4B (2)	旅先の楽しみ (2) / 時を表す表現 (2)
4	Lektion 5A (1)	夏休みにはなにをしたの? (1) / 数詞 (1)
5	Lektion 5A (2)/5B (1)	夏休みにはなにをしたの? (2) / 数詞 (2)
6	Lektion 5B (2)	過去の出来事を説明する
7	Lektion 6A (1)	誕生日のお祝い (1) / 序数と日付
8	Lektion 6A (2)	誕生日のお祝い (2)
9	Lektion 6B	天気表現
10	Lektion 7A (1)	ショッピングに出かける (1) / 形容詞を使ってみる
11	Lektion 7A (2)	ショッピングに出かける (2) / ものを比較してみる
12	Lektion 7B (1)	病気になったら?
13	Lektion 7B (2)	再帰動詞を使ってみる
14	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな項目がでてきますので、学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直してください。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver. 3.0』（朝日出版社、2017年）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・提出課題：40%

学期末テスト：40%

平常点（授業への積極的な参加・予習）：20%

※ 以上を踏まえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典。とくに紙の辞書を勧めます。

・Google Classroom および Zoom を使用できる機器（パソコン・タブレット・スマートフォン）を用意してください。オンライン授業やハイフレックス授業に転換した際には、Zoom を使用します。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline and objectives】

This preparatory course for studying abroad aims to acquire the basic language skills in German by learning pronunciation, basic grammar and basic conversation. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

ドイツ語5

2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回を Zoom で実施する。

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

授業内の言語活動や課題に関しては、可能な限りその場でフィードバックを口頭で行う。必要に応じて、HOPPII を通じて課題のポイントや問題点の指摘を行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Begruessen und vorstellen 1 - du, Sie	einfache Phrasen
3	Begruessen und vorstellen 2	einfache Phrasen, Verbkonjugation im Singular
4	Laender, Sprachen	Idiomatik in Fragen und Antworten
5	Berufe	Ja-/Nein-Fragen, W-Fragen
6	Zahlen von 0 bis 100	einfache Zahlenanwendungen
7	Deutsche Woerter?	Feminin - Maskulin - Neutrum
8	Zahlen bis 1000	Telefonnummern, Hausnummern
9	Informationen zur Person	Alphabet, Buchstabieren
10	Auf der Meldestelle	Formulare auf Behoerden
11	Einladung zum Kaffeetrinken	Verbkonjugation im Plural
12	Was ist wo in unserem Buch?	bestimmter/unbestimmter/negativer Artikel
13	Essen und Trinken	Nominativ und Akkusativ
14	Zusammenfassung und Wiederholung	Syntax, Phrasen, Artikel, grammtisches Geschlecht, Kasus

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を忘れないで行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 1-4

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

章末ごとの小テストかレポート(60%), 授業参加(オンライン上でのパフォーマンス)(40%)

これらの観点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomでの授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学でZoom授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing

LANd100LA

ドイツ語6

2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

国1年SA

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basicな言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で行う。すべての回をZoomで実施する。

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

授業内の言語活動や課題に関しては、可能な限りその場でフィードバックを口頭で行う。必要に応じて、HOPPIIを通じて課題のポイントや問題点の指摘を行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Laender in Zahlen	Zahlen ueber 1000
3	Im Moebelhaus	Dinge bewerten: Adjektive, Adverbien
4	Haushaltsgeraete	Artikel im Nominativ und Akkusativ
5	Gespraecher im Kaufhaus	Definitpronomen
6	Gebrauchte Sachen	Zeit- und Mengenangaben
7	Beim neunten Nein kommen die Traenen	Text ueber Einkaufen mit Kindern & Diskussion
8	Einkaufen im Supermarkt	idiomatische Phrasen
9	Gespraecher mit Gaesten	idiomatische Phrasen
10	Tipps und Ratschlaege	Imperativ
11	Berufe: Vor-und Nachteile	Modalverben
12	Hobbys	Praepositionen mit Dativ und Akkusativ

13	Verabredungen	Idiomatik in typischen Situationen
14	Wiederholung und Zusammenfassung	Syntax, Phrasen, Wortschatz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

章末ごとの小テスト（オンラインの場合はレポートに変更）（60%）、授業参加（オンラインの場合はオンライン上でのパフォーマンス）（40%）

これらの観点を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomでの授業を行うため、接続可能な機器が必要となる。大学でZoom授業を受ける場合は、マイク付きヘッドセットが必要となる。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd100LA

ドイツ語1

2017年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

国1年非SA

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また授業では、ドイツ語圏の事情や習慣を紹介する写真やテキストが含まれている教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、受講者はその場面に必要な表現を習得します。その際、ドイツ語圏の文化も実感できるでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ語圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナーレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。

練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかり復習します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

火曜日5時限（担当：シュミット）と水曜日3時限（担当：丸山）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。火曜日の授業では語彙練習と作文に、水曜日の授業では、文法と読解に重点を置いた練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Herzlich Willkommen	自己紹介 アルファベット 人称変化1
2	Name, Adresse, Beruf	職業 数字 0-1000 人称変化2
3	Auf der Berlinale	有名人を紹介する
4	Was ist das?	名詞と冠詞 人称代名詞
5	Shoppern!	haben / möchte 4格の名詞 Blogを書く
6	Die Leipziger Fußgängerzone	歩行者天国でインタビューする

7	Tanzen oder wandern?	不規則変化動詞 分離動詞 曜日 一週間の日記を書く
8	Familie und Freunde	所有冠詞 4格の人称代名詞 国、国籍、言語 seinの過去形 写真を描写する
9	Die Alpen in Österreich	
10	Kaffee oder lieber Schokolade?	wollen / müssen 無冠詞 値段の言い方
11	Einkaufsliste	市場での会話 カフェで注文する
12	Termine	時刻 一日のスケジュール können
13	Jochen Krauses Termine	約束する 月と季節 habenの過去形 理想の一日について書く 写真を基に会話をつくる
14	Auf dem Viktualienmarkt	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache
A1: Kursbuch Gesamtband
ISBN 978-3-06-120482-2
Cornelsen verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017年 ¥1700 + 税
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005年 ¥1400 + 税

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト2回、宿題、授業への参加態度、発言等）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題等の提出については基本的に学習支援システムを用います。また、オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in group or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

ドイツ語3

2017年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

国1年非SA

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また授業では、ドイツ語圏の事情や習慣を紹介する写真やテキストが含まれている教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、受講者はその場面に必要な表現を習得します。その際、ドイツ語圏の文化も実感できるでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ語圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナーレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。

練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかり復習します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

火曜日5時限（担当：シュミット）と水曜日3時限（担当：丸山）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。火曜日の授業では語彙練習と作文に、水曜日の授業では、文法と読解に重点を置いた練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	前期の復習
2	Mit dem Auto oder zu Fuß?	3格の名詞 3格支配の前置詞 道案内
3	In der Firma	現在完了形 仕事について話す 旅行について書く
4	Verkehr in der Stadt	交通手段について話す
5	Mein Zuhause	3・4格支配の前置詞 zu+形容詞 住まいについて話す
6	Gesund und fit	命令形 アドバイスを 健康について話す
7	Die Wohnsiedlung Hard in Zürich	将来の住まいについて話す

8	Andere feiern, ich arbeite.	序数と日付 人称代名詞：3格 お祭りや祝祭日について話す 招待状を書く
9	T-Shirt oder Pullover?	非人称の es 3格目的語をとる動詞 服装と天気について話す
10	Von Ostern zu Weihnachten	ドイツ語圏の伝統的なお祭りや祭日について話す
11	Geradeaus bis zur Ampel	sollen / dürfen 駅でのアナウンスを理解する 切符を買う
12	Endlich Urlaub!	würde gern+不定詞 丁寧なお願い 苦情を言う ホテルでの会話
13	Am Foggensee	旅先から絵はがきを出す
14	プレゼンテーション	グループ発表 「ドイツ語圏を旅する」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらったこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache

A1: Kursbuch Gesamtband

ISBN 978-3-06-120482-2

Cornelsen verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017年 ¥1700 + 税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005年 ¥1400 + 税

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト2回、宿題、授業への参加態度、発言等）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題等の提出については基本的に学習支援システムを用います。また、オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in group or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

ドイツ語2

2017年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1単位

国1年非SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナートレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。

練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかり復習します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

火曜日5時限（担当：シュミット）と水曜日4時限（担当：丸山）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。水曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。独和辞典を持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書は不可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介
	Herzlich	アルファベット
	Willkommen	人称変化1
2	Name, Adresse, Beruf	職業 数字0-1000 人称変化2
3	Panorama I	Auf der Berlinale ベルリン国際映画祭
4	Was ist das ?	名詞と冠詞 人称代名詞
5	Shoppen !	haben/möchten 格変化：4格 Blogを書く

6	Panorama II	Die Leipziger Fußgängerzone ライプチヒの歩道者天国
7	Tanzen oder wandern ?	不規則変化動詞 分離動詞 曜日 一週間の日記を書く
8	Familie und Freunde	所有冠詞 人称代名詞の 4 格 国、国籍、言語 sein の過去形
9	Panorama III	Die Alpen in Österreich オーストリア・アルプス
10	Kaffee oder lieber Schokolade ?	助動詞 1 無冠詞 値段の言い方
11	Kaffee oder lieber Schokolade ?	Einkaufsdialoge Im Kaffeehaus bestellen 買い物と注文
12	Termine	時刻 一日のスケジュール 助動詞 2 約束する
13	Termine	月と季節 haben の過去形 作文：理想の一日
14	Panorama IV	Auf dem Viktualienmarkt ヴィクトアリエンマルクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらっても構いません）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache

A1: Kursbuch Gesamtband

ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120482-2

Cornelsen Verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017 年 ¥1700 + 税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ¥1400 + 税

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト 2 回、授業への参加態度、宿題、発言/発信などを総合的に評価します。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

ドイツ語 4

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章（が書ける）。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取る。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナーレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現したりする練習を重ねます。練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかりと復習します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

火曜日 5 時限（担当：シュミット）の授業は水曜日 4 時限（担当：丸山）と連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。水曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。独和辞典を持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書不可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	前期の復習
2	Mit dem Auto oder zu Fuß ?	名詞の 3 格 3 格支配の前置詞 道案内
3	In der Firma	現在完了形 仕事について話す 旅行について書く
4	Panorama V	Verkehr in der Stadt
5	Mein Zuhause	3・4 格支配の前置詞 zu+形容詞 住まいについて話す

6	Gesund und fit	命令形 アドバイスをする 健康について話す
7	Panorama VI	Die Wohnsiedlung Hard in Zürich
8	Andere feiern, ich arbeite.	序数と日付 人称代名詞の3格 お祭りや祝祭日について話す 招待状を書く
9	T-Shirt oder Pullover?	非人称の es 3 格目的の動詞 服装と天気について話す。
10	Panorama VII	Von Ostern bis Weihnachten
11	Geradeaus bis zur Ampel	助動詞3 駅でのアナウンスを理解する、切 符を買う
12	Endlich Urlaub !	würde- gern +不定詞 丁寧なお願い 苦情を言う ホテルでの会話
13	Panorama VIII	Am Forggensee
14	プレゼンテーション	グループ発表 ドイツ語圏を旅する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache

A1: Kursbuch Gesamtband

ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120482-2

Cornelsen Verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017年 ¥1700 + 税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005年 ¥1400 + 税

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト2回、授業への参加態度、宿題、発言/発信などを総合的に評価します。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようになります。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。既習事項について小テストを行い、採点の後、翌週の授業で各受講者に返却し、重要な点について再度説明することにより受講者の習熟度の確認を行います。小テストの結果は、成績評価に算入します。授業が進行するにつれて、既習項目に関する復習の時間も増えてゆきます。辞書は毎回必ず持参して下さい。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要 1	綴りの読み方と発音 1 アルファベット等について
②	ドイツ語の概要 2	綴りの読み方と発音 2 発音記号について
③	Lektion1	人称代名詞と動詞の現在人称変化 (規則動詞)
④	Lektion1	sein・haben の現在人称変化、 語順、 ja,nein の使い方
⑤	Lektion2	名詞の性と冠詞、名詞の格、定冠 詞と名詞の格変化、不定冠詞と名 詞の格変化
⑥	Lektion2	格の用法、名詞の複数形、人称代 名詞の使い方
⑦	Lektion3	動詞の現在人称変化（不規則動 詞）、命令形
⑧	Lektion3	非人称の es、時刻の表現
⑨	Lektion4	定冠詞類、不定冠詞類
⑩	Lektion4	人称代名詞の3格と4格、3格・ 4格の語順
⑪	Lektion5	前置詞の格支配
⑫	Lektion5	前置詞と定冠詞の融合形、疑問代 名詞 wer と was の格変化
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と春学期 の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『プーメラン・エルエー』
小野寿美子・中川明博・西巻丈児著
朝日出版社 定価 2500 円＋税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G～L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようになります。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。既習事項について小テストを行い、採点の後、翌週の授業で各受講者に返却し、重要な点について再度説明することにより受講者の習熟度の確認を行います。小テストの結果は、成績評価に算入します。授業が進行するにつれて、既習項目に関する復習の時間も増えてゆきます。辞書は毎回必ず持参して下さい。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Lektion6	話法の助動詞、未来形、従属の接続詞と副文
②	Lektion6	分離動詞と非分離動詞
③	Lektion7	形容詞の格語尾変化 1
④	Lektion7	形容詞の格語尾変化 2
⑤	Lektion7	形容詞・副詞の比較
⑥	Lektion8	動詞の3基本形 1
⑦	Lektion8	動詞の3基本形 2
⑧	Lektion8	現在完了形
⑨	Lektion9	過去形
⑩	Lektion9	再帰代名詞と再帰動詞
⑪	Lektion10	zu 不定詞（句）
⑫	Lektion10	関係代名詞
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『プーメラン・エルエー』
小野寿美子・中川明博・西巻丈児著
朝日出版社 定価 2500 円＋税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

この授業は木曜日の「ドイツ語 2-I」とリレー授業を行います。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は木曜日の「ドイツ語 2-I」とリレー授業を行います。2 つの授業でおなじ教科書を使用します。

月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。

この授業は、手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

宿題や小テスト（毎回実施）については、授業内および学習支援システムを用いてフィードバックをおこないます。そのほか、中間テストと期末テストを各 1 回おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット・発音・数字
第 2 回	ドイツってどんな国？	あいさつ
第 3 回	自己紹介／ドイツの都市と河川	動詞の規則変化（単数と複数）・ sein
第 4 回	趣味・余暇／ドイツの春の祝祭	動詞の不規則変化・名詞の格変化
第 5 回	持ち物・食べ物／ドイツへ移住する人々（前半）	haben ・3/4 格と結びつく動詞・否定冠詞
第 6 回	持ち物・食べ物／ドイツへ移住する人々（後半）	haben ・3/4 格と結びつく動詞・否定冠詞
第 7 回	中間テスト	第 1～第 6 回の内容を確認します。
第 8 回	家族・住居／ドイツの家族（前半）	2 格の用法・複数形・人称代名詞
第 9 回	家族・住居／ドイツの家族（後半）	2 格の用法・複数形・人称代名詞
第 10 回	自然・心身／ドイツの森（前半）	所有冠詞・定冠詞類・命令形

- 第11回 自然・心身／ドイツの 所有冠詞・定冠詞類・命令形
森（後半）
- 第12回 街歩き／ドイツの街路 前置詞
（前半）
- 第13回 街歩き／ドイツの街路 前置詞
（後半）
- 第14回 期末テスト 春学期に学習した内容すべてについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に小テストとして前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

夏休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドライクラング——異文化理解のドイツ語』

著者：菅利恵／大喜祐太／大河内朋子ほか著

出版社：郁文堂

ISBN：978-4-261-01273-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加(20%)、中間テスト(40%)、学期末テスト(40%)

【学生の意見等からの気づき】

外国語を学ぶことは、コミュニケーションの手段や技術を習得するだけでなく、それを通じて自分たちとは違う文化や社会について知り、それを理解する能力を身につけることです。

たしかに、大学で学んだからといって将来ドイツ語を使う職業に就くとは限りませんし、授業だけの学習量ではドイツ語が自由自在に操れるようにはなりません。

しかし、この授業に参加する皆さんは、ドイツ語の授業を通じて、今まで知らなかった新鮮で奥の深い世界がそこに広がっていることを知るでしょう。その世界をどのくらい知ろうとするかは皆さん次第です。ドイツ語は、他者理解・異文化理解へとつながる窓口なのです。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。

状況によりオンライン授業を実施します。自宅でZoomに接続して授業を受けることができる環境を準備してください。教室で授業をする場合も、発音・会話や聞き取りの練習のためにZoomに接続してもらうことがあります。そのときはノートPCやタブレットを大学に持ってきてください。

【その他の重要事項】

独和辞書は必要になるので授業開始後できるだけ早く用意すること。

【Outline and objectives】

German Course for Beginners (A1 Level)

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

環1年A～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

この授業は木曜日の「ドイツ語 2-II」とリレー授業を行います。

【到達目標】

一年間かけて初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。後半からは、それまでに学んだ知識を活かし、やや高度な文法や応用的な練習問題にも取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は木曜日の「ドイツ語 2-II」とリレー授業を行います。2つの授業でおなじ教科書を使用します。

月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。

週1回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。

この授業は手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

宿題や小テスト（毎回実施）については、授業内および学習支援システムを用いてフィードバックをおこないます。そのほか、最終回に期末テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入・確認テスト	春学期に学習した内容を確認します。
第2回	交通／移住するドイツの人々（前半）	分離・非分離動詞
第3回	交通／移住するドイツの人々（後半）	分離・非分離動詞
第4回	予定・計画／スイスとオーストリア（前半）	話法の助動詞・非人称表現・未来形
第5回	予定・計画／スイスとオーストリア（後半）	話法の助動詞・非人称表現・未来形
第6回	学校／ドイツの学校制度（前半）	再帰代名詞・従属接続詞・zu不定詞句
第7回	学校／ドイツの学校制度（後半）	再帰代名詞・従属接続詞・zu不定詞句
第8回	過去のできごと／ドイツ語の歴史（前半）	現在完了形・過去形
第9回	過去のできごと／ドイツ語の歴史（後半）	現在完了形・過去形
第10回	祝祭／ドイツの冬の祝祭（前半）	形容詞・序数・日付の表現・比較級

第 11 回	祝祭／ドイツの冬の祝祭（後半）	形容詞・序数・日付の表現・比較級
第 12 回	政治・社会／想起の文化（前半）	関係代名詞・関係副詞・指示代名詞
第 13 回	政治・社会／想起の文化（後半）	関係代名詞・関係副詞・指示代名詞
第 14 回	期末テスト	秋学期だけでなく 1 年間に学んだ内容についてテストします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に小テストとして前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

また、冬休み、春休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドライクラング——異文化理解のドイツ語』

著者：菅利恵／大喜祐太／大河内朋子ほか著

出版社：郁文堂

ISBN：978-4-261-01273-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

外国語を学ぶことは、コミュニケーションの手段や技術を習得するだけでなく、それを通じて自分たちとは違う文化や社会について知り、それを理解する能力を身につけることです。

たしかに、大学で学んだからといって将来ドイツ語を使う職業に就くとは限りませんし、授業だけの学習量ではドイツ語が自由自在に操れるようにはなりません。

しかし、この授業に参加する皆さんは、ドイツ語の授業を通じて、今まで知らなかった新鮮で奥の深い世界がそこに広がっていることを知るでしょう。その世界をどのくらい知ろうとするかは皆さん次第です。ドイツ語は、他者理解・異文化理解へとつながる窓口なのです。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。教室で授業をする場合も、発音・会話や聞き取りの練習のために Zoom に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【その他の重要事項】

独和辞書を必ず用意し、毎回持ってくること。

【Outline and objectives】

German Course for Beginners (A1 Level)

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A～H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようになります。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として 2 回の授業で 1 課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。既習事項について小テストを行い、採点の後、翌週の授業で各受講者に返却し、重要な点について再度説明することにより受講者の習熟度の確認を行います。小テストの結果は、成績評価に算入します。授業が進行するにつれて、既習項目に関する復習の時間も増えてゆきます。辞書は毎回必ず持参して下さい。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要 1	綴りの読み方と発音 1 アルファベット等について
②	ドイツ語の概要 2	綴りの読み方と発音 2 発音記号について
③	Lektion1	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（規則動詞）
④	Lektion1	sein・haben の現在人称変化（不規則動詞）、語順（定動詞の位置）
⑤	Lektion2	名詞の性・冠詞、名詞の格変化
⑥	Lektion2	疑問代名詞 wer, was の格変化、並列の接続詞
⑦	Lektion3	動詞の現在人称変化（不規則動詞）、命令形
⑧	Lektion3	人称代名詞の 3 格（～に）と 4 格（～を）、3 格と 4 格の語順、非人称の es
⑨	Lektion4	名詞の複数形、冠詞類
⑩	Lektion4	名詞の複数形、冠詞類、kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
⑪	Lektion5	前置詞の格支配
⑫	Lektion5	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説復習	期末試験についての講評と春学期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』

小野寿美子・中川明博著

朝日出版社 定価 2500 円＋税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確保するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A～H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。既習事項について小テストを行い、採点の後、翌週の授業で各受講者に返却し、重要な点について再度説明することにより受講者の習熟度の確認を行います。小テストの結果は、成績評価に算入します。授業が進行するにつれて、既習項目に関する復習の時間も増えてゆきます。辞書は毎回必ず持参して下さい。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Lektion6	話法の助動詞の現在人称変化、未来形
②	Lektion6	従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞 man
③	Lektion7	形容詞の2つの使い方、形容詞の格変化
④	Lektion7	形容詞の格変化、形容詞・副詞の比較
⑤	Lektion8	分離動詞・非分離動詞
⑥	Lektion8	分離動詞・非分離動詞、 zu 不定詞・ zu 不定詞句
⑦	Lektion9	動詞の3基本形 1、過去分詞に ge- を付けない動詞
⑧	Lektion9	動詞の3基本形 2、現在完了形
⑨	Lektion10	過去形、再帰代名詞と再帰動詞
⑩	文法の補足	関係代名詞、関係副詞
⑪	文法の補足	受動形、分詞
⑫	文法の補足	接続法
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』
小野寿美子・中川明博著
朝日出版社 定価 2500 円＋税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（小テスト等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言語について、発音のルール、簡単な表現や基礎的な文法事項を体系的に学習していきます。辞書の使い方や、挨拶や自己紹介などの簡単な表現ができるようになることを目指します。

【到達目標】

ドイツ語を学ぶ上で重要な基本事項として、(1) 動詞の人称変化、(2) 名詞の性・数・格（変化）が挙げられます。授業および自主学習を通じて、主語に応じて動詞を変化させ、動詞に応じて目的語等を適切に格変化させて、ドイツ語の文を作ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の各課は「会話テキスト」、「キーセンテンス」、「説明と練習問題」からできています。まず「会話テキスト」で実際のドイツ語に触れ、「キーセンテンス」でその課で覚える表現を練習します。それから文法事項の説明をして、練習問題に進んでいきます。一方的に話を聞くのではなく、なるべくペアワーク等で実際にアウトプットする機会を多く取ります。また、動詞の変化などの確認小テストを適宜行います（実施については事前に予告します）。

本授業は事前の予習を前提に進めていきます。毎回、各課の練習問題にひと通り取り組んだ上で授業に参加してください。課題等の提出・フィードバックは各回の授業内および「学習支援システム」を通じておこなう予定です。

また、辞書は必ず毎回持参してください。（紙辞書、電子辞書、辞書アプリ等、種類は問いませんが、オンライン上の無料辞書や機械翻訳は授業での使用を避けてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einführung	アルファベット、発音、あいさつ
2	Lektion 1A	動詞の現在人称変化
3	Lektion 1B	sein と haben の現在人称変化
4	Lektion 2A	名詞の性と冠詞、冠詞と名詞の格変化
5	Lektion 2B	所有冠詞
6	Lektion 2B	否定冠詞
7	Lektion 3A	動詞の現在人称変化（不規則）
8	Lektion 3A	命令・依頼の表現
9	Lektion 3B	定冠詞類の格変化、人称代名詞の格変化
10	Lektion 3B	wer と was の格変化
11	Lektion 4A	前置詞
12	Lektion 4A	前置詞
13	Lektion 4B	話法の助動詞、分離動詞
14	試験・まとめと解説	春学期に学んだ内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。教科書の巻末には文法の補足も載っているので、そちらも参照してください。

【テキスト（教科書）】

新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラーセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社，2019年。
（2400円＋税）

【参考書】

中島悠爾ほか：『改訂版 必携ドイツ文法総まとめ』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、宿題、発言/発信など）、小テスト、提出課題、学期末試験を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

課題等の提出については基本的に学習支援システムを用います。また、オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory class of German language for first-year students. Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I～P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の基本的な事項を学んでいきます。春学期よりも豊かで多様な表現を身につけていきます。

【到達目標】

現在形以外の時制、接続詞や形容詞の使用など、春学期よりも豊かな表現を読解し、また自分でもアウトプットできるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の各課は「会話テキスト」、「キーセンテンス」、「説明と練習問題」からできています。まず「会話テキスト」で実際のドイツ語に触れ、「キーセンテンス」でその課で覚える表現を練習します。それから文法事項の説明をして、練習問題に進んでいきます。一方的に話を聞くのではなく、なるべくペアワーク等で実際にアウトプットする機会を多く取ります。また、動詞の変化などの確認小テストを適宜行います（実施については事前に予告します）。

本授業は事前の予習を前提に進めていきます。毎回、各課の練習問題にひと通り取り組んだ上で授業に参加してください。課題等の提出・フィードバックは各界の授業内および「学習支援システム」を通じておこなう予定です。

また、辞書は必ず毎回持参してください。（紙辞書、電子辞書、辞書アプリ等、種類は問いませんが、オンライン上の無料辞書や機械翻訳は授業での使用を避けてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	春学期のおさらい
2	Lektion 5A	動詞の3基本形
3	Lektion 5A	現在完了
4	Lektion 5B	過去人称変化
5	Lektion 5B	接続詞と副文
6	Lektion 6A	受動文、序数・日付
7	Lektion 6B	非人称の es, zu 不定詞句
8	Lektion 7A	形容詞の格変化
9	Lektion 7A	形容詞の比較級・最上級
10	Lektion 7B	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 8A	関係文（1）
12	Lektion 8A	関係文（2）
13	Lektion 8B	接続法
14	学期末試験	一年間で学んだ内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラーセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社，2019年。
（2400円＋税）

【参考書】

中島悠爾ほか：『改訂版 必携ドイツ文法総まとめ』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、宿題、発言/発信など）、小テスト、提出課題、学期末試験を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

課題等の提出については基本的に学習支援システムを用います。また、オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoom を用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory class of German language for first-year students. Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.

LANd100LA

ドイツ語 2 - I

2017 年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Zoom を用いたリアルタイムでのオンライン授業を基本（主）とします。授業に関する連絡を行うので、授業開始前に、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。授業は教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について・ドイツ語のアルファベット
第 2 回	発音	ドイツ語の発音ルール
第 3 回	第 1 章 (1)	動詞の現在人称変化、動詞 sein と haben の変化
第 4 回	第 1 章 (2)	動詞の位置
第 5 回	第 2 章 (1)	名詞の性、名詞の 1 格・ 4 格
第 6 回	第 2 章 (2)	所有冠詞
第 7 回	第 3 章 (1)	不規則動詞の現在人称変化
第 8 回	第 3 章 (2)	名詞の複数形
第 9 回	第 4 章 (1)	名詞の 3 格
第 10 回	第 4 章 (2)	前置詞と名詞の格
第 11 回	第 5 章 (1)	人称代名詞の 3・ 4 格
第 12 回	第 5 章 (2)	分離動詞、非分離動詞
第 13 回	第 6 章 (1)	話法の助動詞
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 と きめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2 6 0 0 円 + 税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。

また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったので、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

ドイツ語 2 - II

2017年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Zoomを用いたリアルタイムでのオンライン授業を基本（主）とします。授業に関する連絡を行うので、授業開始前に、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。

授業は春学期に引き続き、教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第6章(2)	命令形
第2回	第7章(1)	3・4格支配の前置詞
第3回	第7章(2)	並列接続詞
第4回	第8章(1)	現在完了形
第5回	第8章(2)	過去形
第6回	第9章(1)	定冠詞類
第7回	第9章(2)	副文
第8回	第10章(1)	比較級と最上級
第9回	第10章(2)	再帰代名詞と再帰動詞
第10回	第11章(1)	形容詞の格変化
第11回	第11章(2)	天候の表現(esの用法)
第12回	第12章(1)	接続法第2式
第13回	第12章(2)	zu不定詞句
第14回	期末試験	第1回～第13回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2600円+税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。

また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったので、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

ドイツ語 2 - I

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。この授業は月曜日の「ドイツ語 1-I」とリレー授業を行います。

【到達目標】

1年間かけて初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は月曜日の「ドイツ語 1-I」とリレー授業を行います。2つの授業でおなじ教科書を使用します。

月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。

週1回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。

この授業は、手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

「課題」等に対するフィードバックの方法：対面の場合は紙媒体で採点して返却。オンラインの場合は Hoppii の課題提出を使い、返却を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	アルファベット・発音・数字
第2回	ドイツってどんな国？	あいさつ
第3回	自己紹介／ドイツの都市と河川	動詞の規則変化（単数と複数）・sein
第4回	趣味・余暇／ドイツの春の祝祭	動詞の不規則変化・名詞の格変化
第5回	持ち物・食べ物／ドイツへ移住する人々（前半）	haben・3/4 格と結びつく動詞・否定冠詞
第6回	持ち物・食べ物／ドイツへ移住する人々（後半）	haben・3/4 格と結びつく動詞・否定冠詞
第7回	中間テスト	第1～第6回の内容を確認します。
第8回	家族・住居／ドイツの家族（前半）	2 格の用法・複数形・人称代名詞
第9回	家族・住居／ドイツの家族（後半）	2 格の用法・複数形・人称代名詞
第10回	自然・心身／ドイツの森（前半）	所有冠詞・定冠詞類・命令形
第11回	自然・心身／ドイツの森（後半）	所有冠詞・定冠詞類・命令形

第12回 街歩き／ドイツの街路 前置詞
(前半)

第13回 街歩き／ドイツの街路 前置詞
(後半)

第14回 期末テスト 春学期に学習した内容すべてについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

また、夏休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドライクラング——異文化理解のドイツ語』

著者：菅利恵／大喜祐太／大河内朋子ほか著

出版社：郁文堂

ISBN：978-4-261-01273-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加(20%)、中間テスト(40%)、学期末テスト(40%)

【学生の意見等からの気づき】

分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出していただくことがあります。

状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoomで接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】

独和辞書は必要になるので授業開始後できるだけ早く用意すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the grammatical rules and principles of German language.

LANd100LA

ドイツ語2-II

2017年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

環1年A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。この授業は月曜日の「ドイツ語1-II」とリレー授業を行います。

【到達目標】

一年間かけて初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。後半からは、それまでに学んだ知識を活かし、やや高度な文法や応用的な練習問題にも取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は月曜日の「ドイツ語1-II」とリレー授業を行います。2つの授業でおなじ教科書を使用します。

月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。

週1回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。この授業は手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

「課題」等に対するフィードバックの方法：対面の場合は紙媒体で返却。オンラインの場合はHoppiiの課題提出を使い、返却を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入・確認テスト	春学期に学習した内容を確認します。
第2回	交通／移住するドイツの人々(前半)	分離・非分離動詞
第3回	交通／移住するドイツの人々(後半)	分離・非分離動詞
第4回	予定・計画／スイスとオーストリア(前半)	話法の助動詞・非人称表現・未来形
第5回	予定・計画／スイスとオーストリア(後半)	話法の助動詞・非人称表現・未来形
第6回	学校／ドイツの学校制度(前半)	再帰代名詞・従属接続詞・zu不定詞句
第7回	学校／ドイツの学校制度(後半)	再帰代名詞・従属接続詞・zu不定詞句
第8回	過去のできごと／ドイツ語の歴史(前半)	現在完了形・過去形
第9回	過去のできごと／ドイツ語の歴史(後半)	現在完了形・過去形
第10回	祝祭／ドイツの冬の祝祭(前半)	形容詞・序数・日付の表現・比較級
第11回	祝祭／ドイツの冬の祝祭(後半)	形容詞・序数・日付の表現・比較級

第12回	政治・社会／想起の文化(前半)	関係代名詞・関係副詞・指示代名詞
第13回	政治・社会／想起の文化(後半)	関係代名詞・関係副詞・指示代名詞
第14回	期末テスト	秋学期だけでなく1年間に学んだ内容についてテストします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
また、冬休み、春休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドライクラング——異文化理解のドイツ語』
著者：菅利恵／大喜祐太／大河内朋子ほか著
出版社：郁文堂

ISBN：978-4-261-01273-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。
下記の参考書を自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加(20%)、中間テスト(40%)、期末テスト(40%)

【学生の意見等からの気づき】

分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。
宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。

状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoomで接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】

独和辞書を必ず用意し、毎回持ってくること。

【Outline and objectives】

This course deals with the grammatical rules and principles of German language.

LANd100LA

ドイツ語2-I

2017年度以降入学者

三ツ石 祐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：1単位

キ1年A～H

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語の基本文法や発音を学びながら、ペアやグループでの練習を通して簡単な会話のための実用的な表現を身に付けます。

【到達目標】

- 1) 発音ルールを覚え、初見の単語や文を発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 挨拶や自己紹介などの簡単な会話ができる。
- 4) 辞書を用いて簡単な文章を解読できる。
- 5) 簡単な文章(1週間の予定、旅先からのはがきなど)が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に2回の授業で1課を終わらせます。ペアやグループで練習したことは全て覚えてください。授業時間中に辞書を引くこともあるので、辞書は毎回お持ちください。

平常点などのフィードバックは学習支援システムを使用する予定です。

【注意】初回(4月9日)の授業は、Zoomを使用したリアルタイムでのオンライン授業を行います。ミーティングID等は学習支援システムで連絡します。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで連絡します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	挨拶	アルファベート、発音とつづりの関係
第2回	自己紹介	語順の基本の基本
第3回	友人を紹介する1	sein 動詞
第4回	友人を紹介する2	規則変化動詞
第5回	身のまわりの物	名詞
第6回	家族	haben 動詞
第7回	身のまわりの物について説明する	形容詞
第8回	人物について説明する	不規則変化動詞
第9回	どこにあるか説明する	前置詞
第10回	どこにあるか説明する	人称代名詞
第11回	予定を言う	話法の助動詞
第12回	注文する	名詞の2格
第13回	所有物を説明する	所有冠詞
第14回	前期末試験	前期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、1時間を標準としますが、できれば毎日、10分でも構わないので復習してください。それ以外にも宿題を課すことがあります。

【テキスト（教科書）】

『フィール・グリュック！ Ver. 2 - ドイツ語でチャレンジ』山尾涼著 第三書房 2021年 ¥2,500 + 税

【参考書】

『素朴なぞんからわかるドイツ文法』高田博行著 郁文堂 2010年 ¥1800+税

【成績評価の方法と基準】

原則、期末試験（筆記）50%と平常点（小テスト、課題などを含む）50%とし、それぞれ30%以上で合格とする（例：期末試験20% + 平常点40%では不合格）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

（オンライン型授業に転換する場合に備え）Zoomで接続可能なデバイス、インターネット環境

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進捗など、状況により変更する可能性があります。

質問・相談などは授業前後、または以下の連絡先でも受け付けます。

メールアドレス： yuko.mitsuishi.2x@hosei.ac.jp

（件名に科目名および氏名を書いてください）

【注意】初回（4月9日）の授業は、Zoomを使用したリアルタイムでのオンライン授業を行います。ミーティングID等は学習支援システムで連絡します。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで連絡します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire basic German grammar and pronunciation. Students also learn practical expressions for simple conversations through pair work and group work.

LANd100LA

ドイツ語2-II

2017年度以降入学者

三ツ石 祐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1単位

キ1年A~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語の基本文法や発音を学びながら、ペアやグループでの練習を通して簡単な会話のための実用的な表現を身に付けます。

【到達目標】

- 1) 発音ルールを覚え、初見の単語や文を発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 挨拶や自己紹介などの簡単な会話ができる。
- 4) 辞書を用いて簡単な文章を解読できる。
- 5) 簡単な文章（1週間の予定、旅先からのはがきなど）が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に2回の授業で1課を終わらせます。ペアやグループで練習したことは全て覚えてください。授業時間中に辞書を引くこともあるので、辞書は毎回お持ちください。

平常点などのフィードバックは授業支援システムを使用する予定です。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	前期の振り返り	前期末試験の解説
第2回	人に指示する	命令形
第3回	日常生活のいろいろな表現1-1	再帰代名詞
第4回	日常生活のいろいろな表現1-2	再起動詞
第5回	日常生活のいろいろな表現2-1	時刻表現、非分離動詞
第6回	日常生活のいろいろな表現2-2	分離動詞
第7回	自分の好みや都合を伝える	zu不定詞句、比較級と最上級
第8回	天候	非人称のes
第9回	過去の出来事を伝える1-1	現在完了形
第10回	過去の出来事を伝える1-2	受動
第11回	過去の出来事を伝える2-1	過去形
第12回	過去の出来事を伝える2-2	従属接続詞
第13回	後期末試験	後期末試験
第14回	後期末試験解説	後期末試験解説、この1年間の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、1時間を標準としますが、できれば毎日、10~15分で構わないので復習してください。それ以外にも宿題を課すことがあります。

【テキスト（教科書）】

『フィール・グリュック！ Ver. 2 - ドイツ語でチャレンジ』山尾涼著 第三書房 2021年 ¥2,500 + 税

【参考書】

『素朴なぞもんからわかるドイツ文法』高田博行著 郁文堂 2010年 ¥1800+税

【成績評価の方法と基準】

原則、期末試験（筆記）50%と平常点（小テスト、課題などを含む）50%とし、それぞれ30%以上で合格とする（例：期末試験20% + 平常点40%では不合格）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

（オンライン型授業に転換になった場合に備え）Zoomで接続可能なデバイス、インターネット環境

【その他の重要事項】

「授業計画」は授業の進度により変更する可能性があります。質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先でも受け付けます。メールアドレス：yuko.mitsuishi.2x@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire basic German grammar and pronunciation. Students also learn practical expressions for simple conversations through pair work and group work.

LANd100LA

ドイツ語2-I

2017年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ1年1~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と、両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

※春学期は対面授業とZoomによるオンライン授業（リアルタイム配信型）を組み合わせた形での開講を予定しているが、少なくとも4月中はオンラインで実施し、それ以降は状況を見ながらの判断となる。オンライン授業への参加方法等具体的なことについては、授業開始日までに「学習支援システム」で提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は15課からなり、各課とも文法、練習問題から構成されている。まず文法の説明をし、それから練習問題に取り組む。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベート 発音の原則
2	発音 I	母音の発音 子音の発音①
3	発音 II	子音の発音② あいさつ 数詞（1~12）
4	Lektion 1	小テスト（発音） 人称代名詞と動詞の現在人称変化 ／動詞 sein・haben の現在人称変化（不規則動詞）
5	Lektion 1	語順／ja・nein の使い方 会話文 読章 Guten Tag!
6	Lektion 2	名詞の性と冠詞／名詞の格／定冠詞と名詞の格変化／不定冠詞と名詞の格変化／格の用法
7	Lektion 2	名詞の複数形／人称代名詞の使い方 会話文 読章 Cool Japan
8	Lektion 3	動詞の現在人称変化（2）（不規則動詞）／非人称の es

9	Lektion 3	命令形／時刻の表現 会話文 読章 Wien
10	Lektion 4	定冠詞類
11	Lektion 4	不定冠詞類／人称代名詞の3格 と4格／3格と4格の語順 会話文 読章 <i>Porträt meiner Familie</i>
12	Lektion 5	前置詞の格支配
13	Lektion 5	前置詞と定冠詞の融合形／疑問代 名詞 <i>wer</i> と <i>was</i> の格変化
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子、中川明博、西巻文児『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）ISBN9784255253800 ¥2,500

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を60%、小テストの得点を10%、平常点を30%の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインに転換になった場合、Zoomで接続可能なデバイス。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

ドイツ語2-II

2017年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金5/Fri.5

単位数：1単位

キ1年I~P

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

※秋学期は対面授業とオンライン授業を組み合わせたかたちでの開講を予定している。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は10課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 6	話法の助動詞
2	Lektion 6	未来形／従属の接続詞と副文
3	Lektion 6	分離動詞と非分離動詞 会話文 読章 <i>Ryota geht ins Konzert</i>
4	Lektion 7	?形容詞の格語尾変化
5	Lektion 7	形容詞・副詞の比較 会話文 読章 <i>Atomkraft? Nein Danke!</i>
6	Lektion 8	動詞の3基本形
7	Lektion 8	現在完了形
8	Lektion 8	会話文 読章 <i>Die Wartburg bei Eisenach</i>
9	Lektion 9	過去形
10	Lektion 9	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 9	会話文 読章 <i>Weimar, ein wichtiges Kulturzentrum</i>
12	Lektion 10	zu不定詞（句）
13	Lektion 10	関係代名詞
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子、中川明博、西巻文児『ブーメラン・エルエー』（朝日出版）ISBN9784255253800 ¥2,500

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、平常点を 40 % の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を基礎から学ぶ。

【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業の場合は、文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行うが、その際、まず声を出して発音することに留意し、授業をすすめる。基本的に質問等は授業時間内にフィードバックを行う。なお、オンデマンド授業の際は、音声はテキスト添付の CD を使用する。

春学期は、コロナ・ウイルスの影響で、学習支援システム (Hoppii) にてオンデマンド授業を行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語の綴りの読み方と発音	アルファベ、綴り字記号、母音字・子音字の読み方の規則解説と発音練習。
第 2 回	よく使う表現とあいさつ	フランス語の読み方・発音まとめ、発音の復習と補足的解説。
第 3 回	1 課：名詞と冠詞	名詞、不定冠詞、定冠詞、リエゾン、アンシェスマン、エリズイオンの解説。問題練習。
第 4 回	2 課：動詞 être	主語人称代名詞の解説。être の直説法現在。問題練習。
第 5 回	2 課：動詞 avoir	avoir の直説法現在。il y a の表現。問題練習とディクテ。
第 6 回	3 課：第 1 群規則動詞、否定形、疑問形、数詞	事項解説と問題練習、そのほか月日の表現。
第 7 回	3 課：疑問形、数詞	事項解説と問題練習。ディクテ。
第 8 回	4 課：形容詞	形容詞の性数一致の原則、位置。問題練習。
第 9 回	5 課：指示形容詞・所有形容詞、強勢形	事項解説と問題練習、そのほか曜日表現。
第 10 回	5 課：第 2 群規則動詞	事項解説。数字。問題練習。ディクテ。
第 11 回	6 課：動詞の aller と venir。定冠詞の縮約、命令法	事項解説。国名と前置詞。近接未来と近接過去。問題練習。ディクテ。
第 12 回	7 課：不規則動詞 prendre と faire、非人称構文、疑問形容詞	事項解説。天候表現、時間表現。週・月・曜日・日付の表現。ディクテ。

- 第13回 8課：疑問代名詞・疑問副詞、事項解説、さまざまな否定表現、数字、問題練習、ディクテ。
- 第14回 目指そう仏検4級 主要動詞の直説法現在とまとめ問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は復習に重点をおくこと、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、平常点30%と期末試験70%で評価する。コロナ・ウイルスの影響でオンデマンド授業の場合は、3回の課題提出を総合して100%評価を行う。具体的には、その都度、学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

法1年D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）3～4級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行う。その際、声を出して文を読み、フランス語を正確に発音できるように指導する。基本的に質問等は授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	9課：動詞 <i>vouloir, pouvoir, devoir</i> . 補語人称代名詞	事項解説、補語人称代名詞の位置と語順、問題練習。
第2回	10課：比較	復習問題と補足解説。
第3回	10課：現在分詞とジェロンディフ	事項解説、位置を示す前置詞、問題練習。
第4回	11課：中性代名詞	事項解説と問題練習。
第5回	11課：動詞 <i>savoir</i> と <i>connaître</i>	事項解説、さまざまな数量表現、ディクテ。
第6回	12課：複合過去（1）	直説法複合過去形の解説、問題練習。
第7回	12課：複合過去（2）	時の表現、時を表す前置詞、ディクテ。
第8回	13課：関係代名詞	事項解説、問題練習。
第9回	13課：受動態、強調構文	事項解説、問題練習。
第10回	14課：代名動詞	事項解説、問題練習。
第11回	15課：半過去、単純未来	事項解説、問題練習、ディクテ。
第12回	16課：大過去、前未来、条件法	事項解説、問題練習、ディクテ。
第13回	17, 18課：直接話法と間接話法、接続法	事項解説、問題練習、ディクテ。
第14回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期は、予習中心の準備学習に切り替えること、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % と期末試験 70 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bonjour! Bonjour! フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。

フランス語の発音のしくみを理解し、挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

【到達目標】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、スペルが読めるようになる。
2. 挨拶が交わせるようになる。
3. 文法の仕組みの基礎が理解できるようになる。
4. フランス語の検定試験の 5 級が取得できるレベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定された学内の教室で対面授業を行います。

授業の最初に小テストを行い、その後、文法を中心にテキストに沿って授業を進めます。テキストやプリントの練習問題に取り組んで復習してください。練習問題に取り組むことが理解するのにとても大切です。予習は特に必要ありません。

課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。

kaz.obata@nifty.com

出席は全授業回数の 3 分の 2 以上が必要です。

授業開始時間後 30 分以内が出席扱いとなり、それ以降は欠席扱いとなります。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。その場合は、Hoppii の掲示板を用いて授業内容を文章で説明し、小テストを行います。小テストの回答は上記のメールアドレス宛にお送りください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簡単な挨拶表現 発音の仕組み	挨拶表現の発音練習をする 発音の仕組みを理解する
2	1 課	身近なものを提示する。 数 (0 - 20)
3	2 課	人や物の特徴を伝える。
4	3 課	持っている物、欲しい物を伝える。 自己紹介をする (1)。
5	4 課	好き嫌いを尋ね、答える。 日付や曜日を尋ね、答える。
6	5 課	自己紹介をする (2)。家族について伝える。
7	6 課	職業や趣味についてやりとりする。
8	中間テスト	6 課までの復習テスト
9	7 課	行く場所、これからすることを伝える。ホテルの部屋を予約する。

10	8 課	出身地を伝える。少し前にしたことを伝える。買いたい品物を伝える。
11	9 課	代名詞を使ってやりとりする (1)。簡単なメールを書く。
12	10 課	代名詞を使ってやりとりする (2)。天候について話す。料理の材料を伝える。
13	11 課	1 日の過ごし方を伝える。
14	期末テスト	7 課から 11 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】

『フランス語をひとつひとつわかりやすく』、学研、1,650 円

【成績評価の方法と基準】

前提として出席が全体の 3 分の 2 以上が必要です。成績は、小テストと中間・期末テストによって総合的に評価します。小テストの合計点が 20 点、中間・期末試験が各 40 点として合計 100 点です。60 点以上が単位取得には必要です。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一步一步着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください！

【Outline and objectives】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、発音できるようにする。
2. フランス語の文法の構造を理解し、習得する。
3. フランス語の文章が読めるようになるための基礎固めをする。
4. フランス語で会話ができるようになるための練習をする。

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

【到達目標】

フランス語初級文法を身につける。
会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定された教室で対面授業を行います。
毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説明します。練習問題が宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の授業で確認します。

課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。

kaz.obata@nifty.com

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	12 課	過去にしたことを伝える (1)
2	13 課	過去にしたことを伝える (2)
3	14 課	市場で買い物をする。代名詞を使ってやりとりをする。
4	15 課	比較級や最上級の表現を使う。
5	16 課	関係代名詞を用いて尋ね、答える。
6	中間テスト	12 課から 16 課までの復習テスト
7	17 課	昔のことを伝える。過去の出来事 の背景を伝える (1)
8	17 課	昔のことを伝える、過去の出来事 や背景を伝える (2)
9	18 課	予定していることを伝える (1)
10	18 課	予定していることを伝える (2)
11	19 課	自分の理想を伝える (1)
12	19 課	自分の理想を伝える (2)
13	20 課	嬉しいこと、望むことを伝える。
14	期末テスト	17 課から 20 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フランス語初級文法を身につけてください。

また、役に立つ会話表現を覚えてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】

『フランス文法 はじめての練習帳』、中村敦子、白水社、1,760 円

【成績評価の方法と基準】

小テストが 20 点、中間・期末テストが各 40 点、合計 100 点です。60 天以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出席して、楽しみながら勉強を続けてください。

【Outline and objectives】

Following the Spring semester, you will acquire elementary French grammar and broaden the range of communication.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年 T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験 5 級ならびに 4 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベット
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018年、2300円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたいが、感染防止の飛沫対策もしっかり行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年 T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験4級ならびに3級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018年、2300円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたいが、感染防止の飛沫対策もしっかり行う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 A・B

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学びます。

【到達目標】

フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第2回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第3回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第4回	L2 演習	L2の練習問題
第5回	L3 動詞1	動詞の活用
第6回	L3 演習	L3の練習問題
第7回	L4 動詞2	2つの規則動詞
第8回	L4 演習	L4の練習問題
第9回	L5 不規則動詞	ALLER VENIR
第10回	L5 演習	L5 練習問題
第11回	L6 形容詞	指示形容詞 所有形容詞
第12回	L6 演習	練習問題
第13回	L7 代名詞	疑問代名詞 関係代名詞
第14回	L7 演習	練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ー

【参考書】

授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので購入してください。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %

平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline and objectives】

To learn the Elementary grammar of French

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 A・B

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学んでいきます。

【到達目標】

フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って体系的に文法を解説して行きます。

まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。作文について、添削を行います。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	L8 人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第 2 回	L8 演習	L8 練習問題
第 3 回	L9 複合過去	複合過去について
第 4 回	L9 演習	練習問題
第 5 回	L10 代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第 6 回	L10 演習	練習問題
第 7 回	L11 未来形	単純未来
第 8 回	L11 演習	練習問題
第 9 回	L12 過去形	半過去・大過去
第 10 回	L12 演習	練習問題
第 11 回	L13 条件法	条件法
第 12 回	L13 演習	練習問題
第 13 回	L14 接続法	接続法
第 14 回	L14 演習	練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー 言語と文化で学ぶ新フランス語文法 ー

【参考書】

教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので購入してください。

【成績評価の方法と基準】

期末のレポート 60 %

平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline and objectives】
To learn the Elementary grammar of French

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文 1 年 E・F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは主としてフランス語の初歩の文法を学びます。このクラスを履修する学生は基本的なフランス語の「読み」「書き」を合わせて学んでいきます。フランス語 1 II と合わせて最終的に初歩のフランス語の 4 技能の獲得を目指します。

【到達目標】

このクラスを履修する学生は、実用フランス語技能検定試験 5 級に合格するために必要なフランス語運用能力、とくに文法を学んでいきます。合わせて簡単なフランス語の文章を読むために必要な語彙や表現も身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業である場合には演習形式で授業を進めていきます。また次週に向けた課題などにも積極的に取り組んでいただきたいと思います。遠隔授業を取り入れる場合にはオンデマンドと ZOOM などを対面授業と組み合わせて実施していきます。なお基本的には授業時間内にフィードバックを行いますが、LMS などを活用する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
発音 1	フランス語の発音	フランス語の発音 (母音や子音)
発音 2	フランス語の発音	フランス語の発音 (鼻母音や複合母音など)
発音 3	フランス語の発音	発音のまとめ
1 課	名詞の性と数	男性名詞と女性名詞
2 課	冠詞	3 つの冠詞の用法
2 課	提示の表現	「もの」を提示する
	代名詞	表現
		主語の代名詞
3 課	規則動詞の活用	規則動詞の直説法現在形の活用
4 課	疑問形と否定形	3 つの疑問形の作り方
		否定の作り方
4 課	疑問文への応答	疑問文に肯定と否定で答える
	形容詞	指示形容詞の用法
5 課	形容詞の女性形	形容詞の女性形の作り方
	名詞や形容詞の複数形	名詞や形容詞の複数形の作り方
6 課	不規則動詞	重要な不規則動詞の活用と用法
	形容詞	疑問形容詞
7 課	命令形	命令文の作り方
	形容詞	所有形容詞
8 課	形容詞と名詞の比較級	形容詞と名詞の比較級、最上級の
	および最上級	用法
		特殊な形容詞と名詞の最上級、比較級の作り方
9 課	直説法複合過去	直説法複合過去の用法と作り方

復習 春学期の学習内容の確認と見直し 春学期に学習したテキスト 1 課から 9 課までの文法事項や動詞の活用を総合的に復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は学習した文法事項の理解の定着のために復習の課題をやりやります。合わせて予習として次回学習予定の文法事項の大まかな理解を求められます。復習と予習合わせて 90 分が標準となります。

【テキスト（教科書）】

『ル・フランセ』 齊藤昌三、白水社、2019 年第 32 版

【参考書】

参考書に関しては特に指定はしません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験またはまとめの課題 65 %、小テストまたは課題提出 35 %

【学生の意見等からの気づき】

とくに大きな改善点の指摘はなかったが、練習問題の量を少し増やしていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for a elementary french grammar.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文 1 年 E・F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスを受講する学生はフランス語 1 I で学んだ文法事項の確認からはじめフランス語の初級文法の完成と外国語としてのフランス語の初歩の 4 技能の獲得を目指します。

【到達目標】

このクラスを受講する学生は外国語としてのフランス語の「読み」「書き」の基本をすべて学習します。結果として実用フランス語技能検定 4 級合格に必要な文法事項や語彙及び表現を習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業である場合には演習形式で進めていきます。受講学生の積極的な授業への取り組みを期待しています。また遠隔授業を取り入れる場合には、対面授業、オンデマンド、Zoom による授業を組み合わせて実施していく予定です。なお、基本的に授業時間内にフィードバックをしますが、LMS などを活用する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
春学期	春学期の復習	テキスト 1 課から 9 課までの文法事項を復習する
9 課	直説法複合過去	直説法複合過去の否定形と倒置疑問形の作り方
10 課	関係代名詞	4 つの主要な関係代名詞の用法を学ぶ
10 課	疑問代名詞	疑問代名詞の種類と用法を学ぶ
11 課	人称代名詞	直接目的と間接目的の人称代名詞の用法 強勢形人称代名詞の用法
12 課	受動態	動詞の態を変える
	指示代名詞	指示代名詞の用法
12 課	強調構文	文の各要素を強調する
13 課	代名動詞	代名詞を伴う動詞の活用と用法
13 課	代名動詞の過去形 非人称構文	代名動詞の直説法複合過去形の作り方と用法 非人称構文の用法
14 課	直説法単純未来	未来時制の作り方と用法
14 課	中性代名詞	3 つの中性代名詞の用法
15 課	さまざまな過去時制	直説法半過去と大過去の作り方と用法
16 課	条件法現在形	条件法現在形の作り方と用法
17、18 課	現在分詞とジェロン ディフ	現在分詞とジェロンディフの作り方と用法
	接続法	接続法の活用と用法
まとめ	秋学期のまとめ	秋学期で学習した文法事項の確認と復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は学習した文法事項の理解を深めるために毎回出される復習の課題をやる必要があります。同時に次週に学習予定の文法項目の大きな理解も求められます。復習と予習で毎回 90 分程度時間を要します。

【テキスト（教科書）】

フランス語 1 I と同じテキスト

【参考書】

特に指示する参考書はありません

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 またはまとめの課題 70 %、課題または小テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

課題の量を少し増やし、学生たちのさらなる文法理解につなげていきたい

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for a elementary french grammar.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 M

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人を対象とするクラスです。フランス語に親しみながら、基本的な語彙と文法を学習します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書いて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

まず教師が文法事項を解説し、全員で教科書の例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題は基本的に「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーションとアルファベ	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。アルファベ。
2 回目	フランス語の音。第 1 課。	アルファベ、フランス語の音、名詞。
3 回目	第 1 課続き。第 2 課。	冠詞、主語人称代名詞、動詞「～である」
4 回目	第 3 課。	動詞「持つ」、否定
5 回目	第 4 課。	部分冠詞、形容詞
6 回目	第 5 課。	第一群規則動詞、疑問文
7 回目	第 6 課。	指示形容詞、所有形容詞
8 回目	第 7 課。	「行く」と「来る」、縮約
9 回目	第 8 課。	近接未来と近接過去、非人称
10 回目	発音のまとめ	綴り字の読み方のまとめ
11 回目	第 9 課。	第二群規則動詞、命令法
12 回目	第 10 課。	疑問形容詞、疑問代名詞
13 回目	第 10 課続き。復習。	疑問代名詞（続き）、疑問副詞
14 回目	期末試験。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の練習問題は基本的に「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新・フランス語文法の〈基礎〉』、太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』森本・三野著、駿河台出版社、1900 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC スコアも「975 点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

This is a course for students who start to study French. You will learn especially French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 M

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基本的な語彙と文法を学びます。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

まず教師が文法事項を解説し、全員で教科書の例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題は基本的に「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	第 1 1 課。	目的格人称代名詞
2 回目	第 1 2 課。	代名動詞
3 回目	第 1 3 課。第 1 4 課。	複合過去（1）
4 回目	第 1 4 課続き。	複合過去（2）
5 回目	第 1 5 課。	半過去
6 回目	第 1 6 課。	比較と最上級
7 回目	第 1 7 課。	単純未来
8 回目	第 1 8 課。	中性代名詞
9 回目	第 1 9 課。	関係代名詞 qui 、 que
10 回目	第 1 9 課続き。	関係代名詞 dont 、 où
11 回目	第 2 0 課。	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
12 回目	第 2 1 課。	条件法
13 回目	第 2 2 課。	接続法
14 回目	期末試験。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の練習問題は基本的に「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新・フランス語文法の〈基礎〉』、太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）と平常点（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC スコアも「975 点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn especially French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 R・T・U～W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験5級ならびに4級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベット
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第1群規則動詞、第2群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018年、2300円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 R・T・U～W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験4級ならびに3級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018年、2300円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

営 1 年 A～E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を基礎から学ぶ。

【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）4級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業の場合、文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行うが、その際、まず声を出して発音することに留意し、授業を進める。なお、質問等は授業時間内にフィードバックを行う

春学期は、コロナ・ウイルスの影響により、学習支援システム（Hoppii）にてオンデマンド授業を行う予定だが、その際音声練習はテキスト添付の CD を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語の綴りの読み方と発音	アルファベ、綴り字記号、母音字・子音字の読み方の規則解説と発音練習。
第 2 回	よく使う表現とあいさつ	フランス語の読み方・発音まとめ、発音の復習と補足的解説。
第 3 回	1 課：名詞と冠詞	名詞、不定冠詞、定冠詞、リエゾン、アンシェヌマン、エリズイオンの解説、問題練習。
第 4 回	2 課：動詞 être	主語人称代名詞の解説、être の直説法現在、問題練習。
第 5 回	2 課：動詞 avoir	avoir の直説法現在、il y a の表現、問題練習とディクテ。
第 6 回	3 課：第 1 群規則動詞、否定形、疑問形、数詞	事項解説と問題練習、そのほか月日の表現。
第 7 回	3 課：疑問形、数詞	事項解説と問題練習、ディクテ。
第 8 回	4 課：形容詞	形容詞の性数一致の原則、位置、問題練習。
第 9 回	5 課：指示形容詞・所有形容詞、強勢形	事項解説と問題練習、そのほか曜日表現。
第 10 回	5 課：第 2 群規則動詞	事項解説、数字、問題練習、ディクテ。
第 11 回	6 課：動詞の aller と venir、定冠詞の縮約、命令法	事項解説、国名と前置詞、近接未来と近接過去、問題練習、ディクテ。
第 12 回	7 課：不規則動詞 prendre と faire、非人称構文、疑問形容詞	事項解説、天候表現、時間表現、週・月・曜日・日付の表現、ディクテ。

- 第13回 8課：疑問代名詞・疑問副詞、事項解説、さまざまな否定表現、数字、問題練習、ディクテ。
- 第14回 目指そう仏検4級 主要な動詞の直説法現在の活用とまとめ問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は復習に重点をおくこと、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、平常点30%と期末試験70%で評価する。コロナウイルスの影響でオンデマンド授業の場合は、3回の課題提出を総合して100%評価を行う。具体的には、学習支援システムでその都度お知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French grammar.

LANf100LA

フランス語1Ⅱ

2017年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

単位数：1単位

営1年A～E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）3～4級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行う。その際、フランス語を正確に発音できるように指導する。質問等は基本的に授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	9課：動詞 <i>vouloir</i> , <i>pouvoir</i> , <i>devoir</i> . 補語人称代名詞	事項解説、補語人称代名詞の位置と語順、問題練習。
第2回	10課：比較	復習問題と補足解説。
第3回	10課：現在分詞とジェロンディフ	事項解説、位置を示す前置詞、問題練習。
第4回	11課：中性代名詞	事項解説と問題練習。
第5回	11課：動詞 <i>savoir</i> と <i>connaître</i>	事項解説、さまざまな数量表現、ディクテ。
第6回	12課：複合過去（1）	直説法複合過去形の解説、問題練習。
第7回	12課：複合過去（2）	時の表現、時を表す前置詞、ディクテ。
第8回	13課：関係代名詞	事項解説、問題練習。
第9回	13課：受動態、強調構文	事項解説、問題練習。
第10回	14課：代名動詞	事項解説、問題練習、ディクテ。
第11回	15課：半過去、大過去、単純未来、前未来	事項解説、問題練習、ディクテ。
第12回	16課：関係代名詞、所有代名詞、条件法	事項解説、問題練習、ディクテ。
第13回	17、18課：直接話法と間接話法、接続法	事項解説、問題練習、ディクテ。
第14回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期は、予習中心の準備学習に切り替えること、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）と到達目標に関する期末試験（70％）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

営 1 年 F～R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bonjour! Bonjour! フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。

フランス語の発音のしくみを理解し、挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

【到達目標】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、スペルが読めるようになる。
2. 挨拶が交わせるようになる。
3. 文法の仕組みの基礎が理解できるようになる。
4. フランス語の検定試験の 5 級が取得できるレベルに達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定された学内の教室で対面授業を行います。

授業の最初に小テストを行い、その後、文法を中心にテキストに沿って授業を進めます。テキストやプリントの練習問題に取り組んで復習してください。練習問題に取り組むことが理解するのにとても大切です。予習は特に必要ありません。

課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。

kaz.obata@nifty.com

出席は全授業回数の 3 分の 2 以上が必要です。

授業開始時間後 30 分以内が出席扱いとなり、それ以降は欠席扱いとなります。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。その場合は、Hoppii の掲示板を用いて授業内容を文章で説明し、小テストを行います。小テストの回答は上記のメールアドレス宛にお送りください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簡単な挨拶表現 発音の仕組み	挨拶表現の発音練習をする 発音の仕組みを理解する
2	1 課	身近なものを提示する。 数 (0 - 20)
3	2 課	人や物の特徴を伝える。
4	3 課	持っている物、欲しい物を伝える。 自己紹介をする (1)。
5	4 課	好き嫌いを尋ね、答える。 日付や曜日を尋ね、答える。
6	5 課	自己紹介をする (2)。家族について伝える。
7	6 課	職業や趣味についてやりとりする。
8	中間テスト	6 課までの復習テスト
9	7 課	行く場所、これからすることを伝える。ホテルの部屋を予約する。

10	8 課	出身地を伝える。少し前にしたことを伝える。買いたい品物を伝える。
11	9 課	代名詞を使ってやりとりする (1)。簡単なメールを書く。
12	10 課	代名詞を使ってやりとりする (2)。天候について話す。料理の材料を伝える。
13	11 課	1 日の過ごし方を伝える。
14	期末テスト	7 課から 11 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】

『フランス語をひとつひとつわかりやすく』、学研、1,650 円

【成績評価の方法と基準】

前提として出席が全体の 3 分の 2 以上が必要です。成績は、小テストと中間・期末テストによって総合的に評価します。小テストの合計点が 20 点、中間・期末試験が各 40 点として合計 100 点です。60 点以上が単位取得には必要です。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一步一步着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください！

【Outline and objectives】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、発音できるようにする。
2. フランス語の文法の構造を理解し、習得する。
3. フランス語の文章が読めるようになるための基礎固めをする。
4. フランス語で会話ができるようになるための練習をする。

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

営 1 年 F~R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

【到達目標】

フランス語初級文法を身につける。
会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

指定された教室で対面授業を行います。

毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説明します。練習問題が宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の授業で確認します。

課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。

kaz.obata@nifty.com

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	12 課	過去にしたことを伝える (1)
2	13 課	過去にしたことを伝える (2)
3	14 課	市場で買い物をする。代名詞を使ってやりとりをする。
4	15 課	比較級や最上級の表現を使う。
5	16 課	関係代名詞を用いて尋ね、答える。
6	中間テスト	12 課から 16 課までの復習テスト
7	17 課	昔のことを伝える。過去の出来事 の背景を伝える (1)
8	17 課	昔のことを伝える、過去の出来事 や背景を伝える (2)
9	18 課	予定していることを伝える (1)
10	18 課	予定していることを伝える (2)
11	19 課	自分の理想を伝える (1)
12	19 課	自分の理想を伝える (2)
13	20 課	嬉しいこと、望むことを伝える。
14	期末テスト	17 課から 20 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フランス語初級文法を身につけてください。

また、役に立つ会話表現を覚えてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】

『フランス文法 はじめての練習帳』、中村敦子、白水社、1,760 円

【成績評価の方法と基準】

小テストが 20 点、中間・期末テストが各 40 点、合計 100 点です。60 天以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出席して、楽しみながら勉強を続けてください。

【Outline and objectives】

Following the Spring semester, you will acquire elementary French grammar and broaden the range of communication.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

営 1 年 S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間でフランス語の初級文法の習得を目指す。春学期は、初歩的な文法事項を学んでいく。文法事項をよく復習し、一つ一つをきちんと理解しながら進んでいくことが大事になる。

【到達目標】

春学期は、名詞、冠詞、形容詞、動詞の現在形などの文法事項を学ぶ。春学期が終了した段階で、動詞を現在形で正しく活用させて、簡単なフランス語の文が作れるレベルにまで到達することを目標とする。学期末試験では、そのレベルに達しているかを確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語の文法事項を解説し、練習問題に取り組んでもらう。そして学生を指名して答えてもらう形で、練習問題の答えを合わせをしていく。その際、学生からの質問を受け付ける。

また、適宜、小テストを実施し、正誤の確認をしたのち、返却する。なお、授業内容に関する質問は、メールでも受け付ける。

この授業は教室での対面で行うが、もし大学の定める行動指針がレベル 2 以上になった場合には、オンラインで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課 フランス語の文字と発音など	フランス語のアルファベットの発音を確認し、覚えてもらう。
第 2 回	第 2 課 フランス語の名詞と冠詞	フランス語の名詞には性と数があることや、三種類の冠詞について説明する。
第 3 回	第 3 課 主語人称代名詞と基本動詞	主語人称代名詞の使い方と基本動詞の活用について説明する。
第 4 回	第 4 課 形容詞と否定文	形容詞の使い方と否定文の作り方を説明する。
第 5 回	第 5 課 第 1 群規則動詞と疑問形	第 1 群規則動詞の活用と疑問形の作り方を説明する。
第 6 回	第 6 課 指示形容詞、所有形容詞、第 2 群規則動詞	指示形容詞と所有形容詞の使い方、第 2 群規則動詞の活用について説明する。
第 7 回	第 7 課 疑問形容詞 名詞と形容詞の女性形の特殊形など。	疑問形容詞の使い方、名詞と形容詞の女性形の特殊形などについて説明する。
第 8 回	第 8 課 aller、venir の現在形。 近接未来、近接過去	二つの重要動詞の活用、近接未来と近接過去の作り方、使い方について説明する。
第 9 回	第 9 課 疑問代名詞と疑問副詞	疑問代名詞と疑問副詞の使い方について説明する。

第10回	第10課 比較級と最上級 強勢形	比較級と最上級の作り方、強勢形の使い方について説明する。
第11回	第11課 命令法 非人称構文	命令形の作り方、非人称構文の使い方について説明する。
第12回	2課から6課までの復習	動詞の活用を覚えているかなどを確認する。
第13回	7課から11課までの復習	文法事項の再確認を行う。
第14回	最後のまとめ	総復習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習よりも復習に重点をおいて、習った動詞の活用や文法事項をしっかり覚える。また、各自で練習問題に取り組む。予習復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ラ・フォーレ』森繁著 朝日出版社 2200円

【参考書】

仏和辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う小テストを30%、学期末試験を70%とし、合算して100点満点中、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は難しいという意見が多いので、できるだけ分かりやすい説明をするよう努力したいと思う。

【Outline and objectives】

Students aim to learn elementary grammar in French in on year. In the spring semester, students will learn elementary grammar.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1単位

営1年S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、フランス語の初級文法の習得を目指す。秋学期は、動詞の過去形や未来形などを学習し、フランス語の文章を読むための文法事項の完全理解を図る。

【到達目標】

秋学期は、代名動詞、複合過去、半過去、単純未来、条件法など、動詞関係の文法事項を学ぶ。また、関係代名詞なども学習する。最後まできちんと取り組んでいけば、初級文法の主要な項目を習得することができる。学期末テストでは、動詞の活用を中心に、重要事項を確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期と同様、フランス語の文法事項を解説し、練習問題に取り組んでもらう。そして学生を指名して答えてもらう形で、練習問題の答えを合わせをしていく。その際、学生からの質問を受け付ける。また、適宜、小テストを実施し、正誤の確認をしたのち、返却する。なお、授業内容に関する質問は、メールでも受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第12課 目的語人称代名詞	目的語人称代名詞について説明する。
第2回	第13課 複合過去	複合過去の作り方と使い方を説明する。
第3回	第14課 代名動詞	代名動詞の活用と使い方について説明する。
第4回	第15課 関係代名詞	関係代名詞の使い方について説明する。
第5回	第16課 半過去	半過去の活用と使い方について説明する。
第6回	第17課 受動態 現在分詞とジェロンディフ	受動態の作り方、現在分詞とジェロンディフの使い方について説明する。
第7回	第18課 単純未来	単純未来の活用と使い方について説明する。
第8回	第19課 条件法現在	条件法現在の活用と使い方について説明する。
第9回	第20課 接続法現在	接続法現在の活用と使い方について説明する。
第10回	補遺 所有代名詞 強調構文 関係代名詞	所有代名詞、強調構文、関係代名詞（残り）について説明する。
第11回	補遺 単純過去 前過去	単純過去、前過去の活用と使い方について説明する。
第12回	第12課～第16課の復習	練習問題などを行って、文法事項の復習をする。

第13回 第17課～第20課の 練習問題などにより、文法事項の
復習 復習を行う。

第14回 最後のまとめ 文法事項の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習よりも復習に重点をおいて、習った文法事項をしっかりと理解して、覚える。予習復習時間は、各2時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】

『ラ・フォーレ』森繁著 朝日出版社 2200円

【参考書】

仏和辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う小テストを30%、学期末試験を70%とし、合算して100点満点中、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期の文法事項が頭に入らない学生が多いようなので、途中で挫折しないよう工夫したいと思う。

【Outline and objectives】

Students aim to learn elementary grammar in French in one year. In the fall semester, students will try to understand the grammar necessary to read French sentences.

LANf100LA

フランス語2 I

2017年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：1単位

法1年E・F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppiなどを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLEN+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、期末テスト60点

【学生の意見等からの気づき】

無い

【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 E・F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの 4 つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions
2	Leçon 11	まとめ② Révisions
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI /

ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法 1 年 T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

【到達目標】

フランス語の綴りをみて発音できるようにする。
フランス語の文章をみて意味ができるようになる。
フランス語の会話文をきいて、それを理解して、フランス語で返事できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業スタイルについて（小生が高齢で基礎疾患を持っているため、変則的なスタイルになります）

第1回と第2回の授業は教室で対面授業を実施してまずはクラス作りに努めます。

第3回目以降は同じ教室に集まっていたいで、みなさんは PC 持参で、オンラインライブの授業を行います。Zoom 利用を見込んでいます。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション zoom オンラインで 授業 URL は Hoppii に掲載します	年間授業内容の説明 成績評価の方法 アルファベの発音
2	発音の練習 1 対面授業です。教室は 大学からの指示に従って ください。	基本的な挨拶
3	発音の練習 2 対面授業です。教室は 大学からの指示に従って ください。	1 課 提示の表現
4	名詞と冠詞 4 回目以降は全て Zoom オンラインで授 業	「やせるって簡単？」
5	主語人称代名詞	2 課 疑問文
6	動詞 vouloir の使い方	「きみやせたいの？」
7	動詞 être	3 課 形容詞
8	性数一致	「きみスマートだよね」
9	er 動詞	4 課 aimer の表現
10	不定冠詞	「きみたくさん食べるほう？」
11	動詞 pouvoir	5 課 動詞の不定法
12	定冠詞	「これは何ですか？」

13 所有形容詞 6 課 目的語代名詞

14 前期のまとめ 会話表現のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の単語調べ。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フラ語ダイエット』（トレフル出版、2000 円 + 税、フランス図書経由）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンラインライブの授業が中心なので、期末テストをオンラインで行うことが難しいです。

授業開始時に行う 10 回行う小テストの合計点を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube などで映像を紹介する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知します。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【Outline and objectives】

Learn Franch by singing

By learning French, know the French culture.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法 1 年 T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業スタイルについて（小生が高齢で基礎疾患を持っているため、変則的なスタイルになります）

第 1 回と第 2 回の授業は教室で対面授業を実施してまずはクラス作りに努めます。

第 3 回目以降は同じ教室に集まっていたいただいて、みなさんは PC 持参で、オンラインライブの授業を行います。Zoom 利用を見込んでいます。

【到達目標】

フランス語の綴りをみて発音できるようにする。

フランス語の文章をみて意味ができるようにする。

フランス語の会話をきいて、それを理解して、フランス語で返事できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業スタイルについて（小生が高齢で基礎疾患を持っているため、変則的なスタイルになります）

第 1 回と第 2 回の授業は教室で対面授業を実施してまずはクラス作りに努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	後期ガイダンス	発音の復習 成績評価の方法
2	動詞 faire, aller	7 課 条件を表す
3	動詞 venir, prendre	「バッグの中にチョコ持ってる」
4	avoir+過去分詞	8 課 複合過去
5	être+過去分詞	「きみ何してるの？」
6	否定の表現	9 課 半過去
7	複合過去と半過去	「ある日、私はやせる決心をしました」
8	近接未来と単純未来	10 課 未来形
9	現在分詞と過去分詞	この春私はバりにいきました」
10	疑問形容詞	11 課 比較級・最上級
11	関係代名詞	「私はたくさん食べていました」
12	中性代名詞 en, y, le	12 課 条件法
13	疑問副詞・疑問代名詞	「私はいっそう幸せになる」
14	後期のまとめ	時制のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の単語調べ。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フラ語ダイエット』（トレフル出版、2000 円＋税、フランス図書経由）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンラインライブの授業が中心なので、期末テストをオンラインで行うことが難しいです。

授業開始時に行う 10 回行う小テストの合計点を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube などで映像を紹介する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Learn French by singing

By learning French, know the French culture.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

文 1 年 A・B

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初心者のための会話表現を身につける。あわせてフランス語圏の文化を紹介する。

【到達目標】

フランス語技能検定試験（仏検）4～3 級程度の会話表現に必要な知識を習得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業の場合、各課の例文を暗記し、つぎに文法事項を解説する。聞き取り問題を行い、フランス語の発音を学ぶ。質問等は基本的に授業時間内にフィードバックを行う。

なお、春学期は、コロナ・ウイルスの影響により、学習支援システム（Hoppii）にてオンデマンド授業を行う予定だが、音声練習はテキスト出版社のダウンロード・ストリーミングサービスを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 1	フランス語の音と文字.
第 2 回	Introduction 2	フランス語の発音規則.
第 3 回	第 1 課	例文暗記. 冠詞, 提示表現.
第 4 回	第 2 課	例文暗記. 主語人称代名詞. 直説法現在の être, avoir 動詞の活用.
第 5 回	第 2 課つづき	まとめ聞き取り問題. 形容詞. 国名. 数詞. 前置詞まとめ 1.
第 6 回	第 3 課	例文暗記. -er 動詞の活用.
第 7 回	第 3 課つづき	否定文・疑問文の作り方, 答え方. 前置詞まとめ 2. まとめ聞き取り問題. 前置詞のまとめ 2.
第 8 回	第 4 課	例文暗記. aller, venir の活用. 近接未来・過去の用法.
第 9 回	第 4 課つづき	前置詞と冠詞の縮訳形. 形容詞の位置と男性第 2 形をもつ形容詞. 不定代名詞の on. 聞き取り問題.
第 10 回	第 5 課	例文暗記. -ir 動詞の活用.
第 11 回	第 5 課つづき	所有形容詞. 強勢形人称代名詞. 不定代名詞. まとめ聞き取り問題.
第 12 回	第 6 課	部分冠詞. 指示形容詞.
第 13 回	第 6 課つづき	-re 動詞の活用. 使役構文. まとめ問題.

第 14 回 1～7 課までのまとめ まとめ総合問題.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例文をくりかえし暗唱し、書けるようになること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ディアグラム』（渡辺・須田著、三修社）

【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は、平常点 30 % と期末試験 70 % で評価する。
なお春学期は、オンデマンド授業となるため、成績は、3 回の課題提出を総合して 100 % 評価する。具体的に課題は、その都度、学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French conversation, while it will give you a French culture.

LANf100LA

フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

文 1 年 A・B

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初心者のための会話表現を身につける。あわせてフランス語圏の文化を紹介する。

【到達目標】

フランス語技能検定試験（仏検）4～3 級程度の会話表現に必要な知識を習得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期に続き、7 課以降の例文を暗記し、つぎに文法規則を解説する。聞き取り問題を行い、フランス語の発音を学ぶ。またフランス文化映像で実際のフランス語にふれ、それに馴染むように指導したい。なお、質問等は授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課	例文暗記。 疑問形容詞。非人称構文。 フランス文化映像。
第 2 回	第 7 課つづき	-re 動詞の直説法現在の活用 1。 月・曜日・季節のフランス語暗記。 補語と属詞。
第 3 回	第 8 課	例文暗記。 =re 動詞の直説法現在の活用 2。 疑問代名詞。 フランス文化映像。
第 4 回	第 8 課つづき	疑問代名詞の複合形。 疑問副詞。聞き取り問題練習。 フランス文化映像。
第 5 回	第 9 課	-oir 動詞の直説法現在の活用。補語人称代名詞 1。移動手段の表現。指示代名詞。前置詞のまとめ。
第 6 回	第 10 課	例文暗記。 命令法。補語人称代名詞 2。比較級。 フランス文化映像。
第 7 回	第 11 課	例文暗記。 最上級表現。 直説法複合過去と用法。
第 8 回	第 11 課つづき	受動態。 冠詞のイメージ。 フランス文化映像。
第 9 回	第 12 課	例文暗記。 直説法半過去形と用法。代名動詞の活用と用法。
第 10 回	第 13 課	例文暗記。 直説法単純未来と用法。中性代名詞と用法。 フランス文化映像。

第 11 回 第 14 課

例文暗記。
条件法現在・過去。
関係代名詞と用法。
強調構文。

第 12 回 第 15 課

例文暗記。
接続法と用法。
現在分詞とジェロンディフの用法。

第 13 回 まとめ

7～15 課までのまとめ問題。

第 14 回 期末試験

7～15 課までの筆記試験と聞き取り問題。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例文をくりかえし暗唱して、書けるようになること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ディアグラム』（渡辺・須田著、三修社）

【参考書】

フランス語ハンドブック（白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % と期末試験 70 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is for beginners who are learning a basic French conversation, while it will give you a French culture.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

文 1 年 E・F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

無い

【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ÉLÈVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

文 1 年 E・F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの 4 つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions
2	Leçon 11	まとめ② Révisions
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI /

ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

文 1 年 M

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

短いセンテンスのフランス語を繰り返し発話することで基礎的な会話文を丸覚えすること。

【到達目標】

簡単な日常会話の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の説明はなるべく最小限に抑え、とにかくフランス語を口にする機会を多く持ってもらいます。

学生諸君には授業への積極的参加が強制的に求められます。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

提出物は添削したのち次の授業で返却します。

質問などは授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課	挨拶をする 自己紹介をする
第 2 回	第 1 課	名前を聞く 名前、職業、国籍を言う
第 3 回	第 2 課	人について描写する 住んでいるところを詳しく言う
第 4 回	第 2 課	年齢を言う
第 5 回	第 3 課	自分のことを話す 他の人について話す
第 6 回	第 3 課	職業を聞く 否定する 質問をする
第 7 回	第 4 課	自分の好みについて話す
第 8 回	第 4 課	他の人の好みについて聞く 意見を言う
第 9 回	第 1 回小テスト（予定）	第 1 回小テスト（予定）
第 10 回	第 5 課	家族について話す 理由を言う、尋ねる
第 11 回	第 5 課	何かについて肯定的、否定的に話す
第 12 回	第 6 課	物の位置を言う 物の位置を聞く、質問に答える
第 13 回	第 2 回小テスト（予定）	第 2 回小テスト（予定）
第 14 回	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回暗唱の宿題が出ます。必ず覚えてくること。

【テキスト（教科書）】

『フランス語の方法（改訂版）』（駿河台出版社）を使用します。

【参考書】

授業中に指示することもあるでしょう。

【成績評価の方法と基準】

筆記の期末試験（50 %）と口頭の小テスト 2 回（各 25 %）でつけます。

この点数に平常点（出席点ではない）を加算して最終評価を下します。詳しくは第一回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

学生間で与えられら課題の難易度に差が出てきてしまう。なるべくそれを解消したい。

【Outline and objectives】

practice of basic french dialogue

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

文 1 年 M

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

なるべく落ちこぼれる学生を出さないように心がける。

【Outline and objectives】

practice of basic french dialogue

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、簡単な会話文の繰り返し発話練習です。

【到達目標】

基礎的な日常会話の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語 Ⅱ 同様、履修者には積極的な授業参加が求められます。文法説明もしますが、発話練習に多くの時間を割きます。提出物は添削したうえで次の授業で返却します。質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課	物を描写する 物の位置を聞く、質問に答える
第 2 回	第 7 課	物の色を聞く 着ているものについて話す
第 3 回	第 8 課	物の位置関係を言う
第 4 回	第 9 課	カフェで注文する
第 5 回	第 9 課	市場、パン屋などで買い物をする。
第 6 回	第 1 回小テスト（予定）	第 1 回小テスト（予定）
第 7 回	第 1 0 課	食生活について話す
第 8 回	第 1 0 課	統計について話す 自分の意見を言う
第 9 回	第 1 1 課	国について話す 天気を言う
第 10 回	第 2 回小テスト（予定）	第 2 回小テスト（予定）
第 11 回	第 1 2 課	誰が、どこへ、いつ、なぜ、どうやって行くか言う
第 12 回	第 1 2 課	道を尋ねる
第 13 回	第 1 3 課	時刻を言う 電車の切符を買う
第 14 回	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語 Ⅱ 同様、暗唱の宿題が毎回出ます。必ず丸暗記してください。

【テキスト（教科書）】

『フランス語の方法（改訂版）』（駿河台出版社）を使用します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

筆記の期末試験（50%）と口頭の小テスト2回（各25%）でつけます。

それに平常点を加味して最終的な評価を下します。

詳しくは教室で説明します。

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

文 1 年 R・T・U～W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】

フランス語で挨拶をする、自己紹介するなどの、初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行ってもらおう。なお、その際には、感染防止の飛沫対策をしっかりと行う。

また、随時、フランス語の聞き取りテストを行い、正誤を確認した上で返却する。

なお、授業内容に関する質問などは、授業内で受け付ける。また、メールでも受け付ける。

この授業は教室での対面で行うが、もし大学の定める行動指針がレベル 2 以上になった場合には、オンラインで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベットなど
2	1 課 会話表現	フランス語で自己紹介をする。国籍を言う。元気かどうかを聞く。
3	1 課 文法	練習問題 数字 1～20
4	2 課 会話表現	フランス語で職業を言う。 住所を言う。
5	2 課 文法	練習問題 数字 21～30
6	3 課 会話表現	フランス語で国籍を言う。 カフェで注文する。
7	3 課 文法	練習問題 数字 31～69
8	4 課 会話表現	フランス語で、年齢を尋ねる、答える。
9	4 課 文法	練習問題 数字 0～69 の復習
10	5 課 会話表現	フランス語で、人物を描写する。 国名を言う。
11	5 課 文法	練習問題 フランス語でインタビュー
12	6 課 会話表現	フランス語で、「これは何ですか」と尋ねる、答える。
13	6 課 文法	練習問題 数字 70～100
14	最後のまとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤールほか著 朝日出版社 2400 円

【参考書】

仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う口頭テストの評価（70%）と、平常点（30%）を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline and objectives】

In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

文 1 年 R・T・U～W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】

フランス語で買い物をするときや、友人と話すときなどに使う初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行ってもらう。その際には、感染防止の飛沫対策をしっかりと行う。

また、随時、フランス語の聞き取りテストを行い、正誤を確認した上で返却する。

なお、授業内容に関する質問などは、授業内に受け付ける。また、メールでも質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7 課 会話表現	フランス語で好き嫌いを言う。
2	7 課 文法	練習問題 Il y a など
3	8 課 会話表現	フランス語で天気を尋ねる、答える。
4	8 課 文法	練習問題 比較級など
5	9 課 会話表現 文法	フランス語でどんなスポーツをするかを言う。 練習問題
6	10 課 会話表現 文法	フランス語で人を誘う、招待する。 練習問題
7	11 課 会話表現 文法	フランス語で時刻を言う。 練習問題
8	12 課 会話表現 文法	フランス語でアルバイトについて話す。 練習問題
9	13 課 会話表現 文法	フランス語で料理を注文する。 練習問題
10	14 課 会話表現	フランス語で過去のことを話す。
11	14 課 文法	練習問題 複合過去
12	15 課 会話表現	フランス語で未来のことを話す。

13 15 課 連数問題 近接未来

文法

14 最後のまとめ 総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤールほか著 朝日出版社 2400円

【参考書】

仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う口頭テストの評価（70%）と、平常点（30%）を合わせて100点満点とし、60点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline and objectives】

In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

JULIEN AGAESSE

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 A～E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語による会話と作文・読解、聴解等のスキルを伸ばすこと。授業を通して、フランスやフランコフォニーとその文化を発見してください。

【到達目標】

フランス語で表現する練習を通じて、文法・語彙を血肉にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文章と口頭のスキルを練習して、文法と語彙を吸収させます。グループワーク、簡単なプレゼンテーション、ゲーム、リスニング等。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

また、授業や宿題には GoogleClassroom を使用します。

さらに、学期途中に小テストを課すことがあります。

この学期中、オンラインコースを受講する必要がある場合は、ズーム（オンライン教室）を使用します。プログラムをコンピューターにダウンロードする必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Initiation 1	授業の紹介
2	Initiation 2	挨拶
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいる所
4	Leçon 1	前のレッスンで見た要素の再利用
5	Leçon 2	数字、将来の職業
6	Leçon 2	レッスンで見た要素の再利用
7	Leçon 3	情報を尋ねる、フランコフォニーについて
8	Leçon 3	前のレッスンで見た要素の再利用
9	Leçon 4	好みについての話
10	Leçon 5	前のレッスンまでに学んだ要素の再利用
11	Leçon 6	好きな物事について話す
12	Leçon 6	人の身体の説明
13	復習	テストの準備のための復習
14	試験	最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・復習として、作文練習や単語、文法の問題などを与える可能性がある。

・マニュアルや資料で理解の問題がないか必ず確認してください。

・わからない言葉、意味、発音は必ず検索してください。

【テキスト（教科書）】

Titre : Interactions 1 (A1.1) -2e édition- / Livre + Livret de corrigés et transcriptions

(音声・映像ダウンロード式)

Auteur(s) : Gael Crépieux, Olivier Massé, Jean-Philippe Rousse

Editeur : CLE international - 2e édition (16 août 2019)

Langue : Français

ISBN : 978-2090386974

Niveau : A1.1

【参考書】

レッスン中に参考資書を伝えます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの出席と態度 20 %

宿題、発表等 20 %

Quiz 30 %

試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学のインターネットプラットフォームを介して学生にドキュメントを配る場合があります。Google ドライブと Google classroom も使用します。

第 1 回目の授業は、Zoom プログラムを使ってオンラインで行います。ログイン情報は 4 月 3 日にお渡しします。パソコンやタブレットに Zoom ソフトをインストールしてください。

【その他の重要事項】

特になし

第 1 回目の授業は、Zoom プログラムを使ってオンラインで行います。ログイン情報は 4 月 3 日にお渡しします。パソコンやタブレットに Zoom ソフトをインストールしてください。

授業は隔週で Zoom のオンラインで行われます。詳細は第 1 回目の授業でお伝えします。

【Outline and objectives】

自己紹介、自分の好み、日常生活について話すことができるようになる

LANf100LA

フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

JULIEN AGAESSE

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

当 1 年 A～E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語による会話と作文・読解、聴解等のスキルを伸ばすこと。授業を通して、フランスやフランコフォニーとその文化を発見してください。

【到達目標】

フランス語で表現する練習を通じて、文法・語彙を血肉にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文章と口頭のスキルを練習して、文法と語彙を吸収させます。グループワーク、簡単なプレゼンテーション、ゲーム、リスニング等。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

また、授業や宿題には GoogleClassroom を使用します。

さらに、学期途中に小テストを課すことがあります。

この学期中、オンラインコースを受講する必要がある場合は、ズーム（オンライン教室）を使用します。プログラムをコンピューターにダウンロードする必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 Révisions	復習
2	leçon 7	国と観光地、フランス語の指示形容詞を解説
3	leçon 7	前のレッスンで見た要素の再利用
4	leçon 8	道を尋ねる
5	leçon 8	前のレッスンで見た要素の再利用
6	leçon 9	地元の活動や特産品についての話
7	leçon 9	前のレッスンで見た要素の再利用
8	leçon 10	日常の活動
9	leçon 10	前のレッスンで見た要素の再利用
10	leçon 11	毎日の活動
11	leçon 11	前のレッスンで見た要素の再利用
12	leçon 12	友達を招待する
13	Révisions 復習	テストのための練習
14	試験	最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・復習として、作文練習や単語、文法の問題などを与える可能性がある。

・マニュアルや資料で理解の問題がないか必ず確認してください。

・わからない言葉、意味、発音は必ず検索してください。

【テキスト（教科書）】

Titre : Interactions 1 (A1.1) -2e édition- / Livre + Livret de corrigés et transcriptions
(音声・映像ダウンロード式)

Auteur(s) : Gael Crépieux, Olivier Massé, Jean-Philippe Rousse

Editeur : CLE international - 2e édition (16 août 2019)

Langue : Français

ISBN : 978-2090386974

Niveau : A1.1

【参考書】

レッスン中に参考資書を伝えます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの出席と態度 20 %

宿題、発表等 20 %

Quiz 30 %

試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学のインターネットプラットフォームを介して学生にドキュメントを配る場合があります。Google ドライブと Googleclassroom も使用します。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

自己紹介、自分の好み、日常生活について話すことができるようになる

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 F~R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはフランス語運用能力を養うことを目的としています。とりわけ基礎的なフランス語を「話す力」、「聞く力」をバランスよく、着実に身につけていきます。

【到達目標】

まずフランス語の読み方に慣れることから始め、簡単な日常会話での表現、基本動詞を用いた会話のための文章作成を学んでいきます。これにより学生のみなさんは日常の様々な場面において使用できるフランス語の表現と文章を会話に取り入れていくことが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業である場合には演習形式で進めていきます。授業中に学習した表現等を用いて、簡単なフランス語を用いて会話をおこなっていきます。同時にリスニングにも注力していきます。また場合によっては対面授業と遠隔授業を組み合わせた形の授業になることもあります。この場合には対面授業、オンデマンド、Zoom による授業を組み合わせ実施してまいります。なお、基本的には授業時間内にフィードバックをしますが、LMS などを活用することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	フランス語の読みと発音	母音字と子音字の基本的な読み方を学習します
2 回	フランス語の読みと発音	鼻母音と注意する必要がある子音を集中的に学習します
3 回	フランス語の文章の読み	第 1 回、2 回の授業で学習した内容をふまえて、フランス語の文章を正しく読めるようにしていきます
4 回	簡単な表現	ごく簡単な挨拶の表現を学習し、主語人称代名詞を覚えます
5 回	冠詞や前置詞	定冠詞と日常よく用いる前置詞を学習し、会話の中で使っていきます
6 回	基本動詞の一つを学ぶ	Etre 動詞を学び、様々な会話のバリエーションに用いていきます
7 回	疑問文の作り方	3 種類の疑問の形を覚え、簡単な疑問文の作成と答え方を学びます
8 回	疑問副詞と名前を言う表現	場所をたずねる疑問の形と名前を答える表現などを学びます
9 回	2 つの冠詞と否定形	不定冠詞と部分冠詞の用法を学び、これを用いた会話文の作成をします。また否定の形もあわせて学習します。
10 回	基本動詞の使い方	Avoir 動詞を学び、この動詞を用いた様々な表現を用いて会話をします

11 回	否定のバリエーション	様々な否定の表現を学習し、文章を作成してみます
☑ 回	第 1 群規則動詞	規則動詞の活用を練習し、会話の中で使えるようにします
13 回	指示形容詞	前回の復習で規則動詞を用いた会話の練習と指示形容詞の用法を学習します
14 回	前期の振り返りと解説	前期に学習した内容をテストの形式でチェックし、その後、解説をしていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回復習のための課題をだします。また次回の授業のために必要な語彙や表現を予めまとめておいていただきます。予習と復習をあわせて約 90 分を必要とします。

【テキスト（教科書）】

『ヌーヴォー!』小倉博史、朝日出版社、2015 年

【参考書】

とくに指定はしません

【成績評価の方法と基準】

期末テストまたはまとめの課題 65 %、小テストまたは課題の提出 35 %

【学生の意見等からの気づき】

課題や小テストの量と機会を増やしていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

営 1 年 F~R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは引き続き初歩のフランス語の「話す力」と「聞く力」をつけていきます。

【到達目標】

学生はこのクラスを履修することで、フランス語 II 1 に引き続いてフランスでの日常会話に必要な表現や語句を覚えてき、様々な生活場面でフランス語での表現が出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業である場合は演習形式で授業を進めていきます。遠隔授業の場合には対面授業、オンデマンドそして Zoom による授業を組み合わせた形で実施する予定です。基本的に授業時間内にフィードバックを行います。LMS などを活用する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	所有形容詞と場所の前置詞	所有形容詞の用法を学び、それを会話の中で使っていきます。また場所の前置詞も覚えます。
2 回	品質形容詞と疑問形容詞	形容詞の基本的な使い方と疑問形容詞の用法を学び、会話の中で使ってみます。
3 回	年齢の表現、数詞と命令形	年齢を訪ねる表現と数の表現を学び、実際に会をしてみます。また命令形の用法も学習します。
4 回	時間や天気の表現	時間をたずね、それに答える表現を学びます。
5 回	形容詞と副詞の比較級、最上級	比較級と最上級の用法を学び、会話の中で文章を作成していきます
6 回	単純未来と近接未来	2 つの未来形の形を学習し、実際に会話で使ってみます。
7 回	疑問代名詞	「ひと」と「もの」をたずねる疑問代名詞を学び、質問に的確に答えられるようにします。
8 回	複合過去形（1）と近接過去	2 つの過去形の形と用法を学びます。そして実際に会話のなかで使ってみます。
9 回	複合過去形（2）	前回は引き続き複合過去形を学習し、会話での使用を更に進めていきます。
10 回	曜日、月、四季の表現。	7 曜日、12 カ月そして四季の言い方を学び、正しく発音できると同時に書けるようにする。
11 回	直説法半過去	半過去の用法を学び、複合過去との使い分けを意識しながら、会話の中で表現してみる。
12 回	条件法現在	主として会話で用いる「丁寧な表現」としての条件法を学び、会話の中で使ってみる。

- 13 回 不規則動詞 代表的な不規則動詞の活用を覚え、会話の中で使ってみる。
- 14 回 振り返りと解説 学期末テスト実施し、その後解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回復習のための課題を出します。記述式のものとなる予定です。

【テキスト（教科書）】

フランス語 Ⅱ I のテキストを継続使用します。

【参考書】

とくに指定はしません。

【成績評価の方法と基準】

期末テストまたは課題のまとめ 70 %、小テストまたは課題の提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

会話の小テストを適宜実施していく。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

当 1 年 S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人を対象とするクラスです。フランス語に親しみながら、最初歩のフランス語会話の習得を目指します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞いて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項は最低限にとどめ、基本表現を応用変化させながら、初歩的なフランス語会話力の習得を目指します。教科書の練習問題は基本的に「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、フランス語の挨拶。	授業の進め方と成績のつけ方。フランス語の挨拶。
②	Leçon 1	アルファベ。挨拶。
③	Leçon 1	アルファベ。自分の名前と国籍を言う。
④	Leçon 2	職業を言う。
⑤	Leçon 2	住所を言う。
⑥	Leçon 3	注文する。
⑦	Leçon 3	否定文。
⑧	Leçon 4	「～を持っていますか」
⑨	Leçon 4	「～を持っています／持っていない」
⑩	Leçon 5	第三者について質問する。
⑪	Leçon 5	第三者について返答する。
⑫	Leçon 6	「～は何ですか」
⑬	Leçon 6	「～はどこですか」
⑭	期末テスト。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新装 カフェ・フランセ』、ガイヤール、加藤、中川他著、朝日出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）と平常点（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ペアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEIC のスコアも 975 点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

This is a course for students who start to study French. You will learn especially French conversation.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なフランス語会話力の習得を目指します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項は最低限にとどめ、基本表現を応用変化させながら、初歩的なフランス語会話力の習得を目指します。教科書の練習問題は基本的に「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Leçon 7	好みを言う
②	Leçon 7	存在を言う
③	Leçon 8	着ているものを言う
④	Leçon 8	天気を言う
⑤	Leçon 9	スポーツは～をします
⑥	Leçon 9	朝食には～を食べます
⑦	Leçon 10	曜日/場所を言う
⑧	Leçon 10	交通手段を言う
⑨	Leçon 11	時刻を言う
⑩	Leçon 11	日常生活について
⑪	Leçon 12	目的格代名詞
⑫	Leçon 12	目的格代名詞（続き）
⑬	Leçon 12	仕事について
⑭	期末テスト。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新装 カフェ・フランセ』、ガイヤール、加藤、中川他著、朝日出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）と平常点（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ベアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn especially French conversation.

LANf100LA

フランス語(1) I

2017年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline and objectives】

To learn the Elementary grammar of French

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学びます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項のサポートをおこないながら、授業を進めていきます。

【到達目標】

フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。また、同時にパートナーを組んでいるフランス人の先生の文法事項についても解説します。

まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。作文については、添削を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第 2 回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第 3 回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第 4 回	L2 演習	L2 の練習問題
第 5 回	L3 動詞 1	動詞の活用
第 6 回	L3 演習	L3 の練習問題
第 7 回	L4 動詞 2	2つの規則動詞
第 8 回	L4 演習	L4 の練習問題
第 9 回	L5 不規則動詞	ALLER VENIR
第 10 回	L 5 演習	L5 練習問題
第 11 回	L6 形容詞	指示形容詞 所有形容詞
第 12 回	L6 演習	練習問題
第 13 回	L7 代名詞	疑問代名詞 関係代名詞
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
— 言語と文化で学ぶ新フランス語文法 —

【参考書】

授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 % 平常点 20 %

LANf100LA

フランス語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法1年Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【その他の重要事項】

個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline and objectives】

To learn the Elementary grammar of French

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ひきつづきコンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項を説明しながら、フランス語の初級文法を教えていきます。

【到達目標】

フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項について解説を行いながら、体系的に文法を解説して行きます。

まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。作文について、添削を行います。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	L8 人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第2回	L8 演習	L8 練習問題
第3回	L9 複合過去	複合過去について
第4回	L9 演習	練習問題
第5回	L10 代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第6回	L10 演習	練習問題
第7回	L11 未来形	単純未来
第8回	L11 演習	練習問題
第9回	L12 過去形	半過去・大過去
第10回	L12 演習	練習問題
第11回	L13 条件法	条件法
第12回	L13 演習	練習問題
第13回	L14 接続法	接続法
第14回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ー

【参考書】

授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 80% 平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

LANf100LA

フランス語 (2) I

2017 年度以降入学者

村松 マリ=エマニュエル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの、会話表現の授業とする。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介する。「フランス語 1」と関連を図る。

【到達目標】

DELTA A1（フランス国民教育省が認定した公式フランス語資格）レベルの早期の到達を目指す。It is a course to prepare DELTA A1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書を使わず、プリントを配る。会話のモデルの発音の練習した後学生同士で会話を練習する。そして学生の好みに合わせて応用練習をする。

基本的に、授業時間内に課題のフィードバックを行うが、メールを活用する場合もある。You will not use text book but prints. You will learn small conversation model and practice with other student.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
回 1	挨拶・数 Greeting	授業の進め方・自己紹介・20までの数・フランスの地
回 2	職業 Profession	Introducing yourself 職業は何していますか？ 知っておきたい電話番号 What is your profession ?
回 3	国籍、年齢 Nationality, age	「政界の果ての通学路」フランス語の予告編 Looking at the french movie trailer of "On the way to scholl"
回 4	住んでいる場所 Your living place	町か田舎か、どこに住んでいますか？ Are you living in a town ? フランスの町の住宅
回 5	あなたの家 Your house	何階に住んでいますか？ Which floor do live on ? 住宅状況をい現してる表現
回 6	あなたの町 Your town	住んでいる町はどう思いますか？ How is your town ? パリの区の特徴
回 7	商店街の店 A shopping street's shops	パンは、どの店で買いますか？ At which shop do you buy bred ? フランスの商店街の店
回 8	カフェでの注文 Ordering on a coffee shop	フランスのカフェの飲み物と軽食 Drink and food in a french coffee shop
回 9	あなたの家族 Your family	兄弟姉妹いますか？ Do you have brothers and sisters ? フランスの家庭の種類
回 10	星座 Your zodiac sign	あなた、何座ですか？ What is your zodiac sign ? 幸運をもたらすお守り

回 11	好み Your liking	好みを言う Telling what you like 町のスポーツクラブ、音楽学校など
回 12	趣味 Your hobbies	趣味を言う Telling your hobbies ヴィデオ：フランスの小学生の好きな音楽
回 13	夏休み Summer holidays	フランス人の夏休みについてのアンケート Survey among the French's summer holidays
回 14	期末テスト Test	会話のテスト Oral test まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト使わず、プリントを配る No text book, prints

【参考書】

特になし Nothing

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % + 期末テスト 40 % Average in the class 60 %+ Oral test 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし Nothing

【学生が準備すべき機器他】

配られたプリントをしまうファイル。 Folder to file the prints

【その他の重要事項】

必要に応じて上記のプログラムを少し変更することがある I may modify the program in case of necessity.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

It is a conversation class for beginners with a presentation of the french life and culture. It is in relation with the class "French 1" (Furansugo 1).

LANf100LA

フランス語 (2) II

2017 年度以降入学者

村松 マリ=エマニュエル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春に続き、初心者向けの、会話表現の授業とする。時間の許す限り、フランスの文化や社会に関する情報を紹介する。「フランス語 1」との関連を図る。

【到達目標】

DELF A1 レベルへの早期の到達を目指す。It is a course to prepare DELF A1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書を使わず、プリントを配る。会話のモデルの発音の練習した後学生同士で会話を練習する。そして学生の好みに合わせて応用練習をする。基本的に、授業時間内に課題のフィードバックを行うが、メールを活用する場合もある。

You will not use text book but prints. You will learn small conversation model and practice with other students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
回 1	夏休みの感想 Your summer vacations	夏休みはいかがでしたか？ Did you enjoy your holiday ?
回 2	あなたの日曜日 Your Sunday	普通の日曜日には、何をしますか？ What do you do on Sunday, usually ? フランスの日曜日
回 3	駅で At the station	パリの駅 Paris's stations
回 4	時間 Hour	時間を言う Telling and asking the time. 時差、サマータイム time difference, summer time
回 5	電車の切符を買う Buying a train ticket	電車の時刻を読む Reading a rain time table
回 6	起きる、寝るなど Getting up, going to bed, etc ...	朝の支度をいう Telling about your preparation before going to school 歯ブラシなどの語彙
回 7	今日、何時に起きましたか？ At what time did you get up, today ?	起きると寝るに関する面白い表現 Expressions used for getting up or going to bed
回 8	あなたの朝食 Your breakfast	普段の朝ごはんは、何を食べますか？ What do you eat at breakfast ? フランスの朝食
回 9	ヴェジタリアン Vegetarian	ヴェジタリアン、ビーガン、と言う意味ですか？ Vegetarian, vegan, what does it mean ? 小学生新聞「ル・プティリベ」

回 10	アドバイス Advises	野菜を食べて！ スポーツして！ Eat vegetables ! Practice sport! 携帯電話の盗難ぼうしのアドバイス
回 11	どうぞ、ご自由にお取りください！ Please, help yourself !	フランスの食前酒について Aperitif, a french tradition
回 12	禁止する Forbid	入れない、禁止です。 Do not enter, it is prohibited. お酒とタバコの法律
回 13	フランス社会のルール French society rule	クイズ Quiz
回 14	期末テスト Test	会話のテスト Oral test まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書使わず、プリントを配る。No text book, only prints

【参考書】

特になし None

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % + 期末テスト 40 % Average in the class 60 % + test 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし None

【学生が準備すべき機器他】

配られたプリントをしまうファイル。Folder to file the prints.

【その他の重要事項】

必要に応じて上記のプログラムを少し変更することがある。I may modify the program in case of necessity.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

In continuation of the spring's semester, this class is a conversation class to learn basic french.

LANf100LA

フランス語 1

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 2・フランス語 5 とトリオの科目。初修フランス語学習者を対象とし、初歩のフランス語文法を体系的に学ぶ。

【到達目標】

SA アンジェに備え、春semester終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）5級合格、秋semester終了時には4級合格に相当する語学力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期初回授業日：4月22日。

フランス語 2 およびフランス語 5（ネイティブ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト 1】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をする。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】 2）も使用します。知識の定着のために時々小テストを行う。

宿題や小テストに関するフィードバックは授業や **hoppii** を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 1	-アルファベット -主語人称代名詞 -s'appeler（名前を言う）
2	Leçon 1	-動詞 être -qui を用いた疑問文
3	Leçon 2	-定冠詞と不定冠詞
4	Leçon 2	-形容詞の男性形／女性形 -前置詞
5	Leçon 3	-動詞 aller -所有形容詞 -疑問詞 quel(1)
6	Leçon 5	-定冠詞／不定冠詞のまとめ -Il y a -Qu'est-ce que～の使い方
7	Leçon 6	-人称代名詞強勢形 -動詞 avoir -否定文 -名詞と形容詞の性・数一致
8	Leçon 7	-疑問形容詞 quel(2) -comment と combien を用いた疑問文 -指示形容詞
9	Leçon 9	-様々な前置詞表現 -où を用いた疑問文
10	Leçon 10	-命令法 -前置詞と冠詞の縮約
11	Leçon 10	-動詞 prendre -中性代名詞 y
12	Leçon 11	-方角 -主語人称代名詞 on

13 期末テスト 筆記試験

14 まとめ -期末テストの返却・答え合わせ
-補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、付属の CD をよく聞き、声に出して読んで下さい。復習を必ず行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1) Guy Capelle, Robert Menand 『Le Nouveau Taxi! 1』 (Hachette)

2) 斎藤昌三『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2200 円+税)

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）40 %

期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

授業内で答え合わせができなかった宿題に関しては **hoppii** を通じて正答表か添削を配布する。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

LANf100LA

フランス語 3

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 4・フランス語 6 とトリオの科目。フランス語 1 から引き続き、基本フランフランス語文法を体系的に学ぶ。

【到達目標】

SA アンジェに備え、春semester終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）5 級合格、秋semester終了時には 4 級合格に相当する語学力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

フランス語 2 およびフランス語 5（ネイティブ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト 1】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をします。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】 2）も使用します。知識の定着のために時々小テストを行う。

宿題や小テストのフィードバックは授業や hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 13	-時間の言い方 -動詞 partir
2	Leçon 14	-動詞 faire - est-ce que を用いた疑問文 - 職業を表す名詞の性・数
3	Leçon 15	-動詞 lire, écrire -代名動詞
4	Leçon 15	-代名動詞 -faire + 部分冠詞 + スポーツ
5	Leçon 17	-部分冠詞 -動詞 boire, acheter
6	Leçon 18	-形容詞 beau の女性形・複数形 -複合過去 (1)
7	Leçon 19	-複合過去 (2) -前置詞 pour, dans を用いた時間の表現
8	まとめ・復習	複合過去
9	Leçon 21	-動詞 pouvoir -否定命令形
10	Leçon 21	-命令形における補語人称代名詞の位置
11	Leçon 22	-動詞 vouloir, savoir -非人称表現 Il faut～ -近接未来
12	Leçon 23	-動詞 connaître -補語人称代名詞
13	期末テスト	筆記試験
14	まとめ	-期末テストの返却・答あわせ -補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、付属の CD をよく聞き、声に出して読んで下さい。復習を必ず行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1) Guy Capelle, Robert Menand 『Le Nouveau Taxi! 1』 (Hachette)

2) 斎藤昌三『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2200 円+税)

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む） 40 %

期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Continued from French 1, this course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

LANf100LA

フランス語 2

2017 年度以降入学者

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 1（日本人教員）、フランス語 5（外国人教員）と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、フランス語の初歩～中級を学びます。表現としては自己紹介、人やものの描写、道順の尋ね方など、文法としては、人称代名詞、文法上の性、現在時制の動詞の活用などを学びます。通じる発音を身に着ける訓練もします。

【到達目標】

SA に行つて現地で生活し、学校で学ぶのに必要な知識と技能を身に着けることを目標とします。上記の事柄に関して、聞いてわかる、話す、読む、書くことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業を予定しています。

下記の教科書①（Nouveau Taxi）を 3 人の教員がリレーして担当します。全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行います。この教科書を SA 出発までの 1 年半（3 つのセメスター）で終わらせます。

私はさらに下記の教科書②を補助に用いて、特に文法を中心に担当します。この教科書により、初級、さらに中級の文法を、豊富な実例とともに体系的に学ぶことができます。

感染状況を踏まえて発音や聞き取りの訓練や模擬会話もできる限り行います。

皆さんは学習支援システムを通して課題を学期中に数回提出することになります。私はそれを添削してやはり学習支援システムを通じてお返しします。また学期末にはまとめの試験をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation・Unité 1 L0	授業の紹介 導入
	知っている単語はどれかな 数詞 アルファベット	フランス語版のキーボード配列
2	Unité 1 L1 : ようこそ	自己紹介/ 人称代名詞、規則動詞の現在時制、 基本動詞 être の単数
3	Unité 1 L2 : 誰ですか	誰ですか 男性名詞と女性名詞、不規則動詞
4	Unité 1 L3 : 元気？	不定冠詞、疑問詞
5	Unité 1 L4 : メル友募集	E メール表現
6	ゲーム	まとめの読み物と練習問題
7	Unité 2 L5 : どこにありますか	定冠詞、基本動詞 être の複数
8	Unité 2 L6 : 面通し	人の描写/ 基本動詞 avoir、否定文

9	Unité 2 L7 : 買い物	疑問詞、指示形容詞
10	Unité 2 L8 : 芸術家たち	エディット・ピアフの伝記映画
11	Unité 3 L9 : アパートを借りる	位置の表現/前置詞
12	Unité 3 L10 : ルーヴルに行くには	道順の説明/ 命令法、不規則動詞、縮約形
13	授業内試験 Unité 3 L11 : よい旅行を！	授業内試験 レユニオン島
14	試験の復習 Unité 3 L11 : それは～だ。	試験の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、予習・復習を欠かさないようにしてください。

付属の DVD を使って、例文は常に声を出して学びましょう。

フランスに関する情報に常に注意を払うようにしましょう。

1：アルファベットを学ぶ。フランス語のキーボード配列になれるようにする。

2-7：動詞 être の活用を覚える。文法の性に従って名詞や冠詞を覚える。

8-10：動詞 avoir の活用を覚える。否定文の作り方を学ぶ。

11：前置詞を使った位置表現を学ぶ。

12-14：命令文を学ぶ。不規則活用の動詞を学ぶ。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

① *Le nouveau taxi 1*, Guy Capelle & Robert Menand 著, Hachette 社発行

『新装版タクシー！』の第 1 レベル（初級）を用います。世界中のフランス語学習者のために作られたコミュニケーション重視の教科書です。全部で 9 つの単位からなり、それぞれが 4 つの課から成り立ちます。見開きのページからなる 1 つの課には対話文、文法や表現のまとめ、聞き取り、文法、発話の練習問題が含まれます。また 4 課ごとつまりひとつの単位の終わりには総復習の問題があります。3 人の教員の授業の共通教科書です。

②『初級フランス語文法（三訂版）』、天羽均 他 著、朝日出版社。初級とありますが、中級以上にも使える詳しい教科書です。発音についても詳しい説明が載っています。①の教科書を補って、文法を体系的に学び、時に振り返って調べなおすために用います。

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健 著、朝日出版社
『でる順仏検単語集』（5 級～2 級準備レベル）久松健一 著、駿河台出版社

辞書：初級『クラウン仏和辞典』三省堂 / 『ディコ仏和辞典』白水社 / 『ロベール・クレ』駿河台出版社

中級以上：『ロワイヤル仏和中辞典』旺文社

【成績評価の方法と基準】

課題や授業での活動（50 %）、期末試験成績（50 %）。

日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して付録の DVD を見る、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はもっぱら学習支援システムに出していただいた課題で評価したので、学生の皆さんにも私にも無理が生じました。私はなかなか課題を見ることができませんでしたし、学生の皆さんも出し損ねたり、間違った箇所を出したりしたりと苦労しました。今回は焦点を絞って無理のない課題提出にしたいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces students who are to participate in the SA France programme to the basic and intermediate level of the French language. It is relayed by other two teachers.

The students learn how to introduce themselves, how to describe persons or things, how to ask ways, etc. They learn also the grammar : pronominal nouns, grammatical genders, verbs in the present indicative, etc. They train themselves to make themselves understood in oral communications.

LANf100LA

フランス語 4

2017 年度以降入学者

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 3（日本人教員）、フランス語 6（外国人教員）、フランス語コミュニケーション I と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、引き続きフランス語の初歩～中級を学びます。表現としては、注文や依頼、要求など、文法としては不規則動詞、代名動詞、近接未来、過去時制などを学びます。

【到達目標】

SA での成果をあげるために必要な知識と技量をさらに増やすことを目標とします。駅やレストラン、大学など、日常での様々な場面に対応できるようにします。

フランス語検定試験 4 級もしくは 3 級、ヨーロッパ共通参照枠 A1 レベルの技能を身に付けることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業を予定しています。

引き続き教科書（下記の *Nouveau Taxi*）を 3 人の教員がリレーして担当します。全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行います。

私は特に文法を中心に担当します。3 人の教員が使う教科書の文法の進度はやや遅いので、過去など一部の項目に関しては補助の教科書を用いてやや先取りして行う予定です。発音や聞き取りの訓練や模擬会話も状況が許す限り頻繁に行います。

皆さんは学習支援システムを通して課題を学期中に数回提出することになります。私はそれを添削してやはり学習支援システムを通じてお返しします。また学期末にはまとめの試験をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation :	授業の紹介・春学期の総合まとめ
2	Unité 3 L12 :	マルセイユ境界
	これまでの復習	
3	Unité 4 L13 :	疑問詞、不規則動詞
	駅の窓口で	
4	Unité 4 L14 :	不規則動詞、行為者を表す名詞
	日常生活を説明する	
5	Unité 4 L15 :	不規則動詞、代名動詞
	週末の過ごし方を説明する	
6	Unité 4 L16 :	有名人に関する文章を読む
	ロール・マノドゥて知ってますか。	
7	まとめ	不規則動詞、代名動詞
	実用の知識	
8	Unité 5 L17 :	要求、飲食の習慣、量の表現／
	クレープを作る	部分冠詞
9	Unité 5 L18 :	過去の出来事、意見／
	昨日何をしたの？	複合過去（助動詞 avoir）
10	Unité 5 L19 :	過去について話す、期間／
	手紙	複合過去（助動詞 être）

11	Unité 5 L20 :	お祭りについて説明する 行事
12	Unité 6 L21 :	許可-禁止／ 機内で／ホテルで
13	授業内試験 Unité 6 L22 :	授業内試験 非人称、近接未来 求人
14	試験の復習 Unité 6 L23 :	試験の復習 提案／ 目的語としての人称代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習・復習を欠かさないようにしてください。

駅での切符の買い方、提案の仕方など、声に出して演じましょう。参考書にあげた『ホームステイのフランス語』でホームステイで役に立つ表現を覚えてください。

1：春学期の復習をする。

2-4：不規則活用の動詞を学ぶ。疑問詞の使い方を覚える。

5-7：代名動詞を学ぶ。不規則活用の動詞を学ぶ。

8：部分冠詞を学ぶ。

9-11：複合過去を学ぶ。

12：命令法を学ぶ。

13-14：非人称の表現を学ぶ。近接未来を学ぶ。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期の教科書を引き続き使います。

① *Le nouveau taxi 1*, Guy Capelle & Robert Menand 著, Hachette 発行

②『初級フランス語文法（三訂版）』、天羽均 他 著、朝日出版社。

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健 著、朝日出版社
『ホームステイのフランス語』阿南婦美代 著、白水社

【成績評価の方法と基準】

小テストや参加状況による平常点（50 %）、期末試験成績（50 %）を総合し評価します。

日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して付録の DVD を見る、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はもっぱら学習支援システムに出していただいた課題で評価したので、学生の皆さんにも私にも無理が生じました。私はなかなか課題を見ることができませんでしたし、学生の皆さんも出し損ねたり、間違った箇所を出したりしたりと苦労しました。今回は焦点を絞って無理のない課題提出にしたいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces students who are to participate in the SA France programme to the basic and intermediate level of the French language. It is relayed by other two teachers.

The students learn how to command dishes or drinks, how to ask or demand something of someone else, etc. They learn also the grammar :irregular verbes, pronominal verbes, near future, past tenses, etc.

LANf100LA

フランス語 5

2017 年度以降入学者

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【その他の重要事項】

原則として対面授業となりますが、数回のオンライン・オンデマンド授業の可能性があります。

【Outline and objectives】

French for beginners (1st semester). A course focused on developing basic communication skills for students of the Study Abroad program in France.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 1, 2 で学んだフランス語を実践的に応用します。

【到達目標】

コミュニケーション・スキルズを中心に授業を進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

フランス人教師との対話を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話そうとする気分を養っていきます。発音練習・会話練習を毎回 LL 教室で行います。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 L0	授業の紹介
②	Unité 1 L1	紹介・自己紹介
③	Unité 1 L2	誰ですか
④	Unité 1 L3	お元気ですか
⑤	Unité 1 L4	メールのペンフレンド
⑥	まとめ	中間テスト
⑦	Unité 2 L5	どこにありますか
⑧	Unité 2 L6	人の描写
⑨	Unité 2 L7	買い物
⑩	Unité 2 L8	芸術家たち
⑪	Unité 3 L9	アパートを借りる
⑫	Unité 3 L10	道順の説明
⑬	Unité 3 L11	よい旅行を！
⑭	まとめ	復習 最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

徹底的な予習と復習が不可欠（SA フランス・西部カトリック大学の Cidef プログラムの準備として）。本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

テスト（2 回以上）：50%

宿題：30%

参加度（積極性）：20%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

発音や語彙についての練習をさらに強化します。

【学生が準備すべき機器他】

LL 教室ですが、パソコンや録音機の持ち込みは構いません。

LANf100LA

フランス語 6

2017 年度以降入学者

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【その他の重要事項】

原則として対面授業となりますが、数回のオンライン・オンデマンド授業の可能性がります。

【Outline and objectives】

French for beginners (2nd semester). A course focused on developing basic communication skills for students of the Study Abroad program in France.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 5 の続きですが、口頭表現と発音を重視した授業です。

【到達目標】

来年の留学先（SA フランス）を考慮しながら、フランス語基礎能力をのばすことを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

フランス人教師との対話を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話そうとする気分を養っていきます。勿論、予習・復習を必要とします。発音練習・会話練習を毎回 LL 教室で行います。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	春学期の総合まとめ
②	Unité 3 L12	マルセイユ
③	Unité 4 L13	駅の窓口
④	Unité 4 L14	スケジュール
⑤	Unité 4 L15	日常の行動、スポーツ
⑥	まとめ	中間テスト
⑦	Unité 4 L16	ロール・マノデュウ
⑧	Unité 5 L17	要求、飲食の習慣、量
⑨	Unité 5 L18	過去の出来事、意見
⑩	Unité 5 L19	過去について話す、期間
⑪	Unité 5 L20	行事
⑫	Unité 6 L21	許可・禁止
⑬	Unité 6 L22	求人
⑭	Unité 6 L23	提案
	まとめ	最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

徹底的な予習と復習が不可欠（SA フランス・西部カトリック大学の Cidef プログラムの準備として）。本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

テスト（2 回以上）：50%

宿題：30%

参加度（積極性）：20%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

発音や語彙についての練習をさらに強化します。

【学生が準備すべき機器他】

LL 教室ですが、パソコンや録音機の持ち込みは構いません。

LANf100LA

フランス語 1

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法と基本的な表現を学びます。

【到達目標】

今後のフランス語学習の基礎となる初級文法をしっかりと理解すること。簡単なフランス語を聞き取り、読むことができること。そして、自らフランス語を使って発信できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

フランス人教師の「フランス語 2」と同じ教科書を使って授業を進めます。このクラスでは主として文法の解説を行います。適宜プリントを配布します。頻繁に小テストや単語テストを行い、知識の定着を図ります。基本的に学生へのフィードバックは授業内で行いますが、メールでの質問等も受け付けます。また、課題の提出と返却に学習支援システムも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方を説明 ・辞書や参考書などの紹介
第 2 回	Initiation 1 Initiation 2	挨拶 自己紹介 数字 1～10 主語人称代名詞 動詞 s'appeler
第 3 回	Leçon 1	簡単な疑問文の解説 être 動詞 第一群規則動詞 habiter ・ travailler
第 4 回	Leçon 2	形容詞 名詞と形容詞の女性形と男性形について
第 5 回	Leçon 3	動詞 connaître 冠詞
第 6 回	Leçon 4	否定形 1
第 7 回	Leçon 5	不規則動詞
第 8 回	Leçon 6	比較級 Ce を使った表現
第 9 回	Leçon 7	動詞 avoir
第 10 回	Leçon 8	人称代名詞の強勢形 所有形容詞
第 11 回	Leçon 9	冠詞の用法 命令法 縮約
第 12 回	Leçon 10	否定形 2
第 13 回	Leçon 11	中性代名詞 頻度を示す副詞
第 14 回	テスト返却 解説 補足説明	テスト返却を行い、解説を行う。 学習が不十分だった点の補足説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学の学習は、少しずつでも毎日行うことが重要です。一日に最低でも 15 分はフランス語を学習してください。

【テキスト（教科書）】

『Spirale』 Gaël Crépieux、Philippe Callens、高瀬智子、根岸純著 (Hachette)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

小テストおよび単語テストで 40 %、授業態度で 10 %、期末テストで 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和と和仏の辞書があると好ましいです。最初の授業で紹介し、授業前に購入する必要はありません。その他の参考書などについては授業中に紹介します。また、教科書に付属しているデジタル教材を利用するためにパソコン、スマートフォン、タブレットなどがあるといいです。

【その他の重要事項】

授業に関する質問は西川 (junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp) までメールをください。

【Outline and objectives】

Introduction to basic skills of communication in French language and French grammar.

LANf100LA

フランス語 3

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期のフランス語 1 に引き続き、フランス語の初級文法を学習します。

【到達目標】

日常生活や旅行において簡単なフランス語を聞き取り、話せるようになること。また、簡単な文を読み、書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

フランス人教師の「フランス語 2」と同じ教科書を使って授業を進めます。このクラスでは主として文法の解説を行います。適宜プリントを配布します。頻繁に小テストや単語テストを行い、知識の定着を図ります。基本的に学生へのフィードバックは授業内で行いますが、メールでの質問等も受け付けます。また、課題の提出と返却に学習支援システムも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習	春学期の期末テストの結果を参照して、学生が苦手な項目を復習する。
第 2 回	Leçon 12	複合過去
第 3 回	Leçon 13	疑問文 中性代名詞 y
第 4 回	Leçon 14	vouloir と venir を使った勧誘の表現
第 5 回	Leçon 15	動詞 aller と venir 時を表す副詞
第 6 回	Leçon 16	代名動詞
第 7 回	Leçon 17	所有形容詞 補語人称代名詞
第 8 回	Leçon 18	命令法 非人称構文 Il faut
第 9 回	Leçon 19	pouvoir, savoir, vouloir について 動詞の名詞化
第 10 回	Leçon 20	補語人称代名詞 不定冠詞と部分冠詞
第 11 回	Leçon 21	場所を示す表現 複合過去（復習）
第 12 回	まとめ	小テストの結果をみて、解説が必要と思われる項目を重点的に復習する。
第 13 回	期末テスト	秋学期に学習した知識の定着を確認するためのテストを行う。
第 14 回	テスト返却と解説	期末テストを返却して解説をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。語学の学習は、少しずつでも毎日行うことが重要です。一日に最低でも 15 分はフランス語を学習してください。

【テキスト（教科書）】

『Spirale』 Gaël Crépieux、Philippe Callens、高瀬智子、根岸純著 (Hachette)

【参考書】

特にありませんが、授業中に参考書について紹介していく予定です。

【成績評価の方法と基準】

小テストおよび単語テストで 40 %、平常点で 10 %、期末テストで 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

仏和と和仏の辞書があると好ましいです。最初の授業で紹介いたします。授業前に購入する必要はありません。その他の参考書などについては授業中に紹介します。また、教科書に付属しているデジタル教材を利用するためにパソコン、スマートフォン、タブレットなどがあるといいです。

【その他の重要事項】

授業に関する質問は西川 (junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp) までメールでしてください。

【Outline and objectives】

Introduction to basic skills of communication in French language and French grammar.

LANf100LA

フランス語 2

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

無い

【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ÉLÈVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLEN+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

LANf100LA

フランス語 4

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions
2	Leçon 11	まとめ② Révisions
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ÉLÈVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

フランス語 1

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基本的な会話と関連する文法を学ぶ授業です。

【到達目標】

簡単なフランス語を聞きとり、話すことができるようになること。DELF 試験の A 1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

日本人教師の「フランス語 1」とフランス人教師の「フランス語 2」は、同じ教科書を使って交互に授業を行います。合計 3～4 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。会話練習や聞き取りは、オンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせる練習をします。練習問題 *Écrivez* の部分などは *Hoppii* 上に提出してもらいます。

第 1 回目の授業は、Zoom を使ったオンライン上で授業と同じ時間帯に行われます。「お知らせ」に ID とパスワードを提示しますので、そちらを使って参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Initiation 1	あいさつ、名前、数字 0~5 つと自己紹介
2 回目	Initiation 2	自己紹介 国籍・身分・名前のつづり、数字 6~10
3 回目	Leçon 1	自分について 動詞 <i>s'appeler, faire, habiter</i>
4 回目	Leçon 1	第三者について 否定形、疑問形
5 回目	Leçon 2	職業・国籍 国籍、男性形・女性形 をたずねる
6 回目	Leçon 2	話せる言語 前置詞 + 国名 (1)
7 回目	Leçon 3	知らないと言 動詞 <i>connaître</i> 、形容詞の一致
8 回目	Leçon 3	話せる言語 主語 <i>on</i> 、定冠詞 (2)
9 回目	Leçon 4	好きなもの 動詞 <i>aimer/préférer</i> を言う
10 回目	Leçon 4	程度の表現 副詞の位置、 <i>il y a</i>
11 回目	Leçon 5	何をするの 動詞 <i>aimer</i> + 不定詞 が好きか言う
12 回目	Leçon 5	したいこと 動詞 <i>vouloir</i> の条件法 について話す
13 回目	Leçon 6	好みを説明 形容詞の男性形・女性形 する
14 回目	Leçon 6	好きな理由 動詞 <i>trouver, parce que</i> を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。モデル文と同じような受け答えができるように次の回に備えて練習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

『Spirale』 Gaël Crépieux、Philippe Callens 著 (Hachette)

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発言・課題の提出提出などの平常点 50%、期末課題または期末試験 50%で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

【学生の意見等からの気づき】

グループでの会話練習や相談の時間をさらに増やします。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019 年 4 月 1 日～ フランス語科の高 2 文法・高 3 作文と受験文法を担当）

【Outline and objectives】

This course is for beginners to learn basic French conversation and grammar.

LANf100LA

フランス語 3

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基本的な会話と文法を学ぶ授業です。

【到達目標】

簡単なフランス語を聞きとり、話すことができるようになること。DELFL 試験の A 1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

日本人教師の「フランス語 1」とフランス人教師の「フランス語 2」は、同じ教科書を使って交互に授業を行います。合計 3～4 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。会話練習や聞き取りは、オンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせる練習をします。練習問題 Écrivez の部分などは Hoppii 上に提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 7 年齢・科目	数字 11~59、授業の科目名
2 回目	Leçon 7 時間の使い方	疑問形容詞 quel、曜日
3 回目	Leçon 8 持っているものについて話す	不定冠詞、人称代名詞強勢形
4 回目	Leçon 8 あやまる	否定の de、所有形容詞
5 回目	Leçon 9 場所についてたずねる	C'est / Ce sont、不定冠詞と定冠詞
6 回目	Leçon 9 位置づける	命令法、前置詞
7 回目	Leçon 10 何をするかたずねる	不規則動詞、Qu'est-ce que と quoi
8 回目	Leçon 10 詳しくきく	指示形容詞
9 回目	Leçon 11 余暇の過ごし方について話す	動詞 faire, jouer
10 回目	Leçon 11 習慣について話す	中性代名詞 en
11 回目	Leçon 12 家族について話す	所有形容詞、動詞 être 複数
12 回目	Leçon 12 過去の出来事を話す	avoir を使う複合過去
13 回目	Leçon 13 どこに行くかたずねる	中性代名詞 y、être を使う複合過去
14 回目	Leçon 13 時間をたずねる	動詞 finir、過去分詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。モデル文と同じような受け答えができるように次の回に備えて練習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

『Spirale』 Gaël Crépieux、Philippe Callens 著（Hachette）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発言・課題の提出 50%、期末課題または s 試験 50% で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

【学生の意見等からの気づき】

ブレイクアウトルームを使った共同作業の時間をもっと増やします。

【学生が準備すべき機器他】

仏和・和仏の辞書と、動詞の変化表があると便利です。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日） 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019 年 4 月 1 日～ フランス語科の高 2 文法・高 3 作文と受験文法を担当）

【Outline and objectives】

This course is for beginners to learn basic French conversation and grammar.

LANf100LA

フランス語2

2017年度以降入学者

カレンス フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。実践で使えることを目的として日常生活のフランス語の能力を高める。要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力も向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。さらに、フランスの文化、習慣などをコラムや資料を使って楽しく伝え、理解力を深める。遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する。”

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Initiation 1, 2 Salutation, présentation Alphabet, chiffres	オリエンテーション 挨拶 自己紹介 ルファベット 数字 人の紹介
2	Leçon 1 le nom, la profession, le lieu de domicile Parler de son travail	名前、職業、住んでいるところを たずねる 自分の仕事について話す
3	Leçon 1 Interroger sur une personne	人について質問する
4	Leçon 2 Demander la profession Exprimer un souhait	職業を尋ねる やりたい職業を言う
5	Leçon 2 Demander la nationalité Dire quelle langue on parle	国籍をたずねる 言語について話す
6	Leçon 3 S'informer sur quelqu'un Désigner quelque chose	人についてたずねる もの・ことを示す

7	Leçon 3 Dire quelle langue on parle La francophonie Test de mi-trimestre	何語を話すか言う フランス語圏 中間テスト
8	Leçon 4 Dire ses goûts Nuancer	好きなものを言う 好き嫌いの程度を 言い表す
9	Leçon 4 Exprimer ses préférences	どちらが好きか言う
10	Leçon 5 Dire ce qu'on aime faire Nuancer, dire ce qu'on aime faire	好きなことを言う 好き嫌いの程度を 言い表す
11	Leçon 5 Parler de ses envies	したいことについて話す
12	Leçon 6 Expliquer ses goûts Expliquer ses préférences	好みを説明する どちらか理由を述べる
13	Leçon 6 Décrire une personne Les adjectifs	人を描写する 形容詞
14	Test de fin de trimestre	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE Nouvelle édition / Livre de l'élève

【教科書】著者:Crépieux+Callens+Takase+Negishi
ISBN:9782014015812

【参考書】

Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】

1：試験：中間テスト・期末テスト 50%

2：課題：40%

3：平常点と授業参加への積極性：10%

【学生の意見等からの気づき】

宿題を提出することが必須です。
毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at a basic level. The students will learn the basic knowledges which are necessary to communicate in French in various situations.

LANf100LA

フランス語 4

2017 年度以降入学者

カレンス フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。実践で使えることを目的として日常生活のフランス語の能力を高める。要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力も向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。

さらに、フランスの文化、習慣などをコラムや資料を使って楽しく伝え、理解力を深める。遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する。"

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	復習
	Révisions	自分について話す
	Leçon 7	科目について話す
	Parler de soi	数字（1 から 10 まで）
	Parler des études	
2	Nombres de 10 à 59	
	Leçon 7	時間割
	Son emploi du temps	科目
3	Les matières	
	Leçon 8	もっているものについて話す
	La possession	所有を表す
4	L'appartenance	
	Leçon 8	ものを借りる
5	Emprunter un objet	もの・動物について話す
	Les objets et animaux	
	Leçon 9	場所について説明する
6	Explications sur un lieu	場所についての情報を求める
	Se renseigner sur un lieu	
	Leçon 9	場所についてたずねる
7	Interroger sur un lieu	場所, 町
	Les lieux	
7	Le quartier	
	Test de mi-trimestre	中間テスト

8	Leçon 10 Sinformer sur une activité Demander ce qu'on fait	何をするかたずねる・答える
9	Leçon 10 Demander des précisions Des activités	詳しくきく 日常の行為
10	Leçon 11 Parler de ses activités Exprimer la fréquence	趣味・余暇について話す 印度を示す
11	Leçon 11 Parler des habitudes	習慣について話す
12	Leçon 12 Parler de la famille Les possessifs	家族について話す 所有形容詞
13	Leçon 12 Raconter des événements passés	過去の出来事について話す
14	Test de fin de trimestre	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE Nouvelle édition / Livre de l'élève

【教科書】著者:Crépieux+Callens+Takase+Negishi / ISBN:9782014015812

【参考書】

Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】

1. 試験：中間テスト・期末テスト：50%

2. 課題：40%

3. 平常点/授業参加への積極性：10%

【学生の意見等からの気づき】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at a basic level. The students will learn the basic knowledges which are necessary to communicate in French in various situations.

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline and objectives】

study of elementary grammar of French language

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

提出物は添削したうえで次の授業で返却します。

質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	アルファベ、綴り字記号、など
第 2 回	第 1 課	名詞の性数、冠詞
第 3 回	第 2 課	主語となる代名詞、動詞 etre と avoir の直説法現在形など
第 4 回	第 3 課	否定形、形容詞
第 5 回	第 4 課	-er 動詞の直説法現在形、疑問形など
第 6 回	第 5 課	指示形容詞、疑問形容詞など
第 7 回	第 6 課	aller,venir の直説法現在、疑問代名詞など
第 8 回	第 7 課	finir,partir の直説法現在など
第 9 回	復習 1	第 1 回小テスト（予定）
第 10 回	第 8 課	voir,dire,entendre の直説法現在など
第 11 回	第 9 課	faire,prendre の直説法現在など
第 12 回	復習 2	第 2 回小テスト（予定）
第 13 回	第 10 課	目的語になる人称代名詞・強勢形
第 14 課	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ル・フランセ・クレール（三訂版）』（白水社）

【参考書】

授業中に指示することもあるかと思えます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。

この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。

詳細は第一回の授業で説明します。

LANf100LA

フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

提出物は添削したうえで次の授業で返却します。

質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習 1	第 1 課～第 10 課
第 2 回	第 11 課	過去分詞、直説法複合過去
第 3 回	第 12 課	関係代名詞、強調構文
第 4 回	第 13 課	代名動詞、指示代名詞
第 5 回	第 14 課	pouvoir, vouloir, devoir の直説法 現在、直説法単純未来
第 6 回	復習 2	第 1 回小テスト（予定）
第 7 回	第 15 課	中性代名詞
第 8 回	第 16 課	直説法半過去、受動態
第 9 回	第 17 課	現在分詞、ジェロンディフ
第 10 回	復習 3	第 2 回小テスト（予定）
第 11 回	第 18 課	条件法現在
第 12 回	第 19 課	接続法現在
第 13 回	復習 4	総合問題②
第 14 回	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ル・フランセ・クレール（三訂版）』（白水社）を使用します。

【参考書】

授業中に指示することもあるかと思えます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。

この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。

詳細は第一回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline and objectives】

study of elementary grammar of French language

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

【到達目標】

フランス語の初級文法について、命令法までを 1 学期間でマスターする。

DELF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 5 級合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法事項の解説 → 該当の文法事項に関する宿題 → 答え合わせ・解説 → 新たな文法事項に関する解説 → 以下、この繰り返し。動詞の活用などを覚えるために学期に数回小テストを実施。学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課	・フランス語の文字 ・フランス語の音 ・つづり字の読み方
第 2 回	第 2 課	・名詞の性と数 ・冠詞 ・voici, voilà *基数 (1-10)
第 3 回	第 3 課	・主語人称代名詞 ・être の直説法現在 ・avoir の直説法現在 ・c'est, ce sont, il y a *基数 (11-20)
第 4 回	第 4 課	・第 1 群規則動詞 (-er 動詞) の直説法現在 ・第 2 群規則動詞 (-ir 動詞) の直説法現在 ・形容詞の性と数 ・形容詞の位置
第 5 回	第 5 課	第 1 課から第 4 課の文法事項の復習 ・基本文型 ・否定形 *不規則活用動詞 attendre, partir
第 6 回	第 6 課	・疑問形 ・Oui, Non, Si ・所有形容詞 *不規則活用動詞 prendre, faire
第 7 回	復習 (1)	第 1 課から第 6 課の文法事項の復習

第 8 回 第 7 課	・指示形容詞 ・名詞と形容詞の女性形・複数形 の特殊な形 *不規則活用動詞
第 9 回 第 8 課	・aller, venir の直接法現在 ・近接未来・近接過去 ・冠詞の縮約 acheter, préférer
第 10 回 第 9 課	・疑問代名詞 ・疑問副詞 *不規則活用動詞 savoir, connaître
第 11 回 第 10 課	・疑問形容詞 ・形容詞と副詞の比較級 ・形容詞と副詞の最上級 *不規則活用動詞 voir, commencer
第 12 回 第 11 課	・命令法 ・非人称構文 *不規則動詞活用動詞 manger, dire 第 5 課から第 8 課の文法事項の 復習
第 13 回 復習 (2)	第 5 課から第 8 課の文法事項の 復習
第 14 回 期末試験・まとめと解 説	春学期の文法事項の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は当然必要。

準備学習と宿題には 1 時間、復習にも 1 時間必要であろう。

〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CD などの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。

〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたいので、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。

〈学外で〉人間環境学部は、何よりもまず、現場に赴き、何か在那里で生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書 (BD も含め)、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、リベラルアーツ科目の「フランス語の世界 LA」、「フランスの文化と社会 LA」、「フランス生活文化論 LA」などの履修を強く推奨する。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子『マ・グラメール [三訂版・CD 付]』、白水社、2018 年。
ISBN : 978-4-560-06126-8

定価：2300 円 + 税

【参考書】

仏和辞典は必ず携行すること。紙辞書を積極的に推奨する (単語、熟語などの見やすさなどの利点から)。

【成績評価の方法と基準】

語彙・活用などに関する小テスト (学期に数回実施) [20%] + 期末試験 [80%]

ただし、授業中に指名するにあたっては、単語調べなどの予習をやっていない場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。

教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French grammar to students taking this course.

LANf100LA

フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「フランス語 1-I」に引き続き、フランス語を初めて学ぶ人間環境学部 (A-F 組) の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

【到達目標】

フランス語の初級文法について、接続法現在までを 1 学期間でマスターする。

DELF (フランス国民教育省・フランス語資格試験) の A1 レベル到達を目標とする。仏検 4 級合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法事項の解説 → 該当の文法事項に関する宿題 → 答え合わせ・解説 → 新たな文法事項に関する解説 → 以下、この繰り返し。動詞の活用などを覚えるために学期に数回小テストを実施。学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 12 課	・過去分詞 ・直接法複合過去
第 2 回	第 13 課	・人称代名詞の目的補語形 ・人称代名詞の強勢形
第 3 回	第 14 課	・複合過去と目的補語人称代名詞 ・複合過去と過去分詞の一致 (まとめ)
第 4 回	第 15 課	・関係代名詞 ・強調構文 ・指示代名詞
第 5 回	第 16 課	・代名動詞の活用 ・代名動詞の用法 *不規則活用動詞 (s')appeler
第 6 回	第 17 課	・直接法単純未来 ・中性代名詞 le, en, y *不規則活用動詞 devoir
第 7 回	復習 (1)	第 12 課から第 17 課の文法事項の復習
第 8 回	第 18 課	・直接法半過去の活用 ・直接法半過去の用法
第 9 回	第 19 課	・受動態 ・現在分詞 ・ジェロンディフ
第 10 回	第 20 課	・条件法現在の活用 ・条件法現在の用法
第 11 回	第 21 課	・接続法現在の活用 ・接続法現在の用法 *不規則動詞 vivre
第 12 回	復習 (2)	第 18 課から第 21 課の文法事項の復習
第 13 回	期末試験 (1)	音読試験

第14回 期末試験(2)・まとめ 筆記試験・春学期の文法事項の総と解説 復習

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習・復習・宿題は当然必要。

準備学習と宿題には1時間、復習にも1時間必要であろう。

〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CDなどの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。

〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたいうえで、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。

〈学外で〉人間環境学部の学生は、何よりもまず、現場に赴き、何か在那里で生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書(BDも含め)、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、「フランス語の世界LB」、「フランスの文化と社会LB」、「フランス生活文化論LB」などの履修を推奨する。

【テキスト(教科書)】

小野ゆり子『マ・グラメール [三訂版・CD付]』、白水社、2018年。
ISBN: 978-4-560-06126-8
定価: 2300円+税

【参考書】

仏和辞典は必ず携行すること。紙辞書を積極的に推奨する(単語、熟語などの見やすさなどの利点から)。

【成績評価の方法と基準】

語彙・活用に関する小テスト(学期に3回実施)[20%]+期末試験[80%]

ただし、授業中に指名するにあたって事前に、単語調べなどの予習をやっていない場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度1点ずつ減点する。

教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French grammar to students taking this course.

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

キ1年 A~H

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験5級ならびに4級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第1群規則動詞、第2群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特異形、不規則動詞 acheter, préférer, aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018年、2300円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 - II

2017年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A～H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚ええます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験4級ならびに3級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y 、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018年、2300円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017年度以降入学者

瀬戸 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I～P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級（基本）文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う。

【到達目標】

英語とは異なるフランス語の文字の読み方と文法体系の基礎をマスターする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

フランス語の初級文法と簡単な会話表現を学ぶ。

今学期は対面式授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。質問・意見、また課題（宿題）のフィードバックは原則授業時間内に行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、アルファベ	英語との相違と共通点 アルファベの練習
②	発音の基礎 つづり字の読み方	ビデオ使用でネイティブの発音 単語による発音と文字の読み方記憶
③	つづり字の読み方 (2) 旅の基本表現と数字	つづり字の読み方の規則と発音の復習 続き
④	自己紹介 挨拶表現	名詞の性・数 主語人称代名詞 規則動詞
⑤	パリに親しむ	簡単なフランス語表現、パリの名所
⑥	be 動詞、国籍・職業を言う モノを頼む表現	形容詞と性・数の一致 所有・指示形容詞
⑦	have 動詞、許可を求める	よく使う表現、形容詞（続き）
⑧	プチ・ホテルを取る	値段を尋ねる フランスはてる事情
⑨	場所を尋ねる	疑問文と否定文 命令文
⑩	モノの位置関係	不規則動詞（1）
⑪	Cafe に入る	不規則動詞（2）
⑫	季節と天候表現 身体の不調を訴える	習った動詞の総復習 習った会話表現の確認
⑬	文法復習	期末テスト（1）筆記
⑭	総復習とまとめ	期末テスト（2）聞き取り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

小テスト（会話・文法）の為の学習、暗記するのに要する時間は個人差があるが、毎回1時間程度は、特に復習に充ててほしい。

【テキスト（教科書）】

「街かどのフランス語―第三版―」 朝日出版

テキストは必ず「三訂版」を購入すること。アマゾンなどのネット通販で、間違えて「新訂版」を購入すると、これは旧版で、音声ダウンロードもなく内容も違うので、注意すること！

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内小課題40パーセント、授業内期末テスト40パーセント、平常点（授業参加度評価）20パーセント

出席重視。2回続けて休まないこと 続けて休んだり、飛び飛びでも休みがちになると、授業についてこれなくなるおそれがあります。授業中の作業も（練習問題や訳出、発話等）点数化するので、休むとこの平常点が加算されなくなります。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This French class aims at teaching students beginners' grammar, and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading, writing, listening, and speaking.

LANf100LA

フランス語 1 - II

2017年度以降入学者

瀬戸 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ1年 I~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎力と読み・書き・聞く・話すの総合力を養う。

【到達目標】

英語とは異なるフランス語の文字の読み方と基礎文法をマスターする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランス語初級文法の理解と簡単な会話表現を積極的・能動的に学習。今学期は対面式授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。また質問・意見・課題（宿題）のフィードバックは原則授業時間内に行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習 基本動	基本動詞の復習、とくに発音詞
②	電話をかける、バレエをみる	春学期に学んだ数字表現の復習と丁寧表現
③	時刻表現、様々な疑問文	レストラン予約
④	自己紹介	疑問文の総合学習、質疑応答表現
⑤	ブティックで買い物	比較級と人称代名詞の目的格
⑥	色彩と比較表現 愛の表現	ブティックでの買い物、試着をする
⑦	メトロに乗る	代名動詞
⑧	非人称表現、最上級	疑問文、命令文の復習
⑨	過去の表現 旅のトラブル会話	複合過去（1）
⑩	レストランで注文 フランス料理	第二の規則動詞
⑪	パリ・ディズニーランドに行く	複合過去（2） 金札過去・未来
⑫	様々なカードを書く	単純未来、半過去
⑬	絵葉書を書く 思い出を書く	単純未来、半過去
⑬	文法総復習	期末テスト（1）筆記
⑭	初級会話の総復習	期末テスト（2）聞き取り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内小テスト、会話練習・暗記のための事前学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「街かどのフランス語—第三版—」 続き

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（2つの大きな会話課題を含む）40パーセント、授業内期末テスト40パーセント。平常点20パーセント

上記基準は対面式授業実施の時、オンライン授業になった場合は、毎回課題50%、やや大きなレポート課題30%、小テスト20%の予定。

なお対面式とオンラインとの併用になった場合、その割合で上記2つの評価方法を組み合わせる。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけゆっくり丁寧に説明する

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This French class aims at teaching students beginners' grammar, and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading, writing, listening, and speaking.

LANf100LA

フランス語2-I

2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

環1年G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。

原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定4～5級）と口頭試験（DELFA1レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の紹介
	Initiation 1	挨拶
2	Initiation 2	自己紹介 数字
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいるところについて尋ねる 自分の仕事について話す
4	Leçon 1	ある人について質問する
5	Leçon 2	職業をたずねる やりたい職業を言う
6	Leçon 2	国籍をたずねる 何語を話すのか言う
7	Leçon 3	ある人についてたずねる 何かを示す
8	Test	中間テスト
	Leçon 3	何語を話すかを言う
9	Leçon 4	好きなものを言う 好き嫌いの程度を言い表す
10	Leçon 4	どちらが好きかを言う
11	Leçon 5	何をするのが好きか言う
12	Leçon 5	好き嫌いの程度を言い表す したいことについて話す
13	Leçon 6	好みを説明する どちらが好きか理由を述べる
14	Test	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（復習のために家で書く練習する）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens
出版社 Hachette
ISDN : 978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言等） 33%で評価します。5回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声ダウンロードができます。

【Outline and objectives】

In this class, we study French conversation at a beginner level.
This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

LANf100LA

フランス語 2-II

2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語 2-1 と関連した授業です。

原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELF A1 レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年)
3	Leçon 7	科目について話す 時間の使い方 時間割について話す
4	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
5	Leçon 8	物を借りる
6	Leçon 9	ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	余暇の過ごし方
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	生活習慣について話す
13	Leçon 12	家族について話す
14	Test	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（家で書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette
ISDN：978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言など）33%で評価します。5回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声をダウンロードができます。

【Outline and objectives】

In this class, we study French conversation at a beginner level.
This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

LANf100LA

フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。

原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELF A1 レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の紹介
	Initiation 1	挨拶
2	Initiation 2	自己紹介 数字
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいるところについて尋ねる 自分の仕事について話す
4	Leçon 1	ある人について質問する
5	Leçon 2	職業をたずねる やりたい職業を言う
6	Leçon 2	国籍をたずねる 何語を話すのか言う
7	Leçon 3	ある人についてたずねる 何かを示す
8	Test	中間テスト
	Leçon 3	何語を話すかを言う
9	Leçon 4	好きなものを言う 好き嫌いの程度を言い表す
10	Leçon 4	どちが好きかを言う
11	Leçon 5	なにをするのが好きか言う
12	Leçon 5	好き嫌いの程度を言い表す したいことについて話す
13	Leçon 6	好みを説明する どちらが好きか理由を述べる
14	Test	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（復習のために家で書く練習する）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens
出版社 Hachette
ISDN : 978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言等） 33 %
で評価します。5回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声をダウンロードができます。

【Outline and objectives】

In this class, we study French conversation at a beginner level.
This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

LANf100LA

フランス語 2-II

2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語 2-1 と関連した授業です。

原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。
資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELF A 1 レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年)
3	Leçon 7	科目について話す
4	Leçon 8	時間の使い方 時間割について話す
5	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
6	Leçon 9	物を借りる ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	余暇の過ごし方
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	生活習慣について話す
13	Leçon 12	家族について話す
14	Test	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（家で書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette
 ISDN：978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言等）33%で評価します。5回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声をダウンロードができます。

【Outline and objectives】

In this class, we study French conversation at a beginner level.
 This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

LANf100LA

フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
- 4 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

【到達目標】

きちんと発音ができ、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業スタイルについて（小生が高齢で基礎疾患を持っているため、変則的なスタイルになります）

第1回と第2回の授業は教室で対面授業を実施してまずはクラス作りに努めます。

第3回目以降は同じ教室に集まっていただいて、みなさんは PC 持参で、オンラインライブの授業を行います。Zoom 利用を見込んでいます。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション zoom オンラインで 授業 URL は Hoppii に掲 載します	年間授業内容の説明 成績評価の方法 アルファベの発音
2	発音の練習 1 対面授業です。教室は 大学からの指示に従っ てください。	0 課プレリユード 1
3	発音の練習 2 対面授業です。教室は 大学からの指示に従っ てください。	0 課プレリユード 2
4	名詞と冠詞 4 回目以降は全て Zoom オンラインで授 業	Leçon 1 文法説明
5	「オー・シャンゼリゼ」	Leçon 1 練習問題
6	主語人称代名詞・動詞 etre	Leçon 2 文法説明
7	「夢見るシャンソン人 形」	Leçon 2 練習問題
8	形容詞・動詞 avoir	Leçon 3 文法説明
9	「子どもを抱いて」	Leçon 3 練習問題
10	-er 動詞、-ir 動詞。否 定文	Leçon 4 文法説明
11	「シェリーに口づけ」	Leçon 4 練習問題

12	疑問文、動詞 aller/venir	Leçon 5 文法説明
13	「もう森へなんか行かない」	Leçon 5 練習問題
14	前期のまとめ	歌のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の単語調べ

【テキスト（教科書）】

『ポップ・フランセ』（駿河台出版社、2500 円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンラインライブの授業が中心なので、期末テストをオンラインで行うことが難しいです。

授業開始時に行う 10 回行う小テストの合計点を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube など映像を紹介する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Learn Franch by singing

LANf100LA

フランス語 2 - II

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A～H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
- 4 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

【到達目標】

フランス語をきちんと発音し、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業スタイルについて（小生が高齢で基礎疾患を持っているため、変則的なスタイルになります）

第 1 回と第 2 回の授業は教室で対面授業を実施してまずはクラス作りに努めます。

第 3 回目以降は同じ教室に集まっていたいで、みなさんは PC 持参で、オンラインライブの授業を行います。Zoom 利用を見込んでいます。じ教室に集まっていたいで、みなさんは PC 持参で、オンラインライブの授業を行います。

Zoom 利用を見込んでいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期の復習	発音の復習
2	疑問詞、比較級・最上級 準助動詞	Leçon 7 文法説明
3	「ラストダンスは私に」	Leçon 7 練習問題
4	不規則動詞	Leçon 8 文法説明
5	「愛すること」	Leçon 8 練習問題
6	疑問代名詞・関係代名詞	Leçon 9 文法説明
7	「愛のとりこ」	Leçon 9 練習問題
8	目的語代名詞、代名動詞	Leçon 10 文法説明
9	「いつものように」	Leçon 10 練習問題
10	複合過去・半過去	Leçon 11 文法説明
11	「シェリーに口づけ」	Leçon 11 練習問題
12	構文練習	Leçon 12 文法説明
13	「心に太陽を」	Leçon 12 練習問題
14	後期のまとめ	全員で合唱

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の単語調べ

【テキスト（教科書）】

『ポップ・フランセ』（駿河台出版社、2500 円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンラインライブの授業が中心なので、期末テストをオンラインで行うことが難しいです。
授業開始時に行う 10 回行う小テストの合計点を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube などで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Learn French by singing

LANf100LA

フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

【到達目標】

フランス語の綴りをみて発音できるようにする。
フランス語の文章をみて意味がでるようにする。
フランス語の会話文をきいて、それを理解して、フランス語で返事できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業スタイルについて（小生が高齢で基礎疾患を持っているため、変則的なスタイルになります）

第 1 回と第 2 回の授業は教室で対面授業を実施してまずはクラスなりに努めます。

第 3 回目以降は同じ教室に集まっていたいで、みなさんは PC 持参で、オンラインライブの授業を行います。Zoom 利用を見込んでいます。

「大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション zoom オンラインで 授業 URL は Hoppii に掲載します	年間授業内容の説明 成績評価の方法 アルファベの発音
2	発音の練習 1 対面授業です。教室は 大学からの指示に従って ください。	基本的な挨拶
3	発音の練習 2 対面授業です。教室は 大学からの指示に従って ください。	1 課 提示の表現
4	名詞と冠詞 4 回目以降は全て Zoom オンラインで授 業	「やせるって簡単？」
5	主語人称代名詞	2 課 疑問文
6	動詞 vouloir の使い方	「きみやせたいの？」
7	動詞 être	3 課 形容詞
8	性数一致	「きみスマートだよね」
9	er 動詞	4 課 aimer の表現
10	不定冠詞	「きみたくさん食べるほう？」
11	動詞 pouvoir	5 課 動詞の不定法
12	定冠詞	「これは何ですか？」
13	所有形容詞	6 課 目的語代名詞

14 前期のまとめ 会話表現のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の単語調べ。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フラ語ダイエット』（トレフル出版、2000円＋税、フランス図書経由）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験100点分を50%、10回行う小テストの合計100点分を50%で、200点満点のうち60%＝120点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 S/A+/A/A-/B+/B/B-C+/C/C-/D で決定する。以下に変更します。↓

遠隔授業の開始により、期末試験が不可能になります。遠隔授業中に練習問題や小テストを課題として出しますから、それに答えてください。その合計点数で成績をつけたいと思います。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube などで映像を紹介する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知します。

【Outline and objectives】

Learn Franch by singing

By learning French, know the French culture.

LANf100LA

フランス語2-II

2017年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1単位

キ1年I～P

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

【到達目標】

フランス語の綴りをみて発音できるようにする。
フランス語の文章をみて意味ができるようにする。
フランス語の会話文をきいて、それを理解して、フランス語で返事できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業スタイルについて（小生が高齢で基礎疾患を持っているため、変則的なスタイルになります）

第1回と第2回の授業は教室で対面授業を実施してまずはクラスなりに努めます。

第3回目以降は同じ教室に集まっていたいで、みなさんはPC持参で、オンラインライブの授業を行います。Zoom 利用を見込んでいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	後期ガイダンス	発音の復習 成績評価の方法
2	動詞 faire, aller	7課 条件を表す
3	動詞 venir, prendre	「バッグの中にチョコ持ってる」
4	avoir+過去分詞	8課 複合過去
5	être+過去分詞	「きみ何してるの？」
6	否定の表現	9課 半過去
7	複合過去と半過去	「ある日、私はやせる決心をしました」
8	近接未来と単純未来	10課 未来形
9	現在分詞と過去分詞	この春私はパリにいきました」
10	疑問形容詞	11課 比較級・最上級
11	関係代名詞	「私はたくさん食べていました」
12	中性代名詞 en, y, le	12課 条件法
13	疑問副詞・疑問代名詞	「私はいっそう幸せになる」
14	後期のまとめ	時制のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の単語調べ。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『フラ語ダイエット』（トレフル出版、2000円＋税、フランス図書経由）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンラインライブの授業が中心なので、期末テストをオンラインで行うことが難しいです。

授業開始時に行う 10 回行う小テストの合計点を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube などで映像を紹介する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Learn Franch by singing

By learning French, know the French culture.

LANr100LA

ロシア語 1 I

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、ロシア語のアルファベット、発音、初級文法を習得する。なお、本授業は「ロシア語 2 I」と連携している。

【到達目標】

(1) ロシア語の文字を読み書きすることができる。(2) ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間でロシア文字とその発音をしっかりと習得する。その後、初級文法を教科書で学びながら、様々な練習問題を解くことにより、理解・定着を図る。視聴覚教材もふんだんに使い、まずはロシア語に親しむことを目指す。各課を終えるごとに小テストを実施し、理解度をこまめに確認しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第1課 文字の発音と書き方	ロシア語の文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第1課 文字と単語の発音、発音のテスト	ロシア語の文字と単語の発音（子音）、アクセント、発音のテスト
4	第2課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、挨拶の練習
5	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第4課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	第5課 動詞の不定形と過去形	動詞（不定形と過去形）
11	第5課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第6課 前置格 春学期の復習	前置格の説明、春学期の復習
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には該当箇所を予習し、新出単語の意味を調べる。授業後には新たに学んだ事項を復習し、わからないところを次回の授業で質問する。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020年

【参考書】

露和・和露辞典（博友社「ロシア語辞典」（1995年）など）
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）（60%）、期末試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

語学学習にとどまらず、ロシアの社会状況や文化についても可能な限り触れる。

【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces you to the foundations of Russian language. In this semester, we will focus on mastery of alphabets, pronunciation, and basic grammar and vocabulary. The course will be followed by the “Russian I -2” course in the autumn semester. By the end of this course, students will be able to 1) read and pronounce Russian alphabets and 2) explain basic Russian grammar. No prior knowledge of Russian is required.

LANr100LA

ロシア語 1 II

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の諸学者を対象とする。本授業ではロシア語の初級文法の習得に加え、簡単な会話、文章の読み書きを学ぶ。なお、本授業は「ロシア語 2 II」と連携している。

【到達目標】

(1) 簡単なロシア語会話ができる。(2) ロシア語の文章から情報を得たり、ロシア語で必要な情報を伝えたりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら習得を目指す。また、文法の勉強と並行して会話練習や文章講読などにも取り組み、学んだ文法知識を実践する。各課を終えるごとに小テストを実施し、理解度をこまめに確認しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだ文法事項の確認
2	第7課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の命令形、対格変化（名詞、人称代名詞）
3	第7課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	対格変化、曜日の表現
4	第7課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の変化（-с я、歯音、唇音）
5	第8課 運動の動詞	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
6	第8課 運動の動詞	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
7	第9課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格
8	第9課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の変化
9	第9課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	人称代名詞の変化
10	第10課 生格	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
11	第10課 生格	所有の表現、否定生格
12	第11課 与格と造格	与格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
13	第11課 与格と造格	造格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
14	まとめと確認	秋学期に学んだ文法事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には該当箇所を予習し、新出単語の意味を調べる。授業後には新たに学んだ事項を復習し、わからないところを次回の授業で質問する。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】

露和・和露辞典（博友社『ロシア語辞典』（1995年）など）

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）（60％）、期末試験（40％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

重要な文法事項については繰り返し復習を行って確実な定着を図る。

【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces you to the foundations of Russian language. It will be offered to students who take the “Russian 1 I” course in the spring semester. In this semester, we will focus on providing knowledge on Russian grammar and vocabulary, as well as basic reading, listening comprehension, speaking, and writing skills. By the end of this course, students will be able to 1) communicate in Russian through basic phrases and 2) read and write basic Russian texts.

LANr100LA

ロシア語 1 I

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1) 文字と発音の習得、2) 初級文法の最初の段階。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。

「ロシア語 1 II」とセットになっています。また、「ロシア語 2 I」と提携して行なわれる授業です。

ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。

次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。

まず文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。

小テストで復習しながら、着実にものにしていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。

- | | | |
|---|--------|---|
| ⑪ | 動詞の現在形 | 動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。 |
| ⑫ | 動詞の未来形 | 動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。 |
| ⑬ | 名詞の前置格 | 名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。 |
| ⑭ | 期末試験 | 文法問題。露文和訳。和文露訳。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。
この段階で最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%。適宜、既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.)

LANr100LA

ロシア語 1 II

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

文1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（後編）。1) 初級文法。2) 会話、読解、作文。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2 II」と提携して行なわれる授業です。ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。春学期にも増して小テストでの復習を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習をしましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、期末試験 60 %。適宜、既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr100LA

ロシア語 1 I

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

営 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語をはじめて学ぶ学生向けの授業です。ロシア語のアルファベット、単語の発音から始めて、簡単な文章を読み、辞書を用いて意味を理解できるようにします。

【到達目標】

教科書の単語と文法を着実に習得する。テキストが読めるようになる。練習問題や宿題を積み重ねて理解度を上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 2 との提携授業です。下記の授業計画にもとづき、文法説明を行い、テキストや練習問題をつうじて理解を深めます。適宜小テストを実施し、採点の上、次回授業で返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	子音の発音、単語の発音
4	基本文型	「～は～である」「～に～がある」という表現、平叙文と疑問文
5	名詞の性	人称代名詞や名詞の性別
6	名詞の複数	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「～の」という表現と名詞の性数との関係
8	形容詞	形容詞と名詞の性数の関係
9	動詞の過去形	主語の性数と動詞の過去形の作り方
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
12	動詞の未来形	主語の人称に応じた動詞の未来形の作り方
13	前置格	「～で」「～について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】

This class is aimed at students learning Russian for the first time. Beginning with learning to read and write the Russian alphabet, we will read simple texts with the dictionary.

LANr100LA

ロシア語 1 II

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

営 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で使った「初級ロシア語」の教科書を引き続き使い、ロシア語の文法学習を進めます。

【到達目標】

文法学習を進め、かんたんな会話や文章の読解、作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 2 との提携授業です。春学期同様、下記の授業計画にもとづき、文法説明を行い、テキストや練習問題をつうじて理解を深めます。適宜小テストを実施し、採点の上、次回授業で返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「～しろ」「～してください」という表現
3	対格	対格（～を）の作り方と、それをもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「～へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格と前置格の作り方、用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格と前置格の作り方、用法
7	名詞の生格	名詞の生格（～の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（～に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格の作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格の作り方と用法
14	秋学期試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。新出単語は各自で調べるようにしてください。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一、白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、
学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】

We will develop the study of Russian grammar with the same
textbook used in the spring semester.

LANr100LA

ロシア語 2 I

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の発音、読み方、書き方から始めます。それらを習得した後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題やテキストの読解などで応用力をつけることを目指します。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に返答できること。学んだ文法を理解し、運用できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 との連携授業です。ロシア語 1 で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、場合によっては「学習支援システム」を通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化 (1)	動詞の現在人称変化（第 1 変化） の説明と練習
10	動詞の現在人称変化 (2)	動詞の現在人称変化（第 2 変化） の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言しやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進展によって若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

This is a course for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

LANr100LA

ロシア語Ⅱ

2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

法1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語1で学んだこと復習しながら、練習問題やテキストの読解によって応用力を養います。ロシア語の特徴である6つの格変化と動詞の活用形を習得し、平易なロシア語の文章を日本語に訳したり、簡単なロシア語の会話ができるようになることを目指します。

【到達目標】

動詞の活用形（現在、過去、未来、命令形）を覚え、運用できること。格の用法を理解し、形を覚えること。平易なロシア語の文章を理解し、正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、コミュニケーションできること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語1と連携して授業を行います。ロシア語1で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、場合によっては「学習支援システム」を通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進捗によって若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

LANr100LA

ロシア語 2 I

2017年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

文 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語アルファベットの読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語1で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

【到達目標】

教科書の単語と文法を着実に習得する。テキストが的確に音読できるようになる。かんたんな挨拶、会話を理解し、適切に回答する。文法を応用しかんたんな表現を使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語1との提携授業です。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、対話の練習を行います。本文を暗記してもらい発音チェックするなど、適宜小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスとアルファベットの紹介
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	単語の発音、発音の規則
4	基本文型	「～は～である」「～に～がある」という表現、平叙文と疑問文、イントネーション
5	名詞の性	人称代名詞、名詞の性
6	名詞の複数形	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「～の」という表現と名詞の性数との関係
8	形容詞	名詞の性数に応じた形容詞の変化
9	動詞の過去形	主語の性数に応じた動詞の過去形の作り方
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
12	動詞の未来形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
13	前置格	「～で」「～について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、
学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】

This class is aimed at students learning Russian for the first time. Beginning with learning to read and write the Russian alphabet, we will master simple greetings and grammar.

LANr100LA

ロシア語Ⅱ

2017年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

文 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。

【到達目標】

学習した文法事項をもとにかんたんなロシア語の文章を理解し日本語に訳せるようになる。かんたんなロシア語の会話を理解し、それに適切に応えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音チェックをするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「～しろ」「～してください」という表現
3	対格	対格（～を）の作り方とそれをもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「～へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格の作り方と用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格、前置格の作り方と用法
7	名詞の生格	名詞の生格（～の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（～に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格の作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格の作り方と用法
14	秋学期試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、
学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】

In this class we'll learn basic Russian grammar to read and understand simple texts and conversation.

LANr100LA

ロシア語 2 I

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の発音、読み方、書き方から始めます。それらを習得した後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題やテキストの読解などで応用力をつけることを目指します。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に返答できること。学んだ文法を理解し、運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
などの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 との連携授業です。ロシア語 1 で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたち授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、場合によっては「学習支援システム」を通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化 (1)	動詞の現在人称変化（第 1 変化） の説明と練習
10	動詞の現在人称変化 (2)	動詞の現在人称変化（第 2 変化） の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、
期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進展によって若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

This is a course for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

LANr100LA

ロシア語Ⅱ

2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語1で学んだことを復習しながら、練習問題やテキストの読解によって応用力を養います。ロシア語の特徴である6つの格変化と動詞の活用形を習得し、平易なロシア語の文章を日本語に訳したり、簡単なロシア語の会話ができるようになることを目指します。

【到達目標】

動詞の活用形（現在、過去、未来、命令形）を覚え、運用できること。格の用法を理解し、形を覚えること。簡単なロシア語の文章を理解し、正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、コミュニケーションできること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語1と連携して授業を行います。ロシア語1で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、場合によっては「学習支援システム」を通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進捗によって若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

LANr100LA

ロシア語 1

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前編）の授業です。ロシア文字の読み方、書き方から始め、初級文法を学習します。ロシア語の発音とイントネーションを重視し、ロシア語の単語の聞き取りや簡単な文の作成までも練習します。

【到達目標】

ロシア語の文字、言葉、文書を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。「ロシア語2」とセットになった対面授業です。まずはロシア語文字に慣れ、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることとなります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントのリンク送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文字と発音（その1）	ロシア語に関する総合的説明。ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
2	文字と発音（その2）	ロシア語の単語の読み方の規則。
3	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
4	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
5	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
6	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
7	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
8	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
9	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
10	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
11	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。

12	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
13	まとめと復習	ここまでの学習のポイント。期末試験対策。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階での最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、小テスト 20 %、期末試験 60 %。原則として、3～4回の授業で前回の内容を復習する小テストを行う。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながる。

【学生の意見等からの気づき】

教員への連絡方法を改善しました。いつでも学生からのメールに対応できるようになりました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末（PC やタブレットなど）。

【その他の重要事項】

ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline and objectives】

The main objective of the elementary course of the Russian language for beginners is to enable students to read Russian letters, to master Russian pronunciations, to understand the elementary Russian grammar.

LANr100LA

ロシア語3

2017 年度以降入学者

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 4、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきたいと思います。この授業が終わる頃には、ロシア語で平易な読み物が読めるようになり、簡単な会話表現が身に付いていることでしょうか。具体的には、ロシア語能力検定試験 4 級もしくは 3 級程度の力がついているはずです。

【到達目標】

SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。文法事項としては、ロシア語能力検定試験 4 級から 3 級程度の力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。春学期に学んだ文法事項を復習するところから始め、引き続き、新たな文法事項を練習問題や読解を通して着実に身につけていきます。文法を学ぶことが語学上達の鍵ですので、一生懸命吸収してください。授業は音読に力を入れます。小テストや課題は教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期期末試験の確認を通して復習を行う。
第 2 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の人称変化。	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の概念について。その人称変化を確認。
第 3 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）。方向の示し方。交通手段。対格、前置格。	前回授業の復習。方向を示す副詞句。交通手段を表す表現。対格と前置格の復習。
第 4 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。	形容詞＋名詞の前置格、対格を覚える。
第 5 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。	前回授業の復習。テキストの読解と質疑応答。
第 6 回	生格（形容詞・所有代名詞も含む）。	形容詞＋名詞の生格を覚える。テキストの読解と質疑応答。
第 7 回	生格（形容詞・所有代名詞も含む）。	前回授業の復習。練習問題。テキストの読解と質疑応答。
第 8 回	与格と造格。	形容詞＋名詞の与格を覚える。テキストの読解と質疑応答。
第 9 回	与格と造格。	形容詞＋名詞のを造格を覚える。テキストの読解と質疑応答。

第10回	動詞の完了体・不完了体。練習問題。	動詞の完了体・不完了体の概念としくみについて。その区別を行う練習問題。
第11回	動詞の完了体・不完了体。	前回授業の復習と確認。
第12回	関係代名詞。テキスト読解。	関係代名詞のしくみについて。文章の中で、関係代名詞の機能を確認していく。
第13回	関係代名詞／目的を示す接続詞。テキスト読解。	前回の復習。目的を示す接続詞を学ぶ。仮定法のしくみについて。
第14回	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業内容の予習（とくに辞書を引く作業）。復習を兼ねた課題。本授業の予習・復習時間は合わせて1時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期と同じ。

【参考書】

春学期と同じ。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末試験（25%）、小テスト（25%）。この成績評価をもとに本授業の到達目標の60%以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

文法と会話の力を身につけていく工夫を重ねていきます。

【Outline and objectives】

This course proceeds in close contact with courses: Russian 4 and Russian 6.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar: grammatical cases, grammatical aspects and relative pronoun. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian.

LANr100LA

ロシア語2

2017年度以降入学者

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：1単位

国1年SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語1、ロシア語5と連携する授業です。単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎作りをしていきましょう。また、コミュニケーション手段としてのロシア語を身近に感じてもらうために、映画や歌謡を通して、習得した表現がどのように使われているのかを確認する時間ももちます。ロシアの文化や慣習とつねに結び付けながら、また英語や日本語との比較を絶えず視野に入れながらロシア語の特殊性、面白さを発見していきましょう。

【到達目標】

ロシア語の文字、音声に慣れましょう。文法の初歩を確実に積み重ね、日常生活で欠かせない表現や単語を覚えて、ロシア語での簡単なコミュニケーションを楽しみます。音読に力を入れて、簡単なロシア語の文章を流麗に読めるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語1と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。ロシア語1で学んだ文法事項を練習問題や簡単な口頭表現で定着させていきます。文法を学ぶことが、語学上達の鍵となりますので、一生懸命に吸収してください。授業は音読に力を入れます。課題や小テストは教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	ガイダンス。 ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。
第2回	文字と発音	ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。
第3回	基本文型「これは物や人を尋ねる表現を覚え、基本的な名詞を覚えながら反復練習。	
第4回	基本文型。名詞の性について。	平叙文の基本文型と疑問詞のない疑問文を確認しつつ、練習問題で基本文型の基礎固めを行う。名詞の性分類。
第5回	名詞の複数形。所有代名詞。自己紹介の練習。	名詞の複数形の作り方の基礎と例外を覚える。名詞の性と所有代名詞の関係を覚える。
第6回	名詞の複数形。所有代名詞。個数詞1～10。	前回の内容を復習しながら、新たな例外も覚える。
第7回	指示代名詞と形容詞。個数詞1～12。	名詞の性と形容詞の関係について覚える。モスクワの街について知る。個数詞を復習しながら12まで書けるようにする。
第8回	動詞の過去形。ロシア人の名前について。練習問題。個数詞11～20。	動詞の過去形の作り方を覚える。ロシア人の名前・父称・姓について。個数詞を20まで覚える。

第9回	動詞の現在形。前置格。場所の表現。個数詞 11～20。	動詞の現在人称変化（第1変化／第2変化）を覚える。場所を表す前置格。個数詞の復習。
第10回	動詞の未来形。前置格。練習問題。個数詞 21～69。	動詞の未来形（合成未来）の作り方を覚える。個数詞を69まで口頭で言えるようにする。
第11回	動詞の命令形。曜日の表現。対格。「～が好き」を使った会話練習。個数詞 70～100。	動詞の命令形の作り方を覚える。個数詞を100まで口頭で言えるようにする。
第12回	動詞の歯音変化と唇音変化。再帰動詞の変化。個数詞 50～199。	動詞の歯音変化と唇音変化を覚える。再帰動詞のしくみと変化について。個数詞を199まで口頭練習。
第13回	動詞の現在、過去、未来形の復習。個数詞 11～199。	春学期に学習したロシア語文法とロシア語の会話表現、疑問文、個数詞の復習を行う。
第14回	期末試験。	筆記とリスニング、もしくはディクテーションからなる期末試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業内容の予習。復習を兼ねた課題。本授業の予習・復習時間は、合わせて1時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』2020/2021年度版 法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版（白水社）
木村彰一 他編『博友社ロシア語辞典』博友社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、小テスト（25%）、期末試験（25%）として総合的に判断します。この評価をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

文法の基礎固めのために、分かり易い説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course proceeds in close contact with courses: Russian 1 and Russian 5.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar and increase the vocabulary of Russian. We will be able to say greetings in Russian.

LANr100LA

ロシア語4

2017年度以降入学者

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1単位

国1年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語3、ロシア語6と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきたいでしょう。この授業が終わる頃には、ロシア語能力検定試験4級もしくは3級程度の力がつきます。

【到達目標】

SAロシアでの授業や生活に困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語3と同じ教材を使用し、各担当教員がリレー方式で授業を行います。ロシア語3で学んだ文法事項を復習しつつ、練習問題を解いたり、テキストを読解することで応用力を養います。小テストや課題は教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学んだ事項の確認と復習。
2	対格の用法	対格の説明と用法練習。
3	対格を使った表現	曜日など対格が含まれる表現の練習。
4	交通の表現	交通の手段と行先の表現（前置格、対格の応用）
5	所有代名詞・形容詞の格変化（前置格・対格）	所有代名詞・形容詞の格変化の説明と練習。
6	生格の用法	生格の説明と練習。
7	生格の用法	生格の説明と練習。
8	与格と造格の用法	与格と造格の説明と練習。
9	与格と造格の復習	名詞の格変化の総復習。
10	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の概念としくみ。練習問題。
11	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の復習
12	関係代名詞	関係代名詞のしくみについて
13	関係代名詞・目的を示す接続詞	関係代名詞の練習
14	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学で予習、復習は大切です。新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことはしっかり復習しましょう。格変化は変化表でくりかえし確認し覚えるようにしましょう。本授業の予習・復習時間は、合わせて1時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』2020/2021 年度版 法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社

木村彰一 他編『博友社ロシア語辞典』博友社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末試験（25%）、小テスト（25%）として総合的に判断します。この成績評価をもとに本授業の到達目標の60%以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This course proceeds in close contact with courses: Russian 3 and Russian 6.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar: grammatical cases, grammatical aspects and relative pronoun. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian.

LANr100LA

ロシア語5

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1、2 と連携した授業です。ロシア語 1、2 で学んだことを復習しながら、ロシア語の正しい発音やイントネーション、基本的な単語や文法を習得します。

【到達目標】

ロシア語のアクセントの位置やイントネーションを確認して、正しく発音できるようになること、学んだ文法を理解し、運用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1、2 で学んだことを復習しながら、知識の定着をはかるために練習問題を解き、語彙を増やすために小テストを実施します。また必要に応じて課題を課します。添削した小テストや課題は、次の授業時に返却しますが、場合によっては「学習支援システム」を通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文字と発音	ロシア（キリル）文字の発音練習。
2	文字と発音	ロシア（キリル）文字の発音練習。
3	基本文型（～は～である。～に～がある。）	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の復習と練習。
4	基本文型（～は～である。～に～がある。）	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の復習と練習。
5	名詞の複数、所有代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
6	形容詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
7	動詞の過去形、副詞、格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
8	動詞の現在形、未来形、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
9	動詞の現在形、未来形、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
10	動詞の命令形、対格、曜日	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
11	動詞の命令形、対格、曜日	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
12	運動の動詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
13	運動の動詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示した課題は必ずやってくる。小テストの内容や範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようしてください。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進捗により若干の変更があります。

【Outline and objectives】

The goals of this course are: (1) to give students practice at listening and speaking, and (2) to teach students useful words and expressions.

LANr100LA

ロシア語6

2017年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語3、4と連携した授業です。ロシア語3、4で学んだことを復習しながら、基本的な単語や文法を身につけ、総合的なロシア語力を養います。とくに格変化や数詞を使った表現の定着をはかります。

【到達目標】

教科書で学んだ文法事項を応用レベルで定着させ、ロシア語能力検定試験の4級・3級レベルに合格する程度の力をつけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書で学んだことを復習しながら、知識の定着をはかるために練習問題を解き、語彙を増やすために小テストを実施します。また必要に応じて課題を課します。添削した小テストや課題は、次回の授業時に返却しますが、場合によっては「学習支援システム」を通して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	形容詞・所有代名詞の対格、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
2	形容詞・所有代名詞の対格、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
3	生格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
4	生格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
5	与格と造格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
6	与格と造格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
7	動詞の完了体、不完了体	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
8	動詞の完了体、不完了体	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
9	関係代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
10	関係代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
11	数詞と名詞の結合	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
12	数詞と名詞の結合	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
13	比較級、最上級、仮定法	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示した課題は必ずやってくる。小テストの内容や範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようにしてください。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50%、期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

The goals of this course are: (1) to teach students basic grammar, useful words, and expressions; (2) to give students practice at writing, listening, and speaking.

LANr100LA

ロシア語 1 - I

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で初めてロシア語を学ぶ学生のための授業です。アルファベットの文字と発音の習得から始め、基礎文法と基本単語を身につけ、初級テキストの正確な音読・和訳、また、挨拶など初歩的なコミュニケーション能力を養成します。履歴書に資格として記載できるロシア語能力検定試験4級合格の準備を始めます。ロシア文化に関する知識も広げていきます。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。ロシア語の文字をパソコンのキーボード入力や手書き（筆記体など）ができる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を習得する。挨拶などの簡単な会話を覚え、実際に使ってみる。ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験4級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、DVDやCDなどの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、第1課 文字の発音と書き方	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音（母音）、簡単な挨拶
2	第1課 文字と単語の発音	文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第2課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、発音のミニテスト
4	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第4課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト、第5課 動詞の不定形と過去形	中間テスト（2課から4課）、第5課 動詞（不定形と過去形）
10	第5課 副詞と格について	副詞の作り方、格の説明

11	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
12	第6課 前置格	第6課 前置格
13	春学期の復習	春学期の復習（5課と6課の動詞と格変化を中心に復習）
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（5課・6課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につける。小テスト前には集中的に復習をする。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020年

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

発音の学習後に発音のミニテスト、中間テストと最終週の期末テストを行います。この試験結果が評価の60%となります。その他の40%は平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。

【その他の重要事項】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ、対面とオンライン授業を併用した展開となります。なお、春学期第一週目は、学習支援システムでのオンライン授業（今後の授業アンケート含む）となります。

【Outline and objectives】

This course is for students who did not pass the basic Russian course 1- I and take it for a second time. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to master basic grammar and vocabulary; 3) to be able to read simple sentences naturally aloud and understand their meaning ; 4) be able to develop elementary communication skills in Russian; 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level; 6) to know Russian culture.

LANr100LA

ロシア語 1 - II

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳作文ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、準備を進める。

【到達目標】

ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。毎年5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、初級文法を着実に習得し練習問題が解ける。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身につけていきます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第7課 動詞の命令形、曜日	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第7課 対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第8課 運動の動詞1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第8課 運動の動詞2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間試験・まとめと解説	中間試験・まとめと解説（7課と8課）
7	第9課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第9課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第10課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第10課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第11課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第11課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）

13	秋学期の総復習	秋学期の総復習
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（9-11課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。評価テスト前に集中的に復習する。

ロシア語能力検定試験4級、3級に向けて練習問題・過去問題を解く。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHKロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）
『ティータムのロシア語《CD付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の60%となります。その他に平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題提出などを40%とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

【その他の重要事項】

ロシア語1-Iを履修していることが受講条件です。
今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ、対面とオンライン授業を併用した展開となります。なお、学期第一週目は、学習支援システムでのオンライン授業（今後の授業アンケート含む）となります。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語1-I

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水1/Wed.1

単位数：1単位

キ1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1) 文字と発音の習得、2) 初級文法の最初の段階。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。

「ロシア語1-II」とセットになっています。また、「ロシア語2-I」と提携して行なわれる授業です。

ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。

次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。

まず文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。

学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その2）	前回の続き。
③	文字と発音（その3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。

- ⑩ 名詞の格 名詞には六つの「格」(主格・生格・与格・対格・造格・前置格)があること。
- ⑪ 動詞の現在形 動詞の現在形は、主語の人称(わたし・あなた・彼・彼女など)によって決まること。
- ⑫ 動詞の未来形 動詞の未来形は、主語の人称(わたし・あなた・彼・彼女など)によって決まること。
- ⑬ 名詞の前置格 名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
- ⑭ 期末試験 文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。
この段階で最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト(教科書)】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法(改訂版)』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点(課題、小テスト)40%、期末試験60%。適宜、既習の内容を復習するための課題の提示や小テストを行います。期末試験はこれら課題や小テストを総括するテストです。
特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.)

LANr100LA

ロシア語 1 - II

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

ロシア語入門(後編)。1) 初級文法。2) 会話、読解、作文。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「ロシア語 1-I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2-II」と提携して行なわれる授業です。
ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞(と形容詞・所有代名詞)の「格」の変化と意味を覚えることです。
文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。

学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞(その1)	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞(その2)	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習をしましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）40%、期末試験60%。適宜、既習の内容を復習するために課題を提示し、小テストを行います。期末試験はこれら課題や小テストを総括するテストです。

特にロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr100LA

ロシア語 2 - I

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を「聞く・読む・話す・書く」練習をこなし、大学で初めて学ぶ語学を確実に身につける。正確に文字を発音し、テキストをきれいに音読できる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。文法を使いテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。ロシア語能力検定試験 4 級合格を目指した準備を始める。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットを覚え、書けるようになる。単語の美しく正確な発音ができる。名詞を中心とした文法（形容詞、所有代名詞、指示代名詞）と動詞の変化を覚える。格の意味などロシア語の構文の構造を理解する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、DVD や CD などの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第1課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第1課 ロシア文字と単語の発音、発音のテスト	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント、発音のテスト
4	第2課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、挨拶の練習
5	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第4課 形容詞・中間試験・まとめと解説	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題、中間試験・まとめと解説
10	第5課 動詞の不定形と過去形	動詞（不定形と過去形）
11	第5課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明

12	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第6課 前置格 春学期の復習	前置格の説明、春学期の復習
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（5課・6課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につける。小テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験4級合格を目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得していく。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2020年

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

発音のミニテスト、中間テストと最終週の期末テストを行います。この試験結果が評価の60%となります。その他の40%は平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとした発音練習、単語の小テストの実施

【その他の重要事項】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ、対面とオンライン授業を併用した展開となります。なお、学期第一週目は、学習支援システムでのオンライン授業（今後の授業アンケート含む）となります。

【Outline and objectives】

You will practice Russian by “listening, reading, talking, and writing” and definitely acquire it as your first new language subject at the university. You will be able to pronounce characters exactly and read text smoothly. You will learn basic grammar using textbooks. You will be able to understand the meaning of text by using the grammar you have acquired. You will be able to greet people in Russian. You will start preparing to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語2-II

2017年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

環1年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の文法の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞をはじめ、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を覚える。その上でロシア語能力検定試験4級への準備を続ける。さらに辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

【到達目標】

格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。毎年5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。それに対応するロシア語能力検定試験の過去問題や対策問題を解きます。さらに習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第7課 動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第7課 対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第8課 運動の動詞1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第8課 運動の動詞2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間試験・まとめと解説	中間試験（7-8課）・まとめと解説、会話の練習、自己紹介等
7	第9課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第9課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第10課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）

10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	教科書の練習問題を中心に検定試験 4 級 3 級の問題も解いていく
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（9-11 課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。評価テスト前に集中的に復習する。ロシア語能力検定試験 4 級に向けて練習問題を解く。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心を持ち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題提出などを 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業での格変化表の暗唱、単語のミニテスト、リスニングの練習を増やす。

【その他の重要事項】

春学期のロシア語 2-I の履修が必須条件です。
今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、社会情勢を踏まえつつ、対面とオンライン授業を併用した展開となります。なお、学期第一週目は、学習支援システムでのオンライン授業（今後の授業アンケート含む）となります。

【Outline and objectives】

After reviewing the grammar you learned in the spring semester, you will learn to understand the structure of Russian grammar focusing on case inflection. First, you will memorize the declensions of nouns, adjectives, personal pronouns, and so on. Then, you will learn the imperative forms of verbs and the verbs for movement, which are very different from Japanese. You will continue preparing for the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4. Furthermore, you will develop your ability to translate Russian texts to Japanese and Japanese texts to Russian using a dictionary. Through listening, reading, and conversation practice, you will acquire the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing."

LANr100LA

ロシア語 2 - I

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語アルファベットの読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

【到達目標】

教科書の単語と文法を着実に習得する。テキストが的確に音読できるようになる。かんたんな挨拶、会話を理解し、適切に回答する。文法を応用しかんたんな表現を使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音をチェックするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス、アルファベットの紹介
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	単語の発音、発音の規則
4	基本文型	「～は～である」「～に～がある」という表現、平叙文と疑問文のイントネーション
5	名詞の性	人称代名詞、名詞の性別
6	名詞の複数形	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「～の」という表現と名詞の性数ごとの変化
8	形容詞	名詞の性数におうじた形容詞の変化
9	動詞の過去形	過去形の性数変化
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	動詞の現在人称変化
12	動詞の未来形	動詞の未来形の人称変化
13	前置格	「～で」「～について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが積極的に発言できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】

This class is aimed at students learning Russian for the first time. Beginning with learning to read and write the Russian alphabet, we will be acquainted with simple greetings and grammar.

LANr100LA

ロシア語 2 - II

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。

【到達目標】

学習した文法事項をもとにかんたんなロシア語の文章を理解し日本語に訳せるようになる。かんたんなロシア語の会話を理解し、それに適切に応えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音をチェックするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「～しろ」「～してください」という表現
3	名詞の対格	対格（～を）の作り方、対格をもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「～へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格の作り方と用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格、前置格の作り方と用法
7	名詞の生格	名詞の生格（～の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（～に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格と作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格の作り方と用法
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。新出単語は各自、辞書で意味を調べるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %
学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】

In this class, we'll learn basic Russian grammar to read and understand simple texts and conversation.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の授業が対面授業となる場合、各期末テストに加え、授業内での小テスト、e宿題実施状況、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。

（期末テスト70%、平常点（小テスト含む）30%）

春学期における授業がオンデマンドになる場合、基本的に以下の基準で評価します。

・毎週の課題の提出状況

・e宿題実施状況

学生のみなさんの学習環境によっては、zoomなどを使用して

小テストなどを行う可能性もあります。

成績評価に関しては、可能な授業形態、学生の皆さんの受講状況、受講環境などを考慮し、変更があった場合はその都度お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業となった場合でも、zoomなどを活用して教室での授業と同じように発音のチェックや会話練習などを行い、学生のみなさんの要望にできる限り答えたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

法1年G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。また、課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の授業が対面授業となる場合、各期末テストに加え、授業内での

小テスト、e宿題実施状況、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。

（期末テスト70%、平常点（小テスト含む）30%）

秋学期における授業がオンデマンドになる場合、基本的に以下の基準で評価します。

・毎週の課題の提出状況

・e宿題実施状況

学生のみなさんの学習環境によっては、zoomなどを使用して小テストなどを行う可能性もあります。

成績評価に関しては、可能な授業形態、学生の皆さんの受講状況、受講環境などを考慮し、変更があった場合はその都度お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業となった場合でも、zoomなどを活用して教室での授業と同じように発音のチェックや会話練習などを行い、学生の要望にできる限り答えたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

法1年H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜課題（e宿題）を行ってもらいます。課題や試験などのフィードバックは授業の中または授業支援システムなどで行います。月曜の中国語1についてはZoomによるライブ授業となります。Zoom授業への参加方法については授業支援システムよりアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方。 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」のまとめ
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文の基本」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文の基本」あるいは「名詞述語文の基本」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文の基本」あるいは「連体修飾語、連用修飾語の基本」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語の基本」あるいは「動詞述語文1 “是” の用法他」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2 “的” の用法他」あるいは「動詞述語文3 “有”(所有) の用法他」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4 “有”(所属) の用法他」あるいは「動詞述語文5 “有”(存在) の用法他」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6 “請” の用法他」あるいは「動詞述語文7 連動文他」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	授業内試験・まとめと 解説	「第1課から第20課」までの口 頭試験（予定）、まとめと解説
14	授業内試験・フィード バック	「第1課から第20課」までの筆 記試験（予定）、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅でもweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）の「e宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は学習支援システムや授業開始後にお知らせします。URLのページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「e宿題」などのweb教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点40%、自宅学習30%、期末試験30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomによるライブ授業はネットに接続されたPCなどでの参加が必要です。ライブ授業の受講については、大学のガイドラインや指示に従ってください。自宅学習で使用するweb教材（e宿題など）の学習も、ネット環境とデバイスが必要ですが、自宅のPC、学内のPC、タブレット、スマートフォンなどによる学習が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、学習支援システムを介し、担当者にお寄せください。必要に応じてメールやZoomの個室（ブレイクアウトルーム）などで対応します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

法1年H

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。課題や試験などのフィードバックは授業の中または授業支援システムなどで行います。月曜日は毎回Zoomを用いたりリアルタイムのオンライン授業を行います。ZoomのURLは毎回授業前に学習支援システムにて発表する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」あるいは「進行態」「持続態」
2	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文1形容詞と副詞他」 あるいは「形容詞述語文2比較の用法他」
3	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文3“多～”の用法他」あるいは「名詞述語文1月日・曜日他」
4	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文2時刻他」あるいは「名詞述語文3金額他」
5	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語の用法他」あるいは「連用修飾語の用法他」
6	「第31課」 あるいは 「第32課」	「補語1程度補語他」あるいは「補語2数量補語他」
7	「第33課」 あるいは 「第34課」	「補語3結果補語他」あるいは「補語4方向補語他」
8	「第35課」 あるいは 「第36課」	「補語5可能補語他」あるいは「助動詞の用法他」
9	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文の用法他」あるいは「受け身表現他」
10	「第39課」 あるいは 「第40課」	「“把”構文の用法他」あるいは「存現文の用法」
11	「第21課から第30課」	「第21課から第40課」までの復習
12	授業内筆記試験・口頭試験準備	「第21課から第40課」までの筆記試験、口頭試験解説と練習

- 13 授業内口頭試験・まとめと講評 「第21課から第40課」までの口頭試験、まとめと講評
- 14 フィードバック 「第21課から第40課」までの総括と試験を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅でweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://ffc.xsrv.jp/hosei>）の「e宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は学習支援システムや授業開始後にお知らせします。不明な点は担当者に問い合わせるかURLのページ下部からダウンロードできる『ブレンド学習の手引き』を参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「e宿題」などのweb教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点40%、自宅学習30%、期末試験30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomによるライブ授業はネットに接続されたPCなどでの参加が必要です。ライブ授業の受講については、大学のガイドラインや指示に従ってください。自宅学習で使用するweb教材（e宿題など）の学習も、ネット環境とデバイスが必要ですが、自宅のPC、学内のPC、タブレット、スマートフォンなどによる学習が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、学習支援システムを介し、担当者にお寄せください。必要に応じてメールやZoomの個室（ブレイクアウトルーム）などで対応します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

法1年1・J

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中または学習支援システムの「お知らせ」などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期末試験70%、小テスト・授業態度を30%として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細は授業中に説明します。出席回数が授業回数 $\frac{3}{2}$ に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。オンデマンド形式の場合、期末試験40%、平常点（教科書の練習問題やe宿題等の毎回の課題）60%として評価します。課題の提出回数が授業回数 $\frac{3}{2}$ に及ばなかった者は、成績評価の対象としません。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。状況によっては授業形態や評価方法に変更が生じる可能性もあります。学習支援システムの「授業情報表示」や「お知らせ」を随時確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

法1年I・J

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部¹のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中または学習支援システムの「お知らせ」などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期末試験70%、小テスト・授業態度を30%として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細は授業中に説明します。出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。オンデマンド形式の場合、期末試験40%、平常点（教科書の練習問題やe宿題等の毎回の課題）60%として評価します。課題の提出回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。状況によっては授業形態や評価方法に変更が生じる可能性もあります。学習支援システムの「授業情報表示」や「お知らせ」を随時確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

野村 英登

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：1単位

法1年K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、授業での課題 30%、e宿題 20%で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

野村 英登

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

法1年K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 % で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

鷺巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
- ・課題や試験の総得点を80%、e宿題を20%とする。
- ・e宿題は、期限までに提出すれば1課につき1点、遅れて提出したら0.5点とする。期限は授業時に知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

- ・質問や知らせたいことがあったら、授業時に直接伝えるか、課題の最後に記入するかのいずれかにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提示・回収・採点結果の通知は、基本的には学習支援システムによって行います。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

鷺巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

法1年L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
- ・課題や試験の総得点を80%、e宿題を20%とする。
- ・e宿題は、期限までに提出すれば1課につき1点、遅れて提出したら0.5点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】

質問や知らせたいことがあれば、授業時に直接伝えるか、課題の最後に記入するかのいずれかにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提示・回収・採点結果の通知は、基本的には授業支援システムによって行います。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講の場合、平常点〔小テスト・課題など授業に関するもの全て〕（100％）の結果に基づき、総合的に評価する。なお、課題などの未提出・不参加が合計7回以上あった場合は、評価の対象としない。新型コロナウイルスの感染状況によって可能な場合は、平常点のほかに期末試験を実施する。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。その他履修上の注意など詳しい授業内容や授業に関して何か変更がある場合は、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせをよく確認するようにしてほしい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講の場合、平常点〔小テスト・課題など授業に関するもの全て〕（100％）の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、課題などの未提出・不参加が合計7回以上あった場合は、評価の対象としない。

新型コロナウイルスの感染状況によって可能な場合は、平常点のほかに期末試験を実施する。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

その他履修上の注意など詳しい授業内容や授業に関して何か変更がある場合は、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせをよく確認するようにしてほしい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法 1 年 V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中または学習支援システムの「お知らせ」などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期末試験70%、小テスト・授業態度を30%として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細は授業中に説明します。出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。オンデマンド形式の場合、期末試験40%、平常点（教科書の練習問題やe宿題等の毎回の課題）60%として評価します。課題の提出回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。状況によっては授業形態や評価方法に変更が生じる可能性もあります。学習支援システムの「授業情報表示」や「お知らせ」を随時確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1単位

法1年V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部でのディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中または学習支援システムの「お知らせ」などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期末試験70%、小テスト・授業態度を30%として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細は授業中に説明します。出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。オンデマンド形式の場合、期末試験40%、平常点（教科書の練習問題やe宿題等の毎回の課題）60%として評価します。課題の提出回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。状況によっては授業形態や評価方法に変更が生じる可能性もあります。学習支援システムの「授業情報表示」や「お知らせ」を随時確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

文1年B・E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
また、復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。
- ・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。
- ・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。
- ・指示されたe宿題には必ず取り組んでください。
- ・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」

10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習では最低限CDを聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはりCDを聴いて音読を繰り返すことに努めてください。ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。e宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。

②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト・課題の完成度 40%、平常点 10%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

文1年B・E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

・中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
また、復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。

・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

・指示されたe宿題には必ず取り組んでください。

・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」 までの 課」	「第21課から第30課」までの 復習
13	「第31課から第40課」 までの 課」	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習では最低限CDを聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはりCDを聴いて音読を繰り返すことに努めてください。ディクテーション（中国語の音声聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。e宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。

②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト・課題の完成度 40%、平常点 10%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

文1年H・I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使って行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト・課題）40%、期末試験60%
2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

文1年H・I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使って行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト・課題）40%、期末試験60%
2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語1I

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：1単位

文1年L~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは、授業時間内に行います。

緊急な場合はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末テスト70%、授業態度20%、e宿題10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

文1年L～P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急な時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習

- 13 「第31課から第40課」までの復習
 14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

欠席は4回まで、5回以上は不合格です。遅刻2回で欠席1回です。期末テスト70%、授業態度20%、e宿題10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

文 1 年 Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

※本授業は対面を基本としますがオンラインを併用する場合もあります（在宅で受講する学生に向けてハイフレックス型にも対応します）。※第1週目（初回授業）はオンラインです。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e宿題」） 20 %
② 小テスト・授業への参加度 40 %
③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

文 1 年 Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。本授業は対面を基本としますがオンラインを併用する場合があります（在宅で受講する学生に向けてハイフレックス型にも対応します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

12	「第21課から第30課」までの復習	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」までの復習	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e宿題」） 20 %
② 小テスト・授業への参加度 40 %
③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

文1年U・V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

発音練習ではペアワークをします。

本授業は対面を基本とし、オンラインを併用する場合があります。第1週目（初回授業）はオンラインとなります。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、期末テスト 80 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

勉強方法も含めて疑問点はそのままにせず随時質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業中のペアワークを Zoom で行う場合や e 宿題を行う場合スマートフォン・タブレット・ノート PC などがが必要です。マイク付きイヤホンあるいはヘッドセットとともに持参してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 U・V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

発音練習ではペアワークをします。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、期末テスト 80 %の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

勉強方法も含めて疑問点はそのままにせず随時質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業中のペアワークを Zoom で行う場合や e 宿題を行う場合スマートフォン・タブレット・ノート PC が必要です。マイク付きイヤホンあるいはヘッドセットとともに持参してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

大野 広之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：毎回の授業に際して学生が学びを通して考察したことについて記述を求めます。(50%)

試験：学期末及び任意設定の試験により到達度を測定します。(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業において学生の考察記述から学習プロセスにみられる弱点について授業でフィードバックして参りましたが、学生に対して個別指導をさらに強化することで理解が確かなものになるようです。従いまして、今後もさらに継続して参ります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：毎回の授業に際して学生が学びを通して考察したことについて記述を求めます。(50%)

試験：学期末及び任意設定の試験により到達度を測定します。(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業において学生の考察記述から学習プロセスにみられる弱点について授業でフィードバックして参りましたが、学生に対して個別指導をさらに強化することで理解が確かなものになるようです。従いまして、今後もさらに継続して参ります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年 B・C

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。また、課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の授業が対面授業となる場合、各期末テストに加え、授業内での

小テスト、e宿題実施状況、平常点（積極的に発言しているか、熱心に

課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。

（期末テスト70%、平常点（小テスト含む）30%）

春学期における授業がオンデマンドになる場合、基本的に以下の基準で評価します。

・毎週の課題の提出状況

・e宿題実施状況

学生のみなさんの学習環境によっては、zoomなどを使用して

小テストなどを行う可能性もあります。

成績評価に関しては、可能な授業形態、学生の皆さんの受講状況、受講環境などを考慮し、変更があった場合はその都度お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業となった場合でも、zoomなどを活用して教室での授業と同じように発音のチェックや会話練習などを行い、学生の要望にできる限り答えたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1単位

営 1年 B・C

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて教場で支持します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の授業が対面授業となる場合、各期末テストに加え、授業内での

小テスト、e宿題実施状況、平常点（積極的に発言しているか、熱心に

課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。

（期末テスト70%、平常点（小テスト含む）30%）

秋学期における授業がオンデマンドになる場合、基本的に以下の基準で評価します。

・毎週の課題の提出状況

・e宿題実施状況

学生のみなさんの学習環境によっては、zoomなどを使用して

小テストなどを行う可能性もあります。

成績評価に関しては、可能な授業形態、学生の皆さんの受講状況、受講環境などを考慮し、変更があった場合はその都度お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業となった場合でも、zoomなどを活用して教室での授業と同じように発音のチェックや会話練習などを行い、学生のみなさんの要望にできる限り答えたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

大野 広之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営1年D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：毎回の授業に際して学生が学びを通して考察したことについて記述を求めます。(50%)

試験：学期末及び任意設定の試験により到達度を測定します。(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業において学生の考察記述から学習プロセスにみられる弱点について授業でフィードバックして参りましたが、学生に対して個別指導をさらに強化することで理解が確かなものになるようです。従いまして、今後もさらに継続して参ります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営1年D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：毎回の授業に際して学生が学びを通して考察したことについて記述を求めます。(50%)

試験：学期末及び任意設定の試験により到達度を測定します。(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業において学生の考察記述から学習プロセスにみられる弱点について授業でフィードバックして参りましたが、学生に対して個別指導をさらに強化することで理解が確かなものになるようです。従いまして、今後もさらに継続して参ります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講の場合、平常点〔小テスト・課題など授業に関するもの全て〕（100％）の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、課題などの未提出・不参加が合計7回以上あった場合は、評価の対象としない。

新型コロナウイルスの感染状況によって可能な場合は、平常点のほかに期末試験を実施する。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

その他履修上の注意など詳しい授業内容や授業に関して何か変更がある場合は、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせをよく確認するようにしてほしい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講の場合、平常点〔小テスト・課題など授業に関するもの全て〕（100%）の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、課題などの未提出・不参加が合計7回以上あった場合は、評価の対象としない。

新型コロナウイルスの感染状況によって可能な場合は、平常点のほかに期末試験を実施する。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

その他履修上の注意など詳しい授業内容や授業に関して何か変更がある場合は、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせをよく確認するようにしてほしい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年 F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

・中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
また、復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。

・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。

・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」

10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習では最低限CDを聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはりCDを聴いて音読を繰り返すことに努めてください。ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。e宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。

②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト・課題の完成度 40%、平常点 10%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1単位

営 1年 F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

・中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
また、復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。

・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

・指示されたe宿題には必ず取り組んでください。

・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」 までの 課」	「第21課から第30課」までの 復習
13	「第31課から第40課」 までの 課」	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習では最低限CDを聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはりCDを聴いて音読を繰り返すことに努めてください。ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。e宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。

②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト・課題の完成度 40%、平常点 10%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

発音練習ではペアワークをします。

本授業は対面を基本とし、オンラインを併用する場合があります。第1週目（初回授業）はオンラインとなります。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかりと身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、期末テスト 80 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

勉強方法も含めて疑問点はそのままにせず随時質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業中のペアワークを Zoom で行う場合や e 宿題を行う場合スマートフォン・タブレット・ノート PC などがが必要です。マイク付きイヤホンあるいはヘッドセットとともに持参してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

発音練習ではペアワークをします。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、期末テスト 80 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

勉強方法も含めて疑問点はそのままにせず随時質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業中のペアワークを Zoom で行う場合や e 宿題を行う場合スマートフォン・タブレット・ノート PC が必要です。マイク付きイヤホンあるいはヘッドセットとともに持参してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

営 1 年 M・N

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

欠席は4回まで、5回以上は不合格です。遅刻2回で欠席1回です。期末テスト70%、授業態度20%、e宿題10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営1年M・N

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時は授業内に対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは	「経験態」 あるいは
3	「第22課」 あるいは	「進行態」「持続態」 あるいは
	「第23課」 あるいは	「形容詞述語文」1 あるいは
4	「第24課」 あるいは	「形容詞述語文」2 あるいは
	「第25課」 あるいは	「形容詞述語文」1 あるいは
5	「第26課」 あるいは	「名詞述語文」2 あるいは
	「第27課」 あるいは	「名詞述語文」3 あるいは
6	「第28課」 あるいは	「名詞述語文」3 あるいは
	「第29課」 あるいは	「連体修飾語」 あるいは
7	「第30課」 あるいは	「連用修飾語」 あるいは
	「第31課」 あるいは	「程度補語」 あるいは
8	「第32課」 あるいは	「数量補語」 あるいは
	「第33課」 あるいは	「結果補語」 あるいは
9	「第34課」 あるいは	「方向補語」 あるいは
	「第35課」 あるいは	「可能補語」 あるいは
10	「第36課」 あるいは	「助動詞」 あるいは
	「第37課」 あるいは	「兼語文」 あるいは
11	「第38課」 あるいは	「受け身表現」 あるいは
	「第39課」 あるいは	「把構文」 あるいは
12	「第40課」 あるいは	「存現文」 あるいは
	「第21課から第30課」までの復習	「第21課から第30課」までの復習

- 13 「第31課から第40課」までの
復習
- 14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

欠席は4回まで、5回以上は不合格です。遅刻2回で欠席1回です。期末テスト70%、授業態度20%、e宿題10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

野村 英登

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営1年O・Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e宿題 20 %で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

野村 英登

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営1年O・Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、授業での課題 30%、e宿題 20%で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年 R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

・中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
また、復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。

・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

・指示されたe宿題には必ず取り組んでください。

・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」

10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習では最低限CDを聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはりCDを聴いて音読を繰り返すことに努めてください。ディクテーション（中国語の音声聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。e宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。

②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト・課題の完成度 40%、平常点 10%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

営1年R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

・中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
また、復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。

・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

・指示されたe宿題には必ず取り組んでください。

・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」 までの 課」	「第21課から第30課」までの 復習
13	「第31課から第40課」 までの 課」	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習では最低限CDを聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはりCDを聴いて音読を繰り返すことに努めてください。ディクテーション（中国語の音声聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。e宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。

②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト・課題の完成度 40%、平常点 10%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業外学習としてe宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

営1年T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜課題（e宿題）を行ってもらいます。課題や試験などのフィードバックは授業の中または授業支援システムなどで行います。月曜の中国語1についてはZoomによるライブ授業となります。Zoom授業への参加方法については授業支援システムよりアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方。 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」のまとめ
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文の基本」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文の基本」あるいは「名詞述語文の基本」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文の基本」あるいは「連体修飾語、連用修飾語の基本」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語の基本」あるいは「動詞述語文1 “是”の用法他」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2 “的”の用法他」あるいは「動詞述語文3 “有”(所有)の用法他」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4 “有”(所属)の用法他」あるいは「動詞述語文5 “有”(存在)の用法他」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6 “請”の用法他」あるいは「動詞述語文7 連動文他」

- 12 「第19課」 「完了態」あるいは「変化態」
あるいは
「第20課」
- 13 授業内試験・まとめと 「第1課から第20課」までの口
解説 頭試験（予定）、まとめと解説
- 14 授業内試験・フィードバック 「第1課から第20課」までの筆
記試験（予定）、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅でもweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）の「e宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は学習支援システムや授業開始後にお知らせします。URLのページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「e宿題」などのweb教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点40%、自宅学習30%、期末試験30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomによるライブ授業はネットに接続されたPCなどでの参加が必要です。ライブ授業の受講については、大学のガイドラインや指示に従ってください。自宅学習で使用するweb教材（e宿題など）の学習も、ネット環境とデバイスが必要ですが、自宅のPC、学内のPC、タブレット、スマートフォンなどによる学習が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、学習支援システムを介し、担当者にお寄せください。必要に応じてメールやZoomの個室（ブレイクアウトルーム）などで対応します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

営1年T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。課題や試験などのフィードバックは授業の中または授業支援システムなどで行います。月曜日は毎回Zoomを用いたりリアルタイムのオンライン授業を行います。ZoomのURLは毎回授業前に学習支援システムにて発表する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」あるいは「進行態」「持続態」
2	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文1形容詞と副詞他」 あるいは「形容詞述語文2比較の用法他」
3	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文3“多～”の用法他」あるいは「名詞述語文1月日・曜日他」
4	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文2時刻他」あるいは「名詞述語文3金額他」
5	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語の用法他」あるいは「連用修飾語の用法他」
6	「第31課」 あるいは 「第32課」	「補語1程度補語他」あるいは「補語2数量補語他」
7	「第33課」 あるいは 「第34課」	「補語3結果補語他」あるいは「補語4方向補語他」
8	「第35課」 あるいは 「第36課」	「補語5可能補語他」あるいは「助動詞の用法他」
9	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文の用法他」あるいは「受け身表現他」
10	「第39課」 あるいは 「第40課」	「“把”構文の用法他」あるいは「存現文の用法」
11	「第21課から第30課」	「第21課から第40課」までの復習
12	授業内筆記試験・口頭試験準備	「第21課から第40課」までの筆記試験、口頭試験解説と練習

- 13 授業内口頭試験・まとめと講評 「第21課から第40課」までの口頭試験、まとめと講評
- 14 フィードバック 「第21課から第40課」までの総括と試験を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅でweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fjc.xsrv.jp/hosei>）の「e宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は学習支援システムや授業開始後にお知らせします。不明な点は担当者に問い合わせるかURLのページ下部からダウンロードできる『ブレンド学習の手引き』を参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「e宿題」などのweb教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点40%、自宅学習30%、期末試験30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomによるライブ授業はネットに接続されたPCなどでの参加が必要です。ライブ授業の受講については、大学のガイドラインや指示に従ってください。自宅学習で使用するweb教材（e宿題など）の学習も、ネット環境とデバイスが必要ですが、自宅のPC、学内のPC、タブレット、スマートフォンなどによる学習が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、学習支援システムを介し、担当者にお寄せください。必要に応じてメールやZoomの個室（ブレイクアウトルーム）などで対応します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営1年G~K

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使って行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト・課題）40%、期末試験60%
2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

営1年G~K

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使って行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習

- 13 「第31課から第40課」までの
課 復習
- 14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト・課題）40%、期末試験60%
2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

法 1 年 F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

欠席は4回まで、5回以上は不合格です。遅刻2回で欠席1回です。期末テスト70%、授業態度20%、e宿題10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

法 1 年 F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは	「経験態」 あるいは
3	「第22課」 あるいは	「進行態」「持続態」 あるいは
4	「第23課」 あるいは	「形容詞述語文」1 あるいは
5	「第24課」 あるいは	「形容詞述語文」2 あるいは
6	「第25課」 あるいは	「形容詞述語文」3 あるいは
7	「第26課」 あるいは	「名詞述語文」1 あるいは
8	「第27課」 あるいは	「名詞述語文」2 あるいは
9	「第28課」 あるいは	「名詞述語文」3 あるいは
10	「第29課」 あるいは	「連体修飾語」 あるいは
11	「第30課」 あるいは	「連用修飾語」 あるいは
12	「第31課」 あるいは	「程度補語」 あるいは
13	「第32課」 あるいは	「数量補語」 あるいは
14	「第33課」 あるいは	「結果補語」 あるいは
15	「第34課」 あるいは	「方向補語」 あるいは
16	「第35課」 あるいは	「可能補語」 あるいは
17	「第36課」 あるいは	「助動詞」 あるいは
18	「第37課」 あるいは	「兼語文」 あるいは
19	「第38課」 あるいは	「受け身表現」 あるいは
20	「第39課」 あるいは	「把構文」 あるいは
21	「第40課」	「存現文」
22	「第21課から第30課」までの復習	「第21課から第30課」までの復習

- 13 「第31課から第40課」までの
復習
- 14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

欠席は4回まで、5回以上は不合格です。遅刻2回で欠席1回です。期末テスト70%、授業態度20%、e宿題10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語1 I

2017年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

営1年S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
- ・課題や試験の総得点を80%、e宿題を20%とする。
- ・e宿題は、期限までに提出すれば1課につき1点、遅れて提出したら0.5点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】

- ・質問や知らせたいことがあったら、授業時に直接伝えるか、課題の最後に記入するかのいずれかにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提示・回収・得点結果の通知は、基本的には授業支援システムによって行います。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

鷺巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1年 S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・全授業回数の三分の二以上出席したものを評価の対象とする。
- ・課題や試験の総得点を80%、e宿題を20%とする。
- ・e宿題は、期限までに提出すれば1課につき1点、遅れて提出したら0.5点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】

質問や知らせたいことがあったら、授業時に直接伝えるか、課題の最後に記入するかのいずれかにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提示・回収・採点結果の通知は、基本的には授業支援システムによって行います。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年 U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

※コロナウイルス感染の拡大に鑑み、対面授業を基本としつつも、オンライン授業を併用する場合があります。

※第1週目は、Zoomによるオンライン授業を実施します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

営 1 年 U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1単位

法1年W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。第1回目はオンライン授業です。また、通学に不安がある方は事前に申し出をお願いします。リモートで授業に参加できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点60%＋期末試験40%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度を図ってゆきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点60%＋期末試験40%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度を図ってゆきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

文1年F・G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

※コロナウイルス感染の拡大に鑑み、対面授業を基本としつつも、オンライン授業を併用する場合があります。

※第1週目は、Zoomによるオンライン授業を実施します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：1単位

文1年F・G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部でのディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト等）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

法1年G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 % で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第19課から第22課」	「態」の復習
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第23課から第25課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第26課」 あるいは 「第27課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第28課」 あるいは 「第26課から第28課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第29課、30課」 あるいは 「第31課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第32課」 あるいは 「第33課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第34課」 あるいは 「第35課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第31課から35課」 あるいは 「第36課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」

12	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」 「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、期末試験（70%）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

齊 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

法1年H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め：『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂 等著（同学社）

【成績評価の方法と基準】

① e宿題：30点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

② 平常点：10点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）

③ 期末筆記試験：60点

【学生の意見等からの気づき】

学生から中国語の勉強は楽しかったとの評価をいただいています。（特に2020年度のオンライン授業では唯一楽しみにしていたという意見がありました）

今年度も今まで以上に皆さんに中国語や中国に対する関心を喚起できるよう、授業を進めていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

齊 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

法1年H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め：『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂 等著（同学社）

【成績評価の方法と基準】

① e 宿題：30点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

② 平常点：10点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）

③ 期末筆記試験：60点

【学生の意見等からの気づき】

学生から中国語の勉強は楽しかったとの評価をいただいています。（特に2020年度のオンライン授業では唯一楽しみにしていたという意見がありました）

今年度も今まで以上に皆さんに中国語や中国に対する関心を喚起できるように、授業を進めていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

法1年1・J

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約25分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約40分）。3) 文法問題の演習、会話（約35分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第2回	第1課 あるいは 第2課	発音1「ピンイン1と簡体字」、 発音2「声母」
第3回	第3課 あるいは 第4課	発音3「韻母」 あるいは 発音4「二音節語」
第4回	第5課 あるいは 第6課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第5回	第7課 あるいは 第8課	「中国語の四文型」2 あるいは 「中国語の四文型」3
第6回	第9課 あるいは 第10課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第7回	第11課 あるいは 第12課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第8回	復習 文法問題の演習	第1課～第12課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第9回	第13課 あるいは 第14課	「指示代詞」1 あるいは 「所有を表す語彙」
第10回	15課 あるいは 第16課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」2
第11回	第17課 あるいは 第18課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第12回	第19課 あるいは 第20課	「完了態」 あるいは 「変化態」

第13回	第1課～第20課の復習	第1課～第20課の発音、文法事項に関する復習
第14回	第1課～第20課の文法問題の演習	第1課～第20課の文法問題に関する演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』東方書店

【参考書】

祝振媛 橋千早 『新中国語初級』 株式会社天々
康玉華 『漢語301句』北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PCやCDを用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいはzoomの授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語Ⅱ

2017年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

法1年1・J

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時にはzoomの授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度を進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約25分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約40分）。3) 文法問題の演習、会話（約35分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

- 12 復習、文法問題の演習 「第21課から第30課」までの
1 復習
- 13 復習、文法問題の演習 「第31課から第40課」までの
2 復習
- 14 秋期の文法問題の演習 「第21課から第40課」までの
文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

祝振媛 橘千早 『新中国語初級』 株式会社天々
康玉華 『漢語301句』 北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

法 1 年 K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点(30%)、期末試験(70%)をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語Ⅱ

2017年度以降入学者

薬会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1単位

法1年K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点(30%)、期末試験(70%)をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

齊 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

法1年L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め：『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂 等著（同学社）

【成績評価の方法と基準】

① e宿題：30点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

② 平常点：10点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）

③ 期末筆記試験：60点

【学生の意見等からの気づき】

学生から中国語の勉強は楽しかったとの評価をいただいています。（特に2020年度のオンライン授業では唯一楽しみにしていたという意見がありました）

今年度も今まで以上に皆さんに中国語や中国に対する関心を喚起できるよう、授業を進めていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

齊 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

法1年L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め：『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂 等著（同学社）

【成績評価の方法と基準】

① e 宿題：30点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

② 平常点：10点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）

③ 期末筆記試験：60点

【学生の意見等からの気づき】

学生から中国語の勉強は楽しかったとの評価をいただいています。（特に2020年度のオンライン授業では唯一楽しみにしていたという意見がありました）

今年度も今まで以上に皆さんに中国語や中国に対する関心を喚起できるように、授業を進めていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017年度以降入学者

齊 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法 1 年 U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め：『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂 等著（同学社）

【成績評価の方法と基準】

① e宿題：30点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

② 平常点：10点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）

③ 期末筆記試験：60点

【学生の意見等からの気づき】

学生から中国語の勉強は楽しかったとの評価をいただいています。（特に2020年度のオンライン授業では唯一楽しみにしていたという意見がありました）

今年度も今まで以上に皆さんに中国語や中国に対する関心を喚起できるよう、授業を進めていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

齊 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1単位

法1年U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め：『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂 等著（同学社）

【成績評価の方法と基準】

① e 宿題：30点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

② 平常点：10点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）

③ 期末筆記試験：60点

【学生の意見等からの気づき】

学生から中国語の勉強は楽しかったとの評価をいただいています。（特に2020年度のオンライン授業では唯一楽しみにしていたという意見がありました）

今年度も今まで以上に皆さんに中国語や中国に対する関心を喚起できるように、授業を進めていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

黄 海萍

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

法1年V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、授業中に適宜小テストを行います。

課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。詳細は学習支援システムでお知らせします。また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。また、付属の教材CDや<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中国語辞書を必ず1冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015) 『完全マスター中国語の文法』 [改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円+税

【成績評価の方法と基準】

1、平常点 60 %（出席状況と課題・授業中に行う小テスト）、期末試験 40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
2、欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合には不合格としますので注意してください。毎回の授業参加を重視してください。30 分以上遅れた場合、出席としてカウントしません。2 回の遅刻を 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、メールなどで対応します。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

黄 海萍

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法 1 年 V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、授業内適宜小テストを行います。

課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

対面授業を予定していますが、変更の可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

12	「第21課から第30課」までの復習	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」までの復習	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。また、付属の教材CDや<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中国語辞書を必ず1冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400円+税

【成績評価の方法と基準】

1、平常点60%（出席状況と課題・授業中に行う小テスト）、期末試験40%を総合的に評価します。総合得点が60点以上の人を合格とします。
2、欠席が授業時間数の3分の1を超えた場合には不合格としますので注意してください。毎回の授業参加を重視してください。30分以上遅れた場合、出席としてカウントしません。2回の遅刻を1回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、メールなどで対応します。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

王安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：1単位

文1年B・E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面を基本とし、オンラインを併用する場合があります。第1週目（初回授業）はオンラインとなります。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

各課の課題（合計50点）＋総合まとめ課題（2回：合計50点）＝100で評価します。

注意点：①課題の未提出は5点減点/一回

②課題提出の遅れは3点減点/一回

【重要】課題の提出遅れについて：提出が締め切りより遅れた場合、期間は締め切り日から一週間以内と限定します。一週間過ぎてからの提出は成績評価しませんのでくれぐれもご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後の授業でも丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

王安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：1単位

文1年B・E

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

各課の課題（合計50点）＋総合まとめ課題（2回：合計50点）＝100で評価します。

注意点：①課題の未提出は5点減点/一回

②課題提出の遅れは3点減点/一回

【重要】 課題の提出遅れについて：提出が締め切りより遅れた場合、期間は締め切り日から一週間以内と限定します。一週間過ぎてからの提出は成績評価しませんのでくれぐれもご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後の授業でも丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

文1年H・I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

授業参加度 20 %

小テスト 20 %

レポート課題・宿題 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 H・I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

授業参加度 20 %

小テスト 20 %

レポート課題・宿題 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

薄 宏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文 1 年 L~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話すの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

なお、学習支援システムの「e 課題」を設定します。

〔学習〕『ポイント学習中国語初級』デジタル版、及び

〔課題〕e 宿題の各課の「練習」を 100% になるまで回答習得してください。なお、課題等へのフィードバックは授業内またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	春学期の授業内容全般	「第1課から第20課」までの到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- *『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店
- *中国語辞書（電子辞書も可）

【参考書】

四技能、すなわち中国語にかかわる書く、聴く、言う、読むに関するもの

【成績評価の方法と基準】

成績評価と方法（100点満点）

- 1、授業受講時の態度、姿勢、出席（欠席五回以上は失格）など：20点
- 2、学期末における到達度チェック：80点

【学生の意見等からの気づき】

随時学生の声に耳を傾き、授業の改善を大前提に対応する

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや携帯電話を忘れずに常備すること

【その他の重要事項】

とくに連絡がなければ、毎回の授業は行います

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

薄 宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

文1年L～P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書くの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

なお、学習支援システムの「e 課題」を設定します。

〔学習〕「ポイント学習中国語初級」デジタル版、及び

〔課題〕e 宿題の各課の「練習」を100%になるまで回答習得してください。なお、課題等へのフィードバックは授業内またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

- 12 「第21課から第30課」までの復習
- 13 「第31課から第40課」までの復習
- 14 秋学期授業内容の全般「第21課から第40課」までの到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

- * 『中日辞典』（小学館）
- * 中国語辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法（100点満点）

- 1、授業受講の態度、姿勢、出席回数（欠席五回以上は失格する）：20点
- 2、期末到達度チェック：80点

【学生の意見等からの気づき】

説明のスピードに注意する、随時に学生の声を確認する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや携帯電話を忘れずに常備すること

【その他の重要事項】

とくに連絡がなければ、授業は行います。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

シヨウ イクテイ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：1単位

文1年Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。大学の行動方針レベル2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50％）、学習態度や学習意欲（20％）、課題や小テスト（20％）、平常点なども（10％）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の学生のご意見を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

シヨウ イクテイ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1単位

文1年Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

大学の行動方針レベル2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは	「経験態」 あるいは
3	「第22課」 「第23課」	「進行態」「持続態」 「形容詞述語文」1
	あるいは	あるいは
4	「第24課」 「第25課」	「形容詞述語文」2 「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
5	「第26課」 「第27課」	「名詞述語文」1 「名詞述語文」2
	あるいは	あるいは
6	「第28課」 「第29課」	「名詞述語文」3 「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
7	「第30課」 「第31課」	「連用修飾語」 「程度補語」
	あるいは	あるいは
8	「第32課」 「第33課」	「数量補語」 「結果補語」
	あるいは	あるいは
9	「第34課」 「第35課」	「方向補語」 「可能補語」
	あるいは	あるいは
10	「第36課」 「第37課」	「助動詞」 「兼語文」
	あるいは	あるいは
11	「第38課」 「第39課」	「受け身表現」 「把構文」
	あるいは	あるいは
12	「第40課」 「第21課から第30課」	「存現文」 「第21課から第30課」までの復習

- 13 「第31課から第40課」までの
復習
- 14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50％）、学習態度や学習意欲（20％）、課題や小テスト（20％）平常点なども（10％）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

余 瀾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文1年U・V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

zoomでのオンライン授業と教室での対面授業という形で行います。新学期からは、まずzoomで授業をやります。期末テストは対面授業で行う予定。新型コロナウイルスの感染状況が改善されてから、教室での対面授業を取り入れることがあります。その都度お知らせします。zoomのURLはをクラスの掲示板でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」

10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上は合格となります。配分は毎回授業中で行う単語の小テストが20%で、毎回授業後、復習のためにe宿題をやるのが20%で、中間テスト20%、期末テストが40%です。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

余 瀾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：1単位

文1年U・V

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上は合格となります。配分は毎回授業中で行う小テストが25%で、毎回授業後、復習のためにe宿題をやるのが15%で、中間テストと期末テストが60%です。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：1単位

文1年X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業はハイブリッド型（オンラインと対面を併用）で行います。授業実施についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

定期試験は50%、授業参加と課題の完成度は50%、によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら、授業の進度を適宜調整することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：1単位

文1年X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業はハイブリッド型（オンラインと対面を併用）で行います。授業実施についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは	「経験態」 あるいは
3	「第22課」 「第23課」	「進行態」「持続態」 「形容詞述語文」1
	あるいは	あるいは
4	「第24課」 「第25課」	「形容詞述語文」2 「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
5	「第26課」 「第27課」	「名詞述語文」1 「名詞述語文」2
	あるいは	あるいは
6	「第28課」 「第29課」	「名詞述語文」3 「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
7	「第30課」 「第31課」	「連用修飾語」 「程度補語」
	あるいは	あるいは
8	「第32課」 「第33課」	「数量補語」 「結果補語」
	あるいは	あるいは
9	「第34課」 「第35課」	「方向補語」 「可能補語」
	あるいは	あるいは
10	「第36課」 「第37課」	「助動詞」 「兼語文」
	あるいは	あるいは
11	「第38課」 「第39課」	「受け身表現」 「把構文」
	あるいは	あるいは
12	「第40課」 「第21課から第30課」	「存現文」 「第21課から第30課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの復習	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

定期試験は50%、授業参加と課題の完成度は50%、によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら、授業の進度を適宜調整することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

営1年B・C

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 % で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 B・C

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第19課から第22課」	「態」の復習
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第23課から第25課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第26課」 あるいは 「第27課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第28課」 あるいは 「第26課から第28課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第29課、30課」 あるいは 「第31課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第32課」 あるいは 「第33課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第34課」 あるいは 「第35課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第31課から35課」 あるいは 「第36課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」

12	「第37課」 あるいは	「兼語文」 あるいは
	「第38課」	「受け身表現」
13	「第39課」 あるいは	「把構文」 あるいは
	「第40課」	「存現文」
14	「第36課から40課」 「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、期末試験（70%）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1年 D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約 40 分）。3) 文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第2回	第1課 あるいは 第2課	発音1「ピンイン1と簡体字」、 発音2「声母」
第3回	第3課 あるいは 第4課	発音3「韻母」 あるいは 発音4「二音節語」
第4回	第5課 あるいは 第6課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第5回	第7課 あるいは 第8課	「中国語の四文型」2 あるいは 「中国語の四文型」3
第6回	第9課 あるいは 第10課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第7回	第11課 あるいは 第12課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第8回	復習 文法問題の演習	第1課～第12課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第9回	第13課 あるいは 第14課	「指示代詞」1 あるいは 「所有を表す語彙」
第10回	15課 あるいは 第16課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」2
第11回	第17課 あるいは 第18課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第12回	第19課 あるいは 第20課	「完了態」 あるいは 「変化態」

第13回	第1課～第20課の復習	第1課～第20課の発音、文法事項に関する復習
第14回	第1課～第20課の文法問題の演習	第1課～第20課の文法問題に関する演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』東方書店

【参考書】

祝振媛 橋千早 『新中国語初級』 株式会社天々
康玉華 『漢語301句』北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるため、PCやCDを用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいはzoomの授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

営1年D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時にはzoomの授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約25分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約40分）。3) 文法問題の演習、会話（約35分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

- 12 復習、文法問題の演習 「第21課から第30課」までの
1 復習
- 13 復習、文法問題の演習 「第31課から第40課」までの
2 復習
- 14 秋期の文法問題の演習 「第21課から第40課」までの
文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

祝振媛 橘千早 『新中国語初級』 株式会社天々

康玉華 『漢語301句』北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60% とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20% とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点(30%)、期末試験(70%)をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017年度以降入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

営 1 年 E

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点(30%)、期末試験(70%)をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

営 1 年 F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 % で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

営 1 年 F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第19課から第22課」	「態」の復習
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第23課から第25課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第26課」 あるいは 「第27課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第28課」 あるいは 「第26課から第28課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第29課、30課」 あるいは 「第31課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第32課」 あるいは 「第33課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第34課」 あるいは 「第35課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第31課から35課」 あるいは 「第36課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」

12	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」 「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、期末試験（70%）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

営1年L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業はハイブリッド型（オンラインと対面を併用）で行います。授業実施についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

定期試験は50%、授業参加と課題の完成度は50%、によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら、授業の進度を適宜調整することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

営1年L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業はハイブリッド型（オンラインと対面を併用）で行います。授業実施についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの復習	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

定期試験は50%、授業参加と課題の完成度は50%、によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら、授業の進度を適宜調整することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

営1年M・N

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。

対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

発声練習、本文の朗読指導はzoomにて行います。

課題等へのフィードバックは以下のように行います。

- (1) 対面授業時に説明します。
- (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
- (3) 個別相談等はshin.yaku.56@hosei.ac.jpで随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」

8	「第11課」 あるいは 「第5課から「第10課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」 に関する復習
9	「第12課」 あるいは 「第13課」	「動詞述語文1」 あるいは 「動詞述語文2」
10	「第14課」 あるいは 「第15課」	「動詞述語文3」 あるいは 「動詞述語文4」
11	「第16課」 あるいは 「第17課」	「動詞述語文5」 あるいは 「動詞述語文6」
12	「第18課」 あるいは 「第12課から第18課」	「動詞述語文7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第19課、20課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか1冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1回～13回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点

②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の6割程度

③提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の5割程度

④提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の2.5割程度

*対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14回目）

当日提出、35点分。

検定試験準4級合格者：I期終了時合格は90点プラス。

検定試験4級合格者：I期終了時合格は100点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていききたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：1単位

営1年M・N

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。

対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

発声練習、本文の朗読指導は zoom にて行います。

課題等へのフィードバックは以下のようにになります。

(1) 対面授業時に説明します。

(2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。

(3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第19課から第22課」	「態」の復習
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第23課から第25課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第26課」 あるいは 「第27課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第28課」 あるいは 「第26課から第28課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第29課、30課」 あるいは 「第31課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」

9	「第3 2 課」 あるいは 「第3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第3 4 課」 あるいは 「第3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第3 1 課から3 5 課」 あるいは 「第3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第3 7 課」 あるいは 「第3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第3 9 課」 あるいは 「第4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	全体のまとめ	最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか1冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1回～13回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点

②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の6割程度

③提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の5割程度

④提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の2.5割程度

*対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14回目）

当日提出、35点分。

検定試験準4級合格者：I期終了時合格は90点プラス。

検定試験4級合格者：I期終了時合格は100点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017年度以降入学者

柯 明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1 年 O・Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型/オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しております。

なお、第1週目の授業は、オンラインで実施します。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」

10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

普段の学習以外もっと興味があれば、以下の参考書がおすすめです。木村英樹著『中国語はじめの一歩（新版）』（ちくま学芸文庫）発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）

『各級問題集シリーズ中検・準4級』（光生館）など

【成績評価の方法と基準】

普段の出席（課題）、e宿題と期末試験によって総合的に評価します。従来の対面授業と異なり、オンラインによって授業を実施される場合、成績評価は以下に行います。

① e宿題 ② 普段課題の実施状況 ③ 期末まとめ課題によって総合的に評価します。

① e宿題 ② 普段課題の実施状況（50%：50点）

③ 期末まとめ課題（50%：50点）

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017年度以降入学者

柯 明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

営 1年 O・Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業【Zoom等のリアルタイム型/オンデマンド型】の組み合わせ）を予定しております。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」 までの 課」	「第21課から第30課」までの 復習
13	「第31課から第40課」 までの 課」	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

普段の学習以外もっと興味があれば、以下の参考書がおすすです。木村英樹著『中国語ははじめの一步（新版）』（ちくま学芸文庫）発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）
『各級問題集シリーズ中検-準4級』（光生館）など

【成績評価の方法と基準】

普段の出席（課題）、e宿題と期末試験によって総合的に評価します。従来の対面授業と異なり、オンラインによって授業を実施される場合、成績評価は以下のように行います。

① e宿題 ② 普段課題の実施状況 ③ 期末まとめ課題によって総合的に評価します。

① e宿題 ② 普段課題の実施状況（50%：50点）

③ 期末まとめ課題（50%：50点）

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

耿 函

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

営1年R

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。また、本授業はハイブリッド型（オンラインと対面を併用）で行いますが、授業実施についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業内指示

【成績評価の方法と基準】

期末筆記テストを50%、会話の小テストやE宿題をそれぞれ20%、また平常点を10%にし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生のやる気が引き起こせるように様々な工夫をし、また、万が一に備えてオンライン授業についても学生も教師も満足できるようにいろいろとトライしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語Ⅱ

2017年度以降入学者

取 函

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

営1年R

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業はハイブリッド型（オンラインと対面を併用）で行いますが、授業実施についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは	「経験態」 あるいは
3	「第22課」 「第23課」 あるいは	「進行態」「持続態」 「形容詞述語文」1 あるいは
4	「第24課」 「第25課」 あるいは	「形容詞述語文」2 「形容詞述語文」 あるいは
5	「第26課」 「第27課」 あるいは	「名詞述語文」1 「名詞述語文」2 あるいは
6	「第28課」 「第29課」 あるいは	「名詞述語文」3 「連体修飾語」 あるいは
7	「第30課」 「第31課」 あるいは	「連用修飾語」 「程度補語」 あるいは
8	「第32課」 「第33課」 あるいは	「数量補語」 「結果補語」 あるいは
9	「第34課」 「第35課」 あるいは	「方向補語」 「可能補語」 あるいは
10	「第36課」 「第37課」 あるいは	「助動詞」 「兼語文」 あるいは
11	「第38課」 「第39課」 あるいは	「受け身表現」 「把構文」 あるいは
12	「第40課」 「第21課から第30課」	「存現文」 「第21課から第30課」までの復習

- 13 「第31課から第40課」までの復習
 14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業内指示

【成績評価の方法と基準】

期末筆記テストを50%、会話の小テストやE宿題をそれぞれ20%、また平常点を10%にし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生のやる気が引き起こせるように様々な工夫を重ね、また、万々に備えてオンライン授業についても学生も教師も満足できるようにいろいろとトライしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：1単位

営1年T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

課題：40%

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義のオンデマンド配信をした上、SNS等を使って発音の個別指導をする。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語Ⅱ

2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

営 1年T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

課題：40%

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義のオンデマンド配信をした上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

シヨウ イクテイ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

営1年G~K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。大学の行動方針レベル2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50％）、学習態度や学習意欲（20％）、課題や小テスト（20％）、平常点なども（10％）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の学生のご意見などを生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017年度以降入学者

シヨウ イクテイ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

営 1年 G~K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

大学の行動方針レベル 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは	「経験態」 あるいは
3	「第22課」 「第23課」	「進行態」「持続態」 「形容詞述語文」1
	あるいは	あるいは
4	「第24課」 「第25課」	「形容詞述語文」2 「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
5	「第26課」 「第27課」	「名詞述語文」1 「名詞述語文」2
	あるいは	あるいは
6	「第28課」 「第29課」	「名詞述語文」3 「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
7	「第30課」 「第31課」	「連用修飾語」 「程度補語」
	あるいは	あるいは
8	「第32課」 「第33課」	「数量補語」 「結果補語」
	あるいは	あるいは
9	「第34課」 「第35課」	「方向補語」 「可能補語」
	あるいは	あるいは
10	「第36課」 「第37課」	「助動詞」 「兼語文」
	あるいは	あるいは
11	「第38課」 「第39課」	「受け身表現」 「把構文」
	あるいは	あるいは
12	「第40課」 「第21課から第30課」	「存現文」 「第21課から第30課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50％）、学習態度や学習意欲（20％）、課題や小テスト（20％）平常点なども（10％）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

薬会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点(30%)、期末試験(70%)をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 Ⅱ

2017年度以降入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定はしません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点(30%)、期末試験(70%)をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

薄 宏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

営 1 年 S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話すの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

なお、学習支援システムの「e課題」を設定します。

〔学習〕『ポイント学習中国語初級』デジタル版、及び

〔課題〕e宿題の各課の「練習」を100%になるまで回答習得してください。なお、課題等へのフィードバックは授業内またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	春学期の授業内容全般 「第1課から第20課」までの到達度チェック。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

*四技能、すなわち中国語にかかわる書く、聴く、言う、読むに関するもの

*中国語辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

成績評価と方法（100点満点）

- 1、授業受講時の態度、姿勢、出席（欠席五回以上は失格）など：20点
- 2、学期末における到達度チェック：80点

【学生の意見等からの気づき】

随時学生の声に耳を傾き、授業の改善を大前提に対応する

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや携帯電話を忘れずに常備すること

【その他の重要事項】

とくに連絡がなければ、授業は行います

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

薄 宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1単位

営1年S

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書くの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

なお、学習支援システムの「e課題」を設定します。

〔学習〕「ポイント学習中国語初級」デジタル版、及び

〔課題〕e宿題の各課の「練習」を100%になるまで回答習得してください。なお、課題等へのフィードバックは授業内またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

- 12 「第21課から第30課」までの復習
 13 「第31課から第40課」までの復習
 14 秋学期授業内容の全般「第21課から第40課」までの到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

- *『中日辞典』（小学館）
- *中国語辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法（100点満点）

- 1、授業受講の態度、姿勢、出席回数（欠席五回以上は失格する）：20点
- 2、期末到達度チェック：80点

【学生の意見等からの気づき】

随時学生たちの声に傾けること。説明のスピードに注意すること。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンや携帯電話を忘れずに常備すること

【その他の重要事項】

とくに連絡がなければ、授業は行います

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

柯 明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1年 U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型/オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しております。

なお、第1週目の授業は、オンラインで実施します。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」

10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

普段の学習以外もっと興味があれば、以下の参考書がおすすめです。木村英樹 著『中国語はじめの一歩（新版）』（ちくま学芸文庫）
発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）

『各級問題集シリーズ中検・準4級』（光生館）など

【成績評価の方法と基準】

普段の出席（課題）、e宿題と期末試験によって総合的に評価します。従来の対面授業と異なり、オンラインによって授業を実施される場合、成績評価は以下に行います。

① e宿題 ② 普段課題の実施状況 ③ 期末まとめ課題によって総合的に評価します。

① e宿題 ② 普段課題の実施状況（50%：50点）

③ 期末まとめ課題（50%：50点）

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017年度以降入学者

柯 明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

対面授業を基本としたハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型/オンデマンド型] の組み合わせ）を予定しております。

*大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」 までの 課」	「第21課から第30課」までの 復習
13	「第31課から第40課」 までの 課」	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

普段の学習以外もっと興味があれば、以下の参考書がおすすです。木村英樹著『中国語はじめの一步（新版）』（ちくま学芸文庫）発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）

『各級問題集シリーズ中検-準4級』（光生館）など

【成績評価の方法と基準】

普段の出席（課題）、e宿題と期末試験によって総合的に評価します。従来の対面授業と異なり、オンラインによって授業を実施される場合、成績評価は以下のように行います。

① e宿題 ② 普段課題の実施状況 ③ 期末まとめ課題によって総合的に評価します。

① e宿題 ② 普段課題の実施状況（50%：50点）

③ 期末まとめ課題（50%：50点）

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

法1年W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

授業参加度 20 %

小テスト 20 %

レポート課題・宿題 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法 1 年 W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

授業参加度 20 %

小テスト 20 %

レポート課題・宿題 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文1年F・G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

授業参加度 20 %

小テスト 20 %

レポート課題・宿題 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 Ⅱ

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 F・G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

参考書を指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

授業参加度 20 %

小テスト 20 %

レポート課題・宿題 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（1）I

2017年度以降入学者

鷺巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y ①

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
- ・課題や試験の総得点を80%、e宿題を20%とする。
- ・e宿題は、期限までに提出すれば1課につき1点、遅れて提出したら0.5点とする。期限は授業時に知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

質問や知らせたいことがあったら、授業時に直接伝えるか、課題の最後に記入するかのいずれかにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提示・回収・採点結果の通知は、基本的には授業支援システムによって行います。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：1単位

法1年Y①

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
- ・課題や試験の総得点を80%、e宿題を20%とする。
- ・e宿題は、期限までに提出すれば1課につき1点、遅れて提出したら0.5点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】

質問や知らせたいことがあったら、授業時に直接伝えるか、課題の最後に記入するかのいずれかにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提示・回収・採点結果の通知は、基本的には授業支援システムによって行います。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語(1) I

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

単位数：1単位

法1年Y②

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

※本授業は対面を基本としますがオンラインを併用する場合もあります（在宅で受講する学生に向けてハイフレックス型にも対応します）。※第1週目（初回授業）はオンラインです。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e宿題」） 20 %
② 小テスト・授業への参加度 40 %
③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（1）Ⅱ

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1単位

法1年Y②

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。本授業は対面を基本としますがオンラインを併用する場合があります（在宅で受講する学生に向けてハイフレックス型にも対応します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

12	「第21課から第30課」までの復習	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」までの復習	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 予習・復習状況（「e宿題」） 20 %
② 小テスト・授業への参加度 40 %
③ 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語(2) I

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年Y②

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

本授業はオンラインを基本（主）とします。授業実施に関する詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要な時に、指導します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の態度、課題の完成度、小テストなどは60%にし、期末テストは40%にします。

オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、学習支援システムの「お知らせ」でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

発音の指導を徹底的にやるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PCの準備をしてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語(2)Ⅱ

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年Y②

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

本授業はオンラインを基本（主）とします。授業実施に関する詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要な時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の態度、課題の完成度、小テストなどは60%にし、期末テストは40%にします。

オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、学習支援システムの「お知らせ」でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

発音の指導を徹底的にやるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するため通信環境・PCの準備をしてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語(2) I

2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年Y①

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

課題：40%

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（2）Ⅱ

2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

法1年Y①

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

課題：40%

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1

2017年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

国1年SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK1級の合格に必要な語彙（150語）、語法を学ぶ。また、e-Learningを活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

HSK（漢語水平考試）1級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2、5の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。

中国語1、5では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅でのe-Learningを組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。

①小テスト（約20分）

教室での学習とe-Learningによる自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。

②テキストの学習（約50分）

テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。

③コミュニケーション・トレーニング（約20分）

前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。

（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加するLINEのグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第2回	発音の基本(1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第3回	発音の基本(2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第4回	中国語の基本構造(1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第5回	中国語の基本構造(2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第6回	中国語の基本構造(3) 中国語の文法体系を概観する	補語

第 7 回	動詞述語文 (1) 動詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “是” の用法	
第 8 回	動詞述語文 (2) 動詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “有” の用法	
第 9 回	動詞述語文 (3) 動詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	名量詞・動量詞	
第 10 回	動詞述語文 (4) 動詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	連動文	
第 11 回	中国語の態 (1) 中国語の態とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	変化態	
第 12 回	中国語の態 (2) 中国語の態とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	経験態、進行態・持続態	
第 13 回	形容詞述語文 形容詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	程度副詞、比較表現①～⑤	
第 14 回	名詞述語文 名詞述語文の文法とそれを 使ったさまざまな表現を学ぶ	月日・曜日、時刻、金額の表現方法	

We will expand vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）とそのデジタル版を併用する。

【参考書】

劉月華ほか『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

- ① e-Learning（e 宿題）の実施状況（40 %）
- ② 毎回授業の始めに実施する小テストの成績（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 1、5 では、毎回授業の後に e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、初回の授業で説明する。

【Outline and objectives】

Chinese 1 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 1.

Skills work:

LANe100LA

中国語 3

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙 (300 語)、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

HSK (漢語水平考試) 2 級を取得するのに必要な中国語力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。

後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材を使い、留学先での暮らしを疑似体験しながら、そこで必要な表現力を身につけていく。

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	程度補語、数量補語
第 2 回	補語 (3) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	結果補語、方向補語
第 3 回	補語 (4) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	可能補語
第 4 回	さまざまな表現 (1) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	助動詞、兼語文（使役表現）
第 5 回	さまざまな表現 (2) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	受身表現、把構文
第 6 回	さまざまな表現 (3) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	存現文
第 7 回	留学先での授業準備 (1)	e-Learning 教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく
第 8 回	留学先での授業準備 (2)	同上

第 9 回 留学先での授業準備 同上 (3)

第 10 回 留学先での授業準備 同上 (4)

第 11 回 留学先での授業準備 同上 (5)

第 12 回 留学先での授業準備 同上 (6)

第 13 回 留学先での授業準備 同上 (7)

第 14 回 留学先での授業準備 同上 (8)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）を使用する。

後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材と HSK (漢語水平考試) の過去問データを使用する。

【参考書】

劉月華『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する (100 %)。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り (4 問 × 5 点 = 20 点)、短文の聞き取り (2 問 × 10 点 = 20 点)、日文中訳 (2 問 × 10 点 = 20 点)、e-Learning による自宅学習の達成度 (4 種 × 10 点 = 40 点) の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限 (最大 20 題) を設けることにした。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、春学期の授業と同じ。

【Outline and objectives】

Chinese 3 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 2.

Skills work:

We will extend vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANc100LA

中国語 2

2017 年度以降入学者

ショウ イクテイ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

大学の行動方針レベル 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に (50 %)、学習態度や学習意欲 (20 %)、課題や小テスト (20 %)、平常点なども (10 %) 勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の学生のご意見を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

中国語 4

2017 年度以降入学者

シヨウ イクテイ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランス良くつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際
文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が一冊のテキストをリレー式に進めます。新出
単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練
習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小
テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバッ
クは授業の中またはメールなどで行います。大学の行動方針レベル 2 となった場合、この授業は原則としてオン
ラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
第 2 回	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
第 3 回	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
第 4 回	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
第 5 回	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
第 6 回	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
第 7 回	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
第 8 回	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
第 9 回	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
第 10 回	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
第 11 回	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
第 12 回	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復 習

第 13 回 「第 3 1 課から第 4 0 「第 3 1 課から第 4 0 課」までの
課」
復習第 14 回 授業内試験 「第 21 課から第 40 課」までの試
験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方
でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、課題や
小テスト（20 %）、
平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしてい
きたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will
improve the skills of listening, speaking, reading and writing
through studying pronunciation, grammar, conversation and
composition.

LANe100LA

中国語 5

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。

中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。

①小テスト（約 20 分）

教室での学習と e ラーニングによる自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。

② テキストの学習（約 50 分）

テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。

③ コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）

前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。

(例) クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第 3 回	発音の基本 (2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第 4 回	中国語の基本構造 (1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第 5 回	中国語の基本構造 (2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第 6 回	中国語の基本構造 (3) 中国語の文法体系を概観する	補語

第 7 回 動詞述語文 (1) 動詞“是”の用法

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 8 回 動詞述語文 (2) 動詞“有”の用法

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 9 回 動詞述語文 (3) 名量詞・動量詞

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 10 回 動詞述語文 (4) 連動文

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 11 回 中国語の態 (1) 変化態

中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 12 回 中国語の態 (2) 経験態、進行態・持続態

中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 13 回 形容詞述語文 程度副詞、比較表現①～⑤

形容詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 14 回 名詞述語文 月日・曜日、時刻、金額の表現方

名詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級』（東方書店）とそのデジタル版を使用する。

【参考書】

劉月華ほか『实用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

① e-Learning（e 宿題）の実施状況（40 %）

② 毎回授業の始めに行う小テストの成績（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 1、5 では、毎回授業の後にデジタル教科書と e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、初回の授業で説明する。

【Outline and objectives】

Chinese 1 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 1.

Skills work:

We will expand vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANc100LA

中国語 6

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙（300 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

HSK（漢語水平考試）2 級の取得に必要な中国語力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。

後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材を使い、留学先での暮らしを疑似体験しながら、そこで必要な表現力を身につけていく。

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2)	程度補語、数量補語 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ
第 2 回	補語 (3)	結果補語、方向補語 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ
第 3 回	補語 (4)	可能補語 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ
第 4 回	さまざまな表現 (1)	助動詞、兼語文（使役表現） 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する
第 5 回	さまざまな表現 (2)	受身表現、把構文 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する
第 6 回	さまざまな表現 (3)	存現文 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する
第 7 回	留学準備 (1)	e-Learning 教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく。
第 8 回	留学準備 (2)	同上
第 9 回	留学準備 (3)	同上

第10回	留学準備(4)	同上
第11回	留学準備(5)	同上
第12回	留学準備(6)	同上
第13回	留学準備(7)	同上
第14回	留学準備(8)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級』（東方書店）を使用する。

後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材と HSK（漢語水平考試）の過去問データを使用する。

【参考書】

劉月華『实用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e-Learning による自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、春学期の授業と同じ。

【Outline and objectives】

Chinese 3 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 2.

Skills work:

We will extend vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANe100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。

・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。

・この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e-Learning を組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二 音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語 文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、 名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、 連体修飾語・連用修飾語 [一年級 的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動 詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口 人?]、動詞述語文（五）[这儿有 邮筒吗?]

10	第十七課あるいは第十 八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、 動詞述語文（七）[去中国干什 么?]
11	第十九課あるいは第二 十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変 化態 [快要考试了]
12	復習	春学期の学習項目の総復習
13	HSK1 級問題	HSK1 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）2010 年

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、HSK（中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定）の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 3

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。
- ・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
- ・この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
- ・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習項目の復習・確認	既習項目（第一課～第二十課）の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文（一）[水饺好吃吗?]、形容詞述語文（二）[明天比今天还热]
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文（三）[比泰山高一点儿]、名詞述語文（一）[今天几月几号?]
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文（二）[现在几点?]、名詞述語文（三）[这只手表多少钱?]
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]

9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
11	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習	秋学期の学習項目の総復習
13	HSK2 級問題	HSK2 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。
・劉月華 (他) 2019『实用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
・相原茂 (他) 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
・守屋宏則 (他) 2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビギナーのための初級中国語の授業です。

【到達目標】

中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

発音・文法・語彙等、中国語を運用するための基本能力のトレーニングを行います。

教員の説明と、受講者とのやりとりを通じて、初級に必要とされる項目をすべて習得します。毎回の授業ではスピーチと聞き取りの小テストを行います。小テストのフィードバックは授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国語とは
第 2 回	第一課（第二課）	発音（一） 発音（二）
第 3 回	第三課（第四課）	発音（三） 発音（四）
第 4 回	第五課（第六課）	発音の仕上げ、人称代詞、姓名の表現、発音の総復習、四文型①動詞述語文、専攻分野のいろいろ
第 5 回	第七課（第八課）	四文型②形容詞述語文、四文型③名詞述語文、数の数え方①
第 6 回	第九課（第十課）	「四文型④主述述語文、身体部分のいい方、連体修飾語 連用修飾語
第 7 回	第六課～第十課	中国語の基本構造について総復習
第 8 回	第十一課（第十二課）	「補語」、「動詞述語文（一）」
第 9 回	第十三課（第十四課）	「動詞述語文（二）」、「動詞述語文（三）」
第 10 回	第十五課（第十六課）	「動詞述語文（四）」、「動詞述語文（五）」
第 11 回	第十七課（第十八課）	動詞述語文（六）、名量詞、動量詞、動詞の重ね型、連動文、乗り物のいろいろ
第 12 回	第十二課～第十八課	動詞述語文の総復習
第 13 回	第十九課（第二十課）	「完了態」、「変化態」
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室へ来る前に、必ず前週まで習った内容やスピーチの内容を確認してください。また使用するテキストの CD も聞いてきてください。E ラーニングを各自行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語』 改訂版 東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点(30%)、期末試験(70%)をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

発音の学習はピンインが中心になります。「中国語音節表」を理解できるようにしてください。また日本語と同じように「漢字」を使用しているが、全く別の言語であることも理解してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 4

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビギナーのための初級中国語の授業です。

【到達目標】

中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

発音・文法・語彙等、中国語を運用するための基本能力のトレーニングを行います。

教員の説明と、受講者とのやりとりを通じて、初級に必要なとされる項目をすべて習得します。毎回の授業ではスピーチと聞き取りの小テストを行います。小テストのフィードバックは授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二十一課（第二十二課）	経験態、可能表現、進行態・持続態
第 2 回	第二十三課（第二十四課）	形容詞述語文（一）、程度の表現、形容詞述語文（二）、比較表現①～③、四季と寒暑
第 3 回	第二十五課（第二十六課）	形容詞述語文（三）、比較表現④⑤、数の数え方②長さの単位
第 4 回	第二十六課（第二十七課）	名詞述語文（一）、名詞述語文（二）日時の表現時刻の表現
第 5 回	第二十八課（第二十九課）	名詞述語文（三）、数の数え方③～⑤金額の表現、連体修飾語
第 6 回	第二十六課～第三十課	名詞述語文、連体修飾語、連用修飾語の総復習
第 7 回	第三十一課（第三十二課）	程度補語、球技のいろいろ、数量補語
第 8 回	第三十三課（第三十四課）	結果補語、方向補語、“是～的”の表現、家電製品のいろいろ
第 9 回	第三十一課～第三十五課	可能補語、補語について総復習
第 10 回	第三十六課（第三十七課）	助動詞、兼語文、使役表現
第 11 回	第三十八課（第三十九課）	受身表現、“把”構文
第 12 回	第三十六課～第四十課	存現文、さまざまな表現について総復習
第 13 回	総合復習と口頭試験	総合復習と口頭試験
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室へ来る前に、必ず前週まで習った内容やスピーチの内容を確認してください。また使用するテキストの CD も聞いてきてください。

E ラーニングを各自行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語』 改訂版 東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

発音の学習はピンインが中心になります。「中国語音節表」を理解できるようにしてください。また日本語と同じように「漢字」を使用しているが、全く別の言語であることも理解してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

曾 士才

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音・基本的文法事項・基本表現を習得し、中国語の基礎力を確立する。また、中国語の学習を通じて、多様な言語で自己表現を行う楽しさを覚えてもらう。

【到達目標】

HSK1 級に合格するレベルの基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、初めて中国語を学ぶ人が中国語の基礎力を確立することを目指す。中国語上達の鍵となる発音と、声調・ピンイン・簡体字の習得を徹底する。また、中国語の基本文型を理解する。文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに、第一課	イントロダクション、発音 (一)
第 2 回	第二課、第三課	声母、ピンインのつづり方①、韻母
第 3 回	第三課、第四課	ピンインのつづり方②、韻母、声調
第 4 回	第五課、発音の仕上げ	人称代詞、姓名の表現、発音の総復習
第 5 回	第六課、第七課	四文型①動詞述語文、専攻分野のいろいろ、四文型②形容詞述語文
第 6 回	第八課、第九課	四文型③名詞述語文、数の数え方①、四文型④主述述語文、身体部分のいい方
第 7 回	第六課～第十課	中国語の基本構造について総復習
第 8 回	第十一課、第十二課	補語、動詞述語文 (一)、国名・地域名のいろいろ
第 9 回	第十三課、第十四課	動詞述語文 (二)、指示代詞①、数詞、量詞、動詞述語文 (三)、所有の表現、文房具のいろいろ
第 10 回	第十五課、第十六課	動詞述語文 (四)、家族構成の表現、動詞述語文 (五)、指示代詞②、存在表現、所在表現、方位名詞、公共施設のいろいろ
第 11 回	第十七課、第十八課	動詞述語文 (六)、名量詞、動量詞、動詞の重ね型、連動文、乗り物のいろいろ
第 12 回	第十二課～第十八課	動詞述語文の総復習
第 13 回	第十九課、第二十課	完了態、変化態
第 14 回	全体のめとめ	前期授業の総復習、練習問題、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてください。

そして、eラーニング教材を使用してe宿題を行い、前の週に学んだことの定着度を測ります。e宿題については授業開始後に詳しく説明します。

【テキスト（教科書）】

大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 東方書店

【参考書】

辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

e宿題の実施状況（100%）で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

e宿題による復習をいったん怠ると、授業についていけなくなります。注意してください。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping students develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.

At the end of this course, students are expected to get a pass in HSK level 1.

LANc100LA

中国語2

2017年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト (約 25 分) を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習 (約 40 分)。3) 文法問題の演習、会話 (約 35 分)。また授業は教室での学習と自宅での学習 (予習、復習) を組み合わせて進める。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	第 1 課 あるいは 第 2 課	発音 1 「ピンイン 1 と簡体字」、 発音 2 「声母」
第 3 回	第 3 課 あるいは 第 4 課	発音 3 「韻母」 あるいは 発音 4 「二音節語」
第 4 回	第 5 課 あるいは 第 6 課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第 5 回	第 7 課 あるいは 第 8 課	「中国語の四文型」 2 あるいは 「中国語の四文型」 3
第 6 回	第 9 課 あるいは 第 10 課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第 7 回	第 11 課 あるいは 第 12 課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第 8 回	復習 文法問題の演習	第 1 課～第 12 課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第 9 回	第 13 課 あるいは 第 14 課	「指示代詞」 1 あるいは 「所有を表す語彙」
第 10 回	15 課 あるいは 第 16 課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」 2
第 11 回	第 17 課 あるいは 第 18 課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第 12 回	第 19 課 あるいは 第 20 課	「完了態」 あるいは 「変化態」

第13回	第1課～第20課の復習	第1課～第20課の発音、文法事項に関する復習
第14回	第1課～第20課の文法問題の演習	第1課～第20課の文法問題に関する演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』 東方書店

【参考書】

祝振媛 橋千早 『新中国語初級』 株式会社天々
康玉華 『漢語301句』 北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるため、PCやCDを用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいはzoomの授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語3

2017年度以降入学者

准 士 才

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

国1年非SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音や声調をマスターするとともに、初級中国語の基本的文法事項・基本表現を習得する。また、最終的に中国語で簡単なコミュニケーションをはかれるようになってもらう。

【到達目標】

HSK2級に合格することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、中国語を習い始めたばかりの人が、基本的文法を習得することを目的とする。また文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第二十一課、第二十二課	経験態、可能表現、進行態・持続態
第2回	第十九課～第二十二課	中国語の態について総復習
第3回	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、程度表現、形容詞述語文（二）、比較表現①～③、四季と寒暑
第4回	第二十五課、第二十六課	形容詞述語文（三）、比較表現④⑤、長さの単位
第5回	第二十三課～第二五課	形容詞述語文の総復習
第6回	第二十六課、第二七課	名詞述語文（一）、時間の表現
第7回	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（一）、金額の表現、連体修飾語
第8回	第二十六課～第三十課	名詞述語文、連体修飾語、連用修飾語の総復習
第9回	第三十一課、第三十二課	程度補語、球技のいろいろ、数量補語
第10回	第三十三課、第三十四課	結果補語、方向補語、家電製品のいろいろ
第11回	第三十一課～第三十五課	可能補語、補語について総復習
第12回	第三十六課、第三十七課	助動詞、兼語文、使役表現
第13回	第三十八課、第三十九課	受身表現、把構文
第14回	第三十六課～第四十課	存現文、さまざまな表現について総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてください。

そして、eラーニング教材を使用してe宿題を行い、前の週に学んだことの定着度を測ります。e宿題については授業開始後に詳しく説明します。

【テキスト（教科書）】

大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』東方書店

【参考書】

辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

e 宿題への回答状況 (100 %) により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping students develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.

At the end of this course, students are expected to get a pass in HSK level 2.

LANc100LA

中国語 4

2017 年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト (約 25 分) を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習 (約 40 分)。3) 文法問題の演習、会話 (約 35 分)。また授業は教室での学習と自宅での学習 (予習、復習) を組み合わせて進める。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

- 12 「第21課から第30課」までの復習
 13 「第31課から第40課」までの復習
 14 秋期の文法問題の演習「第21課から第40課」までの文法問題の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

祝振媛 橋千早 『新中国語初級』 株式会社天々
 康玉華 『漢語301句』北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるため、PCやCDを用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいはzoomの授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語1-I

2017年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

環1年G~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則としてオンデマンドで行う。

基本的にテキストに沿って毎回1課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。

学習支援システムで提示された教員が作成した動画を視聴しながら、各自発音をし、ノートに本文を書き写し、理解を深める。

動画視聴後、次の2点の課題を提出する。

1. 学習支援システム提出（発音や練習問題）
2. 各課のe宿題を実施（<https://fic.xsrv.jp/hosei/>）

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二音節語の声調20パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介[您贵姓?]、動詞述語文[你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文[北京大学很大]、 名詞述語文[我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文[你哪儿不舒服?]、 連体修飾語・連用修飾語[一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語[你每天看几个小时?]、 動詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口人?]、 動詞述語文（五）[这儿有邮箱吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、 動詞述語文（七）[去中国干什么?]

11	第十九課あるいは第二 十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変 化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習
13	中国語検定準 4 級 チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	中国語検定準 4 級 チャレンジ 2	筆記問題とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 (東方書店)

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 他 『实用現代漢語語法 (増訂本)』 (商務印書館)
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 (東方書店)
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 (同学社)

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『实用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』 (くろしお出版)] も出ている。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則としてオンデマンドで行う。

基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。

学習支援システムで提示された教員が作成した動画を視聴しながら、各自発音をし、ノートに本文を書き写し、理解を深める。

動画視聴後、次の 2 点の課題を提出する。

1. 学習支援システム提出 (発音や練習問題)
2. 各課の e 宿題を実施 (<https://fic.xsrv.jp/hosei/>)

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]

10	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課までの復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課までの復習
13	中国語検定準 4 級チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	リスニング問題とその解説 2	筆記問題のその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 他 『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
- ・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）] も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出点と e 宿題により成績を評価する。

課題提出点 60 %、e 宿題 40 %

【学生の意見等からの気づき】

中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を出し、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 J~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
- ※第 1 週目の授業をオンライン授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓?
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么? 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服?
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时? 第十二課 她是谁?
⑨	動詞述語文	第十三課 这是什么? 第十四課 你有铅笔吗?
⑩	動詞述語文	第十五課 你家有几口人? 第十六課 这儿有邮筒吗? 第十七課 请再念一次
⑪	動詞述語文	第十八課 去中国干什么? 第十九課 这本书你看了吗? 第二十課 快要考试了
⑫	動詞述語文	前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑬	中国語の態	
⑭	中国語の態	
⑮	まとめと解説	
⑯	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）30 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 40 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 J~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水饺好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了
⑨	補語	第三十四課 你退回去吧 第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト

⑭ 期末試験 筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テストなど） 30 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 40 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A～C

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則としてオンデマンドで行う。

基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。

学習支援システムで提示された教員が作成した動画を視聴しながら、各自発音をし、ノートに本文を書き写し、理解を深める。

動画視聴後、次の 2 点の課題を提出する。

1. 学習支援システム提出（発音や練習問題）
2. 各課の e 宿題を実施 (<https://fic.xsrv.jp/hosei/>)

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、 名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、 連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口人?]、動詞述語文（五）[这儿有邮箱吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、 動詞述語文（七）[去中国干什么?]

11	第十九課あるいは第二 十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変 化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習
13	中国語検定準 4 級 チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	中国語検定準 4 級 チャレンジ 2	筆記問題とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 (東方書店)

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 他 『实用現代漢語語法 (増訂本)』 (商務印書館)
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 (東方書店)
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 (同学社)

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『实用現代漢語語法』は和訳 [[現代中国語文法総覧] (くろしお出版)] も出ている。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~C

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則としてオンデマンドで行う。

基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。

学習支援システムで提示された教員が作成した動画を視聴しながら、各自発音をし、ノートに本文を書き写し、理解を深める。

動画視聴後、次の 2 点の課題を提出する。

1. 学習支援システム提出 (発音や練習問題)
 2. 各課の e 宿題を実施 (<https://fic.xsrv.jp/hosei/>)
- 課題等へのフィードバックは授業時間またはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]

10	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課までの復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課までの復習
13	中国語検定準 4 級チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	リスニング問題とその解説 2	筆記問題のその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 他 『实用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
- ・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『实用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』（くろしお出版)』も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出点と e 宿題により成績を評価する。

課題提出点 60 %、e 宿題 40 %

【学生の意見等からの気づき】

中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を出し、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 D～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
※第 1 週目の授業をオンライン授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了
⑭	期末試験	前期勉強した内容をまとめて総復習する 暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）30%
- ・e宿題30%
- ・期末試験40%
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 D～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢? 第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト

⑭ 期末試験 筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テストなど） 30 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 40 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A～D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
- ※第 1 週目の授業をオンライン授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了
	まとめと解説	前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）30%
- ・e宿題30%
- ・期末試験40%
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A～D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了
⑨	補語	第三十四課 你退回去吧 第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト

⑭ 期末試験 筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テストなど） 30 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 40 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 E~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」

11	「第16課」 あるいは 「第17課」	「動詞述語文5」 あるいは 「動詞述語文6」
12	「第18課」 あるいは 「第12課から第18課」	「動詞述語文7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第19課、20課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 授業への参加度 60% 期末レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1単位

キ1年 E~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部でのディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第19課から第22課」	「態」の復習
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第23課から第25課」	「形容詞述語文」 「形容詞述語文」の復習
5	「第26課」 あるいは 「第27課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第28課」 あるいは 「第26課から第28課」	「名詞述語文」3 「名詞述語文」の復習
7	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第29課、30課」 あるいは 「第31課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第32課」 あるいは 「第33課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第34課」 あるいは 「第35課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第31課から35課」 あるいは 「第36課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」

12	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」 「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 授業への参加度 60% 期末レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ1年1～L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語2-I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語2-I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習(教室の対面とオンライン授業と自宅のeラーニングを組み合わせた学習)を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
- ※第1週目の授業をオンライン授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音 (一)
②	発音の基本	第二課 発音 (二)
③	発音の基本	第三課 発音 (三)
④	発音の基本	第四課 発音 (四)
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓?
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么? 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服?
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时? 第十二課 她是谁?
⑨	動詞述語文	第十三課 这是什么? 第十四課 你有铅笔吗? 第十五課 你家有几口人?
⑩	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗? 第十七課 请再念一次
⑪	動詞述語文	第十八課 去中国干什么? 第十九課 这本书你看了吗?
⑫	動詞述語文	第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑬	中国語の態	
⑭	中国語の態 まとめと解説	
⑮	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いているCDを繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅でe宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）30 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 40 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一課 谁打得好?
⑧	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了
⑨	補語	第三十四課 你退回去吧 第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト

⑭ 期末試験 筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テストなど） 30 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 40 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 M~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」

11	「第16課」 あるいは 「第17課」	「動詞述語文5」 あるいは 「動詞述語文6」
12	「第18課」 あるいは 「第12課から第18課」	「動詞述語文7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第19課、20課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 授業への参加度 60% 期末レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1単位

キ1年 M~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部でのディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1・2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第19課から第22課」	「態」の復習
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第23課から第25課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第26課」 あるいは 「第27課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第28課」 あるいは 「第26課から第28課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第29課、30課」 あるいは 「第31課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第32課」 あるいは 「第33課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第34課」 あるいは 「第35課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第31課から35課」 あるいは 「第36課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」

12	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」 「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 授業への参加度 60% 期末レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2-I

2017年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

環1年G~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語1-I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語1-I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅のeラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
- ※第1週目の授業をオンライン授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了
⑭	まとめと解説	前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑮	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いているCDを繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅でe宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）30%
- ・e宿題30%
- ・期末試験40%
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2-II

2017年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G～I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語1-II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語1-II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅のeラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する
⑦	補語	第三十一課 谁打得好? 第三十二課 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト

⑭ 期末試験 筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）30 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 40 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 J~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の基本	第一課 発音（一）
第 2 回	発音の基本	第二課 発音（二）
第 3 回	発音の基本	第三課 発音（三）
第 4 回	発音の基本	第四課 発音（四）
第 5 回	発音の基本	第五課 您贵姓？
第 6 回	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
第 7 回	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
第 8 回	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
第 9 回	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
第 10 回	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
第 11 回	動詞述語文	第十六課 这儿有邮局吗？ 第十七課 请再念一次
第 12 回	動詞述語文 / 中国語の態	第十八課 去中国干什么？ 第十九課 这本书你看了吗？
第 13 回	中国語の態	第二十課 快要考试了
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェックテスト）30%

期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音チェックテストを6～7月に行ない、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 J～L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
第 2 回	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
第 3 回	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
第 4 回	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号? 第二十七課 现在几点?
第 5 回	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱?
第 6 回	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
第 7 回	補語	第三十一課 谁打得好?
第 8 回	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了
第 9 回	補語	第三十四課 你退回去吧
第 10 回	さまざまな表現	第三十五課 我听不懂 第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
第 11 回	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
第 12 回	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
第 13 回	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト）30 %
期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

課文の暗誦テストを11月～12月に実施し、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A～C

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。

・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。

この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

※第 1 週目の授業をオンライン授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了
	まとめと解説	前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）30%
- ・e宿題30%
- ・期末試験40%
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2-II

2017年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1単位

環1年A～C

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語1-II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語1-II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅のeラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する
⑦	補語	第三十一課 谁打得好? 第三十二課 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三課 对不起,我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト

⑭ 期末試験 筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）30 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 40 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 D~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の基本	第一課 発音（一）
第 2 回	発音の基本	第二課 発音（二）
第 3 回	発音の基本	第三課 発音（三）
第 4 回	発音の基本	第四課 発音（四）
第 5 回	発音の基本	第五課 您贵姓？
第 6 回	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
第 7 回	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
第 8 回	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
第 9 回	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
第 10 回	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
第 11 回	動詞述語文	第十六課 这儿有邮局吗？ 第十七課 请再念一次
第 12 回	動詞述語文/中国語の態	第十八課 去中国干什么？ 第十九課 这本书你看了吗？
第 13 回	中国語の態	第二十課 快要考试了
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェックテスト）30%

期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音チェックテストを6～7月に行ない、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 D～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
第 2 回	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
第 3 回	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
第 4 回	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号? 第二十七課 现在几点?
第 5 回	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱?
第 6 回	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
第 7 回	補語	第三十一課 谁打得好?
第 8 回	補語	第三十二課 你打了几年网球? 第三十三課 对不起, 我打错了
第 9 回	補語	第三十四課 你退回去吧
第 10 回	さまざまな表現	第三十五課 我听不懂 第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
第 11 回	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
第 12 回	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
第 13 回	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト）30 %
期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

課文の暗誦テストを11月～12月に実施し、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A～D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十課 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20 %
期末試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A~D

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号？ 第二十七課 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 E~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

発音練習ではペアワークをします。

本授業は対面を基本とし、オンラインを併用する場合があります。第 1 週目（初回授業）はオンラインとなります。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」

10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e宿題 20%、期末テスト 80%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

勉強方法も含めて疑問点はそのままにせず随時質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業中のペアワークをZoomで行う場合やe宿題を行う場合スマートフォン・タブレット・ノートPCなどがが必要です。マイク付きイヤホンあるいはヘッドセットとともに持参してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2-II

2017年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1単位

キ1年E~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

発音練習ではペアワークをします。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、期末テスト 80 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

勉強方法も含めて疑問点はそのままにせず随時質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業中のペアワークを Zoom で行う場合や e 宿題を行う場合スマートフォン・タブレット・ノート PC が必要です。マイク付きイヤホンあるいはヘッドセットとともに持参してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十課 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20 %
期末試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号？ 第二十七課 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 M~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

発音練習ではペアワークをします。

本授業は対面を基本とし、オンラインを併用する場合があります。第 1 週目（初回授業）はオンラインとなります。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、期末テスト 80 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

勉強方法も含めて疑問点はそのままにせず随時質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業中のペアワークを Zoom で行う場合や e 宿題を行う場合スマートフォン・タブレット・ノート PC などが必要です。マイク付きイヤホンあるいはヘッドセットとともに持参してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 M~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

発音練習ではペアワークをします。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、期末テスト 80 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

勉強方法も含めて疑問点はそのままにせず随時質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業中のペアワークを Zoom で行う場合や e 宿題を行う場合スマートフォン・タブレット・ノート PC などがが必要です。マイク付きイヤホンあるいはヘッドセットとともに持参してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 I

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

【到達目標】

中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初の数回は発音篇、その後文法を中心とした本篇に入ります。本篇の各課は本文・文法・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。

オンラインでの資料配信型の授業なので、スライドの解説を視聴し、練習問題を解いて知識が定着するようにし、毎回の課題をきちんと提出して下さい。

課題や試験などのフィードバックは次回の授業のスライド、または学習支援システムの「お知らせ」等で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の進め方について
②	中国語とは	中国語の基礎
③	発音 1	発音
④	発音 2	発音
⑤	発音 3	発音
⑥	発音 4	発音
⑦	第 1 課	文法
⑧	第 1 課	文法
⑨	第 2 課	文法
⑩	第 2 課	文法
⑪	第 3 課	文法
⑫	第 3 課	文法
⑬	第 1～3 課	第 1～3 課の学習内容の復習
⑭	授業のまとめと試験	発音 1～4、第 1～3 課の試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。授業後には各自で単語帳を作成したり、課文を繰り返し音読するなどして、各回に学習した内容をしっかりと身につけるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級中国語 この 1 冊 - 4 技能の習得を目指して-』丸尾誠他著、金星堂、2019 年

【参考書】

『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東方書店、2010 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）と期末試験（40 %）の総合評価。

平常点とは、毎回の課題の実施状況で、提出回数が授業回数分の3分の2に及ばなかった者は成績評価の対象としません。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

状況によって評価基準が変更になる可能性もありますので、学習支援システムの「授業情報表示」や「お知らせ」を随時確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 II

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

【到達目標】

中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各課は本文・文法・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。オンラインでの資料配信型の授業なので、スライドの解説を視聴し、練習問題を解いて知識が定着するようにし、毎回の課題をきちんと提出して下さい。

課題や試験などのフィードバックは次回の授業のスライド、または学習支援システムの「お知らせ」等で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・第 4 課	授業の進め方について・文法
②	第 4 課	文法
③	第 5 課	文法
④	第 5 課	文法
⑤	第 6 課	文法
⑥	第 6 課	文法
⑦	第 7 課	文法
⑧	第 7 課	文法
⑨	第 8 課	文法
⑩	第 8 課	文法
⑪	第 9 課	文法
⑫	第 9 課	文法
⑬	第 4～9 課	第 4～9 課の学習内容の復習
⑭	授業のまとめと試験	第 4～9 課の試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。授業後には各自で単語帳を作成したり、課文を繰り返し音読するなどして、各回に学習した内容をしっかりと身につけるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級中国語 この 1 冊 - 4 技能の習得を目指して -』丸尾誠他著、金星堂、2019 年

【参考書】

『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東方書店、2010 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）と期末試験（40 %）の総合評価。

平常点とは、毎回の課題の実施状況で、提出回数が授業回数分の3分の2に及ばなかった者は成績評価の対象としません。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

状況によって評価基準が変更になる可能性もありますので、学習支援システムの「授業情報表示」や「お知らせ」を随時確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 I

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	挨拶（1）	子音・母音（1）など
3 回目	挨拶（2）	子音・母音（2）など
4 回目	挨拶（3）	母音（3）など
5 回目	初めて会う（1）	疑問文・形容詞述語文など
6 回目	初めて会う（2）	動詞述語文など
7 回目	尋ねる（1）	名詞述語文など
8 回目	尋ねる（2）	「有」文・前置詞構造
9 回目	尋ねる（3）	時間詞など
10 回目	尋ねる（4）	連動文など
11 回目	尋ねる（5）	方位詞など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

なし

LANc100LA

中国語補講 1 II

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	必要（1）	語気助詞「了」（1）
3 回目	必要（2）	主述述語文など
4 回目	必要（3）	二重目的語文など
5 回目	必要（4）	兼語文・語気助詞「了」（2）
6 回目	必要（5）	結果補語など
7 回目	約束（1）	動態助詞「過」など
8 回目	約束（2）	方向補語（1）など
9 回目	迎える（1）	1）文型「要～了」 2）文型「是～的」
10 回目	迎える（2）	動量補語など
11 回目	招待する	程度補語
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験2	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

なし

LANc100LA

中国語補講 1 I

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

これまでとは違うテキストを使って、初級中国語の基礎を確認しつつ、更に内容を補う授業を週一回で進めて行く。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。また、初級履修時に用いた『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）も併せて授業に持参すること。互いに参照して理解をより深める為でもある。また、授業内小テストを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と方針の説明、定着度判定の為の小テスト
②	第一課：発音	声調・単母音・二重母音・第三声の変調などの確認
③	第二課：発音	三重母音・鼻母音などの確認
④	第三課：発音	子音（声母）の確認
⑤	第四課：数詞・r 化	数詞・年月日・曜日などの基本的語彙の確認
⑥	第五課：発音表と簡単な表現	声母・韻母の総まとめ、簡単な挨拶表現の確認
⑦	第六課：他是？	人称代名詞・「是」構文・本文・練習問題など
⑧	第七課：☒是什么茶？	指示代名詞・動詞述語文・本文・練習問題など
⑨	第八課：明天冷☒？	形容詞述語文・量詞・名詞述語文・本文・練習問題など
⑩	第九課：我坐地☒去	連動文・場所代名詞・反復疑問文など
⑪	第九課：我坐地☒去	本文・練習問題など
⑫	第十課：你☒没☒☒典☒？	動態助詞「了」・語気助詞「了」など
⑬	第十課：你☒没☒☒典☒？	本文・練習問題など
⑭	学習内容総括と理解度	期末試験・まとめと解説の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を全て単語帳に記入して暗記し、授業ノートの整理を行う。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松尾幸忠・李徳林『簡明現代中国語』（中国詩文研究会発行、2010年、取扱：東方書店）

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%
期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

本講義は、今年度は「対面・オンライン併用」の授業に指定されているが、基本的に全て対面授業で行う予定である。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 II

2017年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

これまでとは違うテキストを使って、初級中国語の基礎を確認しつつ、更に内容を補う授業を週一回で進めて行く。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。また、初級履修時に用いた『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）も併せて授業に持参すること。互いに参照して理解をより深める為でもある。また、授業内小テストを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	第十一課：你爸爸会用 ☒☒☒？	助動詞「会」「能」「想」・経験態 など
②	第十一課：你爸爸会用 ☒☒☒？	本文・練習問題など
③	第十二課：今天天气又 下降了2度	助動詞「得」・比較文・結果補語 など
④	第十二課：今天天气又 下降了2度	本文・練習問題など
⑤	第十三課：从☒儿到公 司☒不☒？	動態助詞「着」・自然現象・可能 補語など
⑥	第十三課：从☒儿到公 司☒不☒？	本文・練習問題など
⑦	第十四課：你把☒典放 在哪儿了？	「把」構文・方向補語・受け身文 など
⑧	第十四課：你把☒典放 在哪儿了？	本文・練習問題など
⑨	第十五課：你在看什么 呢？	進行形・状態補語・二重目的語な ど
⑩	第十五課：你在看什么 呢？	本文・練習問題など
⑪	第十六課：☒台上有一 副眼☒	存現文・複合方向補語・兼語文な ど
⑫	第十六課：☒台上有一 副眼☒	本文・練習問題など
⑬	総合復習	これまで学んだ文法事項の再確認
⑭	学習内容総括と理解度	期末試験・まとめと解説 の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を全て単語帳に記入して暗記し、授業ノートの整理を行う。
- ・宿題として課された練習問題を解く。

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松尾幸忠・李徳林『簡明現代中国語』（中国詩文研究会発行、2010年、取扱：東方書店）

※秋学期の本授業のみを履修する者も、テキストは春の時点で購入し、第十課までの内容をあらかじめノートに纏めておくこと。

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20%

期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

本講義は、今年度は「対面・オンライン併用」の授業に指定されているが、基本的に全て対面授業で行う予定である。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANe100LA

中国語補講2 I

2017年度以降入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：1単位

法文営環キ2～3年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	導入	導入
2回目	挨拶（1）	子音・母音（1）など
3回目	挨拶（2）	子音・母音（2）など
4回目	挨拶（3）	母音（3）など
5回目	初めて会う（1）	疑問文・形容詞述語文など
6回目	初めて会う（2）	動詞述語文など
7回目	尋ねる（1）	名詞述語文など
8回目	尋ねる（2）	「有」文・前置詞構造
9回目	尋ねる（3）	時間詞など
10回目	尋ねる（4）	連動文など
11回目	尋ねる（5）	方位詞など
12回目	復習	総復習
13回目	試験1	発音試験、春学期のまとめ
14回目	試験2	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話301文』（上）語文研究社、1365円。

【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

なし

LANe100LA

中国語補講 2 II

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理解力の増進。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	必要（1）	語気助詞「了」（1）
3 回目	必要（2）	主述述語文など
4 回目	必要（3）	二重目的語文など
5 回目	必要（4）	兼語文・語気助詞「了」（2）
6 回目	必要（5）	結果補語など
7 回目	約束（1）	動態助詞「過」など
8 回目	約束（2）	方向補語（1）など
9 回目	迎える（1）	1）文型「要～了」 2）文型「是～的」
10 回目	迎える（2）	動量補語など
11 回目	招待する	程度補語
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験2	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

なし

LANe100LA

中国語補講 2 I

2017 年度以降入学者

余 瀾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語の補講クラスですから、春学期には、一回に 2 課分を進める予定です。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。授業の後半 30 分間に、勉強した内容を復習させ、小テストを行います。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

zoom でのオンライン授業と教室での対面授業という形で行います。新学期からは、まず zoom で授業をやります。期末テストは対面授業で行う予定。新型コロナウイルスの感染状況が改善されてから、教室での対面授業を取り入れることがあります。その都度お知らせします。zoom の URL はをクラスの掲示板でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 「第 8 課」	「形容詞述語文」 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 「第 10 課」	「主述述語文」 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 「第 5 課から第 10 課」	「補語」 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 「動詞述語文 6」

12	「第18課」 「第12課から第18課」	「動詞述語文7」 「動詞述語文」の復習
13	「第19課」 「第20課」	「完了態」 「変化態」
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は100点満点とし、60点以上は合格となります。配分は補講の受講者に配慮して、出席重視の方針から毎回行う小テストが40%、中間テストは30%、期末テストが30%であります。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
小テストが毎回行うのが有効的であることがわかりました。

【学生が準備すべき機器他】
使用しません。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

余 瀾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：1単位

法文営環キ2～3年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語の補講クラスですから、秋学期の後半まで、一回に2課を進める予定です。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。授業後半の30分間は、勉強した内容を復習させ、小テストを行います。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第21課」 「第22課」	「経験態」 「進行態」「持続態」
2	第23課 「第24課」	「形容詞述語文」1 「形容詞述語文」2
3	「第25課」 「第26課」	「形容詞述語文」3 「名詞述語文」1
4	「第27課」 「第28課」	「名詞述語文」2 「名詞述語文」3
5	「第29課」 「第30課」	連体修飾語 「連用修飾語」
6	中間テスト 「第31課」	中間テスト 「程度補語」
7	「第32課」	「数量補語」
8	「第33課」	「結果補語」
9	「第34課」	「方向補語」
10	「第35課」	「可能補語」
11	「第36課」	「助動詞」
12	「第37課」 「第38課」	「兼語文」 「受け身表現」
13	「第39課」 「第40課」	「把構文」 「存現文」
14	期末テスト・まとめ	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。配分は補講の受講者に配慮して、出席重視の方針から毎回行う小テストが 40 %、中間テストは 30 %、期末テストが 30 %であります。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の出席を促すために、小テストが毎回行うのが有効的であることがわかりました。

【学生が準備すべき機器他】

使用しません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 2 I

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

【到達目標】

中国語の発音と基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本として、発音のおさらい、ポイントの学習、本文の音読、会話練習、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業はハイブリッド型（オンラインと対面を併用）で行います。授業実施についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業についての説明 発音のおさらい① 第 1 課 こんにちは	中国語の音節、声調 挨拶言葉 ドリル
2	発音のおさらい② 第 2 課 また明日	単母音、複母音 挨拶言葉 ドリル
3	発音のおさらい③ 第 3 課 ありがとう	子音、無気音と有気音 挨拶言葉 ドリル
4	発音のおさらい④ 第 4 課 お久しぶり	子音、鼻母音 挨拶言葉 ドリル
5	第 5 課 出迎える (1)	第 5 課のポイント 名前の言い方 名前のたずね方
6	第 5 課 出迎える (2)	第 5 課の会話練習 ドリル
7	第 6 課 歓迎パーティー (1)	第 6 課のポイント 動詞「是」 助詞「的」
8	第 6 課 歓迎パーティー (2)	第 6 課の会話練習 ドリル
9	第 7 課 タクシーに乗る (1)	第 7 課のポイント 基本語順 連動文
10	第 7 課 タクシーに乗る (2)	第 7 課の会話練習 ドリル
11	第 8 課 宿泊する (1)	第 8 課のポイント 助動詞「想」 動詞「有」 指示代名詞

12	第 8 課 宿泊する (2)	第 8 課の会話練習 ドリル
13	第 9 課 道をたずね る	第 9 課のポイント 動詞「在」 方位詞 前置詞「从」「往」 場所を表す指示代名詞
14	復習、授業内試験	第 9 課の復習 試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各回に学習する内容をしっかり復習して身につけるようにしましょう。教科書付録の CD や教材内容の映像などを最大限に活用して、予習と復習を行ってください。課題を必ず期限内に完成して提出してください。

【テキスト（教科書）】

「しゃべっていいとも中国語 トータル版」
朝日出版社

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

定期試験は 50 %、授業参加と課題の完成度は 50 %、によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら、授業の進度を適宜調整することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備してください。

【Outline and objectives】

Along with the textbook, you will review pronunciation and learn basic grammar and daily conversation.

LANc100LA

中国語補講 2 II

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

【到達目標】

中国語の発音との基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ポイントの学習、本文の音読、会話練習、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。本授業はハイブリッド型（オンラインと対面を併用）で行います。授業実施についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 10 課 ショッピングをする (1)	第 10 課のポイント 数の言い方、中国のお金の言い方、値段のたずね方、形容詞が述語になる文
2	第 10 課 ショッピングをする (2)	第 10 課の会話練習 ドリル
3	第 11 課 おしゃべりをする (1)	第 11 課のポイント 年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第 11 課 おしゃべりをする (2)	第 11 課の会話練習 ドリル
5	第 12 課 料理を注文する (1)	第 12 課のポイント 量詞 動詞の重ね方
6	第 12 課 料理を注文する (2)	第 12 課の会話練習 ドリル
7	第 13 課 サッカーのチケットを買う (1)	第 13 課のポイント 時刻の言い方 新事態の発生や、状態の変化を表す文末の「了」
8	第 13 課 サッカーのチケットを買う (2)	第 13 課の会話練習 ドリル
9	第 14 課 マッサージをする (1)	第 14 課のポイント 時間の長さの言い方 動作行為の完了を表す助詞「了」
10	第 14 課 マッサージをする (2)	第 14 課の会話練習 ドリル
11	第 15 課 インターネット・カフェ (1)	第 15 課のポイント 動作の対象を表す前置詞「在」 助動詞「可以」「能」
12	第 15 課 インターネット・カフェ (2)	第 15 課の会話練習 ドルル

13	第 16 課 電話をかけ る (1)	第 16 課のポイント 動作行為の進行を表す表現 助動詞「会」
14	復習と授業内試験	第 16 課の復習 試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各回に学習する内容をしっかり復習して身につけるようにしましょう。教科書付録の CD や教材内容の映像などを最大限に活用して、予習と復習を行ってください。課題を必ず期限内に完成して提出してください。

【テキスト（教科書）】

「しゃべっていいとも中国語 トータル版」
朝日出版社

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

定期試験は 50 %、授業参加と課題の完成度は 50 %、によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら、授業の進度を適宜調整することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備してください。

【Outline and objectives】

Along with the textbook, you will review pronunciation and learn basic grammar and daily conversation.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

法 1 年 I~K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引ながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法 (Gramatica)」、「練習問題 (Ejercicios)」、「会話文 (Dialogo)」、「会話練習 (Practica Oral)」から成るが、このうち文法と練習問題については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想については次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式を基本とするが、第 1 回目の授業は Zoom を用いてオンラインで実施する。Zoom のミーティング ID、パスコードなどについての詳細は、授業開始の直前に授業支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 0 課	シラバスを用いた授業の説明。 文字と発音、アクセント。
2	第 1 課	名詞、冠詞、主格人称代名詞など。
3	第 1 課 - 第 2 課	練習問題、会話文。 直説法現在形規則動詞、疑問文、否定文。
4	第 2 課	練習問題、会話文。
5	第 3 課	形容詞、動詞 ser と estar。
6	第 3 課 - 第 4 課	練習問題、会話文。 Hay、指示詞、所有形容詞。
7	理解度確認 第 4 課	中間試験を実施。
8	第 5 課	時刻の表現、練習問題、会話文。 直接目的格人称代名詞、直説法現在形 1 人称単数が不規則な動詞など。
9	第 5 課 - 第 6 課	練習問題、会話文。 直説法現在語幹母音変化動詞など。
10	第 6 課	練習問題、会話文。
11	第 7 課	間接目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞など。
12	第 7 課	練習問題、会話文。

- 13 予備日 春学期授業の総復習として、まとめと解説
- 14 理解度確認。 期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・ブラド他(2007)『スペイン語のリズムで』同学社。
978-4-8102-0371-4

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を30%。中間試験の点数を30%、期末試験の点数を40%として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといふ意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70%の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuhasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

法1年I~K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

- ①"IR(行く)"、"VENIR(来る)"などの重要な不規則動詞や再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べることができる。
- ②比較級の表現を用いて、形態、品質などを相対的観点から描写できる。
- ③動詞の直説法現在完了形を活用させて、過去の行為、経験、状況について述べるができるようになる。
- ④スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法 (Gramatica)」と「練習問題 (Ejercicios)」、「会話文 (Dialogo)」、「会話練習 (Practica oral)」から成るが、このうち「文法」と「練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想については次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 春学期の復習	本シラバスを用いての授業の説明。 春学期のスペイン語 II で学習した内容を振り返る。
2	第7課	間接目的格人称代名詞、gustar型の動詞など。(教科書 pp.40-41)
3	第7課-第8課	練習問題、会話文。(教科書 pp.42-43) 不規則動詞、"ir"、"tener"、"venir"、"decir"など。(教科書 pp.45-46)
4	第8課	練習問題、会話文。(教科書 pp.47-48)
5	第9課	再帰動詞、無人称表現。(教科書 pp.50-51)
6	第9課-第10課	練習問題、会話文。(教科書 pp.52-53) 現在分詞、不定語と否定語、所有形容詞。(教科書 pp.55-56)
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第10課	練習問題、会話文。(教科書 pp.57-58)
9	第11課	比較表現など。(教科書 pp.60-61)

10	第 11 課-第 12 課	練習問題、会話文。(教科書 pp.62-63) 過去分詞、直説法現在完了など。 (教科書 pp.65-66)
11	第 12 課	練習問題、会話文。(教科書 pp.67-68)
12	第 13 課	点過去規則活用、時間の経過を表す表現、関係詞。(教科書 pp.70-71)
13	第 13 課	練習問題、会話文。(教科書 pp.72-73)
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・ブラド他(2007)『スペイン語のリズムで』同学社 978-4-8102-0371-4

【参考書】

西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといった意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write simple texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

敦賀 公子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法 1 年 L・M

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語世界への理解と興味を導く第一歩として、スペイン語の基本文法・表現を学ぶことを目標とします。

【到達目標】

今学期は特に、名詞、冠詞、形容詞の性数変化と基本動詞の現在形、目的格人称代名詞などを習得します。
基本文法を活用して、日常生活の中で使う簡単な語彙と文章に慣れるとともに、簡単な会話文を理解できるようになることをめざします。また、日本語や英語とは異なる言語のしくみについて考え、多様な魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、スピーキング、訳読などで、さらに理解を深め、知識の定着を図ります。なお、より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを課題とし、次の授業時に確認します。適宜リアクションペーパーやアンケートの提出を求め、授業運営の参考とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	簡単な自己紹介文 アルファベット、読み方など
2	Lección 1	主語代名詞など
3	Lección 1	動詞 ser、名詞など
4	Lección 2	形容詞など
5	Lección 2	動詞 estar、ser など
6	Lección 3	冠詞、動詞 hay など
7	Lección 3	hay と estar の違いなど 数字など
8	中間テスト	Lección 3 までの確認
9	Lección 4	目的語、時刻の表現など
10	Lección 4	否定文、疑問文など
11	Lección 5	目的語の人称代名詞など
11	Lección 5	目的語の人称代名詞、不規則動詞など
12	Lección 6	不規則動詞など
13	Lección 6	所有形容詞、指示代名詞など
14	期末テスト	Lección 6 までの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業毎の予習・復習、宿題など

【テキスト（教科書）】

『イデアル 改訂新版』

宇野和美、平井素子、Paula Letelier 著（同学社）

【参考書】

西和辞典

その他、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1、試験（中間・期末、小テスト）75 %
- 2、平常点 25 %

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい、活気のある授業をめざし、言語のみならず、スペイン語圏の社会への興味を引き出すような授業にしたいと思います。初回授業で簡単なアンケートを行います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic grammar and expression of Spanish to students taking this course. It also enhances understanding and interest in the diverse cultures of the Spanish World.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

敦賀 公子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法 1 年 L・M

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に習得した知識の上に、発展した基本文法を習得し、スペイン語やスペイン語諸国についての理解と興味をさらに深めることを目標とします。

【到達目標】

今学期は特に、再帰動詞、動詞の現在完了形、過去形などを習得します。

春学期の知識に加え、さらに発展した基礎文法を活用することで、様々な日常生活の場面で使う語彙と文章に親しみます。それによって多様で魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めるとともに、日本語や日本文化との比較分析を行い、異文化理解へと発展させていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、スピーキング、訳読などでさらに理解を深めます。なお、より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを課題とし、次の授業時に確認します。適宜リアクションペーパーやアンケートの提出を求め、授業運営の参考とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 Lección 7	春学期のポイントの復習 不規則動詞など
2	Lección 7 Lección 8	不規則動詞など 再帰動詞など
3	Lección 8	再帰動詞など
4	Lección 9	gustar 動詞など
5	Lección 9	比較表現など
6	No.1 テスト Lección 10	7,8, 9 課の復習 過去時制について
7	Lección 10	点過去など
8	Lección 11	点過去と線過去の違い
9	Lección 11	線過去など
10	Lección 11	過去時制のまとめ、数字など
11	No.2 テスト Lección 12	10, 11 課の復習 現在完了など
12	Lección 12	現在完了など
13	秋学期の総復習	秋学期の総復習
14	期末テスト	Lección 12 までの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業毎の予習・復習、宿題。

【テキスト（教科書）】

『イデアル 改訂新版』

宇野和美、平井素子、Paula Letelier 著（同学社）

【参考書】

西和辞典

その他、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1、試験（テスト、期末テスト、小テスト）75 %
- 2、平常点 25 %

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい、活気のある授業をめざし、言語のみならず、スペイン語社会への興味を引き出すような授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】

On the knowledge acquired in the Spring Semester, this course lead the step up grammar and expression of the basic Spanish to students taking this course. It also enhances the development of understanding in the Spanish Countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 N~V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

- ①簡単な挨拶ができる。②綴りを見て単語を発音することができる。
- ③人を紹介することができる。④勉強や仕事について話すことができる。
- ④日常生活について話すことができる。⑤自分の出身地について話すことができる。⑥伝統文化について話すことができる。⑦スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習と練習問題を行ってゆく。おおむね、3 回の授業で教科書の 2 つの課を学習する。「基本練習」はかならずやる。「応用練習」は時間が許す範囲で取り上げる。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想については次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式を基本とするが、第 1 回目の授業のみ Zoom を用いてオンラインで実施する。Zoom のミーティング ID、パスコードなどについての詳細は、授業開始の直前に授業支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 1 課：あいさつする	シラバスを使って本授業についての説明。 アルファベット、発音 (pp.7-9)。
2	第 1 課：あいさつする	発音とアクセント。 問題演習 (pp.10-11)。
3	第 2 課：食料品を買う	名詞の性と数など (pp.12-13)。 問題演習 (p.14)。
4	第 2 課：食料品を買う 第 3 課：人を紹介する	問題演習 (p.15)。 主語人称代名詞、動詞 ser など (p.16)。
5	第 3 課：人を紹介する	形容詞など (p.17)。 問題演習 (p.18)。
6	第 4 課：仕事や勉強について話す	直説法現在規則動詞 (-AR 動詞) など (pp.20-21)。
7	理解度確認 第 4 課：仕事や勉強について話す	中間試験を実施。 問題演習 (pp.22-23)。
8	第 5 課：日常生活について話す	直説法現在規則動詞 (-ER 動詞、-IR 動詞)、時刻の表現など (pp.24-25)。
9	第 5 課：日常生活について話す 第 6 課：自分の出身地について話す	問題演習 (p.26)。 指示詞、(pp.32-33)

10	第6課：自分の出身地について話す	hay + 名詞、動詞 estar など (p.33)。問題演習 (p.34-35)。
11	第7課：伝統文化について紹介する	直接目的格人称代名詞、動詞 saber, conocer、1人称単数形が不規則なその他の動詞 (pp.36-37)。
12	第7課：伝統文化について紹介する 第8課：パーティーを準備する	問題演習 (p.38)。間接目的人称代名詞、語根母音変化動詞、動詞 tener (pp.40-41)。
13	第8課：パーティーを準備する	問題演習 (pp.42-43)。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

四宮瑞恵他 (2021)『アクション！ (三訂版)』白水社、2200 円 + 税

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといった意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「基本練習」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70%の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。
etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

法 1 年 N~V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、会話、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①趣味について話すことができる。②生活習慣や体調について話すことができる。③現在進行中の事柄、自分の経験などについて説明することができる。④過去の思い出などについて話すことができる。⑤将来について話すことができる。⑥接続法を用いて、自分の願望や他人への依頼を言うことができる。⑦スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習を行ってゆく。おおむね、2回の授業で教科書の1つの課を学習する。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想について次回授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第9課：ネットでつながる	シラバスを使って本授業について説明。 語根母音変化動詞、不定語・否定語 (pp.44-45)。
2	第9課：ネットでつながる 第10課：旅行の計画を立てる	問題演習 (p.46)。 動詞 IR, VENIR, DECIR, OIR、不定詞表現、所有詞 (pp.52-53)。
3	第10課：旅行の計画を立てる	問題演習 (pp.54-55)。
4	第11課：趣味について話す	前置詞人称代名詞、GUSTAR、比較 (pp.56-57)。
5	第11課：趣味について話す	問題演習 (pp.58-59)。
6	第12課：生活習慣と体調を述べる	再帰動詞 (pp.60-61)。
7	理解度確認 第12課：生活習慣と体調を述べる	中間試験を実施。 問題演習 (pp.62-63)。
8	第13課：地球市民として暮らす	過去分詞、現在完了、現在分詞 (pp.64-65)。
9	第13課：地球市民として暮らす	問題演習 (pp.66-67)。
10	第14課：ルーツをたどる	直説法点過去 (pp.72-73)。
11	第14課：ルーツをたどる	問題演習 (pp.74-75)。
12	第15課：思い出を語る	直説法線過去、間接話法 (pp.76-77)。

13 第 15 課：思い出を語 問題演習 (pp.78-79)。

る

14 理解度確認 期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書の音声ダウンロード・聴取し、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

四宮瑞恵他 (2021)『アクション！ (三訂版)』白水社、2200 円 + 税

【参考書】

西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといふ意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「基本練習」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法 1 年 W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペインには名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および～があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。復習には一時間程度を費やすこと。

【テキスト（教科書）】

Ahora, tú きみもやってみよう！ スペイン語 改訂版 朝日出版社

【参考書】

新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しないと単位は取れないことに注意。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。3 回欠席をすると単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する。配布するリアクションペーパーには質問やわからない単元について記入してください。これらについては授業内に復習するなどの対応を行います。

【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法 1 年 W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話に慣れる

Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去に関する概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。復習には一時間程度費やすこと。

【テキスト（教科書）】

Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しなければ単位は取れないことに注意。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。3 回欠席すると単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。わからない文法や単元については授業内で復習するなどの対応を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スペイン語辞書（紙媒体）

【Outline and objectives】

To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 B～I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペイン語には名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および～があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。復習には一時間程度費やすこと。

【テキスト（教科書）】

Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しないと単位は取れないことに注意。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。3 回欠席すると単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する。リアクションペーパーを配布するので質問等や確認したい項目など書き込むこと。質問などについては授業内で復習をするなどの対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】

スペイン語辞書（紙媒体のもの）

【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

文 1 年 B～I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話に慣れる

Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去に関する概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。復習に費やす時間は一時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】

Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しなければ単位は取れないことに注意。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。3 回欠席すると単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。不明な単元については授業内で復習するなどの対応を行います。

【Outline and objectives】

To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

文 1 年 M・N

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①簡単な挨拶ができる。②綴りを見て単語を発音することができる。③現在形に活用した動詞の不定詞を辞書で調べることができる。④再帰動詞の意味と用法について理解する。⑤現在形の単文ならば辞書を引いて読むことができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法と練習問題 (Gramatica y Ejercicios)」、「語彙 (Vocabulario)」、「会話・読解・聞き取り (Comunicacion)」から成るが、このうち「文法と練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話練習、読解問題の訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想については次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式を基本とするが、第 1 回目の授業のみ Zoom を用いてオンラインで実施する。Zoom のミーティング ID、パスコードなどについての詳細は、授業開始の直前に授業支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、第 1 課 (2 ページ)	本シラバスを用いた授業の説明。アルファベット。
2	第 1 課 (3 ページ)	発音、アクセント。
3	第 2 課 (6-7 ページ)	名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞 ser、など
4	第 2 課 (8-9 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
5	第 3 課 (10-11 ページ)	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞、動詞 estar、動詞 tener、など。
6	第 3 課 (12-13 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 4 課 (18-19 ページ)	規則動詞、時刻の表現、など
9	第 4 課 (20-21 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
10	第 5 課 (22-23 ページ)	指示形容詞、動詞 ir と ver、など。
11	第 5 課 (24-25 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
12	第 6 課 (26-27 ページ)	語根母音変化動詞、直接目的格人称代名詞、など。

- 13 第6課(28-29 ページ) 語彙、読解、聞き取り問題。
14 理解度確認 期末試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド他(2013)『スペイン語のある風景(Panoramica del español)』同学社。ISBN978-4-8102-0395-0、2700円＋税。

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席・参加を30%、中間試験の点数を30%、期末試験の点数を40%として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといふ意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70%の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1単位

文1年M・N

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①動詞の点過去形・線過去形から不定詞を辞書で調べることができる。②点過去形、線過去形の違いを理解できる。③再帰動詞の用法を理解できる。④gustar型動詞の用法を理解できる。⑤スペイン・ラテンアメリカ文化についての知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法と練習問題(Gramatica y Ejercicios)」、「語彙(Vocabulario)」、「会話・読解・聴き取り(Comunicacion)」から成るが、このうち「文法と練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想については次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	第7課(34-35 ページ)	間接目的格人称代名詞、動詞 dar, traer, decir、など。
3	第7課(36-37 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
4	第8課(38-39 ページ)	再帰動詞、所有形容詞後置形。
5	第8課(40-41 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
6	第9課(42-43 ページ)	前置詞格人称代名詞、動詞 gustar、など。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第9課(44-45 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
9	第10課(50-51 ページ)	比較級、不定語、など。
10	第10課(52-53 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
11	第11課(54-55 ページ)	規則動詞、不規則動詞の点過去形、など。
12	第11課(56-57 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
13	第12課(58-59 ページ)	線過去形、点過去形と線過去形の違い、など。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題、読解問題、聴き取り問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド他 (2013) 『スペイン語のある風景 (Panoramica del espanol)』 同学社。ISBN978-4-8102-0395-0。2700 円＋税。

【参考書】

西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席・参加を 30 %、中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 R～T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何があると言った所在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法 A」と「コミュニケーション A」、「文法 B」と「コミュニケーション B」という、A、B の 2 セットから成る。1 回の授業で 1 セットを学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想について次回授業でフィードバックを行う。本授業は対面形式を基本とするが、第 1 回目の授業のみ Zoom を用いてオンラインで実施する。Zoom のミーティング ID、パスコードなどについての詳細は、授業開始の直前に授業支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Introduccion	シラバスを用いての授業の説明。 アルファベット、つづりと発音、アクセント。
2	Unidad 1A	名詞の性・数、冠詞。
3	Unidad 1B	主格人称代名詞と動詞 SER。
4	Unidad 2A	所有形容詞前置形、指示形容詞。
5	Unidad 2B	形容詞、数詞。
6	Unidad 3A	動詞 ESTAR、場所の表現。
7	理解度確認 Unidad 3B	中間試験を実施。 SER+形容詞、ESTAR+形容詞、 動詞 TENER。
8	Unidad 4A	直説法現在規則動詞。
9	Unidad 4B	動詞 HAY、時刻の表現。
10	Unidad 5A	動詞 IR、疑問詞 (1)。
11	Unidad 5B	動詞 VER,HACER,PONER,SALIR、 曜日と日付、疑問詞 (2)。
12	Unidad 6A	直接目的格人称代名詞、語幹母音 変化動詞。
13	Unidad 6B	不定詞表現、目的格人称代名詞の 位置。
14	理解度確認。	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、斎藤、仲道 (2020) 『エル オリソンテ』白水社。
978-4-560-09954-4

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといふ意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 R~T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で日常的な習慣について述べるができるようになる。好みや興味について述べられるようになる。比較表現ができるようになる。過去の行為、動作、習慣について述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法 A」と「コミュニケーション A」、「文法 B」と「コミュニケーション B」という、A、B の 2 セットから成る。1 回の授業で 1 セットを学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想についてに次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Unidad 7A	シラバスを用いた授業の説明。 間接目的格人称代名詞、動詞 DAR, DECIR, TRAER。
2	Unidad 7B	動詞 OIR, VENIR, SABER, CONOCER、 天候表現。
3	Unidad 8A	主格人称代名詞と動詞 SER。
4	Unidad 8B	所有形容詞前置形、指示形容詞。
5	Unidad 9A	形容詞、数詞。
6	Unidad 9B	動詞 ESTAR、場所の表現。
7	理解度確認 Unidad 10A	中間試験を実施。 SER+形容詞、ESTAR+形容詞、 動詞 TENER。
8	Unidad 10B	直説法現在規則動詞。
9	Unidad 11A	動詞 HAY、時刻の表現。
10	Unidad 11B	動詞 IR、疑問詞 (1)。
11	Unidad 12A	動詞 VER, HACER, PONER, SALIR、 曜日と日付、疑問詞 (2)。
12	Unidad 12B	直接目的格人称代名詞、語幹母音 変化動詞。
13	Unidad 13A	不定詞表現、目的格人称代名詞の 位置。
14	理解度確認。	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、斎藤、仲道 (2020) 『エル オリソンテ』 白水社。
978-4-560-09954-4

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進捗が速すぎるといふ意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

文 1 年 U～X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何がどこにあると言った所在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各単元 (Unidad) は、「Gramatica(文法)」、「Ejercicios(練習問題)」、「Dialogo y Lectura(対話文と読解)」、「Practica(口述練習)」の 4 つの部分から成る。2 回の授業で 1 単元を学習する。1 週目は、教員が「文法」の解説を行った後、指名された受講生が「練習問題」へ回答し、解答の確認と解説。2 週目は、会話文、読解問題、口述練習を時間が許す範囲で行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想についてに次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式を基本とするが、第 1 回目の授業のみ Zoom を用いてオンラインで実施する。Zoom のミーティング ID、パスコードなどについての詳細は、授業開始の直前に授業支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Unidad 1	シラバスを用いた授業の説明。 アルファベット、つづりと読み方。
2	Unidad 1	練習問題。
3	Unidad 2	名詞、冠詞、HAY を使った存在文。
4	Unidad 2	対話文、読解。
5	Unidad 3	主格人称代名詞、直説法現在規則活用の動詞、所有形容詞、過去分詞。
6	Unidad 3	対話文、読解。
7	理解度確認 Unidad 4	中間試験を実施。 SER 動詞、ESTAR 動詞、指示詞、疑問詞。
8	Unidad 4	対話文、読解。
9	Unidad 5	動詞 IR、HAY と ESTAR の使い分け、前置詞、位置関係表現。
10	Unidad 5	対話文、読解。
11	Unidad 6	語幹母音変化動詞、 TENER, VENIR, DECIR。
12	Unidad 6	対話文、読解。
13	予備日	春学期授業の総復習。

14 理解度確認 期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

櫻井道子、栗林ゆき絵(2021)『スペイン語基礎固め』同人社。978-4-8102-0441-4

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を30%。中間試験の点数を30%、期末試験の点数を40%として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列举した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといふ意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70%の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1単位

文1年U～X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で日常的な習慣について述べるができるようになる。好みや興味について述べられるようになる。比較表現ができるようになる。過去の行為、動作、習慣について述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各単元(Unidad)は、「Gramatica(文法)」、「Ejercicios(練習問題)」、「Dialogo y Lectura(対話文と読解)」、「Practica(口述練習)」の4つの部分から成る。2回の授業で1単元を学習する。1週目は、教員が「文法」の解説を行った後、指名された受講生が「練習問題」へ回答し、解答の確認と解説。2週目は、会話文、読解問題、口述練習を時間が許す範囲で行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想についてに次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Unidad 7	シラバスを用いた授業の説明。 直説法現在一人称単数不規則動詞など。
2	Unidad 7	対話文、読解。
3	Unidad 8	目的格人称代名詞、動詞 GUSTAR、前置詞格人称代名詞。
4	Unidad 8	対話文、読解。
5	Unidad 9	再帰動詞、不定人称文。
6	Unidad 9	対話文、読解。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	Unidad 10	直説法点過去、不定語と否定語。
9	Unidad 10	対話文、読解。
10	Unidad 11	直説法点過去不規則活用、使役と知覚の表現。
11	Unidad 11	対話文、読解。
12	Unidad 12	直説法線過去、点過去と線過去の使い分け、比較。
13	Unidad 12	対話文、読解。
14	理解度確認。	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書の音声ダウンロード、聴取し、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

櫻井道子、栗林ゆき絵(2021)『スペイン語基礎固め』同人社。

978-4-8102-0441-4

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといふ意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 D～F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な文章の理解や作文やオーラルでのコミュニケーションを通じた簡単な表現、また平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題や会話形式の問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。

内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。また、一部の宿題はオンラインのシステムを用いて各自で確認してもらいます。

教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベットとあいさつ	授業概要説明。 アルファベットと発音、あいさつの練習。
2	名詞の性と数	名詞の性と数を理解する。
3	冠詞、形容詞、数詞 1	冠詞の概念を理解する。 形容詞の練習。
4	主語人称代名詞、動詞 ser	主語人称代名詞と動詞の活用 概念を理解する。 動詞 ser の活用と用法を練習する。
5	時刻表現、動詞 estar	動詞 ser を用いた自国の表現を確認する。 動詞 estar の活用と用法を練習する、ser との違いを確認する
6	存在を表す hay	存在を表す hay の用法を理解し、estar との違いを確認する。
7	所有形容詞前置形 動詞 tener ser/estar の違い	動詞 tener を用いた表現を確認する。 動詞 ser/estar の違いを確認する。
8	直接法現在規則動詞 (-ar 動詞)	直接法現在規則動詞 (-ar 動詞) の用法と活用を学び練習する。

9	主な前置詞 疑問詞	類出前置詞の確認をする。 疑問詞をまとめて確認する。
10	直接法現在規則動詞 (-er 動詞、-ir 動詞)	直接法現在規則動詞 (-er 動詞、-ir 動詞) の用法と活用を学び練習する。
11	曜日 指示形容詞	曜日を確認するとともに、曜日を含めた規則動詞の練習をする。
12	直接法現在不規則動詞 天候表現	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。
13	直接目的格人称代名詞	特に動詞 <i>ir, hacer</i> の用法を学ぶ。 直接目的格人称代名詞の用法を学び練習する。
14	春学期のまとめと期末試験	春学期に学習したことをまとめ、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にすること。宿題の授業内やオンラインでの確認によって、疑問点をなくすようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、エウヘニオ他（2016）『スペイン語への道』（Senda hacia el español）（第三書房）

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（60%）、期末試験（40%）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。
語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1年 D~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語 1 I からの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通じた簡単な表現ができるようにします。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章を読み、理解できるようになる。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。
内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。また、一部の宿題はオンラインのシステムを用いて各自で確認してもらいます。
教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習。
2	直接法現在不規則動詞 II	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。 特に動詞 <i>saber/conocer</i> の違いを確認する。
3	所有形容詞後置形、比較級と最上級	所有形容詞の前置形と後置形の用法と違いを学び練習する。 比較表現を確認し練習する。
4	直説法現在不規則動詞 III（語幹母音変化動詞）	直接法現在語幹母音変化動詞の活用を学び練習する。 特に動詞 <i>querer</i> と <i>poder</i> の用法を練習する。
5	直説法現在不規則動詞 IV 前置詞格人称代名詞	直説法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。
6	間接目的格人称代名詞	間接目的格人称代名詞を確認し、直接目的格の復習もする。
7	動詞 <i>gustar</i> と <i>gustar</i> 型動詞	動詞 <i>gustar</i> の用法を理解する。 <i>gustar</i> 型動詞の用法を学び練習する。
8	再帰動詞 I	再帰動詞の概念を理解し、全人称用法を学び練習する。

9	再帰動詞 II	再帰動詞の 3 人称用法についても学び、練習する。
10	点過去（規則活用）	点過去を理解し、点過去の規則活用を学び練習する。
11	点過去（不規則活用）	点過去の不規則活用を学び練習する。
12	線過去	線過去を理解し、その活用と用法を学び練習する。
13	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解し、単純な過去の表現を練習する。
14	1 年間のふりかえりと 期末試験	1 年を通して学んだことをふりかえり、復習をする。 それらの確認としての、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にすること。宿題の授業内やオンラインでの確認によって、疑問点をなくすようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、エウヘニオ他（2016）『スペイン語への道』（Senda hacia el español）（第三書房）

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011 『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015 『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（60 %）、期末試験（40 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。
語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペイン語には名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文 および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および～があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の 使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の 使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。復習に費やす時間は一時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

Ahora, tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しないと単位は取れないことに注意。三回欠席すると単位は取得できない。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する。リアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をとります。

【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

営 1 年 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を業に慣れる

Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去に関する概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。復習に費やす時間は一時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】

Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しなければ単位は取れないことに注意。三回欠席すると単位を取得できない。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。授業内で復習するなどの適切な対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】

スペイン語辞書（紙媒体）

【Outline and objectives】

To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 H・J

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時までに、スペイン語の単純な現在形の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義はスペイン語のアルファベットから開始する。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行う。まったくのスペイン語初心者が受講することを想定するので、授業は出来る限りゆっくり、また丁寧に進行するが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため授業の途中で一度、理解の確認のための中間テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内での対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は **Zoom** を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、8 回目に予定している中間試験、及び 14 回目に予定している期末試験については、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内での会話の禁止等）を前提として、教室内での筆記試験を実施する。従って 8 回目及び 14 回目のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベット 母音と子音の発音	本授業のガイダンス スペイン語と英語のアルファベットの違い 母音と子音の発音規則 (テキスト: 第 1 課)
2	アクセントのルール 注意すべきつづり 名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	単語の発音規則 名詞の性の概念と複数化 定冠詞と不定冠詞 (テキスト: 第 1 課、第 2 課)
3	主格人称代名詞 動詞 ser	主語となる人称代名詞 動詞 ser の意味と用法 (テキスト: 第 2 課)

4	形容詞 所有形容詞前置形	性と数に対応した形容詞の変化 名詞の前につく形の所有形容詞 (テキスト: 第 3 課)
5	疑問文と否定文 動詞 tener 数 1 ~ 100	疑問文と否定文の語順 動詞 tener の意味と用法 1 から 100 までの数詞 (テキスト: 第 3 課)
6	直説法現在形規則動詞 疑問詞 (1)	直説法現在形の動詞規則変化 よく用いられる疑問詞 (テキスト: 第 4 課)
7	指示形容詞 動詞 estar ser と estar	指示形容詞の種類と用法 動詞 estar の意味と用法 動詞 ser と estar の使い分け (テキスト: 第 5 課)
8	中間試験 hay 存在文 tener + 名詞の表現	中間試験 hay 存在文の用法 hay 存在文と estar 存在文の使 い分け tener を用いた状態の表現 (テキスト: 第 5 課)
9	動詞 ir 動詞 ver 動詞 hacer 動詞 poner 動詞 salir	動詞 ir、ver、hacer、poner、 salir の意味と用法 (テキスト: 第 6 課)
10	ir a + 不定詞の表現 tener que + 不定詞の 表現 時刻表現	動詞 ir を用いた予定の表現 動詞 tener を用いた義務の表現 時刻表現 (テキスト: 第 6 課)
11	日付表現 疑問詞 (2) 語幹母音変化動詞	曜日と月の表現 知っておくと便利な疑問詞 語幹母音変化動詞 (テキスト: 第 6 課、第 7 課)
12	天候表現 動詞 oír 動詞 venir 動詞 saber 動詞 conocer	天候を表す 3 人称表現 動詞 oír、venir、saber、 conocer の意味と用法 (テキスト: 第 8 課)
13	動詞 dar 動詞 decir 動詞 traer 質疑応答	動詞 dar、decir、traer の意味と 用法 学期末試験に備え、今学期授業内 容全体に対しての質疑を受け付け る
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で
言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。
また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組む
ことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に
問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・プラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペ
イン語 (Español en imágenes)』(朝日出版)、2,500 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では
特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のため
には『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身
に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単
語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。
上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。
<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に
評価する。

ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、中間試験
及び期末試験を教室内の筆記形式で実施することが不可能となる
場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更
の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認
すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可
能性がある。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコ
ンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 H・J

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、簡単な過去形や現在完了形を含むスペイン語の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。内容は春学期「スペイン語 1I」の継続であり、テキストも同じものを引き続き用いる。毎回の講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。秋学期からは学習内容も高度化するため、各自の予習と復習、特に後者がより重要となる。このため学期の途中一度、理解の確認のための中間テストを行う。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内での対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通していただくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、8 回目に予定している中間試験、及び 14 回目に予定している期末試験については、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内での会話の禁止等）を前提として、教室内での筆記試験を実施する。従って 8 回目及び 14 回のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 1)	春学期のおさらい 目的語と目的格代名詞① (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
2	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 2)	目的語と目的格代名詞② (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
3	前置詞格人称代名詞 動詞 gustar gustar 型動詞	前置詞の後に置かれる人称代名詞 動詞 gustar の意味と用法 gustar と似た使い方をする動詞 (テキスト: 第 10 課)
4	所有形容詞後置形 再帰動詞	名詞の後に置かれる所有形容詞 再帰動詞の概念と基本用法 (テキスト: 第 9 課、第 10 課)
5	再帰動詞のその他の 用法 義務の表現	再帰動詞のその他の用法 いくつかの義務の表現 (テキスト: 第 9 課)

6	比較級	「〇〇よりも ×× である」という文の作り方 (テキスト: 第 11 課)
7	最上級 不定語と否定語 感嘆文	「最も ×× である」という文の作り方 よく用いられる不定語と否定語 感嘆文の作り方 (テキスト: 第 11 課)
8	中間試験 直説法点過去規則活用	中間試験 直説法点過去形の規則活用と用法 (テキスト: 第 12 課)
9	直説法点過去不規則 活用 数 100 ~ 2,000	直説法点過去形の不規則動詞 100 から 2,000 までの数詞 (テキスト: 第 12 課)
10	直説法線過去規則活用 直説法線過去不規則 活用 点過去と線過去の使い 分け	直説法線過去形の規則動詞と不規則動詞 点過去形と線過去形の違い (テキスト: 第 13 課)
11	直接話法・間接話法 数 10,000 ~ 序数	直接話法と間接話法の違い 10,000 以上の数 序数の種類と用法 (テキスト: 第 13 課)
12	過去分詞	過去分詞の作り方と用法 (テキスト: 第 14 課)
13	直説法現在完了 質疑応答	直説法現在完了の意味と用法 (テキスト: 第 14 課) 学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対しての質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』(朝日出版)、2,500 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。
<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、中間試験及び期末試験を教室内での筆記形式で実施することが不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性はある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペインには名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および ~があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。復習に費やす時間は一時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】

Ahora, tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しないと単位は取れないことに注意。三回欠席すると単位は取得できない。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する。リアクションペーパーには質問事項や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をとります。

【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

当 1 年 K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話に慣れる
Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやっておくこと。復習に費やす時間は一時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」朝日出版社

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しなければ単位は取れないことに注意。三回欠席すると単位を取得できない。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。質問などの不明点については授業内で復習するなどの対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】

スペイン語辞書（紙媒体）

【Outline and objectives】

To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年 T・U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペインには名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および ~があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。復習に費やす時間は一時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

Ahora, tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しないと単位は取れないことに注意。三回欠席すると単位は取得できない。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。（携帯の辞書の機能の使用は禁止）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】

スペイン語辞書（紙媒体のもの）

【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年 T・U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話に慣れる
Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやっておくこと。復習に費やす時間は一時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しなければ単位は取れないことに注意。三回欠席すると単位を取得できない。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。（携帯電話の辞書機能の使用は禁止）

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。文法に関する疑問点については授業内で復習するなどの対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】

スペイン語辞書（紙媒体）

【Outline and objectives】

To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

営 1 年 M~Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想について次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式を基本とするが、第 1 回目の授業は Zoom を用いてオンラインで実施する。Zoom のミーティング ID、パスコードなどについての詳細は、授業開始の直前に授業支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 1 課	シラバスを用いての授業の説明。 文字と発音。(教科書 pp.2-3)
2	第 1 課	アクセントの位置、数詞、曜日、 など。(教科書 pp.4-5)
3	第 2 課	名詞の性と冠詞、など。(教科書 pp.6-7)
4	第 2 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.8-9)
5	第 3 課	指示形容詞と指示代名詞、など。 (教科書 pp.10-11)
6	第 3 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.12-13)
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 4 課	規則動詞の活用と不規則動詞、な ど。(教科書 pp.14-15)
9	第 4 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.16-17)
10	第 5 課	1 人称単数不規則動詞、など。 (教科書 pp.18-19)
11	第 5 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.20-21)
12	第 6 課	語幹母音変化動詞、など。(教科 書 pp.22-23)
13	第 6 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.24-25)
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹 (2010) 『改訂版・ミラ』 同学社、2500 円 + 税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

営 1 年 M~Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

- ① *gustar* 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。
- ② 再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ③ 動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるようになる。
- ④ スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想についてに次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 7 課	本シラバスを用いた授業の説明。 再帰動詞、時刻の表現。(教科書 pp.26-27)
2	第 7 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.28-29)
3	第 8 課	動詞 <i>gustar</i> の用法、比較級、最上級、など。(教科書 pp.30-31)
4	第 8 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.32-33)
5	第 9 課	点過去の規則動詞、同等比較など。(教科書 pp.34-35)
6	第 9 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.36-37)
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 10 課	点過去の不規則形、否定語と不定語など。(教科書 pp.38-39)
9	第 10 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.40-41)
10	第 11 課	線過去、点過去と線過去の違いなど。 (教科書 pp.42-43)
11	第 11 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.44-45)
12	第 12 課	過去分詞、関係詞。(教科書 pp.46-47)
13	第 12 課	会話文と練習問題。(教科書 pp.48-49)
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹 (2010) 『改訂版・ミラ』 同学社、2500 円 + 税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】

西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：1 単位

法 1 年 I~K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP9

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1~12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13~30） 試験に向け、質問など
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、速慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 I~K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気 of the day I
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気の言い方 II
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去	直説法線過去形の不規則活用
	点過去、線過去	点過去と線過去の対比
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 L・M

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞、
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A +不定詞 /動詞 SALIR, VENIR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の宿題・復習時間は、あわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1,2a.edición. (総合スペイン語コース初級 改訂版) Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 50 %

小テスト 20 %

期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 L・M

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居/天候表現	語幹母音変化動詞 II
2	日常	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名詞/動詞 VER,SABER,CONOCER
4	レシピ/レストランで	SABER+不定詞.PODER+不定詞.QUERER+不定詞.PODER+不定詞
5	衣服とアクセサリー/買い物	前置詞 (a,de,en,...) 間接目的人称名詞/比較現在 I
6	色/クリスマス	動詞 DAR,TRAER,DECIR. 不規則な比較級を持つ形容詞
7	余暇活動	動詞 GUSTAR. GUSTAR と同じように用いられる動詞 ENCAN-TAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR.
8	趣味/スポーツ	比較現在 II/比較表現 III/数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER.ESTAR II
10	状態	SER+形容詞.estar+形容詞
11	体調.感情表現	感情文.SER+形容詞.estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/期末テスト	直説法点過去/不規則活用/所有詞後 置形

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の宿題・復習時間は、あわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1,(総合スペイン語コース初級 改訂版)

Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 50 %

小テスト 20 %

期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 N～V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

法 1 年 N~V

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I ソフト版 –ベーシック・スペイン語–』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同人社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同人社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、速慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法 1 年 W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気 of the day I
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気の言い方 II
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去	直説法線過去形の不規則活用
	点過去、線過去	点過去と線過去の対比
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 B~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

可能な限り対面授業を心がけますが、状況が許さない場合にはオンライン授業になります。教科書は会話、文法、練習問題から成り立っています。先に文法と練習問題を終えてから、最後に会話を学びます。3 課以降には巻末に各課の購読がありますので、それも授業に加えて行きます。学期の中頃と学期末に授業の到達度を確認いたしますが、その結果については授業中に説明いたします。その他の課題については、回答をオンラインで配信する予定です。また、スペイン語圏の文化に関する動画や DVD を紹介していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット、母音
	Lección 1	
2	Lección 1	子音、アクセントの位置
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	主格人称代名詞疑問文と否定文
5	Lección 3	動詞 ser、疑問文と否定文
6	Lección 3	形容詞
7	Lección 4	動詞 estar、hay
8	Lección 4	指示形容詞
9	Lección 5	直説法現在：規則活用 (-ar 動詞)
10	Lección 5	間接目的語につく前置詞 a と直接目的語につく前置詞 a
11	Lección 6	直説法現在：規則活用 (-er 動詞、-ir 動詞)
12	Lección 6	所有詞
13	Lección 7	目的格人称代名詞
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版』、著者：青砥清一他、朝日出版社。

ISBN 978-4-255-55066-4 C1087

【参考書】

西和辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 提出物：レポートと課題 →42%
- 2) 平常点（授業参加度） →8%（一回欠席すると 2 点を減点します。欠席 4 回で 0 点、それ以上欠席すると単位の取得できなくなります）
- 3) 到達度確認（小テスト+期末テスト） →50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は未曾有のオンライン授業になったので、指定していた会話中心の教科書がやや使いにくい気がいたしました。というわけで、今年度は、文法の説明がよりシンプルで、購読もある、より「一般的」な教科書に変えました。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー、タブレット端末、WiFi 環境（オンライン授業になった場合）

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

文 1 年 B~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1) gustar 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の過去時制（現在完了と点過去）を理解する。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進みます。

教科書の構成は、会話、文法、練習問題、購読と変わりませんが、内容がより複雑になります。予習・復習をさらに心がけてください。学期の中頃と学期末に授業の到達度を確認いたしますが、その結果については授業中に説明いたします。その他の課題については、回答をオンラインで配信する予定です。また、スペイン語圏の文化については適宜に YouTube などの動画を使って紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	目的格人称代名詞
2	Lección 7	gustar 型動詞
3	Lección 8	語根母音変化動詞
4	Lección 8	querer と poder
5	Lección 9	一人称単数が不規則な動詞 hace の用法
6	Lección 9	その他の不規則動詞
7	Lección 10	再帰動詞
8	Lección 10	無人称文 感嘆文
9	Lección 11	過去分詞 現在完了
10	Lección 11	現在分詞
11	Lección 12	直説法点過去：規則活用 不定語と否定語
12	Lección 12	比較表現
13	Lección 13	直説法点過去：不規則活用
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切ですが、このレベルでは復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書くこと。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語の整理を兼ねて、単語帳を作るといいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版』、著者：青砥清一他、朝日出版社

ISBN978-4-255-55066-4 C1087

【参考書】

西和辞書

【成績評価の方法と基準】

- 1) 提出物：レポートと課題 → 42 %（レポートのテーマについては後日、指示いたします）
- 2) 平常点：授業参加度 → 8 %（一回欠席すると 2 点減点、4 回で 0 点、それ以上欠席すると単位の取得ができなくなります）
- 3) 到達度確認（小テスト＋期末テスト） → 50%

【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなるので、副教材を用意して学習の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC と WiFi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

文 1 年 M・N

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1回から8回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験(50%)、スピーキングテスト(25%)、授業参加および課題(25%)で評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

文 1 年 M・N

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

文 1 年 R~T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞、
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A +不定詞 /動詞 SALIR, VENIR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の宿題・復習時間は、あわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1. 2a.edición (総合スペイン語コース初級 改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 50 %

小テスト 20 %

期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

文 1 年 R~T

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居/天候表現	語幹母音変化動詞 II
2	日常	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名詞/動詞 VER,SABER,CONOCER
4	レシピ/レストランで	SABER+不定詞.PODER+不定詞.QUERER+不定詞.PODER+不定詞
5	衣服とアクセサリー/買い物	前置詞 (a,de,en,...) 間接目的人称名詞/比較現在 I
6	色/クリスマス	動詞 DAR,TRAER,DECIR. 不規則な比較級を持つ形容詞
7	余暇活動	動詞 GUSTAR. GUSTAR と同 じように用いられる動詞 ENCAN-
8	趣味/スポーツ	TAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR. 比較現在 II/比較表現 III/数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER.ESTAR II
10	状態	SER+形容詞.estar+形容詞
11	体調.感情表現	感情文.SER+形容詞.estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/ 期末テスト	直説法点過去/不規則活用/所有詞 後 置形

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の宿題・復習時間は、あわせて1時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1,2a.edición(総合スペイン語コース初級 改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 50 %

小テスト 20 %

期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 U~X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

可能な限り対面授業を心がけますが、状況が許さない場合にはオンライン授業になります。教科書は会話、文法、練習問題から成り立っています。先に文法と練習問題を終えてから、最後に会話を学びます。3 課以降には巻末に各課の購読がありますので、それも授業に加えて行きます。学期の中頃と学期末に授業の到達度を確認いたしますが、その結果については授業中に説明いたします。その他の課題については、回答をオンラインで配信する予定です。また適宜にスペイン語圏の文化に関する動画や DVD を紹介していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット、母音
	Lección 1	
2	Lección 1	子音、アクセントの位置
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	主格人称代名詞疑問文と否定文
5	Lección 3	動詞 ser、疑問文と否定文
6	Lección 3	形容詞
7	Lección 4	動詞 estar、hay
8	Lección 4	指示形容詞
9	Lección 5	直説法現在：規則活用 (-ar 動詞)
10	Lección 5	間接目的語につく前置詞 a と直接目的語につく前置詞 a
11	Lección 6	直説法現在：規則活用 (-er 動詞、-ir 動詞)
12	Lección 6	所有詞
13	Lección 7	目的格人称代名詞
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版』、著者：青砥清一他、朝日出版社。

ISBN 978-4-255-55066-4 C1087

【参考書】

西和辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 提出物：レポートと課題 →42%
- 2) 平常点（授業参加度） →8%（一回欠席すると 2 点を減点します。欠席 4 回で 0 点、それ以上欠席すると単位の取得できなくなります）
- 3) 到達度確認（小テスト+期末テスト） →50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は未曾有のオンライン授業になったので、指定していた会話中心の教科書がやや使いにくい気がいたしました。というわけで、今年度は、文法の説明がよりシンプルで、購読もある、より「一般的」な教科書に変えました。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー、タブレット端末、WiFi 環境（オンライン授業になった場合）

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

文 1 年 U~X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1) gustar 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の過去時制（現在完了と点過去）を理解する。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進みます。

教科書の構成は、会話、文法、練習問題、購読と変わりませんが、内容がより複雑になります。予習・復習をさらに心がけてください。学期の中頃と学期末に授業の到達度を確認いたしますが、その結果については授業中に説明いたします。その他の課題については、回答をオンラインで配信する予定です。また、スペイン語圏の文化については適宜に YouTube などの動画を使って紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	目的格人称代名詞
2	Lección 7	gustar 型動詞
3	Lección 8	語根母音変化動詞
4	Lección 8	querer と poder
5	Lección 9	一人称単数が不規則な動詞 hace の用法
6	Lección 9	その他の不規則動詞
7	Lección 10	再帰動詞
8	Lección 10	無人称文 感嘆文
9	Lección 11	過去分詞 現在完了
10	Lección 11	現在分詞
11	Lección 12	直説法点過去：規則活用 不定語と否定語
12	Lección 12	比較表現
13	Lección 13	直説法点過去：不規則活用
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切ですが、このレベルでは復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書くこと。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語の整理を兼ねて、単語帳を作るといいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版』、著者：青砥清一他、朝日出版社

ISBN978-4-255-55066-4 C1087

【参考書】

西和辞書

【成績評価の方法と基準】

- 1) 提出物：レポートと課題 → 42 %（レポートのテーマについては後日、指示いたします）
- 2) 平常点：授業参加度 → 8 %（一回欠席すると 2 点減点、4 回で 0 点、それ以上欠席すると単位の取得ができなくなります）
- 3) 到達度確認（小テスト＋期末テスト） → 50%

【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなるので、副教材を用意して学習の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC と WiFi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

当 1 年 D~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】

自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに従って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オープニング 第1課 Hola, ¿ cómo te llamas?	ガイダンス 挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 1/3
2	第1課 Hola, ¿ cómo te llamas?	挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 2/3
3	第1課 Hola, ¿ cómo te llamas?	挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 3/3
4	第2課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 1/3
5	第2課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 2/3
6	第2課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 3/3
7	中間テスト	Examen U1-2
8	第3課 Mi universidad	大学や住んでいる町について話す 都市の位置 1/2
9	第3課 Mi universidad	大学や住んでいる町について話す 都市の位置 2/2
10	第4課 Estudio en la Universidad de Salamanca	勉強について話す 日常や余暇の過ごし方について理解し話す 時刻を言い、スケジュールについて話す 1/2
11	第4課 Estudio en la Universidad de Salamanca	勉強について話す 日常や余暇の過ごし方について理解し話す 時刻を言い、スケジュールについて話す 2/2

12	第5課 La familia	家族について話す 人の性格や容姿 1/2
13	第5課 La familia	家族について話す 人の性格や容姿 2/2
14	期末試験	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「¡ Muy bien! いいね! スペイン語」フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カステージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、試験の成績 60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline and objectives】

Introduction to Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

営 1 年 D~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】

自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに従って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オープニング	春学期の復習とガイダンス。
	第6課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
	1/3	
2	第6課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
	2/3	
3	第6課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
	3/3	
4	第7課	好み、趣味や興味について話す
	Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti?	計画や義務について話す
	1/2	イベントについて簡単な情報
5	第7課	好み、趣味や興味について話す
	Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti?	計画や義務について話す
	2/2	イベントについて簡単な情報
6	中間テスト	Examen ~ U7
7	第8課	店で欲しいものを伝える
	De compras	店頭での会話
	1/2	市場や店の様子
8	第8課	店で欲しいものを伝える
	De compras	店頭での会話
	2/2	市場や店の様子
9	第9課	スペイン語圏の食べ物
	¡ A comer!	食べたいもの飲みたいものを頼む
	1/2	レストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 2/2

10	第9課	スペイン語圏の食べ物
	¡ A comer!	食べたいもの飲みたいものを頼む
	2/2	レストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 1/2
11	第10課	1日の生活について情報交換する
	Los mexicanos se levantan pronto	天候
	1/2	
12	第10課	1日の生活について情報交換する
	Los mexicanos se levantan pronto	天候
	2/2	
13	期末試験	Examen final
14	振り返って1年のまとめ	Clase final - Reflexión

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。復習をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「¡ Muy bien! 1 いいね! スペイン語」、フアン・カルロス・モヤノ・ロベス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、テスト/試験の成績60%

【学生の意見等からの気づき】

未確認

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline and objectives】

Introduction to Spanish

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

営 1 年 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、速慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

営 1 年 G

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気 of the day I
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気の言い方 II
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去	直説法線過去形の不規則活用
	点過去、線過去	点過去と線過去の対比
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

営 1 年 H・J

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

可能な限り対面授業を心がけますが、状況が許さない場合にはオンライン授業になります。教科書は会話、文法、練習問題から成り立っています。先に文法と練習問題を終えてから、最後に会話を学びます。3 課以降には巻末に各課の購読がありますので、それも授業に加えて行きます。学期の中頃と学期末に授業の到達度を確認いたしますが、その結果については授業中に説明いたします。その他の課題については、回答をオンラインで配信する予定です。また適宜にスペイン語圏の文化に関する動画や DVD を紹介していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット、母音
	Lección 1	
2	Lección 1	子音、アクセントの位置
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	主格人称代名詞疑問文と否定文
5	Lección 3	動詞 ser、疑問文と否定文
6	Lección 3	形容詞
7	Lección 4	動詞 estar、hay
8	Lección 4	指示形容詞
9	Lección 5	直説法現在：規則活用（-ar 動詞）
10	Lección 5	間接目的語につく前置詞 a と直接目的語につく前置詞 a
11	Lección 6	直説法現在：規則活用（-er 動詞、-ir 動詞）
12	Lección 6	所有詞
13	Lección 7	目的格人称代名詞
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版』、著者：青砥清一他、朝日出版社。

ISBN 978-4-255-55066-4 C1087

【参考書】

西和辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 提出物：レポートと課題 →42%
- 2) 平常点（授業参加度） →8%（一回欠席すると 2 点を減点します。欠席 4 回で 0 点、それ以上欠席すると単位の取得できなくなります）
- 3) 到達度確認（小テスト＋期末テスト） →50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は未曾有のオンライン授業になったので、指定していた会話中心の教科書がやや使いにくい気がいたしました。というわけで、今年度は、文法の説明がよりシンプルで、購読もある、より「一般的」な教科書に変えました。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー、タブレット端末、WiFi 環境（オンライン授業になった場合）

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

当 1 年 H・J

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1) gustar 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の過去時制（現在完了と点過去）を理解する。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進みます。

教科書の構成は、会話、文法、練習問題、購読と変わりませんが、内容がより複雑になります。予習・復習をさらに心がけてください。学期の中頃と学期末に授業の到達度を確認いたしますが、その結果については授業中に説明いたします。その他の課題については、回答をオンラインで配信する予定です。

また、スペイン語圏の文化については適宜に YouTube などの動画を使って紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	目的格人称代名詞
2	Lección 7	gustar 型動詞
3	Lección 8	語根母音変化動詞
4	Lección 8	querer と poder
5	Lección 9	一人称単数が不規則な動詞 hace の用法
6	Lección 9	その他の不規則動詞
7	Lección 10	再帰動詞
8	Lección 10	無人称文 感嘆文
9	Lección 11	過去分詞 現在完了
10	Lección 11	現在分詞
11	Lección 12	直説法点過去：規則活用 不定語と否定語
12	Lección 12	比較表現
13	Lección 13	直説法点過去：不規則活用
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切ですが、このレベルでは復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書くこと。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語の整理を兼ねて、単語帳を作るといいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版』、著者：青砥清一他、朝日出版社

ISBN978-4-255-55066-4 C1087

【参考書】

西和辞書

【成績評価の方法と基準】

- 1) 提出物：レポートと課題 → 42 %（レポートのテーマについては後日、指示いたします）
- 2) 平常点：授業参加度 → 8 %（一回欠席すると 2 点減点、4 回で 0 点、それ以上欠席すると単位の取得ができなくなります）
- 3) 到達度確認（小テスト＋期末テスト） → 50%

【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなるので、副教材を用意して学習の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC と WiFi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

当 1 年 K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1回から8回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験(50%)、スピーキングテスト(25%)、授業参加および課題(25%)で評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

当 1 年 K

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 M~Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

可能な限り対面授業を心がけますが、状況が許さない場合にはオンライン授業になります。教科書は会話、文法、練習問題から成り立っています。先に文法と練習問題を終えてから、最後に会話を学びます。3 課以降には巻末に各課の購読がありますので、それも授業に加えて行きます。学期の中頃と学期末に授業の到達度を確認いたしますが、その結果については授業中に説明いたします。その他の課題については、回答をオンラインで配信する予定です。また適宜にスペイン語圏の文化に関する動画や DVD などを紹介していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット、母音
	Lección 1	
2	Lección 1	子音、アクセントの位置
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	主格人称代名詞疑問文と否定文
5	Lección 3	動詞 ser、疑問文と否定文
6	Lección 3	形容詞
7	Lección 4	動詞 estar、hay
8	Lección 4	指示形容詞
9	Lección 5	直説法現在：規則活用（-ar 動詞）
10	Lección 5	間接目的語につく前置詞 a と直接目的語につく前置詞 a
11	Lección 6	直説法現在：規則活用（-er 動詞、-ir 動詞）
12	Lección 6	所有詞
13	Lección 7	目的格人称代名詞
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版』、著者：青砥清一他、朝日出版社。

ISBN 978-4-255-55066-4 C1087

【参考書】

西和辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 提出物：レポートと課題 →42%
- 2) 平常点（授業参加度） →8%（一回欠席すると 2 点を減点します。欠席 4 回で 0 点、それ以上欠席すると単位の取得できなくなります）
- 3) 到達度確認（小テスト+期末テスト） →50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は未曾有のオンライン授業になったので、指定していた会話中心の教科書がやや使いにくい気がいたしました。というわけで、今年度は、文法の説明がよりシンプルで、購読もある、より「一般的」な教科書に変えました。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー、タブレット端末、WiFi 環境（オンライン授業になった場合）

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

営 1 年 M~Q

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1) *gustar* 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の過去時制（現在完了と点過去）を理解する。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進みます。

教科書の構成は、会話、文法、練習問題、購読と変わりませんが、内容がより複雑になります。予習・復習をさらに心がけてください。学期の中頃と学期末に授業の到達度を確認いたしますが、その結果については授業中に説明いたします。その他の課題については、回答をオンラインで配信する予定です。

また、スペイン語圏の文化については適宜に YouTube などの動画を使って紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	目的格人称代名詞
2	Lección 7	<i>gustar</i> 型動詞
3	Lección 8	語根母音変化動詞
4	Lección 8	<i>querer</i> と <i>poder</i>
5	Lección 9	一人称単数が不規則な動詞 <i>hace</i> の用法
6	Lección 9	その他の不規則動詞
7	Lección 10	再帰動詞
8	Lección 10	無人称文 感嘆文
9	Lección 11	過去分詞 現在完了
10	Lección 11	現在分詞
11	Lección 12	直説法点過去：規則活用 不定語と否定語
12	Lección 12	比較表現
13	Lección 13	直説法点過去：不規則活用
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切ですが、このレベルでは復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみることを。新しい活用や新しい単語は、最低、10回は書くこと。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語の整理を兼ねて、単語帳を作るといいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版』、著者：青砥清一他、朝日出版社

ISBN978-4-255-55066-4 C1087

【参考書】

西和辞書

【成績評価の方法と基準】

- 1) 提出物：レポートと課題 → 42 %（レポートのテーマについては後日、指示いたします）
- 2) 平常点：授業参加度 → 8 %（一回欠席すると 2 点減点、4 回で 0 点、それ以上欠席すると単位の取得ができなくなります）
- 3) 到達度確認（小テスト＋期末テスト） → 50%

【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなるので、副教材を用意して学習の充実を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC と WiFi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

当 1 年 T・U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1回から8回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験(50%)、スピーキングテスト(25%)、授業参加および課題(25%)で評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

営 1 年 T・U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語(1) I

2017年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 Y ①

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法 1 年 Y ①

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気の言い方 I
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気の言い方 II
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語(1) I

2017年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y ②

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第1課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第2課	名詞の性、名詞の数
3	第2課	冠詞、主格人称代名詞
4	第4課	ser 動詞の活用と用法
5	第5課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第4課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第4課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第5課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第5課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第6課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第6課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第7課	目的格人称代名詞
13	第7課	gustar 型動詞の用法
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語(1)Ⅱ

2017年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y ②

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語(1)Ⅰから連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨールⅠ ソフト版 『ベーシック・スペイン語』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 (2) I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y ①

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 (2) II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

法 1 年 Y ①

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 (2) I

2017 年度以降入学者

仮屋 浩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y ②

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法や表現の理解を高めるとともに、スペイン語でのコミュニケーション力を向上させ、スペインやラテンアメリカに関するテキストを読むことでスペイン語圏の理解を深める。

学生は、日常で身近な表現に関して理解し、スペイン語の基礎を身につけ簡単な日常会話ができスペイン語の構造が理解できるようになることを目標とする。

【到達目標】

学生は本授業を履修し課題をこなすことで、スペイン語文法の理解をふかめ、簡単な既知の内容や習慣の会話、自己紹介、日常生活などを表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に基づいて授業を進める。文法事項を確認し、それに基づいたエクササイズ、ペアワーク、グループワーク、リーディング、ライティングを行う。

さらには文の暗唱をすることで、スペイン語の発音、リズムを身体で習得していく。

ほぼ毎週課す課題（小テスト）が期限内に提出された後、修正点やアドバイスを添えてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベトとスペイン語圏について
2	職業における性	名詞には性があることを理解する
3	直説法現在形の動詞	動詞の活用を覚えていこう
4	現在形の不規則動詞	不規則動詞の活用を覚えよう
5	疑問詞と数詞	疑問詞の種類について、数詞 1-20 まで覚えよう
6	位置関係・時間の言い表し方	estar 動詞、 ser 動詞の用法
7	所有形容詞 数字	家族の紹介をしてみよう 数詞 2 1～の言い表し方を覚えよう
8	動詞の用法 再帰動詞について	日常生活について表現してみよう
9	冠詞について	定冠詞・不定冠詞について知ろう
10	住居について	家の中のことを表現してみよう
11	発音練習	早口言葉を言ってリズムをつかもう
12	暗唱	詩の暗唱をしてリズム・抑揚をつかもう
13	gustar 型の動詞	自分の好みを表現してみよう
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、その日に習ったことを音読、復習してから、次の授業に臨む。教科書外からも出される宿題、課題を指定の期日までに実施し、提出する。教員から指示される教材の動画がある場合は視聴すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Francisca Castro Viudez 他著『Nuevo Español en Marcha 1 Libro del Alumno』（SGEL 社）3400 円

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

課題 30%

試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The course will improve students' understanding of grammar and expressions, improve their ability to communicate in Spanish and deepen their understanding of the Spanish-speaking world by reading texts related to Spain and Latin America.

The aim is for students to acquire a basic understanding of everyday expressions, to be able to carry out simple conversations and to understand the structure of the Spanish language.

LANs100LA

スペイン語 (2) II

2017 年度以降入学者

仮屋 浩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y ②

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法や表現の理解を高めるとともに、スペイン語でのコミュニケーション力を向上させ、スペインやラテンアメリカに関するテキストを読むことでスペイン語圏の理解を深める。

学生は、日常で身近な表現に関して理解し、スペイン語の基礎を身につけ簡単な日常会話ができスペイン語の構造が理解できるようになることを目標とする。

【到達目標】

学生は本授業を履修し課題をこなすことで、これまで習得してきたスペイン語文法をさらに掘り下げ、新たな時制を学ぶことで簡単な既知の内容や習慣の会話、自身の過去の出来事や身の回りで起こったことの描写など、必要に応じて表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に基づいて授業を進める。、文法事項を確認し、それに基づいたエクササイズ、ペアワーク、グループワーク、リーディング、ライティングを行う。

ほぼ毎週課す課題（小テスト）が期限内に提出された後、修正点やアドバイスを添えてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	命令形	道案内の仕方
2	ser と estar の使い分け	自分の住んでいる場所について説明してみよう
3	現在分詞	現在進行形
4	人の描写	形容詞を使って人の外見・内面を描写してみよう
5	点過去	点過去形の動詞の活用
6	天候の表現	昨日の天気・今日の天気を表現してみよう
7	目的格人称代名詞	買い物の仕方を覚えよう
8	比較級	様々な都市を比較してみよう
9	線過去	線過去の動詞の活用
10	線過去と点過去の使い分け	例文を理解しながら線過去・点過去の使い分けを学ぼう
11	現在完了形	過去分詞の作り方を覚え、完了形の用法をマスターしよう
12	発音練習（1）	詩や早口言葉をういてスペイン語のリズムを体得しよう
13	時制のまとめ	現在形・点過去・線過去・現在完了を使いこなそう
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、その日に習ったことを音読、復習してから、次の授業に臨む。教科書外からも出される宿題、課題を指定の期日までに実施し、提出する。教員から指示される教材の動画がある場合は視聴する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Francisca Castro Viudez 他 著『Nuevo Español en Marcha 1 Libro del Alumno』SGEL 社、3400 円

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%

課題：30%

小テストおよび試験の成績：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The course will improve students' understanding of grammar and expressions, improve their ability to communicate in Spanish and deepen their understanding of the Spanish-speaking world by reading texts related to Spain and Latin America.

The aim is for students to acquire a basic understanding of everyday expressions, to be able to carry out simple conversations and to understand the structure of the Spanish language.

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項を学習する。基本的に講義形式となるが、学生の積極的な発言を促しながら授業を進めていく。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語3

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAに参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。小テストについては、採点済みの答案用紙を学生に返却し、答え合わせを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語2

2017年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAに参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項を学習する。基本的に講義形式となるが、学生の積極的な発言を促しながら授業を進めていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内での対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、14 回目に予定している期末試験については、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内での会話の禁止等）を前提として、教室内での筆記試験を実施する。従って 14 回目のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ

12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、小テスト（20%）、期末試験（60%）を総合的に勘案して評価する。

上記「授業の進め方と方法」に示した通り、期末試験のみ教室での筆記形式で行う。ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、教室内でのペーパーテストの実施が不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語 4

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。小テストについては、採点済みの答案用紙を学生に返却し、答え合わせを行なう。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

感染拡大予防措置を講じながら教室内での対面授業を行うことが困難であることから、本授業の形態は Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。授業形態の詳細や注意点は、学期開始に先立って学習支援システム上で公開するので、初回授業の前に必ず目を通しておくこと。

ただし以下の点は特に重要であるため、予め留意すること。

【下記の「授業計画」のうち、14 回目に予定している期末試験については、感染拡大予防措置を十分に講じること（マスクまたはフェイスシールドの着用徹底、教室内での会話の禁止等）を前提として、教室内での筆記試験を実施する。従って 14 回目のみ、教室に来て受験することを必須とし、他の形での受験は認めない。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。

10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、小テスト（20%）、期末試験（60%）を総合的に勘案して評価する。

上記「授業の進め方と方法」に示した通り、期末試験のみ教室での筆記形式で行う。ただし新型コロナウイルスの感染状況の推移によっては、教室内でのペーパーテストの実施が不可能となる場合も考えられるため、成績評価方法も変更の可能性がある。変更の場合は学習支援システムで速やかに通知するので、こまめに確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

本授業はリアルタイムでのオンライン形式で実施するので、パソコンおよびインターネット環境を必須とする。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語5

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA スペインに参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法を修得する。また、初歩的な文法事項と語彙・表現の知識を活かしながら、簡単な読み書きができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の修得を目指す。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行う。
2	文字と発音	スペイン語のアルファベットと発音について学ぶ。
3	アクセント	スペイン語のアクセントに関する規則を学ぶ。
4	名詞	スペイン語の名詞について学ぶ。
5	冠詞	スペイン語の冠詞について学ぶ。
6	形容詞	スペイン語の形容詞について学ぶ。
7	ser 動詞と estar 動詞	スペイン語の ser 動詞と estar 動詞について学ぶ。
8	一般動詞（規則形）	スペイン語の一般動詞の規則形について学ぶ。
9	一般動詞（不規則形）	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ。
10	疑問文・否定文	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ。
11	間接・直接目的語	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ。
12	指示代名詞・指示形容詞	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ。
13	接続詞と比較	スペイン語の接続詞と、形容詞・副詞の比較について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- エンリケ・アルマラスほか『プラサ・マヨール I 改訂版』朝日出版社、2018年、ISBN9784255550985、本体価格2,100円。
- 西村君代ほか『レベル別 スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009年、ISBN9784255550282、本体価格1,600円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20%、小テスト：20%、学期末試験：60%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in the SA-Program in Spain. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading and writing easy Spanish text.

LANs100LA

スペイン語6

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA スペインに参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法を修得する。また、文法事項の知識と語彙・表現のさらなる充実によって、読み書き能力の向上を目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の修得を目指す。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習する。
2	再帰動詞	スペイン語の再帰動詞について学ぶ。
3	無人称文	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去形（規則形）	スペイン語の動詞の点過去形のうち、規則形について学ぶ。
6	動詞の点過去形（不規則形）	スペイン語の動詞の点過去形のうち、不規則形について学ぶ。
7	動詞の線過去形（規則形）	スペイン語の動詞の線過去形のうち、規則形について学ぶ。
8	動詞の線過去形（不規則形）	スペイン語の動詞の線過去形のうち、不規則形について学ぶ。
9	関係詞	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形（規則形）	スペイン語の動詞の未来形のうち、規則形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則形）	スペイン語の動詞の未来形のうち、不規則形について学ぶ。
12	動詞の未来完了形	スペイン語の動詞の未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形	スペイン語の動詞の過去未来形について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- エンリケ・アルマラスほか『プラサ・マヨール I 改訂版』朝日出版社、2018年、ISBN9784255550985、本体価格2,100円。
- 西村君代ほか『レベル別 スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009年、ISBN9784255550282、本体価格1,600円。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20%、小テスト：20%、学期末試験：60%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期と同様に、1種以上の西和辞典を必ず用意し、毎回の授業で活用すること。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in the SA-Program in Spain. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading and writing Spanish text.

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語は世界中で多く話されている言語のうちのひとつである。スペイン、ラテンアメリカ諸国の公用語であるほか、近年では、日本にもスペイン語を話す旅行者や生活者も多く見かけられる。本講義では、スペイン語の文法を中心に学びながら、スペイン語圏の文化や習慣への関心・理解を促していく。

【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式でなく、学習支援システムを通じたオンデマンド形式（資料型）にて行う。※初回の講義案内・資料配布は 4/15(月)を予定。

文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマは飽くまで目安。

学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、

理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション／文字と発音	春学期講義概要のほか、スペイン語のアルファベット、発音に慣れる。挨拶をはじめとした日常会話に必要な表現を学ぶ。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞／ hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的人称代名詞
第 14 回	テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline and objectives】

This class aims at improving comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.

LANs100LA

スペイン語3

2017年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline and objectives】

Master basic-intermediate grammar of Spanish. Practical skill is required.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法の完成。応用力をつけること。

【到達目標】

スペイン語の基礎的な会話の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式でなく、学習支援システムを通じたオンデマンド形式（資料型）にて行う。

これまでの授業で使ってきた教科書、および進度にばらつきがあると思うので、まずはそれを確認し、できるだけ多数の学生に満足してもらえそうな方法をとりたい。

その他、授業を通じてスペイン語圏の文化を紹介する。

各回テーマは飽くまで目安。

学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、

理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	点過去形規則活用	ar 動詞 er/ir 動詞
2	点過去系不規則活用	不規則活用の種類
3	線過去形	線過去の用法
4	点過去・線過去の違い	考え方、使い方の整理
5	未来形	未来形活用・用法
6	過去未来形	過去未来形活用・用法
7	さまざまな時制の完了形	現在完了／過去完了／未来完了／過去未来完了
8	練習問題	1~7 まとめ
9	命令形	肯定文 (tu/vosotros)
10	疑問詞	用法、内容確認
11	関係詞	用法、内容確認
12	仮定法 si	用法、内容確認
13	テスト前確認・質疑応答	講義内容復習
14	テスト	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要。復習をしっかりと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講学生が今まで使っていた教科書を調査してから決める。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

会話やメールなど、実際のコミュニケーションで使用できる表現を、自身の経験も結びつけながら逐次紹介したい。

また、練習問題を多く取り入れることも検討する。

LANs100LA

スペイン語 2

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	初級文法	オリエンテーション アルファベット 発音（この第1回目の講義のみオンデマンド授業）
2.	初級文法	アクセント あいさつ
3.	初級文法	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞
4.	初級文法	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在
5.	初級文法	所有形容詞（前置形） 疑問文と否定文
6.	初級文法	tener 動詞の直説法現在 数（1～100）
7.	初級文法	直説法現在（規則動詞） 主な前置詞
8.	初級文法	疑問詞（1） 指示形容詞
9.	初級文法	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞
10.	初級文法	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞
11.	初級文法	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞
12.	初級文法	時刻の表現 日付の表現
13.	初級文法	疑問詞（2） 語幹母音変化動詞
14.	初級文法	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

（イメージ・スペイン語）

（著者）Eugenio del Prado 他2名

（出版社）朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【その他の重要事項】

第1回目の講義のみオンデマンド授業となります。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 4

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初級文法	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞
2	初級文法	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞
3	初級文法	再帰動詞 義務の表現
4	初級文法	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形）
5	初級文法	比較級 最上級 不定語と否定語
6	初級文法	直説法点過去（規則動詞）
7	初級文法	直説法点過去（不規則動詞）
8	初級文法	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2.000）
9	初級文法	点過去と線過去 直接話法・間接話法
10	初級文法	数（10.000～10.000.000） 序数
11	初級文法	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了
12	初級文法	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde
13	初級文法	直説法未来 直説法過去未来
14	初級文法	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

（イメージ・スペイン語）

（著者）Eugenio del Prado 他 2 名

（出版社）朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項を学習する。基本的に講義形式となるが、学生の積極的な発言を促しながら授業を進めていく。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

In this course, we will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語 3

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20%)、期末試験 (60%) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline and objectives】

In this course we will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語2

2017年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	初級文法	オリエンテーション アルファベット 発音（この第1回目の講義のみオンデマンド授業）
2.	初級文法	アクセント あいさつ
3.	初級文法	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞
4.	初級文法	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在
5.	初級文法	所有形容詞（前置形） 疑問文と否定文
6.	初級文法	tener 動詞の直説法現在 数（1～100）
7.	初級文法	直説法現在（規則動詞） 主な前置詞
8.	初級文法	疑問詞（1） 指示形容詞
9.	初級文法	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞
10.	初級文法	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞
11.	初級文法	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞
12.	初級文法	時刻の表現 日付の表現
13.	初級文法	疑問詞（2） 語幹母音変化動詞
14.	初級文法	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

（イメージ・スペイン語）

（著者）Eugenio del Prado 他2名

（出版社）朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【その他の重要事項】

第1回目の講義のみオンデマンド授業となります。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 4

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年非 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初級文法	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞
2	初級文法	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞
3	初級文法	再帰動詞 義務の表現
4	初級文法	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形）
5	初級文法	比較級 最上級 不定語と否定語
6	初級文法	直説法点過去（規則動詞）
7	初級文法	直説法点過去（不規則動詞）
8	初級文法	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2,000）
9	初級文法	点過去と線過去 直接話法・間接話法
10	初級文法	数（10,000～10,000,000） 序数
11	初級文法	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了
12	初級文法	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde
13	初級文法	直説法未来 直説法過去未来
14	初級文法	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

（イメージ・スペイン語）

（著者）Eugenio del Prado 他 2 名

（出版社）朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 1 I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 1 I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的の事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などに対しは授業内で復習するなど対応します。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることもある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなど対応します。

【学生が準備すべき機器他】

西和辞書（紙媒体）

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I～P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初級文法	オリエンテーション アルファベットと発音（この第1回目の講義のみオンデマンド授業）
2	初級文法	アクセント あいさつ 数（0～10）
3	初級文法	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞
4	初級文法	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在
5	初級文法	形容詞の性と数 指示形容詞
6	初級文法	estar 動詞の直説法現在 ser と estar の比較 hay と estar の比較
7	初級文法	所有形容詞（前置形） 数（11～30）
8	初級文法	直説法現在規則活用動詞
9	初級文法	直接目的語 間接目的語
10	初級文法	直説法現在不規則活用動詞（1）
11	初級文法	不定詞表現
12	初級文法	直説法現在不規則活用動詞（2）
13	初級文法	時刻の表現 天候の表現 曜日と月
14	初級文法	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Mi camino

(ミ カミーノ)

(著者) 阿由葉恵利子他 8 名

(出版社) 同学社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【その他の重要事項】

第1回目の講義のみオンデマンド授業となります。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初級文法	直説法現在不規則活用動詞 (3)
2	初級文法	querer + 不定詞 poder + 不定詞 pensar + 不定詞 数 (31~100)
3	初級文法	直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞 色を表す形容詞
4	初級文法	gustar 動詞 gustar 型動詞 身体の一部
5	初級文法	所有形容詞 (後置形) 比較級 最上級
6	初級文法	再帰動詞 -mente の副詞
7	初級文法	現在分詞 現在進行形 不定語と否定語
8	初級文法	過去分詞 直説法現在完了
9	初級文法	直説法点過去規則活用動詞
10	初級文法	直説法点過去不規則活用動詞
11	初級文法	受身文
12	初級文法	直説法線過去 点過去と線過去
13	初級文法	直説法未来 数 (101~1.000.000)
14	初級文法	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Mi camino

(ミ カミーノ)

(著者) 阿由葉恵利子他 8 名

(出版社) 同学社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験 (70%)、平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2-I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的の事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなど対応します。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2-II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年 G~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2-I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的の事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価する。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2-II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

環 1 年 A~F

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることもある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応を行います。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A +不定詞 /動詞 SALIR, VENIR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の宿題・復習時間は、あわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1,2a. edición(総合スペイン語コース初級 改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 50 %

小テスト 20 %

期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年 A~H

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居. 天気表現	語幹母音変化動詞 II. 動詞 VOLVER,REPETIR
2	日常の習慣	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名 動詞 VER.SABER,CONOCER
4	レシピ/レストランで	Saber + 不定詞、PODER + 不定詞.QUERER + 不定詞,PODER + 不定詞
5	衣服とアクセサリ. 色	間接目的人称代名詞. 動詞 DAR,TRAER,DECIR
6	クリスマス. 買い物	比較現在 I. 形容詞の比較/ 不規則な比較を持つ形容詞
7	余暇活動 スポーツ	動詞 GUSTAR. 活用
8	スペイン語圏の国々のお祭り	GUSTAR と同じ ように用いられる動詞 ENCAN-TAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR/ 比較現在 II/比較現在 III. 数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER.ESTAR II
10	状態	SER+形容詞.estar+形容詞
11	体調. 感情表現	感情文.SER+形容詞.estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/言語	直説法点過去. 不規則活用. 所有詞後 置形

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の宿題・復習時間は、あわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, 2a.edición. (総合スペイン語コース初級 改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 50 %

小テスト 20 %

期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

キ 1 年 I~P

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2-I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31~99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100~999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気 of の言い方 I
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気 of の言い方 II
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語補講 1 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次のスペイン語既習者を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

1 年次のスペイン語再履修者が主な対象となるため、気の緩みが生じないように非常に厳しく指導していく。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

本授業は、オンラインと対面のハイブリッド型授業となるため、初回授業はオンライン開催とする。初回授業の詳細は、授業開始時刻になったら当該授業の **hoppii** 上にて確認の上、指示に従うこと。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、 hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、 estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞- ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞- er 動詞、- ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』(小学館)

『わかるスペイン語』西川喬 (同学社)

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠点とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

重要！

履修希望者が多い場合には、選抜を実施する。履修希望者は、必ず初回授業に出席し許可を得ること。

初回授業に来なかった学生は原則履修を許可しないので、必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語補講 1 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次のスペイン語既習者を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 (1)I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

1 年次のスペイン語再履修者が主な対象となるため、気の緩みが生じないように非常に厳しく指導していく。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

本授業は、オンラインと対面のハイブリッド型授業となるため、初回授業はオンライン開催とする。初回授業の詳細は、授業開始時刻になったら当該授業の [hoppii](#) 上にて確認の上、指示に従うこと。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I ソフト版 –ベーシック・スペイン語–』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同人社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

重要！

履修希望者が多い場合には、選抜を実施する。履修希望者は、必ず初回授業に出席し許可を得ること。

初回授業に來なかつた学生は原則履修を許可しないので、必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語補講 1 I

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者（再履修者）を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業です。

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題は、資料を用います。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。また、一部の宿題はオンラインのシステムを用いて各自で確認してもらいます。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベットとあいさつ	授業概要説明、アルファベットと発音、あいさつの練習。
2	発音と文字の規則、名詞の数と性	発音と文字の規則を理解し、基本単語を覚える。あいさつの練習。名詞の数と性を理解する
3	冠詞、主語人称代名詞、動詞 ser	冠詞を理解し、ser の用法を練習する。
4	指示形容詞、所有形容詞前置形	指示形容詞と所有形容詞前置形を確認し練習する。
5	形容詞、数詞	形容詞を理解し練習する。数詞は 1 から 100 までを確認し覚える。
6	動詞 estar と場所の表現	動詞 estar の用法を理解し練習する。
7	動詞 ser/estar の違い、動詞 tener	動詞 ser/estar の違いを確認する。また動詞 tener の用法を確認して練習する。
8	存在を表す hay、時刻の表現 I	hay の用法と、動詞 estar との違いを確認する。動詞 ser を用いた時刻表現を練習する。
9	直説法現在規則動詞、時刻表現 II	直説法現在規則動詞の活用と、時刻表現を含めた練習をする。

10	動詞 ir、前置詞、疑問詞 I	動詞 ir の活用と用法を確認する。主な前置詞と疑問詞の一部をまとめ、理解する。
11	直説法現在不規則動詞 I、疑問詞 II、曜日	不規則活用動詞（1 人称単数が不規則の一部）の活用練習と用法の確認をする。曜日や疑問詞を含めて練習する。
12	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞の用法を理解し練習する。
13	直説法現在不規則動詞 II	語幹母音変化動詞の活用を練習し、特に不定詞をとる動詞とその用法を確認し練習する。
14	復習と期末試験、解説	春学期のまとめとその確認としての期末試験を行う。試験内容の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を必要とする場合、また宿題に関しては適宜指示するが、復習を必ず行うこと。

教科書を中心に学習すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・プラド、エウヘニオ他（2020）『エル オリゾンテ（Español en el Horizonte）』白水社

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（60 %）、期末試験（40 %）欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗を頻繁に見直します。

オンライン上での練習問題を活用します

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。再履修科目のため、人数が多い場合は抽選となります。必ず 4 月 13 日の授業（2 限目）に出席してください。出席されない場合は抽選の有無に関わらず、履修を許可しない場合があります。

【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

スペイン語補講 1 II

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語補講 1 I からの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章を読み、理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業です。

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題は、資料を用います。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。また、一部の宿題はオンラインのシステムを用いて各自で確認してもらいます。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期復習	授業概要説明し、春学期の復習をする。
2	間接目的格人称代名詞	間接目的語人称代名詞の用法を理解し練習する。
3	直説法現在不規則動詞 III	不規則活用動詞（1 人称単数が不規則の一部他）の活用練習と用法の確認をする。
4	目的格練習、天候表現	直接・間接両目的格を不規則動詞を含めて練習する。天候表現を確認する。
5	再帰動詞 I	再帰動詞の基本的な用法を確認し練習する。
6	再帰動詞 II	再帰動詞の様々な用法を確認し練習する。
7	動詞 gustar	動詞 gustar の用法を理解し練習する。
8	gustar 型動詞	gustar 型動詞を理解し練習する。
9	直説法現在形の復習	これまで学習した直説法現在形を復習する。
10	比較	比較級・最上級・絶対最上級を理解し練習する。
11	点過去規則動詞	点過去の用法を理解し、規則動詞の活用を練習する。

12	点過去不規則動詞	点過去不規則動詞の活用を練習する。
13	線過去／点過去と線過去	線過去を理解し、点過去との違いを確認して使い分ける練習をする。
14	秋学期の内容の復習と期末試験、解説	秋学期に学習した内容だけでなく、これまで学習した内容をまとめ、その確認として期末試験を行う。またその解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を必要とする場合、また宿題に関しては適宜指示するが、復習を必ず行うこと。

教科書を中心に学習すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、エウヘニオ他（2020）『エル オリゾンテ (Español en el Horizonte)』白水社

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（60 %）、期末試験（40 %）

欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。

【学生の意見等からの気づき】

小テストのフィードバックをより詳細に行う。復習する時間をより多く設ける。

【その他の重要事項】

再履修科目のため、人数が多い場合は抽選となります。そのため、秋学期のみの履修でも、履修希望者は春学期の第 1 回目の授業において抽選を行う場合があります。春学期 1 回目の授業における抽選方法は 4 月 13 日の春学期初回授業までに学習支援システムを通じて連絡しますので、必ず確認し、指示に従ってください。指示通りの行動がとられない場合は、抽選の有無にかかわらず履修許可をしない場合があります。また、抽選が無い場合に 4 月 13 日にすべきことをしていない（遅れた）場合は欠席とみなし、秋学期の授業に欠席 1 回を加算します。

秋学期からの履修でも、春学期の授業に出席することを推奨します。そうでない場合は、春学期のシラバスを確認し、春学期の範囲を各自できちんと復習しておいてください。

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

スペイン語補講 2 I

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法の復習。

【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式でなく、学習支援システムを通じたオンデマンド形式（資料型）にて行う。※初回の講義案内・資料配布は 4/15(月)を予定。

文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマは飽くまで目安。

学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、

理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容説明。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞／ hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的 人称代名詞
第 14 回	テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline and objectives】

Improve comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.

LANs100LA

スペイン語補講 2 II

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline and objectives】

Continuing Spanish grammar class from 1st semester.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「スペイン語補講 2 I」からの継続。

引き続き文法中心の授業。

【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式でなく、学習支援システムを通じたオンデマンド形式（資料型）にて行う。

文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を育てるようにする。

各回テーマは飽くまで目安。

学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、

理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級／最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法／現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則／不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	2つの過去形の違い／練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則／不規則
第 12 回	過去未来	規則／不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了／過去未来完了
第 14 回	テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）。辞書については授業内で指示。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

LANs100LA

スペイン語補講 2 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

【到達目標】

①綴りを見て単語を発音することができる。②人の職業や国籍・出身地について述べることができる。③特定のものや人の所在について述べることができる。④人やものの性格・性質や状態について述べるができる。⑤直説法現在形の動詞の活用から不定詞を推測し、辞書を引くことができる。⑥ *querer, poder* などの動詞の用法を理解し、欲求、願望、可能、許可などについての表現ができる。⑦ スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題に回答させ、答え合わせ、解説、発展的な学習を行ってゆく。また、学習した文法を用いた作文問題を課題として数回出題する。時間に余裕があれば、受講生の作文例を授業で紹介し、添削して全員で共有する。時間がなければ、添削した作文を個別に返却する。本授業は対面形式を基本とするが、第 1 回目の授業は Zoom を用いてオンラインで実施する。Zoom のミーティング ID、パスワードなどについての詳細は、授業開始の直前に授業支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを使って本授業についての説明。
2	文法解説と演習 1	名詞、冠詞、 <i>hay</i> など。
3	文法解説と演習 2	主格人称代名詞、規則活用の動詞など。
4	文法解説と演習 3	形容詞、動詞 <i>ser</i> 、疑問文など。
5	文法解説と演習 4	所有形容詞、動詞 <i>estar</i> など。
6	文法解説と演習 5	1 人称単数のみ不規則な活用の動詞など。
7	文法解説と演習 6	指示形容詞と指示代名詞、語幹母音変化動詞。
8	文法解説と演習 7	所有形容詞後置形と所有代名詞、目的格人称代名詞。
9	文法解説と演習 8	時間の表現、5 つの不規則活用の動詞など。
10	文法解説と演習 9	前置詞と名詞・代名詞、 <i>Gustar</i> 型の動詞など。
11	文法解説と演習 10	再帰動詞、知覚・使役・放任の構文。
12	文法解説と演習 11	再帰動詞、天候表現など。
13	予備日	春学期の授業の総復習。
14	理解度確認	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後に指示する。

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %、期末試験の点数を 70 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

In this lesson we will learn basic Spanish, especially grammar from the beginning again.

LANs100LA

スペイン語補講 Ⅱ

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法文営環キ 2～3 年※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

【到達目標】

①過去形、現在完了形の用法を理解し、過去の行為、動作、状況について述べることができる。②現在進行形を用いて、進行中の動作・状況を述べるができる。③。関係代名詞を用いて、同じ単語を繰り返さずに、あるモノや人についての説明をすることができる。④未来形・過去未来形を用いて、現在から見た未来、過去から見た未来について述べるができる。⑤日付・曜日の表現ができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題に回答させ、答え合わせ、解説、発展的な学習を行ってゆく。また、学習した文法を用いた作文問題を課題として数回出題する。時間に余裕があれば、受講生の作文例を授業で紹介し、添削して全員で共有する。時間がなければ、添削した作文を個別に返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを使って本授業についての説明。
2	文法解説と演習 1	現在形の動詞活用の復習。
3	文法解説と演習 2	直説法点過去規則活用、-mente の副詞。
4	文法解説と演習 3	直説法点過去不規則活用 (1)、過去を表す語句。
5	文法解説と演習 4	直説法点過去不規則活用 (2)、時の経過を表す表現など。
6	文法解説と演習 5	直説法線過去、点過去と線過去の違い。
7	文法解説と演習 6	過去分詞 (1) 直説法現在完了。
8	文法解説と演習 7	過去分詞 (2) 名詞句で用いられる過去分詞、受動文。
9	文法解説と演習 8	比較表現の基本的な型、現在分詞、進行形。
10	文法解説と演習 9	注意すべき比較表現 (1)、直説法過去完了。
11	文法解説と演習 10	注意すべき比較表現 (2)、直説法未来。
12	文法解説と演習 11	直説法過去未来、関係代名詞。
13	予備日	秋学期の授業の総復習。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後に指示する。

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %、期末試験の点数を 70 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuohasegawa@gmail.com

【Outline and objectives】

In this lesson we will learn basic Spanish, especially grammar from the beginning again.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 A～I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 A~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

文 1 年 A~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

文 1 年 A~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、こまめに覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

文 1 年 P~X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

文 1 年 P~X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年 F~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

営 1 年 F~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、こたばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年 M~U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年 M~U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

永原 歩、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 J ~ W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

永原 歩、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法 1 年 J ~W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法 1 年 A～I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

なおこの時間は「オンライン授業」にて行なうので、ペアの教員とは授業方式に若干の違いがあります。各担当教員の指示にしたがってください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法 1 年 A～I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、こたばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

なおこの時間は「オンライン授業」にて行なうので、ペアの教員とは授業方式に若干の違いがありえます。各担当教員の指示にしたがってください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

文 1 年 A~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

文 1 年 A~I

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、こまめに覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

文 1 年 P～X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

神谷 丹路、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

文 1 年 P~X

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、こまめに覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年 F~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

なおこの時間は「オンライン授業」にて行なうので、ペアの教員とは授業方式に若干の違いがありえます。各担当教員の指示にしたがってください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

営 1 年 F~L

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、こたばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

なおこの時間は「オンライン授業」にて行なうので、ペアの教員とは授業方式に若干の違いがありえます。各担当教員の指示にしたがってください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

営 1 年 M~U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

営 1 年 M~U

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法 1 年 J ~ W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

法 1 年 J ~ W

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 (1) I

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課 / 第 2 課	基本母音字 / 子音字その 1
2	第 3 課 / 第 4 課	子音字その 2 / 子音字その 3
3	第 5 課 / 第 6 課	7 つの終声 / 用言の「ですます」形
4	第 7 課 / 第 8 課	激音 / 合成母音字
5	第 9 課 / 第 10 課	濃音 / 連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課 / 第 12 課	疑問形と否定形 / 平音の濃音化
8	第 13 課 / 第 14 課	日本語のハングル表記 / 激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課 / 第 16 課	子音語幹用言 / 複数の用言をつなぐ
10	第 17 課 / 第 18 課	動詞の進行形と連体形 / 固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課 / 第 20 課	過去形その 1 / 過去形その 2
13	第 21 課 / 第 22 課	あいさつと尊敬形 / 指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 (1) II

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうる。結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語(2) I

2017年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

なおこの時間は「オンライン授業」にて行なうので、ペアの教員とは授業方式に若干の違いがありえます。各担当教員の指示にしたがってください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 (2) II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

法 1 年 Y

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうる。結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

なおこの時間は「オンライン授業」にて行なうので、ペアの教員とは授業方式に若干の違いがありえます。各担当教員の指示にしたがってください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。毎回の授業で前回は学んだ内容の小テストを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字その 1／子音字その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字その 3／7 つの終声／用言の「ですます形」
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音化／疑問形と否定形／平音の濃音化
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／動詞の進行形と連体形／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形その 1／過去形その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともうひとつの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言／動詞の過去連体形と未来連体形
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語＜改訂版＞（私家版）』
諸事情により、現在市販のバージョンではなく改訂準備中の私家版を用いますので、教科書は買わないでください。こちらでコピーを準備します。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20 %、期末テスト 80 %によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hanguk and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 3

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（=言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーション I」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習, 「やりもらい」
3	第 2 課	「~している」の 2 つの形, 禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
5	第 3 課	文中の疑問形, 方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言, 動詞のこそあどことば
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
8	第 5 課	用言の名詞形, いくつかの助詞
9	第 6 課	推量表現, 大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
11	第 7 課	「~しながら」, 指定詞の第 III 語基
12	第 8 課	用言の「である」形, 間接話法 1
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通テキストの予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語 [私家版]』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『朝鮮語辞典』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise that you learned in the spring semester have been mastered enough.

By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

LANk100LA

朝鮮語 2

2017 年度以降入学者

梁 禮先、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。毎回の授業で前回は学んだ内容の小テストを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字その 1／子音字その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字その 3／7 つの終声／用言の「ですます形」
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音化／疑問形と否定形／平音の濃音化
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／動詞の進行形と連体形／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形その 1／過去形その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともうひとつの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言／動詞の過去連体形と未来連体形
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語＜改訂版＞（私家版）』
諸事情により、現在市販のバージョンではなく改訂準備中の私家版を用いますので、教科書は買わないでください。こちらでコピーを準備します。毎回の授業で前回は学んだ内容の小テストを行ないます。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20％、期末テスト 80％によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hanguk and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 4

2017 年度以降入学者

梁 禮先、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容の定着を図りつつ、発音を丁寧に指摘したり、話せる力をつけたり、文章の力をつけていきます。

【到達目標】

自然な読み方と簡単な日常の会話ができることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題の発表やテキストに沿って授業を進めます。会話が可能になることを前提した授業にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と授業の進め方について	復習と授業の進め方についての説明。
2	第 1 課 韓国語伸びましたね	会話の本文を読みます。
3	第 1 課 韓国語伸びましたね	本文の説明をします。
4	第 1 課 韓国語伸びましたね	練習問題
5	第 2 課 何限までありますか	会話の本文を読みます。
6	第 2 課 何限までありますか	本文の説明をします。
7	第 2 課 何限までありますか	練習問題
8	第 3 課 趣味は何ですか	会話の本文を読みます。
9	第 3 課 趣味は何ですか	本文の説明をします。
10	第 3 課 趣味は何ですか	練習問題
11	まとめ会話練習	会話の練習をします。
12	課題発表	発表をしてもらいます。
13	第 4 課 一年になりますね	会話の本文を読みます。
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題を出します。作文練習や読む練習、また、翻訳や内容のまとめを韓国でやってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梁禮先『中級韓国語〔私家版〕』（授業で配布します）

【参考書】

授業で時々発表します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加してください。

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

While continuing to study the contents covered in the spring semester, we will focus on improving your pronunciation and obtaining speaking and writing skills.

LANk100LA

朝鮮語 5

2017 年度以降入学者

高柳 俊男、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（=ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。毎回の授業で前回は学んだ内容の小テストを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字その 1／子音字その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字その 3／7 つの終声／用言の「ですます形」
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音化／疑問形と否定形／平音の濃音化
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／動詞の進行形と連体形／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形その 1／過去形その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともうひとつの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言／動詞の過去連体形と未来連体形
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語<改訂版>（私家版）』諸事情により、現在市販のバージョンではなく改訂準備中の私家版を用いますので、教科書は買わないでください。こちらでコピーを準備します。毎回の授業で前回は学んだ内容の小テストを行ないます。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20 %、期末テスト 80 %によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 6

2017 年度以降入学者

高柳 俊男、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

国 1 年 SA

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（=言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーション I」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習, 「やりもらい」
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形, 禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
5	第 3 課	文中の疑問形, 方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言, 動詞のこそあどことば
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
8	第 5 課	用言の名詞形, いくつかの助詞
9	第 6 課	推量表現, 大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
11	第 7 課	「～しながら」, 指定詞の第 III 語基
12	第 8 課	用言の「である」形, 間接話法 1
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないません。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通テキストの予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語 [私家版]』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『朝鮮語辞典』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise that you learned in the spring semester have been mastered enough.

By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行われなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

富所 明秀、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

環 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうる。結果として成績評価基準が変わりうることをご承知ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行われなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

キ 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることで、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行われなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

なおこの時間は「オンライン授業」にて行なうので、ペアの教員とは授業方式に若干の違いがありえます。各担当教員の指示にしたがってください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

環 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを3つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は2名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうる。結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

なおこの時間は「オンライン授業」にて行なうので、ペアの教員とは授業方式に若干の違いがありえます。各担当教員の指示にしたがってください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路、内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有名詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行われなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

神谷 丹路、内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

キ 1 年

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。ほぼ毎回小テストを行ない、復習の手助けと習得度の確認をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしながら声を出して読んでみることを、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。原則として再履修者にも例外は認めません。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

このシラバスはいわゆる「対面授業」を前提としたものですが、今後状況の変化で対面授業が予定どおりに行なわれなくなった場合、期末試験を個別に行なうことになりうることを、結果として成績評価基準が変わりうることをご了承ください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.